

地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター年報

平成 28 年 度



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

ま え が き

東京都健康長寿医療センターの平成28年度の事業・活動内容をまとめた「地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター年報 平成28年度」が完成致しましたのでお届けいたします。

当センターが地方独立行政法人としての運営を始めましたのは平成21年4月であります。地方独立行政法人としての基本理念は、「高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持向上させるための研究を通して高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う」ことであります。

地方独立行政法人の運営におきましては、期間ごとに東京都議会の承認を経て中期目標および中期計画を定め、さらに中期目標および中期計画を達成するために年度毎に年度計画を作成し、提供する医療の質の向上、研究の進展および業務、財務内容の改善を図っております。

第1期（平成21～24年度）における独法評価委員会でいただいた評価やご指摘を踏まえて定めました第2期（平成25～29年度）の中期計画は、上記基本理念を踏まえた取り組みを第1期に引き続き継続するとともに、1）都民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、2）業務運営の改善とその効率化、3）財務内容の改善、という目標への取り組みをさらに深めるとともに、センター運営におけるリスク管理を強化することを掲げています。

平成28年度は第2期の4年目にあたる年度であり、これまでに独法評価委員会でいただいた評価やご指摘も踏まえて定めました平成28年度計画に従って、医療、研究、業務および財務内容の改善を図りました。平成28年度は、一言で言いますと、平成25年6月に新施設に移転したメリットを生かした成果が現れより充実した医療を提供でき、より発展性の高い研究が進展した年度であったと考えております。平成28年度の実績・成果の詳細は、本年報に記述されております。ご高覧いただき、ご意見、ご批判を頂ければ幸甚に存じます。

これからも、より一層高齢者への医療、研究に邁進いたしますと共に、業務・財務内容の改善を図っていきたいと考えておりますので、今後ともこれまでと同様のご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成29年9月

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

理事長 井藤 英喜

目 次

まえがき

第一部 概要	1
1 概要	3
2 沿革	4
3 施設概要	6
(1) 建物の概要	6
(2) 建物断面図	6
4 基本理念及び運営方針	7
(1) 基本理念	7
(2) 運営方針	7
(3) 患者権利章典	7
5 組織	8
(1) 組織図	8
(2) 経営企画局・医事部門の分掌事務	9
(3) 事務局	10
6 職員	14
(1) 職員構成	14
(2) 看護部配置状況	14
(3) 幹部職員一覧	15
(4) 非常勤職員	17
7 予算	18
8 センターにおける会議・委員会	19
(1) 地方独立行政法人東京都健康 長寿医療センター運営協議会	19
(2) 会議	19
(3) 各種委員会	20
9 指定・許可・学会認定	25
(1) 指定・許可状況	25
(2) 各種学会認定状況	25
(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧	26
10 平成28年度業務実績の全体的な概要	27
(1) 総括と課題	27
(2) 事業の進捗状況及び特記事項	28

第二部 病院部門	33
I 平成28年度運営報告	33
内科総括	35
総合診療科	37
膠原病・リウマチ科	38
腎臓内科・血液透析科	39
糖尿病・代謝・内分泌内科	40
循環器内科	41
呼吸器内科	42
消化器内科	44
神経内科・脳卒中科	45
血液内科	47
感染症内科	48
精神科	49
もの忘れ外来	51
緩和ケア内科	52
外科総括	54
外科	55
血管外科	56
心臓外科	57
脳神経外科	58
呼吸器外科	59
整形外科・脊椎外科	60
皮膚科	61
泌尿器科	62
眼科	63
耳鼻咽喉科	64
歯科口腔外科	65
救急診療部	66
麻酔科	67
中央手術室	68
特定集中治療室	69
リハビリテーション科	71
リハビリテーション科（理学療法担当）	74
リハビリテーション科（作業療法担当）	75
リハビリテーション科（言語聴覚担当）	76
リハビリテーション科（臨床心理担当）	77
放射線診療科	78
内視鏡科	80

化学療法科	81	研究情報管理室	402
臨床検査科	82	II 長期縦断研究等	403
輸血・細胞療法科	84	SONIC研究	405
病理診断科	85	虚弱 (frailty) の予防戦術の解明を目的 とした長期縦断研究	408
薬剤科	88	高齢期の健康と自立の維持と要介護予防 のための新たな検診システムの開発	411
栄養科	90	都市高齢者の社会・経済・健康格差を 乗り越える研究	414
臨床工学科	91	東日本大震災被災者支援プロジェクト	417
認知症支援推進センター	92	III 普及活動等	419
認知症疾患医療センター	94	1 新聞・雑誌・テレビ等	421
臨床研究推進センター	97	2 プレス発表	424
臨床試験管理センター	99	3 老年学・老年医学公開講座等	425
高齢者バイオリソースセンター	100	4 友の会	426
高齢者健康増進センター	101	IV 補助金等	427
がん相談支援センター	102	研究補助金・助成金等受入状況	429
看護部	103	1 受託研究	429
医療連携室	116	2 共同研究	429
在宅医療・福祉相談室 (医療福祉相談)	119	3 奨学寄附	430
老年学情報センター	122	4 国庫補助	433
養育院・渋沢記念コーナー	124	5 民間助成金	433
研究活動	126	6 受託事業	435
病院部門課題研究費で行われた研究	204	7 学術指導	436
II 統計	209	8 科学研究費	437
III 普及活動等	419	9 日本医療研究開発機構委託研究開発	441
1 新聞・雑誌・テレビ等	421	10 研究委託費	442
2 プレス発表	424		
3 老年学・老年医学公開講座等	425		
4 友の会	426		
IV 補助金等	427		
研究補助金・助成金等受入状況	429		
1 受託研究	429		
2 共同研究	429		
3 奨学寄附	430		
4 国庫補助	433		
5 民間助成金	433		
6 受託事業	435		
7 学術指導	436		
8 科学研究費	437		
9 日本医療研究開発機構委託研究開発	441		
10 研究委託費	442		
III 研究部門	265		
I チーム研究等	265		
チーム研究	267		
老化機構研究チーム	268		
老化制御研究チーム	279		
老化脳神経科学研究チーム	294		
老年病態研究チーム	305		
老年病理学研究チーム	313		
神経画像研究チーム	327		
社会参加と地域保健研究チーム	341		
自立促進と介護予防研究チーム	359		
福祉と生活ケア研究チーム	377		
研究支援施設等			
トランスレーショナルリサーチ推進室	394		
アイソトープ施設	396		
実験動物施設	397		
高齢者健康増進事業支援室	400		

第一部 概 要

1 概 要

■名称	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
■所在地	東京都板橋区栄町35番2号
■電話	03-3964-1141 (病院部門代表) 03-3964-3241 (研究部門代表)
■設立団体	東京都
■開設年月日	平成21年4月1日
■役員	理事長 井藤 英喜 理事 許 俊鋭 監事 中町 誠 鶴川 正樹

〈病院部門〉

■診療規模	医療法定床 550床 (一般520床、精神30床) 外来 平均815人/日 (平成28年度実績)
■診療科目	[内科系] 内科、リウマチ科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、感染症内科、緩和ケア内科、精神科 [外科系] 外科、血管外科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科 【その他部門】 リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科 ※臨床研修指定病院 (医師法、歯科医師法) ※診療科以外にも、臨床検査科、病理診断科を設置

■施設基準等の届出関係

・ 歯科外来診療環境体制加算	・ 移植後患者指導管理料	・ 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	・ 補助人工心臓
・ 一般病棟入院基本料	・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	・ 植込型補助人工心臓 (非拍動流型)
・ 精神病棟入院基本料	・ 夜間休日救急搬送医学管理料	・ 運動器リハビリテーション料 (I)	・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術
・ 超急性期脳卒中加算	・ がん治療連携計画策定料	・ 呼吸器リハビリテーション料 (I)	・ 腹腔鏡下小切開腎部分切除術、
・ 診療録管理体制加算1	・ 認知症専門診断管理料	・ がん患者リハビリテーション料	・ 腹腔鏡下小切開腎摘出術、
・ 医師事務作業補助体制加算1	・ 薬剤管理指導料	・ 医療機器リハビリテーション料2	・ 腹腔鏡下小切開腎 (尿管) 悪性腫瘍手術
・ 急性期看護補助体制加算	・ 医療機器安全管理料1	・ 医療保護入院等診療料	・ 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ 療養環境加算	・ 医療機器安全管理料 (歯科)	・ 透析液水質確保加算2	・ 腹腔鏡下膀胱体尾部腫瘍切除術
・ 重症者等療養環境特別加算	・ 歯科治療総合医療管理料	・ 磁気による膀胱等刺激法	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 無菌治療室管理加算1, 2	・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	・ CAD/CAM冠	・ 膀胱水圧拡張術
・ 精神科身体合併症管理加算	・ 在宅植込型補助人工心臓 (非拍動流型) 指導管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独)	・ 胃瘻造設術 (内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ 精神科リエゾンチーム加算	・ 持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・ 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)	・ 輸血管管理料I
・ 栄養サポートチーム加算	・ 検体検査管理加算 (I)	・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・ 輸血適正使用加算
・ 医療安全対策加算1	・ 検体検査管理加算 (IV)	・ 経カテーテル大動脈弁置換術	・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ 感染防止対策加算1	・ 植込型心電図検査	・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ 患者サポート体制充実加算	・ 時間内歩行試験	・ 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術	・ 麻酔管理料 (I)
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ ヘッドアップティルト試験	・ 両室ベising機能付き植込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き植込型除細動器交換術	・ 放射線治療専任加算
・ 総合評価加算	・ 神経学的検査	・ 大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)	・ 外来放射線治療加算
・ 病棟薬剤業務実施加算1	・ 補聴器適合検査		・ 高エネルギー放射線治療
・ データ提出加算	・ 内服・点滴誘発試験		・ 定位放射線治療
・ 退院支援加算 (加算1)	・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影		・ 病理診断管理加算2
・ 認知症ケア加算1	・ CT撮影及びMRI撮影		・ 口腔病理診断管理加算2
・ 特定集中治療室管理料3	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算		・ クラウン・ブリッジ維持管理料
・ 地域包括ケア病棟入院料1	・ 外来化学療法加算1		
・ 緩和ケア病棟入院料	・ 無菌製剤処理料		
・ 高度難聴指導管理料			
・ 糖尿病合併症管理料			
・ がん性疼痛緩和指導管理料			
・ がん患者指導管理料1, 2, 3			

■救急告示

昭和40年3月18日 (更新平成21年8月1日)

〈研究部門〉

■研究体制	○老化メカニズムと制御に関する研究 ・ 老化機構研究チーム (分子機構研究、老化バイオマーカー研究、プロテオーム研究) ・ 老化制御研究チーム (健康長寿ゲノム探索研究、分子老化制御研究、生体環境応答研究) ・ 老化脳神経科学研究チーム (自律神経機能研究、記憶神経科学研究、神経生理研究) ○重点医療に関する病因・病態・治療・予防の研究 ・ 老年病態研究チーム (血管医学研究、生活習慣病研究、運動器医学研究)
-------	---

- ・老年病理学研究チーム
(高齢者がん研究、神経病理学研究(高齢者ブレインバンク))
- ・神経画像研究チーム
(脳機能研究、PET画像診断研究)
- 高齢者の健康長寿と福祉に関する研究
 - ・社会参加と地域保健研究チーム
(社会参加・社会貢献の促進に関する研究、老化・虚弱の一次予防と地域保健に関する研究)
 - ・自立促進と介護予防研究チーム
(筋骨格系の老化予防の促進に関する研究、介護予防の促進に関する研究、認知症・うつ予防と介入の促進に関する研究)
 - ・福祉と生活ケア研究チーム
(在宅療養支援方法の開発に関する研究、要介護化の要因解明と予測に関する研究、終末期ケアのあり方の研究)

構内配置図



2 沿革

明治5.	10.	15	養育院創立	11.	5.	2	本院医療施設、定員731名で認可	
	5.	12.	1	病室建築に着手	16.	10.	1	医療保護法による医療保護施設として府知事より認可
	6.	2.	3	病室を建築し、嘱託医師入所者の医療業務を開始	17.	3.	18	医療保護施設として定員763名
	8.	4.	8	東京府下生活困窮者の伝染病治療をはじめめる	20.	4.	13	米空軍B29による大空襲により、病院焼失
	10.	6.	7	東京府下生活困窮者の無料診療、施薬開始	20.	9.	25	板橋の元陸軍造兵廠工員宿舎を借り、病院として再発足
	22.	11.	26	出獄罹病者診療のための収容開始	22.	7.	24	医務課を廃止、付属病院開設
	37.	10.	7	ハンセン氏病患者収容室、結核患者病室設置	33.	3.	31	附属病院建設工事竣工(470床)
大正3.	10.	24	肺結核・痲疾患者の隔離治療のため板橋分院を開始	44.	1.			美濃部都知事、1,000床の老人専門病院建設の意向表明
	4.	12.	27	板橋分院に一病棟増設、定員33名	44.	3.	1	老人病院建設準備室設置
					45.	7.		老人病院建設工事着工
					45.	10.		老人病院開設準備委員会設置
昭和5.	10.	1	本院医療施設、病院として開設許可	47.	4.			東京都老人総合研究所開所(研究部門)
	8.	2.	9	本院作業室の一部を改造、高齢患者の病後静養室開設	47.	4.	1	村上元孝病院長就任
	11.	4.	10	外来診療所を開所、救護法による患者診療の実施	47.	4.		新附属病院及び「老人総合研究所」開設
					47.	6.	1	外来診療開始
					47.	6.	7	旧病院より新病院へ入院患者を移送

47.	8.	31	第1回養育院附属病院運営協議会開催 (現在の病院は、昭和47年に竣工したものであり、この時より一般市民も利用できる高齢者医療の専門病院という形で運営されている。)	11.	10.	4	ペインクリニック外来の開設
				11.	10.	18	国際高齢者年記念講演会開催
				11.	10.	29	第6回東京都老年学会開催
				12.	1.		区西北部二次保健医療圏等医療連携協議会の開催
53.	6.	1	病院防災工事開始	12.	4.	1	老人医療センターホームページを開設
53.	8.	20	第11回国際老年学会の事務局となる	12.	10.		地域連携会の開設
54.	5.	11	精神科病棟開設	12.	10.	13	第7回東京都老年学会開催
56.	10.		財団法人東京都老人総合研究所に改組	13.	1.		高血圧外来、不整脈外来、めまい外来の開設
(研究部門)				13.	2.		東洋医学外来の開設
59.	1.	4	「老年学情報センター」開設	13.	4.	1	高齢者施策推進室は福祉局に統合となる
59.	4.	1	村上元孝病院長は名誉院長となる	13.	12.		老人医療センター院内LAN稼働
59.	4.	2	豊倉康夫病院長就任	13.	12.	18	第8回東京都老年学会開催
59.	9.		米国国立老化研究所(NIA)との間で研究協力に関する協定の締結(研究部門)	14.	4.		地域福祉財団と統合し、新たに財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所として発足 グループ研究制に組織改正(研究部門)
59.	12.	1	事務室医事課における医事事務の電算化を実施	14.	9.	21	老人医療センター30周年記念式典開催
60.	12.	3	血液科病棟においてクリーンルーム(2床)を開設	14.	10.	1	林泰史院長就任
61.	4.	1	「老人医療センター」と名称を変更	14.	11.	29	第9回東京都老年学会開催
62.	4.	1	臨床研修病院の指定を受ける	15.	7.	16	オーダーメイド医療実現化プロジェクト 参画
63.	3.	25	MR棟竣工	15.	9.		SARS診療協力医療機関に指定
63.	3.		中華人民共和国北京老年病医療研究中心との研究交流事業に関する協定に調印(研究部門)	15.	10.	15	第10回東京都老年学会開催
63.	9.		ソビエト連邦医学アカデミー老年学研究所との間で研究協力覚書の交換(研究部門) (現ウクライナ医学アカデミー老年学研究所)	15.	12.	8	高齢者いきいき外来の開設
63.	10.	5	結核病棟を廃止、普通病棟とする	16.	5.	24~26	病院機能評価受審
				16.	8.	1	「福祉局」と「健康局」が統合され「福祉保健局」となる
				16.	8.	23	病院機能評価認定
平成元.	1.	20	村上元孝名誉院長逝去	16.	11.	5	第11回東京都老年学会開催
2.	4.	1	豊倉康夫院長は名誉院長となる	18.	1.	12	東京都老年学会と東京都保健医療学会が統合され東京都福祉保健医療学会として開設
2.	4.	1	藏本築院長就任	17.	4.		コア研究体制に組織改正(研究部門)
2.	7.	1	精神科病棟内に痴呆病床10床開床	18.	4.	1	井藤英喜院長就任
2.	7.	2	外来処方・予約コンピュータ導入	18.	7.	13	東京都が発表した「行財政改革実行プログラム」の中で、老人医療センターと老人総合研究所は、地方独立行政法人への移行を目指すことに決定。
2.	8.	6	研究系1研究施設に組織改正(研究部門)	18.	11.	2	平成18年度東京都福祉保健医療学会開催
2.	9.		ポジトロン医学研究施設開設(研究部門)	19.	5.	31	福祉保健局が「板橋キャンパス再編整備基本構想」を公表。
3.	2.	15	病棟改修のため4病棟閉鎖	21.	4.	1	東京都老人医療センターと東京都老人総合研究所が統合し、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターとして新たに出発。
3.	4.	1	病棟改修工事着工				外来化学療法室の開設
4.	7.	4	20周年記念講演会都民ホールで開催	23.	1.		新施設建設着工
5.	4.	2	小澤利男院長就任	23.	9.		緩和ケア内科の開設
6.	5.	31	全病棟改修工事竣工	24.	1.		救急診療部の開設
6.	6.	11	第1回養育院老年学会開催	24.	2.		東京都認知症疾患医療センターの指定を受ける
6.	7.	1	総合診療病棟開設	24.	3.		東京都大腸がん診療連携協力病院の指定を受ける
7.	3.	30	養育院老人医療センター運営基本方針策定	25.	3.		在宅医療連携病床の新設
7.	6.	10	第2回養育院老年学会開催	25.	6.		新施設開設
8.	3.	15	老人医療センター改修工事竣工	25.	12.		災害拠点病院指定
8.	4.	10	ICU・CCU開設	27.	4.	1	井藤英喜理事長、許俊鋭センター長就任 事務部門の組織改正(事務部長の設置、4課から3課体制に改編) 認知症支援推進センターの設置
8.	9.	28	第3回養育院老年学会開催	27.	7.	1	臨床試験管理センターの設置、治験管理センター(治験事務局)の廃止
9.	4.	1	藏本院長は名誉院長となる	28.	1.	1	がん相談支援センターの設置
9.	4.	2	折茂肇院長就任	28.	4.	1	医療戦略室の設置
9.	7.	16	高齢者施策推進室の発足				
9.	9.	1	脳卒中診療のユニットの開設				
9.	10.	8	第4回東京都老年学会開催				
9.	12.	1	エイズ診療拠点病院の指定を受ける				
9.	12.	10	板橋区、板橋区医師会との地域連携3事業開始				
10.	10.	8	研究系1研究施設に組織改正(研究部門)				
10.	10.	8	第5回東京都老年学会開催				
11.	1.	11	もの忘れ外来開設				
11.	4.	1	小澤病院長は名誉院長となる				
11.	5.		「中期経営計画」策定(研究部門)				
11.	7.	26	区西北部医師会、歯科医師会、薬剤師会と医療連携に関する協定締結を開始(11.12.13 協定締結終了)				
11.	9.	30	デイホスピタル終了				

3 施設概要

(1) 建物の概要 (平成29年3月31日現在)

構造 - 鉄筋コンクリート造 (一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造)

規模 - 地下2階、地上12階、塔屋1階

面積 - 延61,619.45㎡

(2) 建物断面図

	緩和ケア内科		
	西病棟	東病棟	
12F			
11F	血液内科 化学療法科	精神科	
10F	神経内科 脳卒中科	神経内科 脳卒中科 脳神経外科 皮膚科	
9F	糖尿病・代謝・内分泌内科 歯科口腔外科 腎臓内科 総合診療科	総合診療科 呼吸器内科 感染症内科	
8F	消化器内科	膠原病・リウマチ科 消化器内科	
7F	外科 血管外科 耳鼻科咽喉科 泌尿器科	外科 血管外科 眼科	
6F	整形外科 脊椎外科 在宅医療連携病床 リハビリテーション科	整形外科 脊椎外科 リハビリテーション科	
5F	循環器内科	循環器内科 心臓外科 呼吸器外科 心臓リハ	実験動物施設
4F	特定集中治療室 麻酔科 ペインクリニック	中央手術室 血管造影室 中央滅菌材料室 病理診断科	副所長室(自然科学系) 老化機構研究チーム 老年病態研究チーム 老年病理学研究チーム
3F	リハビリテーション科 血液透析科(透析センター)	医局 当直室	老化機構研究チーム 老化制御研究チーム 老化脳神経科学研究チーム 老年学情報センター
2F	外来診療部門 認知症疾患医療センター 養育院・渋沢記念コーナー 食堂、売店	化学療法科 臨床検査科 輸血・細胞療法科 術前検査センター	臨床試験管理センター 臨床研究推進センター 経営企画局 看護部
1F	総合受付 外来診療部門 喫茶	内視鏡科 臨床検査科(採血・採尿) 医療連携室 在宅医療・福祉相談室	放射線診断科 救急診療部 医療サービス推進課 防災センター
MB		電話交換機室	高齢者バイオリソースセンター
B1	放射線治療科	薬剤科 栄養科 病理診断科	リネン、倉庫 中央監視室 電気室、機械室
	外来棟	病棟	研究棟

4 基本理念及び運営方針

(1) 基本理念

センターは、高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者のQOLを維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。

(2) 運営方針

ア 病院運営方針

- ・患者さま本位の質の高い医療サービスを提供します。
- ・高齢者に対する専門的医療と生活の質（QOL）を重視した全人的包括的医療を提供します。
- ・地域の医療機関や福祉施設との連携による継続性のある一貫した医療を提供します。
- ・診療科や部門・職種の枠にとらわれないチーム医療を実践します。
- ・高齢者医療を担う人材の育成及び研究所との連携による研究を推進します。

イ 研究所運営方針

- ・東京都の高齢者医療・保健・福祉行政を研究分野で支えます。
- ・地域の自治体や高齢者福祉施設と連携して研究を進めます。
- ・国や地方公共団体、民間企業等と活発に共同研究を行います。
- ・諸外国の代表的な老化研究機関と積極的に研究交流を行います。
- ・最先端技術を用いて老年病などの研究を行います。
- ・研究成果を公開講座や出版によりみなさまに還元します。

(3) 患者権利章典

患者さまは、人間として尊厳を有しながら医療を受ける権利を持っています。また、医療は、患者さまと医療提供者とが、信頼関係に基づいてともに作り上げていくものです。

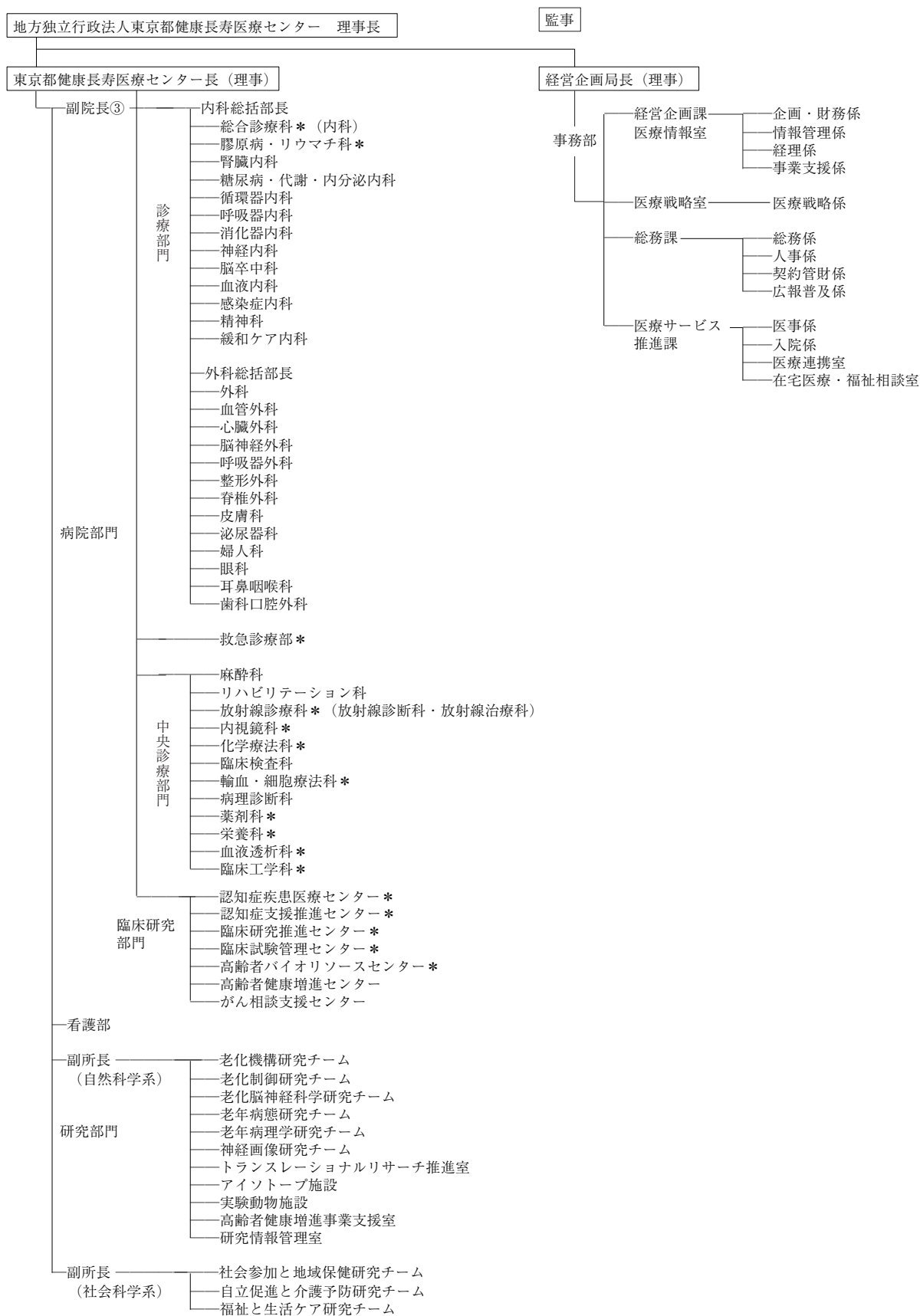
当センターは、このような考え方に基づき「患者権利章典」を制定し、これを守り、患者さま中心の医療を実践していきます。

患者さまもこの趣旨をご理解いただき、自らの意思と責任で医療に参加して下さるようお願いいたします。

- 1 だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 2 だれもが、一人の人間として尊重され、医師や看護師など医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります。
- 3 病気や検査、治療について、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明を受ける権利があります。
- 4 治療方法などを自分の意思で選択する権利があります。
- 5 自分の診療記録の開示を求める権利があります。
- 6 診療の過程で得られた患者さまの個人情報や療養中のプライバシーが守られる権利があります。
- 7 研究途上にある医療に関し、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、その医療を受けるかどうかを決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでもその医療を拒否する権利があります。
- 8 良質な医療を実現するためには、医師をはじめとする医療提供者に対し、患者さま自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供する責任と義務があります。
- 9 納得できる医療を受けるために、医療に関する説明を受けてもよく理解できなかったことについて、十分理解できるまで質問する責任と義務があります。
- 10 すべての患者さまが適切な医療を受けられるようにするため、患者さまには、他の患者さまの治療や病院職員による医療提供に支障を与えないよう配慮する責任と義務があります。

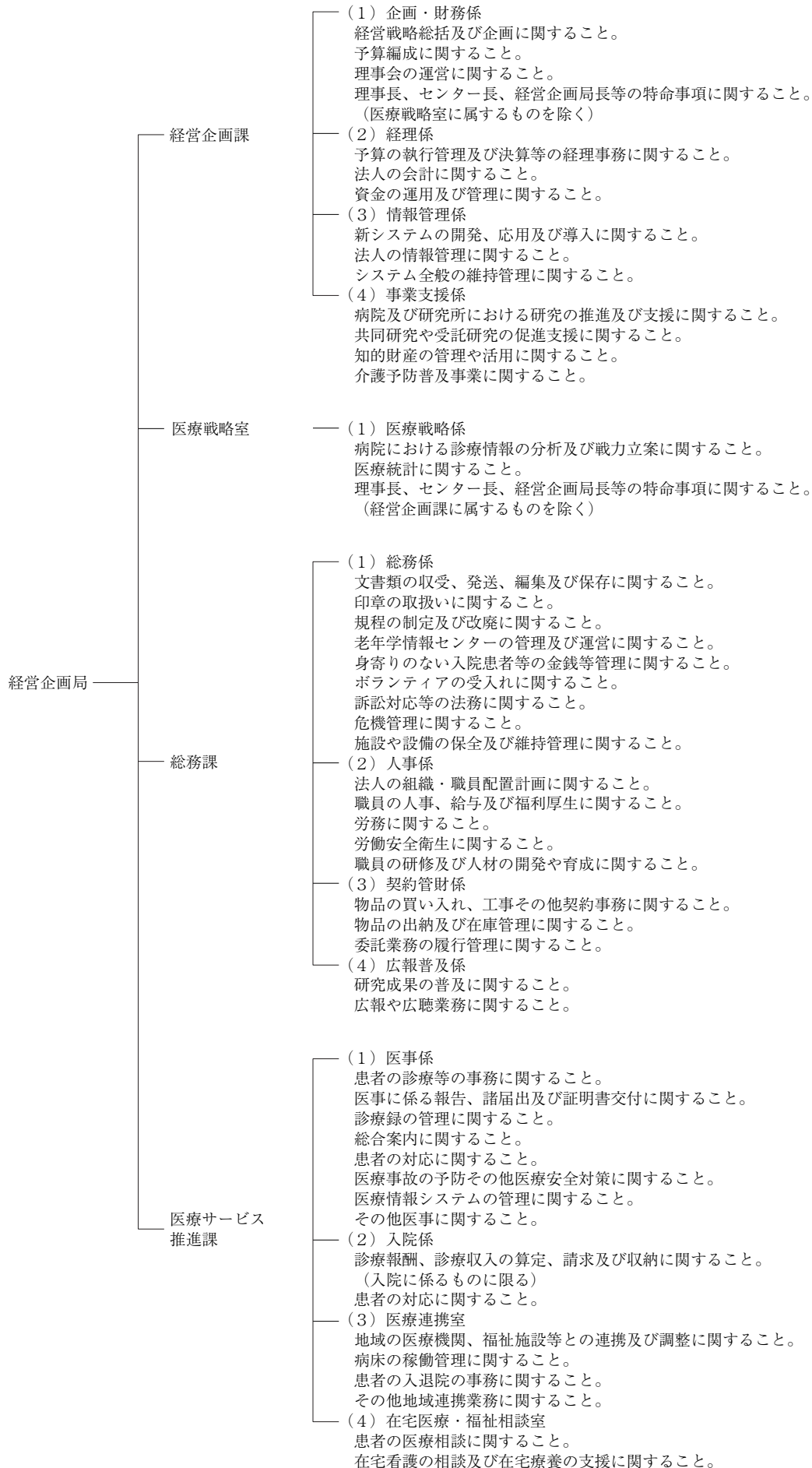
5 組織

(1) 組織図 (平成29年3月31日現在)



※印のついた科は、標榜診療科外の名称です。

(2) 経営企画局の分掌事務（平成29年3月31日現在）



(3) 事務局

ア 経営企画局事務部

(ア) 経営企画課

経営企画課は、理事長のトップマネジメントを補佐する役割を担い、課内はもとより総務課、医療サービス推進課及び医療戦略室と情報を共有し綿密に意思疎通を図りながら、センター第二期中期計画及び年度計画の達成に向け、病院及び研究所の円滑な業務運営をサポートした。

また、センターが抱える諸課題の解決に向けて果敢に取り組むとともに、平成30年度から始まる第三期中期期間の計画策定に向けた準備を着実に進めた。

① 経営改善に向けた取組

センター経営の改善・効率化を図るため、経営戦略会議及び病院運営会議等の各種会議において、センターの収支、実績等の報告及び分析を行い、課題点と改善策の検討を行った。検討にあたり、より実効性ある経営改善につなげるため、原価計算及び他病院とのベンチマーク比較、年度計画の進捗状況に関する各診療部門からのヒアリングなどを実施した。

また、病院において組織的に医療を提供するための基本的な活動が適切に実施されているかどうかを第三者（公益財団法人日本医療機能評価機構）が審査する病院機能評価を平成28年10月に受審した。患者の視点で質の高い医療・サービスを推進するため、職員意識の向上を図るとともに、病院を挙げて各種の改善活動に取り組んだ結果、高齢者医療のリーディングホスピタルとして安全で高品質な医療が提供されているとの高い評価を受けた。

さらに、平成29年度予算の策定にあたり当初予算明細書を作成し、より厳格な予算管理体制を構築した。

② 電子カルテ等各種システムの維持管理

新施設において導入した電子カルテ医療情報システム等の各種システム、財務会計システム及び人事給与システムが安定的に稼働するようサポートするとともに、情報セキュリティ対策の徹底に努めた。また、平成30年度に予定している次期医療情報システム導入に向けて着実に準備を進めた。

③ 経営状況の把握と効率的な会計処理方法の検討

適時の経営判断に資するため、月次決算などの充実を図り、財務内容の把握をきめ細かく行うとともに、より効率的な会計処理方法の検討や財務会計システムの適切な運用に努めた。

また、会計監査人及び監事監査の指摘や意見について適切に対応し、改善に取り組んだ。

④ 研究活動の推進に向けた取組

研究活動の推進に向けて、研究関係諸会議（研究推進会議、研究所幹部会議、外部評価委員会、研究不正防止委員会、利益相反委員会、職務発明審査会、研究審査委員会、研究部門倫理委員会、研究員等選考委員会等）を運営するとともに、研究員の採用、協力研究員・研究生・連携大学院生の受入や、平成27年度に構築した研究費不正使用防止対策のもと、研究費の受入・執行（契約・検査を含む。）等の諸手続きを行った。その他、基礎研究の成果の臨床応用に向けて、トランスレーショナルリサーチ研究の推進に取り組んだ。

(イ) 総務課

① 人材確保及び人材養成

高齢者医療を安定的・継続的に提供するため必要な法人の人材として、平成28年度は医師34名、研究員11名、看護師80名、医療技術員21名、事務12名を採用した。看護師採用については7対1看護導入を受け積極的に行い、修学資金貸与、保育料の助成制度等の看護師確保対策・離職防止対策を実施した。

医療従事者及び研究者の育成については、医科・歯科研修医37名、都立看護学校を始め計33施設から745名の実習生及び研修生を受け入れたほか、連携大学院や大学・研究機関から学生や研究者を受け入れた。

② 契約状況

平成28年度の契約状況は、物品の買入れ379件、修理・修繕3件、印刷製本171件、委託326件、物品借り入れ113件、工事2件で、合計994件であった。

③ 施設・設備の維持・管理と環境整備

施設・設備に不具合が生じた際には、必要性・緊急性なども考慮しながら順次改善を図っている。また、新施設稼働から4年経過したこともあり、経年劣化への対応や消耗部品の交換など、計画的に修理・補修を行い、施設を最善の状況に保つよう留意している。さらに、光熱水費等についても、使用量の管理と適切な需給契約締結により、省エネルギーの実現と経費節減に向けた対策を実施している。

④ 災害・危機管理対策の実施

災害拠点病院としての任務を果たすために、迅速かつ効果的な医療提供が円滑にできるよう体制強化を図った。7月には区西北部医療圏内の東京都災害拠点病院と連携し、トリアージの基本を学ぶため、東京都トリアージ研修を実施した。また8月には内閣府、厚生労働省DMAT事務局、東京都福祉保健局主催の平成28年度大規模地震時医療活動訓練に参加し、DMAT受入訓練を実施するとともに、大規模災害訓練に向け、机上訓練を実施した。さらに10月には、東京都立板橋看護専門学校の学生を模擬患者役とし、首都直下型地震を想定した大規模災害訓練を実施した。

⑤ 国際交流の推進

韓国、中国、台湾、シンガポール、ノルウェー、ベトナム、トルコなどから視察を受け入れた。

⑥ 診療内容及び研究成果の広報普及

診療内容及び研究成果についてマスコミ等へ情報提供するほか、理解・利用してもらうために、区市等から共催・後援を得て、老年学・老年医学公開講座等の講演会を都内各地で開催した。また、小学5年生～中学2年生を対象としたサイエンスカフェを開催した。

さらに、センター（法人、病院、研究所）のホームページ、「糸でんわ」、「研究所NEWS」、各種パンフレット等を活用し広く都民に情報の提供を行った。職員向けには「ひだまり」を発行した。

老年学・老年医学公開講座	年間4回開催
サイエンスカフェ	年間1回開催
科学技術週間参加行事	年間1回開催
「糸でんわ」	年間6回発行
「研究所NEWS」	年間6回発行
「ひだまり」	年間4回発行

(ウ) 医療サービス推進課

高齢者の急性期病院として、医療資源の有効活用と健全な病院経営を目指し、在院日数の短縮と病床稼働率の確保を組織的な目標として掲げている。在院日数の短縮について、退院調整チームの活用や各病棟別の在院患者一覧表による管理体制の実施により、28年度平均在院日数は12.3日、病棟稼働率は87.4%であった。診療録の開示については、162件の開示請求交付申請があった。

院内の医療安全管理対策については、安全管理委員会等の事務局として、院内各診療科・各部門との協力体制により年度活動計画を策定し、安全管理講演会の開催、各種研修会・勉強会及び医療安全推進週間を設定し、安全管理体制の徹底と職員の医療安全に対する意識の向上に取り組んだ。

セカンドオピニオンについては血液内科を中心に22件の申請があった。

さらに、医療問題に迅速に対応するため、平成23年度よりオンラインによるレポート登録システムを導入し、平成28年度は3,062件の報告があった。

なお、医療サービス推進課は次の委員会の事務局となっている。

特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会、診療委員会、クリニカルパス推進委員会、血管再生治療委員会、保険委員会、医療安全管理委員会、医療品安全管理委員会、病歴委員会、個人情報保護推進委員会、事例検討会議、医療事故調査委員会、リスクマネジメント推進会議、患者サービス向上委員会、医療連携推進委員会、がん診療推進委員会、DPC・原価計算経営管理委員会

① 患者動向

平成28年度の外来患者数は、1日平均815人と13人の増だった。入院患者は1日平均480人と6人の増となり、病床稼働率87.4%で1.2ポイントの増であった。平均在院日数は12.3日と目標値15日以内をクリアする結果となった。

② 診療報酬等の動き

診療報酬収入は、年間で123億7千7百万円（室料除く）と前年度と比較して、3億3千4百万円、2.8%増となった。また、査定率は、年度平均で0.44%であった。

10年間の患者数等の推移

年度	入院患者数		外来患者数	
	1日平均（人）	病床利用率（%）	1日平均（人）	対前年伸率（%）
19	577	89.3	718	△ 2.2
20	544	86.4	674	△ 6.1
21	505	88.7	671	△ 0.4
22	501	88.1	682	1.6
23	488	85.7	701	2.7
24	481	84.5	711	1.4
25	441	79.7	703	△ 1.1
26	445	80.8	753	7.1
27	474	86.2	802	6.5
28	480	87.4	815	1.6

③ DPCについて

平成21年7月から、DPC実施病院として診療報酬請求を開始した。平成23年10月より入院計算業務の直営化にともないDPCコーディングは病院職員が行なうこととした。また、DPC対策として、診療情報管理士によるDPCコーディング精度の向上、術前検査センターの活用、外来化学療法法の活用、持参薬の導入促進、クリニカルパスの見直し、DPC・原価計算経営管理委員会で診療科のDPC分析等を実施した。

(エ) 医療戦略室

病院経営にかかわるデータ分析、戦略立案、その他理事長・センター長の特命事項対応のための部署として、今年度4月に設立された。医療情報システムなどに蓄積されている情報やDPCデータを用いて経営指標に合わせたデータ抽出および分析、診療報酬改定にかかわる収益調査・分析や対策立案を行った。

また、増収増益やコスト削減、医療安全、医療の質向上などに活用できるデータ抽出など、必要に応じて定量的に判断できる形式で、継続的に比較できるよう整理した。さらに、各種データをもとに各種会議にて報告と検討を行い、病院経営改善につなげた。

① 原価計算

科別の原価計算を行い、毎年度行う病院幹部と各診療科とのヒアリングに活用するとともに、計算手法の改善に着手した。

② 医療の質評価

今年度も「全国自治体病院協議会」による医療の質評価事業に引き続き参加し、データ提供

を行った。

③ 地域包括ケア病棟

地域包括ケア病棟開設のため6階西病棟を当該病棟と決定し、一部の病棟再編を行った。スタッフ体制の整備と指標の管理を行いながら、約6か月の準備期間を経て10月より稼働開始した。運用開始月は地域包括ケア病棟の利用率は83.7%であったが、29年3月には病棟利用率も90.7%と向上し、収支改善(28年10月から29年3月の6ヶ月間の増収約21,003千円)に寄与した。また、DPC期間Ⅲ及びⅢ超えの割合も、地域包括ケア病棟を導入した10月以降の前年同月比較では、前年度の36.5%から35.7%と0.8ポイントの減少となった。

④ 外来データ分析

28年11月に外来患者動向調査を実施した。「再診料のみ」又は「再診料と処方せん料のみ」という患者が全体の4割ほど占めていた。このような患者様に対して逆紹介を促進させることで、入院に繋がる紹介患者を増やすよう努力する必要がある。病院のミッションでもある「安定した収入確保」につなげるためにも、症状の安定している患者のうち、逆紹介可能な患者についても調査検討を進めた。これらの結果を踏まえ次年度以降に具体的な改善策を講じていく。

6 職員

(1) 職員構成（職種と定数）

（平成29年3月31日現在）

職 種		計画数	職 種		計画数	
事務系	一般事務	72	医療技術	薬剤師	35	
	計	72		診療放射線技師	29	
福祉	福祉（MSW）	10		歯科衛生士	1	
	心理	8		歯科技工士	1	
	福祉技術（ST）	4		理学療法士	14	
	計	22		作業療法士	7	
医師	医師	121		臨床検査技師	43	
	歯科医師	3		栄養士	7	
	計	124		医療技術（臨床工学技士）	13	
				視能訓練士	2	
研究員	研究員	88		技能	1	
	計	88		計	153	
				看護	看護師	481
					計	481
				計	940	

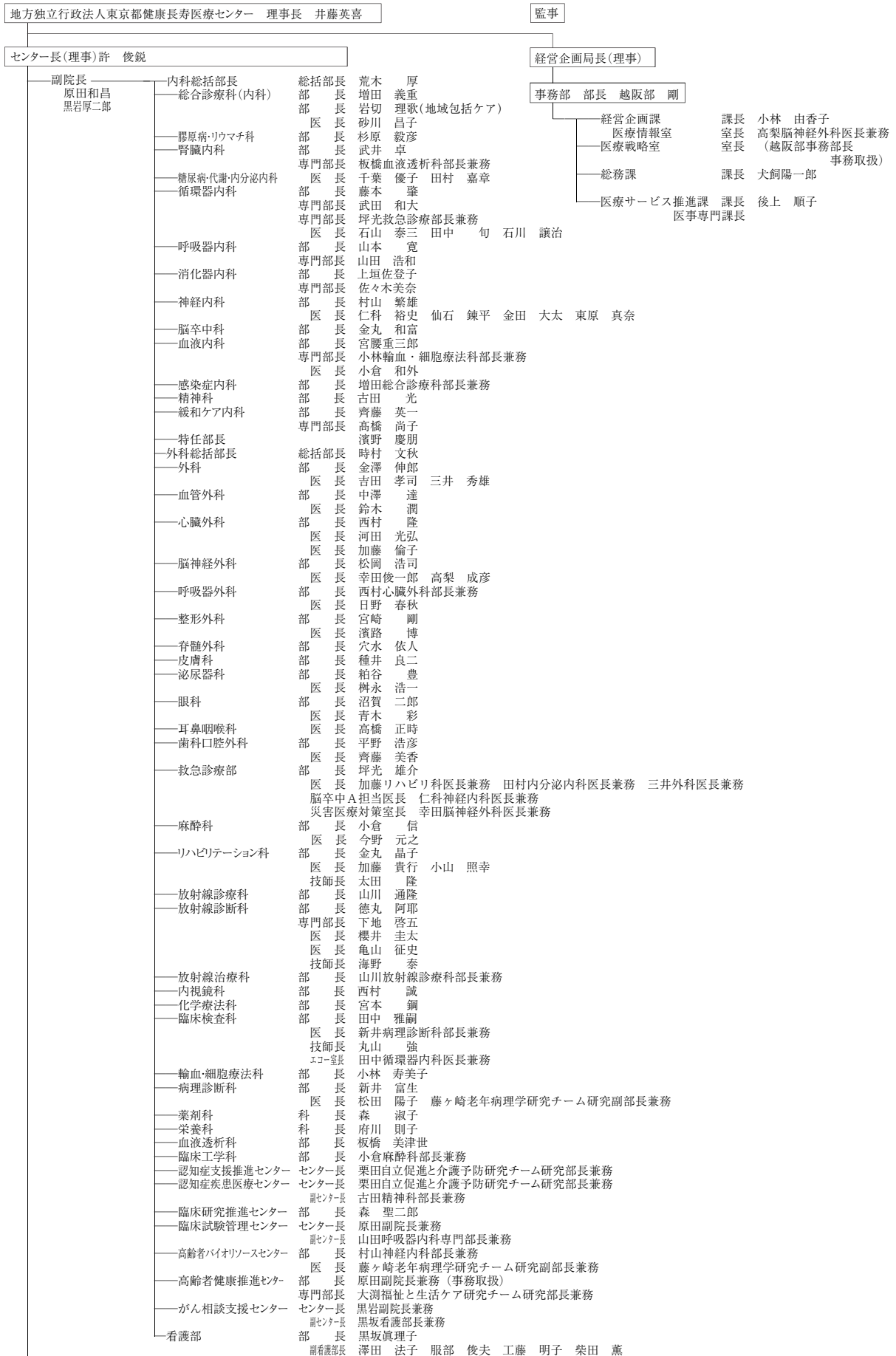
※ 役員は含んでいない。

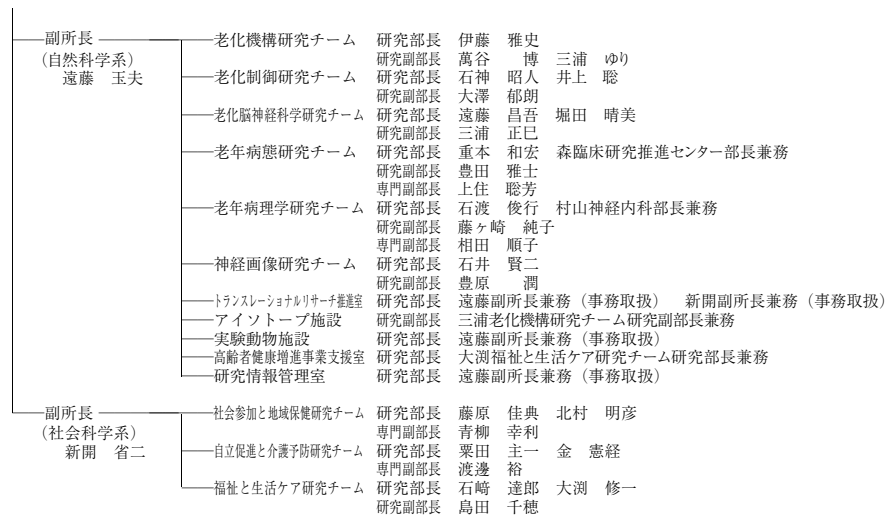
(2) 看護部配置状況

平成29年3月31日現在

病棟・診療科	定床数	現 員			夜勤体制 （準－深）	
		管理職	看護師長	看護師		
5東 循環器内科、心臓外科、心臓リハ	37		1	23	24	3-3
5西 循環器内科、一時救急	37		1	22	23	3-3
6東 整形外科	38		1	22	23	3-3
6西 整形外科、脊椎外科、耳鼻咽喉科、リハビリ科	37		1	19	20	3-3
7東 外科、血管外科、眼科	37		1	22	23	3-3
7西 外科、血管外科、泌尿器科、整形外科、脊椎外科	38		1	21	22	3-3
8東 膠原病・リウマチ科、腎臓内科、消化器内科	38		1	22	23	3-3
8西 消化器内科	38		1	23	24	3-3
9東 総合診療科、感染症内科、呼吸器内科	38		1	22	23	3-3
9西 糖尿病・代謝・内分泌内科、歯科口腔外科、在宅医療連携	38		1	21	22	3-3
10東 神経内科、脳卒中科、脳神経外科、皮膚科	37		1	23	24	3-3
10西 神経内科、脳卒中科	37		1	23	24	3-3
11東 精神科	30		1	16	17	2-2
11西 血液内科、化学療法科	36		1	22	23	3-3
12階 緩和ケア内科	20		1	19	20	3-3
特定集中治療室	14		1	38	39	6-6
手術室			1	22	23	
外来			1	16	17	
内視鏡				3	3	
救急外来			1	18	19	
在宅看護			1	0	1	
看護部		5	7	1	13	
再掲	リスクマネージャー		1		1	
	病床管理担当		1		1	
	感染管理認定看護師		1		1	
	皮ふ・排泄ケア認定看護師		1		1	
	認知症看護認定看護師		1		1	
	緩和ケア認定看護師		1		1	
	糖尿病認定看護師		1		1	
研修教育担当			1		1	
合 計	550	5	27	420	452	

(3) 幹部職員一覧 (平成29年3月31日現在)





7 予算（平成28年度）

（単位：千円）

区 分	金 額
収入	
営業収益	17,747,178
医業収益	12,653,225
研究事業収益	62,827
運営費負担金収益	2,852,670
運営費交付金収益	1,990,729
補助金収益	114,316
雑益	73,411
営業外収益	102,554
寄附金	1
財務収益	2,642
雑収益	99,911
資本収入	－
運営費交付金	－
長期借入金	－
その他の資本収入	－
受託研究等外部資金収入	455,458
計	18,305,190
支出	
営業費用	16,864,211
医業費用	13,312,544
給与費	7,153,346
材料費	3,945,248
委託費	960,510
設備関係費	663,940
経費	537,846
研究研修費	51,654
研究事業費用	1,492,447
給与費	1,006,455
材料費	37,278
委託費	79,669
設備関係費	112,536
経費	67,519
研究研修費	188,990
一般管理費	2,059,220
営業外費用	－
臨時損失	－
資本支出	1,755,745
建設改良費	996,864
長期借入金償還金	758,881
その他の支出	－
受託研究等外部資金支出	408,982
計	19,028,938

8 センターにおける会議・委員会

(平成29年3月31日現在)

(1) 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター運営協議会

- 目的：外部有識者による意見や助言を受け、都民ニーズに応えた業務運営を実施するため
- 審議事項：センターの事業内容及び運営方針、その他運営上必要な事項に関する事
- 構成委員：以下のとおり

(敬称略)

氏名	所属
日野原 重 明	学校法人 聖路加国際大学 名誉理事長 聖路加国際病院 名誉院長 一般財団法人 聖路加財団 名誉理事長
折 茂 肇	公益財団法人骨粗鬆症財団 理事長
鈴 木 隆 雄	桜美林大学 老年学総合研究所 所長
新 田 國 夫	一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 会長
秋 山 正 子	株式会社ケアーズ 白十字訪問看護ステーション 統括所長 暮らしの保健室 室長
坂 本 健	板橋区長
尾 崎 治 夫	公益社団法人東京都医師会 会長
篠 田 瑞 生	公益社団法人豊島区医師会 会長
増 田 幹 生	一般社団法人東京都北区医師会 会長
水 野 重 樹	公益社団法人板橋区医師会 会長
土 屋 昭 夫	公益社団法人東京都板橋区歯科医師会 会長
小 山 寿 雄	一般社団法人練馬区医師会 会長
植 木 浩	患者代表
西 村 信 一	東京都福祉保健局高齢社会対策部長
村 田 由 佳	東京都福祉保健局施設調整担当部長
井 藤 英 喜	東京都健康長寿医療センター 理事長
許 俊 鋭	東京都健康長寿医療センター センター長
越阪部 剛	東京都健康長寿医療センター 経営企画局長(代) 事務部長

(2) 会議

ア 理事会

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、監事
- 理事長が必要と認めたとき開催

イ 常務会

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長
- 理事長が必要と認めたとき開催

ウ 経営戦略会議

- メンバー：理事長、センター長、経営企画局長、副院長、副所長、看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

エ 病院運営会議

- メンバー：センター長、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第1、第3月曜日開催

オ 病院幹部会

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、経営企画局長、副院長、各診療部門長・技師長、各診療部門専門部長、各臨床研究部門長、看護部長、副看護部長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医事専門課長
- 毎月第4火曜日開催

カ 経営改善委員会

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長（オブザーバー）、経営企画局長、副院長、内科総括部長、外科総括部長、看護部長、化学療法科部長（オブザーバー）、DPC原価計算経営管理委員会委員長、リハビリテーション科技師長、放射線診断科技師長、臨床検査科技師長、薬剤科長、栄養科長、事務部長、経営企画課長、総務課長、医療サービス推進課長、医療戦略室長
- 毎月第2、第4月曜日開催

キ 研究推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副所長、自然科学系研究部長、社会科学系研究部長、事務部長（オブザーバー）、経営企画課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

ク 研究所幹部会議

- メンバー：センター長、副所長、各研究部長、各研究専門部長、各研究副部長、各研究専門副部長、経営企画課長
- 毎月第1、第3木曜日開催

ケ トランスレーショナルリサーチ推進会議

- メンバー：理事長（オブザーバー）、センター長、副院長、副所長、病理診断科部長、臨床研究推進センター部長、老年病理学研究チーム研究部長、神経画像研究チーム研究部長、社会科学系研究部長、看護部長、経営企画課長
- 原則、隔月の第3木曜日

(3) 各種委員会

名 称	目的・所掌事項	委員数
安全衛生委員会	○職員の危険及び健康障害を防止するため基本となるべき対策に関する事 こと ○労働災害の原因及び再発防止対策で安全及び衛生に関わるものに関する事 こと ○その他職員の危険及び健康障害の防止に関する事 こと	15名
広報委員会	○広報広聴等に関する事 こと ○院内刊行物の編集及び発行に関する事 こと ○地域連携関係やホームページ等対外的広報の企画・管理・運用に関する事 こと	13名
指名業者選定委員会	○指名業者、見積り参加業者の選定	6名
仕様書策定委員会	○医療機器・一般備品・特定保険材料の契約に係る仕様内容等の審査に関する事 こと	13名
備品等整備委員会	○備品整備計画の策定に関する事 こと ○備品の購入及び賃借に関する事 こと	19名
図書委員会	○図書室の管理、運営に関する事項についての調査・審議に関する事 こと	9名

名 称	目的・所掌事項	委員数
ボランティア委員会	○ボランティアの募集、活動内容・支援、ボランティアに対する感謝状授与・決定、行事の開催及び参加、その他ボランティアが関与する患者サービスに関すること	15名
特定感染症予防対策委員会	○MRSAその他耐性菌感染対策に関すること ○B型・C型肝炎の予防に関すること ○エイズその他特定感染症に関すること ○院内感染防止に関すること ○その他特定感染症に関する必要な事項	22名
感染症対策小委員会	○特定感染症予防対策委員会の定める方針に基づき、院内感染の対策にかかるサーベイランス及び対策・企画・教育に関すること	14名
診療委員会	○外来診療の運営に関すること ○病棟診療の運営に関すること ○中央診療部門における診療等の運営に関すること（他の委員会の所掌に属するものを除く） ○病棟の稼動に関すること ○特定疾患に関する診療体制の検討に関すること ○その他センターにおける診療の円滑な運営に関すること	12名
診療部会	○外来運営・外来サービスに関すること ○病棟・病床の運営・稼働に関すること ○病棟サービスに関すること ○その他、外来・病棟に関すること	34名
救急部会	○センターが目指す救急外来のあり方を明確にし、センター全体で救急外来の体制を強化し、円滑かつ効率的な運営を図るための諸問題について検討すること	18名
手術室運営部会	○各科手術に関する運営上の問題点に関すること ○手術室の改善、修理、環境等に関すること ○共同手術機器及び手術備品の購入等に関すること ○その他手術室の運営に関すること	25名
特定集中治療室運営部会	○特定集中治療室に関する運営上の問題点、特定集中治療室の施設及び機材・環境等、特定集中治療室の整備計画、その他特定集中治療室の運営に関すること	15名
クリニカルパス推進委員会	○クリニカルパスの作成・推進	15名
薬事委員会	○医薬品の選定及び管理に関すること ○医薬品情報の交換に関すること ○その他薬事に関し必要と認める事項	17名
診療材料委員会	○診療材料の選定・管理等に関すること	11名
NST・栄養委員会	○患者の栄養評価、栄養療法に関すること ○給食運営に関すること ○栄養基準に関すること ○栄養指導に関すること ○その他委員会の目的達成に関すること	14名
血管再生治療委員会	○血管再生治療に関すること	16名
保険委員会	○保険診療の適切な実施に関すること ○査定減対策・請求漏れ対策など診療報酬の確保に関すること ○保険診療上の疑義の検討に関すること ○保険診療に係る研修、指導の実施及び情報の提供に関すること ○その他保険診療の実施につき必要な事項の検討に関すること	19名
医療安全管理委員会	○医療安全対策の指針等の策定及び推進、重大問題への対策・報告、医療事故・医事紛争への対応等	19名
医療機器安全管理委員会	○医療機器の保守点検・安全使用に関する体制整備	10名

名 称	目的・所掌事項	委員数
医療ガス安全・ 管理委員会	○医療ガスの安全・管理に関すること	8名
病 歴 委 員 会	○病歴並びにこれに関する帳票類、資料の様式、運用及び管理に関すること ○疾病分類に関すること ○医療統計に関すること ○その他病歴管理に関し必要と認められること	14名
臨 床 検 査 委 員 会	○臨床検査の適正化に関すること ○臨床検査の精度管理に関すること ○その他臨床検査に関する必要な事項	14名
輸 血 ・ 細 胞 療 法 委 員 会	○輸血及びそれにより発生する事項全般に関すること	18名
研 修 管 理 委 員 会	○臨床研修医の人格の涵養 ○医療安全への配慮の育成	25名
研 修 管 理 小 委 員 会	○研修プログラムの作成、研修医の採用時における研修希望・状況の評価・ 研修指導体制、その他研修に関すること	34名
歯 科 臨 床 研 修 管 理 委 員 会	○歯科臨床研修カリキュラム等に関すること ○歯科臨床研修医等に関すること ○歯科臨床研修医の指導方法、研修評価に関すること ○その他、歯科臨床研修に関すること	8名
放 射 線 安 全 委 員 会	○放射線管理区域において放射線障害を防止するための対策に関すること ○放射線管理区域内の施設維持・管理に関すること ○その他放射線障害予防規定の変更に関すること	7名
個 人 情 報 保 護 推 進 委 員 会	○個人情報の取得、利用、安全管理 ○個人情報保護の自己評価 ○取扱いに関する苦情 ○その他個人情報の取扱いに関すること	14名
事 例 検 討 会 議	○重大な医療事故発生時の、事故等の発生原因を調査及び究明に関すること ○再発防止策の検討に関すること ○事故等の発生時の適切な対応方法等の協議に関すること	10名
院 内 事 故 調 査 委 員 会	○重大な医療事故発生時の、事故調査及び対応策全般に関すること	12名
情 報 シ ス テ ム 委 員 会	○情報システム全般の導入、構築、運用に関すること ○情報セキュリティに関すること	26名
リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト 推 進 会 議	○医療安全管理の推進に関する対応策の検討に関すること	24名
患 者 サ ー ビ ス 向 上 委 員 会	○質の高い医療の提供、快適な療養環境の整備、効率的な医療サービスの提 供、その他・患者サービスの向上に関すること	14名
が ん 診 療 委 員 会	○センターにおけるがん診療推進に関する審議 ○がん診療推進にあたり関連する部署との調整 ○がん診療推進の運用及び管理	21名
行 動 制 限 最 小 化 委 員 会	○行動制限患者の検討 ○行動制限に関する指示、技術等の検討 ○「行動制限マニュアル」の継続的な見直し・改善 ○医療従事者への教育・指導・相談	6名
D P C ・ 原 価 計 算 経 営 管 理 委 員 会	○DPCに関すること ○各診療科毎に適正コーディングを図ること ○症例検討問題事例の検証に関すること ○診療報酬請求後における患者毎の問題点検証に関すること	14名
緩 和 ケ ア 委 員 会	○保険診療の適切な実施、DPCコーディングの適正、症例毎の検討、他病院 との症例比較、情報提供、保険診療上の疑義の検討等	17名
医 療 の 質 評 価 委 員 会	○センターにおける医療の質の評価指標に関すること	24名

名 称	目的・所掌事項	委員数
臨床試験審査委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○病院部門及び研究部門における医療、研究部門に従事する職員の行う人間を対象とする医療、医学的研究・医学教育等に関し、倫理上の配慮を求められる事項 ○治験の実施の適否に関すること ○治験の経過、実施状況、継続の適否に関すること ○その他治療の実施に関し必要な事項に関すること等 ○製造販売後調査の適否に関すること ○製造販売後調査の経過に関すること ○製造販売後調査実施中の試用の中止又は試用方法の変更に関すること ○その他製造販売後調査実施に関し必要な事項に関すること 	21名
研究所外部評価委員	<ul style="list-style-type: none"> ○研究所で行われるテーマ研究、長期縦断等研究の評価を行うこと ○評価結果に意見を付して、センター長及び研究推進会議に報告すること ○その他、センター長が必要と認める事項 	8名
研究所内部評価委員	<ul style="list-style-type: none"> ○研究所で行われるテーマ研究、長期縦断等研究の評価を行うこと ○評価結果に意見を付して、研究所外部評価委員会に報告すること ○その他、理事長が必要と認める事項 	11名
研究不正防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○不正行為・不正使用の防止に係る研究環境の整備・改善に関すること ○不正行為・不正使用の防止に係る倫理教育及び啓発活動に関すること ○その他、不正行為・不正使用の防止及び対策に関すること 	7名
利益相反委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○利益相反マネジメントに係る規程等の制定・改廃の審議に関する事項 ○利益相反による弊害を抑えるための施策の策定に関する事項 ○利益相反に係る審査・回避要請等に関する事項 ○利益相反マネジメントのための調査に関する事項 ○利益相反マネジメントに係る教育研修の実施に関する事項 ○外部からの利益相反の指摘への対応に関する事項 ○その他、センターの利益相反マネジメントに関する重要事項 	8名
職務発明審査会	<ul style="list-style-type: none"> ○職務発明の認定、特許を受ける権利・特許権の承継、審査請求・権利化手続の是非、著作権、商標権、ノウハウ、成果有体物等に関する審議 	6名
海外渡航審査会	<ul style="list-style-type: none"> ○出張、特別休暇による海外渡航予定者（研究に従事する職員）の申請内容等の適否を審査すること 	7名
幹部研究職員候補者選考委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究部長、研究専門部長、研究副部長、研究専門副部長を採用する場合の候補者の選考 	8名
研究員等候補者選考委員	<ul style="list-style-type: none"> ○研究員・非常勤研究員・技術員採用候補者、研究助手等から研究員への任用候補者の評価と採否に関する意見具申 ○その他、センター長が必要と認めること 	7名
国外研究員候補者選考委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○国外研究員候補者選考における評価及び招聘推薦順位の付与 ○その他センター長が必要と認めること 	7名
研究審査委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○外部団体との受託研究（提案公募型受託研究を含む。）、共同研究、受託事業及び奨学寄付金の受入れ審査 	7名
研究部門倫理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○理事長から諮問された研究計画について、倫理指針等に基づき倫理的・科学的観点から調査・審議・審査を行い、その結果を報告すること ○人を対象とする医学的研究等に関する倫理上の重要事項について調査審議すること 	10名
研究機器整備委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究に必要な備品等の物品の選定、リース物品の調整 ○研究に利用している高額機器類の保守の選定、保守の基準の調整 ○その他、センター長が必要と認めること 	11名
研究所研究シーズ選定・編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○研究シーズの選定・編集について ○その他、センター長が必要と認める事項 	12名
介護予防主任運動指導員等修了試験委員	<ul style="list-style-type: none"> ○介護予防主任運動指導員養成事業等に係る修了試験問題及び正答の作成 ○介護予防主任運動指導員養成事業等に係る修了試験の運営 ○修了試験の合否判定基準の決定及び合否判定 ○その他、修了試験の実施にあたり必要なこと 	3名

名 称	目的・所掌事項	委員数
広 報 委 員 会 老 人 研 部 会	○研究所の広報普及に関する事業に資するため、研究NEWS編集・発行・老人研友の会等を所掌する。	11名
環 境 安 全 委 員 会	○研究所における研究活動に伴い発生する環境の汚染と破壊を防止し、生活環境の安全確保を図るとともに、ひいては地球環境保全維持に努める。	19名
バイオハザード実験 安 全 委 員 会	○バイオハザード実験安全要綱・安全管理規則の制定・改廃、安全主任者の選出・推薦に関すること ○実験施設・設備の設定、実験計画の適合性、実験に係わる教育訓練、実験従事者の健康管理、事故発生の際の必要な処置・改善策に関すること ○その他、安全確保に関して必要な事項に関すること	14名
組 換 え D N A 実 験 安 全 委 員 会	○組換えDNA実験安全要綱の制定・改廃、安全主任者の選出・推薦に関すること ○実験施設・設備の認定、実験計画の適合性、実験に係わる教育訓練、実験従事者の健康管理、事故発生の際の必要な処置・改善策に関すること ○その他、安全確保に関して必要な事項に関すること	14名
短 寿 命 放 射 性 薬 剤 臨 床 利 用 委 員 会	○PET診断の製造方法、品質管理方法、人体に対する使用目的・使用方法、投与による副作用及び放射性被曝に関すること ○その他、PET診断の安全性確保と臨床利用に必要な事項に関すること	9名
動 物 実 験 委 員 会	○動物実験計画の適合性、実施状況及び結果に関すること ○施設等及び実験動物の飼養保管状況に関すること ○動物実験・実験動物の適正な取扱い、教育訓練の内容等に関すること ○動物実験に係る自己点検・評価に関すること ○その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること	8名
研 究 所 情 報 管 理 委 員 会	○TMIGネットワークの情報セキュリティ運用に関する監査・監督 ○TMIGネットワーク及び情報資産の使用計画・予算に関する提言・助言 ○その他、TMIGネットワーク及び情報資産の運用に必要な事項に関すること	16名
放 射 線 安 全 委 員 会	○放射線管理区域における放射線障害の防止対策等に関すること	15名
研 究 所 アイソトープ 委 員 会	○研究所アイソトープ施設の円滑な運営とその効率化、施設内外の放射線安全の確保	9名

9 指定・許可・学会認定

(1) 指定・許可状況

指 定 ・ 許 可 年 月 日	事 項	根拠法令等
昭和5. 10. 1	開設許可	医療法第7条
25. 5. 4	生活保護法指定医療機関	生活保護法第49条
37. 4. 16	結核予防法指定医療機関（医療機関指定書第4251号）	結核予防法第36条第1項
40. 3. 18	救急病院告示医療機関	厚生省「救急病院等を定める省令」
45. 6. 1	保健医療機関指定	保健医療機関及び保険薬局並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令
45. 6. 1	国民健康保険法療養取扱機関	国民健康保険法第37条第3項
46. 4. 10	東京都以外の区域の保険者に係る療養の給付を担当する旨の申し出について（46養病医第556号）	国民健康保険法第37条第5項
48. 12. 1	地公災東京都支部協定医療機関	地方公務員災害補償法第26条（都立病院との協定に準ずる）
52. 1. 1	被爆者一般疾病医療機関（指定番号 原病176） 東京都職員共済組合契約医療機関 心身障害者（児）医療費助成制度にもとづく同意医療機関 特殊疾病対策医療費助成制度にもとづく契約医療機関 公害医療機関	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律 共済組合との契約による心身障害者の医療費の助成に関する条例 東京都医療費助成実施要綱及び厚生事務次官通知 公害健康被害補償法第20条（全健保適用医療機関）
54. 10. 7	心臓循環器（CCU）救急医療事業協力医療施設	都 心臓循環器（CCU）救急医療実施要綱（衛生局）
61. 6. 1	紹介型病院の承認	厚生省告示第177号
62. 3. 16	病院群による臨床研修を行う病院	医師法第16条の2第1項
平成9. 12. 1	エイズ診療拠点病院	都 エイズ診療協力病院運営要綱（衛生局）
15. 11. 1	救急救命士再教育（病院実習）実施医療機関	救急救命士の再教育（病院実習）に関する協定書
15. 11. 19	臨床研修病院	医師法第16条の2第1項
19. 1. 31	指定自立支援医療機関（精神通院医療）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 4. 1	指定自立支援医療機関（免疫）	障害者自立支援法第59条第1項
19. 7. 10	東京都肝臓専門医医療機関	東京都難病患者等に係る医療費等の助成に関する規則
21. 1. 30	東京都脳卒中急性期医療機関	東京都脳卒中急性期医療機関設置要綱第3の3
21. 4. 1	開設許可（東京都健康長寿医療センター）	医療法第7条
24. 2. 9	東京都認知症疾患医療センター	東京都認知症疾患医療センター運営事業実施要綱（福祉保健局）
24. 3. 22	東京都大腸がん診療連携協力病院	東京都大腸がん診療連携協力病院設置要綱（福祉保健局）
25. 12. 19	東京都災害拠点病院	東京都災害拠点病院設置運営要綱（福祉保健局）
26. 4. 23	臨床修練指定病院	外国医師等が行う臨床修練に係る医師法第17条等の特例等に関する法律第2条第4号
27. 1. 1	難病医療費助成指定医療機関	難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項

(2) 各種学会認定状況

日本内科学会認定教育特殊施設	日本老年歯科医学会認定研修歯科診療施設
日本老年医学会認定施設	日本感染症学会認定研修施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設	日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設
日本神経学会認定教育施設	日本腎臓学会専門医制度研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本手外科学会研修施設
日本呼吸器学会認定医制度認定施設	日本脳卒中学会専門医制度研修教育病院
日本血液学会認定血液研修施設	心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本糖尿病学会認定教育施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設	日本精神神経学会精神科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設	臨床栄養士研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	日本脳神経外科学会専門医研修プログラム関連施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	胸部ステントグラフト実施施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本核医学会専門医教育病院
日本麻酔科学会認定研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本リウマチ学会教育施設	日本眼科学会専門医制度眼科研修プログラム施行施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関	日本緩和医療学会認定研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本病理学会研修認定施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本臨床細胞学会教育研修施設	日本臨床細胞学会施設

日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本臨床検査医学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養療法推進協議会N S T稼働施設認定 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年精神医学会専門医制度認定施設	呼吸器外科専門医関連施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 植込型補助人工心臓実施施設 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 日本内科学会認定医教育病院 経カテーテルの大動脈弁置換術実施施設 (TAVI) 日本核医学会 PET撮像施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 非血縁者間末梢幹細胞採取認定施設 非血縁者間末梢幹細胞採取認定施設
---	--

(3) 各種学会施設認定に伴う指導医等一覧

(平成29年3月31日現在)

学会名	指導医等名 (卒業年次)		
日本内科学会	井藤 英喜 (S45)	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)
	森 聖二郎 (S58)	荒木 厚 (S58)	宮腰重三郎 (S59)
	原田 和昌 (S60)	小林寿美子 (S61)	砂川 昌子 (H1)
	岩切 理歌 (H1)	濱野 慶朋 (H1)	加藤 貴行 (H2)
	武田 和大 (H2)	宮本 鋼 (H3)	仁科 裕史 (H3)
	山田 浩和 (H4)	上垣佐登子 (H5)	坪光 雄介 (H5)
	石川 譲治 (H6)	佐々木美奈 (H6)	加藤 倫子 (H6)
	板橋美津世 (H8)	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)
	藤本 肇 (H8)	石山 泰三 (H8)	杉原 毅彦 (H9)
	山本 寛 (H9)	西村 誠 (H9)	田中 旬 (H10)
	潮 靖子 (H10)	小倉 和外 (H10)	仙石 鍊平 (H11)
	東原 真奈 (H13)	広吉 祐子 (H12)	鳥羽 梓弓 (H18)
	松川 美保 (H18)	金田 大太 (H18)	坪井 由紀 (H19)
	山崎 幹大 (H19)	本山 りえ (H19)	大野 慶子 (H19)
	伊賀 祥子 (H20)	大川 庭熙 (H21)	根本 佳子 (H22)
十菱 千尋 (H22)	小寺 玲美 (H22)	齋藤 義弘 (H23)	
土田真吏奈 (H24)			
日本老年医学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	森 聖二郎 (S58)
	原田 和昌 (S60)	砂川 昌子 (H1)	岩切 理歌 (H1)
	宮本 鋼 (H3)	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)
	山本 寛 (H9)	潮 靖子 (H10)	鳥羽 梓弓 (H18)
日本消化器病学会	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)
	上垣佐登子 (H5)	佐々木美奈 (H6)	潮 靖子 (H10)
日本消化器内視鏡学会	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)	上垣佐登子 (H5)
	佐々木美奈 (H6)	吉田 孝司 (H7)	西村 誠 (H9)
	潮 靖子 (H10)		
日本神経学会	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)	加藤 貴行 (H2)
	仁科 裕史 (H3)	仙石 鍊平 (H11)	広吉 祐子 (H12)
	東原 真奈 (H13)	金田 大太 (H18)	山崎 幹大 (H19)
	本山 りえ (H19)	中野 雄太 (H20)	
日本循環器学会	許 俊鋭 (S49)	原田 和昌 (S60)	武田 和大 (H2)
	西村 隆 (H4)	坪光 雄介 (H5)	石川 譲治 (H6)
	加藤 倫子 (H6)	石山 泰三 (H8)	藤本 肇 (H8)
日本呼吸器学会	田中 旬 (H10)	鳥羽 梓弓 (H18)	
	山田 浩和 (H4)	山本 寛 (H9)	日野 春秋 (H14)
日本血液学会	宮腰重三郎 (S59)	小林寿美子 (S61)	岩切 理歌 (H1)
	宮本 鋼 (H3)	小倉 和外 (H10)	
日本糖尿病学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	森 聖二郎 (S58)
	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)	小寺 玲美 (H22)
日本超音波医学会	許 俊鋭 (S49)	上垣佐登子 (H5)	石川 譲治 (H6)
	田中 旬 (H10)		
日本外科学会	許 俊鋭 (S49)	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)
	齊藤 英一 (H1)	中澤 達 (H3)	西村 隆 (H4)
	吉田 孝司 (H7)	三井 秀雄 (H8)	河田 光弘 (H9)
	鈴木 潤 (H12)	日野 春秋 (H14)	
日本整形外科学会	時村 文秋 (S61)	穴水 依人 (H3)	宮崎 剛 (H5)
	濱路 博 (H7)	正田奈緒子 (H15)	金高 正和 (H18)
日本眼科学会	沼賀 二郎 (S59)	本庄 恵 (H7)	青木 彩 (H14)
	坂田 礼 (H14)	外山 琢 (H16)	寺田裕紀子 (H18)
	山本 裕樹 (H19)	高尾 博子 (H21)	
日本耳鼻咽喉科学会	高橋 正時 (H15)	西尾 綾子 (H17)	大野 慶子 (H19)
	柏谷 豊 (H2)	高橋 尚子 (H5)	榎永 浩一 (H11)
日本泌尿器科学会	吉田 香苗 (H21)		
	種井 良二 (S62)	宮澤理恵子 (H21)	
日本麻酔科学会	小倉 信 (S57)	鄭 仁熙 (H18)	廣瀬 佳代 (H18)
	山田 浩和 (H4)	宮崎 剛 (H5)	杉原 毅彦 (H9)
日本リウマチ学会	伊賀 祥子 (H20)		
	山川 通隆 (S54)	徳丸 阿耶 (S60)	下地 啓五 (H10)
日本医学放射線学会	櫻井 圭太 (H14)		

学会名	指導医等名 (卒業年次)		
日本リハビリテーション医学会	村山 繁雄 (S54)	小山 照幸 (S60)	金丸 晶子 (S61)
	加藤 貴行 (H2)	正田奈緒子 (H15)	
日本病理学会	新井 富生 (S59)	松田 陽子 (H10)	関 敦子 (H17)
日本臨床細胞学会	新井 富生 (S59)	松田 陽子 (H10)	
日本高血圧学会	原田 和昌 (S60)		
日本認知症学会	村山 繁雄 (S54)	金丸 和富 (S58)	砂川 昌子 (H1)
	仁科 裕史 (H3)	古田 光 (H8)	金田 大太 (H18)
	仙石 鍊平 (H11)	広吉 祐子 (H12)	
日本心血管インターベンション学会	武田 和太 (H2)	坪光 雄介 (H5)	藤本 肇 (H8)
日本消化器外科学会	黒岩厚二郎 (S54)	金澤 伸郎 (H1)	齊藤 英一 (H1)
日本臨床検査医学会	新井 富生 (S59)		
日本内分泌学会	千葉 優子 (H7)	田村 嘉章 (H8)	
日本老年精神医学会	古田 光 (H8)	栗田 圭一 (S59)	藤原 佳典 (H5)
日本老年歯科医学会	平野 浩彦 (H2)	齊藤 美香 (H7)	渡邊 裕 (H6)
日本透析医学会	濱野 慶朋 (H1)	武井 卓 (H7)	板橋美津世 (H8)
日本腎臓学会	濱野 慶朋 (H1)	武井 卓 (H7)	板橋美津世 (H8)
日本手外科学会	時村 文秋 (S61)		
日本脳卒中学会	仙石 鍊平 (H11)	村山 繁雄 (S54)	金田 大太 (H18)
	本山 りえ (H19)		
日本心臓血管外科学会	許 俊鋭 (S49)	西村 隆 (H4)	
日本精神神経学会	古田 光 (H8)	筒井 卓実 (H18)	久保田真由 (H20)
	松井 仁美 (H21)	松本 健二 (H24)	
日本脳神経外科学会	松岡 浩司 (S56)	幸田俊一郎 (H6)	高梨 成彦 (H14)
日本脈管学会	中澤 達 (H3)	河田 光弘 (H9)	鈴木 潤 (H12)
日本アレルギー学会	山田 浩和 (H4)		
日本口腔外科学会	森 美由紀 (H18)	渡邊 裕 (H6)	
日本大腸肛門病学会	金澤 伸郎 (H1)		
日本医師会産業医	上垣佐登子 (H5)	佐々木美奈 (H6)	
	増田 義重 (S58)	森 聖二郎 (S58)	宮腰重三郎 (S59)
	小山 照幸 (S60)	砂川 昌子 (H1)	齊藤 英一 (H1)
	山田 浩和 (H4)	穴水 依人 (H3)	田村 嘉章 (H8)
日本病態栄養学会	松本 健二 (H24)		
日本臨床腫瘍学会	井藤 英喜 (S45)	荒木 厚 (S58)	砂川 昌子 (H1)
日本臨床腫瘍学会	宮腰重三郎 (S59)		
日本胸部外科学会	許 俊鋭 (S49)	日野 春秋 (H14)	
日本呼吸器内視鏡学会	山本 寛 (H9)		
日本顎咬合学会	齊藤 美香 (H7)		

10 平成28年度業務実績の全体的な概要

(1) 総括と課題

第二期中期計画期間及び新施設移転後4年目を迎える平成28年度は、これまでの実績を踏まえて、必要な取組を継続、もしくは加速するとともに、適切な医療の提供と研究の推進に努めるなどして、法人として安定的な経営基盤の確立を図った。

平成28年度の主な取組は、下記のとおりである。

ア 組織運営

理事会や経営戦略会議を定期的及び随時開催し、法人運営の重要事項を審議・決定するとともに、病院部門、研究部門の幹部職員で構成する会議等を通じて、事業運営の検討や情報の共有を図った。

また、外部有識者で構成する運営協議会を開催し、法人運営に関する意見や助言を受けるとともに、研究活動の妥当性について、外部評価委員会からの評価を受けるとともに、透明性及び都民ニーズに的確に対応した法人運営を行った。

イ 病院運営

病院幹部職員で構成する病院運営会議において、病院運営に関する課題の把握や検証を行い、改善すべき事項や新たに取組むべき事業の検討を行うとともに、中間ヒアリング及び期末ヒアリングにより、各診療科の診療実績の検証や課題の把握を行った。

また、平成28年度診療報酬改定や地域医療構想の動向等を踏まえつつ、引き続き三つの重点医療を中心に高度な治療の提供や積極的な救急患者の受入れ等を推進するとともに、地域の医療機関と連携し、地域の医療の水準の向上に貢献した。

さらに、新たに地域包括ケア病棟を設置し、個々の高齢者の特性に配慮した在宅復帰支援の強化を図った。

ウ 研究所運営

研究所幹部職員で構成する研究推進会議において、定期的に研究所運営や研究支援に関する意見交換を行うとともに、外部評価委員会、内部評価委員会及び中間ヒアリングにより、各研究の進行管理と評価を実施した。

また、積極的に外部研究資金を獲得して研究を着実に実施するとともに、トランスレーショナルリサーチを推進した。

さらに、老年学・老年医学公開講座等を通じて都民に対する研究成果の還元に努めるとともに、研究成果の実用化に向け、特許権の新規出願を行った。

エ 経営改善

地域医療機関との連携強化や救急患者の積極的な受入れ等による新入院患者数の増加や病床利用率の向上を達成したほか、新たな施設基準の取得・区分変更や外部研究資金の積極的な獲得に努め、収入の確保に取り組み、医業収益は平成27年度と比較して約4.1億円増加した。

こうした取組により、平成28年度の年度計画を着実に進めた。その概略は、次項に述べるとおりである。

今後の課題としては、三つの重点医療を中心に高度な治療の提供や積極的な救急患者の受入れ、地域連携の推進などに取り組み、急性期病院としての役割を果たすと同時に、東京都における公的研究機関としてトランスレーショナルリサーチ及び地域施設との連携をさらに強化し、共同研究や研究成果の普及に努め、さらに、平成30年度からの第三期中期計画に向けた検討を行い、高齢者医療・研究の要としてのさらなる向上を目指して、第二期中期計画及び年度計画に定める内容を着実に推進することが挙げられる。

(2) 事業の進捗状況及び特記事項

以下、中期計画及び年度計画に記された主要な事項に沿って、平成28年度の事業進捗状況を記す。

ア 高齢者の特性に配慮した医療の確立と提供、地域連携の推進

(ア) 3つの重点医療の提供

センターの重点医療である①血管病医療、②高齢者がん医療、③認知症医療について、医療体制の充実を図ることなどにより、高齢者への負担が少ない治療方法を積極的に推進した。

① 血管病医療への取組

ハイブリッド手術室や血管造影室において、関連診療科が連携して大動脈瘤治療を始めとする高齢者の様々な症例に対してステントグラフト内挿術などの新しい技法を用いて対応したほか、TEVAR（胸部ステントグラフト内挿術）の複数指導医体制を確立するなど、高度かつ多様な治療を提供する体制作りを進めた。

また、経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会からTAVR実施施設として認定され、様々な診療科・職種で構成するハートチームを中心とした総合的な評価に基づく治療提供を開始するとともに、新たに脳卒中A担当医長を救急診療部に配置するなど、超急性期脳卒中患者の受入体制を強化した。

さらに、急性期治療後の早期の回復や血管病予防の徹底を図るため、患者の状態に応じた疾患別リハビリテーションを早期に実施するとともに、急性期脳血管障害や手術症例等の患者を中心に土曜日リハビリを実施するなど、急性期病院としてのリハビリ実施体制の強化に努めた。

② 高齢者がん医療への取組

NBI内視鏡を活用した消化器がんの早期診断に積極的に取り組んだほか、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設となり、気管支鏡専門医の育成環境を構築した。

また、日本骨髄バンクから非血縁者間骨髄採取施設及び非血縁者間末梢血幹細胞採取施設として認定され、血液疾患に対する造血幹細胞移植療法をはじめとした幅広い治療の提供体制を強化した。

さらに、従来の大腸がんに加え、新たに胃がん、前立腺がんの東京都がん診療連携協力病院として認定を受け、地域におけるより専門的ながん医療の提供を推進するとともに、「がん相談支援センター」の本格運用を開始し、院内外のがん患者やその家族、地域住民や医療機関から

の相談に対応する体制を構築した。

③ 認知症医療への取組

病院と研究所が一体となって認知症診断の精度向上に向けた取組を推進したほか、MRIや脳血流SPECT等を着実に実施し、認知症の早期診断に積極的に取り組んだ。

また、多職種により構成する認知症ケアチームの体制整備を進め、精神科・緩和ケア病棟を除く全病棟において認知症ケア加算の算定を開始するなど、センターにおける認知症対応力の向上に努めた。

さらに、東京都認知症疾患医療センターとして、もの忘れや認知症に係る専門医療相談を行ったほか、認知症多職種協働研修を開催し、人材育成に努めるなど、地域における認知症医療の向上に取り組んだ。また、東京都認知症支援推進センターとして、島しょ地域への直接訪問による研修実施や各地域の認知症疾患医療センターの支援等を行い、都内全域における認知症対応力の向上に貢献した。

(イ) 急性期医療の取組（入退院支援の強化）

平成28年5月に退院支援加算1を取得し、入院初期からの早期介入や看護師、MSW等による多職種カンファレンスの実施など円滑な早期退院のための取組みを推進するとともに、連携する地域の医療機関等と定期的な意見交換を実施するなど、施設間の連携を強化し、退院後の生活を見据えた退院支援を推進した。

また、急性期治療を経過し、病状が安定した患者を中心に、自宅や介護施設等への復帰に向けた治療やリハビリを行うなど、患者の状態に適した退院支援を実施するため、平成28年10月より地域包括ケア病棟を開設した。

さらに、東京都CCUネットワーク加盟施設として重症の心臓疾患患者を積極的に受け入れるとともに、急性大動脈スーパーネットワーク緊急大動脈支援病院として、急性大動脈疾患に対する急性期治療を継続して推進した。

(ウ) 救急医療の充実

急性大動脈スーパーネットワーク及び東京都CCUネットワーク、東京都脳卒中救急搬送体制に参加し、急性期患者を積極的に受け入れた。

また、スマートフォンやタブレットPC上で医用画像が閲覧できるシステム（SYNAPSE ZERO）を導入し、院外においても専門医による画像参照が可能となり、より迅速かつ適切な救急医療の提供に繋がった。

さらに、朝カンファレンス等を通じて救急患者症例の検討を行い、救急医療に携わる当直医や研修医、看護師の育成に努めたほか、内科救急当番医が行っている一次対応について、必要に応じ専門当直医が協力する診療体制を構築するなど、断らない救急診療体制を推進した。

(エ) 地域連携の推進

各診療科の特徴などをまとめた「診療科案内」を作成し、地域の医療機関への配布やホームページを通じた広報活動に努めたほか、主要沿線・駅周辺別の連携医を掲載したマップを新たに作成するなど、医療機関・介護施設等との紹介、逆紹介の推進を図った。

また、地域医療連携システム（C@RNAシステム）の運用を開始し、WEBを通じた連携医からの放射線検査や超音波検査等の受入体制の構築に取り組んだ。

さらに、東京都災害拠点病院として、トリアージ研修会や大規模災害訓練などを実施したほか、センターのDMAT（災害派遣医療チーム）については内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練に参加するなど、年間を通して計画的にセンターの災害対応力を高める取り組みを行ったほか、平成28年12月に板橋区との間で「緊急医療救護所の設置に関する協定書」を締結した。熊本地震の発生に際しては、東京都からの要請に基づき医療救護班を現地に派遣するとともに、被災者支援のため、エコノミークラス症候群を予防するための弾性ストッキングや介護予防体操のDVDを提供した。

(オ) 安心かつ信頼できる質の高い医療の提供

「フレイル外来」において、外来患者のフレイル、認知機能などの評価を行い、その原因とな

る疾患の包括的な治療と栄養、運動などの生活指導を実施するとともに、外科手術前のフレイル評価を行うことにより、手術適応の決定や合併症、在院日数の予測に役立てるなど、高齢者の特性に合わせた最適な医療の提供を推進した。

また、平成28年6月に全病棟を対象として「経口摂取開始のためのチャート」を導入し、多職種が協働して入院早期からの経口摂取開始に取り組み、経口摂取患者の増加や禁食率の低下等につなげるなど、患者の早期回復や重症化予防を促進した。

さらに、平成28年6月の医療法施行規則の改正に基づき、病院の管理者及び医療安全管理部門が院内での死亡事例を遺漏なく把握し、分析及び必要な指導が行える体制を確保するために、全死亡患者のサマリを作成し、医療安全対策カンファレンス（1回/週）において検討を行うなど、医療安全管理体制のさらなる強化を図った。

この他、患者・家族の意思を尊重し、安全かつ適切な医療を行うため、「説明と同意に関するマニュアル」の策定や各診療科の説明同意文書の書式の統一化に取り組むなど、インフォームド・コンセントに対するセンターの方針や手順を明確にし、職員の医療安全に対する意識の向上に努めた。

(カ) 患者中心の医療の実践・患者サービスの向上

病院において組織的に医療を提供するための基本的な活動が適切に実施されているかどうかを第三者（公益財団法人日本医療機能評価機構）が審査する病院機能評価を平成28年10月に受審した。患者の視点で質の高い医療・サービスを推進するため、職員意識の向上を図るとともに、病院を挙げて各種の改善活動に取り組んだ結果、高齢者医療のリーディングホスピタルとして安全で高品質な医療が提供されているとの高い評価を受けた。

また、新たに血管外科、化学療法科のセカンドオピニオン外来を開始するなど、患者が自らの治療に納得して様々な選択ができるようさらなる体制の充実を図った。

イ 高齢者の健康の維持・増進と活力の向上を目指す研究

(ア) トランスレーショナルリサーチの推進（医療と研究の連携）

全7件の研究助成課題を採択し、研究費の執行管理を行うとともに、進捗状況の把握や技術支援、関連分野の情報提供を行うなど臨床応用に向け支援した。

また、当センターが独自開発した血中GDF15高感度定量システムを用いて行った高齢者コホートの解析から、血中GDF15濃度が総死亡率と関連することが明らかとなったほか、同システムを基礎にミトコンドリア病のコンパニオン診断薬に用いる汎用型自動検査装置に適合した定量キットの開発に成功した。

さらに、将来的臨床応用を見据え、人工関節術の予後評価法として、NaF-PETによる客観的評価基準の策定に向けて症例を蓄積した。

(イ) 高齢者に特有な疾患と生活機能障害を克服するための研究

認知症診断への応用が期待される研究成果として、アルツハイマー病患者の脳で特異的に観察される複数のシトルリン化タンパク質を世界で初めて同定し、特許を出願した。

また、アミロイドイメージング剤を用いた、認知症の早期診断法の標準化を可能にする「アミロイドイメージング読影法」を確立した。

(ウ) 活気ある地域社会を支え、長寿を目指す研究

就労支援のコーディネートシステムに係るプロジェクト成果についての書籍を刊行したほか、絵本の読み聞かせを行う世代間交流研究において示された海馬萎縮の抑制効果などについて、12区市への普及を行い、研究成果の社会還元を進めた。

また、高齢者への中強度の運動負荷においては、摂取する栄養素によって筋肉量の増減が決まることが明らかとなり、その栄養素の組み合わせについて特許を出願したほか、都の委託研究事業「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」において、大都市に暮らす高齢者の認知症有病率と生活実態を明らかにすることを目的とした調査を実施した。

さらに、DASC-21を用いた総合アセスメント研修と地域の特性に応じた認知症初期支援体制の構築を支援したほか、当センターで行う認知症ケア加算のための客観的評価法として、DASC-21を採用し、運用を開始した。

(エ) 先進的な老化研究の展開・老年学研究におけるリーダーシップの発揮

筋ジストロフィー症（MD）の原因遺伝子の一つであるISPD遺伝子の機能解析から、本遺伝子は筋肉の機能維持に不可欠な糖鎖合成において、その材料（CDP-リビトール）を合成する遺伝子であることを解明したほか、ISPD遺伝子を人工的にMD型に変異させた培養細胞において、CDP-リビトールを添加することにより、糖鎖構造が正常型に回復することを明らかにした。この研究成果から、ISPD遺伝子変異型MDの薬物治療の可能性を世界で初めて示した。

また、日本人の慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の血漿ビタミンC濃度が健常者に比べ低いことが明らかとなり、その治療にビタミンCが有用である可能性が示唆された。

さらに、指定難病であるミトコンドリア病のコンパニオン診断システムの開発を進めた結果、汎用型自動検査装置に適合した定量キットの開発に成功した。

(オ) 研究成果・知的財産の活用

研究成果に係るプレス発表や老年学・老年医学公開講座等のイベント活動のほか、若年層を対象としたサイエンスカフェを開催するなど、研究成果の普及やセンターのPRに積極的に取り組んだ。

また、当センターの職員が各種学会の委員を務め、センターの研究成果を活用して、種々の高齢者診療ガイドラインの作成や新たな高齢者の定義を提言するなど、研究成果のより一層の社会還元に向けて積極的に取り組んだ。

ウ 高齢者の医療と介護を支える専門人材の育成

都派遣職員解消に伴う看護師確保対策として、新たな処遇改善手当を創設したほか、ホームページの全面リニューアルを実施し、採用情報等をより分かりやすく掲載するとともに、スマートフォンからの閲覧も可能とするなど、より効果的な情報発信体制を整備し、看護師の確保に取り組んだ。

また、新たに2施設と連携大学院協定を締結し、昨年度の実績を上回る連携大学院生を受け入れるなど、次代を担う研究者の養成に取り組んだ。

さらに、認定医等の資格取得支援や研修派遣等を積極的に実施し、医療専門職の専門的能力の向上を図ったほか、たんぽぽ会主催による地域の訪問看護師との勉強会の開催や認知症支援推進センターにおける医療専門職等に対する認知症対応力向上に向けた研修会等の開催など、地域の医療・介護を支える人材の育成を積極的に行った。

エ 地方独立行政法人の特性を活かした業務の改善・効率化

経営戦略会議や病院運営会議、研究推進会議等において、センターの諸課題について迅速かつ十分な審議及び改善策の検討を行ったほか、経営分析に特化した部門として新たに医療戦略室を設置し、各種加算の取得に伴う経済効果の検証や運用方法の検討を行うなど、より戦略的な病院経営を行うための体制強化に努めた。

また、職員提案制度を通じて、全職員が積極的かつ自由にセンター運営について発言できる機会を設けることにより、組織の活性化を図ったほか、平成27年度の職員提案制度において最優秀賞を受賞した「口から食べる楽しみを支援－経口開始チャートの運用」について、全病棟での運用を開始し、経口摂取患者の増加や禁食率の低下等の効果を上げるなど提案の実現及び業務の改善に繋がった。加えて、病院運営、経営改善等に大きく功勞のあった部署・職員を表彰する職員表彰制度を実施するなど、職員のモチベーション向上につながる取組を推進した。

さらに、会計監査人監査や内部監査を実施し、改善が必要である事項については迅速かつ適切に対応したほか、研究費の適正な執行や事務処理ルールをまとめた「研究費使用等ハンドブック2016」の発行や研究不正防止研修会及び事務処理方法説明会の開催、モニタリングの実施など研究活動における不正防止対策に取り組むなど、内部管理を適切に実施した。また、病院部門の臨床試験審査委員会及び研究部門倫理委員会において適切な審査を行うとともに、研究に携わる職員を対象とした悉皆研修を実施するなど、高齢者医療や研究に携わる職員の倫理の徹底を図った。

この他、病院において組織的に医療を提供するための基本的な活動が適切に実施されているかどうかを第三者が審査する病院機能評価を平成28年10月に受審し、平成29年1月4日付で認定を受けた。

オ 財務内容の改善

地域連携の推進や救急患者の積極的な受入れなどにより新規患者の確保に努めるとともに、入院早期より、退院支援を必要とする患者の抽出や患者・家族との面談及び多職種カンファレンスの実施に努めるなど退院支援の強化を図り、平均在院日数の維持や病床利用率の向上に繋がった。

また、経営分析に特化した部門として新たに設置した医療戦略室において、電子カルテデータやDPCデータ等を活用した診療情報の分析や施設基準の取得に伴う経済効果の検証を行い、地域包括ケア病棟入院料や退院支援加算1、認知症ケア加算1等を取得するなど、診療報酬改定に則した体制整備を行った。

さらに、保険請求における請求漏れや査定を減らすための対策として、全職員を対象とした研修会の開催や他病院との勉強会等を実施したほか、未収金対策として、未収金回収担当者を複数人配置し体制強化を図るなど、収入の確保に努めた。

この他、外部研究資金獲得件数、研究員一人あたりの外部資金獲得金額が過去最高を記録した。

カ その他業務運営に関する重要事項（センター運営におけるリスク管理）

医療事故調査制度の開始や医療法の改正に伴い、死亡事例における院内での病理解剖の推進や死亡時画像診断の適切な運用に努めるとともに、医療事故発生時の対応策等を検討するための体制を整備するなど組織的な医療安全対策に取り組んだ。

また、介護をしながら勤務する職員や有期契約職員が介護・育児休業を取得しやすくなるよう諸制度の改正を行ったほか、ストレスチェック制度の導入やハラスメントの防止に関する要綱の制定、事務部門におけるノー残業デーの本格実施など、職員が働きやすい健全かつ安全な職場環境の整備に努めた。

さらに、障害者差別解消法により制定した「障害を理由とする差別の解消の推進に関する要綱」に基づき、障害者に対する不当な差別的取扱いの禁止や相談体制の整備等、法整備に則した取組みに努めた。

この他、平成28年12月に板橋区との間で「緊急医療救護所の設置に関する協定書」を締結した。熊本地震の発生に際しては、東京都からの要請に基づき医療救護班を現地に派遣するとともに、被災者支援のため、エコノミークラス症候群を予防するための弾性ストッキングや介護予防体操のDVDを提供した。

第二部 病院部門

I 平成28年度運営報告

1 人員体制

〈部長〉

荒木厚（内科総括部長）、
 増田義重（総合内科部長）、
 岩切理歌（総合内科部長、包括ケア病棟担当）、
 藤本肇（循環器内科部長）、
 坪光雄介（救急診療部部長）、
 武田和大（循環器内科専門部長）、
 村山繁雄（神経内科部長）、
 金丸和富（脳卒中科部長）、
 上垣佐登子（消化器内科部長）、
 佐々木美奈（消化器内科専門部長）、
 西村誠（内視鏡科部長）、
 宮腰重三郎（血液内科部長）、
 宮本鋼（化学療法科部長）、
 小林寿美子（輸血・細胞療法科）、
 武井卓（腎臓内科部長）、
 板橋美津世（血液透析科部長）、
 濱野慶朋（特任部長）、
 山本寛（呼吸器内科部長）、
 山田浩和（呼吸器内科専門部長）、
 杉原毅彦（膠原病・リウマチ科部長）、
 齊藤英一（緩和ケア内科部長）、
 古田光（精神科部長）

〈医長〉

石山泰三（循環器内科医長）、
 石川讓治（循環器内科医長）、
 田中旬（循環器内科医長）、
 仁科浩史（神経内科医長）、
 仙石鍊平（神経内科医長）、
 金田大太（神経内科医長）、
 東原真奈（神経内科医長）、
 千葉優子（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、
 田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）、
 小島理絵（輸血・細胞療法科医長）、
 砂川昌子（総合内科医長）、
 小倉和外（血液内科医長）

〈常勤〉

（感染症内科）板倉泰朋、（循環器内科）杉江正光、十菱千尋、根本佳子、大川庭熙、齋藤義弘、（消化器内科）潮靖子、松岡順子、剛崎有加、（内視鏡科）松川美保（神経内科）広吉祐子、本山りえ、江口桂、山崎幹大、（糖尿病・代謝・内分泌内科）坪井由紀、小寺玲美、（膠原病・リウマチ科）伊賀祥子、土田真吏奈、（呼吸器内科）濱谷広頌、杉崎緑、（精神科）筒井卓実、松本健

二、松井仁美、市橋雅典、久保田真由
 〈人事異動〉

平成28年度の入職者は平成28年4月1日付けで腎臓内科部長に武井卓、血液透析部長に板橋美津世、輸血・細胞療法科部長に小林寿美子、循環器内科専門部長に武田和大を迎えた。

平成28年度に新たに赴任した常勤医師は、4月1日付けで膠原病・リウマチ科の伊賀祥子、土田真吏菜、呼吸器内科の濱谷広頌、杉崎緑、精神科の松本健二、久保田真由である。

シニアレジデントからは4月より循環器内科に齋藤義弘、化学療法科に橘盛昭が常勤として採用となった。

7月31日付けで糖尿病・代謝・内分泌内科の坪井由紀、2017年1月31日付けで消化器内科の剛崎有加、松岡順子、3月31日付けで呼吸器内科の杉崎緑、濱谷広頌、消化器内科部長の佐々木美奈、神経内科医長の金田大太、山崎幹大、感染症内科の板倉泰朋、精神科の松本健二、特任部長の濱野慶朋が退職した。これまでセンターの診療の発展に貢献された先生方に感謝の意を表する。

2 診療活動・実績

（1）外来部門

	H27	H28	対前	対前年
延外来患者数	112,579	116,041	5462	103.1%
初診外来者数	4,299	4,340	41	101.0%
1日平均外来患者	463.3	477.5	14.2	103.1%

（2）救急部門

	H27	H28	対前年	対前年
救急外来受診数	5,451	5,423	-28	99.5%

内科系の外来患者数は1日の平均外来患者数、初診患者数ともに昨年度に比べて微増した。内科外来は、内科系スタッフの中で、指導医とシニアレジデントの2人が主として担当し、シニアレジデントの外来の教育の機能を兼ねて行った。

救急外来は二次救急として24時間体制で行った。日勤帯は常勤医の医師が指導医として3週に1回担当し、ジュニアレジデント1年目と2～3年目までの医師の3人体制で救急外来を担当した。救急外来受診患者数は昨年度に比べ、約10%増加した。

昨年度から開始したフレイル外来は、身体機能や認知機能などを総合的に評価する外来であるが、外科の術前評価も加わり、延586人（H27年度：232人）が受診した。

(3) 入院

	H27	H28	対前年	対前年
内科延入院患者数	109,172	112,382	3,210	102.9%
内科新規入院患者	5,696	5,619	- 80	98.6%
救急科入院数	2,120	2,166	54	102.2%
内科退院患者数	7,475	7,515	40	100.5%
病床利用率	93.2	94.3	0.9	-
内科在院日数	15.4	16.0	0.6	-

内科系の新規入院患者と退院患者は昨年度と比べて同様であった。昨年度と同様の入院患者数を今年度も維持できたことは内科各科が、多くの救急患者を診療した結果である。特に、日中の救急外来や当直帯で、指導医、常勤医またはシニアレジデント、ジュニアレジデントの3人体制で、多くの救急患者を診ていただいたことに感謝したい。

内科の体制としては、4月より腎臓内科の診療体制が確保された。後半より呼吸器内科の人員が減少したが、総合内科等の協力もあり、9階東病棟の診療を維持することができた。

今年度は在院日数が昨年と同様であったが、病床利用率も94%と高い数字を維持できた。9月より地域包括ケア病棟を6階西病棟に設置し、総合内科岩切先生を中心に、内科病棟から在宅復帰のための患者を受け入れた。地域包括ケア病棟も高い病床利用率を維持し、在院日数の短縮、患者・家族の負担の軽減、経営の効率化に寄与したと考えられる。地域包括ケア病棟は今後コメディカルと協力しながら、低栄養や服薬アドヒアランスや多剤併用の問題に取り組むことで、当センターにおける老年医学教育の一部を担うことも期待される。「在宅医療支援病床」を砂川先生が担当した。

3 研修・教育活動

研修医は新たにジュニアレジデント10名が4月より研修を開始し、2年目と合わせて計20名が研修を行った。研修医が参加する会議や講義としては、所属の科のカンファともに、モーニングカンファ、昼のクルズス、病院CC、病院CPC、研修医CPCなどが行われた。

病院CCは研修医教育を中心とした3人体制でジュニアレジデントが発表し、シニアレジデントまたは若手医師が発表指導と司会を行い、教育担当医が企画、コメンテーターを依頼する形とした。

モーニングカンファはレジデントが夜間の一般内科救急患者の症例の検討を救急診療部の坪光先生、田村先生などの指導のもとに行った。昼のクルズスは千葉先生が管理し、1年間内科のみならず、全科の先生が水曜日または火曜日に講義を行った。

レジデントと多くの指導医がプラネックス研修

に参加し、研修医のリクルート活動として、レジナビ(年3回)、高齢医学セミナー(年1回)に参加した。

レジデントとして研鑽を積まれた医師は以下の通りである。ジュニア1年目は、宮一佑依、高木美貴、石滝公一、塩満恵子、池田久美、三原現、水上翔太、原田丈太郎、東京大学からのたすき掛けで橋爪貴史、籠尾南海夫が研修した。ジュニア2年目は萩原蓉子、橘靖子、常吉沙帆理、豊田仁志、市原寛子、白石朋敬、森下良志、五十嵐健二、東京大学からのたすき掛けで阿部吉倫、武斯斌が研修し、ジュニアレジデントを修了した。

シニアレジデントは(シニア1年目)眞喜志直子、飯塚あい、武村拓哉、佐藤元彦、(シニア2年目)臼杵智江美、二見崇太郎、山岡巧弥、野中敬介、渋谷茉莉、藤井悠子、方波見有貴、(シニア3年目)両角愛、鈴木歩、佐塚まなみ、吉谷栄人、齊藤陽子、高木優介、飯島健である。

新しい専門医制度が延期されたが、来年度は実施される予定であり、当センターの内科専攻医プログラム(研修医マニュアル、指導医マニュアルを含む)を作成し、定員8人で平成29年2月に提出した。新しい専門医制度では、研修医管理の責任者が3人以上必要となり、研修医評価や指導医の評価、関連施設との研修管理委員会を頻繁に行うことが求められ、事務的な仕事量も数倍になることが予想される。したがって、研修管理委員会の組織を改変し、研修管理センターのような組織を作ることが必要であると考えられる。

総合内科専門医の数を増やすことと8年目以降の医師は指導医の研修を受けて指導医となることも新しい専門医制度で募集定員を確保するために必要となると予想される。

今年度の内科系学会への学会発表数は205、誌上発表数216、研修医の発表数は32(学会発表28、誌上発表4)と昨年度より増加した。内科地方会または内科学会総会への発表は5となった。来年度以降も病院CCを利用し、指導医が学会発表を促すことが必要である。

研修に関しては今後、負担が増えることが予想されるが、引き続き内科各科の先生方のご協力をお願いしたい。

4 今後の課題

内科各科が一体となって医師をさらに確保することが、安定した診療を維持し、研究活動を推進させるために重要な課題である。老年病と内科系Subspecialityの専門医の専門医を同時に取得することを売りとして、大学との連携や広報活動を通じて若い医師を確保して行きたい。

1 人員体制

平成28年度総合診療科の運営に關与した医師は、常勤医：増田義重部長、岩切理歌部長（平成28年10月1日昇任）、砂川昌子医長、板倉泰朋で、研修医：白石朋敬、原田丈太郎、宮一佑衣、高木美貴、石滝公一、塩満恵子、池田久美が当科の運営に協力した。

地域包括ケア病棟が平成28年10月1日から6西病棟に開設され、岩切理歌部長が担当した。

在宅医療連携病床（平成28年6月まで7西病棟、同年7月から6西病棟）は砂川昌子医長が担当した。

2 診療活動・実績

平成28年度、総合診療科は9東病棟38床を呼吸器内科、感染症内科と共に運用した。また、内科外来の運営を行った。

1年間で入院患者は転科例を含めて306名で、発熱を主訴とする緊急入院患者が多く、各種感染症149例（呼吸器91、尿路22、インフルエンザ等6、消化管5、皮膚・軟部組織・骨・関節9、敗血症12、結核4）であった。また、種々の内科系入院が47例、呼吸器系疾患49例、消化器系疾患23例、神経系疾患18例、骨・関節疾患13例、循環器系疾患7例であった。死亡16例（剖検3例）であった。

外来業務として、内科外来2単位を担当した。

ローテーションする後期研修医の総合診療研修も担当した。

地域包括ケア病棟

平成29年7月より準備期間として6西病棟に退院支援病棟が開設され、整形外科、リハビリ科、総合内科、医療戦略室、在宅医療・福祉相談室、医療連携室の協力にて運用、10月に地域包括ケア病棟として正式に開設された。急性期疾患が安定し、自宅退院が可能な患者を全科から受け入れ、担当医は変更せず病棟のみ変わるというシステムで運営されている。また、在宅医療連携病床としての役割も果たし、地域医療に貢献している。

地域包括ケア病棟の6カ月累計の実績は、在宅復帰率84.6%、看護必要度32.8%、リハビリ単位数2.3単位/日であり、施設基準を満たしている。さらに、各診療科担当医、リハビリ科、病棟看護師の尽力により、平均稼働率92.3%、6西平均在院日数16.4日という実績を得ることができた。

診療科別では、6カ月累計患者数は整形外科89人、循環器内科62人、総合内科48人、神経内科34

人、脊椎外科32人の順であった。疾患別では、気道感染症、筋骨格系疾患、尿路感染症が多く、脳血管障害、循環器疾患がそれに続いていた。

ご自宅の生活を見直し、薬剤科による服薬指導、栄養科による栄養指導、病棟看護師や理学療法士による病棟ケア指導に加え、医療ソーシャルワーカーによる介護サービスの調整も行っている。

在宅医療連携病床

在宅医療との連携強化のため、平成25年3月在宅医療連携病床を旧8階西病棟に開設した。

当初板橋区のみで連携開始、6月新施設移転後に9階西病棟で二次医療圏の在宅医療機関に連携を拡大し在宅療養患者を受け入れている。

平成27年7月から7階西病棟に、平成28年7月から6階西病棟に移動している。

主に東京都区西北部（板橋区、豊島区、北区、練馬区）の在宅医療機関と訪問診療を受ける在宅療養患者を医療連携室にて登録・管理している。連携医作成の患者登録シートと診療情報提供書は電子カルテに取り込み情報共有している。

連携医の希望を受け、数日～最大2週間（14泊15日）の入院期間で、原疾患の病状評価や、レスパイトを行っている。入院は予約制で、レントゲン、心電図、血液検査や、病状評価に必要な画像検査などで精査し、院内の専門診療科受診により今後の治療方針を検討している。

持参薬使用を原則とするが、投薬調整や減薬も行っている。

<平成28年度実績>

在宅登録医療機関数：98か所

登録患者数：164名（死亡43名、転出4名除く）

入院患者数：のべ52名（実質44名）

転帰：のべ45名自宅退院

（特養1名・老人ホーム1名含む）

4名転科（整形外科1名、神経内科3名）

1名転院、2名死亡

3 研修・教育活動、その他

総合診療科では、毎週水曜に感染症内科と合同で入院患者の治療方針について臨床カンファレンスを行い、研修医に対して高齢者医療の学びの場としている。

在宅医療連携病床では、顔の見える地域連携を目指しており、板橋区医師会「サバイバーシップ研究会」、板橋区在宅呼吸ケア研究会、としま医介連などに砂川が参加している。

1 人員体制

常勤として土田真吏奈、伊賀祥子、後期研修医として東京医科歯科大学からの医局派遣で佐藤元彦、今井陽一が勤務。

2 診療活動・実績

(1) 外来

専門外来 杉原 月曜午前午後、水曜日午前午後、金曜日午前、伊賀 祥子 火曜日午前午後、土田 木曜日午前午後、非常勤として松本 火曜日午前午後、稲垣 金曜日午前午後

例年と変わりなく、外来は関節リウマチ、血管炎症候群、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、膠原病関連間質性肺炎が中心。新病院となり65歳未満の患者も増加。関節リウマチの新規患者の獲得は今年度も順調であった。豊島病院との医療連携は今年度も継続し、多くの患者さんを紹介していただいた。

(2) 病棟

膠原病リウマチ科で20床。今年はSLEの紹介が例年より多く、皮膚筋炎関連の間質性肺炎、巨細胞性動脈も多かった。ANCA関連血管炎は例年通りであった。今年度は病欠、後期研修医のローテーションの影響があり、昨年度より人員が不足したため、入院患者数は昨年よりやや少なかったが、重症例が多く、例年より多忙であった。

3 研修・教育活動

当院は日本リウマチ学会の教育指定病院。杉原は日本リウマチ学会認定指導医、評議員。若手医師は日本リウマチ学会での症例報告も含めて発表を推進。毎日担当医と入院症例の診断、治療方針について個別に話し合い、膠原病入院症例についてのカンファレンスは月、木曜日に実施、入院症例の検討を通して文献検索と診断と治療に関連するエビデンスの確認を行った。

1 人員体制

2016年4月より新体制となり2名の常勤医が診療を行った。また非常勤医5名が透析センター、外来の診療および病理診断に当たった。

2 診療活動・実績

(1) 外来

外来は腎臓内科一般、特に高齢者の腎障害を中心に診療を行っている。腎炎・血管炎にも力を入れ、紹介をいただいている。また膠原病腎症特設外来として膠原病に合併する腎症に対する専門外来を継続している。

透析センター(17床)は、平成27年度常勤医の退職に伴い外来維持透析業務を月水金クールのみと縮小していたが、平成28年度より火木土クール午前を再開した。それにより患者数の増加がみられている。今後スタッフの確保の目途が立ったため火木土の午後枠も増設予定である。治療法はHD、ECUM、OHDF、オフラインHDF、CHDF、血漿交換、吸着療法及び関連診療として血管再生・末梢血幹細胞移植のためのリンパ球分離である。

また外来透析患者の質的向上を目指しフットケア回診、フレイル・栄養評価を開始した。今後、運動療法を取り入れる予定である。

(2) 病棟

病棟診療(10床)においては、リツキサン治療と腎生検入院のクリニカルパスを作成し、稼働を開始した。腎生検は他科依頼の症例に対しても施行し検体採取のみにとどまらず、当院病理診断科および日本医大病理診断学清水章教授を交え組織診断まで首尾一貫して行っている。また腎機能検査(イヌリンクリアランス検査)入院や腎不全保存期教育入院も行っている。血液透析導入(43例)および維持透析患者の合併症による入院も行っている。平成28年度の病床利用率は96.4%と前年度の53.7%を大きく上回った。

3 研修・教育活動

病棟カンファレンスを週1回、透析カンファレンスを週1回、腎病理カンファレンスを月1回、透析部門スタッフ対象の透析診療セミナーは週1回行っている。初期研修医に対する内科学会地方会発表など教育活動にも力を入れた。実習生・見学生(4名)の受け入れを行った。

1 人員体制

糖尿病・代謝・内分泌内科は常勤5名（荒木厚、森聖二郎、千葉優子、田村嘉章、小寺玲美）とシニアレジデント1名（山岡巧弥）で9階西病棟26床を担当した。坪井由紀先生は7月より大分の病院に移動した。小寺先生が糖尿病専門医となり、糖尿病専門医は6名、糖尿病指導医は5名となった。

外来部門では上記医師7名の他に、理事長の井藤英喜先生、非常勤専門医師の服部明德先生、浅海直先生によって診療を行った。

2 診療活動・実績

[入院] 糖尿病・代謝・内分泌内科の病棟は9階西病棟で26床から21床に減らし、歯科・口腔外科、腎臓内科と共同で病棟の運営を行った。当科は糖尿病、脂質異常症、骨粗鬆症、内分泌疾患、低血糖などの患者を担当している。入院患者数は新規268人と転入患者数(救急)259人の計527人となり、昨年度より減少したが、スタッフの1人当たりの受け入れ患者数は89.1人から105.4人と増加した。転入込みの在院日数も15.9日から16.2日と同様であった。病床利用率も112.5%と昨年と同様、高値であった。

当科は医師、看護師、栄養士、薬剤師などのチーム医療による糖尿病教育と治療を行っている。入院患者の医師による糖尿病教室は毎週月曜日の午後に行われている。糖尿病合併症評価パス入院も年間24件であった。週2回が多職種による退院支援カンファなどにより在院日数を短縮することができた。

診療内容に関しては、外来患者における合併症評価もかねて、フレイル外来を利用し、認知機能やフレイルの評価を行っている。高齢者糖尿病におけるフレイルを評価することは高齢者総合機能評価（CGA）を行うことでもあり、医療の質の向上につながっていると考えられる。入院でも、詳細な認知機能、ADL、社会的状況などのCGAの情報に基づいてカンファレンスを行い、2型糖尿病患者のインスリン離脱、治療の単純化、ポリファーマシー対策、心身機能の進行予防対策を講じるなど特徴のある治療を行っている。

また、持続血糖モニター（CGM）によって、無自覚低血糖や血糖の変動性を評価しながら薬物の選択を行っている。インスリンポンプによる治療（CSII）も継続している。

[外来] 外来患者数は1日65.5人、初診算定患者数180人であった。透析予防外来は年間45人であり、医師、栄養士、看護師による集約的な腎症進行予防の指導が行われた。フットケア外来も年間511人であった。

[患者教育・患者会活動] 医師、看護師、栄養士、薬剤師、検査技師、事務部門が協力し、糖尿病患者を対象に糖尿病教室を年3回開催した。

糖尿病の患者会活動にも力を入れており、育寿会をサポートし、糖尿病教室、バス旅行などの活動を行なった。また、運動指導士の小池日登美さんや松木重村さんの協力のもと、年2回のノルディックウォーキングの会や運動教室（月1回）も開催した。

3 研修・教育活動

糖尿病・代謝・内分泌内科は毎週月曜日の午後5時30分より臨床カンファレンスを行い、患者の治療方針の詳細な検討とレジデント教育を行っている。毎週金曜日の午前時30分より最新の英語論文のジャーナルクラブ、水曜日の午前8時30分からADAの糖尿病の教科書のジャーナルクラブを行っている。

院内の職員の糖尿病教育および糖尿病療養指導士（J-CDE）の受験対策のために、「糖尿病療養指導のための勉強会」を糖尿病認定看護師の小林美奈子と当科医師が担当し、3回開催した。

J-CDEの数は着実に増えて18名となり、今後糖尿病の教育体制の充実が期待される。

4 その他

世界糖尿病デー行事として、11月11日午前に糖尿病相談、血糖測定を多職種で行い、約40名が参加した。11月19日にはノルディックウォーキングの会を開催した。

[論文査読] 以下の論文の査読を行った。（森聖二郎）Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, Geriatrics and Gerontology International, Biomedical Genetics and Genomics, Journal of American Geriatric Society, Journal of Diabetes Research, 日本臨床栄養学会雑誌、（荒木厚）Geriatrics and Gerontology International, Journal of Diabetes Investigation, Geriatric Medicine, 糖尿病。

1 人員体制

〈副院長〉原田和昌
 〈部長〉藤本 肇
 〈専門部長〉坪光雄介、武田和大、石川譲治
 〈医長〉石山泰三、田中 旬、青山里恵
 〈常勤〉杉江光正、十菱千尋、大川庭熙、根本佳子、
 鳥羽梓弓、斎藤義弘
 〈非常勤医師〉安 佐里、桑島 巖、鈴木康子、
 山本 文、鈴木 歩
 〈研修医〉両角 愛、二見崇太郎

平成29年4月より石川譲治医師が専門部長となり、新しい常勤スタッフとして青山里恵医長・村田哲平医師が就任した。5階東病棟を心臓外科・呼吸器外科と循環器内科の混合病棟、5階西病棟を循環器内科専門病棟として診療している。集中治療室と併せると60床近い病床を循環器内科で使用し、病床稼働率も年間通じて80%強と多くの入院患者の診療を行った。日本循環器学会教育施設・日本心血管インターベンション学会研修施設という教育施設認定を受け、東京都CCUネットワークに参加し特に大動脈スーパーネットワークの支援施設の認定を受けている。人員を充実させ、救急患者の受け入れによるさらなる病床稼働率の向上・早期退院を目指している。また経皮的動脈弁留置術の施設認定を受け、心臓外科・麻酔科などの協力を得て、平成28年12月に第一例の手術を施行した。

2 診療活動

[1] 外来

	H27	H28	対前年	対前年比
延外来患者数	31,172	32,556	+1,384	104.4%
初診外来患者数	787	730	-57	92.8%
再診外来患者数	30,385	31,826	+941	104.7%
1日平均外来患者数	128.3	134.0	+5.7	104.4%

ここ数年、初診外来患者数が減少し、再診外来患者数が増加する傾向にある。初診患者を増やす一方、状態が安定した患者の逆紹介を促進していく必要がある。

[2] 入院

	H27	H28	対前年	対前年比
延入院患者数	21,834	23,153	+1,319	106.0%
新入院患者数	1,112	1,151	+39	103.5%
退院患者数	1,399	1,436	+37	102.6%
平均在院日数	16.3	16.8	+0.5	103.1%

病院移転前後に入院規制した影響もあり、入院患者数は前年度より減少した。今後在院日数を短縮しつつ病床稼働率を維持向上させなければならず、救急患者の積極的受け入れとパス入院の推進が重要と考えられる。

主な検査・治療件数は心臓カテーテル検査635件、カテーテルインターベンション治療227件、ペースメーカー植え込み手術58件、電気生理検査11件、カテーテルアブレーション術8件であった。特にカテーテルインターベンションは前年より10%以上増加したが、これはロータブレードを用い高度石灰化病変への治療、左主幹部・多枝病変を有しながらやむを得ず外科手術を受けることができない症例に対して積極的にカテーテル治療を施行した結果と考えられる。

3 研修・教育活動

毎朝8時よりCCUで症例検討カンファを行い、月曜17時30分からクリニカル・カンファ、ジャーナル・クラブを、水曜17時よりカテーテル・カンファを開いている。また学会・研究会での発表が非常に多いが、必ず発表前にカンファの場で予行を行い、全員の目で発表内容を検討するようにしている。

1 人員体制

平成28年4月から、杉崎緑医師、濱谷広頌医師の2名を新たに常勤医として迎える一方、平成27年度を年間通じて支えた臼杵智江美医師、佐塚まなみ医師が専攻医として残留し、研修を継続することになった。結果、常勤医4名（山本、山田浩和専門部長、杉崎医師、濱谷医師）、専攻医2名での新たな船出となった。

外来では、平成27年度と同様に山本が週6コマ、山田専門部長が週3コマの外来を引き続き担当した。新任の杉崎医師が週1コマの外来を担当することになった。このほか片岡愛医師が月曜午前の1コマ、村野陽子医師が火曜日午前午後計2コマ、臼井裕医師が水曜日午前1コマ、齋藤朗医師が金曜日午前午後2コマ、望月英明医師が金曜日午後1コマの外来をそれぞれ継続して担当した。片岡医師、村野医師は水曜日午前の気管支鏡検査にも参加し、検査の安全・迅速な進行と後進の教育に協力してくれた。

平成28年度は病棟担当医4名体制となり、7月1日からは病床数をこれまでの16床から30床に増床して入院患者の受け入れを推進した。しかし、7月下旬以降、常勤医、非常勤医の相次ぐ離脱があり、業態の縮小もやむを得ない状況となった。病床を共有する総合診療科・感染症科（増田義重部長）の先生方には、これまでと同様、緊急入院症例を中心に入院患者のご担当をお願いすることとなり、また、他の内科系診療科の先生方にも、肺炎症例を中心に多くの患者様を御診療いただいた。この場を借りて深謝する。

2 診療活動・実績

平成28年度退院（転科を含む）症例646例のうち緊急入院は35.5%を占め、平成27年度より8.2%上昇した。死亡退院は50例で、剖検ありが4例、剖検なしが46例であった。死亡退院は全退院の7.7%であり、平成27年度の3.9%より大幅に増加したが、緊急入院症例の増加がその一因として挙げられる。緊急入院症例の増加を背景として、平均在院日数は昨年度より延長し、18.4日（△4.7日）となった。病床利用率は111.8%であり、昨年度の139.3%と比較して大幅に低下したが、年度途中で病床数を30床に増床した兼ね合いもある。入院患者の平均年齢は79.0歳で、全体の62.7%が男性であった。

気管支鏡検査台帳に基づく、平成28年度の気管支鏡検査施行症例数（病棟実施実績分を含む）は

161例で、昨年度の185例をわずかに下回った（▼24例）。このうち、99例でTBLB/TBBが、17例でEBUS-TBNAが施行されていた。入院患者の疾患内訳は下記の通りであった。肺癌症例が昨年度348例と比較して大幅に減少（▼155例）しているが、外来化学療法施行症例の大幅な増加が背景にあると分析している。

原発性肺癌	193
神経内分泌癌	77
腺癌	59
扁平上皮癌	39
大細胞癌	0
非小細胞癌・組織型不明	15
原発性肺癌の疑い	57
胸膜中皮腫	15
悪性リンパ腫	1
COPD	164
間質性肺炎	73
気腫合併肺線維症	33
気管支喘息	20
肺結核症	7
慢性呼吸不全	33
肺炎・気管支肺炎・気管支炎	90
肺膿瘍・肺化膿症	8
非結核性抗酸菌症	7
気管支拡張症	8
肺真菌症	7
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症／真菌症	2
気胸	15
膿胸	3
胸水貯留	27
放射線肺臓炎	1
肺動脈血栓塞栓症	1
睡眠時無呼吸症候群	5
肺胞出血	1
じん肺症	2

上記のとおり病棟担当医が減少したものの、平成27年度は初診枠を削減せず対応した。一日平均の初診料算定外来患者数は1.1人→1.0人とほぼ同水準であったが、一日平均外来患者数は43.3/日（△2.7名/日）と増加していた。一昨年度と比較しても△6.2名/日であり、再来患者実数が2年続きで増加していたことを示している。

平成26年10月からスタートした、医師事務作業

補助者による事前問診が軌道に乗り、急ぎの受診が必要な患者を拾い上げることや、外来初診担当医の負担軽減、予約待ち日数の短縮に大きく貢献した。

平成28年度も東大呼吸器外科の中島淳教授が週1回の外来診療を継続された。常勤医の日野春秋医長は原発性肺癌の診断・治療、難治性気胸の治療、診断困難な胸膜疾患の診断等にたいへんご尽力いただいた。放射線治療科の山川通隆部長にも、例年どおり根治的胸部放射線照射や骨転移に対する緩和的放射線照射、脳転移に対する全脳照射等でご尽力いただいた。脳転移症例の一部は脳神経外科のご協力を仰ぎ、症状コントロールや全脳照射、γナイフ（東大病院や日赤医療センターへの依頼）などでご加療いただいた。

高齢者肺癌に対する治療は「ドライバー変異」「バイオマーカー」をキーワードに大きく飛躍した1年となった。分子標的治療については、上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤（gefitinib、erlotinib、afatinib）のほか、血管内皮細胞増殖因子モノクローナル抗体（bevacizumab、ramucirumab）を用いた治療も症例を選んで行った。また、従来のチロシンキナーゼ阻害剤に対して耐性遺伝子T790Mを発現した症例には、第3世代のチロシンキナーゼ阻害剤osimerutinibが選択可能となり、多くの患者様がその恩恵を受けることとなった。さらには、免疫チェックポイント阻害剤のnivolumabやpembrolizumabも使用可能となった。適応に深慮が必要なものの、高齢者のADL、QOLを損ないにくい新たな治療選択肢として、今後適応症例は増えていくと思われる。免疫関連有害事象という新たな難題への対応に、院内規模での協力体制を構築することが喫緊の課題である。

9階東病棟では症例に応じて退院支援カンファを行っている。本カンファには、医師、看護師、MSW、医事課、薬剤科、栄養科の各担当者、臨床心理士も合同で意見を交え、退院へ向けての積極的な方向付けを行っている。また、症例を選んで、いわゆるdeath conferenceも行った。在宅酸素療法指導管理、在宅持続陽圧呼吸療法指導管理を行っている患者数はおよそ100名前後で推移している。

3 研修・教育活動

症例検討会：毎週火曜日17:00-

退院支援カンファ：症例に応じ適宜

呼吸器病理示説：年3回

病理診断科と合同で、気管支鏡検査の生検検体や手術検体に関して、病理組織検討会を開催した。

外部講習会：

①臨床呼吸機能講習会（平成27年8月24日～8月26日、岡山、濱谷医師）

②結核・非結核性抗酸菌症の画像と病理 出版記念講演（平成28年10月1日、東京、濱谷医師、佐塚医師）

（文責：山本寛）

1 人員体制

〈部長〉上垣佐登子
 〈専門部長〉佐々木美奈
 〈常勤〉潮靖子、松岡順子、剛崎有加
 〈非常勤〉野口三四朗、秦弘恵
 〈研修医〉シニア：藤井悠子、武村拓哉
 ジュニア：萩原蓉子、橋靖子、
 石滝公一、橋爪貴史、
 塩満恵子、籠尾南海夫、
 池田久美、三原現、
 水上翔太、原田丈太郎

消化器内科と内視鏡科は、昨年より8階西病棟の37床と8階東病棟の18床の計55床を担当している。

常勤医師として佐々木医師、潮医師、松岡医師、剛崎医師、上垣、内視鏡科の西村医師と松川医師を中心に外来・病棟業務を行った。1月で松岡医師と剛崎医師が退職され、非常勤医師となった。

後期研修医では、本年度から、当科の後期研修医として武村医師が加わった。

初期研修医は、合計10人の先生が、2カ月毎のローテーションで当科を研修された。

後期研修医の藤井医師、武村医師も上級医のもと、病棟業務だけでなく外来業務も行った。

初期研修医では、多くの研修医の先生方には病棟を中心に活躍いただいた。

検査の面では、水曜日に野口医師、また金曜日には秦医師に検査を手伝っていただいた。

2 診療活動・実績

外来業務は、月曜日に松川医師、剛崎医師、上垣、火曜日に西村医師と藤井医師、水曜日に佐々木医師と潮医師、木曜日に佐々木医師と上垣、金曜日に西村医師と松岡医師と、各曜日の外来体制で行った。その他、胃癌大腸癌検診で2次検診希望の方のための外来なども行った。医師数の減少もあったが、外来患者数も増加傾向となった。

病棟での診療業務は、昨年の病床の増加から9カ月経過し安定した運営が可能となってきた。さらに検査数も増えた。

月曜～水曜日を内視鏡下粘膜下層剥離術の処置日とし、その他超音波内視鏡下穿刺術や逆行性内視鏡下膵胆管造影術は症例ごとにflexibleに1週間を通じて行い、適切な治療方針を検討し加療につなげている。ラジオ波焼灼療法や肝生検は、病棟

の処置室で水曜日を中心に行った。

当院では高齢者の方も負担なく大腸内視鏡検査がうけられるように、ご希望に応じて外来でも入院でも対応可能としている。鎮静下での内視鏡検査も増加しているため、7月から鎮静下上部内視鏡検査の一部を、外来で行えるようになった。年齢制限を設けながら、安全で負担が少ない検査をめざしている。

疾患の内訳としては胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌等を含めた悪性腫瘍の治療の一方、胆道感染症、イレウス、出血性病変による吐下血などの緊急対応の必要な患者が多い状況は変わらなかった。

年間で、下部内視鏡検査のなかで、病棟における大腸内視鏡検査のクリニカルパスは昨年より200例ほど増加し約900例と約半数を占めた。上部消化管出血に対しては、必要に応じて止血術を行っている。上下部の内視鏡下粘膜下層剥離術もさらに増加し、パスでの対応も安全に行っている。

胆道感染症も多く、緊急での逆行性内視鏡下膵胆管造影術も多かったが、こちらも昨年パスの導入後、病棟として迅速な対応が浸透した。総胆管結石に対して採石を行うとともに、悪性腫瘍での閉塞性黄疸に対しては金属ステント留置を行っている。引き続き、総胆管結石に対してもスムーズな治療を行っている。

肝臓癌に対しては、腹部超音波室の協力のもと造影超音波検査を日常行える体制をとるとともに、血管造影術下での塞栓療法及び動注療法、ラジオ波による焼灼などを行った。

内視鏡治療を中心に、高齢者に対して負担が少ない治療を行えるよう、協力している。入院患者数の増加により、効率的に入院日数を短縮し対応しているが、平均在院日数は約7日で高い回転率での運営を継続している。

3 研修・教育活動

検査・手技が多い当科では、マンパワーが必要な処置もあり協力して検査を行ってきた。毎週カンファランスを行い、症例の共有を行っている。実際に検査に参加することでの技術の向上の他、各々他の大学や施設に学びに行かせていただいている。

内視鏡検査・処置に関しては、当院でかなりの内容が学ぶことが可能となった。研修医でも検査・処置と一緒に学べ、また常勤医でも手技の上達を目指せるよう、さらなる環境づくりを引き続き行っていきたい。

1 人員体制

平成28年度は、常勤医として、村山、金丸、仁科、仙石、金田、江口（9月まで。10月から外来非常勤）、東原、本山、山崎（10月から）、広吉、また、兼任で砂川（在宅診療部）、石井、石橋（PETセンター）、その他、外来非常勤（森本、神経心理：武田、てんかん：松平）が臨床体制を敷いた。その他後期研修医1名、前期研修医1-2名の体制で、常勤の神経学会専門医は9人体制である。神経変性疾患から脳梗塞まで、幅広い専門的な対応が可能となっている。

2 診療活動・実績

病棟：10階西病棟37床、10階東病棟14床の合計51床。脳梗塞超急性期のtPA治療等は集中治療室で診療している。脳卒中ユニットは脳神経外科とともに運営し、24時間対応で急性期脳卒中診療を行うとともに、リハビリ科との協力により急性期リハビリにも積極的に取り組んでいる。慢性期脳梗塞再発予防治療として、抗血小板剤や脳塞栓に対する抗凝固療法を行っている。平成28年度の入院患者総数は710人、初診外来患者数は875人である。入院では脳梗塞など脳卒中急性期が多く268人、うちtPA治療は23人で行っている。神経変性疾患ではパーキンソン病および関連疾患が多く（パーキンソン病 66人）、パーキンソン検査パス入院を設けている。また、アルツハイマー病などの変性型認知症には認知症入院パスを設けている（アルツハイマー型認知症 93人）。今年度も神経難病のレスパイト入院を継続した。胃瘻チューブ交換短期入院パスも継続した。神経・筋疾患については、電気生理学的検査・適応決定の上生検を行っている。肺炎・尿路感染症・脱水症などの内科疾患にも対応している。病棟では、毎朝のモーニングカンファ、月曜日問題症例回診、水曜日研修医回診、金曜日新患回診を行い、問題症例は週1回の症例カンファで討論している（村山）。

外来：神経内科外来は予約制であり、月曜日から金曜日まで常勤スタッフおよび石井、石橋（研究所神経画像研究チーム）、吉野（吉野内科クリニック）、森本が、初診・再来患者診療を行った。救急対応は、救急外来、また、毎日設けている神経内科外来予約外診療（予約新患にも対応）にて行っている。毎週月（村山）、金（金田）、水曜日午後（交代制）には“物忘れ外来”も担当。また、てんかん外来（松平）、神経心理外来（武田）も開

設した。その他、眼瞼痙攣を対象にボツリヌス治療を行っている（金丸）。神経心理検査は常勤（小幡）・非常勤（瀬川）心理士が対応している。

検査：筋電図、末梢神経伝導速度、誘発電位など電気生理学的検査（東原）、神経・筋生検（仁科（裕））、匂い検査・皮膚生検（仙石）、頸部ドップラー（本山）、脳脊髄液バイオマーカー検査（tau、Aβ42）（金丸）を行っている。神経・筋はバイオリソースセンター組織リソース、脳脊髄液はバイオマーカーリソースとして蓄積を継続している（平成28年度、髄液検体数 224）。病理診断は神経病理専門医（村山）が行っている。

放射線検査として、CTおよびMRIが24時間対応可能で、神経放射線専門医が対応している。問題症例は、研究所に依頼しPET検査を積極的に行っている（石井・石橋）。

死亡患者の剖検許可をご遺族より得て高齢者ブレインバンクに登録することに加え、生前同意を得る努力も行っており、臨床・画像・病理関連に基づき、診療に生かす努力を高齢者ブレインバンク・バイオバンクプロジェクトとして行っている（村山）。

在宅診療：板橋区医師会神経難病の在宅往診診療を行っている（金丸）。

3 研修・教育・研究活動

検討会：毎日朝8時30分より、夜間当直時間帯に入院した脳卒中急性期を含む救急入院症例の検討を行っている。神経内科入院中の問題症例については、毎週火曜日に症例検討会を行い診断および治療方針の検討を行っている。死亡例については、高齢者ブレインバンクと共同でブレインカッティングおよび臨床病理検討会（CPC）を行い診療レベルの向上に努めている。また、月1回、精神科・放射線科・リハビリテーション科と合同で物忘れカンファを行っている。脳卒中患者の治療には、発症早期にリハビリテーション科に依頼しリハビリテーションを導入、リハビリ科との検討会を定期的に行い、リハビリ継続が必要なケースは積極的にリハビリ科転科をすすめ、ADL・QOLの改善を目指している。また、板橋区医師会の共催を得て、当センター神経内科・脳卒中科セミナーを開催し、病診連携への貢献も継続している。

学会発表：国内学会として、神経学会総会・関東地方会、神経病理学会総会・関東地方会、Neuromuscular Conference、Spinal Cord Club、脳卒中学会、認知症学会、自律神経学会、パーキ

ンソン病・運動障害疾患 kongress に発表を行っている。

国際学会として、American Academy of Neurology, International Parkinson and Movement Disorder Society, American Association of Neuropathologists, Alzheimer Association International Conference に発表を行っている。

またオールジャパン研究として、JALPAC, JAMSAC, AMED プレクリニカル (アルツハイマー病), プリオン病サーベイランスに協力している。

1 人員体制

〈血液内科部長〉宮腰重三郎
 〈血液内科医長〉小倉和外
 〈血液内科 移植コーディネーター〉赤川順子
 〈輸血細胞療法科部長 血液内科専門部長〉
 小林寿美子

2017年4月より輸血細胞療法科部長 血液専門部長として小林寿美子医師が、退職した小島理絵医師の後任として着任した。

血液内科は主に血液造血組織に関する疾患を扱っている。病床数は完全無菌室36床、例年通り入院患者の90%以上が血液疾患症例であり、このうち約半数が急性骨髄性白血病を中心とした急性白血病と骨髄異形成症候群で、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫がこれに続いた。これらの疾患に対して化学療法を中心とした治療を実施した。

2 診療活動・実績

〈外来〉延べ外来患者数、初診症例は昨年と同様であった。造血幹細胞移植目的での紹介が増加し、セカンドオピニオン外来も昨年と同様であった。紹介患者の大部分は区西北部医療圏の地域連携での患者である。大学病院など公的病院、一般病院での高齢者血液悪性疾患患者の受け入れは十分といえず、当科が受け皿となっているのが現状は例年と変わりはない。

〈入院〉前年度に比較し、延べ入院患者数、病床利用率は昨年と同様であったが、前年14例であった移植件数は増加し、計21例非血縁者間臍帯血移植12例、血縁者間骨髄移植5例、血縁者間末梢血幹細胞移植2例と自己末梢血幹細胞移植2例であった。多剤耐性菌のブレイクスルーがないように細心の注意を払い、ブレイクスルーは認めなかった。新施設は11階西病棟に36床の無菌病室（管理加算-1:3000点/日対応 14個室、管理加算-2:2000点/日 対応の多床室22ベッド）病院情報局による骨髄異形成症候群の症例数別ランキングでは全国5位であった。

また、2017年1月に骨髄バンク認定採取病院になり、さらに2017年4月日本造血細胞移植学会認定の移植認定病院となった。このことにより非血縁者間臍帯血移植以外にも骨髄バンクからの骨髄移植や末梢血幹細胞移植が可能となった。

3 研修・教育活動

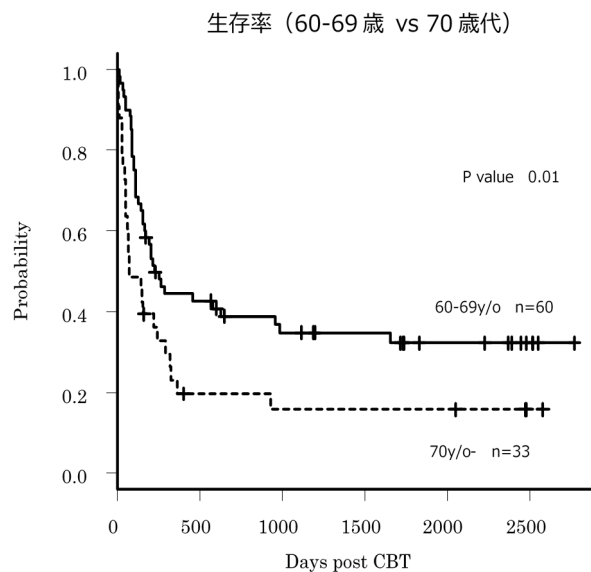
例年と同様に新臨床研修制度を充実させるため、骨髄標本読み会を通して、血液疾患に対する理解を深めている。特に骨髄標本読み会においては、大型モニターを利用し、同時に多くの先生とディスカッションできるように工夫をしている。血液悪性疾患の治療にはコメディカルの協力が不可欠である。このため血液疾患の特性、治療上の留意点など、さらに理解を深めてもらうため定期的に病棟カンファランスを開催している。病棟薬剤師、栄養士の方々も参加してもらった。血液悪性疾患についてのカンファランスを行った。

高齢者血液疾患や高齢者移植の講演を精力的に行った。

研究面では、高齢者血液悪性疾患に対する造血幹細胞移植の安全性確立に関して、移植後合併症をいかに減少させるかに注力し、その成果を回答で発表した。さらに世界で最も注目されているがんワクチン(WT-1ワクチン)の全国研究に参加し、その成果をアメリカ血液学会にて報告した。

図1に65-69歳までの臍帯血移植の当科での生存率を示す。若年層と比較して遜色のないデータとなっている。また70歳代の移植成績も向上してきている。

図1：65歳から69歳と70歳代の臍帯血移植全生存率



1 人員体制

今年度の科の運営に関与した医師は、常勤医：増田義重部長、岩切理歌専門部長（2016年10月1日昇任）、常勤医：板倉泰朋（2017年3月31日退職）、研修医：白石朋敬、原田丈太郎、宮一佑衣、高木美貴、石滝公一、塩満恵子、池田久美が科の運営に協力した。地域包括ケア病棟が2016年10月1日から、6西病棟に開設され、岩切理歌専門部長が担当した。在宅医療連携病床（6西病棟）は砂川昌子医長が担当した（別掲）。

2 診療活動・実績

平成28年度、総合診療科は、9東病棟38床を呼吸器内科、感染症内科と共に運用。内科外来の運営を行った。

1年間で入院患者は転科例を含めて306名で、発熱を主訴とする緊急入院患者が多く、各種感染症149例（呼吸器91、尿路22、インフルエンザ等6、消化管5、皮膚・軟部組織・骨・関節9、敗血症12、結核4）であった。また、種々の内科系入院が47例、呼吸器系疾患49例、消化器系疾患23例、神経系疾患18例、骨・関節疾患13例、循環器系疾患7例であった。死亡16例（剖検3例）であった。

外来業務として、感染症外来4単位、内科外来1単位を担当した。

インフルエンザ流行期は、内科系・外科系の順で個室を利用し、インフルエンザ患者の入院に対応した。担当は入院病棟の医師にお願いした（外科系病棟は後期研修医に持ち回りで担当医をお願いした）。混乱はなく運用可能であった。職員の感染予防のためインフルエンザの予防接種を積極的に行った。また板橋看護学校の学生に対する予防接種にも協力した。外来患者に対しても、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンの予防接種を行った。

病院全体の院内感染対策に取り組んでいるが、特定感染症予防対策委員会、感染症対策小委員会の運営を担っている。新施設移転後は、電子カルテを利用して、血液培養陽性に対しては原則全例診療録に所見を記載し、担当医の診療の一助となるように努めた。また、週一回の血液培養陽性例、抗菌薬の長期投与例、コンサルト例を中心とした全病棟のICT回診を行うほか、症例の相談に応じながら、院内感染対策、適正抗菌薬使用の知識普及に努めた。新施設移転後は、クロストリジウム・デフィシル腸炎は明らかに減少した。ウェルシュ菌による散発下痢症の流行が見られ、対応を行っ

た。

1 人員体制

〈部長〉古田 光

〈常勤医員〉筒井卓美、松本健二、久保田真由、松井仁美、市橋雅典

〈非常勤医員〉筒井啓太

〈シニアレジデント〉酒井遼

〈臨床心理士〉

〈常勤〉扇澤史子、岡本一枝、今村陽子

〈非常勤〉市川幸子、城明日香、高岡陽子、竹部裕香、西垣綾峰

〈作業療法士〉〈非常勤〉駒井由紀子

今年度は自治医科大学埼玉医療センターからの派遣医師1名およびシニアレジデント1名が勤務し、7名での診療体制と今までにない人的に充実した1年であった。引き続き、医師としては古田光、筒井卓実、松井仁美、市橋雅典が勤務を継続した。2016年4月古田光が部長に昇進した。2016年3月末で山邊義彬医師が退職（都立広尾病院に赴任）し、2016年4月より久保田真由医師が東京医科歯科大学の医局より派遣され勤務を開始した。同4月より自治医科大学埼玉医療センターの派遣で松本健二医師が赴任、当科常勤医師として2017年3月末まで勤務した。シニアレジデントとして酒井遼医師が2016年4月～2017年3月当科で研修を行った。2017年3月末非常勤医師筒井啓太が退職した。

例年通り、院内初期臨床研修医計8名（阿部吉倫、五十嵐健史、武斯斌、橋靖子、常吉沙帆理、豊田仁志、萩原蓉子、森下良志）が豊島病院神経科の協力を得て、精神科で研修を行った。また、2016年8月～10月豊島病院シニアレジデント糸日谷佑医師が当科で研修を行った。

2017年3月末長年病棟レクリエーションの運営をしてくださっていた作業療法士駒井由紀子氏が退職した。2016年4月臨床心理士岡本一枝が産休から復職した。2017年3月末非常勤心理士竹部裕香が退職した。

2 診療活動・実績

〔1〕外来

常勤医6名+シニアレジデント1名で外来診療にあたった。総初診患者数は再初診も含め計499名、平均年齢は78.4±9.8歳（32-97歳）であった。（男性154名、平均年齢75.8±11.3歳；女性345名、平均年齢79.6±8.8歳） 外来初診患者の初診時主診断ではICD-10分類で、F0（認知症・せん妄を含む器質

性精神疾患）が56.3%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）1.6%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）5.4%、F3（うつ病など気分障害）16.8%、F4（身体表現性障害、適応障害などの神経症圏）12.4%、F5（不眠症や摂食障害等）3.0%、F6（パーソナリティ障害）0.2%、F7・F8（精神遅滞や発達障害）0.4%、Gコード（てんかんや薬剤性パーキンソンズムなどの神経系の疾患）0.6%であった。器質性精神障害が初診患者の半数以上を占め、気分障害圏、神経症圏、統合失調症圏が次ぐという例年同様の傾向であった。初診時になんらかの認知症疾患の病名があった患者は203名であったが、その内訳はアルツハイマー型認知症が56.5%と最も多く、レビー小体型認知症又はパーキンソン病の認知症が17.8%とこれに次いだ。血管性認知症は7.0%、前頭側頭型認知症は2.6%であった。もの忘れ外来に比べレビー小体型認知症の比率が高い傾向は例年同様であった。他病院からの紹介患者が50.1%と約半数で、院内紹介が18.6%となんらかの紹介のある患者の割合が68.3%であった。初診患者の居住地は板橋区が49.9%と約半数であった。その他は豊島区（9.6%）、練馬区（15.4%）、北区（11.4%）が多く区西北部二次医療圏の患者で86.4%を占め、地域に根付いた精神科となっていることがうかがわれた。区西北部の地域拠点型認知症疾患医療センターに指定されていることも区西北部医療圏の患者が多い一因と考える。

〔2〕入院

定数30床+定数外の保護室2床の閉鎖病棟で、看護基準10：1の体制を継続した。有料個室1室の運用も継続した。

2016年度の新規入院患者はのべ296名で、平均年齢は78.7±8.6歳（36-96歳）であった。（男性112名、平均年齢76.2±9.8歳；女性184名、平均年齢80.2±7.4歳）66.4%が医療保護入院で入院した。退院時主診断のICD-10分類は、F0（認知症・せん妄を含む器質性精神疾患）が59.5%、F1（アルコール依存等精神作用物質による障害）2.0%、F2（妄想性障害を中心とする統合失調症圏）7.8%、F3（うつ病など気分障害）29.7%、F4（身体表現性障害、適応障害などの神経症圏）1.0%と例年通りの傾向であった。認知症性疾患ではアルツハイマー型認知症が75名と最多を占めたが、レビー小体型認知症も65名と多く、血管性認知症は10名、前頭側頭型認知症は5名であった。レビー小体型認知症の入院患者が増加傾向にある。

2016年度の平均在院日数は31.8日と、10:1看護体制で求められる40日を下回った。毎週、医師、看護師、精神保健福祉士、薬剤師、臨床心理士ら多職種での退院支援に向けたカンファを開催するとともに、連携を濃密に行っている結果と考える。「行動制限0」を目指して隔離や拘束の施行については代替策がないかの検討を多職種で密に行い、実際に隔離拘束施行患者が0の日も達成できた。病床利用率は83.9%と2015年度より増加した。ECTの総施行件数は286件であった。

病棟では臨床心理士を中心とした集団回想療法（1回/週）、作業療法士と看護師を中心とした作業療法（2回/月）、ボランティアによる音楽療法（4回/月）、看護師を中心とした「転ばん体操」（研究所に協力してもらいメニューを決めた転倒予防のための筋力アップ体操）（土日祝日も含めほぼ毎日）を継続した。

[3] コンサルテーションリエゾン

■入院中他科コンサルテーションリエゾン
他病棟入院中患者の診察依頼は計279件で患者の平均年齢は75.5±16.2歳（15-102歳）であった。精神科主診断内訳は認知症、せん妄などの器質性精神障害（ICD-10 F0圏）が57.0%と半数以上を占めた。一方、骨髄移植および臍帯血移植前評価、心移植前評価等の移植前評価が約30件あった。病院の機能の変化に伴い、入院中のコンサルト症例の20.4%が64歳以下（6.1%は39歳以下）と、非高齢者の割合が増加傾向であった。

■精神科リエゾンチーム

2016年4月に認知症ケア加算がはじまったこと、精神科医師が2016年度は人的に充実したこと等から精神科リエゾンチームの活動を見直しラウンドを開始した。チームメンバーも変更し、筒井（卓）医師と白取認知症看護認定看護師を中心に、精神科心理士、精神保健福祉士、薬剤師でチームを構成した。2017年7月から週1回緩和ケア病棟を除く全病棟の回診を開始した。チームラウンド時に病棟から相談の上があった患者が回診の主な対象とし、ラウンド開始から2017年3月末までに200名（男性89名、女性111名、平均年齢83.4±9.4歳（45-102歳））の入院患者に対して介入を行った。相談元は病棟看護師が主で、病棟別には11西病棟7例、10東病棟23例、10西病棟15例、9東病棟27例、9西病棟10例、8東病棟7例、8西病棟20例、7東病棟9例、7西病棟20例、6東病棟19例、6西病棟13例、5東病棟15例、5西病棟13例、ICU2例であった。相談内容は、不穏・帰宅関連行動などの活動性の亢進に関するものが163名、過鎮静・食事摂取不良などに関するものが22名、精神科の既往があったことでの相談が4名、その他の相談が11

名だった。面接による暫定診断は認知症/せん妄が170名、うつ病/統合失調症が5名、精神科的診断なしが22名、その他が3名だった。一般の精神科医師診察と有機的に連携し、身体科病棟入院患者の精神科的問題の予防や解決に寄与した。

[4] 緩和ケアチーム

松井医師が緩和ケア担当となり、緩和ケアチームの一員として活動した。

3 研修・教育活動

精神神経学会、老年精神医学会、認知症ケア学会等で医師、コメディカルともに発表を行うとともに、地域医師会や福祉職員、認知症介護者を対象とした勉強会の講師をつとめた。首都大学看護学部学生の実習を病棟および精神科外来・もの忘れ外来で受け入れた。認知症看護認定看護師の実習を病棟・外来で受け入れた。東京都立板橋看護専門学校の精神看護学講義を担当した。認知症支援推進センターの島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業に医師、臨床心理士を派遣した。認知症疾患医療センターとの共催で行動制限最小化委員会の勉強会を2回開催した。

1 人員体制

もの忘れ外来では引き続き精神科・神経内科・研究所の協力態勢で診療を行った。精神科・神経内科常勤医師のほか、研究所社会参加と地域保健研究チーム研究部長藤原佳典医師、研究所自立促進と介護予防研究チーム栗田圭一医師、精神科非常勤筒井啓太医師が外来診療を継続した。

2 診療活動・実績

もの忘れ外来では区西北部二次保健医療圏患者の優先診療を継続した。初診患者（再初診含む）は1056名で、平均年齢 80.1 ± 7.4 歳（43-94歳）であった。（男性347名、平均年齢 79.0 ± 8.1 歳；女性709名、平均年齢 80.7 ± 7.0 歳）。患者居住地域は板橋区59.8%、豊島区12.9%、北区9.8%、練馬区12.2%と区西北部4区在住の患者で94.6%を占めた。他医療機関からの紹介患者は76.9%、院内他科からの依頼は17.7%であった。初診時診断は、正常または正常または健常11.1%、軽度認知障害（MCI）21.1%、アルツハイマー型認知症36.9%、脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症4.1%、血管性認知症7.9%、レビー小体型認知症5.4%、前頭側頭葉変性症1.3%、正常圧水頭症1.2%、アルコール関連認知症0.6%、他の認知症5.2%、認知症以外の精神疾患2.9%、認知症以外の神経疾患0.7%であった。

予約待機期間は、精神科・神経内科ともに診療数を増やすことでかなり短縮し、14～30日程度で推移した。また、認知症専門相談室のトリアージで早急に受診が必要とされた患者は個別での対応を行った。認知症疾患医療センターアウトリーチ事業とも連携した受診調整も行った。

3 その他

2016年度も引き続き東京都認知症疾患医療センター運営事業の委託を受け活動した。患者・家族のサポート事業として、認知症はじめて講座、認知症センター家族交流会、私たちが話そう会、外来回想療法を継続した。教育研修機関として、院内外の医師、看護師、看護学生の外来見学による研修を行った。詳細は認知症疾患医療センターの項を参照されたい。

1 人員体制

〈部長〉齊藤英一
 〈専門部長〉高橋尚子
 〈医師〉加登大介（非常勤）、齊藤由美（非常勤）
 〈臨床心理士〉山下範恵、道家木綿子、小野恵理香
 〈音楽療法士〉進藤雅子
 〈園芸療法士〉近藤範孫

2 診療活動・実績

（1）病棟

12階緩和ケア病棟は年度末には85%の病床利用率に達している。前年度に比べて院内からの転入が10%程度増えている。

また年度途中に一般病棟への緩和科としての入院が承認され、緩和ケア外来通院中の患者の緊急入院へ対応できるようになった。

年度末には9階東病棟に緩和科として5床のベッドが承認された。運用から数か月は肺がん終末期の方を主な対象として開始した。

入院者数

	平成27年度	平成28年度
入院者数	221	232
病床利用率 (%)	71.4	74.0

〈緊急入院と在宅療養支援〉

限られた病床数とスタッフのために、緊急入院は紹介元での対応を原則としているが、緩和ケア外来に定期的に通院していたり緩和ケア病棟の入退院を繰り返している患者については、上記のように緊急対応の体制が整いつつある。

入院中の在宅療養支援や病棟看護師による在宅訪問により、緊急時の相談先や入院先を保障しながら望む場所での療養が支えられた。

また入院審査会を終えているが即座の緩和ケア病棟入院を希望していない待機者が常時100名前後となっている。これらの方々については病棟師長、MSWが協力して定期的な電話相談や必要に応じて外来受診を調整している。

多職種チームケアについては、多職種カンファレンスを定期開催し、リハビリやMSW、栄養士との情報共有に努めると共に、新たに臨床心理士や音楽療法士、園芸療法士が病棟のケアチームに加

わった。

とりわけ臨床心士の増員は病棟、外来、緩和ケアチームでの活動を充実させている。

（2）緩和ケア病棟入院相談外来

相談外来は年度末には月曜から金曜まで拡大した結果、前年度よりも10%ほど増え、相談までの日数も減っている。

同時に入院相談外来は、がん相談支援室と併せて必ずしも入院相談だけの働きだけではなく、今後の過ごし方や療養の場を相談する働きも強めている。さらに入院相談から緩和ケア外来への受診者も増加し、早期からの緩和ケア介入が可能となっている。

院内からの紹介や緩和ケアチームで介入している患者については臨時で相談を持つことで相談までの待ち時間や転棟までの待機日数も縮小した。

ア 緩和ケア病棟入院相談件数

	院内	院外
相談件数	157	488
内受診に至った件数	114	218
未受診	43	270

※未受診理由：患者死亡 概要説明のみ希望
 状態悪化 他院へ入院 本人希望せず など

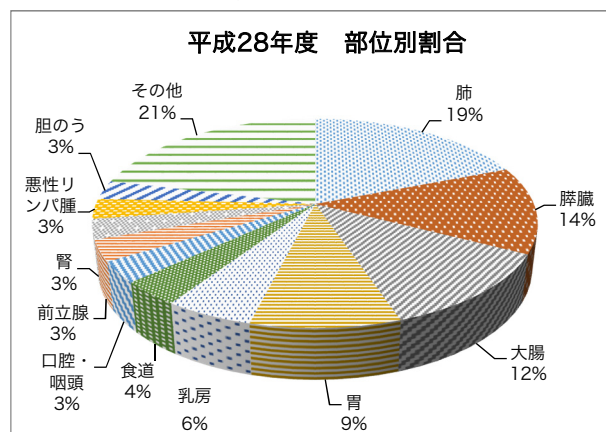
イ 平均待機日数

	院内	院外
申し込み～受診	14.2	17.8
受診～入院	10.3	8.7

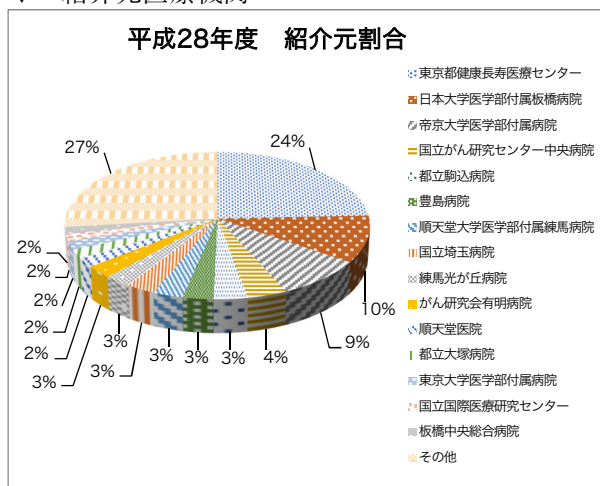
ウ 平均年齢

院内：61.9歳 院外：73.4歳

エ 疾患別相談件数



オ 紹介元医療機関



(3) 緩和ケア内科外来

症状マネジメントと意思決定支援を中心に開いている緩和ケア外来も先に述べたように受診者数が増えている。相談外来で症状マネジメントが必要な患者が緩和ケア外来に繋がったり、抗がん治療中の患者の支持療法や意思決定支援に受診する患者も少なくない。紹介元との連携も緩和ケア外来の大切な働きである。緩和ケア外来に通院している患者の緊急入院や臨時の外来もあった。また緩和ケアチームで介入した患者の退院後の主科受診に合わせて緩和ケア外来での併診も行われている。

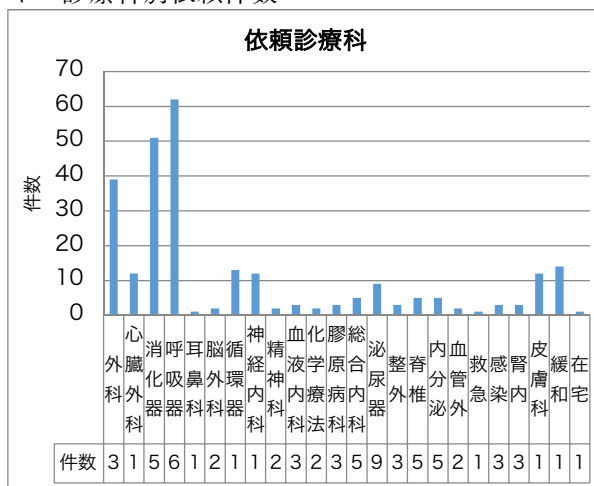
3 緩和ケアチーム

新たに高橋専門部長を迎えて緩和ケアチームの働きが充実したのも大きな変化だった。回診とカンファレンスを定期的に行き、患者家族、病棟看護師、医師、MSWと緩和ケアチームへの依頼を職種や部署を限定しないようにした。相談件数や介入数、またチームからの緩和ケア病棟への転棟数も増加した。

ア 緩和ケアチーム依頼件数

依頼総数	265
がん	221
非がん	44

イ 診療科別依頼件数



ウ 依頼目的

第1依頼目的	件数
症状緩和	166
意思決定支援	14
療養環境調整	54

エ 転記

転記	件数
自宅退院	76
死亡退院	60
転院	14
PCU入棟	72
不変	16
軽快	16
その他	0

4 研修・教育活動

以下を開催した。

(1) 症例検討会（センター全職員を対象）

①平成28年5月25日（水）3階第3会議室A

参加者：34名

テーマ：「子育て世代の患者の看護」

②『虹の会』（遺族会）開催

平成28年10月30日（日）

午前の部、午後の部

参加人数：遺族27組（参加者：37名）

茶話会、主催者からのあいさつ、写真撮影など

(2) 研修医師受け入れ

(3) 次年度開催の緩和ケア研修会の準備委員会の発足

1 人員体制

平成28年度の外科系診療体制は、外科、血管外科、心臓外科、脳神経外科、呼吸器外科、整形外科、脊椎外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科の12科であった。また当然ながら手術を支える麻酔科、中央手術室と密接に連携をとって診療にあたっている。

人事異動

本年度新たに赴任された外科系の先生は（以下敬称略）、平成28年4月、長沼英俊（整形外科）、中里徹矢、高木泰介、根元洋光（外科）、外山琢、高尾博子（眼科）、宮澤理恵子（皮膚科）、三輪好、西尾綾子（耳鼻咽喉科）、梅津（廣瀬）佳代、井上哲（麻酔科）、10月、金子奏一郎（整形外科）、平成29年1月、村田知洋、加藤倫子（心臓外科）の各先生方である。

退職された先生は筑井恵美子（脳神経外科）、和田康宏（整形外科）、伊藤卓也（心臓外科）、中里徹矢（外科）、三輪好（耳鼻咽喉科）、井上哲（麻酔科）の先生方であった。

また外科系の昇任は宮崎剛（整形外科部長）、今野元之（麻酔科医長）の先生方であった。

2 診療活動・実績

当院は従来、高齢者の特性に配慮した医療の充実と重点医療の提供を目指している。新病院への移転後、電子カルテ導入、病棟・病床数の変更、新手術室など、多くの新しい診療体制が導入されたが4年目を迎え、順調に取扱い患者数も増加している。

本年度の中央手術室の利用件数は4683件と昨年度（4307件）より376件増加した。

眼科（2298件）を筆頭に、外科（476件）、泌尿器科（324件）、整形外科（318件）、血管外科（282件）、脳神経外科（147件）、脊椎外科（128件）、心臓外科（118件）、耳鼻咽喉科（70件）、皮膚科（60件）、呼吸器外科（38件）、歯科口腔外科（7件）であり、眼科が331件増と特に目立った他、血管外科、皮膚科も20件以上増加した。

新たな試みとしては、心臓外科で、本年度より大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁治療（TAVI）を導入した。

3 研修・教育活動

平成28年度は、新たに11名の初期研修医を受け

入れた。当センターの初期研修プログラムでは内科研修が主体であるが、外科系各科での研修も行っていただいた。特に初期研修2年目の先生方は眼科、麻酔科、皮膚科、外科、耳鼻科、泌尿器科、整形外科、帝京大学産婦人科、帝京大学外傷センターの内、一つないし複数の診療科での研修を行っていただいた。

院外活動としては、地域連携の推進、診療情報発信の意味を込めて、医師会等の依頼による講演の他、平成28年11月には当センター主催の「中高年のための健康講座」を開催、泌尿器科の先生方に講演を行っていただいた。

高齢者に対する専門病院としての地位を確固たるものとすべく、各職員が日々努力しているのはいうまでもない。外科系各診療科では安全確実、適切な手術、診療を行うことにより、患者さんへ満足できるサービスを提供したいものと考えている。そのために、新たな人材の育成、日々の診療を行いながらの新しい技術の習得・研鑽に努めていきたいと考えている。

1 人員体制

〈副院長〉黒岩厚二郎

〈部長〉金澤伸郎

〈医長〉吉田孝司、三井秀雄（救急部兼務）

〈常勤医〉飯塚童一郎、中里徹矢、高木泰介

外科と血管外科は独立した科となっているが、臨床では血管外科と合同で病床管理、当直を行っている。人員体制としては、前年度末に齊藤医師、金医師が退職し、4月より中里医師、高木医師が新たに着任し、引き続き外科は7人体制で業務を行った。

2 診療活動・実績

外科外来は、月曜から金曜まで消化器外科を中心に一般外科、乳腺・内分泌外科など幅広く診療に当たっている。専門外来は木曜に内視鏡下胃瘻造設に対応するためPEG専門外来、及びストマケア・スキンケア外来を行い、皮膚・排泄ケア認定看護師とともに人工肛門管理に加え、褥瘡の処置・指導を行っている。また、がん検診からの受け皿として、便潜血外来を月曜から木曜までの週4日間開設している。術前検査センターも活用し、術前検査を外来で施行する頻度が高まり入院期間が短縮されている。DPCが導入されたこともあり、外来での検査が増加傾向にある。

外科の年間延べ入院患者数は前年比較で横ばいだったが、手術件数は若干減少した。消化器内科・内視鏡科の人員配置による内視鏡下手術数の減少以外に、胆嚢摘出術、腹壁癒痕ヘルニア根治術が数を減らしたことが原因だった。低侵襲手術である腹腔鏡下手術は順調に例数を重ねており、胃・大腸における、腹腔鏡手術の占める割合はかなり大きくなってきた。昨年度に引き続き、周辺開業医の訪問など、顔の見える医療連携を目的とした活動を行った。食道癌に対する胸腔鏡補助下食道切除術、直腸癌に対する腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術といった新しい手術手技も導入し、症例も順調に増えつつある。

外科以外の入院患者への検査、治療にも積極的に対応しており、リンパ節生検やCV（ポートも含めた）挿入術などは、曜日にかかわらず迅速に対応している。毎週水曜日に行われる褥瘡回診、栄養療法のためのNST回診にも積極的に参加している。大腸がんに続き、本年度より胃がんも東京都がん診療連携協力病院としての対象となり、連

携医療機関との連携も積極的に行い、東京都医療連携手帳の活用も行っている。また、他科との連携も密に取っており、消化器内科・内視鏡科・病理とのカンサーボード（消化器CPC）、緩和ケア認定看護師・がん化学療法看護認定看護師と共同で、がん患者に対するカウンセリングを行っている。

3 研修・教育活動

外科カンファランスは毎週火曜、木曜に行い、画像診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。又、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。カンサーボード（消化器CPC）も定期的に開催している。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、日本外科学会による外科専門医修得や論文作成などにも力を入れている。また、腹腔鏡下手術の技術獲得を目的として、腹腔鏡手術手技研修会、腹腔鏡下胃切除研究会などへの参加を促し、手技向上を図った。

院内活動では、病院研修の一環として、初期研修医に対する様々なシミュレーション研修の指導を行った。

1 人員体制

〈血管外科部長〉中澤 達
 〈血管外科医長〉鈴木 潤
 〈血管外科医員〉根元洋光
 〈外科医員〉飯塚童一郎、中里徹矢、高木泰介

病棟は引き続き外科・血管外科が合同で診療する体制となっている。今年度から根元洋光を血管外科医員に採用、常勤医師数は外科の協力により6名であった。

東京大学血管外科非常勤医も血管外科手術に参加し、術後管理は外科と共同で行う体制である。

また、時間外・緊急手術は外科、血管外科合わせた当番制となっており、どちらの手術も参加することになっている。

2 診療活動・実績

新入院患者数は241人、転入患者53人であった。血管内治療とバイパス手術を同時に行うハイブリッド手術も増加、腹部大動脈瘤手術は22件であった。

低侵襲で比較的入院日数の少ない下肢静脈瘤レーザー治療、閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療（バルン拡張・ステント留置）が貢献して、平均在院日数は8.0日となった。

血管外科外来は火曜、水曜、金曜に行っている。血管外科ブースの隣の血管検査室機能が充実し、初診患者の同日に血管生理機能検査を実現している。

広報活動として、糸でんわ130号（平成28年11月号）において、血管外科の当院での取り組みを3ページにわたり紹介した。

近隣開業医を個別訪問し患者紹介の促進を行った。

3 研修・教育活動

外科・血管外科カンファランスは毎週火曜、木曜に行い、内視鏡写真、レントゲン検査の読影・診断技術の向上に努めるとともに、カンファランスにより治療方針の決定を行っている。また、術中、術後写真も用いた術後症例検討会も同時に行っている。

中澤が東京大学医学部臨床指導医の称号を得て、医学部学生に血管外科の病院実習として受け入れ指導を行っている。また、東京大学血管外科非常勤講師として、東京大学でも実習を行っている。

これらの教育活動は、東京大学医学生の間に当院の血管外科の認知度を上げる狙いがあり、東京大学と協力型臨床研修病院の当院で共同研修を行う「たすきがけ型方式」での卒後臨床研修リクルートの一翼を担っている。

血管外科疾患に関する勉強会を外科病棟看護師対象に開催し、看護の質のレベルアップを達成した。

院外研修は特に若手医師に学会発表を奨励し、心臓血管外科専門医取得や論文作成などにも力を入れている。また、血管内治療の技術獲得を目的として、他病院の治療手技見学を積極的に行い技術のレベルアップを図っている。

1 人員体制

〈センター長〉許 俊鋭
〈部長〉西村 隆
〈医長〉河田 光弘 加藤倫子
〈医員〉村田 知洋
〈顧問〉小野 稔（東京大学心臓外科）
〈非常勤〉竹谷 剛（三井記念病院心臓外科）
齋藤 綾（東邦大学佐倉病院）
木下 修（東京大学心臓外科）
縄田 寛（東京大学心臓外科）
大鷹美子（豊島病院産婦人科）
三浦純男（三井記念病院心臓血管外科）
山本真由（防衛医大放射線医学講座）

病棟は循環器内科と同じフロアの5階東病棟と特定集中治療室にて入院患者さんのケアを行う体制の中で診療を行っている。急性心筋梗塞やうっ血性心不全の緊急症例、胸部大動脈破裂や急性大動脈解離の緊急症例にも対応している。

2 診療活動・実績

平成28年度は、経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）実施施設、植込型補助人工心臓植込み実施施設という2つの認定を受けたことにより、胸を開かず心臓が動いている状態でカテーテルを使って人工弁を患者さんの心臓に装着すること、補助人工心臓を装着した状態で在宅治療を行うことが可能となった。平成28年度の手術症例のうち、補助人工心臓症例は体外設置型6例・植込型5例、ステントグラフト移植術（TEVAR）は13例、経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）は7例に施行した。急性大動脈スーパーネットワークに緊急大動脈支援病院として参加しており、非手術症例も含め深夜帯を含む緊急手術も積極的に受け入れている。また、ステントグラフト指導医を取得し、胸部大動脈瘤破裂に対する緊急ステントグラフト移植術も施行している。一方、90歳を超える症例に対する大動脈全弓部人工血管置換術も積極的に行っている。できるだけ低侵襲で行う手術を目指しており、特にオープンステントグラフトの導入によって、手術時間の短縮と輸血量の軽減を図っている。外来診療に関しては、手術日以外の週3日行っており、基本的には術後のフォローアップと、術前の手術説明もしくは他科からのコンサルトへの対応で、週20～30名の患者さんの診療を行っている。

3 研修・教育活動

術前検討会は麻酔科・ME・手術室、輸血部、集中治療室、病棟看護師、栄養科、リハビリテーション科と共に水曜日に実施している。

TAVIについてはハートチーム（＝心臓外科・循環器内科・麻酔科・リハビリテーション科・手術室・集中治療室・病棟看護師・エコー技師・ME・放射線技師・コーディネータら）として火曜日に、病棟カンファランス、VADカンファランスは金曜日に、それぞれ多職種によるディスカッションを行っている。

全症例をNational Clinical Databaseへ登録することを基本とし、術前死亡率・有病率を算出し、客観的なリスク評価を行いながら、全国規模のデータベースとの比較検討により、自科の長期成績、診療内容について客観的なチェックを行っている。

4 その他

ステントグラフト内挿術による大動脈瘤の治療（TEVAR）、人工心臓を使用しないオフポンプバイパス手術（OPCAB）、内科的治療抵抗性の重症心不全の治療としての体外設置型・植込型補助人工心臓治療、オープンステントを用いた大動脈全弓部置換術等を行い、良好な成績をおさめている。

1 人員体制

脳神経外科のスタッフは、松岡浩司脳神経外科部長、幸田俊一郎医長、高梨成彦医長、筑井恵美子医員（平成28年9月30日退職）、の4名の常勤医師である。すべて脳神経外科学会専門医であり、高梨は脳血管内治療専門医でもある。非常勤は、上野俊昭（三田病院）教授が脳血管内手術（脳動脈瘤コイル塞栓術、内頸動脈ステント留置術）と月1回の外来診療を担当した。滝澤嗣人が、非常勤の当直業務を月1～3回担当した。

脳神経外科の外来は、平日午前中は一般外来、午後は特殊外来として頭痛・水頭症・めまい・脳腫瘍等の外来を開設している。入院業務は、10階東病棟に定床数15床で、皮膚科、神経内科との混合病棟で診療した。毎週月、水、金曜日午前8時30分から常勤医師全員による回診と症例検討、火、木曜日に部長回診、毎週金曜日午後3時から重要症例の検討会を行い、全身麻酔手術前日までに術前検討会を行った。定時の手術日は毎週火曜（開頭術）、木曜午後（血管内手術）の2日で、必要時は水曜その他の週日に定時手術を追加し、随時の緊急手術を行った。大手術後の患者は原則として特定集中治療室で術後管理を行った。

2 診療活動・実績

平成28年度脳神経外科の延入院人数は293名であった。内訳は脳血管障害159名（脳出血73、くも膜下出血/脳動脈瘤36、脳梗塞50）、脳腫瘍15名、頭部外傷74名（外傷性頭蓋内出血33、慢性硬膜下血腫41）、水頭症20名、その他25名であった。脳腫瘍の免疫化学療法を、入院から外来実施に移行し、脳腫瘍の入院数が減少した。

手術件数は合計118件で、ハイブリッド室で実施した低侵襲の血管内手術が39件（脳動脈瘤等のコイル塞栓術16、頸動脈狭窄症に対するステント留置術9、その他14）と全手術の33%を占めて、重点医療「血管病変」治療の促進に貢献した。その他の手術室手術の内訳は、脳脊髄腫瘍摘出術5件、脳動脈瘤の開頭術2件、脳内出血の開頭血腫除去術5件、急性期脳梗塞の減圧開頭術1件、頸動脈内膜剥離術6件、水頭症シャント術等11件、急性硬膜下血腫の減圧開頭血腫除去術1件、慢性硬膜下血腫穿頭血腫除去術39件、その他9件であった。

脳卒中ホットラインを運用して、24時間の脳卒中救急患者受入れ態勢を強化した。東京都脳卒中救急搬送体制によるtPA患者の受け入れに協力し、

必要に応じて、急性期再開通療法を行った。

3 研修・教育活動

松岡浩司が板橋看護学校の脳神経外科の講義（年3回）を担当した。毎週金曜日午後に抄読会を開催した。

東京大学脳神経外科と帝京大学脳神経外科の専門研修プログラムに研修、連携施設として参加登録した。初期研修医、籠尾南海夫(J1)、市原寛子(J2)、森下良志(J2)、白石朋敬(J2)の4名が脳神経外科で研修した。

1 人員体制

〈部長代理〉西村 隆

〈医長〉日野春秋

〈医員〉栗原知多流（休職中）

〈顧問〉中島 淳（東京大学呼吸器外科）

〈非常勤〉似鳥純一（東京大学呼吸器外科）

2 診療活動・実績

当科は平成25年10月から手術を本格的に開始し、毎週火曜日（木曜日）に手術を行っている。担当する病棟は主に5階東病棟と術後管理を行う集中治療室だが、呼吸器内科や他科からの紹介を随時受け付け、各診療科のフロアでも診療を行う。主な疾患としては、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍といった腫瘍性病変を対象としている。また、高齢者特有な良性疾患として、続発性気胸、膿胸、感染性肺炎患（アスペルギルス、抗酸菌症など）、胸部外傷に対しても各診療科と連携して積極的に外科的な治療を行っている。これら以外にも、各診療科からの肺病変（孤立性結節、間質性肺炎など）やリンパ節腫大、胸膜肥厚、原因不明な胸水貯留などの診断依頼に対しては、胸腔鏡手術で生検を行うなど迅速に対応している。

平成28年度の手術症例数は39例あり、徐々に増加傾向にある。その内訳は原発性肺癌21例、気胸6例、縦隔腫瘍5例、胸膜・肺・リンパ節生検5例、転移性肺腫瘍1例、膿胸1例であった。原発性肺癌手術症例の平均年齢は77.7歳（68-88歳）であり、80歳以上は38.1%（8/21例）占めており（全国平均12.1%）、昨年度と同様に高齢者が多い傾向であった。また、胸腔鏡手術は19例（90.5%）施行しており、在院期間短縮や疼痛軽減などの点において有利に働いていたと思われる。外来診療は、非常勤医師を含めて週に3回行っており、基本的には術後の経過観察と、術前精査及び手術説明、他科からのコンサルトへの対応で、週15名程度の診療を行っている。

3 研修・教育活動

術前・術後カンファレンスは、毎週火曜日に顧問の中島淳医師、もしくは非常勤似鳥医師と行い、適宜必要に応じて呼吸器内科と症例検討会を行っている。また、毎週水曜日（金曜日）は、気管支鏡検査を呼吸器内科と共同で行うことで、より適切な診断や治療ができるように協力し、また研修

医への教育的な指導等も行っている。

4 その他

これまでの当科における手術症例については、データベースを作成している。昨年より東京大学医学部附属病院呼吸器外科とその関連施設と連携して、後向きのデータ集計を行っている。その中で、当科が中心となって「高齢者肺癌切除症例の手術成績に関する多施設後向き観察研究」を行っている。現在、データ収集は終了しており、随時解析結果を国内外の学会発表や論文投稿している。

院内の研究課題としては、本年度から「高齢者間質性肺炎の臨床病理学的検討」を開始した。主に剖検例を対象に病理診断科と共同研究を進めている。

また、手術症例の中には、稀少症例や臨床上意義のある治療経験などがあり、これらは積極的にCase reportとしてまとめるようにしており、今後、研修医の先生方にも学会発表、論文投稿などの学術的な面でサポートしていく。

1 人員体制

平成28年度は、整形外科は時村(外科総括部長)、宮崎、濱路、金高、和田(9月30まで)、長沼の6名と脊椎外科の穴水、上園の合計8名体制でスタートした。10月1日より和田の後任として、金子が赴任した。8名は、外来・病棟・手術・勉強会などすべて協力して活動した。非常勤医としては例年通り、石橋、小泉、村木(9月30日まで)が外来を担当し、税田、三浦、山本(前整形外科部長)が手術指導を担当した。

2 診療活動・実績

新病院移転後、4年目を迎え、新たに2016年4月1日より人工関節センターを開設した。金高が人工関節手術関連のクリニカルパスを作成し、スムーズな病棟業務と手術患者の早期退院に大きく貢献し、人工関節手術の大幅な件数増加につながっている。新任医師の赴任に際しても大きな混乱はなかった。予定入院が多く、さらに緊急入院も加わり、有料個室も高い稼働率を維持している。

整形外科・脊椎外科外来は処置室以外に4ブースの割り当てがあり、合計5部屋で診療を行った。外来は月曜から金曜日まで水曜日を除き、再診2列、初診1列、処置1列の計4ブースないし5ブースで診察を行った。ブロック等の処置患者で混雑し、ブースが不足した際は処置室をさらにカーテンで区切って使用した。内科のブースを使用させていただくこともあった。処置内容は例年通り、関節内注射・仙骨硬膜外ブロックが主で、ギプス巻きも時に行った。専門外来としては脊椎外来(穴水、上園)、人工関節外来(宮崎、濱路、金高)、股関節外来・膝外来(濱路)、ロコモ外来(石橋)、骨粗鬆症外来(時村)を行った。

平成27年度延外来患者数は17828名(整形外科13488名、脊椎外科4340名)、初診外来患者数は1097名(整形外科988名、脊椎外科109名)、1日平均外来患者数は整形外科55.5名、脊椎外科64.8名で、前年度とほぼ同レベルであった。

病棟は6東病棟38床と6西病棟18床の合計56床を定床として利用した。

入院患者は例年通り、変形性膝関節症、変形性股関節症、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、大腿骨頸部骨折、腰椎圧迫骨折、手根管症候群などが主体であった。延入院患者数は16264名、新規入院患者数は696名といずれも前年より軽度減少した。

平均在院日数は21.1日と短縮したにもかかわらず、病床利用率は79.6%と0.6ポイント上昇した。

手術は合計472件であり、昨年度に続き増加した。内訳は大腿骨頸部骨折関連92件(人工骨頭置換術32件、観血的整復内固定術60件(ガンマネイル50件、ピンニング10件)、人工膝関節置換術91件、人工股関節置換術51件、脊椎関連手術107件(頸椎手術27件、胸椎手術10件、腰椎手術55件、椎体形成術10件など)、手外科関連手術70件(手根管開放術27件)、その他の骨折手術49件等であった。人工関節手術件数の増加が特徴的であった[82件(H26)→106件(H27)→143件(H28)]。

3 研修・教育活動

例年通り、月曜夕方の術前カンファレンス、抄読会、水曜朝および夕のレントゲンカンファレンス、病棟カンファレンス、外来カンファレンス以外に、有志で火曜・金曜午前8時から8時30分まで自主勉強会を行った。

研究に関しては厚生労働省科研への参加、東大整形外科関連施設で行う、清潔整形外科手術部位感染に関する臨床研究に参加し、現在も継続している。平成26年度以来、現在も骨代謝イメージングNaF-PET研究に対するトランスレーショナルリサーチ研究を継続し、症例数を伸ばしている。学会発表は、時村、穴水、宮崎、濱路、金高、長沼が行った。

論文は、時村、穴水、宮崎、濱路が作成した。

臨床研究、論文作成、学会発表は次年度も積極的にを行う予定である。

4 その他

時村・宮崎が日本学術振興会科学研究費を獲得。

- 1) 2017-2019年度 基盤研究C 整形外科領域における手術部位感染予防に関する多施設共同研究(時村文秋[研究代表者]、宮崎剛)
- 2) 2015-2017年度 基盤研究C 骨メカニカルストレス応答における骨細胞-破骨細胞の細胞間制御メカニズムの解明(宮崎剛[研究代表者]、時村文秋)
- 3) 2015-2017年度 基盤研究A 身体不活動で生じる炎症を介する運動器障害とその救済の分子機構(宮崎剛[分担研究者])

1 人員体制

平成28年度は種井良二、宮澤理恵子の常勤医師2名で当センターの皮膚科外来受診患者や入院患者の診療、他科入院患者の診察・往診、研修医の指導などの業務に従事した。

2 診療活動・実績

平成28年度も光線治療器具のナローバンドUVB照射装置が処置室で十分に稼働することができ、当科でのアトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症などの治療に大きな前進をもたらした。

当院の皮膚科受診患者は湿疹や皮膚掻痒症、蕁麻疹や痒疹、足・爪白癬やカンジタ症、帯状疱疹や単純性疱疹、丹毒・蜂巣炎、薬疹・中毒疹、皮膚壊疽・血行障害・褥瘡、熱傷、皮膚良性・悪性腫瘍、疥癬、膠原病・血管炎、角化異常症、爪の疾患、皮膚の加齢徴候、アレルギー性皮膚炎が主な対象疾患である。例年通り連携病院、高齢者保健施設、他科入院中の患者の診療や生検依頼が非常に多く、専門医による視診やダーモスコピーあるいは皮膚生検により、診断を確定（種井は皮膚病理報告書を病理専門医と共同作成している）し、内服・外用・光線療法や手術による治療でこれに対応した。

入院は10階東病棟にお世話になっている。主な入院対象疾患は帯状疱疹のパス治療、丹毒・蜂巣炎の点滴治療、皮膚癌・癌前駆症や皮膚良性腫瘍の手術、類天疱瘡のステロイド全身投与治療、熱傷・褥瘡の治療、皮膚壊疽・血行障害の精査と治療、薬疹・中毒疹や重症湿疹・痒疹などの原因検索や治療であり、例年通り帯状疱疹や類天疱瘡あるいは褥瘡などの疾患では病診連携や救急依頼での入院症例が多くみられた。

また、毎週水曜日に執り行なわれている褥瘡ラウンドでは宮澤医師が中心メンバーとして参加して、各科入院中患者の褥瘡の評価・治療に尽力した。

3 研修・教育活動

皮膚科の短期研修を希望する研修医4名（橘靖子先生、籠尾南海夫先生、常吉沙帆理先生、五十嵐健史先生）に皮膚科診療の基本的な取り組みかた（発疹の診方、各種検査や治療の方法）・手技（皮膚生検や皮膚外科）などについて宮澤・種井が指導医となり研修指導を実施した。

院内・院外の研修・教育活動として種井がお昼

のクルズスで「知っておきたい高齢者の皮膚疾患」を行った。

4 その他

種井は平成28年度も日本皮膚科学会東京支部選出の代議員を務めている。

宮澤医師は平成28年度の日本皮膚科学会専門医試験に合格し、同学会認定の皮膚科専門医となった。

インドネシア大学/Cipto Mangunkusumo病院より老年皮膚科学教室教授のNadia Yusharyahya先生が2016年11月25日に当院に視察にこられたので、当科で実施している老年皮膚科診療と研究について種井が概説した。

1 人員体制

〈部長〉粕谷 豊

〈常勤〉榊永浩一、吉田香苗

〈非常勤〉方波見有貴

泌尿器科は粕谷部長および榊永医員、吉田医員および方波見医員の4名で腎臓癌、尿路上皮癌、前立腺癌、前立腺肥大症、尿路結石、排尿障害の診療にあった。

平成27年度の人事面では、吉田先生が8月より産休に入り、方波見医師が昨年4月より引き続き非常勤として勤務していただき、3.5体制で泌尿器科疾患の診断・治療を行うことができた。

2 診療活動・実績

(1) 外来

新病院に移行してから外来を2列に増やした結果、外来延べ患者数14292名で一昨年より約200名弱ほど増加し、1日平均患者数は72.4人であった。この結果新患率、外来収益も良好であった。

(2) 入院

手術件数は351件で微増し、腎・腎尿管悪性腫瘍手術が8症例（小切開）と増加、さらに副腎腫瘍も当院では初のラパロ化下で行った。膀胱癌は全摘術+尿管S字結腸吻合術が2例行われた・前立腺癌の腹腔鏡下小切開根治的前立腺拡大全摘術が11例で、経尿道的手術も100例と例年通りで推移した。

病床利用率は88.2%で昨年より8%改善、平均在院日数は8.2日で昨年より0.6日短縮したこれは尿路上皮癌の化学療法を積極的に導入した為と考えられる。全体をとおして、入院収益・入院診療単価改善している。

3 研修・教育活動

榊永・吉田先生に老人研究所の伊藤先生（前立腺癌のバイオマーカー）/堀田先生（過活動膀胱の治療）とまた東京大学泌尿器科教室と排尿機能の共同研究を行っている。

1 人員体制

〈部長〉沼賀二郎
 〈医長〉青木 彩
 〈常勤〉外山 琢、寺田裕紀子、山本裕樹、
 高尾博子、植沙織 (ORT)、佐野友弘 (ORT)
 〈非常勤医師〉新家 眞、太田良枝、本庄 恵、
 田邊達郎、坂田 礼
 〈研修医〉平野慎一郎、吉谷栄人、野田拓也、
 内富一仁

2 診療活動・実績

[1] 外来

	H28	H27	対前年	対前年比
延外来患者数	19014	19137	-123	99.4%
初診外来者数	1147	1119	28	102.5%
1日平均外来患者数	78.2	79.7	-1.5	98.1%

[2] 外来手術件数 (レーザー治療)

	H28	H27	対前年	対前年比
マルチカラー	389	264	125	147.3%
ヤグ	170	178	-8	95.5%

[3] 入院

	H28	H27	対前年	対前年比
延入院患者数	4480	3677	80	121.8%
新規入院患者数	2295	1966	329	116.7%
退院患者数	2285	1972	313	115.9%
1日平均入院患者数	12.3	10.0	2.3	123.0%

[4] 入院手術件数 (中央手術室)

	H28	H27	対前年	対前年比
白内障関連	1803	1580	223	114.1%
硝子体関連	70	43	27	162.8%
緑内障関連	6	6	0	100.0%
外眼部関連	75	43	32	116.2%
硝子体注射	362	295	67	122.7%

今年度の手術件数は病院開設以来の最高件数であった。

3 研修・教育活動

スタッフは時間があるかぎり東大病院、眼科専門外来 (ぶどう膜、緑内障基礎、黄斑) に参加し、研修を行った。

● 講師等院外活動 (講演・放送等)

- 沼賀二郎：
眼科新薬を基礎・臨床から学ぶ会 第2回 (千寿製薬) 座長 (東京)
2016年4月27日
- 沼賀二郎：
第31回JSCRS学術総会 ランチョンセミナー (日本アルコン) 「困った! どうする? ぶどう膜炎、糖尿病を有する白内障術後炎症管理」座長 (大阪)
2016年6月25日
- 沼賀二郎：
第2回網膜疾患を考える会 座長 (東京)
2016年8月31日
- 沼賀二郎：
眼科新薬を基礎・臨床から学ぶ会 第3回 (興和創薬) 座長 (東京)
2016年9月28日
- 沼賀二郎：
ぶどう膜炎 up to date (エーザイ) 座長 (東京)
2016年10月20日
- 沼賀二郎：
第6回 症例に学ぶOCT研究 座長 (東京)
2016年12月7日
- 沼賀二郎：
眼科新薬を基礎・臨床から学ぶ会 第4回 (エーザイ) 座長 (東京)
2017年1月25日
- 寺田裕紀子：
「ぶどう膜炎と白内障周術期管理」第31回JSCRS学術総会ランチョンセミナー (京都) 主催：JSCRS学術総会・日本アルコン
2016年6月25日
- 寺田裕紀子：
「高齢者に多い眼の病気」平成28年度健康長寿講演会 (東京) 主催：練馬区石神井保健相談所
2016年11月30日
- 寺田裕紀子：
「眼のエイジングと仲良くする」介護予防講座 (東京) 主催：上板橋健康福祉センター
2017年1月25日

1 人員体制

〈医長〉高橋正時
 〈医員〉西尾綾子、三輪 好
 〈非常勤医師〉岸本誠司、奥野秀次、杉浦むつみ
 角卓郎、川島慶之
 〈非常勤聴力検査技師〉船田美佐子

耳鼻咽喉科の平成28年度の診療体制は、常勤医師3名で診療にあたった。その他、外来担当非常勤医3名、手術指導担当非常勤医4名と非常勤聴力検査技師1名で構成された。病棟は、4月から6階西病棟で定床5床を運用し、9月より7階西病棟の4床に変更となった。主に慢性中耳炎・慢性副鼻腔炎の手術パス入院症例と顔面神経麻痺・突発性難聴パス入院症例が多かった。また、低侵襲手術の導入により入院日数の大幅な削減を達成し、今後手術症例の増加に努める予定である。

2 診療活動・実績

(1) 外来

平成28年度は、非常勤医師の退職に伴い、外来枠数が減少したが、患者数の大幅な減少にはならなかった。紹介状のない初診枠を減らし地域連携枠を増枠したことで、初診の総数は減少したが、より紹介状のある患者を優先的に診察することが可能となり、密度の高い初診診療となった。また、平成28年度より新たに補聴器外来を開設し、新規患者数を増加させ、外来聴覚検査を大幅に増枠することが可能となった。

	H28	H27	対前年	対前年比
延外来患者数	7725	8052	-327	95%
初診外来者数	542	626	-84	87%
1日平均外来患者数	31.8	33.1	-1.3	96%

(2) 入院

入院患者数は、病棟体制、人員体制の大幅な変更により入院、手術件数が減少した。低侵襲手術により在院日数を大幅に縮小した影響で、延べ入院患者数が減少した。今後地域連携への取り組みを強化し、手術件数の増加を目指す予定である。

	H28	H27	対前年	対前年比
延入院患者数	752	1507	-755	50%
新規入院患者数	97	146	49	66%
退院患者数	98	153	-45	64%
病床利用率	48.5	82.3	-33.8	59%
平均在院日数	6.6	8.4	+2.4	127%

3 研修・教育活動

毎週月曜日、水曜日、金曜日の外来終了後に紹介患者の症例検討会を行い、臨床技術の向上、症例のブラッシュアップを行っている。また、臨床研究のデータ蓄積のためのカンファレンスも同時に行っており、質の高い診療を目指す。

4 その他

超高齢社会の到来により、今後増加すると思われる加齢性難聴、高齢者平衡障害に対するアプローチとして、補聴器外来の充実、難聴、平衡障害の他覚的精密検査枠の拡大を目指してきた。その成果により外来聴覚検査を大幅に増加することが可能となり、ABR検査枠増加、平衡機能検査枠の増加、補聴器適合検査を施行することができるようになった。今後も質の高い聴平衡覚診療を実現させ、超高齢者のQOLを向上させることを目標に診療を行う予定である。

1 人員体制

〈歯科口腔外科部長〉平野浩彦
 〈歯科口腔外科医長〉齊藤美香
 〈常勤〉森美由紀
 〈非常勤〉田坂彰規、高野智史、
 〈初期研修医〉日置沙希、奥村拓真
 〈歯科衛生士〉常 勤：田村有華、高橋恵子
 非常勤：五十嵐麻奈三、森山規子

2 診療活動・実績

(1) 運営方針

以下を目標とした。

① 周術期口腔管理を充実化させる

該当科への対応をきめ細かく行い、周術期口腔管理概要を再周知した。病棟への歯科衛生士派遣を積極的に行った。これまでの周術期口腔管理に実施状況データをまとめ課題の抽出を行った。

② 医療連携を強化する

板橋区歯科医師会(板橋区口腔保健センター)、豊島区歯科医師会(あぜりあ歯科診療所：豊島区口腔保健センター)と患者紹介・逆紹介を施設入所患者、在宅療養患者を中心に実施した。滝野川歯科医師会口腔保健センター運営協議会に参加した。

③ 超高齢者の口腔癌治療を行う

口腔癌の院内他科および他院と連携し治療を行っている。国立病院東京医療センター口腔外科と連携し、当科口腔癌手術を行った。院内は耳鼻科と連携し治療を行った。

④ 歯科口腔機能センターの創設

口腔機能の維持回復するためのノウハウを効率的に地域で推進するための機関として、研究所部門口腔関連研究グループと病院部門歯科口腔外科がソフト面で統合したセンターの設置準備を行った。

(2) 患者数：平成28度の患者数を表に示す。

	患者数		前年度比
	2015年	2016年	
初診	1,591	1,763	(10.8%増)
再診	8,682	10,223	(17.7%増)

(3) 医療連携(研修会講師)

- ・ 東京都歯科医師会研修会(平野浩彦)2016年6月
- ・ 新宿区歯科医師会かかりつけ歯科医研修会

(2016年8月)

- ・ 板橋区歯科医師会合同学術研修会(齊藤美香)2016年9月
- ・ 東京都歯科医師会研修会(平野浩彦)2016年10月
- ・ 東京都歯科医師会および豊島区歯科医師会主催の周術期口腔機能管理連携事業に参画した。

3 研修・教育活動

(1) 臨床研修

- ア 日置沙希、奥村拓真が臨床研修を行った。
- イ 臨床研修歯科医第19期生として4名の応募があり、小田哲也が選考された。

(2) 看護学校：齊藤美香 2016年10月20日、「専門分野Ⅱ 歯・口腔」教科書を参考に、講義と実習を行った。

(3) 院内研修

- ① 研修医向け講義(クルズス)：齊藤美香「高齢者の口腔疾患について」2017年1月24日
- ② 薬剤師研修会：平野浩彦「抗がん剤による口腔粘膜炎への治療・予防について」2016年7月28日
- ③ リハビリテーション科患者交流会：平野浩彦「口から見える認知症」2016年7月30日
- ④ もの忘れ外来家族交流会：平野浩彦「口腔ケアと認知症」2016年10月11日

(4) 院外研修

日本歯科医師会会主催平成27年度生涯研修セミナー：平野浩彦(東京、高崎、札幌、高知、金沢)

4 その他

今後の課題と展望

- ア 自己収支比率の改善を図る。
- イ 周術期口腔管理を充実する。
- ウ 臨床研修を充実する。
- エ 歯科衛生士の育成を図る。

1 人員体制

〈部長〉坪光雄介（循環器内科専門部長）
 〈医長〉加藤貴行（リハビリテーション科医長）
 〈医長〉田村嘉章（糖尿病・代謝・内分泌内科医長）
 〈医長〉三井秀雄（外科医長）
 〈医長〉幸田俊一郎（脳神経外科医長，救急科専門医，災害医療対策室長，DMATメンバー）
 〈部長〉仁科裕史
 （神経内科専門部長，脳卒中A担当部長）

「断らない救急医療」の徹底を重要課題とし、救急診療部を平成24年1月に新設、救急診療部の核となる医師（各科の主力メンバー）を配置している。日中の救急外来診療には、当番医（指導医1名、初期・後期研修医2～3名）に加えて毎日に替わりにて帝京大学医学部附属病院救命救急センターより非常勤医師を派遣していただいております。診療の大きな力となっている。

救急医療のさらなる充実に向けて取り組みを行っている。

2 診療活動・実績

当センターは救急告示医療機関であり、東京都の二次救急医療機関に指定されている。休日・全夜間問わず積極的な救急の受け入れを行っている。加えて区西北部保険医療圏内における東京ルール事案（受入困難症例）の受け入れ、または受け入れ調整を行う「地域救急医療センター」としての役割も担っている。また高齢者だけに限らず、若い年代層においても救急患者の受け入れを積極的に行っている。

夜間当直帯の内科系救急患者を円滑に受け入れるために、昨年度までは5階西病棟1室（男女混合4床）を救急病床として運営していた。5西病棟の負担が大きく、今年度よりは月替わりで4病棟より救急病床1病床ずつ合計4病床を確保し、優先的救急患者の受け入れを行っている。翌日には朝カンファランスにての症例の検討を踏まえ、より専門性の高い病棟への振り分けを病床担当看護師長らとともにやっている。

新病院移転4年目となる昨年は、救急患者総数は昨年度には及ばないものの救急車受入台数は過去最高（4,399件）を記録した。お断り率（電話相談除く）は13.4%（前年度：11.3%）と増加したが、病床満床にてお断りする事例（89件，前年度16件）も多くあったことが一因と考える。救急端末OFFを除外するとお断り率は8.1%である。救急隊

お断りする理由としては、専門医師不在（整形外科、脳神経外科など）、専門医師多忙（整形外科など）が多い。救急患者をよりお断りしないためには病院全体として医療連携室と連携を強固にして退院促進を図ることが課題であると考えている。

3 研修・教育活動

「朝カンファランス」

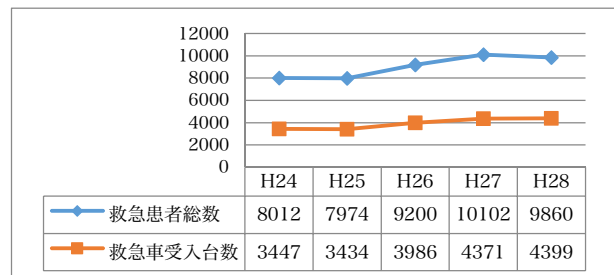
毎朝8時より夜間当直帯入院症例についての検討を行っている。当直した初期研修医より、主訴、バイタルサイン、血液検査、画像所見などをもとに何を鑑別診断として挙げ、最終暫定診断に至ったかをプレゼンテーション、指導・教育を行っている。また、当直研修医が直接に診察していない、専門当直の診察した科（循環器内科・神経内科・外科症例）においても、指導医を通して症例を提示し解説を加えている。

「テルモメディカルプラネックス研修」

外科、麻酔科、救急診療部のメンバーを中心に毎年6月（今年は6月24日土曜日）に1年目初期研修医を対象に、総合医療トレーニング施設（テルモメディカルプラネックス）において医療環境を再現した空間で、実践的なトレーニング研修を行っている。

内容：

- ①縫合（手洗い・ガウンテクニック・豚皮を用いた縫合術：消毒、局麻、縫合、結節縫合、埋没縫合）
- ②中心静脈カテーテル挿入（シュミレーター（模擬人形）を用いた超音波ガイド下にて内頸静脈より中心静脈カテーテル挿入）
- ③気管切開（豚気管を用いたミニトラック：トラヘルパー挿入術の実践、および気管切開）
- ④気管内挿管（模擬人形）麻酔科医指導
- ⑤シムマン（模擬人形）を用いたシミュレーション（急変時対応）研修。



* 救急診療部開設 平成24年1月1日～

** 新病院移転 平成25年6月1日～

1 人員体制

【常勤】

〈部長〉小倉 信
 〈医員〉今野 元之、廣瀬 佳代、鄭 仁熙、
 井上 哲

【非常勤】相川 和之、脊山 雅子、縄田瑞木、
 仁多 健剛、木ノ内万里子、室屋 充明、
 筒井 富美、桑島 謙

《東大大学院》露寄 仁志、服部 貢士、
 《東大後期研修医》道井 亮輔、宮下 智行、
 島崎 勇人、河村 研人

平成28年度は、前川 真基医師に代わり専門医の廣瀬 佳代医師が、河村 研人医師に代わり井上 哲医師が常勤採用された。非常勤には、毎週火曜日に、術前検査センターを通った症例の外来診察と説明同意取得を相川医師に、一般手術麻酔を脊山、縄田、木ノ内医師（以上週3日）、および仁多医師（毎週木曜）に、心臓麻酔指導を露寄、服部医師に、特に室屋医師には経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）の指導を、それぞれお願いした。上記以外に心臓外科緊急手術に対応するため週末のオンコール待機として東大桑島医師およびフリーランスの筒井医師に応援を依頼した。東大後期研修医は前半（4～10月）と後半（11～翌年3月）に分け、それぞれ毎週水・木曜日に1名ずつが派遣された。

2 診療活動・実績

（1）手術麻酔

H27年度から28年度へはほぼ不変であった【表1】。本年度に当日申し込まれた麻酔科関与緊急手術件数は95件（前年度134件）であった。

表1. 麻酔科関与手術件数

H26	H27	H28	対前年	対前年比
1587	1603	1608	+5	+0.3%

（2）術前評価

麻酔科が行う術前評価は、(1)術前検査センターからのコンサルト（カルテ診察・外来診察【表2】）、(2)各科からの外来診察依頼（月1～2件）、(3)入院患者の他科依頼（週1、2件）の3つのパターンがある。

表2. 術前検査センター症例を麻酔科が評価した件数

H27	H28	対前年	対前年比
370	436	+66	+17.8%

当年度の増加は整形外科の人工関節手術が術前検査センターに参入した影響が考えられる。

（3）ペインクリニック外来

本年度も毎週月・金にペインクリニック外来を開き、その初診枠は、各科の術前評価外来枠と共通で運用した。いずれも小倉が担当した【表3】。新規患者の増加は、院内1～2階の数か所にペインクリニック学会作成の紹介パンフレットを置いた効果と考えられる。

表3. ペインクリニック外来件数

	H27	H28	対前年	対前年比
延べ患者数	1,455	1,420	-35	-2.4%
初診料算定患者数	14	28	+14	+100%

3 研修・教育活動

(1) 本年度麻酔科を回った初期研修医は、五十嵐 健史（H28/4/1～4/30）、豊田 仁志（同5/1～6/7）、萩原 蓉子（同5/6～6/7）、白石 朋敬（同6/8～7/5）、森下 良志（同7/6～8/2）、市原寛子（同7/6～8/30）、橘 靖子（同8/31～9/21）、常吉 沙帆理（同9/29～10/18）、武斯斌（同10/26～11/18）、阿部 吉倫（H29 1/10～1/31）の各医師である。

(2) 院内での教育活動は例年通り、初期研修医対象に気管挿管、中心静脈カテーテル挿入実習を、看護師対象に静脈注射講習を計3回行った。さらに4～6月、9～11月は東大医学部医学科6年生が毎週木曜日に1名ずつ中央手術室に訪れ麻酔科臨床実習が行われた。
 (3) 院外では、4～7月に板橋看護専門学校において手術麻酔等に関する講義を行った。

4 その他

経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）が12月より開始となり、年度内に6例が行われた。またバルーン大動脈弁形成術（BAV）が1例行われた。

血縁者同種骨髄移植ドナーに対する骨髄液採取術が5月より開始され年度内は6例が行われた。日本麻酔科学会制定の『骨髄バンクドナーに対する麻酔管理について』に従い、麻酔科専門医または指導医が関与して行った。

1 人員体制

中央手術室の運営方針は手術室運営部会で検討されるが、日々の運営は小倉麻酔科部長を中心に、麻酔科と手術室看護師により行われている。

新病院移転後、手術は一般手術室7室+ハイブリッド手術室の計8でスタートし、平成28年度より、1室と新たに9A室が稼働したため、全10室を利用している。電子カルテシステム、手術室管理システム、映像管理システムなど新しい管理システムが導入されているが、日常の手術室管理においては、看護師が非常に大きな役割を担っている。看護師は熊谷看護師長を含め24名体制で日々の業務を担当した。手術材料については、日中は、SPD3名がその大半を管理し、手術用物品の効率的運用と看護師の管理業務の負担軽減が計られている。また手術用医療機器の維持管理に関しては、臨床工学士2名が担当している。

2 診療活動・実績

移転後4年目を迎え、特に大きな混乱もなく、手術も順調に行われた。平成28年度の中央手術室の利用件数は4683件と昨年度より376件増加した(表)。例年通り、眼科(2298件)を筆頭に、外科(476件)、泌尿器科(324件)、整形外科(318件)、精神科(286件)、血管外科(282件)、脳神経外科(147件)、脊椎外科(128件)、循環器内科(115件)、心臓外科(103件)、耳鼻咽喉科(70件)、皮膚科(60件)、呼吸器外科(38件)と続いていた。眼科が331件増と特に多く、その他循環器内科、血管外科、精神科、皮膚科でも20件以上増加した。

年間の救急手術件数は204件と昨年(237件)に比べ33件減少した。外科(61件)と脳外科(61件)が多く、次いで心臓外科(21件)、血管外科(15件)、泌尿器科(12件)、整形外科・脊椎外科(11件)、循環器内科(8件)の順であった。

なお平成28年度からは、新たに、心臓外科で大動脈弁狭窄に対する経カテーテル大動脈弁治療(TAVI)が導入された。

今年度の手術室部運営部会は、奇数月の6回開催された。第1回部会(平成28年5月)では、手術室内緊急コールの導入、中手術室運営指針の確認を行った。第2回部会(平成28年7月)では手術同意書と説明書のスキャンについての取り決めを行った他、専門的なスキルを持った看護師育成の要望が出された。第3回(平成28年9月)では新たに稼働する1室、9A室の運用に関する取り

決め、局所麻酔手術におけるサインアウトの導入が決定した。第4回(平成29年11月)では外科開腹カストの紛失の報告、第5回(平成29年1月)では手術術式の左右表記を平仮名とする事、第6回(平成29年3月)では木曜日に眼科手術を開始することの報告の他、針・メスなどの鋭利機材手渡し時のルール確認を行った。

手術室の円滑な運用開始のため、麻酔科及び各診療科、手術室看護師、コメディカル、事務方等多くの部門に協力をいただいております。今後さらに各科、各部門の協力を得て、手術室の安全と効率的運用を目指していく予定である。

表. 科別手術室利用件数 (単位: 件)

区 分	平成28年度	平成27年度
外科	476	506
血管外科	282	254
脳神経外科	147	173
整形外科	318	312
脊椎外科	128	120
泌尿器科	324	323
眼科	2298	1967
耳鼻咽喉科	70	100
精神科	286	262
麻酔科	5	4
循環器内科	115	65
皮膚科	60	35
心臓外科	103	118
呼吸器外科	38	34
歯科口腔外科	7	6
消化器内科	12	22
神経内科	7	5
リハビリ	0	1
合 計	4683	4307

特定集中治療室（特治）は定数14床であるが、今年度の運用に当たっては実際の利用状況と看護師人員との兼ね合いから12床で満床とした。満床時にさらに重症の患者さんが生じた場合には、主治医と相談のうえで、状態が安定している患者さんを病棟へ移動することにより対応した。

1 人員体制

特定集中治療室は、CCU（冠動脈疾患ユニット）、ICU（集中治療ユニット）、SCU（脳卒中ユニット）、RCU（呼吸器疾患ユニット）で構成されている。室長は藤本循環器内科部長（CCU担当）、副室長は金沢外科部長（ICU担当）、金丸脳卒中科部長、松岡脳神経外科部長（SCU担当）、山本呼吸器内科部長（RCU担当）、がそれぞれ務め、藤本室長が特治専任医師である。特治には必ず1名以上医師がいるように勤務体制を組み、また当直時間帯に当直医師がやむを得ず特治を離れる場合には、必ず他の当直医に応援を要請し、常時特治内に医師がいるよう徹底を図った。

入室患者さんは担当科の主治医が受け持ち医となり、病態により副室長ないし他科専門医の協力を得ながら重症患者の治療にあたっている。看護体制は2：1看護であり、定期的にカンファレンスや勉強会を行い、業務に関する専門的な知識や技術の習得に努めている。また呼吸・循環補助や血液浄化など治療内容がより高密になり、新しい医療機器も導入されたため、臨床工学士も当直またはオンコール体制を組んで、必要時には直ちに対応できるようにした。さらに10月からは、薬剤師1名が集中治療室担当となり、薬剤の使用状況の把握や安全管理に努めた。

2 診療活動・実績

平成28年度の入室患者数は1117例と昨年度に比較して5.5%減少した。内訳はCCU：347例、ICU：541例、SCU：213例、RCU:16例であり、延べ患者数では3008例であった（表）。今年度は診療報酬の改定があり、特治の患者重症度、医療・看護必要度の評価法が見直されたが、特に処置の有無に重点が置かれる評価となった。これにより、高齢者にしばしばみられる、複数の疾患を合併し経過観察が必要な患者さんが評価されにくくなったため、状態の落ち着いた患者さんには早めに病棟への移動をお願いした。また例年と同様に季節による変動があり、冬季は心臓・血管疾患、呼吸器感染症などが増加し非常に利用率が高く、春、秋には低

下したため、年間の病床稼働率は69%、また特治在室患者の重症度・看護必要度の年度平均は76.8%であった。

CCU症例は、急性心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈などが主であり、虚血性心疾患の適応症例には緊急冠動脈インターベンション治療が行われた。昨年度同様東京都CCUネットワークに参画し、毎週月曜と休日の当番日には特治に空床を確保して、ホットライン要請に応えられるよう努めた。また毎朝特治内でCCUカンファレンスが行われている。

ICUの入室者は、外科、血管外科、心臓外科など、各科の大手術の術後管理目的が大半を占めたが、特に心臓外科手術症例の在室が大幅に増加した。これは体外型の補助人工心臓に加えて、今年度より埋め込み型補助人工心臓手術も開始され、これら重症心不全例の術後管理が増加したためである。

SCU症例は、急性期脳卒中患者とともに、癱瘓重積や脳神経外科術後管理の患者であった。急性期脳卒中では、脳卒中ホットラインを通じて80例の受け入れがあり、脳梗塞23例に対してtPA療法を特治で行った。またtPA困難症例に対しても、適応があれば脳外科による血管内治療が積極的に行われるようになった。

特治の年間を通じての運営に関しては、特定集中治療室運営部会で検討が行われた。

中でも現在の特治の重症度、医療・看護必要度の基準では脳卒中の患者さんの経過観察が難しい点があり、SCUを独立して運用することが可能か病院全体として検討することとなった。同時に特治においては、適切な病床数の検討とともに、重症患者の受け入れがより円滑となるよう特治が満床時の対応の確認、長期の集中治療が必要となった場合の評価など、効率的な運用に向けて検討していくこととした。

3 研修・教育活動

今年度は心肺蘇生に対する知識、技術の習得を目指して講習会に参加し、看護師が14件の受講・認定を取得した。さらに補助人工心臓管理の増加に対し看護師1名が人工心臓管理技術認定士の資格を取得、そのほか救急医学会による外傷教育プログラム、集中治療セミナーなどに積極的に参加し、特治の看護体制の充実に努めている。また当院で開催されたBLS講習会には、資格を持つインストラクター・プロバイダー有志が救急蘇生法の知識

と技術の指導を担当し、教育に努めている。

平成28年度 特定集中治療室入室患者数

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CCU		26	24	23	27	23	25	36	35	35	42	33	18	347
ICU	外科	21	25	21	22	22	16	17	18	22	23	18	14	239
	血管外科	4	3	8	3	8	8	3	4	4	3	2	4	54
	心臓外科	8	11	10	4	14	16	4	8	9	10	7	7	108
	呼吸器外科	3	1	3	4	2	3	4	4	4	4	5	3	39
	整形外科	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	8
	泌尿器科	6	3	1	2	2	2	5	1	0	3	6	3	34
	消化器内科	3	3	0	0	5	0	1	3	0	1	3	0	19
	感染・血液他	3	4	4	3	1	5	0	3	3	7	4	3	40
SCU	脳外科	12	9	9	11	11	6	11	16	7	18	13	13	136
	神経内科	6	5	4	5	8	8	6	5	5	11	8	6	77
RCU		3	1	0	3	2	0	0	0	2	4	1	0	16
合計		95	89	83	84	98	89	87	101	91	127	98	75	1117

入室延べ患者数・重症度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ患者数	262	251	177	246	232	227	280	317	252	301	250	213	251
重症度・必要度該当率	69.4	82.8	83.1	73.9	76.3	77.5	63.9	88.0	82.1	65.4	79.6	83.0	76.8

1 人員体制

職員構成は、常勤医師4名（他に後期研修医1名）、理学療法士（PT）常勤17名（12月から18名）、作業療法士（OT）常勤7名（10月から8名）、言語聴覚士（ST）常勤5名、臨床心理士（CP）常勤5名（8月から非常勤1名）であった。中堅となるPT1名・OT1名が途中から加わり、若い世代も経験を積んで成長し、明るく活気に満ちた職場を築いている。産休育休に入る者・職場復帰する者がいる職場であるが、業務に支障を来さないように取り組んだ。

【医師】

常勤：金丸晶子、加藤貴行、小山照幸、正田奈緒子

後期研修医：齊藤陽子

【理学療法士】

太田隆、寺澤泉、高山祐子、江渕貴裕、熊木陽平、川澄晃子、中嶋梨江、田嶋真由美、池田光範、小宮山潤、篠山絵里奈、山口真依、樋口和奏、藤本静香、大町梨奈、塚本原太、工藤卓人、小坂橋彩華（6月で退職）、榎本洋司（12月採用）

【作業療法士】

本田拓也、秋元美穂、板倉彩、奥野由佳、榎戸理沙、高橋佳子、片岡由希奈、増田典子（10月採用）

【言語聴覚士】

田中春奈、宗田尚子、西山千香子、加藤茉由子、生井瞳

【臨床心理士】

常勤：菅原康宏、河地由恵、岩本美由紀、平岡共、牧田彩加

非常勤：土屋莉里（9月から）

2 診療活動・実績

リハビリテーション（以下リハビリ）科外来は、院内の他科入院中症例のリハビリ診療、および、院内他科や他院からの紹介を中心としたいわゆる‘外来診療’がある。

また、数床あるリハビリ科病床では、短期の入院リハビリも実施した。

リハビリ科外来

2016年度のリハビリ外来の初診は、前年度より137件増えて1921件であった。その内訳は、院内他科入院中1755件、当院に入院中でない症例の初診（他院からの紹介など）が166件であった。1921件中、リハビリ処方したのは1751件で、残りの170件は診察と医師によるリハビリなどの指導であった。

院内他科入院中の初診1755件の疾患内訳は、中枢病変（脳血管・神経変性疾患等）635件、廃用症候群（膠原病・消化器疾患・感染症などによるADL低下症例など）233件、脊椎疾患18件、運動器（骨関節など）211件（整形外科入院症例を除く）、心大血管438件、呼吸器179件、悪性疾患165件、その他42件であった。

火曜日午前中の装具診療では、述べ146件（初診62件、再診84件）で、脳血管障害後遺症・リウマチ・脳性麻痺後遺症などによる変形に対し補装具処方や装具の再調整などを実施した。適宜、補装具士・担当理学療法士・WOC看護師らと協力し、補装具に関連した創部や皮膚の管理も実施した。

火曜日午後のボトックス外来では、延べ22件に対しボトックス施注を実施した。PT・OTと共同で、ボトックス外来とは別枠で施注前評価などを実施し、施注後のリハビリも行った。

高齢者いきいき外来の活用を図るため、2014年9月より、新たに高齢者いきいき外来の初診枠を、月午後・火午後・木午前に設定している。2016年度の高齢者いきいき外来の初診は77件であった。

理学療法では、新規件数は2221件（整形外科病棟の処方件数含む、入院2188件・外来33件）で、その内訳をみると、運動器リハビリ（骨折等）683件、脳血管等リハビリ563件、廃用症候群のリハビリ233件、心大血管リハビリ414件、呼吸器リハビリ155件、がん73件、その他68件であった。

作業療法の新患件数は1017件（入院956件・外来61件）で、その内訳は、運動器リハビリ203件、脳血管等リハビリ517件、廃用症候群のリハビリ136件、心大血管リハビリ41件、呼吸器リハビリ57件、がん15件、その他48件（その内MCIが12件）であった。また、スプリント作製は26件、ボトックス12件であった。

言語聴覚療法は、新患件数520件（入院487件・外来33件）で、その介入内訳（重複あり）は、失語143件、高次脳機能230件、嚥下256件、構音・音声257件、精神賦活171件であった。また、STはNSTチームとして、嚥下障害例の評価を60件実施した。脳血管等リハビリ446件、廃用症候群94件、摂食嚥

下25件、がんリハビリ1件、算定なし3件であった。

臨床心理療法の新患件数は854件（入院743件・外来111件）で、その内訳は、運動器リハビリ84件、脳血管等リハビリ358件、廃用症候群105件、心大血管124件、呼吸器55件、がん18件、いきいき外来新規症例の評価件数77件、MCI研究での新規介入13件、その他20件であった。また、実施した心理検査の内訳は、心理検査（極めて複雑）12件、心理検査（複雑）510件、心理検査（容易）27件、発達知能検査（極複雑）8件、発達知能検査（複雑）2件、発達知能検査（容易）450件、人格検査（容易）21件であった。これらの心理検査を用いて、高次脳機能を評価しながら、認知面のリハビリ介入に取り組んだ。

リハビリ科では退院先に出すリハビリ書類（リハビリサマリー）も581件（自宅29件、転院509件、施設などその他43件）であった。

リハビリ科病床

2016年度は、リハビリ科病床は6階西病棟と6階東病棟の14床でスタートしたが、7月から6西が地域包括ケア病棟となったため、6東と6西に5床ずつの計10床となった。しかし、当院のリハビリ科は急性期病棟を中心とした病床で、他科の急性期疾患が多い時は、リハビリ科の入院は抑制という状況で、2016年度の入院患者数は67例であった。急性期病院でのリハビリとして、リハビリ病床数と入院患者数は減少したが、リハビリ科を経由せずに院内各科から直接回復期リハビリテーション病院などに転院する症例が大きく増加した。

67例の疾患内訳は、脳卒中等（神経変性疾患含む）が44例、廃用7例、運動器6例、心大血管6例、呼吸器2例、その他2例であった。

入院元は、自宅から28例、施設から2例、他院から4例、院内他科からの転科33例（神経内科12例、脳外科8例、循環器4例、心臓外科4例、整形外科2例、呼吸器・脊椎外科・皮膚科が各々1例ずつ）であった。

当科からの退院先は、自宅退院34例、他院への転院24例、老健施設・老人ホーム6例、院内他科への転科3例であった。

2016年度の平均在院日数は18.2日であった。

地域包括ケア病棟

7月より6西病棟が地域包括ケア病棟となり、地域包括ケア病棟で実施したリハビリ症例数は月平均54.3人で、一症例当たりの一泊リハビリ単位数は2.3単位であった。地域包括ケア病棟では、リハビリ科としてのリハビリ実施だけでなく、在宅復帰につなげるため、看護スタッフ（看護師・看

護助手）に対し、積極的にリハビリ指導を行った。地域包括ケア病棟看護師が、より積極的にリハビリの視点を持った看護を実践できるようになることが、当面の目標である。在宅生活への復帰を目指し、病棟・退院支援チーム・医療相談室・在宅看護部門との連携を積極的にすすめた。

院内ラウンドや他科に関連した活動

1) 廃用防止ラウンド：

2014年1月より廃用防止を目的に、リハビリ科で“廃用防止ラウンド”を開始した。2016年度の“廃用防止ラウンド”は、5西と9東の2病棟で週1回実施した。ラウンド対象は、原則ラウンド前1週間に入院した症例とした。

当初のラウンドメンバーは、リハビリ科医師・リハビリ科後期研修医・PT・OTであったが、2016年度はST・歯科医・歯科衛生士・病棟担当管理栄養士も参加するようになり、経口摂取面や栄養面もチームとして検討を行った。身体機能評価を行い、評価表（電子カルテ内文書）に記載し、病棟でのアプローチが望ましい症例は病棟へ情報をフィードバック、リハビリ科でのリハビリが望ましい場合はリハビリ処方を行った。

2016年度のラウンド回数は47回、448例（5西206例・9東239例）をリストアップし、実際に診察したのは368例、リハビリ適応ありとしたのは109例、ラウンド前にリハビリ依頼があったのは44例で、計153例であった。実際にリハビリ処方を行ったのは115例であった。

2) NSTラウンド：

リハビリ科（医師・言語聴覚士）が当番制で週1回のNSTラウンドに参加し、院内の栄養サポートに努めた。NSTでピックアップされる症例について、ベッドサイドでの摂食嚥下評価をST・栄養士・リハビリ科医師が適宜実施した。

3) 経口摂取開始チャートの作成：

リハビリ科医師・ST・栄養士・摂食嚥下認定看護師が中心となり作成した経口摂取開始チャートの円滑運用に向けて、e-ラーニング教材を作成しその院内悉皆研修を企画・実施した。また、病棟毎にチャート使用の説明会を実施、また、実際の演習なども行った。そうした中で、2016年7月よりチャートを全病棟で本格実施した。この一連の経過の中で、禁食率は20.4→15.9%と大きく低下、嚥下食率は8.9→9.6%へと増加した。

次年度に向けて、チャートの改訂版作成、次のe-ラーニング教材を作成し継続予定である。

4) TAVIのリハビリプログラムの作成：

リハビリ科医・PTを中心に、病棟（医師・看護師・ME）と情報共有しやすいリハビリチャートを作成し、電子カルテで運用を開始した。

外来通院可能症例においては、退院後も一定期間、外来リハビリを実施した。

3 研修・教育活動

リハビリ科内のリスク担当が中心となり、リハビリ科全体研修として、

- ・ ルート管理に関する勉強会研修会と講習会：2016/9/26
- ・ リハビリ科夏の緊急時対応練習（シミュレーション&BLS練習）：2016/6/21
- ・ リハビリ科冬の緊急時対応練習（シミュレーション&事例検討会）：2016/12/15

を実施した。

健康増進センターでの「BLS・AED講習会」をリハビリ科医師が担当し年間12回実施した（小山照幸）。

看護・ケア技術の向上に貢献するため、理学療法士が講師となり、新入看護職員・看護助手に対するADL介助法の研修を行った。

また、言語聴覚士が講師となり、看護師向けの嚥下研修を実施した。嚥下を考える際に、ADLや姿勢の問題も避けては通れないことから、理学療法士・作業療法士も協力して、実習という形での指導も行った。

院内NSTに、リハビリ科（医師・言語聴覚士）も参加し院内の栄養サポートに努めた。

緩和病棟のリハビリも必要に応じ実施し、カンファランスにリハビリ科スタッフと医師が参加している。

板橋看護学校におけるリハビリテーション教育のため、リハビリ科医師・リハビリ病棟看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が分担して、リハビリテーション講義を行った。

外部研修を受けてきた職員は、スタッフ間で伝達講習を実施し、リハビリ科内での情報・技量伝達に努めた。

カンファランス

- 1) リハビリ病棟カンファランス：毎週金曜日に、医師・看護師・リハビリスタッフ・薬剤師・MSWでリハビリ科入院症例の検討会を実施
- 2) MCIカンファランス（週1回）：医師とリハビリ科各部門の代表メンバーが参加し、MCI研究の進捗状況と問題点、症例検討など
- 3) 高次脳勉強会とリハビリ内容の検討（毎週火曜日）：CP・OT・リハビリ科医師

4) 神経内科との脳卒中カンファランス（毎週金曜日）：病棟看護師・リハビリ科医師・PT・OT・ST・CP・MSW（病棟担当医）で、情報交換とリハビリを含めた方針の検討

5) 心臓外科・VADカンファランス（毎週金曜日）：心臓外科医・看護師（病棟やICU）・ME・PT・リハビリ科医等で症例検討

6) 研修医のための朝カンファランス：平日朝8時より実施、リハビリ科医師（加藤貴行）も協力してカンファランス運営を実施

4 その他

一般向け講演会

リハビリテーション科主催で“健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦”を、当センター3階会議室を使用し2016年度は3回実施した。

● 第6回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2016年4月23日開催 ①「MCIについて」加藤貴行 ②「糖尿病と認知機能低下との関係」千葉優子 ③「実践！心身レクササイズ」余暇問題研究所山崎律子

● 第7回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2016年7月30日開催 ①「MCIについて」加藤貴行 ②「口からみえる認知症」平野浩彦 ③「実践！心身レクササイズ」余暇問題研究所山崎律子

● 第8回健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦：2016年11月23日開催 ①「歩行に影響するもの忘れ」金田大太 ②「実践！心身レクササイズ」余暇問題研究所上野幸 ③「高齢者いきいき外来」加藤貴行 ④「体験！認知レクササイズ」平岡 共

各回実施しているアンケートをもとに、多くの人が興味あるテーマを選び、2017年度も同様に講演会を企画していく方針である。

1 人員体制

理学療法部門では新規採用者2名を含め、17名で新年度を迎えた。年度途中で1名の退職があり、7月から16名で業務にあたった。

また、10月から運用が始まった地域包括ケア病棟に専従PTを1名配置した。

2 活動内容・実績

平成28年度、入院患者の理学療法処方件数は2188件（男性975名、女性1213名、平均年齢79.6歳）であった。外来患者の処方件数は33件、実施件数は203件であった。

入院患者の年間理学療法実施件数は29206件であり、このうち病室・病棟での実施数は5723件（19.6%）と病棟で2割程度の訓練を実施しており、急性期、重症の患者への介入を多く行っている。

診療科別処方件数では、整形外科・脊椎外科からの処方が542件（24.8%）と最も多く、次いで循環器内科450件（20.6%）、神経内科の329件（15.0%）、脳神経外科の92件（4.2%）と続き、その他、呼吸器内科、糖・代・内分泌科、膠原病・リウマチ科、心臓外科からの依頼が多かった。

疾患別では、脳梗塞が最も多く、271例（12.4%）であり、次いで心不全253例（11.6%）、大腿骨頸部骨折136例（6.2%）、腰部脊柱管狭窄症の121例（5.5%）、が上位を占めた。

また高齢者特有のいわゆる廃用性機能障害（廃用症候群）が231例（10.6%）と多いのも例年の通りであった。

理学療法の実施期間は平均22.1日であり、その中でも962例（44.0%）が15日以下の実施期間で終了していた。

理学療法終了時の患者の機能レベルは、歩行自立1199例（54.8%）であり、多くの患者が歩行自立の状態を終了していた。「寝たきり」で終了した患者は421例（19.2%）であった。

終了後の動向では、自宅退院が1154例（52.7%）転院が722例（33.0%）であった。転院先は回復期リハビリテーション病棟を持つ病院が多く、引き続きリハビリテーションを継続できる環境への転院であった。

急性期のリハの充実を図るためリハ科では、理学療法士1名と他のリハ専門職1名の2名体制で隔週での土曜日勤務を行っている。

地域包括ケア病棟では専従PTが必要単位数の管理や病棟でのケア指導を行っている。

3 研修・教育活動

（1）職員の知識・技術の向上

職員の知識・技術の向上のため、日本理学療法士協会が行う学会や研修会への参加、福祉保健局が行う専門研修への参加も例年通り行った。

また、これらの研修会に参加した職員による伝達講習を行い、知識・技術の共有を図っている。

新規採用職員については経験を積んだ理学療法士を指導者として割り当て、OJTとして臨床指導を行っている。

（2）研修生・実習生

平成28年度、理学療法士養成校からの実習生は臨床実習4校4名、評価実習3校5名、臨床見学は1校1名の計10名であった。

（3）教育活動

例年通り、板橋看護専門学校に講師派遣を行った。院内では、作業療法士とともに、新規採用看護師に対し、患者の体位交換・移乗介助法の講義、実技指導を毎年実施している。

4 その他

昨年同様「廃用防止ラウンド」でリハ科医師とともに、入院患者の廃用予防のための早期介入を行っており、病院機能評価の中でも良い取り組みとして高い評価を受けた。

理学療法部門で入院中の訓練・指導だけでなく退院後のADLの維持・向上につながるよう、自主トレーニング指導にも力を入れている。

また、診療報酬につながらない業務として、血液内科での幹細胞移植前の運動機能評価や緩和ケア病棟入院患者への介入などを行い、患者サービス向上に努めている。

転院や退院に際して、継続した理学療法が行えるよう経過サマリーを必要に応じ作成し、転院先のリハビリテーション部門やケアマネジャーなどに情報提供している（平成28年度586件）。

1 人員体制

平成28年度4月からは定数7名に対し、作業療法士常勤6名でスタートした。4月後半に育休明けの常勤1名が戻り、定数7名となった。10月に緩和ケア病棟担当OTが1名採用となり、8名となる。内訳は固有職員8名である。

2 活動内容・実績

作業療法では、リハビリテーション科医師と整形外科医師の依頼に基づいて、上肢機能や日常生活動作、認知機能の評価と訓練、およびスプリントの作成や自助具の紹介、家屋評価、ボツリヌス療法における作業療法などを行っている。

平成28年度診療状況は、新規患者が入院956名、外来61名の合計1017名（前年度比18.9%減）であった。

前年度と比べ、外来患者数はわずかに増加したが、入院患者数は減少した。

作業療法取り扱い数（延べ数）は12,493名（前年度比20.0%減）、診療実績は22,423単位（前年度比12.9%減）であった。

算定区分別で見ると、脳血管疾患Ⅰが最も多く517名（50.8%）、続いて、運動器疾患Ⅰの203名（20.0%）、廃用症候群Ⅰの136名（13.3%）、呼吸器疾患57名（5.6%）、心大血管疾患の41名（4.0%）、がん患者リハビリ15名（1.5%）の順であった。

緩和ケア病棟における処方数は33件、取り扱い数は523件、診療実績は880単位であった。

疾患別では、「脳卒中その他脳疾患、脳外傷」が最も多く446名だった。次いで、「その他」が213名（うち廃用症候群136名、軽度認知障害13名）、「リウマチを含む骨関節疾患」が160名、「呼吸・循環器疾患」が99名、「神経筋疾患」が49名、「脊髄損傷とその他の脊髄疾患」が47名、「脳性麻痺を含む小児疾患」が2名、「切断」が1名であった。

骨関節疾患やボツリヌス療法、Dupuytren拘縮治療後などの疾患に対して行うスプリント作成は26件であった。また、平成26年度から行っている廃用ラウンドに引き続き参加した。

院内研究活動として、平成26年度から行っているMCIおよび軽度認知症者を対象とした集団リハビリテーションプログラムでは、新たに13名加えて実施した。さらに平成26年度に開発した自宅で行える体操のDVD教材の効果検証を行い、臨床心理士と協力し、認知教材・DVD制作にかかる報告書を作成した。

3 研修・教育活動

職員の知識や技術の向上のため、作業療法士協会主催の研修会への参加、都立施設の理学療法士・作業療法士会が行う自主研修会などに参加した。

学会発表としては、第13回東京都作業療法士学会にて、リハビリ科で行っている廃用ラウンドの取り組みについてのポスター発表と第50回日本作業療法士学会にて、ボツリヌス療法における作業療法についての症例報告を行った。

学生に対する臨床実習指導では、1年間で3名の実習生を受け入れ、指導した。

院外における教育活動としては、板橋看護専門学校の外來講師を務めた。

院内では新規採用職員に向けた、新人研修を実施した。看護研修では、他職種と協力し、移乗方法の指導や自助食器の紹介や食事姿勢など、食事動作に関する講義を行った。

1 人員体制

2016年度は、年間を通して5人体制で業務にあたった。

2 診療活動・実績

当院言語聴覚部門では、脳梗塞や脳出血といった脳血管障害、脳神経変性疾患、脳腫瘍などにより生じた言語機能障害及びその他の高次脳機能障害、音声・構音障害、嚥下障害などに対する評価・訓練・指導の他、廃用症候群に対する同様の介入を実施した。2016年度の新来、再来を含めたのべ診療件数は6266件で、前年度5889件から前年比約106%と増加が認められた（以後、比率における約は省略）。入院患者のべ件数は5436名（前年度4934名、比110%）、訓練単位数8393単位（前年度7517単位、比111%）とそれぞれ増加した。その反面、外来患者のべ件数は830名（前年度955名、比87%）、訓練単位数1868単位（前年度2079単位、比90%）とそれぞれ減少が認められた。のべ処方数は入院患者487名（前年度626名、比78%）、外来患者33名（前年度56名、比59%）と各々減少したものの、入院患者に対しては患者あたりの介入回数の増加から訓練単位数が伸びたと推測される。

入院患者の内訳は、脳血管疾患等を対象とした訓練実績7181単位（前年度6039単位、比119%）、そのうち早期加算の算定対象は4993単位と83%を占めた。廃用症候群を対象とした訓練実績は1208単位（前年度1305単位、比93%）、同早期加算対象は631単位と52%を占めた。上記から、引き続き急性期患者が診療対象の大部分を占めている状況が確認された。他、がんのリハビリテーションは4件（4単位）、摂食機能療法は180件算定された。また、緩和ケア科への介入が16件（24単位相当の時間）行われた。

言語障害の種類は、失語症その他高次脳機能障害、運動障害性構音障害、精神活動低下に伴う言語機能の低下、摂食・嚥下障害、難聴、音声障害と多様であり、かつ高齢患者を多く受け入れている当院の特性から、既往も含めて障害が重複している例が多く見られた。さらに、発症直後の意識障害や、認知症に伴う情動異常が合併している場合もあり、集中的な機能回復訓練にとられない柔軟な対応が度々必要とされた。

リハビリ訓練以外の院内活動としては、リハビリテーション科全体で実施している廃用防止ラウンドへの参加（週1回の回診）と、栄養サポート

チームへの参加（週1回の回診と、依頼時に摂食・嚥下機能の評価）を継続した。また、2015年度にNSTとして作成した経口摂取開始フローチャートの運用を支援した（依頼時に嚥下機能評価に同席）。

3 研修・教育活動

院外講師活動としては、前年度に引き続き板橋看護専門学校講師を務めた。院内では、1年目及び4年目の看護師を対象とした研修にそれぞれ講師として携わり、またリハビリテーション科新規採用職員を対象とした勉強会にて講師を務めた。加えて、リハビリテーション科主催の軽度認知障害（MCI）に関する講演会の企画・運営に携わった。

自己啓発としては、院内の各種勉強会への参加、院外の関連学会への参加及び研究発表を行い、治療技術の向上に努めた。

院内研究に応募の上1件採択され、進行性失語症の尺度評価に関する研究を進めた。

4 その他

地域活動として、2010年度より参加している板橋地域言語聴覚士連絡会へ引き続き参加し、板橋区周辺地域の病院や老人保健施設等の言語聴覚士との連携強化を図り、情報の共有化を行った。

1 人員体制

リハビリテーション科の臨床心理部門には、5名の固有職員が在籍している。その内1名は、産休・育休中であり、8月から代替の非常勤職員が配属されている。

なお、当部門の心理士1名は被災地支援に関連した研究所業務の責任者であり、兼務研究員として研究所の「福祉と生活ケア研究チーム」に所属している。

2 診療活動・実績

平成28年度の診療実績をみると、医師からの処方箋は854件（入院743、外来111）であった。

延べ取扱件数は7,088名（入院6,166名、外来914名）である。

心理検査の取扱件数は、1030件となっている。臨床心理では、入院患者を中心に、リハビリ意欲、病識への働きかけはもとより、理解・判断、記憶、注意機能などの高次脳機能評価及び機能回復・向上を目的とする認知面の訓練を行っている。対象疾患は、脳血管障害、中枢神経疾患、廃用症候群など多岐にわたる。外来では、退院後に復職を目指す患者などに対する訓練も実施している。

平成28年度は、『高齢者いきいき外来』の受診数が77名であり、77名全てに対して心理アセスメントを実施した。その内、軽度認知障害圏にあると判断され、平成26年度から取り組んでいる、『軽度認知障害に対するリハビリ効果を検証するための研究（以下、MCI研究）』に対する協力が得られた13名に対しては、介入研究前後の心理アセスメントを追加して実施した。さらに、認知リハ群に割り振られた9名に対しては、認知機能トレーニングを実施した（第4期参加者：H28.8月開始）。3月時点でプログラム終了後の3カ月評価も終えたところである。

一方、平成26年度から継続フォローしているMCI研究への参加者については、今年度、第1期参加者（H26.12月開始）が24カ月後評価まで、第2期参加者（H27.6月開始）が18カ月後評価まで、第3期参加者（H27.12月開始）が6カ月後評価まで行われた。

そのほか、MCI研究関連の業務として、平成28年度は、院内外の医師やセラピスト等を講師に、地域の高齢者向けの講演会を年3回開催した。軽度認知障害をテーマとした、このリハビリテーション科主催の講演会には、毎回80名程度の地域高

齢者が参加している。

平成26年度より着手し、心理教材検討会メンバーが中心となって制作が進められてきたホームワーク用プリント教材『ホームワーク用DVD教材（運動）とプリント教材（認知）の制作—軽度認知障害（MCI:Mild Cognitive Impairment）とその近接領域にある高齢者向けの考案された認知機能トレーニングプログラム教材—』がH29年3月に完成し、報告書として製本化された。この教材は、地域高齢者あるいは入院患者のリハビリとしても活用できるものであり、今後、研究対象者向けのホームワーク教材としてだけでなく、地域福祉や臨床での実用化を踏まえて検討されることになる。なお、この報告書は、被災地支援の一環として、研究所を通じて気仙沼市に寄贈されることが決まった。

また、平成27年度に作成したDVD教材を地域で活用することをめざして今年度は、葛飾区と共同でDVD教材使用に関する研究調査を行った。その研究の一環として、7月2日と9月2日の2回、当部門の心理士2名が葛飾区シニア活動支援センターで認知機能評価・運動機能評価等を実施した。

ここ数年の間に、日常のリハビリテーション業務だけではなく、科内の研究業務や地域支援（連携）を推進する役割として当科の心理職へのニーズは増しており、かつ、個別的な責務も多様化・重責化してきている。

3 研修・教育活動

心理職としての知識や技術の向上のため、日本心理臨床学会や高次脳機能障害学会、日本老年行動科学会などに参加した。これらの学会に参加した職員による伝達講習も行った。臨床心理部門内では、定期的な症例検討会、及び文献抄読会も開催している。

放射線診断科

部長 徳丸 阿耶

1 人員体制

〈常勤医師〉徳丸阿耶（部長）
 下地啓五（専門部長）
 櫻井圭太（医長）
 亀山征史（医長）
 飯島健（医員）

〈後期研修医〉石川浩二

〈非常勤医〉15名

2 診療活動・実績

(1) 核医学診断

FDG-PETの年間検査総数は545件で前年度比97%と微減を認めた。このうち重点医療の癌診断に有用とされるFDG-PET検査（腫瘍）は、444件で前年比91%と減少があった。2016年度にはPET-CT機器の入れ替えがあり、多少の影響があったと考えられる。新施設移行後、研究所PETセンターと、病院の画像センター所属の医師、技師、看護師の協力のもと、病院内外への診療的意義を広める努力が積み重ねられている。

保険外（研究目的）のPETの検査総数は全体としては537（前年544）件で前年度比98%とほぼ同等であった。アルツハイマー病診断に有用なアミロイド-PETは97（前年83件）で前年度比117%の増加、アルツハイマー病、嗜銀顆粒性認知症などの病因の一つとなるタウ沈着を評価するPET（脳タウ）は41（前年43件）で、前年とほぼ同等であった。アミロイド、タウPETとも一昨年に比べ検査件数の増加があり、他に追従を見ない当センター独自、かつ高精度の認知症診断技術開発に直結する検査の活用が順調に軌道に乗ったことが示された。病因に迫るこれらの先端的検査手技の有用性は、根本治療薬開発治験にも欠かせないツールとなっており、PETセンター、認知症センターとの協力、カンファレンスなどを通じた良好な協力関係のもとに臨床および研究、治験が施行されている。

RI検査の総検査数2621件（前年2764件）でRI検査全体としては前年度比1%の微減であった。このうち脳血流SPECTは1255件（前年1221件）で前年度比103%の微増、MIBG心筋交感神経シンチグラフィの検査数は353件（前年328件）で前年度比109%の微増、パーキンソン症候群、レビー小体型認知症の疾患の診断で有用な脳ドーパミントラ

ンスポーターシンチグラフィの検査数は333件（前年336件）で前年度とほぼ同等であった。新病院に移設後、認知症診療、パーキンソン病診療における重要性が認知され、核医学検査件数は引き続き高い水準を維持している。

(2) 放射線診断

年間CT検査総数は17,173件（前年17,620件）で、前年度比97%の微減を認めた。

年間MR検査総数は、7,860件（前年7,734件）で、前年度比102%の小幅増加を認めた。このうち重点医療の認知症診断に寄与する認知症関連MRIは1,899例で前年とほぼ同数であった。

かかりつけ医（地域の主治医）の先生方が各種画像診断をインターネットで24時間いつでも予約できるシステム（地域医療連携システム）の運用を今年度から開始した。電話で待たされることなく土日・祝日を含む時間外にも検査内容の選択、患者情報などの入力だけで予約が可能なオンライン連携システムを無料で地域の医療機関に提供している。かかりつけ医（地域の主治医）の先生方と連携・協力して診療を行う地域医療連携枠を活用したMRI検査数は191件（前年）200件、CT検査数は106件（前年112）件で、ほぼ横ばいである。うちオンライン予約は、MRIで20%を占めるまでになり、今後の活用幅の広がりが期待される。

(3) CT、MRIの診断については、それぞれ89%、92%の実施検査について翌診療日までに画像診断報告書を作成し、最終的にCT、MRIで99%、RI、PETでは100%のレポート作成が達成された。

3 研修・教育活動

徳丸は東邦佐倉医療センター放射線科客員教授、帝京大学医学部非常勤講師として大学院生および医学部生に対し、神経放射線診断の基礎及び応用について講義を行っている。また多施設共同研究の中央読影において、認知症、進行性核上性麻痺、皮質基底核変性症など早期診断研究に供されるMR画像の質的診断を行っている。KNP神経画像コンサルタント、日本神経放射線学会評議員、NR懇話会世話人等。

下地は生理学研究所と基礎生物学研究所を中核機関とする先端バイオイメージング支援プラットフォームに参画し、北海道大学、東北大学、国立精神・神経医療研究センター、名古屋大学、九州大学など全国各地の研究機関と脳画像解析に関連した共同研究や技術支援を行っている。

櫻井は名古屋市立大学大学院総合認知症学特論

にて講師として大学院生に画像診断の講義を行っている。また日本神経病理学会関東地方会や名古屋神経病理アカデミーにおいて神経放射線画像コンサルタントとして、神経病理診断が得られた症例の画像診断を積極的に行い、東海神経放射線勉強会、NR懇話会、ニューロイメージングカンファレンス世話人。難知性疾患政策研究事業神経変性疾患領域における基盤的調査研究班、大脳皮質基底核変性症剖検例における臨床像の解明および臨床診断基準の妥当性検証～多施設共同研究に参画している。

常勤医師と後期研修医は火曜日に行われる神経内科、認知症カンファレンス、水曜日に行われる病理解剖スライドカンファレンス、木曜日に行われる臨床各科と病理診断科によるCPCカンファレンスへの参加を継続している。

4 その他

放射線診断科は、病院のスタンダードを守る砦である。

新病院移設後、そのスタンダードレベルを上げること腐心してきたが、重点医療のがん診断における画像診断の意義は大きく、できるだけ遅滞なく検査を施行し、また翌診療日までに診断レポートを提出することに努めている。さらに、最新検査機器を育て、十全に機能させることが望まれる。

画像検査の重要性が増すとともに検査件数の増加があるが、対応する機械、人員には限界があり、予約待ちの増加が課題となっており、常勤技師、放射線科専門看護師、常勤医師の増員が課題となる。高齢者救急病院として、救急における緊急検査に可及的対応を重ねているが、十全な対応維持のためにも、医療スタッフの充実、高磁場MRの増設が課題となる。

重点医療の認知症診断において、当センターも忘れ外来、関係各科、ブレインバンクのレベルの高さは言を俟たない。画像診断もまた、今日の認知症診断においては欠かせない重要診断ツールとなっている。早期の正確な診断は、その後の治療、介護、看護の適切な介入に直結するものであり、保険収載されている診断技術の洗練とともに、最新鋭の診断技術との連携を経て、最新の正確な診断技術を提供することが、本院放射線診断科の役割である。

1 人員体制

〈放射線診療科部長〉山川通隆

〈放射線治療科部長〉山川通隆が兼務

2 活動内容・実績

●診療実績 () 内の数字は前年度実績

平成28年度は、施設基準が満たされ、放射線治療料の10割保険請求を維持できている。放射線治療専任加算(330点)、外来放射線治療加算(100点/日)、定位放射線治療(63,000点)の請求も維持できている。

年間のべ治療患者数は、高エネルギーX線：1,977人(2,133人)、4,366件(4,531件)、高エネルギー電子線：182人(109人)、182件(109件)、放射線治療管理料：172例(171例)であった。前年度よりもX線治療患者が若干の減少であったが、電子線治療患者が大幅に増加した。

平成28年度の放射線治療症例数は131例(122例)と若干の増加が認められた。性別は男性67例、女性64例であった。

症例の内訳は、肺癌49例、血液がん25例(うち白血病12例、悪性リンパ腫11例)、皮膚癌15例、食道癌11例、乳癌9例、頭頸部癌5例(うち喉頭癌4例)、大腸癌5例、泌尿器系癌3例、その他であった。そのうち、骨転移が28例、脳転移が21例で、昨年度よりも増加した。年齢は、後期高齢者：66例(50.4%)、前期高齢者：37例(28.2%)、非高齢者：28例(21.4%)と、非高齢者の比率が増加した。90歳以上の超高齢者は11例(13.0%)であった。

造血幹細胞移植前処置の全身照射(30,000点)は13例(9例)と前年よりも増加した。

しばらく行われなかった肺癌の定位放射線治療(63,000点)も平成29年に入り、2例に施行し、合計56例となった。

3 研修・教育活動

平成28年9月に、放射線治療認定医の更新を行った。日本医学放射線学会研修指導者として認定されており、当院も日本医学放射線学会の放射線科専門医修練機関に認定されている。

4 その他

東京都がん診療連携協力病院に認定されており(平成28年4月1日～平成32年3月31日)、必要な放射線治療を提供している。

1 人員体制

内視鏡科の人員体制は常勤医師として西村誠と松川美保が、また非常勤医師として倉岡賢輔と宮下薫が内視鏡検査全般や治療内視鏡として内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）・超音波内視鏡（EUS）・超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）・内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）などを行っている。外来、内視鏡診療および入院診療を消化器内科と共同して行っており院内コンサルトや緊急内視鏡もほぼ当日に施行している。ESDに関しては昨年同様、コンスタントに年100例を超えるようになってきており、近隣の病院で切除できなかった病変の紹介も増えている。EUS-FNAもESDと並んで当科の診療業務の大きな柱の一つとなっており、膵腫瘍のみならず腹腔内や縦隔リンパ節の穿刺目的の紹介も増加している。日帰り入院や一泊の治療内視鏡入院が多数を占めるために、担当病棟の平均在院日数を下げることに寄与できている。医師事務としては齋藤宏子が外来問診の介助や莫大な量の紹介状・逆紹介、データ整理などに貢献している。

内視鏡科・消化器内科ともに消化器内科の後期研修医である武村拓也と廣田旭亮、および初期研修医に対して内視鏡業務のトレーニングおよび消化器内科全般の研修、消化器癌の化学療法の教育を行っている。

2 診療活動・実績

外来診療は初診患者のみならず腹痛や消化管出血などの予約外患者を診ており、必要なものに対しては当日に緊急入院・緊急内視鏡を行っている。他院からの紹介患者に対して上部・下部内視鏡、EMR、EUS、EUS-FNA、ERCPなどを行っている。スタッフ増減で年度でのばらつきはあるものの毎年安定した件数を安全に行っている。件数の推移を以下に示す。

	H27年度	H28年度
NBI内視鏡	192	391
内視鏡的粘膜切除術（EMR）	775	721
超音波内視鏡下穿刺術（EUS-FNA）	124	103
内視鏡下粘膜下層剥離術（ESD）	120	103
内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）	203	192

入院診療は消化器内科と合同で8階西、8階東病棟合計56床で診療を行っている。各種検査入院や内視鏡後のクリティカルパス入院のみならず切

除不能消化管癌患者の化学療法目的入院、および緩和治療目的入院も増加傾向であり、当科の目指す早期癌から進行癌までの継続した医療を提供できている。新規入院患者数は平成27年度1928人から平成28年度2037人へ増加している。

3 研修・教育活動

初期研修医に対しては消化器疾患を数多く担当させることで消化器患者のマネジメントを教育しており、治療内視鏡にも積極的に参加させてearly exposureを行っている。また後期研修医からは実際に内視鏡を行うハンズオントレーニングを行っている。上部内視鏡から開始し、その後大腸内視鏡、治療内視鏡を教育している。初期・後期研修医には年に2回開催される内視鏡学会地方会で発表してもらうことで学会発表のノウハウを教育しており、また地方会の後には内視鏡学会発行のProgress of Digestive Disease誌に投稿してもらい論文作成の指導を行っている。スタッフに対しては国際学会（DDW、UEGW、APDW）への発表を指導して経験をつませるとともに国際的視野を磨かせている。

西村が臨床修練指導医であることから海外医師の見学も多く、2016年にはDr.Jason Samarasena（アメリカ）、Dr.Michal Spychalski（ポーランド）がESD見学を行った。また2016年2月から5月にかけて、Dr.Jonas Woo（イギリス）に対して医師免許を発行してハンズオントレーニングを行った。

4 その他

診療では平成28年からESD・ERCP症例がさらに増加傾向であり、連日のように治療内視鏡を行っている。研究所とのトランスレーショナルリサーチも順調であり、科研費（基盤C）の研究として西村と松川がEUS-FNA検体による膵腫瘍と膵嚢胞におけるエクソソームの解析を伊藤研究室（老化機構研究チーム）・病理診断科とともに共同で行っている。また病理診断科の松田陽子医師、新井富生部長とともに膵腫瘍や消化管腫瘍から採取した検体にを用いた次世代シーケンサー解析を行っている。慶應大学矢作研究室とともに切除不能膵癌に対すdsRNA製剤のEUSガイド下注入療法の確立に向けて臨床研究を行っている。

1 人員体制

〈部長〉宮本 鋼
 〈医員〉橘 盛昭

2 診療活動、実績

化学療法科は外来部門である外来化学療法室および11階西病棟を中心に運営されている。11階西病棟に10床を擁し、血液悪性疾患を対象として入院加療を行っている。

外来化学療法室においては、呼吸器科、リウマチ膠原病内科、血液科、外科、消化器科、脳外科、泌尿器科による御協力をいただき運用した。関係各位に深く御礼申し上げる。運用の実績としては年間患者総数934名であり昨年度より約5%の増加が見られた。内訳は下記の如くである。

平成26年度の診療報酬改定により、外来化学療法加算の適応が点滴のみに縮小されたため、総数は減少傾向にあったが、今年度は改善傾向が見られた。その中で泌尿器科、血液科が大きく減少し、当科、外科、呼吸器科が増加した。なお、新規に脳神経外科による外来化学療法が行われるようになった。

化学療法科単独での外来については延外来患者数2446人であり、前年より15%の増加であり着実な成長が見られた。延初診患者数は56人であり、前年度と横ばいであり、ここ数年の減少傾向に歯止めがかかった。当科の性質上、院内紹介による

初診患者は多数受け入れているが総数は不明である。

化学療法科単独での入院加療については延入院患者数3031人であり、これも前年度と横ばいであった。病床利用率は83.0%、平均在院日数18.4日であり効率的な運用ができた。

3 研修、教育活動

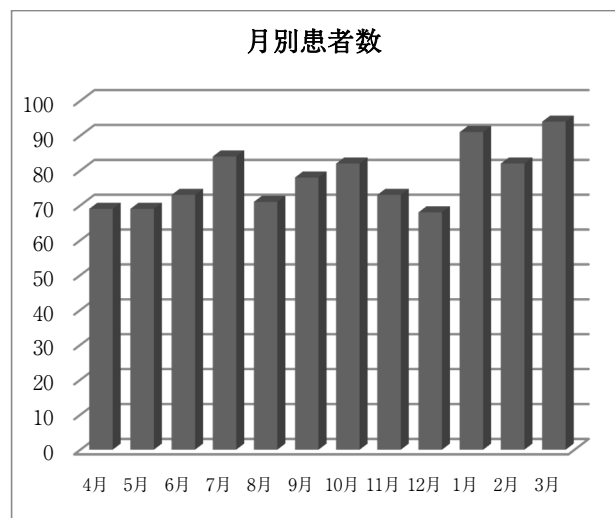
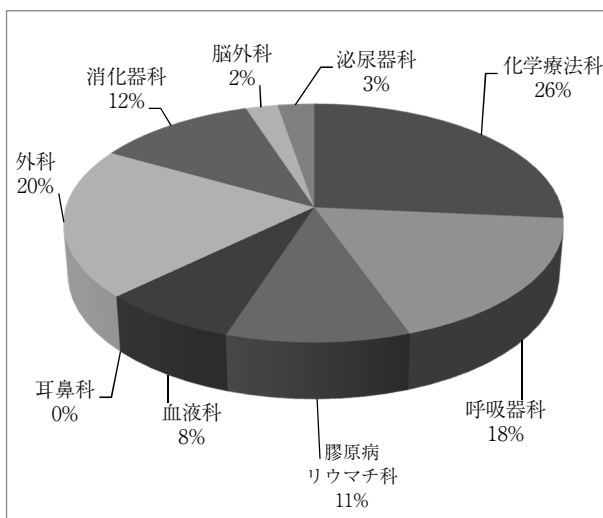
ベッドサイドカンファレンスを血液内科と月曜正午より共同運営している。

近年の悪性リンパ腫、骨髄腫対象の薬物療法は長足の発展を遂げ、その開発スピードは目を見張るものがある。当科に於いても適時導入しているが、その適応の判断は時に困難な場合もあり、悪性リンパ腫、骨髄腫専門カンファレンスを外部の専門家と共に木曜午後に運営している。

別紙のごとく研修医の方は、学会発表を必須のものとして指導している。

4 今後の展望

外来化学療法は、平成26年度に保険診療的側面においては大きな転換点を経験した。しかしながらその存在意義は悪性疾患患者管理において非常に大きい。本年度において再度増患の傾向が確認され、患者減少については底を打った。今後ますます増大していくであろう。高額な抗腫瘍薬も次々に認可、使用開始されており、これからも安全かつ確かな化学療法の施行を第一に運用していく。



1 人員体制

法人移行後、臨床検査科の安定運営を確保するために当初予定より早期に都派遣職員の解消を行い、法人固有の職員採用を実施してきた。27年度末には1名の都派遣職員が在籍したが、派遣解消は行わず、28年度途中で固有職員2名の経験者採用を行った。また、耳鼻科による聴力検査の増加に伴い非常勤ではあるが聴力検査及び平衡機能検査を専任で行う非常勤職員の採用を行った。その結果、平成28年度は臨床検査科では都派遣1名、固有34名（輸血・細胞療法科職員含）、非常勤職員6名となり臨床検査部長、臨床検査医長（病理診断科部長兼務）、超音波検査室長（循環器医長兼務）が在籍している。

独法化以降、臨床検査科では40代職員（いわゆる中堅職員）が不足しており、経験者採用も積極的に実施し年齢構成のバランスを保つよう努力しているが、人材確保に苦慮している状況が続いている。

平成29年度採用に向けても新卒・既卒を問わず広く人材を集めていく予定である。

また一方では、独立行政法人化に移行した際採用された若手固有職員育成が実りつつあり、各種認定試験などにも積極的に取り組み技術と知識の向上に努めてきた。

2 診療活動・実績

地方独立行政法人化8年目となり、更なる経営努力を実践している。

臨床検査部門は診療支援部門として365日24時間体制の緊急検査の報告時間短縮、安全対策、検査精度の向上など日頃から業務改善を実施している。さらに、組織一丸となって『患者サービスの向上』、『収入増策』、『コスト削減策』などの重点課題に取り組んでいる。

その取り組みとして、今年度は臨床検査システムと生化学・免疫自動分析装置の更新を実施した。

臨床検査システムにおいては検体受付から報告までの工程管理を強化し、検査漏れや遅れをリアルタイムに確認しながら業務を行えるようにしTATの短縮に貢献できるようにした。また、前回値チェック機能も強化することで、自動登録（承認）機能も取り入れて業務の効率化を進めている。

また、生化学・免疫自動分析装置においては、生化学免疫の連結型分析装置にすることで従来の搬送システムをなくすことができた。

その結果、以前は搬送システムにより職員の動線が分断されていたが、動線を考慮した機器配置を行いスリム化することができた。

患者サービス向上では、患者様に不愉快な思いをさせない接遇を心がけてきた。特に、外来採血室においては待ち時間短縮と患者間違い防止に注力し、各職員の採血技術向上に努めている。また、混雑時の応援体制も強化し、平成28年度は前年度より採血件数が約7%増加したが、待ち時間に対する患者クレームはほぼなかった。さらに、各採血ブースに職員が撮影した写真を飾ったり、職員提案制度で出されたリラクゼーション効果のあるアロマを導入するなど環境改善も試みている。

増収策では聴力・平衡機能検査を担当する非常勤職員を採用した事で、27年度の1300件から2300件と大幅に増加した。また、外部委託していた尿素呼気試験の院内検査を開始し、即時報告を行い診療の効率化に寄与している。

コスト削減では、試薬や物品について適正在庫管理を徹底し、不良在庫削減とSPD調達品への移行を行ってきた。また、診療材料や消耗品についても検査精度に問題がなければ適宜安価な物に切り替えを行ってコスト抑制に努めている。さらに、部門ごとに管理していた物品も業務に支障のない範囲で一元管理を行い、無駄な在庫の縮減に努めている。

臨床検査技師の分野においても専門性を求められる中で、ベテラン職員による若手技師への技術指導と知識の向上など人材育成にも力を注ぎ、各職員が認定資格取得を目指して研鑽している。平成28年度は認定超音波検査士に1名の技師が受験している。またそれぞれの分野で専門性を発揮し、チーム医療の充実に寄与している。ICTやNST活動、糖尿病療養指導、移植療法や血管再生治療など臨床検査技師が関わる分野も拡大し、積極的な臨床支援を実施している。

人材育成としては、血液および骨髄細胞の形態判読能力向上と、検査精度の充実に図るため、毎週合同で骨髄標本の顕微鏡観察を主体とした症例検討会を血液内科医師の指導のもと実施し、全担当職員が必ず参加している。

さらにチーム医療として、実際に、化学療法科、薬剤科、病理診断科などとも密に連絡を取り合い患者サービスの向上に取り組んでいる。

生理検査部門においても定期的な内部勉強会を実施し、検査技術だけでなく知識的部分の向上を図っている。特に需要の高い超音波検査について

は、検査可能な人材の育成に努力し、職員同士が協力しあって技術習得を行ってきている。

検査実績では、検体系の件数はほぼ横這から微増であるが、生理検査部門においては増加傾向にあり、全体としても臨床検査科での取り扱い検査件数は増加している。

超音波検査、聴力検査は増加している。特に超音波検査で心臓超音波、血管超音波、頸動脈超音波の伸び率が高く、今後も臨床からの要望に応えられるよう人材育成を含め体制の整備が急務である。

3 研修・教育活動

定期的な検査科全体での勉強会の他、部門内でも勉強会を実施している。また、各学会や研修会に参加できるよう勤務調整の他、参加費等の援助も行っている。

1 人員体制

〈医師〉小林寿美子、小倉和外
 〈常勤〉谷田部元野、阿部真愛、額賀さおり

当科のスタッフは、医師2名(2名とも認定医)、常勤臨床検査技師3名の計5名体制である。

2 活動内容・実績

主な業務内容は、1) 輸血関連検査(血液型検査・不規則抗体検査・交差適合試験)、2) 輸血用血液製剤の管理、3) 移植細胞の管理、4) 自己血貯血と管理である。平成28年度(平成28年4月～平成29年3月)の輸血実績は、赤血球製剤(自己血除く)2,722件(6,958単位)、濃厚血小板1,315件(14,225単位)、新鮮凍結血漿387件(1,882単位)で前年度に比較して血小板以外は使用量の減少であった。自己血輸血の計画、採血実施、保管、運用を継続中である。平成28年度の自己血輸血の実績は、116例(297単位)で対前年比較ではやや減少傾向にあった。自己血貯血の実施は週2回から3回に依頼日を拡大して今後も年齢に関係なく高齢者対応を行っている。

当科の最大の目標である安全な輸血療法の実施に向けて、1) 適応に合致する輸血療法の実施、2) 人為的ミスの排除、3) 輸血療法による副作用への対策を柱として、現状の把握と改善策の具体化を常に心がけている。1) については輸血療法の適応について担当医との協議を行い、また当院での適正な輸血療法の指針を具体的に提案し、輸血・細胞療法委員会で審議の上、院内に周知している。安全な輸血医療の実践のための輸血・細胞療法委員会は、年6回実施している。2) については輸血用血液およびアルブミン製剤を輸血・細胞療法科が一元的管理を行い、製剤の品質管理を徹底している。ABO不適合の移植患者では、移植後使用する血液製剤が製剤種毎に血液型が異なるため、システム化し製剤毎の血液型不適合輸血を防止に努めている。また輸血委員会が中心となり平成28年度には廃棄率の徹底と準備使用率の低下はほぼ100%に達成できた。3) については輸血副作用の情報収集につとめ、事後処理が適切に行えるよう必要な情報を担当医に速やかに提供する体制を整えている。このような業務管理により、血液製剤の使用および管理の適正性が評価され、診療報酬の輸血管理料Ⅰ及び輸血適正使用加算を継続中である。

さらに細胞プロセッシング業務として、造血幹細胞移植での細胞採取に参画し細胞処理業務を行った。血液内科との連携のもと、骨髄移植は4例に実施、細胞採取5症例10回と昨年度と同等の実績を維持し、臍帯血移植保存管理は13例で対前年と比較して1例の増加であった。

3 研修・教育活動

- 1) 研修医の研修では、当直時間帯における血液型検査、血液製剤の適正使用について教育を行った。年度初めには全員への啓蒙を実施した。
- 2) 平成28年度は看護師を対象にした輸血勉強会を2回実施し、血液製剤の適正使用、取り扱い時の注意点などについて啓蒙した。
- 3) 平成28年度に採用された臨床検査科職員を中心に輸血関連検査等の研修を実施し、当直時にも対応できる体制を整え新システムのコンピュータに対応可能な教育を随時行なっている。
- 4) 東京都職員輸血分野別検討会で行われた都立病院・東京都医療公社施設全技師対象の輸血精度管理事業「輸血凝集サーベイ」に参加した。
- 5) 臨技臨床検査精度管理調査に参加した。
- 6) 都内医療大学より実習生を3名受け入れ研修教育活動を実施した。
- 7) 新規に院内輸血セミナーを年2回実施した。

4 その他

- 1) 平成28年12月には日本骨髄バンク認定採取施設(末梢血幹細胞採取、DLI採取、骨髄採取)を取得した。
- 2) 学会参加：第4回日本臨床検査技師首都圏支部医学検査学会、東京都臨床検査技師会輸血研究班研修会参加、日本輸血細胞治療学会及び日本臨床衛生学検査技師会主催の輸血テクニカルセミナー参加

1 人員体制

〈部長〉新井富生
 〈医長〉松田陽子、藤ヶ崎純子（兼務）
 〈常勤医師〉関 敦子
 〈後期研修医〉野中敬介、柿崎元恒
 〈非常勤医師〉熊坂利夫、坂本 啓、山本浩平（平成28年9月まで）、倉田盛人（平成28年10月から）、濱松晶彦
 〈技師等〉鈴木明美、木下真由美、白幡浩人、江坂四季音、浜島裕理、今泉雅之、木曾有里、児島宏哉、緑川広紀
 〈非常勤〉小林幸子（平成29年2月まで）、岸 律子（平成29年3月から）

2 診療活動・実績

（1）生検・手術・術中迅速検体・免疫染色・電子顕微鏡検査

検査種類	H27	H28	対前年	対前年比
生検・手術検体	3565	3336	-229	93.6%
細胞診	1630	1757	+127	107.8%
術中迅速	57	58	+1	101.8%
免疫染色	736	635	-101	86.3%
電子顕微鏡	49	40	-9	81.6%

細胞診の件数に増加がみられた。

（2）病理解剖

	H27	H28	対前年	対前年比
解剖数	63	82	+19	130.2%
院内解剖率	10.5%	12.7%	2.2%	121.0%

前年度に比べ病理解剖数・院内剖検率がともに増加した。

（3）慰霊祭

平成27年度病理解剖例を慰霊する目的で、平成28年10月24日に慰霊祭が板橋区立グリーンホールにて執り行われた。

3 研修・教育活動

（1）オルガンコントロール・スライドカンファレンス

当センターにおいて病理解剖された症例は全例オルガンコントロール（肉眼所見カンファレンス）を金曜日午後に、スライドカンファレンス（組織所見を含めたカンファレンス）を水曜日夕方に行

っている。平成28年度のオルガンコントロールは31回（第1386～1416回）、スライドカンファレンスは34回（第1586～1619回）行われた。

（2）臨床病理検討会（CPC）

別表に示す通り、CPCを16回開催した。その内訳は第781回から第795回の15回（当センター症例による豊島病院との合同CPC 1回を含む）と豊島病院症例による合同CPC 1回の合計16回である。16回のCPCのうち、公開CPC 4回、雑誌掲載CPC 4回、豊島病院との合同CPC 2回が含まれる。

（3）Weekly review、細胞診と組織診の対比の会

病理診断に関わる知識・技能の向上を目的として、典型例・診断困難例・稀有例などを木曜日午後、病理医が全員集まって鏡検する検討会を開催した。また、細胞検査士が中心となり細胞診と組織診の対比の勉強会を月1回を目処に開催した。

（4）EUS-FNA検討会

超音波内視鏡下穿刺吸引法（endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration, EUS-FNA）による膵、胃、リンパ節などの検体が提出されるようになったため、診断能力向上と穿刺術へのフィードバックを目的として、病理診断科、内視鏡科、消化器内科が協力して検討会を開催した（別表参照）。

（5）呼吸器病理供覧会

高齢者の呼吸器疾患の診療の向上のために、病理診断科、呼吸器内科、呼吸器外科共同で検討会を平成28年2月から開始した（別表参照）。

（6）腎臓カンファレンス

高齢者腎疾患の診療の向上のため、平成28年7月から病理診断科、腎臓内科共同で検討会を開始した（別表参照）。

4 その他

平成28年4月から後期研修医（病理研修1年目）1名が当科で研修を開始した。現在、病理研修4年目の後期研修医と合わせて2名が研修中である。

新しい専門医研修制度に対し、「東京都健康長寿医療センター病理研修プログラム」を策定し、日本病理学会、日本専門医機構に申請し、基幹病院として承認された。

CPC (Clinico-Pathological Conference : 臨床病理検討会)

CPC 番号	実施日	剖検番号	年齢	性別	臨床診断	病理診断
781	2016/4/14	Y-9851	88	女性	肺気腫, 肺炎, 急性呼吸不全, 右心不全, ショック状態, 腎盂腎炎	肺梗塞+重度肺気腫, [右心不全](右心拡大+うっ血肝), [サルコイドーシス疑い](類上皮細胞性肉芽腫), 腎盂・膀胱炎, 大脳脚虚血, 肺過誤腫
782	2016/4/28	Y-9867	78	女性	原発不明癌, 播種性血管内凝固, 敗血症	胃癌(全身転移), 出血傾向
783	2016/5/26	Y-9849	86	男性	心原性脳梗塞, 糖尿病, 高血圧, 脂質異常症, 真性多血症, 心房細動	急性心筋梗塞, 心タンポナーデ, 両側中大脳動脈領域出血性梗塞, 中脳被蓋出血, 肝脾腫, [敗血症](過形成性骨髓), 肺出血
784	2016/6/23	Y-9838	78	女性	右心不全, 肺塞栓症疑い, 肺炎, 関節リウマチ, リンパ節腫大, ショック状態	MTX-associated lymphoproliferative disorder, EBV-positive, 心外膜出血, 心嚢穿孔, 血胸, 肺塞栓症+下肢静脈血栓, [関節リウマチ](手足指の変形, 環軸椎関節亜脱臼, 間質性肺炎), 陳旧性心筋梗塞, 脳梗塞
785	2016/7/14	Y-9855	70	男性	急性感染性心内膜炎, くも膜下出血, 急性骨髄性白血病, 臍帯血移植後免疫不全, 播種性血管内凝固	全身性アスペルギルス症, くも膜下出血, 急性骨髄性白血病, 僧帽弁置換術後
786	2016/7/28	Y-9843	84	女性	出血性ショック, 消化管出血, 慢性心不全, 虚血性心疾患, 弁膜症, 完全房室ブロック, 糖尿病性腎症(腎不全), 肺炎	サイトメガロウイルス感染症(肺炎, 肺炎, 腸炎, 副腎炎), 陳旧性心筋梗塞(後側壁・前壁), [糖尿病], 血栓(肺・肝臓, 左大腿静脈, 脾動脈), 系統的動脈硬化症
787	2016/9/8	Y-9841	42	男性	急性肝炎, アレルギー性肉芽腫性血管炎, 軽度精神遅滞・その他の行動機能障害あり	Varicella zoster virus 全身感染, 出血(全身諸臓器・皮膚・縦隔・左大腿動脈周囲), [拡張型心筋症の疑い](心筋線維化+拡張)+拡張
788	2016/10/13	Y-9880	83	男性	横紋筋融解, 急性腎不全, 急性心不全, 播種性血管内凝固, 敗血症, 出血性貧血	急性腎皮質壊死+ミオグロビン尿症疑い, 多発性横紋融解症, 膀胱穿孔+小腸穿孔+血性腹水, 梗塞(肝臓+脾臓+舌), 諸臓器出血傾向, 気管支肺炎
789	2016/10/27	Y-9876	80	女性	筋萎縮性側索硬化症, 誤嚥性肺炎	筋萎縮性側索硬化症, 右巣状肺炎, 腭上皮内腫瘍性病変
790	2016/11/24	Y-9885	80	女性	低酸素性脳症, 2型糖尿病・神経学的合併症あり, 深部静脈血栓症, 誤嚥性肺炎	腭尾部癌(多発転移), Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy+肺梗塞+陳旧性肺結核, 非細菌性血栓性心内膜炎, 左鎖骨下静脈血栓症
791	2016/12/8	Y-9886	89	男性	盲係蹄症候群, 急性胆管炎, 慢性心不全, アルツハイマー型認知症, 2型糖尿病・糖尿病性合併症なし	胃癌(胃全摘, Roux-en-Y再建状態)局所再発による十二指腸・空腸吻合部狭窄・肝転移, 肝膿瘍, 敗血症, 多発性脳梗塞, 腭尾部に腭上皮内腫瘍性病変, 冠動脈グラフト術後(大動脈・左冠動脈前下行枝)
792	2017/1/12	Y-9905	78	女性	十二指腸癌, 2型糖尿病, 本態性高血圧症, 脳梗塞	十二指腸癌術後状態(再発なし), 固有肝動脈, 門脈壁破綻+腹腔内出血+腹膜炎, 肝硬変, [糖尿病](ラ氏島硝子化+糸球体細動脈硬化+系統的動脈硬化症), 心内膜下梗塞, 器質性肺炎+胸水
793	2017/1/26	Y-9901	96	男性	多発血管炎性肉芽腫症, 結腸穿孔	S状結腸憩室穿孔+腹膜炎, 巣状肺炎+サイトメガロウイルス感染+両側胸水(600ml, 400ml), [腎不全](腎硬化症), 大動脈弁狭窄症+左室肥大, 膵管内乳頭粘液性腺癌, 非浸潤+ラ氏島硝子化[糖尿病]

CPC 番号	実施日	剖検番号	年齢	性別	臨床診断	病理診断
794	2017/2/9	Y-9908	87	男性	間質性肺炎急性増悪, ヘルペス脳炎, ステロ イド糖尿病, 汎下垂体 機能低下症の疑い	間質性肺炎, 融合性肺炎, 巣状・小葉中 心性肺気腫, Herpes simplex menin- goencephalitis, Incidental Lewy body disease
-	2017/2/23	豊島病院 症例	30	女性	急性腹症, 脂質異常症 (高TG血症)	急性壊死性膵炎, 気管支喘息, 肺炎, 子宮頸管炎
795	2017/3/9	Y-9911	70	男性	骨髄異形成症候群, 移 植片対宿主病	低形成性急性白血病 臍帯血移植後, 急性膵炎, 急性間質性肺炎+巣状肺炎, 全身出血傾向

消化器CPC

回	実施日	検討症例
504	2016/4/11	早期胃癌、胃三重癌、腹壁GIST
505	2016/5/9	胃粘液癌、大腸スピロヘータ症
506	2016/6/13	胃四重癌、胆嚢腺癌、膵臓神経内分泌腫瘍
507	2016/7/4	大腸赤痢アメーバ症、胃低分化型腺癌
508	2016/9/5	食道癌、薬剤性食道炎、膵癌
509	2016/10/3	直腸癌、膵癌、食道潰瘍
510	2016/11/7	食道癌、肝臓癌
511	2016/12/5	十二指腸癌、GIST肝転移、胃悪性リンパ腫
512	2017/1/16	食道バレット腺癌、胃大腸マイクロサテライト不安定性癌
513	2017/2/6	食道扁平上皮癌、膵癌、胆嚢腺癌
514	2017/3/6	食道胃接合部癌、食道扁平上皮癌、大腸マクロサテライト不安定性癌

EUS-FNA検討会

回	実施日	検討症例
12	2016/4/27	膵腺癌肝転移, 膵腺癌, 膵嚢胞性病変, GIST, 膵嚢胞性病変
13	2016/9/20	GIST, リンパ節NEC, 膵腺癌, IPMN疑い
14	2016/10/14	膵癌疑い, リンパ節腺癌
15	2016/12/5	膵腺癌, GIST疑い, 膵嚢胞性病変, 膵腺癌, 膵腺扁平上皮癌, 膵嚢胞性病変
16	2017/1/18	胆嚢腺癌, 反応性リンパ節, GIST, GIST, 膵嚢胞性病変, 胃壁外性腫瘍
17	2017/2/8	悪性リンパ腫, 膵腺癌, 胸膜悪性中皮腫, GIST, 肝門部胆管癌
18	2017/3/9	膵腺癌, 総胆管腺癌, AIP疑い, IPMN疑い, Schwannoma

呼吸器病理供覧会

回	実施日	検討症例
2	2016/4/8	肺胞内泡沫組織球浸潤の目立つ病態(異物吸入)、器質化と反応性Ⅱ型肺胞上皮過形成の目立つ病態(薬剤性は否定的)、好酸球増多症
3	2016/7/22	肺腺癌の乳腺転移、サルコイドーシス疑い、胸腺癌(扁平上皮癌)
4	2017/1/13	悪性胸膜中皮腫、肺癌(生検)、カルチノイド腫瘍

腎臓カンファレンス

回	実施日	検討症例
1	2016/7/27	膜性腎症, 糸球体腎炎
2	2016/8/31	膜性腎症, 腎硬化症, 進行性糸球体腎炎, ネフローゼ症候群
3	2016/9/28	ANCA関連血管炎, IgA腎症
4	2016/10/26	IgA腎症
5	2016/12/28	IgA腎症, 糖尿病性腎症, 尿毒症
6	2017/1/25	ANCA関連血管炎

1 人員体制

平成28年度は、採用2名、退職1名と育児休暇中1名の前年度と同じ35名（固有35名）により運営した。

2 活動内容・実績

（1）調剤

外来院内処方箋取扱枚数は4,464枚（前年度比1.2%減）、院外処方箋発行率は96.9%（同0.1%増）と大きな変化はなかった。入院処方箋は前年度の持参薬の使用方法の変更に伴い増加し131,423枚（同7.8%増）であった。

注射セット出しは、入院と外来合わせて103,864枚（同0.2%増）と昨年度とほぼ同じであった。

また、看護師の業務負担軽減策の1つとして、内服定期処方薬の薬剤科での配薬セットを全病棟対象に継続して行った。

（2）薬剤管理指導

28年度は、昨年10月よりICUに薬剤師を配置し、入院全病棟で業務を展開した。更に病棟薬剤師の病棟での業務時間を拡大し、業務内容の充実を図った。その結果、実施患者数及び件数は増加し、薬剤管理指導料算定件数は、区分②特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）が使用されている患者（380点）が8,515件、区分③ハイリスク薬を使用していない患者（325点）が6,528件の合計15,043件（前年度比6.4%増）と過去最高を記録した。

また、昨年10月より運用開始となった地域包括ケア病棟での活動を中心に、ポリファーマシー対策や退院後の服薬アドヒアランス維持に寄与すべく退院指導にも注力し、退院時薬剤情報管理指導料算定件数は3,421件となった。

（3）病棟薬剤業務

28年度も前年度より開始した病棟薬剤師の職能を十分に発揮し、医師や看護師等の業務負担軽減及び薬物療法の有効性・安全性の向上に資することを目的とした病棟薬剤業務を継続して行った。各病棟において、1週間当たり20時間相当以上の業務時間を確保し、処方内容や相互作用のチェック、持参薬確認、医薬品に関する医師や看護師からの相談応需、処方提案などを行っている。結果として、他の医療スタッフへの迅速な医薬品情報提供の体制の強化、医薬品の適正使用及びリスク

マネジメントを推進させると同時に年間約2,300万円の診療報酬を計上した。

（4）医薬品安全管理

薬剤科では、医薬品の安全管理対策として疑義照会に力を入れており、医療事故や副作用等の防止を図っている。28年度の疑義照会により処方変更となった例は1,921件であり、その中でも重要な事例については、日本病院薬剤師会へブレアボイドとして314件を報告した。また、定期的に発行する「クスリのリスク」では複数回ある事例や特に注意を要する事例などを取り上げ、院内全体に向けて注意喚起を促している。

がん化学療法のリスク管理においては、当センターはがん化学療法レジメンを登録制としており、更に電子カルテ導入により支持療法も含めたオーダーをシステム化している。薬剤科はがん化学療法レジメンの事務局を兼務しており、28年度は新規登録20件、合計440件のレジメン内容のチェック、管理運営を行い、個々の抗がん剤オーダーに対しては、全例臨床検査値の確認、セット及び混合調製を実施している。また、免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策として、初回の免疫抑制・化学療法施行前の患者に対して全例既往感染者のスクリーニング、抗体検査の実施状況の確認及び必要に応じた検査依頼業務を行っている。28年度は187件と前年度の約3倍の件数となった。

その他に持参薬確認業務を原則全ての入院患者を対象に行っている。現在予定入院患者は薬剤科窓口で、それ以外の入院患者は各病棟で担当薬剤師が対応し、術前検査センターからの持参薬確認業務と合わせて月平均約820件の持参薬確認業務を行っている。

（5）医薬品管理

28年度末での採用医薬品数は1,539品目と前年度と同じであった。年間出庫金額は薬価ベースで14億706万円（前年度比8.8%増）であった。前年度と比較し薬効別出庫金額占有率では生物学的製剤の占有率が約2倍となり、採用医薬品の後発品への切り替えよりも高薬価な新規医薬品の採用及び使用量の増加が上回ったものと考えられる。

（6）医薬品情報（DI）

院内への医薬品情報提供は、毎月の薬事委員会結果報告、院内副作用情報、隔月発行の薬局ジャーナル等、各部署へのお知らせにより行っている。

また、院内採用医薬品集は、毎月の採用・採用中止薬品の情報を盛り込んだ最新版を院内LANに載せて提供している。更に、院内副作用報告は年間25例あり、その内9例を医薬品医療機器総合機構へ重篤・未知な副作用として報告した。

28年度の後発品導入は55品目で、前年度の107品目よりも減少したが、後発医薬品使用割合は85.9%と前年度の67.0%から著しく上昇した。前回の診療報酬改定において、病院収益に関わる後発医薬品指数が新たに導入されたため、今後も引き続き積極的に後発品の導入を行っていく予定である。また、院外処方箋発行率の増加推進に伴い、採用薬の品目数を増加させることなくこれらの使用を可能とするため、院外処方専用登録を行っている。

(7) 無菌製剤（抗がん剤混合調製、TPN及び末梢点滴の混合調製）

抗がん剤の混合調製は、外来及び全病棟の全患者を対象に行っており、28年度の抗がん剤混合調製件数は4,266件（前年度比0.6%減）であった。全病棟を対象に業務拡大したTPN混合調製業務及び11階西病棟の末梢点滴の混合調製業務の合計件数は、完全キット化されたTPN製剤の使用増加により、2,573件と前年度より減少（同18.8%減）した。

(8) 外来がん患者指導業務

28年度は前年度より開始した薬剤師による「がん患者指導管理料3」の算定を更に発展させた。現在4診療科まで拡充し、指導件数は597件（前年度比43.9%増）、算定件数は203件（同7.4%増）となった。また、経口抗がん剤を含む化学療法施行患者に対しては、コンプライアンス確認と副作用モニタリングを兼ねた電話による患者サポートをのべ年間40件行った。今後も引き続き対象診療科の拡大と指導内容の充実を図っていく予定である。

3 研修・教育活動

(1) 長期実務実習受け入れ

薬学6年制に伴い、22年度より1期11週間（年間3期）の長期実務実習が開始された。28年度は第1期3名、第2期4名、第3期4名と合計11名の実習生を受け入れた。29年度以降も各期4名、年間12名の学生受け入れ、教育活動にも更に力を入れる予定である。

(2) 各種認定取得について

28年度末現在の主な認定取得状況は、NST専門療法士2名、認定実務実習指導薬剤師8名、日本

病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師3名、日本病院薬剤師会認定指導薬剤師5名、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師13名、日本臨床薬理学会認定CRC2名、日本医療薬学会認定薬剤師1名、がん薬物療法認定薬剤師2名、外来がん治療認定薬剤師1名、感染制御認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、精神科薬物療法認定薬剤師1名、骨粗鬆症マネージャー4名、公認スポーツファーマシスト1名、管理栄養士1名となっている。

今後も、高度化・複雑化する薬物療法に対応する人材を養成し、薬剤業務の充実を図っていく。

4 その他

(1) 医薬品安全管理点検業務（ハイリスク薬及び規制医薬品の適正使用の推進）

28年度はそれまで6カ月に1回行っていた院内各部門の医薬品安全管理点検業務を、入院病棟は2週間に1回、外来部門は毎月1回にと頻回に実施するようになった。また、ICU及び手術室に薬剤師が出向き麻薬、毒薬及び向精神薬などの重点規制医薬品の補充及び使用実績の確認業務を開始した。

(2) 医薬品の適正在庫管理

入院病棟や外来部門における医薬品の種類、在庫量などを見直し、品目数及び数量の削減を検討し実施した。特に届け出制特定抗菌薬については、院内感染対策チームと協働で一部の病棟を除き、ほぼ全部署の在庫を撤去し、抗菌薬の適正使用に貢献した。

1 人員体制

〈科長〉府川則子

平成28年度は、常勤7名、非常勤8名で運営した。

2 活動内容・実績

臨床栄養管理推進と患者サービスの向上を図ることを目的に、治療食の調整等食事療養業務、入院時の栄養管理及び臨床栄養食事指導に努めた。

(1) 栄養食事指導

個別指導は、入院及び外来患者とその家族を対象に実施し、入院886件、外来2889件の計3775件で前年度3504件に比較して8%増であった。対象疾患は、糖尿病が1928件51.1%と最も多く、以下、心臓・高血圧症、腎臓病となった。新たに増設された指導項目のがんは81件、摂食・嚥下は49件、低栄養が11件の件数となった。

集団指導は、糖尿病食について入院に外来も対象に加え、加算157名、非加算21名が受講した。

(2) 治療食の調整等入院時食事療養業務

1日当たり給食数は1141食であり、内訳は、一般治療食611食(54%)、特別治療食530食(46%)であった。一般治療食では、常食33%、軟食20%、流動食1%であり、特別治療食の内訳は、塩分エネルギー調整食16%、エネルギーたんぱく調整食1.6%、たんぱく調整食0.8%、となり、加算特別食の割合は24.5%と前年度の26.3%と比較して1%の減少だった。

治療食の調整に当たっては、加齢はもとより咀嚼・嚥下機能の低下がみられる患者が多く、嚥下調整食は5段階に分け、嚥下能力に合わせてステップ1から3の「ゼリー食」と、咀嚼することに問題がある患者に対する「やわらか食」を提供しており、1日当たりの食数は総食数の10%を占めている。一方、きざみ食やきざみとろみ食、ブレンダー食の再加工食は、1日当たりで総食数の25.5%を占め、患者の病状や嗜好等に配慮した禁止・個別対応食は、26.8%といずれも前年度より大きく増加した。これは、27年度末に入れ替えを行った栄養管理システムと電子カルテの改修により、以前より細かな個別対応が可能となった結果である。

(3) 臨床栄養管理について

入院患者へ、医師、看護師と共に栄養状態等の

評価を行い、栄養状態、食形態を考慮した「栄養管理計画書」に基づき、栄養改善が必要な患者に対して、病棟担当の管理栄養士が医師や看護師と連携して栄養管理の提案を行った。また、禁食中の患者に対して摂食嚥下機能に即した経口摂取のためのプロトコールを作成し、啓蒙活動の取り組みを行った。この結果、禁食率は15.8%と昨年度の20.2%から4.4%減らすことができた。

3 研修・教育活動

(1) 研修

高齢患者を中心とした臨床栄養管理が実践できることを目標に局研修・各種学会研修やその他の研修に参加した。

(2) 各種認定取得

28年度末の主な認定取得状況は、日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導士9人、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士5人、日本病態栄養学会認定管理栄養士2人、日本病態栄養学会認定がん病態栄養専門管理栄養士1人となっており、今後も、専門、高度化する臨床栄養に対応する人材を養成し、治療に貢献していく。

(3) 実習生の受け入れ

大学院生(臨床研究)の受け入れ、大学生の受け入れとして2大学の研修を行った。

4 その他

当センターの患者は、平均年齢が80歳以上の急性期高齢者であり、現疾患による制限や調整はもとより、合併症や加齢による摂食嚥下問題も有する患者も多い。病棟担当栄養士が、カンファレンスの参加やラウンドを行うことにより、患者の病態把握に努め、適切な時期に食事内容や形態の提案を行うよう体制を強化している。また、特別治療食を提供している患者には、入院中の食事の説明を行うことにより、治療の一環としての食事への理解を高めてもらい、入院中はもとより退院後の療養生活を支援する体制づくりにも努めている。

さらに、チーム医療としての透析予防事業、地域の連携医から管理栄養士による栄養食事指導を必要と判断された患者を対象に栄養指導を受けられている。NST活動は10年が経過した。28年度のNST回診件数は336件であった。今後とも、多職種と連携し、管理栄養士が中核として発展させていく。

1 人員体制

〈部長〉麻酔科部長 小倉 信兼任
 〈次席〉高岡 祐子・石井 正晃
 〈主任〉本田 博一
 〈主事〉新谷 剛・若杉 卓矢・和田 智至
 小澤 直人・村野井 一樹・梶 真悠子
 小川 将太郎・菅原 美希・玉田 史織
 柴村 真希・佐藤 優
 〈非常勤〉吉田 誠徳

4月に非常勤雇用であった柴村 真希が常勤雇用となり、新規採用で佐藤 優が入職した。

3月末で常勤14名、非常勤1名。

2 診療活動・実績

28年度新規業務として、植込型補助人工心臓管理業務を7月から開始、5名の植込を行い、内3名の外来管理をおこなった。TAVI(経カテーテル的大動脈弁置換術)については12月から開始、7例の症例について対応した。

機器管理業務では修理の一元化を徹底、院内で起きたトラブル事例に対し周知文を作成し、院内の安全管理の向上に務めた。

透析センターは4月から武井腎臓内科部長・板橋血液透析科部長体制の下、入院・外来患者への治療に携わった。血液内科依頼の新規業務として骨髄濃縮業務に携わり、次年度からの非血縁者末梢血幹細胞採取に向けての準備をおこなった。特殊血液浄化は、腹水濾過濃縮や血漿交換、特定集中治療室における持続血液透析濾過、血漿交換、エンドトキシン吸着療法について対応した。

手術室では心臓外科手術、セルセーバの操作、トラブル対応等に従事した。

体外式補助人工心臓(VAD)についてはリハビリや検査などの移動時に同行し、安全な管理ができるように努めた。植込型補助人工心臓業務が開始されるにあたり、安全な導入を念頭に心臓外科担当スタッフが準備や看護師への機器教育をおこなった。開心術後、経皮的心肺補助、VAD稼働時には4名が交代に当直業務をし、非当直日は2名のオンコール体制で病院の安全管理に務めた。

心臓カテーテル業務は臨床工学技士全員がおこなえるように教育を進めている。IVUS、ロータブレータ、体外式ペースメーカーについて医師の指示の下、対応した。

特殊業務として和温療法、ラジオ波焼灼術など

他科からの依頼を断らない科として努めた。

3 研修・教育活動

第61回 日本透析医学会学術集会 大阪 2016年6月10日 和田 智至:「バスキュラーアクセスカテーテルにおける順接続、逆接続の再循環率の比較」

第54回 人工臓器学会 鳥取 2016年11月25日 菅原 美希:「当院における体外式VADの日常管理と課題点」

第37回 日本アフエレーシス学会学術大会 横浜 2016年11月26日 高岡 祐子:「末梢血幹細胞採取における安全確保とメディカルスタッフの役割」

第45回 人工心臓と補助循環懇話会 山梨 2017年2月17日 菅原 美希:「当院における高齢者を含めたVAD症例の報告」

〈実習〉 東京工科大学 臨床工学科 2名

日本医療科学大学 臨床工学科 2名

〈院内研修〉医療機器について 計73回開催

4 その他

病院機能評価で臨床工学科の業務量が人員の割に多いと指摘された。29年度集中治療室加算I取得に対し、当直体制確立の必要があり、スタッフの再教育、人員確保を目指していく。

臨床工学科業務実績件数

業務内容/年度	26年度	27年度	28年度	
透析センター関連	総件数	3239	4655	3804
	入院透析	1956	2063	2202
	外来透析	1283	2592	1602
	血液浄化	6	10	7
	腹水濾過	10	8	1
	血管再生	2	2	0
	幹細胞採取	14	10	12
手術関連	心外関与件数	71	116	100
	TAVI			7
	自己血回収術	48	90	73
特治関連	体外式VAD(日数)	222	164	681
	植込型VAD(日数)			595
	PCPS・ECMO	24	29	121
	血液浄化	348	520	615
心臓カテーテル	504	593	662	
ラジオ波焼灼術	9	17	26	
和温療法	10	41	121	
呼吸器使用者(日数)	3327	3654	3545	

(文責:主任技術員 高岡 祐子)

1 設置の目的

認知症支援推進センターは、東京都から委託を受け、都内全体の認知症支援に携わる医療専門職等の認知症対応力の向上を図るため、多様な研修会を開催するとともに、「認知症疾患医療センター」が地域の医療・介護等専門職向けに実施する研修に対する支援を行うことを目的として設置したものである。(平成27年4月1日設置、2年度目)

2 人員体制

〈医師〉栗田圭一（センター長、研究所部長）
 〈常勤〉畠山 啓（精神保健福祉士・社会福祉士）
 宮前史子（研究員）
 岩本貴子（事務）
 岩田裕香（事務）
 〈非常勤・その他〉事務等
 ※島しょ地域の認知症対応力向上研修の実施、その他必要に応じて認知症疾患医療センターの職員等と連携して実施した。

3 活動内容・実績

(1) 研修会の開催

- ① 認知症サポート医フォローアップ研修
 認知症の診断・治療・ケア・連携等に関する最新知識の講義、対応困難事例の検討などの実践的な研修を実施した。
 平成27年度に実施した同研修2回を含む全8回のうち、4回以上受講した219名の者に、東京都から修了証を交付した。

開催日	研修内容	受講者数
4月9日	生活習慣病と認知症他	149名
7月2日	認知症の人の口腔ケアと栄養管理他	212名
9月3日	認知症サポート医に求められる役割とこれからの認知症施策他	220名
11月19日	レビー小体型認知症の診断と治療他	195名
12月17日	前頭側頭型認知症（行動障害型）の診断と治療他	172名
2月18日	せん妄の診断と治療他	159名

- ② 認知症疾患医療センター相談員研修
 認知症疾患医療センターの相談員として求められる資質（診断・治療・ケア等の知識・アセスメント力・連携等）向上のための実践

的な研修を実施した。

開催日	研修内容	修了者数
10月11日	認知症アウトリーチチームと初期集中支援チームの機能（グループワーク含む。）他	69名
2月24日	若年性認知症の治療と特徴（グループワーク含む。）他	63名

- ③ 認知症支援コーディネーター研修
 認知症支援コーディネーターとして求められる資質（診断・治療・ケア等の知識・アセスメント力・連携等）向上のための実践的な研修を実施した。

開催日	研修内容	修了者数
7月15日	大牟田市における認知症コーディネーターの活動について（グループワーク含む。）他	181名
11月4日	認知症の行動・心理症状と地域の中での支援（グループワーク含む。）他	188名

- ④ 島しょ地域の認知症対応力向上研修
 島しょ地域における認知症の人と家族を支える体制作りを進めるため、住民、介護・医療・行政専門職を対象に、各島の地域特性に応じた研修を実施した。

訪問日	訪問先	研修内容及訪問者
5月25日 ～ 5月27日	三宅島村	・認知症の人のケアのポイント ・回想法体験講座 ・その他事例検討会等（訪問者：医師外4名）
10月5日 ～ 10月7日	八丈島村	・これって認知症のせい？急に変わったときに考えること ・介護者の心理と介護うつ予防 ・その他事例検討会等（訪問者：医師外4名）
10月24日 ～ 10月26日	新島村	・認知症はじめて講座 ・認知症予防講座 ・その他よろず相談会等（訪問者：医師外4名）
12月12日 ～ 12月14日	大島町	・認知症の人のケアのポイント ・認知症の経過 ・その他よろず相談会等（訪問者：医師外5名）

(2) 会議の開催

- ① かかりつけ医・認知症サポート医フォロー

アップ研修ワーキンググループ

平成28年度に地域拠点型認知症疾患医療センターが実施した「東京都かかりつけ医認知症対応力向上研修」及び平成27・28年度に認知症支援推進センターが実施した「東京都認知症サポート医等フォローアップ研修」の実施評価並びに平成29年度研修計画を検討する会議を開催した。

開催日	委員構成	出席者数
3月21日	学識経験者（1名） 関係団体（2名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計15名	13名

② 看護師認知症対応力向上研修ワーキンググループ

平成28年度に地域拠点型認知症疾患医療センターが実施した「東京都看護師等認知症対応力向上研修Ⅰ」の実施評価及び平成28年度の「東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ・Ⅲ」の実施報告並びに平成29年度の東京都における看護師向けの認知症対応力向上研修の検討を行う会議を開催した。

開催日	委員構成	出席者数
3月28日	関係団体（1名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計13名	13名

③ 認知症多職種協働研修ワーキンググループ

平成28年度に地域拠点型認知症疾患医療センターが実施した「東京都認知症多職種協働研修」の実施評価及びこれまでの東京都認知症多職種協働研修について並びに平成29年度以降の研修計画の検討を行う会議を開催した。

開催日	委員構成	出席者数
2月28日	関係団体（1名） 拠点型認知症疾患医療センター（12名） 計13名	13名

(3) その他の取組み

- ① 認知症疾患医療センター運営事業の評価検討を実施した。
- ② 認知症支援推進センター開催研修の修了者の名簿管理を行った。
- ③ 研修テキスト（かかりつけ医認知症対応力向上、看護師認知症対応力向上、多職種協働研修）の増刷及び管理を行った。
- ④ 各島で実施した研修のレポートの作成を行った。
- ⑤ 各地域拠点型認知症疾患医療センターでの研修実施状況の把握を行った。

- ⑥ 区市町村が実施するDASC研修への協力を行った。
- ⑦ 訪問台帳入力システムの開発を行った。
- ⑧ 認知症疾患医療センター相談員の情報交換ツールの運用及び管理を行った。

1 設置目的

認知症疾患医療センターは、東京都から平成24年2月9日付で指定を受け（二次医療圏毎に1ヶ所設置される地域拠点型認知症疾患医療センターであり、区西北部（豊島区・北区・板橋区・練馬区）を主な活動圏域として設置したものである。平成26年4月1日付で指定の更新（3ヵ年）を行い、5年目を迎えたところである。

本事業は、保健医療・介護機関等と連携を図りながら、認知症疾患に関する鑑別診断とその初期対応、身体合併症と行動・心理症状への対応、専門医療相談等を実施するとともに、地域の保健医療・介護関係者への研修等を行うことにより、地域において認知症について進行予防から地域生活の維持などに必要となる医療を提供できる機能体制の構築を図ることを目的としている。

2 人員体制

- 〈医師〉栗田圭一（センター長、研究所部長）
古田光（副センター長、精神科部長）
- 〈常勤〉畠山啓（認知症支援推進センター本務、
次席/精神保健福祉士・社会福祉士）
齋藤久美子（認知症疾患医療センター専従/
精神保健福祉士・社会福祉士）
白取絹恵（看護部/認知症看護認定看護師）
扇澤史子（精神科次席/臨床心理士）
岡本一枝（精神科主任/臨床心理士）
今村陽子（精神科/臨床心理士）
- 〈非常勤〉千田亜希子（精神保健福祉士）
佐伯恵美（精神保健福祉士）
西垣綾峰（臨床心理士）
佐々木優子（事務）
- 〈派遣〉三好幸子（事務）

認知症疾患医療センターに設置される認知症専門相談室では、精神保健福祉士（以下「PSW」）専従1名、専任その他3名、認知症看護認定看護師（以下「CN」）1名、臨床心理士（以下「CP」）専任その他4名、事務職1名で相談業務を行い、関係機関との連携や、連携協議会の運営等については、認知症支援推進センターを事務局とし対応している。もの忘れ外来の受診前相談とインタビュー、近隣医療機関からの受診・入院相談も積極的に対応した。7月より全入院患者に対し地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート（DASC）を実施した。派遣社員1名を採用して、配布・回収、集計を行った。

3 活動内容・実績

（1）専門外来
もの忘れ外来のページを参照のこと。

（2）専門医療相談
もの忘れ外来受診を希望する患者家族や未受診・他医療機関に通院する患者家族に対し、相談内容に応じて介護相談や心理相談、社会資源の情報提供等を行った。実績（いずれも件数・人数は述べ）については下記のとおりである。

相談件数は、16,226件（電話相談：12,027件、面接相談：3,172件、訪問25件、その他1,002件）、相談内容の内訳は、受診・受療に関わる援助6,168件と最も多く、続いて転院・入所に関わる援助5,062件、関係機関との連絡調整に関わる援助が3,898件と続いている。また、区高齢者主管課や地域包括支援センター等、地域の医療機関から緊急性が高いと判断された相談についても、救急当番医と連携し、適切な対応を行った。関係機関別の連携内訳は、区高齢者主管課等（地域包括支援センター含む）(1,354件)、精神科病院（809件）、ケアマネジャー（702件）、一般病院（485件）、介護保険施設（468件）、かかりつけ医（176件）の順になっている。

（3）認知症疾患医療・介護連携協議会の開催
地域の連携体制強化のために認知症疾患医療・介護連携協議会を組織し開催した。主に認知症疾患医療センターの実績報告、アウトリーチ事業及び各研修の説明と報告、国と都の動向の情報提供、各区医師会及び行政機関からの認知症対策の取り組み報告など情報交換及びかかりつけ医認知症研修の内容検討など3回開催した。

開催日	内容	主な参加者
5月6日	第1回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会（医療部会）	区医師会代表者及び認知症疾患医療センター代表者等
12月7日	第2回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会（医療部会）	区医師会代表者及び認知症疾患医療センター代表者等
3月29日	第3回区西北部認知症疾患医療・介護連携協議会	区医師会代表者 高齢者主管課代表職員 及び認知症疾患医療センター代表者等

（4）普及啓発
認知症疾患医療センターの周知活動や認知症に

関する普及啓発を行った。関係機関及び地域住民に対して、事業の周知を目的に作成したリーフレットや都作成のパンフレットを配布した。また、家族介護者（ケアラー）支援として、①家族教室（心理教育）、②家族会（相互交流、ピアカウンセリング）の提供を行った。

○家族教室「認知症はじめて講座」の開催

「病気の知識と治療編」と「ケアとサービス編」の2つの講座を毎月開催した。もの忘れ外来や精神科等に受診し、認知症と診断された患者・患者家族が参加するもので、前者は精神科医師による講義、後者はコメディカルスタッフが、認知症に対するケアと利用できるサービスについて講義を行っている。年24回開催し、参加者総数は、211人であった。

○当事者の会「私たちが話そう会」の開催

認知症あるいはMCIと診断された方が、認知症と共に生きる上で抱える生活上の困りごとや悩みを相談できるサポートグループとして、「私たちが話そう会」を毎月開催した。予定管理や探し物、服薬管理等の生活障害や記憶障害に起因する不安や悩みをグループで共有し、心理職から具体的な助言などを行っている。年12回開催し、参加者総数は、21人であった。

○家族交流会の開催

もの忘れ外来・精神科・神経内科等を受診している患者家族を対象に、医師等の講義と交流会を開催した。参加者総数は、73人であった。

開催日	講義内容	担当
4月12日	認知症の医学的知識	古田医師
5月10日	ストレスと上手に向き合うために	小幡CP
6月14日	医療保険制度や介護サービスのより良い活用法	畠山PSW
7月12日	夏を元気に乗り切る食事について	羽根田栄養士
8月9日	認知症のリハビリテーション	市川CP
9月13日	安全に食べるために	西山ST
10月11日	口腔ケアと認知症	平野歯科医師
11月8日	介護経験者と語る	介護経験者
12月13日	生活習慣病と脳血管障害	仁科医師
1月10日	誰でも抱えている排泄のお話しパート2	野島看護師 白取看護師
2月14日	お薬をより安全により上手に使うために	谷古宇薬剤師
3月14日	認知症による暮らしの困りごとを減らすために	今村CP

○院内勉強会の開催

専門的な知識・経験を有する医師・看護師等の育成を目指し、院内の研修会を開催した。参加総数は、179人であった。

開催日	講義内容
5月23日	認知症はじめて講座 ケアとサポート編
8月8日	認知症はじめて講座 病気と治療編
11月21日	認知症・せん妄の薬物療法を紐解く 認知症・せん妄患者にとっての薬物療法とは
1月16日	認知症患者さんへのかかわりを振り返る 日常にひそむ倫理的な課題から

○かかりつけ医認知症研修

高齢者が日頃より受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診療の知識・技術や患者とその家族を支える知識と方法の習得と支援体制の構築を図るための研修会を、圏域4区医師会、地域連携型認知症疾患医療センター協力の元に開催した。

開催日	内容他	参加者数
9月17日	かかりつけ医の役割・診断治療・連携と制度（講義）、症例のグループワーク	30名
12月20日		45名
1月18日		37名
2月4日		29名
3月3日		56名

○認知症多職種協働研修

患者が状態に応じて適切な医療・介護・福祉の支援を受けることができるよう、認知症の人の支援に携わる専門職や行政関係者を対象として、認知症ケアに関わる多様な職種や支援者の視点を相互に理解し、認知症の人が必要な支援を役割分担し、かつ統合的に提供できるようにすることを学ぶことを目的に研修会を開催した。

開催日	内容他	参加者数
10月29日	認知症の地域包括ケア多職種協働の重要性（講義）多職種協働支援の視点について（グループワーク）	61名

○看護師認知症対応力向上研修

急性期医療に関わる一般病院の看護師が、入院から退院後の在宅生活まで視野に入れた認知症ケアについての知識を学ぶことで、認知症の人が病院で治療を受けること、退院後にもとの生活に戻ることができることを促進するために研修会を開催した。講師は、内容によって各職種が担当し、グループワークでは、認知症専門相談室のスタッフがファシリテーターとして参加した。

開催日	内容他	参加者数
9月2日	認知症に関する知識、認知症ケアに関する知識、認知症の人の在宅生活に関する知識	68名
11月29日		66名
1月27日		62名

○認知症地域カンファランス

平成24年度より、実際に今困っている事例を挙げて多職種で意見交換を行う認知症地域カンファランスを開催している。参加者は、アウトリーチ事業を運営する板橋区・豊島区の行政関係職員、地域包括支援センター職員、周辺の精神科病床を有する医療機関PSW等が中心であった。

開催日	内容他	参加者数
5月11日	認知症疑いの母と支援が必要な息子への支援・介入方法について	28名
7月13日	虐待疑いの認知症高齢者とその家族へ対する支援方法と連携方法について	31名
9月14日	認知症の診断を受けた認知症高齢者夫婦の退院支援について	21名
11月9日	障害を持つ息子を長年介護してきた母が認知症になったケースの今後の支援について	29名
1月11日	本人家族の意向に反し地域から入院を強く勧められているアルコール依存症のケースについて	35名
3月8日	本人の意向と家族の意向が相反した混合型認知症のケースへの対応について	28名

○講師等派遣

板橋区や東京都福祉保健財団、各区医師会等からの依頼により、研修会等へ講師派遣を行った。医師29件、コメディカル（CN11件、CP4件、PSW9件）の総派遣件数53件であった。

（5）認知症アウトリーチチーム事業

平成25年度よりモデル事業として開始し、平成27年度より認知症疾患医療センター事業に移行された。区市町村が配置する認知症支援コーディネーターと、認知症疾患医療センター等の医療機関に配置する認知症アウトリーチチームが協働して、認知症の疑いのある人を把握・訪問し、状態に応じて適切な医療・介護サービスに結びつける等の取り組みを行っている。区西北部医療圏域内の認知症支援コーディネーターを配置する板橋区と豊島区が対象となっている。

対象者13人、訪問回数16回であった。職種別みると医師1回、PSW14回、CP14回となっている。

医療機関の知識や技術を地域で活かすことでよりよい支援に繋がり、受診困難者が早期に受診することができた。また、未受診患者の家族等に対

して、具体的なアドバイスを行うことにより、介護負担が軽減したケースもあった。例年に引き続き、認知症専門相談室スタッフ間でケースカンファレンスを繰り返し行ったことで、どのスタッフでも訪問支援ができる体制を整えた。

（6）精神科リエゾンチームの一員として

カンファレンスに参加し、各病棟をラウンドして病棟における認知症ケアの実施状況を把握するとともに患者家族及び病棟職員に対し助言等を行った。詳細は、精神科のページを参照のこと。

（7）入院患者の認知症日常生活自立度の把握

7月より65歳以上の入院患者に対し問診票（DASC）を配布・回収を行った。7月から3月までに8,808枚配布し、回収率87%（7,637枚回収）であった。その内、認知症日常生活自立度Ⅲ以上は1,943件、同Ⅱは661件であった。同Ⅲ以上の患者は、認知症ケア加算の対象候補として、精神科リエゾンチーム及び各病棟へ情報の提供を行った。多職種間でその情報を共有することで、個々の状態に合ったケアの提供に繋がった。

（8）その他

島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援を認知症支援推進センターと連携して実施した。詳細は、認知症支援推進センターを参照のこと。

（認知症疾患医療センター次席 畠山啓）

1 人員体制

〈部長〉森 聖二郎

〈シニア〉佐藤 裕子

〈非常勤研究員〉周 赫英

〈非常勤職員〉福島 信子、山本 明子、
片貝 悦子

2 診療研究活動・実績

高齢者の運動器疾患は認知症とも密接な因果関係があるにも関わらず、定義と診断法の科学的根拠は乏しく、発症メカニズムも未解明であることから、当センターでは主要テーマとして骨・筋疾患予防（発症予防、早期診断・治療、転倒・骨折予防）に有効なオーダーメイド医療の実現化を目指した研究を行っている。具体的には以下に述べるプロジェクトを推進している。

（1）マイオカイン・プロジェクト－神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーの開発－

平成25年度～29年度にかけて5年計画で取り組む主要プロジェクト。骨粗鬆症・サルコペニア・フレイルの予後予測への臨床応用を目指して、神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーとして期待される血中分泌型MuSKの機能的意義を明らかにする研究を進めている。平成28年度は、ウサギモノクローナル抗体を使用した第2世代の血中分泌型MuSK測定系を確立し、マウスモノクローナル抗体を使用した第1世代で測定したサンプルの再検討を行った。その結果、第1世代で問題となっていたゼロデータが解消され、また測定結果は第1世代と同様の傾向を示しており、さらに測定感度が向上したため、統計学的な有意差がより明確に示されるようになった。しかしながら、高齢者では年齢とMuSKとの間に有意な正相関が認められることが明らかとなり、草津コホートサンプルならびにバイオバンク・ジャパン骨粗鬆症サンプルを用いた解析では、骨格筋量、筋力、骨密度、フレイル予後、脊椎骨折などの指標との相関関係が、年齢補正すると消失することが明らかとなった。平成29年度は、国立栄養研サンプルならびに当センターフレイル外来サンプルを用いた解析を計画しているが、バイオマーカーとしての臨床導入は一筋縄では行かないことが予想される。生物学的年齢のバイオマーカーになり得るかを検討する目的で、ウェルナー症候群患者血清での解析も計画している。

（2）バイオバンク・ジャパン－オーダーメイド医療の実現プログラム（第3期）－

本プロジェクトは平成27年度から日本医療研究開発機構（AMED）に事業が移管された。引き続き「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化－DNAサンプルおよび臨床情報の収集－」すなわち「オーダーメイド医療の実現プログラム」の協力医療機関として、本プロジェクト3期目（平成25年～29年）の症例登録とDNA採取を行っている（中核機関：東京大学医科学研究所）。本プロジェクトは、わが国における大規模ゲノム・コホート基盤整備を目的としており、本プロジェクトの疾患関連遺伝子研究として、当センターは「骨粗鬆症」を担当している。さらに、森は試料等配布審査会の委員として、バイオバンク・ジャパンの試料を全国の研究機関に配布する役割も担当している。平成28年度は、バイオバンク・ジャパン臨床情報解析研究グループの研究成果として14編の論文がJ. Epidemiolにアクセプトされ、BioBank Japan Cooperative Hospital Groupの一員として共著者に加わった。平成29年度は引き続きDNAサンプル並びに臨床情報を300件程度収集するとともに、新規業務として、バイオバンク・ジャパンに登録したがん患者の手術標本（FFPE）の一部を東大医科研に送り、DNAを抽出して各種ゲノム解析を行う研究を計画している。本研究ではバイオバンク・ジャパンのDNAタイピングデータ、生存情報・臨床情報ならびに保存血清と組み合わせた解析を行うことにより、各種がんの予後、治療効果マーカーの探索などを行う予定である。

（3）Geriatric E-WAS－加齢性疾患の病態解明－

当センター連続剖検2400例のDNAサンプルを用いて、高齢者に見られる各種疾患について全エクソン非同義置換遺伝子多型の関連解析を行うことを目的に、平成23年度からセンター内外の研究施設からなるコンソーシアムを設立した。老化制御研究チーム（現在は当センター臨床検査科）の田中雅嗣先生をリーダーとして、内部からは病理診断科、老年病理学（高齢者がん）、高齢者ブレインバンク、外部からは東京医科歯科大学、三重大学、埼玉医科大学、自治医科大学、G&Gサイエンス株式会社が参加している。平成28年度は、13種類の主要な生活習慣病について疾患感受性遺伝子およびSNPsを同定するため、合計16000例についてエクソームアレイの解析を行った。現在、心筋梗塞、高血圧、心房細動、大動脈瘤、脳梗塞・脳

出血・くも膜下出血、慢性腎臓病・高尿酸血症、肥満・メタボリックシンドローム、2型糖尿病、脂質異常症に関する9論文を投稿し、既に8論文がアクセプトされている。

(4) オーダーメイド骨粗鬆症外来－遺伝子多型情報を活用した骨折リスク予測方法の開発－

既にTGF- β 1 遺伝子多型と血中25水酸化ビタミンD濃度を指標とした骨折リスク評価方法を確立し、閉経後骨粗鬆症患者の診療に導入している。平成28年度は、現在までに報告されている74種類の骨粗鬆症関連遺伝子上に存在する979種類のSNP（非同義置換SNPが858種類、サイレントSNPが121種類）の中から、バイオバンク・ジャパンに登録され脊椎骨折情報を有する441例の女性を対象に、脊椎骨折罹患率と有意に関連する4 SNPsを選定し、遺伝子多型リスクスコア（genetic risk score; GRS）を開発した。本研究は論文化され（Bone Rep 5: 168–172, 2016）、第6回アジア太平洋骨粗鬆症会議（IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting（Singapore, November 4-6, 2016）において口頭発表した演題「GENETIC RISK SCORE BASED ON THE PREVALENCE OF VERTEBRAL FRACTURE IN JAPANESE WOMEN WITH OSTEOPOROSIS」は最優秀口演賞（The Best Oral Communication Award）を受賞した。平成29年度は、当センターからバイオバンク・ジャパンに登録した骨粗鬆症患者のタイピングデータと当センターが保有する詳細な臨床情報とを連結させて、本GRSに用いた遺伝子多型と各種臨床指標との縦断研究を行う予定である。

(5) 早老症プロジェクト－早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究－

平成27年度～29年度にかけて、「早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究」という研究課題で厚労科研難治性疾患等政策研究事業が採択されている。同時に「早老症ウェルナー症候群の全国調査と症例登録システム構築によるエビデンスの創生」という研究課題でAMED難治性疾患実用化研究事業に採択されている。平成29年度も引き続き、千葉大学を中心にオールジャパンのコンソーシアムを構築して研究を進めるとともに、個別研究としてウェルナー症候群患者血清を用いた分泌型MuSK測定も計画している（マイオカイン・プロジェクト参照）。

3 その他

当センターは軸足を病院部門に置き、研究所部門（老年病態研究チーム）を兼務するという研究

スタイルをとっており、両者の橋渡し研究を推進することを主たる職責としている。

当センターが管轄する「オーダーメイド医療事務局」には4名のメディカル・コーディネーターが勤務しており、各種臨床研究に伴うインフォームド・コンセント取得と臨床情報収集・管理を行っている。また旧病院研究室は、新施設移転に伴い正式に「臨床研究推進センター」の下部組織に組み入れられ、管轄する研究室では当センターの研究業務を遂行すると同時に、現在、病理診断科、神経内科、皮膚科、歯科口腔外科、糖尿病・代謝・内分泌内科の医師が研究業務を遂行している。

なお平成28年度は、Journal of Atherosclerosis and Thrombosis、Geriatrics and Gerontology International、Biomedical Genetics and Genomics、Journal of American Geriatric Society、Journal of Diabetes Research、日本臨床栄養学会雑誌から依頼されて投稿論文の査読を行った。

1 人員体制

〈センター長〉原田和昌（兼務）
 〈副センター長〉山田浩和（兼務）
 〈センタースタッフ〉吉岡まみ（兼務）
 嶋村眞壽美
 橋本美和
 土屋公子（非常勤）
 古本真木（非常勤）
 池本実帆（非常勤）

平成27年度より兼務体制を解消すべく、臨床試験管理センター専任の職員を雇用することになり、平成28年度に1名の専任職員を採用し、計2名を配置した。

2 活動内容・実績

平成27年4月1日付で施行された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、倫理審査委員会の機能強化と審査の透明性確保に関する規定が明記された。こうした国の動きに対応するため、治験管理センター（治験事務局）がこれまで担ってきた業務経験を最大限活用し、医薬品の臨床試験の基準に関する省令（GCP省令）で規定されている「治験審査委員会」及び上記倫理指針に規定されている「倫理審査委員会」の機能を併せ持つ「臨床試験審査委員会」を設置し、その事務局業務を担当する組織として、従前の「治験管理センター（治験事務局）」の名称を改め、「臨床試験管理センター」が設置された。特に倫理委員会における審査については、倫理性・科学的妥当性をより適切に判断できるよう体制を整備し、厚生労働省による認定倫理審査委員会を目指している。倫理委員会の認定を取得するためには、いくつかの条件を満たす必要があり、今後は研究所と共同で体制整備をする予定である。

治験・受託研究等支援実績

- (1) 治験実施件数 20件
 (新規受託件数：8件、継続件数：12件)
- (2) 受託研究実施件数 66件
 (新規受託件数：18件、継続件数：48件)
- (3) 研究実施件数 166件
 (新規実施件数：55件、継続件数：111件)

臨床試験審査委員会審議件数

- 【治験】新規審査：8件、継続審査：350件
 その他（報告等）：86件
- 【受託研究】新規審査：16件、継続審査：12件
 その他（報告等）：9件
- 【研究】新規審査：55件、継続審査：57件
 その他（報告等）：22件

3 研修・教育活動

倫理指針では、研究の実施に先立ち、教育・研修を受けることが義務付けられている。このため、研究倫理研修を定期的に開催している。

平成28年度 第1回 研究倫理研修

- 【日時】平成28年7月5日 17:00～18:00
 【講師】地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター顧問
 NPO法人・臨床研究適正評価教育機構
 理事長
 桑島 巖 先生
 【演題】臨床研究と医療倫理
 ～研究不正事件から学ぶこと～

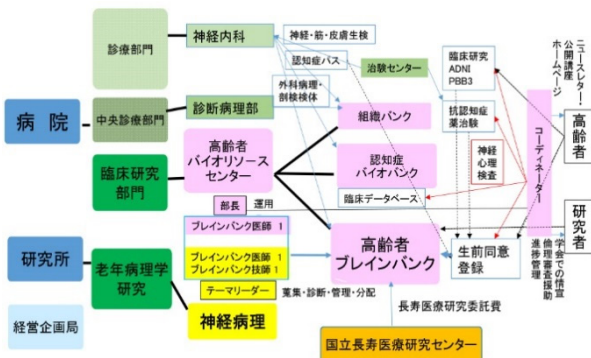
平成28年度 第2回 研究倫理研修

- 【日時】平成28年9月20日 17:30～18:30
 【講師】地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター顧問弁護士
 新星総合法律事務所
 弁護士
 児玉 安司 先生
 【演題】臨床研究における倫理と利益相反

1 人員体制

〈部長〉村山繁雄（兼務 神経内科部長）
 〈医長〉藤ヶ崎純子（兼務 老年病理学研究チーム研究副部長）
 〈医師〉中野雄太
 〈臨床心理士〉小幡真希
 〈臨床検査技師〉石橋久美子

神経内科、研究所神経病理学テーマとの連携の元、バイオリソースの構築を行った。



2 診療活動・実績

外部研究費雇用でリサーチマネージャーとして非常勤研究員を配置し、蓄積リソースの研究供与体制を強化した。申請書（研究計画書）の精査と、学術審査アレンジを行い、また、研究者への提供組織の検討ではSkypeを用いたネットカンファを取り入れ、申請からリソース提供までを迅速に行った。全てのリソース使用研究者は研究所協力研究員委嘱をし、研究所倫理審査承認を受けている。

リソース研究希望者の申請受け付けは、従来の高齢者ブレインバンクwebサイト1)に加え、文部科学省科学研究費助成事業新学術研究「学術研究支援基盤形成『コホート・生体試料支援プラットフォーム』webサイト2)が新設された。

1) URL <http://www.mci.gr.jp/brainbank/>

2) URL <http://cohort.umin.jp/>

平成28年度でのリソース申請受付件数は16件、そのうち供給承認件数は14件であった。

(1) 高齢者ブレインバンク (BBAR)

H28年度には65例がセンターで開頭剖検・ブレインバンク登録承諾を得た。神経病理学的診断は国際的に認められているBBAR基準を用い、データベース登録を行っている。ドナー登録（事前同意登録）希望者にはコーディネーターを介した説明・同意を実施し、H28年度は21名のドナー登録、

10例が剖検を経て本登録された。

(2) 組織バンク

開頭剖検例の全身臓器の部分凍結は、貴重な試料として高評価を得ているため、今年度も継続して行った。

(3) 認知症バイオバンクの構築

H28年度蓄積髄液リソース数は224件である。アルツハイマー病診断サロゲートマーカーであるアミロイドベータ ($A\beta 42$)、タウ、リン酸化タウ値を全例測定し、データベース化している。神経心理検査は435件を実施した。入院を含む神経内科認知症・パーキンソン病パス下に、標準神経心理検査、髄液アルツハイマー病・パーキンソン病関連サロゲートバイオマーカー測定、MRI・脳血流・DAT・MIBG心筋シンチグラフィ統計処理解析、神経学的診察（入院時回診担当：村山）を行い、包括研究同意の元これらを全てリソース化することで、ブレインバンクと並ぶバイオバンクの構築を進めている。

3 研修・教育活動

日本神経学会総会・関東地方会、日本神経病理学会総会・全国地方会、日本認知症学会、運動障害学会、自律神経学会、神経感染症学会、日本神経科学学会、TOBIRA等において、高齢者バイオリソースセンターの活動報告、リソース研究発表を行い、NPO、POを含む研究者教育・広報活動を行った。

1 人員体制

〈部長〉原田和昌 副院長

〈副部長〉大淵修一（研究所）

〈医員〉杉江正光

〈非常勤〉高橋哲也（東京工科大学教授）

奈良毬那（理学療法士）

2 診療活動・実績

高齢者健康増進センターは平成23、24年度、「経済産業省 医療介護周辺サービス産業創出調査事業」への参画を通して、地域在住高齢者を対象に健康増進の取り組みを実施し、平成25年の日本再興戦略:戦略市場創造プラン『国民の「健康寿命」の延伸』の施策に合致した健康寿命の延伸事業を行っている。施策に基づき健康寿命延伸産業の「創出と育成」を実施し、健康寿命延伸効果を可視化する評価法を企業と共同特許申請を終え、現在も共同研究を継続実施している。介入モデルはフレイル高齢者を対象に「有酸素運動」「遠赤外線低温サウナ」を実施。共に健康寿命延伸効果が認められ、また一人当たり26万/年の社会保障費抑制効果も認められ、様々な学会にてその効果を報告し、更にはメディアにも取り上げられた。本事業のニーズは非常に高く、新規参加を希望される高齢者が続出しているが、運営日数の制限から既に天井効果を示し、現在新規参加は中止として運営している。本事業は、内閣官房健康医療戦略室や厚生労働省、経産省、また神奈川県庁や埼玉県庁を始めとする多くの自治体や地方の多くの医療機関、またスリランカ政府からの視察も受け入れている。

3 研修・教育活動

健康増進センターは毎週月・火・木に運営を行っており、民間事業者と委託型運営における「安全性・効率化・マニュアルの最適化」、また健康増進センタープログラムに関する「介入効果・研究・解析・新規開発共同研究」に関する勉強会及びカンファレンスを実施している。また、毎月1回、健康増進センター利用者を対象としたBLS実習を、民間事業者スタッフも含めて、リハビリテーション科小山照幸医師より指導を実施して頂いている。

更には高齢者健康増進センターでは患者主催による「健康増進する友の会」が発足し、フレイル予防に向けた活動だけでなく、食事会、旅行などの活発な患者会(平均年齢80歳)が行われている。

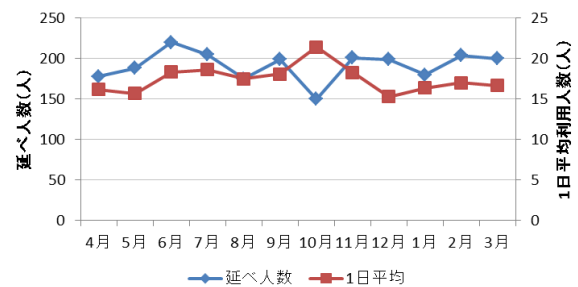
4 その他

平成28年度の特記事項：

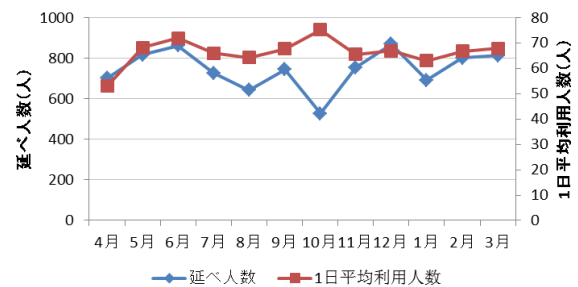
群馬県富岡市の医療機関が本モデルを導入した。今後の展望：

1. 利用者の署名活動より1000名の署名が行われ、健康増進センター週5日運営拡張と有料化の実施の希望が表明されている。利用される都民の声に応えるべく有料化の実施と運営の拡張を早々に実施したい。
2. 本モデルは高齢社会を支えるモデルとして注目されており、様々な企業や団体から当高齢者健康増進センターと連携の上、国の補助事業への申請を打診されており、サポート体制を整え協力してゆきたい。
3. 本モデルの病院HPでの広報普及体制がない現状があり動画で広報普及を行っていただきたい。

遠赤外線低温サウナ部門



運動部門



(文責：杉江 正光)

1 人員体制

平成28年4月1日より、副院長 黒岩(がん相談支援センター長)、看護部長 黒坂(同副センター長)、MSW 中馬(専従相談員)、看護師 松崎(専任相談員)、MSW 川口(専任相談員)、MSW 瀬川(専任相談員)の6名体制で運用を開始した。また、看護師 最上(がん性疼痛認定看護師)、看護師 岸(化学療法認定看護師)をサポートとして配置し、相談支援の充実を図った。

2 診療活動・実績

東京都がん診療連携協力病院として平成28年度4月1日よりがん相談支援センターを開設した。患者・家族のほか、地域住民を対象に、がんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについての相談支援、がんに関する情報提供・啓発を行うことを目的としている。

平成28年度相談件数は912件。毎月70件前後の相談件数で推移。相談内容としては、緩和ケア相談・不安精神的苦痛・意志決定に関する相談・療養上の相談が上位を占めている。

広報活動については、①院内外来エリア・病棟ともポスターを掲示。呼吸器内科外来診察室にはリーフレットを設置した。②院内広報誌「糸でんわ」5月号にがん相談支援センターの利用方法や窓口を掲載。③地域住民に向けて、ホームページ掲載、板橋区内全地域包括支援センターと保健福祉センターへリーフレットの設置を依頼した。

また、患者サロンの開催を目指して、日大板橋病院及び都立墨東病院のがん相談支援センター主催患者サロンを見学し、サロン運営の流れや注意点を学んだ。それをもとに2017年3月には当院独自の患者サロン「おれんじの会」を開催。ミニ勉強会と茶話会の2部構成とし、患者同士の交流と、医療者へ気軽に質問できるような場づくりを心がけた。平成29年度は年2回開催を予定。

3 研修・教育活動

専従・専任相談員、サポートの認定看護師とともに定期的にミーティングを実施し、相談内容の確認やケース相談を行った。

松崎が国立がん相談員基礎研修(3)を修了した。基礎研修(1)(2)は在宅看護師宍戸が修了し、MSW 岩上が現在受講中である。

4 課題

平成28年度は基盤作りが中心となった。平成29年度は、院内のみならず地域住民への広報活動を積極的に行い、誰もが利用しやすい環境を構築する必要がある。①院内外来診療との連携、②地域の患者会や他がん相談支援センターと連携、③「おれんじの会」の充実、の3点を中心に取り込んでいく。

(文責：次席 中馬 かつら)

1 人員体制

〈部長〉黒坂眞理子

〈副看護部長〉澤田法子、服部俊夫
工藤明子、柴田 薫

平成28年度は、看護師定数473名。採用者数は、新人看護師53名、経験者看護師27名であった。東京都職員の派遣解消は39名であった。

4月1日スタート時点での看護師数は462.6名（都派遣117.6名、固有345名）と欠員スタートとなった。8月から積極的に色々な手段を利用し採用を行ったが、退職者や育休職員で欠員状況を解消することはできなかった。また、非常勤職員は、看護師27名、看護助手41名で欠員を補うために適宜採用を行った。

看護師退職率は9.4%と昨年度よりやや上昇、退職理由は「転職」「転居」「介護」「育児専念」等様々な理由であった。

新人看護師の採用にあたり、看護大学や専門学校への訪問、合同就職説明会への参加、春・夏のインターンシップや病院見学の受け入れを地道に行い、採用に繋げることができた。また、看護部のホームページをリニューアルし、経験者で転職を希望する人に看護部の活動をアピールした。

2 診療活動・実績

（1）看護部目標への取り組み

看護部では、急性期の高齢者専門病院として病院経営を意識しながら、患者さんから安全・安心、信頼が得られる質の高い看護の提供を目指した。

目標は「患者満足度の向上」「安全な看護の提供」「針刺し防止対策の強化」「病院経営の向上」とし、目標達成に向けて取り組んだ。

患者満足度を向上させるために、治療方針や病状説明時の患者・家族への支援、認知症やせん妄患者への対応力向上、早期退院への支援等に力を入れた。また、患者に安全な看護ケアを提供するために患者誤認防止と転倒・転落防止に対する取り組みを強化した。その他、看護師の針刺し事故への予防対策、チーム医療の推進、急変時の対応力向上、経営基盤の強化等に取り組んだ。

（2）入院基本料継続への取り組み

平成28年度は診療報酬改定があり、7対1入院基本料と特定集中治療室管理料の「重症度、医療・看護必要度」の基準が変更になった。そのため基準越え維持と必要度の適正評価を行うための職員

教育、毎月の看護必要度の結果を院の運営会議等で報告し、医師・薬剤師と協力した結果、管理加算を死守することができた。

（3）病院機能評価受審への取り組み

項目に沿ってチェックシートを評価し、体制や基準・手順等も含めて整備が不十分なところを中心に、各担当者が改善活動を行った。

6月にプレ審査を受け更に課題は明確になり、新たに改善した体制や基準・手順等は、看護部全体に周知し各部署で改善に取り組んだ。10月19、20日訪問審査を受けて、病院機能評価の認定を受けることができた。

3 研修・教育活動

（1）看護実習の受け入れ

都立看護専門学校1校、看護大学6校の老年看護学の実習を受け入れ、年間を通して殆どの病棟で実習指導に尽力した。また、認定看護師教育課程（認知症看護・皮膚・排泄ケア・慢性心不全看護）や実習指導者研修等の実習も受け入れた。

平成28年度は、東京都訪問看護教育ステーション事業の病院研修を10名受け入れ、訪問看護師と病棟看護師や認定看護師との顔の見える関係が図れて、今後の連携強化に繋がった。

（2）各種認定の取得

主な認定取得状況は、3学会合同呼吸療法士2名、糖尿病療養指導士4名、核医学診療看護師1名、ストーマリハビリテーション学会認定ストーマサイトマーキング算定者1名など各診療科の特殊性を考慮し該当する教育機関・学会に派遣し認定を取得できた。

（3）学会発表

日本看護学会や老年看護学会などの学会にて、看護研究や委員会活動のまとめを24件発表した。全国自治体病院学会では、「楽しかった私も参加したかったと言ってもらえる『ゲーミフィケーション』研修とその要素の検討」が優秀賞を受賞した。

●委員会活動

1 教育委員会

活動内容：キャリアラダーに基づき、院内研修を企画・運営した。看護部運営会議における研修サマリーによる研修状況の報告、OJTと連動し研修の成果を活かすようにした。

また、経験者採用職員の定着に向けて「1ヶ月フォローアップ研修」を実施した。

(1) 新人看護職員臨床研修

新人看護職員に対して、入職後3ヶ月間の「新人看護職員臨床研修」を実施した。病棟では、プリセプターおよび教育担当者が中心となり、病棟全体で新人を育成する体制を整備し実践した。集合研修では、基本的な技術の習得に加えメンタルチェックや新人同士で現状や思いを共有するサポートカンファレンスを4回実施した。

新人看護師の離職率は、3.7%であった。

(2) 院内研修

ベーシックコースは、認定看護師や看護記録委員等を講師とし、研修を企画し、円滑な研修の運営を図った。研修後サマリーにて、研修状況を情報共有すると共にOJTの強化点を明示した。

ジェネラルコースでは、「リーダーシップ」「看護倫理」「実地指導者」研修など外部講師による知識の付与を図った。

看護研究では研究的視点の醸成・知識付与と研究活動を支援し、学会等での発表につなげた。

安全管理や感染対策研修は、短時間で効果の高い演習を取り入れた研修とした。

主任課題研修では、病院機能評価に向けた整備に取り組んだ。

成果：キャリアラダーの臨床実践能力の到達目標に沿って、レベルⅠ47名、レベルⅡ42名、レベルⅢ40名が修了した。レベルⅣの研修生は、各部署において後輩指導や問題解決においてリーダーシップを発揮している。今年度は、発表をポスターセッションで行い、看護部全体で成果を共有した。院内研修で事例研究、看護研究含め学会等で10題の発表を行った。

2 看護記録委員会

活動内容：今年度は病院機能評価受審にむけて、基準の改訂・整備および、症例トレースのための整備を行った。その他「記録監査」と「重症度、医療・看護必要度（以下必要度）」の2グループに分かれて活動を行った。「記録監査」グループは、院内監査の実施。必要度グループは、改訂後の適正評価とその記録について監査を実施。

成果：病院機能評価受審では、大きな指摘事項はなかった。院内監査の実施 16例実施。必要度の記載例は完成し実施した。必要度記録監査を実施したが、適正評価のための記録記載が不十分であった。来年度に向け適正評価の精度の向上と記録の充実を図っていく。

3 実習指導者委員会

活動内容：実習環境の向上に向け、実習生の満足度調査を行った。実習生の目標達成度や指導で

迷ったことなど委員会で共有し、指導に関する学習会で知識・スキルを共有した。

成果：実習生に対するミニ講座を2回実施した。実習指導に対する実習生からアンケートでは肯定的な満足度99%であった。

4 看護の質向上委員会

活動内容：高齢者看護の質向上と医療サービス向上を目的として取り組んだ。

(1) BI評価

BI評価の集計を4月、7月、10月、12月に行った。その結果、BIの低下率は11~12%であった。心臓外科手術の増加や在院日数の短縮などが要因であった。また早期リハビリ、早期離床の推進を行いBI低下防止に取り組んだ。

(2) 患者サービスの推進

退院時アンケートの分析、各部署の掲示物ラウンドを行った。退院時アンケートの分析結果、肯定意見が80%であった。入院環境に関する要望は禁止されているにも関わらず病室内で携帯電話を使用していることやトイレが汚染されているときの対応についてが多かった。その対策として総務係と協力して患者への注意喚起のポスターを作成し掲示した。看護師に対する要望は「対応、声掛けなどの接遇面」が多く、各部署に周知した。

5 システム・パス委員会

活動内容：看護支援システムとクリカルパスの効果的運用を行うことで医療安全の確保と看護の質向上を目的に取り組んだ。

(1) 看護支援システム

次期医療情報システム機能要望について意見交換し部署ごとに集約し、結果を情報管理係に提出した。また、セキュリティチェックを行い電子カルテPCのデスクトップ上にあるファイル管理を徹底した。

(2) クリカルパスのバリエーション分析

クリカルパス作成方法とアウトカム評価記載方法の学習会を行った。またバリエーション分析を9事例実施し、パスの見直しを行った。

6 看護部感染対策委員会

活動内容：交差感染防止対策の強化として環境感染管理の推進、看護師の安全対策の推進を図ること、医療関連感染の低減に向けて取り組みを行った。

(1) 交差感染防止対策の強化

手指衛生実施の強化及びMRSA新規検出のサーベイランスに加え、環境の感染管理推進としてラウンドおよび感染予知トレーニングの注意喚起を実施した。手指衛生の実施回数は目標値を越せなかったものの、前年度実績を上回った。MRSA新規検出率は0.56と前年度値をやや上回ったが、アウトブレイクは認めなかった。

また、環境の感染管理として、全部署のラウンドを行い、環境や物品の管理の一部見直しを図り統一した。感染予知トレーニングとして、リーフレットを作成し、掲示して周知した。

(2) 看護師の安全対策の推進

針刺し切創・皮膚粘膜汚染事象の減少に向け、針刺し防止基本操作手順のe-ラーニングおよび自己チェックを実施し、事象数は、前年度比-23.8%であった。

(3) 医療関連感染サーベイランス

平成28年度から新たに中心静脈カテーテル関連血流感染（CLABSI）についても、ターゲットサーベイランスを開始した。医療関連感染とサーベイランスのe-ラーニングを実施し、日々の感染防止策についても周知した（実施率：100%）。

(4) 感染管理ベストプラクティスの遵守

今回、作成したおむつ交換・開放式吸引・ポータブルトイレ介助・点滴準備から接続の4つの感染管理ベストプラクティスの遵守に取り組んだ。また2年間の取り組みについて、学会発表を実施した。

この他、針刺し防止の取り組みや、ごみ分別適正化についても、学会で発表した。

7 リスクマネジメント看護分科会

活動内容：平成28年度は、安全な看護の提供を目指し下記の3点について取り組みを行った。

(1) 患者誤認件数減少（薬剤・検査・配膳）

平成28度の患者誤認件数は、23件であり前年度の28件に比べ5件減少した。

その内訳は、配膳の誤認件数が最も多く10件を占め、ネームバンドと食札の照合が不十分なことが要因であった。次に、薬剤誤認が9件発生した。要因として、ネームバンドと薬用ケースの患者名の照合不足からの誤認と投与直前にネームバンドでフルネームの確認ができていなかったことから発生した。誤配膳は看護助手への研修を実施したが、フルネームの確認ができていなかったことから発生し、昨年度10件より2倍になってしまった。そのため、1月に『配膳誤認防止キャンペーン』を行い強化月間とした。

また、平成28年度も27年度に引き続き他者チェ

ックを実施した。その結果、指さし、声だし確認の徹底ができていなかったこと、リストバンドとの照合をマニュアル通りに施行していないことが要因としてあげられた。2月にも患者誤認防止対策チェックを行い、他者チェックは94%となったが、有効な防止対策にならなかった。

(2) 転倒転落によるレベル3b以上の事故防止
骨折は17件であった。

骨折が発生した要因として、転倒転落アセスメントシートスコアの3日目の評価に記入もれがあったこと、また、アセスメントスコアシートの評価項目が高齢者に対応したものとしては不足があったことも要因にあがった。転倒転落アセスメントシートの項目の見直しをはかり、認知症状等の項目を追加し改訂を行い本格施行とした。

(3) 職員のリスク意識向上

看護職員の安全管理のための、再発防止に向けて、メディカルセーフターで事例分析を各部署が実施し、対策を考えた。今後は、重要な事例については、会議等での情報共有を行うことで、職員のリスク意識の向上と行動の振り返りを行うことで対策・評価に結び付けていく。さらに、内服自己管理に向けてアセスメントシートの内容を見直し、退院支援につながる、内服自己管理を推奨していく。

8 褥瘡・栄養サポート委員会

活動内容：褥瘡対策および栄養サポートに関する知識・技術の向上、院内褥瘡発生の予防、栄養状態の維持改善と新たにスキン-ケアの発生率を明らかにし予防することを目標に取り組んだ。

(1) 褥瘡発生防止対策

① 褥瘡に関するデータ集計と分析

院内褥瘡発生率は1.0%と前年度の1.6%を大きく下回り目標達成できた。そのうち医療関連機器圧迫創傷（医原性）の発生率は0.3%であった。治癒軽快維持率は、持ち込み褥瘡は98.4%、院内発生褥瘡は95%であった。褥瘡ハイリスクケア加算は1004件（前年度1572件）となった。

② 褥瘡対策チームラウンド

褥瘡対策チームラウンドは年間で16回、延べ34名に対し実施した。多職種カンファレンスを100%実施した。

(2) 禁食患者に対する経口摂取開始への取り組み

誤嚥性肺炎で入退院を繰り返す患者や入院中に誤嚥性肺炎を発症する患者に対し、オーラルヘルスアセスメントツール（OHAT）を用いてケアの統一と経口摂取へ移行に取り組んだ。その結果、

経口摂取へ移行できた患者は163人中103人でありその移行率は63.2%となり、効果的な口腔ケアの実施により、口腔内環境は維持・向上できた。

(3) スキン-ケアに関するデータ集計と分析

6月よりデータ集計を開始した。その結果、院内発生率は0.6%であった。治癒軽快維持率は100%であった。

(4) スキン-ケアマニュアルの作成

マニュアルを作成し予防ケアと治療的ケアの充実を図った。次年度は、マニュアルの活用状況を確認し評価・修正していく必要がある。

9 緩和ケアリンクナース委員会

活動内容：緩和ケアの推進を図り、より質の高い看護を提供することを目的に緩和ケアに関する勉強会、「生活のしやすさに関する質問票」の導入、緩和ケアラウンドを実施した。

(1) 緩和ケアに関する勉強会

「緩和ケアについて」「疼痛アセスメント」「疼痛治療の非薬物・薬物的アプローチ」をテーマに緩和ケア認定看護師やがん性疼痛看護認定看護師、がん専門看護師による勉強会を行い知識の向上に努めた。

(2) 生活のしやすさに関する質問票について

今年度導入して、70%以上の入院患者に一時的緩和ケアが提供されるようになった。導入後、緩和ケアチーム依頼件数は4割程度増加した。

(3) 緩和ケアリンクナースラウンド

9月より毎月、緩和ケアリンクナースラウンドを実施し、委員と病棟看護師による情報交換を行った。結果として緩和ケアの知識向上につながり日頃の看護に活用することができた。

10 退院支援チーム

活動内容：診療報酬改定に伴い、退院支援加算Ⅰ算定に向けた退院支援体制の構築、看護記録内容の強化に取り組んだ。また、地域連携セミナーの開催と退院支援実践能力の向上のための教育ツール（以下ラダー）を作成した。

(1) 退院支援記録の強化

入院から退院までの退院支援体制の周知と看護師の認識について現状把握し、退院支援記録に対するワンデー調査を実施した。退院支援に必要な情報について共通理解を推進した。

(2) 病院と地域を結ぶ看護ケアセミナー開催

“病院から地域へ円滑な地域連携を目指して”をテーマに11月に板橋区医師会在宅医療センター在宅看護部長、3月に高島平介護センター所長を

講師に講演会を開催、参加者は131名、137名であった。

(3) ラダーの作成

退院支援教育に必要な内容8項目を基に3つのステップに分け段階的に取り組むツールを作成した。リンクナースが退院支援に取り組む上での強みや弱みについての把握につながった。

11 認定看護師・専門看護師連絡会

活動内容：連絡会主催の勉強会、地域医療機関を対象にした勉強会「たんぼぼ会」に取り組んだ。

(1) 連絡会主催勉強会

年4回開催、近隣の連携病院も含め計66名の参加があった。「看護を語る会」では、看護師長をはじめ、経験年数がさまざまな看護師に語ってもらった。参加者は73名であり、アンケートからは「改めて“看護”の素晴らしさを感じた」「先輩も自分と同じように悩み、考えることがあったのだと分かって自信につながった」などの感想があった。次年度も継続する。

(2) 「たんぼぼ会」開催

たんぼぼ会は2部構成とし、第1部は勉強会、第2部は交流会として、意見交換を行った。1回目は認知症看護認定看護師による講義、2回目は心不全看護認定看護師と訪問看護ステーション所長によるミニシンポジウムを行った。板橋区内の訪問看護ステーションから計15名の参加があった。次年度は、二次保健医療圏の訪問看護ステーションにも声をかけ、顔の見える連携と地域連携強化に貢献する。

連絡会メンバーは、認定看護師16名10領域、専門看護師1名（がん看護専門看護師）である。

12 認知症ワーキング

活動内容：ワーキングメンバーを中心に認知症患者への看護実践力や対応力が向上するよう取り組みを行った。

(1) 認知症看護の質向上を図る

①メンバーを「認知症対応力向上研修」に派遣。

②勉強会、事例検討の実施

認知症ケアに関する看護計画が適切であるかメンバーで検討し、その結果を各病棟にフィードバックした。

(2) 平成28年度診療報酬改定に伴い、新設された「認知症ケア加算」について取り組みを検討した。8月から2病棟で試行し、改善が必要な事項については、協議し適宜改善した。

11月から全病棟で算定開始となった。

1 平成28年度 看護部院内研修実績

コース名	対象者	研修名	時間数	時間数(H)	人数	小計(日)					
ベーシックコース	平成28年4月採用者53名	新人看護職員臨床研修	看護部概要Ⅰ、Ⅱ	1.5H	1.5	53	9.9	レベルⅠ 総時間数 145.5時間			
			看護倫理Ⅰ(1回目)4月	1H	1	53	6.6				
			看護方式・災害看護	3H	3	53	19.9				
			医療安全Ⅰ(安全)4月	4H×2	8	53	53.0				
			医療安全Ⅰ(感染)4月	4H×2	8	53	53.0				
			看護記録Ⅰ第1・2回 4月	2	16	53	106.0				
			看護記録Ⅰ第3回 9月	1	8	53	53.0				
			高齢者理解Ⅰ(高齢者概論、各論)	4H	4	53	26.5				
			高齢者理解Ⅰ(摂食・嚥下、皮膚・排泄)	1	8	53	53.0				
			トランスファー	2H	2	53	13.3				
			看護必要度	4H	4	53	26.5				
			EBMに基づいた看護技術	4H	4	53	26.5				
			電子カルテ操作研修(3Gに分けて)	1	8	53	53.0				
			救急蘇生法(2回に分けて)	2H×2	4	53	26.5				
			病棟体験研修	1(3日間)	24	53	159.0				
			めざす看護師像	3H	3	53	19.9				
			事例検討Ⅰ(ナラティブ)	4H	4	53	26.5				
			事例検討Ⅰ(ナラティブ)発表	1	8	52	52.0				
			高齢者看護Ⅰ(コミュニケーション)	4H	4	52	26.0				
			高齢者看護Ⅰ(摂食・嚥下障害)	4H	4	53	26.5				
			高齢者看護Ⅰ緩和ケア	2H	2	52	13.0				
			メンバーシップ(業務中断・優先順位)	4H	4	53	26.5				
			医療安全Ⅰ(安全)2回目 10月	4H	4	53	26.5				
			看護倫理Ⅰ(2回目) 12月	2H	2	52	13.0				
			静脈注射	4H	4	41	20.5				
			サポートカンファレンス 第1回 4月	1H	1	53	6.6				
			サポートカンファレンス 第2回 5月	1H	1	53	6.6				
			サポートカンファレンス 第3回 11月	1H	1	53	6.6				
			レベルⅡ	卒後2年目44人	事例検討Ⅱ	2H	2		44	11.0	レベルⅡ 総時間数 44時間
					事例検討Ⅱ 発表	7H	7		42	36.8	
					高齢者看護Ⅱ(認知障害)	4H	4		44	22.0	
					高齢者看護Ⅱ(皮膚・排泄ケア)	4H	4		44	22.0	
					高齢者看護Ⅱ(コミュニケーション)	4H	4		44	22.0	
					医療安全Ⅱ(安全管理)	4H	4		44	22.0	
					医療安全Ⅱ(感染管理)	4H	4		43	21.5	
					退院支援Ⅱ	4H	4		44	22.0	
					看護記録Ⅱ	4H	4		44	22.0	
					看護倫理Ⅱ	4H	4		43	21.5	
					リーダーシップ	3H	3		41	15.4	
レベルⅢ	卒後3年目40人	事例研究			9H	9	40	45.0	レベルⅢ 総時間数 44.5時間		
		事例研究Ⅲ 発表			7H	7	38	33.3			
		高齢者看護Ⅲ(認知機能障害)			2H	2	38	9.5			
		高齢者看護Ⅲ(皮膚・排泄ケア)	3.5H	3.5	38	16.6					
		高齢者看護Ⅲ(摂食・嚥下)	2H	2	38	9.5					
		医療安全管理Ⅲ(安全管理)	4H	4	38	19.0					
		医療安全Ⅲ(感染管理)	4H	4	38	19.0					
		看護記録Ⅲ	6H	6	38	28.5					
		看護倫理Ⅲ	1H	1	40	5.0					
		リーダーシップⅢ(前期5月)	3H	3	40	15.0					
		リーダーシップⅢ(後期1月)	2H	2	38	9.5					
		キャリア形成	1H	1	38	4.8					
		ジェネラルコース	卒後4年目以上	看護研究 第1~8回	1(8日間)	64	16	128.0		レベルⅣ 総時間数 147時間	
				看護研究 発表会	2H	2	16	4.0			
高齢者看護Ⅳ(退院調整)	4H			4	16	8.0					
高齢者看護Ⅳ(摂食・嚥下障害)	3H			3	14	5.3					
看護記録Ⅳ-2 監査 第1回	8H			8	21	21.0					
看護記録Ⅳ-2 監査 第2回	4H			4	21	10.5					
リーダーシップⅣ(チームリーダー) 第1回	2H			2	20	5.0					
リーダーシップⅣ(チームリーダー) 第2回	2H			2	24	6.0					
リーダーシップⅣ(実地指導者) 第2回 7月	1			8	25	25.0					
リーダーシップⅣ(実地指導者) 第3回 11月	4H			4	26	13.0					
リーダーシップⅣ(実地指導者) 第4回 2月	2H			2	26	6.5					
リーダーシップⅣ(実地指導者) 第1回 3月	2H			2	27	6.8					
リーダーシップⅣ(教育担当者) 第2回 11月	1H			3	15	5.6					
リーダーシップⅣ(教育担当者) 第1回 3月	2H			2	14	3.5					
経験者採用	経験者採用職員研修 4月		1(2日間)	16	9	18.0					
	経験者採用職員研修 5・6・8・9・10・12・1月		7H	7	18	15.8					
	高齢者看護(スキンケア・認知機能・緩和ケア) 5月 3月		2H	4	25	12.5					
	静脈注射 1回目 6月		3H	3	12	4.5					
	静脈注射 2回目 1月		4H	4	12	6.0					
	1ヶ月後フォローアップ研修 6月 3月		1H	2	25	6.3					
	6ヶ月後フォローアップ研修 9月		1H	1	19	2.4					
マネジメントコース	マネジメントコース	主任昇任研修(固有)	1	8	2	2.0	マネジメントコース 総時間数 63時間				
		主任課題研修	2H×8	16	30	60.0					
		看護マネジメント研修	39H	39	40	195.0					
					合計	1979.2					

2 平成28年度 看護部院外研修派遣実績

研修内容		対象者数(人)	研修日数(日)	延べ人数(人)
中央研修	職層別研修「課長代理研修」 6/1～2	4	2	8
	主任パワーアップ研修 (第2回1名) 10/28・11/28、(第6回2名) 11/4、12/2	3	2	6
	交渉力向上 9/7～8	1	2	2
福祉保健局・福祉保健局財団研修	転入職員 局間異動 4/7	1	1	1
	認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル) 9/2～12/19 (30日間)	2	30	60
	認定看護管理者教育課程 (ファーストレベルブラッシュアップ研修) 7/14	1	1	1
	リーダーシップと組織マネジメント 7/15	2	1	2
	都立看護専門学校運営会議全体会「ワークショップ」 12/14	6	1	6
	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ 9/2、11/29、1/27	12	1	12
	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ 9/6	2	1	2
病院経営本部研修	病院幹部マネジメント研修 (看護) 12/7	1	1	1
	院内教育担当者 6/9、6/29、16/30、7/7、12/21、1/18	2	6	12
	看護記録 6/6、6/7、6/28、7/12、7/25、10/31	2	6	12
	「看護系主任」第1回 5/10、5/11、6/1、7/4、9/13、9/14、2/7	1	7	7
	「看護系主任」第2回 5/12、5/13、6/2、7/5、9/13、9/14、2/8	1	7	7
	「看護系主任」第3回 5/17、5/18、6/3、7/6、9/13、9/14、2/9	1	7	7
	クレーム対応 11/29	1	1	1
	臨床実習指導者 5/26、6/10、9/6、9/7	2	4	8
	臨床実習指導者 (公開講座) 6/10	1	1	1
	「リスクマネジメント (基礎)」 9/6	3	1	3
	「リスクマネジメント」(公開講座) 9/6	8	0.4	3.2
	リスクマネジメント (リーダー養成) 町田 9/11、28	1	2	2
	「診療報酬」公開講座 7/22	6	0.4	2.4
	看護倫理入門 12/19	1	1	1
	組織支援力向上 (看護1級職) 11/15	3	1	3
	組織支援力向上 (看護2級職) 11/1	2	1	2
	効果的な資料作成 Aクラス11/2	1	1	1
	効果的な資料作成 ABクラス11/22	3	1	3
	「平成27年度主任級選考合格者研修」 2/28	2	1	2
	困った学生、気になる学生の支援	1	1	1

	研修内容	対象者数(人)	研修日数(日)	延べ人数(人)
看護協会 ナースクラブ が研修	医療安全管理者養成研修 5/23・24・25・27、6/13・15・16	1	7	7
	医療安全管理者養成研修 フォーアップ研修 1/17	1	1	1
	実習指導者育成研修 (40日間)	1	40	40
その他	日本体外循環技術医学会三年次教育セミナー 5/28・29	2	2	4
	第16回 補助人工心臓研修コース (手術室コース) 6/4・5	1	2	2
	第16回 補助人工心臓研修コース 6/4・5	3	2	6
	第32回人工臓器学会 教育セミナー 7/16・17	7	2	14
	医療安全基礎講座 7/21・22	1	2	2
	自治体病院協議会 重症度、医療・看護必要度 8/6～7	2	1	2
	がんのリハビリテーション研修 8/6～7	1	2	2
	「重症度、医療・看護必要度」の院内指導者 7/24	1	1	1
	「重症度、医療・看護必要度」の院内指導者 8/28	10	1	10
	感染対策セミナー 9/14	2	1	2
	ファンダンメンタルズトレーニング 7/30・31	1	2	2
	がん相談支援センター相談員基礎研修 7/30・31	1	2	2
	感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座 9/17～18	1	2	2
	弾性ストッキング・コンダクター 浜松地区 講習会 12/12	1	1	1
	一般社団法人 日本糖尿病療養指導士認定機構主催 第16回受験者用講習会 6/27	3	1	3
	訪問看護研修 (板橋区医師会) 東京都訪問看護教育ステーション事業 11/25 (1名)、11/28 (1名)、12/9 (1名)、12/16 (1名)。12/22 (1名)	5	1	5
	日本救急看護学会「トリアージナース育成研修会」 9/17～18	1	2	2
	看護師の救急自動車同乗研修 9/29 (1名)	1	1	1
	第8回DMAT養成研修 2/20～23	1	3	3
		48	79.0	63.5

3 平成28年度 学会派遣実績

NO	学会名称	開催日	対象者数 (人)	研修日数 (日)	延べ人数 (人)
1	日本認知症ケア学会	5月19日～21日	1	3	3
2	日本認知症ケア学会	6月4日・5日	2	2	4
3	第27回日本在宅医療学会	6月4日・5日	1	2	2
4	第21回緩和医療学会学術大会	6月17日・18日	2	2	4
5	第22回日本看護診断学会学術大会	7月2日・3日	1	2	2
6	第22回心臓リハビリテーション学会	7月16日・17日	1	2	2
7	日本老年看護学会第21回学術集会	7月23日・24日	6	2	12
8	第47回日本看護学会 看護教育	8月4日・5日	1	2	2
9	第20回日本看護管理学会学術集会	8月19日・20日	1	2	2
10	日本看護学教育学会第26回学術集会	8月22日・23日	1	2	2
11	日本災害看護学会第18回学術集会	8月26日・27日	1	2	2
12	日本地域看護学会	8月26日・27日	1	2	2
13	第16回日本感染看護学会学術集会	8月26日・27日	2	2	4
14	日本家族看護学会第23回学術集会	8月27日・28日	1	2	2
15	第21回板橋区医師会医学会	9月10日	6	1	6
16	第47回日本看護学会 精神看護	9月15日・16日	1	2	2
17	第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	9月18日・19日	5	2	10
18	第47回日本看護学会 看護管理	9月27日・28日	5	2	10
19	第40回日本死の臨床研究会年次大会	10月8日・9日	1	2	2
20	第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	10月10・11日	3	2	6
21	第30回日本手術看護学会	10月14日・15日	1	2	2
22	第55回全国自治体病院学会	10月20日・21日	5	2	10
23	第42回日本体外循環技術医療学会学術集会	10月22日・23日	2	2	4
24	第30回日本手術看護学会	10月22日・23日	2	2	4
25	第18回日本救急看護学会学術集会	10月22日・23日	2	2	4
26	第38回日本手術医学総会	11月4日・5日	2	2	4
27	第47回日本看護学会 慢性期看護学術集会	11月10日・11日	2	2	4
28	第22回日本臨床死生学会大会	11月19日・20日	2	2	4
29	第11回医療の質・安全学会学術集会	11月19日・20日	8	2	16
30	第54回日本人工臓器学会大会	11月23日～25日	4	3	12
31	第17回日本クリニカルパス学会学術集会	11月25日・26日	6	2	12
32	日本看護科学学会 第36回学術集会	12月10日・11日	2	2	4
33	東京都福祉保健医療学会	12月15日・16日	4	2	8
34	第13回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会	12月22日・23日	1	2	2
35	東京都看護協会看護研究学会	12月24日	1	1	1
36	日本がん看護学会第31回学術集会	2月4日・5日	5	2	10
37	第45回人工心臓と補助循環懇話会学術集会	2月17日・18日	1	2	2
38	第7回日本腎臓リハビリテーション	2月18日・19日	1	2	2
39	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2月23日・24日	1	2	2
40	第32回日本環境感染学会総会・学術集会	2月24日・25日	4	2	8
41	第39回日本造血細胞移植学会総会	3月3日・4日	3	2	6
合計			102	82	202

4 平成28年度 研修生受け入れ実績

	研修内容	受入数	実習日数	延人数	主催施設
都立看護専門学校教員臨床研修 8月1日～8月5日	臨地実習	2	5	10	東京都福祉保健局
認定看護師教育課程「認知症看護学科」 8月1日～8月2日	臨地実習	4	2	8	日本看護協会 看護研修学校
認定看護師教育課程「認知症看護学科」 8月17日～9月16日	臨地実習	2	22	44	聖路加国際大学 教育センター
認定看護師教育課程「皮膚・排泄ケア」 9月1日、9月15日	ストマスキンケア外来 臨地実習	5	1	5	日本看護協会 看護研修学校
認定看護師教育課程「皮膚・排泄ケア」 8月16日、8月30日、9月18日	さわやか排尿外来 臨地実習	6	1	6	日本看護協会 看護研修学校
東京都訪問看護教育ステーション事業 訪問看護師の病院研修 7月4日～9月2日	臨地実習	4	1	4	東京都福祉保健局 板橋区医師会
認定看護師教育課程「慢性心不全看護」 1月10日～2月13日	臨地実習	2	25	50	北里大学看護キャリア開発 ・研究センター
東京都ナースプラザ実習指導者研修 1回目 6月7日	病院見学実習	2	1	2	東京都ナースプラザ
東京都ナースプラザ実習指導者研修 2回目 9月6日	病院見学実習	2	1	2	東京都ナースプラザ
医療福祉連携講習会 (地域連携クリティカルパス) 8月17日	病院見学・説明	1	1	1	自治体病院学会 東京都保健医療公社 豊島病院看護職員
合計		27	54	132	

5 平成28年度 看護実習生受け入れ実績

学校名	学生数	実習日数	延人数	実習科目
東京都立板橋看護専門学校	36	5	180	基礎実習Ⅰ
	36	10	360	基礎実習Ⅱ
	36	10	360	老年看護Ⅰ
	78	11	858	老年看護Ⅱ
	44	11	484	統合
首都大学東京	10	10	100	高齢者看護
東京女子医科大学	4	12	48	統合Ⅰ・Ⅱ
	48	7	336	老年看護
了徳寺大学	20	10	200	基礎看護学
帝京平成大学	54	8	432	基礎看護学Ⅰ
	20	9	180	基礎看護学Ⅱ
帝京科学大学	15	4	60	精神看護学実習Ⅱ
	40	8	320	基礎看護学
	10	9	90	基礎看護学統合実習
日本医療科学大学	36	4	144	基礎看護学Ⅰ-①
	30	10	300	基礎看護学Ⅰ-②
	24	12	288	基礎看護学Ⅱ
	24	12	288	高齢者看護学
合計	565	162	5,028	

6 平成28年度 看護体験受け入れ実績

行事名	開催日	体験者数	体験日数	延人数	主催施設
一日看護体験（高校生）	7月21・22・23日	5	1	5	東京都ナースプラザ
一日看護体験（社会人）	7月27日	2	1	2	東京都ナースプラザ
看護インターンシップ夏期	8月1日～8月10日	19	1	19	当センター看護部
看護インターンシップ春期	3月13日～3月24日	50	1	50	当センター看護部
合計		76	4	76	

7 平成28年度 講師派遣実績

	講師名	科目（講義内容）	時間数	回数	施設名
1	澤田 法子	看護管理と研究（看護管理）	2時間 2クラス	3回	東京都立板橋看護専門学校
2	白取 絹恵	看護職員の認知症対応力向上研修講師養成研修	6.25時間	1回	平成28年度老人保健推進等事業
3	白取 絹恵	高齢者看護方法論 「認知症ケアに関する最新の知識およびケアの実際」	3時間	1回	了徳寺大学看護学科
4	白取 絹恵	「介護・医療の基礎知識 からだとこころの理解（後半）」	3時間	1回	平成28年度福祉容疑相談員指定講習会
5	白取 絹恵	東京都神経難病ネットワーク研修 ジェネラルコース神経難病看護「認知症患者の看護」	4時間	1回	東京都立神経病院
6	白取 絹恵	高齢者の健康障害時の看護 「認知症のある高齢者の看護」	2時間 2クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
7	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ	8時間	2回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
8	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅱ	8.5時間	1回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
9	白取 絹恵	東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅲ	8.25時間	1回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
10	白取 絹恵	ELNEC-JG in 埼玉県看護協会ファシリテーター	8時間	2回	埼玉県看護協会
11	白取 絹恵	日本老年看護学会GCNS・DCN活動推進委員会主催研修会「認知症ケア加算」ファシリテーター	7時間	1回	日本老年看護学会 GCNS・DCN活動推進委員会
12	白取 絹恵	高齢者の健康障害時の看護 「認知障害・認知症のある高齢者の看護」	8時間	2回	東京都立板橋看護専門学校
13	白取 絹恵	「認知症対応力向上研修：認知症ケアの知識」	1時間	1回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
14	白取絹江	東京都多職種協働研修ファシリテーター	4時間	3回	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課
15	白取絹江	東京都神経難病ネットワーク研修 ジェネラルコース神経難病看護「認知症患者の看護」	4時間	1回	東京都立神経病院
16	白取絹江	研修「認知症ケアの基本・認知症の方々との関わりおよび対応の在り方」グループワーク	1.5時間	1回	社会福祉法人育秀会 第3育秀苑
17	野島陽子	中高年のための健康講座「排尿ケア」	1時間	1回	板橋区医師会 板橋区文化会館
18	野島陽子	高齢者介護施設におけるスキンケア研修	3時間	2回	東京都ナースプラザ
19	野島陽子	女性に多い頻尿・尿失禁の改善のセルフケアセミナー	2時間	1回	板橋区保健所
20	野島陽子	第5、6回 下部尿路症状の排尿ケア講習会	1時間	1回	一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会
21	木村 陽子	認知症とせん妄ケアについて・ユマニチュードケアの実践報告	1.5時間	2回	医療法人財団 崎陽会 日の出ヶ丘病院
22	木村 陽子	東京都立看護学校教員対象研修講義 「認知症とせん妄ケア・ユマニチュードの実践報告」	1.5時間	1回	東京都福祉保健局
23	木村 陽子	東京都認知症対応力向上研修Ⅱファシリテーター	8時間	1回	国立オリンピック記念青少年総合センター
24	木村 陽子	東京都認知症対応力向上研修Ⅲファシリテーター	9時間	2回	東京都福祉保健局高齢社会対策部 (新宿NSビル)
25	木村 陽子	北区内の介護サービス事業者と認知症ケアに携わる医療従事者対象「認知症ケアセミナー」	2時間	1回	北区 北とびあ
26	木村 陽子	千代田区近隣の看護職員等 「認知症ケア研修」	2時間	1回	社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 (かがやきプラザ)
27	木村 陽子	荏原病院認知症疾患センター 「東京都認知症対応力向上研修」ファシリテーター	3時間	1回	東京都保健医療公社 荏原病院
28	木村 陽子	都立看護専門学校運営会議全体会ワークショップ グループワークファシリテーター（認知症看護）	4時間	1回	都立板橋看護専門学校
29	木村 陽子	「認知症とせん妄ケアについて」 －ユマニチュードケアの実践報告－	3.5時間	1回	都庁（都立看護専門学校最新医療事情研修）
30	出崎 奈美	老年看護学 「高齢者の健康障害時の看護（感染症）」	2時間 2クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
31	出崎 奈美	医療安全管理 感染管理について	1.5時間	1回	日本医療科学大学
32	出崎 奈美	「感染症の知識」「感染症発生時の対応策」「感染症の予防について」	1.5時間	1回	東京都八王子福祉園
33	出崎 奈美	感染防止に関する研修	1時間	1回	東京都リハビリテーション病院

	講師名	科目（講義内容）	時間数	回数	施設名
34	鉄谷 祥子	循環器看護セミナー	1時間	1回	北里大学看護キャリア開発・研究センター
35	前田 孝子	転倒・転落事故防止リスクアセスメント 第1・2回	7時間	2回	東京都ナースプラザ
36	加納 江利子	東京都リハビリテーション病院院内研修 「職業感染対策」	1時間	1回	東京都リハビリテーション病院
37	今野 真希	インスリンフォーラム2016 「認知症を併発した高齢糖尿病患者に対する療養指導」	1時間	1回	日本糖尿病協会東京都支部・サノフィ株式会社
38	亀井 めぐみ	老年看護学 「高齢者の健康障害時の看護（褥瘡）」	2時間2 クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
39	荒木 健太郎	治療論Ⅱ 「リハビリテーション」	2時間 2クラス	3回	東京都立板橋看護専門学校
40	松崎 弘美	老年看護学 「高齢者の健康障害時の看護」	2時間 2クラス	2回	東京都立板橋看護専門学校
41	塩田恵子	実習指導者研修「指導案」演習講師	2.5時間	2回	東京都ナースプラザ
42	杉山 純子	緩和ケア認定看護師教育課程 「臨死期のケア」	3時間	1回	神奈川県看護協会
43	蛭原 大作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	8回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
44	蛭原 大作	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC A CLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	6回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
45	石川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	8回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
46	石川 峻	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC A CLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	5回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
47	武藤 直美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	4回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
48	武藤 直美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC A CLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	3回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
49	鎌塚 尚生	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	2回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
50	鎌塚 尚生	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC A CLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	1回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
51	吉村 秀平	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	8回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
52	宮本 有花里	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC BLSプロバイダーコース インストラクター	4時間	4回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
53	市堀 豊美	アメリカ心臓協会 JSISH-ITC A CLSプロバイダーコース インストラクター	12時間	2回	日本医療教授システム学会 国際トレーニングセンター
54	鹿島田 美奈子	「第16、17回城北CDEセミナー」 糖尿病に関するファシリテーター、グループディスカッション司会	4時間	2回	城北CDEセミナー 共催 ニプロ(株) ノボルディスクファーマ(株)
55	鹿島田 美奈子	板橋区訪問看護ステーション所長会研修会 「糖尿病患者の在宅管理・生活について」	1.5時間	1回	板橋区訪問看護ステーション会

8 平成28年度 著書（執筆）実績

	著者名	論文名	書名	出版社
1	(序章) 黒坂 眞理子 / (第1章) 飯野 君江 / 石井 沙織 / 鉄谷 祥子 / 木村 陽子 / 西川 つぐみ / (第2章) 鉄谷 祥子 / 石井 沙織 / 岩淵 あかね / 古井 奈美 / 町田 あかね / 藤崎 寿美恵 / 鹿島田 美奈子 / 鉄谷 祥子 / 白取 絹恵 / 木村 陽子 / 白取 絹恵 / 野島 陽子 / 亀井 めぐみ・野島 陽子 / 前田 孝子 / 加納 江利子 / 前田 孝子 / 古井 奈美 / 覚知 現	序章 高齢者を取り巻く現状と疾患 / 第1章・高齢者の疾患管理 ①がん 高齢癌患者のケア / ②脳血管疾患 高齢脳血管疾患患者のケア / ③心疾患 高齢心疾患患者のケア / ④糖尿病 高齢糖尿病患者のケア / ⑤精神疾患 高齢精神疾患患者のケア / ⑥呼吸器疾患 高齢呼吸器疾患患者のケア / 第2章・よく出合う問題と対応 (症状が出にくい) ①心不全の憎悪に気がつきにくい / ②慢性硬膜下血腫に気がつきにくい / 肺炎になっても症状が著明でなく気がつきにくい / 認知症や、認知力が低下している患者の疼痛レベルが把握しにくい / 骨折したことに気がつきにくい / 脱水や熱中所の症状に気がつきにくい / 食前の血糖値が低いのに低血糖症状が出ない / (複数の疾患をもっている) ①併せ持つ疾患が多種多様でどの疾患なのかわからない その1 意識レベル その2 息苦しさ / (不穏 認知症がある) 認知症なのか、加齢・せん妄・うつ病なのか判断しにくい / 不穏のある高齢患者を拘束せずケアすることがむずかしい / 認知症患者とのコミュニケーションがむずかしい / (かかりやすい症状/現象がある) 頻尿で、少量しか排泄しない / 皮膚の乾燥により掻き傷をつくりやすい / 転倒しやすく予防と対応がむずかしい / 下痢の患者がいると、周囲にも同様の下痢が発生しやすい / (高齢者特有の倫理問題がある) 安全のための身体抑制にジレンマを感じる / D N A R の指示がある患者に対する治療方針にジレンマを感じる / 退院支援がなかなかうまくいかない	ナースの困ったに答える高齢者の看護ケア よくみる疾患 よく出合う問題	学研教育出版
2	加納 江利子	「各病棟でのケア難しさとケアのポイント」 身体疾患の治療が必要な認知症患者に対する実践者の考え方 (呼吸器科)	認知症の人の気持ちから考える 認知症ケアで大切なこと ～急性期病院編～	インターメディカ
3	木村陽子	急性期病院の精神科看護実践からみる家族の状況 (事例報告)	看護のチカラ 平成28年9月号	産労総合研究所
4	野島 陽子	「特集 その裂傷スキン-ケアではありませんか？」	ナース専科 2016年10月号	(株)エスエムエス
5	野島 陽子	「特集 失禁関連皮膚障害の予防とケア」	看護技術 2017年4月号	メヂカルフレンド社
6	鹿島田美奈子	第Ⅲ部 糖尿病教育	「ケースで学ぶ 実践! 高齢者糖尿病 診療ガイド」	南山堂
7	鹿島田美奈子	Chapter4 各病棟でのケアのむずかしさとケアのポイント Column 身体疾患の治療が必要な認知症患者に対する実践者の考え方 03 糖尿病科 (生活指導、血糖コントロール目標)	「認知症の人の気持ちから考える 認知症ケアで大切なこと ～急性期病院編～」	インターメディカ

9 平成28年度 学会発表実績

NO	研究者名	演 題 名	学会名称	年月日	発表形式
1	○鹿島田 美奈子 今野 真希	高齢者を対象とした急性期病院での糖尿病啓発イベントの報告	第59回日本糖尿病学会	平成28年5月19日	示説
2	○眞部 久美子 伊東 美緒	集中治療室における重症心不全患者に対するせん妄予防としての知的活動の効果	日本認知症ケア学会大会	平成28年6月4日	示説
3	○木村 陽子 染谷 摂子 野津 加良子	総合病院精神科病棟におけるせん妄ケアの実践 ～個人の思いと生活を重視したケア～	日本老年看護学会 第21回学術集会	平成28年7月23日	示説
4	水木 宗一郎	肺がんターミナル患者の心理的变化とチームでの関わり	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
5	大野 鮎美	患者への依存度の高い知的障害をもつ家族への援助	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
6	酒井 真野	医療処置が必要な高齢患者の介護を担う患者家族への退院支援	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
7	五十嵐 恵	自宅退院に向けての退院調整や退院後訪問で学んだこと	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
8	吉村 秀平	再発がんにより二度目の外科的治療を受けた高齢患者に対する看護 -ペパロウの人間関係論を用いた関わりを通して-	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
9	戎野 亮	題転子部骨折患者の経時的心理変化と看護プロセス	第21回 板橋区医師会医学会	平成28年9月10日	口頭
10	○河野 春奈 鹿島田 美奈子	1型糖尿病患者のインスリン持続皮下注療法導入に伴う心理的変遷と看護	第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	平成28年9月18日	口頭
11	○林 麻梨香 岩淵 あかね 宮本 有花里	高齢糖尿病患者のQOL向上を目指した食事療法 ～チーム医療における食事指導の関わりを通して～	第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	平成28年9月19日	口頭
12	古清水 志保	化学療法を繰り返す進行肺癌患者の精神的変化 ～治療中にあたらな種類の肺癌が発見された症例～	第40回 日本死の臨床研究会年次大会	平成28年10月8日	口頭
13	今野 真希	「ゼロから始める看護外来開設～活動の場を広げて見ませんか?～」	第21回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	平成28年9月18日	口頭
14	○吉岡 加良子 成田 由香 出崎 奈美 谷 早苗	楽しみながら学べる研修 ～感染管理研修に導入したゲーミフィケーションの効果～	第55回全国自治体病院学会	平成28年10月21日	示説
15	○成田 由香 八田 香奈子 大島 みゆき	高齢者看護領域における3年間の基礎コース研修の評価と今後の課題	第55回全国自治体病院学会	平成28年10月21日	示説
16	○臼田 素子 杉山 純子	家族看護 ～思春期の子どもへの関わり～	第22回日本臨床死生学会第	平成28年11月20日	口頭
17	沖田 美奈	認知症患者の膀胱留置カテーテル挿入下での退院調整	東京都看護協会 看護研究学会	平成29年1月28日	示説
18	○飯野 君江 最上 由紀子	家族疎遠の独居高齢患者の支援について -事例の振り返りカンファレンスより-	第31回日本がん看護学会学術集会	平成29年2月4日	口頭
19	○山田 由香理 佐野 真理子 飯野 君江 山田 理子	交換ノートを活用した肺がん患者における終末期の意思決定支援	第31回日本がん看護学会学術集会	平成29年2月4日	口頭
20	○田島 美穂 出崎 奈美 工藤 明子	STOP! 針刺し～針刺し事象 0を目指した取り組みの検証～	第32回環境感染学会	平成29年2月24日	示説
21	○前沢 知美 出崎 奈美 工藤 明子	感染管理ベストプラクティスの遵守に向けた取り組み ～他者チェックを2年実施して見えたこと～	第32回環境感染学会	平成29年2月24日	示説
22	○大友 麻理 出崎 奈美 工藤 明子	ごみ分別適正化に対する取り組み ～院内の全部署をラウンドして分かった現場の声を活かして～	第32回環境感染学会	平成29年2月24日	示説
23	福丸 利憲	65歳以上の高齢者に対する改訂PAMスコアを含めた3つの異なる移植前リスクの評価とジレンマ	日本造血細胞移植学会	平成29年3月2日	示説
24	○渡邊 美希 亀谷 由佳子 森 優子	血液内科病棟におけるインフォームドコンセントの看護師同席の現状調査 ～ICチェックリスト使用後の意識の変化～	日本造血細胞移植学会	平成29年3月2日	示説

1 28年度の活動

○平成28年度実績について

紹介率 71.8% (平成27年度76.6%)
 返送・逆紹介率 70.7% (平成27年度62.9%)
 紹介状受取件数12,748件 (平成27年度12,446件)
 新入院患者数 13,179名 (平成27年度13,053名)
 初診料算定患者数15,298名 (平成27年度15,966名)
 新入院患者数は、昨年度比9.9%増となった。初診料算定患者数、紹介率は減少したものの紹介状受取件数、逆紹介率、新入院患者数は増加した。

○センターのPRのため、医療機関への訪問、連携ニュースの発行、公開CPC、製薬会社と共催にて各種セミナーの開催 (日本医師会生涯教育制度における単位取得) 連携医療機関数の増加や連携医数の確保に努めた。

連携医療機関数 697医療機関 (平成27年度679機関)

連携医数 731名 (平成27年度718名)

各診療科セミナーは15回開催 参加者数842名
 内容 (抜粋)

老年医学セミナー

「当院におけるフレイル外来の現状～血压とフレイル～」

「認知症の薬物的治療の実際と非薬物的アプローチ、最近の取り組みから」

神経内科・脳卒中科セミナー

「高齢者バイオバンク・ブレインバンクプロジェクトの高齢者医療への貢献」

「認知症の地域連携 - 前頭側頭型認知症に対するアウトリーチ -」

カルニチン欠乏症を考える会

「老年医学におけるフレイルの意義 ～機能的健康度に着目した予防・医療・介護～」

「血液透析患者に対するレボカルニチン療法の有用性」

消化器・循環器フォーラム

～抗血栓薬における消化管出血の現状と課題～

「高齢者における抗凝固療法の現状」

「抗血栓薬内服症例における消化管出血の実際」

「抗血栓薬による消化管傷害の現況」等

公開CPC 年5回開催 総参加者数167名

「臨床診断(急性感染性心内膜炎, くも膜下出血, 急性骨髄性白血病, 臍帯血移植後免疫不全, 播種性血管内凝固)」等

○救急外来患者増加を目指し、救急部会、当直体制検討委員会の事務局として活動している。

救急患者受入総数9,860人 (平成27年度10,102人)
 救急車受入件数は4,399台 (平成27年度4,371台)

断り率 11.1% (平成27年度9.7%)

断り率の増加は、専門医不在、病床満床等のためと思われる。

○救急外来受入れ強化のため板橋消防署、志村消防署、練馬消防署訪問を行った。

○病床利用率(病院全体)87.4%(平成27年度86.2%)
 平均在院在院日数(病院全体) 12.3日 (平成27年度12.3日)

○連携病院の協力体制の強化、後方病床確保のため医師派遣を行った。慈誠会記念病院へ血管外科医師派遣、また小豆沢病院へ消化器内科医師派遣を行った。

○10月5日豊島区医師会との医療連携連絡会を開催し、当センターの専門的医療、地域包括ケア病棟等の紹介や今後のより一層の連携強化について意見交換を行った。

○11月2日に板橋区医師会、豊島病院との医療連携懇親会を開催した。これは、両病院の医師と板橋区医師会の医師と顔が見える連携として企画されている。28年度は豊島病院にて開催された。

○11月29日に板橋区医師会と「板橋区医師会・東京都健康長寿医療センター医療連携連絡会議」を開催した。今後のより一層の連携強化について意見交換を行った。

○1月30日に健康文化会(小豆沢病院グループ)との医療連携会議を東京都健康長寿医療センターにて開催した。両病院の密接な連携結果を確認するとともに今後の更なる連携を模索することを確認し合った。また小豆沢病院地域連携室と定期的な連絡会を設けている。

○慈誠会グループとは、毎月WGを開催している。そのなかで、問題となる事例や受け入れてほしいケースの提案などについての打ち合わせを行った。

○救急関連として、6月、11月に区西北部地域救急会議、7月、12月に区西北部脳卒中地域連携パス合同会議、また、3月に板橋区大腿骨頸部骨折懇話会に参画し連携の強化と情報収集を行った。

また、近隣4病院と地域連携脳卒中パスWGを開催した。

○例年どおり板橋区医師会共催、板橋区後援にて

一般住民対象の中高年のための健康講座を11月26日（土）に板橋区立文化会館小ホールにて開催した。参加人数は282名であった。「泌尿器科のトラブルかかえていませんか？～人に聞けないおしこの話～」

- 第21回板橋区医師会医学会
9月11日(土)及び12日(日) 板橋区立文化会館で開催。一般演題10題の参加があった。
- 東京都在宅難病患者一時入院事業実績
28件（平成27年度23件）
- 在宅医療連携病床実績
52件（平成27年度44件）
- 連携ニュースでは、当センター各診療科の取り組みを紹介するとともに連携医療機関、連携医の紹介を行った。
- 例年どおり、連携医療機関にカレンダーの配布を行った。近隣の124施設について診療所訪問にて配布を行った。

- 職員表彰
事務部長賞「連携医療機関名とマップを記載した冊子「連携医療機関のご案内」を作成し、逆紹介の普及を目指した取組を受けて」
- 平成28年度職員提案
努力賞「かかりつけ紹介窓口の設置」

2 28年度からの新規活動

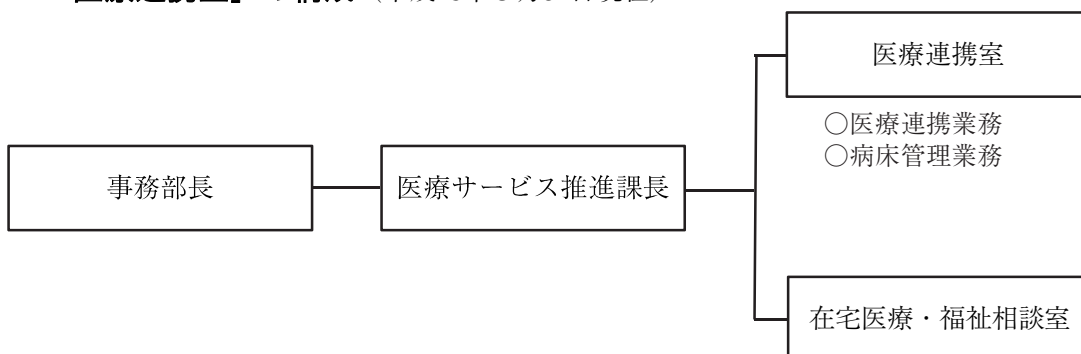
- 退院支援加算算定のための連携会議への開催と病院訪問を行った。
- 診療科案内を作成し、連携医療機関、地域医師会への配布を行った。
- 近隣の回復期リハビリテーション病院と脳卒中地域連携パスについての連絡会議を開催した。
- 周術期口腔ケアにおける医科歯科連携推進会議（豊島区歯科医師会）への参画
- 他院医療連携業務の見学研修（聖路加国際病院）を行った。

3 地域連携事業の実績

（単位：人）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
CT検査	99	110	123	146	115
MR検査	196	191	226	250	213
RI検査	47	54	31	36	26
超音波検査	16	7	9	8	27
その他（骨密度など）	5	4	15	13	15
PET	—	23	32	42	34
胃カメラ	—	—	6	1	1
計	363	389	442	496	431

4 「医療連携室」の構成（平成28年3月31日現在）



5 医療連携室の構成員

役 職	構 成 員	
室 長	室長	吉澤 聖子
室 員	主任	人見 千寿
室 員	主任	宮澤 翔太
室 員	主事	安藤 玲奈

6 連携担当医

診療科	連携担当医		診療科	連携担当医	
膠原病・リウマチ科	医長	杉原 毅彦	外 科	部長	金澤 伸郎
腎 臓 内 科	部長	武井 卓	血 管 外 科	部長	中澤 達
糖尿病・代謝・内分泌内科	総括部長	荒木 厚	心 臓 外 科	部長	西村 隆
循 環 器 内 科	部長	藤本 肇	脳 神 経 外 科	部長	松岡 浩司
呼 吸 器 内 科	部長	山本 寛	呼 吸 器 外 科	部長	西村 隆
消 化 器 内 科	医長	上垣 佐登子	整 形 外 科	総括部長	時村 文秋
神 経 内 科	部長	村山 繁雄	脊 椎 外 科	部長	穴水 依人
脳 卒 中 科	部長	金丸 和富	皮 膚 科	部長	種井 良二
血 液 内 科	部長	宮腰 重三郎	泌 尿 器 科	部長	粕谷 豊
総合診療科・感染症内科	部長	増田 義重	眼 科	部長	沼賀 二郎
精 神 科	医長	古田 光	耳 鼻 咽 喉 科	医長	高橋 正時
リハビリテーション科	部長	金丸 晶子	緩 和 ケ ア 内 科	部長	齊藤 英一
救 急 診 療 部	部長	坪光 雄介	歯 科 口 腔 外 科	部長	平野 浩彦
内 視 鏡 科	部長	西村 誠	放 射 線 診 療 科	部長	山川 通隆
化 学 療 法 科	部長	宮本 鋼			

MSW病棟担当制は6年目を迎え、積極的に早期介入・早期退院を図り、在院日数の短縮に努めた1年であった。具体的には、週1回の病棟カンファレンスへの参加だけでなく、毎日病棟へのラウンドを開始。医師・看護師・コメディカル・事務員等スタッフとの情報共有、方針協議を日々積極的に行い、早期退院、在院日数の短縮に繋がるようチーム医療の構築に努めた。更に、入院前からの介入を目指して、外来及び入院受付スタッフ、医療連携室等と密に連携を取り、病床管理看護師から毎日の朝会で緊急入院患者の情報収集を行うなど入院前及び入院時からの早期介入を強化した。

平成28年度診療報酬改定に伴い、地域包括ケアシステム取り組み強化として「退院支援加算1」が創設された。これは、保険医療機関における退院支援の積極的な取り組みや医療機関間の連携等を推進、評価するため、新設されたものである。算定要件としては入院後3日以内に患者の状況を把握し、7日以内に患者・家族の意向確認を行い、同じく7日以内に4者（病棟看護師・病棟専任MSW・在宅看護師・専従の社会福祉士）間でカンファレンスを実施することが要件。また、施設基準としても退院支援部門の設置、十分な経験を有する専従の社会福祉士の配置、専任の社会福祉士は1人2病棟までという規定。「退院支援加算1」の取得には算定基準・施設基準共に高いハードル設定だが、退院時に600点/件の加算が取得可能なことから、病棟・在宅看護師等と連携・協働し軌道に乗せることに邁進した。その結果、平成28年度は2,098件のコスト算定を達成した。

また、「退院支援加算1」には、20医療機関と年3回面会し情報共有を行うことも条件として挙げられており、それらをクリアするため地域の関係機関と密な連携を図るシステム構築にも努めてきた。

更に、医療機関間の連携における評価として「地域連携診療計画加算」（300点/退院時に1回）も新設された。これに伴い、速やかな退院支援を推し進める目的から【脳卒中地域連携パス】を立ち上げ、近隣の回復期リハビリテーション病院4病院と病病連携システムを構築。これは「リハビリテーションはなるべく早く、多く」という目的を実現するため、合併症がなくスムーズな転院が可能な方を対象とし、9月より実働開始。実件数としては、7カ月間で31件、平均在院日数14.3日で転院が可能となった。

また、11月より専従MSWにおいてセンター全体

における「40日越え長期入院患者」の管理を開始。これは、入院が長期化している理由を解明し、今後の方向性を各診療科部長及び主治医等に確認し速やかな退院支援を推し進めるものである。管理開始後より長期入院患者数は徐々に減り始め、12月より「35日越え」、翌年2月より「30日越え」と4カ月の間で長期期間日数を10日短縮して管理を行うことが可能となった。当初、長期入院患者は64名程であったが、年度末には43名程度まで減少。今後、「25日越え」「20日越え」と入院日数を更に短縮化して長期入院患者数の削減に努めていく予定である。

7日間ルール（早期退院支援）及び返送ケースも医療連携室から相談室へ業務移管となり、通常の退院支援に加え各病棟担当MSWが調整を行っている。保存的加療、社会的入院、一般的内科治療等に該当する患者は7日間ルール、その他は通常退院調整という様に病棟と協議しながら早期にスクリーニングを行い、効率的な退院促進を進めている。

7日間ルール及び返送ケースの調整件数は168件/年であった。

院外においては、慈誠会グループ及び小豆沢病院、その他赤羽リハビリテーション病院、東京腎泌尿器センター大和病院等との積極的な連携体制の構築に取り組み、後方連携病院獲得に努めた。慈誠会グループと毎月第4金曜日に開催している連携会議は今年度も引き続き行われ、患者情報、空床情報、病院機能に関する情報共有を行い毎月顔の見える連携を図り信頼関係を築いている。

慈誠会グループとの連携強化に努めた結果、当センターで退院調整に苦慮しているケース（膠原病・リウマチ科患者、長期療養目的の透析患者、生活保護等）の受け入れに尽力していただき、対応の実現に至った。当センターは高齢者の急性期病院にも関わらず後方連携病院がないことから、慈誠会グループとの連携強化は在院日数の短縮化に重要な役割を果たしている。慈誠会グループに限らず、先に挙げた小豆沢病院、赤羽リハビリテーション病院、東京腎泌尿器センター大和病院等とも今後より一層の連携を図る必要があると考える。

昨年まで整形外科・リハビリテーション科として運営していた6西病棟を、7月1日から準備開始し、10月1日より新たに地域包括ケア病棟として運用が始まった。相談室はその受け入れ窓口としてスムーズな院内転棟を心掛け、円滑な運営を

図っている。入棟後、自宅退院支援に時間が要する患者・家族に対して、スムーズに自宅退院できるよう地域との連携に努めている。10月から3月迄の平均在宅復帰率は84.6%であった。今後も在宅復帰率70%以上の退院支援を心掛ける。

相談室は医療・介護・保健・福祉の現状を確認し、患者、家族のニーズを把握しながら、高齢者にとってわかりやすい情報提供を行うよう独自に医療・福祉情報紙『ごぞんじですか』を作成している。制度及び医療機関情報は常に変化しているので、定期的に更新・改訂を行い常に最新情報をわかりやすく提供できるよう工夫している。

平成28年度MSWは、奥村真木、清水義尉、中馬かつら、津川晴奈(年度途中より産休)、川口東子、竹原史穂(産休中)、徳山由実、瀬川寿行、岩上香菜子、黒岩愛、西山亜矢子、非常勤 勝治朋美(産休代替)、山口智子(産休代替)計12名体制で4月よりスタートした。

〈相談業務〉

① 相談業務件数:相談業務総件数は76,084件であった。

新規相談の紹介経路としては、院内では医師(1,559件)看護師(169件)他院内職員(25件)であった。院外では患者・家族等(708件)医療機関・介護保険施設等(119件)ケアマネジャー(15件)区役所・保健所等(8件)となっている。患者・家族からの相談の中には、未受診の療養上相談も含まれている。

② 診療科別:循環器科(14.5%)、消化器内科(14.1%)、神経内科(12.6%)、整形外科(10%)、外科(7.7%)、膠原病・リウマチ科(5.8%)、緩和ケア(5.5%)、脳神経外科(4.4%)、脊椎外科(4.2%)、呼吸器内科(4%)、内分泌科(3.4%)、リハビリテーション科(3.1%)の順である。

緩和ケア病棟入院相談業務は3名(兼任)配置。相談件数は645件で、前年度より94件増加している。院内からの相談件数が前年度より5ポイント増加し、25%を占めている。院外相談の主な紹介元医療機関は、日本大学医学部付属板橋病院(66件)、帝京大学医学部付属病院(56件)、国立がん研究センター中央病院(25件)、都立駒込病院(21件)、豊島病院(19件)を始め、その他多数の医療機関から相談があった。

また、平成28年度4月1日よりがん相談支援センターを開設した。中馬(専従相談員)、川口・瀬川(専任相談員)、その他看護師が専任相談員として担当した。平成28年度相談件数は912件。毎月70件前後の相談件数で推移。

相談内容としては、緩和ケア相談・不安精神的苦痛・意志決定に関する相談・療養上の相談が多かった。2017年3月に当院独自の患者サロン「おれんじの会」を開催した。ミニ勉強会と茶話会の2部構成とし、患者同士の交流や、医療者へ気軽に質問できるよう配慮した。平成29年度は年2回開催予定。

③ 相談の特徴及び内容:当センターは急性期医療の病院であるため、退院に伴う相談が最も多く85%(内、転院・施設入所の相談が85%自宅退院に向けての相談が6.7%)であった。次いで療養上の相談が4.0%、福祉制度の相談が2.9%、経済相談が1.8%である。

転院相談では、長期療養可能な療養型病院をはじめ、急性期医療を継続して行える一般病院、回復期リハビリテーション病院、認知症専門病院、緩和ケア病棟など様々なニーズに応じて情報提供を行った。

自宅・死亡以外の退院総数は1,091件(68.3%)となっている。また、他病院への転院総数は1,034件で全体の87.9%を占めている。有料老人ホームへの入所は62件であった。

医療療養型病院では要医療患者(IVH、吸引頻回、酸素療法、インスリン注射、難病など)の受け入れが可能であるが、一方、気管切開、レスピレーター、NIPPU、BIPAPなどの呼吸器類装着、感染症、重度の褥瘡、薬価の高い薬及び注射、輸血等がある場合は転院調整に際してリスク要因となり受け入れ可能な医療機関は極端に少なく、待機期間が長い、個室対応などで経済的負担が大きいなど厳しい現状が続いている。

また、介護療養型病床の減少傾向は続き、要介護4以下・抑制帯・センサー等の必要性がある方、要介護状態ではあるが医療行為のない方の転院がより困難になっている。入院時に、病棟で早期に介護保険認定の有無に関する確認を行う、抑制帯の必要性について検討・協議し、不要が確認された場合には外してもらうなど、病棟と密に連携を図りながら転院に関するリスク要因の軽減に努めている。そして、随時各医療機関に問い合わせ、最新の受け入れ条件及び待機情報を係内で共有し、転院先の確保に努めた。

在宅退院への援助は、ケース内容(点滴・酸素・吸引など医療行為がある患者で手技指導が必要な場合)により同室の在宅看護相談看護師と協力しながら進めている。特に要医療、要看護の患者が自宅退院する際には患者、家族、在宅訪問医、訪問看護ステーション、

ケアマネジャー等地域関係者と退院前合同カンファレンスを開催し、安心して在宅療養へ移行できるよう情報共有を行っている。

相談ケースで身寄り・同居家族がない「単身独居」患者の入院の場合（特に東京ルール・救急入院等）、病気の重症度、障害の有無、判断能力によって異なるが、入院に必要な物品の問題、入院中の療養上の問題、経済的な問題、退院先の選択・手続き、転院時同行等MSWの関わりが必要となるケースが多い。高齢世帯、家族力が脆弱なケースに関しては、地域包括支援センター、ケアマネジャー、福祉事務所等地域関係機関との連携が重要であり、MSW介入と同時に各関係機関に相談をかけて連携を図っている。

〈その他の業務〉

- ・緩和ケア委員会事務局
- ・がん診療委員会
- ・退院支援チーム参加（12回/年）
- ・医療社会事業説明会（1回/年）
- ・医療社会事業従事者研修（4回/年）
- ・東京都脳卒中地域連携パス合同会議（4回/年）
- ・板橋区在宅療養懇話会（4回/年）
- ・板橋区脳卒中懇話会SW部会（3回/年）
- ・板橋区大腿骨頸部骨折パス地域連携会議（2回/年）
- ・北区・板橋区MSW勉強会（6回/年）
- ・慈誠会グループとの連携会議（12回/年）
- ・地域医療機関への挨拶・訪問（年平均40カ所）
- ・看護部院内研修講師（2回/年）
- ・看護部実習生対応

老年学情報センターは、健康長寿医療センター職員用図書館として、臨床・教育・調査・研究を、資料の収集・提供及び学会発表の補助で支援している。

図書委員会については、次年度の購読誌選定について、希望調査での部署別持ち点への研究発表数の反映方法の提案、購読誌の利用頻度の評価、職員の購読誌希望調査の実施・集計等の作業を行った。

各診療科・研究チーム等の研究活動の活発さが動的に専門誌コレクションに反映すること、そして、研究発表の活発さの支援。この両輪を今後の情報センターの新しい性格として来年度も増強していきたい。

図書委員会ではこのほか、老年学情報センターの位置づけの問題として、総務係-老年学情報センターの管轄に関する問題提起を行った。このことにより平成30年度以降の第3期中期計画策定に合わせて、研究部門の研究支援体制の中で老年学情報センターの位置づけを検討することとなった。

看護部院内研修では、ベーシックコース及びジェネラルコースにおいて、看護師を対象に文献検索・文献入手、事例や研究発表のためのスライド作成について講義を行った。一部の看護研究グループに対しては学会ポスター発表に関わって、データの解析やグラフ表現についてアドバイスを行った。

病院部門・研究部門の研究活動支援の一環として、学会ポスターの原稿づくりを解説するパンフレットの作成、学会ポスターの原稿の作成、大判プリンター操作補助などを行った。

健康長寿医療センターホームページには、これまで老年学情報センターに関する記載がなかったが、ページのプラン（コンテンツとデザイン）を作成し、センターホームページの中の1ページとして公開を開始した。

養育院・渋沢記念コーナー関連では、通常の、掲示物・配布物・展示物の作成のほか、コーナー解説小冊子の改訂版原稿作成を行った。

●運営報告

①資料の収集・整理

雑誌（職員用専門誌 オンライン含む）

平成28年度 (単位：誌)

	情報センター	研究チーム
外国雑誌	97 冊子14 オンライン83	20 冊子19 オンライン1
国内雑誌	47 冊子のみ	16 冊子のみ
計	144	36

※上記はタイトル単位購入の雑誌のみ（寄贈雑誌は含まず）
このほかオンラインジャーナルのパッケージ購読がある。
（Springer MEDLINE Collecton約400誌、JAMA 3誌）

図書

※厚生統計協会刊行の統計類除く (単位：冊)

職員用図書 一般向け図書

年度	購入	寄贈	計
平成27年度	37	69	
	6	20	
	43	89	
平成28年度	66	129	
	15	6	
	81	135	

②蔵書数（平成29年3月31日現在）

図書	14,827	冊数
雑誌	468	タイトル数(電子ジャーナル契約誌含む)
一般向け図書	1,643	冊数

※この他に、老人総合研究所・老人医療センター・健康長寿医療センター発行資料、厚生統計類を所蔵している。

③利用状況

貸出

(単位：件)

	平成27年度	平成28年度
専門図書	58	50
雑誌その他	237	238
一般向け図書	578	491
計	873	779

文献の入手

都立系医学研究所図書室・病院図書室との協力

(単位：誌)

		健康安全 研究センター	都医学研	都立（公社等） 病院	計
平成27年度	複写依頼	0	28	0	28
	複写受付	0	31	106	137
平成28年度	複写依頼	0	8	0	8
	複写受付	0	16	82	98

大学医学部図書館等との協力

(単位：件)

		大学医学部 図書館等	病院図書室等	計
平成27年度	複写依頼	3,550	43	3,593
	複写受付	0	106	106
	紹介状発行	3	0	3
平成28年度	複写依頼	2,959	0	2,959
	複写受付	0	28	28
	紹介状発行	0	0	0

その他の文献入手・・・取り寄せ申込者（職員）への案内

(単位：件)

平成27年度	当室所蔵	335
	WEB公開	623
	入手不能	310
平成28年度	当室所蔵	319
	WEB公開	1,028
	入手不能	229

●講師等院外活動

宮本孝一：高齢者のための健康情報サービス—高齢者疾患の特性と健康情報の利用.明治大学リバティ
アカデミー図書館員のためのブラッシュアップ講座XV（東京）2016.12.8

平成25年度の新施設建設に際し、円筒スペースの2階に『養育院・渋沢記念コーナー』が設置された。1階ホールの養育院幾星霜の図（山口晃）、養育院記念中央広場、渋沢栄一銅像、庭園、屋上庭園とともに、患者等の来訪者に特徴ある癒し空間を提供している。

このコーナーは、明治5年の「養育院」開設から現在の「東京都健康長寿医療センター」に至る歴史の紹介、センター各部門の催しの広報、患者・家族のための医療・健康情報の提供、飲食のできる読書と癒しの空間を提供している。

開設以来、毎日100名前後に利用され、ノートに寄せられた感想をみても、快適な場所として好評を得ている。来院見学者への当センターの説明の場、新人職員の教育の場としての機能も果たしている。

診察予告表示板（コンピューター連動で、外来診察患者受付番号が表示される）があり、患者さんの診察待ち時間対策にもなっている。

1) 歴史展示・櫻園通信

- ・当院の歴史資料とパネル、渋沢の墨跡、各種写真が展示され、歴史ビデオ、講演スライドも供覧している。
- ・本年度は配布冊子の大幅改訂を行い「ようこそ養育院・渋沢コーナーへ」を出版した。展示物を解説した「櫻園通信」の対応号を明示した。また、年表を追加し、監修者を改訂した。
- ・歴史案内「櫻園通信（おうえんつうしん）」の作成、配布は継続し、今年度は以下の号を発行した

33. 草木塔1.桜、蔓日日草、沈丁花
 34. 草木塔2.蔓踊子草、花園衝羽空木・・・
 35. 草木塔3.姫岩垂草、未央柳、熨斗蘭
 36. 草木塔4.馬酔木、紅花常盤万作・・・
 37. 草木塔5.スタ椎、紫陽花、山法師
 38. 草木塔6.おつ立ち片喰、常盤露草、犬鬼火、蔦葉雲蘭
 39. 養育院大塚本院時代の渋沢栄一
 40. 養育院板橋本院建設と仮側線敷設
 41. 養育院の思い出1.空襲
 42. 養育院の思い出2.米軍の進駐
 43. 養育院の思い出3.昭和天皇の行幸
- 33-38号は院内の草木の説明、41-43号は地元在住のボランティアの稿を編集したものである。これらは、センターホームページにもPDF版を掲載した。

2) なるほど！からだラウンジ

- ・疾患や治療法の理解を深めることに役立つ図書や、生活全般に役立つ老年学の知見に関する図書の貸出。
- ・熱中症やヒートショック対策、健康食品の使用上の注意など、公的機関作成パンフ類の展示。
- ・認知症、鬱などの健康状態の自己チェックシートの配布。
- ・骨格模型を用いて、老年学の基礎知識「生理的・病的老化」を展示。
- ・がん診療支援リーフレットの設置。
- ・電子血圧計の設置。

3) 広報

- ・公開講座など、当院主催講演会の広報。
- ・治験の募集案内。
- ・がん相談支援センター案内。

4) 読書の愉しみ

- ・貸出（ボランティアがいる昼前後の時間帯のみ）。
- ・手続き不要の貸出コーナー（小説など）。
- ・職員の出版した一般向け図書紹介と購入手助け。
- ・図書の寄付受け入れ。

5) 電子メディアでの情報提供

- ・有料インターネットパソコンに、ネット上の健康情報サイトや渋沢栄一・養育院関連情報へのリンク集を設置。
- ・講演などの映像を視聴。

6) 快適空間づくり

- ・センター施設や眺望写真の展示。
- ・自然・風景、東北地震復興などの写真展示、スライドショー放映。
- ・皆様の写真作品展示。
- ・お雛様、七夕、正月飾りなどの展示。
- ・「おしゃべり&つぶやき帖」：利用者の自由意見などのノート設置。

7) 記念コーナー維持ボランティア活動

約30人のボランティアが日替わりで11-14時に待機、本の貸し出し、展示の説明などをおこなっている。

- ・養育院関連の歴史資料のリスト整備。
- ・櫻園通信の発行。
- ・夏冬、年2回の維持ボランティア交流会で、展示、運営上の問題などを相談、懇親会を行う。

8) 講演会開催

★養育院・渋沢記念講演会。平成28年11月3日、3階 大会議室

1. 渋沢栄一の社会福祉時事業と健康法：稲松孝思

2. 宣伝広告より大事！健康食品のパッケージ表示：宮本孝一

9) 「ヒポクラテスの木」について

- ・2012年に東大から分与されたヒポクラテスの木の実生苗を育成。2014年センター玄関巨石門脇に移植。医育機関のシンボルとして育成。2017年6月現在、約8メートルに成長。
- ・患者会・育寿会より「プラタナス」苗の寄贈を受け仮植。駐車場整備時に新しい緑地に移植予定。
- ・板橋看護専門学校の庭にも別系統のヒポクラテスの木が育っている。
- ・ギリシャのヒポクラテスの原木、ヒポクラテスの儀式の写真を展示。

10) 養育院中央記念広場

- ・渋沢栄一銅像：板橋区有形文化財に登録、板橋区教育委員会が解説版。
- ・養育院本院碑：養育院を語り継ぐ会により設置。
- ・徳川家光、家斉墓前の石灯籠2基あり。

11) 「養育院史」に関する業績

- ・養育院月報戦後編全十二巻出版（不二出版）。2017総目録と解説に寄稿（p25-35）
稲松孝思、中村弘、湊與志孝、河西量次：「養育院」を語る形あるもの。佐藤廣昭：養育院本院（板橋）罹災と練馬分院について。上島康生：養育院東村山分院の果たした役割。細川修：養育院千葉分院における障害者教育の拡充。河西量次：私にとっての昭和47年。
- ・宮本孝一：大好評「養育院・渋沢記念コーナー」。青淵8月号2016.pp31-33

【問題点】

- ・昼食時間帯に、利用者集中。この時間帯の職員の利用は制限している。
- ・採光、日照時間帯のブラインドの調整。
- ・診療と無関係な住民の使用。
- ・空いている時間帯の職員使用。
- ・展示スペース、ディスプレイの充実。
- ・「養育院開設150周年」記念行事予定。

（附記）医局同窓会について

当センター医療人のOB・OGの懇親の場、施設応援の場として、医局の支援を受け同窓会を開催してきた、以下にその概要を陳べる

- ★第一回：2008/11/8（独立法人化時）。椿山荘：医局会承認。名簿作成し、お知らせを郵送。病院関係のCD配布。当日写真：集合写真撮影、後日郵送。参加者：医師 111人：コメヂカル 51人
- ★第二回：2013/5/25（新施設発足時）。池袋メトロポリタンH。会前の午後早々に新施設見

学会。OB名簿作成。お知らせを郵送。会計：川名、司会：金丸。集合写真：後に郵送。参加者：208名：医師153名、コメヂカル：55名。残金は医局会計に寄付

- ★第三回：2016/11/6（旧施設解体工事終了）。メール ネット ホームページ、電話による広報。池袋メトロポリタンH。医師（退職）65名（現役・非常勤含）22名、看護師15名、検査技師20名。写真は共有ファイル使用。司会：岩切、金丸。写真：（堀内）（金澤）。配布物：医局 36年史：PDF、医局10年史PDF、養育院の医療100年PDF、医師在籍全名簿、思い出の写真、開院式、研修医、解体工事など、よろこぶ養育院・渋沢記念コーナー冊子：PDF。櫻園通信：PDF。配布CDの内容は同窓会メーリングリストに掲載予定。

研究活動

理事長 井藤 英喜	127
センター長 許 俊鋭	132
副院長 原田 和昌	134
副院長 黒岩厚二郎	138
総合診療科	138
膠原病・リウマチ科	138
腎臓内科・血液透析科	139
糖尿病・代謝・内分泌内科	141
循環器内科	154
呼吸器内科	161
消化器内科・内視鏡科	162
神経内科・脳卒中科	163
血液内科	167
感染症内科	167
精神科・もの忘れ外来	168
緩和ケア内科	169
外科	169
血管外科	169
心臓外科	169
脳神経外科	173
呼吸器外科	173
整形外科・脊椎外科	173
皮膚科	175
泌尿器科	175
眼科	176
耳鼻咽喉科	177
歯科口腔外科	178
麻酔科	181
リハビリテーション科	181
リハビリテーション科（理学療法担当）	184
リハビリテーション科（作業療法担当）	184
リハビリテーション科（言語聴覚担当）	184
リハビリテーション科（臨床心理担当）	184
放射線診断科	185
放射線治療科	189
化学療法科	189
臨床検査科	189
輸血・細胞療法科	192
病理診断科	192
薬剤科	196
栄養科	197
臨床研究推進センター	197
高齢者バイオリソースセンター	202
高齢者健康増進センター	203

■研究活動

理事長 井藤 英喜

●雑誌論文

1. Tanaka S, Tanaka S, Iimuro S, Ishibashi S, Yamashita H, Moriya T, Katayama S, Akanuma Y, Ohashi Y, Yamada N, Araki A, Ito H, Sone H, for the Japan Diabetes Complications Study Group and the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Group : Maximum BMI and Microvascular complications in a cohort of Japanese patients with type 2 diabetes : the Japan Diabetes Complication Study. *Journal of Diabetes and its Complications* 2016 ; 30(5) : 790-197
2. Yoshiaki Tamura, Naotaka Izumiyama-Shimomura, Yoshiyuki Kimbara, Ken-ichi NakamuraNaoshi Ishikawa, Junko Aida, Yuko Chiba, Yoko Matsuda, Seiji Mori, Tomio Arai, Mutsunori Fujiwara, Steven SS Poon, Tatsuro Ishizaki, Atsushi Araki, Kaiyo Takubo, and Hideki Ito : Telomere Attrition in Beta and Alpha Cells with Age. *AGE* 2016 ; 38(3) : 1-8
3. Atsushi Araki, Yukio Yoshimura, Takashi Sakurai, Hiroyuki Umegaki, Chiemi Kamada, Keiko Kamada, Satoshi Iimuro, Yasuo Ohashi, Hideki Ito: the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Low intake of carotene, vitamin B2, pantothenate and calcium predicts cognitive decline among elderly patients with diabetes mellitus : the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. *Geriatrics & Gerontology international* 2016 Jul 18 [Epub ahead of print]
4. Heying Zhou, Seiji Mori, Tatsuro Ishizaki, Masashi Tanaka, Kumpei Tanisawa, Makiko Naka Mieno, Motoji Sawabe, Tomio Arai, Masaaki Muramatsu, Yoshiji Yamada, Hideki Ito : Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. *Journal of bone and mineral metabolism* 2016 ; 34(6) : 685-691
5. Heying Zhou, Seiji Mori, Yoichiro Kamatani, Michiaki Kubo, and Hideki Ito : Genetic risk scorebased on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. *Bone Reports* 2016 ; 5 : 168-172
6. Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H : Albumin, hemoglobin, and the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese : a 13-year longitudinal study. *Journal of Prevention of Alzheimer's Disease* 2016 (in press)
7. Japan Diabetes Society (JDS) / Japan Geriatric Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes, Haneda M, Ito H : Committee Report : Glycemic targets for elderly patients with diabetes. *Diabetology International* 2016 ; 7(4) : 331-333
8. Japan Diabetes Society (JDS) / Japan Geriatric Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes, corresponding authors : Haneda M, Ito H : Report of the Committee : Glycemic targets for elderly patients with diabetes. *Geriatrics & Gerontology international* 2016 ; 16(12) : 1243-1245
9. Hideki Ito : "Glycemic targets for elderly patients with diabetes" of JDS/JGS joint committee : Similarity to, and difference from, other guidelines. *Geriatrics & Gerontology international* 2016 ; 16(12) : 1241-1242
10. Japan Diabetes Society (JDS) / Japan Geriatric Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes, corresponding authors : Haneda M, Ito H : Committee Report : Glycemic targets for elderly patients with diabetes *Journal of diabetes investigation* 2016 ; 8(1) : 126-128
11. Chika Horikawa, Yukio Yoshimura, Chiemi Kamada, Shiro Tanaka, Sachiko Tanaka, Satoshi Matsunaga, Osamu Hanyu, Atushi Araki, Hideki Ito, Akira Tanaka, Yasuo Ohashi, Yasuo Akanuma, Hirohito Sone : Is the proportion of carbohydrateintake associated with the incidence of diabetes complications? : analysis of the Japan Diabetes Complications Study. *Nutrients* 2017 ; 9(2) : E113
12. Masamitsu Sugie, Kazumasa Harada, Tetsuya Takahashi, Marina Nara, Joji Ishikawa, Teruyuki Koyama, Hunkyung Kim, Jun Tanaka, Hajime Fujimoto, Shuichi Obuchi, Stephan von Haehling, Syunei Kyo, Hideki Ito : Relationship

- between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in community-dwelling older adults. *European Journal of Heart Failure* 2017 (in press)
13. Nakamura K, Okada E, Ukawa S, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients : The BioBank Japan project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S58-S64
 14. Ukawa S, Nakamura K., Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Muto K., Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Kamatani Y, Kubo, M, Nakamura Y, BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune, Y, Taki H, Osawa T : Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S65-S7
 15. Tamakoshi A, Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Kamatani Y, Muto K, Kiyohara Y, Yamagata Z, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients : The BioBank Japan Project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S36-S42
 16. Ukawa S, Okada E, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K., Yamagata Z, Kamatani Y, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kubo M, Nakamura Y : BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara, H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S43-S48
 17. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y : BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Yamagata Z, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Survival of macrovascular disease, chronic kidney disease, chronic respiratory disease, cancer and smoking in patients with type 2 diabetes : BioBank Japan cohort. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S98-S106
 18. Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Ninomiya T, Muto K, Kiyohara Y, Matsuda K., Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A, Members of

- medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients : The BioBank Japan Project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S49-S57
19. Yokomichi H, Noda H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kamatani Y, Kiyohara Y, Matsuda K, Muto K, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Yamagata Z, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various comorbidities : BioBank Japan. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S77-S83
20. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kiyohara Y, Kamatani Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Yamagata Z, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Statin use and all-cause and cancer mortality : BioBank Japan cohort. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S84-S91
21. Hirata M, Nagai A, Kamatani Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Kiyohara Y, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Matsuda K, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) S22-S28
22. Okada E, Ukawa S, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Yamagata Z, Kubo M, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Tamakoshi A, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer : The Biobank Japan Project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S29-S35
23. Hirata M, Kamatani Y, Nagai A, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y ; BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Matsuda K, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y,

- Taki H, Osawa T : Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data : A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S9-S21
24. Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Muto K, Matsuda K, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y : BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Kubo M, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Overview of the BioBank Japan Project : Study design and profile. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S2-S8
25. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y : BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Yamagata Z, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Serum glucose, cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients : BioBank Japan. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S92-S97
26. Hata J, Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Tamakoshi A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y : BioBank Japan Cooperative Hospital Group, Kiyohara Y, Ninomiya T : Collaborator, Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T : Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease : The BioBank Japan project. *Journal of epidemiology* 2017 ; 27(Suppl 3) : S71-S76
27. Tetsuya Takahashi, Masamitsu Sugie, Marina Nara, Teruyuki Koyama, Shuichi P Obuchi, Kazumasa Harada, Syunei Kyo and Hideki Ito : Femoral muscle mass relates to physical frail components in community dwelling older people. *Geriatrics & Gerontology international*. 26 JAN 2017 [Epub ahead of print]
28. 山岡巧弥, 田村嘉章, 小寺玲美, 坪井由紀, 佐藤 謙, 千葉優子, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚 : 高血糖高浸透圧症候群(HHS)を発症した高齢者の背景因子と臨床的特徴の検討. *日本老年医学会雑誌* 2016 ; 53(4) : 468
- 総説
- 井藤英喜 : Forum 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 会長特別企画3 日本糖尿病学会/日本老年医学会合同シンポジウム : 高齢者の糖尿病治療をどうするか (座長 門脇 孝、井藤英喜) 合同委員会案の特徴と認知機能・ADLの評価法. *DIABETES UPDATE* 2016 ; 5(3) : 52
 - 井藤英喜 : 高齢者糖尿病の治療をどうするか—高齢者糖尿病の新しい血糖コントロール目標. *DINT* 2016 ; 462 : 6
 - 井藤英喜 : 学会トピックス 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 高齢者糖尿病の特徴と血糖コントロール目標の考え方. *メディカル朝日* 2016 ; 9 : 26-27
 - 井藤英喜 : 特集高齢者糖尿病のパラダイムシフト—コントロール目標から薬剤選択まで—超高齢社会における糖尿病医療の未来図. *プラクティス* 2016 ; 33 : 646-652
 - 井藤英喜 : 第30回日本臨床内科医学会 特別講演 健康長寿に関するエビデンス—生活習慣病を要介護リスクと捉え共通した食事・運動指導を. *Clinic Magazine* 2016 ; 570 : 16-17
 - 井藤英喜 : 高齢者糖尿病の特徴. *最新医学* 2017 ; 72(1) : 20-26
 - 井藤英喜、羽田勝計、稲垣暢也 : 座談会「高齢者糖尿病の診療向上を目指して」、*最新医学* 2017 ; 72(1) : 7-19
 - 井藤英喜 : 健康長寿に関するエビデンス. *日本臨床内科医会誌* 2017 ; 31(3) : 346

●学会・研究会発表

1. 井藤英喜：老化のサイエンス 健康長寿とライフスタイル —フレイル、サルコペニア、ADL低下あるいは認知症とライフスタイルの関係を中心に— STROKE 2016. 第41回日本脳卒中学会総会、第45回日本脳卒中の外科学会、第32回スバズム・シンポジウム合同学会（札幌）2016.4.14-16
2. 森聖二郎, 田中雅嗣, 山岡巧弥, 小寺玲美, 佐藤 謙, 坪井由紀, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木 厚, 井藤英喜：閉経後骨粗鬆症患者ならびに地域住民においてサルコペニアに関わる遺伝子多型について, 日本内科学会総会, (東京) 2016.4.15-17
3. 井藤英喜：日本糖尿病学会・日本老年医学会合同シンポジウム 高齢者の糖尿病治療をどうするか, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, (京都) 2016.5.19-21
4. 荒木 厚, 田村嘉章, 井藤英喜, The link between insulin resistance and sarcopenia or frailty : シンポジウム Energy metabolism, insulin resistance and sarcopenia — Clinical links and molecular mechanisms. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 (京都) 2016.5.19-21
5. 小寺玲美, 坪井由紀, 山岡巧弥, 千葉 優子, 佐藤 謙, 田村嘉章, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木 厚：高齢者糖尿病患者のビタミン・ミネラル摂取量低下は高次ADL低下都関連する, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 (京都) 2016.5.19-21
6. 山岡巧弥, 小寺玲美, 坪井由紀, 千葉優子, 佐藤 謙, 田村嘉章, 森聖二郎, 井藤英喜, 荒木厚：高齢者糖尿病患者における血糖変動や体組成と大脳白質病変との関連, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 (京都) 2016.5.19-21
7. 田中司朗, 吉村幸雄, 鎌田智英美, 川崎 良, 堀川千嘉, 田中佐智子, 大橋靖雄, 荒木 厚, 井藤 英喜, 赤沼安夫, 山田信博, 山下英俊, 曾根博仁：日本人2型糖尿病における野菜・果物摂取量と糖尿病網膜症および心血管疾患発症の関連—Japan Diabetes Complications Study, 第59回日本糖尿病学会年次学術集会 (京都) 2016.5.19-21
8. 小寺玲美, 千葉優子, 吉村幸雄, 田村嘉章, 櫻井 孝, 梅垣宏行, 井藤英喜, 荒木 厚：高齢者糖尿病患者の栄養摂取と高次のADL障害数との関連について, 第58回日本老年医学会学術集会 (石川) 2016.6.8-10
9. 周 赫英, 森 聖二郎, 山岡巧弥, 小寺玲美 佐藤 謙, 坪井由紀, 田村嘉章, 千葉 優子, 荒木厚, 井藤英喜：閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する遺伝子多型について, 第58回日本老年医学会学術集会 (石川) 2016.6.8-10
10. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本 肇, 小山照幸, 大淵修一, 金 憲経, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜：地域在住高齢者における認知機能と心機能の関係, 第58回日本老年医学会学術集会 (石川) 2016.6.8-10
11. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 大淵修一, 水村真由美, 許 俊鋭, 原田和昌, 井藤英喜：包括的フレイル評価としての高齢者健康寿命総合評価成績表の開発, 第58回日本老年医学会学術集会 (石川) 2016.6.8-10
12. 石崎達郎, 寺本千恵, 光武誠吾, 清水沙友里, 井藤英喜：東京都の後期高齢者における在宅医療患者数の推計, 第58回日本老年医学会学術集会(石川) 2016.6.8-10
13. 井藤英喜：新しい高齢者糖尿病血糖コントロール目標値の考え方・運用法について, 第3回島根県糖尿病専門医会 (島根) 2016.7.2
14. Takahashi Tetsuya, Sugie Masamitsu, Nara Marina, Koyama Teruyuki, Harada Kazumasa, Kyo Shun-ei, Itoh Hideki : Frail components and exercise capacity relate to femoral muscle mass in community dwelling older people. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (東京) 2016.7.16-17
15. 井藤英喜：高齢者糖尿病の管理—新しい診療ガイドラインの考え方、運用法を中心に, オングリザ錠発売3周年記念講演会 in Chiba~超高齢化時代の糖尿病診療を考える~ (千葉) 2016.7.20
16. 井藤英喜：高齢者糖尿病の新しい診療ガイドライン—高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値の考え方、運用法を中心に, Diabetes Academy 2016—高齢者糖尿病治療を考える (東京) 2016.9.8
17. 井藤英喜：高齢者糖尿病の新しい診療ガイドライン—高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値の考え方、運用法を中心に, Diabetes Academy 2016—高齢者糖尿病治療を考える (東京) 2016.9.14
18. 井藤英喜：新しい高齢者糖尿病診療ガイドラインとその運用法について, 第2回高齢者糖尿病治療を考える会 (東京) 2016.9.14
19. 井藤英喜：高齢者糖尿病の新しい診療ガイドライン—高齢者糖尿病の血糖コントロール目標値の考え方、運用法を中心に, 蒲田地区 Diabetes Care 講演会 (東京) 2016.9.16

20. 井藤英喜：特別講演「健康長寿に関するエビデンス」第30回日本臨床内科医学会（東京）2016.10.9-10
21. 井藤英喜：市民公開講座 真の健康長寿社会をめざして— 心とからだの健康とは— からだの健康とは. 第30回日本臨床内科医学会（東京）2016.10.9-10
22. 井藤英喜：新しい「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標（HbA1c値）」の考え方と運用法. 第6回糖尿病療養指導セミナー（東京）2016.10.29
23. 井藤英喜：気仙沼市健康長寿講演会 健康長寿を目指した生活習慣病とのつきあい方.（宮城）2016.11.13
24. 井藤英喜：健康長寿のための生活習慣. 第19回千代田区在宅医療研究会（東京）2016.11.16
25. 井藤英喜：高齢者糖尿病の新しい診療ガイドライン—血糖コントロール目標（HbA1c）の考え方、運用法を中心に—. 第8回 Diabetes Frontier セミナー—糖尿病と関連疾患を考える（兵庫）2016.12.3
26. 井藤英喜：健康長寿のための生活習慣. 第24回都市高齢者の健康長寿医療研究会（東京）2016.12.8
27. 井藤英喜：健康長寿に関する最近の研究の進歩、考え方. 平成29年度高齢者住宅経営者連絡協議会（東京）2017.2.3
28. 井藤英喜：高齢者糖尿病の新しい診療ガイドライン—血糖コントロール目標、低血糖予防を中心に. 千葉県糖尿病治療セミナー2017（千葉）2017.2.15
29. 荒木 厚、井藤英喜：シンポジウム 高齢者糖尿病：診療のポイント—高齢者糖尿病の特徴. 第51回糖尿病学の進歩（京都）2017.2.17-18
30. 井藤英喜：新しい高齢者糖尿病治療ガイドラインとその運用法. 第53回群馬県立心臓血管センター学術講演会（群馬）2017.2.21

●講師等院外活動（講演・放送等）

1. 井藤英喜, 羽田勝計：対談 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標の意義と概要. Medical View Point；2016；10 <https://medical.mt-pharma.co.jp/support/elderly-dm/04>
2. 井藤英喜：+からだのレシピ：真の健康長寿— 食事、運動、社会参加、1日に緑の濃い野菜を100グラム目安、15分以上の運動を. 産経新聞 2016.11.28
3. 井藤英喜：ラジオNIKKEI虎ノ門医学セミナー 40「高齢者糖尿病治療の進め方」. 2017.1.5

●単行書・報告書

1. 井藤英喜監修：平成28年度版 要介護認定申請者のための介護と保健ガイドブック. 一般社団法人日本保健情報コンソシウム 東京 2016
2. 井藤英喜総監修：保健師、医療・看護・介護関係従事者のための認知症ガイドブック. 母子保健事業団 東京 2016
3. 松下正明, 井藤英喜, 許 俊鋭監修：ようこそ養育院・渋沢記念コーナーへ. 東京都健康長寿医療センター 東京 2016
4. 井藤英喜(編集・執筆), 後藤由夫, 井藤英喜監修：高齢者の糖尿病. 糖尿病セミナーシリーズ4. 創新社 東京 2016
5. 甲斐一郎, 大内尉義, 鳥羽研二, 秋下雅弘, 荒井秀典, 井藤英喜, 岡 真人, 北川公子, 古谷野 亘, 鈴木隆雄, 内藤佳津雄, 那須郁夫, 羽生春夫, 堀 薫夫, 丸山直記, 樂木宏実, 小川純人：高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書. 日本老年学会・日本老年医学会 東京 2017

センター長 許 俊鋭

●雑誌論文

1. Kyo S, Imanaka K, Masuda M, Miyata T, Morita K, Morota T, Nomura M, Saiki Y, Sawa Y, Sueda T, Ueda Y, Yamazaki K, Yozu R, Iwamoto M, Kawamoto S, Koyama I, Kudo M, Matsumiya G, Orihashi K, Oshima H, Saito S, Sakamoto Y, Shigematsu K, Taketani T, Komuro I, Takamoto S, Tei C, Yamamoto F, Japanese Circulation Society Joint Working Group: Guidelines for Perioperative Cardiovascular Evaluation and Management for Noncardiac Surgery (JCS 2014). Circulation Journal 2017; 81(2) : 245-267
2. Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K: Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer: A case report. Geriatrics & gerontology international 2016; 16(10) : 1171-1172
3. Tei C, Imamura T, Kinugawa K, Inoue T, Masuyama T, Inoue H, Noike H, Muramatsu T, Takeishi Y, Saku K, Harada K, Daida H, Kobayashi Y, Hagiwara N, Nagayama M, Momomura S, Yonezawa K, Ito H, Gojo S, Akaishi M, Miyata M, Ohishi M; WAON-CHF Study Investigators: Waon Therapy for Managing

Chronic Heart Failure- Results From a Multicenter Prospective Randomized WAON-CHF Study. Circulation Journal 2016;80(4):827-34

4. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H : Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. Geriatrics & gerontology international 2017 Jan 26 [Epub ahead of print]
5. 天尾 理恵, 縄田 寛, 木下 修, 札 琢磨, 絹川 弘一郎, 許 俊鋭, 小野 稔, 芳賀 信彦: BiVADからの離脱に至った小児のリハビリテーション経験. 心臓リハビリテーション 2016; 21 (1-3): 104-109

●総説

1. 許 俊鋭: 人工心臓を用いた Destination Therapy(長期在宅治療)の歴史と将来展望. 臨床医のための循環器診療 2016; 25: 43-45
2. 許 俊鋭: 人工心臓の近未来 小型化から完全植込型へ. Clinical Engineering 2016; 27(9): 754-760
3. 許 俊鋭: 人工心臓の進歩. 成人病と生活習慣病 2016; 46(8): 989-995
4. 許 俊鋭, 西村 隆, 河田光弘, 伊藤卓也, 清水剛: 冠動脈疾患の治療 デバイス治療法 下腿に衝撃による痛みの少ない体外式動脈カウンターパルセーション補助循環システム(コンパクトCP). 日本臨床 2016; 74(増刊4): 624-628
5. 許 俊鋭: 慢性心不全を外科的治療で治す. Heart View 2016; 20(8): 774-783
6. 許 俊鋭: 高齢者の服薬に潜む「ブラックボックス」. TURNUP 2017; 33: 4-9
7. 許 俊鋭: 日本のドナー臓器提供を増加するために、今以上に何ができるか?. 循環器内科 2017; 81(2): 150-155
8. 許 俊鋭: 特集「補助人工心臓装着患者の予後を支えるチーム医療」巻頭言. Clinical Engineering 2017; 27(9): 1
9. 許 俊鋭: 特集「補助循環の最近の進歩」巻頭言. Clinical Engineering 2017; 27(11): 1

●学会・研究会

1. 許 俊鋭: LVAD患者介護者の負担軽減のための提案. 第3回DT研究会(東京)2016.5.27
2. 許 俊鋭, 西村 隆, 伊藤卓也, 高岡祐子, 石井正晃, 清水 剛: シンポジウム13「心不全トランスレーショナル研究の最前線」体外式カウンターパルセーション補助循環装置‘Compact

CP’の臨床的有効性. 第20回日本心不全学会(札幌)2016.10.9

3. 許 俊鋭, 西村 隆: シンポジウムDT(Destination Therapy)を考える(Key Note Lecture) Destination Therapy by Implantable LVAD: Agenda for introduction of DT in Japan. 第20回日本心不全学会(札幌)2016.10.9
4. 許 俊鋭: 植込み型補助人工心臓の最前線 “CRTとLVAD治療の上手な使い分け” 日本不整脈心電学会 第9回植え込みデバイス関連冬季大会(大阪)2017.2.18
5. 許 俊鋭: 心臓移植・人工心臓—過去・現在・未来. IMC学会2017(茨城)2017.3.11
6. 許 俊鋭: 第3回日本医療安全学会学術総会会長講演 完璧に安全な世界を目指して—医療安全を質と量から向上する. 多職種・学際による連携の構築. 第3回日本医療安全学会学術総会(東京)2017.3.18
7. 許 俊鋭: ビジョンシンポジウム「完全に安全な世界への将来戦略」病院長の立場から. 第3回日本医療安全学会学術総会(東京)2017.3.18
8. KYO S: Current Status of LVAD Therapy for Chronic Heart Failure Patient in Japan. The 24th Annual Meeting of ASCVTS(中国台北)2016.4.6-10
9. KYO S, NISHIMURA T, ONO T: Current LVAD Therapy for Chronic Heart Failure in Japan, and its Future Aspect. The 1st Hong Kong End Stage Heart Failure Surgical Management Symposium(香港)2016.4.26
10. KYO S, NISHIMURA T, ONO T: Current LVAD Therapy for CHF in Japan, and its Future Aspect. 2016. 4th Annual Conference of Asia-Pacific Society for Artificial Organs(中国天津)2016.8.27
11. KYO S, NISHIMURA T, ONO T: (Key Note Lecture) Current LVAD Therapy for Chronic Heart Failure in Japan and its Future Aspect. 2016 ISRBP YOUNG INVESTIGATORS' PRE-SYMPOSIUM(水戸)2016.9.20(会議録や抄録集)
12. 菅原美希, 本田博一, 村野井一樹, 小澤直人, 石井正晃, 関 祐子, 伊藤卓也, 河田光弘, 西村隆, 許 俊鋭: 当院における体外式VADの日常管理と課題点. 人工臓器 2016; 45(2): S195
13. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: 後期高齢者に対するオープンステントグラフトの安全性. 人工臓器 2016; 45(2): S138
14. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: 大動脈解離に対するステントグラフト治療 偽腔

- 開存型急性大動脈解離DeBakey IIIbRに対する
二期的治療戦略 ステントグラフトの有用性。
人工臓器 2016；45(2)：S60
15. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 高橋哲也,
大淵修一, 小山照幸, 藤本 肇, 許 俊鋭, 井藤
英喜:高齢者frailtyをどう評価し、実臨床で生か
すか フレイルと心機能. 64回日本心臓病学会学
術集会抄録集 2016；S9-4
 16. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭:慢
性大動脈解離、胸腹部大動脈瘤化に対し、
TEVARを有効に施行し得た高齢者の1例. 172
回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集
2016；31
 17. 伊藤卓也, 河田光弘, 西村 隆, 許 俊鋭:重
症心不全のMVRに際し、Bridge to Recovery目
的の体外式VADを使用し、耐術・VAD離脱が可
能であった3例の検討. 172回日本胸部外科学会
関東甲信越地方会要旨集 2016；12
 18. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭:90
歳代高齢者におけるA型急性大動脈解離におけ
る間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法の有用性。
日本血管外科学会雑誌 2016；25(Suppl)；380
 19. 伊藤卓也, 川田光弘, 西村 隆, 許 俊鋭:Bridge
to recovery目的のLVAD補助が耐術を可能と
した重症MR、アドリアマイシン心筋症の一例。
171回日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨
集 2016；10
 20. 河野ますよ, 桜山千恵子, 田中 旬, 原田和昌,
西村 隆, 許 俊鋭: Apico-subclavian arterial
conduit術後における血行動態評価. 超音波医学
2016；43(2)：338
 21. 伊藤卓也, 川田光弘, 西村 隆, 許 俊鋭:感
染性心内膜炎に対し僧帽弁置換術施行後、外来
フォロー中に左房内血栓によりstuck valveと
なった症例. 170回日本胸部外科学会関東甲信越
地方会要旨集 2016；21

●講師等院外活動（講演・放送等）

1. 許 俊鋭:本邦における補助人工心臓治療の現
状：植込型LVADの実施施設・実施医基準につ
いて. 第16回東大・女子医VAD研修コース（東
京）2016.6.4
2. 許 俊鋭:どこまでできる?心不全に対する補
助人工心臓（DT）の現状を知る40分間. 日本心
不全学会チーム医療推進委員会 教育セミナ
ー（船橋）2016.9.17-18
3. 許 俊鋭, 西村 隆: Destination Therapy by
Implantable LVAD: Agenda for introduction of
DT in Japan. 九州・沖縄地区VAD研修コース
（福岡） 2016.10.15

4. 許 俊鋭:本邦における補助人工心臓治療の現
状：植込型LVADの実施施設・実施医基準につ
いて. 第17回東大・女子医VAD研修コース（東
京） 2016.11.12
5. 許 俊鋭:日本の医療機器開発・製品化の課
題と今後の展望-植込型補助人工心臓の開発に
係わる中から学んだこと-. 第20回いたばし産業
見本市特別展示関連セミナー（東京）2016.11.10
6. 許 俊鋭, 越阪部剛, 犬飼陽一郎:病院事務
職員の人材育成. 第5回全国地方独立行政法人
病院協議会.（神戸） 2016.10.28
7. 許 俊鋭:重症心不全に対する補助人工心臓
治療Destination Therapy-の本邦導入に向けて.
第40回東京電機大学ME公開講座（東京）
2016.10.11
8. 許 俊鋭:補助人工心臓治療の進歩と将来展
望. 東京都・板橋区 医工連携交流会（東京）
2017.1.27
9. KYO S: Introduction of TMGH-TMGI and
Geriatric Medicine in Japan.（中国）2017.2.10,
10. KYO S, NISHIMURA T, ONO T: Current
LVAD Therapy for CHF in Japan, and its
Future Aspect.（中国襄阳市）2017.2.11
11. KYO S: Introduction of TMGH-TMGI and
Geriatric Medicine in Japan.（中国黄石）2017.2.
13
12. KYO S: Introduction of TMGH-TMGI and
Geriatric Medicine in Japan.（中国杭州）2017.2.
13

●単行書・報告書

1. 許 俊鋭:第4章3 心臓病学. 臨床工学講座「臨
床医学総論」. 医歯薬出版 東京 2017 p95-130
2. 許 俊鋭:特集「私が歩んだ道」 人工心臓と
共に歩んだ心臓外科医人生. 人工臓器 2016；
45(1)：85-89

副院長 原田 和昌

●雑誌論文

1. Shiraishi Y, Kohsaka S, Harada K, Miyamoto
T, Tanimoto S, Iida K, Sakai T, Miyazaki T,
Yagawa M, Matsushita K, Furihata S, Sato N,
Fukuda K, Yamamoto T, Nagao K, Takayama
M: Tokyo CCU Network Scientific Committee
Correlation of Pre- and In-Hospital Systolic
Blood Pressure in Acute Heart Failure Patients
and the Prognostic Implications - Report From
the Tokyo Cardiac Care Unit Network
Emergency Medical Service Database .

- Circulation Journal 2016 ; 80(12) : 2473-2481
2. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H. Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatrics & Gerontology International* 2017 ; Jan 26 [Epub ahead of print]
 3. Toba A, Kariya T, Aoyama R, Ishiyama T, Tsuboko Y, Takeda K, Fujimoto H, Shimokado K, Harada K. Impact of age on left ventricular geometry and diastolic function in elderly patients with treated hypertension. *Blood Press* 2017 ; Mar 22 : 1-8 [Epub ahead of print]
 4. Saito Y, Ishikawa J, Harada K. Postprandial and Orthostatic Hypotension Treated by Sitagliptin in a Patient with Dementia with Lewy Bodies. *The American Journal of case reports* 2016 ; 17 : 887-893
 5. Ishikawa J, Yoshino Y, Watanabe S, Harada K. Reduction in central blood pressure after bathing in hot water. *Blood pressure monitoring* 2016 ; 21(2) : 80-86
 6. Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K. Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer : A case report. *Geriatrics & Gerontology International* 2016 ; 16(10) : 1171-1172
 7. Tei C, Imamura T, Kinugawa K, Inoue T, Masuyama T, Inoue H, Noike H, Muramatsu T, Takeishi Y, Saku K, Harada K, Daida H, Kobayashi Y, Hagiwara N, Nagayama M, Momomura S, Yonezawa K, Ito H, Gojo S, Akaishi M, Miyata M, Ohishi M : WAON-CHF Study Investigators. Waon Therapy for Managing Chronic Heart Failure - Results From a Multicenter Prospective Randomized WAON-CHF Study. *Circulation Journal* 2016 ; 80(4) : 827-34
 8. 弓倉 整, 水野重樹, 大野安実, 野村周三, 三浦直久, 山口武兼, 中島英樹, 畑 明宏, 金丸和富, 原田和昌, 畑中裕己, 上妻 謙, 須磨 健, 平山篤志 : 新規経口抗凝固薬により心原性脳塞栓は減少したか. *日本医師会雑誌* 2016 ; 145 : 559-564
 9. 西村 隆, 川田光弘, 村山繁雄, 中野雄太, 関敦子, 原田和昌, 許 俊鋭 : 東京都健康長寿医療センターCPC : 肺活量が心移植適応条件を満たさないため体外式から植込み型補助人工心臓に移行できず, 敗血症で死亡した肢体型筋ジストロフィー症例. *内科* 2016 ; 118(4) : 804-812
 10. 杉原毅彦, 松本拓実, 恵島 将, 常吉沙帆里, 徳丸阿耶, 小山照幸, 松田陽子, 藤ヶ崎純子, 原田 和昌, 加藤貴行, 東京都健康長寿医療センターCPC : Conference Room 不明熱と腎障害, 意識障害を呈した70歳代男性の1例. *内科* 2016 ; 118(2) : 285-297
 11. 宮本貴庸, 原田和昌, 酒井哲郎, 佐藤直樹, 香坂 俊, 飯田 圭, 谷本周三, 矢川真弓子, 宮崎哲朗, 白石泰之, 長尾 建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会心不全班 : 急性心不全における心房細動の合併率と短期予後に対する影響. *ICUとCCU* 2016 ; 40(別冊) : S59-S62
 12. 藤本 肇, 小宮山浩太, 及川恵子, 朴沢英成, 原田和昌, 中村正人, 代田浩之, 山本 剛, 長尾建, 高山守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会 : 高齢非ST上昇型心筋梗塞患者に対する血行再建と短期予後の動向 東京都CCUネットワークコホート研究. *ICUとCCU* 2016 ; 40(別冊) : S35-S36
 13. 原田和昌 : 高齢高血圧患者の治療戦略SPRINTサブ解析を踏まえて. *練馬区医師会だより* 2017 ; 588 : 18-27
 14. 弓倉 整, 水野重樹, 大野安実, 野村周三, 三浦直久, 山口武兼, 中島英樹, 畑 明宏, 金丸和富, 石川譲治, 原田和昌, 畑中裕己, 上妻 謙, 須磨 健, 奥村恭男, 平山篤志 : 東京都板橋区における脳卒中と抗凝固薬の関係. *日本医師会雑誌* 2017 ; 145(12) : 2626-2631.
- 総説
1. 原田和昌, 木原康樹, 絹川弘一郎, 横山広行 : 超高齢化社会における心不全治療の考え方. *臨床医のための循環器診療* 2016 ; 25 : 3-16
 2. 原田和昌 : 心不全と脳梗塞. *臨床医のための循環器診療* 2016 ; 25 : 40-42
 3. 原田和昌 : 握力は全死因死亡および心血管死亡予測に関して収縮期血圧よりも強力な指標である. *Fluid Management Renaissance* 2016 ; 6(2) : 83-8
 4. 原田和昌 : 【これだけは知っておきたい循環管理-研修医からの質問323-】 急性非代償性心不全(ADHF) BNP. *救急・集中治療* 2016 ; 28臨増 : e155-e159
 5. 原田 和昌, 田中 旬 : 臨床に役立つQ&A 高齢者における隠れ鉄欠乏は治療すべきでしょうか. *Geriatric Medicine* 2016 ; 54(7) : 709-712
 6. 原田和昌 : 高齢者心不全に多いHFpEFの治療. *医学のあゆみ* 2017 ; 260(10) : 880-884

7. 原田和昌：高齢者の高血圧. 成人病と生活習慣病 2017；47(1)：72-76
8. 原田和昌：血管の骨化で心筋梗塞が急増—予防は青魚とカルシウムを豊富に-食べ物通信 2017；552：14-16

●学会・研究会発表

1. 原田和昌：シンポジウム血圧変動スペシャル血圧変動性-ハイリスク患者の特徴と臨床的意義. 心不全(ステージAからC)と夜間非降圧型との関係. 第5回臨床高血圧フォーラム(東京) 2016.5.15
2. K. Harada, T. Sakai, N. Sato, S. Kohsaka, Y. Shiraishi, K. Iida, T. Miyamoto, S. Tanimoto, K. Nagao, M. Takayama：Hyperuricemia is a determinant of mortality in heart failure patients irrespectively of age, ejection fraction, or renal function. ESC Heart Failure 2016. (フィレンツェ) 2016.5.24
3. M Sugie, K Harada, M Nara, H Fujimoto, T Takahashi, S Kyo, H Itoh：Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in chronically ill older adults. ESC Heart Failure 2016. (フィレンツェ) 2016.5.22
4. 原田和昌：ディベートセッション「増加する高齢者心不全の再発予防」CKD合併の高齢者心不全ではRAAS阻害薬を中止/減量すべき(Con) 第58回日本老年医学会学術集会(金沢) 2016.6.9
5. 原田和昌：合同シンポジウム 心疾患の一次予防・二次予防を考える. 心疾患予防のための血圧管理. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会(東京) 2016.7.17
6. K. Harada, S. Futami, A. Suzuki, A. Morozumi, Y. Saito, C. Jubishi, T. Okawa, Y. Nemoto, M. Sugie, J. Tanaka, T. Ishiyama, J. Ishikawa, K. Takeda, Y. Tsubokou, H. Fujimoto：Heart failure as a cause of a cerebral infarction without atrial fibrillation；analysis from 2472 autopsy cases. ESC Congress 2016. (ローマ) 2016.8.30
7. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 高橋哲也, 大淵修一, 小山照幸, 藤本肇, 許俊鋭, 井藤英喜：シンポジウム9 高齢者frailtyをどう評価し実臨床で生かすか. フレイルと心機能. 第64回日本心臓病学会学術集会(東京) 2016.9.24
8. 原田和昌：シンポジウム高齢者高血圧の病態と治療. 1度高血圧の超高齢者は剖検で心筋梗塞や脳梗塞を有している：連続剖検3100例から解

- 析. 第39回日本高血圧学会総会(仙台)2016.9.30
9. 原田和昌：シンポジウム高齢者心不全の治療と限界. 高齢者心不全の治療は若年者の心不全と同じでよいか. 第20回日本心不全学会学術集会(札幌) 2016.10.7
10. 田中旬, 原田和昌：Low body weight determines frailty in the elderly patients with atrial fibrillation and heart failure. 第81回日本循環器学会学術集会 シンポジウム(金沢)2017.3.17

●講師等院外活動(講演・放送等)

1. 原田和昌：高血圧. 第13回メトロポリタン循環器内科研修会連絡会(東京)2016.4.16
2. 原田和昌：脳心血管イベントを考慮した糖尿病治療. Network Meeting in 川越(埼玉)2016.5.12
3. 原田和昌：心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. KYOWA KIRIN seminar(福井)2016.5.17
4. 原田和昌：超・健康百寿者の秘密：103歳でひとり暮らしの超元気おばあちゃんに密着！「脳」、「血管」、「腸内フローラ」…3つの若さの秘密を探るべく3人の名医が超・健康百寿者の生活を徹底分析！たけしの健康エンターテインメントみんなの家庭の医学. テレビ朝日 2016.5.17
5. 原田和昌：心血管イベントを考慮した糖尿病治療. CV & Diabetes Forum in Gunma(群馬)2016.6.1
6. 原田和昌：循環器専門医からみた ω 3脂肪酸製剤への期待. 板橋区医師会循環器医会(東京)2016.6.13
7. 原田和昌：高齢者心不全におけるサムスカの有用性. Nagano Heart Failure Meeting(長野)2016.6.14
8. 原田和昌：実臨床でのNOACの選択. 城北地区Expert Meeting(東京)2016.6.15
9. 原田和昌：心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. 江津市医師会学術講演会(島根)2016.6.21
10. 原田和昌：虚血性心疾患・心不全—心血管イベントを考慮した薬物療法. 生活習慣病講演会(埼玉)2016.6.24
11. 原田和昌：高齢者の抗血栓療法を再考する. Stroke Forum in 城東(東京)2016.7.22
12. 原田和昌：高齢者心疾患の最新治療. 東京都健康長寿医療センター高齢医学セミナー2016(東京)2016.7.23
13. 原田和昌：新たに見つめ直す高齢者高血圧治療. 高血圧学術講演会—最適な血圧管理を考え

- る（福岡）2016.7.24
14. 原田和昌：高齢者AFにおける低体重とフレイルを考える。心房細動Webセミナー：高齢者AFのトータルケア（東京）2016.7.26
 15. 原田和昌：心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは。第8回城北循環器懇話会（東京）2016.7.28
 16. 原田和昌：8月こそチャンス！今すぐ始めたい長引く身体の不調 改善法SP 夏だからできる！推計患者数4300万人！やってみてわかった！血管年齢が若い海女さんに学ぶ高血圧改善法とは？ たけしの健康エンターテインメント みんなの家庭の医学 テレビ朝日 2016.8.2
 17. 原田和昌：効果的なサムスカの使い方。日経メディカル・座談会 急性心不全治療における体液管理の現状と今後の展望（東京）2016.8.16
 18. 原田和昌：疾病と治療 I 循環器：血圧異常。板橋看護学校講義（東京）2016.9.7
 19. 原田和昌：高齢者糖尿病の心不全予防・管理について。糖尿病治療Update（東京）2016.9.9
 20. 原田和昌：超高齢者AFに対する抗凝固療法。大江戸抗凝固講演会—高齢者AFの抗凝固療法を考える。（東京）2016.9.21
 21. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方。第4回九州老年心血管病研究会（福岡）2016.9.28
 22. 原田和昌：高齢者心不全におけるサムスカの有用性。第9回大阪循環器懇話会（大阪）2016.10.13
 23. 原田和昌：高齢者心不全と心・腎・貧血・鉄欠乏関連。協和発酵キリン社員研修会（東京）2016.10.14
 24. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略—SPRINTサブ解析を踏まえて。STOP HYPERTENSION Seminar in 北関東（東京）2016.10.15
 25. 原田和昌：経皮吸収型 β 1遮断薬ビソノテープの使用経験。トーアエイヨー社内研修会（東京）2016.10.17
 26. 原田和昌：SPAFにおける抗凝固療法の重要性。Expert Meeting in East Tokyo（東京）2016.10.19
 27. 原田和昌：高齢者高血圧の管理と心房細動。城東循環器カンファレンス（東京）2016.10.26
 28. 原田和昌：心不全（ステージAからC）とノンディッパーとの関係—24時間血圧測定の意義。第29回足立循環器フォーラム（東京）2016.10.28
 29. 原田和昌：高齢者心不全におけるサムスカの有用性。伊勢崎地区心不全を考える会（群馬）2016.11.8
 30. 原田和昌：高齢者高血圧に関する最近の話題。武田薬品社外講師勉強会（東京）2016.11.11
 31. 原田和昌：高齢者の抗凝固療法と心不全。第3回CardioVascular Disease Network（神奈川）2016.11.16
 32. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略—SPRINTサブ解析を踏まえて。毎日血圧時々尿検査セミナー（京都）2016.11.17
 33. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法—低体重とフレイルについて—。城北抗凝固療法フォーラム（東京）2016.11.21
 34. 原田和昌：超高齢者AFに対する抗凝固療法。茅ヶ崎・寒川学術講演会（神奈川）2016.11.25
 35. 原田和昌，石川譲治：認知症診断・予防での活用の可能性。第1回臨床自律神経Forum（川崎）2016.11.27
 36. 原田和昌：心不全を予防できる糖尿病治療とは。Cardiovascular & Diabetes Conference（東京）2016.12.5
 37. 原田和昌：循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント。大塚製薬株式会社東京支店Oh-Campus（東京）2016.12.7
 38. 原田和昌：スーパー栄養素カルシウムで【高血圧】【ストレス】【がん】予防たけしの健康エンターテインメントみんなの家庭の医学。テレビ朝日 2016.12.20
 39. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法—低体重とフレイルについて。第592回胸部疾患懇話会（青森）2017.1.17
 40. 坪光雄介，原田和昌：心房細動のない患者の脳梗塞リスクとしての心不全—剖検例2472例からの解析。第2回東京戌亥CHADS研究会（東京）2017.1.19
 41. 原田和昌：高齢者の心不全治療が変わった。第145回老年学・老年医学公開講座。105歳まで元気に生きるには（東京）2017.1.20
 42. 原田和昌：高齢者高血圧患者の治療戦略。第345回練馬区医師会学術部内科医会臨床研究会（東京）2017.1.24
 43. 原田和昌：意外と知らない高血圧のこと—あなたの血管大丈夫？健康講習会「意外と知らない高血圧のこと」（東京）2017.1.25
 44. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法—低体重とフレイルについて。高齢者心房細動を勉強する会in伊勢崎（群馬）2017.2.7
 45. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法—低体重とフレイルについて。高齢者医療Forum 2017（千葉）2017.2.8
 46. 原田和昌：高齢者の脂質異常はどこまで治療すべきか。板橋区医師会学術講演会（東京）

2017.2.9

47. 原田和昌：これからの糖尿病治療戦略—循環器内科医の立場から. T2DM Forum in 山梨 (山梨) 2017.2.16
48. 原田和昌：高齢者高血圧の治療戦略—SPRINT試験サブ解析をふまえて. 城北地区高血圧UPDATE2017 (東京) 2017.2.20
49. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 第21回西部循環器病ワークス (東京) 2016.3.4
50. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略—SPRINTサブ解析を踏まえて. 猿島郡医師会学術講演会『Medical Up To Date』(茨城)2017.3.6
51. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. Fluid Management Conference (東京) 2017.3.8
52. 原田和昌：高齢者心不全治療におけるステートメントの解説. トーアエイヨー社内研修会 (東京) 2017.3.22
53. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 神明台ハートセミナー (東京) 2017.3.24

●単行書・報告書

1. 原田和昌：心不全. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トライアルAnnual Overview 2017. ライフサイエンス出版 東京 2017 p38-40
2. 日本心不全学会高齢心不全患者の治療に関するステートメント策定委員. 安達 仁, 安斉俊久, 猪又孝元, 木原康樹, 佐藤幸人, 清野精彦, 筒井裕之, 原田和昌, 福本義弘, 増山 理, 百村伸一, 弓野 大, 横山広行, 吉川 勉：高齢心不全患者の治療に関するステートメント 2016. ライフサイエンス出版株式会社 東京 2016
3. 原田和昌：心疾患. 高齢者の看護ケア よくみる疾患、よく出会う問題. 学研メディカル秀潤社 東京 2017 p32-36
4. 原田和昌：血圧を下げる新常識「上下の幅が広いのは動脈硬化のサイン」. 夕刊フジ 第14395号 2017.1.19 p11
5. 原田和昌：血圧を下げる新常識「塩分を排出しやすくする『DASH食』」. 夕刊フジ 第14419号 2017.2.16 p11

副院長 黒岩 厚二郎

●学会・研究会発表

1. 金澤伸郎、野島陽子、金翔哲、齋藤未央、飯塚童一郎、亀井めぐみ、三井秀雄、吉田孝司、黒岩厚二郎. 高齢者の永久人工肛門の管理. 高

齢者の永久人工肛門の管理 (徳島) 2016.7.16

2. 吉田 孝司, 三井 秀雄, 齋藤 未央, 飯塚 童一郎, 金澤 伸郎, 黒岩 厚二郎. 胃GISTに対するLECS 5例の治療成績. 第116回日本外科学会定期学術集会 (大阪) 2016.4.14
3. 齋藤 未央, 吉田 孝司, 三井 秀雄, 金澤 伸郎, 黒岩 厚二郎. プロポフォールを用いた胃ESDの周術期管理. 第89回日本消化器内視鏡学会総会 (名古屋) 2015.5.29
4. 高木泰介、三井秀雄、飯塚童一郎、中里徹矢、吉田孝司、黒岩厚二郎、金澤伸郎. 血管炎が原因と考えられる腸重積の一例. 都立・公社病院外科研究会 (東京) 2017.2.10

総合診療科

●学会発表

- 1) 増田義重 特別講演 高齢者の感染症～敗血症を中心に～
第19回日本高齢消化器病学会総会 東京 2016年7月23日
- 2) 板倉泰朋、古川友子、野口譲、浅見諒子、稲松孝思、増田義重：2014年当院でのClostridium difficile (CD) 迅速検査で毒素陰性かつ抗原陽性例における患者背景の検討. 第65回日本感染症学会東日本学術集会/第63回日本化学療法学会東日本支部総会 新潟 2016年10月27日
- 3) 浅見諒子、野口譲、古川友子、矢作和規、安中めぐみ、板倉泰朋、吉田敦、増田義重、稲松孝思：当センターで血液培養より分離された菌の42年間における変遷と近年の動向. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月21日
- 4) 野口譲、矢作和規、古川友子、浅見諒子、板倉泰朋、増田義重、稲松孝思：当センターにおける血液培養2セット中1本のみ陽性例の臨床的意義の検討. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月21日
- 5) 矢作和規、野口譲、古川友子、浅見諒子、板倉泰朋、増田義重、稲松孝思、吉田敦、：急性骨髄性白血病患者にニューキノロン投与中、血液培養より耐性Rothia mucilaginosaとStreptococcus oralisが分離された1例. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月22日

膠原病・リウマチ科

●原著

1. Sugihara T, Harigai M. Targeting Low

Disease Activity in Elderly-Onset Rheumatoid Arthritis: Current and Future Roles of Biological Disease-Modifying Antirheumatic Drugs. *Drugs Aging*. 2016;33(2):97-107.

2. Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, **Sugihara T**, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Mod Rheumatol*. 2016 Mar 11:1-8
3. Utsunomiya M, Dobashi H, Odani T, Saito K, Yokogawa N, Nagasaka K, Takenaka K, Soejima M, **Sugihara T**, Hagiwara H, Hirata S, Matsui K, Nonomura Y, Kondo M, Suzuki F, Tomita M, Kihara M, Yokoyama W, Hirano F, Yamazaki H, Sakai R, Nanki T, Koike R, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Optimal regimens of sulfamethoxazole-trimethoprim for chemoprophylaxis of *Pneumocystis pneumonia* in patients with systemic rheumatic diseases: results from a non-blinded, randomized controlled trial. *Arthritis Res Ther*. 2017 Jan 18;19(1):7. doi: 10.1186/s13075-016-1206-8
4. Yamazaki H, Hirano F, Takeuchi T, Amano K, Kikuchi J, Kihara M, Yokoyama W, **Sugihara T**, Nagasaka K, Hagiwara H, Nonomura Y, Sakai R, Tanaka M, Koike R, Nanki T, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M. Simplified Disease Activity Index remission at month 6 is an independent predictor of functional and structural remissions at month 12 during abatacept treatment in patients with rheumatoid arthritis: A multi-center, prospective cohort study in Japan. *Mod Rheumatol*. 2016 Dec 15:1-8. [Epub ahead of print]

●総説

1. 杉原 毅彦 低疾患活動性を目標とした高齢関節リウマチに対する治療戦略 リウマチ科, 55(3):334-338,2016
2. 杉原 毅彦 関節リウマチ治療における生物学的製剤をつかいこなすためには 高齢者に対する注意点と使用方法 リウマチ科 56(1)9-14, 2016
3. 杉原 毅彦 今日の治療指針2016年度版—

リウマチ性多発筋痛症 医学書院

4. 杉原 毅彦 高齢者のポリファーマシー多剤併用を整理するための知恵とコツ 11関節リウマチ 170-179
5. 特集 高齢者に対するリウマチ性疾患と膠原病 企画 序文 老年医学 2016 9月号
6. リウマチ性多発筋痛症の分類基準と診療ガイドラインについて 老年医学 2016 9月号

●学会発表

1. Takahiko Sugihara, Hitoshi Hasegawa, Haruhito Uchida, Hajime Yoshifuji, Yoshikazu Nakaoka, Yoshiko Watanabe, Eisuke Amiya, Masanori Konishi, Yoshihiro Arimura, Mitsuaki Isobe, and for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, and the Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) : The Strategic Study Group to Establish the Evidence for Intractable Vasculitis Guideline. Characteristics of patients with giant cell arteritis and Takayasu arteritis in a nationwide, retrospective cohort study in Japan 第18回国際ANCAワークショップ 東京2017
2. 杉原 毅彦 高齢関節リウマチの治療最適化 2017日本リウマチ学会 ランチョンセミナー
3. 杉原 毅彦 PMR診療の現状～活動性評価、ステロイド治療の現状と問題点 2016日本リウマチ学会 シンポジウム

腎臓内科・血液透析科

厚生労働省 難治性血管炎に関する調査研究班 国際分科会の研究分担者であり、国際研究プロジェクト「ヨーロッパと日本の顕微鏡的多発血管炎の症状・予後の比較検討」「Diagnostic and Classification Criteria in Vasculitis Study (DCVAS)」「抗好中球細胞質抗体関連血管炎の治療における血漿交換およびグルココルチコイド投与用量の解析：国際ランダム化比較試験 (PEXIVAS)」「再発性ANCA関連血管炎の寛解維持療法におけるリツキシマブとアザチオプリンを比較するオープンラベル、ランダム化国際共同試験 (RITAZAREM)」に引き続き協力した。

日本腎臓学会CKDガイドライン委員(板橋美津世)および難治性血管炎に関する調査研究班員(板橋美津世)として活動した。

「成人ならびに高齢者ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療研究」「加齢による腎臓の形態および機能変化の臨床研究」「高齢慢性腎臓病患者

の腎超音波検査による病態把握研究」「高齢者における推定糸球体濾過量の評価の研究」「保存期腎不全患者や透析患者のBody mass index(BMI)と脂肪率の相関研究」「血管内皮機能研究」など施行し、成果が得られたものに関しては学会ないし論文として発表した。

業績

●原著論文

1. Takura T, Takei T, Nitta K. Cost-Effectiveness of Administering Rituximab for Steroid-Dependent Nephrotic Syndrome and Frequently Relapsing Nephrotic Syndrome: A Preliminary Study in Japan. *Sci Rep.* 7:46036. 2017.
2. Sato M, Takei T, Moriyama T, Itabashi M, Nitta K. Long-term outcomes of initial therapy for idiopathic membranous nephropathy. *Clin Exp Nephrol.* doi:10.1007/s10157-016-1371-8. 2016.
3. Hirose O, Itabashi M, Takei T, Honda K, Nitta K. Antineutrophil cytoplasmic antibody-associated glomerulonephritis with immunoglobulin deposition. *Clin Exp Nephrol.* [Epub ahead of print], 2016
4. Ubukata M, Amemiya N, Nitta K, Takei T. Serum Thiamine Values in End-Stage Renal Disease Patients under Maintenance Hemodialysis. *Int J Vitam Nutr Res.* 2016 May 10:1-8. [Epub ahead of print]
5. Iwasaki C, Moriyama T, Tanaka K, Takei T, Nitta K. Effect of hematuria on the outcome of immunoglobulin A nephropathy with proteinuria. *J Nephropathol.* 5:72-8, 2016.
6. Arimura Y, Muso E, Fujimoto S, Hasegawa M, Kaname S, Usui J, Ihara T, Kobayashi M, Itabashi M, Kitagawa K, Hirahashi J, Kimura K, Matsuo S. Evidence-based clinical practice guidelines for rapidly progressive glomerulonephritis 2014. *Clin Exp Nephrol.* 20:322-41, 2016.
7. 雨宮 伸幸, 杉浦 秀和, 神山 貴弘, 生方 政光, 能木場 宏彦, 山崎 麻由子, 武井 卓, 本田 一穂, 新田 孝作:腎腫大を伴い急速に腎機能が悪化した髓質嚢胞腎の1例. *日本腎臓学会誌* . 58: 660-667, 2016.

●総説

1. 鈴木 祐介, 武井 卓:新規バイオマーカーの開発とIgA腎症診断への臨床応用 Gd-IgA1など複数の病因分子をバイオマーカーとし、臨床データと組み合わせることにより高確率での

鑑別が可能に(Q&A). *日本医事新報*4839:57-58, 2017.

2. 武井 卓, 石村 栄治:成人の頻回再発微小変化型ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療の今後の展開 根治を示唆するエビデンスあり。成人の頻回再発微小変化型治療における中心的存在になりうる(Q&A). *日本医事新報* 4834: 57-58, 2016.
3. 武井 卓:難病指定腎疾患-保存期CKDと腎代替療法期における管理:その他の疾患 一次性ネフローゼ症候群(解説/特集). *臨床透析*: 32: 473-480, 2016.
4. 板橋美津世:膠原病と腎障害:ANCA関連血管炎の治療、リツキシマブ. *腎と透析*81: 415-419, 2016.

●学会抄録

1. 草尾由香, 寺島伸世, 吉澤祐美, 赤沼郁恵, 小暮早可恵, 渡邊敏子, 鹿島田美奈子, 佐藤優, 梶真悠子, 和田智至, 高岡祐子, 武井卓, 板橋美津世, 高齢者透析患者におけるスクリーニングシートを用いたフットケア介入の取り組み, 第7回日本腎臓リハビリテーション学会. 筑波, 2月, 2017.
2. 鶴田 悠木, 佐々木 裕子, 和泉 牧子, 宮下 美砂子, 鶴田 幸男, 板橋 美津世, 武井 卓, 土谷 健, 新田 孝作:フェブキソスタットは血液透析症例の血管内皮機能を改善する:第50回日本痛風・核酸代謝学会総会. 東京, 2月, 2017.
3. 武井 卓:移行医療の実践(シンポジウム) 思春期・青年期の微小変化型ネフローゼ症候群ステロイド依存性頻回再発型ネフローゼ症候群に対する内科移行後のリツキシマブ使用経験について:第46回日本腎臓学会東部会. 東京, 10月, 2016
4. 橋 靖子, 板橋 美津世, 武井 卓, 仁科 裕史, 水上 翔太, 三原 現, 常吉 沙帆理, 森下 良志:アプリンジンにより呂律障害を呈した透析患者の1例:第626回日本内科学会関東地方会. 東京, 9月, 2016
5. 板橋 美津世, 鶴田 悠木, 湯村 和子, 武井 卓 高齢者における24時間蓄尿蛋白尿推算式のクレアチニン補正の有用性:第58回日本老年医学会. 金沢, 6月, 2016
6. 和田 智至, 鶴田 悠木, 大谷 将太郎, 梶 真悠子, 若杉 卓矢, 新谷 剛, 関 祐子, 寺島 伸世, 永窪 佳子, 佐々木 裕子, 樋口 輝美, 板橋 美津世, 武井 卓:バスキュラーアクセスカテーテル(VAカテーテル)における順接続、逆接続の再循環率の比較:第61回日本透析医学会. 横

浜, 6月, 2016

7. 許田 瑞樹, 亀井 大悟, 板橋 美津世, 新田 孝作, 秋葉 隆, 吉弘 仁, 吉本 暖加, 白井 優香, 鈴木 美紀, 北川 一夫:免疫吸着療法(IAPP)が有効であった重症筋無力症(MG)の一例:第61回日本透析医学会. 6月, 2016.
8. 井野 文美, 武井 卓, 岩渕 裕子, 佐藤 尚代, 森山 能仁, 板橋 美津世, 土谷 健, 新田 孝作:巣状分節性糸球体硬化症に対するリツキシマブ単回投与の治療効果に関する検討:第59回日本腎臓学会. 横浜, 6月, 2016
9. 岩渕 裕子, 武井 卓, 宮部 陽永, 森山 能仁, 板橋 美津世, 新田 孝作:ステロイド依存性頻回再発型微小変化型ネフローゼ症候群へのリツキシマブ投与における血液中CD80値の変化:第59回日本腎臓学会. 横浜, 6月, 2016.
10. 武井 卓:成人微小変化・巣状分節性糸球体硬化症の治療戦略(シンポジウム):第59回日本腎臓学会. 横浜, 6月, 2016.
11. 若山 慈恵, 森山 能仁, 板橋 美津世, 武井 卓, 新田 孝作:中等度の尿蛋白を呈したIgA腎症に対する扁桃摘パルスと経口ステロイドの治療効果の比較:第113回日本内科学会. 東京, 4月2016.

●講師等院外活動

1. 板橋美津世:血管炎における血漿交換療法の有用性とリツキシマブ治療の実際. 血管炎の治療を考える会. 板橋. 3月18日, 2017.
2. 板橋美津世:あなたの腎臓、大丈夫ですか? 第5回板橋区民公開講座. 板橋. 11月27日, 2016.
3. 鶴田悠木:CKD患者への日常診療について. 板橋区医師会学術講演会. 板橋, 11月7日, 2016.
4. 武井 卓:ネフローゼ患者が来院した場合の対応について~最新の診断・治療を踏まえて~板橋区医師会学術講演会. 板橋, 11月7日, 2016.
5. 板橋美津世:ANCA測定 of 歴史と意義. 血管炎早期発見研究会. 東京, 7月30日, 2016.
6. 武井 卓:(特別講演)難治性ネフローゼ症候群の治療 ~最近の話題~ 富山, 7月7日, 2016.
7. 板橋美津世:抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎における再燃と感染の判断に有用なバイオマーカーの検索. 平成27年度JSWN研究活動奨励賞受賞式・受賞者講演. 大阪, 6月11日, 2017.
8. 武井 卓:(特別講演)難治性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ使用経験について. 難治性ネフローゼ研究会. 大阪, 5月25日, 2016.

【単行書・報告書】

1. 武井 卓:血栓性血小板減少性紫斑病, 重症

患者における炎症と凝固・線溶系反応(救急・集中治療アドバンス)専門編集:松田直之. 271-276, 2017.

2. 板橋美津世:システムティックレビュー, ANCA関連血管炎治療ガイドライン2017.編集厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業. 診断と治療社, 東京, 2017.
3. 板橋美津世:腎と透析診療指針2016(第10章)尿細管疾患等 尿細管間質性腎炎(解説/特集):腎と透析増刊号, 東京医学社, pp331-333, 2016.
4. 武井 卓:腎と透析診療指針2016(第14章)その他の腎疾患 腫瘍崩壊症候群(解説/特集). 腎と透析増刊号, 東京医学社, pp440-442, 2016.
5. 板橋美津世:ANCA関連血管炎の歴史と診断, ANCA関連血管炎の測定と臨床的意義と問題点, ANCA関連血管炎の臨床病態と腎障害, 臨床病理学的検討と予後, 症例から考える臨床と病理, ANCA関連血管炎の治療:新 膠原病・血管炎の腎障害. 編集湯村和子, 東京医学社, pp188-202, 219-237, 276-311, 2016.
6. 武井 卓:IgA vasculitis. 新 膠原病・血管炎の腎障害. 編集 湯村和子, 東京医学社, pp325-334, 2016.

糖尿病・代謝・内分泌内科

研究活動は、当科スタッフと多くの共同研究者によって盛んに行われ、その結果、誌上発表120、学会発表47、講演その他は104で総発表数は271となり、国内外に多くの発表を行うことができた。

研究のテーマは生活習慣病、大腿骨頸部骨折の遺伝子解析(森)、糖尿病における脳白質病変の要因(田村)、糖尿病における認知機能低下と関連する栄養成分(荒木)と多岐にわたり、英文誌に掲載された。また、高齢者糖尿病におけるADL低下と関連する栄養成分(小寺、千葉)、脳白質病変とうつとの関連(山岡)について学会発表を行った。

当科が関わったガイドラインとして、2016年5月に日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会の「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標(HbA1c値)」が発表され、日本糖尿病学会の「糖尿病診療ガイドライン2016」が刊行された。「高齢者糖尿病診療ガイドライン2017」の作成にも作成ワーキンググループとして関わり、次年度に発表されることとなった。

●雑誌論文(英文誌)

1. Tamura Y, Takubo K, Aida J, Araki A, Ito H. Telomere attrition and diabetes mellitus.

- Geriatr Gerontol Int** 16 Suppl 1:66-74, 2016.
2. Tamura Y, Izumiyama-Shimomura N, Kimbara Y, Nakamura K, Ishikawa N, Aida J, Chiba Y, Matsuda Y, Mori S, Arai T, Fujiwara M, Poon SS, Ishizaki T, Araki A, Takubo K, Ito H. Telomere attrition in beta and alpha cells with age. **Age (Dordr)** 38(3):61, 2016.
 3. Tanaka S, Tanaka S, Iimuro S, Ishibashi S, Yamashita H, Moriya T, Katayama S, Akanuma Y, Ohashi Y, Yamada N, Araki A, Ito H, Sone H. for the Japan Diabetes Complications Study Group. Maximum BMI and microvascular complications in a cohort of Japanese patients with type 2 diabetes: the Japan Diabetes Complications Study. **J Diabetes Complications** 30:790-797, 2016.
 4. Araki A, Yoshimura Y, Sakurai T, Umegaki H, Kamada C, Kamada K, Iimuro S, Ohashi Y, Ito H; the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial Research Group. Low intakes of carotene, vitamin B2, and calcium predict cognitive decline among elderly patients with diabetes mellitus: the Japanese Elderly Diabetes Intervention Trial. **Geriatr Gerontol Int** 2016 (in press).
 5. Matsuda Y, Araki A, Sakano Y, Chiba Y, Tsuboko Y, Nishimura T, Arai T. Autopsy Case of Slowly Progressive Type 1 Diabetes with Concomitant Acute Myocardial and Mesenteric Ischemia. **JOP. J Pancreas (Online)** 17(4):444-448, 2016.
 6. Horikawa C, Yoshimura Y, Kamada C, Tanaka S, Tanaka S, Matsunaga S, Hanyu O, Araki A, Ito H, Tanaka A, Ohashi Y, Akanuma Y, Sone H. Is the Proportion of Carbohydrate Intake Associated with the Incidence of Diabetes Complications?—An Analysis of the Japan Diabetes Complications Study. **Nutrients** 9(2):113, 2017.
 7. Glycemic targets for elderly patients with diabetes. Japan Diabetes Society (JDS)/Japan Geriatrics Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes. **Geriatr Gerontol Int** 16: 1243–1245, 2016.
 8. Glycemic targets for elderly patients with diabetes. Japan Diabetes Society (JDS)/Japan Geriatrics Society (JGS) Joint Committee on Improving Care for Elderly Patients with Diabetes. **J Diabetes Investig** 8: 126-128, 2017.
 9. Maeda Y, Sato N, Naka-Mieno M, Mori S, Arai T, Tanaka M, Muramatsu M, Sawabe M: Association of non-synonymous variants in WIPF3 and LIPA genes with abdominal aortic aneurysm: an autopsy study. **J Geriatr Cardiol** 13: 960–967, 2016.
 10. Thu KS, Sato N, Ikeda S, Naka-Mieno M., Arai T, Mori S, Sawabe M., Muramatsu, M, Tanaka M.: Association of polymorphisms of the transporter associated with antigen processing (TAP2) gene with pulmonary tuberculosis in an elderly Japanese population. **APMIS** 124: 675-680, 2016.
 11. Zhou H, Mori S, Ishizaki T, Takahashi A, Matsuda K, Koretsune Y, Minami S, Higashiyama M, Imai S, Yoshimori K, Doita M, Yamada A, Nagayama S, Kaneko K, Asai S, Shiono M, Kubo M., Ito H. Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. **Bone Rep** 5: 168–172, 2016.
 12. Zhou H, Mori S, Ishizaki T, Tanaka M, Tanisawa K, Mieno M.N, Sawabe M, Arai T, Muramatsu M, Yamada Y, Ito H. Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. **J Bone Miner. Metab** 34: 685-691, 2016.
 13. Zaw KTT, Sato N, Ikeda S, Thu KS, Mieno MN, Arai T, Mori S, Furukawa T, Sasano T, Sawabe M, Tanaka M, Muramatsu M. Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. **J Cardiol** 2016 Dec 19. [Epub ahead of print]
 14. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K., Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M. Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. **Oncotarget** 2017 Mar 23. [Epub ahead of print]
 15. Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M., Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M. Exome-wide association

- study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. **J Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.**72: 309-318, 2017.
16. Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Muto K, Matsuda K, Kiyohara Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Kubo M, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T: Overview of the BioBank Japan Project: Study design and profile. **J Epidemiol** 27: S2-S8, 2017.
 17. Hirata, M, Kamatani, Y, Nagai, A, Kiyohara, Y, Ninomiya, T, Tamakoshi, A, Yamagata, Z, Kubo, M, Muto, K, Mushiroda, T, Murakami, Y, Yuji, K, Furukawa, Y, Zembutsu, H, Tanaka, T, Ohnishi, Y, Nakamura, Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Matsuda, K, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S, Harada, H, Misumi, K, Komi, R, Minami, S, Sugihara, H, Emoto, N, Kanazawa, A, Suzuki, Y, Hiratsuka, Y, Asai, S, Moriyama, M, Takahashi, Y, Fujioka, T, Obara, W, Mori, S, Ito, H, Nagayama, S, Miki, Y, Masumoto, A, Yamada, A, Nishizawa, Y, Kodama, K, Ugi, S, Maegawa, H, Koretsune, Y, Taki, H, Osawa, T: Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data: A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. **J Epidemiol.** 27: S9-S21, 2017.
 18. Hirata M, Nagai A, Kamatani Y, Ninomiya T, Tamakoshi A, Yamagata Z, Kubo M, Muto K, Kiyohara Y, Mushiroda T, Murakami Y, Yuji K, Furukawa Y, Zembutsu H, Tanaka T, Ohnishi Y, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Matsuda K *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T: Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. **J Epidemiol**, 27: S22-S28, 2017.
 19. Okada E, Ukawa S, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Yamagata Z, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Tamakoshi A *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T: Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The Biobank Japan Project. **J Epidemiol** 27: S29-S35, 2017.
 20. Tamakoshi A, Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Kamatani Y, Muto K, Kiyohara Y, Yamagata Z, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients: The BioBank Japan Project. **J Epidemiol** 27: S36-S42, 2017.
 21. Ukawa S, Okada E, Nakamura K, Hirata M, Nagai A, Matsuda K, Yamagata Z, Kamatani Y, Ninomiya T, Kiyohara Y, Muto K, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Tamakoshi A *Members of

- medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project. **J Epidemiol** **27**: S43-S48, **2017**.
22. Nakamura K, Ukawa S, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Ninomiya T, Muto K, Kiyohara Y, Matsuda K, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Tamakoshi A *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T: Characteristics and prognosis of Japanese male and female lung cancer patients: The BioBank Japan Project. **J Epidemiol** **27**: S49-S57, **2017**.
23. Nakamura K, Okada E, Ukawa S, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Kiyohara Y, Muto K, Kamatani Y, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients: The BioBank Japan project. **J Epidemiol**, **27**: S58-S64, **2017**.
24. Ukawa S, Nakamura K, Okada E, Hirata M, Nagai A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Ninomiya T, Kiyohara Y, Kamatani Y, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Tamakoshi A *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan project. **J Epidemiol** **27**: S65-S70, **2017**.
25. Hata J, Nagai A, Hirata M, Kamatani Y, Tamakoshi A, Yamagata Z, Muto K, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.* Kiyohara Y, Ninomiya T.; Collaborator, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan project. **J Epidemiol** **27**: S71-S76, **2017**.
26. Yokomichi H, Noda H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kamatani Y, Kiyohara Y, Matsuda K, Muto K, Ninomiya T, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Yamagata Z *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various

- comorbidities: BioBank Japan. **J Epidemiol** **27**: S77-S83, **2017**.
27. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Tamakoshi A, Kiyohara Y, Kamatani Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Yamagata Z *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Statin use and all-cause and cancer mortality: BioBank Japan cohort. **J Epidemiol** **27**: S84-S91, **2017**.
 28. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Serum glucose cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients: BioBank Japan. **J Epidemiol** **27**: S92-S97, **2017**.
 29. Yokomichi H, Nagai A, Hirata M, Kiyohara Y, Muto K, Ninomiya T, Matsuda K, Kamatani Y, Tamakoshi A, Kubo M, Nakamura Y; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.* Yamagata Z *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi S, Harada H, Misumi K, Komi R, Minami S, Sugihara H, Emoto N, Kanazawa A, Suzuki Y, Hiratsuka Y, Asai S, Moriyama M, Takahashi Y, Fujioka T, Obara W, Mori S, Ito H, Nagayama S, Miki Y, Masumoto A, Yamada A, Nishizawa Y, Kodama K, Ugi S, Maegawa H, Koretsune Y, Taki H, Osawa T.: Survival of macrovascular disease chronic kidney disease chronic respiratory disease cancer and smoking in patients with type 2 diabetes: BioBank Japan cohort. **J Epidemiol** **27**: S98-S106, **2017**.
 30. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Yoshida H, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of EGFLAM SPATC1L and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Int J Mol Med** **39**: 1091-1100, **2017**.
 31. Honma N, Saji S, Mikami T, Yoshimura N, Mori S, Saito Y, Murayama S, Harada N. Estrogen-related factors in the frontal lobe of Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. **Sci Rep** **7**(1): 726, **2017**.
 32. Mori S, Zhou H, Yamaga M, Takemoto M, Yokote K. Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. **Geriatr Gerontol Int**, in press.
 33. Nishi K, Luo H, Nakabayashi K, Doi K, Ishikura S, Iwahara Y, Yoshida Y, Tanisawa K, Arai T, Mori S, Sawabe M, Muramatsu M, Tanaka M, Sakata T, Shirasawa S, Tsunoda T: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. **Anticancer Research**, in press.
 34. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. **Oncotarget**, in press.
 35. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of 12q24.1 ACAD10 and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. **Oncotarget**, in press.
 36. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S,

- Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int J Mol Med*, in press.
37. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, in press.
38. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M : Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, in press.
39. Dechamethakun S, Sato N, Ikeda S, Sawabe M, Mori S, Yamada Y, Tanaka M, Muramatsu M, Arai T: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. *J. Gerontol Geriatr Res*, in press.
40. Yamada Y, Sakuma J, Takeuchi I, Yasukochi Y, Kato K, Oguri M, Fujimaki T, Horibe H, Muramatsu M, Sawabe M, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Obuchi S, Kawai H, Shinkai S, Mori S, Arai T, Tanaka M: Identification of TNFSF13 SPATC1L SLC22A25 and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol Med Rep*, in press.
41. Mori S, Zhou H: Implementation of personalized medicine for fracture risk assessment in osteoporosis. *Geriatr Gerontol Int* 16 (Suppl. 1): 57-65, 2016.
42. 荒木 厚:フレイルと認知機能障害. *老年精神医学会雑誌*27:497-503, 2016.
43. 荒木 厚:糖尿病とフレイル. *アンチ・エイジング医学—日本抗加齢医学学会雑誌*12 : 639-646, 2016.
44. 山岡巧弥, 田村嘉章, 小寺玲美, 坪井由紀, 佐藤 謙, 千葉 優子, 森 聖二郎, 井藤英喜, 荒木 厚:高血糖高浸透圧症候群(HHS)を発症した高齢者の背景因子と臨床的特徴の検討. *日本老年医学会雑誌* (印刷中)
- 雑誌論文 (商業誌等)
1. 荒木 厚:糖尿病になると、かならず認知症になるのですか? *糖尿病ケア*13:19-21, 2016
 2. 荒木 厚:糖尿病の治療と認知症予防には関係があるのですか? *糖尿病ケア*13:22-24, 2016.
 3. 小寺玲美, 千葉優子, 荒木 厚:高齢患者の治療のコツ. *Medicina* 53:112-115, 2016.
 4. 山岡巧弥, 田村嘉章, 荒木 厚:サルコペニアと糖尿病. *The Lipid* 27:48-54, 2016.
 5. 荒木 厚:超高齢化社会におけるインクレチン製剤の意義. *最新医学*71:97-102, 2016.
 6. 荒木 厚:高齢者糖尿病の診療の質を高める工夫. *月刊糖尿病*8(2):32-41, 2016.
 7. 荒木 厚:高齢者糖尿病の低血糖の特徴. *月刊糖尿病*8(8):43-49, 2016.
 8. 荒木 厚:加齢に伴う糖尿病. *Diabetes Frontier* 27:80-85, 2016.
 9. 荒木 厚:高齢者糖尿病の診療. 糖尿病治療の現在と未来. *診断と治療*104(Suppl.):43-48, 2016.
 10. 荒木 厚:高齢者2型糖尿病のマネジメント—③腎障害. *Islet Equality* 5(1):2-4, 2016.
 11. 荒木 厚:高齢者2型糖尿病のマネジメント—④細小血管障害. *Islet Equality* 5(2):2-4, 2016.
 12. 荒木 厚:高齢者2型糖尿病のマネジメント—⑤性的健康と生活満足度. *Islet Equality* 5(3):2-5, 2016.
 13. 荒木 厚:高齢者における過栄養の問題. 過栄養と低栄養から読み解く高齢者の栄養管理. *日本医事新報* 4797:26-32, 2016.
 14. 荒木 厚:転ばぬ先の杖—高齢者の糖尿病と転倒・骨折. *べんちのーと*26(4):7, 2016.
 15. 荒木 厚:サルコペニア、フレイルを伴う糖尿病. *新時代の臨床糖尿病学(下)*. *日本臨床*74増刊号2 : 392-396, 2016.
 16. 荒木 厚:認知機能低下・フレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療の考え方. *KISSEI* 9(2):2-7, 2016.
 17. 荒木 厚:高齢者の無自覚低血糖. *ドクターサロン*60(5):335-338, 2016.
 18. 坪井由紀, 千葉優子, 荒木 厚:インスリン抵抗性改善系薬 (ビッグアナイド薬、チアゾリジン薬). *糖尿病の最新治療*7(3):2016.
 19. 門脇孝, 荒木 厚, 鈴木亮, 横手幸太郎:(座談会) 高齢者糖尿病診療の新たな展開と課題. *Cardio-Renal Diabetes* 5:8-16, 2016.
 20. 荒木 厚, 鈴木亮. 高齢糖尿病患者におけるテーラーメイドの血糖管理目標. *DITN*459 : 2-3, 2016.

21. 荒木 厚：改めて知る「高齢者の糖尿病」. さ
かえ**56(8)**:5-10, 2016.
22. 荒木 厚：高齢患者の多様性に配慮した血糖コ
ントロールが必要—臨床的特徴を踏まえて柔軟
に目標設定. **Therapeutic Research 37(6)**:525-
527, 2016.
23. 荒木 厚：高齢者糖尿病とフレイル、要介護—
血糖コントロール目標をどのように考えるか—
(Forum) 高齢者の糖尿病治療をどうするか.
Diabetes Update 5:163-164, 2016.
24. 荒木 厚：メトホルミン—高齢者に対するメト
ホルミン投与は本当に危険で不利益な治療なの
か? **Medicina 53**:1618-1621, 2016.
25. 荒木 厚：糖尿病患者における認知機能と
ADLの評価法. **DIABETES JOURNAL 44(3)**:
22-27, 2016.
26. 荒木 厚：高齢者糖尿病と身体機能低下(フレ
イルとADL低下)、要介護—血糖コントロール
目標をどのように考えるか. **メディカル朝日**
45(9):30-31, 2016.
27. 荒木 厚：中年期から高齢期の身体変化の特徴.
保健の科学58(10):658-663, 2016.
28. 荒木 厚：在宅医療における老年症候群の対策.
在宅医療0-100 1(10)：875, 2016.
29. 荒木 厚：加齢に伴う生理機能の変化、フレイ
ル、老年症候群. **在宅医療0-100 1(10)**：876-881,
2016.
30. 横野浩一、荒木 厚、櫻井孝、横手幸太郎：高
齢者糖尿病のトータルマネジメント—新「高
齢者糖尿病の血糖コントロール目標」における
DPP-4阻害薬の位置付け. **Pharma Medica**
34(10):69-74, 2016.
31. 荒木 厚：高齢者糖尿病の療養指導—食事療
法・運動療法. **PRACTICE 33**:662-666, 2016.
32. 千葉優子、荒木 厚：高齢糖尿病患者の血糖コ
ントロール. **薬事58**：3171-3177, 2016.
33. 荒木 厚：高齢者糖尿病における「血糖コント
ロール」と「認知機能障害」は、双方に関連が
ある. **エキスパートナーズ32(12)**:26-27, 2016.
34. 荒木 厚：高齢者糖尿病ではフレイル、サルコ
ペニアをきたしやすくなる. **エキスパートナ
ーズ32(12)**:26-27, 2016.
35. 千葉優子、井藤英喜：高齢者の糖尿病合併高
血圧の降圧目標は据え置き。ただし… **エキス
パートナーズ 32(15)**:49-51, 2016.
36. 荒木 厚：人気の診療科紹介：東京都健康長寿
医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科. **診断
と治療104**：1467-1470, 2016.
37. 荒木 厚：サルコペニアを防ぐ：病態と治療.
THE LUNG 24:393-397, 2016.
38. 荒木 厚：高齢者診療の特徴と注意点. **内科**
119:25-30, 2017.
39. 荒木 厚：高齢者糖尿病における合併症の特徴.
最新医学72:27-32, 2017.
40. 荒木 厚：高齢者糖尿病における配合剤の意義
と注意点. **糖尿病の最新治療8(1)**:36-40, 2017.
41. 荒木 厚：高齢者の耐糖能異常(糖尿病). **成
人病と生活習慣病47(1)**:81-86, 2017.
42. 荒木 厚：糖尿病のいろいろな疑問に答える.
クレデンシャル102(3):6-11, 2017.
43. 荒木 厚：荒木 厚：高齢者2型糖尿病のマネ
ジメント—⑥脳卒中. **Islet Equality 6(1)**:2-4,
2017.
44. 荒木 厚：高齢者糖尿病診療に必要なADL評
価法と認知機能検査法. **Pharma Medica**
35(4):25-30, 2017.
45. 荒木 厚：フレイルを考慮した高齢者の医療—
糖尿病を中心に. **BIO Clinica 32(5)**:470-473,
2017.
46. 荒木 厚：高齢糖尿病患者の血糖コントロール
目標. **SRL宝函38(1)**：4-10, 2017.
47. 荒木 厚：サルコペニアと糖尿病. **食と医療**
1:112-119, 2017.
48. 森聖二郎：2型糖尿病では血糖管理の良否と骨
折リスクが関連している. 最新研究情報.
Ageing&Health, 24 (76), 4, 2016
49. 森聖二郎：骨粗鬆症. Common diseaseの
GWAS. **CLINICAL CALCIUM, 26**, 537-543,
2016
50. 森聖二郎：新規骨粗鬆症治療薬プロソツマブ
(抗スクレロスチン抗体). 最新研究情報.
Ageing&Health, 25 (77), 4, 2016
51. 森聖二郎：果物と野菜の日常的摂取は大腿骨
頸部骨折の予防にも有益. 最新研究情報.
Ageing&Health, 25 (77), 4, 2016
52. 森聖二郎：骨形成不全症原因遺伝子のレアバ
リエーションと骨粗鬆症との関係. 最新研究情報.
Ageing&Health, 25 (78), 4, 2016
53. 森聖二郎：カロリー制限は寿命を延長する可
能性はあるが骨は大丈夫か? 最新研究情報.
Ageing&Health, 25 (78), 4, 2016
54. 森聖二郎：生活習慣病診療における骨粗鬆症
への対応. だより(練馬区医師会発行), 第577
号(4月), 1-8, 2016
55. 森聖二郎：ウェルナー症候群の最新知見. 小
児科 **57**, 1113-1119, 2016
56. 森聖二郎：カルシウムの経口摂取のみでは骨
折抑制効果は期待できない? 最新研究情報.
Ageing&Health, 25 (79), 4, 2016
57. 森聖二郎：ADMAはサルコペニアのバイオマ

- ーカーにもなりうる？ 最新研究情報. **Aging&Health**, 25 (79), 4, 2016
58. 森聖二郎：血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか？ 最新研究情報. **Aging&Health**, 25 (80), 4, 2017
59. 森聖二郎：総合診療医に求める骨粗鬆症の診療, 内分泌専門医の立場から. **Gノート**, 4 (1), 101-107, 2017
60. 森聖二郎：低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. **Aging&Health**, 26 (81), 27, 2017
61. 森聖二郎：サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか？ 最新研究情報. **Aging&Health**, 26 (81), 27, 2017
62. 森聖二郎：老化細胞を死滅させると寿命が延長する？ 最新研究情報. **Aging&Health**, 26 (82), 2017, 印刷中
63. 森聖二郎：骨の老化. 老化と生体恒常性. **CLINICAL CALCIUM**, 27, 2017, 印刷中

●単行書, 報告書

1. 荒木 厚：高齢者の糖尿病（認知症を含む）. **糖尿病診療ガイドライン2016**. 編・著 日本糖尿病学会. 南江堂, 東京, pp411-446, 2016.
2. 荒木 厚：18. 高齢者の糖尿病管理. **内分泌代謝専門医ガイドブック**. 改訂第4版. 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章, 診断と治療社, 東京, pp425-426, 2016.
3. 荒木 厚：高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **糖尿病学2016**. 診断と治療社, 東京, pp111-119, 2016.
4. 荒木 厚：高齢者の糖尿病. **糖尿病の最新の治療2016-2018**. 羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一編, 南江堂, 東京, pp44-48, 2016.
5. 荒木 厚：サルコペニアと糖尿病. **最新医学別冊 診断と治療のABC**. サルコペニア. 小川純人(企画), 最新医学社, 東京, pp123-129, 2016.
6. 荒木 厚：生活習慣病とフレイル. **フレイルハンドブックーポケット版**. 荒井秀典(編), ライフサイエンス社, 東京, pp65-68, 2016.
7. 荒木 厚：糖尿病・代謝性疾患診療エキスパートのうつ病診療アプローチ. **生活習慣病に合併したうつ病を診る実地臨床医のためのうつ病診療Q&A**. 上島国利(監修), アルタ出版, 東京, pp28-31, 2016.
8. 荒木 厚：糖尿病患者への対応. **改訂2版在宅栄養管理**. 小野沢滋(編), 南山堂, 東京, pp247-255, 2016.
9. 荒木 厚：地域在住高齢者のストレス対処能力のSOC(Sence of Coherence)と関連する因子に

- 関する研究. **厚生労働科学研究委託費：長寿科学総合研究**. 住民との協同による介護予防のまちづくりの効果検証のための地域コントロールトライアル. pp105-114, 2016.
10. 荒木 厚：糖尿病. **高齢者の看護ケアーよくみる疾患、よく出会う問題**. 東京都健康長寿医療センター(監修), 学研メディカル秀潤社, 東京, pp40-47, 2016.
 11. 荒木 厚：糖尿病と認知症. **糖尿病におけるmultimorbidity**. 松岡健平(編), 南山堂, 東京, pp164-170, 2017.
 12. 森聖二郎：転倒. **すぐに使える高齢者総合診療ノート改訂第2版** (日本医事新報社)(大庭建三編集), 2017, 印刷中
 13. 森聖二郎：ウエルナー症候群に合併する骨粗鬆症の遺伝素因と環境因子との関わりについて. **平成28年度厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患等政策研究事業, 早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究**, 分担研究報告書

●学会発表

1. Araki A : Importance of frailty assessment in life-style disease in the Frailty Clinic. (Symposium 7) Clinical implication of sarcopenia and frailty. **2nd Asian Confereance for frailty and sarcopenia: Asian Aging Forum**. Nagoya, November 5, 2016.
2. Araki A : Frailty, cognitive impairment, and disruption of cerebral white matter network in patients with diabetes mellitus. Theme: Frailty and dementia—From its pathogenesis to prevention and treatment. **12th International Symposium of Geriatrics and Gerontology**. Nagoya, March 4, 2017.
3. 荒木 厚, 井藤英喜: 高齢者糖尿病とフレイル, 要介護—血糖コントロール目標をどのように考えるか? (会長特別企画S3日本糖尿病学会/日本老年医学会合同シンポジウム 高齢者の糖尿病治療をどうするか) **第59回日本糖尿病学会年次学術集会**. 京都, 5月20日, 2016.
4. 荒木 厚, 田村嘉章, 井藤英喜. The link between insulin resistance and sarcopenia or frailty. (シンポジウム **Energy metabolism, insulin resistance and sarcopenia-Clinical links and molecular mechanisms**). **第59回日本糖尿病学会年次学術集会**. 京都, 5月20日, 2016.
5. 荒木 厚: (教育講演) 高齢者の糖尿病治療—血糖コントロール目標の考え方. **日本老年医学**

- 会北海道地方会 第27回講演会および教育企画プログラム. 札幌, 6月4日, 2016.
6. 荒木 厚:(講演) 高齢者糖尿病の病態と治療. 平成28年度糖尿病・病態栄養セミナー. 日本病態栄養学会. 大阪, 6月5日, 2016.
 7. 荒木 厚:糖尿病ガイドライン(シンポジウム) どう生かす. 高齢者の生活習慣病ガイドライン. 第58回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月9日, 2016.
 8. 荒木 厚:(教育講演) 糖尿病患者における認知機能の評価と治療. 第31回日本糖尿病合併症学会. 仙台, 10月7日, 2016.
 9. 荒木 厚:(教育講演) 高齢者糖尿病の治療目標. 第51回糖尿病学の進歩. 京都, 2月18日, 2017.
 10. 荒木 厚:(シンポジウム) 高齢者糖尿病の特徴. 第51回糖尿病学の進歩. 京都, 2月18日, 2017.
 11. 荒木 厚:(教育講演) 糖尿病と認知症. 特定非営利活動法人国際生活習慣病フォーラム主催 第2回生活習慣病学術講演会. 東京, 9月3日, 2016.
 12. 荒木 厚:生活習慣病とフレイル—糖尿病を中心に.(シンポジウム) 心血管アンチエイジングにおけるフレイル対策. 脳心血管抗加齢研究会2016. 東京, 12月17日, 2016.
 13. 荒木 厚:(市民公開講座) フレイルを考慮した健康増進と高齢者医療. 第33回和漢医薬学会学術大会. 東京, 8月28日, 2016.
 14. 荒木 厚:(特別講演) 認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 平成28年度糖尿病神経障害を考える会. 東京, 9月24日, 2016.
 15. 荒木 厚:(栄養分科会 特別講演 I) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の栄養治療. 第55回全国自治体病院学会 in 富山. 富山, 10月21日, 2016.
 16. 荒木 厚:(指定講演) 認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. 日本糖尿病学会第54回東北地方会. 仙台, 11月12日, 2016.
 17. 荒木 厚:(教育講演) サルコペニアを伴う糖尿病の栄養管理. 第20回日本病態栄養学会年次学術集会. 京都, 1月14日, 2017.
 18. 荒木 厚:(ランチョンセミナー) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の薬物療法. 第54回日本糖尿病学会関東甲信越地方会. 横浜, 1月21日, 2017.
 19. 林登志雄、渡邊裕司、横手幸太郎、竹本稔、大類孝、荒木 厚、佐久間一郎、伊奈孝一郎、野村秀樹、野田光彦: 後期高齢者の心血管危険因子と治療—JCDMコホート研究よりみた非高齢者、前期高齢者との違い. (会長特別企画S3日本糖尿病学会/日本老年医学会合同シンポジウム 高齢者の糖尿病治療をどうするか) 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月20日, 2016.
 20. 服部孝二、林登志雄、伊奈孝一郎、野田光彦、横手幸太郎、竹本稔、能登洋、荒木 厚、葛谷雅文: 糖尿病血管合併症に対するインスリン治療と血圧の関与について. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月19日, 2016.
 21. 松永佐澄志、田中司朗、堀川千嘉、羽入修、荒木 厚、守屋達美、大橋靖雄、赤沼安夫、山田信博、曾根博仁: 糖尿病合併症発症に対する血糖、血圧、脂質の影響についての検討—JDCSサブ解析. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月19日, 2016.
 22. 山岡巧弥、田村嘉章、海野泰、南潮、小寺玲美、佐藤謙、坪井由紀、金原嘉之、千葉優子、森聖二郎、藤原佳典、井藤英喜、徳丸阿耶、櫻井孝、荒木 厚: 高齢糖尿病患者における血糖変動や体組成と大脳白質病変との関連. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月21日, 2016.
 23. 小寺玲美、千葉優子、吉村幸雄、田村嘉章、櫻井孝、梅垣宏行、井藤英喜、荒木 厚: 高齢糖尿病患者のビタミン・ミネラル摂取量低下は高次のADL低下と関連する. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月21日, 2016.
 24. 田中司朗、吉村幸雄、鎌田智恵美、川崎良、堀川千嘉、田中佐智子、大橋靖雄、荒木 厚、井藤英喜、赤沼安夫、山田信博、山下英俊、曾根博仁: 日本人2型糖尿病における野菜・果物摂取量と糖尿病網膜症および心血管疾患発症の関連—Japan Diabetes Complications Study. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月21日, 2016.
 25. 伊奈孝一郎、林登志雄、野田光彦、横手幸太郎、竹本稔、荒木 厚、渡邊裕司、大類孝: 糖尿病合併心血管病危険因子: II b型脂質異常症の年代別解析. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月20日, 2016.
 26. 鹿島田美奈子、今野真希、田村嘉章、千葉優子、荒木 厚: 高齢者を対象とした急性期病院での糖尿病啓発イベントの報告. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. 京都, 5月20日, 2016.
 27. 小寺玲美、千葉優子、吉村幸雄、田村嘉章、櫻井孝、梅垣宏行、井藤英喜、荒木 厚: 高齢糖尿病患者の栄養摂取と高次のADL障害数との関連について. 第58回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月8日, 2016.
 28. 石川讓治、杉江正光、田中旬、田村嘉章、千

- 葉優子、岩切理歌、砂川昌子、金丸晶子、荒木厚：フレイル外来受診者の特徴(1)-認知機能障害およびサルコペニアの有病率. **第58回日本老年医学会学術集会**. 金沢, 6月8日, 2016.
29. 鈴木宏幸、藤原佳典、石川譲治、田中旬、田村嘉章、千葉優子、金丸晶子、河合恒、大淵修一、荒木厚：フレイル外来受診者の特徴(2)-MoCA-Jによる地域在住高齢者との比較. **第58回日本老年医学会学術集会**. 金沢, 6月8日, 2016.
30. 周赫英、森聖二郎、山岡巧弥、小寺玲美、佐藤謙、坪井由紀、田村嘉章、千葉優子、荒木厚、井藤英喜：閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する遺伝子多型について. **第58回日本老年医学会学術集会**. 金沢, 6月8日, 2016.
31. 山岡巧弥、田村嘉章、佐藤謙、小寺玲美、坪井由紀、千葉優子、森聖二郎、藤原佳典、櫻井孝、荒木厚：高齢糖尿病患者においてGA/HbA1c比や皮下脂肪・橈骨骨密度は大脳白質病変と関連する. **第58回日本老年医学会学術集会**, 金沢, 6月9日, 2016.
32. 林登志雄、伊奈孝一郎、竹本稔、横手幸太郎、大類孝、荒木厚、渡邊裕司、野田光彦、佐久間一郎、野村秀樹：日本医療研究開発機構(AMED)「糖尿病の標準的治療の開発と均てん化に関する研究」を通じた高齢者糖尿病治療基準作成の試み. **第58回日本老年医学会学術集会**, 金沢, 6月9日, 2016.
33. 伊奈孝一郎、林登志雄、横手幸太郎、竹本稔、荒木厚、渡邊裕司、大類孝、葛谷雅文：糖尿病合併心血管病危険因子：IIb型脂質異常症の年代別解析. **第58回日本老年医学会学術集会**, 金沢, 6月9日, 2016.
34. 江尻愛美、荒木厚、河合恒、藤原佳典、吉田英世、平野浩彦、小山照幸、杉江正光、鈴木隆雄、大淵修一：地域高齢者における腰痛とSOC (Sense of Coherence) が抑うつ症状に及ぼす影響. **第58回日本老年医学会学術集会**, 金沢, 6月9日, 2016.
35. 高木美貴、小寺玲美、大熊彩子、山岡巧弥、田村嘉章、千葉優子、荒木厚、幸田俊一郎、仁科裕史、増田義重：腎機能低下、尿路感染、敗血症により化膿性脳室炎を認めた1例. **第64回日本老年医学会関東甲信越地方会**. 東京, 9月17日, 2016.
36. 山岡巧弥、田村嘉章、海野泰、南潮、小寺玲美、坪井由紀、千葉優子、森聖二郎、藤原佳典、徳丸阿耶、櫻井孝、荒木厚：(ワークシヨップ) 高齢糖尿病患者における大脳白質病変とうつの関連. **第31回日本糖尿病合併症学会**. 仙台, 10月8日, 2016.
37. 倉俣牧子、本田佳子、府川則子、荒木厚：慢性疾患を有する高齢患者における健康関連QOLと習慣的食事の関連性. **第20回日本病態栄養学会年次学術集会**. 京都, 1月14日, 2017.
38. 解良武士、河合恒、大淵修一、吉田英世、藤原佳典、平野浩彦、荒木厚、小山照幸、杉江正光、小島基永、中田晴美、鈴木隆雄：サルコペニア肥満とサルコペニアの心身機能の比較一傾向スコアマッチングによる検討. **第2回日本予防理学療法学会学術集会**, 札幌, 12月19日, 2016.
39. 河合恒、解良武士、大淵修一、吉田英世、藤原佳典、平野浩彦、井原一成、荒木厚、小山照幸、杉江正光、小島基永、中田晴美、鈴木隆雄：住民協働の介護予防推進に関する地域介入評価指標基準値. **第2回日本予防理学療法学会学術集会**, 札幌, 12月19日, 2016.
40. 森聖二郎、田中雅嗣、山岡巧弥、小寺玲美、佐藤謙、坪井由紀、田村嘉章、千葉優子、荒木厚、井藤英喜：閉経後骨粗鬆症患者ならびに地域住民においてサルコペニアに関わる遺伝子多型について. **第113回日本内科学会講演会**, 東京, 2016.4.16
41. 周赫英、森聖二郎、山岡巧弥、佐藤謙、坪井由紀、小寺玲美、田村嘉章、千葉優子、荒木厚、井藤英喜：閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する遺伝子多型について. **第59回日本老年医学会学術集会・総会**, 金沢, 2016.6.8
42. 沢辺元司、萩島創一、周赫英、森聖二郎、田中雅嗣、三重野牧子、新井富生、前田裕子、村松正明：喫煙関連腹部大動脈瘤の遺伝子セットエンリッチメント解析. **第59回日本老年医学会学術集会・総会**, 金沢, 2016.6.9
43. Zhou, H., Mori, S., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. Oral Presentation at the IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Singapore, 2016.11.5. *Osteoporos. Int.*, 27 (Suppl. 3): S703-S704, 2016.
44. 飯塚あい、鈴木宏幸、倉岡正高、内山愛子、長畑萌、小川将、村山幸子、藤原佳典：囲碁の習得が高齢者の認知機能に及ぼす影響-世代間交流プログラム「iGOこち」より. **第59回日本老年医学会総会**, 金沢, 2016.6.8-10
45. 飯塚あい、桜井良太、藤原佳典、鈴木宏幸、清野論、新開省二、石川譲治、田村嘉章、田中旬、千葉優子、金丸晶子、古田光、金田大太、荒木厚：フレイル外来受診者における抑うつ度と社会的側面の関連. **第27回日本疫学会学術総会**, 甲府, 2017. 1.25-27

46. 荒木 厚：(ランチョンセミナー座長)横野 浩一：高齢者糖尿病のトータルマネジメント. 第58回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月8日, 2016.
47. 荒木 厚：(ランチョンセミナー座長)北村忠弘：体重とグルカゴンに注目した糖尿病治療戦略. 日本糖尿病学会第54回東北地方会. 仙台, 11月12日, 2016.

●講演

1. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の薬物治療. 第17回札幌臨床糖尿病研究会. 札幌, 4月 2日, 2016.
2. 荒木 厚：(特別講演) フレイル、認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. 第47回京都糖尿病談話会. 京都, 4月 7日, 2016.
3. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第116回北丹医師会学術講演会. 京丹後市, 4月 12日, 2016.
4. 荒木 厚, 櫻井孝、横手幸太郎、横野浩一. 座談会「高齢者糖尿病のトータルマネジメント」東京, 4月 17日, 2016.
5. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第15回大牟田糖尿病セミナー. 大牟田市, 4月 22日, 2016.
6. 荒木 厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療. 第5回相楽糖尿病診療を考える会. 京都府相楽郡, 4月 23日, 2016.
7. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能と身体機能を考慮した高齢者のインスリン治療. 第5回富士吉田CDEの会. 山梨県南都留群, 5月 11日, 2016.
8. 荒木 厚：(座長) 太田嗣人：65歳から糖尿病治療戦略—肝機能とNAFLDの観点から. 糖尿病治療学術講演会：合併症予防を見据えた高齢者糖尿病治療戦略を考える. 東京, 5月25日, 2016.
9. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病の薬物治療—メトホルミンの有効かつ安全な使い方. 実地医家のための糖尿病診療. 大阪, 6月11日, 2016.
10. 荒木 厚：(特別講演) 認知症・フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第5回岡山西部地区生活習慣病セミナー. 岡山, 6月15日, 2016.
11. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. 地域連携交えた高齢者糖尿病治療講演会. 山口県, 柳井市, 6月17日, 2016.
12. 荒木 厚：認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. 糖尿病ライブ配信講演会. 東京, 6月21日, 2016.
13. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病におけるフレイル・認知症. 第二回あすなる会. 山口県, 宇部市, 6月22日, 2016.
14. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 第3回釜石医師会学術講演会兼第19回糖尿病対策推進会議講演会. 岩手県釜石市, 6月23日, 2016.
15. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者2型糖尿病における血糖管理—超高齢者社会の糖尿病治療は変わるのか. 板橋区医師会学術講演会. 東京, 6月28日, 2016.
16. 荒木 厚：認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. 第57回Web講演会. 東京, 6月29日, 2016.
17. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 飯田市医師会学術講演会. 長野県飯田市, 6月30日, 2016.
18. 荒木 厚：認知機能や身体機能を考慮した高齢者糖尿病の治療目標. 東京糖尿病治療フォーラム—糖尿病治療を再考する. 東京, 7月2日, 2016.
19. 荒木 厚：(特別講演) フレイルと認知症を考慮した高齢者糖尿病の療養指導. 第23回TTK糖尿病チーム医療研究会. 茨城県取手市, 7月5日, 2016.
20. 荒木 厚：フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者糖尿病の治療. 高齢者糖尿病フォーラム. 東京, 7月7日, 2016.
21. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やADLを考慮した高齢者の血糖コントロール目標. 第1回高齢者医療フォーラム. 神戸, 7月9日, 2016.
22. 荒木 厚：認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療. 渋川地区医師会学術講演会—癌と糖尿病治療スキルアップセミナー. 群馬県渋川市, 7月13日, 2016.
23. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能と身体機能を考慮した高齢者の血糖管理の考え方. 東京糖尿病先進治療研究会2016. 東京, 7月16日, 2016.
24. 荒木 厚：(総合座長) 城北SGLT2フォーラム. 東京, 7月19日, 2016.
25. 荒木 厚：(座長) 武地一：認知症の薬物療法の実際と非薬物的アプローチ. 老年医学セミナー. 東京, 7月21日, 2016.
26. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. 内分泌・糖尿病アカデミー. 埼玉県川越市, 7月28日, 2016.
27. 荒木 厚：高齢者糖尿病の新しい治療戦略. 2016老年医学サマーセミナー. 長野県北佐久郡, 7月30日, 2016.
28. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能や身体機能を考慮した高齢者のインスリン治療. 第14回大阪南インスリン治療フォーラム. 大阪, 8月6日,

- 2016.
29. 荒木 厚：(教育講演) 高齢者糖尿病患者への療養指導と看護の留意点。糖尿病療養指導士兵庫県看護研修会。第5回兵庫県糖尿病教育看護研修会。神戸，8月7日，2016。
 30. 荒木 厚：認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標。糖尿病インターネット講演会。東京，8月31日，2016。
 31. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病の血糖コントロール目標。第5回Clinical Diabetes Forum in Osaka。大阪，9月1日，2016。
 32. 荒木 厚：(特別講演座長) 森豊：SGLT2阻害薬を徹底解明—CGMから見えてきた新たな可能性。東京，9月6日，2016。
 33. 荒木 厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。長崎糖尿病チーム医療セミナー—第4回高齢者糖尿病を考える。長崎，9月7日，2016。
 34. 荒木 厚：認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療。KISSEI DIABETES CONFERENCE 2016 in Osaka。大阪，9月24日，2016。
 35. 荒木 厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。第4回九州老年心血管研究会。福岡，9月28日，2016。
 36. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病におけるフレイル。第4回高齢者糖尿病研究会。愛媛県松山市，9月30日，2016。
 37. 荒木 厚：認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療。第18回東京CKD看護を学ぶ会。東京，10月2日，2016。
 38. 荒木 厚：(特別講演) フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。第30回糖尿病チーム医療の為の懇話会。神奈川県川崎市，10月6日，2016。
 39. 荒木 厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。Incretin Symposium in Tokyo。東京，10月11日，2016。
 40. 荒木 厚：高齢者糖尿病におけるサルコペニア、フレイル。第14回神奈川県糖尿病療養指導研究会セミナー。横浜，10月16日，2016。
 41. 荒木 厚：(特別講演座長) 犬飼浩一：私ならこう使う—SGLT2阻害薬の処方ポイント。城北地区糖尿病懇話会Diabetes Expert Update。東京，10月19日，2016。
 42. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標。Diabetes Symposium 2016。東京，10月22日，2016。
 43. 荒木 厚、横手幸太郎、小川純人、清野豊。座談会「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標を日常診療に活かす」東京，10月24日，2016。
 44. 荒木 厚：認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。美波セミナー in Kawasaki。神奈川県川崎市，10月26日，2016。
 45. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やADLを考慮した高齢者の血糖コントロール目標。第21回糖尿病臨床カンファレンス。鳥取，10月27日，2016。
 46. 荒木 厚：実録！高齢者糖尿病の薬物療法—新たなガイドラインの使い方。東京都西北部糖尿病医療連携推進検討会 板橋区医師会講演会。東京，10月28日，2016。
 47. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療。第6回峡東地区糖尿病研究会。山梨県笛吹市，11月1日，2016。
 48. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。奥州糖尿病と認知症を考える会講演会。岩手県奥州市，11月8日，2016。
 49. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やADLを考慮した高齢者の血糖コントロール目標。第13回春日部糖尿病懇話会。埼玉県春日部市，11月10日，2016。
 50. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療。美波セミナー in 多摩。武蔵野市，11月16日，2016。
 51. 荒木 厚：フレイル対策は健康長寿の道しるべ。第144回老年学・老年医学公開講座 サルコペニア・フレイル予防法—筋力低下と虚弱を防ぐ。東京，11月16日，2016。
 52. 荒木 厚：(座長) 横手幸太郎：高齢者糖尿病の薬物治療と包括的管理。城北地区講演会「高齢者の嚥下障害と糖尿病」東京，11月18日，2016。
 53. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やADLを考慮した高齢者の血糖コントロール目標。糖尿病治療の目指すものは in 宮崎。宮崎，11月24日，2016。
 54. 荒木 厚：(特別講演) 認知症とフレイルを考慮した高齢者の糖尿病治療。第5回みやぎ高齢者薬物療法治療研究会。宮城県仙台市，11月25日，2016。
 55. 荒木 厚：(特別講演) 認知症やADLを考慮した高齢者の血糖コントロール目標。徳島県糖尿病トータルケア懇話会2016。徳島，11月30日，2016。
 56. 荒木 厚：(特別講演) 認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病治療。神戸糖尿病・内分泌連携セミナー。神戸，12月1日，2016。
 57. 荒木 厚：認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標。地域包括ケアを見据えた高齢者医療—予防と治療。大阪，12月3日，2016。
 58. 荒木 厚：(特別講演) 高齢者糖尿病と老年症

- 候群. **Diabetes Expert Meeting in たま**. 三鷹市, 12月6日, 2016.
59. 荒木 厚:糖尿病, 脂質異常症, 甲状腺疾患. **杏林大学医学部加齢医学講座M4講義**. 東京, 12月8日, 2016.
60. 荒木 厚:認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **横浜の高齢者医療を考える会**. 横浜, 12月13日, 2016.
61. 荒木 厚:(特別講演座長)上月正博:腎臓リハビリテーションの効果と将来展望—運動制限から運動療法へ. **老年医学セミナー**. 東京, 12月13日, 2016.
62. 荒木 厚:(特別講演)認知症を考慮した高齢者の糖尿病治療. **糖尿病治療Update Seminar**. 群馬県前橋市, 1月12日, 2017.
63. 荒木 厚:ADLと認知機能を考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **静岡糖尿病講演会**. 静岡, 1月27日, 2017.
64. 荒木 厚:認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の療養指導. **第4回九州慢性看護実践セミナー**. 福岡, 1月28日, 2017.
65. 荒木 厚:(特別講演)認知機能低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. **第6回健康寿命研究会**. 長野県松本市, 2月3日, 2017.
66. 荒木 厚:(特別講演)高齢者糖尿病と医療連携—高齢者総合機能評価の重要性. **区中央部糖尿病医療連携検討会主催医療従事者研修会**. 東京, 2月4日, 2017.
67. 荒木 厚:(特別講演)高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **北区糖尿病医療連携ネットワーク事業講演会**. 東京, 2月8日, 2017.
68. 荒木 厚:(特別講演)認知機能やADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **第2回Total Care for Diabetes in FUKUI**. 福井, 2月9日, 2017.
69. 荒木 厚:(特別講演)認知症を考慮した高齢者糖尿病の治療. **第14回釧路糖尿病看護研究会**. 釧路, 2月11日, 2017.
70. 荒木 厚:認知症やフレイルを考慮した高齢者の栄養治療. **第8回山口大学NST講習会**. 山口県宇部市, 2月14日, 2017.
71. 荒木 厚:認知機能とADLを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **高齢者糖尿病セミナー**. 埼玉県坂戸市, 2月21日, 2017.
72. 荒木 厚:認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **第24回鹿児島糖尿病カンファレンス**. 鹿児島, 2月22日, 2017.
73. 荒木 厚:糖尿病と老年症候群. **一般社団法人東京臨床糖尿病医会第154回例会**. 東京, 2月25日, 2017.
74. 荒木 厚:(特別講演)認知症とADL低下を考慮した高齢者糖尿病の治療. **第4回岡崎糖尿病合併症フォーラム:老年症候群**. 愛知県岡崎市, 3月3日, 2017.
75. 荒木 厚:(Web講演)高齢者糖尿病の血糖コントロール. **糖尿病全国Web講演会**. 東京, 3月8日, 2017.
76. 荒木 厚:(特別講演)ADLと認知機能を考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **第18回兵庫県糖尿病トータルケア研究会**. 神戸, 3月11日, 2017.
77. 荒木 厚:認知機能とADLを考慮した高齢者糖尿病の薬物療法と血糖コントロール目標. **高齢者医療を考える会**. 茨城県水戸市, 3月14日, 2017.
78. 荒木 厚:高齢者糖尿病における血糖コントロール目標の考え方. **練馬区医師会・練馬区糖尿病医療連携ネットワーク推進講演会**. 東京, 3月16日, 2017.
79. 荒木 厚:(特別講演)認知症やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **美波セミナー in 山梨**. 山梨, 3月17日, 2017.
80. 荒木 厚:(特別講演)フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療. **石巻フレイルと糖尿病を考える会**. 宮城県石巻市, 3月21日, 2017.
81. 荒木 厚:(Web講演)認知症とフレイルを考慮した高齢者糖尿病の血糖コントロール目標. **Kowa Web Conference**. 東京, 3月24日, 2017.
82. 荒木 厚:(特別講演)フレイルを考慮した高齢者糖尿病の治療—スポーツ医の役割とは. **荏原医師会・城南地区スポーツ医会講演会**. 東京, 3月25日, 2017.
83. 荒木 厚, 秋下雅弘, 佐藤幸人, 荒井秀典.(座談会)フレイルと各疾患およびポリファーマシーとの関連. 東京, 3月31日, 2017.
84. 千葉優子:骨粗鬆症の基礎知識と最新の予防と治療について **平成28年度女性健康セミナー講座 板橋区保健所 地下講堂** 4月20日 2016
85. 千葉優子:糖尿病と認知機能低下との関係 **第6回 健康長寿リハビリテーション講演会 脳の老化への挑戦!!** 東京都健康長寿医療センター 4月23日 2016
86. 千葉優子:腎機能障害を合併した高齢者糖尿病の薬物治療 **学術講演会 ~老年医学セミナー~** 東京都健康長寿医療センター 12月15日 2016
87. 田村嘉章:「高齢者の嚥下障害と認知症」座長 **城北地区講演会**.東京, 11月18日, 2016.
88. 田村嘉章:「高齢者糖尿病の薬物療法」**東京臨**

- 床糖尿病医会第154回例会. 東京, 2月25日, 2017.
89. 森聖二郎:「生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応とFRAX」**豊島区医師会青年部会講演会～骨粗鬆症セミナー～**平成28年4月15日(東京)
 90. 森聖二郎: Women's Health Conference～骨粗鬆症のミカタ～「生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応」平成28年5月30日(東京)
 91. 森聖二郎:「骨粗しょう症にならないために」**横浜市港北区生涯学習講座**. 平成28年9月29日(横浜)
 92. 森聖二郎:「臨床医学各論: 栄養障害と肥満、メタボリック症候群」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年4月15日(東京)
 93. 森聖二郎:「臨床医学各論: 糖尿病の発症機序」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年4月22日(東京)
 94. 森聖二郎:「臨床医学各論: 糖尿病と合併症」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年5月6日(東京)
 95. 森聖二郎:「臨床医学各論: 脂質代謝と脂質代謝異常症」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年5月13日(東京)
 96. 森聖二郎:「臨床医学各論: 加齢性疾患、骨粗鬆症」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年5月27日(東京)
 97. 森聖二郎:「臨床医学各論: 内分泌疾患」**国立大学法人お茶の水女子大学学生講義**. 平成28年6月3日(東京)
 98. 森聖二郎:「甲状腺疾患と骨粗鬆症」**板橋看護専門学校講義**. 平成28年11月11日(東京)
 99. 森聖二郎:「糖尿病と高脂血症」**板橋看護専門学校講義**. 平成28年11月25日(東京)
 100. 荒木 厚: (紹介記事) 高齢者糖尿病の目標HbA1c値—認知機能やADLの評価をどうする? **NIKKEI MEDICAL 2016年8月号特別版**: 20-21, 2016.
 101. 荒木 厚: (紹介記事) 高齢者糖尿病とフレイル、世介護—血糖コントロール目標をどのように考えるか? 第59回日本糖尿病学会年次学術集会. **DITN460**: 4, 2016.
 102. 荒木 厚: 身体機能や認知機能などの高齢者の個別性を考慮した糖尿病治療. 東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科. 日本病院の実力. **夕刊フジ**5月25日版, 13, 2016.
 103. 荒木 厚: 血糖値の目標「高めに」高齢者の糖尿病. **夕刊讀賣新聞** 6月22日版, 10, 2016.
 104. 荒木 厚: 血糖管理低すぎも要注意. **朝日新聞** 7月6日版, 32, 2016.

循環器内科

●雑誌論文

1. Impact of age on left ventricular geometry and diastolic function in elderly patients with treated hypertension (鳥羽梓弓、假屋太郎、青山里恵、石山泰三、坪光雄介、武田和大、藤本肇、下門顕太郎、原田和昌) *Blood Press*. 2017 Mar 22;1-8. doi: 10.1080/08037051.2017.1306422.
2. Ishikawa Y, Ishikawa J, Ishikawa S, Kajii E. Progression from prehypertension to hypertension and risk of cardiovascular disease. *Journal of Epidemiology* 2017; 27: 8-13
3. Ishikawa J, Yoshino Y, Watanabe S, Harada K. Reduction in central blood pressure after bathing in hot water. *Blood Press Monit*. 2016; 21: 80-86
4. Ishikawa J, Watanabe S, Harada K. Awakening Blood Pressure Rise in a Patient with Spinal Cord Injury. *Am J Case Rep*. 2016; 20: 177-178
5. Satio Y, Ishikawa J, Harada K. Postprandial and orthostatic hypotension treated by sitagliptin in a patient with dementia with Lewy body. *Am J Case Rep*. 2016;17:887-893
6. Hoshida S, Yano Y, Haimoto H, Yamagiwa K, Uchiba K, Nagasaka S, Matsui Y, Nakamura A, Fukutomi M, Eguchi K, Ishikawa J, Kario K; J-HOP Study Group. Morning and Evening Home Blood Pressure and Risks of Incident Stroke and Coronary Artery Disease in the Japanese General Practice Population: The Japan Morning Surge-Home Blood Pressure Study. *Hypertension*. 2016 Jul;68(1):54-61
7. Schwartz JE, Burg MM, Shimbo D, Broderick JE, Stone AA, Ishikawa J, Sloan R, Yurgel T, Grossman S, Pickering TG. Clinic Blood Pressure Underestimates Ambulatory Blood Pressure in an Untreated Employer-Based US Population: Results From the Masked Hypertension Study. *Circulation* 2016; 134: 1794-1807.
8. Rie Aoyama, Hitoshi Takano, Keishi Suzuki, Yoshiaki Kubota, Keisuke Inui, Yukichi Tokita, Wataru Shimizu The impact of blood pressure variability on coronary plaque vulnerability in stable angina: an analysis using optical coherence tomography. *Coronary Artery Disease*. 2017; 28(3): 225-231.
9. Shiraishi Y, Kohsaka S, Harada K, Miyamoto

- T, Tanimoto S, Iida K, Sakai T, Miyazaki T, Yagawa M, Matsushita K, Furihata S, Sato N, Fukuda K, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M; Tokyo CCU Network Scientific Committee.: Correlation of Pre- and In-Hospital Systolic Blood Pressure in Acute Heart Failure Patients and the Prognostic Implications - Report From the Tokyo Cardiac Care Unit Network Emergency Medical Service Database. *Circ J.* 2016;80(12):2473-2481.
10. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H. Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Jan 26. doi: 10.1111/ggi.12945.
 11. Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K. Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer: A case report. *Geriatr Gerontol Int.* 2016;16(10):1171-1172.
 12. Tei Cl, Imamura T, Kinugawa K, Inoue T, Masuyama T, Inoue H, Noike H, Muramatsu T, Takeishi Y, Saku K, Harada K, Daida H, Kobayashi Y, Hagiwara N, Nagayama M, Momomura S, Yonezawa K, Ito H, Gojo S, Akaishi M, Miyata M, Ohishi M; WAON-CHF Study Investigators. Waon Therapy for Managing Chronic Heart Failure - Results From a Multicenter Prospective Randomized WAON-CHF Study. *Circ J.* 2016;80(4):827-34.
 13. 弓倉 整, 水野 重樹, 大野 安実, 野村 周三, 三浦 直久, 山口 武兼, 中島 英樹, 畑 明宏, 金丸 和富, 原田 和昌, 畑中 裕己, 上妻 謙, 須磨 健, 平山 篤志: 新規経口抗凝固薬により心原性脳塞栓は減少したか. *日本医師会雑誌* 2016;145:559-564.
 14. 西村 隆, 川田 光弘, 村山 繁雄, 中野 雄太, 関 敦子, 原田 和昌, 許 俊鋭: 東京都健康長寿医療センターCPC: 肺活量が心移植適応条件を満たさないため体外式から植込み型補助人工心臓に移行できず, 敗血症で死亡した肢体型筋ジストロフィー症例. *内科*2016; 118(4):804-812.
 15. 杉原 毅彦, 松本 拓実, 恵島 将, 常吉 沙帆里, 徳丸 阿耶, 小山 照幸, 松田 陽子, 藤ヶ崎 純子, 原田 和昌, 加藤 貴行, 東京都健康長寿医療センターCPC: Conference Room 不明熱と腎障害, 意識障害を呈した70歳代男性の1例. *内科*2016; 118(2):285-297.
 16. 宮本 貴庸, 原田 和昌, 酒井 哲郎, 佐藤 直樹, 香坂 俊, 飯田 圭, 谷本 周三, 矢川 真弓子, 宮崎 哲朗, 白石 泰之, 長尾 建, 高山 守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会心不全班: 急性心不全における心房細動の合併率と短期予後に対する影響. *ICUとCCU* 2016;40巻別冊:S59-S62.
 17. 藤本 肇, 小宮山 浩太, 及川 恵子, 朴沢 英成, 原田 和昌, 中村 正人, 代田 浩之, 山本 剛, 長尾 建, 高山 守正, 東京都CCUネットワーク学術委員会高齢非ST上昇型心筋梗塞患者に対する血行再建と短期予後の動向 東京都CCUネットワークコホート研究. *ICUとCCU* 2016;40巻別冊:S35-S36.
 18. 原田 和昌: 高齢高血圧患者の治療戦略SPRINTサブ解析を踏まえて. *練馬区医師会だより* 2017;588:18-27.
 19. 弓倉 整, 水野 重樹, 大野 安実, 野村 周三, 三浦 直久, 山口 武兼, 中島 英樹, 畑 明宏, 金丸 和富, 石川 譲治, 原田 和昌, 畑中 裕己, 上妻 謙, 須磨 健, 奥村 恭男, 平山 篤志: 東京都板橋区における脳卒中と抗凝固薬の関係. *日本医師会雑誌*2017;145:2626-2631.
 20. 杉江 正光. 医療・介護・健康を巡る周辺サービス産業について. *技術と経済(JATES)* 598: 1-16, 2016(12)
 21. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H. Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. *Geriatr Gerontol Int.* 2017 Jan 26. (Corresponding author: Sugie M)
- 学会・研究会発表
1. 原田和昌: シンポジウム血圧変動スペシャル血圧変動性—ハイリスク患者の特徴と臨床的意義. 心不全(ステージAからC)と夜間非降圧型との関係. 第5回臨床高血圧フォーラム(東京) 2016.5.15
 2. K. Harada, T. Sakai, N. Sato, S. Kohsaka, Y. Shiraishi, K. Iida, T. Miyamoto, S. Tanimoto, K. Nagao, M. Takayama.: Hyperuricemia is a determinant of mortality in heart failure patients irrespectively of age, ejection fraction, or renal function. *ESC Heart Failure* 2016 (フイレンツェ) 2016.5.24
 3. M Sugie, K Harada, M Nara, H Fujimoto, T Takahashi, S Kyo, H Itoh.: Relationship between skeletal muscle mass and cardiac

- function during exercise in chronically ill older adults. ESC Heart Failure 2016 (フィレンツェ) 2016.5.22
4. 原田和昌：ディベートセッション「増加する高齢者心不全の再発予防」 CKD合併の高齢者心不全ではRAAS阻害薬を中止/減量すべき (Con) 第58回日本老年医学会学術集会 (金沢) 2016.6.9
 5. 原田和昌：合同シンポジウム 心疾患の一次予防・二次予防を考える。心疾患予防のための血圧管理。第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 (東京) 2016.7.17
 6. K. Harada, S. Futami, A. Suzuki, A. Morozumi, Y. Saito, C. Jubishi, T. Okawa, Y. Nemoto, M. Sugie, J. Tanaka, T. Ishiyama, J. Ishikawa, K. Takeda, Y. Tsubokou, H. Fujimoto.: Heart failure as a cause of a cerebral infarction without atrial fibrillation; analysis from 2472 autopsy cases. ESC Congress 2016 (ローマ) 2016.8.30
 7. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 高橋哲也, 大淵修一, 小山照幸, 藤本肇, 許俊鋭, 井藤英喜：シンポジウム9 高齢者frailtyをどう評価し実臨床で生かすか。フレイルと心機能。第64回日本心臓病学会学術集会 (東京) 2016.9.24
 8. 原田和昌：シンポジウム 高齢者高血圧の病態と治療。1度高血圧の超高齢者は剖検で心筋梗塞や脳梗塞を有している：連続剖検3100例から解析。第39回日本高血圧学会総会 (仙台) 2016.9.30
 9. 原田和昌：シンポジウム 高齢者心不全の治療と限界。高齢者心不全の治療は若年者の心不全と同じでよいか。第20回日本心不全学会学術集会 (札幌) 2016.10.7
 10. 田中甸, 原田和昌：Low body weight determines frailty in the elderly patients with atrial fibrillation and heart failure. 第81回日本循環器学会学術集会 シンポジウム (金沢) 2017.3.17
 11. 鳥羽梓弓、石川譲治、原田和昌 Orthostatic hypotension is associated with reduced arterial compliance in elderly hypertensives 日本循環器学会 2017年3月19日
 12. 石川譲治、山中祐子、渡辺慎太郎、田中甸、原田和昌 高血圧患者における非特異的ST-T変化と左室global longitudinal strainの関連について 日本超音波医学会第89回学術集会、2016年5月28日、京都
 13. 石川譲治、杉江正光、田中甸、田村嘉章、千葉優子、岩切理歌、砂川昌子、金丸晶子、荒木厚 フレイル外来受診者の特徴 (1) -認知機能障害およびサルコペニアの有病率- 日本老年医学会学術集会、2016年6月8日、金沢
 14. 鈴木歩、石川譲治、二見崇太郎、両角愛、斎藤義弘、根本佳子、大川庭熙、十菱千尋、杉江正光、鳥羽梓弓、田中甸、石山泰三、武田和大、坪光雄介、藤本肇、原田和昌 遅発性ステント血栓症から心破裂に至ったが、保存的加療により救命し得た一例 第242回日本循環器病学会関東甲信越地方会2016年12月3日、東京
 15. Futami, S, J, Arima Y, Ishikawa J, Harada K. Effect of Oxycodone Subcutaneous Injection to 3 Patients Who Suffer from Severe Aortic Stenosis with End-Stage Heart Failure 20th Annual Scientific Meeting of Japanese Heart Failure Society, Oct 18, 2018, Sapporo.
 16. 鈴木宏幸、藤原佳典、石川譲治、田中甸、田村嘉章、千葉優子、金丸晶子、河合恒、大淵修一、荒木厚 フレイル外来受信者の特徴 MoCA-Jによる地域在住高齢者との比較 日本老年医学会学術集会、2016年6月8日 金沢
 17. Ishikawa J, Futami S, Yamanaka Y, Watanabe S, Harada K. Non-specific ST-T change in electrocardiogram is associated with global longitudinal strain in hypertensive patients. Annual Scientific Meeting of American Society of Hypertension, May 15, 2016, New York, USA
 18. Joji Ishikawa, Ayumi Toba, Yuko Yamanaka, Shintaro Watanabe, and Kazumasa Harada Gender-adjustment and cutoff levels of Cornell product in electrocardiogram among Japanese hypertensive patients, International Society of Hypertension, Sep 27, 2016, Seoul, Korea
 19. Ayumi Toba, Joji Ishikawa, Kazumasa Harada. Orthostatic hypotension was determined by arterial compliance, International Society of Hypertension, Sep 26th, 2016, Seoul, Korea
 20. Hirose H, Ishikawa J, Ishikawa S. Premature ventricular complexes on ECG and risk of cardiac death in subjects with left ventricular hypertrophy: JMS Cohort Study. International Society of Hypertension, Sep 26th, 2016, Seoul, Korea
 21. Atsushi Araki, Yoshiaki Tamura, Yoshinori Fujiwara, Jun Tanaka, Yuko Chiba, Joji Ishikawa. Importance of frailty assessment in life-style disease in the Frailty Clinic. Asia. Second Asian Conference for Frail and Sarcopenia Nov. 5, 2016, Nagoya
 22. 二見崇太郎、石川譲治、西村誠、田中甸、坪

- 光雄介、武田和大、藤本肇、原田和昌 不定愁訴による頻回の救急外来受診を契機として肝内門脈シャントによる高アンモニア血症の診断に至った1例 第65回日本老年医学会関東甲信越地方会、2017年3月11日、新潟
23. Ishikawa J, Hirose H, Ishikawa S. Non-specific ST-T change in electrocardiogram and the risk of stroke event in a Japanese general population. The 81st Annual Meeting of Japanese Society of Cardiology, Kanazawa, March 2017
 24. 石川譲治 高齢者の循環器疾患 特徴と予防・管理 第11回健康長寿ガイドライン検討会、東京都健康長寿医療センター研究所 2017/2/10
 25. Hajime Fujimoto, Kohta Komiyama, Keiko Oikawa, Kazumasa Harada, Hiroyuki Daida, Masato Nakamura, Takeshi Yamamoto, Ken Nagao, Morimasa Takayama 'Recent Trend of Intensive Care Treatment of the Very Elderly Unstable Angina Pectoris Patients Tokyo CCU Network Cohort Analysis.' The 81st Annual Meeting of Japanese Society of Cardiology, Kanazawa, March 2017
 26. Kohta Komiyama, Hajime Fujimoto, Keiko Oikawa, Kazumasa Harada, Hiroyuki Daida, Masato Nakamura, Takeshi Yamamoto, Ken Nagao, Morimasa Takayama 'Tokyo CCU-Network Score is useful to predict in-hospital mortality of non-ST segment elevation myocardial infarction' 'The 81st Annual Meeting of Japanese Society of Cardiology, Kanazawa, March 2017
 27. Kohta Komiyama, Hajime Fujimoto, Keiko Oikawa, Kazumasa Harada, Hiroyuki Daida, Masato Nakamura, Takeshi Yamamoto, Ken Nagao, Morimasa Takayama 'In-hospital Mortality Analysis in Japanese Acute Coronary Syndrome from Tokyo CCU Network Database; Applicability of the GRACE Score.' The 81st Annual Meeting of Japanese Society of Cardiology, Kanazawa, April 2016
 28. 藤本 肇, 小宮山浩太, 及川恵子, 朴沢英成, 原田和昌, 中村正人, 代打浩之, 山本剛, 長尾健, 高山守正 「救急要請された冠攣縮性狭心症発作の日内分布についての検討—東京都CCUネットワーク・コホート研究—」 第64回日本心臓病学会学術集会2016年9月24日 東京
 29. 青山里恵、高野仁司、小林靖弘、北村光信、浅井邦也、汲田信一郎、清水 渉 演題：'Evaluation of Myocardial Glucose Metabolism in Hypertrophic Cardiomyopathy by 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography: Impact of Alcohol Septal Ablation Therapy' American College of Cardiology 65th Annual Scientific Session (Chicago), 2016.4.4
 30. 三室嶺、青山里恵、宮國知世、小野寺健太、高橋健太、吉永綾、泉佑樹、時田祐吉、吉川雅智、岩崎雄樹、清水渉 結節性痒疹への自己搔爬から感染性心内膜炎を発症した1例 第240回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2016.6.4
 31. 青山里恵、高野仁司、三軒豪仁、久保田芳明、乾恵輔、北村光信、浅井邦也、清水 渉 演題：The efficacy and the safety of percutaneous septal myocardial ablation (PTSMA) procedure for Hypertrophic cardiomyopathy (HCM) with mid-ventricular obstruction (MVO) 第25回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (東京), 2016.7.8
 32. 青山里恵、塚田弥生、小野寺健太、久保田芳明、村井綱児、時田祐吉、浅井邦也、清水 渉、真鍋葉子、田中旬、原田和昌 演題：The Efficacy of Tolvaptan on Dasatinib induced Pleural Effusions in Patients with Chronic Myelogenous Leukemia 第20回日本心不全学会学術集会 (札幌), 2016.10.7
 33. 青山里恵、高野仁司、三軒豪仁、北村光信、時田祐吉、浅井邦也、清水 渉 演題：孤立性右胸心及び肥大型心筋症による左室流出路狭窄に対してPTSMAを施行した一例 第48回日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (東京), 2016.10.15
 34. 青山里恵、高野仁司、三軒豪仁、北村光信、時田祐吉、浅井邦也、清水 渉 孤立性右胸心及び肥大型心筋症による左室流出路狭窄に対してPTSMAを施行した一例 第4回HOCCMフォーラム (東京), 2016.10.29
 35. 青山里恵、高野仁司、小林靖弘、北村光信、浅井邦也、汲田信一郎、清水 渉 演題：Clinical significance of the assessment of myocardial glucose metabolism using 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography in patients with hypertrophic cardiomyopathy 第81回日本循環器学会学術集会シンポジウム (金沢), 2017. 3. 18.
 36. 大川庭熙、二見崇太郎、鈴木 歩、両角 愛、齋藤義弘、根本佳子、十菱千尋、杉江正光、田中 旬、石山泰三、石川譲治、武田和大、坪光雄介、藤本 肇、原田和昌 「右冠動脈に対するPCI施行後、左房内腫瘍の出現と自然消失を認めた一例」 第243回日本循環器学会関東甲信

- 越地方会 2017年2月
37. 根本佳子、二見崇太郎、鈴木 歩、両角 愛、齋藤義弘、大川庭熙、十菱千尋、杉江正光、田中 旬、石山泰三、石川譲治、武田和大、坪光雄介、藤本 肇、原田和昌 「炎症性大動脈瘤と急性冠症候群を繰り返し発症した高齢者の一例」 第241回日本循環器学会関東甲信越地方会 2016年9月
 38. 大川庭熙、二見崇太郎、鈴木 歩、両角 愛、齋藤義弘、根本佳子、十菱千尋、杉江正光、田中 旬、石山泰三、石川譲治、武田和大、坪光雄介、藤本 肇、原田和昌 「徐脈に起因する心室頻拍にペースメーカー治療が著効し、さらに心アミロイドーシス診断に至った高齢者の一例」 第240回日本循環器学会関東甲信越地方会 2016年6月
 39. 二見崇太郎、大川庭熙、鈴木 歩、両角 愛、齋藤義弘、根本佳子、十菱千尋、杉江正光、田中 旬、石山泰三、石川譲治、武田和大、坪光雄介、藤本 肇、原田和昌 ‘Effect of oxycodone subcutaneous injection to 3 patients who suffered from severe aortic stenosis-induced end-stage heart failure’ 第20回心不全学会 2016年10月
 40. 二見崇太郎、大川庭熙、鈴木 歩、両角 愛、齋藤義弘、根本佳子、十菱千尋、杉江正光、田中 旬、石山泰三、石川譲治、武田和大、坪光雄介、藤本 肇、原田和昌 『不定愁訴による頻回の救急外来受診を契機として肝内門脈シャントによる高アンモニア血症の診断に至った右室流出路狭窄の1例』第65回日本老年医学会関東甲信越地方会 YIA候補演題 2016年3月新潟
 41. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Fujimoto H, Kyo S, Itoh H Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in chronically ill older adults, European Society of Cardiology 2016, Firenze, 5月22日, 2016.
 42. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本肇, 大瀨修一, 金経憲, 小山照幸, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題)「地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連」, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 6月9日, 2016.
 43. 杉江 正光, 原田 和昌, 奈良 毬那, 高橋 哲也, 大瀨 修一, 小山 照幸, 藤本 肇, 許 俊鋭, 井藤 英喜: (ビデオセッション) ケーススタディ 心臓リハビリテーションの現場から, 「維持期・生活期に対する東京都健康長寿医療センターの取り組み」 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会, 東京, 7月16日, 2016.
 44. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本肇, 大瀨修一, 金経憲, 小山照幸, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題)「地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連」 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会, 東京, 7月17日, 2016.
 45. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本肇, 大瀨修一, 金経憲, 小山照幸, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜: (一般演題)「地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連」 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会, 東京, 7月17日, 2016.
 46. 杉江 正光, 原田 和昌, 奈良 毬那, 高橋 哲也, 大瀨 修一, 小山 照幸, 藤本 肇, 許 俊鋭, 井藤 英喜: (シンポジウム 9) 高齢者 frailty をどう評価し、実臨床で生かすか, 「フレイルと心機能」, 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 9月24日, 2016.
 47. 杉江 正光, 原田 和昌, 田中 啓介, 高橋 哲也, 奈良 毬那, 大西 達夫, 中村 彰吾, 許 俊鋭, 井藤 英喜: (一般演題)「超高齢社会に寄与する医療機関の在り方を模索した当センターの健康寿命延伸事業の紹介 第3報 ～病院収支と社会保障費抑制効果～」 第55回全国自治体病院学会学術集会, 富山, 10月21日, 2016.
- 講師等院外活動 (講演・放送等)
1. 原田和昌: - 高血圧 - . 第13回メトロポリタン循環器内科研修会連絡会 (東京) 2016.4.16
 2. 原田和昌: 脳心血管イベントを考慮した糖尿病治療. Network Meeting in 川越 (埼玉) 2016.5.12
 3. 原田和昌: 心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. KYOWA KIRIN seminar (福井) 2016.5.17
 4. 原田和昌: 超・健康百寿者の秘密: 103歳でひとり暮らしの超元気おばあちゃんに密着! 「脳」、「血管」、「腸内フローラ」…3つの若さの秘密を探るべく3人の名医が超・健康百寿者の生活を徹底分析! たけしの健康エンターテインメントみんなの家庭の医学 テレビ朝日 2016.5.17
 5. 原田和昌: 心血管イベントを考慮した糖尿病治療. CV & Diabetes Forum in Gunma (群馬) 2016.6.1
 6. 原田和昌: 循環器専門医からみた ω 3脂肪酸製剤への期待. 板橋区医師会循環器医会 (東京) 2016.6.13
 7. 原田和昌: 高齢者心不全におけるサムスカの有用性. Nagano Heart Failure Meeting (長野) 2016.6.14

8. 原田和昌：実臨床でのNOACの選択. 城北地区Expert Meeting (東京) 2016.6.15
9. 原田和昌：心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. 江津市医師会学術講演会 (島根) 2016.6.21
10. 原田和昌：虚血性心疾患・心不全—心血管イベントを考慮した薬物療法—. 生活習慣病講演会 (埼玉) 2016.6.24
11. 原田和昌：高齢者の抗血栓療法を再考する. Stroke Forum in 城東 (東京) 2016.7.22
12. 原田和昌：高齢者心疾患の最新治療. 東京都健康長寿医療センター高齢医学セミナー2016 2016.7.23
13. 原田和昌：新たに見つめ直す高齢者高血圧治療. 高血圧学術講演会—最適な血圧管理を考える— (福岡) 2016.7.24
14. 原田和昌：高齢者AFにおける低体重とフレイルを考える. 心房細動Webセミナー：高齢者AFのトータルケア (東京) 2016.7.26
15. 原田和昌：心血管イベントを抑制する糖尿病治療とは. 第8回城北循環器懇話会 (東京) 2016.7.28
16. 原田和昌：8月こそチャンス！今すぐ始めたい長引く身体の不調 改善法SP 夏だからできる！推計患者数4300万人！やってみてわかった！血管年齢が若い海女さんに学ぶ高血圧改善法とは？ たけしの健康エンターテインメント みんなの家庭の医学 テレビ朝日 2016.8.2
17. 原田和昌：効果的なサムスカの使い方. 日経メディカル・座談会 急性心不全治療における体液管理の現状と今後の展望 (東京) 2016.8.16
18. 原田和昌：疾病と治療 I 循環器：血圧異常. 板橋看護学校講義 (東京) 2016.9.7
19. 原田和昌：高齢者糖尿病の心不全予防・管理について. 糖尿病治療Update (東京) 2016.9.9
20. 原田和昌：超高齢者AFに対する抗凝固療法. 大江戸抗凝固講演会～高齢者AFの抗凝固療法を考える～ (東京) 2016.9.21
21. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 第4回九州老年心血管病研究会 (福岡) 2016.9.28
22. 原田和昌：高齢者心不全におけるサムスカの有用性. 第9回大阪循環器懇話会 (大阪) 2016.10.13
23. 原田和昌：高齢者心不全と心・腎・貧血・鉄欠乏関連. 協和発酵キリン社員研修会 (東京) 2016.10.14
24. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略～SPRINTサブ解析を踏まえて～. STOP HYPERTENSION Seminar in 北関東 (東京) 2016.10.15
25. 原田和昌：経皮吸収型 β 1遮断薬ビソノテープの使用経験. トーアエイヨー社内研修会 (東京) 2016.10.17
26. 原田和昌：SPAFにおける抗凝固療法の重要性. Expert Meeting in East Tokyo (東京) 2016.10.19
27. 原田和昌：高齢者高血圧の管理と心房細動. 城東循環器カンファレンス (東京) 2016.10.26
28. 原田和昌：心不全 (ステージAからC) とノンディッパーとの関係—24時間血圧測定の意義—. 第29回足立循環器フォーラム (東京) 2016.10.28
29. 原田和昌：高齢者心不全におけるサムスカの有用性. 伊勢崎地区心不全を考える会 (群馬) 2016.11.8
30. 原田和昌：高齢者高血圧に関する最近の話題. 武田薬品社外講師勉強会 (東京) 2016.11.11
31. 原田和昌：高齢者の抗凝固療法と心不全. 第3回CardioVascular Disease Network (神奈川) 2016.11.16
32. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略～SPRINTサブ解析を踏まえて～. 毎日血圧時々尿検査セミナー (京都) 2016.11.17
33. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルについて～. 城北抗凝固療法フォーラム (東京) 2016.11.21
34. 原田和昌：超高齢者AFに対する抗凝固療法. 茅ヶ崎・寒川学術講演会 (神奈川) 2016.11.25
35. 原田和昌, 石川譲治：認知症診断・予防での活用の可能性. 第1回臨床自律神経Forum (川崎) 2016.11.27
36. 原田和昌：心不全を予防できる糖尿病治療とは. Cardiovascular & Diabetes Conference (東京) 2016.12.5
37. 原田和昌：循環器医からみる高齢者における消化管疾患マネジメント. 大塚製薬株式会社東京支店Oh-Campus (東京) 2016.12.7
38. 原田和昌：スーパー栄養素カルシウムで【高血圧】【ストレス】【がん】予防たけしの健康エンターテインメントみんなの家庭の医学 テレビ朝日 2016.12.20
39. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルについて～. 第592回胸部疾患懇話会 (青森) 2017.1.17
40. 坪光雄介, 原田和昌：心房細動のない患者の脳梗塞リスクとしての心不全～剖検例2472例からの解析～. 第2回東京戌亥CHADS研究会 (東京) 2017.1.19
41. 原田和昌：高齢者の心不全治療が変わった.

- 第145回老年学・老年医学公開講座
105歳まで元気に生きるには（東京）2017.1.20
42. 原田和昌：高齢者高血圧患者の治療戦略. 第345回練馬区医師会学術部内科医会臨床研究会（東京）2017.1.24
 43. 原田和昌：意外と知らない高血圧のこと—あなたの血管大丈夫？ 健康講習会「意外と知らない高血圧のこと」（東京）2017.1.25
 44. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルについて～. 高齢者心房細動を勉強する会in伊勢崎（群馬）2017.2.7
 45. 原田和昌：超高齢者AFにおける抗凝固療法～低体重とフレイルについて～. 高齢者医療Forum 2017（千葉）2017.2.8
 46. 原田和昌：高齢者の脂質異常はどこまで治療すべきか. 板橋区医師会学術講演会（東京）2017.2.9
 47. 原田和昌：これからの糖尿病治療戦略—循環器内科医の立場から—. T2DM Forum in 山梨（山梨）2017.2.16
 48. 原田和昌：高齢者高血圧の治療戦略—SPRINT試験サブ解析をふまえて—. 城北地区高血圧UPDATE2017（東京）2017.2.20
 49. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 第21回西部循環器病ワークス（東京）2016.3.4
 50. 原田和昌：高齢高血圧患者の治療戦略～SPRINTサブ解析を踏まえて～. 猿島郡医師会学術講演会『Medical Up To Date』（茨城）2017.3.6
 51. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. Fluid Management Conference（東京）2017.3.8
 52. 原田和昌：高齢者心不全治療におけるステートメントの解説. トーアエイヨー社内研修会（東京）2017.3.22
 53. 原田和昌：超高齢者心不全治療の新しい考え方. 神明台ハートセミナー（東京）2017.3.24
 54. 石川譲治 健康な血管が命を守る 聴覚障害者社会教養講座 2016年1月7日、東京都障害者福祉施設
 55. 石川譲治 プライマリーケアおよび泌尿器科診療で役立つ高血圧のトピック、第16回NUフォーラム学術集会、椿山荘、2016年2月5日
 56. 石川譲治 健康な血管が命を守る 聴覚障害者社会教養講座 2016年2月12日、武蔵野プレイス
 57. 石川譲治 認知症と循環器疾患 第3回東京都認知症サポート医研修セミナー ベルサール新宿グラウンド、2016年4月9日
 58. 石川譲治 コロンビア大学留学体験記 第2回国際交流セミナー 東京都健康長寿医療センター 2016年4月26日
 59. 石川譲治 「プロに聞く 高血圧」 自分でできる高血圧予防と治療 板橋区志村健康福祉センター 2016年5月10日
 60. 石川譲治 認知症と循環器疾患 第2回蕨・戸田医師会学術集会 2016年7月16日
 61. 石川譲治 当院におけるフレイル外来の現状～血圧とフレイル～ 老年医学セミナー 東京都健康長寿医療センター大会議室 2016年7月21日
 62. 石川譲治 フレイルと循環器疾患 武田薬品社内勉強会 2016年8月9日
 63. 石川譲治 フレイルと循環器疾患 大塚製薬社内勉強会 2016年9月5日
 64. 石川譲治 健康な血管が命を守る 第39回関東ろう者大会分科会（高齢者のつどい）国立オリンピック記念青少年総合センター 2016年9月23日
 65. 石川譲治、日本人地域一般住民における心電図における非特異的ST-T変化と脳卒中発症リスク JMSコホート全体会議 2016年11月13日、東京
 66. Ishikawa J Unattended automatic clinic BP vs. Conventional clinic BP. J-CLEAR round table discussion, Nov. 26th, 2016. Kyoto
 67. 石川譲治 健康寿命を考慮した循環器疾患管理—フレイル外来での試み— 健康寿命を考える—トータルケアセミナー— 新宿 2017/2/16
 68. 石川譲治 フレイルと循環器疾患 ～フレイル外来での試み～ 第8回日光循環器セミナー 獨協医科大学日光医療センター、栃木 2017/3/9
 69. 杉江 正光：ヘルスケア領域の新規事業を検討する、株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、東京、11月1日、2016.
- 総説
1. 原田和昌, 木原康樹, 絹川弘一郎, 横山広行：超高齢化社会における心不全治療の考え方. 臨床医のための循環器診療 2016;25:3-16.
 2. 原田和昌：心不全と脳梗塞. 臨床医のための循環器診療 2016;25:40-42.
 3. 原田和昌：握力は全死因死亡および心血管死亡予測に関して収縮期血圧よりも強力な指標である. Fluid Management Renaissance 2016;6: 83-84.
 4. 原田和昌：【これだけは知っておきたい循環管

理-研修医からの質問323-】急性非代償性心不全(ADHF) BNP. 救急・集中治療 2016;28 臨増:e155-e159.

5. 原田 和昌, 田中 旬:【変わりつつある高齢者心不全の考え方と治療法】臨床に役立つQ&A 高齢者における隠れ鉄欠乏は治療すべきでしょうか. Geriatric Medicine 2016;54(7):709-712.
6. 原田和昌:【超高齢社会における心不全診療のあり方】高齢者心不全に多いHFpEFの治療. 医学のあゆみ 2017;260(10):880-884.
7. 原田和昌:【高齢者Common Disordersの外来診療-鑑別診断と初期治療-】高齢者の高血圧. 成人病と生活習慣病 2017;47(1):72-76.
8. 原田和昌:血管の骨化で心筋梗塞が急増-予防は青魚とカルシウムを豊富に-食べ物通信 2017;552:14-16.
9. 冬場に多い入浴中の事故 ヒートショックの現状と病態 (鳥羽梓弓, 桑島巖) 2016年10月号 No.4827 日本医事新報
10. 石川譲治 QOLの視点から老年症候群を読み解く 循環器疾患と老年症候群(認知症・フレイル)在宅新療0-100 2016;1:893-898
11. 石川譲治 ケースで学ぶ 実践! 高齢者糖尿病 診療ガイド 心筋梗塞・心不全、南山堂
12. 石川譲治 ケースで学ぶ 実践! 高齢者糖尿病 診療ガイド 高血圧、南山堂
13. 山本寛, 石川譲治, 岩切理歌, 荒木厚, 当院の老年医療 東京都健康長寿医療センター 日老医誌 2016; 53.
14. 石川譲治 心電図 実践診療で役立つコツ 12誘導心電図を読み解くコツ 心肥大、心室・心房負荷 診断と治療 2017年2月号
15. 石川譲治 特集「見直し! 高齢者高血圧治療 -SPRINT試験の衝撃から」「検証! SPRINT試験の血圧測定環境は診察室血圧のどのレベルか?」週刊「日本医事新報」2017年3月3週号

呼吸器内科

●雑誌論文

1. Hino H, Nishimura T, Usuki C, Sazuka M, Ito T, Seki A, Nitadori JI, Yamada H, Arai T, Yamamoto H, Nakajima J. Salvage surgery for primary lung cancer after chemotherapy in octogenarians. Thorac Cancer. 2017 May; 8(3):271-274.
2. 野木森 智江美, 山本 寛. 特集:高齢者の呼吸器疾患:現在のトピックと未来への展望. Seminar 6. 高齢者肺がんのマネジメント.

Geriat. Med. 54(11): 1105-1109, 2016.

3. 佐塚 まなみ, 山本 寛, 臼杵 智江美, 濱谷 広頌, 新井 富生, 山田 浩和. 全身性強皮症による間質性肺炎の治療経過中に発症し肺炎類似の画像所見を呈した肺小細胞癌の1例. 肺癌. 56:1057-1063, 2016.

●総説

1. 山本 寛, 石川 譲治, 岩切 理歌, 荒木 厚: 当院の老年医療. 東京都健康長寿医療センター. 日老医誌 53:431-433, 2016.

●学会・研究会発表

1. Manami Sazuka, Hiroshi Yamamoto, Chiemi Usuki, Hironobu Hamaya, Ai Kataoka, Yoko Hanaoka, Haruaki Hino, Hirokazu Yamada. Four consecutive elderly cases developing Takotsubo cardiomyopathy during flexible bronchoscopy. 19th WCBIP/WCBE World Congress 2016, Florence (Italy), May 8-12, 2016.
2. 山本 寛:高齢者診療のディベートセッション. 高齢者肺炎の治療薬選択. カルバペネムを重視する立場から. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢. 6月9日, 2016.
3. 高田 忠幸, 佐塚 まなみ, 東原 真奈, 中野 雄太, 金田 大太, 藤ヶ崎 純子, 金丸 和富, 村山 繁雄:嗅球にHSV-1抗体陽性所見とリン酸化 α -synuclein陽性所見が認められたヘルペス脳炎の一部検例.第113回日本神経病理学会関東地方会, 東京. 7月9日, 2016.
4. 日野 春秋, 西村 隆, 臼杵 智江美, 佐塚 まなみ, 関 敦子, 似鳥 純一, 山田 浩和, 新井 富生, 山本 寛, 中島 淳:高齢者進行肺癌に対して化学療法後、Salvage手術を施行した1例. 第57回日本肺癌学会学術集会, 福岡. 12月21日, 2016.

●講師など院外活動(講演・放送等)

1. 山本 寛:高齢者のCOPDマネジメント. 落合プライマリー研究会. 東京, 4月14日, 2016.
2. 山本 寛:タグリッソ®発売から半年を迎えて見えてきたこと. 当院におけるOsimertinibの使用経験. 第8回城北Lung Cancer Academia. 東京, 11月30日, 2016.
3. 山本 寛:高齢者の肺炎とインフルエンザ. 第12回老年医学診療研究会. 東京, 11月19日, 2015.

●単行書・報告書

1. 山本 寛:高齢者肺がんの特徴. 高齢者肺がん治療の実際. 医薬ジャーナル社, 大阪, pp 14-21,

2016.

2. 山本 寛: ナースの困ったに答える高齢者の看護ケア. よくみる疾患 よく出会う問題. 高齢者呼吸器疾患の特徴. 学研メディカル秀潤社, 東京, pp 64-67, 2016.
3. 山本 寛: ナースの困ったに答える高齢者の看護ケア. よくみる疾患 よく出会う問題. 高齢者呼吸器疾患患者に特有の問題. 学研メディカル秀潤社, 東京, pp 68-70, 2016.

消化器内科・内視鏡科

●論文

1. 西村 誠. (責任編集). 高齢者における消化管疾患の低侵襲治療と診断. *Geriatric Medicine*. 2016年4月号. Vol.54 No4.
2. 西村 誠. (序文). 高齢者における消化管疾患の低侵襲治療と診断. *Geriatric Medicine*. 2016年4月号. Vol.54 No4.
3. 松岡 順子, 西村 誠. 総説-2. 「下部消化管腫瘍の診断と進歩」. 高齢者における消化管疾患の低侵襲治療と診断. *Geriatric Medicine*. 2016年4月号. Vol.54 No4.
4. 西村 誠. 総説-3. 「超音波内視鏡診療の進歩」. 高齢者における消化管疾患の低侵襲治療と診断. *Geriatric Medicine*. 2016年4月号. Vol.54 No4.
5. Makoto Nishimura, Jonas Woo, Yuko Fujii, Miho Matsukawa, Hiroto Kita. "Could pre-operative NE-NBI finding be useful to determine accurate surgical margins in undifferentiated-type early gastric cancer patients?". *Editorial, Annals of Laparoscopic and Endoscopic Surgery*, 2017.2:10
6. 松岡 順子, 西村 誠, 藤井 悠子, 細矢 さやか, 剛崎 有加, 松川 美保, 中嶋 研一郎, 潮 靖子, 佐々木 美奈, 上垣 佐登子. 当院における大腸ESDの年齢階級別成績の検討. *Progress of Digestive Disease*. 2016; 89(1):50-53. 2016.12
7. 藤井 悠子, 西村 誠, 細矢 さやか, 剛崎 有加, 松岡 順子, 松川 美保, 中嶋 研一郎, 潮 靖子, 佐々木 美奈, 上垣 佐登子. 縦隔病変に対するEUS-FNAの有用性および安全性の検討. *Progress of Digestive Disease*. 2016; 89(1):74-75. 2016.12
8. 上垣佐登子. 総論 超高齢者の生理学的特性. 肝・胆・膵 74巻3号. 2017年3月号

●学会・研究会発表

1. Makoto Nishimura, Naohisa Yahagi. An Investigator-Initiated Trial of CHST15 dsRNA

by EUS-FNI to Investigate the Safety and Efficacy in Patients with Unresectable Pancreatic Cancer. DDW, 2016.5.22, San Diego.

2. Miho Matsukawa, Makoto Nishimura, Yuka Kowazaki. Comparison of EST Alone vs EPLBD with EST in Very Elderly Patients. DDW, 2016.5.24, San Diego.
3. Yuka Kowazaki, Makoto Nishimura, Miho Matsukawa. Comparison of Needle Knife vs Dual Knife for Esophageal Superficial Cancers. DDW, 2016.5.24, San Diego.
4. 藤井悠子, 西村誠, 細矢さやか, 剛崎有加, 松岡順子, 松川美保, 中嶋研一郎, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 当院における縦隔病変に対するEUS-FNA10例の検討. 日本内視鏡学会関東地方会, 2016.6.11, 東京.
5. 森下良志, 剛崎有加, 西村誠, 藤井 悠子, 細矢さやか, 松岡 順子, 松川美保, 中嶋研一郎, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 食道全周ESD施行後に狭窄予防としてステロイド局注を施行した1例. 日本内視鏡学会関東地方会, 2016.6.11, 東京.
6. 松岡順子, 西村誠, 藤井 悠子, 細矢さやか, 剛崎有加, 松川美保, 中嶋研一郎, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 当院における85歳以上の超高齢者に対する大腸ESDの検討. 日本内視鏡学会関東地方会, 2016.6.12, 東京.
7. Makoto Nishimura, Yuko Fujii, Yuka Kowazaki, Jonas Woo, Miho Matsukawa, Junko Matsuoka. Assessment of the Safety of Endoscopic Submucosal Dissection in Very Elderly Patients. Poster session. (Awarded to "Poster of Excellence"). UEGW, 2016.10.18, Vienna.
8. J. Woo, J. Matsuoka, Y. Kowazaki, M. Nishimura. A Comparison of efficacy, outcome and complications of endoscopic submucosal dissection with the Olympus second generation electrosurgical knife DualKnifeJ™ Vs Olympus first generation knife - DualKnife™. A single centre retrospective study. UEGW, 2016.10.21, Vienna
9. J. Woo, J. Matsuoka, Y. Kowazaki, M. Nishimura. Feasibility of a structured international ESD training programme for international doctors in Japan. UEGW, 2016.10.18, Vienna
10. M. Nishimura, J. Woo, Y. Kowazaki, J. Matsuoka, M. Matsukawa. Creation of an International interventional endoscopy fellowship program in Japan - based on a combined US fellowship and Japanese training experience. International

Poster Session. JDDW2016.11.4. Kobe.

11. 武村拓也, 西村誠, 藤井悠子, 剛崎有加, 松川美保, 松岡順子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子, 新井富生. EUS-FNAで診断しえた胆管原発小細胞癌の一例. 第103回関東地方会, 2016.12.17
12. 藤井悠子, 西村誠, 武村拓也, 剛崎有加, 松川美保, 松岡順子, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子, 新井富生. EUS-FNAを施行した後腹膜発生Castleman病の1例. 第103回関東地方会, 2016.12.17
13. 武村拓也, 西村誠, 剛崎有加, 藤井悠子, 松岡順子, 松川美保, 潮靖子, 佐々木美奈, 上垣佐登子. 喉頭展開下にESDを施行した後壁型下咽頭表在癌の一例. 都立病院の会.2017.2.17
14. 上垣佐登子, 藤井悠子, 細矢さやか, 剛崎有加, 松川美保, 松岡順子, 中嶋研一朗, 潮靖子, 西村誠, 佐々木美奈, 佐藤公紀, 清水遼, 林学, 椎名秀一朗, 山下淳史, 福村由紀. SVR後に多発する良性結節が出現しその経過2年後にHCCが出現した1例. 第339回日本消化器病学会関東支部例会, 2016.5.21.
15. 上垣佐登子, 佐々木美奈, 藤井悠子, 細矢さやか, 剛崎有加, 松岡順子, 松川美保, 中嶋研一朗, 潮靖子, 西村誠. 腹部超音波検査で穿孔部位及び内容物の流出像がみられた胆石胆嚢炎の1例. 第339回日本消化器病学会関東支部例会, 2016.5.21.
16. 上垣佐登子, 西村誠, 藤井悠子, 剛崎有加, 松岡順子, 松川美保, 中嶋研一朗, 潮靖子, 佐々木美奈. 当院で施行した肝に対するEUS-FNA. 第52回肝臓学会総会.2016.5.21.
17. 上垣佐登子, 西村誠, 佐々木美奈. 副腎腫瘍に対し超音波内視鏡下穿刺吸引術 (EUS-FNA) で診断が可能であった1例. 日本超音波医学会第89回学術集会. 2016.5.28.
18. 上垣佐登子, 西村誠, 藤井悠子, 松川美保, 潮靖子, 佐々木美奈. 当院の超音波内視鏡下穿刺術施行症例における糖尿病合併の現状. 第51回日本成人病学会学術集会. 2017.1.14.

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. Makoto Nishimura, Naohisa Yahagi, Hironori Yamamoto, et al : (ハンズオンセミナー講師). ASGE-JGES Masters' Course in ESD with optional POEM add-on. ASGE learning center, Chicago, 2016.4.15-17.
2. Makoto Nishimura : (講師・ハンズオンセミナー). Implementing a POEM Program Equipment & Set-up. POEM Worksho in

Western University, Canada, 2016.8.14.

3. 西村 誠 : (講演) 最新の内視鏡治療～EUS-FNAとFNI. Advanced Medical Technology Seminar. 群馬. 2016.9.21.
4. 西村 誠 : (講演) 上部消化管疾患における治療内視鏡の最前線～ESDとEUS-FNA/FNI～. 新宿区医師会 消化器内視鏡研究会. 東京. 2016.9.28.
5. 西村 誠 : (医学書院WEBサイトGastropedia. 掲載). JDDW私のおすすめBEST5. 2016.10.
6. 西村 誠 : (特別講演) 胆膵EUSの描出と診断. 第8回さいたまEUS研究会. 大宮. 2016.11.30
7. 西村誠, 斎藤豊 : (特別講師) 大腸ESDハンズオントレーニング. 第103回日本内視鏡学会関東地方会, 東京, 2016.12.18
8. 西村誠 : (特別講演) 消化器腫瘍に対するESDの新展開 ～pocket creation methodによるESD～. タケキャブ発売2周年記念講演会.池袋. 2017.3.1.
9. 西村誠 : (特別講演) 当院における潰瘍性大腸炎治療の実際. 田辺三菱潰瘍性大腸炎講演会.東京, 2017.3.8.
10. 西村 誠, 落合 康利 : (ハンズオンセミナー講師). ESDハンズオンセミナー. 東京都健康長寿医療センター. 2017.3.4.

●科研費

1. 文部科学省科学研究費 基盤研究C. 西村誠. 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診による膵腫瘍と膵嚢胞におけるエクソソームの解析. 2016.4.1-. Assessment of Exosome of pancreatic tumor and pancreatic cystic lesion using EUS-FNA sample.

神経内科・脳卒中科

●英文論文

1. Morimoto S, Hatsuta H, Komiya T, Kanemaru K, Tokumaru AM, Murayama S: Simultaneous skin-nerve-muscle biopsy and abnormal mitochondrial inclusions in intranuclear hyaline inclusion body disease. J Neurol Sci. 2017 Jan 15; 372:447-449.
2. Morimoto S, Takao M, Hatsuta H, Nishina Y, Komiya T, Sengoku R, Nakano Y, Uchino A, Sumikura H, Saito Y, Kanemaru K, Murayama S. Homovanillic acid and 5-hydroxyindole acetic acid as biomarkers for dementia with Lewy bodies and coincident Alzheimer's disease: An autopsy-confirmed study. PLoS One 2017, 12(2)

3. Kubo S, Hamada S, Maeda T, Uchiyama T, Hashimoto M, Nomoto N, Kano O, Takahashi T, Terashi H, Takahashi T, Hatano T, Hasegawa T, Baba Y, Sengoku R, Watanabe H, Kadowaki T, Inoue M, Kaneko S, Shimura H, Nagayama H. A Japanese multicenter survey characterizing pain in Parkinson's disease. *J. Neurol Sci* 2016, 365:162-6.
4. Nagayama H, Maeda T, Uchiyama T, Hashimoto M, Nomoto N, Kano O, Takahashi T, Terashi H, Hamada S, Hasegawa T, Hatano T, Takahashi T, Baba Y, Sengoku R, Watanabe H, Inoue M, Kadowaki T, Kaneko S, Shimura H, Kubo SI. Anhedonia and its correlation with clinical aspects in Parkinson's disease. *J Neurol Sci* 2017, 372:403-7.

●和文総説

1. 仙石錬平. レビー小体型認知症. 診断 病理学的見知からみたLewy小体病の早期診断. *クリニシアン*. 2016年. 63巻. 491-499.
2. 仙石錬平、波田野琢、石垣泰則、永山寛. 内科医がおさえておくべきパーキンソン病診療のポイント. パーキンソン病の包括的な診療. *内科*. 2016年. 118巻; 273-283.

●学会発表 (国外)

1. Motoyama R, Nakano Y, Sengoku R, Nishina Y, Kaneda D, Kanemaru K, Ishii K, Murayama S. A case of subacute progressive dementia presenting with M129V mutation of the prion protein gene and positive RT-QUIC assays. *PRION* 2016, Tokyo, 2016.5
2. Sengoku R, Yamazaki M, Kaneda D, Nishina Y, Tokumaru A, Kanemaru K, Murayama S. Comparison of DAT scan, cardiac MIBG scintigraphy and cerebral spinal fluid 5HIAA levels in Parkinsonian syndrome. 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. City Cube, Berlin, Germany 2016. 6.19-23
3. Murayama S, Sengoku R, Kaneda D, Nakano Y, Fujigasaki J, Saito Y: The establishment of the Biobank-Brain Bank for Aging Research, Tokyo Japan. 92nd American Association of Neuropathologists. The Hyatt Regency Baltimore on the Inner Harbor, Baltimore, USA, 2016.6.16-19
4. Kanemaru K, Kanemaru A, Nishina Y, Sengoku R, Kaneda D, Murayama S. Association

- between Renal Functions and CSF Biomarkers in Alzheimer's Disease. Alzheimer's Association International Conference, Metro Toronto Convention Centre, Tronto, Canada, 2016. 7.23-28
5. Kaneda D, Sengoku R, Kanemaru K, Morimoto S, Nishina Y, Fujigasaki J, Tokumaru A, Ishii K, Saito Y, Murayama S: P1-347 The Establishment of the Biobank for Aging Research in Liason with the Brain Bank for Aging Research, Tokyo, Japan. Alzheimer's Association International Conference, Metro Toronto Convention Centre, Totonto, Canada, 2016. 7.23-28
 6. Murayama S: Establishment of Tokyo Longitudinal Study of Aging and Tokyo Biobank, based on the Brain Bank for Aging Research. The first JSPS International scientific exchange workshop, San Paulo, 2016. 8
 7. Higashihara M, Yuki Hatanaka, Toshio Fukutake, Shigeo Murayama, Masahiro Sonoo: L3 and L4 innervation investigated from patients with single-root radiculopathy. 63rd Annual meeting of American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine, New Orleans, 2016.9

●学会発表 (国内)

1. 仁科裕史, 小宮正, 仙石錬平, 金丸和富, 村山繁雄. 超高齢者における脳梗塞超急性期の血栓溶解療法の有効性と安全性の検討. 第41回日本脳卒中学会総会. 札幌, 2016.4
2. 仙石錬平, 渋川茉莉, 本山りえ, 山崎幹大, 江口 桂, 東原真奈, 金田大太, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄: 急性期脳梗塞様発作を示した高齢者てんかん症例. 第41回日本脳卒中学会総会. 札幌, 2016.4
3. 本山りえ, 森本 悟, 田中 旬, 仙石錬平, 仁科裕史, 金田大太, 高梨成彦, 金丸和富, 村山繁雄: 高齢者脳梗塞における経食道心臓超音波検査の診断的意義. 41回日本脳卒中学会総会. 札幌, 2016.4
4. 村山繁雄: 病理所見の解説. 第57回日本神経学会学術大会 (Neuro CPC), 神戸, 2016.5
5. 金丸和富, 仁科裕史, 仙石錬平, 金田大太, 村山繁雄. アルツハイマー型認知症における腎機能と脳脊髄バイオマーカーとの関連. 第57回日本神経学学術大会, 神戸, 2016.5
6. 仁科裕史, 古田光, 徳丸阿耶, 石井賢二, 仙石錬平, 金丸和富, 村山繁雄. 扁桃核腫大を伴

- い、認知症を呈する一群の経時的検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
- 7, 仙石鍊平. 専門医育成コース. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸国際会議場、兵庫県神戸市, 2016.5.18-21
 - 8, 仙石鍊平, 渋川茉莉, 本山りえ, 森本悟, 砂川昌子, 金田大太, 仁科裕史, 豊原潤, 藤ヶ崎純子, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄. エオジン好性核内封入体病における機能画像・髄液バイオマーカーの検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 9, 東原真奈. 専門医育成コース. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 10, 東原真奈. 神経痛性筋萎縮症. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 11, 山崎幹大, 仙石鍊平, 金田大太, 仁科裕史, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄. パーキンソン症候群患者におけるDaTScan, MIBGシンチと脳脊髄液5 HIAAの比較. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 12, 渋川茉莉, 仙石鍊平, 山崎幹大, 江口桂, 本山りえ, 広吉祐子, 東原真奈, 金田大太, 仁科裕史, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄. 特発性正常圧水頭症における脳脊髄液バイオマーカーの検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 13, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 小幡真希, 瀬川千尋, 隅蔵大幸, 中野雄太, 内野彰子, 高尾昌樹, 赤津裕康, 齊藤祐子, 村山繁雄: 高齢者ブレインバンク2015年度年次報告. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前 2016.6
 - 14, 山崎幹大, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 徳丸阿耶, 三谷和子, 横山葉子, 村山繁雄: 高齢で発症した視神経髄膜炎の1剖検例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前 2016.6
 - 15, 渋川茉莉, 仙石鍊平, 山崎幹大, 江口桂, 本山りえ, 広吉祐子, 東原真奈, 金田大太, 仁科裕史, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄. 特発性正常圧水頭症における脳脊髄液バイオマーカーの検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5
 - 16, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 小幡真希, 瀬川千尋, 隅蔵大幸, 中野雄太, 内野彰子, 高尾昌樹, 赤津裕康, 齊藤祐子, 村山繁雄: 高齢者ブレインバンク2015年度年次報告. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前 2016.6
 - 17, 山崎幹大, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 徳丸阿耶, 三谷和子, 横山葉子, 村山繁雄: 高齢で発症した視神経髄膜炎の1剖検例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前 2016.6
 - 18, 渋川茉莉, 仙石鍊平, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 齊藤祐子, 金丸和富, 村山繁雄. 軽度認知障害(MCI)で物忘れ外来受診し, 画像上進行性脳萎縮を呈し, 8か月後全身疾患で死亡した87歳男性例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前 2016.6
 - 19, 東原真奈, 時村文秋, 中野雄太, 松田陽子, 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 新井富生, 園生雅弘, 村山繁雄: 腕神経叢生検における電気生理学的局在診断の有用性についての検討 局所再発を伴わない乳癌の腕神経叢転移を病理診断しえた57歳女性例. 第27回日本末梢神経学会学術集会, 大阪 2016.8
 - 20, 東原真奈, 園生雅弘: Immune mediated neuropathyの電気生理 徹底討論 Guillain-Barre症候群の電気診断. 第46回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山 2016.10
 - 21, 小野秀子, 東原真奈, 桜山千恵子, 大石知瑞子, 村山繁雄, 時村文秋, 園生雅弘: 下位腕神経叢障害を示唆する神経伝導検査所見のパターンについての検討—ルーチンNCSから, 下位腕神経叢障害を見出すための試み—. 第46回日本臨床神経生理学会学術大会, 郡山 2016.10
 - 22, 本山りえ, 清水利彦, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 佐藤克也, 高尾昌樹, 村山繁雄: RT-QuIC法偽陽性2症例の臨床病理的研究. 第21回日本神経感染症学会総会・学術大会, 金沢 2016.10
 - 23, 仙石鍊平. Extension of Lewy Body Pathology. 4th N Parkinson Disease Symposium. Tokyo, 2016.10.22
 - 24, 仙石鍊平. 全身疾患としてのパーキンソン病. ランチョンセミナー. 第69回日本自律神経学会総会, 熊本 2016.11
 - 25, 渋川茉莉, 仙石鍊平, 江口桂, 山崎幹大, 金田大太, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄. パーキンソン病(PD)の起立性低血圧(OH) —カテコラミン測定, MIBG心筋シンチを用いた検討—. 第69回日本自律神経学会総会, 熊本 2016.11
 - 26, 小幡真希, 瀬川千尋, 東原真奈, 仙石鍊平, 金田大太, 仁科裕史, 加藤貴行, 金丸和富, 武田克彦, 村山繁雄: 視覚性課題に示されるDLBの疾患特異性の検討—TMT, RBMT, WAIS, CDTを用いて—. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本 2016.11
 - 27, 村山繁雄: (特別講演) 高齢者ブレインバンク (バイオバンクプロジェクト)の認知症診療への貢献. 第57回中国・四国精神神経学会・第40回精神保健学会. 松山 2016.11
 - 28, 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 仙石鍊平, 金田大太, 村山繁雄, 徳丸阿耶. アルツハイマー病における脳葉型微小出血と脳脊髄液バイオマ

ーカー, ApoEとの関連. 第35回日本認知症学会, 東京, 2016.12

29, 金丸和富, 仙石鍊平, 仁科裕史, 金田大太, 村山繁雄. アルツハイマー病におけるCAAと脳脊髄液バイオマーカー, ApoEとの関連. 第42回日本脳卒中学会, 大阪, 2017.3

●日本神経学会関東・甲信越地方会

- 1, 江口 桂, 仙石鍊平, 金丸和富, 種井良二, 村山繁雄. 食欲低下, 歩行障害で発症, 大脳白質病変, long spinal cord lesionを示し, 一部ステロイドに反応がみられた63歳女性例. 第217回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京 2016.6
- 2, 本山りえ, 仙石鍊平, 松平敬史, 東原真奈, 石井賢二, 村山繁雄. 高齢者アルツハイマー病に難治性非痙攣性てんかん重積を呈した89歳女性例. 第218回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京 2016.9
- 3, 洪川茉莉, 仙石鍊平, 高梨成彦, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 徳丸阿耶, 金丸和富, 村山繁雄. 発話量低下と歩行障害に髄液シャント術が著効した, アルツハイマー病理合併特発性正常圧水頭症82歳女性例. 第219回 日本神経学会関東・甲信越地方会. 東京 2016. 12
- 4, 東原真奈, 仙石鍊平, 橋爪貴史, 高梨成彦, 根本佳子, 櫻井圭太, 金丸和富, 村山繁雄: 一側の動眼神経麻痺で発症した, 感染性心内膜炎による敗血症性脳塞栓症の64歳男性例. 第220回日本神経学会関東・甲信越地方会第220回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京 2017.3

●日本神経学会関連学会 懇話会・研究会・公開講座

- 1, 中野雄太, 本山りえ, 石井賢二, 佐藤克也, 北本哲夫, 高田忠幸, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: RT-QuIC法陽性で孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病MV2Kの疑われた一剖検例. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京 2016.7
- 2, 村山繁雄: 整形外科から学んだこと. UTSG研究会, 東京 2016.7
- 3, 本山りえ, 村山繁雄, 東原真奈, 石井賢二, 仙石鍊平: アルツハイマー型認知症を背景とした難治性非痙攣性てんかん重積の89歳女性例. 第10回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 東京 2016.7
- 4, 東原真奈: 神経伝導検査. 第13回日本臨床神経生理学会 医師のための筋電図・神経筋電気診断セミナー. 東京 2016.7
- 5, 東原真奈, 叶内匡: 尺骨神経絞扼障害. 第13回

日本臨床神経生理学会 医師のための筋電図・神経筋電気診断セミナー, 東京 2016.7

- 6, 東原真奈, 叶内匡: 尺骨神経絞扼障害. 第13回日本臨床神経生理学会 医師のための筋電図・神経筋電気診断セミナー, 東京 2016.7
- 7, 洪川茉莉, 東原真奈, 中野雄太, 仙石鍊平, 濱谷広頌, 櫻井圭太, 仁科裕史, 徳丸阿耶, 新井富生, 金丸和富, 村山繁雄: 進行性の経過で構音・嚥下障害と四肢のびまん性筋力低下を認め, 臨床的に運動ニューロン病の鑑別診断が問題となった筋炎の58歳女性例. 第88回 Neuromuscular Conference, 東京 2016.8
- 8, 東原真奈, 時村文秋, 中野雄太, 松田陽子, 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 村山繁雄: 肩甲周囲の疼痛で発症し, 左上肢の激痛と運動麻痺の進行を認めたが, 確定診断までに約5年を要した57歳女性例. 第88回 Neuromuscular Conference, 東京 2016.8
- 9, 村山繁雄: (特別講演) 嗜銀顆粒生認知症. 第14回脳核医学画像解析研究会, 東京2016.9
- 10, 村山繁雄: (特別講演) 高齢者バイオバンク・ブレインバンクプロジェクトによる認知症進行予防への取り組み. 第7回 Tokyo cognitive seminar, 東京 2016.10
- 11, 金田大太, 仙石鍊平, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 島田 斉, 佐原成彦, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 進行性核上性麻痺の臨床画像病理学的検討. 第44回臨床神経病理懇話会・第14回日本神経病理近畿地方会, 大阪 2016.11
- 12, 村山繁雄: (教育講演) 認知症の神経病理. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島 2016.11
- 13, 中野雄太, 広吉祐子, 小林万希子, 高田忠幸, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 急性骨髄性白血病に対し同種造血幹細胞移植後に制御不能な左上腕疼痛が出現し, CIPSが疑われた70歳男性剖検例の腕神経叢病理. 第90回 Neuromuscular Conference, 東京 2017.3
- 14, 中野雄太, 洪川茉莉, 小林万希子, 高田忠幸, 金田大太, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 徐々に拡大する広範脳梗塞を呈した真性多血症86歳男性剖検例. 第114回関東臨床神経病理懇話会, 東京 2016.12
- 15, 村山繁雄: (教育講演) 認知症の神経病理. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島 2016.11

●日本内科学会関東地方会

- 1, 白石朋敬, 仙石鍊平, 金田大太, 江口桂, 東原真奈, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄. 舞踏

運動を発症した慢性硬膜下血腫の86歳女性例.
第623回日本内科学会関東地方会, 東京 2016.5

血液内科

●学会発表

1. 第39回造血細胞移植学会総会
ワークショップ2 高齢者同種移植
 - ① 高齢者の移植適応と患者・医療者の抱える課題 東京都健康長寿医療センター血液内科 宮腰重三郎
 - ② 看護師が担う高齢者移植患者の意思決定支援、セルフケア支援 東京都健康長寿医療センター血液内科移植コーディネーター赤川順子

一般演題

- ① 高齢者臍帯血ミニ移植におけるrTM前処置併用の有用性 東京都健康長寿医療センター血液内科 小倉和外ほか
 - ② 血縁移植後のドナー細胞由来白血病に認められたFLT3-ITDの由来について 東京都健康長寿医療センター血液内科 三原 現ほか
2. 第52回日本移植学会総会
60歳以上の高齢者における同種造血幹細胞56例の成績と今後の展開 東京都健康長寿医療センター血液内科 小林寿美子ほか
 3. 第58回アメリカ血液学会
Preliminary Results from a Phase 1/2 Trial of DSP-7888, a Novel WT1 Peptide-based Vaccine, for Patients with Myelodysplastic Syndrome (MDS) Miyakoshi S et al.

●論文

1. Bone Marrow Transplant. 2017 Jun 12. [Epub ahead of print]
GvHD prophylaxis after single-unit reduced intensity conditioning cord blood transplantation in adults with acute leukemia.
Terakura S, Kuwatsuka Y, Yamasaki S, Wake A, Kanda J, Inamoto Y, Mizuta S, Yamaguchi T, Uchida N, Kouzai Y, Aotsuka N, Ogawa H, Kanamori H, Nishiwaki K, Miyakoshi S, Onizuka M, Amano I, Fukuda T, Ichinohe T, Atsuta Y, Murata M, Teshima T.
2. J Thorac Dis. 2016 May;8(5):330-3.

An uncommon presentation of Kikuchi-Fujimoto disease as mediastinal lymphadenopathy.
Hino H, Nishimura T, Nitadori J, Miyakoshi S, Seki A, Arai T, Nakajima J.

3. Am J Hematol. 2016 May;91(5):284-92.
Comparison of transplant outcomes from matched sibling bone marrow or peripheral blood stem cell and unrelated cord blood in patients 50 years or older.
Konuma T, Tsukada N, Kanda J, Uchida N, Ohno Y, Miyakoshi S, Kanamori H, Hidaka M, Sakura T, Onizuka M, Kobayashi N, Sawa M, Eto T, Matsuhashi Y, Kato K, Ichinohe T, Atsuta Y, Miyamura K; Donor/Source Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.

感染症内科

●学会発表

1. 増田義重 特別講演 高齢者の感染症～敗血症を中心に～ 第19回日本高齢消化器病学会総会 東京 2016年7月23日
2. 板倉泰朋、古川友子、野口譲、浅見諒子、稲松孝思、増田義重：2014年当院でのClostridium difficile (CD) 迅速検査で毒素陰性かつ抗原陽性例における患者背景の検討. 第65回日本感染感染症学会東日本学術集会/第63回日本化学療法学会東日本支部総会 新潟 2016年10月27日
3. 浅見諒子、野口譲、古川友子、矢作和規、安中めぐみ、板倉泰朋、吉田敦、増田義重、稲松孝思：当センターで血液培養より分離された菌の42年間における変遷と近年の動向. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月21日
4. 野口譲、矢作和規、古川友子、浅見諒子、板倉泰朋、増田義重、稲松孝思：当センターにおける血液培養2セット中1本のみ陽性例の臨床的意義の検討. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月21日
5. 矢作和規、野口譲、古川友子、浅見諒子、板倉泰朋、増田義重、稲松孝思、吉田敦：急性骨髄性白血病患者にニューキノロン投与中、血液培養より耐性Rothia mucilaginosaとStreptococcus oralisが分離された1例. 第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会 長崎 2017年1月22日

精神科・もの忘れ外来

●雑誌論文

- ・ Tsutsui T, Tanaka H, Nishida A, Asukai N. Posttraumatic stress symptoms as predictive of prognosis after acute coronary syndrome. **Gen Hosp Psychiatry 45:56-61, 2017.**
- ・ 扇澤史子：生活機能改善の工夫 IADL (手段的日常生活動作). 認知症ケア最前線57：56-59, 2016.

●学会・研究発表

- ・ 古田光他：急性期総合病院精神科病棟入院認知症患者の自宅退院阻害要因についての検討. 第29回日本総合病院精神医学会学術総会. 東京, 11月25日, 2016
- ・ 古田光他：11C-PiB PET にて若年性アルツハイマー型認知症の診断に至った巨大クモ膜嚢胞の一例. 第31回日本老年精神医学会. 金沢, 6月23日, 2016
- ・ 扇澤史子ら：(自主シンポジウム)「何ができるか？認知症臨床」「家族への支援：多職種とのグループ・アプローチや認知症の進行に応じた家族支援の実践」, 第35回日本心理臨床学会大会, 横浜, 9月4日, 2016.
- ・ 扇澤史子ら：認知症早期発見・早期診断推進事業の多職種チームにおける心理職の役割と有用性の検討-総合アセスメントの一助となる心理臨床的支援のあり方の考察, 第17回認知症ケア学会, 神戸, 6月5日, 2016.
- ・ 扇澤史子ら：物忘れ外来受診に至った本人の受診動機とニーズの検討, 本人の自覚的体験内容の質的分析から, 第31回老年精神医学会, 金沢, 6月24日, 2016.
- ・ 今村陽子ら：アルツハイマー型認知症における模写課題の誤りの質的検討—AD, MCI, 正常加齢の比較を通して—, 第31回老年精神医学会, 金沢, 6月23日, 2016.
- ・ 岡本一枝ら：認知症スクリーニング検査におけるAD, DLB, うつ病の特徴—HDS-R, MMSEを用いた検討—, 第35回日本心理臨床学会大会, 横浜, 9月5日, 2016.

●講師等院外活動

- ・ 古田光：知っておきたい医療と治療の話 初めて診断されたら知りたいこと編. 板橋区認知症の方を介護する家族のための講座. 板橋区 (グリーンホール), 7月26日, 2016
- ・ 古田光：認知症と抑うつ. 北区医師会学術集会. 北区 (北区医師会館), 5月18日, 2016

- ・ 古田光：認知症とその治療・ケア. 北区認知症ケア向上多職種協働研修. 北区 (北とぴあ) 2月9日, 2017
- ・ 古田光：認知症と生活障害医学的理解. 平成28年度第17・18回東京都認知症介護実践者研修. 文京区 (東京都社会福祉保健医療研修センター), 2月16日, 2017
- ・ 古田光：せん妄の診断と治療. 東京都認知症サポート医フォローアップ研修. 新宿区 (ベルサール新宿グランド), 2月18日, 2017
- ・ 古田光：認知症診療にいかす神経心理検査. 認知症の地域医療を考える会. 北区 (北とぴあ), 3月22日, 2017
- ・ 古田光：財布をATMに忘れた！これって始まり？～軽度認知障害について～. 第11回春の健康フェスティバル. 練馬区 (練馬区光が丘区民センター), 5月22日, 2016
- ・ 古田光：脳卒中与認知症って関係あるの？認知症の原因で多い病気 気を付ける病気. 平成28年度東京都区西北部脳卒中医療連携検討会合同区民公開講座. 豊島区 (ホテルメトロポリタン), 2月25日, 2017
- ・ 古田光：うつ病について. 高齢期のうつ予防講演会. 西東京市 (コール田無), 3月7日, 2017
- ・ 古田光：板橋看護専門学校精神科看護講義
- ・ 扇澤史子：認知症家族支援プログラム「認知症の方への接し方」. 板橋区 (グリーンホール), 8月2日, 2016.
- ・ 扇澤史子：「認知症の認知機能特性とケア」. 練馬区 (陽和病院), 11月1日, 2016.
- ・ 扇澤史子：認知症の方を介護する家族のための講座「こころが疲れないうちに、知っておきたい付き合い方のポイント」. 板橋区 (グリーンホール), 11月20日, 2016.
- ・ 扇澤史子：平成28年度認知症アセスメントシート (DASC) フォローアップ研修「認知症のアセスメントの実際」. 板橋区 (グリーンホール), 2月10日, 2017.
- ・ 扇澤史子：「認知症医療における臨床心理士の役割と多職種協働の取り組み」. 世田谷区 (日本大学文理学部 百周年記念館2階 国際会議場), 3月26日, 2017.
- ・ 今村陽子：板橋区閉じこもり・認知症予防教室. 板橋区 (はすのみ教室), 5月13日. 8月3日. 9月9日. 9月21日. 11月9日. 11月18日. 2017年1月11日. 1月13日. 3月10日. 3月29日, 2017.

●単行書・報告書

- ・ 古田光：第5章知っておくべき法律・制度, 書類の書きかた8. 介護保険制度. 精神科研修ノート

改訂第2版, 笠井清登ら編, 診断と治療社, 東京, pp558-661, 2016.

緩和ケア内科

●学会発表

- ・第21回緩和医療学会 緩和ケア外来、多職種協働・チーム医療 座長 齊藤英一

●論文

- ・循環器診療25巻 「心不全終末期の緩和ケア」 齊藤英一

外科

研究活動では臨床研究を中心に、特に高齢者における感染のリスク評価、ESDを遂行するに当たっての問題点や工夫について検討、報告した。他に症例報告も行った。院外活動としては、医学の友社主催の看護セミナーの講演を、WOCN(看護部)とも連携をとって行った。

●学会・研究会発表

1. 金澤伸郎, 野島陽子, 金翔哲, 齊藤未央, 飯塚童一郎, 亀井めぐみ, 三井秀雄, 吉田孝司, 黒岩厚二郎. 高齢者の永久人工肛門の管理. 高齢者の永久人工肛門の管理(徳島) 2016.7.16
2. 吉田 孝司, 三井 秀雄, 齋藤 未央, 飯塚 童一郎, 金澤 伸郎, 黒岩 厚二郎. 胃GISTに対するLECS 5例の治療成績. 第116回日本外科学会定期学術集会(大阪) 2016.4.14
3. 三井 秀雄, 金澤 伸郎. 85歳以上の高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下手術の短期成績. 第28回第71回日本大腸肛門病学会学術集会(三重) 2016.11.18
4. 齋藤 未央, 吉田 孝司, 三井 秀雄, 金澤 伸郎, 黒岩 厚二郎. プロポフォルを用いた胃ESDの周術期管理. 第89回日本消化器内視鏡学会総会(名古屋) 2015.5.29
5. 高木泰介, 三井秀雄, 飯塚童一郎, 中里徹矢, 吉田孝司, 黒岩厚二郎, 金澤伸郎. 血管炎が原因と考えられる腸重積の一例. 都立・公社病院外科研究会(東京) 2017.2.10

●講師等院外活動(講演)

1. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.3」(東京) 2016.7.2
2. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.3」(神戸) 2016.7.30
3. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化

- 器外科看護 ver.3」(福岡) 2016.8.21
4. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.3」(東京) 2017.1.22
5. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.3」(神戸) 2017.2.19
6. 金澤伸郎. 医学の友社医学教育企画部「消化器外科看護 ver.3」(福岡) 2017.3.12
7. 中里徹矢. 膵癌診療について. 消化器フォーラム(当センター) 2017.2.20

血管外科

●雑誌論文

1. 中澤 達. OCTAVIA試験: 深部静脈血栓症後のストッキング圧迫療法は1年か、2年か? CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2016.
2. 中澤 達. EVAR 1試験: 腹部大動脈瘤ステントグラフトの有用性ははまだ証明されない? CLEAR!ジャーナル四天王 CareNet Web, 2016.

●単行本・報告書

1. 中澤 達. 2016年概説. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トリアル Annual Overview 2017. 34-36, 臨床研究適正評価教育機構 ライフサイエンス出版. 東京, 2017.
2. 中澤 達. 2016年J-CLEAR選出重要トリアル. 脳・心・腎血管疾患クリニカル・トリアル Annual Overview 2017. 64-65, 臨床研究適正評価教育機構 ライフサイエンス出版. 東京, 2017.

●学会発表

1. 中澤 達. 末梢血管1(座長). 第24回日本血管外科学会関東甲信越地方会(東京) 2016.10.8

●講師等院外活動(講演など)

1. 中澤 達. 365日 年中無休の医療提供に必要なこと. 第13回将来医療構想勉強会(東京) 2016.9.23
2. 中澤 達. Internet of Medical Thingsの可能性. 第14回将来医療構想勉強会(東京) 2016.10.21
3. 中澤 達. 医師による実践的医療経営学. 第32回健康医療開発機構セミナー(東京) 2016.12.5
4. 中澤 達. 多様性とインクルーシブな社会のあり方. 第15回将来医療構想勉強会(東京) 2017.1.13

心臓外科

●雑誌論文(英文)

1. Pulsatile support using a rotary left ventricular

- assist device with an electrocardiography-synchronized rotational speed control mode for tracking heart rate variability. ; Arakawa M, Nishimura T, Takewa Y, Umeki A, Ando M, Kishimoto Y, Kishimoto S, Fujii Y, Date K, Kyo S, Adachi H, Tatsumi E.; J Artif Organs. 2016 Jun;19(2):204-7.
2. Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer: A case report.
Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K. ; Geriatr Gerontol Int. 2016 Oct;16(10):1171-1172.
 3. Journal of Artificial Organs 2016: the year in review : Journal of Artificial Organs Editorial Committee.
Sawa Y, Matsumiya G, Matsuda K, Tatsumi E, Abe T, Fukunaga K, Ichiba S, Kishida A, Kokubo K, Masuzawa T, Myoui A, Nishimura M, Nishimura T, Nishinaka T, Okamoto E, Tokunaga S, Tomo T, Tsukiya T, Yagi Y, Yamaoka T.; J Artif Organs. 2017 Mar;20(1):1-7.
 4. Changing pulsatility by delaying the rotational speed phasing of a rotary left ventricular assist device.
Date K, Nishimura T, Arakawa M, Takewa Y, Kishimoto S, Umeki A, Ando M, Mizuno T, Tsukiya T, Ono M, Tatsumi E. ; J Artif Organs. 2017 Mar;20(1):18-25.
 5. What Is the Optimal Setting for a Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device in Severe Mitral Regurgitation? Naito N, Nishimura T, Takewa Y, Kishimoto S, Date K, Umeki A, Ando M, Ono M, Tatsumi E. ; Artif Organs. 2016 Nov;40(11):1039-1045.
 6. Shifting the pulsatility by increasing the change in rotational speed for a rotary LVAD using a native heart load control system. ; Date K, Nishimura T, Takewa Y, Kishimoto S, Arakawa M, Umeki A, Ando M, Mizuno T, Tsukiya T, Ono M, Tatsumi E. J Artif Organs. 2016 Dec;19(4):315-321.
 7. Fatal fungal endocarditis by *Aspergillus udagawae*: an emerging cause of invasive aspergillosis.
Seki A, Yoshida A, Matsuda Y, Kawata M, Nishimura T, Tanaka J, Misawa Y, Nakano Y, Asami R, Chida K, Kikuchi K, Arai T.; Cardiovasc Pathol. 2017 May - Jun;28:14-17.
 8. Erdheim-Chester Disease With Cardiovascular Involvement and BRAF V600E Mutation.
Okamura K, Suematsu Y, Morizumi S, Kawata M, Dai Y, Yamakawa M, Ono M. Circ J. 2016 Jun 24;80(7):1657-9.
- 雑誌論文 (和文)
1. 西村 隆, 河田 光弘, 村山 繁雄, 中野 雄太, 関 敦子, 原田 和昌, 許 俊鋭; 肺活量が心移植適応条件を満たさないため体外式から植込み型補助人工心臓に移行できず、敗血症で死亡した肢体型筋ジストロフィー症例; 内科 Vol118 No4 P804-812 2016
 2. 西村 隆; 体外式補助人工心臓の進歩; Clinical Engineering Vol27 No9 P735-740 2016
 3. 西村 隆; 高齢者に対する補助人工心臓治療—長期在宅人工心臓治療(Destination Therapy: DT)—Geriatric Medicine Vol54 No7 689-691 2016
 4. 村上倫子, 増澤 徹, 小沼弘幸, 西村 隆, 許 俊鋭; 薄小型補助人工心臓用磁気浮上カスケードポンプのインペラ浮上特性; ライフサポート学会誌 Vol29 No2; 56-62 2016
 5. 下堀 拓己, 増澤 徹, 西村 隆, 許 俊鋭; 心拍同期型磁気浮上血液ポンプにおける受動安定軸の浮上安定性評価; 日本AEM学会雑誌 Vol24 No3 P216-221 2016
- 学会・研究会発表
1. Nishimura T, Takewa Y, Ando M, Umeki A, Arakawa M, Kishimoto Y, Date K, Naito N, Akiyama D, Tatsumi E: The Effect of Continuous-flow LVAD Control with Cardiac Cycle Synchronization. (Keynote Lecture) 24th International Society for Rotary Blood Pump (ISRBP) (Mito) 2016.9.21-22
 2. Kawata M, Ito T, Nishimura T, Kyo S: Successful ascending aortic replacement using intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for acute aortic dissection type A in a nonagenarian. The 24th Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular & Thoracic Surgery (ASCVTS). (Taipei) 2016.4.6-10
 3. Kawata M, Nishimura T, Kyo S: Successful aortic arch replacement using intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion (IPA-RCP) for intraoperative

- accidental acute aortic dissection type A in an octogenarian. The 25th Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular & Thoracic Surgery (ASCVTS). (Seoul) 2017.3.23-26
4. Naito N, Nishimura T, Iizuka K, Takewa Y, Ono M, Tatsumi E: Influence of a novel rotational speed modulation system used with VA-ECMO on left ventricular afterload and coronary arterial flow. 62th American Society for Artificial Internal Organs (ASAIO) San Francisco 2016.6.15-18
 5. Akiyama D, Nishimura T, Iizuka K, Mizuno T, Tsukiya T, Takewa Y, Ono M, Tatsumi E: What is the optimal setting for a continuous flow left ventricular assist device in aortic insufficiency? -Potential Utility of novel heart load control system to reduce the magnitude of AI-. 24th International Society for Rotary Blood Pump (ISRBP) (Mito) 2016.9.21-22
 6. Naito N, Nishimura T, Iizuka K, Takewa Y, Ono M, Tatsumi E: Influence of a rotational speed modulation system used with an implantable continuous-flow left ventricular assist device on peripheral perfusion. 24th International Society for Rotary Blood Pump (ISRBP) (Mito) 2016.9.21-22
 7. Sato R, Masuzawa T, Osa M, Nishimura T, Kyo S, Naito N, Tatsumi E: Magnetically levitated blood pump for extracorporeal circulation driven to synchronize with heart beat. 24th International Society for Rotary Blood Pump (ISRBP) (Mito) 2016.9.21-22
 8. Naito N, Nishimura T, Iizuka K, Takewa Y, Ono M; Novel rotational speed modulation system used with an implantable continuous-flow left ventricular assist device provides good pulsatility on peripheral organ perfusion. American Heart Association (AHA) Scientific Sessions New Orleans 2016.11.12-16
 9. Kyo S, Nishimura T: Destination Therapy by Implantable LVAD Agenda for Introduction of DT in Japan. 第20回日本心不全学会学術集会. (札幌) 2016.10.7-9
 10. Kyo S, Nishimura T, Kawata M, Ito T, Takaoka Y, Ishi M, Shimizu T: Clinicaleffects of External Counterpulsation circulatory support system 'Compact CP'. 第20回日本心不全学会学術集会. (札幌) 2016.10.7-9
 11. Kyo S, Nishimura T, Kawata M, Ito T, Takaoka Y, Ishi M, Shimizu T: Clinical effects of External Counterpulsation circulatory support system 'Compact CP'. 第20回日本心不全学会学術集会. (札幌) 2016.10.7-9
 12. 西村 隆: (基調講演) 在宅補助人工心臓治療の今後 —植込型補助人工心臓管理施設のはたす役割—. 第54回日本人工臓器学会大会 (米子). 2016.11.25
 13. 西村 隆: パネルディスカッション「完全植込み型」への臨床的ニーズ. 第54回日本人工臓器学会大会 (米子). 2016.11.25
 14. 西村 隆: 補助人工心臓治療の現状と将来 (ランチョンセミナー). 第55回日本生体医工学学会大会 (富山). 2016.4.26-28
 15. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: 90歳代高齢者におけるA型急性大動脈解離における間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法の有用性. 第44回 日本血管外科学会学術総会. (東京). 2016.5.25-27.
 16. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村隆, 許俊鋭: 弓部分枝遠位まで解離が及ぶA型急性大動脈解離に対する間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流の有用性. 第240回 日本循環器学会関東甲信越地方会. (東京). 2016.6.4.
 17. 伊藤卓也, 河田光弘, 西村隆, 許俊鋭: Bridge to recovery 目的のLVAD 補助が耐術を可能とした重症MR、アドリアマイシン心筋症の一例. 第171回日本胸部外科学会;関東甲信越地方会. 2016.6.11.
 18. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: Vascular ring (right aortic arch+aberrant LSCA,+Kommerell憩室瘤)を呈する弓部奇形に発症したStanford B 急性大動脈解離にて気道閉塞、穿破に至った1例. 第37回東京胸部外科懇話会. (東京). 2016.7.18.
 19. 河田光弘, 山本真由, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: TAA ruptureに対する緊急TEVAR術後、大動脈瘤壁外仮性瘤に対してdirect sac punctureにて治療し得た1例. 第20回大動脈ステントグラフト研究会. (東京). 2016.7.30.
 20. 河田光弘, 山本真由, 伊藤卓也, 西村 隆, 許 俊鋭: 胸部大動脈瘤破裂に対する緊急胸部ステントグラフト内挿術後、大動脈瘤壁外仮性瘤に対してdirect sac punctureによるcoil embolizationが有効であった1例. 第21回板橋区医師会医学会. (東京)2016.9.10.
 21. 河田光弘, 伊藤卓也, 西村隆, 許俊鋭: 拡大傾向にある胸腹部大動脈瘤に対し、TEVAR+腹腔動脈コイル塞栓術が有効であった1例. 第241回 日本循環器学会関東甲信越地方会. (東京). 2016.9.17.

22. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：胆嚢炎併存、亜急性期大動脈解離(Stanford A)に対して、術前準備を計画的に行い、上行弓部大動脈置換術を無輸血で合併症無く施行し得た78歳女性. 第64回 日本老年医学会関東甲信越地方会. (東京) 2016.9.17.
23. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：Vascular ring (right aortic arch+aberrant LSCA,+Kommerell憩室瘤)を呈する大動脈弓部奇形に発症した急性大動脈解離Stanford Bから気道閉塞、偽腔穿破に至った1例. 第24回日本血管外科学会関東甲信越地方会. (東京) 2016.10.8
24. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：慢性大動脈解離Stanford B、胸腹部大動脈瘤化に対し、TEVARを有効に施行し得た高齢者の1例. 第172回 日本胸部外科学会関東甲信越地方会. (東京) 2016.11.5.
25. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：後期高齢者に対するオープンステントグラフトの安全性. 第54回日本人工臓器学会大会. (米子) 2016.11.23-25.
26. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：偽腔開存型急性大動脈解離DeBakeyIIIbRに対する二期的治療戦略—ステントグラフトの有用性. 第54回日本人工臓器学会大会. (米子) 2016.11.23-25.
27. 河田光弘、西村隆、許俊鋭：拡張相肥大型心筋症、僧帽弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症、CRT-D植込み術後、心房細動頻拍、房室結節アブレーション後の重症心不全に対してbridge to recovery 目的に体外設置型LVADを使用した66歳男性. 第65回 東京医科大学循環器研究会. (東京) 2017.1.7
28. 河田光弘：臨床ニーズ発表. 東京都・板橋区医工連携交流会 in 東京都健康長寿医療センター. 平成28年度 第7回クラスター研究会. 板橋 2017.1.27
29. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：急性僧帽弁後尖逸脱、腱索断裂、肺水腫に対して準緊急僧帽弁形成術が有効であった1例. 第243回日本循環器学会関東甲信越地方会. (東京) 2017.2.4
30. 河田光弘、伊藤卓也、西村隆、許俊鋭：後期高齢者における弓部大動脈瘤に対するオープンステントグラフトを使用した治療戦略. 第47回日本心臓血管外科学会学術総会. (東京) 2017.2.27-3.1
31. 河田光弘、村田知洋、西村隆、許俊鋭：肺結核治療中に発症した、急性期大動脈解離(Stanford A)、右鎖骨下動脈起始異常に対して、緊急手術にて救命し得た93歳女性. 第65回 日本老年医学会関東甲信越地方会. (新潟) 2017.3.11
32. 河田光弘、西村隆、許俊鋭：慢性透析、C型肝炎、発作性心房細動でワーファリン内服中、bovine archに発症した急性A型大動脈解離に対してIPA-RCPが有効であった1例. 第173回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. (東京) 2017.3.11
33. 石森千絵、山中源治、後藤浩子、西村隆：ワークショップ人工臓器を用いた医療現場でのコメディカルの役割「関連施設との連携における看護師の役割～植込型補助人工心臓装着患者～」第54回日本人工臓器学会大会 (米子). 2016.11.25
34. 黒田揮志夫、加藤倫子、桑木賢次、関敦子、田中 旬、西村隆、許俊鋭、天野 篤史：重度低左心機能症例に対する弁膜症手術において補助人工心臓による周術期管理が奏功した1例. 第64回日本心臓病学会学術集会 (東京) 2016.9.23-25
35. 十菱千尋、石川譲治、田中 旬、藤本 肇、原田和昌、河田光弘、西村隆：僧帽弁置換術により短期間に顕著な改善を認めた2群肺高血圧の一例. 第64回日本心臓病学会学術集会 (東京) 2016.9.23-25
36. 渡辺保昭、増澤 徹、村上倫子、小沼弘幸、西村隆、許俊鋭：薄小型磁気浮上補助人工心臓の実用化に向けた改良. 第55回日本生体医工学会大会 (富山). 2016.4.26-28
37. 内藤敬嗣、西村隆、藤井 豊、飯塚 慶、武輪能明、小野 稔、巽 英介：体外式膜型人工肺(ECMO)に用いる自己心拍同期回転数制御システムが心負荷、冠動脈血流に及ぼす影響. 第69回日本胸部外科学会定期学術集会 (岡山) 2016.9.28-10.1
38. 秋山大地、西村隆、飯塚 慶、水野敏秀、築谷朋典、武輪能明、小野 稔：左心補助人工心臓における心拍数同期型回転数制御システムが右心機能へ及ぼす影響の検討. 第45回人工心臓と補助循環懇話会学術集会 (山梨) 2017.2.17-18
39. 秋山大地、西村隆、飯塚 慶、水野敏秀、築谷朋典、武輪能明、小野 稔、巽 英介：熱希釈法を用いた補助人工心臓装着患者における大動脈弁不全閉鎖の定量法の開発. 第47回日本心臓血管外科学会学術集会 (東京) 2017.2.27-3.1

●講演

1. 西村 隆：EVAHEARTの特徴と臨床成績：帝京大学EVAHEART植込みトレーニングプログラム：東京 2016/7/9
2. 西村 隆：重症心不全患者の治療：平成29年度日本心不全学会チーム医療推進委員会教育セミナー：名古屋 2017/1/22
3. 西村 隆：植込型補助人工心臓管理施設制度について：立川総合病院補助人工心臓治療説明会：新潟 2017/3/15
4. 西村 隆：NIPRO VAS システムならびに植込み手術：第16回補助人工心臓研修コース：東京：2016/6/4
5. 西村 隆：NIPRO VAS システムならびに植込み手術：第17回補助人工心臓研修コース：東京：2016/11/12
6. 西村 隆：重症心不全に対する植込型補助人工心臓ガイドラインの実践的応用：東京都健康長寿医療センター循環器セミナー：東京 2016/11/4

●著書

1. 西村 隆：体外設置型NIPRO-VAD 新版プラクティカル補助循環ガイド；239-242；2016

脳神経外科

学会研究活動は、脳血管障害、脳腫瘍、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫などに関するテーマについて、臨床のおよび基礎的な検討を行っている。老年脳神経外科学会、老年病学会、脳神経外科学会総会・コンgres・地方会などで活動している。平成26年度に脳神経外科学会がNCDに加盟し、脳神経外科手術全症例登録事業に参画した。東京都脳卒中地域連携パス会議と、板橋区医師会脳卒中連絡協議会に参加し活動した。

●単行書・報告書

- ・松岡 浩司：第1章 高齢者の疾病管理，2脳血管疾患．ナースの困ったに答える 高齢者の看護ケア よくみる疾患 よく出会う問題 監修：東京都健康長寿医療センター看護部，学研メディカル秀潤社，東京，pp 23-28, 2016.8.31.

呼吸器外科

●雑誌論文

1. Hino H, Nishimura T, Nitadori J, Miyakoshi S, Seki A, Arai T, Nakajima J. An uncommon presentation of Kikuchi-Fujimoto disease as

mediastinal lymphadenopathy. *J Thorac Dis.* 8:E330-3;2016.

2. Hino H, Kamiya M, Kitano K, Mizuno K, Tanaka S, Nishiyama N, Kataoka K, Urano Y, Nakajima J.; Rapid Cancer Fluorescence Imaging Using A γ -Glutamyltranspeptidase-Specific Probe For Primary Lung Cancer. *TransOncol* 9:203-210;2016.
3. Hino H, Nishimura T, Seki A, Nitadori J, Arai T, Nakajima J. Microthymoma in elderly-onset myasthenia gravis detected preoperatively. *Asian Cardiovasc Thorac Ann.* 2016 Aug 10. pii: 0218492316665057. [Epub ahead of print]
4. Hino H, Nishimura T, Usuki C, Sazuka M, Ito T, Seki A, Nitadori JI, Yamada H, Arai T, Yamamoto H, Nakajima J. Salvage surgery for primary lung cancer after chemotherapy in octogenarians. *Thorac Cancer.* 2017 Feb 27. doi: 10.1111/1759-7714.12423. [Epub ahead of print]

●学会・研究会発表

1. 日野春秋、唐崎隆弘、桑野秀規、長山和弘、似鳥純一、安樂真樹、佐藤雅昭、西村隆、中島淳；高齢者肺癌手術症例の臨床的検討～80歳以上と80歳未満の比較検討～；第69回日本胸部外科学会定期学術集会，岡山，10月1日，2016.
2. 日野春秋、唐崎隆弘、桑野秀規、長山和弘、似鳥純一、安樂真樹、佐藤雅昭、西村隆、中島淳；COPD合併肺癌手術成績の臨床的検討；第78回日本臨床外科学会総会，東京，11月25日，2016.
3. 日野春秋、西村隆、臼杵智江美、佐塚まなみ、関敦子、似鳥純一、山田浩和、新井富生、山本寛、中島淳；高齢者進行肺癌に対して導入化学療法後、Salvage手術を施行した1例；第57回日本肺癌学会学術集会，福岡，12月21日，2016.

整形外科・脊椎外科

●雑誌論文

- 1) Ando Y, Miyamoto Y, Tokimura F, Nakazawa T, Hamaji H, Kanetaka M, Koshiishi A, Hirabayashi K, Anamizu Y, Miyazaki T: Very rare variant of popliteal artery entrapment syndrome due to an enlarged fabella associated with severe knee osteoarthritis: first case report. *J Orthop Sci.* 2017 Jan;22(1):164-168. doi: 10.1016/j.jos.2015.06.025.
- 2) 濱路博：骨盤X線画像における人工股関節インプラント設置基準線の検討 *Hip Joint* 42:510-

512, 2016

- 3) 木幡一博、山田浩司、松本卓也、**時村文秋**、田尻康人、岡崎裕司 清潔骨折手術で手術部位によってSSI%は異なるか?～多施設共同SSIデータベース中間解析結果～ 骨折 38(1):1-5 2016
- 4) 中嶋香児、山田浩司、安部博昭、岡崎裕司、田尻康人、佐々木了、**時村文秋**、安藤祐加里、山川聖史 清潔整形外科術後発熱要因となり得る合併症 (SSIや各種感染症) の発生率 日本骨・関節感染症学会学会雑誌 Vol.29:15-20、2015
- 5) 安部博昭、山田浩司、岡崎裕司、中嶋香児、安藤祐加里、佐々木了、田尻康人、山川聖史、**時村文秋** 清潔整形外科手術のSSIリスク 日本骨・関節感染症学会学会雑誌 Vol.29:21-25、2015
- 6) 山田浩司、佐々木了、松本卓也、山川聖史、竹下祐次郎、安部博昭、金井宏幸、**時村文秋**、田中栄、松下和彦 人工関節置換術後感染のエビデンスに基づく予防 臨床整形外科 Vol.51:317-321、2016
- 7) 山田浩司、岡崎裕司、田中栄、田尻康人、荻田達郎、金井宏幸、穂積高弘、**時村文秋**、三上容司 周術期におけるSSI予防のための管理・対策 日本整形外科学会誌 90:1017-1022 2016
- 8) 木幡一博、佐々木了、田尻康人、山川聖史、**時村文秋**、中嶋香児、山田浩司 高齢者の清潔整形外科手術後尿路感染のリスクについて 多施設共同SSIデータベース解析結果 日本骨・関節感染症学会雑誌 Vol.30:101-106、2017
- 9) 木下健太、山田浩司、岡崎裕司、土屋明大、佐々木了、飯島準一、秋山宏一郎、金井宏幸、**時村文秋**、石井桂輔 下肢手術は清潔骨折手術術後30日目の継続入院率が高い 多施設共同SSIデータベース中間解析結果 骨折 Vol.38:1083-1087、2016

●総説

和文総説

- 1) 山田浩司、岡崎裕司、田中栄、田尻康人、荻田達郎、金井宏幸、穂積高弘、**時村文秋**、三上容司 インプラント感染の撲滅における進歩 周術期におけるSSI予防のための管理・対策 日本整形外科学会雑誌 Vol.90:1017-1022、2016

●学会・研究会発表

- 1) **Miyazaki T, Tokimura F**, Azuma S, Harada

I, Sawada Y. Osteocyte-specific Cas knockout mice exhibit decreased bone mass through RANKL expression. 4th International Conference on Geriatrics and Gerontology. London, UK. 2016.10.3-4.

- 2) **宮崎剛**: 骨粗鬆症研究と治療の進歩～基礎から臨床まで～ 第3回 骨粗鬆症を考える会, 東京池袋サンシャイン60ビル, 2016.7.19
- 3) **長沼英俊**、岡敬之、松平浩 介護労働者における腰痛慢性化に関するリスク因子の検討 第9回 日本運動器疼痛学会 2016.11.16 東京
- 4) **濱路博**、**金高正和** 85歳超の高齢大腿骨頸部骨折に対するセメントレス人工骨頭ステム Exciaの初期固定性の検討 第47回 日本人工関節学会 2017.2.25 沖縄
- 5) 山田浩司、東川晶郎、穂積高弘、山川聖史、竹下祐次郎、増田和浩、**穴水依人**、小林篤樹、佐々木了、安部博昭、渡邊健一、唐司寿一、加藤慎也、中元秀樹、中嶋香児 清潔脊椎外科手術の術後発熱要因となり得る合併症の発生率 第45回 日本脊椎脊髄病学会 2016.4.14 幕張
- 6) 中嶋香児、山田浩司、安部博昭、穂積高弘、山川聖史、竹下祐次郎、増田和浩、**穴水依人**、小林篤樹、佐々木了、東川晶郎、渡邊健一、唐司寿一、加藤慎也、中元秀樹、三好光太 脊椎緊急手術では待機手術と比較して術後合併症発生率が増加する 第45回 日本脊椎脊髄病学会 2016.4.14 幕張
- 7) 中元秀樹、山田浩司、竹下祐次郎、三好光太、東川晶郎、安部博昭、増田和浩、近藤泰児、**穴水依人**、小林篤樹 脊椎インストゥルメンテーション手術のSSIリスク～多施設共同SSIデータベース中間解析結果～ 第45回 日本脊椎脊髄病学会 2016.4.16 幕張
- 8) 東川晶郎、山田浩司、穂積高弘、山川聖史、竹下祐次郎、中元秀樹、中嶋香児、三好光太、増田和浩、**穴水依人**、小林篤樹、佐々木了、安部博昭、渡邊健一、唐司寿一、加藤慎也 インストゥルメンテーションの使用により脊椎術後合併症発生率は上昇する～清潔脊椎手術1005名の解析結果～ 第45回 日本脊椎脊髄病学会 2016.4.14 幕張
- 9) Koji Yamada, Sakae Tanaka, Hiroshi Okazaki, Yasuhito Tajiri, Karita Tatsuro, **Tokimura Fumiaki**, Hiroyuki Kanai, Yoji Mikami, Kiyofumi Yamakawa, Takuya Matsumoto, Satoru Sasaki The Epidemiology and Prevention of Periprosthetic Joint Infection (PJI) 第89回 日本整形外科学会学術総会JOA/AAOS combined symposium 2016.5.14 横浜

- 10) 大庭紗希、山田浩司、三上容司、竹下祐次郎、安部博昭、山川聖史、金井宏幸、木幡一博、松本卓也、田尻康人、**穴水依人** 清潔整形外科手術のSSIリスク～4142件の解析結果～ 第89回日本整形外科学会学術総会 2016.5.15 横浜
- 11) 戸澤 慧一郎、山田浩司、苅田達郎、竹下祐次郎、佐藤敏秀、金井宏幸、穂積高弘、**時村文秋**、田尻康人、岡崎裕司、松本卓也 清潔整形外科手術の手術部位感染リスク ～若年者・高齢者の相違～ 第89回日本整形外科学会学術総会 2016.5.15 横浜
- 12) 中嶋香兒、山田浩司、**時村文秋**、佐々木了、田尻康人、山川聖史、木幡一博 清潔整形外科手術で手術部位感染の臨床所見は感染の深達度で異なるか？ 第39回日本骨関節感染症学会 2016.7.8 岡山
- 13) 木幡一博、山田浩司、佐々木了、田尻康人、山川聖史、**時村文秋**、中嶋香兒、苅田 達郎 高齢者の清潔整形外科手術後尿路感染のリスクについて～多施設共同SSIデータベース解析結果～ 第39回日本骨関節感染症学会 2016.7.9 岡山
- 14) 東原 真奈、**時村 文秋**、中野 雄太、松田 陽子、櫻井 圭太、徳丸 阿耶、新井 富生、園生 雅弘、村山 繁雄 腕神経叢生検における電気生理学的局在診断の有用性についての検討 局所再発を伴わない乳癌の腕神経叢転移を病理診断しえた57歳女性例 第27回末梢神経学会 2016.8.26 大阪
- 15) 小野 秀子、東原 真奈、桜山 千恵子、大石 知瑞子、村山 繁雄、**時村 文秋**、園生 雅弘 下位腕神経叢障害を示唆する神経伝導検査所見のパターンについての検討 ルーチンNCSから、下位腕神経叢障害を見出すための試み 第46回日本臨床神経生理学会 2016.10.29 福島
- 16) 木幡 一博、松本 卓也、石井 桂輔、**時村 文秋**、佐々木 了、田尻 康人、岡崎 裕司、山田 浩司 大腿骨近位部骨折における手術待機期間と術後合併症の関係 第39回日本骨関節感染症学会 2016.7.9 岡山

皮膚科

平成28年度の皮膚科研究活動も現在の臨床研究のテーマである「高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的研究」(研究代表者は種井良二、共同研究者は老年病理学長谷川康子技師)を中心として実施した。

また、種井は日本皮膚科学会雑誌の2論文、英文雑誌のJournal of Clinical Neuroscienceの1論

文、Geriatrics and Gerontology Internationalの1論文でreviewer(査読)を行うなど学究的にも世間にも貢献した。

●雑誌論文

1. Tanei R, Hasegawa Y. Double-positive ImmunoglobulinE+ and Dermatophagoides farinae antigen+ dendritic cells are observed in Skin Lesions of Older Adults with Atopic Dermatitis: An Immunohistological Study. *Dermatology Clinics & Research* 2017. 3(1): 134-150
2. Tanei R, Noguchi E. Elderly Atopic Dermatitis in a Father and Daughter Associated with MHC Class II Allele HLA-DRB1*1501. *Dermatology Clinics & Research* 2016. 2(2)
3. Tanei R, Oda A, Hasegawa Y. Narrow-Band Ultraviolet B is a Useful Adjunctive Treatment for Atopic Dermatitis in Older Adults: Case Reports. *Dermatology Clinics & Research* 2016. 2(3)

●学会・研究会発表

1. 種井良二、シンポジウム「アトピー性皮膚炎の時間軸」高齢者のアトピー性皮膚炎、第40回日本小児皮膚科学会学術大会、広島、2016.7.3

●講師等院外活動

1. 種井良二、高齢者のアトピー性皮膚炎の話題。第6回城南皮膚病カンファレンス、東京、2016.7.28

泌尿器科

(論文・著書など)

1. 榊永 浩一.
【特集】生活習慣病と下部尿路症状 脂質異常症と下部尿路症状
排尿障害プラクティス 24(1):32-38, 2016 Jun

(学会・研究会発表など)

1. 榊永浩一、鈴木基文、新井富生、粕谷 豊、本間之夫。
ラテント前立腺癌の臨床的・病理学的特徴の検討
第29回日本老年泌尿器科学会 2016年5月13-14日(14日) 福岡市
2. 飯村佳織、渡辺信博、堀田晴美、榊永浩一、粕谷 豊、宮崎彰吾、久島達也、高橋秀則、金憲経。

トランスレーショナル・リサーチ 夜間頻尿を有する高齢女性に対する会陰部領域への接触鍼による軽微な皮膚刺激を用いたセルフケアの効果 ランダム化比較2重盲検クロスオーバー試験による検討

第65回全日本鍼灸学会学術大会 2016年6月10-12日 (11日) 札幌市

眼科

沼賀は内因性ぶどう膜炎の臨床研究、術後炎症に対する薬物療法、また新薬の評価及び新しい臨床応用についての検討、青木は当研究所の新開らが行っている鳩山町研究の追跡調査とリンクして加齢黄斑変性症 (AMD) およびその前駆病変の有病率及び栄養疫学調査を行い、これまでに学会発表を行っている。今後は最近AMDとの関連が示唆されているコレステリエステル転送タンパク遺伝子多型やHDLコレステロールといった脂質代謝とAMDの発症との関連を鳩山町研究のコホートを用い解析予定である。本研究に危険因子を同定することにより、新たなAMD 発症におけるメカニズムの解明を目的とする。外山は超高齢者の白内障手術について後向き研究を行い、手術成績及びその安全性について検討している。寺田はヘルペス性前部ぶどう膜炎 (CMV、HSV、VZV) の特徴をまとめ、日本人での総説を作成している。また以前より行っているぶどう膜炎の臨床統計を継続中。山本は網膜硝子体疾患の手術療法についての臨床研究を行っている。高尾は東大病院黄斑外来を受診し近視性脈絡膜新生血管と診断され、抗VEGF療法pro re nata (PRN) 投与を行った症例を対象として、抗VEGF療法における無再発期間について検討。無再発期間を後ろ向きに調査し、生存分析を用いて無再発率を求め、その無再発率を用いて“nヶ月再発なし”を条件とし、さらにmヶ月後の無再発率 $P(n+m;n)$ を推定。妥当な診察間隔の検討に本解析結果が参考になりうる事を検討中。

●雑誌論文

1. 方波見有貴、坂田 礼、本庄 恵、沼賀二郎
白内障術後10か月目に明らかになった前房内異物1例
日眼会誌 120:310-5 2016 (原著)
2. 吉谷栄人、坂田 礼、沼賀二郎、本庄 恵
緑内障患者に対するリバスジル塩酸塩水和物点眼液の眼圧下効果と安全性の検討
あたらしい眼科 33:1187-1190 2016 (原著)
3. Horie Y, Kitaichi N, Hijioka K, Sonoda KH,

Saishin Y, Kezuka T, Goto H, Takeuchi M, Nakamura S, Kimoto T, Shimakawa M, Kita M, Sugita S, Mochizuki M, Hori J, Iwata M, Shoji J, Fukuda M, Kaburaki T, Numaga J, Kawashima H, Fukushima A, Joko T, Takai N, Ozawa Y, Meguro A, Mizuki N, Namba K, Ishida S, Ohno
Ocular Behçet's disease is less complicated with allergic disorders. A nationwide survey in Japan.

S.Clin Exp Rheumatol. 2016 Sep-Oct;34 Suppl 102(6):111-114. (原著)

4. Yukiko Terada, Koju Kamoi, Kyoko Ohno-Matsui, Kazunori Miyata, Chinami Yamano, Ariella Coler-Reilly, Yoshihisa Yamano
Treatment of rheumatoid arthritis with biologics may exacerbate HTLV-1-associated conditions: a case report.
Medicine. 2017 Feb;96(6):e6021. (原著)
5. Yukiko Terada, Takashi Komizo, Koju Kamoi, Kazunori Miyata, Manabu Mochizuki
Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 and Eye Diseases
Journal Ocular Pharmacology and Therapies special issue. J Ocul Pharmacol Ther. 2017 May;33(4):216-223. (原著)

●単行書・報告書

1. 寺田裕紀子：「高齢者で注意すべき眼科疾患」
KeynoteR・A :vol.5, no.1、先端医学社(東京)、page2-5 (2017.1)
2. 寺田裕紀子：「ぶどう膜の病気」眼科ケア2017
春季増刊 目の病気ビジュアルBOOK、メディカ出版(東京)、page102-119 (2017.3.4)

●学会・研究会発表

1. 永井瑞希、寺田裕紀子、松田順子、青木 彩、井上賢治、沼賀二郎
脊髄炎がみられたサルコイドーシス眼病変の1例
第120回日本眼科学会総会 (仙台)
2016年4月7日.
2. 中原久恵、蕪城俊克、田仲理恵、大友一義、高本光子、小前順子、沖永貴美子、松田順子、沼賀二郎、藤野雄次郎
ベーチェット病ぶどう膜炎におけるインフリキシマブ導入前後の血清中サイトカイン変化
第120回日本眼科学会総会 (仙台)
2016年4月8日
3. Rie Tanaka, Kazuyoshi Ohtomo, Mitsuko Takamoto, Keiko Komae, Jiro Numaga, Yujiro

Fujino, Makoto Aihara
Clinical characteristics of Japanese patients
with scleritis
ARVO (Seattle, USA)
2016年5月3日

4. Junko Matsuda, Toshikatsu Kaburak, Rie Tanaka, Mitsuko Takamoto, Hisae Nakahara, Kazuyoshi Ohtomo, Yujiro Fujino, Jiro Numaga, Hideomi Yamashita, Mineo Kurokawa, Makoto Aihara
Combined intravitreal methotrexate and immunochemotherapy followed by reduced-dose whole-brain radiotherapy for newly diagnosed primary B-cell intraocular lymphoma
ARVO (Seattle, USA)
2016年5月3日
5. 日下部茉莉、蕪城俊克、田中理恵、大友一義、高本光子、中原久恵、沖永貴美子、白濱新多郎、沼賀二郎、藤野雄次郎
トキソプラズマ網脈絡膜炎11例の臨床状の検討
第70回日本臨床眼科学会（京都）
2016年11月5日
6. 高木優介、沢村裕正、寺田裕紀子、藤代貴志、沼賀二郎、相原一
多発性骨髄腫による圧迫性視神経症の一例
第54回日本神経眼科学会総会（宮崎）
2016年11月25日
7. Ono T, Terada Y, Mori Y, Nejima R, Ogata M, Minami K, Miyata K
The persistence of pain relief after corneal crosslinking in mild bullous keratopathy eyes
ARVO2016 annual meeting（米国）
2016年5月1日

耳鼻咽喉科

●原著論文

1. Ohno K, Matsuda Y, Arai T, Sugihara T, Iga S, Kimura Y: Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Positive Otitis Media and Rhinosinusitis with Pathological Features of Immunoglobulin G4-Related Disease: A Case Report. *Ann Otol Rhinol Laryngol* 125:516-21, 2016.
 2. Nishio A, Ito T, Cheng H, Fitzgerald TS, Wangemann P, Griffith AJ: *Slc26a4* expression prevents fluctuation of hearing in a mouse model of large vestibular aqueduct syndrome. *Neuroscience* 329:74-82, 2016.
 3. Noguchi Y, Takahashi M, Ito T, Fujikawa T, Kawashima Y, Kitamura K.
Delayed restoration of maximum speech discrimination scores in patients with idiopathic sudden sensorineural hearing loss.
Auris Nasus Larynx. 5:495-500,2016
 4. 木村百合香, 大野慶子, 本庄需, 奥野秀次, 小林一女: 外科的治療により消失したアブミ骨筋性耳鳴の一例. *日本耳科学会会報* 26:664-7, 2016.
- ### ●学会発表
1. 伊藤卓, 西尾綾子, 喜多村健: SLC26A4機能不全は血管条の変性を主体とした進行性難聴を引き起こす. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月.
 2. 西尾綾子, 伊藤卓, 喜多村健: *Slc26a4*発現は *Slc26a4*機能不全マウスの聴力変動を抑制する. 第26回日本耳科学会総会・学術講演会, 長野, 2016年10月.
 3. 三輪好, 西尾綾子, 高橋正時: 東京都健康長寿医療センターにおける補聴器適合の現状. 第31回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会, 東京, 2016年12月.
 4. 本庄需, 高橋正時, 大野慶子, 堤剛: 両側同時性顔面神経麻痺を来したヘルペスウイルス性髄膜炎の一例. 第26回日本耳科学会総会・学術講演会 長野, 2016年10月.
 5. 木村百合香, 大野慶子, 岸本誠司, 他: 神経変性疾患における上気道狭窄への対応～一期的な誤嚥防止術の適応はあるか?～. 第68回日本気管食道科学会総会・学術集会 東京, 2016年11月.
 6. 大野慶子, 松田陽子, 新井富生, 木村百合香, 高橋正時, 本庄需, 堤剛: 慢性副鼻腔炎におけるIgG4陽性形質細胞浸潤. 第31回御茶の水耳鼻咽喉科・頭頸部外科研究会 東京, 2016年12月
 7. 川島慶之, 野口佳裕, 高橋正時, 他: 骨固定型補聴器(Baha)埋込術の遅発性合併症に関する長期経過報告. 第26回日本耳科学会総会・学術講演会, 長野, 2016年10月.
 8. 古宇田寛子, 牧野奈緒, 高橋正時, 他: 中高齢者IgA腎症に対する扁桃摘除術の検討. 第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会, 名古屋, 2016年5月.
- ### ●受賞歴
1. 大野慶子 第28回村上元孝記念研究奨励賞 優秀論文賞

歯科口腔外科

●学会・研究会発表

(国内)

- 1) 日置沙希、森美由紀、齊藤美香、山口雅庸 「口蓋に進展したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例」日本老年歯科学会 (6月18、19日)
- 2) 森美由紀、奥村拓真、日置沙希、齊藤美香、山口雅庸、平野浩彦 「敗血症に至った急性化膿性顎関節炎の1例」板橋区医師会学会 (9月10、11日)
- 3) 日置沙希、奥村拓真、森美由紀、齊藤美香、山口雅庸、平野浩彦 「口蓋に再発したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例」板橋区医師会学会 (9月10、11日)
- 4) 森美由紀、日置沙希、奥村拓真、齊藤美香、平野浩彦 「テリパラチド投与後に外科的療法を施行した骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の1例」日本口腔外科学会関東地方会 (12月10日)
- 5) 高橋恵子、田村有華、五十嵐麻奈三、住友良子、奥村拓真、日置沙希、森美由紀、齊藤美香、平野浩彦 「A医療センター歯科口腔外科における周術期口腔機能管理について」東京都福祉保健医療学会 (抄録掲載)
- 6) 平野浩彦, 地域在住高齢者の口腔機能および全身機能の低下とフレイルの関係について. 第27回日本老年歯科医学会シンポジウム I 口腔機能と全身機能低下、フレイルとの関係を考える, 徳島, 2016.6.18
- 7) 堀部耕広、平野浩彦、渡邊 裕、石崎 憲、上田貴之、櫻井 薫 地域在住高齢者における咀嚼機能に対するフレイルの影響 第301回東京歯科大学学会(例会), 東京, 2014.6.4,23
- 8) 本川佳子、枝広あや子、杉山美香、稲垣宏樹、宇良千秋、宮前史子、岡村 毅、村山洋史、平野浩彦、栗田圭一 地域在住高齢者におけるフレイル有症率と認知機能・生活状況・主観的健康感等に関する検討 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
- 9) 本川佳子、枝広あや子、渡邊 裕、吉田英世、大淵修一、河合 恒、解良武士、井原一成、藤原佳典、平野浩彦, 地域在住高齢者を対象としたフレイルと栄養状態の検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
- 10) 白部麻樹、平野浩彦、小原由紀、飯島勝矢、菊谷 武、本川佳子、村上正治、枝広あや子、渡邊 裕, 地域在住高齢者の歯周疾患実態調査報告—口腔の状態と機能, および全身との関連—, 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 11) 枝広あや子、平野浩彦、渡邊 裕、村上正治、白部麻樹、本川佳子、須磨紫乃、小原由紀、森下志穂、栗田圭一. 認知症高齢者に対する適切な歯科治療の提供に資する検討~FASTを基準に~. 第27回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 徳島, 2016.6.17-19
- 12) 小原由紀、森下志穂、白部麻樹、本川佳子、枝広あや子、渡邊 裕、平野浩彦, 要介護高齢者の口腔機能および栄養状態の経年変化—2年間の縦断データの分析—. 第27回日本老年歯科医学会学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 13) 須磨紫乃、渡邊 裕、松下健二、森下志穂、小原由紀、白部麻樹、本川佳子、枝広あや子、平野浩彦 アルツハイマー型認知症 (AD) と軽度認知機能障害 (MCI) の特性の比較検討, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 14) 森下志穂、渡邊 裕、平野浩彦、枝広あや子、小原由紀、村上正治、菊谷 武 軽度認知障害 (MCI) 高齢者の口腔機能低下に関する研究, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 15) 堀部耕広、平野浩彦、渡邊 裕、枝広あや子、小原由紀、本川佳子、白部麻樹、吉田英世、大淵修一、上田貴之、櫻井 薫 地域在住高齢者における咬合力および咀嚼能力の低下とフレイルとの関連, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 16) 梅木賢人、平野浩彦、渡邊 裕、小原由紀、枝広あや子、本川佳子、村上正治、須磨紫乃、森下志穂、白部麻樹、五十嵐憲太郎、河相安彦 高齢者のフレイルとオーラル・フレイルとの関連に関する検討~要介護高齢者の四肢骨格筋量と咬筋厚との関連より~. 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 17) 伊藤誠康、梅木賢人、平野浩彦、五十嵐憲太郎、吉田英世、渡邊 裕、大淵修一、井上正安、郡司敦子、木本 統、河相安彦 地域在住高齢者における残存歯数と聴力の関連に関する検討, 平成28年度日本老年歯科医学会総会・学術大会, 徳島, 2016年6月18日
- 18) 枝広あや子、本川佳子、白部麻樹、平野浩彦、渡邊 裕、田中弥生、安藤雄一、荒井秀典 介護保険施設を対象とした経口維持管理加算に関するヒアリング調査報告. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.23-24
- 19) 金久弥生、坂本まゆみ、森下志穂、池山豊子、小原由紀、原 久美子、平野浩彦、渡邊 裕 特別養護老人ホーム入所者の食支援と口腔の管理

- に関する実態調査報告, 第11回日本歯科衛生学会, 広島, 2016.9.18
- 20) 白部麻樹, 渡邊 裕, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 恒石美登里, 吉田英世, 大淵修一, 地域在住高齢者の口腔機能に関する実態調査報告 一年齢5歳ごとの変化率の検討一, 日本歯科衛生学会 第11回学術大会, 広島, 2016.09.17-19
- 21) 本橋佳子, 渡邊 裕, 枝広あや子, 白部麻樹, 本川佳子, 平野浩彦, 吉田英世, 小原由紀, 大河内二郎, 安藤雄一, 要介護高齢者の口腔・栄養管理ガイドライン作成の試み, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.27-29
- 22) 白部麻樹, 渡邊 裕, 小原由紀, 枝広あや子, 本橋佳子, 本川佳子, 河合 恒, 井原一成, 平野浩彦, 藤原佳典, 吉田英世, 大淵修一, 地域在住後期高齢者における口腔機能検査の受診希望と関連する因子の検討, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
- 23) 平野浩彦, 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会、市民会員シンポジウム、千葉、2016.11.27
- 24) 本川佳子, 安田 純, 枝広あや子, 白部麻樹, 田中弥生, 平野浩彦, 渡邊 裕, 要介護高齢者の転帰と栄養関連指標の関係～特別養護老人ホームにおける長期観察研究～, 第32回日本静脈経腸栄養学会, 岡山, 2016.2.22-24
- (海外)
- 1) Shino Suma, Yutaka Watanabe, Hidenori Arai, Kenji Matsushita, Takashi Sakurai, Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Yuki Ohara. Differential factors affect the appetite in AD and MCI patients The 12th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistry Tokyo 2016.05.27-29.
- 2) Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Shiho Morishita, Maki Shirobe, Keiko Endo. Risk factors associated with aspiration in older persons requiring long-term care: An investigation with a 2-year follow-up. The 12th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistry Tokyo 2016.05.27-29.
- 3) Yasuhiro Horibe, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Ken Ishizaki, Takayuki Ueda, Kaoru Sakurai. Relationship between masticatory function and frailty in community-dwelling older Japanese 40th European Prothodontic Association, Halle, Germany 2016.9.15-17
- 4) Masaharu Murakami, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Ayako Edahiro, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda. Is the sarcopenia associated with the occlusal force? 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Nagoya, 2016.11.05
- (1) 原著
- 1) Takagi D, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int.* 2016 May 6. doi:10.1111/ggi.12728. (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
- 2) Morishita S, Watanabe Y, Ohara Y, Edahiro A, Sato E, Suga T, Hirano H. Factors associated with older adults' need for oral hygiene management by dental professionals. *Geriatr Gerontol Int.* 2016 Aug;16(8):956-62. doi:10.1111/ggi.12585. PMID:26338200 (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
- 3) Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Yoshida H, Mataka S, Hirano H, Watanabe Y. Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. *Geriatr Gerontol Int.* 2016 Aug 17. doi:10.1111/ggi.12873. [Epub ahead of print] PubMed PMID:27531046. (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
- 4) Kera T, Edahiro A, Hirano H, Kawai H, Yoshida H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S; TOSHIMA Research Group . Alternating Motion Rate to Distinguish Elderly People With History of Pneumonia. *Respir Care.* 2016 Sep 27. pii:respcare.04609. [Epub ahead of print] PMID:27677306 (査読あり) (IF : 1.922, 2015)
- 5) Watanabe Y, Hirano H, Arai H, Morishita S, Ohara Y, Edahiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T. Relationship Between Frailty and Oral Function in Community-Dwelling Elderly Adults. *J Am Geriatr Soc.* Jan;65(1):66-76. (査読あり) (IF : 3.842, 2015)
- 6) Tokudome Y, Okumura K, Kumagai Y, Hirano H, Kim H, Morishita S, Watanabe Y. Development of the Japanese Versions of the Council on Nutrition Appetite Questionnaire and Its Simplified Questionnaires, and Evaluation of Their Reliability, Validity, and

- Reproducibility. J Epidemiol. 2016 in press (査読あり) (IF : 2.546、2015)
- 7) Kim M, Suzuki T, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Kim H. Association of Serum β 2-microglobulin Levels with Prevalent and Incident Physical Frailty in Community-Dwelling Older Women: 2175 Board #327 June 2, 3: 30 PM - 5: 00 PM. Med Sci Sports Exerc. 2016 May;48(5 Suppl 1):615-6. doi:10.1249/01.mss.0000486848.02017.50. PubMed PMID:27361000. (査読あり) (IF : 3.54、2015)
 - 8) Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y. Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults. Geriatr Gerontol Int. 2016 Jul 7. doi:10.1111/ggi.12829. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27390033. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
 - 9) Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M. Exome-wide Association Study Identifies CLEC3B Missense Variant p.S106G as Being Associated With Extreme Longevity in East Asian Populations. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2016 May 6. pii: glw074. [Epub ahead of print] PubMed PMID:27154906. (査読あり) (IF : 5.476、2015)
 - 10) Suzuki Y, Kawai H, Kojima M, Shiba Y, Yoshida H, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S. Construct validity of posture as a measure of physical function in elderly individuals: Use of a digitalized inclinometer to assess trunk inclination. Geriatr Gerontol Int. 2016 Sep;16(9):1068-73. doi:10.1111/ggi.12600. PubMed PMID:26459612. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
 - 11) 白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田英世, 大淵修一, 都市部在住高齢者を対象とした歯周疾患実態調査, 老年歯科医学, 31(1), 18-27, 2016
 - 12) 河合 恒, 猪股高志, 大塚理加, 杉山陽一, 平野浩彦, 大淵修一. 化粧ケアが地域在住高齢者の主観的健康感へ及ぼす効果 傾向スコア法による検証 日本老年医学会雑誌 53 巻 2 号 Page123-132(2016.04)
 - 13) 駒井さつき, 渡邊 裕, 藤原佳典, 金 憲経, 枝広あや子, 河合 恒, 吉田英世, 大淵修一, 田中弥生, 平野浩彦 日本の地域在住高齢者における栄養状態とサルコペニア重症度の関連性の検討 —BMI, Alb, 体重減少の有無との関連— 日本老年医学会雑誌. 2016; 53, 4, p387-395
 - 14) 本川佳子, 田中弥生, 菅 洋子, 細山田洋子, 枝広あや子, 高城大輔, 平野浩彦, 渡邊 裕 アルツハイマー病高齢者における認知症重症度別, 身体組成・栄養指標に関する検討 日本静脈経腸栄養学会誌 2016 in press
- (2) 総説
- 1) Kim H, Hirano H, Edahiro A, Ohara Y, Watanabe Y, Kojima N, Kim M, Hosoi E, Yoshida Y, Yoshida H, Shinkai S. Sarcopenia: Prevalence and associated factors based on different suggested definitions in community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. 2016 Mar;16 Suppl 1:110-22. doi:10.1111/ggi.12723. Review.PMID:27018289
 - 2) 服部佳功, 枝広あや子, 渡邊 裕, 平野浩彦, 古屋純一, 中島純子, 田村文誉, 北川 昇, 堀一浩, 原 哲也, 吉川峰加, 西 恭宏, 永尾 寛, 市川哲雄, 櫻井 薫, 一般社団法人日本老年歯科医学会ガイドライン委員会. 認知症患者の歯科治療に対する疑問と問題点 Clinical Question調査から. 老年歯科医学 31 巻 1 号 Page3-8(2016.06)
 - 3) 平野浩彦 歯科衛生士の認知症対応力向上を目指して 新オレンジプランの視点から日本歯科衛生学会雑誌 11巻1号 Page25-33(2016.08)
 - 4) 水口俊介, 津賀一弘, 池邊一典, 上田貴之, 田村文誉, 永尾 寛, 古屋純一, 松尾浩一郎, 山本 健, 金澤 学, 渡邊 裕, 平野浩彦, 菊谷 武, 櫻井 薫, 高齢期における口腔機能低下 一学会見解論文 2016年度版— 老年歯科医学31巻2号 Page81-99(2016.09)
 - 5) 平野浩彦 【オーラルフレイルの現状と課題】オーラルフレイル その概要と展望 Progress in Medicine36巻9号 Page1163-1169(2016.09)
 - 6) 平野浩彦. オーラルフレイルの概念. 日本老年医学会雑誌. 2016; 53, 4, p327-333
 - 7) 枝広あや子, 平野浩彦. 特集 終末期における患者さんの“物語り”を考えるChapter2 「終末期」に歯科衛生士はどのようにかかわることができるか. デンタルハイジーン 36 巻 12 号 P1298-1301, 2016.12
 - 8) 平野浩彦:【オーラルフレイル予防と健康づくり】いまなぜオーラルフレイルが注目されるの

か フレイルの概念から 介護福祉・健康づくり(2188-2428) 3巻2号 Page85-90(2016.12)

- 9) 平野浩彦：オーラルフレイル予防 ささいな口のトラブルを見逃すな! 老年学・老年医学公開講座145回 Page15-27(2017.01)
- 10) 平野浩彦【フレイルとアンチエイジング】オーラルフレイル、アンチ・エイジング医学(1880-1579)12巻5号 Page625-631(2016.10)】
- 11) 平野浩彦：歯科衛生士の認知症対応力向上を目指して 新オレンジプランの視点から、日本歯科衛生学会雑誌(1884-5193) 11巻1号 Page25-33(2016.08)

(3) 著書等

- 1) 平野浩彦, 飯島勝矢, 菊谷 武, 渡邊 裕, 戸原 玄(編者) 実践!オーラルフレイル対応マニュアル. 公益財団法人東京都福祉保健財団, 東京, 2016.10.

●研究事業

- 1) 平野浩彦(班員)平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤A
認知症の原因疾患および重症度による摂食・咀嚼・嚥下障害の特徴とケアスキルの開発
- 2) 平野浩彦(主任)平成28年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業
認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究
- 3) 平野浩彦(事業主任)厚生労働省平成29年度老人保健健康増進等事業(老人保健事業推進費等補助金)認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等における認知症高齢者に対する適切な口腔ケア及び経口維持支援のあり方に関する調査研究事業
- 4) 平野浩彦(主任)平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)基盤C
アルツハイマー病およびレビー小体型認知症の摂食嚥下障害への対応に関する調査研究

麻酔科

●総説

- 1) 小倉 信：高齢者専門病院での周術期管理. 特集 健康長寿国での医療と周術期管理. 臨床麻酔. 2016：40-3：437-44
- 2) 小倉 信：大腿骨頸部骨折. 症例検討 下肢の手術. LiSA. 2016：644-7

●学会発表

- ・ 朴 廣業, 前川 真基, 河村 研人, 阿部 咲子, 鄭 仁熙, 小倉 信：頭低位腹腔鏡下手術後に生じた腕神経叢麻痺の症例を踏まえ、再発防止に向けた当院の取り組み. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部 第56回合同学術集会. 東京, 9月3日, 2016

リハビリテーション科

●雑誌論文

- 1) 藤本静香, 藤本修平, 太田隆, 金丸晶子：変形性膝関節症患者における基本動作能力と日常生活活動の関連性. 理学療法科学. 31(2): 239-245, 2016
- 2) 小山照幸, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 加藤貴行, 金丸晶子, 太田 隆：当センターにおけるがんのリハビリテーション. 板橋区医師会医学会誌21: 133-136, 2017
- 3) 杉原毅彦, 松本拓実, 恵島 将, 常吉沙帆里, 徳丸阿耶, 小山照幸, 松田陽子, 藤ヶ崎純子, 原田和昌, 加藤貴行：Conference Room 不明熱と腎障害,意識障害を呈した70歳代男性の1例(東京都健康長寿医療センターCPC). 内科 118(2): 285-297, 2016
- 4) Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K.: Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer: A case report. Geriatr Gerontol Int. Oct;16(10):1171-1172, 2016
- 5) Yagi M, Yasunaga H, Matsui H, Fushimi K, Fujimoto M, Koyama T, Fujitani J: Impact of rehabilitation on outcomes in patients with ischemic stroke: A nationwide retrospective cohort study in Japan. Stroke 48(3): 740-746, 2017
- 6) Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP: Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. Geriatr Gerontol Int. Jan 26, 2017

●総説

- 1) 小山照幸:3ステップでわかるリハビリ病棟の疾患・リハ・看護まるごとブック:第2章 疾患・障害・リハビリ編 循環器疾患. リハビリナース 2016秋季増刊:130-136, 2016
- 2) 小山照幸:3ステップでわかるリハビリ病棟の

疾患・リハ・看護まるごとブック：第2章 疾患・障害・リハビリ編 呼吸器疾患. リハビリナース 2016秋季増刊：137-145, 2016

●学会・研究会発表

- 1) 加藤貴行, 金丸和富：『高齢者いきいき外来』でのMMSEとRBMTを用いた軽度認知障害の診断についての検討. 第57回日本神経学会学術大会. 神戸. 5月18日, 2016
- 2) 山口真依, 小宮山潤, 渡邊敬幸, 樋口和奏, 藤本静香, 太田 隆, 金丸晶子：人工膝関節全置換術前後における歩容の経時的変化と身体機能との関連—3軸加速度を用いた検討—. 第51回日本理学療法学術大会. 札幌, 5月27日, 2016
- 3) 江渕貴裕, 川澄晃子, 森田孝枝, 河地由恵, 小山照幸, 太田 隆, 金丸晶子：劇症型心筋炎により急性心不全を呈し, 左室補助人工心臓, 右室補助人工心臓・膜型人工肺を装着した症例に対する理学療法の経験. 第51回日本理学療法学術大会. 札幌, 5月28日, 2016
- 4) 金丸晶子, 中嶋梨江, 熊木陽平, 菅原康宏, 児玉寛子, 大渕修一, 高橋龍太郎：被災地地域住民のトレイルメイキングテスト(TMT)で示される認知機能と身体機能の関係. 第58回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月8日, 2016
- 5) 中嶋梨江, 金丸晶子, 加藤貴行, 河地由恵, 本田拓也, 生井 瞳, 菅原康宏, 太田 隆：軽度認知機能障害(MCI)に対する認知・運動リハビリテーション効果. 第58回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月8日, 2016
- 6) 加藤貴行, 金丸晶子, 小山照幸, 正田奈緒子, 齊藤陽子：『高齢者いきいき外来』でのMMSEとRBMTを用いた軽度認知障害の診断についての検討. 第53回日本リハビリテーション医学会. 京都. 6月9日, 2016
- 7) 正田 奈緒子, 金丸 晶子, 加藤 貴行, 小山 照幸, 齊藤 陽子：ボツリヌス毒素施注により側彎および頭位異常が改善し身体機能向上がみられたアテトーゼ型脳性麻痺の1例. 第53回日本リハビリテーション医学会. 京都. 6月9日, 2016
- 8) 小山照幸：保険診療からみたリハビリテーション関連医療費. 第53回日本リハビリテーション医学会. 京都. 6月9日, 2016
- 9) 江渕貴裕, 金丸晶子, 榎戸理沙, 齋藤陽子, 太田 隆：急性期病院における廃用予防を目的としたリハビリテーションラウンドの試み. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会. 京都, 6月9日, 2016
- 10) 河地由恵, 加藤貴行, 岩本美由紀, 平岡 共, 牧田彩加, 菅原康宏, 金丸晶子：軽度認知機能障害が疑われる高齢者におけるMoCA-J遅延再生とリバーミード行動記憶検査の関連性の検討. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会. 京都. 6月9日, 2016
- 11) 金丸晶子, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 小山照幸, 加藤貴行：急性期病院での"廃用ラウンド"で何が変わるか? 第53回日本リハビリテーション医学会. 京都. 6月10日, 2016
- 12) 小山照幸, 八木麻衣子, 藤谷順子, 藤本雅史：誤嚥性肺炎症例に対する早期リハビリテーションのADL改善への効果. 第53回日本リハビリテーション医学会. 京都. 6月10日, 2016
- 13) 小山照幸：心大血管疾患リハビリテーション料届出医療機関数の動向. 第22回日本心臓リハビリテーション学会. 東京. 7月17日, 2016
- 14) 小山照幸：診療報酬からみた心臓リハビリテーションの普及について 医療費の変化. 第22回日本心臓リハビリテーション学会. 東京. 7月17日, 2016
- 15) 小山照幸, 江渕貴裕, 川澄晃子, 小宮山潤, 山口真依, 伊藤卓也, 河田光弘, 西村 隆, 許 俊鋭：当センターにおける左室補助人工心臓装着症例に対するリハビリテーションの検討. 第22回日本心臓リハビリテーション学会. 東京. 7月17日, 2016
- 16) Kazutomi Kanemaru, Akiko Kanemaru, Yasushi Nishina, Renpei Sengoku, Daita Kaneda, Shigeo Murayama: Association between Renal Functions and CSF Biomarkers in Alzheimer's Disease. AAIC2016 (Alzheimer's Association International Conference 2016). Toronto, July 25, 2016
- 17) 平岡 共：高次脳機能障害を来した多発性硬化症の認知リハビリテーション—継続的介入から就労支援へつなげた一例. 第35回心理臨床学会秋季大会. 横浜. 9月5日, 2016
- 18) 秋元美穂, 熊木陽平, 正田奈緒子, 金丸晶子：成人アテトーゼ型脳性麻痺患者に対しチームで関わるボツリヌス療法—変動する筋緊張と生活スタイルに合わせたアプローチを模索して—. 第50回日本作業療法学会. 北海道. 9月10日, 2016
- 19) 小山照幸, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 加藤貴行, 金丸晶子, 太田 隆：当センターにおけるがんのリハビリテーション. 第21回板橋区医師会医学会. 東京. 9月10日, 2016
- 20) 小山照幸：本邦における弁膜症手術の動向. 第69回日本胸部外科学会学術集会. 岡山. 9月30日, 2016
- 21) 小山照幸：本邦における先天性心疾患に対する外科治療の現況. 第69回日本胸部外科学会学術集会. 岡山. 9月30日, 2016

- 術集会. 岡山. 10月1日, 2016
- 22) 小山照幸, 齊藤陽子, 正田奈緒子, 加藤貴行, 金丸晶子, 太田 隆: 当センターにおけるがんのリハビリテーションの検討. 第55回全国自治体病院学会. 富山. 10月20日, 2016
- 23) 樋口和奏, 江尻愛美, 大淵修一, 金丸晶子, 太田 隆, 菅原康宏, 高橋龍太郎: 地域の特色を活かした「住民参加型」の介護予防体操づくりを通じて. 第75回日本公衆衛生学会総会. 大阪. 10月28日, 2016
- 24) 小山照幸, 杉江正光, 奈良毬那, 高橋哲也: 当センターにおける高齢者に対する運動療法の効果について. 第53回日本臨床生理学会学術集会. 東京. 10月29日, 2016
- 25) 加藤貴行, 金丸晶子, 河地由恵, 本田拓也, 中嶋梨江, 菅原康宏, 生井 瞳, 平岡 共, 板倉彩, 太田 隆: 軽度認知障害に効果的な認知・運動リハビリテーションプログラムの検討(第2報). 第35回日本認知症学会学術集会. 東京. 12月1日, 2016
- 26) 金丸和富, 金丸晶子, 仁科裕史, 仙石鍊平, 金田大太, 村山繁雄, 徳丸阿耶: アルツハイマー病における脳葉型微小出血と脳脊髄液バイオマーカー, ApoEとの関連. 第35回日本認知症学会学術集会. 東京. 12月2日, 2016
- 27) 本田拓也, 金丸晶子, 太田 隆, 江淵貴裕: 廃用をきたさないための早期介入を目的とした廃用防止ラウンドの試み. 第13回東京都作業療法士学会. 東京. 11月20日, 2016
- 28) 河地由恵, 中島恵子: 脳梗塞後の視空間認知障害改善を目指した認知リハビリテーション. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本. 11月11日, 2016
- 29) 小幡真希, 瀬川千尋, 東原真奈, 仙石鍊平, 金田大太, 仁科裕史, 加藤貴行, 金丸和富, 武田克彦, 村山繁雄: 視覚性課題に示されるDLBの疾患特異性の検討—TMT、RBMT、WAIS、CDTを用いて. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本. 11月12日, 2016
- 30) 生井 瞳, 藤田郁代, 加藤貴行, 齊藤尚子, 田中春奈: 非流暢/失文法型進行性失語と意味型進行性失語における音読の比較. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本. 11月12日, 2016
- 31) 田中春奈, 西山千香子, 加藤茉由子, 齊藤尚子, 生井 瞳, 加藤貴行, 金丸晶子: 当院言語聴覚部門における原発性進行性失語27例の臨床背景と経過. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本. 11月12日, 2016.
- 32) 西山千香子, 田中春奈, 加藤茉由子, 齊藤尚子, 生井 瞳, 加藤貴行, 金丸晶子: Progressive

Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版(試案)の作成. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本. 11月12日, 2016

- 33) Chikako Nishiyama, Mayuko Kato, Hitomi Namai, Naoko Saito, Haruna Tanaka, Akiko Kanemaru: “Script-dependent” recovery of an agraphic patient. IARC (International Aphasia Rehabilitation Conference). London. Dec 14, 2016

●講師等院外活動(講演・放送等)

- 1) 金丸晶子: 認知症とリハビリテーション. 第3回東京都認知症サポート医等フォローアップ研修(東京都主催). 東京. 4月9日, 2016
- 2) 金丸晶子: 認知機能と生活&リハビリテーション. 平成28年度第1回 保健・医療・福祉系職員対象スキルアップ研修(主催:「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」・共済:気仙沼市・一般社団法人気仙沼市医師会等々). 気仙沼. 6月24日, 2016
- 3) Akiko Kanemaru: Rehabilitation at Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital. Ageing Asia Innovation Forum on-site Lecture at TMGH. Tokyo. Oct 27, 2016
- 4) 小山照幸: 周術期患者(ICUでのリハ含む)に対するリハビリテーション. 急性期病棟におけるリハビリテーション医師研修会(日本リハビリテーション医学会主催). 東京. 8月21日, 2016
- 5) 小山照幸: がんのリハビリテーションの概要 第3回がんのリハビリテーション研修会(東京都港区がんのリハビリテーション研修会主催). 東京. 12月4日, 2016
- 6) 金丸晶子: 山口県介護予防PT・OT・ST指導者養成研修会「介護予防と多職種の関わりについて学ぶ」—老年症候群の理解と介護予防(山口県主催). 山口. 1月28日, 2017
- 7) 金丸晶子: 山口県介護予防PT・OT・ST指導者養成研修会「介護予防と多職種の関わりについて学ぶ」—介護予防における基礎知識(薬剤・リスク管理等)(山口県主催). 山口. 1月28日, 2017
- 8) 金丸晶子: 認知症の予防について; リハビリテーションで何ができるか. 第8回脳卒中合同区民公開講座(東京都区西北部脳卒中医療検討会主催). 東京. 2月25日, 2017

●単行書・報告書

- 1) 2015・2016年度トランスレーショナル研究 リハビリテーション科グループ編: ホームワーク用DVD教材(運動)とプリント教材(認知)の

制作—軽度認知機能障害 (MCI: Mild Cognitive Impairment) とその近接領域にある高齢者向けに考案された認知トレーニングプログラム教材 (成果報告). 東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科. 東京. ppl-25, 2017

リハビリテーション科 (理学療法担当)

●学会発表

- ・江淵貴裕, 金丸晶子, 榎戸理沙, 齋藤陽子, 太田隆: 急性期病院における廃用予防を目的としたリハビリテーションラウンドの試み. Can An Early Rehabilitation Round Prevent the Immobility Status In the Hospitalized Acute Phase? 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会. 京都, 6月9-11日, 2016
- ・江淵貴裕, 川澄晃子, 森田孝枝, 河地由恵, 小山照幸, 太田隆, 金丸晶子: 劇症型心筋炎により急性心不全を呈し, 左室補助人工心臓, 右室補助人工心臓—膜型人工肺を装着した症例に対する理学療法の経験. 第51回日本理学療法学会大会. 札幌, 5月27-29日, 2016
- ・樋口和奏, 江尻愛美, 大淵修一, 金丸晶子, 太田隆, 菅原康宏, 高橋龍太郎: 地域の特色を活かした「住民参加型」の介護予防体操づくりを通じて. 第75回 日本公衆衛生学会総会. 大阪, 10月26-28日, 2016
- ・中嶋 梨江, 金丸 晶子, 加藤 貴行, 河地 由恵, 本田 拓也, 生井 瞳, 菅原 康宏, 太田 隆: 軽度認知機能障害(MCI)に対する認知・運動リハビリテーション効果. 日本老年医学会, 6月8-10, 2016
- ・山口真依, 小宮山潤, 渡邊敬幸, 樋口和奏, 藤本静香, 太田隆, 金丸晶子: 人工膝関節全置換術前後における歩容の経時的変化と身体機能との関連—3軸加速度を用いた検討—. 第51回日本理学療法学会大会. 札幌, 5月27-29日, 2016

リハビリテーション科 (作業療法担当)

●学会発表

- ・秋元美穂, 熊木陽平, 正田奈緒子, 金丸晶子: 成人アテトーゼ型脳性麻痺患者に対しチームで関わるボツリヌス療法—変動する筋緊張と生活スタイルに合わせたアプローチを模索して—. 第50回日本作業療法学会. 北海道, 9月10日, 2016
- ・本田拓也, 金丸晶子, 太田隆, 江淵貴裕: 廃用をきたさないための早期介入を目的とした廃用防止ラウンドの試み. 第13回東京都作業療法士

学会. 東京, 11月20日, 2016

リハビリテーション科 (言語聴覚担当)

●学会発表

- ・生井瞳, 藤田郁代, 加藤貴行, 齋藤尚子, 田中春奈: 非流暢/失文法型進行性失語と意味型進行性失語における音読の比較. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本, 11月12日, 2016.
- ・西山千香子, 田中春奈, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 生井瞳, 加藤貴行, 金丸晶子: Progressive Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版 (試案) の作成. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本, 11月12日, 2016.
- ・Chikako Nishiyama, Mayuko Kato, Hitomi Namai, Naoko Saito, Haruna Tanaka, Akiko Kanemaru: "Script-dependent" recovery of an agraphic patient. International Aphasia Rehabilitation Conference 2016. London, December 14, 2016.
- ・田中春奈, 西山千香子, 加藤茉由子, 齋藤尚子, 生井瞳, 加藤貴行, 金丸晶子: 当院言語聴覚部門における原発性進行性失語27例の臨床背景と経過. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本, 11月12日, 2016.

リハビリテーション科 (臨床心理担当)

●学会発表

- ・平岡 共: 高次脳機能障害を来した多発性硬化症の認知リハビリテーション —継続的介入から就労支援へつながった一例—. 第35回心理臨床学会秋季大会. 横浜, 9月5日, 2016.
- ・河地由恵, 加藤貴行, 岩本美由紀, 平岡共, 牧田彩加, 菅原康宏, 金丸晶子: 軽度認知機能障害が疑われる高齢者におけるMoCA-J遅延再生とリバーミード行動記憶検査の関連性の検討. 第53回日本リハビリテーション医学会学術集会. 京都, 6月9日, 2016.
- ・河地由恵, 中島恵子: 脳梗塞後の視空間認知障害改善を目指した認知リハビリテーション. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 長野, 11月11日, 2016.

●講師等院外活動

- ・菅原康宏: 市民公開講座『～子どもと育む信頼と絆～』第二部公開シンポジウム『発達障がい児の信頼と絆を育む』. 気仙沼, 10月1日, 2016.

●単行書・報告書

・リハビリテーション科編：『ホームワーク用DVD教材（運動）とプリント教材（認知）の制作—軽度認知障害（MCI:Mild Cognitive Impairment）とその近接領域にある高齢者向けの考案された認知機能トレーニングプログラム教材—』。2017.

※心理教材検討会メンバーを中心に作成

・東日本大震災 震災の3年時点の『保健・福祉・医療従事者と関連行政職員の活動実態に関する調査』。研究所（編）。2016

※共同研究者として菅原が参加

放射線診断科

●雑誌論文

1) Sakurai K, Kanoto M, Nakagawa M, Shimohira M, Tokumaru AM, Kameyama, M, Shimoji K, Morimoto S, Matsukawa N, Shibamoto Y.

Dinosaur tail sign: A useful spinal MRI finding indicative of cerebrospinal fluid leakage.

Headache in press DOI:10.1111/head.13075

2) Sakurai K, Tokumaru AM, Shimoji K, Murayama S, Kanemaru K, Morimoto S, Aiba I, Nakagawa M, Ozawa Y, Shimohira M, Matsukawa N, Hashizume Y, Shibamoto Y.

Beyond the midbrain atrophy: wide spectrum of structural MRI finding in cases of pathologically proven progressive supranuclear palsy.

Neuroradiology 59(5):431-443, 2017

3) Ohno Y, Oomura M, Sakurai K, Matsukawa N. Hyperdense vessel signs showing migration of a thrombus.

Intern Med 56(4):465-466, 2017

4) Kanoto M, Kirii K, Toyoguchi Y, Nishihara M, Sakurai K, Murayama K, Noguchi T, Matsuda K, Sakurada K, Sonoda Y, Hosoya T. Radiological imaging features of glioblastoma with oligodendroglioma component: a comparison with conventional glioblastoma.

Acta Radiol Open 5(11):2058460116675191, 2016

5) Shimohira M, Hashizume T, Sasaki S, Ohta K, Suzuki K, Nakagawa M, Ozawa Y, Sakurai K, Nishikawa H, Hara M, Shibamoto Y.

Transcatheter Arterial Embolization for Hepatic Arterial Injury Related to Percutaneous Transhepatic Portal Intervention.

Cardiovasc Intervent Radiol 40(2):291-295, 2017

6) Maki H, Shimohira M, Hashizume T, Kawai T, Nakagawa M, Ozawa Y, Sakurai K, Shibamoto Y.

Visualization of the Spinal Artery by CT During Embolization for Pulmonary Artery Pseudoaneurysm.

Pol J Radiol 81:382-5, 2016

7) Nakagawa M, Ozawa Y, Nomura N, Inukai S, Tsubokura S, Sakurai K, Shimohira M, Ogawa M, Shibamoto Y.

Utility of dual source CT with ECG-triggered high-pitch spiral acquisition (Flash Spiral Cardio mode) to evaluate morphological features of ventricles in children with complex congenital heart defects.

Jpn J Radiol 34(4):284-291, 2016

8) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 青木茂樹
進行性核上性麻痺 (PSP)

進行性核上性麻痺 画像検査

Clinical Neuroscience 35 (3):277-280, 2017

9) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 今林悦子, 下地啓五
症例から学ぶMRIの基礎 -臨床に直結する知識-

脳変性疾患, その他

画像診断 37 (1):, 2017

10) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 今林悦子

エキスパートの診断過程を学ぶ中枢神経系の画像診断

典型例, 非典型例から学ぶ異常所見のとらえ方 -Parkinson症候群-

画像診断 36 (6):516-528, 2016

11) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子, 齋藤祐子. あらためて認知症を考える—Living Well with dementia.MRI—臨床現場での意義と課題. 老年精神医学雑誌 Vol.28 2017年増刊号-I.P91-99

12) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 青木茂樹. PSPとCBD—その共通点と相違点. 大脳皮質基底核変性症 画像検査. Clinical Neuroscience Vol.35 (17年) 03月号.P306-309

13) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 村山繁雄. 画像でみかける偶発的所見のマネジメント—あなたならどう書く?—. 7.海馬萎縮. 画像診断 Vol.36 No.9 2016年8月号P848-849

14) Umeda-Kameyama Y, Ishii S, Kameyama M, Kondo K, Ochi A, Yamasoba T, Ogawa S, Akishita M. Heterogeneity of Odorant Identification Impairment in Patients with Alzheimer Disease. Sci Rep. 2017

- 15) Mashima K, Ito D, Kameyama M, Osada T, Tabuchi H, Nihei Y, Yoshizaki T, Noguchi E, Tanikawa M, Iizuka T, Date Y, Ogata Y, Nakahara T, Iwabuchi Y, Jinzaki M, Murakami K, Suzuki N. Extremely Low Prevalence of Amyloid Positron Emission Tomography Positivity in Parkinson's Disease without Dementia. *Eur Neurol*. 2017 Mar 11;77(5-6):231-237. doi:10.1159/000464322. [Epub ahead of print] PubMed PMID:28285306.
- 16) Kameyama M, Umeda-Kameyama Y. Strategy based on kinetics of O-(2-[¹⁸F] fluoroethyl)-L-tyrosine ([¹⁸F] FET). *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 2016;43(12):2267-2268.
- 17) Iizuka T, Kameyama M. Cholinergic enhancement increases regional cerebral blood flow to the posterior cingulate cortex in mild Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 May 23. doi:10.1111/ggi.12818. [Epub ahead of print] PubMed PMID:27215917.
- 18) Cingulate island sign on FDG-PET is associated with medial temporal lobe atrophy in dementia with Lewy bodies. *Ann Nucl Med*. 2016;30(6):421-429.
- 19) Kameyama M, Murakami K, Jinzaki M. Optimal HMPAO *a* value for Lassen's correction algorithm obscured by statistical noise. *Ann Nucl Med*. 2016;30(6):445-449.
- 20) Sato K, Hida A, Kameyama M, Morooka M, Takeuchi S. Reduced ¹²³I Ioflupane Binding in Bilateral Diabetic Chorea: Findings With 18F FDG PET, ^{99m}Tc ECD SPECT, and ¹²³I MIBG Scintigraphy. *Clin Nucl Med*. 2016;41(6):481-482.
- 21) Kameyama M, Murakami K, Jinzaki M. Comparison of [¹⁵O] H₂O Positron Emission Tomography and Functional Magnetic Resonance Imaging in Activation Studies. *World J Nucl Med*. 2016;15(1):3-6.
- 22) Kageyama H, Miyajima M, Ogino I, Nakajima M, Shimoji K, Fukai R, Miyake N, Nishiyama K, Matsumoto N, Arai H. Panventriculomegaly with a wide foramen of Magendie and large cisterna magna. *J Neurosurg*. 2016 Jun;124(6):1858-66. doi:10.3171/2015.6.JNS15162. Epub 2015 Dec 4.
- 23) Kamagata K, Hatano T, Okuzumi A, Motoi Y, Abe O, Shimoji K, Kamiya K, Suzuki M, Hori M, Kumamaru KK, Hattori N, Aoki S. Neurite orientation dispersion and density imaging in the substantia nigra in idiopathic Parkinson disease. *Eur Radiol*. 2016 Aug;26(8):2567-77. doi:10.1007/s00330-015-4066-8. Epub 2015 Oct 29.
- 24) Harada K, Matsuo K, Nakashima M, Hobara T, Higuchi N, Higuchi F, Nakano M, Otsuki K, Shibata T, Watanuki T, Matsubara T, Fujita Y, Shimoji K, Yamagata H, Watanabe Y. Disrupted orbitomedial prefrontal limbic network in individuals with later-life depression. *J Affect Disord*. 2016 Nov 1;204:112-9. doi:10.1016/j.jad.2016.06.031. Epub 2016 Jun 17.
- 25) Goto M, Abe O, Hata J, Fukunaga I, Shimoji K, Kunimatsu A, Gomi T. Adverse effects of metallic artifacts on voxel-wise analysis and tract-based spatial statistics in diffusion tensor imaging. *Acta Radiol*. 2017 Feb;58(2):211-217. doi:10.1177/0284185116641348.
- 26) Saito J, Hori M, Nemoto T, Katagiri N, Shimoji K, Ito S, Tsujino N, Yamaguchi T, Shiraga N, Aoki S, Mizuno M. Longitudinal study examining abnormal white matter integrity using a tract-specific analysis in individuals with a high risk for psychosis. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2017 Feb 20. doi:10.1111/pcn.12515.
- 27) Kamagata K, Zalesky A, Hatano T, Ueda R, Di Biase MA, Okuzumi A, Shimoji K, Hori M, Caeyenberghs K, Pantelis C, Hattori N, Aoki S. Gray Matter Abnormalities in Idiopathic Parkinson's Disease: Evaluation by Diffusional Kurtosis Imaging and Neurite Orientation Dispersion and Density Imaging. *Hum Brain Mapp*. 2017 May 4. doi:10.1002/hbm.23628.
- 28) Abe H, Shimoji K, Nagamine Y, Fujiwara S, Izumi SI. Predictors of Recovery from Traumatic Brain Injury-Induced Prolonged Consciousness Disorder. *Neural Plast*. 2017;2017:9358092. doi:10.1155/2017/9358092. Epub 2017 Feb 23.

●学会・研究会発表

- 1) 飯島 健, 中井 雄大, 神田 知紀, 森田 茂樹, 高橋 芳久, 大田 泰徳, 徳丸 阿耶, 豊田 圭子, 大場 洋, 古井 滋: セッション6, その他(O-26), TAFRO 症候群の 1 例. 第450回, 日本医学放射線学会, 関東地方会定期大会, 東京, 12月10日, 2016年.
- 2) 飯島健, 豊田圭子, 大場 洋, 中井雄大, 棚橋裕, 山本麻子, 神田知紀, 古井 滋: ポスターセッション2, 血管内悪性リンパ腫の磁化率強調像所見第40回, 日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 3月3日~4日, 2017年
- 3) 飯島 健: 「ドクターG に勝てるか! 若手が挑む神経画像診断クイズ」, 第40回, 日本脳神経CI学会総会, 鹿児島, 3月3日~4日, 2017年
- 4) 長島一公, 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 飯島健, 亀山征史, 齋藤祐子, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子: 第46回日本神経放射線学会, 新しい疾患概念 Globular glial tauopathies(GGT)の画像所見—背景病理との対応, 東京都, 2月17日-19日2017
- 5) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 飯島健, 亀山征史, 齋藤祐子, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子. 第46回日本神経放射線学会, TDP43 peoteinopathy 病理診断例の画像所見, 東京都, 2月17日-19日2017
- 6) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史. 第46回日本神経放射線学会, エキスパートの診断過程を学ぶ中枢神経系の画像診断, 東京都, 2月17日-19日2017
- 7) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 亀山征史, 齋藤祐子, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子. 第36回日本画像医学会, 認知症の画像診断 臨床、画像、病理をつなぐ意義, 東京都, 2月25日-26日, 2017
- 8) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子. 第36回日本画像医学会, Globular glial tauopathyの画像所見: 自験例および既報告例の検討, 東京都, 2月25日-26日, 2017
- 9) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 飯島健, 亀山征史, 齋藤祐子, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子. 第40回日本脳神経C学会総会, 認知症・治療におけるニューロイメージングの進歩 認知症の画像診断 臨床、画像、病理をつなぐ意義, 鹿児島県, 3月3日-4日, 2017
- 10) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 齋藤祐子, 村山繁雄, 藤ヶ崎純子, 第57回日本神経学会学術大会, 確定診断 進行性核上性麻痺PSP/皮質基底核変性症 CBDの画像診断, 兵庫県5月18日-21日, 2016
- 11) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史 教育講演16 中枢神経2 血管関連疾患 Diverse imaging finding of sporadic cerebral amyloid angiopathy Hemorrhagic and non-hemorrhagic lesions 第76回日本医学放射線学会総会 2017/04/15 パシフィコ横浜
- 12) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史 シンポジウム22 Globular glial tauopathy の画像所見 自験例及び既報告例の検討 (指名講演) 第36日本画像医学会学術大会 2017/02/26 ステーションコンファレンス東京
- 13) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史 シンポジウム10 脳脊髄液漏出症の画像所見 (指名講演) 第36日本画像医学会学術大会 2017/02/25 ステーションコンファレンス東京
- 14) 櫻井圭太, 徳丸阿耶 TDP-43 proteinopathy 病理診断例の画像所見—認知機能障害を呈する症例のreview— 2017/01/14 第524回NR懇話会 ベルサール八重洲
- 15) 櫻井圭太 MRI による認知症の画像診断 —その有用性と限界— (指名講演) 第56回 日本核医学会学術総会 認知症まるわかりセミナー 2. 画像診断の基礎から実践 2016/11/3 名古屋国際会議場
- 16) 櫻井圭太 MRI による変性認知症の画像診断 —病理診断例を中心に— (指名講演) 第8回 関西脳神経外科認知症研究会 2016/09/17 AP大阪駅前
- 17) 櫻井圭太 ランチョンセミナー —筋縄ではいかない認知症の画像診断 —画像検査が有用であった症例を中心に— (指名講演) 第44回日本磁気共鳴医学会大会 2016/09/10 大宮ソニックシティ
- 18) 櫻井圭太 変性認知症の画像診断 —基本的な画像所見及び解析法を中心に— (指名講演)

- 第13回 新潟県脳機能解析研究会
2016/08/25
ホテルラングウッド新潟
- 19) 櫻井圭太
パーキンソン症候群の鑑別における画像検査—MRI の有用性と限界— (教育講演)
第57回 日本神経学会学術大会 教育コース EC-42
2016/05/21
神戸国際会議場
- 20) Tomomichi Iizuka, Masashi Kameyama.
Cholinergic enhancement increases regional cerebral blood flow to the posterior cingulate cortex in mild Alzheimer's disease
Alzheimer's Imaging Consortium, 2016, 7/22 Toronto, Canada
IC-P-041
Alzheimer's Association International Conference, 2016, 7/23-28 Toronto, Canada P1-255
Alzheimer's & Dementia. 2016; 12(7suppl):P35, P508
- 21) Miyako Morooka, Kenji Ishii, Kimiteru Ito, Muneyuki Sakata, Masashi Kameyama, Ryogo Minamimoto, and Kazuo Kubota Fingerprints of mild HIV-associated neurocognitive disorders (HAND): FDG and VBM study
Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting, 2016, San Diego, USA. J Nucl Med. 2016; 57(supple2):1850
- 22) Ryogo Minamimoto, Jun Toyohara, Momoko Okasaki, Miyako Morooka, Yoko Miyata, Masashi Kameyama, Masatoshi Hotta, Kazuhiko Nakajima, Akiyoshi Miwa and Kazuo Kubota. Prospective Comparison of ¹¹C-4DST, ¹⁸F-FDG PET/CT and whole-body MRI in the patients with multiple myeloma, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting, San Diego, USA., 2016 6/11-15
J Nucl Med. 2016; 57(supple2):1610
- 23) 馬島恭子, 伊東大介, 亀山征史, 長田高志, 吉崎崇人: Extremely low positivity of Amyloid PET in Parkinson disease without dementia
第35回日本認知症学会 学術集会 東京 2016/12/1-3
学会奨励賞候補
Dementia japan 2016:
- 24) 堀田 昌利, 南本 亮吾, 諸岡 都, 亀山 征史, 中島 和彦, 砂岡 史生, 児玉 清幸, 梶原 宏則,
窪田 和雄:ソマトスタチン受容体シンチグラフィ(¹¹¹In-ペントテロオクチド)の生理的集積に関する検討 第56回日本核医学会学術総会 名古屋 2016/11/3-5
- 25) 飯塚 友道, 亀山 征史: Cingulate island sign is associated with MTL atrophy in DLB 第56回日本核医学会学術総会 名古屋 2016/11/3-5
- 26) 堀田 昌利, 南本 亮吾, 豊原 潤, 諸岡 都, 亀山 征史, 中島 和彦, 野原 京子, 山田 和彦, 窪田 和雄: ¹¹C-4DSTと¹⁸F-FDGにおける食道癌の描出能に関する比較検討 第56回日本核医学会学術総会 名古屋 2016/11/3-5
- 27) 亀山征史: 脳腫瘍イメージングにおけるアミノ酸PETの現状
シンポジウム「分子イメージングの進歩と治療への応用」(英語)
日本医学放射線学会 2016 4/15 横浜
- 28) 水島圭, 松坂陽至, 中原理紀, 岩渕雄, 亀山征史, 村上康二, 陣崎雅弘: 肺血流シンチグラフィでTc-99m MAAが胸骨に集積した一例 第84回日本核医学会関東甲信越地方会 東京 2016/1/23
核医学 53巻 1号 (2016年)
- 29) 松元 健二, 竹田 和良, 松元 まどか, 緒方 洋輔, 下地 啓五, 村山 航, 花川 隆, 中込 和幸 第46回日本神経精神薬理学会年会、2016年7月2日、ソウル、韓国
- 講師等院外活動(講演・放送等)
- 1) 櫻井圭太, 徳丸阿耶, 下地啓五, 亀山征史
神経変性疾患をはじめとした認知症の画像診断—基礎的な MRI 撮像法と画像所見を中心に— 埼玉県神経内科医会2017
2017/05/18
- 2) 櫻井圭太
一筋縄ではいかない神経変性疾患の画像診断—診断に必要な撮像法や多彩な画像所見を中心に— (指名講演) 第78回 島根画像診断研究会2016/06/10ウエルシティ出雲
- 3) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 下地啓五, 村山繁雄, 石井賢二, アルツハイマー病研究会 第17回学術シンポジウム, 認知症診断のMRI 臨床現場での意義と課題, 東京都, 4月23日, 2016
- 4) 徳丸阿耶, 櫻井圭太, 村山繁雄, 下地啓五ら 第12回東京脳卒中神経治療研究会, 血管性認知症の画像診断は難しい: 画像—病理関連の意義, 東京都, 7月19日, 2016
- 5) 徳丸阿耶. 第12回21世紀山口核医学セミナー, MRIを含む脳機能画像を用いた病態解明, 山口県, 2月19日, 2017

- 6) 徳丸阿耶、村山繁雄ら 第7回Clinical Dementia Meeting, 認知症の画像診断—背景病理を踏まえて—, 広島県, 11月29日, 2016
- 7) 徳丸阿耶、村山繁雄ら 第30回埼玉認知症研究会, 認知症の画像診断—背景病理推定の意義, 埼玉県, 1月20日, 2017
- 8) 徳丸阿耶、村山繁雄、齊藤祐子ら Alzheimer's Disease Fronteir2017, 複合病理を疑うべき画像所見の読み解き, 東京都, 2月19日, 2017
- 9) 下地啓五、拡散テンソル像解析の実際 (TBSS から probabilistic tractographyまで)、包括脳正常拠点—疾患拠点合同脳画像解析チュートリアル、2016年1月、東京大学、東京
- 10) 下地啓五、脳画像解析のためのLinux入門、第1回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年1月、東京大学、東京
- 11) 下地啓五、拡散テンソル像解析の実際 (TBSS)、第1回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年1月、東京大学、東京
- 12) 下地啓五、General linear model(GLM)と結果表示、第1回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年1月、東京大学、東京
- 13) 下地啓五、脳画像解析のためのスクリプト作成入門、第1回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年1月、東京大学、東京
- 14) 下地啓五、グラフ理論、第2回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年2月、自然科学研究機構生理学研究所、愛知県岡崎市
- 15) 下地啓五、Gray-matter Based Spatial Statistics、第2回先端バイオイメーキング支援プラットフォーム脳画像解析チュートリアル、2017年2月、自然科学研究機構生理学研究所、愛知県岡崎市

●単行書

- ・ Tokumaru AM, Murayama S, Saito Y, Sakurai K. Neuroimaging diagnosis for Alzheimer's Disease and Other Dementias. Springer. 印刷中

放射線治療科

山川は、2002年から勤務しており、各種がんの放射線治療成績について検討している。

平成28年度には、喉頭がん、皮膚がんの治療成績について、ホームページに掲載した。

1) 喉頭がん

T1、T2症例29例の5年原病生存率は、93.1%であった。他癌死が3例、他病死が1例で、喉頭がんで亡くなられたのは、T2症例の2例のみであった。

2) 皮膚がん

高齢者が多く、週2回法の電子線治療で治療したのは41例(44部位)で、90歳以上も超高齢者が21例(51%)であった。

内訳は、有棘細胞がん:18例、基底細胞がん:5例、ボーエン病(表皮内がん):18例、その他:3例であったが、いずれの腫瘍も消失率は100%であった。

症例についてもホームページに掲載してある。

今後は肺癌に対する定位放射線治療の治療成績について、ホームページに掲載予定である。

化学療法科

●臨床試験

未治療C-MYC陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するDose adjusted EPOCH-R療法の第II相試験(平成27年12月、臨床試験審査委員会承認)

●学会発表

第56回リンパ網内系学会総会、熊本

- ①びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫(DLBCL)の化学療法中、rituximab投与後に可逆性後頭葉白質脳症(PRES)を来した一例:五十嵐 健史、宮本鋼ら
- ②高齢者EBV陽性びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫(DLBCL)の骨髄に末梢T細胞性リンパ腫、分類不能型(PTCL-NOS)が併存した一例:白石 朋敬、宮本鋼ら

臨床検査科

●雑誌論文

1. Yannis P Pitsiladis, Masashi Tanaka, Nir Eynon, Claude Bouchard, Kathryn N North, Alun G Williams, Malcolm Collins, Colin N Moran, Steven L Britton, Noriyuki Fuku, Euan A Ashley, Vassilis Klissouras, Alejandro Lucia, Ildus I Ahmetov, Eco de Geus, Mohammed Alsayrafi. Athlome Project Consortium: a concerted effort to discover genomic and other "omic" markers of athletic performance. *Physiol Genomics* 48:183-190, 2016.

2. Masaya Ishigaki, Masumi Iketani, Maki Sugaya, Mayumi Takahashi, Masashi Tanaka, Seisuke Hattori, Ikuroh Ohsawa. STED super-resolution imaging of mitochondria labeled with TMRM in living cells. *Mitochondrion* 28: 79-87, 2016.
3. Masashi Tanaka, Guan Wang, Yannis P Pitsiladis. Advancing sports and exercise genomics: moving from hypothesis-driven single study approaches to large multi-omics collaborative science. *Physiological Genomics* 48:3. 173-174, 2016.
4. Kumpei Tanisawa, Yasumichi Arai, Nobuyoshi Hirose, Hiroshi Shimokata, Yoshiji Yamada, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Hideyo Yoshida, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Maki Sugaya, Tomio Arai, Seiji Mori, Motoji Sawabe, Noriko Sato, Masaaki Muramatsu, Mitsuru Higuchi, Yao-Wen Liu, Qing-Peng Kong, Masashi Tanaka (2016) Exome-wide Association Study Identifies CLEC3B Missense Variant p.S106G as Being Associated With Extreme Longevity in East Asian Populations. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci.* 72:309-318, 2017.
5. Yasunori Fujita, Yu Taniguchi, Shoji Shinkai, Masashi Tanaka, Masafumi Ito. Secreted growth differentiation factor 15 as a potential biomarker for mitochondrial dysfunctions in aging and age-related disorders. *Geriatr Gerontol Int* 16 Suppl 1:17-29, 2017.
6. Kumpei Tanisawa, Masashi Tanaka, Mitsuru Higuchi. Gene-exercise interactions in the development of cardiometabolic diseases. *J Phys Fitness Sports Med* 5:25-36, 2016.
7. Yuko Maeda, Noriko Sato, Makiko Naka-Mieno, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe. Association of non-synonymous variants in *WIPF3* and *LIPA* genes with abdominal aortic aneurysm: an autopsy study. *J Geriatr Cardiol* 13:960 · 967, 2016.
8. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int J Mol Med* 39:1091-1100, 2017.
9. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget* (in press) 2017.
10. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget* (in press) 2017.
11. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget* (in press) 2017.
12. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int J Mol Med* (in press) 2017.
13. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato,

- Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of polymorphisms in 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* (in press) 2017.
14. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget* (in press) 2017.
15. Yoshiji Yamada, Jun Sakuma, Ichiro Takeuchi, Yoshiki Yasukochi, Kimihiko Kato, Mitsutoshi Oguri, Tetsuo Fujimaki, Hideki Horibe, Masaaki Muramatsu, Motoji Sawabe, Yoshinori Fujiwara, Yu Taniguchi, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Shoji Shinkai, Seiji Mori, Tomio Arai, Masashi Tanaka. Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol Med Rep* (in press) 2017.
16. Sariya Dechamethakun, Noriko Sato, Shinobu Ikeda, Motoji Sawabe, Seiji Mori, Yoshiji Yamada, Masashi Tanaka, Masaaki Muramatsu, Tomio Arai. Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly. *J Gerontol Geriatr Res* (in press) 2017.
17. Kyojiro Kawakami, Yasunori Fujita, Yoko Matsuda, Tomio Arai, Kengo Horie, Koji Kameyama, Taku Kato, Koichi Masunaga, Yutaka Kasuya, Masashi Tanaka, Kosuke Mizutani, Takashi Deguchi, Masafumi Ito. Gamma-glutamyltransferase activity in exosomes as a potential marker for prostate cancer. *BMC Cancer* (in press) 2017.
18. Yoko Matsuda, Masashi Tanaka, Motoji Sawabe, Seiji Mori, Masaaki Muramatsu, Makiko Naka-Mieno, Tomio Arai. Relationship between pancreatic intraepithelial neoplasias, pancreatic ductal adenocarcinoma, and single nucleotide polymorphisms in autopsied elderly patients. *Genes Chromosomes Cancer* (in press) 2017.
19. Kensuke Nishi, Hao Luo, Kazuhiko Nakabayashi, Keiko Doi, Shuhei Ishikura, Yuri Iwaihara, Yasuhiro Yoshida, Kumpei Tanisawa, Tomio Arai, Seiji Mori, Motoji Sawabe, Masaaki Muramatsu, Masashi Tanaka, Toshifumi Sakata, Seiji Shirasawa, Toshiyuki Tsunoda (2017) An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. *Anticancer Res* (in press).
20. 田中雅嗣. 健康長寿ゲノム探索研究と超高齢者疾患の遺伝学的解析 —長寿あるいは運動能力に関連するゲノム多型— *肝胆膵* 74:341-347, 2017.
- 学会発表
1. Masashi Tanaka. “The 1000 Atlomes Project: An Initiative for Whole Genome Sequencing of Elete Athletes” ICSEMIS 2016 International Council of Sports Medicine and Physical Education. Santos Brazil. August 31, 2016.
2. Masashi Tanaka. “The 1000 Atlomes Project: An Initiative for Whole Genome Sequencing of Elete Athletes” International Federation of Sports Medicine 34th World Congress of Sports Medicine. Ljubljana, Slovenia. October 2, 2016.
3. 第28回臨床微生物学会
平成28年1月21日
発表者 浅見諒子 古川友子 矢作和規
安中めぐみ 板倉泰明 吉田敦
増田義重 稲松孝思
演題 当センターで血液培養より分離された菌の42年間における変遷と近年の動向
4. 第28回臨床微生物学会
平成28年1月21日
発表者 野口穰 矢作和規 古川友子
浅見諒子 板倉泰明 古田敦
増田義重 稲松孝思
演題 当センターにおける血液培養2セット中1本のみ陽性例の臨床的意義の検討
5. 第28回臨床微生物学会
平成28年1月21日
発表者 矢作和規 野口穰 古川友子
浅見諒子 板倉泰明 古田敦
増田義重 稲松孝思
演題 急性骨髄性白血病患者にニューキノロン投与中、血液培養より耐性

*Rothia mucilagino*と*Streptococcus oralis*が分離された1例

6. 第8回 関東CVT連絡会
平成28年12月3日
発表者 河野ますよ 桜山千恵子 関敦子
新井富生
演題 下肢腫脹の原因が静脈壁肥厚による
狭窄であった若年女性の一例

●講演会等

1. 2016.10.21
CCT (Complex Cardiovascular Therapeutics)
2016 (神戸ポートピアホテル)
コメディカルセッション講演
【重症心不全を学ぼう：心エコー所見から
治療について】 桜山千恵子
2. 2016.10.22
CCT 2016
超音波ハンズオンセミナー (心臓領域)
実技講師 桜山千恵子
3. 2016.11.5~6
エコー淡路 2016
(兵庫県立淡路夢舞台国際会議場)
血管領域ハンズオンセミナー
実技講師 桜山千恵子

●院内活動

- 平成28年度第1回院内感染対策講演会
平成28年6月21日
演者 古川友子
演題 開けてみたらびっくりぼんや！
正しい検体の送り方

輸血・細胞療法科

●学会発表

- ・小林寿美子、小倉和外、赤川順子、宮腰重三郎。
#第52回日本移植学会総会 (品川) 2016.10.1
60歳以上の高齢者における同種造血幹細胞56例
の成績と今後の展開 (poster)
#小倉和外、赤川順子、小林寿美子、宮腰重三郎。
高齢者ハイリスクMDS に対するAza+CAG療法。
日本血液学会総会 (横浜) 2016.10.13-15

●論文

1. 小林寿美子. 制御性T細胞除去療法とB細胞
ターゲット療法 (総説) 日大医学雑誌. 76(1):11-
14, 2016.
2. 小林寿美子. B細胞ターゲット療法. 臨床免
疫・アレルギー科. 65(6):525-529, 2016.

3. 小林寿美子. 最近のMDSの病態の理解と治療
方針の変貌. 東京内科医会会誌. 31(3):202-
205.2016
4. 西盛信幸、篠島由一、石井まどか、大竹映香、
吉田行弘、副島一考、小林寿美子、照井正. 高齢
者に生じた皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫. 臨
床皮膚科. Vol38. No.8. 829-833, 2016.
5. 小林寿美子. 最近のMDSの病態の理解と治療
方針の変貌. 東京内科医会会誌. 31(3):202-
205.2016
6. Kurita Daisuke, Kengo Takeuchi, Sumiko
Kobayashi, Atsuko Hojo, Yohihito Uchino. A
cyclin D1-negative mantle cell lymphoma with
an *IGL-CCDN2* translocation that relapsed with
blastoid morphology and aggressive clinical
behavior. *Virchows Arch* (2016) 469:471-476
DOI 10.1007/s00428-016-1995-9
7. Sumiko Kobayashi, Yasunori Ueda, Yasuhito
Nannya, Hirohiko Shibayama, Kiyoyuki Ogata,
Ko Sasaki, Yoshiki Akatsuka, Kensuke Usuki,
Yoshikazu Ito, Masaya Okada, Takahiro Suzuki,
Tomoko Hata, Akira Matsuda, Kaoru Tohyama,
Keiji Kakumoto, Daisuke Koga, Kinuko Mitani,
Tomoki Naoe, Haruo Sugiyama, Fumimaro
Takaku. Prognostic significance of Wilms
tumor 1 mRNA expression levels in peripheral
blood and bone marrow in patients with
myelodysplastic syndromes. *Cancer Biomarkers*.
2016;17:21-32.

●講師など院外活動 (講演)

1. 小林寿美子. 高齢者社会における造血幹細胞
移植の展望. 第47回【福井】血液・腫瘍Roundtable
Conference 特別講演. 2017.3.14
2. 小林寿美子. MDSに対する造血回復と漢方の
効果について. 第3回 Tokyo HEMATOLOGY
Current Conference. 2016.4.16

病理診断科

●雑誌論文

1. Tamura Y, Izumiyama-Shimomura N,
Kimbara Y, Nakamura KI, Ishikawa N, Aida J,
Chiba Y, Mori S, Arai T, Aizawa T, Araki A,
Takubo K, Ito H. Beta cell telomere attrition in
diabetes: inverse correlation between HbA1c
and telomere length. *J Clin Endocrinol Metab*
99:2771-2777, 2014.
2. Hatsuta H, Takao M, Nakano Y, Nogami
A, Uchino A, Sumikura H, Kanemaru K, Arai T,

- Itoh Y, Murayama S. Reduction of small fibers of thoracic ventral roots and neurons of intermediolateral nucleus in Parkinson disease and dementia with Lewy bodies. **J Parkinsons Dis** 6:325-334, 2016.
3. Mieno MN, Tanaka N, Arai T, Kawahara T, Kuchiba A, Ishikawa S, Sawabe M. Accuracy of death certificates and assessment of factors for misclassification of underlying cause of death. **J Epidemiol** 26:191-198, 2016 .
 4. Hino H, Nishimura T, Nitadori J, Miyakoshi S, Seki A, Arai T, Nakajima J. An uncommon presentation of Kikuchi-Fujioto disease as mediastinal lymphadenopathy. **J Thorac Dis** 8:E330-333, 2016.
 5. Tamura Y, Izumiya-Shimomura N, Kimbara Y, Nakamura K, Ishikawa N, Aida J, Chiba Y, Matsuda Y, Mori S, Arai T, Fujiwara M, Poon SS, Ishizaki T, Araki A, Takubo K, Ito H. Telomere attrition in beta and alpha cells with age. **Age (Dordr)** 38:61, 2016.
 6. Sumiyoshi H, Matsushita A, Nakamura Y, Matsuda Y, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E. Suppression of STAT5b in pancreatic cancer cells leads to attenuated gemcitabine chemoresistance, adhesion and invasion. **Oncol Rep** 35:3216-3226, 2016.
 7. Ohno K, Matsuda Y, Arai T, Sugihara T, Iga S, Kimura Y. Myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody-positive otitis media and rhinosinusitis with pathological features of immunoglobulin G4-related disease: A case report. **Ann Otol Rhinol Laryngol** 125:516-521, 2016.
 8. Matsuda Y, Araki A, Sakano Y, Chiba Y, Tsuboko Y, Nishimura T, Arai T. Autopsy case of slowly progressive type 1 diabetes with concomitant acute myocardial and mesenteric ischemia. **J Pancreas** 17:444-448, 2016.
 9. 佐塚まなみ, 山本 寛, 臼杵智江美, 濱谷広頌, 新井富生, 山田浩和. 全身性強皮症による間質性肺炎の治療経過中に発症し肺炎類似の画像所見を呈した肺小細胞癌の1例. **肺癌** 56:1057-1063, 2016
 10. Matsuda Y, Hamayasu H, Seki A, Nonaka K, Wang T, Matsumoto T, Hamano Y, Sumikura H, Kumasaka T, Murayama S, Ishizu A, Shimizu A, Sugihara T, Arai T. Presence of citrullinated histone H3-positive neutrophils in microscopic polyangiitis from the early phase: an autopsy proven case. **Pathol Int** 66:466-71, 2016.
 11. Thu KS, Sato N, Ikeda S, Naka-Mieno M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Muramatsu M, Tanaka M. Association of polymorphisms of the transporter associated with antigen processing (TAP2) gene with pulmonary tuberculosis in an elderly Japanese population. **APMIS** 124: 675-680, 2016 .
 12. Morimoto S, Tanaka J, Saito Y, Tsuyama N, Nishimura T, Komiya T, Kyo S, Arai T, Kanemaru A, Kanemaru K, Harada K. Non-bacterial thrombotic endocarditis in a Trousseau syndrome patient with stomach cancer: A case report. **Geriatr Gerontol Int** 16 :1 171-1172, 2016 .
 13. Hino H, Nishimura T, Seki A, Nitadori JI, Arai T, Nakajima J. Microthymoma in elderly-onset myasthenia gravis detected preoperatively. **Asian Cardiovasc Thorac Ann** 24 :818-821, 2016.
 14. Zhou H, Mori S, Ishizaki T, Tanaka M, Tanisawa K, Mieno MN, Sawabe M, Arai T, Muramatsu M, Yamada Y, Ito H. Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. **J Bone Miner Metab** 34:685-691, 2016.
 15. Maeda Y, Sato N, Naka-Mieno M, Mori S, Arai T, Tanaka M, Muramatsu M, Sawabe M. Association of non-synonymous variants in WIPF3 and LIPA genes with abdominal aortic aneurysm: an autopsy study. **J Geriatr Cardiol** 13:960-967, 2016
 16. Matsuda Y , Ishiwata T, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Kimura W, Arai T. Do 2-cm pancreatic tumors localize in the pancreas? Analysis of the greatest and smallest diameter of the autopsied pancreas. **山形大学紀要 (医学)** 34:37-41, 2016.
 17. 藤井 悠子, 西村 誠, 細矢 さやか, 剛崎 有加, 松岡 順子, 松川 美保, 中嶋 研一朗, 潮 靖子, 佐々木 美奈, 松田 陽子, 新井 富生, 上垣 佐登子. 縦隔病変に対するEUS-FNAの有用性および安全性の検討. **Progress of Digestive Endoscopy** 89:74-75, 2016.
 18. Ohno K, Kimura Y, Matsuda Y, Takahashi M, Honjyou M, Arai T, Tsutsumi T. Increased number of IgG4-positive plasma cells in chronic rhinosinusitis. **Acta Otolaryngol** 137:186-190,

2017.

19. Matsuda Y, Ishiwata T, Yoshimura H, Yamahatsu K, Minamoto T, Arai T. Nestin phosphorylation at threonines 315 and 1299 correlates with proliferation and metastasis of human pancreatic cancer. **Cancer Sci** 108:354-361, 2017.
20. Yoshimura H, Yamamoto M, Moriya M, Endo T, Sugiura N, Kato T, Matsuda Y, Ishiwata T, Kajigaya H, Kamiya S. Teratoma of the ovary in a free-ranging Japanese raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*). **J Zoo Wildl Med** 48:265-268, 2017.
21. Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M. Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in East Asian populations. **J Gerontol A Biol Sci Med Sci** 72:309-318, 2017.

●総説

1. 新井富生, 松田陽子, 関 敦子, 野中敬介, 櫻井うらら, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行: 老人性アミロイドーシスの病理. 病理と臨床 34:496-504, 2016.
2. 新井富生: 剖検からみた複数疾患合併の実態: 呼吸器疾患を中心として. THE LUNG perspectives 24:292-297, 2016.
3. 河内 洋, 新井富生: 食道癌取扱い規約第11版の変更点. 病理と臨床 34:902-908, 2016.
4. 相田順子, 石崎達郎, 石渡俊行, 田久保海誉, 新井富生: 表在型Barrett食道癌の転移・再発危険因子. 第72回食道色素研究会多施設アンケート調査から. 胃と腸 51:1269-1282, 2016.
5. 新井富生, 松田陽子, 関 敦子, 野中敬介, 柿崎元恒, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行: 髄様癌 Medullary carcinoma. 病理と臨床 34:1080-1084, 2016.

●学会・研究会発表

1. Matsuda Y: Single nucleotide polymorphisms in ARHGAP17 are associated with pancreatic intraepithelial neoplasia. Annual meeting of American Association for Cancer Research. New Orleans, 4月18日, 2016.
2. 相田真介, 相田順子, 津浦幸夫, 加藤 舞, 田

久保海誉, 新井富生, 長村義之: Q-FISH法による胸水中皮細胞のテロメア長の測定とその意義の検討. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月12日, 2016.

3. 関 敦子, 濱松晶彦, 松田陽子, 野中敬介, 北畑裕之, 大川真一郎, 沢辺元司, 新井富生: Medial changes in the culprit plaques in acute myocardial infarction. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月12日, 2016.
4. 新井富生: 診療領域別講習特別プログラム研究講演会11. 大腸鋸歯状病変の癌化と分子異常. 鋸歯状病変の病理学的問題点 (追加発言). 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月13日, 2016.
5. 新井富生: コンパニオンミーティング8. 消化管病理医の会. 「食道癌取扱い規約第11版」の病理診断に関わる改訂点. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月13日, 2016.
6. 相田順子, 泉山七生貴, 仲村賢一, 石川直, 松田陽子, 長谷川佳代, 直井美穂, 田久保海誉, 新井富生: Q-FISH法によるバレット食道における腸型および噴門部型粘膜のテロメア計測. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月13日, 2016.
7. Matsuda Y, Tanaka M, Sawabe M, Mori S, Yamada Y, Muramatsu M, Seki A, Nonaka K, Takubo K, Arai T: Relation between pancreatic intraepithelial neoplasias and single nucleotide polymorphisms in 2458 autopsied elderly patients. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月13日, 2016.
8. 野中敬介, 松田陽子, 関 敦子, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄, 新井富生: 全身性水痘帯状疱疹ウイルス感染症の4剖検例. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 5月13日, 2016.
9. Matsuda Y, Esaka S, Imaizumi M, Hamashima Y, Shirahata H, Kinoshita M, Matsukawa M, Suzuki A, Nishimura M, Arai T: Immunohistochemical analysis of pancreatic cancers by using EUS-FNA samples. The 19th International Congress of Cytology. Yokohama, 5月31日, 2016.
10. Kinoshita M, Hamashima Y, Esaka S, Imaizumi M, Shirahata H, Suzuki A, Matsuda Y, Arai T, Sawabe M, Honma N: Cytological characteristics of poorly differentiated squamous cell carcinomas of the breast. The 19th International Congress of Cytology. Yokohama, 5月30-31日, 2016.
11. 沢辺元司, 荻島創一, 周 赫英, 森聖二郎, 田中雅嗣, 三重野牧子, 新井富生, 前田裕子, 村松正明: 喫煙関連腹部大動脈瘤の遺伝子セット

- エンリッチメント解析. 第53回日本老年医学会学術集会. 金沢, 6月9日, 2016.
12. 松田陽子: Age-related changes in the pancreas. 2016 International gastrointestinal seminar in research team for geriatric pathology. 東京, 6月29日, 2016.
 13. Arai T: Histopathological characteristics of MSI cancers in the upper and lower GI tract – do they have anything in common? International Symposium on Improving Outcomes in Patients with Gastrointestinal Malignancies Requires an International Multidisciplinary Approach. Maastricht University, the Netherlands, 7月8日, 2016.
 14. 松田陽子: 膵臓の老化と発がん. 金沢大学がん進展制御研究所腫瘍制御研究分野共同研究セミナー2016. 金沢, 7月9日, 2016.
 15. 新井富生, 田中雅嗣, 村松正明, 三重野牧子: 高齢者がんと遺伝子多型, 喫煙の関連: 病理解剖例を用いた遺伝子多型解析—Macrophage capping protein (CAPG) Arg335His多型と発がん, 喫煙との関連—, 第31回平成27年度助成研究発表会, 東京, 7月20日, 2016.
 16. Matsuda Y, Wo JY, Castillo CF-D, Blaszkowsky LS, Ferrone CR, Matsushita A, Nakamura Y, Uchida E, Ishiwata T, Arai T, Hong TS, Ryan DP, Mino-Kenudson M: Pathologic assessment of tumor regression after neoadjuvant therapy for locally advanced/borderline resectable pancreatic cancer. 第20回国際膵臓学会大会. 仙台, 8月6日, 2016.
 17. 松田陽子, Wo JY, Castillo CF-D, Blaszkowsky LS, Ferrone CR, 松下晃, 中村慶春, 内田英二, 石渡俊行, 新井富生, Hong TS, Ryan DP, Mino-Kenudson M: 膵癌術前治療に対する病理組織学的効果判定の検討. 第21回日本外科病理学会学術集会. 埼玉, 9月2-3日, 2016.
 18. 柿崎元恒, 松田陽子, 野中敬介, 関 敦子, 新井富生: 糖尿病、虚血性心疾患、慢性腎不全の加療中にDICと多臓器不全をきたし死亡した1剖検例. 第72回日本病理学会関東支部学術集会. 東京, 9月24日, 2016
 19. Seki A, Chida K, Sugiyama T, Kitahata H, Hamamatsu A, Sawabe M, Matsuda Y, Nonaka K, Harada K, Arai T: Can increased intraplaque microvessels predict acute coronary event? A pathologic study of coronary arteries in 894 human autopsy cases. XXXI International Congress of the International Academy of Pathology and 28th Congress of the European Society of Pathology. Kölnmesse, Köln, Germany, 9月26日, 2016.
 20. Kinoshita M, Hamashima M, Esaka S, Imaizumi M, Shirahata H, Suzuki A, Matsuda Y, Arai T, Soejima Y, Sawabe M, Honma N: Cytological characteristics of poorly differentiated squamous cell carcinomas (SCC) of the breast: comparison between cytological findings of invasive ductal carcinoma and apocrine carcinoma. XXXI International Congress of the International Academy of Pathology and 28th Congress of the European Society of Pathology. Kölnmesse, Köln, Germany, 9月27日, 2016.
 21. Aida J, Takubo K, Ishikawa N, Matsuda Y, Arai T, Ishiwata T, Vieth M: Telomere measurement of intestinal and cardiac-type mucosae in Barrett's oesophagus using quantitative-fluorescence in situ hybridization. XXXI International Congress of the International Academy of Pathology and 28th Congress of the European Society of Pathology, Kölnmesse, Köln, Germany, 9月27日, 2016.
 22. Arai T, Wang T, Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Aida J, Takubo K, Ishiwata T: KRAS and BRAF mutation and microsatellite instability status in gastric cancer in the elderly. XXXI International Congress of the International Academy of Pathology and 28th Congress of the European Society of Pathology. Kölnmesse, Köln, Germany, 9月27日, 2016.
 23. 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川 直, 新井富生, 田久保海誉, 相田順子: 膵癌の転移に対する新たな治療標的としての長鎖non-coding RNA, H19. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜, 10月6日, 2016.
 24. 進士誠一, 松田陽子, 山田岳史, 小泉岐宏, 横山康行, 高橋吾郎, 岩井拓磨, 原 敬介, 武田幸樹, 石渡俊行, 新井富生, 内藤善哉, 内田英二: 低分化成分を有する右側結腸癌と左側結腸癌の臨床病理学的比較. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜, 10月7日, 2016.
 25. 本間尚子, 三上哲夫, 深澤由里, 新井富生, 河内 洋, 山本智理子, 石川雄一: 閉経後女性結腸癌における年齢、部位によるエストロゲン因子の役割の違い. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜, 10月7日, 2016.
 26. Matsuda Y, Izumiyama-Shimomura N, Seki A, Nonaka K, Nakamura K, Ishikawa N, Aida J,

- Takubo K, Ishiwata T, Arai T : Telomere shortening in the pancreas: relationships with aging, cancers and tissue stem cells. 第75回日本癌学会学術総会. 東京, 10月8日, 2016.
27. Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, Nishimura M, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Kimura W, Arai T, Mino-Kenudson T : High-grade PanIN/carcinoma *in situ* of the pancreas associated with cystic changes and fibrosis - analysis of the entire pancreas in autopsies. Annual meeting of the American Pancreatic Association. Boston, 10月27日, 2016.
28. 新井富生: JDDW2016 統合プログラム3 (消化器病学会・消化器内視鏡学会・消化器外科学会) 食道胃接合部癌の諸問題 食道胃接合部癌病理診断の現状と課題. 第24回日本消化器関連学会週間 JDDW2016. 神戸, 11月4日, 2016.
29. 松田陽子, 石渡俊行, 田久保海誉, 新井富生: 病理解剖検体を用いた膵癌早期病変の臨床病理像の解明. 第62回日本病理学会 秋期特別総会. B演説. 金沢, 11月10日, 2016.
30. 日野春秋, 西村 隆, 臼杵智江美, 佐塚まなみ, 関 敦子, 似鳥純一, 山田浩和, 新井富生, 山本寛, 中島 淳: 高齢者進行肺癌に対して化学療法後、Salvage手術を施行した1例. 第57回日本肺癌学会総会. 福岡, 12月19日, 2016.
31. 松田陽子: 膵前駆細胞の老化の組織学的解析: 金沢大学がん進展制御研究所共同利用・共同研究拠点シンポジウム. 金沢, 2月14日, 2017.
32. 新井富生: 140歳を迎えた「ヘマトキシリン・エオジン染色」のトレビア. 第5回日本比較病理学研究会. 東京, 2月18日, 2017
33. 新井富生: アポトーシスの発見物語と消化管疾患におけるアポトーシスの役割. 第5回日本比較病理学研究会. 東京, 2月18日, 2017
34. Matsuda Y, Itabashi M, Takei T, Shimizu A, Yumura W, Arai T : Clinicopathological characteristics of ANCA-associated vasculitis from autopsy patients. The 18th International Vasculitis & ANCA Workshop. 東京, 3月26日, 2017.

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 新井富生: 食道癌の病理 一食道癌取扱い規約第11版の改訂点に焦点をあてて一. 第100回山梨ぶどうの会. 中央市 (山梨大学), 4月1日, 2016.
2. 新井富生: (教育講演) 食道表在癌病理診断の現在一扁平上皮癌、腺癌にまつわる諸問題一. 第70回日本食道学会学術集会. 東京, 7月6日,

2016.

3. 新井富生: 食道表在癌の病理 一食道癌取扱い規約第11版の改訂点に焦点をあてて一. 第30回大阪病理研究会. 大阪市, 12月17日, 2016.
4. 関 敦子: (ミニレクチャー) 肉眼観察でここまで鑑別できる心臓病理. 順天堂大学若蘭会. 東京, 2月10日, 2017.
5. 新井富生: 平成28年度東京都衛生検査所精度管理講習会. 管理者等講習会 調査結果の講評病理組織. 東京 (東京都議会議事堂都民ホール), 3月24日, 2017

●単行書・報告書

1. 松田陽子: 加齢に伴う膵臓のメチル化異常と膵発癌との関連. 日本膵臓病研究財団研究報告書 23回, pp119-121, 2016.
2. 松田陽子: 膵組織幹細胞の老化機序解明による疾患発症機序の解明. 平成28年度金沢大学がん進展制御研究所 共同研究報告書, 2016.
3. 松田陽子: 病理検体を用いた膵癌化学療法感受性マーカーの発現の検討. 平成27年度第23回研究助成金に係る研究報告書, 2016.
4. 新井富生, 田中雅嗣, 村松正明, 三重野牧子: 高齢者がんと遺伝子多型, 喫煙の関連: 病理解剖例を用いた遺伝子多型解析 一Macrophage capping protein (CAPG) Art335His 多型と発がん, 喫煙との関連一. 平成27年度喫煙科学研究財団研究年報, p.669-673, 2016
5. 新井富生: 病理組織検査: 平成28年度第35回東京都衛生検査所精度管理事業報告書, p.190-213, 2017

薬剤科

●講演会など

1. 森 淑子: 高齢者における薬物療法総論 「薬剤師の立場から」. 平成28年度東邦大学薬学部薬剤師生涯学習講座. 東邦大学薬学部大講義室, 4月24日, 2016年
2. 森 淑子: 入院時の服薬指導とかかりつけ薬局のススメ. 第143回老年学・老年医学公開講座. 文京シビックホール, 9月12日, 2016年

●学会発表

1. 佐藤 衛: β ラクタマーゼ阻害剤配合注射用抗菌薬使用量と主薬抗菌薬の薬剤感受性との相関性について. 第64回日本化学療法学会総会. 神戸国際会議場, 6月, 2016年
2. 鷲足 ひろみ: 当院における外来がん患者指導 (以下薬剤師外来) の現状とその成果. 第26

- 回日本医療薬学会年会. 国立京都国際会館, 9月, 2016年
3. 瀧川 正紀: 高齢者医療への貢献を目指した「後発医薬品選定基準表」の改訂. 第26回日本医療薬学会年会. 国立京都国際会館, 9月, 2016年
 4. 甲斐田 浩輔: 外来化学療法におけるがん患者管理指料3算定に関する取組み. 第54回日本癌治療学会学術集会. パシフィコ横浜, 10月, 2016年
 5. 三木 祐奈: 経口抗がん剤使用患者に向けた電話サポートの取組み. 第54回日本癌治療学会学術集会. パシフィコ横浜, 10月, 2016年
 6. 早船 美保子: ポリファーマシーが胃がん手術患者の術後回復に与える影響の検討. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会. ホテルグランヴィア岡山, 2月, 2017年

栄養科

●学会・研究会発表

1. 府川則子 引地和佳子 荒牧直子 伊藤真紀 西郷友香 笹原みさと 羽根田千恵 藤富篤子 南向光代 佐藤彰子 中村まさ子 大山勝子 荒木厚 井藤英喜
第20回日本病態栄養学会「高齢糖尿病患者の血糖に影響を及ぼす食事状況から栄養指導を考える」

●講師等院外活動（講演）

1. 羽根田千恵: 第5回板橋区民公開講座「あなたの腎臓、大丈夫ですか」講師 平成28年11月27日

臨床研究推進センター

●雑誌論文

1. Zhou, H., Mori, S., Ishizaki, T., Tanaka, M., Tanisawa, K., Mieno, M.N., Sawabe, M., Arai, T., Muramatsu, M., Yamada, Y., Ito, H.: Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. *J. Bone Miner. Metab.*, 34: 685-691, 2016.
2. Zhou, H., Mori, S., Ishizaki, T., Takahashi, A., Matsuda, K., Koretsune, Y., Minami, S., Higashiyama, M., Imai, S., Yoshimori, K., Doita, M., Yamada, A., Nagayama, S., Kaneko, K., Asai, S., Shiono, M., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. *Bone Rep.*, 5:168-172, 2016.

3. Maeda, Y., Sato, N., Naka-Mieno, M., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M., Muramatsu, M., Sawabe, M.: Association of non-synonymous variants in WIPF3 and LIPA genes with abdominal aortic aneurysm: an autopsy study. *J. Geriatr. Cardiol.*, 13:960-967, 2016.
4. Thu, K.S., Sato, N., Ikeda, S., Naka-Mieno, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M.: Association of polymorphisms of the transporter associated with antigen processing (TAP2) gene with pulmonary tuberculosis in an elderly Japanese population. *APMIS*, 124:675-680, 2016.
5. Tamura, Y., Izumiyama-Shimomura, N., Kimbara, Y., Nakamura, K., Ishikawa, N., Aida, J., Chiba, Y., Matsuda, Y., Mori, S., Arai, T., Fujiwara, M., Poon, S.S., Ishizaki, T., Araki, A., Takubo, K., Ito, H.: Telomere attrition in beta and alpha cells with age. *Age (Dordr)*, 38(3):61, 2016.
6. Zaw, K.T.T., Sato, N., Ikeda, S., Thu, K.S., Mieno, M.N., Arai, T., Mori, S., Furukawa, T., Sasano, T., Sawabe, M., Tanaka, M., Muramatsu, M.: Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. *J. Cardiol.* 2016 Dec 19. pii: S0914-5087(16)30290-8. doi: 10.1016/j.jcc.2016.11.005. [Epub ahead of print]
7. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of six polymorphisms as novel susceptibility loci for ischemic or hemorrhagic stroke by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, 39:1477-1491, 2017.
8. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Yoshida, H., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of EGFLAM, SPATC1L, and RNASE13 as novel susceptibility loci for aortic aneurysm in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Int. J. Mol. Med.*, 39: 1091-1100, 2017.
9. Honma, N., Saji, S., Mikami, T., Yoshimura, N., Mori, S., Saito, Y., Murayama, S., Harada, N.: Estrogen-related factors in the frontal lobe of

- Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. *Sci. Rep.*, 7(1):726, 2017.
10. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M. : Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*. 2017 Mar 30. doi:10.18632/oncotarget.16696. [Epub ahead of print]
 11. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, 8:33527-33535, 2017.
 12. Tanisawa, K., Arai, Y., Hirose, N., Shimokata, H., Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Yoshida, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Sugaya, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Higuchi, M., Liu, Y.W., Kong, Q.P., Tanaka, M.: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J. Gerontol. A. Biol. Sci. Med. Sci.*, 72:309-318, 2017.
 13. Nagai, A., Hirata, M., Kamatani, Y., Muto, K., Matsuda, K., Kiyohara, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Kubo, M., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Overview of the BioBank Japan Project: Study design and profile. *J. Epidemiol.*, 27:S2-S8, 2017.
 14. Hirata, M., Kamatani, Y., Nagai, A., Kiyohara, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Kubo, M., Muto, K., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Matsuda, K., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Cross-sectional analysis of BioBank Japan clinical data: A large cohort of 200,000 patients with 47 common diseases. *J. Epidemiol.*, 27:S9-S21, 2017.
 15. Hirata, M., Nagai, A., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Kubo, M., Muto, K., Kiyohara, Y., Mushiroda, T., Murakami, Y., Yuji, K., Furukawa, Y., Zembutsu, H., Tanaka, T., Ohnishi, Y., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Matsuda K, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Overview of BioBank Japan follow-up data in 32 diseases. *J. Epidemiol.*, 27:S22-S28, 2017.
 16. Okada, E., Ukawa, S., Nakamura, K., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Muto, K., Kamatani, Y., Yamagata, Z., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*, Tamakoshi A, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka,

- Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Demographic and lifestyle factors and survival among patients with esophageal and gastric cancer: The Biobank Japan Project. *J. Epidemiol.*, 27:S29-S35, 2017.
17. Tamakoshi, A., Nakamura, K., Ukawa, S., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Kamatani, Y., Muto, K., Kiyohara, Y., Yamagata, Z., Ninomiya, T., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*
*Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics and prognosis of Japanese colorectal cancer patients: The BioBank Japan Project. *J. Epidemiol.*, 27:S36-S42, 2017.
18. Ukawa, S., Okada, E., Nakamura, K., Hirata, M., Nagai, A., Matsuda, K., Yamagata, Z., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Muto, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*
*Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics of patients with liver cancer in the BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27:S43-S48, 2017.
19. Nakamura, K., Ukawa, S., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Ninomiya, T., Muto, K., Kiyohara, Y., Matsuda, K., Kamatani, Y., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*
*Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27:S65-S70, 2017.
20. Nakamura, K., Okada, E., Ukawa, S., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Kiyohara, Y., Muto, K., Kamatani, Y., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*
*Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Characteristics and prognosis of Japanese female breast cancer patients: The BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27:S58-S64, 2017.
21. Ukawa, S., Nakamura, K., Okada, E., Hirata, M., Nagai, A., Yamagata, Z., Muto, K., Matsuda, K., Ninomiya, T., Kiyohara, Y., Kamatani, Y., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*
*Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Clinical and histopathological characteristics of patients with prostate cancer in the BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27:S65-S70, 2017.
22. Hata, J., Nagai, A., Hirata, M., Kamatani, Y.,

- Tamakoshi, A., Yamagata, Z., Muto, K., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; Biobank Japan Cooperative Hospital Group.*; Kiyohara, Y., Ninomiya, T.; Collaborator., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Risk prediction models for mortality in patients with cardiovascular disease: The BioBank Japan project. *J. Epidemiol.*, 27:S71-S76, 2017.
23. Yokomichi, H., Noda, H., Nagai, A., Hirata, M., Tamakoshi, A., Kamatani, Y., Kiyohara, Y., Matsuda, K., Muto, K., Ninomiya, T., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Cholesterol levels of Japanese dyslipidaemic patients with various comorbidities: BioBank Japan. *J. Epidemiol.*, 27:S77-S83, 2017.
24. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Tamakoshi, A., Kiyohara, Y., Kamatani, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Statin use and all-cause and cancer mortality: BioBank Japan cohort. *J. Epidemiol.*, 27:S84-S91, 2017.
25. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Kiyohara, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kamatani, Y., Tamakoshi, A., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata, Z., *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Serum glucose, cholesterol and blood pressure levels in Japanese type 1 and 2 diabetic patients: BioBank Japan. *J. Epidemiol.*, 27:S92-S97, 2017.
26. Yokomichi, H., Nagai, A., Hirata, M., Kiyohara, Y., Muto, K., Ninomiya, T., Matsuda, K., Kamatani, Y., Tamakoshi, A., Kubo, M., Nakamura, Y.; BioBank Japan Cooperative Hospital Group.*; Yamagata Z, *Members of medical institutions cooperating on the BioBank Japan Project who co-authored this paper include Matsubayashi, S., Harada, H., Misumi, K., Komi, R., Minami, S., Sugihara, H., Emoto, N., Kanazawa, A., Suzuki, Y., Hiratsuka, Y., Asai, S., Moriyama, M., Takahashi, Y., Fujioka, T., Obara, W., Mori, S., Ito, H., Nagayama, S., Miki, Y., Masumoto, A., Yamada, A., Nishizawa, Y., Kodama, K., Ugi, S., Maegawa, H., Koretsune, Y., Taki, H., Osawa, T.: Survival of macrovascular disease, chronic kidney disease, chronic respiratory disease, cancer and smoking in patients with type 2 diabetes: BioBank Japan cohort. *J. Epidemiol.*, 27:S98-S106, 2017.
27. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of eight genetic variants as novel determinants of dyslipidemia in Japanese by exome-wide association studies. *Oncotarget*. 2017 Apr 17. doi:10.18632/oncotarget.17159. [Epub ahead of print]
28. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I.,

- Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of rs7350481 at chromosome 11q23.3 as a novel susceptibility locus for metabolic syndrome in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*. 2017 Apr 8. doi:10.18632/oncotarget.16945. [Epub ahead of print]
29. Dechamethakun, S., Sato, N., Ikeda, S., Sawabe, M., Mori, S., Yamada, Y., Tanaka, M., Muramatsu, M., Arai, T.: Association of macrophage capping protein (CAPG) Arg335His polymorphism and cancer susceptibility in the elderly Japanese. *J. Gerontol. Geriatr. Res.*, in press.
 30. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of TNFSF13, SPATC1L, SLC22A25, and SALL4 as novel susceptibility loci for atrial fibrillation by an exome-wide association study. *Mol. Med. Rep.*, in press.
 31. Mori, S., Zhou, H., Yamaga, M., Takemoto, M., Yokote, K.: Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. *Geriatr. Gerontol. Int.*, in press.
 32. Nishi, K., Luo, H., Nakabayashi, K., Doi, K., Ishikura, S., Iwahara, Y., Yoshida, Y., Tanisawa, K., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M., Sakata, T., Shirasawa, S., Tsunoda, T.: An alpha-kinase 2 gene variant disrupts F-actin localisation in the surface of colorectal cancer spheroids. *Anticancer Research*, in press.
 33. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of 12q24.1, ACAD10, and BRAP as novel genetic determinants of blood pressure in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*, in press.
- 総説
1. Mori, S., Zhou, H.: Implementation of personalized medicine for fracture risk assessment in osteoporosis. *Geriatr. Gerontol. Int.*, 16 (Suppl. 1):57-65, 2016
 2. 森聖二郎:2型糖尿病では血糖管理の良否と骨折リスクが関連している. 最新研究情報. *Aging&Health*, 24 (76), 4, 2016
 3. 森聖二郎:骨粗鬆症. Common diseaseのGWAS. *CLINICAL CALCIUM*, 26, 537-543, 2016
 4. 森聖二郎:新規骨粗鬆症治療薬プロソツマブ(抗スクレロスチン抗体). 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (77), 4, 2016
 5. 森聖二郎:果物と野菜の日常的摂取は大腿骨頸部骨折の予防にも有益. 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (77), 4, 2016
 6. 森聖二郎:骨形成不全症原因遺伝子のレアバリエーションと骨粗鬆症との関係. 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (78), 4, 2016
 7. 森聖二郎:カロリー制限は寿命を延長する可能性はあるが骨は大丈夫か? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (78), 4, 2016
 8. 森聖二郎:生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応. だより(練馬区医師会発行), 第577号(4月), 1-8, 2016
 9. 森聖二郎:ウェルナー症候群の最新知見. *小児科* 57, 1113-1119, 2016
 10. 森聖二郎:カルシウムの経口摂取のみでは骨折抑制効果は期待できない? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (79), 4, 2016
 11. 森聖二郎:ADMAはサルコペニアのバイオマーカーにもなりうる? 最新研究情報. *Aging &Health*, 25 (79), 4, 2016
 12. 森聖二郎:血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか? 最新研究情報. *Aging &Health*, 25 (80), 4, 2017
 13. 森聖二郎:総合診療医に求める骨粗鬆症の診療, 内分泌専門医の立場から. *Gノート*, 4 (1), 101-107, 2017
 14. 森聖二郎:低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
 15. 森聖二郎:サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
 16. 森聖二郎:老化細胞を死滅させると寿命が延長する? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (82), 2017, 印刷中
 17. 森聖二郎:骨の老化. 老化と生体恒常性.

●学会・研究会発表

1. 森聖二郎, 田中雅嗣, 山岡巧弥, 小寺玲美, 佐藤謙, 坪井由紀, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜: 閉経後骨粗鬆症患者ならびに地域住民においてサルコペニアに関わる遺伝子多型について. 第113回日本内科学会講演会, 東京, 2016.4.16
2. 周赫英, 森聖二郎, 山岡巧弥, 佐藤謙, 坪井由紀, 小寺玲美, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜: 閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する遺伝子多型について. 第59回日本老年医学会学術集会・総会, 金沢, 2016.6.8
3. 沢辺元司, 荻島創一, 周赫英, 森聖二郎, 田中雅嗣, 三重野牧子, 新井富生, 前田裕子, 村松正明: 喫煙関連腹部大動脈瘤の遺伝子セットエンリッチメント解析. 第59回日本老年医学会学術集会・総会, 金沢, 2016.6.9
4. Zhou, H., Mori, S., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. Oral Presentation at the IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Singapore, 2016.11.5. Osteoporos. Int., 27 (Suppl. 3):S703-S704, 2016.

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 栄養障害と肥満、メタボリック症候群」平成28年4月15日 (東京)
2. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 糖尿病の発症機序」平成28年4月22日 (東京)
3. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 糖尿病と合併症」平成28年5月6日 (東京)
4. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 脂質代謝と脂質代謝異常症」平成28年5月13日 (東京)
5. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 加齢性疾患、骨粗鬆症」平成28年5月27日 (東京)
6. 森聖二郎: 国立大学法人お茶の水女子大学学生講義「臨床医学各論: 内分泌疾患」平成28年6月3日 (東京)
7. 森聖二郎: 板橋看護専門学校講義「甲状腺疾患と骨粗鬆症」平成28年11月11日 (東京)
8. 森聖二郎: 板橋看護専門学校講義「糖尿病と高脂血症」平成28年11月25日 (東京)

9. 森聖二郎: 豊島区医師会青年部会講演会～骨粗鬆症セミナー～「生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応とFRAX」平成28年4月15日 (東京)
10. 森聖二郎: Women's Health Conference～骨粗鬆症のミカタ～「生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応」平成28年5月30日 (東京)
11. 森聖二郎: 横浜市港北区生涯学習講座「骨粗しょう症にならないために」平成28年9月29日 (横浜)

●単行書・報告書

1. 森聖二郎: 転倒. すぐに使える高齢者総合診療ノート改訂第2版 (日本医事新報社) (大庭建三編集), 2017, 印刷中
2. 森聖二郎: ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症の遺伝素因と環境因子との関わりについて. 平成28年度厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患等政策研究事業, 早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究, 分担研究報告書.

高齢者バイオリソースセンター

●雑誌論文

1. Nakano Y, Kanda T: Pathology of GBS. Clinical and Experimental Neuroimmunology. 2016 Nov; 7(4): in press.

●学会・研究会発表

1. Nakano Y, Takahashi-Fujigasaki J, Shinya A, Takahashi M, Oimo S, Kitamoto T, Murayama S: Clinically and neuropathologically atypical autopsied case of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease MM typel. Prion 2016 Tokyo, 2016.5.10-13
2. 瀬川千尋, 小幡真希, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 新井富生, 金丸和富, 村山繁雄: 臨床心理士職としてのブレインバンクコーディネーターの年次活動報告. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5.18-21
3. 小幡真希, 瀬川千尋, 東原真奈, 仙石鍊平, 金田大太, 仁科裕史, 加藤貴行, 金丸和富, 武田克彦, 村山繁雄: 視覚性課題に示されるDLBの疾患特異性の検討 —TMT, RBMT, WAIS, CDTを用いて—. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.11-12

●講師等院外活動 (講演・放送等)

1. 小幡真希: (講師) 地域と育む未来医療人「なごやかモデル」. 名古屋市立大学CHCセンター

●単行書・報告書

1. 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 神経内科 Clinical Questions & Pearls、鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 認知症. 認知症における脳以外の生検も有用ですか?. 中外医学社, 東京, pp354-358, 2016
2. 小幡真希: 神経内科 Clinical Questions & Pearls、鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 認知症. 高次機能検査としてベットサイドや外来でできるスクリーニング検査はどのようなものがありますか? その解釈を教えてください. 中外医学社, 東京, pp 83-88, 2016

高齢者健康増進センター

●雑誌論文

1. 杉江 正光. 医療・介護・健康を巡る周辺サービス産業について. 技術と経済(JATES) 598: 1-16, 2016(12)
2. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Obuchi SP, Harada K, Kyo S, Ito H. Femoral muscle mass relates to physical frailty components in community-dwelling older people. Geriatr Gerontol Int.2017Jan26.doi:10.1111/ggi.12945.

●学会・研究会発表

1. Sugie M, Harada K, Takahashi T, Nara M, Fujimoto H, Kyo S, Itoh H Relationship between skeletal muscle mass and cardiac function during exercise in chronically ill older adults, European Society of Cardiology 2016, Firenze, 5月22日,2016.
2. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本肇, 大瀨修一, 金経憲, 小山照幸, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜:(一般演題)「地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連」, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 6月9日, 2016.
3. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 大瀨修一, 水村真由美, 許俊鋭, 原田和昌, 井藤英喜:(一般演題)「包括的フレイル評価としての高齢者健康寿命総合評価成績表の開発」, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 6月9日, 2016.
4. 杉江 正光, 原田 和昌, 奈良 毬那, 高橋 哲也, 大瀨 修一, 小山 照幸, 藤本 肇, 許 俊鋭, 井藤 英喜:(ビデオセッション) ケーススタディ 心臓リハビリテーションの現場から,「維持

期・生活期に対する東京都健康長寿医療センターの取り組み」, 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会, 東京, 7月16日、2016.

5. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本肇, 大瀨修一, 金経憲, 小山照幸, 高橋哲也, 許俊鋭, 井藤英喜:(一般演題)「地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連」, 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会, 東京, 7月17日, 2016.
6. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 水村真由美, 原田和昌, 許俊鋭, 井藤英喜:(一般演題)「身体活動量計を指標としたヘルスツーリズム構築の試み」, 第22回日本心臓リハビリテーション学術集会東京, 7月17日, 2016.
7. 杉江 正光, 原田 和昌, 奈良 毬那, 高橋 哲也, 大瀨 修一, 小山 照幸, 藤本 肇, 許 俊鋭, 井藤 英喜:(シンポジウム 9) 高齢者frailtyをどう評価し、実臨床で生かすか,「フレイルと心機能」, 第64回日本心臓病学会学術集会, 東京, 9月24日, 2016.
8. 杉江 正光, 原田 和昌, 田中 啓介, 高橋 哲也, 奈良 毬那, 大西 達夫, 中村 彰吾, 許 俊鋭, 井藤 英喜:(一般演題)「超高齢社会に寄与する医療機関の在り方を模索した当センターの健康寿命延伸事業の紹介 第3報 ~病院収支と社会保障費抑制効果~」, 第55回全国自治体病院学会学術集会, 富山, 10月21日, 2016.
9. Takahashi T, Sugie M, Nara M, Koyama T, Harada K, Kyo S, Ito H. Frail components and exercise capacity relate to femoral muscle mass in community dwelling older people. 22rd annual congress of Japanese Association of Cardiac Rehabilitation. July 2016, Tokyo. 心臓リハビリテーション学会 22回大会 (2016年)

●講師等院外活動(講演)

杉江 正光:ヘルスケア領域の新規事業を検討する, 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ, 東京, 11月1日, 2016.

■病院部門課題研究費で行われた研究

指定研究 ①重点医療(血管病、高齢者がん、認知症)に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
糖尿病・代謝・内分泌内科	田村 嘉章	荒木 厚・小寺 玲美・千葉 優子・森 聖二郎・平野 浩彦	高齢糖尿病患者のフレイルに関連する因子の探索
病理診断科	関 敦子		高齢者急性心筋梗塞における冠動脈責任病変の病理像
精神科	扇澤 史子	古田 光・岡本 一枝・今村 陽子・白取 絹恵・畠山 啓・齋藤 久美子・筒井 卓実・松井 仁美・市橋 雅典・松本 健二・久保田 真由・栗田 圭一	認知症スクリーニングに寄与する簡便な記憶評価法についての検討:HDS-R・MMSE終了後の3語再生課題のAD、MCI、NCの比較
呼吸器外科	日野 春秋	西村 隆・関 敦子・新井 富生	高齢者間質性肺炎の臨床病理学的検討～急性増悪の予防・治療、肺癌合併のリスクファクター解明への取り組み～
循環器内科	石川 譲治	鳥羽 梓弓・田中 旬・荒木 厚・原田 和昌	フレイル患者の至適血圧レベルに関する研究
腎臓内科	武井 卓	板橋 美津世	高齢者ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療研究
リハビリテーション科	西山 千香子	加藤 茉祐子・齋藤 尚子・田中 春奈・生井 瞳・加藤 貴行・金丸 晶子	Progressive Aphasia Severity Scale(PASS)日本語版の作成

指定研究 ②高齢者急性期医療の提供に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
栄養科	羽根田 千恵		高齢糖尿病患者におけるコントロール不良の原因―食事療法と独居、介護環境やライフイベントの変化との関連―
麻酔科	廣瀬 佳代		病的肺における肺血管張力調節因子としてのフォスフォジエステラーゼ
リハビリテーション科	小山 照幸	杉江 正光	低温サウナ中のエネルギー消費量の変化

指定研究 ③地域連携の推進に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
リハビリテーション科	加藤 貴行	金丸 晶子・菅原 康宏・本田 拓也・河地 由恵・中嶋 梨江・生井 瞳・太田 隆	「地域高齢者を対象とした運動レクササイズDVD教材(「ホームレクササイズ2015」)の生活場面での活用方法の検討」

指定研究 ⑤安心かつ信頼できる質の高い医療に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
膠原病リウマチ科	杉原 毅彦	松本 拓実・稲垣 雅子・伊賀 祥子	日本における高齢者関節リウマチ患者の前向き観察研究 ―関節破壊進行の危険因子の解析、生物学的製剤の適応と有効性安全性の評価―
病理診断科	浜島 裕理	江坂 四季音・今泉 雅之・鈴木 明美・松田 陽子・新井 富生・藤井 悠子・松川 美保・西村 誠	病理診断に最適な超音波内視鏡下穿刺吸引の採取方法の検討
歯科口腔外科	森 美由紀	齋藤 美香・平野 浩彦	当院における抗血栓療法患者の抜歯後出血に関する実態調査 ―特にNOACに注目した検討―

指定研究 ⑥患者サービスの一層の向上に関する研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
高齢者バイオリソースセンター	小幡 真希	村山 繁雄・中野 雄太・新井 富生・仁科 裕史・金丸 和富・仙石 鍊平・金田 大太・東原 真奈・古田 光	ブレインバンク事前同意登録を経て本登録した患者ご遺族の、グリーフケアに関する研究

萌芽的研究 独創的な発想に基づく挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

研究代表者		共同研究者	研究課題名
課(科)	氏名		
皮膚科	種井 良二	長谷川 康子	高齢者アトピー性皮膚炎の臨床的・病理組織学的研究
麻酔科	木ノ内 万里子	脊山 雅子・縄田 瑞木・仁多 健剛・筒井 卓実・古田 光・市橋 雅典・岡村 毅・久保田 真由・酒井 遼・松井 仁美・松本 健二	高齢者においてラメルテオンは全身麻酔後のせん妄の発生率を下げるか

Ⅱ 統 計

II 統 計

外来診療の状況

1. 診療科別外来患者数 …………… 210
2. 診療科・初診・再診別外来患者数 …………… 210
3. 外来初診予約時の状況 …………… 211
4. 救急患者取扱状況 …………… 213

入院退院の状況

5. 病床利用状況 …………… 214
6. 病床利用率 …………… 214
7. 月別入退院状況 …………… 215
8. 平均在院日数 …………… 215
9. 入院患者の年齢別内訳 …………… 216
10. 入院患者平均年齢（入院時） …………… 216
11. 地域別入院患者数 …………… 217
12. 退院者の在院期間 …………… 218

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数 …………… 219
14. 年齢別死亡者数 …………… 220
15. 死亡原因別死亡者数 …………… 221
16. 死亡者の入院期間 …………… 221

部門別業務状況

17. 手術・麻酔件数 …………… 222
18. 疾病別手術件数 …………… 224
19. リハビリテーション取扱実績 …………… 228
20. 理学療法実施状況 …………… 229
21. 作業療法実施状況 …………… 229
22. 言語療法実施状況 …………… 229
23. 心理検査等取扱件数 …………… 229
24. 調剤実施状況 …………… 230
25. 製剤実施状況 …………… 230
26. 院外処方箋発行率 …………… 230
27. 薬品管理状況 …………… 231
28. 薬効別薬品使用比率（薬価） …………… 231
29. 麻薬取扱状況 …………… 232
30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務 …………… 233
31. 外来服薬指導実施状況 …………… 233
32. 外来がん患者指導業務 …………… 233
33. 病棟業務実施状況 …………… 234
34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）
処方箋取扱数 …………… 234
35. 医薬品情報業務 …………… 234

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況 … 235
37. 病理学的業務実施状況 …………… 236
38. 研究検査実施状況 …………… 237
39. 放射線部門取扱数 …………… 238
40. 給食実施状況 …………… 240
41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況 …… 240
42. 個人栄養食事指導実施状況 …………… 241
43. 集団栄養食事指導実施状況 …………… 241
44. 在宅看護相談室の看護実施状況 …………… 242
45. 在宅酸素療法実績 …………… 243
46. 在宅人工呼吸療法実績 …………… 243
47. 病歴取扱状況 …………… 244
48. 医療相談室相談件数 …………… 245

診療費の収入状況

49. 診療実績 …………… 247
50. 診療実績：前年度比較 …………… 248
51. 診療実績（入院） …………… 250
52. 診療実績（外来） …………… 251
53. 入院患者（入院時）保険種別内訳 …… 252
54. 外来患者（新患）保険種別内訳 …… 253

経営分析

55. 退院患者の疾患内訳
（ICD10コードによる大分類） …………… 254
56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳
（ICD10コードによる中分類） …………… 260

外来診療の状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

1. 診療科別外来患者数

※「婦人科」は休診のため実績なし。

診療科 区分	(総合診療科)	感染症内科	腎臓内科	内臓内分泌代謝科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科・脳卒中科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病・リウマチ科	精神科	物忘れ外来	外科	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計
外来患者数	3457	907	5,208	15,908	32,556	10,521	14,994	17,379	4,217	2,446	477	7,971	8,315	1,850	8,323	2,225	955	2,961	603	13,488	4,340	10,035	13,469	0	19,014	7,725	1,420	11,986	3,878	3,761	586	2,498	5,423	238,896
延診療日数	243	93	193	243	243	243	243	243	146	193	218	243	243	243	243	150	146	243	150	243	67	184	193	0	243	243	132	243	220	150	243	243	365	293
1日平均数	14.2	9.8	27.0	65.5	134.0	43.3	61.7	71.5	28.9	12.7	2.2	32.8	34.2	7.6	34.3	14.8	6.5	12.2	4.0	55.5	64.8	54.5	69.8	0.0	78.2	31.8	10.8	17.6	25.1	2.4	10.3	14.9	815.3	

※「フレイル外来」としては平成27年10月より計上している。

2. 診療科・初診・再診別外来患者数

診療科 区分	総合診療科	感染症内科	腎臓内科	内臓内分泌代謝科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	神経内科・脳卒中科	血液内科	化学療法科	緩和ケア内科	膠原病・リウマチ科	精神科	物忘れ外来	外科	血管外科	心臓外科	脳神経外科	呼吸器外科	整形外科	脊椎外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科	骨粗鬆症外来	フレイル外来	放射線診療科	救急科	合計	比率(%)
初診	602	112	98	180	730	236	834	852	259	55	201	181	229	800	334	266	40	242	8	988	109	331	382	0	1,147	542	28	1,763	54	101	1	1,429	2,164	15,298	6.4
再診	2,855	795	5,110	15,728	31,826	10,285	14,160	16,527	3,958	2,391	276	7,790	8,086	1,050	7,989	1,959	915	2,719	595	12,500	4,231	9,704	13,087	0	17,867	7,183	1,392	10,223	3,824	3,660	585	1,069	3,259	223,598	93.6
合計	3,457	907	5,208	15,908	32,556	10,521	14,994	17,379	4,217	2,446	477	7,971	8,315	1,850	8,323	2,225	955	2,961	603	13,488	4,340	10,035	13,469	0	19,014	7,725	1,420	11,986	3,878	3,761	586	2,498	5,423	238,896	100.0

年度別外来患者数の推移

年度	合計	初診再掲	1日当り
18年度	215,821	14,416	734
19年度	211,005	13,757	718
20年度	197,483	13,041	674
21年度	196,672	11,950	671
22年度	200,359	12,135	681
23年度	206,835	13,405	701
24年度	208,334	13,456	711
25年度	201,059	14,193	703
26年度	220,759	14,781	753
27年度	235,697	15,966	801
28年度	238,896	15,298	815

3. 外来初診予約時の状況

(1) 年齢別新規予約患者数

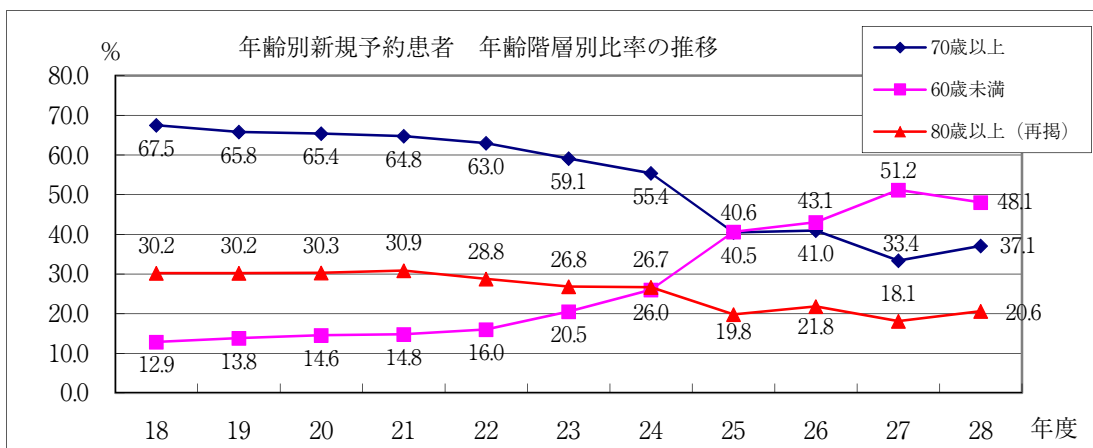
平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

区分 年齢階層	男	女	計
90歳以上	60	167	227
85～89歳	104	147	251
80～84歳	116	196	312
75～79歳	142	156	298
70～74歳	158	175	333
65～69歳	154	164	318
60～64歳	106	144	250
55～59歳	82	192	274
50～54歳	68	141	209
45～49歳	70	255	325
40～44歳	61	288	349
40歳未満	307	381	688
計	1,428	2,406	3,834

(2) 年齢別新規予約患者数の年度別推移

(上段：人、下段：比率%)

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
18年度	954 12.9%	1,455 19.6%	2,763 37.3%	2,238 30.2%	7,410 100.0%
19年度	978 13.8%	1,441 20.4%	2,512 35.6%	2,134 30.2%	7,065 100.0%
20年度	935 14.6%	1,281 20.0%	2,256 35.2%	1,943 30.3%	6,415 100.0%
21年度	894 14.8%	1,229 20.4%	2,045 33.9%	1,863 30.9%	6,031 100.0%
22年度	991 16.0%	1,299 21.0%	2,110 34.2%	1,776 28.8%	6,176 100.0%
23年度	1,552 20.5%	1,536 20.3%	2,443 32.3%	2,022 26.8%	7,553 100.0%
24年度	2,233 26.0%	1,590 18.5%	2,463 28.7%	2,294 26.7%	8,580 100.0%
25年度	2,147 40.6%	996 18.8%	1,096 20.7%	1,047 19.8%	5,286 100.0%
26年度	1,852 43.1%	683 15.9%	827 19.2%	937 21.8%	4,299 100.0%
27年度	2,498 51.2%	752 15.4%	746 15.3%	883 18.1%	4,879 100.0%
28年度	1,845 48.1%	568 14.8%	631 16.5%	790 20.6%	3,834 100.0%



(3) 新規予約患者の地域別患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(1) 区部

区名	一般
千代田	1
中央	2
港	4
新宿	26
文京	32
台東	6
墨田	4
江東	4
品川	5
目黒	5
大田	4
世田谷	12
渋谷	5
中野	16
杉並	12
豊島	437
北	181
荒川	6
板橋	2,395
練馬	274
足立	14
葛飾	6
江戸川	2
区部計	3,453

(2) 市・郡・島しょ部

市名	一般
八王子	6
立川	1
武蔵野	3
三鷹	0
青梅	2
府中	2
昭島	0
調布	0
町田	6
小金井	1
小平	2
日野	2
東村山	3
国分寺	0
国立	0
福生	0
狛江	0
東大和	3
清瀬	4
東久留米	1
武蔵村山	0
多摩	1
稲城	1
羽村	1
あきる野	0
西東京	8
市部計	47
郡部	0
島しょ部	1
市・郡・島しょ部	48

(3) 他県

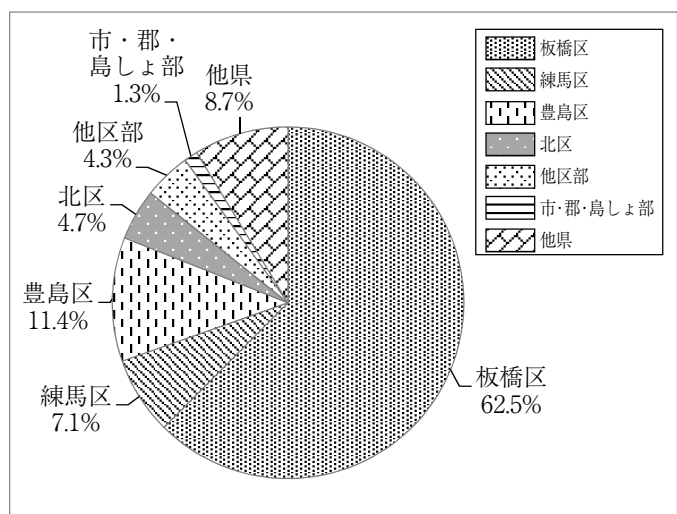
埼玉	166
神奈川	35
千葉	29
その他	103
他県計	333

総計	3,834
(1)+(2)+(3)	

新規予約患者の地域別患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

地域	比率	人数
板橋区	62.5	2,395
練馬区	7.1	274
豊島区	11.4	437
北区	4.7	181
他区部	4.3	166
市・郡・島しょ部	1.3	48
他県	8.7	333
合計	100.0	3,834



(4) 新規予約患者の平均年齢

平成28年4月1日～平成29年3月31日

男	女	全体
61.0	59.9	60.3

4. 救急患者取扱状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

			総 数	
			うち入院	
全	時 間 内	救 急 車	1,523	877
		そ の 他	2,593	1,303
		小 計	4,116	2,180
体	時 間 外	救 急 車	2,876	1,540
		そ の 他	2,868	772
		小 計	5,744	2,312
計			9,860	4,492
休 日 (再 掲)	時 間 内	救 急 車	323	180
		そ の 他	579	107
		小 計	902	287
	時 間 外	救 急 車	521	262
		そ の 他	469	113
		小 計	990	375
計			1,892	662

救急患者数の推移

(単位：人)

年 度		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
総 数		8,672	8,174	7,802	7,305	6,607	7,365	8,012	7,974	9,200	10,102	9,860
再 掲	入 院	4,373 (50.4)	4,031 (49.3)	3,872 (49.6)	3,444 (47.1)	3,105 (47.0)	3,587 (48.7)	3,799 (47.4)	3,507 (44.0)	4,293 (46.7)	4,709 (46.6)	4,492 (45.6)
	救 急 車	3,534 (40.8)	3,357 (41.1)	3,258 (41.8)	2,906 (39.8)	2,618 (39.6)	2,971 (40.3)	3,447 (43.0)	3,434 (43.1)	3,986 (43.3)	4,371 (43.3)	4,399 (44.6)
	時 間 外	4,473 (51.6)	4,388 (53.7)	4,203 (53.9)	3,754 (51.4)	3,388 (51.3)	3,657 (49.7)	4,333 (54.1)	4,521 (56.7)	5,560 (60.4)	5,990 (59.3)	5,744 (58.3)
	休 日											
	時 間 内	878	858	733	616	595	647	786	833	924	915	902
	時 間 外	632	676	628	641	470	564	720	712	985	943	990
	計	1,510 (17.4)	1,534 (18.8)	1,361 (17.4)	1,257 (17.2)	1,065 (16.1)	1,211 (16.4)	1,506 (18.8)	1,545 (19.4)	1,909 (20.8)	1,858 (18.4)	1,892 (19.2)

※ () は年度内の比率 (%) である。

入院退院の状況

5. 病床利用状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

診療科	項目	実稼働 病床数	延利用数	病床 利用率	入院者数	退院者数	死亡 (再掲)	病棟間移動		(再掲) 緊急入院
								転入	転出	
		床	人	%	人	人	人	人	人	人
総合診療科		22→18	3,459	86.1%	78	201	13	150	29	187
感染症内科			1,467		13	66	1	59	3	68
腎臓内科		10	3,519	96.4%	110	147	3	73	30	63
糖尿病・代謝・内分泌内科		26→21	9,133	112.5%	268	484	12	259	48	255
循環器内科		60→64	23,153	104.0%	1,151	1,436	57	381	100	919
呼吸器内科		16→20	10,470	111.8%	459	611	50	187	38	229
消化器内科		56	17,818	87.2%	2,037	2,495	55	556	94	693
神経内科・脳卒中科		51	19,302	103.7%	710	1,066	37	455	97	723
血液内科		26	6,902	72.7%	231	248	19	27	17	58
化学療法科		10	3,031	83.0%	145	167	7	32	5	69
緩和ケア内科		20→25	5,484	73.6%	159	231	198	76	1	49
在宅医療連携病床		4	567	38.8%	53	47	2	2	5	0
膠原病・リウマチ科		20	8,077	110.6%	205	316	11	124	21	156
精神科		30	9,188	83.9%	274	286	1	25	9	52
外科・血管外科		43	12,896	82.2%	1,035	1,110	28	166	85	234
心臓外科		10	4,041	133.4%	62	77	13	32	18	32
呼吸器外科		15	828	79.4%	37	44	0	14	5	12
脳神経外科		15	4,347	79.4%	238	247	13	45	41	177
整形外科・脊椎外科		56	16,264	79.6%	696	714	2	41	28	231
皮膚科		8	2,703	92.6%	159	172	0	24	10	66
泌尿器科		12	3,500	79.9%	394	433	5	37	8	51
婦人科		0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0
眼科		16	4,480	76.7%	2,295	2,285	0	1	1	7
耳鼻咽喉科		5→4	752	48.5%	97	98	0	3	1	32
歯科口腔外科		2	241	33.0%	72	72	0	0	0	11
リハビリテーション科		14→11	1,377	32.1%	35	70	0	33	3	20
救急科		4	2,504	171.5%	2,166	58	12	6	2,111	98
放射線診療科		-	-	-	-	-	-	-	-	-
I C U		14 (再掲)	3,081 (再掲)	-	533 (再掲)	73 (再掲)	55 (再掲)	-	-	-
計		550	175,503	87.4%	13,179	13,181	539	2,808	2,808	4,492

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

※科別病床利用率は年度内における病床数変更を勘案して計算している。

6. 病床利用率

算定病床	実稼働病床	550
	(実稼働病床×365日)	200,750
B 延入院患者数		175,503
B/A 病床利用率		87.4%

$$\text{〔病床回転率〕} = \frac{366 \text{日}}{\text{平均在院日数}} = \frac{366}{12.3} = 29 \text{ 回}$$

〔病床利用率の推移〕

年度	延入院患者数	病床利用率 %	
		予算定床	実稼働病床
18年度	207,477	88.0	85.9
19年度	211,153	89.3	87.2
20年度	198,613	86.4	85.0
21年度	184,179	-	88.7
22年度	182,937	-	88.2
23年度	178,414	-	85.7
24年度	175,572	-	84.5
25年度	160,888	-	79.7
26年度	162,276	-	80.8
27年度	173,510	-	86.2
28年度	175,503	-	87.4

7. 月別入退院状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

区分 月別	入院	退院			月末在籍患者数	延入院患者数
		一般		計		
		退院	死亡			
4月	1,081	1,078	54	1,132	391	14,115
5月	1,039	951	36	987	443	14,593
6月	1,098	1,081	44	1,125	416	13,868
7月	1,096	1,059	40	1,099	413	14,447
8月	1,145	1,027	38	1,065	493	15,345
9月	981	968	34	1,002	472	14,918
10月	1,111	1,065	61	1,126	457	14,629
11月	1,174	1,120	51	1,171	460	15,021
12月	1,078	1,162	51	1,213	325	14,607
1月	1,174	989	44	1,033	466	14,984
2月	1,095	1,057	47	1,104	457	14,039
3月	1,107	1,085	39	1,124	440	14,937
計	13,179	12,642	539	13,181	-	175,503
比率 (%)	-	95.9	4.1	100.0	-	-

入退院患者数の年度別推移

(単位：人)

年度	入院	退院		
		生存退院	死亡	計
18年度	10,648	10,193	507	10,700
19年度	9,978	9,507	447	9,954
20年度	9,346	8,916	470	9,386
21年度	8,816	8,916	405	9,321
22年度	9,013	8,609	414	9,023
23年度	9,150	8,760	414	9,174
24年度	9,494	9,098	396	9,494
25年度	9,569	9,145	447	9,592
26年度	11,576	11,112	456	11,568
27年度	13,053	12,512	517	13,029
28年度	13,179	12,642	539	13,181

8. 平均在院日数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

※平均在院日数 = 24時在院患者延数 / ((新入院患者数 + 退院患者数) / 2)

年度	一般病棟	精神病棟	眼科(再掲)	リハビリ(再掲)	病院全体
18年度	17.9	36.6	3.2	44.9	18.4
19年度	19.5	48.0	3.3	45.6	20.2
20年度	19.7	43.5	2.8	49.2	20.2
21年度	19.2	51.7	2.1	46.8	19.9
22年度	18.7	41.6	2.0	51.1	19.3
23年度	17.9	38.6	1.8	42.5	18.5
24年度	17.0	36.5	1.8	48.0	17.5
25年度	15.1	32.7	1.7	48.4	15.8
26年度	12.3	31.6	0.9	37.5	13.0
27年度	11.7	30.6	0.9	29.8	12.3
28年度	11.4	32.0	1.0	24.9	12.3

※平成28年度の施設基準平均在院日数は **13.9日** である。(平成23年度より7対1の施設基準日数)

9. 入院患者の年齢別内訳

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

年齢階層	区分	男	女	計
90歳以上		409	885	1,294
85～89		932	1,265	2,197
80～84		1,274	1,773	3,047
75～79		1,227	1,224	2,451
70～74		942	770	1,712
65～69		679	575	1,254
60～64		288	213	501
55～59		156	118	274
50～54		68	60	128
50歳未満		166	155	321
計		6,141	7,038	13,179

入院患者の年齢別内訳年度別推移

(単位：上段・人、下段・%)

年度	60歳未満	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
24年度	305 3.3	1,145 12.5	3,178 34.7	4,860 53.1	9,488 100.0
25年度	356 3.7	1,177 12.3	3,326 34.8	4,693 49.1	9,552 100.0
26年度	501 4.3	1,308 11.3	4,117 35.6	5,650 48.8	11,576 100.0
27年度	669 5.1	1,538 11.8	4,428 33.9	6,418 49.2	13,053 100.0
28年度	723 5.5	1,755 13.3	4,163 31.6	6,538 49.6	13,179 100.0

10. 入院患者平均年齢（入院時）

平成28年4月1日～平成29年3月31日

男	女	計
76.3	78.9	77.7

11. 地域別入院患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：人)

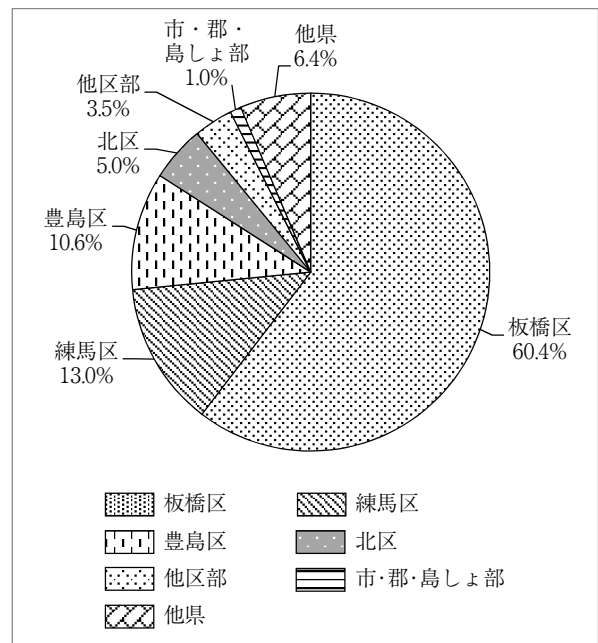
(1) 区部

区名	一般
千代田	3
中央	3
港	5
新宿	37
文京	83
台東	8
墨田	9
江東	17
品川	6
目黒	8
大田	8
世田谷	40
渋谷	16
中野	70
杉並	42
豊島	1,402
北	659
荒川	22
板橋	7,959
練馬	1,718
足立	61
葛飾	15
江戸川	14
区部計	12,205

(2) 市・郡・島しょ部

市名	一般
八王子	6
立川	2
武蔵野	15
三鷹	1
青梅	0
府中	3
昭島	1
調布	4
町田	9
小金井	4
小平	5
日野	8
東村山	5
国分寺	7
国立	2
福生	0
狛江	0
東大和	1
清瀬	13
東久留米	11
武蔵村山	0
多摩	3
稲城	0
羽村	0
あきる野	2
西東京	24
市部計	126
郡部	1
島しょ部	5
市・郡・島しょ部	132

地域	比率	人数
板橋区	60.4	7,959
練馬区	13.0	1,718
豊島区	10.6	1,402
北区	5.0	659
他区部	3.5	467
市・郡・島しょ部	1.0	132
他県	6.4	842
合計	100.0	13,179



(3) 他県

埼玉	645
神奈川	35
千葉	61
その他	101
他県計	842

総計	13,179
(1)+(2)+(3)	

12. 退院者の在院期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

	内科系	リハビリ	外科系			歯科口腔外科	救急科	計	比率 (%)
			一般外科	眼科	外科計				
30日以下	6,602	39	2,484	2,285	4,769	72	58	11,540	87.6%
31日以上～60日以下	1,004	25	333	0	333	0	0	1,362	10.3%
61日以上～90日以下	147	5	48	0	48	0	0	200	1.5%
91日以上～180日以下	45	1	25	0	25	0	0	71	0.5%
181日以上～365日以下	1	0	5	0	5	0	0	6	0.0%
366日以上	2	0	0	0	0	0	0	2	0.0%
合 計	7,801	70	2,895	2,285	5,180	72	58	13,181	100.0%
比 率 (%)	59.2%	0.5%	22.0%	17.3%	39.3%	0.5%	0.4%	100.0%	

退院者の在院期間年度別推移

(上段：人・下段：割合)

年 度	30日以下	31～60日	61日以上	計
18年度	8,502	1,578	620	10,700
	79.5%	14.7%	5.8%	100.0%
19年度	7,641	1,670	643	9,954
	76.8%	16.8%	6.5%	100.0%
20年度	7,164	1,723	696	9,583
	74.8%	18.0%	7.3%	100.0%
21年度	6,732	1,442	581	8,755
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
22年度	7,035	1,361	566	8,962
	76.9%	16.5%	6.6%	100.0%
23年度	7,271	1,373	530	9,174
	78.5%	15.2%	6.3%	100.0%
24年度	7,619	1,419	454	9,492
	80.3%	14.9%	4.8%	100.0%
25年度	7,931	1,242	414	9,587
	82.7%	13.0%	4.3%	100.0%
26年度	10,068	1,241	259	11,568
	87.0%	10.7%	2.2%	100.0%
27年度	11,439	1,336	254	13,029
	87.8%	10.3%	1.9%	100.0%
28年度	11,540	1,362	279	13,181
	87.6%	10.3%	2.1%	100.0%

入院患者の死亡状況

13. 死亡者内訳及び剖検数

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

項目 月	一般患者		救急外来患者		計		他病院からの 受入件数
	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	死亡者数	うち剖検数	剖検数
4月	54	6	0	0	54	6	3
5月	35	6	1	0	36	6	2
6月	44	4	0	0	44	4	0
7月	38	8	2	0	40	8	1
8月	38	6	0	0	38	6	0
9月	34	5	0	0	34	5	1
10月	60	5	1	1	61	6	1
11月	47	6	4	2	51	8	1
12月	51	4	0	0	51	4	1
1月	41	2	3	0	44	2	1
2月	46	9	1	0	47	9	0
3月	39	6	0	0	39	6	1
合計	527	67	12	3	539	70	12
剖検率	12.7%		25.0%		13.0%		

死亡者、死亡率の年度別推移

年 度	退院患者数 (人)	死亡退院 患者数 (人)	合計	死亡率 (%)
21年度	8,425	405	8,830	4.6%
22年度	9,023	407	9,430	4.3%
23年度	8,760	414	9,174	4.5%
24年度	9,098	396	9,494	4.2%
25年度	9,145	447	9,592	4.7%
26年度	11,112	456	11,568	3.9%
27年度	12,512	517	13,029	4.0%
28年度	12,642	539	13,181	4.1%

$$\text{死亡率} = \frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{退院患者合計数 (死亡退院も含む)}} \times 100$$

14. 年齢別死亡者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

区分 年齢階層	計	比率
60歳未満	30	5.6%
60～64	14	2.6%
65～69	51	9.5%
70～74	44	8.2%
75～79	66	12.2%
80～84	126	23.4%
85～89	121	22.4%
90歳以上	87	16.1%
計	539	100.0%
平均年齢	79.8	

死亡者の平均年齢の推移

年度	計
18年度	81.4
19年度	82.0
20年度	82.0
21年度	82.3
22年度	81.6
23年度	82.3
24年度	82.0
25年度	80.6
26年度	80.4
27年度	80.3
28年度	79.8

年齢別死亡者数の推移

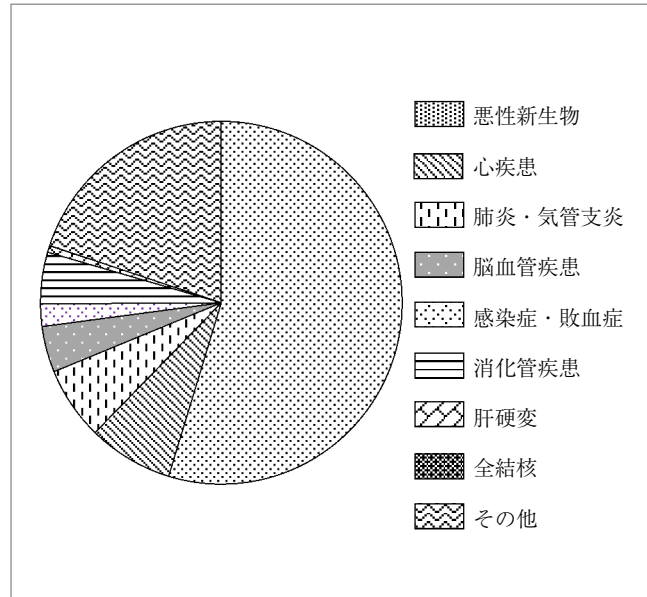
(単位：人)

年度	60歳未満		60～69歳		70～79歳		80歳以上		計	
18年度	4	0.8%	29	5.6%	169	32.5%	318	61.2%	520	100.0%
19年度	5	1.1%	32	6.7%	122	25.7%	288	60.6%	447	100.0%
20年度	7	1.5%	35	7.4%	133	28.0%	300	63.2%	475	100.0%
21年度	1	0.2%	27	6.5%	122	29.4%	265	63.9%	415	100.0%
22年度	9	2.2%	29	6.9%	105	25.1%	275	65.8%	418	100.0%
23年度	10	2.4%	29	7.0%	99	23.9%	276	66.7%	414	100.0%
24年度	14	3.6%	24	6.1%	95	24.2%	260	66.2%	393	100.0%
25年度	17	3.8%	45	10.0%	104	23.2%	282	62.9%	448	100.0%
26年度	20	4.4%	45	9.9%	115	25.2%	276	60.5%	456	100.0%
27年度	24	4.6%	51	9.9%	136	26.3%	306	59.2%	517	100.0%
28年度	30	5.6%	65	12.1%	110	20.4%	334	62.0%	539	100.0%

15. 死亡原因別死亡者数

死因	死亡者数	比率 (%)
悪性新生物	295	54.7
心疾患	41	7.6
肺炎・気管支炎	35	6.5
脳血管疾患	22	4.1
感染症・敗血症	11	2.0
消化管疾患	25	4.6
肝硬変	3	0.6
全結核	0	0.0
その他	107	19.9
計	539	100.0

平成28年4月1日～平成29年3月31日



死亡原因比率の年度別推移

(単位：%)

死亡原因 \ 年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
悪性新生物	39.2	38.4	37.6	30.4	39.4	27.1	30.8	44.3	44.9	50.7	54.7
肺炎・気管支炎	20.1	19.2	22.2	11.6	7.9	7.7	6.8	7.1	7.2	11.8	7.6
心疾患	8.9	9.9	9.7	10.9	10.3	10.1	12.4	8.2	9.1	9.7	6.5
脳血管疾患	10.4	9.6	5.7	8.8	7.0	7.2	7.3	4.7	4.8	1.9	4.1
計	78.6	77.1	75.2	61.7	64.6	52.1	57.3	64.3	66	74.1	72.9

16. 死亡者の入院期間

(単位：人)

期間 \ 計	計	比率
1日	16	3.0%
2日～7日	114	21.2%
8日～1ヶ月	233	43.2%
～3ヶ月	155	28.8%
～6ヶ月	18	3.3%
～1年	3	0.6%
～3年	0	0.0%
3年以上	0	0.0%
計	539	100.0%
平均在院期間	27.5	-

部門別業務状況

17. 手術・麻酔件数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：人)

診療科		月 別												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
手術 件数	外科	33	42	54	37	41	35	42	34	41	36	43	38	476
	血管外科	23	21	30	24	29	23	21	25	20	23	15	28	282
	脳神経外科	12	10	16	15	11	12	11	11	4	13	14	18	147
	整形外科	32	31	30	21	38	22	20	22	20	20	29	33	318
	脊椎外科	11	9	13	8	7	14	14	8	12	10	13	9	128
	泌尿器科	25	31	29	25	20	29	23	35	23	34	29	21	324
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼科	161	195	211	209	185	156	212	199	170	208	209	183	2,298
	耳鼻咽喉科	4	7	8	8	10	3	4	6	5	4	4	7	70
	麻酔科	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	1	0	5
	精神科	21	38	38	32	29	40	29	11	13	12	9	14	286
	循環器科	10	12	14	8	5	11	7	15	9	10	7	7	115
	心臓外科	9	10	8	6	12	10	7	6	11	12	5	7	103
	呼吸器外科	3	1	3	3	2	3	4	4	3	5	4	3	38
	歯科口腔外科	1	0	2	0	1	1	0	0	0	1	1	0	7
	皮膚科	5	3	3	5	4	3	5	6	5	7	7	7	60
	消化器内科	1	1	1	1	1	0	2	0	2	0	1	2	12
	神経内科	0	1	0	0	2	1	1	1	0	0	0	1	7
その他	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	1	2	7	
計		351	413	462	403	398	363	402	384	338	397	392	380	4,683
麻酔 件数	全身(吸入)	42	48	51	42	44	42	44	38	46	53	43	35	528
	全身(TIVA)	17	22	39	33	21	35	26	18	11	18	19	22	281
	全身(吸入)+ 硬・脊・伝	17	20	18	19	22	16	21	19	11	23	19	25	230
	全身(TIVA)+ 硬・脊・伝	9	4	9	2	5	6	5	8	11	10	11	13	93
	硬膜外(CSEA)	5	1	3	0	2	0	1	1	0	1	3	0	17
	硬膜外	0	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5
	脊髄	23	39	40	24	29	27	29	37	24	19	28	23	342
	伝達	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
	局所	224	257	289	272	259	215	267	260	222	267	266	255	3,053
	その他	12	22	8	8	14	20	8	1	9	1	1	2	106
	計		351	413	461	400	397	362	401	382	334	393	390	376

※中央手術室での取扱件数(人)

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

緊急手術・緊急麻酔件数 (再掲)

(単位：人)

診療科		月 別												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
緊急手術件数	外科	7	7	7	3	7	3	2	2	5	5	6	7	61
	血管外科	1	2	3	1	2	2	0	1	0	2	1	0	15
	脳神経外科	7	7	8	8	3	5	2	3	1	5	6	6	61
	整形外科	1	0	0	1	1	1	0	0	2	0	3	0	9
	脊椎外科	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	泌尿器科	0	3	0	2	0	1	0	1	2	1	2	0	12
	婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	眼科	0	1	1	0	2	0	2	1	2	0	1	0	10
	耳鼻咽喉科	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	循環器科	1	1	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	8
	心臓外科	4	1	2	1	3	2	3	1	2	1	0	1	21
	呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	消化器内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	神経内科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		22	22	25	18	20	16	9	9	14	15	19	15	204
麻酔件数	全身(吸入)	7	8	6	5	6	3	4	3	9	6	5	3	65
	全身(TIVA)	2	1	0	2	1	0	0	0	0	0	3	0	9
	全身(吸入)+硬・脊・伝	0	0	2	1	1	0	0	1	0	1	2	4	12
	全身(TIVA)+硬・脊・伝	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	硬膜外(CSEA)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊髄	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
	伝達	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	局所	10	12	15	10	12	12	5	5	4	8	9	7	109
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計		22	22	25	18	21	15	9	9	14	15	19	14

※「婦人科」は休診中のため実績なし。

18. 疾病別手術件数

平成28年1月1日～平成28年12月31日

外科

部位	術式	件数	部位	術式	件数	
乳腺	悪性	乳房切除	肝・胆・膵	悪性	肝切除術（転移）	5
		乳房温存手術			胆嚢・胆管癌切除（含肝切除）	2
食道	悪性	食道癌手術	ヘルニア	良性	膵全摘術・体尾部切除術	6
胃・十二指腸	悪性	胃全摘術（残胃全摘含む）			膵頭十二指腸切除術	4
		胃切除術			胆嚢摘出術（開腹）	12
小腸	悪性	腹腔鏡下胃切除			胆嚢摘出術（腹腔鏡）	24
		ESD			鼠径ヘルニア根治術	84
		バイパス手術			大腿ヘルニア根治術	6
		GIST			腹腔鏡手術	3
		潰瘍			切除術、大網充填等	2
結腸・直腸	悪性	小腸切除術			腹壁癒痕ヘルニア根治術（腹腔鏡）	1
		癒着剥離術			閉鎖孔ヘルニア根治術	3
結腸・直腸	悪性	結腸切除術	その他	CVポート挿入術	17	
		腹腔鏡下切除		内視鏡下胃瘻造設	29	
		（低位）前方切除術		局麻手術など	114	
		腹腔鏡下前方切除術		計	548	
		腹会陰式直腸切断術				
		腹腔鏡下結腸切除術				
		結腸切除・人工肛門造設・閉鎖				
直腸脱手術						
肛門	悪性	内痔核				
	救急手術	61例				

脳神経外科（中央手術室、血管撮影室で行われた手術）

脳脊髄腫瘍	5 件	慢性硬膜下血腫	39 件
脳動脈瘤・脳動静脈奇形（開頭術）	2	外傷性疾患(血腫除去)	1
脳出血・脳梗塞（開頭術）	6	シャント・ドレナージ	11
頸動脈狭窄（頸動脈内膜剥離術）	6	脳血管バイパス術	0
脳動脈瘤ほか（血管内手術）	16	その他	9
頸動脈狭窄（血管内治療）	9		
その他の血管内治療（急性期再開通）	14	計	118 件

血管内治療は脳外科手術の33%を占め、急性期虚血性脳血管障害治療が増加した。

救急手術は脳卒中と外傷に多かった。

皮膚科（中央手術室で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	30 件	その他	5 件
皮膚悪性腫瘍切除術	18		
		計	53 件

・皮膚悪性腫瘍切除術の対象疾患は基底細胞癌とボーエン病が多かった。

皮膚科（中央手術室以外で行われた手術）

皮膚良性腫瘍切除術	18 件	皮膚生検	88 件
皮膚悪性腫瘍切除術	4	その他	1
		計	111 件

整形外科（中央手術室で行われた手術） 平成28年度

大腿骨頸部骨折	
骨接合術	60
人工骨頭置換術	32
小計	92 件
その他の骨折	49 件 (手外科関連18件)
人工関節	
人工膝関節	91
人工膝関節（単顆型）	0
人工股関節	51
人工肩関節	1
小計	143 件

2016.4.1-2017.3.31

手外科手術	
手根管症候群	27
肘部管症候群	4
神経剥離・移植	1
腫瘍切除	4
デュピイトレン拘縮	0
腱	5
骨折	18
胸郭出口症候群	2
ばね指	9
その他	0
小計	70 件

脊椎関連手術	
（頰椎）	27
（胸椎）	10
（腰椎）	55
（経皮的後弯矯正術）	10
（椎体生検）	5
小計	107 件

デブリドマン	11
その他	18

計 472 件

泌尿器科（中央手術室で行われた手術）

膀胱癌	62 件	腎結石	2 件
前立腺癌	11	副腎腫瘍	1
膀胱結石	3	前立腺生検	89
前立腺肥大	39	間質性膀胱炎膀胱水圧拡張術	2
腎腫瘍	8	尿管ステント交換	76
尿道カンクラ	1	尿道狭窄	3
腎盂尿管腫瘍	2	腎生検	4
尿管狭窄	5	膀胱全摘術+尿管S字結腸吻合	2
腎嚢胞	3	環状切除術	3
陰嚢水腫	3	膀胱結石碎石術	3
包茎	1	その他	1
尿管結石	14		
尿道狭窄	2		
腎盂尿管鏡	3		
腎瘻増設術	13		
逆行性腎盂造影	10		
		計	366 件

婦人科

婦人科は休止中のため、実績なし。

眼科（中央手術室で行われた手術）

白内障関連	1,803 件
硝子体関連	70
緑内障関連	6
外眼部関連	75
硝子体注射関連	362
計	2,316 件

眼科（中央手術室以外で行われた手術）

マルチカラーレーザー	389 件
ヤグレーザー	170
計	559 件

耳鼻咽喉科（中央手術室で行われた手術）

鼻内内視鏡手術	32	内耳窓閉鎖術	1 件
喉頭微細手術	6	外耳道腫瘍摘出術	1
鼓室形成術	11	中咽頭悪性腫瘍摘出術	3
頸部リンパ節生検	14	頸部腫瘍摘出術	2
鼻中隔矯正術	2	耳下腺腫瘍摘出術（含む悪性）	3
気管切開術	9	耳介腫瘍摘出術	1
鼓膜形成術	2	気管口閉鎖術	1
乳突削開術	2	上顎洞根治術	1
頸部郭清術	1	深頸部膿瘍切開術	1
甲状腺悪性腫瘍摘出術	5	その他	1
口蓋扁桃摘出術	3		
		計	102 件

耳鼻咽喉科（中央手術室以外で行われた手術）

鼓膜切開術	40 件
外耳道異物除去術	10
鼓膜チューブ挿入術	20
鼻腔粘膜焼灼術	2
鼓膜穿孔閉鎖術	1
創傷処理	2
鼻茸切除術	2
計	77 件

2016年04月01日～2017年03月31日

歯科口腔外科（中央手術室で行われた手術）

学嚢胞提出術	2 件
悪性腫瘍切除術	1
唾石摘出術	1
顎骨腐骨除去術	1
外発性骨増生形成	2
計	7 件

歯科口腔外科（中央手術室以外で行われた手術）

抜歯術	646 件
難抜歯（智歯含む）	221
ドレナージ	15
その他	58
計	940 件

19. リハビリテーション取扱実績

平成28年4月1日～平成29年3月31日

項 目		患者数（人）	1ヶ月平均	
訓 練 内 訳	理 学 療 法 (P T)	入 院	29,206	2,434
		外 来	203	17
		計	29,409	2,451
	作 業 療 法 (O T)	入 院	21,505	1,792
		外 来	918	77
		計	22,423	1,869
	言 語 療 法 (S T)	入 院	5,436	453
		外 来	830	69
		計	6,266	522
	心 理 療 法	入 院	743	62
		外 来	111	9
		計	854	71
訓 練 計	入 院	56,890	4,741	
	外 来	2,062	172	
	計	58,952	4,913	
補 装 具 製 作	製 作	33	3	
	修 理	12	1.0	
	計	45	4	

20. 理学療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	7,748	120	7,868
	単位	13,652	215	13,867
	加算	9,050		9,050
廃用	人数	2,985	0	2,985
	単位	5,071	0	5,071
	加算	2,213		2,213
運動器	人数	10,181	66	10,247
	単位	20,452	130	20,582
	加算	14,587		14,587
呼吸器	人数	1,647	1	1,648
	単位	2,829	1	2,830
	加算	1,994		1,994
心大血管	人数	5,216	16	5,232
	単位	9,044	33	9,077
	加算	6,248		6,248
がん患者	人数	961		961
	単位	1,584		1,584
緩和ケア	人数	468		468
	単位	644		644
患者数		29,206	203	29,409
単位数		53,276	379	53,655
早期加算件数		34,092		34,092

21. 作業療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	人数	6,286	206	6,492
	単位	11,195	412	11,607
	加算	7,467		7,467
廃用	人数	1,612	0	1,612
	単位	2,913	0	2,913
	加算	1,374		1,374
運動器	人数	2,109	244	2,353
	単位	4,277	506	4,783
	加算	2,605		2,605
呼吸器	人数	680	0	680
	単位	1,192	0	1,192
	加算	0		0
心大血管	人数	547	0	547
	単位	659	0	659
	加算	297		297
がん	人数	286		286
	単位	389		389
	加算	0		0
緩和	人数	523		523
	単位	880		880
	加算	0		0
患者数		12,043	450	12,493
単位数		21,505	918	22,423
早期加算件数		11,743		11,743

22. 言語療法実施状況

		入院	外来	計
脳血管	件数	4,415	830	5,245
	単位	7,181	1,868	9,049
	加算	4,993	2	4,995
廃用	件数	837	0	837
	単位	1,208		1,208
	加算	631		631
がん	件数	4		4
	単位	4		4
摂食嚥下	件数	180		180
合計件数		5,436	830	6,266
合計単位数		8,393	1,868	10,261

23. 心理検査等取扱件数

(単位：件)

項目	入院	外来	合計
知能検査（極複雑）	3	5	8
知能検査（複雑）	1	1	2
知能検査（容易）	88	362	450
人格検査（極複雑）	0	0	0
人格検査（複雑）	0	0	0
人格検査（容易）	21	0	21
その他の心理検査（極複雑）	5	7	12
その他の心理検査（複雑）	281	229	510
その他の心理検査（容易）	10	17	27
検査 計	409	621	1,030
心身医学療法	0	0	0
合計	409	621	1,030

24. 調剤実施状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 処方箋枚数	区 分		入院	外来	合 計	
	院内処方箋枚数		131,423	4,464	135,887	
	院外処方箋枚数			139,757	139,757	
	小計		131,423	144,221	275,644	
	院外処方箋発行率			96.9%		
	注射処方箋枚数		94,122	9,742	103,864	
	合計		225,545	153,963	379,508	

2 調剤数	2-(1) 処方調剤								
	区 分		入 院		外 来		合 計		
			件数	剤数	件数	剤数	件数	剤数	
	内 用	散剤		21,422	151,174	309	3,826	21,731	155,000
		錠剤		223,173	1,625,929	5,966	85,566	229,139	1,711,495
		水剤		4,098	20,309	1,530	2,369	5,628	22,678
		頓服		37,453	62,908	889	4,686	38,342	67,594
	小 計		286,146	1,860,320	8,694	96,447	294,840	1,956,767	
	外 用	湿布・含嗽・吸入・洗淨		12,610	106,330	340	7,748	12,950	114,078
		軟膏・散剤・坐剤		15,524	292,230	326	6,491	15,850	298,721
点眼耳鼻剤		10,263	47,230	71	311	10,334	47,541		
小 計		38,397	445,790	737	14,550	39,134	460,340		
注射剤（在宅注射等）		9	50	0	0	9	50		
計		324,552	2,306,160	9,431	110,997	333,983	2,417,157		

2-(2) 注射処方せんによる調剤							
個人セット調剤		296,027	551,983	14,134	23,039	310,161	575,022
調剤計		620,579	2,858,143	23,565	134,036	644,144	2,992,179

25. 製剤実施状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

内 用	散 剤	500g	3,667 剤	外 用	軟 膏	500g	1,558 剤
	水 剤	500ml	1		点眼・耳鼻	5mlまたは5g	98
	頓 剤	1回分	46,568		小 計		2,188
	小 計		50,236		滅菌外用剤	50ml	10,896
外 用	散 剤	500g	53	注 射 剤	50ml	0	
	水 剤	500ml	479	合 計		63,320	

26. 院外処方箋発行率

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度
院外処方箋枚数	120,988	129,978	136,104	139,757
外来処方箋総枚数	126,348	133,904	140,650	144,221
院外処方箋発行率 (%)	95.8%	97.1%	96.8%	96.9%

27. 薬品管理状況

(1) 採用薬品品目数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

区分	25年度	26年度	27年度	28年度
注射薬	505	505	552	566
内用薬	710	703	722	712
外用薬	264	264	265	261
その他	0	0	0	0
計	1,479	1,472	1,539	1,539

※ 緊急購入薬品は含まない

※ 平成22年度より薬価未収載薬品も含め、保険薬事典に準じた区分とする。

(2) 薬品入出庫状況

区分	25年度	26年度	27年度	28年度
入庫件数	19,764	20,677	22,955	23,930
出庫件数	249,277	280,154	286,463	279,411

28. 薬効別薬品使用比率（薬価）

平成28年4月1日～平成29年3月31日

薬効名	金額（薬価）	比率（%）
精神神経用剤	58,876,473.48	4.2%
循環器用剤	68,834,015.21	4.9%
呼吸器用剤	10,375,849.02	0.7%
消化器用剤	29,505,537.42	2.1%
外皮用剤	5,796,550.80	0.4%
ビタミン剤	3,991,866.58	0.3%
滋養強壯剤	19,645,985.75	1.4%
血液・体液用剤	145,055,116.70	10.3%
抗悪性腫瘍剤	380,580,112.10	27.0%
抗生物質・抗菌剤	143,383,474.60	10.2%
生物学的製剤	111,487,914.20	7.9%
その他	429,532,540.60	30.5%
合計	1,407,065,436.46	100%

29. 麻薬取扱状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

区分	品名	単位	25年度	26年度	27年度	28年度
注射薬	オピスタン注 35mg	A	0	33	26	8
	ベチジン塩酸塩注射液 35mg	A	0	0	0	5
	塩酸モルヒネ注 10mg	A	962	708	1,058	780
	塩酸モルヒネ注 50mg	A	749	1,240	789	452
	フェンタニル注 0.1mg	A	8,673	8,438	8,789	9,801
	ケタラール静注用 200mg	V	7	0	0	0
	アルチバ静注用 2mg	V	1,120	923	1,076	936
	塩酸モルヒネ注 200mg	A	68	0	602	1,871
	オキファスト注 10mg	A	2,351	1,718	2,349	1,276
	オキファスト注 50mg	A	222	557	1,137	1,488
	ケタラール静注用 50mg	A	500	652	461	342
ケタラール筋注用 500mg	V	39	9	15	72	
内用剤	アブストラル舌下錠 100 μ g	T	—	35	260	401
	アブストラル舌下錠 200 μ g	T	—	40	332	208
	MSコンチン錠 10mg	T	1,549	1,477	2,368	1,538
	MSコンチン錠 30mg	T	49	202	161	785
	オキシコンチン錠 5mg	T	3,983	3,727	8,651	7,438
	オキシコンチン錠 20mg	T	412	573	799	2,753
	オキシコンチン錠 40mg	T	—	—	140	1,073
	オプソ内服液 10mg	包	—	—	80	880
	オプソ内服液 5mg	包	1,372	3,547	1,106	687
	タペンタ錠 25mg	T	—	—	194	46
	タペンタ錠 100mg	T	—	—	294	66
	メサペイン錠 5mg	T	—	—	231	258
	メサペイン錠 10mg	T	—	—	0	0
	オキノーム散 2.5mg	包	3,119	1,856	2,561	3,136
	オキノーム散 5mg	包	1,531	2,174	1,639	2,507
	オキノーム散 10mg	包	—	143	189	264
	オキノーム散 20mg	包	—	123	126	1,691
	モルベス細粒 2% (10mg0.5g)	包	0	0	80	0
コカイン塩酸塩	g	0	0	0	0	
コデインリン酸塩散 10%	g	358	421	588.2	491.9	
モルヒネ塩酸塩水和物	g	0	0	1.8	4.28	
モルヒネ塩酸塩水和物 1%	g	—	14	24.1	297.8	
外用剤	アンパック坐剤 10mg	個	246	181	16	28
	デュロテップMTパッチ 2.1mg	枚	44	25	62	28
	デュロテップMTパッチ 4.2mg	枚	62	15	45	36
	デュロテップMTパッチ 8.4mg	枚	24	0	19	0
	デュロテップMTパッチ 16.8mg	枚	0	0	0	—
	フェントステープ 1mg	枚	881	866	1299	2,245
	フェントステープ 2mg	枚	597	696	710	930
フェントステープ 4mg	枚	71	224	391	456	

30. 向精神薬・覚醒剤原料取扱業務

平成28年4月1日～平成29年3月31日

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
向精神薬取扱件数	内用・外用	1,297	1,071	1,037	909	837
	注射	1,400	1,852	2,386	2,917	2,973
覚醒剤原料取扱件数	内用・外用	43	19	24	36	129

31. 外来服薬指導実施状況

(1) 月別患者数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：人)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
患者数	354	372	315	343	371	313	423	447	396	480	324	326	4,464

(2) 項目別相談件数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：件)

総合相談	薬の変更	薬効	用法	副作用	院外説明	その他	合計
0	0	3,568	4,062	344	2	511	8,487

32. 外来がん患者指導業務

平成28年4月1日～平成29年3月31日

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
指導件数	35	42	56	51	44	46	48	49	49	56	56	65	597
がん患者指導管理料3算定件数	13	17	22	15	12	12	18	9	13	21	30	21	203
抗がん剤電話サポート件数	4	8	5	3	2	1	0	2	0	4	4	7	40

33. 病棟業務実施状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
服薬指導回数	1,631	1,529	1,670	1,578	1,854	1,624	1,326	1,679	1,646	1,545	1,592	1,810	19,484
薬剤管理指導料													
325点算定件数	568	548	587	580	651	568	450	570	503	503	486	514	6,528
380点算定件数	690	700	769	691	812	694	633	659	712	676	695	784	8,515
麻薬加算件数	15	19	10	21	31	34	26	17	22	10	17	38	260
退院時薬剤情報管理 指導料算定件数	345	273	280	314	278	292	238	273	323	230	280	295	3,421

*薬剤管理指導実施病棟：

- 5東（心臓外科、呼吸器外科、循環器内科）
- 5西（循環器内科）
- 6東（整形外科、脊椎外科）
- 6西（地域包括ケア病棟、総合内科）
- 7東（眼科、外科、血管外科）
- 7西（外科、血管外科、整形外科、脊椎外科）
- 8東（膠原病・リウマチ科、消化器内科）
- 8西（消化器内科）
- 9東（呼吸器内科、総合診療科、感染症内科）
- 9西（歯科口腔外科、腎臓内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、在宅医療連携）
- 10東（脳神経外科、皮膚科、神経内科・脳卒中科）
- 10西（神経内科・脳卒中科）
- 11東（精神科）
- 11西（血液内科・化学療法科）
- 12階（緩和ケア内科）

34. 無菌製剤（抗がん剤・TPN・末梢点滴混注）処方箋取扱数

(位：枚)

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度
枚数	4,237	6,789	7,461	6,839

35. 医薬品情報業務

(単位：件)

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度
情報収集件数	2,450	1,901	1,139	711
情報提供件数	1,089	264	887	832
情報誌発行件数	6	0	5	5
薬事委員会取扱件数	464	599	463	405

36. 輸血用血液およびアルブミン製剤取扱状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

製 剤 名	取扱数(延べ)	取扱数(実数)	使用数	使用率(%)
赤血球濃厚液	7,966	7,020	6,958	99.1
洗浄赤血球	0	0	0	0.0
新鮮凍結血漿	2,590	1,898	1,882	99.2
濃厚血小板	14,355	14,285	14,225	99.6
HLA適合血小板	0	0	0	0.0
自己血	379	379	297	78.4
輸血用血液 合計	25,290	23,582	23,362	99.1
5%アルブミン (本)	726	743	701	94.3
20%アルブミン (本)	0	0	0	0.0
25%アルブミン (本)	1,771	1,735	1,729	99.7
アルブミン製剤 合計	2,497	2,478	2,430	98.1

- ・輸血用血液は200mlを1単位として算出した。
- ・各製剤ごとの使用数の比較では、赤血球製剤5%減、新鮮凍結血漿43%減、濃厚血小板4%増、自己血30%の減が見られた。
- ・全アルブミン製剤の使用グラム数は22%増の30,375gであった。

37. 病理学的業務実施状況

(1) 病理解剖

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	81	59	77	63	82
作製ブロック数 (個)	4,516	2,972	4,343	4,348	5,125
ガラス標本数 (枚)	11,545	7,878	10,652	12,090	12,076
肉眼・顕微鏡写真 (枚)	3,316	2,383	3,315	4,721	4,525

・板橋ナーシングホーム内で死亡した患者分を含まない。

(2) 手術・生検組織学的検査

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	2,630	2,635	3,289	3,565	3,336
作製ブロック数 (個)	6,625	6,834	7,711	8,915	8,542
ガラス標本数 (枚)	15,437	16,195	18,815	21,232	20,396
肉眼・顕微鏡写真 (枚)	2,271	2,104	2,875	3,608	3,830

(3) 細胞診

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
件数	1,644	1,505	1,401	1,627	1,757
ガラス標本数 (枚)	4,757	4,460	3,980	4,976	4,964
顕微鏡写真 (枚)	1,330	966	1,895	2,097	2,357

(4) 診療科別剖検率一覧 (暦年)

	平成24年			平成25年			平成26年			平成27年			平成28年		
循環器内科	16	/	89 (18.0%)	5	/	56 (8.9%)	17	/	73 (23.3%)	9	/	65 (13.8%)	8	/	57 (14.0%)
神経内科	14	/	39 (35.9%)	10	/	34 (29.4%)	12	/	38 (31.6%)	8	/	33 (24.2%)	12	/	37 (32.4%)
呼吸器内科	17	/	70 (24.3%)	3	/	44 (6.8%)	3	/	51 (5.9%)	2	/	24 (8.3%)	3	/	50 (6.0%)
消化器内科	5	/	65 (7.7%)	3	/	41 (7.3%)	3	/	33 (9.1%)	4	/	57 (7.0%)	6	/	55 (10.9%)
血液内科	6	/	28 (21.4%)	4	/	21 (19.0%)	2	/	24 (8.3%)	4	/	30 (13.3%)	6	/	26 (23.1%)
総合診療科・ 感染症内科	9	/	22 (40.9%)	2	/	24 (8.3%)	2	/	20 (10.0%)	0	/	22 (0.0%)	3	/	16 (18.8%)
糖尿病・ 内分泌内科	5	/	14 (35.7%)	4	/	19 (21.1%)	2	/	18 (11.1%)	4	/	18 (22.2%)	4	/	12 (33.3%)
緩和ケア科*							2	/	117 (1.7%)	0	/	190 (0.0%)	2	/	198 (1.0%)
外科	5	/	25 (20.0%)	0	/	28 (0.0%)	3	/	16 (18.8%)	4	/	23 (17.4%)	5	/	28 (17.9%)
心臓外科*							6	/	6 (100.0%)	11	/	15 (73.3%)	10	/	13 (76.9%)
脳外科*							4	/	14 (28.6%)	0	/	8 (0.0%)	2	/	13 (15.4%)
泌尿器科*							3	/	8 (37.5%)	5	/	10 (50.0%)	3	/	5 (60.0%)
その他	14	/	64 (21.9%)	18	/	168 (10.7%)	4	/	26 (15.4%)	2	/	11 (18.2%)	3	/	17 (17.6%)
院内合計	91	/	416 (21.9%)	49	/	435 (11.3%)	63	/	444 (14.2%)	53	/	506 (10.5%)	67	/	527 (12.7%)
総計**	95			59			77			63			82		

※総計には救急外来患者と外部医療機関からの委託解剖を含む。

38. 研究検査実施状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：件)

区分	検査名	総件数
一般	尿定性・定量	44,746
	尿沈査	21,434
	糞便	1,349
	穿刺・採取液	1,012
	小計	68,541
血液	血球計数	124,902
	形態検査	71,895
	凝固検査	88,665
	その他	40,654
	小計	326,116
臨床化学		1,846,531
免疫血清		183,982
微生物	鏡検	7,859
	培養・同定	39,568
	感受性	15,051
	抗酸菌	1,876
	その他	5,785
小計		70,139
輸血	血液型	26,811
	交差適合	8,549
	クームス試験	550
	不規則抗体	13,518
	院内採血・その他	5,002
小計		54,430

区分	検査名	総件数
生理機能	血液ガス	1,895
	呼吸機能	1,810
	心電図	24,284
	脈波ポリグラフ	146
	超音波	15,785
	脳波	517
	誘発電位	326
	筋電図	73
	聴力検査	2,308
	平衡機能	110
小計		47,254

その他業務	(外来採血) 69,787
総件数	2,666,780

39. 放射線部門取扱数

平成28年4月1日～平成29年3月31日

区 分		患 者 数						件 数						保険点数
				再掲						再掲				
		計	入院	外来	ポータブル	時間外	デジタル加算	計	入院	外来	ポータブル	時間外	デジタル加算	
単 純	(1)単純一般	55,838	25,774	30,064	14,001	7,612	0	130,433	47,163	83,270	21,279	14,246	0	0
	(2)断層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3)MG法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(4)パントモ・セファロー	980	243	737	0	5	0	1,025	259	766	0	5	0	0
	(5)骨塩定量	3,046	374	2,672	0	1	0	8,466	1,038	7,428	0	2	0	0
	(6)その他	6,441	2,052	4,389	0	425	0	4	4	0	0	0	0	0
	(7)歯科	1,074	187	887	0	6	0	1,976	595	1,381	0	8	0	0
	(8) 小 計	67,379	28,630	38,749	14,001	8,049	0	141,904	49,059	92,845	21,279	14,261	0	0
造 影	(9)上部消化管	164	124	40	0	5	0	1,073	798	275	0	28	0	0
	(10)下部消化管	175	137	38	0	30	0	1,374	898	476	0	181	0	0
	(11)消化管小計	339	261	78	0	35	0	2,447	1,696	751	0	209	0	0
	(12)肝胆膵	250	247	3	0	16	0	1,509	1,496	13	0	73	0	0
	(13)腎膀胱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(14)脊髄造影	64	64	0	0	1	0	590	590	0	0	10	0	0
	(15)子宮卵管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(16)神経根ブロック	121	52	69	0	0	0	143	61	82	0	0	0	0
	(17)その他	216	209	7	0	8	0	239	216	23	0	17	0	0
(18)消化管以外小計	651	572	79	0	25	0	2,481	2,363	118	0	100	0	0	
(19) 小 計	990	833	157	0	60	0	4,928	4,059	869	0	309	0	0	
血 管 造 影	(20)脳血管	68	67	1	0	30	0	14,568	14,567	1	0	8,721	0	0
	(21)心臓血管	789	773	16	0	96	0	12,228	12,042	186	0	1,735	0	0
	(22)胸腹血管	82	81	1	0	10	0	5,317	5,316	1	0	934	0	0
	(23)四肢血管	56	56	0	0	11	0	2,826	2,826	0	0	525	0	0
	(24) 小 計	995	977	18	0	147	0	34,939	34,751	188	0	11,915	0	0
診	(25)頭頸部単純	6,420	1,743	4,677	0	1,341	0	204,480	53,560	150,920	0	40,850	0	0
	(26)頭頸部造影	141	63	78	0	0	0	15,130	6,630	8,500	0	0	0	0
	(27)頭頸部小計	6,561	1,806	4,755	0	1,341	0	219,610	60,190	159,420	0	40,850	0	0
	(28)躯幹部単純	6,745	2,246	4,499	0	950	0	622,050	208,690	413,360	0	87,750	0	0
	(29)躯幹部造影	3,564	1,017	2,547	0	320	0	808,840	241,080	567,760	0	66,440	0	0
	(30)躯幹部小計	10,309	3,263	7,046	0	1,270	0	1,430,890	449,770	981,120	0	154,190	0	0
	(31)四肢単純	300	108	192	0	18	0	20,534	7,601	12,933	0	1,303	0	0
	(32)四肢造影	5	3	2	0	1	0	1,000	600	400	0	200	0	0
	(33)四肢小計	305	111	194	0	19	0	21,534	8,201	13,333	0	1,503	0	0
	(34) 小 計	17,175	5,180	11,995	0	2,630	0	1,672,034	518,161	1,153,873	0	196,543	0	0
断	(35)頭部単純	5,321	974	4,347	0	495	0	532,100	97,400	434,700	0	49,500	0	0
	(36)頭部造影	332	128	204	0	3	0	33,200	12,800	20,400	0	300	0	0
	(37)頭部小計	5,653	1,102	4,551	0	498	0	565,300	110,200	455,100	0	49,800	0	0
	(38)躯幹部単純	1,884	389	1,495	0	19	0	188,400	38,900	149,500	0	1,900	0	0
	(39)躯幹部造影	154	44	110	0	3	0	15,400	4,400	11,000	0	300	0	0
	(40)躯幹部小計	2,038	433	1,605	0	22	0	203,800	43,300	160,500	0	2,200	0	0
	(41)四肢単純	161	50	111	0	2	0	16,100	5,000	11,100	0	200	0	0
	(42)四肢造影	14	4	10	0	0	0	1,400	400	1,000	0	0	0	0
	(43)四肢小計	175	54	121	0	2	0	17,500	5,400	12,100	0	200	0	0
	(44) 小 計	7,866	1,589	6,277	0	522	0	786,600	158,900	627,700	0	52,200	0	0
透 視	(45)単純透視	255	243	12	0	47	0	1,381	1,377	4	0	47	0	0
	(46)造影透視	29	29	0	0	2	0	67	67	0	0	4	0	0
	(47) 小 計	284	272	12	0	49	0	1,448	1,444	4	0	51	0	0
(48) 合 計	94,689	37,481	57,208	14,001	11,457	0	2,641,853	766,374	1,875,479	21,279	275,279	0	0	

区 分	患者数				件 数				保険点数
	計	入院	外来	時間外 (再掲)	計	入院	外来	時間外 (再掲)	
核 医 学	(49) 試料測定invitro	0	0	0	0	0	0	0	0
	(50) 体外測定(形態検査)	3,628	496	3,132	2	190,197	190,197	0	94
	(51) 体外測定(機能検査)	7	3	4	0	19	19	0	0
	(52) RI治療	0	0	0	0	0	0	0	0
	(53) その他	13	0	13	3	1,052	1,052	0	0
	(54) 小 計	3,648	499	3,149	5	191,268	191,268	0	94
放 射 線 治 療	(55) 高エネルギーX線	1,217	873	344	0	2,792	2,129	663	0
	(56) 高エネルギー電子線	145	38	107	0	145	38	107	0
	(57) 密封小線源	0	0	0	0	0	0	0	0
	(58) 温熱療法	0	0	0	0	0	0	0	0
	(59) その他	1	1	0	0	1	0	0	1,000
	(60) 放射線治療管理料	125	80	45	0	125	80	45	0
	(61) 小 計	1,488	992	496	0	3,063	2,248	815	0
(62) 総 合 計	99,825	38,972	60,853	11,462	2,836,184	959,890	1,876,294	275,373	

血管造影IVR		患者数			件 数		
再掲分		計	入院	外来	計	入院	外来
血 管 造 影 I V R	(63) 脳血管	15	15	0	2,941	2,941	0
	(64) 心臓血管	279	277	2	7,267	7,218	49
	(65) 胸腹血管	23	23	0	724	724	0
	(66) 四肢血管	27	24	3	812	759	5
	(67) 合 計	344	339	5	11,744	11,642	102

放射線治療業務		患者数			件 数		
再掲分		計	入院	外来	計	入院	外来
放 射 線 治 療 業 務	(68) シミュレーター	5	5	0	5	5	0
	(69) 計画用CT	195	154	41	16,926	13,087	3,839
	(70) リニアックグラフィー	177	138	39	281	208	73
	(71) 線量分布計算	186	135	51	200	145	55
	(72) 全身照射	17	17	0	31	31	0
	(73) 定位放射線治療	8	6	2	75	55	20
	(74) 固定器具加算	2	1	1	2	1	1
	(75) 血液照射	0	0	0	0	0	0
	(76) その他	0	0	0	0	0	0
	(77) 合 計	590	456	134	17,520	13,532	3,988

区 分	入院		外来		合計		保険点数
	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	
(78) 画像診断	37,481	766,374	57,208	1,875,479	94,689	2,641,853	0
(79) 核医学	499	191,268	3,149	0	3,648	191,268	0
(80) 放射線治療	992	2,248	496	815	1,488	3,063	2,031,890
(81) 合 計	38,972	959,890	60,853	1,876,294	99,825	2,836,184	2,031,890

	患者数	件数	撮影料(点数換算)
乳がん検診 再掲分	1,466	4,506	44,631

40. 給食実施状況

区分	食 種 名	平成28年度			平成27年度			
		食数(食)	1日当り(食)	比 率 (%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	
一 般 食	常 食	138,850	380.4	33.3	124,570	340.4	31.1	
	軟 食	81,071	222.1	19.5	80,853	220.9	20.2	
	流 動 食	3,113	8.5	0.7	3,735	10.2	0.9	
	計	223,034	611.1	53.6	209,158	571.5	52.2	
特 別 食	加 算	エネルギー調整食	5,264	14.4	1.3	7,398	20.2	1.8
		エネルギーたんぱく調整食	6,635	18.2	1.6	5,002	13.7	1.2
		たんぱく調整食	3,213	8.8	0.8	6,171	16.9	1.5
		塩分エネルギー調整食	66,693	182.7	16.0	64,600	176.5	16.1
		肝 臓 食	5,857	16.0	1.4	4,514	12.3	1.1
		潰 瘍 食	1,380	3.8	0.3	2,036	5.6	0.5
		上部消化管術後食	2,233	6.1	0.5	1,480	4.0	0.4
		検 査 食	271	0.7	0.1	401	1.1	1.0
		貧 血 食	0	0	0	208	0.6	0.1
		透 析 食	7,581	20.8	1.8	7,721	21.1	1.9
	そ の 他	2,940	8.1	0.7	2,205	6.0	0.6	
	小 計	102,067	279.6	24.5	101,736	278.0	26.3	
	非 加 算	塩分エネルギー調整食	7,999	21.9	1.9	11,673	31.9	2.9
		低 繊 維 食	4,945	13.5	1.2	6,355	17.4	1.6
濃 厚 流 動 食		16,009	43.9	3.8	11,771	32.2	2.9	
嚥 下 導 入 食		42,682	116.9	10.2	40,194	109.8	10.0	
そ の 他		19,745	54.1	4.7	19,930	54.5	5.0	
小 計	91,380	250.4	21.9	89,923	245.7	22.4		
特別食計	193,447	530.0	46.4	191,659	523.7	48.7		
合 計	416,481	1,141.0	100.0	400,817	1,095.1	100.0		

41. 再加工及び禁止・個人対応食の状況

区 分	平成28年度			平成27年度		
	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)	食数(食)	1日当り(食)	比 率(%)
再 加 工 食	106,180	290.9	25.5	56,490	154.3	14.1
個 人 対 応 食	111,660	305.9	26.8	20,557	56.2	5.1

42. 個人栄養食事指導実施状況

(単位：件)

指導名		平成28年度			平成27年度		
		入院	外来	合計	入院	外来	合計
算 定	糖尿病	296	1,632	1,928	319	1,526	1,845
	腎臓病	60	407	467	68	329	397
	心臓・高血圧	193	346	539	213	314	527
	肝臓病	10	29	39	17	18	35
	胃腸病	31	73	104	9	3	12
	肥満	4	38	42	4	16	20
	脂質異常症	8	147	155	6	176	182
	がん	56	25	81	－	－	－
	摂食・嚥下	48	1	49	－	－	－
	低栄養	7	4	11	－	－	－
	その他	6	5	11	20	26	46
小計		719	2,707	3,426	656	2,408	3,064
算定外		167	182	349	243	197	440
合計		886	2,889	3,775	899	2,605	3,504

43. 集団栄養食事指導実施状況

		平成28年度			平成27年度		
		回数	人数		回数	人数	
			算定	算定外		算定	算定外
集 団 指 導	糖尿病(入院)	46	150	21	42	138	37
	糖尿病(外来)	(5)	7	0	0	0	0
	小計	46	157	21	42	138	37
糖尿病教室		2	0	95	1	0	25
その他		2	0	35	0	0	0
合 計		50	157	151	43	138	62
			308			200	

44. 在宅看護相談室の看護実施状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 相談内容と業務内容件数

項目		延件数
相談内容	病状相談	9,853
	介護相談	9,094
	介護用品	5,251
	地域サービス	10,038
	受診相談	418
	入院相談	130
	連絡調整	9,657
業務内容	退院調整	9,833
	情報収集	9,792
	病状確認	9,604
	カンファレンス	191
	その他	13
連携	院内職員との連携	8,670
	地域関係者との連携	8,803
合計		91,347
利用者	患者・家族	8,440
	院内職員	8,036
	地域関係者	8,213
合計		24,689
方法	電話	8,558
	面談	10,672
	その他	10
合計		19,240

2 調整内容別件数

自宅退院・在宅調整（入院・外来）	521
転院調整	1
介護相談	521
退院前合同カンファレンス	191
合計	1,234

3 退院支援計画書作成件数：185件

4 退院前合同カンファレンス件数

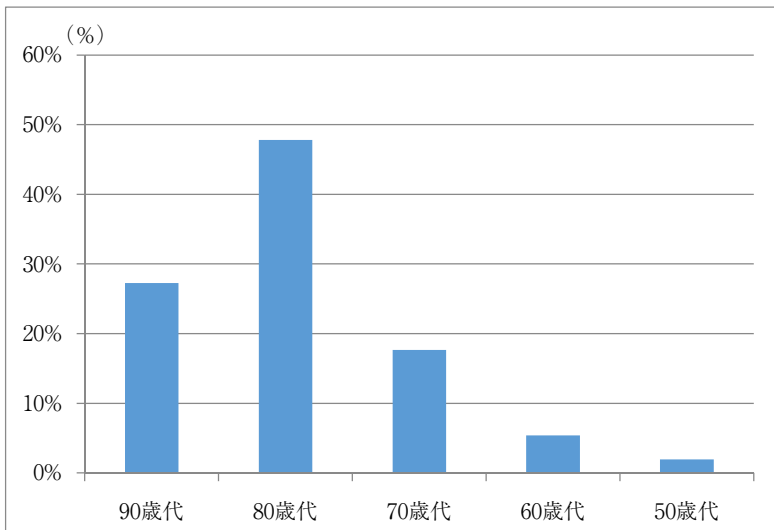
合同カンファレンス	191
共同指導料算定（再掲）	28
介護支援連携加算（再掲）	163

5 退院前後訪問件数

退院前	2
退院当日	82
退院後	2
外泊	0
合計	86

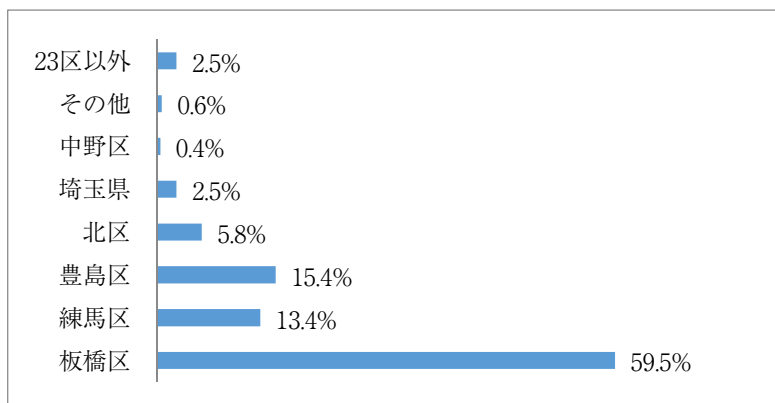
6 調整及び相談ケースの内訳

(1) 年齢別



年齢	人数	割合
90歳代	142	27.3%
80歳代	249	47.8%
70歳代	92	17.7%
60歳代	28	5.4%
50歳代	10	1.9%
合計	521	100.0%

(2) 居住地地域別



	件数	%
板橋区	310	59.5%
練馬区	70	13.4%
豊島区	80	15.4%
北区	40	7.7%
埼玉県	10	1.9%
中野区	1	0.2%
その他	6	0.0%
23区以外	10	1.9%
合計	521	100.0%

(3) 疾患別 (重複あり)

疾患名	件数
ガン (ターミナル含む)	65
呼吸器 (肺炎含む)	88
認知症	40
脳血管障害	60
糖尿病	99
循環器	80
神経難病	25
整形外科	10
その他 (皮膚疾患・膠原病等)	65
合計	532
ターミナルのみ (再掲)	35

(4) 退院後に必要な医療処置 (重複あり)

処置	件数
吸引	50
在宅酸素	40
褥瘡等処置	25
疼痛管理 (麻薬)	7
バルーン	35
胃ろう	20
気管切開	5
HPN (在宅IVH)	25
人工呼吸器 (NIP・AC等)	3
インシュリン注射	40
ストマ	15
末梢点滴	10
その他 (IOE・PTCD等ドレーン管理等)	20

45. 在宅酸素療法実績

新規導入者

月	28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	計
人数	5	5	7	1	4	4	4	7	6	5	3	3	54

46. 在宅人工呼吸療法実績

新規導入者

月	28年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年 1月	2月	3月	計
人数	3	1	0	1	0	2	2	1	3	1	0	0	14

47. 病歴取扱状況

平成28年4月1日～平成29年3月31日

項目 月別	取扱件数			貸出件数
	一般退院	死亡退院	計	死亡者カルテ
4月	1,078	54	1,132	7
5月	951	36	987	2
6月	1,081	44	1,125	7
7月	1,059	40	1,099	12
8月	1,027	38	1,065	6
9月	968	34	1,002	3
10月	1,065	61	1,126	12
11月	1,120	51	1,171	53
12月	1,162	51	1,213	25
1月	989	44	1,033	10
2月	1,057	47	1,104	6
3月	1,085	39	1,124	16
計	12,642	539	13,181	159

48. 医療相談室相談件数

平成28年度

(1) 診療科目別

診療科目		入 院			外 来		
		新 規	継 続	入院計	新 規	継 続	外来計
内科系	内科	71	460	531	7	1	8
	腎臓内科	27	215	242	1	4	5
	内分泌科	99	529	628	2	6	8
	循環器科	274	2,388	2,662	7	41	48
	呼吸器科	114	627	741	2	16	18
	消化器科	218	2,374	2,592	22	26	48
	神経内科	316	1,941	2,257	27	67	94
	血液科	42	101	143	5	5	10
	感染症科	6	51	57	0	0	0
	膠原病・リウマチ科	59	1,025	1,084	5	0	5
	緩和ケア病棟入院相談	0	0	0	645	0	645
	緩和ケア内科	16	309	325	1	59	60
	小 計	1,242	10,020	11,262	724	225	949
	外科系	外科	88	1,340	1,428	13	7
脳外科		159	657	816	11	10	21
整形外科		139	1,725	1,864	8	9	17
心臓血管外科		8	133	141	3	1	4
皮膚科		36	163	199	2	5	7
泌尿器科		14	242	256	3	6	9
脊椎外科		48	738	786	1	3	4
眼科		0	0	0	2	2	4
耳鼻咽喉科		0	25	25	0	0	0
放射線科		0	0	0	0	0	0
在宅療養病床		6	10	16	0	4	4
歯科		0	0	0	1	0	1
血管外科		2	26	28	0	0	0
麻酔科		0	2	2	1	0	1
小 計		500	5,061	5,561	45	47	92
リハビリテーション科	56	518	574	7	13	20	
精神科	8	133	141	3	1	4	
化学療法科	0	1	1	0	0	0	
合 計	64	652	716	10	14	24	
未 受 診 ・ 他	0	0	0	20	6	26	
総 合 計	1,806	15,733	17,539	799	292	1,091	

(2) 対象別

本人	3,187
家族	16,911
友人・知人	169
院内・事務職員	27,341
医療機関	21,793
区市役所・保健所	1,903
老人保健施設	1,817
老人ホーム等	901
ケアマネージャー	1,544
その他	682
計	76,248

(3) 方法別

面接	18,413
電話	54,188
文書	645
訪問	20
その他	2,818
計	76,084

(4) 対応別

情報提供・連絡	41,430
情報収集	19,914
観察・状況把握	6,558
方針協議	5,791
問題整理・心理援助	2,289
直接援助	102
計	76,084

(5) 主訴別

受診	319	
入院	3,845	
退院	5,601	
転院	48,789	
自宅	4,302	
施設	長期	1,986
	短期・中期	3,624
	障害、他	0
療養上	3,054	
家族	205	
経済	1,403	
日常生活	262	
福祉制度一般	2,251	
就労	3	
心理的問題	198	
その他	242	
計	76,084	

(7) その他業務

クライアント処遇会議	1,129	
ボランティア調整	0	
会議	院内	640
	院外	12
研修	院内	176
	院外	23
社会資源収集	68	
実習生関連	0	
見学者	0	
他職リエンテーション	0	
講演・講義	1	
調査・研究	0	
業務統計	1,902	
学会・研究会	1	

(6) 新ケースの紹介経路

病 院 内	医師	1,559
	看護婦	169
	リハビリ	8
	事務	8
	インテーク	0
	その他	9
小計		1,753
病 院 外	本人	64
	家族	636
	友人・知人	8
	医療機関	112
	区市役所・保健所	8
	老人保健施設	0
	老人ホーム等	7
	ケアマネージャー	15
	都関係	0
その他	2	
小計		852
計		2,605

	入院	外来	未・他	計
新規	1,806	779	20	2,605
継続	15,733	286	6	16,025
計	17,539	1,065	26	18,630

診療費の収入状況

49. 診療実績

(単位：点)

項 目		入院	外来	合計	比率 (%)
基本料等	初 診 料	675,403	/	/	/
	外 来 診 療 料	—	/	/	/
	入 院 料 等	687,128,151	—	687,128,151	/
計		687,803,554	19,250,597	707,054,151	57.1%
投 薬 料		11,499,703	6,209,552	17,709,255	1.4%
注 射 料		11,864,238	47,155,716	59,019,954	4.8%
処 置 料		7,094,496	5,458,319	12,552,815	1.0%
手 術 料		199,487,828	8,107,233	207,595,061	16.8%
検 査 料		12,576,985	92,131,909	104,708,894	8.5%
画 像 診 断 料		3,286,786	55,153,754	58,440,540	4.7%
諸 収 入		33,709,489	36,906,638	70,616,127	5.7%
合 計		967,323,079	270,373,718	1,237,696,797	100.0%
(歯科口腔外科再掲)		986,951	5,742,001	6,728,952	—
延 べ 人 数		175,503	238,896	414,399	—
1人1日平均点数		5,511.7	1,131.8	2,986.7	—
レセプト枚数		18,414	141,231	159,645	—

50. 診療実績：前年度比較

(単位：円)

区 分		入 院		
		平成27年度	平成28年度	増 (△) 減
診 療 実 績 (円)		9,460,486,954	9,673,230,826	212,743,872
年間延患者数 (人)		173,510	175,503	1,993
稼 動 日 数 (日)		366	365	△ 1
一日一人当収入 (円)		54,524	55,117	593
収 入 内 訳	基 本 料	6,865,355,936	6,878,035,547	12,679,611
	投 薬 料	109,294,859	114,997,038	5,702,179
	注 射 料	125,884,722	118,642,381	△ 7,242,341
	処 置 料	72,343,849	70,944,965	△ 1,398,884
	手 術 料	1,761,462,688	1,994,878,280	233,415,592
	検 査 料	137,943,714	125,769,856	△ 12,173,858
	画 像 診 断 料	31,651,510	32,867,862	1,216,352
	諸 収 入	356,549,676	337,094,897	△ 19,454,779

※ 室料差額は含まない。

(単位：円)

区 分		外 来		
		平成27年度	平成28年度	増 (△) 減
診 療 実 績 (円)		2,582,284,331	2,703,737,211	121,452,880
年間延患者数 (人)		235,697	238,896	3,199
稼 動 日 数 (日)		294	293	△ 1
一日一人当収入 (円)		10,956	11,318	362
収 入 内 訳	基 本 料	190,077,208	192,505,972	2,428,764
	投 薬 料	94,630,789	62,095,523	△ 32,535,266
	注 射 料	353,220,347	471,557,162	118,336,815
	処 置 料	78,847,651	54,583,191	△ 24,264,460
	手 術 料	72,693,027	81,072,335	8,379,308
	検 査 料	893,048,602	921,319,094	28,270,492
	画 像 診 断 料	546,178,610	551,537,545	5,358,935
	諸 収 入	353,588,097	369,066,389	15,478,292
院外処方(再掲)		87,981,487	88,925,760	944,273

※ 保険外は「諸収入」に含めて計上している。

51. 診療実績（入院）

平成28年4月1日～平成29年3月31日（単位：円、人、枚）

	基本料		投薬料	注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	延人数	レセプト数
	初診料 (再掲)											
4月	636,354	549,617,586	10,666,752	12,616,468	5,080,156	158,464,840	10,837,484	1,763,950	28,746,026	777,793,262	14,115	1,523
5月	524,270	572,352,818	12,556,800	9,647,770	6,402,460	159,515,080	9,289,180	1,853,900	29,501,950	801,119,958	14,593	1,430
6月	475,860	547,517,196	8,918,840	7,003,210	3,538,160	158,147,500	10,773,580	2,179,450	30,496,508	768,574,444	13,868	1,541
7月	569,620	560,954,287	12,142,330	9,864,130	5,440,430	156,167,100	11,250,720	2,735,335	29,798,920	788,353,252	14,447	1,512
8月	569,540	589,724,511	10,045,730	11,789,120	6,786,960	185,283,230	11,186,290	2,547,950	32,159,046	849,522,837	15,345	1,558
9月	511,590	562,295,067	9,412,935	13,108,894	7,224,115	152,610,790	10,026,997	9,383,465	31,215,634	795,277,897	14,918	1,474
10月	523,560	579,462,446	7,318,302	7,867,919	6,305,524	175,439,820	10,522,695	1,724,932	26,265,665	814,907,303	14,629	1,583
11月	486,120	599,349,625	8,522,360	8,138,920	7,456,860	176,475,190	11,547,940	1,968,590	25,405,509	838,864,994	15,021	1,631
12月	565,330	580,830,207	10,123,060	7,243,520	5,063,640	158,216,280	9,604,270	1,726,450	23,568,724	796,376,151	14,607	1,538
1月	703,950	595,534,633	7,203,414	10,884,000	5,413,760	195,053,140	10,875,150	2,407,660	24,475,884	851,847,641	14,984	1,499
2月	614,520	556,421,314	10,039,740	9,751,070	7,067,790	152,568,570	10,713,000	1,758,590	26,587,697	774,907,771	14,039	1,561
3月	573,320	583,975,857	8,046,775	10,727,360	5,165,110	166,936,740	9,142,550	2,817,590	28,873,334	815,685,316	14,937	1,564
合計	6,754,034	6,878,035,547	114,997,038	118,642,381	70,944,965	1,994,878,280	125,769,856	32,867,862	337,094,897	9,673,230,826	175,503	18,414
歯科再掲	18,130	6,775,300	101,190	124,920	55,200	1,375,180	905,120	191,840	340,760	9,869,510	241	

※ 室料差額は含まない。

52. 診療実績（外来）

平成28年4月1日～平成29年3月31日 （単位：円、人、枚）

	基本料		注射料	処置料	手術料	検査料	画像診断料	諸収入	合計	院外処方 (再掲)	延人数	レポート 枚数		
	初診料 (再掲)	外来診療料 (再掲)												
4月	3,865,275	12,114,085	15,979,360	5,806,525	33,651,091	3,862,014	6,364,524	78,036,942	46,939,675	30,360,053	221,000,184	7,510,542	19,867	11,881
5月	3,817,840	11,675,726	15,493,566	4,968,460	34,009,261	3,749,430	6,113,488	74,598,196	45,754,078	29,267,815	213,954,294	7,039,095	18,640	11,359
6月	3,985,820	12,429,696	16,415,516	5,133,380	37,886,050	4,271,799	7,189,310	80,951,253	46,618,573	30,813,527	229,279,408	7,745,358	20,563	12,001
7月	3,772,590	11,918,634	15,836,844	4,736,610	44,173,751	4,401,498	6,574,579	75,012,608	46,299,641	30,121,261	227,156,792	7,264,527	19,547	11,562
8月	3,765,390	12,116,645	16,070,495	5,085,502	42,849,282	4,400,065	6,741,520	76,486,594	46,963,774	29,915,560	228,512,792	7,551,008	19,785	11,552
9月	3,552,240	12,135,152	15,780,772	5,307,790	38,929,811	4,588,060	6,412,280	75,177,702	44,132,096	29,775,797	220,104,308	7,488,018	19,986	11,905
10月	3,799,880	12,161,622	16,198,102	3,943,210	39,649,777	4,177,370	7,086,975	77,053,643	44,540,079	31,014,841	223,663,997	7,371,572	20,285	11,905
11月	3,818,550	12,410,705	16,229,255	5,318,260	38,467,805	4,664,524	6,569,390	77,645,082	46,069,803	32,206,934	227,171,053	7,420,381	20,550	11,877
12月	3,846,580	12,604,713	16,451,293	3,964,290	41,159,735	4,719,000	6,968,660	75,021,129	45,235,503	30,700,234	224,219,844	7,560,672	20,220	12,049
1月	3,916,995	11,737,998	16,057,653	6,293,114	38,672,567	5,043,135	5,497,029	77,589,965	43,180,734	31,086,977	223,421,174	7,305,288	19,421	11,724
2月	3,707,220	11,300,948	15,145,388	6,364,810	38,496,975	4,452,681	6,982,540	73,665,392	44,502,735	29,526,942	219,137,463	6,863,989	18,888	11,342
3月	3,946,840	12,809,408	16,847,728	5,173,572	43,611,057	6,253,615	8,572,040	80,080,588	51,300,854	34,276,448	246,115,902	7,805,310	21,144	12,074
合計	45,795,220	145,415,332	192,505,972	62,095,523	471,557,162	54,583,191	81,072,335	921,319,094	551,537,545	369,066,389	2,703,737,211	88,925,760	238,896	141,231
歯科再掲	4,603,615	5,210,478	9,814,093	213,080	30,380	5,465,190	21,194,839	3,668,240	6,608,835	10,425,362	57,420,019	965,310	11,986	4,338

※ 保険外は「諸収入」に含めて計上している。

経営分析

55. 退院患者の疾患内訳 (ICD10コードによる大分類)

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位:人)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00-B99	127	153	280	342	318	660
新生物	C00-D48	1,420	1,005	2,425	1,027	780	1,807
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	27	48	75	274	318	592
内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	200	218	418	1,650	1,383	3,033
精神及び行動の障害	F00-F99	59	146	205	343	412	755
神経系の疾患	G00-G99	280	330	610	424	478	902
眼及び付属器の疾患	H00-H59	879	1,363	2,242	84	102	186
耳及び乳様突起の疾患	H60-H95	24	48	72	29	36	65
循環器系の疾患	I00-I99	941	946	1,887	3,183	2,981	6,164
呼吸器系の疾患	J00-J99	511	432	943	860	541	1,401
消化器系の疾患	K00-K93	853	955	1,808	1,237	1,352	2,589
皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	53	87	140	119	127	246
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	163	480	643	396	748	1,144
腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	228	292	520	697	571	1,268
妊娠、分娩及び産じょく	O00-O99	0	0	0	0	0	0
先天性奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	8	9	17	37	37	74
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	194	189	383	359	420	779
損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	145	287	432	194	266	460
傷病及び死亡の外因	V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	34	47	81	285	313	598
合 計		6,146	7,035	13,181	11,540	11,183	22,723

〔内訳〕 (ICD10コード中分類)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
感染症及び寄生虫症	A00 - B99	127	153	280	342	318	660
腸管感染症		3	7	10	20	13	33
結核		8	7	15	25	18	43
主として性的伝播様式をとる感染症		4	0	4	4	1	5
皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症		15	17	32	15	13	28
ウイルス肝炎		16	14	30	65	57	122
その他のウイルス疾患		1	9	10	9	12	21
真菌症		5	12	17	63	48	111
感染症及び寄生虫症の続発・後遺症		0	0	0	36	15	51
その他の感染症及び寄生虫症		75	87	162	105	141	246
新生物	C00 - D48	1,420	1,005	2,425	1,027	780	1,807
胃の悪性新生物		146	82	228	75	40	115
結腸の悪性新生物		136	176	312	74	59	133
直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物		149	36	185	48	6	54
肝及び肝内胆管の悪性新生物		37	26	63	26	21	47
気管、気管支及び肺の悪性新生物		229	116	345	114	56	170
乳房の悪性新生物		4	64	68	2	29	31
子宮の悪性新生物		0	7	7	0	4	4
悪性リンパ腫		66	60	126	24	30	54
白血病		83	61	144	24	26	50
その他の悪性新生物		414	233	647	513	354	867
良性新生物及びその他の新生物		156	144	300	127	155	282
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50 - D89	27	48	75	274	318	592
貧血		22	33	55	219	235	454
その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害		5	15	20	55	83	138

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コード No.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
内分泌,栄養及び代謝疾患	E00 - E90	200	218	418	1,650	1,383	3,033
甲状腺障害		3	4	7	71	119	190
糖尿病		126	126	252	646	419	1,065
その他の内分泌,栄養及び代謝障害		71	88	159	933	845	1,778
精神及び行動の障害	F00 - F99	59	146	205	343	412	755
血管性及び詳細不明の認知症		35	39	74	259	306	565
精神作用物質使用による精神及び行動の障害		6	4	10	23	4	27
統合失調症,統合失調症型障害及び妄想性障害		8	16	24	19	7	26
気分 [感情] 障害 (躁うつ病を含む)		8	80	88	28	62	90
神経症性障害,ストレス関連障害及び身体表現性障害		2	6	8	10	28	38
精神遅滞		0	0	0	1	0	1
その他の精神及び行動の障害		0	1	1	3	5	8
神経系の疾患	G00 - G99	280	330	610	424	478	902
パーキンソン病		29	46	75	75	84	159
アルツハイマー病		59	65	124	86	141	227
てんかん		35	21	56	29	40	69
脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群		0	1	1	13	9	22
自律神経系の障害		8	18	26	10	7	17
その他の神経系の疾患		149	179	328	211	197	408
眼及び付属器の疾患	H00 - H59	879	1,363	2,242	84	102	186
結膜炎		0	0	0	0	8	8
白内障		652	1,134	1,786	41	38	79
屈折及び調節の障害		2	0	2	1	0	1
その他の眼及び付属器の疾患		225	229	454	42	56	98
耳及び乳様突起の疾患	H60 - H95	24	48	72	29	36	65
外耳炎		0	0	0	4	0	4
その他の外耳疾患		0	0	0	0	0	0

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
中耳炎		5	4	9	5	8	13
その他の中耳炎及び乳様突起の疾患		1	2	3	1	0	1
メニエール病		10	29	39	3	13	16
その他の内耳疾患		0	1	1	0	0	0
その他の耳疾患		8	12	20	16	15	31
循環器系の疾患	I00 - I99	941	946	1,887	3,183	2,981	6,164
高血圧性疾患		8	7	15	853	927	1,780
虚血性心疾患		275	133	408	414	221	635
その他の心疾患		238	363	601	975	1,068	2,043
くも膜下出血		3	9	12	2	6	8
脳内出血		41	37	78	30	21	51
脳梗塞		134	103	237	144	110	254
脳動脈硬化（症）		22	7	29	78	27	105
その他の脳血管疾患		7	16	23	16	35	51
動脈硬化（症）		46	29	75	84	43	127
痔核		28	80	108	159	167	326
低血圧（症）		4	3	7	18	5	23
その他の循環器系の疾患		135	159	294	410	351	761
呼吸器系の疾患	J00 - J99	511	432	943	860	541	1,401
急性鼻咽頭炎症（かぜ）		0	0	0	1	0	1
急性咽頭炎及び急性扁桃炎		2	0	2	3	5	8
その他の急性上気道感染症		32	37	69	19	9	28
肺炎		233	165	398	120	82	202
急性気管支炎及び急性細気管支炎		4	13	17	1	4	5
アレルギー性鼻炎		0	1	1	4	10	14
慢性副鼻腔炎		7	5	12	5	5	10

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
急性または慢性と明示されない気管支炎		9	5	14	8	4	12
慢性閉塞性肺疾患		22	3	25	150	42	192
喘息		5	15	20	64	74	138
その他の呼吸器系の疾患		197	188	385	485	306	791
消化器系の疾患	K00 - K93	853	955	1,808	1,237	1,352	2,589
う蝕		2	8	10	18	3	21
歯肉炎及び歯周疾患		7	7	14	6	9	15
その他の歯及び歯の支持組織の障害		22	15	37	16	13	29
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍		39	41	80	45	47	92
胃炎及び十二指腸炎		54	110	164	192	199	391
アルコール性肝疾患		7	2	9	36	9	45
慢性肝炎（アルコール性のものを除く）		7	17	24	18	18	36
肝硬変（アルコール性のものを除く）		1	5	6	14	43	57
その他の肝疾患		3	6	9	84	79	163
胆石症及び胆のう炎		65	66	131	86	81	167
膵疾患		20	23	43	28	21	49
その他の消化器系の疾患		626	655	1,281	694	830	1,524
皮膚及び皮下組織の疾患	L00 - L99	53	87	140	119	127	246
皮膚及び皮下組織の感染症		22	39	61	12	22	34
皮膚炎及び湿疹		5	7	12	31	34	65
その他の皮膚及び皮下組織の疾患		26	41	67	76	71	147
筋骨格系及び結合組織の疾患	M00 - M99	163	480	643	396	748	1,144
炎症性多発性関節障害		15	83	98	51	153	204
関節症		24	218	242	12	71	83
脊椎障害（脊椎症を含む）		71	84	155	140	123	263
椎間板障害		4	6	10	7	9	16

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
頸腕症候群		0	0	0	0	0	0
腰痛症及び坐骨神経痛		2	3	5	15	22	37
その他の脊柱障害		0	0	0	0	0	0
肩の傷害		1	0	1	5	1	6
骨の密度及び構造の障害		1	6	7	59	203	262
その他の筋骨格系及び結合組織の疾患		45	80	125	107	166	273
腎尿路生殖器系疾患	N00-N99	228	292	520	697	571	1,268
糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患		25	60	85	29	41	70
腎不全		60	40	100	246	188	434
尿路結石症		14	31	45	15	18	33
その他の尿路系の疾患		76	159	235	224	301	525
前立腺肥大（症）		37	0	37	174	0	174
その他の男性生殖器の疾患		16	0	16	7	0	7
月経障害及び閉経周辺障害		0	0	0	0	7	7
乳房及びその他の女性生殖器の疾患		0	2	2	2	16	18
妊娠、分娩及び産じょく	O00-O99	0	0	0	0	0	0
その他の妊娠、分娩及び産じょく		0	0	0	0	0	0
先天性奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	8	9	17	37	37	74
心臓の先天奇形		0	2	2	5	9	14
その他の先天奇形		8	7	15	32	28	60
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	194	189	383	359	420	779
損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	145	287	432	194	266	460
骨折		65	191	256	91	150	241
頭蓋骨内損傷及び内臓の損傷		13	11	24	13	15	28
熱傷及び腐食		0	2	2	4	0	4
中毒		3	3	6	2	5	7
その他の損傷及びその他の外因の影響		64	80	144	84	96	180
傷病及び死亡の外因	V01-Y98	0	0	0	0	0	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	34	47	81	285	313	598

56. 退院患者の悪性新生物患者数内訳 (ICD10コードによる中分類)

平成28年4月1日～平成29年3月31日 (単位：人)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	C00-C14	9	3	12	6	8	14
消化器の悪性新生物	C15-C26	603	447	1,050	299	178	477
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	C30-C39	235	117	352	120	56	176
骨及び関節軟骨の悪性新生物	C40-C41	0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物	C43-C44	4	21	25	4	7	11
中皮及び軟部組織の悪性新生物	C45-C49	21	6	27	3	3	6
乳房の悪性新生物	C50-C50	4	64	68	2	29	31
女性生殖器の悪性新生物	C51-C58	0	15	15	0	7	7
男性生殖器の悪性新生物	C60-C63	142	0	142	76	0	76
尿路の悪性新生物	C64-C68	63	44	107	51	28	79
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物	C69-C72	0	3	3	1	2	3
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	C73-C75	0	2	2	3	8	11
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	C76-C80	32	15	47	286	243	529
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	C81-C96	149	121	270	48	56	104
独立した（原発性）多部位の悪性新生物	C97-C97	0	0	0	0	0	0
上皮内新生物	D00-D09	2	3	5	1	0	1
合 計		1,264	861	2,125	900	625	1,525

〔内訳〕 (ICD10コード中分類)

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	C00－C14	9	3	12	6	8	14
口唇の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
舌根〈基底〉部の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の舌の悪性新生物		3	0	3	1	1	2
歯肉の悪性新生物		1	1	2	0	0	0
口腔底の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
口蓋の悪性新生物		0	1	1	0	0	0
その他及び部位不明の口腔の悪性新生物		0	1	1	0	6	6
耳下腺の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の大唾液腺の悪性新生物		0	0	0	0	1	1
扁桃の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
中咽頭の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
鼻〈上〉咽頭の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
梨状陥凹〈洞〉の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
下咽頭の悪性新生物		5		5	5	0	5
その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
消化器の悪性新生物	C15－C26	603	447	1,050	299	178	477
食道の悪性新生物		50	26	76	24	19	43
胃の悪性新生物		146	82	228	75	40	115
小腸の悪性新生物		2	7	9	1	5	6
結腸の悪性新生物		136	176	312	74	59	133
直腸S状結腸移行部の悪性新生物		4	6	10	1	1	2
直腸の悪性新生物		145	30	175	47	5	52
肛門及び肛門管の悪性新生物		0	1	1	0	1	1
肝及び肝内胆管の悪性新生物		37	26	63	26	21	47
胆のう〈嚢〉の悪性新生物		16	4	20	5	4	9
その他及び部位不明の胆道の悪性新生物		22	13	35	4	6	10

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類		ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
			男	女	計	男	女	計
腭の悪性新生物			45	76	121	42	17	59
その他及び部位不明確の消化器の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物		C30-C39	235	117	352	120	56	176
鼻腔及び中耳の悪性新生物			1	1	2	0	0	0
副鼻腔の悪性新生物			0	0	0	1	0	1
喉頭の悪性新生物			3	0	3	4	0	4
気管の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物			229	116	345	114	56	170
胸腺の悪性新生物			1	0	1	1	0	1
心臓、縦隔及び胸膜の悪性新生物			1	0	1	0	0	0
その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
骨及び関節軟骨の悪性新生物		C40-C41	0	0	0	0	0	0
(四) 肢の骨及び関節軟骨の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の骨及び関節軟骨の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物		C43-C44	4	21	25	4	7	11
皮膚の悪性黒色腫			0	9	9	0	1	1
皮膚のその他の悪性黒色腫			4	12	16	4	6	10
中皮及び軟部組織の悪性新生物		C45-C49	21	6	27	3	3	6
中皮腫			19	5	24	3	3	6
カポジ〈kaposi〉肉腫			0	0	0	0	0	0
末梢神経及び自律神経系の悪性新生物			0	0	0	0	0	0
後腹膜及び腹膜の悪性新生物			2	0	2	0	0	0
その他の結合組織及び軟部組織の悪性新生物			0	1	1	0	0	0
乳房の悪性新生物		C50	4	64	68	2	29	31
乳房の悪性新生物			4	64	68	2	29	31

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
女性生殖器の悪性新生物	C51 - C58	0	15	15	0	7	7
外陰（部）の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
膣の悪性新生物		0	3	3	0	1	1
子宮頸（部）の悪性新生物		0	1	1	0	3	3
子宮体部の悪性新生物		0	6	6	0	0	0
子宮の悪性新生物、部位不明		0	0	0	0	1	1
卵巣の悪性新生物		0	5	5	0	2	2
その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
胎盤の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
男性生殖器の悪性新生物	C60 - C63	142	0	142	76	0	76
陰茎の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
前立腺の悪性新生物		142	0	142	75	0	75
精巣（睾丸）の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
その他及び部位不明の男性生殖器の悪性新生物		0	0	0	1	0	1
尿路の悪性新生物	C64 - C68	63	44	107	51	28	79
腎盂を除く腎の悪性新生物		10	7	17	8	7	15
腎盂の悪性新生物		8	14	22	6	7	13
尿管の悪性新生物		12	12	24	12	6	18
膀胱の悪性新生物		33	11	44	25	8	33
その他及び部位不明の尿路の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
眼、脳及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物	C69 - C72	0	3	3	1	2	3
眼及び付属器の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
髄膜の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
脳の悪性新生物		0	3	3	1	2	3
脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系の部位の悪性新生物		0	0	0	0	0	0

疾病、障害及び死因の統計分類基本分類	ICD10 コードNo.	主 病			副 病		
		男	女	計	男	女	計
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物	C73-C75	0	2	2	3	8	11
甲状腺の悪性新生物		0	2	2	2	8	10
副腎の悪性新生物		0	0	0	1	0	1
その他の内分泌腺及び関連組織の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	C76-C80	32	15	47	286	243	529
その他及び部位不明確の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
リンパ節の続発性及び部位不明の悪性新生物		1	3	4	22	20	42
呼吸器及び消化器の続発性悪性新生物		12	5	17	190	157	347
その他の部位の続発性悪性新生物		3	5	8	63	56	119
部位の明示されない悪性新生物		16	2	18	11	10	21
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	C81-C96	149	121	270	48	56	104
ホジキン病		1	1	2	1	1	2
ろ〈濾〉胞性[結節性]非ホジキンリンパ腫		2	4	6	0	5	5
びまん性非ホジキンリンパ腫		28	23	51	13	12	25
末梢性及び皮膚T細胞リンパ腫		4	0	4	1	0	1
非ホジキンリンパ腫のその他及び詳細不明の型		31	32	63	9	12	21
悪性免疫増殖性疾患		0	0	0	0	0	0
多発性骨髄腫及び悪性形質細胞性新生物		10	13	23	5	7	12
リンパ性白血病		18	14	32	4	3	7
骨髄性白血病		43	32	75	12	16	28
単球性白血病		2	2	4	0	0	0
細胞型の明示されたその他の白血病		0	0	0	0	0	0
細胞型不明の白血病		10	0	10	3	0	3
リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明の悪性新生物		0	0	0	0	0	0
独立した（原発性）多部位の悪性新生物	C97	0	0	0	0	0	0

第三部 研究部門

(平成28年度 活動報告)

I チーム研究等

チーム研究

研究系	研究チーム名	研究テーマ	チームリーダー
自然科学系	老化機構	分子機構 老化バイオマーカー プロテオーム	伊藤 雅史
	老化制御	健康長寿ゲノム探索 分子老化制御 生体環境応答	石神 昭人
	老化脳神経科学	自律神経機能 記憶神経科学 神経生理	遠藤 昌吾
	老年病態	血管医学 生活習慣病 運動器医学	重本 和宏
	老年病理学	高齢者がん 神経病理学（高齢者ブレインバンク）	石渡 俊行
	神経画像	脳機能 PET画像診断	石井 賢二
社会科学系	社会参加と地域保健	社会参加・社会貢献の促進 老化・虚弱の一次予防と地域保健	藤原 佳典
	自立促進と介護予防	筋骨格系の老化予防の促進 介護予防の促進 認知症・うつ予防と介入の促進	粟田 圭一
	福祉と生活ケア	在宅療養支援方法の開発 要介護化の要因解明と予測 終末期ケアのあり方	石崎 達郎

老化機構研究チーム

チームリーダー：伊藤 雅史

1 研究チームの概要・目的

分子の発現変化と修飾およびそれに伴う機能変化に着目し、老化および老化関連疾患の分子メカニズムの解明およびバイオマーカーと治療標的の同定を目指している。これらの実現に向け、先進的な方法論、概念を取り入れた基盤研究を進め、高齢者の健康増進、健康長寿に寄与することを目的とする。

2 今後の展望

短期的には、中期計画の最終年度に向け、研究成果を挙げるよう努力する。長期的には、引き続き、老化および老化関連疾患の分子メカニズムの解明および新たなバイオマーカーと治療標的の同定を目指し、新たなチャレンジも行う。また、センター内外のチームとくに社会科学系研究チーム・病院との連携、さらには、実用化に向けて企業との連携を推進してゆく。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

分子機構

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
認知症における糖鎖の解析	APP代謝と糖鎖の関連を解明し、アルツハイマー病(AD)の新たな治療および予防法の開発を目指す。これまでに、AD脳で発現が変化する糖鎖遺伝子を複数見出し(ブレインバンクとの共同研究)、糖転移酵素GnT-IIIにAβ産生抑制作用があることを明らかにしていることから、糖鎖の発現を変化させることでAPP代謝を制御する可能性を検討する	Aβ産生と糖鎖遺伝子について細胞レベルで解析	糖鎖変化によるAPP代謝変化のメカニズムの解析	糖鎖遺伝子の発現をコントロールする化合物の探索	化合物による糖鎖遺伝子の発現変化のメカニズムの解明	ADモデルマウスおよび老化マウスを用いた糖鎖遺伝子変化とAPP代謝との関連の検証
モデルマウスを用いた老化機構の解明	klothoマウスを用いて老化関連疾患の分子機構の解明を目指す。これまでにklothoタンパク質の欠損により肺と腎臓特異的に糖鎖異常を示すことを見いだしており、老人肺や腎障害の分子機構およびklothoタンパク質の機能解明を目的とする。	klothoマウスの肺における糖鎖変化の生化学的な解析	klothoマウスの腎臓における糖鎖変化のメカニズムの解析	klothoマウスの肺と腎臓における糖鎖変化のメカニズムとklothoタンパク質の機能との関連について細胞レベルでの分子機構解析	klothoマウスの肺と腎臓における糖鎖変化のメカニズムと病態との関連について個体および細胞レベルでの解析	老人肺、腎障害の病態とklothoタンパク質および糖鎖機能との関連の検討
筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明	筋疾患に関与する2つの糖転移酵素POMTとPOMGnT1を発見し、これらの酵素に合成されるO-マンノース型糖鎖の筋機能における重要性を明らかにしてきた。そこで本糖鎖の合成機構や生理機能を明らかにし、筋疾患や加齢に伴う神経異常・筋萎縮の病態解明を目指す。	O-マンノース型糖鎖によるタンパク質相互作用の生化学的解析	筋疾患モデルマウスおよび老化モデルマウスにおける糖鎖変化と病態の解析	モデルマウスにおける糖鎖変化による生化学的影響(タンパク質相互作用の変化など)の解析と関連酵素の機能解析	モデルマウスにおける糖鎖変化および関連酵素の異常と病態・機能低下との関連の解析	遺伝子組換え細胞を用いた糖鎖改変システムによる病態の分子機構および糖鎖機能の解析

老化バイオマーカー

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
認知症等高齢者疾患の新規診断マーカーの探索	認知症等高齢者疾患の組織・体液等の病理・臨床検体をを用いた解析により、体液中の遺伝子・タンパクによる診断の可能性を探る	認知症等の疾患の組織中のマイクロRNAの網羅的発現解析	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの同定	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの組織内局在の確認	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの機能解析	認知症等の疾患の組織中で発現変化を示すマイクロRNAの体液中診断バイオマーカーとしての可能性の検討
高齢者疾患の新規診断マーカーと治療標的の探索	疾患のモデル細胞から分泌される遺伝子・タンパクとエクソソームに着目し、高齢者疾患の新規体液中診断マーカーおよび治療標的の同定を目指す	前立腺がん細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	ミトコンドリア機能低下により細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	膀胱がん細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	酸化ストレス・炎症により細胞から分泌される遺伝子・タンパク等の検討	体液中バイオマーカーの高齢者医療への応用の可能性の検討

プロテオーム

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
動脈老化に関するプロテオーム解析	大動脈中膜組織サンプルを用いてプロテオミクス解析を行い、動脈老化の一つである動脈中膜変性症において変動するタンパク質を明らかにする。	サンプルの収集	タンパク質の抽出及び標識化に関する条件検討	二次元電気泳動及び安定同位体標識法によるプロテオミクス解析	プロテオミクス解析で得られた成果の生化学的及び免疫組織学的検証	研究成果の還元
糖尿病に関するプロテオーム解析	糖尿病患者サンプル及び糖尿病モデルラットを用いて、O-GlcNAc関連酵素の変動解析やO-GlcNAcプロテオミクス解析を行い、糖尿病及び関連合併症マーカーを探索する。	サンプルの収集及びO-GlcNAc関連酵素の変動解析	O-GlcNAcプロテオミクス解析のためのO-GlcNAcペプチド濃縮法の開発	O-GlcNAcペプチド濃縮法の応用	糖尿病モデルラット腎臓組織におけるプロテオミクス解析とO-GlcNAcプロテオミクス解析	糖尿病腎症臨床サンプルのプロテオミクス解析及びO-GlcNAcプロテオミクス解析
健康長寿に関するプロテオーム解析	1.超百寿者血漿サンプルを用いて、グライコプロテオミクスによる解析を行う。 2.長期縦断コホートを用いて、認知機能低下や運動機能低下に関する血漿プロテオミクス解析を行い、社会学的因子との相関を調べる。	1.レクチンマイクロアレイを用いた超百寿者特異的変動レクチンの解析 2.実験項目及び実験条件の検討	1.グライコミクスによる超百寿者特異的に変動する糖鎖の解析 2.サンプルの抽出(各年齢ごと)	1.超百寿者に増した高シアル酸含有糖鎖に対する新奇分析法の開発 2.初期の認知機能低下に関するプロテオーム解析	1.新奇シアル酸糖鎖分析法の超百寿者血漿糖鎖解析への応用 2.初期の認知機能低下に関するバイオマーカー候補タンパク質の絞り込みと翻訳後修飾解析	1.グライコプロテオミクスによる超百寿者特異的に変動する糖タンパク質の解析 2.初期の認知機能低下に関するバイオマーカー候補タンパク質に対する高感度検出法の開発

分子機構

構成メンバー

テーマリーダー：萬谷博

研究員：赤坂啓子、今江理恵子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

年度計画に一部変更はあるが、概ね順調に進行している。

(1) 認知症における糖鎖の解析：これまでN型糖鎖(糖転移酵素GnT-III)を中心に研究を進め

てきたが、最近行ったブレインバンク検体の解析からO型糖鎖の重要性を見出したため、本年度はO型糖鎖の変化とAPP代謝の関連について解析した。27年度に29年度の計画(ADモデルマウスを用いた糖鎖遺伝子変化のAPP代謝への影響の解析)を先行した。

(2) モデルマウスを用いた老化機構の解明：計画通り自然老化マウスおよびklothoマウスの肺と腎臓における糖鎖変化と病態との関連について解析している。

(3) 筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明：CRISPR遺伝子編集法によりO-マンノース型糖

鎖合成に関わる一連の筋ジストロフィー遺伝子のノックアウト細胞を神戸大との共同研究において作製したことから、29年度計画を先行して遺伝子組換え細胞の糖鎖解析を行った。この解析により、これまで機能不明だった原因遺伝子の機能を新たに発見し、筋ジストロフィー症原因糖鎖の完全構造を解明した。

【その根拠】

- (1) 認知症における糖鎖の解析：APPは多くのO型糖鎖修飾を受けることから、O型糖鎖の重要性を調べるため、ブレインバンクの検体を用いた研究を行っている。昨年度までにO型糖鎖修飾酵素ファミリー遺伝子の発現が変化することを見出したことから、本年度は発現が変化する酵素の影響を調べた。その結果、APP分子のある特定の部位のO型糖鎖修飾がAPP代謝を変化させているという重要な知見を得た。
- (2) モデルマウスを用いた老化機構の解明：klothoマウスで見出した肺と腎臓の糖鎖変化について、自然老化マウスを用いて加齢による肺疾患および腎機能低下との関連を解析している。また、肺疾患と糖鎖の関連を調べる目的で、肺気腫モデルとの比較解析を進めている（老化制御研究チーム石神研究部長との共同研究）。
- (3) 筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明：筋ジストロフィー症の原因遺伝子の機能と原因糖鎖の構造を解明した論文を発表し、2件のプレスリリースを発表した「筋ジストロフィー症発症の新たな仕組みを発見」「筋ジストロフィー症の原因となる糖鎖構造を解明」(新しい知見(3))。

【新しい知見】

- (1) 認知症における糖鎖の解析：約20種のアイソフォームからなるO型糖鎖修飾酵素ファミリーについてアルツハイマー(AD)病脳（ブレインバンク検体）における発現解析から幾つかのアイソフォームの発現が変化することを見出した。変化するアイソフォームの解析から、特定の酵素によるAPPの特定部位のO型糖鎖修飾がAPP代謝に影響することを明らかにした。APPのO型糖鎖修飾がAPP代謝に直接影響することを示した初めての発見である。(JB, IF 2.397)。
- (2) モデルマウスを用いた老化機構の解明：klothoマウス、自然老化マウス、肺気腫モデルマウスの比較から各モデルに共通する生化学的変化を見出した。その変化について解析を進めている。
- (3) 筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明：X線構造解析とCRISPR細胞を用いた解析から筋ジストロフィー原因タンパク質POMGNT1の機能を明らかにし、筋ジストロフィー症発症の

メカニズムを明らかにした(PNAS, IF 9.243, プレスリリース)。NMR法とCRISPR細胞を用いた解析から筋ジストロフィー原因タンパク質TMEM5の機能を明らかにし、原因となるO-マンノース型糖鎖の完全構造を解明した(JBC, IF 4.258, プレスリリース)。中国の筋ジストロフィー患者から原因遺伝子POMT1の新たな変異を発見した(JHG, IF 2.487)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<認知症における糖鎖の解析>

老化バイオマーカー、プロテオーム、神経病理学(高齢者ブレインバンク)、理化学研究所、首都大学東京、Columbia Univ. Med. Center

<モデルマウスを用いた老化機構の解明>

老化バイオマーカー、プロテオーム、分子老化制御、病理診断科、神戸薬科大学、京都大学大学院、首都大学東京

<筋形成維持に関連する糖鎖機能の解明>

老化バイオマーカー、プロテオーム、運動器医学、血管医学、神戸大学、高エネルギー加速器研究機構、野口研究所、京都大学、三重大学、国立精神・神経医療研究センター神経研究所、杏林大学、北海道大学、名古屋大学、東海大学、帝京大学、東京大学、理化学研究所、大阪府立母子保健総合医療センター、鳥取大学、Peking University First Hospital、Peking Union Medical College、Baylor College of Medicine、McGill University Health Centre、Hadassah-Hebrew University Medical Center、Radboud University Medical Center

3 今後の展望

計画全体の進行に支障が生じないように、年度計画の入れ替えなど実験の内容や方法については適時検証しつつ行っており妥当に進行できている。

これまでの4年間で、3つのテーマすべてにおいて成果を論文として報告することができた。これらの成果から、第二期中期計画における我々の課題において最も重要な目的である糖鎖の重要性と疾患への関与について示すことができた。

4 その他

- (1) O-マンノース型糖鎖構造の発見から合成経路・機能の解明において我々が中心的役割を果たしてきた当研究テーマオリジナルの研究である。O-マンノース型糖鎖は神経・筋における重要性が認知されており、国内外の多くの研究機

関と共同研究を行っている。昨年度は国際グラントの水谷糖質振興財団研究助成金、新学術領域の公募班に採択された。本年度は、AMED-CRESTに採択された。

- (2) プレスリリース2件：筋ジストロフィー症の原因となる糖鎖構造を解明 (2016.10.17)、筋ジストロフィー症発症の新たな仕組みを発見 (2016.8.5)
- (3) マスコミ報道：筋ジス発症の原因糖鎖構造を解明 (科学新聞2016.11.11)
- (4) 2016年2月～10月に発表した4件のプレスリリースの社会的な重要性を認められて、第3回東京都福祉保健事業所長会にて講演 (2016.11.29)
- (5) 特許出願：特願2016-160390・戸田達史、小林千浩、金川基、遠藤玉夫、萬谷博、和田芳直、田尻道子・ジストログリカン糖鎖修飾異常に伴う疾患の治療剤・国立大学法人神戸大学、地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、地方独立行政法人大阪府立病院機構・2016.8.18
- (6) 学会活動や招待講演などにより基礎研究の発展に貢献し、研究機関としての東京都健康長寿医療センターの知名度にも貢献している。日本糖質学会評議員 (萬谷博)、第35回日本糖質学会セッション「癌・疾病I」座長 (萬谷博)、日本薬学会第137年会セッション「糖質①」座長 (萬谷博)、招待講演Glycoscience Japan-Netherlands Joint Seminar 2016 (萬谷博)
- (7) 我々はこれまでにklothoマウスにおける糖鎖修飾やタンパク質分解酵素の変化などの生化学的な変化と自然老化との関連を報告してきた。こうした我々の基礎研究の成果の重要性は広く認められており総説も依頼されている。最新は2016年出版のVitamins & Hormones (Elsevier, IF 2.36)。
- (8) 平成28年度科学技術週間参加行事 (4月8日板橋区立文化会館) にて都民を対象に「知らなかった！細胞のアンテナ『糖鎖』のはなし」を講演した。
- (9) 外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成および研究テーマの推進力増加に努めている。(平成28年度:研究生6名)

老化バイオマーカー

構成メンバー

テーマリーダー：伊藤雅史

研究員：藤田泰典、川上恭司郎

非常勤研究員：菅谷麻希

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- ① 認知症等高齢者疾患の新規診断マーカーの探索 (病理・臨床検体を用いた研究)
- ② 高齢者疾患の新規診断マーカーと治療標的の探索 (細胞・動物を用いた研究)
いずれも概ね順調に進んでいる。

【その根拠】

- ① 認知症等高齢者疾患の新規診断マーカーの探索 (病理・臨床検体を用いた研究)
 1. 認知症における脳エクソソームの解析
昨年度マウス凍結脳からのエクソソーム単離法を確立した。本年度は高齢者ブレインバンクの凍結脳からエクソソームの単離が可能であることを確認し、アルツハイマー病・病理所見のない対照症例から単離した脳エクソソームにおける各種マーカーの発現変化を検討中である。
 2. 認知症脳におけるmiRNAの発現解析
嗜銀顆粒性認知症で発現変化を示したmiRNAについてIn situハイブリダイゼーションを行い、細胞特異的な発現を確認した。
 3. GDF15のバイオマーカーとしての有用性
高齢者コホート (新開省二副所長) で血中GDF15濃度と高齢期の負の健康アウトカムとの相関を詳細に検討し、総死亡との関連を確認した (論文投稿準備中)。
「地域在住高齢者の血中GDF15と負の健康アウトカムとの関連解析」が、第39回日本基礎老化学会若手奨励賞を受賞した。
我々がミトコンドリア病の新規マーカーとして報告したGDF15 (Mitochondrion 20:34-42, 2015, Ann Neurol 78:814-823, 2015) が、最も有用な診断マーカーとして認知され (Nat Reviews Disease Primers 2:16080, 2016)、センター (田中雅嗣臨床検査科部長) と久留米医大 (古賀靖敏教授) で10月20日にプレスリリースを行った。
 4. 膵腫瘍のエクソソーム診断
内視鏡科・病理診断科と連携し、IPMN (膵管内乳頭粘液性腫瘍) および膵がん患者の検体を採取した。今後血中エクソソームの解析を行う。
 5. 内分泌代謝疾患のエクソソーム診断
帝京大学・金地病院で、甲状腺がん・バセドウ病・橋本病患者の検体を採取した。本年度は、バセドウ病について血中エクソソームの解析を行った。
 6. 間質性膀胱炎におけるmiRNAの発現解析
間質性膀胱炎患者の膀胱で発現変化を示したmiRNAについて、組織内での局在をIn situハイ

ブリダイゼーションにより確認した（論文投稿準備中）。

- ② 高齢者疾患の新規診断マーカーと治療標的の探索（細胞・動物を用いた研究）

7. 泌尿器がんのエクソソーム解析

岐阜大学泌尿器科、センター病理診断科・臨床検査科・泌尿器科との共同研究により、前立腺がんの診断マーカーとしてGGT1を同定し、血清中エクソソーム上のGGT酵素活性が、前立腺肥大と比較し前立腺がん有意に増加していることを見出した（論文投稿中）。

腎がんのエクソソームマーカーとなる候補を同定した。

8. 膀胱がんの治療標的の同定

ゲムシタビン耐性膀胱がん細胞でアンドロゲン受容体（AR）の発現が増加しており、第二世代の抗アンドロゲン剤であるエンザルタミドの投与により耐性株の細胞増殖を抑制できることを報告した（Int J Oncol, IF: 3.018）。

9. 加齢に伴う膀胱機能障害

センター動物実験施設の老齢・カロリー制限ラットを用いて、カロリー制限が加齢に伴う膀胱機能障害を軽減することを報告した（J Urol, IF: 4.700）。

【新しい知見】

3. GDF15のバイオマーカーとしての有用性

GDF15が、ミトコンドリア病の最も有用な診断マーカーとして認知された。また、GDF15は日本人高齢者で死亡を予測するマーカーとなりうることを見出した。

7. 泌尿器がんのエクソソーム解析

前立腺がんのマーカーとして広く用いられている血清PSA（前立腺特異的抗原）レベルの測定では困難な前立腺肥大と前立腺がんの鑑別診断が、血清中エクソソーム上のGGTの酵素活性測定により可能であることを見出した。また、血清中エクソソーム上の酵素活性測定による診断の報告はこれまでになく、エクソソーム診断における新たな方法論を提示したと言える。

8. 泌尿器がんの治療標的の同定

進行膀胱がん患者にはゲムシタビン・シスプラチンの併用療法（GC療法）が選択されるが、耐性を示した患者に対する治療法は存在しない。今回我々はゲムシタビン耐性株でARの発現が増加し、エンザルタミドが細胞増殖を抑制することを報告したが、最近になり、シスプラチン耐性株でARの発現が増加すること、ARの発現が増加している膀胱がん細胞の増殖がエンザルタミドで抑制されることが報告されたことから、今後、エンザルタミドはGC療法耐性進行膀胱が

ん患者に対する標準的治療法になることが期待される。

9. 加齢に伴う膀胱機能障害

カロリー制限による加齢性膀胱機能障害の軽減およびその分子メカニズムを明らかにした。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜脳エクソソームの解析＞

分子機構、高齢者ブレインバンク・神経病理学、記憶神経科学、電子顕微鏡室、動物実験施設

＜認知症脳におけるmiRNAの発現解析＞

高齢者ブレインバンク・神経病理学、豊橋技術科学大学、日本医大解剖

＜GDF15のバイオマーカーとしての有用性＞

社会参加と地域保健、臨床検査科、豊橋技術科学大学、久留米大学小児科

＜膀胱がんのエクソソーム診断＞

内視鏡科、病理診断科

＜内分泌代謝疾患のエクソソーム診断＞

帝京大学内科、金地病院

＜間質性膀胱炎におけるmiRNAの発現解析＞

泌尿器科、東京大学泌尿器科、豊橋技術科学大学

＜泌尿器がんのエクソソーム解析＞

プロテオーム、電子顕微鏡室、泌尿器科、臨床検査科、病理診断科、岐阜大学泌尿器科

＜膀胱がんの治療標的の同定＞

岐阜大学泌尿器科、豊橋技術科学大学

＜加齢に伴う膀胱機能障害＞

東京大学コンチネンス医学、豊橋技術科学大学

＜エクソソーム診断＞

岐阜大学泌尿器科、企業2社

3 今後の展望

1. 認知症における脳エクソソームの解析

マウス凍結脳からのエクソソーム単離法の確立に引き続き、ヒト凍結脳からの単離に成功したことから、高齢者ブレインバンクのアルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症・嗜銀顆粒性認知症症例の凍結脳を用いた解析により、認知症における脳エクソソームの役割の解明と診断マーカーとしての可能性について研究を進められる段階に進んだ。

3. GDF15のバイオマーカーとしての有用性

本中期計画の中でモデル細胞を用いた研究により、ミトコンドリア病の新規マーカーとして同定したGDF15は、ヒト検体を用いた臨床研究で有用性が確認され、本年度のプレスリリースによりミトコンドリア病の最も有用な診断マ

カーとして広く認知された。ミトコンドリア病の診断薬としての実用化に向けた企業と連携した取り組みも順調に進んでいる。一方、高齢者コホートの解析によりGDF15の総死亡との関連を確認した。

7. 泌尿器がんのエクソソーム解析

本年度に同定したGGT1以外に、前立腺がん関連のエクソソームマーカーとして、26・27年度にPSMA(前立腺特異的マーカー)・P-gp(抗がん剤耐性マーカー)・ITGB4(悪性化マーカー)を報告している。これらのエクソソームマーカーについて、企業と連携して、診断システムの構築を目指した取り組みを行っている。

8. 泌尿器がんの治療標的の同定

昨年度、去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)の標準的治療法であるタキサン系抗がん剤に耐性を示した前立腺がん細胞でmiR-130aの発現が低下しており、miR-130aの導入により細胞死を誘導できることから、miR-130aが治療標的となることを報告した。本年度は、ゲムシタビン耐性膀胱がん細胞でARの発現が増加しており、前立腺がんの治療に用いられているエンザルタミドが、耐性株の増殖を抑制することを報告し、エンザルタミドがGC療法耐性進行膀胱がん患者に対する標準的治療法になりうる可能性を示した。

4 その他

テーマではmiRNA・エクソソーム・分泌タンパクに焦点を合わせて、老化・老化関連疾患のバイオマーカー・治療標的の探索および分子機構の解明を目指した研究を行ってきたが、現在、エクソソームに注力して研究を進めている。センター内視鏡科・病理診断科・臨床検査科・泌尿器科および岐阜大学泌尿器科・帝京大学内分泌内科と共同研究を行い、検体の収集と解析を行っている。エクソソーム研究で、大学院生2名、センターの医師1名および他大学の医師2名を受け入れ、指導を行っている。エクソソーム診断の実用化に向けた企業との共同研究も進めている。

プロテオーム

構成メンバー

テーマリーダー：三浦ゆり

研究員：津元裕樹、岩本真知子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- 動脈老化に関するプロテオーム解析
概ね順調に進行しており、現在投稿準備中である。
- 糖尿病に関するプロテオーム解析
O-GlcNAcグライコプロテオミクス解析を行う前段階として、糖尿病モデルラット腎組織のプロテオミクス解析を行った。また、実サンプル(ラット腎組織)を用いたO-GlcNAcグライコプロテオミクス解析の条件検討を行っている。
- 健康長寿に関するプロテオーム解析
 1. 昨年新たに開発したシアル酸糖鎖の誘導体化による検出法を、超百寿者血漿サンプルに応用した。
 2. 昨年度より行っていた長期縦断研究(SONIC)サンプルを用いた初期の認知機能低下に関するプロテオーム解析で、バイオマーカー候補となるスポットを絞り、詳細な検討を行った。

【その根拠】

- 動脈老化に関するプロテオーム解析
本年度はプロテオーム解析により得られた結果について、ヒト正常血管平滑筋細胞(Human Aortic Smooth Muscle Cells)を用いてノックダウン実験を行い、動脈老化のメカニズムについて生化学的検証を行った。
- 糖尿病に関するプロテオーム解析
糖尿病モデルであるGKラット(Goto-Kakizakiラット)及びWistarラットの腎組織における2D-DIGE法によるプロテオーム解析を行った。
- 健康長寿に関するプロテオーム解析
 1. 昨年度開発したシアル酸の結合様式を区別して検出できる誘導体化法を臨床サンプルに応用し、超百寿者血漿タンパク質におけるシアル酸糖鎖の結合様式の特徴について明らかにした。
 2. 昨年度報告した長期縦断調査(SONIC)による初期の認知機能低下の診断マーカー候補タンパク質について、対照群との比較を行って絞り込み、さらに翻訳後修飾を含めた詳細を検討した。

【新しい知見】

- 動脈老化に関するプロテオーム解析
プロテオーム解析により、老齢の大動脈中膜では α アクチンが低下するのに対し、ミオシンやトランスゲリンなどのアクチン関連タンパク質の発現は増加することが明らかになった。そこで、本年度は α アクチンの低下とアクチン関連タンパク質の増加との関係を明らかにするため、ヒト正常血管平滑筋細胞を用いて α アクチ

ンに対するsiRNA処理を行った。その結果、 α アクチンの低下に伴ってアクチン関連タンパク質の発現が増加する可能性のあることが示唆された。老化動脈においては、平滑筋細胞の数が減少するだけでなく、アクチンとアクチン関連タンパク質のバランスが崩れるなど、質的な変化も生じる可能性を見いだした。(投稿準備中)

○糖尿病に関するプロテオーム解析

糖尿病モデルであるGKラットと遺伝的背景が同じ正常Wistarラットの腎組織のプロテオームを比較したところ、ミトコンドリアにおける代謝酵素、特にTCA回路関連酵素が多く変動していることが明らかになった。そこでGKラットでは糖尿病腎症の線維化との関連が指摘されているフマル酸が蓄積しているのではと考え、腎組織のフマル酸量を調べたところ、GKラットにおいて有意にフマル酸の増加が認められた。また、フマル酸の蓄積が認められる15週齢では腎組織の線維化は認められず、33週齢で線維化が認められることから、フマル酸の蓄積は腎組織の線維化に先立って生じることが示唆された。以上より、GKラット腎組織では、ミトコンドリアのTCA回路関連酵素の発現が変動してフマル酸が蓄積し、これが腎組織の線維化を引き起こすことを明らかにした。

学会発表:3,4,9,16,17,18

○健康長寿に関するプロテオーム解析

1. 昨年度、糖鎖を化学誘導体化することにより、シアル酸の α 2,3-結合と α 2,6-結合を区別してMALDI-TOF/MSで検出する方法を開発した。今年度はこの方法を超百寿者血漿タンパク質の糖鎖解析に応用し、シアル酸含有糖鎖について老齢対照群と比較した。血漿糖鎖を化学誘導体化後、MALDI-TOF/MSで検出、同定し、多変量解析を行った。その結果、超百寿者で高分岐高シアル酸糖鎖が増加するというこれまでの結果を検証でき、さらに超百寿者において α 2,3結合に比べて α 2,6結合の割合が増加する糖鎖を見出した。

学会発表:1,6,7,8,13,14 誌上发表:4,5,6 広報活動(マスコミ取材):1件

2. 昨年度長期縦断調査であるSONIC (Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians ; 70歳・80歳・90歳・100歳研究)との共同研究で、初期の認知機能低下に関するプロテオーム解析を行った。今年度は、初回調査と継続調査ともに認知機能が正常な人と低い人の比較解析や、認知機能が正常な人の初回調査と継続調査の比較解析をするなど対照実験を行い、候補と

なるタンパク質スポットを絞り込んだ。来年度以降、初期の認知機能低下のバイオマーカー開発につなげたい。

学会発表:12

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<動脈老化に関するプロテオーム解析>

東京医科歯科大学、センター病理診断科

<糖尿病に関するプロテオーム解析>

センター糖尿病・代謝・内分泌内科、杏林大学

<健康長寿に関するプロテオーム解析>

老年病態チーム・血管医学、自立促進と介護予防チーム・認知症・うつ予防と介入の促進、福祉と生活ケアチーム・在宅療養支援方法の開発、慶応大学、国立医薬品食品衛生研究所、島津製作所、大阪大学

<認知症における糖鎖の解析>

老化機構研究チーム・分子機構

<パーキンソン病発症における一酸化窒素によるタンパク質修飾の役割>

奈良県立医大

<掌蹠膿疱症水疱内抗菌ペプチドの解析>

愛媛大学

<ES細胞から神経幹細胞への分化基盤研究>

千葉大学

<神経突起変性関連タンパク質の同定>

芝浦工業大学

<脱メチル化、脱アセチル化酵素阻害剤の創成>
京都府立医科大学

<プロテオーム解析データベースの開発に関する研究>

横浜市立大学

<モデルマウスを用いた老化機構の解明>

老化機構研究チーム・分子機構

<前立腺がんエクソソームのプロテオーム解析>
老化機構研究チーム・老化バイオマーカー

<カロリー制限ラットにおけるミトコンドリアバイオジェネシスに関する研究>

東京理科大学

<プロテオーム情報を基盤とした放射線感受性メカニズム解析>

東京大学

<前立腺がん細胞におけるクルクミン添加効果のプロテオーム解析>

帝京大学

3 今後の展望

計画全体の進行に支障が生じないように、年度計画の入れ替えなど研究内容や方法については適時

検証しつつ行なっている。また、テーマをさらに発展させる新たなプロジェクトや、外部評価委員の指摘に対応する新たな計画も進行させており、修正しながら目的を実現するための妥当な進行であると考える。

4 その他

- 「プロテオーム」がテーマとして主体的に進めるそれぞれの研究は、1.オリジナリティの高い分析手法の開発と応用 2.容易に入手できない貴重なサンプルの解析 3.社会貢献を見据えた出口戦略 を軸に進めている。

動脈老化に関するプロテオーム解析

ヒト大動脈中膜組織サンプルを用いてプロテオーム解析を行い、動脈老化の一つである動脈中膜変性症において変動するタンパク質について明らかにする。ヒト大動脈中膜組織を用いることで、動脈老化の機序解明、大動脈解離症の病因の解明、予防、診断、治療法の開発に繋がる。

糖尿病に関するプロテオーム解析

糖尿病患者サンプル及び糖尿病モデルラットを用いて、タンパク質のO-GlcNAc化に的を絞ったO-GlcNAc化プロテオーム解析を行い、糖尿病合併症マーカーを探索する。新たな分析手法の開発に取り組み、汎用性の高い特異的なO-GlcNAc化ペプチド濃縮法を武器に新たな機能プロテオミクス的手法を開発する。

健康長寿に関するプロテオーム解析

超百寿者や長期縦断研究SONICのサンプルを用いて、健康長寿に関与する因子の解明や初期の認知機能低下に関するバイオマーカーの探索を行う。新たな分析手法を開発しバイオマーカー探索への応用を図るほか、縦断調査の強みを活かし、遺伝的背景や生活習慣など個人差によるばらつきを抑えた効率の良いプロテオーム解析を行う。本研究の成果は、MCIの診断マーカー候補の発見や初期認知機能低下の病態解明に貢献する。

- 「プロテオーム」は、タンパク質の網羅的解析に関する分析技術の他にも、翻訳後修飾などのタンパク質に関する様々な分析を行う装置と技術を有しており、これらを研究所内外の共同研究に供している。
- 外部研究生を積極的に受け入れ、若手研究者の育成と研究テーマの推進力増加に努めている。
(平成28年度: 連携大学院生 1名、研究生 3名)

論文・学会発表

分子機構

1 学会発表

(1) 海外

1. Manya, H.: Tandem Ribitol-phosphate structure is required for O-mannosyl glycan biosynthesis and its defect in muscular dystrophy, Glycoscience Japan - The Netherlands Joint Seminar 2016 Glycobiology in Health and Disease, Leiden University Medical Center, Leiden, Netherlands, 2016.4.19-22
2. N Kuwabara, H Manya, T Yamada, H Tateno, Y Hirose, M Mizuno, M Ikeguchi, J Hirabayashi, T Senda, T Endo and R Kato.: A novel carbohydrate binding domain of the POMGnT1 stem region modulates O-mannosylation sites of α -dystroglycan. 10th International GLYCO T 2016 Conference. June 19-21, 2016, Toronto, Canada.

(2) 国内

1. 萬谷博: 知らなかった！細胞のアンテナ『糖鎖』のほなし. 科学技術週間参加行事, 東京都健康長寿医療センター研究所, 東京板橋区(板橋区立文化会館), 2016.4.28
2. 田尻道子, 金川基, 小林千浩, 萬谷博, 久我敦, 山口芳樹, 赤阪-萬谷啓子, 古川潤一, 水野真盛, 川上宏子, 篠原康郎, 遠藤玉夫, 戸田達史, 和田芳直: 質量分析が明らかにしたりビトールリン酸を含む α -ジストログリカンの糖鎖構造. 第64回質量分析総合討論会, 大阪府吹田市(ホテル阪急エキスポパーク), 2016.5.18-20
3. 久我敦, 金川基, 小林千浩, 田尻道子, 萬谷博, 山口芳樹, 赤阪-萬谷啓子, 古川潤一, 水野真盛, 川上宏子, 篠原康郎, 和田芳直, 遠藤玉夫, 戸田達史: リビトールリン酸による糖鎖修飾の発見と筋ジストロフィーにおける欠損. 第57回日本神経学会学術大会, 兵庫県神戸市(神戸コンベンションセンター), 2016.5.18-21
4. 金川基, 小林千浩, 田尻道子, 萬谷博, 久我敦, 山口芳樹, 和田芳直, 遠藤玉夫, 戸田達史: 新規糖鎖ユニット“リビトールリン酸”の同定と筋ジストロフィーへの関与. 第63回日本生化学会近畿支部例会, 兵庫県神戸市(神戸薬科大学) 2016.5.21
5. 赤阪-萬谷啓子, 川村方希, 萬谷博, 遠藤玉夫: O型糖鎖修飾によるAPP代謝への影響. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈川県伊勢原市(伊勢原市民文化会館), 2016.5.27-28
6. 山田健之, Mingchu Xu, 萬谷博, Rui Chen, 遠藤玉夫: *POMGNT1*の変異が網膜色素変性症を引き起こす. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈川県伊勢原市(伊勢原市民文化会館), 2016.5.27-28
7. 桑原直之, 萬谷博, 山田健之, 館野浩章, 弘瀬友理子, 水野真盛, 池口満徳, 平林淳, 千田俊哉, 遠藤玉夫, 加藤龍一: 糖転移酵素 POMGnT1 のステムドメインは糖鎖を認識し、O-Man 型修飾部位の制御を行う. 第16回日本蛋白質科学会年会, 福岡県福岡市(福岡国際会議場), 2016.6.7-9
8. 萬谷博, 山田健之, 遠藤玉夫: α -ジストログリカノパチー原因遺伝子*POMGNT1*の変異による網膜色素変性症. 第2回日本筋学会, 東京都小平市(国立精神・神経医療研究センター), 2016.8.5-6
9. 小林千浩, 金川基, 田尻道子, 萬谷博, 久我敦, 山口芳樹, 赤阪-萬谷啓子, 古川潤一, 水野真盛, 川上宏子,

- 篠原康郎、和田芳直、遠藤玉夫、戸田達史： α ジストログリカン糖鎖のリビトールリン酸タンデム構造とその生合成経路。第2回日本筋学会，東京都小平市（国立精神・神経医療研究センター），2016.8.5-6
10. 萬谷博、金川基、小林千浩、田尻道子、久我敦、山口芳樹、赤阪-萬谷啓子、古川潤一、水野真盛、川上宏子、篠原康郎、和田芳直、戸田達史、遠藤玉夫：リビトールリン酸を含むO-マンノース型糖鎖の新奇構造と生合成機構。第34回日本糖質学会年会，高知県高知市（高知市文化プラザ かるぼーと），2016.9.1-3
 11. 北爪しのぶ、立田由里子、木塚康彦、今牧理恵、加藤雅樹、山口芳樹、田中典克、中の三弥子、斎藤貴志、西道隆臣、萬谷博、遠藤玉夫、橋本康弘、谷口直之：アミロイド産生と脳アミロイドアンギオパチーを規定する血管内皮細胞のO-GalNAc型糖鎖。第34回日本糖質学会年会，高知県高知市（高知市文化プラザ かるぼーと），2016.9.1-3
 12. 桑原直之、萬谷博、山田健之、館野浩章、金川基、小林千浩、赤阪-萬谷啓子、弘瀬友理子、水野真盛、池口満徳、戸田達史、平林淳、千田俊哉、遠藤玉夫、加藤龍一：糖転移酵素POMGnT1の糖鎖認識機構解析。第34回日本糖質学会年会，高知県高知市（高知市文化プラザ かるぼーと），2016.9.1-3
 13. 萬谷博、金川基、小林千浩、田尻道子、久我敦、山口芳樹、赤阪-萬谷啓子、古川潤一、水野真盛、川上宏子、篠原康郎、和田芳直、戸田達史、遠藤玉夫：O-マンノース型糖鎖上に形成されるリビトールリン酸のタンデム構造とその生合成機構。第89回日本生化学会大会，宮城県仙台市（仙台国際センター），2016.9.25-27
 14. 赤阪-萬谷啓子、川村方希、津元裕樹、萬谷博、遠藤玉夫：APP代謝におけるppGalNAcT-6の影響。第89回日本生化学会大会，宮城県仙台市（仙台国際センター），2016.9.25-27
 15. 生形亮介、赤阪-萬谷啓子、萬谷博、遠藤玉夫：加齢に伴う尿中糖タンパク質の発現変化。首都大バイオコンファレンス2016，東京都八王子市（首都大学東京），2016.11.18
 16. 萬谷博、赤阪-萬谷啓子、遠藤玉夫：O-マンノース型糖鎖の生合成と先天性筋ジストロフィー症。首都大バイオコンファレンス2016，東京都八王子市（首都大学東京），2016.11.18
 17. 萬谷博：福山型先天性筋ジストロフィー症の原因を解明。第3回福祉保健事業所長会，東京都福祉保健局，東京都新宿区（小田急第一生命ビル），2016.11.29
 18. 赤阪-萬谷啓子、川村方希、津元裕樹、萬谷博、遠藤玉夫：A β 産生におけるO型糖鎖修飾の影響。第39回日本分子生物学会年会，神奈川県横浜市（パシフィコ横浜），2016.11.30-12.2
 19. 小林千浩、金川基、田尻道子、萬谷博、久我敦、山口芳樹、萬谷-赤阪啓子、古川潤一、水野真盛、川上宏子、篠原康郎、和田芳直、遠藤玉夫、戸田達史： α ジストログリカン糖鎖のリビトールリン酸タンデム構造とその生合成機構。第39回日本分子生物学会年会，神奈川県横浜市（パシフィコ横浜），2016.11.30-12.2
 20. 桑原直之、萬谷博、山田健之、館野浩章、金川基、小林千浩、萬谷-赤阪啓子、弘瀬友理子、水野真盛、池口満徳、戸田達史、平林淳、千田俊哉、遠藤玉夫、加藤龍一：糖転移酵素POMGnT1の機能同定と糖鎖認識機構解析。第39回日本分子生物学会年会，神奈川県横浜市（パシフィコ横浜），2016.11.30-12.2
 21. 金川基、小林千浩、田尻道子、萬谷博、久我敦、山口芳樹、和田芳直、遠藤玉夫、戸田達史：新型の翻訳後修飾体「リビトールリン酸」の同定～修飾機序と筋ジストロフィー病態への関与～。第39回日本分子生物学会年会，神奈川県横浜市（パシフィコ横浜），2016.11.30-12.2
 22. 金川基、萬谷博：神経・筋機能に関わる新しい翻訳後修飾体「リビトールリン酸」の発見。新学術「神経糖鎖生物学」最終班会議。愛知県名古屋市（JPタワー名古屋），2017.3.3-4
 23. 萬谷博：TMEM5によるジストログリカンの機能糖鎖修飾。新学術「神経糖鎖生物学」最終班会議。愛知県名古屋市（JPタワー名古屋），2017.3.3-4
 24. 萬谷博、山口芳樹、金川基、小林千浩、田尻道子、赤阪-萬谷啓子、川上宏子、水野真盛、和田芳直、戸田達史、遠藤玉夫：筋ジストロフィー症原因遺伝子TMEM5はジストログリカンの機能糖鎖修飾に必要な β 1,4-xylosyltransferaseをコードする。日本薬学会第137年会。宮城県仙台市（仙台国際センター），2017.3.24-27
 25. 赤阪-萬谷啓子、萬谷博、遠藤玉夫：APP代謝におけるO型糖鎖修飾の影響。日本薬学会第137年会。宮城県仙台市（仙台国際センター），2017.3.24-27

2 誌上発表

(1) 原著

1. Xu, M., Yamada, T., Sun, Z., Eblimit, A., Lopez, I., Wang, F., Manya, H., Xu, S., Zhao, L., Li, Y., Kimchi, A., Sharon, D., Sui, R., Endo, T., Koenekoop, R. K., Chen, R.: Mutations in POMGNT1 cause non-syndromic retinitis pigmentosa. Hum. Mol. Genet. 25(8), 1479-1488, 2016 (査読あり)(IF: 5.985)
2. Kuwabara, N., Manya, H., Yamada, T., Tateno, H., Kanagawa, M., Kobayashi, K., Akasaka-Manya, K., Hirose, Y., Mizuno, M., Ikeguchi, M., Toda, T., Hirabayashi, J., Senda, T., Endo, T., Kato, R.: Carbohydrate-binding domain of the POMGnT1 stem region modulates O-mannosylation sites of alpha-dystroglycan. Proc. Natl. Acad. Sci. USA 113(33), 9280-9285, 2016 (査読あり)(IF: 9.423)
3. Yang, H., Manya, H., Kobayashi, K., Jiao, H., Fu, X., Xiao, J., Li, X., Wang, J., Jiang, Y., Toda, T., Endo, T., Wu, X., Xiong, H.: Analysis of phenotype, enzyme activity and genotype of Chinese patients with POMT1 mutation. J. Hum. Genet. 61(8), 753-759, 2016 (査読あり)(IF: 2.487)(©共同筆頭著者の旨記載)
4. Manya, H., Yamaguchi, Y., Kanagawa, M., Kobayashi, K., Tajiri, M., Akasaka-Manya, K., Kawakami, H., Mizuno, M., Wada, Y., Toda, T., Endo, T.: The muscular dystrophy gene TMEM5 encodes a ribitol-1,4-xylosyltransferase required for the functional glycosylation of dystroglycan. J. Biol. Chem., 291(47), 24618-24627, 2016 (査読あり)(IF: 4.258)
5. Akasaka-Manya, K., Kawamura, M., Tsumoto, H., Saitoh, Y., Tachida, Y., Kitazume, S., Hatsuta, H., Miura, M., Hisanaga, S., Murayama, S., Hashimoto, Y., Manya, H., Endo, T.: Excess APP O-glycosylation by GalNAc-T6 decreases A β production. J. Biochem., 161(1), 99-111, 2017 (査読あり)(IF: 2.397)
6. Nagae, M., Mishra, S.K., Neyazaki, M., Oi, R., Ikeda, A.,

Matsugaki, N., Akashi, S., Manya, H., Mizuno, M., Yagi, H., Kato, K., Senda, T., Endo, T., Nogi, T., and Yamaguchi, Y., 3D structural analysis of Protein O-Mannosyl Kinase POMK, a causative gene product of dystroglycanopathy. *Genes to Cells*, in press. (査読あり) (IF 2.481)

(2) 総説

1. ©Akasaka-Manyu, K., Manya, H., Endo, T.: Function and Change with Aging of α -Klotho in the Kidney. *Vitam. Horm.* 101, 239-256, 2016 (査読あり) (IF: 2.36)

3 著書等

1. 萬谷博: 研究トピックス「先天性筋ジストロフィー症と網膜色素変性症の原因遺伝子の発見」. 研究所NEWS, 東京都健康長寿医療センター, 275, 4, 2016.7

老化バイオマーカー

1 学会発表

(1) 海外

1. Kamei J, Ito H, Aizawa N, Akiyama Y, Hotta H, Kojima T, Fujita Y, Ito M, Andersson KE, Homma Y, Igawa, Y. Aging-related functional and genomic changes in mice bladder. American Urological Association's 2016 Annual Meeting, San Diego, USA, 2016.5.6-10.
2. Fujita Y, Yatsuga S, Koga Y, Tanaka M, Ito M. Identification of GDF15 as a diagnostic marker for mitochondrial diseases. The 4th Korea-Japan Joint Symposium for Young Scientists on Aging and Neuroscience, Tokyo, Japan, 2016.5.9.
3. Kawakami K, Fujita Y, Kato T, Mizutani K, Kameyama K, Deguchi T, Ito M. Exosomes as novel biomarkers for cancer The 4th Korea-Japan Joint Symposium for Young Scientists on Aging and Neuroscience, Tokyo, Japan, 2016.5.9.
4. Ito M, Kawakami K, Fujita Y, Matsuda Y, Arai T, Horie K, Kameyama K, Kato T, Masunaga K, Kasuya Y, Tanaka M, Deguchi T, Mizutani K. Exosomal gamma-glutamyltransferase activity as a marker for prostate cancer 2016 ASEM annual meeting, Monterey, USA, 2016.10.20-24.
5. Shinkai S, Taniguchi Y, Seino S, Kitamura A, Fujita Y (presenting author), Tanaka M, Ito M. Serum Concentrations of GDF15 Predict Mortality in a General Population of Older Japanese. 2016 GSA Annual Scientific Meeting, New Orleans, USA. 2016.11.16-20.
6. Ito M. Molecular mechanisms underlying beneficial effects of hydrogen. 2016 Korea International Symposium on Hydrogen 11th annual meeting, Soul, Korea. 2016.11.25.

(2) 国内

1. 藤田泰典、八ツ賀秀一、小島俊男、古賀靖敏、田中雅嗣、伊藤雅史: ミトコンドリア病の診断に有用な血中GDF15の同定 第5回TOBIRA研究交流フォーラム、東京、2016.5.23.
2. 藤田泰典、谷口優、新開省二、田中雅嗣、伊藤雅史: 地域在住高齢者の血中GDF15と負の健康アウトカムとの関連解析 第39回日本基礎老化学会大会、伊勢原、2016.5.27-28.
3. 伊藤雅史: 水素ガスによる健康増進、疾病予防の分子

機構と将来的課題 (シンポジウム): 分子状水素の作用機構 第16回日本抗加齢医学会総会、横浜、2016.6.11.

4. 亀山紘司、加藤卓、川上恭司郎、藤田泰典、水谷晃輔、出口隆、伊藤雅史: 塩酸ゲムシタピレン耐性膀胱癌細胞株におけるアンドロゲン受容体の役割 第12回岐阜泌尿器科共同研究会、岐阜、2016.7.9
5. 川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、水谷晃輔、亀山紘司、加藤卓、粕谷豊、榊永浩一、松田陽子、出口隆、伊藤雅史: エクソソーム上の γ -グルタミルトランスフェラーゼ活性は前立腺がんのマーカーとなる 第8回日本RNAi研究会・第3回日本細胞外小胞学会、広島、2016.8.31-9.2.
6. 藤田泰典: ミトコンドリアを科学する: ミトコンドリア病と老化に関するトランスレーショナルリサーチ ART FORUM '16, 軽井沢、2016.9.15.
7. 川上恭司郎、藤田泰典、松田陽子、新井富生、堀江憲吾、亀山紘司、加藤卓、榊永浩一、粕谷豊、田中雅嗣、水谷晃輔、出口隆、伊藤雅史: エクソソーム上 γ -グルタミルトランスフェラーゼ活性の前立腺がんと前立腺肥大の鑑別における有用性. 第39回日本分子生物学会年会、横浜、2016.11.30-12.2.
8. 水谷晃輔、川上恭司郎、藤田泰典、堀江憲吾、亀山紘司、伊藤雅史、出口隆: 腎癌細胞株由来exosomeの定量的プロテオーム解析 第1回Liquid biopsy研究会、東京、2017.01.21.

2 誌上发表

(1) 原著

1. Ito H, Kamei J, Aizawa N, Fujita Y, Suzuki M, Fukuhara H, Fujimura T, Kojima T, Homma Y, Kubota Y, Ito M, Andersson KE, Igawa Y. Preventive effects of long-term caloric restriction on aging-related in vivo bladder dysfunctions and molecular biological changes in the bladder and dorsal root ganglia in rats. *J Urol* 196:1575-1583, 2016. (査読あり) (IF : 4.700、2015)
2. Kameyama K, Horie K, Mizutani K, Kato T, Fujita Y, Kawakami K, Kojima T, Miyazaki T, Deguchi T, Ito M. Enzalutamide inhibits proliferation of gemcitabine-resistant bladder cancer cells with increased androgen receptor expression. *Int J Oncol* 50:75-84, 2017. (査読あり) (IF : 3.018、2015)

(2) 総説

1. ©★藤田泰典: ミトコンドリア病診断マーカーGDF15の同定と老年医学への応用 *基礎老化研究* 40:41-43, 2016. (査読あり)

プロテオーム

1 学会発表

(1) 海外

1. Nishikaze, T., Tsumoto, H., Yamazaki, Y., Iwamoto, S., Miura, Y., Tanaka, K.: Stialyl linkage-specific glycan profiling using solid-phase SALSA: A simple and versatile derivatization approach, The 64th ASMS Conference on Mass Spectrometry, San Antonio, TX, USA, 2016.6.5-9
2. Okihiro, S., Ofuchi, Y., Tsumoto, H., Miura, Y., Fukui, K.: Determination of neurite isolation method and identification of neurite specific proteins in hydrogen peroxide-treated N1E-115 cells, Neuroscience 2016, San Diego, CA, USA, 2016.11.12-16

(2) 国内

1. 三浦ゆり：糖鎖変化から見た健康長寿、慶応大学百寿総合研究センター グループセミナー、東京、2016.11.21
2. Miura, Y., Hashii, N., Tsumoto, H., Takakura, D., Ohta, Y., Abe, Y., Arai, Y., Kawasaki, N., Hirose, N., Endo, T.: N-glycomics of plasma proteins in Japanese semi-supercentenarians. 理研シンポジウム、東京、2016.11.17
3. 赤阪-萬谷啓子、川村方希、津元裕樹、萬谷博、遠藤玉夫：APP代謝におけるppGalNAcT-6の影響、第89回日本生化学会大会、仙台、2016.9.25-27
4. 津元裕樹、西風隆司、橋井則貴、三浦ゆり、阿部由紀子、新井康通、岩本慎一、広瀬信義、田中耕一、遠藤玉夫：超百寿者血漿糖タンパク質のシアル酸結合様式の解析、第35回日本糖質学会年会、高知、2016.9.1-3
5. 早川敦子、三浦ゆり、秋元義弘、津元裕樹、岩本真知子、福井浩二、遠藤玉夫：2D-DIGE法を用いた糖尿病モデルラット腎組織のプロテオーム解析、第67回日本電気泳動学会総会、釧路、2016.8.26-27
6. 三浦ゆり、津元裕樹、小澤健太郎：DJ-1欠損マウス脳のプロテオミクス解析、日本プロテオーム学会2016年大会、東京、2016.7.28-29
7. 赤間邦子、狩野祥寛、戸塚啓太、柴崎 玄、富岡鉄太郎、大津昌弘、中山 孝、三浦ゆり、岩本真知子、津元裕樹、佐藤 守、荷堂清香、鈴木 豊、近藤 靖、井上順雄：ES細胞から初期及び後期神経幹細胞への分化における膜プロテオーム解析、日本プロテオーム学会2016年大会、東京、2016.7.28-29
8. 三浦ゆり、岩本真知子、稲垣宏樹、増井幸恵、石岡良子、津元裕樹、龍野洋慶、杉本 研、阿部由紀子、新井康通、神出 計、池邊一典、石崎達郎、権藤恭之、高橋龍太郎、遠藤玉夫：初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析 -縦断研究からのアプローチ-、第39回日本基礎老化学会大会、神奈川、2016.5.27-28
9. 津元裕樹、西風隆司、岩本慎一、田中耕一、三浦ゆり、遠藤玉夫：シアル酸結合様式を区別した血漿N結合型糖鎖解析法の開発、TOBIRA 第5回研究交流フォーラム、東京、2016.5.23
10. 津元裕樹、西風隆司、三浦ゆり、阿部由紀子、新井康通、岩本慎一、広瀬信義、田中耕一、遠藤玉夫：超百寿者血漿のN結合型糖鎖におけるシアル酸結合様式の解析、第64回質量分析総合討論会、大阪、2016.5.18-20
11. 田中聡、太田悠葵、村瀬雅樹、津元裕樹、草野麻衣子、吉沢明康、三浦ゆり、川崎ナナ、五斗進：オープンソース版Mass++：ピーク検出機能の拡充、第64回質量分析総合討論会、大阪、2016.5.18-20
12. 秋元義弘、早川敦子、三浦ゆり、津元裕樹、岩本真知子、福井浩二、遠藤玉夫、川上速人：糖尿病モデルラット腎組織のプロテオームと免疫組織化学的解析、第122回日本解剖学会総会・学術集会、長崎、2017.3.28-30
13. 三浦ゆり、早川敦子、秋元義弘、津元裕樹、岩本真知子、福井浩二、遠藤玉夫：糖尿病モデルラット (Goto-Kakizakiラット) 腎組織のプロテオーム解析、日本薬学会第137年会、仙台、2017.3.24-27
14. 津元裕樹、秋元義弘、遠藤玉夫、三浦ゆり：効率的なO-GlcNAc化ペプチド濃縮のための担体の比較、日本薬学会第137年会、仙台、2017.3.24-27
15. Mellini, P., 伊藤幸裕、津元裕樹、李穎、鈴木美紀、徳田奈津子、柿澤多恵子、三浦ゆり、竹内淳、Lahtela-Kakkonen, M., 鈴木孝禎：Potent Mechanism-Based Sirtuin 2-Selective Inhibition by an in Situ Generated Occupant of Selectivity Pocket, Substrate-Binding Site,

and NAD⁺-Binding Pocket. 日本薬学会第137年会、仙台、2017.3.24-27

2 誌上発表

(1) 原著

1. Itoh, Y., Aihara, K., Mellini, P., Tojo, T., Ota, Y., Tsumoto, H., Solomon, V.R., Zhan, P., Suzuki, M., Ogasawara, D., Shigenaga, A., Inokuma, T., Nakagawa, H., Miyata, N., Mizukami, T., Otaka, A., Suzuki, T.: Identification of SNAI1 peptide-based irreversible lysine-specific demethylase 1-selective inactivators. *J. Med. Chem.*, 59,1531-1544,(2016) (査読あり)(IF: 5.589, 2015)
2. Akasaka-Manyu, K., Kawamura, M., Tsumoto, H., Saitoh, Y., Kitazume, S., Hatsuda, H., Miura, Y., Hisanaga, S., Murayama, S., Hashimoto, Y., Manyu, H., Endo, T.: Excess APP O-glycosylation by GalNAc-T6 decreases A β production. *J. Biochem.*, 161, 99-111, (2017) (査読あり)(IF: 2.397, 2015)
3. Murakami, M., Kameda, K., Tsumoto, H., Tsuda, T., Masuda, K., Utsunomiya, R., Mori, H., Miura, Y., Sayama, K.: TLN-58, newly discovered hCAP18 processing form, found in the lesion vesicle of palmoplantar pustulosis in the skin. *J. Invest. Dermatol.*, 137, 322-331, (2017) (査読あり)(IF: 6.915, 2015)
4. Nishikaze, T., Tsumoto, H., Sekiya, S., Iwamoto, S., Miura, Y., Tanaka, K.: Differentiation of sialyl linkage isomers by one-pot sialic acid derivatization for mass spectrometry-based glycan profiling. *Anal. Chem.*, 89, 2353-2360, (2017) (査読あり) (IF: 5.886, 2015)

(2) 総説

1. ◎Miura, Y., Endo, T.: Glycomics and glycoproteomics focused on aging and age-related diseases - Glycans as a potential biomarker for physiological alterations - *Biochim. Biophys. Acta, -General Subjects-* 1860, 1608-1614, (2016) (査読あり) (IF: 5.083, 2015)
2. ★◎三浦ゆり：超百寿者の長生きの秘密 からだの生命活動を担う「タンパク質」が教えること、「百歳万歳」7月号 (エヌシイシイ) p.60-61, 2016.7.1 (査読なし)

受賞

老化バイオマーカー

1. 藤田泰典：日本基礎老化学会若手奨励賞「地域在住高齢者の血中GDF15と負の健康アウトカムとの関連解析」2016.5.28

老化制御研究チーム

チームリーダー：石神 昭人

1 研究チームの概要・目的

老化制御研究チームでは、健康長寿を達成するための科学的根拠を明らかにし、その方法論を開発する。その目的を達成するために多様な生物種を研究対象とし、得られた研究成果をヒトへ外挿する。最終的にヒトでの効果を確認し、健康寿命の伸延に寄与する。また、研究内容は、高齢者疾患の予防や診断、治療にまで拡充し、高齢者の健康水準向上を図る。

2 今後の展望

老化制御研究チームでは、各研究テーマによる研究成果を他領域に応用することを推進する。特に健康長寿を達成するため、ヒトへの介入研究や高齢者疾患を早期に検知する測定系の臨床研究が予定されている。倫理指針に基づいたヒト臨床試験が円滑に行えるように努力する。また、引き続き、社会系フィールドワークにおける研究成果の応用や技術協力をチームとして推進する。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

健康長寿ゲノム探索

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	平成28年度	平成29年度
高齢者の健康長寿を脅かす前立腺がん・乳がんの病態の解明と新たな診断・治療法の開発	ホルモン依存性がんである前立腺がん及び乳がんは社会の高齢化とともに患者数が急増しており、より効果的な診断・治療法の開発が必要とされる。包括的なゲノム解析、エピゲノム解析、オミックス解析の最新手法とがん患者の検体を活用し、がんの進展メカニズムを明らかにし、新たな診断、治療法を開発することにより、健康長寿に貢献することを目的とする。				近年、社会の高齢化とともに患者数が急増している前立腺がんの診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖ならびに治療抵抗性の抑制方法を検討する。	近年、社会の高齢化とともに患者数が急増している前立腺がん及び乳がんの診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖ならびに治療抵抗性の抑制方法を検討する。
健康長寿あるいは加齢性疾患に関連する遺伝子多型の解明	パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症・認知症の原因となる疾患群の病因を解明する。超百寿者の遺伝的多型を解明する。				平成27年度に担当研究者が転籍となったため、本テーマの研究は終了となった。	
高齢者の体力に関連する遺伝子多型の解明	老化に伴って起こる体力レベルや運動機能の低下を引き起こすメカニズムをゲノムレベルで解明し、遺伝情報を元にしたテーラーメイドの運動処方を開発する					
希少疾患であるミトコンドリア病の診断・治療法の開発	ミトコンドリア病における病因遺伝子変異が次世代シーケンサーによって解析されるようになったが、確定診断は容易ではない。ミトコンドリア病に対するピルビン酸ナトリウム療法を開発する同時に、診断に有用なバイオマーカーを特定し、臨床診断薬を開発する。					
実験動物を用いた老化関連遺伝子と老化抑制化合物の探索	寿命や老化速度の調節に関わる遺伝子を探索し、遺伝子機能を解明することにより、老化を抑制し健康増進に益する物質を見出す。					

分子老化制御

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
老化や老年病に及ぼす活性酸素の機能解明に関する研究とアスコルビン酸（ビタミンC）などの抗酸化物質の摂取が高齢者の健康増進や老年病の予防に有効であるかの検証を目指す	老化の原因のひとつは細胞や組織での過剰な活性酸素の増加およびその蓄積によるためと考えられている。しかし、活性酸素そのものが老化の進行に直接的に関与する科学的証明はまだない。活性酸素が老化の原因であることを明らかにするため、強力な抗酸化物質であるビタミンCや抗酸化酵素、SODを欠損させたノックアウトマウスを用いて、活性酸素が関与する老化機構の解明と食品からの抗酸化物質の摂取が老化制御に有効かを検証する。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスを用いてビタミンC不足により、細胞や組織の活性酸素が増加するか明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスと抗酸化酵素、SODを欠損させたノックアウトマウスを掛け合わせダブルノックアウトマウスを作製する。このマウスを用いて活性酸素と老化との関係を明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL & SOD ダブルノックアウトマウスを用いて活性酸素が酸化ストレスの影響を受けやすい脂質代謝系に及ぼす影響を明らかにする。	ビタミンC合成不全 SMP30/GNL ノックアウトマウスを用いて活性酸素が脂質代謝異常以外の加齢疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患など）に及ぼす影響を明らかにする。	ビタミンCやその他の抗酸化物質を多く含む食品の摂取が高齢者での健康増進や老年病の予防に繋がるかを疫学的調査や介入試験により明らかにする。
シトルリン化タンパク質やシトルリン化タンパク質を生成する酵素、ペプチジルアルギニルデアミナーゼ（PAD）を指標とした認知症や老年病の早期臨床検査診断薬の開発、及び臨床検査診断薬の保険適用や市販化に向けた取り組みを目指す	アルツハイマー型認知症患者の脳ではシトルリン化タンパク質と総称される異常なタンパク質が早期に出現し、病状の進行程度に応じてその量が増加する。また、関節リウマチやがんでもシトルリン化タンパク質が疾患の発症に関与することが報告されている。そこで、シトルリン化タンパク質やPADを指標とした臨床診断薬を開発し、認知症や老年病の早期臨床検査診断薬になりうるか検討する。また、その有用性を確かめるため、臨床試験も実施する。	認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬を構築するため、シトルリン化タンパク質やシトルリン化タンパク質を生成する酵素、ペプチジルアルギニルデアミナーゼ（PAD）に特異的なモノクローナル抗体を多数、作製する。	認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬を完成させるため、シトルリン化タンパク質やPADを高感度に検出するELISA システム（酵素免疫測定法）を構築する。	高齢者ブレインバンクやバイオリソースセンターの生体試料を用いて、認知症や老年病の早期診断を行う臨床検査診断薬の有用性や特異性を確認する。	センター倫理委員会の承認後に認知症や老年病の患者さんの血清や脳脊髄液を用いた臨床試験を実施し、臨床検査診断薬の有用性や特異性を確認する。	臨床検査試薬を販売する企業と協力して、認知症や老年病の早期臨床検査診断薬の保険適用や市販化に向けた取り組みを行う。

生体環境応答

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
Iミトコンドリア機能制御による抗老化の研究とミトコンドリア健康法の開発：高齢者におけるエネルギー産生低下と酸化ストレス増大を引き起こすミトコンドリアの機能異常について、分子レベルの反応が個体に影響を及ぼすメカニズムを明らかにし、これに基づいてミトコンドリア機能を維持・向上させる方法を探索することで、科学的論拠に基づく老化と老年疾患の予防・治療法を開発する。	水素分子等の応用による新しい酸化ストレス防御法を開発し、効果的にミトコンドリア機能を維持・向上させる方法を探索することで健康長寿に貢献することを目的とする。その過程で、運動や食事が酸化ストレスの生成、消去、回復に及ぼす影響を動物やヒトで生体内イメージング法等を用いて解析し、老化過程への関与を明確にする。一方、ミトコンドリア機能と活性酸素種の生成に関与する因子を超高解像度顕微鏡などを用いて分子レベルから解析し、これが細胞死や個体寿命などに及ぼす影響を調べる。	細胞レベルで水素分子作用機序検討（高解像度顕微鏡を用いた細胞膜やミトコンドリアの機能変化を解析）。水素分子の疾患予防・治療効果の検討（動物モデル：がん治療における抗がん剤の副作用等）。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討（酸化ストレス可視化動物や重水素の応用）。水素分子の疾患予防・治療効果の検討（動物モデル：がん治療における放射線治療の副作用や腎疾患等）。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討（細胞レベルで水素分子が直接作用する分子の探索及びホルミシス効果の検証）。水素分子の疾患予防・治療効果の検討（動物モデルの結果に基づく臨床研究の提案）。	細胞・動物レベルで水素分子作用機序検討（動物レベルで水素分子が直接作用する分子の探索及びホルミシス効果の検証）。水素分子の疾患予防・治療効果の検討（臨床レベルの共同研究）。	水素分子の分子レベルでの作用機序と疾患モデル治療の検証結果に基づく、水素治療が最も効果的な疾患とその投与方法の提案及び普及活動。臨床レベルでの共同研究継続。

<p>Ⅱ. 老化制御におけるミトコンドリア機能の関与を解明し、高齢者の健康長寿を実現するための方策の科学的根拠を確立する: コエンザイムQ (CoQ) はミトコンドリア呼吸鎖の主要構成因子であり、活性酸素の最大の発生源でもある。少量のCoQしか産生しないclk-1トランスジェニックマウスの老化過程と寿命を解析するとともに、ミトコンドリアに到達可能な水溶性CoQを生体に投与することにより、CoQを介したミトコンドリア機能の老化への関与を解明する。</p>	<p>ヒトがなぜ老化するかについては諸説ある。その中で有力視されているのは、代謝仮説と、酸化傷害仮説であり、両者に深く関わっているのがミトコンドリアである。本研究では、少量のCoQしか産生せずミトコンドリア機能が低下したclk-1トランスジェニックマウスを用い、寿命および老化制御におけるミトコンドリア機能の関与を明らかにすることを目的とする。</p>	<p>CoQ産生量が少なくミトコンドリア機能の低下しているclk-1トランスジェニックマウスの寿命を解析し、ミトコンドリア機能が寿命に与える影響について解析する。</p>	<p>clk-1トランスジェニックマウスは野生型マウスに比べ、低体重である。そこで、老化との関連が指摘されているインシュリン様成長因子1 (IGF-1)を中心とした代謝経路の解析を行う。</p>	<p>clk-1トランスジェニックマウスでは、ミトコンドリア機能の低下に伴い、エネルギー代謝がどのように変化しているかを個体及び細胞レベルで解析する。</p>	<p>clk-1トランスジェニックマウスは活性酸素の最大の発生源であるCoQを少量しか産生しない。そこでこのモデルマウスでは、活性酸素による生体高分子に対する酸化傷害が減少しているかを解析する。</p>	<p>ミトコンドリア機能が異常あるいは低下したモデルマウスまたはヒト細胞に水溶性CoQを投与し、ミトコンドリア機能を回復させた場合の抗老化作用を検証する。</p>
<p>Ⅲ 組織活性酸素の生成のダイナミズム解析技術開発酸化ストレスは老化と疾患の一因とされてきたが、近年はその関与について異論もある。また、活性酸素を毒性因子として捉える酸化ストレス理論をその生理的な意義をもって再構築する必要性もでてきた。しかし、活性酸素は一般の物質のように測定することはできない。本研究は活性酸素とその背景因子を評価するための方法論を確立して、老化メカニズムの解明や科学的根拠に基づく老化制御・健康増進への応用のための研究に対する基盤支援とする。</p>	<p>老化や疾患関連に加えて生理的な活性酸素生成機構の解明を目的として、活性酸素の動的画像化法にその背景因子の計測法を融合した方法論の確立を目的とする。また、「還元ストレス理論」を実証することによって、老化、疾患の酸化ストレス理論の再構築を目指す。これをもって、老化メカニズムの解明や科学的根拠に基づく老化制御・健康増進への応用のための理論的基盤支援とする。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の開発。 ・供給性・需要性低酸素の緩和時の活性酸素の生成の測定。 ・組織還元指標の測定法の確立。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素とレドックス計測との複合計測法の開発。 ・供給性低酸素の緩和時の活性酸素の生成と背景因子の関心の解析。 ・組織還元指標の測定法の確立。</p>	<p>・放射線-化学発光計測と酸素計測との複合計測法の評価研究。 ・需要性低酸素の緩和時の活性酸素の生成と背景因子の関心の解析。 ・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関心の解析。</p>	<p>・放射線-化学発光計測とレドックス計測との複合計測法の評価研究。 ・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関心の解析。</p>	<p>・老化モデル動物における組織酸化傷害と還元指標との関係の解析。 ・老化や疾患の酸化ストレス理論と還元ストレスの関係について総括する。</p>

健康長寿ゲノム探索

構成メンバー

テーマリーダー：井上 聡

研究員：東 浩太郎、高山 賢一

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- ・研究室の新規立ち上げに関しては、予定通り完了し、複数の公的競争的研究費ならびに所内、民間の競争的助成金を獲得した。

- ・前立腺がん研究に関しては、アンドロゲンの前立腺がん悪性化に関するメカニズムの解明、去勢抵抗性前立腺がんに対する新たな治療法の開発につながる成果を得ており、順調に進行している。
- ・乳がん研究に関しては、新たなバイオマーカーの候補を複数同定し、そのメカニズムと治療抵抗性における役割の解明を進めており、順当に進行している。
- ・高齢者運動器疾患に関するプロジェクトにも着手し、目標に沿った順調なスタートである。

- ・トランスレーショナルリサーチおよび他部門との連携に関しては、当センターの臨床部門の森聖二郎部長および他施設と共同して、ロコモティブ症候群に関するプロジェクトを立ち上げており、新しい計画に沿った進捗状況である。

【その根拠】

- ・平成28年1月からの着任である。同年2月、3月に段階的に固有の実験機器の搬入や残された不要物品の廃棄、電源工事を行い、共用の設備も活用し、2月より実験を開始、本年度4月以降は必要な実験を行う設備がほぼ整っている。また、新たな研究を立ち上げる上での外部資金を複数獲得した（AMED、日本学術振興会、金原一郎記念医学医療振興財団、三井住友海上福祉財団高齢者福祉部門、花王健康科学研究会、三越厚生事業団、テルモ生命科学芸術財団、山口内分泌疾患研究財団他）。
 - ・前立腺がんのホルモン療法不応性に関連する新たな非コードRNA SOCS2-AS1 および POTEF-AS1のアンドロゲンシグナルを制御する機能を発見し、論文および学会発表を行った。
 - ・ホルモン療法抵抗性の前立腺がんの新たな治療標的として転写因子Oct1のゲノム作用を抑制する新規薬剤の開発とその治療への応用の可能性を示し、論文発表を行った。特許も成立している（国内特許登録番号6044935号、平成28年11月25日、米欧国外移行中）。
 - ・前立腺がんにおいて予後不良因子となるRNA結合タンパク質に着目し、その核内作用を次世代シーケンサーにより解析するプロジェクトを進行させた。
 - ・その他の泌尿器がんとして精巣がんの解析を行い、新規の予後不良因子を同定し、論文発表を行った。
 - ・乳がんに関しては、臨床標本の免疫染色より TRIM44, TRIM47を新規の予後因子候補として同定した。これらの分子の生物学的なメカニズムと治療抵抗性における役割を解明するプロジェクトを立ち上げ、論文投稿直前である。
 - ・Lean body massと相関のあること見出した遺伝子マーカーが、筋力や運動能など筋肉関連臨床指標と関連があるかを検証するトランスレーショナルリサーチを立ち上げた。
 - ・エストロゲン、アンドロゲンがロコモティブ症候群に及ぼす影響をそれらの応答遺伝子に着目して解析し、論文発表も行っている。
- #### 【新しい知見】
- ・前立腺がん研究において東京大学・日本大学泌尿器科、東北大学医学部と共同研究を行い、アンドロゲン受容体と複合体を形成する転写因子 Oct1のアンドロゲンシグナルにおける役割について次世代シーケンサーを用いた網羅的解析により明らかにした。また重要な標的遺伝子として新規のアンドロゲン応答遺伝子ACSL3を同定し、Oct1のACSL3を誘導するゲノム作用を阻害する新規小分子(PI-ポリアミド)を開発した。さらにこのOct1ポリアミドの核内作用について次世代シーケンサーを用いて網羅的に解析し、アンドロゲン作用の特異的な抑制作用を明らかにするとともに、*in vivo*におけるホルモン療法抵抗性前立腺がんの腫瘍増殖抑制効果を示した (*Oncogene* 35, 6350, 2016)。
 - ・前立腺がんのホルモン療法抵抗性モデル細胞において高発現する長鎖非コードRNAをRNA-sequence法によって、網羅的に解析し *SOCS2-AS1*を同定した。*SOCS2-AS1*は前立腺がんのホルモン抵抗性、薬剤抵抗性への進行に関与することを、核内作用を解析し、主にアポトーシスを制御する下流因子群を同定することで明らかにした。またアンドロゲン受容体シグナルにおけるエピゲノム作用を制御することも解明し、論文・学会発表を行った (*J Biol Chem* 2016, 291, 17861-80.)。また、*POTEF-AS1*が抗アポトーシス作用を介してがん増殖に働く新しいメカニズムを示した (*Cancer Sci*, in press)。
 - ・前立腺がんにおいて予後不良因子となるRNA結合タンパク質の前立腺がんにおける役割を次世代シーケンサーを用いて解析し、その標的因子をChIP-seq, RNA immunoprecipitation (RIP)-seq, Crosslinking immunoprecipitation (CLIP)-seq法によって明らかにし、がんの悪性を促進するメカニズムの解析を解明した。またその治療への応用についても解析を進めている。
 - ・その他の泌尿器がんとして精巣がんにおいて TRIMファミリーに属する TRIM44が新規の予後不良因子となること、細胞増殖やアポトーシスにおける制御因子であることを同定し論文発表した (*Cancer Sci*, 2016 DOI: 10.1111/cas.13105)
 - ・乳がん研究に関しては、TRIM44およびTRIM47が、乳がんに対する予後悪化因子であること、ならびにその分子作用メカニズムを示すデータを得た。
 - ・ロコモティブ症候群に関する研究においては、エストロゲン応答遺伝子EBAG9を欠損するマウスにおいて骨粗鬆症様の表現型を呈することを見出し、学会発表を行った。これは、骨免疫学会における優秀演題賞を受賞し、高く評価された。また、エストロゲンが筋持久力にかかわるという知見を得、論文発表を行った (*Biochem Biophys Res Commun* 480, 758, 2016)。さらに、

ビタミンKのロコモティブ症候群における役割についても東研究員が発表し、日本抗加齢医学会での最優秀演題賞を受賞している。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜ロコモティブ症候群のバイオマーカー探索＞

臨床研究推進センター、国立健康栄養研究所、順天堂大学、東京大学大学院医学系研究科

＜前立腺がんの新規治療法の探索＞

実験動物施設、東京大学医学部附属病院、日本大学医学部附属板橋病院、東北大学医学部、東京大学先端科学研究センター、東京大学大学院医学系研究科、千葉大学大学院医学研究院

＜乳がんにおける新規バイオマーカーの探索＞

実験動物施設、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、虎の門病院、東北大学医学部、千葉大学大学院医学研究院

＜婦人科がんにおけるエストロゲン作用の解明＞

実験動物施設、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、順天堂大学、千葉大学大学院医学研究院

＜エストロゲン応答遺伝子のロコモティブ症候群における役割の解明＞

東京大学医科学研究所、順天堂大学、埼玉医科大学ゲノム医学研究センター

3 今後の展望

研究計画に沿った妥当な進行になっている。前立腺がんに加え、最近の増加が著しい乳がんをはじめ他のがん種についても高齢者のがんの視点から研究を進める。また、ホルモン作用という面で、ロコモティブ症候群は、これまでの研究との共通性があり、高齢者の健康長寿という視点から研究を進めていく。

4 その他

今年度に入ってから複数の英文原著論文をpublishすることができ、その多くはテーマリーダーが責任著者としての論文である。インパクトファクター10以上も複数あり、5以上の責任著者も2つある。また、テーマリーダーとテーマメンバーの学会における受賞も特筆すべきことである。

さらに、新たな研究を立ち上げるに当たり、外部から公的な競争的研究費をAMEDと日本学術振興会から研究代表者として得ている。

○AMED次世代がん医療創生事業「がん関連RNA結合タンパク質複合体を標的とした革新的治療法の開発」、代表研究者 井上聡 総額1,235万円、2016-2017

○文部科学省 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究「イメージングを利用したホルモン依存性がんにおけるミトコンドリアの新たな役割の解明」、代表研究者 井上聡 総額182万円、2016

○文部科学省 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究「転写および蛋白質レベルでのアンドロゲンによるp53機能制御機構の解明」、代表研究者 高山賢一 総額104万円 2016

さらに、積極的な民間助成への応募を行い、テーマリーダーとテーマメンバーとで以下の複数の助成金を既に獲得した。

○金原一郎記念医学医療振興財団 第31回基礎医学医療研究助成金

課題名：ビタミンKの生体作用を媒介する新規γグルタミル・カルボキシラーゼ基質蛋白質の探索・同定とその機能の解明（東浩太郎） 400,000円

○三井住友海上福祉財団 高齢者福祉部門 2016年度研究助成

課題名：骨免疫・筋免疫を介するエストロゲンの骨粗鬆症・サルコペニア予防及び治療効果の解明（東浩太郎） 1,500,000円

○花王健康科学研究会 第14回研究助成

課題名：ロコモティブ症候群におけるTRIMファミリー蛋白質の役割（東浩太郎） 1,000,000円

○公益法人 三越厚生事業団 2016年度研究助成

課題名：ミトコンドリア呼吸鎖超複合体を介するエストロゲンのサルコペニアに対する保護効果の解明とその応用（井上聡） 1,600,000円

○公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成27年度研究助成（実際に使用するのは2016.1月以降で平成28年度中）

課題名：老年病の新規ホルモン作用標的の解明とその臨床応用（井上聡） 5,000,000円

○公益財団法人 テルモ生命科学芸術財団 2016年度 一般研究開発助成

課題名：アンドロゲン応答性の難治性前立腺癌診断・治療標的の探索と応用（高山賢一） 2,000,000円

○公益財団法人 山口内分泌疾患研究振興財団 平成28年度研究助成

課題名：エストロゲンによる子宮内膜癌の悪性化メカニズムと新規治療標的の探索（東浩太郎） 1,000,000円

○公益財団法人 中富健康科学振興財団 平成28年度研究助成

課題名：筋骨格系の維持に関わる新規ビタミンK作用の解明（東浩太郎） 1,500,000円

「計画の見直しを検討」とはなっていないところであるが、平成28年度の研究を発展した形で進めていく。今年度の実施状況を踏まえ、引き続き前立腺がんの診断・治療標的を同定し、その病態メカニズムを明らかにするとともに、がん増殖ならびに治療抵抗性の抑制方法を検討する。上記3にも述べたように、前立腺がんに加え、乳がんや婦人科がん、泌尿器がんなどの他のがん種についても高齢者のがんの視点から研究を進めていく。性ホルモン作用という面で、ロコモティブ症候群は、前立腺がん研究や乳がん研究との共通性があり、高齢者の健康長寿という視点から研究計画を立てていく。

分子老化制御

構成メンバー

テーマリーダー：石神昭人

研究員：近藤嘉高、天野晶子

非常勤研究員：滝野有花、半田節子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

ビタミンCの不足が加齢疾患の発症や進行に影響を及ぼすかに関する研究は順調に進んでいる。特に、今年度はヒト臨床研究により、慢性閉塞性呼吸器疾患（COPD）患者の血漿中ビタミンC濃度が健常者に比べて低いことを明らかにした（Clin Repir J (in press)）。また、活性酸素の異常な蓄積が老化の一因であるかを明らかにするため、水溶性抗酸化物質であるビタミンCを体内で合成できないSMP30ノックアウトマウスと脂溶性抗酸化物質であるビタミンEの細胞内輸送能が欠損した α -TTP（ α -トコフェロール輸送タンパク質）ノックアウトマウスを掛け合わせ、新規にSMP30/ α -TTPダブルノックアウトマウスを作出した。このマウスを用いた寿命解析から、ビタミンCとビタミンEの両方が不足すると、ビタミンCまたはビタミンE単独の不足よりも寿命が短くなることを明らかにした。また、ダブルノックアウトマウスを用いた行動解析実験により、とても興味深い結果が得られた。即ち、ビタミンCとビタミンEの両方が不足すると、不安様行動が増加し、運動能力および記憶学習能力が低下することがわかった。さらに、SMP30ノックアウトマウスを用いた解析から、筋肉でビタミンCが不足すると骨格筋重量が減少し、筋線維タイプの種類が変化するなどの新知見を見出した。

一方、シトルリン化タンパク質を指標としたアルツハイマー病の臨床検査診断薬の開発も順調に

進んでいる。シトルリン化したアルツハイマー関連タンパク質Xを定量化する臨床検査診断薬も完成した。次年度には、ヒト臨床試験を開始する。ヒト臨床試験を開始する前に、研究成果の知的財産権を保護するため、特許申請を行う。

また、年度別研究計画には記載していないが、閉経後の高齢女性を想定して、エストロゲンの欠乏が肝臓での脂質代謝に及ぼす影響を雌雄のエストロゲン合成酵素欠損マウスを用いて詳細に検討した。その結果、意外にも雌ではなく雄でのみ肝臓の脂質代謝異常が認められるなど、とても興味深い結果を得た。この研究成果は、現在論文投稿中である。

さらに、高齢者での薬剤性腎障害の発症機序を解明するため、病院薬剤科、病理診断科との共同研究により、マウスを用いてバンコマイシンによる薬剤性腎障害の病理解析を行い、経時的な腎障害の増悪がヒトと同様に進行することを明らかにした。この研究成果も現在論文投稿中である。

今年度の分子老化制御の英語論文数は、共同研究も含めて19報であった。また、学会発表数も海外を含めて30回であった。

【その根拠】

- COPD患者の血漿ビタミンC濃度を測定した論文（Clin Repir J. (in press)）がアクセプトになった。ヒトの臨床試験は、順天堂大学、東邦大学呼吸器内科との共同研究である。
- 今までに体内のビタミンCとビタミンEを同時に不足させることができるマウス（SMP30/ α -TTPダブルノックアウトマウス）の作出は前例がない。ビタミンCとEの同時不足は、ビタミンCまたはE単独の不足よりも寿命が短い。また、この新規マウスを用いた行動解析実験からビタミンCとEの同時不足は、不安様行動が増加し、運動能力および記憶学習が低下する興味深いデータを得た。これら研究成果は、英文論文を作成中である。行動解析実験は、老化脳神経科学研究チーム記憶神経科学との共同研究である。
- 順天堂大学大学院スポーツ健康科学との共同研究により、ビタミンCが筋肉で不足すると筋重量が減少し、筋線維タイプの種類が変化することを明らかにした。この研究成果は、日本生化学会で発表した。
- シトルリン化したアルツハイマー関連タンパク質Xを定量化する臨床検査診断薬の開発に成功した。特許申請を行うため、昨年末に研究所内の職務発明審査会で承認を得た。今年3月に特許申請する予定である。
- エストロゲン合成酵素欠損マウスの雄の肝臓で脂質代謝異常が認められた。この研究成果を米

国老化学会（AAA）及び日本生化学会で発表した。

- 病院薬剤科、病理診断科との共同研究であるバンコマイシンによる腎障害の病理解析に関する研究成果を学会で発表し、英語論文投稿中である。

【新しい知見】

- COPD患者の血漿ビタミンC濃度を測定したところ、同年齢の健常者に比べて約26%も血漿ビタミンC濃度が低いことが分かった（Clin Repir J. (in press)）。日本人のCOPD患者で血漿ビタミンC濃度が健常者に比べて低いことを明らかにした初めての報告である。
- SMP30/ α -TTPダブルノックアウトマウスを用いた行動解析実験により、ビタミンCとEの同時不足は、不安様行動が増加し、運動能力および記憶学習能力が低下することが初めて明らかになった。また、ビタミンCとEの同時不足は、ビタミンCまたはE単独の不足よりも寿命が短くなることを明らかにした（論文作成中）。
- 筋肉にはビタミンCが多く存在する。ビタミンCを合成できないSMP30ノックアウトマウスを用いた解析から、筋肉でビタミンCが不足すると筋重量が減少し、筋線維タイプの種類が変化することを初めて明らかにした。サルコペニア、フレイルとビタミンC不足との関連性が示唆される。
- アルツハイマー病患者の脳でシトルリン化したアルツハイマー関連タンパク質Xを初めて同定した。臨床検査診断薬として有用な可能性が開けた（特許申請予定）。
- エストロゲン合成酵素欠損マウスの雄でのみ、肝臓での脂質代謝異常を呈する。その原因は、血中テストステロンの上昇、それに伴うアンドロゲンレセプターの発現亢進異常であることを明らかにした（論文投稿中）。
- マウスへのバンコマイシン投与により、ヒトと同様に薬剤性腎障害が起こることを確認した。また、詳細な病理学的解析により、経時的な腎障害の増悪もヒトと同様に進行することを明らかにした（論文投稿中）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜関節リウマチの早期診断と発症機構の解明＞

膠原病リウマチ科、東京女子医科大学、富士レジオ

＜バンコマイシンによる薬剤性腎障害発生機序と加齢変化＞

薬剤科、病理診断科、腎臓内科、東邦大学

＜シトルリン化タンパク質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発＞

生体環境応答、富士レジオ

＜高齢者の血漿ビタミン及びカロテノイド濃度と筋力及び運動との関係＞

自立促進と介護予防、福祉と生活ケア、横浜市立大学、カゴメ

＜SMP30&SODダブルノックアウトマウスの解析＞
実験動物施設、千葉大学

＜アロマターゼノックアウトマウスの解析＞

実験動物施設、京都府立医科大学、順天堂大学、高知大学

＜SMP30&TTPダブルノックアウトマウスの解析＞

実験動物施設、老化脳神経科学研究チーム、東京大学、順天堂大学、東京医科歯科大学

＜klothoマウスの腎臓におけるシトルリン化タンパク質の動態解析＞

老化機構

＜慢性閉塞性肺疾患（COPD）とビタミンCのヒトにおける臨床関連解析＞

順天堂大学、東邦大学、カゴメ

＜関節リウマチ早期診断薬の開発＞

筑波大学、富士レジオ

＜シトルリン化タンパク質とプリオン病＞

Hallym University

＜脳におけるSMP30の機能解明、加齢変化＞

Pusan National University

＜SMP30の構造、機能解析＞

高エネルギー加速器研究機構

＜アルツハイマー病治療薬を指向したアミロイドベータ凝集・線維化阻害剤の開発＞

帝京平成大学、星薬科大学

＜遺伝性及び慢性肺疾患の細胞生物学的解析及び創薬ターゲット分子の探索＞

熊本大学

＜Cav3.2 T型カルシウムチャンネルを標的とした癌化学療法誘起神経障害性疼痛の治療＞

近畿大学

＜加齢にともなう雌ラットのKNDyニューロンの発現変化＞

日本医科大学

＜筋肉におけるビタミンCの役割解明＞

順天堂大学

3 今後の展望

研究計画は、概ね順調に進行している。現在、研究計画の変更や解決すべき課題等は特にない。また、今後想定される障害等も特にない。

平成29年度には、以下の研究内容を重点的に行

う。

- ・特許申請、倫理委委員会での承認後にヒト検体を用いて、シトルリン化したアルツハイマー関連タンパク質Xを定量化する臨床検査診断薬のヒト臨床試験を開始する。
- ・新しく作出したSMP30/ α -TTPダブルノックアウトマウスを用いて、ビタミンCとビタミンEの二重不足が様々な臓器での脂質代謝に及ぼす影響を明らかにする。
- ・筋肉でのビタミンC不足がサルコペニアやフレイルのリスクになるかを明確にする。

次期、第三期中期計画の策定に向けて、老化細胞同定の予備検討を始める。即ち、老齢個体に存在する老化細胞を同定するため、次世代シーケンサーを用いた1細胞解析を開始する。

4 その他

分子老化制御は、「老化に及ぼす抗酸化物質ビタミンCの意義の解析」、「加齢指標蛋白質SMP30の病態生理学的意義の解明」、「タンパク質シトルリン化酵素（PAD）およびシトルリン化タンパク質の病態生理学的意義の解明」の3つを大きな研究テーマとして掲げている。これらの研究を通して、老化の進行速度を抑える老化制御（抗老化）の方法論や理論的解析、解明を目指している。これらの研究テーマにより、高齢者での健康と栄養（抗酸化食品の摂取を含む）との関係、またその意義を明らかにできる。また、活性酸素が老化の原因であるかを検証できる。さらに、シトルリン化タンパク質およびPAD測定法は、アルツハイマー病や老年病の早期診断薬へと発展、応用できる。研究は、概ね順調に進行している。

生体環境応答

構成メンバー

テーマリーダー：大澤郁朗

研究員：高橋真由美、池谷真澄

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- I. 水素分子の医学研究については28年度計画に沿って、概ね順調に研究を進めている。作用機序解明から臨床研究まで並行して進めている。さらに“水素風呂”の動物実験など新たな取り組みもスタートした。これに加え、超解像STED顕微鏡を駆使したミトコンドリア内部構造に関する研究も進行中である。
- II. コエンザイムQ (CoQ) に関する研究は予定を上回り進捗している。

【その根拠】

- I. 水素分子の医学研究については作用機序解明から臨床研究まで並行して進め、下記に示すような成果を得ており、これを元にさらなる研究が進行中である。加えて、“水素風呂”の動物実験など新たな取り組みもスタートした。

水素分子作用機序・分子と細胞レベル

培養細胞では水素分子投与によるミトホルミシス（ミトコンドリアを介した酸化ストレスに対する適応応答）効果を明確にし、これを元にLC-MSとメタボロームを用いて水素分子によるミトコンドリア脂質と代謝変動を解析中である。

水素分子作用機序・動物実験

マウス敗血症モデルに水素水を事前投与すると病状が緩和され、肝臓での酸化ストレスに対する適応応答が観察された。現在、水素水投与後の肝臓をex vivoで解析中である。また、水素分子の活性酸素還元作用により、白内障手術での超音波による角膜損傷を抑制できることをウサギで確かめた。

水素の応用と臨床研究

水素水による糖尿病患者への介入研究では最初の30名についてデータ収集を完了した。また、共同研究中の水素水によるMCIへの介入研究については改善効果が認められ、論文投稿中である。

さらに科学的データが皆無な“水素風呂”について、アトピーのマウスモデルで検証を開始した。

ミトコンドリア内部構造

超解像STED顕微鏡を用いて、数10ナノメートルの解像度で生きたミトコンドリアの内部構造（クリステ）を観察する手法を確立した。その結果、内部が高速に変化していることが明らかとなり、その生物学的意義の解明を進めている。また、呼吸鎖スーパー・コンプレックスの可視化も検討中である。

- II. CoQ研究に関しては、一昨年度の報告通り、*clk-1* TGマウスの解析が予定より早く終了して論文発表した。今年度は29年度計画を前倒しして、ミトコンドリア機能が低下した老齢マウス脳に加齢変化とこれに伴う運動機能低下に水溶性CoQの投与により回復することを明らかにした。成果を発表した論文は、革新性と将来への発展性が期待される最先端の論文を紹介するサイト“World Biomedical Frontiers”のNeuroscienceセッションでも紹介された。現在、老齢マウス運動野でのシナプス伝達機能低下を電気生理学的に証明し、これに対する水溶性CoQ投与効果を解析中である。

【新しい知見】

I. 水素分子とミトコンドリア構造

水素分子作用機序の二面性

- ・マウス敗血症モデルで水素水を事前投与すると病態が緩和され、水素水の酸化ストレスに対する適応応答が肝臓で観察された (Iketani et al., Shock 2016)。これは、水素ガスで神経芽細胞を事前処置すると過酸化水素による細胞死が抑制される水素分子のミトホルミシス効果 (Murakami et al., PLOS ONEリバイズ中) と一致する。これらの観察結果は、活性酸素の直接的還元とは異なる水素作用機序の存在を明確に示している。
- ・一方、白内障手術モデルでの角膜保護効果は超音波によって発生するヒドロキシラジカルを水素分子が直接還元した結果である (Igarashi et al., Sci Rep 2016)。
- ・この二面性こそが水素の多様な働きを説明する基礎理論となる。これについては、水素分子の神経系での作用を中心にまとめた英文総説で報告した (Iketani & Ohsawa, Curr Neuropharmacol 2016)。

水素水前投与の有効性

- ・前述のマウス敗血症モデルにおける水素水事前投与による病態改善効果は、健常者、特に健康な高齢者が普段から水素水を摂取するメリットを示唆するデータであり、今後の臨床研究に生かすことができる。

ミトコンドリア内部構造の高速変化

- ・超解像STED顕微鏡を用いて、生細胞でミトコンドリアの内部構造 (クリステ) を可視化し、これが高速に変化していることを示した (Ishigaki et al., Mitochondrion 2016)。この研究は今後のミトコンドリア機能解析に新しい視点とツールをもたらした。

II. CoQ

老齢脳におけるリン酸化 α -シヌクレインの蓄積と機能低下

- ・マウスの正常加齢脳 (特に大脳皮質運動野M1領域) において、パーキンソン病 (PD) に特徴的なリン酸化 α -シヌクレインの蓄積が加齢に伴い増加することを見出した。
- ・大脳皮質運動野では、神経細胞伝達物質グルタミン酸をシナプスに運搬するVGluT1の発現が老齢マウスで低下し、PD様運動機能の評価試験で見られた老齢マウスの運動機能低下と一致した (Takahashi et al., Exp Gerontol 2016)。

CoQによる回復

上記の加齢変化は、水溶性CoQの飲水投与でほぼ完全に回復可能であることを明らかにした (上記

論文で報告)。M1領域ではP-synの蓄積減少に平行して、神経細胞の刺激反応性が顕著に回復することが明らかとなってきた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜水素分子の作用機序解明に向けた包括的研究＞

老化バイオマーカー、神経画像研究チーム、病理診断科、東洋大生命科学

＜水素水の肺疾患への応用研究＞

日本医大病理、北里大薬

＜水素点眼薬の基礎・臨床研究＞

日本医大眼科

＜水素分子の生殖医療に関する研究＞

実験動物施設、山下湘南夢クリニック

＜水素水による糖尿病臨床研究＞

会津中央病院、メロディアン(株)

＜ミトコンドリア内部構造の研究＞

臨床検査科、北里大薬

＜加齢脳の電気生理的・神経生理学的解析＞

神経生理

3 今後の展望

水素分子のホルミシス効果に基づく敗血症モデルなどは水素水の効果を短期間に評価できる系で、次年度計画の効果的投与方法研究に直結するなど、予定通りに研究が進行している。また、CoQの研究は当初計画を上回っており、研究期間内に目的を実現できるための妥当な進行となっている。

4 その他

水素分子研究

- ・水素分子研究は昨年度も独創的な研究であることを評価していただいた。多くの抗酸化物質などと異なり、水素分子の疾患抑制効果は他岐にわたっており、それぞれが臨床に直結している。
- ・一方で、世界的には多数の研究機関で水素分子の応用医学研究が進められているが、作用機序につながる基礎生物学的研究はわずかである。その中で、水素分子は適度な還元力とホルミシス効果という別々の作用機序を持ち、これが多様な水素分子の疾患抑制効果につながっているという新しいモデルを提唱することができた。この分子メカニズムを解明し、今後の臨床応用に反映していく。

加齢脳とCoQ

- ・正常老齢マウスの大脳皮質運動野においてパーキンソン病 (PD) に特徴的なリン酸化 α -シヌクレインの蓄積が増加し、これがシナプス伝達機能および運動機能の低下と相関することを発見

した。老化やPDなどの疾患による運動機能低下の新たなメカニズムを明らかに出来るものと期待している。

- また本研究で用いた水溶化したCoQは、マウスに飲水投与すると脳関門を通過し、脳細胞ミトコンドリアに取り込まれ、その機能を回復させることを確認済みである。これは通常のCoQでは見られない。この水溶性CoQは上記の脳における加齢変化と運動機能低下を共に抑制する効果があり、PDの発症予防や病態改善に有効であることの証拠が蓄積できれば、臨床応用への道が開ける。

ミトコンドリア解析

超解像顕微鏡という新たな手段を用いることで、ミトコンドリア研究者でも驚くような高速の内部構造変化という新たな発見があった。本テーマ研究には、ミトコンドリア単離法、ミトコンドリア機能解析としては古典的な酸素消費から呼吸鎖複合体検出の為にブルーネーティブPAGE法、ミトコンドリア特異的発現ベクターなどを用いた機能・構造解析など多様な技術が蓄積されており、統計力学的解析を併用しながらミトコンドリア内部構造のダイナミクスという未知の分野に挑戦する。

論文・学会発表

健康長寿ゲノム探索

1 学会発表

(1) 海外

1. Ikeda K, Shiba S, Horie-Inoue K, Inoue S: Mitochondrial respiratory supercomplex assembly-promoting factor COX7RP regulates bone metabolism in mice. (2016.8.21-24) The Joint Annual Meetings of the Endocrine Society of Australia, the Society for Reproductive Biology and the Australian and New Zealand Bone and Mineral Society (ESA/SRB/ANZBMS), Gold Coast, Queensland, Australia.
2. Shiba S, Ikeda K, Azuma K, Sato W, Miyazaki T, Tanaka S, Horie-Inoue K, Inoue S: Female mice lacking estrogen binding fragment associated antigen 9 display decreased bone mineral density. (2016.8.21-24) The Joint Annual Meetings of the Endocrine Society of Australia, the Society for Reproductive Biology and the Australian and New Zealand Bone and Mineral Society (ESA/SRB/ANZBMS), Gold Coast, Queensland, Australia.
3. Urano T, Shiraki M, Kuroda T, Tanaka S, Urano F, Uenishi K, Inoue S: Serum osteocalcin concentration is an independent risk for incident type 2 diabetes mellitus in Japanese postmenopausal women. (2016.9.16-19) American Society of Bone and Mineral Research 2016 Annual Meeting, Atlanta, GA, USA.
4. Inoue S, Horie-Inoue K, Ikeda K: Identification of growth-modulatory long noncoding RNA that activates estrogen receptor signaling in breast cancer. (2017.2.5-9) Keystone Symposia Conference, Noncoding RNAs: From Disease to Targeted Therapeutics, Banff, Alberta, Canada.
5. Takayama K, Inoue S: [Symposium] Novel therapeutic strategy for castration-resistant prostate cancer by PI polyamide targeting Oct1. (2017.2.24) International symposium for the drug-discovery of the pyrrole-imidazole polyamides as novel biomedicines, Tokyo, Japan.

(2) 国内

1. 高山賢一、井上聡: miRNAによるDNA修飾の変化を介したFOXA1およびアンドロゲン受容体の機能制御 (2016.4.21-23) 第89回日本内分泌学会学術総会 (京都) 国立京都国際会館
2. 芦荻大作、高山賢一、浦野友彦、高橋悟、井上聡: [YIA受賞] 前立腺がんにおけるp53制御を担う新たなアンドロゲン作用メカニズム (2016.4.21-23) 第89回日本内分泌学会学術総会 (京都) 国立京都国際会館
3. 東浩太郎、井上聡: 骨芽細胞におけるビタミンK依存性γカルボキシラーゼ (GGCX) とバイオマーカーucOCの骨代謝および糖代謝における役割 (2016.5.23) TOBIRA第5回研究交流フォーラム (東京) ソラシティーカンファレンスセンター
4. 浦野友彦、白木正孝、黒田龍彦、田中司朗、上西一弘、井上聡: 加齢に伴う体重減少に対して骨粗鬆症治療薬が及ぼす影響 (2016.6.8-10) 第58回日本老年医学会学術集会 (石川) 石川県立音楽堂 (金沢市)
5. 東浩太郎、井上聡: [最優秀演題賞] 核内受容体SXR/PXRおよび新規応答遺伝子Fam20aを介するビタミンKの関節軟骨に対するアンチエイジング作用 (2016.6.10-12) 第16回日本抗加齢医学会総会 (横浜) パシフィコ横浜
6. 高山賢一、三沢彩、井上聡: アンドロゲン応答性long non-coding RNAとして同定したSOCS2-ASIを介する新たなアポトーシス制御機構の解明 (2016.6.24-25) 日本アンドロロジー学会第35回学術大会 (群馬) 群馬県前橋テルサ (前橋市)
7. 川端英孝、池田和博、東浩太郎、杉谷郁子、木脇圭一、藤井文士、大崎昭彦、佐伯俊昭、堀江公仁子、井上聡: 乳がん予後予測因子としてのTRIM44の役割 (2016.6.24-25) ホルモンとがん研究会 (岡山) 倉敷アイビースクエア (倉敷市)
8. 井上聡、柴祥子、池田和博、宮崎利明、東浩太郎、田中伸哉、堀江公仁子: [優秀演題賞] エクソソームを介してがんの免疫エスケープを引き起こすEBAG9の新しい作用メカニズムと骨における役割 (2016.7.6-8) 第2回日本骨免疫学会 (沖縄) ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート
9. 浦野友彦、白木正孝、黒田龍彦、田中司朗、上西一弘、井上聡: 血清オステオカルシン低値は糖尿病発症の独立した危険因子である (2016.7.20-23) 第34回日本骨代謝学会学術集会 (大阪) 大阪国際会議場
10. 柴祥子、池田和博、井上聡: [ANZBMS Travel Award] エストロゲン応答遺伝子EBAG9欠損マウスは骨密度の低下と細胞傷害性T細胞の活性化を呈する (Estrogen-responsive gene EBAG9-deficient mice exhibit decreased bone mineral density and activation of cytotoxic T lymphocytes) (2016.7.20-23) 第34回日本骨代謝学会学術集会 (大阪) 大阪国際会議場
11. 井上聡: [シンポジウム] ミトコンドリア超複合体形成と筋肉、褐色脂肪 (2016.8.5-6) 第2回日本筋学会学術集会

- (東京) 国立精神・神経医療研究センター
12. 長井咲樹、池田和博、堀江公仁子、竹田省、井上聡：マウスの運動持続能と骨格筋におけるエストロゲンの役割の解析 (2016.8.5-6) 第2回日本筋学会学術集会 (東京) 国立精神・神経医療研究センター
 13. 柴祥子、池田和博、堀江公仁子、中山哲俊、田中知明、井上聡：ミトコンドリア呼吸鎖複合体の形成促進因子である COX7RP は糖新生を調節する (Mitochondrial supercomplex assembly-stimulating factor, COX7RP regulates gluconeogenesis) (2016.9.25-27) 第89日本生化学会大会 (宮城) 仙台国際センター、東北大学
 14. 高山賢一、三沢彩、井上聡：アンドロゲン応答性 long non-coding RNA として同定した SOCS2-AS1 は前立腺癌におけるアンドロゲンシグナルを促進しアポトーシスを抑制する (SOCS2-AS1, an AR-regulated long non-coding RNA, promotes androgen signals and inhibits apoptosis in prostate cancer) (2016.10.6-8) 第75日本癌学会学術集会 (横浜) パシフィコ横浜
 15. 井上聡：[シンポジウム] Exploration of new therapeutic strategies for sex hormone dependent cancers (2016.11.11-11.12) 第14回 RCGM フロンティア国際シンポジウム (埼玉)
 16. 川端英孝、池田和博、東浩太郎、杉谷郁子、木脇圭一、藤井丈士、大崎昭彦、佐伯俊昭、堀江公仁子、井上聡：TRIM44 in breast cancer as a novel prognostic factor associated with cellular proliferation. (TRIM44は細胞増殖に関わる乳癌の新たな予後予測因子である) (2016.11.11-11.12) 第14回 RCGM フロンティア国際シンポジウム (埼玉)
 17. 東浩太郎、池田和博、鈴木貴、大崎昭彦、佐伯俊昭、堀江公仁子、井上聡：Increased expression of TRIM 47 can be a novel negative prognostic factor for breast cancer. TRIM47蛋白質の発現増加は乳癌における新たな負の予後予測因子となりうる) (2016.11.11-11.12) 第14回 RCGM フロンティア国際シンポジウム (埼玉)
 18. 堀江公仁子、池田和博、井上聡：Functional shRNA library screening and sequencing-based identification of coding and non-coding RNAs that associate with the biology of hormone refractory cancers. (2016.11.30-12.2) 第39回日本分子生物学会年会 (横浜) パシフィコ横浜
 19. 池田和博、長井咲樹、堀江公仁子、長澤さや、竹田省、井上聡：エストロゲンは骨格筋におけるエネルギー代謝関連遺伝子の発現を調節し生体での運動持続能を向上させる (2016.12.3) 第24回日本ステロイドホルモン学会 (大分) ホルトホール大分
 20. 堀江公仁子、上山数弘、森圭介、井上聡：脈絡膜血管新生モデルにおける遺伝子発現ネットワーク (2016.12.17-18) 脳心血管抗加齢研究会2016 (東京) 秋葉原UDX
 21. 井上聡：[シンポジウム] アンドロゲン作用プログラムを制御する新しい分子機構の解明；CRPCモデルにおけるアンドロゲンシグナリングの解析 (2017.1.14-15) 第19回 UTPシンポジウム (東京) ホテル椿山荘東京
 22. 水戸部悠一、池田和博、堀江公仁子、井上聡：エストロゲンによって誘導され乳がん細胞の増殖・生存を制御する長鎖非コードRNAの同定 (2017.1.28) 第17回関東ホルモンと癌研究会 (東京) ベルサール八重洲

2 誌上発表

(1) 原著

1. Obinata D, Takada S, Takayama K, Urano T, Ito A, Ashikari D, Fujiwara K, Yamada Y, Murata T, Kumagai J, Fujimura T, Ikeda K, Horie-Inoue K, Homma Y, Takahashi S, ★Inoue S: ABHD2, an androgen target gene, promotes prostate cancer cell proliferation and migration. *Eur J Cancer* 57, 39-49, 2016 (査読あり) (IF: 6.163, 2015/2016)
2. Huang L, Zhang H, Cheng CY, Wen F, Tam POS, Zhao P, Chen H, Li Z, Chen L, Tai Z, Yamashiro K, Deng S, Zhu X, Chen W, Li C, Lu F, Li Y, Cheung CMG, Shi Y, Miyake M, Lin Y, Gong B, Liu X, Sim KS, Yang J, Mori K, Zhang X, Cackett PD, Tsujikawa M, Nishida K, Hao F, Ma S, Lin H, Chen J, Fei P, Lai TYY, Tang S, Laude A, Inoue S, Yeo IY, Sakurada Y, Zhou Y, Iijima H, Honda S, Lei C, Zhang L, Zheng H, Jiang D, Zhu X, Wong TY, Khor CC, Pang CP, Yoshimura N, Yang Z: A missense variant in FGD6 confers increased risk of polypoidal choroidal vasculopathy. *Nat Genet* 48, 640-647, 2016 (査読あり) (IF: 31.616, 2015/2016)
3. Fujimura T, Inoue S, Urano T, Takayama K, Yamada Y, Ikeda K, Obinata D, Ashikari D, Takahashi S, Homma Y: Increased expression of Tripartite Motif (TRIM) 47 is a negative prognostic predictor in human prostate cancer. *Clin Genitourin Cancer* 14, 298-303, 2016 (査読あり) (IF: 2.599, 2015/2016)
4. Obinata D, ◎*Takayama K, Fujiwara K, Suzuki T, Tsutsumi S, Fukuda N, Nagase H, Fujimura T, Urano T, Homma Y, Aburatani H, Takahashi S, ★Inoue S: Targeting Oct1 genomic function inhibits androgen receptor signaling and castration-resistant prostate cancer growth. *Oncogene* 35, 6350-6358, 2016 (査読あり) (IF: 7.932, 2015/2016)
- * コファーストオーサーです
5. Misawa A, ◎*Takayama K, Urano T, ★Inoue S: Androgen-induced lncRNA SOCS2-AS1 promotes cell growth and inhibits apoptosis in prostate cancer cells. *J Biol Chem* 291, 17861-17880, 2016 (査読あり) (IF: 4.258, 2015/2016)
- * コファーストオーサーです
6. Onodera Y, Takagi K, Miki Y, Takayama K, Shibahara Y, Watanabe M, Ishida T, Inoue S, Sasano H, Suzuki T: TACC2 (transforming acidic coiled-coil protein 2) in breast carcinoma as a potent prognostic predictor associated with cell proliferation. *Cancer Med* 5, 1973-82, 2016 (査読あり) (IF: 2.915, 2015)
7. Aihara H, Nakagawa T, Mizusaki H, Yoneda M, Kato M, Doiguchi M, Imamura Y, Higashi M, Ikura T, Hayashi T, Kodama Y, Oki M, Nakayama T, Edwin Cheung, Aburatani H, Takayama K, Koseki H, Inoue S, Takeshima Y, Ito T: Histone H2A T120 Phosphorylation Promotes Oncogenic Transformation via Upregulation of Cyclin D1. *Mol Cell* 64, 176-188, 2016 (査読あり) (IF: 13.958, 2015/2016)
8. Yamada Y, Takayama K, Fujimura T, Ashikari D, Obinata D, Takahashi T, Ikeda K, Kakutani S, Urano T, Fukuhara H, Homma Y, ★Inoue S: A novel prognostic factor TRIM44 promotes cell proliferation and migration, and inhibits apoptosis in testicular germ cell tumor. *Cancer Science* (in press). DOI: 10.1111/cas.13105. epub 2016 Oct (査読あり) (IF: 3.896, 2015/2016)
9. Momozawa Y, Akiyama M, Kamatani Y, Arakawa S,

- Yasuda M, Yoshida S, Oshima Y, Mori R, Tanaka K, Mori K, Inoue S, Terasaki H, Yasuma T, Honda S, Miki A, Inoue M, Fujisawa K, Takahashi K, Yasukawa T, Yanagi Y, Kadonosono K, Sonoda K, Ishibashi T, Takahashi A, Kubo M: Low-frequency coding variants in CETP and CFB are associated with susceptibility of exudative age-related macular degeneration in the Japanese population. *Human Mol Genetics* (in press) DOI: 10.1093/hmg/ddw335. epub 2016 Oct (査読あり) (IF: 5.985, 2015/2016)
- Nagai S, Ikeda K, Horie-Inoue K, Shiba S, Nagasawa S, Takeda S, ★Inoue S: Estrogen modulates exercise endurance along with mitochondrial uncoupling protein 3 downregulation in skeletal muscle of female mice. *Biochem Biophys Res Commun* 480(2016), 758-764, 2016 (査読あり) (IF: 2.371, 2015)
 - Yamada Y, Nakagawa T, Sugihara T, Horiuchi T, Yoshizaki U, Fujimura T, Fukuhara H, Urano T, Takayama K, Inoue S, Kume H, Homma Y: Prognostic value of CD66b positive tumor-infiltrating neutrophils in testicular germ cell tumor. *BMC Cancer* 18,16(1), 898, 2016 (査読あり) (IF: 3.265, 2015/2016)
 - Misawa A, ◎*Takayama K, Fujimura T, Homma Y, Suzuki Y, ★Inoue S: Androgen-induced lncRNA POTEV-AS1 regulates apoptosis related pathway to facilitate cell survival in prostate cancer cells. *Cancer Sci* DOI: 10.1111/cas.13151. epub 2016 December (査読あり) (IF: 3.896, 2015/2016) *コファーストオーサーです
 - Shibata Y, Tokunaga F, Goto E, Komatsu G, Gohda J, Saeki Y, Tanaka K, Takahashi H, Sawasaki T, Inoue S, Oshiumi H, Seya T, Nakano H, Tanaka Y, Iwai K, Inoue JI HTLV-1 Tax Induces Formation of the Active Macromolecular IKK Complex by Generating Lys63- and Met1-Linked Hybrid Polyubiquitin Chains. *PLoS Pathog* 13, e1006162, 2017 (査読あり) (IF: 7.003, 2015/2016)

(2) 総説

- ◎Takayama K, ★Inoue S: The emerging role of non-coding RNA in prostate cancer progression and its implication on diagnosis and treatment. *Brief Funct Genomics* 15(3), 257-265, 2016 (査読あり) (IF: 3.124, 2015/2016)

3 著書等

- ◎Azuma K, ★Inoue S: Vitamin K, SXR, and GGCX. (2016) Vitamin K2, (edited by Lipovic E) InTech, (in press) ISBN 978-953-51-4691-9 accepted on Apr 27, 2016
- ◎Takayama K, ★Inoue S: Investigation of androgen receptor signaling pathways with epigenetic machinery in prostate cancer.(2016) Molecular Oncology: Underlying Mechanisms and Translational, (edited by Farooqi A and Muhammad I) Springer International, (in press)

分子老化制御

1 学会発表

(1) 海外

- Ishigami A: Abnormal protein citrullination in Alzheimer's disease. 11th Asia-Pacific Microscopy Con-

ference (APMC11) INVITED SYMPOSIUM: A-8 Cognitive Science, Phuket Graceland Resort and Spa, Phuket, Thailand, 2016.5.23-27 (**Invited Lecture**)

- Kondo Y, Kasahara Y, Ishigami A: SMP30/SOD1-double knockout mice manifest increased oxidative stress, hepatic steatosis, and premature death. The American Aging Association's 45st Annual Meeting, Seattle, WA, USA, 2016.6.2-5
- Amano A, Kondo Y, Kasahara Y, Ishigami A: Disruption of Cyp19 gene leads to hepatic steatosis in male aromatase-knockout mice. The American Aging Association's 45st Annual Meeting, Seattle, WA, USA, 2016.6.2-5
- Ishigami A: Citrullinated glial fibrillary acidic protein in Alzheimer's diseased brains. 2016 Spring International Conference of the Korean Society for Gerontology and the 15th Korea-Japan Gerontologist Joint Meeting, Hotel Laonzena, Convention Hall, Daegu, Korea, 2016.6.15-17 (**Invited Lecture**)
- Ishigami A, Kasahara Y, Kondo Y: SMP30/SOD1-double knockout mice manifest increased oxidative stress, hepatic steatosis, and premature death. Asian Society of Aging Research Symposium 2017, Sapporo Grand Hotel, Sapporo (Hokkaido) Japan, 2017. 3.2-5

(2) 国内

- 高橋経太, 柳井修一, 下門顕太郎, 石神昭人: コーヒーの摂取が老化に及ぼす影響. 第70回日本栄養・食糧学会, 武庫川女子大学中央キャンパス, 神戸, 2016.5.13-15
- 天野晶子, 近藤嘉高, 石神昭人: シトルリン化タンパク質を検出する臨床検査試薬の開発. TOBIRA第5回研究交流フォーラム, ソラシティカンファレンスセンター内ソラシティホール, 東京, 2016.5.23
- 近藤嘉高, 増富裕文, 野田義博, 小澤裕介, 高橋経太, 半田節子, 丸山直記, 清水孝彦, 石神昭人: ダブルノックアウトマウスは酸化ストレスが増加して脂肪肝を呈する. 日本基礎老化学会第39回大会, 神奈川県伊勢原市民文化会館 (小ホール), 神奈川, 2016.5.27-28
- 天野晶子, 近藤嘉高, 野田義博, 町田修一, 尾林博, 石神昭人: エストロゲン合成酵素であるアロマトラーゼ (Cyp19) の遺伝子欠損による脂質代謝への影響. 日本基礎老化学会第39回大会, 神奈川県伊勢原市民文化会館 (小ホール), 神奈川, 2016.5.27-28
- 下吉里実, 竹本大輔, 増富裕文, 岸本祐樹, 天野晶子, 小野佳子, 柴田浩志, 石神昭人: セサミンは抗酸化、抗炎症を介して加齢に伴う腎機能低下を抑制する. 日本基礎老化学会第39回大会, 神奈川県伊勢原市民文化会館 (小ホール), 神奈川, 2016.5.27-28
- 河島早紀, 永田喜三郎, 吉田雅幸, 斉藤紀克, 大澤肇, 栗田克己, 石神昭人: 経皮吸収したビタミンCによる紫外線 (UVB) 細胞傷害の抑制効果. 日本ビタミン学会第68回大会, 富山国際会議場, 富山, 2016.6.17-18
- 國村有弓, 岩田衣世, 石神昭人, 小澤一史: 雌雄ラットの加齢に伴うLHパルス分泌機構の変化. 第33回内分泌代謝学サマーセミナー, 柳川藩主立花邸 御花, 福岡, 2016.7.9-11
- 丸岡弘, 金村尚彦, 国分貴徳, 田中健一, 村田健児, 松本純一, 善田聡史, 石神昭人: 虚血モデルマウスにおける血管新生から見た運動やビタミンC摂取の影響. 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京国際

フォーラム, 東京, 2016.7.16-17

9. 石神昭人, 丸山直記, 佐藤匡, 瀬山邦明, 高橋和久: 喫煙によるCOPD発症機構の解明及びビタミンCによる予防, 治療効果の検証. 第31回喫煙科学研究財団発表会, 京王プラザホテル, 東京, 2016.7.20
10. Masutomi H, Kawashima S, Shimokado K, Ishigami A: Dibutyryl-cAMP induced PAD expressions via PKA pathway in human astrocytoma U-251MG cells. 第39回日本神経科学大会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2016.7.20-22
11. 藤井嵩子, 川西範明, 石神昭人, 町田修一: 女性ホルモンが骨格筋の量および質に及ぼす影響. 第二回日本筋学会学術集会, 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター, 東京, 2016.8.5-6
12. 若命浩二, 小松健一, 石神昭人, 増富裕文, 荘庭哲哉, 小林沙織: ビタミンC合成不全マウスを用いたサンタベリーの内臓及び皮膚に対する機能障害の予防効果. 第5回「エビデンスに基づく統合医療研究会[eBIM研究会], リーガロイヤルNCB (中之島センタービル), 大阪, 2016.9.3-4
13. 國村有弓, 岩田衣世, 石神昭人, 小澤一史: 雌雄ラットにおけるLHパルス分泌機構の加齢変化. 第109回日本繁殖生物学学会大会, 麻布大学, 神奈川, 2016.9.12-15
14. 石神昭人: はじめに, フォーラム: 加齢性疾患とスーパーオキシドジスムターゼ (SOD) 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27 (オーガナイザー)
15. 近藤嘉高, 石神昭人: SOD1欠損とアスコルビン酸不足が脂質代謝に及ぼす影響. フォーラム: 加齢性疾患とスーパーオキシドジスムターゼ (SOD) 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27
16. 天野晶子, 近藤嘉高, 野田義博, 町田修一, 尾林博, 石神昭人: アロマトーゼノックアウトマウスを用いたエストロゲン欠乏が肝臓での脂質代謝に及ぼす影響. 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27
17. 河島早紀, 永田喜三郎, 佐藤安則, 吉田雅幸, 石神昭人: ヒト培養表皮を用いた紫外線照射による細胞傷害に対するビタミンCの効果. 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27
18. 成田昂平, 近藤嘉高, 増富裕文, 吉田雅幸, 石神昭人: マウス骨格筋でのペプチジルアルギニンデアミナーゼ2(PAD2)の局在性. 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27
19. 滝沢晶子, 天野晶子, 町田修一, 相垣敏郎, 石神昭人: ビタミンC合成不全マウスを用いたビタミンCの欠乏が骨格筋に及ぼす影響. 第89回日本生化学会大会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2016.9.25-27
20. 國村有弓, 岩田衣世, 石神昭人, 小澤一史: 雌雄ラットにおける加齢によるLHパルス分泌機構の変化. 第43回日本神経内分泌学会学術集会, アクトシティ浜松 コンgressセンター, 浜松, 2016.10.14-15
21. 石神昭人, 河島早紀: ヒト培養表皮を用いた紫外線傷害に対するビタミンCの効果. 第151回ビタミンC研究委員会, お茶の水女子大学, 東京, 2016.10.29
22. 滝沢晶子, 相垣敏郎, 石神昭人: ビタミンCの欠乏が骨格筋に及ぼす影響. 首都大バイオコンファレンス2016, 首都大学東京, 東京, 2016.11.18
23. 近藤嘉高, 成田昂平, 石神昭人: 新規に開発した抗化学

修飾シトルリン化モノクローナル抗体を用いた脳におけるシトルリン化タンパク質の検出. 第39回日本分子生物学学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.11.30-12.2

24. 河島早紀, 永田喜三郎, 佐藤安則, 吉田雅幸, 石神昭人: ヒト培養表皮を用いた紫外線照射によるビタミンCの細胞傷害抑制効果. 第39回日本分子生物学学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.11.30-12.2
25. 成田昂平, 近藤嘉高, 増富裕文, 吉田雅幸, 石神昭人: マウス骨格筋におけるペプチジルアルギニンデアミナーゼ2 (PAD2)の生化学的解析. 第39回日本分子生物学学会年会, パシフィコ横浜, 横浜, 2016.11.30-12.2
26. 増富裕文, 若命浩二, 中田章史, 佐藤恵亮, 小松健一, 内山博允, 長島孝行, 滝野有花, 石神昭人: RNA-seq解析によるビタミンCの不足が毛周期に与える影響. 第20回バイオ治療法研究会学術集会, 電気ビル 共創館 みらいホール&カンファレンス, 福岡, 2016.12.10
27. 増富裕文, 糸山隆一, 石原克之, 伊藤政喜, 石神昭人: 中高齢マウスを用いた餌中タンパク質含量の違いによる筋再生への影響. 日本農芸化学会2017年度大会, ウェスティン都ホテル京都/京都女子大学, 京都, 2017.3.17-20
28. 若命浩二, 小松健一, 増富裕文, 石神昭人: SMP30/GNLノックアウトマウスのビタミンC不足は生体内の炎症反応と皮膚老化を促進する. 日本薬学会第137年会, 仙台国際センター/東北大学川内北キャンパス, 仙台, 2017.3.24-27
29. 國村有弓, 岩田衣世, 石神昭人, 小澤一史: 雌雄ラットのパルス状LH分泌と弓状核キヌペプチン, ニューロキニンB, ダイノルフィンニューロン発現の加齢変化に関する研究. 第122回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎大学坂本キャンパス, 長崎, 2017.3.28-30

2 誌上发表

(1) 原著

1. Sato Y, Uchida E, Aoki H, Hanamura T, Nagamine K, Kato H, Koizumi T, ★Ishigami A: Acerola (Malpighia emarginata DC.) juice intake suppresses UVB-induced skin pigmentation in SMP30/GNL knockout hairless mice. PLoS One (in press) (査読あり) (impact factor 3.057, 2015)
2. Umeda N, Matsumoto I, Tanaka Y, Kawaguchi H, Ebe H, Kagami Y, Ishigami A, Sumida T: Anti-cyclic citrullinated glucose-6-phosphate isomerase peptide-7 (CCG-7) antibodies were suppressed by biologics treatment and deposited to citrullinated proteins in CD68-positive cells in the RA synovium. Mod Rheumatol. (in press) (査読あり) (impact Factor: 1.843, 2015)
3. ©Takahashi K, Yanai S, Shimokado K, ★Ishigami A: Coffee consumption in aged mice increases energy production and decreased hepatic mTOR levels. Nutrition (in press) (査読あり) (impact Factor: 2.839, 2015)
4. Shuto T, Kamei S, Nohara H, Fujikawa H, Tasaki Y, Sugahara T, Ono T, Matsumoto C, Sakaguchi Y, Maruta K, Nakashima R, Kawakami T, Suico MA, Kondo Y, Ishigami A, Takeo T, Tanaka KI, Watanabe H, Nakagata N, Uchimura K, Kitamura K, Li JD, Kai H: Pharmacological and genetic reappraisals of protease and oxidative stress pathways in a mouse model of obstructive lung diseases. Sci Rep. 2016 Dec 16;6:39305. (査読あり) (impact Factor: 5.228, 2015)
5. Koizumi M, Kondo Y, Isaka A, Ishigami A, Suzuki E: :

- Vitamin C impacts anxiety-like behavior and stress-induced anorexia relative to social environment in SMP30/GNL knockout mice. *Nutrition Research* (in press) (査読あり) (impact Factor: 2.523, 2015)
6. Sase T, Arito M, Onodera H, Omoteyama K, Kurokawa MS, Kagami Y, Ishigami A, Tanaka Y, Kato T. : Hypoxia-induced production of peptidylarginine deiminases and citrullinated proteins in malignant glioma cells. *Biochem Biophys Res Commun*. (in press) (査読あり) (impact Factor: 2.371, 2015)
 7. Kunimura Y, Iwata K, Ishigami A, Ozawa H. : Age-related alterations in hypothalamic kisspeptin, neurokinin B, and dynorphin neurons and in pulsatile LH release in female and male rats. *Neurobiol Aging*. (in press) (査読あり) (impact Factor: 5.153, 2015)
 8. ©Masutomi H, Kawashima S, Kondo Y, Uchida Y, Jang B, Choi EK, Kim YS, Shimokado K, ★Ishigami A. : Induction of peptidylarginine deiminase 2 and 3 by dibutyryl cAMP via cAMP-PKA signaling in human astrocytoma U-251MG cells. *J Neurosci Res*. (in press) (査読あり) (impact factor 2.689, 2015)
 9. Wizeman JW, Nicholas AP, Ishigami A, Mohan R. : Citrullination of glial intermediate filaments is an early response in retinal injury. *Mol Vis*. (in press) (査読あり) (impact factor 2.110, 2015)
 10. Lee KM, Lee Y, Chun HJ, Kim AH, Kim JY, Lee JY, Ishigami A, Lee J. : Neuroprotective and anti-inflammatory effects of morin in a murine model of Parkinson's disease. *J Neurosci Res*. (in press) (査読あり) (impact factor 2.689, 2015)
 11. Kadowaki S, Shishido T, Sasaki T, Sugai T, Narumi T, Honda Y, Otaki Y, Kinoshita D, Takahashi T, Nishiyama S, Takahashi H, Arimoto T, Miyamoto T, Watanabe T, Ishigami A, Takeishi Y, Kubota I. : Deficiency of Senescence Marker Protein 30 Exacerbates Cardiac Injury after Ischemia/Reperfusion. *Int J Mol Sci*. 17(4). pii: E542. (2016) (査読あり) (impact factor 3.257, 2015)
 12. Nishijima, K., Ohno, T., Amano, A, Kishimoto, Y., Kondo, Y, Ishigami, A, Tanaka, S. : Bone Degeneration and Its Recovery in SMP30/GNL-Knockout Mice. *J. Nutr. Health Aging*. (in press) (査読あり) (impact factor 2.996, 2015)
 13. Takahashi R, Ishigami A, Kobayashi Y, Nagata K. : Skewing of peritoneal resident macrophages toward M1-like is involved in enhancement of inflammatory responses induced by secondary necrotic neutrophils in aged mice. *Cell Immunol*. 304-305, 44-48 (2016) (査読あり) (impact factor 2.399, 2015)
 14. Yamauchi H, Miura S, Owada T, Saitoh S, Machii H, Yamada S, Ishigami A, Takeishi Y. : Senescence marker protein-30 deficiency impairs angiogenesis under ischemia. *Free Radic Biol Med*. 94, 66-73 (2016) (査読あり) (impact factor 5.784, 2015)
 15. ©Takahashi K, Takisawa S, Shimokado K, Kono N, Arai H, ★Ishigami A. : Age-related changes of vitamin E: α -tocopherol levels in plasma and various tissues of mice and hepatic α -tocopherol transfer protein. *Eur J Nutr*. (in press) (査読あり) (impact factor 3.239, 2015)
 16. Takahashi R, Totsuka S, Ishigami A, Kobayashi Y, Nagata K. : Attenuated phagocytosis of secondary ne-

croctic neutrophils by macrophages in aged and SMP30 knockout mice. *Geriatr Gerontol Int*. 16, 135-142 (2016) (査読あり) (impact factor 2.229, 2015)

17. Umeda N, Matsumoto I, Kawaguchi H, Kurashima Y, Kondo Y, Tsuboi H, Ogishima H, Suzuki T, Kagami Y, Sakyu T, Ishigami A, Maruyama N, Sumida T. : Prevalence of soluble peptidylarginine deiminase 4 (PAD4) and anti-PAD4 antibodies in autoimmune diseases. *Clin Rheumatol*. 35, 1181-1188 (2016) (査読あり) (impact factor 2.042, 2015)
18. ©Kondo Y, ★Ishigami A. : (REVIEW ARTICLE) Involvement of senescence marker protein-30 in glucose metabolism disorder and nonalcoholic fatty liver disease. *Geriatr Gerontol Int*. 16 (Suppl. 1) 4-16 (2016) (査読あり) (impact factor 2.229, 2015)
19. Kodama, Y., Kishimoto, Y., Muramatsu, Y., Tatebe, J., Yamamoto, Y., Hirota, N., Itoigawa, Y., Atsuta, R., Koike, K., Sato, T., Aizawa, K., Takahashi, K., Morita, T., Homma, S., Seyama, K., ★Ishigami, A. : Antioxidant nutrients in plasma of Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD), asthma-COPD overlap syndrome, and bronchial asthma. *Clin Repir J*. (in press) (査読あり) (impact factor 2.147, 2015)

(2) 総説

1. ★◎石神昭人 : 高容量ビタミンCと大腸ガン. *ビタミン* 90 129-132 (2016) (査読あり)
2. ★◎石神昭人 : ビタミンCと老化. *日本医師会雑誌* 144 2224 (2016) (査読あり)

生体環境応答

1 学会発表

(1) 海外

1. Iketani M, Urushibara T, Ohshiro J, Takahashi M, Kawaguchi H, Ohsawa I. Drinking of water saturated with hydrogen prevented lipopolysaccharide-induced acute injury of the liver in mice. The 12th Congress of the European Union Geriatric Medicine Society (EUGMS), Lisbon, Portugal, 2016.10.5-7.
2. Iketani M, Hata N, Ishigaki M, Sugaya M, Takahashi M, Tanaka M, Hattori S, Ohsawa I. STED imaging of super complex in mitochondrion. The 13th Conference of Asian Society for Mitochondrial Research and Medicine (ASMRM), The 16th Conference of Japanese Society of Mitochondrial Research and Medicine (J-mit), Tokyo, Japan, 2016.10.30-11.1

(2) 国内

1. 池谷真澄, 大城樹実, 漆原拓也, 高橋真由美, 川口英夫, 大澤郁朗. 水素水飲用はエンドトキシシンショックによる臓器傷害を予防する. 第39回日本基礎老化学会大会, 伊勢原, 2016.5.27-28
2. 畑七瀬, 石垣匡也, 菅谷麻希, 池谷真澄, 高橋真由美, 田中雅嗣, 服部成介, 大澤郁朗. ミトコンドリア上における呼吸鎖スーパーコンプレックスの可視化. 第39回日本基礎老化学会大会, 伊勢原, 2016.5.27-28
3. 高橋真由美, 大澤郁朗, 白澤卓二, 高橋和秀. 老齢マウスにおける運動機能低下および運動皮質でのリン酸化 α -synuclein蓄積増加のcoenzyme Qによる回復. 第39回日本基礎老化学会大会, 伊勢原, 2016.6.13-14

4. 池谷真澄、大城樹実、漆原拓也、高橋真由美、川口英夫、大澤郁朗. 水素水はリポ多糖による敗血症を予防する. 第6回日本分子状水素医学生物学会, 横浜, 2016.5.28-29
5. 寺崎泰弘、國保成暁、漆山博和、寺崎美佳、功刀しのぶ、丸山基世、秋元敏雄、大澤郁朗、金澤智、清水章. D1CCマウスリウマチモデルの肺病変の病理形態学的な解析と高濃度水素分子(H₂)水飲水の病変に対する効果. 第6回日本分子状水素医学生物学会, 横浜, 2016.5.28-29
6. 大澤郁朗. ミトコンドリア酸化ストレス防御の破綻と認知症. ケノム創薬・医療フォーラム第6回談話会、招待講演, 東京, 2016.6.30
7. 五十嵐勉、大澤郁朗、小林舞香、鈴木久晴、高橋浩. 白内障手術時の超音波由来フリーラジカルによる角膜内皮障害に対する水素の有用性. 第70回臨床眼科学会, 京都, 2016.11.3-6.
8. 池谷真澄、漆原拓也、大城樹実、高橋真由美、川口英夫、大澤郁朗. 高濃度水素水の事前投与はリポ多糖による急性肝障害を予防する. *Frontiers in aging research toward healthy longevity* ~健康長寿をめざした老化研究の最前線~. 東京, 2016.11.17
9. 高橋真由美、大澤郁朗、白澤卓二、高橋和秀. 水溶性コエンザイムQは老齢マウスにおける運動機能低下を改善しリン酸化 α -synucleinの運動皮質への蓄積を抑制する. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30-12.2
10. 漆原拓也、池谷真澄、大城樹実、高橋真由美、川口英夫、大澤郁朗. 水素水飲用はリポ多糖により引き起こされる肝機能障害を予防する. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30-12.2
11. 池谷真澄、畑七瀬、石垣匡也、菅谷麻希、高橋真由美、田中雅嗣、服部成介、大澤郁朗. 超解像G-STED顕微鏡を用いたミトコンドリア呼吸鎖スーパーコンプレックスの可視化. 第39回日本分子生物学会年会, シンポジウム, 横浜, 2016.11.30-12.2
12. 高橋真由美、井上律子、三浦正巳、大澤郁朗、白澤卓二、高橋和秀. 水溶性コエンザイムQは老齢マウス運動皮質におけるリン酸化 α -synucleinの蓄積を抑制し運動機能低下を改善する. 日本コエンザイムQ協会第14回研究会, 八王子, 2017.2.7

2 誌上発表

(1) 原著

1. Hamanoue M, Morioka K, Ohsawa I, Ohsawa K, Kobayashi M, Tsuburaya K, Akasaka Y, Mikami T, Ogata T, Takamatsu K. Cell-permeable p38MAP kinase promotes migration of adult neural stem/progenitor cells. *Sci Rep*. 6:24279, 2016. (査読あり) (IF : 5.228, 2015)
2. ©Ishigaki M, Iketani M, Sugaya M, Takahashi M, Tanaka M, Hattori S, ★Ohsawa I. STED super-resolution imaging of mitochondria labeled with TMRM in living cells. *Mitochondrion*. 28:79-87, 2016. (査読あり) (IF : 3.647, 2015)
3. ©Takahashi K, Ohsawa I, Shirasawa T, ★Takahashi M. Early-onset motor impairment and increased accumulation of phosphorylated α -synuclein in the motor cortex of normal aging mice are ameliorated by coenzyme Q. *Exp Gerontol*. 81:65-75, 2016. (査読あり) (IF : 3.350, 2015)
4. Igarashi T, Ohsawa I, Kobayashi M, Igarashi T, Suzuki H, Iketani M, Takahashi H. Hydrogen prevents corneal endothelial damage in phacoemulsification cataract

surgery. *Sci Rep*. 6:31190, 2016. (査読あり) (IF : 5.228, 2015)

5. ©Iketani M, Ohshiro J, Urushibara T, Takahashi M, Arai T, Kawaguchi H, ★Ohsawa I. Preadministration of Hydrogen-Rich Water Protects Against Lipopolysaccharide-Induced Sepsis and Attenuates Liver injury. *Shock*. 2016 [Epub ahead of print] (査読あり) (IF : 3.753, 2015)
6. ©Iketani M, Yokoyama T, Kurihara Y, Strittmatter SM, Goshima Y, Kawahara N, Takei K. Axonal branching in lateral olfactory tract is promoted by Nogo signaling. *Sci Rep*. 2016. doi: 10.1038/srep39586. (査読あり) (IF : 5.228, 2015)

(2) 総説

1. ©Iketani M, ★Ohsawa I. Molecular Hydrogen as a Neuroprotective Agent. *Curr Neuropharmacol*. 2016. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF : 3.048, 2015)

3 著書等

1. 大澤郁朗. 水素水で動脈硬化が緩和した！ 半信半疑を覆した驚きの実験結果. iRONNA,産経デジタル, <http://ironna.jp>, 2016.
2. 大澤郁朗. 超解像顕微鏡で見たミトコンドリアの内側. 耳寄り研究情報, 東京都健康長寿医療センター研究所, http://www.tmgig.jp/J_TMIG/topics/index.html, 2016.
3. Kazuhide Takahashi, Ikuroh Ohsawa, Takuji Shirasawa, Mayumi Takahashi. Early-onset motor impairment and increased accumulation of phosphorylated α -synuclein in the motor cortex of normal aging mice are ameliorated by coenzyme Q. *World Biomedical Frontiers neuroscience*. 2016-9-23, <http://biomedfrontiers.org/neuro-2016-9-23/>, 2016.

受賞

健康長寿ゲノム探索

1. 井上聡：第二回日本骨免疫学会優秀演題賞「エクソソームを介してがんの免疫エスケープを引き起こすEBAG9の新しい作用メカニズムと骨における役割」 2016.7.8
2. 東浩太郎：第16回日本抗加齢医学会総会最優秀演題賞「核内受容体SXR/PXRおよび新規応答遺伝子Fam20aを介するビタミンKの関節軟骨に対するアンチエイジング作用」 2016.6.12
3. 東浩太郎：第一回日本骨代謝学会Skeletal Science Retreat 優秀ディスカッション賞 2016.11.27

老化脳神経科学研究チーム

チームリーダー：遠藤 昌吾

1 研究チームの概要・目的

脳神経系は、痛みや排泄のような基本的な機能に加え運動や記憶のような高次の機能を支えている。それゆえ、老化、疾病、外傷等により引き起こされる脳神経系の障害は、患者の日常生活に極めて重大な問題を引き起こす。脳神経系の機能を支えるメカニズムは不明な点が多く残され、その解明は重要である。

基盤研究グループに属する本研究チームでは、「脳・神経系に生じる障害を克服して、超高齢化社会におけるサクセスフルエイジングを達成する」ことを目的として、**老化研究や疾病研究の基盤となる成果を目指し、その応用も視野に入れて研究を行っている**。中期目標では「認知症医療」が重点医療3本柱のひとつとして掲げられている。本チームでは、テーマ独自の研究に加えて、**認知症に重要な役割を果たすAChそして嗅覚と認知症の関係の研究（自律神経）、ドーパミンと皮質下認知症の研究（神経生理）、cAMPと記憶障害改善（記憶神経）**とそれぞれの得意分野を基盤とした認知症関連の研究も積極的に行っている。

3テーマが扱う主な研究内容は以下の通りである；

自律神経機能

1. 自律神経機能の老化とその制御

自律神経機能の加齢変化の特徴を、動物実験において明らかにし、自律神経系の活動を制御する方法を究明することを目的としている。

2. 脳内コリン作働系機能とその制御

コリン作働性ニューロン及びコリン作働性受容体の役割を明らかにし、加齢に伴うコリン作働性機能の低下を予防・改善する方法を見つけることを目的としている。

神経生理

1. 大脳皮質—大脳基底核—視床連関動態の生理学的解析

皮質—大脳基底核—視床連関の生理学的性質を明らかにし、パーキンソン病などにおける記憶・学習能力低下の病態やその他の精神神経疾患の病態を明らかにすることを目指す。

2. 神経精神疾患の病態生理研究

病態モデルマウスの解析を通じて病気の発症のメカニズムの解明、さらには治療法策定への貢献を目指す。

記憶神経科学

1. アルツハイマー病の研究

アルツハイマー病の原因と考えられているABオリゴマーによる遺伝子発現異常が引き起こすニューロン変性の機構を解明する。そして、その遺伝子異常発現の抑制を介した病気の進行阻止をめざしている。

2. 記憶・学習機構の研究

記憶や記憶を支える神経可塑性の機構を融合的研究で解析し、記憶障害の治療そして記憶の基礎的理解を目指している。特に、記憶に重要なcAMP系の研究を推進している。

2 今後の展望

チーム全体で、今年度発表した**査読付き英語論文数は20報**を越えている。自律神経からはPLoS ONE誌、Scientific Reports誌、Neuroscience誌、神経生理からはNeuron誌、Neuropharmacology誌、記憶神経からはNeuropharmacology誌、3報のScientific Reports誌、Behavioral Brain Research誌など、IF5前後の雑誌への掲載が相次いでおり、基盤研究グループとして質の高い研究が感じられる。評価の重要尺度となる**査読付き英語論文の発表数**は2013年度12報、2014年度14報、2015年度は15報、今年度は21報と、競争の激しい神経科学の分野で業績を上げ、IF5前後の論文もコンスタントに出版している。中期計画最終年度に向けて業績は順調である。

今年度は、**神経生理の井上律子研究員が理事賞奨励賞を受賞**した。研究所を担う次世代の若手も順調に育っている。

神経科学は融合的研究が重要である。それぞれのテーマが活発に研究所内外の多数の研究者との共同研究をすすめている事は、本チームが有する技術や知識が融合研究のために重要な役割を果たす貴重な資源である事を示している。独立性の高い3テーマの集まりではあるが、チーム内にこだわらずセンター内の他テーマ、外部研究者との相互作用が、結果として現れていることが感じられる。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

自律神経機能

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
自律神経機能の老化とその制御	自律神経反応の研究により、内臓機能を司る自律神経機能の加齢変化とその制御法としての様々な物理療法の有効性の検証およびメカニズムの解明を目指す	高齢者に多い慢性痛の実験モデルの開発、および痛みと内臓機能との関連性の解析	慢性の痛みによる内臓機能障害の特徴とその機序としての自律神経系の可塑性変化の解析	慢性の痛みで生じる自律神経系の可塑性変化の機序および神経可塑性と内分泌系の相互作用の解析	慢性痛における自律神経障害に対する物理療法の影響の解析とその機序としての脳脊髄シグナル伝達の解析	老齢に伴う自律神経系の可塑性変化と慢性痛・内臓機能障害との関連性の解析と物理療法の有用性の解析
認知機能に関わる脳内コリン作動性ニューロンの機能とその制御	認知機能に重要な大脳皮質や海馬にアセチルコリンを放出する前脳基底部コリン作動性ニューロンの機能、および賦活法の開発とそのメカニズムの解明を目指す	脳内コリン作動系の賦活法として咀嚼の有用性の解析と体性感覚刺激との相違の解析	脳局所血流を指標とした咀嚼に伴うコリン作動系活性化の特徴とそのメカニズムの解析	咀嚼に伴うコリン作動系活性化に関わる体性感覚と前脳基底部とを結ぶ神経回路の解析	脳局所血流や脳血管径のリアルタイム観察によるコリン作動系の血管制御メカニズムの解析	脳局所血流調節における前脳基底部コリン作動系活性化と抗認知症薬の関連性の解析

記憶神経科学

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
記憶改善薬	認知症等の高齢者疾患により障害を受ける記憶に着目して新たな視点から解析し、記憶改善治療に資する研究を目指す	記憶評価法の確立、および、細胞内情報伝達系活性化薬の標的分子に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の分子・細胞機構の研究、および、記憶への効果の研究	細胞内情報伝達系活性化薬の記憶への効果、および、病態モデル動物への影響に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の病態モデル動物への影響に関する研究	細胞内情報伝達系活性化薬の効果の分子機構に関する研究
記憶の分子機構	老化により大きな影響を受ける記憶に着目し、その細胞機構、分子機構を解析し、記憶改善治療に資することを旨とする	小脳依存性記憶モデルの確立、および、遺伝子改変動物作出のための研究	小脳依存性記憶モデルにおける記憶の操作法の確立、および、遺伝子改変動物作出のための研究	遺伝子改変動物の作出と小脳依存性記憶に関する分子の生化学的・細胞生物学的解析	遺伝子改変動物の作出、小脳依存性記憶の解析および、記憶に關与する分子の生化学的・細胞生物学的解析	遺伝子改変動物を用いた記憶の分子機構の解析および、記憶障害改善の標的分子候補に関する研究
認知症バイオマーカー	認知症の発症機構の解析と認知症の進行度を示すバイオマーカーの探索	可溶性βアミロイドによる細胞内情報伝達系の変化を解析する	可溶性βアミロイドによる細胞内情報伝達系の変化の解析と、神経変性の分子機構の解明	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出方法の開発：単クローン抗体の作成	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出方法の開発：単クローン抗体の作成とポリクローナル抗体の作製	髄液バイオマーカー候補分子の高感度検出法を使った患者髄液でのバイオマーカーの測定

神経生理

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
線条体の局所神経回路とドーパミン、アセチルコリンの病態生理	常同行動モデル動物を作製し、神経レベルで調べることで、皮質下認知症や行動異常の病態解明と治療法策定に役立てる。	行動異常を示すモデル動物を作製し、組織学的に妥当性を検討する。	行動異常モデル動物の線条体投射ニューロンへのドーパミンの作用を調べる。	コリン作動性ニューロンに対するニコチン受容体作動薬の効果調べる。	行動異常の神経活動を調べ、病態に關連する線条体機能領域を明らかにする	神経活動の変化を是正することで行動異常が回復するかを調べる。
吸入麻酔の作用機序と副作用の病態生理	麻酔導入時の興奮期、覚醒後の逆行性健忘などの病態を調べ、副作用の予防軽減に役立てる。	吸入麻酔薬の作用を調べる実験系を確立する。	麻酔導入時の興奮期のメカニズムを調べる。	吸入麻酔薬のコリン作動性ニューロンへの効果を調べる。	虚血時の保護作用とKATPチャネルへの影響を調べる。	吸入麻酔薬が虚血耐性をもたらすかを調べる。
認知機能障害をもたらす「正常圧水頭症」関連物質LRG1とシナプス可塑性	認知機能障害をもたらす、かつ治療可能な正常圧水頭症の関連物質LRG1の作用機序を調べ、診断治療に役立てる。	正常圧水頭症可関連物質LRG1の過剰発現の影響を調べる。	LRG1過剰による海馬可塑性の変化と学習障害を検索する。	LRG1と相互作用する分子の検出と可塑性の関係を調べる。	LRG1の過剰発現モデルを長期間観察し、水頭症の発生の有無を調べる	LRG1に關連したシグナル伝達経路の異常による疾患を広く検索する。
新たなドーパミンシグナル伝達系と行動および神経活動の変化	新たなドーパミンシグナル伝達系が神経活動に及ぼす影響を調べ、認知症の新たな治療法策定に役立てる。		持続的にドーパミンシグナルを活性化した動物の神経活動を調べる。	神経活動の変化をもたらすイオンメカニズムを明らかにする。	イオンチャネルの変化をもたらすシグナル伝達経路を調べる。	シグナル経路を修飾することで、神経活動と行動が回復するかを調べる

自律神経機能

構成メンバー

テーマリーダー：堀田晴美

研究員：内田さえ、渡辺信博

非常勤研究員：遠田明子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

興味深い新知見が得られ、論文発表のみならず普及還元にも努め、新知見をもとに新たな研究へのチャレンジも開始しており、概ね順調に研究が進んでいる。

認知症の早期に低下する嗅覚機能を担う、嗅球でのコリン作動性神経機能の検討が進んだ。

【その根拠】

- 1) 高齢女性の夜間頻尿に及ぼすローラー（ソマブレン）の短期刺激効果について論文発表した[原著1]。この論文は他の国際誌（J Urology）でも紹介され、プレス発表と研究所ニュースで一般市民に還元した。また、麻酔ラットの皮膚神経の電気刺激を利用して、その求心性メカニズムを明らかにし、論文発表した。
- 2) 甲状腺を支配する自律神経の電気刺激が、甲状腺・副甲状腺からのホルモン分泌を強力に調節することを明らかにした。骨粗鬆症などの骨代謝異常に対処する新規ニューロモデュレーション治療法の開発を視野に、国際特許を出願した。
- 3) 筋骨格系の痛みは、高齢者の重要な健康問題のひとつである。骨格筋の老化と自律神経との関係を調べる前段階として、麻酔した成熟ラットの下腿筋への押圧刺激により誘発される心拍数の変化とその心臓自律神経性機序を明らかにし、論文発表した。
- 4) 嗅覚調節に関わる嗅球には、認知機能調節を司る新皮質や記憶調節に重要な海馬と共通して、前脳基底部に起始するコリン作動性神経が投射する。嗅球に投射するコリン作動性神経の機能低下が、海馬や新皮質よりも早期に起こると予想し、動物実験を進めている。未知であった嗅球に投射するコリン作動性神経の生理機能を検討し、前脳基底部分（対角帯核）刺激が嗅球のアセチルコリン放出を高めることを実証した。さらに新しいレーザーバックル血流測定法を用いた実験により、前脳基底部分（対角帯核）刺激が嗅球の血流調節には殆ど関与しないものの、前頭葉や頭頂葉の血流を増加させること

を見出した。

【新しい知見】

- 1) 夜間頻尿に及ぼすローラーの効果の求心性メカニズムには、会陰部皮膚からの情報を脊髄に伝える神経のうち、カプサイシン感受性を持たないA β 、A δ 、C線維の0.1-10 Hzの活動が関与することを、陰部神経電気刺激の実験で明らかにした[原著4；国際学会3,6；国内学会2]。麻酔ラットの膀胱に生理食塩水を注入し膀胱の律動的排尿収縮を誘発した。会陰部皮膚を支配する神経に求心性に電気刺激（0.5 msのパルス）を0.1~10 Hzの頻度で1分間加えた。複合活動電位の記録から、皮膚からのA β 、A δ およびC線維を興奮させる刺激強度を決定した。A β 線維のみの刺激（0.2 V）は、いずれの頻度でも、刺激7-11分後に排尿収縮を抑制した。A δ 線維の興奮が加わる（1 V）1 Hzと10 Hzの刺激では、刺激直後からの抑制が加わった。C線維の興奮が加わる（10 V）10 Hzの刺激では、刺激直後から10分以上排尿収縮が完全に止まった。この強力な抑制は、刺激する神経にカプサイシンを局所投与してカプサイシン感受性チャンネル（TRPV1）を持つC線維の伝導をブロックしても維持された。以上の結果は、TRPV1チャンネルを持たない皮膚求心性A β 、A δ 、C線維の活動が各々、排尿収縮の抑制に寄与することを示す。ローラー（ソマブレン）による刺激は皮膚低閾値機械受容性A β 、A δ 、C線維を各々平均2 Hz、3 Hz、8 Hzで活動させることから、このローラーは、排尿収縮抑制に効果的な求心性神経活動の誘発に適した刺激を与えるツールであることがわかった。
- 2) 甲状腺・副甲状腺を支配する自律神経の電気刺激が、甲状腺・副甲状腺からのホルモン分泌を強力に調節することを明らかにした[国際学会8,9；国内学会17,22]。甲状腺・副甲状腺は、交感神経（頸部交感神経幹）と副交感神経（上喉頭神経）によって二重支配される。甲状腺・副甲状腺からのホルモン分泌は液性因子によって調節されることがよく知られているが、自律神経性調節についてはほとんどわかっていない。そこで、カルシトニン、パラソルモン、甲状腺ホルモン（T3とT4）の分泌に及ぼす自律神経の電気刺激の効果を調べた。麻酔下・人工呼吸下でラットの甲状腺静脈血と全身動脈血を採取し、これらの血漿中のホルモンの濃度を測定し、ホルモン分泌速度を算出した。まず、遠心性神経（大多数は無髄神経）の役割を調べ

るため、切断した神経の末梢部を様々な頻度（40 Hzまで）で最大上強度で刺激した。カルシトニンと甲状腺ホルモンの分泌は、交感神経刺激で減少し、上喉頭神経刺激で増加した。バラソルモンの分泌は交感神経刺激中に増加した。次に、上喉頭神経の有髄神経（大部分は求心性神経）の選択的刺激の影響を調べるため、無傷の上喉頭神経を低強度で刺激したところ、カルシトニンと甲状腺ホルモンの分泌が増加した。これらの結果は、上喉頭神経の有髄神経の刺激がおそらく反射的に副交感神経を活性化し、甲状腺からのホルモンの分泌を促進することを示唆する。

- 3) 骨格筋への押圧刺激は、心臓交感神経の活動が高い時にはこれを抑制し、活動が低い時には逆に促進して、心拍数を低下あるいは増加させることを明らかにした[原著6; 国際学会5; 国内学会8]。成熟雄ラットの心拍数を麻酔下で連続的に記録した。筋刺激として、接触面が平坦な刺激圧子（直径6 mm）を用い、ラットの下腿を10 N/cm²の強さで30秒間持続的に押圧した。下腿筋への押圧刺激は、心拍数を増加または減少させた。これらの心拍反応は、刺激前の心拍数レベルと負の相関を示した。筋刺激による心拍反応は、心臓交感神経切断時にほぼ消失したが、迷走神経切断では影響を受けなかった。心臓交感神経活動を記録したところ、筋刺激による心拍数の変化と平行して神経活動頻度が増加または減少した。よって、筋刺激による心拍反応は、心臓交感神経活動の変化により生じること、反応の方向は基礎レベルにより異なることが明らかとなった。
- 4) 前脳基底部（対角帯核）に起始して嗅球に投射するコリン作動性神経の刺激が、嗅球のアセチルコリン放出を高めることを、in vivoで初めて明らかにした。また前脳基底部（対角帯核）刺激が嗅球よりも、新皮質において血管拡張作用を示すことを明らかにした [国内学会3, 14-16]。さらに、ラットに加えマウスでも嗅球血流反応の検討が可能になり、老化・病態モデル動物での研究への展開の可能性が広がった [原著5]。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜皮膚刺激を利用した頻尿治療＞

自立促進と介護予防、センター病院泌尿器科、帝京平成大

＜膀胱の加齢変化＞

老化バイオマーカー、東京大

＜排尿調節と皮膚老化の関係＞

老化バイオマーカー、帝京大

＜ADモデルマウスの脳機能＞

実験動物施設、千葉大

＜体性感覚刺激と脳血流調節＞＜慢性腰痛と自律神経調節＞

ケベック大

＜大脳皮質血管調節機序＞

電通大

＜脳血流調節の加齢変化＞

慶応大、北里大

＜甲状腺・副甲状腺の神経性調節＞

GSK英国本社、CWR大

3 今後の展望

- 1) これまでの高齢女性を対象とした短期介入試験の結果をもとに、トランスレーショナル研究助成を受けて、過活動膀胱をもつ高齢男女を対象とした長期刺激効果の検討を開始した。来年度には、必要なサンプルサイズでの解析結果が得られる見込みである。
- 2) 麻酔動物を用いて、甲状腺支配の自律神経が、基礎代謝や骨代謝調節に重要なホルモン分泌を強力に調節すること、しかもその効果がごく弱い電流での電気刺激で得られることがわかり、臨床応用の可能性が見えてきた。意識下動物を用いた電気刺激実験が安全であることを他施設（米国Case Western Reserve大）へ渡辺研究員を派遣して検証済みである。次のステップとしての慢性的刺激効果を調べる準備が整っている。
- 3) 正常の成熟ラットにおいて、筋への押圧刺激による心拍数や血圧の反応が明らかになった。この系を使って、さらに炎症を起こした筋や、老化によりサルコペニアを起こした筋への刺激効果を調べる研究の見通しが立った。
- 4) 嗅覚機能が認知症のごく初期に顕著に低下する臨床所見との関連を念頭に、嗅球のコリン作動性神経機能の老化過程を新皮質や海馬と比較することにより、嗅覚機能と認知機能の関連を解明する目的が実現できると考える。

4 その他

1) 麻酔動物を用いた研究を元に、ヒトへの応用まで視野に入れ、独創的かつ老年学上重要な研究に取り組んでいる。

2) 国際学会シンポジストのみならず、日本学術振興会の外国人研究員（ニューヨーク州立大Stewart教授）の招へい、釜山大学のヘルシー

エイジング研究センターとの研究協定の締結、バイオエレクトリック医学研究開発国際プロジェクトへの参加など、国際的にも高い評価を受けている。また、Messlinger教授（ドイツ、エアランゲン大学）による所内研究セミナー（2016.9.26）を開催するなど、海外研究者と積極的に交流している。

- 3) コリン作動性神経の研究をもとに、認知症の予防法や客観的嗅覚検査法の開発に結びつけることが可能である。

記憶神経科学

構成メンバー

テーマリーダー：遠藤昌吾

研究員：五味不二也、柳井修一

技術員：新崎智子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

いずれもほぼ順調に進んでいる。

個々の研究の今年度の成果は以下の通りである；

(1) 記憶改善治療に資する研究

cAMP系はすべての細胞に存在するシグナル伝達系であり認知機能を含む様々な生理機能を制御している。cAMP系を強化する薬物シロスタゾールの記憶に対する影響及びその分子機構を詳細に研究している。今季は特に“長期投与”の作用に焦点を絞り研究を行った。シロスタゾールの長期作用を支える機構として脳内の環境改善、脳の代謝への影響が考えられる。そこで、PET+MRIの解析（豊原先生（脳機能）との共同研究）を実施した。今年度は次のことを明らかにした；

1) 通常老化マウスにおけるシロスタゾール長期投与の効果

- i) モリス水迷路課題（海馬依存性）学習を若齢マウスと同程度まで回復させたこと
- ii) 脳内グルコースの取り込みを増加させたこと（PET）
- iii) 老化に伴う海馬体積の減少を抑制した可能性があること（MRI）

2) 老化促進モデルマウスにおけるシロスタゾール長期投与の効果

- i) 記憶、学習障害を改善させたこと
- ii) 血管の健全性を維持・改善させたこと（PET）
- iii) 海馬依存性の恐怖条件付け学習を正常老化

マウスと同程度まで回復させたこと

(2) 記憶の分子機構の研究

1) Erk2と神経機能

加齢により、(1) に述べたcAMP生成系の機能が低下すること、そして、Erk2量が減少することが知られており、これらの重要なシグナル伝達系の機能低下は加齢に伴う記憶を含む認知機能低下の一因と考えられている。昨年度まで報告してきた遺伝子改変動物の作出と並行して、各種のErk1/2遺伝子改変マウスの特徴づけを行った。Erk2と約90%の相同性を持つErk1をKOしても記憶機能に影響を与えないが、Erk2の発現量を低下させたマウスでは、脳や蝸牛有毛細胞などに種々の老化関連症状が惹起されることを明らかにした。

2) 新規セカンドメッセンジャーと脳機能

ROS(活性酸素種)とNO(一酸化窒素)系の相互作用により産生される新規のセカンドメッセンジャーである8-ニトロ-cGMPが小脳プルキンエ細胞に高濃度で存在し、さらに、8-ニトロ-cGMPがcAMPやcGMPを分解するPDE(ホスホジエステラーゼ)のうちPDE3、4、7を選択的に強く阻害することを明らかにした。

(3) 認知症の進行度を示すバイオマーカーの探索

1) 神経変性の髄液バイオマーカーp3ペプチド(Calsyntenin-3の分解産物) 定量法開発

ADにおいてβ-amyloid斑周辺で、Calsyntenin-3の断片であるCTFからp3への分解が阻害されているという観察から、ADのマーカーとしてp3のtwo-site ELISAを確立した。今年度はAlphaLISA法を用いてp3定量法を改良した；p3検出感度を10→0.1ng/mlへ向上させ、必要試料量を100μl→5μlへと微量化した。髄液に適用できる感度に到達した。ヒトAD試料の解析、S/N比を増加させる方法を検討中である。

2) NSP3シグナル伝達系による神経変性の分子機構

β-amyloidにより発現が誘導されるNSP3は神経細胞死を加速させる。通常NSP3はCasと結合状態にある。しかし、NSP3が過剰発現すると十分なCasが存在しないため、Cas非結合型NSP3が生じる。このCas非結合型NSP3によるRap1Aの活性化が神経細胞死を引き起こすことを見出した。さらに、*in vivo*に近い初代培養ニューロンにおいても、通常状態では内在性のNSP3とCasが相互作用

していること、そして、過剰発現により生じるCas非結合型NSP3が神経細胞死を引き起こすことを見出した。

【その根拠】

(1)について

S. Yanai & S. Endo *Behavioural Brain Research*, 308, 187-195, 2016.

S. Yanai & S. Endo *Data in Brief*, 8, 262-266, 2016.

S. Yanai et al. *Neuropharmacology*, in press.

柳井修一ら、第39回日本神経科学大会

S. Yanai, et al. 31st International Congress of Psychology

(2)について

Y. Satoh, et al. *J. Neurosci.* 27, 10765-10776, 2007

Y. Satoh, et al. *J. Neurosci.* 31, 11953-67, 2011.

S. Yufune, et al. *Sci Rep.* 5, 102521, 2015.

T. Kurioka, et al. *Sci Rep* 5, 16839, 2015.

S. Yufune, et al. *Sci Rep.* 6, 21859, 2016.

T. Kujiraoka, et al. *J Am Heart Assoc.*, 2, e000361, 2013.

O. Imamura, et al *Genes Cell* 15, 1072-1088, 2010.

遠藤昌吾、新崎智子、藤井重元、赤池孝章、第39回日本分子生物学会年会

(3)について

五味不二也、遠藤昌吾、内田洋子、第39回日本神経科学学会大会

五味不二也、内田洋子、遠藤昌吾、第39回日本分子生物学会年会

【新しい知見】

(1) 記憶改善治療に資する研究

- i) シロスタズール長期投与が脳へのグルコース取り込みを増加させること(約30%)
老化に伴う記憶障害を改善すること
血液脳関門構成タンパク質を増加させて、
血管の健全性を改善すること
- ii) 行動解析とPET+MRIの組み合わせで記憶改善薬スクリーニング法を確立したこと

(2) 記憶の分子機構の研究

- 1) 明らかにしたErkの生理機能のうち脳機能に関連したものは以下の通りである；
 - i) **Erk2量を20%減少**させたマウスで記憶が障害されたこと
 - ii) Erk2と90%近い相同性を持つ**Erk1はKOしても記憶に影響を与えない**こと
 - iii) Erk2量が野生型の50%まで減少すると**胎生**

致死となること

- iv) サバイバルシグナルである**Erk2の障害が老化様症状を引き起こす**こと
- 2) 8-ニトロ-cGMPについては以下のことを明らかにした；
 - i) 運動記憶の中枢である**小脳プルキンエ細胞に高濃度で存在**すること
 - ii) 8-ニトロ-cGMPにより修飾された**S-グアニル化タンパク質が小脳プルキンエ細胞に高濃度で存在**すること
 - iii) **ホスホジエステラーゼ3、4、7を選択的に阻害**すること

(3) 認知症の進行度を示すバイオマーカーの探索

- 1) β -amyloid依存性のNSP3過剰発現による神経細胞死について；
 - i) NSP3過剰発現がない条件下では、**NSP3がCasと相互作用している**こと
 - ii) **Cas非結合型NSP3が神経細胞死を引き起こす**こと
 - iii) **Cas非結合型NSP3による神経細胞死にRap1Aが関与**すること
- 2) カルシネニン3の分解産物p3測定系としてAlphaLISAを応用して、
 - i) p3の**検出感度を約100倍向上**させたこと
 - ii) **必要試料量を1/20に減少**させたこと

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<記憶改善とその機構解析>

脳機能、東京農工大学

<ビタミンC/Eと記憶>

分子老化制御

<トレハロース/ロイヤルゼリーと記憶>

早稲田大学、環境老化

<ROSと記憶>

東京大学、京都大学

3 今後の展望

(1)記憶改善治療に資する研究、および、(2)記憶の分子機構の研究については、おおむね順調に進んでいる。目標実現は可能であると考えられる。次期中期計画を考える上で重要なことも見出されつつある。(3)の認知症の進行度を示すバイオマーカーの探索も、これまで順調に進んできた。ヒト試料を用いるp3の研究が外的要因のため足踏み状態である。状況は改善されつつあり、中期計画内に計画を実現させる予定である。

4 その他

第2期中期目標では認知症医療が重点医療3本柱のひとつとして掲げられている。本研究テーマでは、認知症の主病因であるアルツハイマー病を対象とした研究、認知症改善に資する研究、さらに、認知症で大きな影響を受ける記憶のメカニズムに関する研究を行っている。我々が研究対象としてきたcAMP系そしてcAMP系機能改善薬シロスタゾールの認知機能改善効果とその分子機構細胞機構の解明は独自の研究であり、今後の薬物設計や併用治療への応用が広く考えられ、臨床への寄与が期待される。さらに、cAMP系と同様にほぼすべての細胞に存在し、加齢によりタンパク質量が減少するErk2の機能の解析は、アメリカ、フランスのグループとの競争になったが、スーパーテクニシャンの活躍で我々が先んじることができた。cAMP系とErk2は、記憶だけではなく、神経保護作用等を含む様々な生理機能に重要である。疾病等による記憶機能低下とcAMP系およびErk2系機能低下の関わりとの研究へと進展させていきたい。

神経生理

構成メンバー

テーマリーダー：三浦正巳

研究員：井上律子

非常勤研究員：中内さくら

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

中期計画4年目は電気生理学的実験、行動実験、組織染色を用いた動物モデルの解析を行う体制が整い、着実にデータを得ている。大脳皮質-大脳基底核ループとドーパミン、アセチルコリンに着目した研究課題では、常同行動モデルの解析で興味深い病態を見出した。

同時に所内外との共同研究として認知機能、運動機能障害に関わる中枢神経疾患の研究を進めている。中枢性の運動機能低下と、虚血耐性に関する研究で病態に関連した知見を得ている。計画に沿って研究を進めており、妥当な進捗状況である。

【その根拠】

各課題での研究成果を論文や学会で発表するなど、ほぼ計画に沿って進行している。今年度は計6編の学会発表を行い、原著論文が1編、改訂中が1編、査読中が2編ある。

【新しい知見】

1) 行動異常に関わる線条体の神経回路基盤の研究

1-1) 線条体の4種類の投射ニューロンからの選択的記録方法を確立した

常同行動は無意味な行為の繰り返しであり、前頭側頭型認知症などでみられる行動異常である。常同行動には線条体の機能領域(ストリオソーム、マトリックス)が関わるが、細胞レベルの研究は進んでいなかった。そこで蛍光タンパクを発現させた遺伝子改変マウスを用いて、機能領域と4種類の投射ニューロンからの選択的記録方法を確立した。

1-2) アセチルコリンの作用が線条体機能領域で異なることを示した

ニコチン受容体を介したアセチルコリンの作用がマトリックス領域に優位なこと(Inoue, *Neuropharmacology* 2016, IF 4.936)、 μ オピオイド受容体刺激によるGABA性電流の抑制作用がストリオソームだけでみられることを見出した(Inoue 学会発表、ウィーン)。

1-3) 行動異常モデルの機能領域間の興奮性の変化を見いだした

常同行動モデルでは、特定の領域の投射ニューロンの興奮性が、通常とは逆に変化していることを見出した。興奮性のアンバランスな変化が、行動異常の病態にあることを示す知見である(投稿準備中)。

機能領域の興奮性の異常を是正できれば、常同行動が治療できる可能性がある。現在、これまでに見出した機能領域の生理的、薬理的な違いを応用して行動異常を是正できるかを検討中である(井上、理事長奨励費研究)。

2) 線条体コリン作動性ニューロンに対する吸入麻酔の作用機序の研究

2-1) コリン作動性ニューロンの I_h 電流への吸入麻酔薬による抑制作用

線条体のコリン作動性インターニューロンはHCNチャネルを発現しており、特徴的な I_h 電流を示す。吸入麻酔薬セボフルランは I_h 電流を減少させ、その時定数を活性化が遅くなる方向へ変化させた。

2-2) 吸入麻酔薬によるコリン作動性ニューロンの発火抑制

より生理的条件下では、吸入麻酔薬投与により、コリン作動性ニューロンの自発発火が乱れ、rebound spiking が抑制された。(論文改訂中)

吸入麻酔薬は多くの手術で用いられるが、高齢者では麻酔後の認知機能の低下をもたらす場合がある。アセチルコリンは運動や認知機能にとって

重要な機能調節因子の一つである。そのためコリン作動性ニューロンの抑制は認知機能低下をもたらすと考えられている。

生理的には I_h 電流は自発的な神経活動に寄与し、アセチルコリンの定常レベルを調節している。吸入麻酔薬による I_h 電流の抑制は、アセチルコリンを介して線条体の生理機能に影響する可能性を示した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜ハンチントン病で特異的に減少するNaチャネルの病態生理＞

同志社大学

＜吸入麻酔の作用機序と副作用の病態生理＞

順天堂大

＜認知機能障害をもたらす「正常圧水頭症」関連物質LRG1とシナプス可塑性＞

順天堂大

＜新たなドーパミンシグナル伝達系と行動および神経活動の変化＞

名古屋大

＜高齢での運動機能の低下のメカニズムと機能回復の方法の検討＞

生体環境応答

3 今後の展望

今年度は外部資金獲得と人員確保に努め、研究を進める体制を充実させた。研究成果の発表も着実にやっている。

また、引き続きチームの特性を生かすために所内外と共同研究を進めている。一部の課題では、前年度までの成果を応用する形で、行動異常の治療方法を探索する段階に入っており、概ね妥当な進行である。

4 その他

分子、神経回路や行動レベルといった研究の多面化、実験方法の複雑化により、多面的研究が必要とされ、共同研究が多くなった。研究の質をより高めるためには、それぞれの特徴を活かした所内外との連携が有効である。

テーマで得意としている脳スライス法による大脳基底核、海馬、大脳皮質の局所回路の記録は、神経回路の機能の研究に有効な方法である。特に大脳基底核の分野では、in vitroの研究を行う数少ない施設の1つである。効果的に共同研究を進めれば、病態や治療機序の理解や改良につながる事が期待できる。

論文・学会発表

自律神経機能

1 学会発表

(1) 海外

1. Hotta H. Self-care therapy for nocturia in the elderly by gentle skin stimulation. 15th Korea-Japan Joint Biogerontology Meeting, Daegu, Korea, June 15-17, 2016 (招待講演)
2. Uchida S. Somatic regulation of cortical cholinergic system in aged rats. 15th Korea-Japan Joint Biogerontology Meeting, Daegu, Korea, June 15-17, 2016 (日本基礎老化学会の代表としての招待講演)
3. Hotta H, Onda A, Suzuki H, Uchida S. Peripheral afferent mechanisms for inhibition of bladder micturition contractions by stimulating the peripheral skin in rats. 16th World Congress on Pain, Yokohama, September 26-30, 2016
4. Uchida S, Bois S, Guillemot J, Leblond H, Piché M. The relationship between cerebral blood flow and neuronal activity is altered by systemic blood pressure during nociceptive processing in the primary somatosensory cortex of the rat. 16th World Congress on Pain, Yokohama, September 26-30, 2016
5. Watanabe N, Hotta H. Mechanical pressure stimulation of the hindlimb muscles induces sympathetically - regulated heart rate responses in anesthetized rats. 16th World Congress on Pain, Yokohama, September 26-30, 2016
6. Onda A, Uchida S, Suzuki H, Hotta H. Stimulus frequency-dependent inhibition of micturition contractions of the urinary bladder by electrical stimulation of afferent A β , A δ , and C fibers in cutaneous branches of the pudendal nerve. WFAS Tokyo/Tsukuba 2016 (International Conference of World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies Tokyo/Tsukuba 2016). November 5-6, 2016
7. Limura K, Watanabe N, Masunaga K, Miyazaki S, Hotta H, Kim H, Hisajima T, Kasuya Y. Effect of gentle, self-administered stimulation of perineal skin for nocturia in elderly women: a randomized placebo-controlled double-blind crossover trial. FAS Tokyo/Tsukuba 2016 (International Conference of World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies Tokyo/Tsukuba 2016). November 5-6, 2016
8. Hotta H, Watanabe N, Onda A, Suzuki H. The neural regulation of thyroid and parathyroid glands. Bioelectronics Network Meeting, San Diego, USA, November 10-11, 2016
9. Hotta H, Onda A, Suzuki H, Sridhar A, Famm K. The neural regulation of thyroid and parathyroid glands. Neuroscience 2016, Society for Neuroscience, San Diego, USA, November 12-16, 2016

(2) 国内

1. 内田さえ. 痛みと自律神経-鍼灸治療効果に期待して - 「慢性疼痛の病態と治療戦略-難治性疼痛に対する鍼灸治療の有用性-」 基礎講座, 第43回現代医療鍼灸臨床研究会, 東京, 2016年4月29日 [招待講演]

2. 遠田明子, 鈴木はる江, 内田さえ, 堀田晴美. 過活動膀胱による高齢者の夜間頻尿を緩和する軽微な皮膚刺激の作用に関わる皮膚からの求心性神経情報. 日本基礎老化学会第39回大会, 伊勢原, 2016年5月27-28日
3. 内田さえ, 鍵谷方子. 嗅球のアセチルコリン放出と血流に対する前脳基底部刺激の影響. 日本基礎老化学会第39回大会, 伊勢原, 2016年5月27-28日
4. 内田さえ. 鍼が循環系に与える影響の神経機序研究. ワークショップ: 東洋医学と基礎医学との関わり. 第67回日本東洋医学会学術総会, 高松, 2016年6月3-5日 [招待講演]
5. 内田さえ. 体性刺激が消化器機能に及ぼす影響. シンポジウム: 鍼刺激が上部・下部消化管に及ぼす影響. 第65回(公社)全日本鍼灸学会学術大会, 札幌, 2016年6月10-12日 [招待講演]
6. 堀田晴美. 接触鍼による軽微な皮膚刺激が膀胱の排尿反射を抑制する神経性メカニズム. The 7th Japan-korea Workshop on Acupuncture and EBM: Translational Research, 第65回(公社)全日本鍼灸学会学術大会, 札幌, 2016年6月10-12日 [招待講演]
7. 飯村佳織, 渡邊信博, 榎永浩一, 宮崎彰吾, 堀田晴美, 金憲経, 久島達也, 高橋秀則, 粕谷豊. 夜間頻尿を有する高齢女性に対する会陰部領域への接触鍼による軽微な皮膚刺激を用いたセルフケアの効果—ランダム化比較2重盲検クロスオーバー試験による検討. The 7th Japan-korea Workshop on Acupuncture and EBM: Translational Research, 第65回(公社)全日本鍼灸学会学術大会, 札幌, 2016年6月10-12日 [招待講演]
8. 渡邊信博, 堀田晴美. Heart rate response to skeletal muscle mechanical pressure stimulation are sympathetically regulated in rats. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日
9. 内田さえ, 鍵谷方子. Aging of the cholinergic vasodilative response in the cerebral cortex by somatosensory stimulation. 第39回日本神経科学大会, 横浜, 2016年7月20-22日
10. 堀田晴美. 物理刺激が女性の子宮・卵巣および中枢機能に及ぼす効果について. 第44回現代医療鍼灸臨床研究会シンポジウム, 2016年11月3日 [招待講演]
11. 内田さえ. 自律神経による卵巣ホルモン分泌調節. シンポジウム: 婦人科領域と関連のある自律神経研究. 第31回日本女性医学学会学術集会, 京都, 2016年11月5-6日 [招待講演]
12. 堀田晴美. 加齢と自律神経. シンポジウム: 自律神経と体内環境. 第69回日本自律神経学会総会, 熊本, 2016年11月10-11日 [招待講演]
13. 内田さえ. 鍼刺激がラットの脳循環に及ぼす影響—基礎研究のup to date—. シンポジウム: 東洋医学における鍼刺激が脳循環に及ぼす影響—基礎と臨床の接点を探る—. 第69回日本自律神経学会総会, 熊本, 2016年11月10-11日 [招待講演]
14. 内田さえ. 認知症早期診断のための嗅覚検査法開発に向けた基盤研究. Basic study on olfactory test development for early diagnosis of dementia” Frontiers in aging research toward healthy longevity ~健康長寿をめざした老化研究の最前線~, 東京, 2016年11月17日
15. 内田さえ. 認知・記憶・嗅覚に関わる前脳基底部コリン作動性神経機能の基礎研究. 首都大バイオカンファレンス, 東京, 2016年11月18日
16. 内田さえ, 鍵谷方子. 嗅覚調節に関わる前脳基底部コリン作動性神経機能. 第44回自律神経生理研究会, 東京, 2016年12月3日
17. 堀田晴美, 遠田明子, 鈴木はる江. 甲状腺・副甲状腺の神経支配. 第44回自律神経生理研究会, 東京, 2016年12月3日
18. 内田さえ. 自律神経による卵巣ホルモン分泌調節. 第1回日本自律神経・性ホルモン研究会, 東京, 2017年1月9日 [招待講演]
19. 内田さえ. 痛みと自律神経. 千葉鍼灸師会学術講習会, 千葉, 2017年2月12日.
20. 内田さえ. 卵巣機能の自律神経性調節. 第122回日本解剖学会総会全国学術集会, 長崎, 2017年3月28-30日 [招待講演]
21. 内田さえ, 鍵谷方子. 体性感覚刺激によるエストロゲン分泌低下反応の反射中枢. 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月28-30日
22. 堀田晴美, 遠田明子, 鈴木はる江, Sridhar, A., Famm, K. 甲状腺と副甲状腺からのホルモン分泌の調節に及ぼす交感神経と副交感神経の電気刺激の影響. 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月28-30日
23. Touj S, Houle S, Ramla D, Jeffrey-Gauthier R, Hotta H, Bronchti G, Martinoli M-G, Piché M. Sympathetic regulation and anterior cingulate cortex morphology are altered by chronic back pain. 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月28-30日

2 誌上发表

(1) 原著

1. Iimura K, Watanabe N, Masunaga K, Miyazaki S, ★Hotta H, Kim H, Hisajima T, Takahashi H, Kasuya Y. Effects of a Gentle, Self-Administered Stimulation of Perineal Skin for Nocturia in Elderly Women: A Randomized, Placebo-Controlled, Double-Blind Crossover Trial. *PLoS One*,11(3):e0151726,2016. (査読あり) (IF : 3.057、2015)
2. ★◎Uchida S, Kagitani F. Sympathetic regulation of ovarian functions under chronic estradiol treatment in rats. *Auton Neurosci*,197:19-24,2016.5. (査読あり) (IF : 1.621、2015)
3. Morisaki Y, Niihara M, Watanabe M, Onishi K, Tanabe S, Moriwaki Y, Okuda T, Ohara S, Murayama S, Takao M, Uchida S, Yamanaka K, Misawa H. Selective Expression of Osteopontin in ALS-resistant Motor Neurons is a Critical Determinant of Late Phase Neurodegeneration Mediated by Matrix Metalloproteinase-9. *Sci Rep*,6:27354,2016.6.6. (査読あり) (IF : 5.228、2015)
4. ◎Onda A, Uchida S, Suzuki H,★Hotta H. Stimulus frequency-dependent inhibition of micturition contractions of the urinary bladder by electrical stimulation of afferent A β , A δ , and C fibers in cutaneous branches of the pudendal nerve. *J Physiol Sci*,66(6): 491-496,2016.11. (査読あり) (IF : 2.165、2015)
5. ★◎内田さえ, 鍵谷方子, 堀田晴美, 渡邊さおり, 三澤日出巳. 麻酔下マウスの脳局所血流に及ぼす橈骨神経電気刺激の影響. *自律神経*, 54(1): 26-33, 2017.3. (査読あり)
6. ◎Watanabe N, ★Hotta H, Heart Rate Changes in

Response to Mechanical Pressure Stimulation of Skeletal Muscles are Mediated by Cardiac Sympathetic Nerve Activity. *Front Neurosci*,10:614 (査読あり) (IF : 3.398、2015)

7. ◎Uchida S, Bois S, Guillemot JP, Leblond H, Piché M. Systemic blood pressure alters cortical blood flow and neurovascular coupling during nociceptive processing in the primary somatosensory cortex of the rat. *Neuroscience*,343: 250-259, 2017.2. (査読あり) (IF : 3.231、2015)

(2) 総説

1. ★◎Hotta H. Neurogenic Control of Parenchymal Arterioles in the Cerebral Cortex. *Prog Brain Res*, 225:3-39,2016.4.7. (査読あり) (IF : 1.655、2015)
2. ★◎Uchida S, Kagitani F, Sato-Suzuki I. Somatoautonomic reflexes in acupuncture therapy: A review. *Auton Neurosci*,203: 1-8, 2017. (査読あり) (IF : 1.621、2015)
3. ★◎堀田晴美,飯村佳織,宮崎彰吾,渡邊信博. 軽微な皮膚刺激が膀胱機能に与える影響に関する基礎的および臨床的研究. *自律神経*, 印刷中 (査読あり)
4. ★◎内田さえ. 痛みと自律神経—鍼灸治療効果に期待して—. *現代鍼灸学*. 印刷中
5. ★◎内田さえ. 体性刺激が消化器機能に及ぼす影響. *全日本鍼灸学会雑誌*,67(2): 78-91,2017
6. ★◎内田さえ. 鍼刺激がラットの脳循環に及ぼす影響—up to date. *自律神経*. 印刷中 (査読あり)

3 著書等

1. ◎堀田晴美「過敏な膀胱をしずめ、夜間頻尿を緩和するローラー：ソマプレーン」研究所ニュースNo. 276, 2016. 9
2. ◎堀田晴美『高齢者理学療法学』「神経系の加齢変化」医歯薬出版、2017.2
3. ◎堀田晴美「鍼刺激による血液循環改善作用の反射性メカニズム」鍼灸師会、2017.3
4. 大橋敦子 (監修) ◎内田さえほか12名共同執筆『生理学実習NAVI第2版』医歯薬出版、2017.1.

記憶神経科学

1 学会発表

(1) 海外

- 1) Yusuke Kishimoto, Suhichi Yanai, Shogo Endo, Takaaki Akaike, & Hideshi Ihara. Effect of 8-nitro-cGMP on hippocampus-dependent long-term memory in mice. The 9th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Application of Nitric Oxide. Sendai, 0520-0522
- 2) Shuichi Yanai, Kai Kojima, Tomoko Arasaki & Shogo Endo. Cilostazol, a phosphodiesterase 3 inhibitor, as a potential therapeutic target for the treatment of dementia. 31st International Congress of Psychology. Yokohama, 0724-0729.
- 3) Kenkichi Takase, Shuichi Yanai, Tetsuo Yamaguchi, Hideo Hoshi. Frontiers in the psychological research using animal models -Harmonized translational study elucidating the operating principles underlying human psychological processes-. 31st International Congress of

Psychology. Yokohama, 0724-0729.

- 4) Jun Toyohara, Muneyuki Sakata, Kenji Ishibashi, Kei Wagatsuma, Kentaro Hatano, Shuichi Yanai, Shogo Endo, Kenji Ishii and Kiichi Ishiwata. Preclinical and first-in-man studies of imidazopyridineacetamide, ¹¹¹C]CB184, as a novel 18 kDa translocator protein seeker. Society of nuclear medicine and molecular imaging 2016 annual meeting. San Diego, 0611-0616.

(2) 国内

- 1) 高橋経太・柳井修一・下門顕太郎・石神昭人、コーヒエの摂取が老化に及ぼす影響、日本栄養・食糧学会第70回大会、神戸、0513-0515
- 2) 柳井修一・新崎智子・遠藤昌吾、老化に伴う認知機能低下に対するシロスタゾールとドネペジルの併用効果、第39回日本基礎老化学会大会、伊勢原、0527-0528
- 3) 柳井修一・新崎智子・遠藤昌吾、老化促進モデルマウスSAMP8における記憶、学習機能の評価、第31回SAM研究発表会、京都、0709-0710
- 4) 柳井修一・豊原潤・石渡喜一・新崎智子・遠藤昌吾、Long-term administration of cilostazol, a phosphodiesterase 3 inhibitor, enhances memory functions and cerebral glucose metabolism in aged mice. 第39回日本神経科学大会、横浜、0720-0722
- 5) 五味不二也・遠藤昌吾・内田洋子、Up-regulation of NSP3 by oligomeric Aβ accelerates neuronal death through Cas-independent Rap1A activation. 第39回日本神経科学大会、横浜、0720-0722
- 6) 五味不二也、内田洋子、遠藤昌吾、β-アミロイドによって発現誘導されるcalsyntenin-3のγ切断産物 (p3 peptide)はアルツハイマー病髄液バイオマーカーとなりうるか?、第39回日本分子生物学会、横浜、1130-1202
- 7) 遠藤昌吾、新崎智子、藤井重元、赤池孝章、8-ニトロ-cGMPによるホスホジエステラーゼの阻害効果、第39回日本分子生物学会、横浜、1130-1202

2 誌上发表

(1) 原著

- 1) ◎S. Yanai & ★S. Endo. Early onset of behavioral alterations in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8). *Behavioural Brain Research* 308, 187-195, 2016. (査読あり、IF 3.002)
- 2) ◎S. Yanai & ★S. Endo. Data on the optimization of behavioral tasks for senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8). *Data in Brief* 8, 262-266, 2016. (査読あり、IFなし、new journal)
- 3) ★J. Toyohara, M. Sakata, K. Hatano, S. Yanai, S. Endo, K. Ishibashi, K. Wagatsuma, K. Ishii, K. Ishiwata. Preclinical and first-in-man studies of [¹¹¹C]CB184 for imaging the 18-kDa translocator protein by positron emission tomography. *Annals of Nuclear Medicine* 30, 534-543, 2016. (査読あり、IF 1.467)
- 4) H. Tanahashi, Q.B. Tian, Y. Hara, H. Sakagami, S. Endo, ★T. Suzuki. Polyhydramnios in Lrp4 knockout mice with bilateral kidney agenesis: Defects in the pathways of amniotic fluid clearance. *Scientific Report* 6, 20241, 2016. (査読あり、IF 5.228)
- 5) S. Yufune, Y. Satoh, R. Akai, Y. Yoshinaga, Y. Kobayashi, S. Endo, ★T. Kazama. Suppression of ERK

phosphorylation through oxidative stress is involved in the mechanism underlying sevoflurane-induced toxicity in the developing brain. *Scientific Report* **6**, 21859, 2016. (査読あり、IF 5.228)

- 6) ©S. Yanai, J. Toyohara, K. Ishiwata, H. Ito & ★S. Endo. Long-term cilostazol administration ameliorates memory decline in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8) through a dual effect on cAMP and blood-brain barrier. *Neuropharmacology* **116**, 247-259, 2017. (査読あり、IF 4.936)
- 7) K. Takahashi, S. Yanai, K. Shimokado, & A. Ishigami. Coffee consumption in aged mice increased energy production and decreased hepatic mTOR content. *Nutrition* **38**, 1-8, 2017. (査読あり、IF 2.839)

3 著書等

- 1) 柳井修一、老齡期の「聞こえ」とその改善—年齢とともに必ず衰える機能—そのときの最善を考える—百歳万歳、9月号、p34-35、2016
- 2) 遠藤昌吾、ヒョウタンから駒、副作用から良薬！、第143回老年学・老年医学公開講座要旨集
- 3) 遠藤昌吾、記憶の極意、心の健康ニュース、2016年12月8日号
- 4) 遠藤昌吾、記憶の達人になるために、心の健康ニュースNo.453、2016年12月号
- 5) 遠藤昌吾、記憶障害とわたしたちの生活、百歳万歳、2017年1月号
- 6) 柳井修一、遠藤昌吾、「既存薬再開発」は世界を救う！？—ヒョウタンから駒、副作用から良薬の話—、耳寄り研究情報（東京都健康長寿医療センター）、2017年1月
- 7) S. Yanai and S. Endo, Old Drugs learn New Tricks: Drug Repurposing Saves the WORLD!, News & Topics (Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology), January, 2017.

神経生理

1 学会発表

(1) 海外

1. Miura M, Inoue R. An allosteric modulator of $\alpha 4 \beta 2$ nicotinic acetylcholine receptor potentiates GABAergic inputs to cholinergic interneurons in the mouse striatum CINP 2016 国際神経薬理学会、ソウルCOEX 2016/7/3-5.
2. Inoue R, Miura M Nicotinic and opioidergic modulation on inhibitory inputs to cholinergic interneurons in the striosomes and the matrix of the mouse striatum Dopamine 2016, ウィーン、2016/9/5-8.

(2) 国内

1. 井上律子、三浦正巳 ドーパミン受容体刺激による常同行動の神経基盤、第39回日本基礎老化学会大会、伊勢原市民文化会館、2016/5/27-28.
2. 井上律子、三浦正巳 Differences of electrophysiological property between compartments of the mouse striatum in the methamphetamine-induced stereotypy 常同行動モデルマウスにおける線条体コンパートメント特異的な電気生理学的性質の違い、第46回日本神経薬理学会年会、ソウルCOEX、2016/7/2-3.
3. 井上律子、三浦正巳 Nicotinic acetylcholine recep-

tor-mediated GABAergic inputs are more prominent in the matrix cholinergic neurons than in the striosomes of mouse stratum コリン作動性ニューロンへのニコチン受容体を介したGABA性入力線条体マトリックス優位である、第39回日本神経科学大会、パシフィコ横浜、2016/7/20-22.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Inoue R, Suzuki T, Nishimura K, ★Miura M. Nicotinic acetylcholine receptor-mediated GABAergic inputs to cholinergic interneurons in the striosomes and the matrix compartments of the mouse striatum. *Neuropharmacology*. Jun; 105: 318-328.(2016) (査読有り) (IF 4.936, 2016)

老年病態研究チーム

チームリーダー：重本 和宏

1 研究チームの概要・目的

東京都においては、全国平均を上回る人口高齢化（2005-25年：38%増、85万人増）が進行している。さらに、平成27年度厚労省資料によると、東京都は都道府県別健康寿命で男性が37位で女性が42位と下位に留まっている。高齢者疾患および介護の原因となるサルコペニア・フレイルの発症機構を解明して、その学術的な成果を科学的根拠に基づく予防・治療法の開発へ発展させて、高齢者の健康増進および健康長寿の推進を目標とする。

2 今後の展望

チーム内のコミュニケーションを継続して行い、各テーマのプロジェクトの成果を通して社会貢献したい。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

血管医学

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
血管病の病因・病態・治療・予防の研究	超高齢社会において増えてくる心血管病に対する新たな治療法として再生医療を行うことを目指し、基礎・臨床両面から克服すべき課題に取り組む	・心血管疾患に対する幹細胞移植医療実現化に向けた基盤研究を行う ・心血管病の病態解明、治療法開発のための研究を行う	・幹細胞の品質評価に関する基盤研究を行う ・高齢者心血管病の疾患モデル構築にむけた研究を行う	・幹細胞移植医療における安全性評価に関する基盤研究を行う ・疾患モデルによる心血管病の病態機能解析研究を行う	・幹細胞移植医療における有効性評価を臨床部門と連携して行う ・疾患モデルによる心血管病の病態機能解析研究を行う	・幹細胞移植の臨床研究に向けたプロトコルを臨床部門と連携して進める ・疾患モデルによる心血管病の治療・予防法の開発研究を行う

生活習慣病

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
疾患関連遺伝子研究-1	バイオバンク・ジャパン構築	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録	DNA・臨床情報登録
疾患関連遺伝子研究-2	骨折リスク予測システム開発	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	成果公表、先進医療申請
疾患関連遺伝子研究-3	ワーファリン維持量決定システム開発	症例登録・追跡	症例登録・追跡	成果公表、先進医療申請	成果公表、先進医療申請	成果公表、先進医療申請
疾患関連遺伝子研究-4	Geriatric E-WAS	遺伝子多型探索、バリデーション、論文発表	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	オーダーメイド骨粗鬆症外来への導入、臨床的有用性の評価	成果公表、先進医療申請
血清バイオマーカー研究	血清マイオカイン測定の実用性の確立	バイオマーカー測定系樹立、症例横断解析開始	各種マイオカイン測定系樹立(irisin、IGF-1、IL-6、IL-15)、コホート横断解析開始	コホート縦断解析開始、マイオカイン測定系臨床導入	臨床研究開始、バイオマーカー機能解析開始	臨床研究継続、バイオマーカー機能解析継続

運動器医学

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
サルコペニア・筋萎縮の分子機構解明	高齢者の運動器疾患のメカニズムの解明と、科学的根拠に基づいた予防・診断・治療法を開発して成果を社会へ還元することを目的としている。後期高齢者で要介護認定者が激増し原因は衰弱・転倒・骨折、認知症が占める。高齢者の運動器疾患は認知症とも密接な因果関係があるにも関わらず、定義と診断法の科学的根拠は乏しく、発症メカニズムも未解明であることから中期計画の主要な課題の一つとして取り組む。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究を行い、高齢者の健康長寿や老年病の予防法・診断法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。	老化・疾患モデルマウスを使い、分子機構に関する基盤研究と診断・予防・治療法の研究を行う。臨床部門と連携して診断・予防・治療法の研究を行う。

血管医学

構成メンバー

テーマリーダー：豊田雅士

研究員：佐々木紀彦、板倉陽子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

「心臓組織の再生」を目指し、血管・心臓・組織の各視点から研究を進めている。

基礎研究：昨年度までの成果をさらに積み重ね、血管の老化・疾患と内皮細胞機能、組織修復・再生に重要な役割をする線維芽細胞の老化の影響に関する細胞レベルでの研究を進め、新たな知見を得た。

応用研究：心機能の維持・移植幹細胞の機能制御に必要な加齢・疾患に伴う心臓の組織環境を把握する研究を開始した。

【その根拠】

- ・昨年度報告した線維芽細胞の老化過程で生じた糖鎖変化について、その機能的な意義の解明を進め、新たな成果を得た。本成果は、心臓をはじめとした組織の修復・再生機能や組織線維化の進展に関する研究につながると考えている。
- ・これまで明らかにした血管内皮細胞の老化に伴う変化について、血管病態やその発症との関連性を明らかにするため、炎症反応に対する応答性ならびにその分子機能を検討し、新たな知見を得た（投稿準備中）。
- ・老化に伴う細胞内外における糖タンパク質糖鎖の分布状況を調べると、その変化にある一定の傾向があることを明らかにした（投稿準備中）。
- ・再生医療の臨床応用に向け、(手術検体由来の)細胞・組織等の評価を進めた。

【新しい知見】

- ・組織の修復・再生機能や組織線維化の進展に関する線維芽細胞の役割についてはまだよくわかっていない。我々が見出した線維芽細胞の老化

過程で生じた糖鎖（シアル酸）変化が、線維芽細胞の（TGF β 刺激による）活性化に影響することを見出した。さらにそこでは、糖タンパク質（CD44）の膜動態の関与が重要であることを明らかにした。

- ・細胞膜上の糖鎖は時々刻々変化しているが、その変化動向については不明な点が多い。今回線維芽細胞の細胞老化過程で、細胞内外の糖タンパク質糖鎖分布の変遷の全体像を評価し、その分布パターンに一定の特徴があることが明らかになった。
- ・血管内皮細胞の老化に伴い糖脂質の一つガンダリオリシドGM1が増加し、インスリン抵抗性に関与することを明らかにした(昨年度までの成果)。そこで血管病態やその発症との関連を検証し、炎症（炎症性サイトカインTNF α 刺激）に対する内皮細胞の応答性とその機能について分子機構を明らかにした。
- ・細胞が正常な機能を発揮するための場となる「組織」を、これまでにない糖鎖によって評価する技術（マウスを用いた実験による組織糖鎖アレイ）を確立した。その応用として、心臓組織で加齢に伴う組織内変化を、糖鎖プロファイリングとして取得することを開始した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<ヒト組織由来細胞の樹立と特性解析>

(病院部門) 外科、血管外科、心臓外科

国立成育医療研究センター、宮崎大学農学部

<心筋再生医療に関する研究>

(病院部門) 心臓外科

国立成育医療研究センター、京都府立医科大、横浜市立大学医学部、国立循環器病研究センター、防衛医大、慶應義塾大学医学部

<糖鎖解析技術を用いた基盤研究>

産業技術総合研究所、上海交通大学

<再生医療関連技術の産業化>

- 幹細胞評価基盤技術研究組合
- <超高齢者血清バイオマーカーの探索>
- 老化機構研究チーム（プロテオーム）
- <高齢者がんに関する研究>
- 老年病理学研究チーム（高齢者がん）

3 今後の展望

中期計画で示されている研究テーマ「血管病の病因・病態・治療・予防の研究」について、その目標達成にむけて各研究員が自ら果たす役割を理解して研究を進めるとともに、その妥当性を客観的に確認する場として研究員同士がお互いに忌憚なく議論し合う時間を設定した。また各研究の進捗に応じて他テーマ・他機関と連携して進められる課題、またその可能性についても議論し、積極的に進められるようにした。目的達成に向け、より高いレベルの成果に繋がるよう努めている。

4 その他

再生医療に関する国内での研究は、臨床研究・創薬研究とも大規模・集中化のもとで進められている現状がある。その中で小グループの我々がその存在感を出していくため、「心臓組織の再生」をテーマの中心に据えて、糖鎖を切り口とした斬新なアプローチで研究に取り組んでいる。具体的には、高齢者心疾患や重症心不全を主要な対象とし、心臓組織の機能を担い、生命維持に最も重要な要素となる細胞群（血管、心筋、線維芽細胞）とその機能を引き出す場である組織環境の両面から、糖鎖を基軸とし、加齢・老化への影響を探っている。心臓が（誕生から死に至る直前まで）恒常機能を維持する機構、さらにその破綻から生じる病態発症の分子機序の解明を目指した研究を展開している。さらに当テーマが有する幹細胞の評価技術や培養技術について、すでに多くの学生や（大学・企業所属の）研究者への教育・助言を行うなどした人材育成でも貢献を果たしてきており、その一部は共同研究へとつながっている。

生活習慣病

構成メンバー

テーマリーダー：森聖二郎
非常勤研究員：周赫英

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

おおむね順調に進捗している。

【その根拠】

- ①バイオバンク・ジャパンへの症例登録は約60件/

月のペースで行われており年間目標を十分達成できる。

- ②骨折リスクを予測するGenetic Risk Score (GRS)の臨床的有用性を検証する目的で、バイオバンク・ジャパンに登録された脊椎骨折症例のSNPタイピングデータを用いたバリデーションを横浜理研と共同で施行し公表した（Zhou H, Mori S, et al. Bone Rep 5: 168-172, 2016）。
- ③ウサギモノクローナル抗体を用いた第二世代の血中バイオマーカー測定系を確立し、マウス抗体を用いた第一世代の測定系で問題となっていたゼロデータが解消された。
- ④AMEDプロジェクト「早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究」において、ウェルナー症候群に合併する骨粗鬆症の臨床的特徴を明らかにし公表した（Mori S, Zhou H, et al. Geriatr Gerontol Int, in press）。

【新しい知見】

上述②のバイオバンク・ジャパン試料を用いた横浜理研との共同研究によって、閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する4 SNP（PKDCC exm4952590、CDKAL1 exm2266163、WNT16 exm653135、GPATCH1 exm1453284）を同定し、これらのSNPを用いたGRSが骨折リスクと良好な相関を示すことを明らかにした。本研究はIOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting（Singapore, 2016.11.5）において口頭演題に採択され、The Best Oral Communication Awardを受賞した（Zhou, H., Mori, S., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. Osteoporos. Int., 27 (Suppl. 3): S703-S704, 2016）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- <PRDM16遺伝子多型のサルコペニア新規バイオマーカーとしての臨床応用可能性の検討>
- 老化制御研究チーム、国立健康・栄養研究所
- <オーダーメイド骨粗鬆症外来>
- 整形外科、糖尿病・代謝・内分泌内科
- <早老症ウェルナー症候群の全国調査と症例登録システム構築によるエビデンスの創生>
- 千葉大学、名古屋大学、大阪大学
- <神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーとフレイルとの関連>
- 社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と介護予防研究チーム
- <神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーと骨粗鬆症性骨折との関連>

理化学研究所（横浜）

3 今後の展望

達成難易度や所要時間に応じた年度計画となっている。

4 その他

トランスレーショナル・リサーチとしての臨床応用を目指している。

運動器医学

構成メンバー

テーマリーダー：重本和宏

専門副部長：上住聡芳

研究員：森秀一、本橋紀夫、上住円

非常勤研究員：高嶋留美、水之江雄平

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

主たる3つのプロジェクト全てに進捗があった。筋萎縮バイオマーカープロジェクトで、日米欧出願を行った（審査中）。中期計画内に論文投稿できるよう目指し努力している。MusColor技術も日米欧出願を行い、米国特許が成立した。MusColorプロジェクトの最初の論文は、単なる技術開発の論文ではなくサルコペニア・フレイルと関連する分子の解析データを加えた内容で研究を進めている。

一方で、MusColor技術で発見した大変興味深いシーズの中から、マンパワーの制限により研究課題を1つに絞った。

【その根拠】

- ① 開発中のバイオマーカーがシナプスの異常を伴うサルコペニア・筋萎縮のバイオマーカーとして利用できることを様々なマウスモデルで発見している。本年度は、ALS、老化、神経切断モデルに加えて廃用性筋萎縮モデルで治療効果も早期判定できることがわかった。動物モデル（サルコペニア、ALS、重症筋無力症、神経切断、廃用性筋萎縮）の発症前診断の系を確立したこと、さらに早期予防・治療法の開発研究に有用であるエビデンスを得た。さらに、ここ数年間の重要課題であった、ヒト血中のバイオマーカーを高感度測定できる第2世代のアッセイ系の確立に遂に成功した。生活習慣病、社会科学系との共同研究が進んでいる。

慶応大学神経内科など都内で重症筋無力症患者を多数有する共同研究機関が加わり、数年来の念願であった関東の臨床研究ネットワー

クのコアメンバーを形成することができた。（以上全てのプロジェクトは森秀一研究員が主に担当）

本年度、バイオマーカーのアッセイ系の特許申請の各国申請（日米欧）手続きを開始した。

- ② サルコペニア・フレイルの本質的な分子機構として骨格筋及び脳を含む他臓器の代謝関連の可塑性低下にあると考えている。運動や栄養の予防効果に関する疫学研究はその考えを支持する。そこで、骨格筋の代謝変換（代謝リプログラミング）誘導物質（生体内因子および低分子化合物など）をin vitroで簡便に探索でき、かつ代謝変換自体の機序をin vitroで解析するMusColour技術をこれまで確立している。本年度は、特許申請の各国申請（日米欧）手続きを開始した。

昨年度に、MusColour技術を使い100種類以上の生体内因子・薬物を探索して候補分子を多数発見している。本年度は遅筋線維を誘導する1つの生体内因子に絞り、in vitro, in vivoの両面から、論文発表に向けてデータ蓄積と解析が進んでいる。（本橋紀夫研究員が主に担当）

- ③ 当センターのSTED超高解像度顕微鏡を使い、神経筋シナプスのプレシナプス（神経終末）に存在するアクティブゾーン（神経伝達分子の放出部位）に集積する分子構造と、加齢（サルコペニア）に伴う分子構造の変化を解明して論文発表した（Scientific Reports 2016）。サルコペニアと認知症の因果関係の新たな可能性の1つを提示した。（森秀一研究員と国外研究員（西宗裕史）との国際共同研究）
- ④ 抗LRP4抗体で発症する重症筋無力症のモデルマウスの論文投稿のレビューアーから追加が求められていた電気生理解析のデータが揃ったので今年度内に投稿する。（森秀一研究員が主に担当）

【新しい知見】

- ① MusColour技術で同定した生体内因子は、マウスの加齢に従い血中で若齢期のゼロ値から増加することから、サルコペニア・フレイルの因果関係だけでなくバイオマーカーの可能性が示された。
- ② 第2世代のバイオマーカーアッセイ系により、重症筋無力症の患者の中で血中濃度が非常に高い症例があることを発見した。抗原産生の機序、治療効果の判定、治療法の開発へ向けて大きな手がかりを得た。血中バイオマーカーの測定はサルコペニアだけでなく、神経筋疾患でも有用であると期待される。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<サルコペニア・筋萎縮症の分子機構解明>

横浜理研免疫研、大阪大学、長崎大学、国立精神・神経センター、Kansas大学 (USA)

<科学的根拠に基づく介護予防及びサルコペニアの診断、予防・治療法の研究>

生活習慣病(老研病態研究チーム)、社会参加と地域保健、自立促進と介護予防、東京都健康長寿医療センター(神経内科、リハビリテーション科)、東京都医学総合研究所、首都大学東京、千葉大学神経内科、国立健康・栄養研究所

<神経筋難病による筋萎縮の発症機構、診断・予防・治療法の研究>

老化機構(プロテオーム)、京都在くさい病院、国立病院機構宇多野病院、千葉大学神経内科、東京都健康長寿医療センター(神経内科)、東邦大学医療センター佐倉病院、慶応大学医学部(神経内科)、神経内科千葉病院、帝京大学医学部(神経内科)

3 今後の展望

運動器医学のテーマがスタートした2007年から本来の研究員1名枠に、病院医師が研究員(運動器医学とではなく外部との共同研究)として充てられる時期が長く続いた。特にMusColor研究に関しては大学院修士学生がいた数年を除き、マンパワーが無い時期に完全に休止した。現在、本橋研究員が論文発表を目指してMusColor技術で発見した生体内因子の解析を進めている。

マンパワー不足で厳しい状態下でも、幸いなことに2007年のスタート時から継続して外部資金(文科省課題提案型、武田財団の大型予算を含む)を獲得している。本年度は、新規科研費(基盤B)を1件獲得しており、常勤研究者3名全員が科研費の代表責任者である。また、企業との共同研究は「サルコペニアのメカニズム解明、早期診断・治療法の開発」を目指した研究課題であり、加えて論文発表に向けた取り組みを中・長期的な視野で行っている。

4 その他

運動器医学は新概念に基づくイノベーション(新技術に基づく実用化)を達成するために基礎研究の成果発表に加えて、真に価値のある独創的な知財財産を確立して日本の国際競争力に貢献する研究成果を目指してきた。これまで常勤研究員が2~3名の小グループではあるが、高い目標を掲げてチャレンジングな研究に2007年から取り組んでいる。2016年4月にサルコペニアがICD10(国際

疾病分類第10版)に追加、創薬標的として認知され強い追い風を受けた。これにより、欧米のアカデミア、ベンチャー、製薬会社などサルコペニア・フレイルに対する有望なシーズ探して競争が増々激化すると予想される。一方、日本においてはようやくサルコペニア・フレイル研究の重要性が理解されはじめたが、まだ目標設定が混沌な状況から脱していない。運動器医学は欧米より先んじて新技術開発(MusColour技術とバイオマーカー)を長期プロジェクト(2007年~)の中で確立することに成功した。

論文・学会発表

血管医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Tateno H, Toyoda M, Onuma Y, Ito Y, Akutsu H, Hirabayashi J. Alpha2-6sialylation is a marker of the differentiation potential of human mesenchymal stem cells. ISSCR2016, San Francisco, 2016.6.22-25
2. Zou X, Yoshida M, Nagai-Okatani C, Iwaki J, Matsuda A, Tan B, Hagiwara K, Sato T, Itakura Y, Noro E, Kaji H, Toyoda M, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. A standardized method for differential tissue glycol mapping by laser microdissection and lectin microarray. 8th ACGG Annual Conference, Wiki, China, 2016.10.13-16

(2) 国内

1. 尾島琢磨、柴田恵里、齊藤志穂、豊田雅士、中島英規、井上麻由、宮川世志幸、清河信敬、藤本潤一郎、梅澤明弘、佐藤智典. ヒトiPS細胞の未分化性を規定する糖鎖構造解析. 第12回日本臨床プロテオーム研究会, 東京, 2016.5.21
2. 岡谷(永井)千晶、Xia Zou、吉田真樹、佐藤隆、松田厚志、萩原梢、板倉陽子、野呂絵里花、豊田雅士、Sheng-Ce Tao、Yan Zhang、成松久、久野敦. 組織グライコムマッピングに向けた、レーザーマイクロダイセクション-レクチンアレイ法の改良. 日本プロテオーム学会2016年大会(第14回大会), 東京, 2016.7.26-29
3. 板倉陽子、佐々木紀彦、豊田雅士. 細胞と個体をもたらす老化に伴う糖鎖の変化. 第35回日本糖質学会年会, 高知, 2016.9.1-3
4. 佐々木紀彦、板倉陽子、豊田雅士. ヒト血管内皮細胞における加齢および細胞老化で増加するガングリオシドGM1の機能について. 第35回日本糖質学会年会, 高知, 2016.9.1-3
5. Nagai-Okatani C, Zou X, Yoshida M, Iwaki J, Sato T, Matsuda A, Tan B, Hagiwara K, Itakura Y, Noro E, Toyoda M, Tao SC, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. レーザーマイクロダイセクション-レクチンアレイによるマウス組織切片の高精度比較グライコムミクス. 第35回日本糖質学会年会, 高知, 2016.9.1-3
6. 板倉陽子、佐々木紀彦、豊田雅士. 細胞老化および個体老化を示す細胞表層糖鎖の変化による老化指標の解析. 第89回日本生化学会大会, 仙台, 2016.9.25-27

- 池本優, 豊田雅士, 那須道世, 初瀬洋美, 長尾和右, 高山吉永, 亀山孝三, 梅澤明弘, 宮下俊之. Gorlin症候群患者由来iPS細胞を用いた髄芽腫の作製. 第39回日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30-12.2
- 佐々木紀彦, 板倉陽子, 豊田雅士. Insulin resistance mediated by ganglioside in TNF α -stimulated human vascular endothelial cells. 第24回日本血管生物医学学会学術集会, 長崎, 2016.12.8-10
- 佐々木紀彦. ヒト血管内皮細胞の加齢・老化に伴うインスリン抵抗性にガングリオシドGM1が働く. シンポジウム「Frontiers in aging research toward healthy longevity ~健康長寿をめざした老化研究の最前線~」. 東京, 2016.11.17
- 板倉陽子. 細胞および個体の老化に伴う細胞表層糖鎖変化の解析. シンポジウム「Frontiers in aging research toward healthy longevity ~健康長寿をめざした老化研究の最前線~」. 東京, 2016.11.17
- 板倉陽子. 様々な糖鎖構造を認識するヘパインタンパク質ファミリーーキチン系植物レクチンの活躍-. 東京農業大学学内セミナー. 網走, 2017.1.27

2 誌上発表

(1) 原著

- Komuta Y, Ishii T, Kaneda M, Ueda Y, Miyamoto K, Toyoda M, Umezawa A, Seko Y. In vitro transdifferentiation of human peripheral blood mononuclear cells to photoreceptor-like cells. *Biol. Open*, 5(6):709-719, 2016. (査読あり) (IF: 2.135, 2015/16)
- Seko Y, Azuma N, Yokoi T, Kami D, Ishii R, Nishina S, Toyoda M, Shimokawa H, Umezawa A. Anteroposterior patterning of gene expression in the human infant sclera: chondrogenic potential and wnt signaling. *Cur. Eye Res.*, 42(1):145-154, 2017. (査読あり) (IF: 2.998, 2015/16)
- Okamura K, Sakaguchi H, Sakamoto-Abutani R, Nakanishi M, Nishimura K, Yamazaki-Inoue M, Ohtaka M, Periasamy VS, Alshatwi AA, Higuchi A, Hanamoka K, Nakabayashi K, Takada S, Hata K, Toyoda M, Umezawa A. Distinctive features of single nucleotide alterations in induced pluripotent stem cells with different types of DNA repair deficiency disorders. *Sci. Rep.*, 6:26342, 2016. (査読あり) (IF: 5.228, 2015/16)
- Tone H, Yoshioka S, Akiyama H, Nishimura A, Ichimura M, Nakatani M, Kiyono T, Toyoda M, Watanabe M, Umezawa A. Embryoid body-explant outgrowth cultivation from induced-pluripotent stem cells (iPSCs) in an automated closed platform. *BioMed Res. Int.*, 2016:7098987, 2016. (査読あり) (IF: 2.134, 2015/16)
- Mizukami T, Iso Y, Sato C, Sasai M, Spees JL, Toyoda M, Umezawa A, Miyazaki A, Suzuki H. Priming with erythropoietin enhances cell survival and angiogenic effect of mesenchymal stem cell implantation in rat limb ischemia. *Regenerative Therapy*, in press, 2016. (査読あり) (IF:未発表)
- Tateno H, Saito S, Hiemori K, Kiyoi K, Hasehira K, Toyoda M, Onuma Y, Ito Y, Akutsu H, Hirabayashi J. α 2-6sialylation is a marker of the differentiation potential of human mesenchymal stem cells. *Glycobiology*, 26(12):1328-1337, 2016. (査読あり) (IF: 3.283, 2015/16)
- Zou X, Yoshida M, Nagai-Okatani C, Iwaki J, Matsuda A, Tan B, Hagiwara K, Sato T, Itakura Y, Noro E, Kaji H, Toyoda M, Zhang Y, Narimatsu H, Kuno A. A standardized method for lectin microarray-based tissue glycome mapping. *Sci. Rep.*, 7:43560, 2017. (査読あり) (IF: 5.228, 2015/16)
- ©Sasaki N, Itakura Y, ★Toyoda M. Sialylation regulates myofibroblast differentiation of human skin fibroblasts. *Stem Cell Res. Ther.*, 8(1):81, 2017.

生活習慣病

1 学会発表

(1) 海外

- Zhou, H., Mori, S., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. Oral Presentation at the IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting, Singapore, 2016.11.5. *Osteoporos. Int.*, 27 (Suppl. 3): S703-S704, 2016.

(2) 国内

- 森聖二郎, 田中雅嗣, 山岡巧弥, 小寺玲美, 佐藤謙, 坪井由紀, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜: 閉経後骨粗鬆症患者ならびに地域住民においてサルコペニアに関わる遺伝子多型について. 第113回日本内科学会講演会, 東京, 2016.4.16
- 周赫英, 森聖二郎, 山岡巧弥, 佐藤謙, 坪井由紀, 小寺玲美, 田村嘉章, 千葉優子, 荒木厚, 井藤英喜: 閉経後骨粗鬆症において脊椎骨折と関連する遺伝子多型について. 第59回日本老年医学会学術集会・総会, 金沢, 2016.6.8
- 沢辺元司, 荻島創一, 周赫英, 森聖二郎, 田中雅嗣, 三重野牧子, 新井富生, 前田裕子, 村松正明: 喫煙関連腹部大動脈瘤の遺伝子セットエンリッチメント解析. 第59回日本老年医学会学術集会・総会, 金沢, 2016.6.9

2 誌上発表

(1) 原著

- Thu, K.S., Sato, N., Ikeda, S., Naka-Mieno, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Muramatsu, M., Tanaka, M.: Association of polymorphisms of the transporter associated with antigen processing (TAP2) gene with pulmonary tuberculosis in an elderly Japanese population. *APMIS* 124: 675-80, 2016 (査読あり, IF: 1.933)
- Zhou, H., ★©Mori, S., Ishizaki, T., Takahashi, A., Matsuda, K., Koretsune, Y., Minami, S., Higashiyama, M., Imai, S., Yoshimori, K., Doita, M., Yamada, A., Nagayama, S., Kaneko, K., Asai, S., Shiono, M., Kubo, M., Ito, H.: Genetic risk score based on the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. *Bone Rep.*, 5: 168-172, 2016 (査読あり, IF:未収載)
- Tamura, Y., Izumiyama-Shimomura, N., Kimbara, Y., Nakamura, K., Ishikawa, N., Aida, J., Chiba, Y., Matsuda, Y., Mori, S., Arai, T., Fujiwara, M., Poon, S.S., Ishizaki, T., Araki, A., Takubo, K., Ito, H.: Telomere attrition in beta and alpha cells with age. *Age (Dordr.)*. 2016 Jun;38(3):61. Epub 2016 May 24 (査読あり, IF: 3.390)
- Tanisawa, K., Arai, Y., Hirose, N., Shimokata, H.,

- Yamada, Y., Kawai, H., Kojima, M., Obuchi, S., Hirano, H., Yoshida, H., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Ihara, K., Sugaya, M., Arai, T., Mori, S., Sawabe, M., Sato, N., Muramatsu, M., Higuchi, M., Liu, Y.W., Kong, Q.P., Tanaka, M.: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2016 May 6. pii: glw074. [Epub ahead of print] (査読あり, IF: 5.476)
5. Zhou, H., ★◎Mori, S., Ishizaki, T., Tanaka, M., Tanisawa, K., Mieno, M.N., Sawabe, M., Arai, T., Muramatsu, M., Yamada, Y., Ito, H.: Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. *J Bone Miner. Metab.*, 34: 685-691, 2016 (査読あり, IF: 2.312)
 6. ★◎Mori, S., Zhou, H., Yamaga, M., Takemoto, M., Yokote, K.: Femoral osteoporosis is more common than lumbar osteoporosis in patients with Werner syndrome. *Geriatr. Gerontol. Int.*, in press (査読あり, IF: 2.229)
 7. Zaw, K.T.T., Sato, N., Ikeda, S., Thu, K.S., Mieno, M.N., Arai, T., Mori, S., Furukawa, T., Sasano, T., Sawabe, M., Tanaka, M., Muramatsu, M.: Association of ZFH3 gene variation with atrial fibrillation, cerebral infarction, and lung thromboembolism: an autopsy study. *J. Cardiol.*, in press (査読有り, IF: 2.405)
 8. Maeda, Y., Sato, N., Naka-Mieno, M., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M., Muramatsu, M., Sawabe, M.: Association of non-synonymous variants in WIPF3 and LIPA genes with abdominal aortic aneurysm: an autopsy study. *J. Geriatr. Cardiol.*, 13: 960-967, 2016 (査読あり, IF: 1.056)
 9. Honma, N., Saji, S., Mikami, T., Yoshimura, N., Mori, S., Saito, Y., Murayama, S., Harada, N.: Estrogen-related factors in the frontal lobe of Alzheimer's disease patients and importance of body mass index. *Sci. Rep.*, 7(1): 726, 2017 (査読あり, IF: 5.228)
 10. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of STXBP2 as a novel susceptibility locus for myocardial infarction in Japanese individuals by an exome-wide association study. *Oncotarget*, 8: 33527-33535, 2017 (査読あり, IF: 5.008)
 11. Yamada, Y., Sakuma, J., Takeuchi, I., Yasukochi, Y., Kato, K., Oguri, M., Fujimaki, T., Horibe, H., Muramatsu, M., Sawabe, M., Fujiwara, Y., Taniguchi, Y., Obuchi, S., Kawai, H., Shinkai, S., Mori, S., Arai, T., Tanaka, M.: Identification of C21orf59 and ATG2A as novel determinants of renal function-related traits in Japanese individuals by exome-wide association studies. *Oncotarget*. 2017 Mar 30. doi:10.18632/oncotarget.16696. [Epub ahead of print] (査読あり, IF: 5.008)

(2) 総説

1. ★◎森聖二郎: 骨粗鬆症. Common diseaseのGWAS. *CLINICAL CALCIUM*, 26, 537-543, 2016
2. ★◎森聖二郎: 新規骨粗鬆症治療薬プロソツマブ(抗スクレロチン抗体). 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (77), 4, 2016

3. ★◎森聖二郎: 果物と野菜の日常的摂取は大腿骨頸部骨折の予防にも有益. 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (77), 4, 2016
4. ★◎森聖二郎: 骨形成不全症原因遺伝子のレアバリアントと骨粗鬆症との関係. 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (78), 4, 2016
5. ★◎森聖二郎: カロリー制限は寿命を延長する可能性はあるが骨は大丈夫か? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (78), 4, 2016
6. ★◎森聖二郎: 生活習慣病診療における骨粗鬆症への対応. だより(練馬区医師会発行), 第577号(4月), 1-8, 2016
7. ★◎森聖二郎: ウェルナー症候群の最新知見. *小児科* 57, 1113-1119, 2016
8. ★◎森聖二郎: カルシウムの経口摂取のみでは骨折抑制効果は期待できない? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (79), 4, 2016
9. ★◎森聖二郎: ADMAはサルコペニアのバイオマーカーにもなりうる? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (79), 4, 2016
10. ★◎森聖二郎: 血中IGFBP-1は骨粗鬆症性骨折の新規バイオマーカーか? 最新研究情報. *Aging&Health*, 25 (80), 4, 2017, 印刷中
11. ★◎森聖二郎: 総合診療医に求める骨粗鬆症の診療, 内分泌専門医の立場から. *Gノート*, 4 (1), 101-107, 2017
12. ★◎森聖二郎: 低アルブミン血症では骨粗鬆症のリスクが高い. 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
13. ★◎森聖二郎: サルコペニアは脆弱性骨折のリスクファクターか? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (81), 27, 2017
14. ★◎森聖二郎: 老化細胞を死滅させると寿命が延長する? 最新研究情報. *Aging&Health*, 26 (82), 2017, 印刷中
15. ★◎森聖二郎: 骨の老化. 老化と生体恒常性. *CLINICAL CALCIUM*, 27, 2017, 印刷中

3 著書等

1. ★◎森聖二郎: 転倒. すぐに使える高齢者総合診療ノート改訂第2版(日本医事新報社)(大庭建三編集), 2017, 印刷中

運動器医学

1 学会発表

(1) 海外

1. Shigemoto K. Dying-back neuropathy as a cause and predictor of sarcopenia. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. 2016.11.4 Nagoya, Japan.
2. Badawi Y, Mori S., Shigemoto K., Nishimune H. Super Resolution Microscopy Analysis of NMJ Active Zones in Adult and Aged Mice. Neuroscience 2016, 2016.11.4 San Diego, USA.

(2) 国内

1. 重本和宏. 老化マウス神経筋シナプスのプレシナプス蛋白の構造解析. 第39回日本基礎老化学会, 伊勢原, 2016.5.27
2. 重本和宏. サルコペニアの病態と薬物治療の可能性. 第16回日本抗加齢医学会総会, 横浜, 2016.6.12
3. 重本和宏, Yomma Badawi, 森秀一, Hiroshi Nishimune.

STED顕微鏡によるマウス神経筋シナプスのプレシナプス蛋白の構造解析. 第39回日本神経科学大会、横浜、2016.6.21

4. 重本和宏, Yomma Badawi, 森秀一, Hiroshi Nishimune. Structural analysis of active zone proteins in mouse NMJ using STED microscopy. 第2回日本筋学会、東京、2016.8.5
5. 本橋 紀夫, 森 秀一, 高嶋 留美, 重本 和宏, 筋線維タイプと骨格筋幹細胞維持機構の関連、第2回日本筋学会、東京、2016.8.5
6. 本橋 紀夫, 森 秀一, 高嶋 留美, 重本 和宏, microRNAによる骨格筋幹細胞の維持機構、第71回日本体力医学会大会、岩手、2016.9.23
7. 本橋 紀夫, 森 秀一, 山崎 綾乃, 高嶋 留美, 重本 和宏. 新規筋線維タイプ変換誘導因子の探索、第4回若手による骨格筋細胞研究会、愛知、2016.11.14
8. 重本和宏, Yomma Badawi, 森秀一, Hiroshi Nishimune. 老化マウスの神経筋シナプスのプレシナプス蛋白の構造変化. 第3回サルコペニアフレイル研究会. 2016.11.4 Nagoya, Japan.
9. Shigemoto K, Badawi Y, Mori S, and Nishimune H. Structural analysis of active zones in NMJ of aged-mouse using STED microscopy. Frontiers in aging research toward healthy longevity. 2016. 11.17 Tokyo.
10. 重本和宏, Yomma Badawi, 森秀一, Hiroshi Nishimune. STED顕微鏡によるマウス神経筋シナプスのプレシナプス蛋白の構造解析. 第39回日本分子生物学会. 2016.12.2 横浜

2 誌上発表

(1) 原著

1. Nishimune H, Badwi Y, Mori S, ★Shigemoto K. Dual-color STED microscopy reveals a sandwich structure of Bassoon and Piccolo in active zones of adult and aged mice. Sci Rep, 6, 27935 (e1-e12), 2016. (査読あり) (IF : 5.525, 2015)

(2) 総説

1. ★◎重本 和宏, 森 秀一, 本橋 紀夫. 「サルコペニア発症における神経経の関与」最新医学別冊 診断と治療のABC112, p40-46. 2016. (査読なし)

3 著書等

1. 重本和宏 (分担執筆)、「バイオマーカー」今後の展望について (新しい研究、治験など)、サルコペニア診療マニュアル, p108-114, 2016、メジカルビュー社、3月出版

受賞

生活習慣病

1. 周赫英 第6回アジア太平洋骨粗鬆症会議 最優秀口演賞 (The Best Oral Communication Award)
“GENETIC RISK SCORE BASED ON THE PREVALENCE OF VERTEBRAL FRACTURE IN JAPANESE WOMEN WITH OSTEOPOROSIS”
2016.11.5

老年病理学研究チーム

チームリーダー：石渡 俊行

1 研究チームの概要・目的

(1) 研究所の「神経病理・ブレインバンク」と「高齢者がん」、病院の「病理診断科」の3者が密に連絡をとり、協力しながら研究を進めている。高齢者を対象とする研究施設と診療施設の両者を備える本センターの利点を活かし、ヒトの老化のメカニズムと老化の過程で生じてくる疾患を研究し、その予防法と治療法の発見、開発を目的とする。

(2) 「病理診断科」、「神経病理・ブレインバンク」、「高齢者がん」の3グループが一体となりセンターの患者の診療、特に病理診断分野でも貢献する。

2 今後の展望

「神経病理・ブレインバンク」、「高齢者がん」と、「病理診断科」のグループメンバーの参加する剖検症例のカンファレンスなどで、積極的に意見を交換し、臨床各科とも共同して原著論文の作成を行う。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

高齢者がん

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
加齢と癌を含む老年性疾患の関係の解析することにより、老化を遅延する因子(生活習慣など)を解明する。	3大死因は加齢に伴い増加する。このうち、悪性新生物など主に外科的な疾患については、加齢に伴う染色体の不安定性が癌発生と密接な関係があることがわかってきた(第1期中期計画)。しかし、内科系疾患(血管病変を中心とする脳、心疾患、認知症)については疾患単位で研究され、加齢との関係は議論が多いが比較的研究は少ない。また、個体の老化と細胞老化との関係も最近になって報告がでて来ている。そこで、老年疾患と言える糖尿病、動脈硬化、認知症と細胞老化との関係を明らかにする。また、iPS細胞を含めた培養細胞の老化についても明らかにする。性ステロイドホルモンは全身のホメオスタシス維持に重要なため、その観点からもアプローチを加える。	第1期中期計画の主要対象であった癌の発生母地に加えて、内科系疾患と大きな関係のある臓器、特に内分泌臓器(副甲状腺、膵の各細胞)の老化を検討する。特に血管の老化と密接な関係のある糖尿病について検討する。早老症由来の細胞やiPS細胞の老化について解析する。老年期の各種臓器における性ステロイドホルモン動態も解析項目とする。	癌の発生母地と、内分泌臓器(骨粗鬆症と関連する副甲状腺、糖尿病と関連する膵ランゲルハンス島 α 、 β 細胞)の老化を検討する。早老症由来の細胞やiPS細胞の老化について解析する。癌、骨粗鬆症などの加齢性疾患と性ステロイドホルモンの関係を、濃度、受容体等、多方面から解析する。	前年度までの研究を続行すると同時に、第2期中期計画の中間年あたり、研究の成果と研究方針について見直す。	前年度までの研究に加えて、認知症など神経変性疾患患者における脳の構成細胞の老化について解析する。	前年度までの研究に加えて認知症など神経変性疾患患者における神経細胞とグリア細胞の老化について解析する。さらに、第2期中期計画の最終年にあたり、5年間の臓器、組織の検索について総括的に検討する。

神経病理学(ブレインバンク)

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
神経病理学(高齢者ブレインバンク)	1. 高齢者ブレインバンクの構築を通じて、遺伝子発現研究にも使用可能な高品位リソースを蓄積し、全国の神経科学研究者を共同研究することで、老化に関わる運動・機能障害の、病因の解明に貢献する。 2. 高齢者ブレインバンクプロジェクトを通じ、臨床診断基準の作成、治療の有効性の検討、病因の追求を行うことで、臨床への直接的還元を試みる。	剖検診断確定例を用いた、生前採取髄液バイオマーカーの診断上の有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、既往外科材料の、レビー小体型認知症診断への有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、VSRAD新版的、アルツハイマー病における有用性の検討。	剖検診断確定例を用いた、生前撮像アミロイドペットの、アルツハイマー病早期診断における有用性の検討。	剖検診断確定例の生前撮像MRI、SPECTを用いた、嗜銀顆粒性認知症の画像診断基準の作成。

高齢者がん

構成メンバー

テーマリーダー：石渡 俊行

研究員：相田 順子、石川 直

非常勤研究員：田久保 海誉、寺井 政憲、
仲村 賢一、下村 七生貴、
長谷川 文雄、長谷川 康子

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

1. 副甲状腺のテロメア: Age投稿後リバイスのための追加実験終了し、日本病理学会で発表、論文執筆中。
2. 膵島 α 細胞、 β 細胞のテロメア長と加齢・老化との関連: 病院の糖尿病・代謝・内分泌内科と共同で論文発刊済み
3. 膵外分泌細胞の組織幹細胞の研究: 腺房細胞と腺房中心細胞(幹細胞候補)のテロメア長を測定し、学会発表した。現在テロメラーゼの局在と発現量につき追加実験中。
4. 膵ランゲルハンス島の大きさとそれを構成する内分泌細胞、膵神経内分泌細胞腫瘍のテロメア長との関連: 実験中。
5. 膀胱尿路上皮性腫瘍: 論文発刊 Urol Oncol (2014年2月)。さらに尿路上皮癌に対し、染色体本数と染色体ごとのテロメア長を測定する実験を追加中。
6. 脂肪腫と脂肪腫様脂肪肉腫のテロメア長による鑑別: 約40例の解析を終了し、解析が終わり論文執筆中。来年春の病理学会で発表予定。
7. 百寿者のiPS細胞: 共同研究者が論文執筆中、学会発表済み。
8. 口腔内癌とアルデヒド、アルコール脱水素酵素の遺伝子型: 実験終了、論文執筆中。
9. バレット癌の発生母地である周囲粘膜(噴門粘膜上皮と化生性腸上皮)における染色体不安定性とテロメア長: 成果の一部を日本病理学会および国際病理学会において発表済み。補足実験および論文執筆中。
10. 肺の末梢組織・細胞(末梢気管支線毛上皮・基底細胞、肺泡クララ細胞)の老化とテロメア長に関する研究: 研究成果を学会発表し、論文執筆中。
11. 環境要因と老化、特にアスベスト曝露例と中皮腫の中皮テロメア長の変化について: 成果の一部を学会発表し、実験継続中。
12. 下垂体前葉・後葉細胞の加齢研究: 組織データが完成した。新生児から100歳までの50例を解析し、学会発表済み。論文執筆中。
13. 副腎皮質細胞・髄質細胞の加齢変化に関する研究: 実験方法を考慮中。
14. 大脳皮質・髄質のグリア細胞と皮質神経細胞の加齢研究: 実験中。来年春の病理学会で発表予定。
15. 細胞診検体を利用したテロメア長の測定方法の開発: 実験中。
16. バレット癌の深達度、その他の臨床病理組織学的所見と予後との関連性に関する多施設共同研究: 途中経過を学会発表し、成果の一部を日本語論文発表済み。英文論文執筆中。
17. 高齢者に集積のみられるマイクロサテライト不安定性を示す充実型低分化腺癌の臨床病理学的特徴ならびに遺伝子変異: 国際学会で発表し、論文執筆中。
18. フローサイトによる膵癌の癌幹細胞の分離同定: 膵癌のSide population(SP)細胞の分離方法の確立のため実験中。
19. 線維芽細胞増殖因子(FGFR4)の抑制による膵癌治療の研究: 実験が終了し、論文執筆中。
20. 長鎖非コードRNAの制御による膵癌治療の基礎研究: 投稿し査読後の修正中(Am J Pathol誌)。
21. イヌ、ネコ乳癌の癌幹細胞の同定と治療法開発: 実験中。
22. イヌ乳癌の長鎖非コードRNAの研究: 実験準備が整い、今後実験を行なう予定。
23. 癌免疫療法に対する生体内癌動態可視化: 東京大学の共同研究者と初期実験を終え、今後の実験方法を検討中。
24. 膵癌におけるStat 5の生物学的役割とそのシグナル伝達経路について: 日本医科大学との共同研究の成果を論文発刊済み(Oncol Rep, 2016)。
25. 循環血液中癌細胞の新たな検出方法の検討: 温度伸縮性素材と上皮細胞マーカーを組み合わせた新たな検出方法を、日本医科大学の共同研究者と開発中。
26. 膵癌の新たなバイオマーカーの探索: 静岡県立大学においてファージディスプレイ法で検出された新たな膵癌バイオマーカーにつき、ヒト癌組織での発現を検討中。
27. 膵組織幹細胞の老化機序解明による疾患発症機序の解明: 実験方法につき、金沢大学等の共同研究者と考慮中。
28. 骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫の初代培養細胞において各染色体のテロメア長を日赤医療センターと共同研究継続中。
29. ヒト大脳組織の神経細胞とグリア細胞のテロメア長における加齢による比較を日赤医療セ

ンターと共同研究中。来年度学会発表予定。

30. Notch1 KOマウスにおいてNotch1導入部と非導入部組織のテロメア長比較実験を東京医科歯科大学と共同研究中。来年度学会および論文発表予定。

31. 膵癌のnestinリン酸化制御による、転移抑制の研究。論文採択。

【その根拠】

進捗状況に概略を記載し根拠を明示した。「実験中」は材料収集が終了し、実験方法が確定している。「実験方法を考慮中」は実験方法が確定していない。「論文執筆中」は実験が終了している。「論文採択」と「論文発刊」は最も確かな根拠と考える。

【新しい知見】

作成・投稿・リバイス中論文と採択済みの論文について以下説明する。

1. 副甲状腺好酸性細胞のテロメアは主細胞に比し短く、PTH陰性で、ヒト生体内でほとんど認定されていない老化細胞の可能性がある。(論文作成中)
2. 下垂体前葉の内分泌細胞のテロメアは加齢とともに短縮するが、後葉を構成する細胞のテロメアは加齢の影響が乏しい。(論文作成中)
3. 膵ランゲルハンス島の α 細胞、 β 細胞のテロメアは加齢に伴いともに短縮する。(論文採択済み)
4. 膀胱腫瘍の悪性度別テロメア長と染色体の解析から、形態学的に悪性度が増す以前にテロメア短縮があり染色体の不安定性があることが明らかとなった。
5. 非喫煙者では、気管支基底細胞・線毛細胞、肺胞クララ細胞のテロメア長は加齢とともに短縮した。一方、喫煙者では加齢によるテロメア短縮を認めなかった。また、65歳以下の若年群では喫煙によりテロメアが短縮したが、高齢群では喫煙によるテロメア短縮は見られなかった。(論文作成中)
6. 線維芽細胞増殖因子受容体(FGFR4)は一部の膵癌に高発現しており、これらの癌では現在使用されている分子標的薬の効果が少ないことから、次世代の分子標的となる可能性があることを明らかにした。
7. 長鎖非コードRNAのH19が膵癌の転移に重要な役割を果たし、治療標的となることを動物実験レベルで明らかにした。
8. 膵癌のバイオマーカーとして現在使用されているCA19-9, CEAよりも感度、特異度ともに高い、microRNAのmiR-4710を発見、報告した。
9. 表在性のバレット癌のリンパ節再発危険因子

は粘膜下層浸潤、リンパ管侵襲、大きさ、低分化成分の存在が有意であった。(論文作成中)

10. バレット癌の背景粘膜は、胃型上皮と腸型上皮のテロメア長から見た染色体不安定性には差が無く、テロメアからは従来からの定説である腸型上皮から癌が発生するという説を支持する所見は得られず、定義に規定する意義はないと考えられた。(論文作成中)

11. 石綿曝露例の中皮と非曝露例の中皮、悪性中皮腫のテロメア長を比較すると、石綿曝露例の中皮は非曝露例の中皮よりもテロメアの短縮が認められ、染色体不安定性が増加していることがわかった(論文作成中)

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外機関との連携

<iPS細胞の研究>

血管医学研究、慶應義塾大学老年病科、理化学研究所

<剖検、手術、生検検体の臨床病理学的研究>

病理診断科、バイロイト大学病理学、マサチューセッツ総合病院

<膵島の研究>

内分泌科、日赤医療センター検査部

<副甲状腺の研究>

糖尿病・代謝・内分泌内科、病理診断科、日赤医療センター検査部

<内視鏡切除検体の研究>

内視鏡科、病理診断科、虎の門病院

<肝移植細胞の研究>

自治医大移植外科、日本医大肝胆膵外科

<膵管細胞・膵内分泌細胞の老化>

病理診断科、自治医大外科、相澤病院

<バレット食道の定義研究>

福祉と生活ケア、病理診断科、バイロイト大学病理学

<内視鏡超拡大観察と病理組織像の研究>

埼玉医科大学

<バレット癌の深達度、その他の臨床病理組織学的所見と予後との関連性に関する多施設共同研究>

福祉と生活ケア、消化器内科、病理診断科、埼玉県立がんセンター消化器内科、がん研有明病院、東京医歯大食道胃外科、東海大外科、佐久医療センター、新潟大消化器内科

<バレット食道マウスモデルとヒトバレット食道の比較について>

東京大学外科

<胸膜悪性中皮腫と石綿曝露例胸膜中皮のセルブロックによるテロメア長解析>

国際医療福祉大学三田病院病理
<アルコール症患者におけるバレット食道と食道静脈瘤に関する研究>
国立病院機構久里浜医療センター内科、川崎市立井田病院内視鏡科
<フローサイトによる膵癌の癌幹細胞の分離同定>
血管医学研究、病理診断科
<線維芽細胞増殖因子(FGFR-4)の抑制による膵癌治療の研究>
日本獣医生命科学大学獣医病理
<長鎖非コードRNAの制御による膵癌治療の基礎研究>
日本獣医生命科学大学獣医保健看護
<イヌ、ネコ乳癌の癌幹細胞の同定と治療法開発>
日本獣医生命科学大学獣医病理
<イヌ乳腺癌の長鎖非コードRNA>
日本獣医生命科学大学獣医保健看護
<癌免疫療法に対する生体内癌動態可視化>
東京大学教養学部
<膵癌におけるStat 5の生物学的役割とそのシグナル伝達経路について>
日本医科大学消化器外科
<循環血液中癌細胞の新たな検出方法の検討>
日本医科大学消化器外科
<膵癌の新たなバイオマーカーの探索>
静岡県立大学薬学部
<膵組織幹細胞の老化機序解明による疾患発症機序の解明>
病理診断科、金沢大学がん進展制御研究所腫瘍制御分野
<骨髄異形成症候群と多発生骨髄腫の初代培養細胞における各染色体のテロメア長>
日赤医療センター検査科
<大脳組織の老化に関する研究>
日赤医療センター病理部
<Notch-1 KOマウスの作製と発癌に関する研究>
東京医科歯科大学歯学部口腔病理

3 今後の展望

【平成28年度の進捗状況】から、多臓器の組織を用いて研究を展開している。また、いわゆる内科的疾患も対象としている。以上により目的を実現するために妥当な進行であると考えている。

現在のテロメア長測定は、サザンブロット法に加え、組織切片や分裂中期染色体標本をFISHしてテロメアを測定している。定量性にすぐれているサザンブロットについて実験方法の簡略化と、精度の向上に取り組んでいる。テロメア長を制御するテロメラゼを組織切片上で定量可能な、

branched DNA in situ hybridization法の技術開発を進めている。幹細胞や癌幹細胞のテロメアについての研究を行なうため、所内のグループと連携を強化している。

膵癌の早期診断についてはmicroRNAの検討を、治療については長鎖非コードRNAについて研究を行なっている。研究費やマンパワーが不足しているため、所内外との協力により研究をさらに進めて行く必要があると考えている。

4 その他

現在までの研究により、前癌病変と前癌状態の定義についての提案（英文、日本語）を研究グループ独自のホームページにPDFで掲載した（総説は執筆中）。通常、肉眼や組織像で認識できるが癌の発生しやすい病変（全く異常のない病変よりも）を前癌病変と呼ぶ。前癌状態は通常よりも癌の発生しやすい状態を言う。両者をテロメア短縮と染色体の不安定性を持つ状態（過度に老化の進んだ状態とも換言できる）と再定義した。現在までにヒト組織のテロメアは加齢とともに必ず短縮するということを定説化した。さらに本定義を定説となるように実験を継続する。

難治性の高齢者がんとして注目されている膵癌のバイオマーカーの探索と、新たな治療法の発見に向けた研究を行っている。新たな膵癌バイオマーカーを独自の動物移植法により発見した（特許出願済み、論文作成中）。膵癌の増殖転移に関連する、新たな増殖因子受容体と、長鎖非コードRNAを発見し学会等で発表してきた（論文作成、投稿中）。膵癌の癌幹細胞と循環血液中の癌細胞を分離同定し、これらの細胞の性質を解析することで、膵癌の易再発性と易転移性の機序を解明するため実験を行なっている。

神経病理学（ブレインバンク）

構成メンバー

テーマリーダー：藤ヶ崎純子、村山繁雄（神経内科・高齢者バイオリソースセンター部長兼務）

研究員：高田忠幸、中野雄太（高齢者バイオリソースセンター）、石橋久美子（高齢者バイオリソースセンター）、小幡真希（高齢者バイオリソースセンター）

技術員：木村有希

非常勤研究員：内野彰子、鈴木衣子、高尾昌樹、齊藤祐子、伊藤慎治、初田裕幸、吉田裕孝

非常勤職員：原田三枝子、瀬川千尋、森島真帆、

直井信子、岡本京子、後藤 博、
今井佐知子、樋口友香

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

アミロイドPET (C11- PIB) 撮像例で剖検を得た症例の検討で、皮質のSUV (standard uptake varlue) とアミロイド沈着の程度は良い相関を認めるが、基底核では相関を認めないことを明らかにした。さらに、アミロイドPETと髄液アミロイドベータ蛋白測定結果が強い相関をとることを明らかにした。さらに髄液アミロイドベータ値と剖検でのアミロイドベータ蛋白沈着は、採取から死亡まで経過があっても相関することを明らかにした。以上の点より、アルツハイマー病診断サロゲートバイオマーカーとしては、アミロイドベータ蛋白測定を第一とすべきこと、ブレインバンク献脳ドナー登録が得られるか、問題症例についてはアミロイドPETを行うというガイドラインを作成した。以上、進捗状況は良好と考える。

【その根拠】

病院神経内科、研究所臨床画像と協力しながら、神経病理学的確認を元に当施設認知症診断ガイドラインを作成する根拠を蓄積した点で、進捗状況良好と判断した。

【新しい知見】

アミロイドPETで、皮質の蓄積は蓄積量を反映しても、基底核の沈着は比例しないことを示したのは我々が最初である。また、髄液アミロイドベータ値とアミロイドPETの相関を多数例で単施設で確認したのは本邦では我々が最初である。また初回髄液測定値が剖検時のアミロイドベータ沈着と相関することを示したのも我々が最初である。いずれもブレインバンク、ドナー登録があってはじめて可能となる。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜パーキンソン病診断のための皮膚生検＞

神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、神経内科
＜認知症のsurrogate biomarker確立にむけての「バイオリソース」データベース構築の検討＞
神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、神経内科、神経画像研究チーム

＜筋萎縮性側索硬化症の臨床生理学的診断基準の確立＞

神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、神経内科
＜3D-SPGR画像統計解析に基づく認知症の早期診断、鑑別の有用性＞

神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、放射線診

断科

＜神経変性疾患の新規バイオマーカー。治療標的となるmicroRNAの同定とその有用性の評価＞
神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、老化機構研究チーム

＜脳パラフィン包埋切片ARG試験によるPET用タウプローブ[¹⁸F]THK5351のメラニン含有細胞結合性の検討＞

神経病理学 (高齢者ブレインバンク)、神経画像研究チーム

3 今後の展望

【平成28年度の進捗状況】で述べたように、重要なデータが得られており、中間期での自己評価として、ほぼ順調に研究が行われ、目的を実現するために妥当な進行であると考慮される。

4 その他

当研究室は、国内でも有数の神経病理学基盤組織の一つとして、国内外の多数の施設と連携し神経疾患の病理学的診断に寄与している。診断と平行して、半脳を凍結し(症例によっては一部)、国際基準に準じた正確な病理診断に基づく脳研究リソースを構築している。脳研究リソースの拠点として多くの神経病理学的研究に参画、研究実績を挙げている。拠点構築活動と、主たる研究成果を以下に挙げる。

I: 日本ブレインバンクネットワーク主要施設としての活動

1 高齢者ブレインバンクネットワークの構築

当センターを核とした高齢者ブレインネットワークを構築し、活動を継続している。以下に挙げる連携施設に今年度は新たに6施設が加わり、高齢者神経疾患の克服に向けたリソース構築のネットワークを拡大している。

- ・ 国立センター：国立精神・神経医療研究センター、国立国際医療研究センター、国立長寿医療研究センター、国立循環器病研究センター(大阪)
- ・ 国立病院機構：東京病院(東京)、静岡てんかん・神経医療センター(静岡)、下志津病院(千葉)、広島西医療センター(広島)、相模原病院(神奈川)、刀根山病院(大阪・新規)、千葉西医療センター(千葉・新規)
- ・ 地域基幹病院：美原記念病院(群馬)、亀田総合病院(千葉)、横浜労災病院(神奈川)、福祉村病院(愛知)、近森病院(高知)、関西電力病院(大阪)、厚生病院(東京)、関東中央病院(東京・新規)、JR東日本病院(東京・新規)、

- ・大学附属病院：東京大学医学部附属病院、北里大学附属病院、大阪市立大学医学部附属病院、山口大学医学部附属病院、徳島大学医学部附属病院、香川大学医学部附属病院、帝京大学医学部附属病院(東京)、東京医科大学附属病院(東京)、大阪大学医学部附属病院(大阪・新規)、福島医科大学津医療センター(福島・新規)
- 2 コホート・生体試料支援プラットフォームへの参画

文部科学省新学術領域・学術研究支援基盤形成研究費により、科研費により助成されている学術研究に関し、研究者のニーズに応じた脳リソースの提供を開始した。当研究室を中心に日本神経科学ブレインバンクネットワーク(福祉村病院ブレインバンク、美原記念病院ブレインバンク、国立精神・神経医療研究センターブレインバンク、福島医科大学精神疾患ブレインバンク)を基盤とした脳リソース提供を行った。

3 日本ブレインバンクネットの構築

国立精神神経・医療研究センターの指導の元、AMED融合脳横断リソース認知症・老化拠点として参加、新潟大学脳研究所・愛知医大加齢医学研究所が神経疾患拠点、都立松沢病院(東京都医学総合研究所)・福島県立医科大学精神神経科・名古屋大学精神科・岡山大学精神科を精神疾患拠点とともに、日本ブレインバンクネットを構築した。神経病理学会ブレインバンク、生物学的精神医学会を基盤とし、日本神経学会、日本病理学会、日本認知症学会の後援の元に活動を開始した。

II: 公的神経難病研究への参画

1) クロイツフェルトヤコブ病サーベイランス委員会病理コア

本邦では診療や剖検拒否をされることの多いプリオン病について、厚生労働省難治性疾患克服政策班サーベイランス事業に病理コアとして参加し、神経病理学的研究に貢献をしている。

2) 厚労科研神経難病班への参加

変性疾患班において、剖検確定診断例の疫学研究をテーマに班員として協力している。

3) 日本医療研究開発機構(AMED)分担研究

次世代シーケンズを用いた孤発性神経変性疾患の解明、皮質基底核変性症・進行性核上性麻痺バイオリソース構築に加盟し、研究を行っている。

III: 臨床病理学的検討に基づく研究

神経病理診断に関わった症例に関し、臨床、病理相関の理解の為に多数の報告を行った。(業績参照)

IV: 高齢者ブレインバンク研究リソースを用いた研究

1 高齢者ブレインバンク蓄積脳を用いた認知症発症機序に関する研究

認知性疾患の発症と進行に関わる生化学的経路を解明する研究に参画した。

2 神経放射線画像解析に関する研究:

放射線医学研究所タウイメージ実証研究を軸にアルツハイマー関連病理を画像的に検出するための研究に参画した。生前同意ブレインバンク患者を勧誘し、放医研開発PBB3 PETを撮像し、死亡時剖検により有用性の検討を行った。

V: 海外ブレインバンクとの国際共同研究の展開

諸外国のブレインバンクと連携し、以下の国際共同研究を展開している。

1 国際パーキンソン病研究

オーストラリアシドニーブレインバンク、プリンスオブウェールズ研究所パーキンソン病ブレインバンク、イギリス、クィーンズスクエアブレインバンク、オランダ、アムステルダムVU大学ブレインバンクとの共同研究により、パーキンソン病発症に関わるLRRK2蛋白について、死後脳を用い生化学的、病理学的な発現解析を行った。LRRK2蛋白の発現、リン酸化がパーキンソン病の進行に伴って変化し、病態の進行に関わりうることを報告した。引き続き、シドニーブレインバンクとLRRK2変異による家族性パーキンソン病の病態解析を開始した。

2 ブラジルサンパウロ大学ブレインバンクとの人種・文化差が老年性変化に与える影響に関する国際共同研究

人種、生活環境の差が脳の加齢性変化に与える影響を解析する研究を立ち上げた。日本学術振興会主催の国際科学交流ワークショップに招聘を受けサンパウロ大学にて講演を行った(業績参照)。日系ブラジル人コミュニティは、同じ人種間で異なった環境が与える影響を比較しうる重要かつ世界的にも他に類のない研究対象である。生活環境が老化に与える影響に関し重大な発見に繋がりうる研究を始動することができた。2004年から2013年にかけてサンパウロ大学ブレインバンクで剖検された日系ブラジル人47例の神経病理所見を纏め、投稿準備中である。これらの成果を基に双方のブレインバンクの脳リソースを用いて遺伝子制御に関する網羅的解析を開始する予定である。

VI: 神経変性疾患の生前病理診断の確立

加齢依存性に発症する神経変性疾患は進行に先駆けて早期に治療を開始することが重要である。

今後、展開が期待される治療戦略に対応するために、疾患を生前に診断する方法を確立することが重要である。次の2疾患を中心に生前診断法の確立に取り組み成果を挙げている。

1) レビー小体病皮膚生検診断の確立

レビー小体病の皮膚生検診断の有用性の検討の為に神経内科と共同での取り組みを継続している。

2) 成人型核内封入体病皮膚生検診断の確立

高齢者認知症の一型である成人型核内封入体病について、全国の施設から皮膚生検を引き受け、これまでに約45例の診断に貢献した。下記(VII)の成果に基づき、皮膚生検で認められる所見を総括し、皮膚生検の診断基準を作成中である。

VII: 成人型核内封入体病の病態解析

1) 成人型核内封入体病での封入体形成機序の解明

当施設で生検された成人型核内封入体病の皮膚生検材料を用い、同疾患ではタンパク分解を担う核内ドメインの形成障害が生じており、それが病態に関連していることを明らかにした。成果は神経学会にて報告し、現在論文投稿中である。

2) シンガポール国立神経科学研究所との共同研究

成人型核内封入体病は本邦からの報告が多いが、海外でも高齢者の認知性疾患の一つとして注目されつつある。当センター放射線診断科(徳丸阿耶部長)、シンガポール国立神経科学研究所神経放射線科(Tchoyoson Lim教授)と共同で病理学的検討を開始し、シンガポール国内初の生検症例の診断を行った。

VIII: 霊長類パーキンソン病モデル動物の解析

慶應義塾大学生理学教室、実験動物中央研究所と連携し、世界に先駆けて作出された変異型パーキンソン病関連遺伝子が導入されたマーモセットの神経病理学的解析を行っている。遺伝子導入マーモセットでは初期症状として睡眠障害が出現することが解り、現在は睡眠調節に関与する脳幹諸核の病理学的解析を進めている。

IX: 共焦点レーザー顕微鏡を用いた消化管神経叢の可視化

東京慈恵会医科大学内視鏡科、慶應義塾大学小児外科、九州大学小児外科と連携し、共焦点レーザー顕微鏡で消化管神経叢を直接観察することに成功した。消化管神経叢に異常をきたす小児疾患であるヒルシュスプルング病の外科手術に応用するための研究を開始し、同時に観察に適した機器開発を進めている。加えて、成人の消化管運動機

能障害の評価のために糖尿病患者の胃、大腸切除検体を用いて消化管神経叢の形態の変化を観察する研究を開始している。

論文・学会発表

高齢者がん

1 学会発表

(1) 海外

1. Ishiwata T, Yoshimura H, Matsuda Y, Arai T, Ishikawa N, Aida J, Takubo K, Ishiwata S. Fibroblast growth factor receptor-4 (FGFR-4) as a novel therapeutic target for pancreatic cancer, American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016, New Orleans, USA, 2016.4.16-20
2. Matsuda Y, Tanaka M, Suzuki A, Seki A, Nonaka K, Nishimura M, Ishiwata T, Yoshimura H, Takubo K, Arai T. Single nucleotide polymorphisms in ARHGAP17 are associated with pancreatic intraepithelial neoplasia. American Association for Cancer Research Annual Meeting 2016, New Orleans, USA, 2016.4.16-20
3. Kawami N, Yamada A, Hoshihara Y, Hanada Y, Hoshikawa Y, Takenouchi N, Hoshino S, Umezawa M, Aida J, Takubo T, Iwakiri K. Circumferential Distribution of mild esophageal mucosal break (Los Angeles Classification Grades A and B) in the lower esophagus. Digestive Disease Week 2016; American Society for Gastrointestinal Endoscopy, San Diego, USA, 2016.5.21-24
4. Aida J. Diagnosis of Barrett's esophagus and chromosomal instability. First International Gastrointestinal Seminar in Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo, Japan. 2016.7.29
5. Matsushita A, Nakamura Y, Sumiyoshi H, Aimoto T, Yokoyama T, Matsuda Y, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E. Neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S1 in patients with resectable and borderline resectable pancreatic cancer - A pilot study. 20th International Association of Pancreatology & 47th Japan Pancreas Society & 6th Asian Oceanic Pancreatic Association Combined Meeting, Sendai, Japan. 2016.8.4-7
6. Matsuda Y, Yoshimura H, Ishiwata T, Sumiyoshi H, Matsushita A, Nakamura Y, Aida J, Uchida E, Takubo K, Arai T. Mitotic index and multipolar mitosis in routine histologic sections as prognostic markers of pancreatic cancers: A clinicopathological study. 20th International Association of Pancreatology & 47th Japan Pancreas Society & 6th Asian Oceanic Pancreatic Association Combined Meeting, Sendai, Japan. 2016.8.4-7
7. Matsuda Y, Wo JY, Castillo CF, Blaszkowsky LS, Ferrone CR, Matsushita A, Yoshimura H, Uchida E, Ishiwata T, Arai T, Hong TS, Ryan DP, Mino-Kenudson M. Pathologic assessment of tumor regression after neoadjuvant therapy for locally advanced/borderline resectable pancreatic cancer. 20th International Association of Pancreatology & 47th Japan Pancreas Society & 6th Asian Oceanic Pancreatic Association Combined

Meeting, Sendai, Japan. 2016.8.4-7

8. Aida J, Takubo K, Ishikawa N, Matuda Y, Arai T, Ishiwata T, Vieth M. Telomere measurement of intestinal and cardiac-type mucosae in Barrett's oesophagus using quantitative fluorescence *in situ* hybridization. XXXI International Congress of IAP and 26th Congress of ESP, Cologne, Germany. 2016.9.25-29
9. Arai T, Wang T, Matsuda Y, Seki A, Nonaka K, Kakizaki M, Aida J, Takubo K, Ishiwata T. KRAS and BRAF mutations and microsatellite status in gastric cancer in the elderly. XXXI International Congress of IAP and 26th Congress of ESP, Cologne, Germany. 2016.9.25-29
10. Aida J. Risk factors for lymph node metastasis of superficial Barrett's carcinoma. 2nd International Gastrointestinal Seminar in Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo, Japan. 2016.10.21
11. Ishiwata T, Yoshimura H, Matsuda Y, Ishikawa N, Takubo K, Arai T, Aida J. Correlation of long non-coding RNA, H19, with metastasis of pancreatic cancer. 47th Annual Meeting of the American Pancreatic Association, Boston, USA. 2016. 10.26-29
12. Matsuda Y, Furukawa T, Yachida S, Nishimura M, Seki A, Nonaka K, Aida J, Takubo K, Ishiwata T, Kimura W, Arai T, Mino-Kenudson M. High-PanIN/Carcinoma in situ of the pancreas associated with cystic changes and fibrosis. 47th Annual Meeting of the American Pancreatic Association, Boston, USA. 2016. 10.26-29

(2) 国内

1. 田久保海誉. 症例から考える、バレット食道/バレット食道癌の内視鏡所見と病理組織所見の検討. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 2016. 5.12-14
2. 相田真介, 相田順子, 津浦幸夫, 田久保海誉, 新井富生, 長村義之. Q-FISH法による胸水中皮細胞のテロメア長の測定とその意義の検討. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 2016. 5.12-14
3. 相田順子, 泉山七生貴, 仲村賢一, 石川直, 松田陽子, 長谷川佳代, 直井美穂, 田久保海誉, 新井富生. Q-FISH法によるバレット食道における腸型および噴門型粘膜のテロメア計測. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 2016. 5.12-14
4. 松田陽子, 田中雅嗣, 沢辺元司, 森聖二郎, 山田芳司, 村松元明, 関敦子, 野中敬介, 田久保海誉, 新井富生. 高齢者病理解剖症例2458例における膵前癌病変と一塩基多型との関連の検討. 第105回日本病理学会総会. 仙台, 2016. 5.12-14
5. 石渡俊行, 松田陽子, 石川直, 相田順子, 新井富生. 動物移植法により得られた新規膵癌バイオマーカー: miR-4710. TOBIRA 第5回研究交流フォーラム. 東京, 2016.5.23
6. 相田順子, 石川直, 田久保海誉, 石渡俊行, 新井富生. テロメア長測定による、老化と前がん状態の検出. TOBIRA 第5回研究交流フォーラム. 東京, 2016.5.23
7. 日置沙希, 奥村拓真, 鈴木啓之, 森美由紀, 齊藤美香, 相田順子, 山口雅庸, 平野浩彦. 口蓋に浸潤したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の一例. 第27回日本老年歯科医学会総会 (徳島) 2016.6.18-19
8. Aida J, Arai T, Ishiwata T, Takubo K. Chromosomal Instability in Barrett's esophagus-Telomere measurement using Q-FISH. 第70回日本食道学会学術集会

(東京) 2016.7.4-6

9. 相田順子. 組織切片を用いた定量的FISH法によるテロメア長測定法とその応用 - α 細胞、 β 細胞のテロメア長測定. 第16回Islet Biology研究会 講演(東京) 2016.7.15-16
10. Nagao T, Aida J (Chair). Diagnostic Clues in Salivary Gland Tumor Pathology Based on the "New" WHO Classification. The 27th Annual Meeting of the Japanese Society of Oral Pathology (広島) 2016.8.10-12
11. 松田陽子. Wo JY, Castillo CF-D, Blaszekowsky LS, Ferrone CR, 松下晃, 中村慶春, 内田英二, 石渡俊行, 新井富生, Hong TS, Ryan DP, Mino-Kenudson M. 膵癌術前治療に対する病理組織学的効果判定の検討. 第21回日本外科病理学会学術集会. 埼玉. 2016.9.2-3
12. 石渡俊行, 吉村久志, 松田陽子, 石川直, 新井富生, 田久保海誉, 相田順子. 膵癌の転移に対する新たな治療標的としての長鎖non-coding RNA, H19. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜. 2016.10.6-8
13. 松下 晃, 住吉宏樹, 中村慶春, 勝野暁, 山初和也, 松谷毅, 山田岳史, 萩原信敏, 進士誠一, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉, 内田英二. ヒト膵癌細胞におけるSTAT5bのゲムシタピン抵抗性、接着能、浸潤能への関与. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜. 2016.10.6-8
14. 進士誠一, 松田陽子, 山田岳史, 小泉岐博, 横山康行, 高橋吾郎, 岩井拓磨, 原敬介, 武田幸樹, 石渡俊行, 新井富生, 内藤善哉, 内田英二. 低分化成分を有する右側結腸癌と左側結腸癌の臨床病理学的比較. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜. 2016.10.6-8
15. 松田陽子, 泉山一下村七生貴, 関敦子, 野中敬介, 仲村賢一, 石川直, 相田順子, 田久保海誉, 石渡俊行, 新井富生. 膵癌のテロメア短縮と加齢、発癌、組織幹細胞との関連の検討. 第75回日本癌学会学術総会. 横浜. 2016.10.6-8
16. 石渡俊行. 膵癌の癌幹細胞と上皮間葉転換—新たな治療標的としての可能性—. 静岡県立大学薬学研究院 月例薬学セミナー (講師). 静岡. 2016.10.24
17. 石渡俊行. 癌幹細胞マーカー・nestinを標的とした膵癌治療の可能性. 第二回がんゲノム・エピゲノムセミナー. 滋賀. 2016.10.22
18. 相田順子. 定量的FISH法によるテロメア長解析による老化と発癌機序の解明: 新たな前癌病変状態の発見. 第62回日本病理学会秋期特別総会 (A 演説). 金沢. 2016.11.10-11
19. 松田陽子, 石渡俊行, 田久保海誉, 新井富生. 病理解剖検体を用いた膵癌早期病変の臨床病理像の解明. 第62回日本病理学会秋期特別総会 (B 演説). 金沢. 2016.11.10-11
20. 石渡俊行. 膵癌の癌幹細胞と上皮間葉転換—その役割と治療応用の可能性—. 神奈川県病理医会第104回例会 (特別講演). 伊勢原. 2017.1.7
21. 星原芳雄, 岩切勝彦, 山田章喜, 川見典之, 貝瀬 満, 相田順子, 田久保海誉. 下部食道小病変の時刻表示による周在部位決定法の精度向上. 日本消化管学会学術集会. 名古屋. 2017.2.17

2 誌上発表

(1) 原著

1. Kumagai Y, Takubo K, Kawada K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H. Endoscopic observation of various types of esophagitis. Esophagus 13(4):

200-207, 2016

- Sumiyoshi H, Matsushita A, Nakamura Y, Matsuda Y, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E. Suppression of STAT5b in pancreatic cancer cells leads to attenuated gemcitabine chemoresistance, adhesion and invasion. *Oncol Rep.* 35(6):3216-26, 2016
- Tamura Y, Izumiyama-Shimomura N, Kimbara Y, Nakamura K, Ishikawa N, Aida J, Chiba Y, Matsuda Y, Mori S, Arai T, Fujiwara M, Poon SSS, Ishizaki T, Araki A, Takubo K, Ito H. Telomere attrition in beta and alpha cells with age. *Age Jun*;38(3):61, 2016
- ★◎相田順子、石崎達郎、石渡俊行、田久保海誉、新井富生。表在型Barrett食道癌の転移・再発危険因子—第72回食道色素研究会多施設アンケート調査から—。胃と腸 151(10), 2016
- Yoshimura H, Yamamoto M, Moriya M, Endo T, Sugiura N, Kato T, Matsuda Y, Ishiwata T, Kajigaya H, Kamiya S. Teratoma of the ovary in a free-ranging Japanese raccoon dog (*Nyctereutes procyonoides viverrinus*). *Journal of Zoo and Wildlife Medicine*, in press
- Matsuda Y, ◎Ishiwata T, Yoshimura H, Yamahatsu K, Minamoto T, Arai T. Nestin phosphorylation at threonines 315 and 1299 correlates with proliferation and metastasis of human pancreatic cancer. *Cancer Sci.* 2016 Dec 21. doi:10.1111/cas.13139. [Epub ahead of print]

(2) 総説

- 新井富生、松田陽子、関敦子、野中敬介、櫻井うらら、相田順子、田久保海誉、石渡俊行。老人性アミロイドーシスの病理。病理と臨床 34(5) : 496-504, 2016
- 新井富生、松田陽子、関敦子、野中敬介、柿崎元恒、相田順子、田久保海誉、石渡俊行。髄様癌Medullary carcinoma。病理と臨床 34 (10): 1080-1084, 2016
- ★◎Ishiwata T。Cancer stem cells and epithelial-mesenchymal transition: Novel therapeutic targets for cancer. *Pathol Int.* 2016 Nov; 66(11): 601-608.

神経病理学 (ブレインバンク)

1 学会発表

(1) 海外

- Nakano Y, Takahashi-Fujigasaki J, Shinya A, Takahashi M, Oimo S, Kitamoto T, Murayama S: Clinically and neuropathologically atypical autopsied case of sporadic Creutzfeldt-Jakob disease MM typel. Prion 2016 Tokyo, 2016.5.10-13
- Motoyama R, Sengoku R, Nishina Y, Kaneda D, Kanemaru K, Ishii K, Murayama S: A case of subacute progressive dementia presenting with M129V mutation of the prion protein gene and positive RT-QUIC assays. Prion 2016 Tokyo, 2016.5.10-13
- Murayama S, Sengoku R, Kaneda D, Nakano Y, Fujigasaki J, Sito Y: The establishment of the Biobank-Brain Bank for Aging Research, Tokyo Japan. 92st American Association of Neuropathologists. Baltimore USA, 2016.6.16-19
- Sengoku R, Yamazaki M, Kaneda D, Nishina Y, Tokumaru A, Kanemaru K, Murayama S. Comparison of DAT scan, cardiac MIBG scintigraphy and cerebral spinal fluid 5HIAA levels in Parkinsonian syndrome.

20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Berlin, 2016.6.19-23.

- Kaneda D, Sengoku R, Kanemaru K, Morimoto S, Nishina Y, Fujigasaki J, Tokumaru A, Ishii K, Saito Y, Murayama S: P1-347 The Establishment of the Biobank for Aging Research in Liason with the Brain Bank for Aging Research, Tokyo, Japan. AAIC 2016. Toronto, 2016.7.23-28
- Kanemaru K, Kanemaru A, Murayama S: Association Between Remnal Functions and SCFBiomarkers in Alzheimer's Disease. AAIC 2016. Toronto, 2016.7.23-28
- Mano T, Ohtomo R, Nagata K, Murayama S, Saido T. C, Yamashita S, Ushijima T, Hashimoto T, Tamaoka A, Iwatsubo T, Tsuji S, Iwata A: Epigenetic Regulation of BRCA1 in Alzheimer's Disease. Evaluation of Post-Mortem Brain and Model Mice Reveals Importance of Aggregated Tau. AAIC 2016. Toronto, 2016.7.23-28
- Nishida Y, Yui D, Nishina T, Mogushi K, Ishibashi S, Ajioka I, Ishikawa K, Mizusawa H, Murayama S, Yokota T: Enhanced Pla2g3 Expression By Oxidative Stress Decreases the Ide and Exacerbates AD. AAIC 2016. Toronto, 2016.7.23-28
- Murayama S: Establishment of Tokyo Longitudinal Study of Aging and Tokyo Biobank, based on the Brain Bank for Aging Research. The first JSPS International scientific exchange workshop, San Paulo, 30 Aug 2016
- Fujigasaki J: The 47 Japanese-Brazilian brain pathology findings. The first JSPS International scientific exchange workshop, San Paulo, 30 Aug 2016
- Kobayashi M, Shimojima N, Takahashi-Fujigasaki J, Kamba S, Sumiyama K : ENTERIC NERVOUS SYSTEM VISUALIZATION USING CONFOCAL LASER ENDOMICROSCOPY. APDW(Asian Pacific Digestive Week) 2016 , Kobe, 5 Nov. 2016.
- Kobayashi R, Shiozawa S, Okahara J, Yokohama C, Kondo T, Takahashi-Fujigasaki J, Inoue T, Hara-Miyauchi C, Maeda T, Okano H. J, Sasaki E, Okano H : Mutated α -Synuclein transgenic marmosets as a novel non-human primate model of Parkinson's disease ; Society for Neuroscience, San Diego , 16. Nov 2016.
- Uchino A, Ogino M, Fujigasaki J, Nishiyama K, Murayama S : An autopsy case of amyotrophic lateral sclerosis presented pallido-nigro-luysian degeneration with TDP-43 pathology. The 27th International Symposium on ALS/MND, Dublin, 7 Dec 2016.

(2) 国内

- 仙石錬平, 渋川茉莉, 本山りえ, 山崎幹大, 江口 桂, 東原真奈, 金田大太, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄 : 急性期脳梗塞様発作を示した高齢者てんかん症例。第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.14-16
- 本山りえ, 森本 悟, 田中 旬, 仙石錬平, 仁科裕史, 金田大太, 高梨成彦, 金丸和富, 村山繁雄 : 高齢者脳梗塞における経食道心臓超音波検査の診断的意義。第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.14-16
- 村山繁雄 : 病理所見の解説。第57回日本神経学会学術大会 (Neuro CPC), 神戸, 2016.5.18-21
- 鎌田正紀, 内野彰子, 國土曜平, 高田忠幸, 久米広大, 出口一志, 峠 哲男, 松本晃一, 千葉陽一, 上野正樹,

- 村山繁雄：FUS/TLS遺伝子変異を認めた家族性筋萎縮性側索硬化症の一例。第57回日本神経学会学術大会 (Neuro CPC)，神戸，2016.5.18-21
- 中野雄太，藤ヶ崎純子，内野彰子，金丸和富，村山繁雄：The evaluation of nuclear structures in intranuclear hyaline inclusion body disease：第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 瀬川千尋，小幡真希，金田大太，藤ヶ崎純子，新井富生，金丸和富，村山繁雄：臨床心理士職としてのプレインバンクコーディネーターの年次活動報告。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 徳丸阿耶，齊藤祐子，村山繁雄，藤ヶ崎純子，下地啓五，伊藤公輝，櫻井圭太：確定診断 進行性核上性麻痺PSP/皮質基底核変性症CBDの画像診断。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 金丸和富，仁科裕史，仙石鍊平，金田大太，村山繁雄：アルツハイマー型認知症における腎機能と脳脊髄バイオマーカーとの関連。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 仁科裕史，古田光，徳丸阿耶，石井賢二，金丸和富，村山繁雄：扁桃核腫大を伴い、認知症を呈する一群の経時的検討。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 高田忠幸，國土曜平，久米広大，池田和代，浦井由光，鎌田正紀，出口一志，峠哲男，正木勉：ギランバレー症候群の急性期における耐糖能異常に関する検討。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 仙石鍊平，洪川茉莉，本山りえ，森本 悟，砂川昌子，金田大太，仁科裕史，豊原 潤，藤ヶ崎純子，石井賢二，金丸和富，村山繁雄：エオジン好性核内封入体病における機能画像・髄液バイオマーカーの検討：第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 洪川茉莉，仙石鍊平，山崎幹大，江口 桂，本山りえ，広吉祐子，東原真奈，金田大太，仁科裕史，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：特発性正常圧水頭症における脳脊髄液バイオマーカーの検討。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 山崎幹大，仙石鍊平，金田大太，仁科裕史，徳丸阿耶，金丸和富，村山繁雄：パーキンソン症候群患者におけるDAT scan, MIBGシンチと脳脊髄液5HIAAの比較。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 東原真奈，園生雅弘，今福一郎，福武敏夫，仙石鍊平，村山繁雄：神経痛性筋萎縮症－本邦における臨床像についての検討－。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 浜口 毅，谷口 優，坂井健二，北本哲之，高尾昌樹，村山繁雄，岩崎 靖，吉田眞理，清水宏，柿田明美，高橋 均，内木宏延，鈴木博義，三條伸夫，水澤英洋，山田正仁：医療行為でプリオン病と同時にAlzheimer型病理変化が伝播する可能性についての検討。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 山口奈々香，中野雄太，藤ヶ崎純子，池村雅子，野間達雄，岩田 淳，清水 潤，村山繁雄，辻 省次：皮膚生検もしくは直腸生検で核内封入体病との診断に至った4例の臨床的特徴。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - Uchino A, Fujigasaki J, Hasegawa K, Yagishita S, Oonuma S, Ogino M, Ogino Y, Nakano Y, Murayama S, Nishiyama K：Neuropathological examination of familial Parkinson's disease with LRRK2 I2020T mutation。第57回日本神経学会学術大会，神戸，2016.5.18-21
 - 中野雄太，広吉祐子，内野彰子，藤ヶ崎純子，池内 健，長谷川成人，齊藤祐子，村山繁雄：Globular glial tauopathy (GGT) 2例の分子病理学的研究：第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 高田忠幸，内野彰子，村山繁雄，國土曜平，久米広大，池田和代，鎌田正紀，千葉葉一，松本晃一，出口一志，上野正樹，峠 哲男，正木 勉：呼吸不全で死亡した34歳女性例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 洪川茉莉，仙石鍊平，中野雄太，藤ヶ崎純子，齊藤祐子，金丸和富，村山繁雄：軽度認知障害 (MCI) で物忘れ外来受診、画像上進行性脳萎縮症を呈し、8ヵ月後全身疾患で死亡した87歳男性例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 山崎幹大，仙石鍊平，藤ヶ崎純子，徳丸阿耶，三谷和子，横山葉子，村山繁雄：高齢で発症した視神経髄膜炎の1剖検例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 塩谷彩子，森まどか，大矢 寧，村田美穂，長谷川成人，玉岡 晃，村山繁雄，齊藤祐子：筋緊張性ジストロフィーにおけるタウ蛋白のスプライシング異常について－exon 2,3のスプライスバリエーションの蓄積病理を中心に。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 佐野輝典，川添僚也，塩谷彩子，森まどか，大矢 寧，村山繁雄，村田美穂，齊藤祐子：筋強直性ジストロフィーにおける α シヌクレイン病理の特徴。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 松本千尋，高橋祐二，佐野輝典，村田美穂，藤ヶ崎純子，村山繁雄，齊藤祐子：Tau aggregates were immunostained with anti-ErbB4 antibody。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 須田真千子，山崎幹大，谷口 洋，栗田 正，内野彰子，仙石鍊平，村山繁雄：嚥下障害で発症し、頸部に優位な筋力低下を認めた63歳男性例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 平賢一郎，八坂京子，岩田 淳，寺尾安生，清水 潤，村山繁雄，辻 省次：一側上肢の伝導ブロックを伴う筋力低下と感覚障害で発症し、経過14年ポリニューロパチーと心不全を認めた65歳男性剖検例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 長谷川成人，谷口小百合，亀谷富由樹，新井哲明，秋山治彦，齊藤祐子，吉田眞理，マン デイビット，岩坪 威，村山繁雄：トリプシン耐性タウ解析によるタウオパチーの生化学分類。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 齊藤祐子，佐野輝典，長谷川成人，村山繁雄，村田美穂：タウイメージングを想定した進行性核上性麻痺と皮質基底核変性性の鑑別の最適部位候補の検討。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 長谷川樹，伊藤和博，初田裕幸，久保勇記，大澤政彦，中野雄太，村山繁雄，池内 健，長谷川成人，伊藤義彰：認知症を伴う筋萎縮性側索硬化症 (ALS-D) の臨床像を示したGlobular glial tauopathy (GGT) の一剖検例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3
 - 徳本健太郎，内野彰子，片多史明，佐藤 進，柴山秀博，村山繁雄，福武敏夫：閉じ込め症候群となった後著明な脳萎縮を呈した孤発性筋萎縮性側索硬化症の65歳剖検例。第57回日本神経病理学会総会学術研究会。弘前，2016.6.1-3

31. 北崎佑樹, 白藤法道, 山口智久, 遠藤良徳, 岸谷 巖, 井川正道, 林 浩嗣, 山村 修, 根石拓行, 北井隆平, 菊田健一郎, 村山繁雄, 濱野忠則. 進行する認知機能低下・左半側空間無視を呈し, 炎症性脳アミロイド血管症 (CAA-I) が疑われ, 病理学的に診断確定しえた1例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
32. 赤津裕康, 金森哲子, 櫻井圭太, 山本左近, 大原弘隆, 桑野良三, 松川則之, 吉田眞理, 長谷川成人, 池内 健, 村山繁雄, 橋詰良夫: 大脳皮質広範に α -シヌクレイン陽性構造物を認め58歳にて死亡したAPOE3/4型であったダウン症例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
33. 金田大太, 藤ヶ崎純子, 仙石錬平, 小幡真希, 瀬川千尋, 隅藏大幸, 中野雄太, 内野彰子, 高尾昌樹, 赤津裕康, 齊藤祐子, 村山繁雄: 高齢者ブレインバンク2015年度年次報告. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
34. 田野光敏, 高尾昌樹, 増茂愛海, 青柳真一, 飯島仁美, 松村清可, 田村未来, 谷津隆之, 諏訪部桂, 木村浩晃, 高橋陽子, 相澤勝健, 赤津裕康, 村山繁雄, 美原 盤, 美原恵里, 美原 樹: 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告 (2015年度). 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
35. 小川倫弘, 兼坂岳志, 赤津裕康, 堀 映, 谷口知恵, 山本左近, 山本孝之, 高尾昌樹, 村山繁雄, 橋詰良夫: 福祉村Brain Bank 2015年次報告. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
36. 北川尚之, 内野彰子, 山下博史, 染谷 真, 櫻井道雄, 村山繁雄: 上位運動ニューロン微候を主徴とし, 急速に進行したTDP-43変異筋萎縮性側索硬化症の剖検例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
37. 大塚十里, 平賢一郎, 清水 潤, 辻 省次, 池村雅子, 村山繁雄: 経過約16年で歩行可能であったFlail arm Syndromeと考えられた72歳男性の1剖検例. 第57回日本神経病理学会総会学術研究会, 弘前, 2016.6.1-3
38. 江口 桂, 仙石錬平, 金丸和富, 種井良二, 村山繁雄: 食欲低下, 歩行障害で発症, 大脳白質病変, long spinal cord lesionを示し, 一部ステロイドに反応がみられた63歳女性例. 第217回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2016.6.4
39. 村山繁雄: 整形外科から学んだこと. UTSG研究会, 東京, 2016.7.2
40. 中野雄太, 本山りえ, 石井賢二, 佐藤克也, 北本哲夫, 高田忠幸, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: RT-QuIC法陽性で孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病MV2Kの疑われた1剖検例. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
41. 高田忠幸, 佐塚真奈, 中野雄太, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 嗅球にHSV-1抗体陽性所見とリン酸化 α -synuclein 陽性所見が認められたヘルペス脳炎の1剖検例. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
42. 福本竜也, 柴山秀博, 矢野 祖, 田島和江, 水戸部美美, 片多史朗, 佐藤 進, 村山繁雄, 福武敏夫: 直腸癌及び骨盤内腫瘍の治療中に急速進行性の白質脳症を呈した66歳女性剖検例. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
43. 和泉唯信, 内野彰子, 野寺敦子, 西田善彦, 野寺裕之, 瓦井俊孝, 村山繁雄, 梶 龍児: グリア内TDP-43陽性所見が優位であった筋萎縮性側索硬化症. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
44. 小林万希子, 齊藤智子, 菊野宗明, 井上 文, 中野雄太, 山田正俊, 峯尾松一郎, 黒田雅彦, 村山繁雄, 相澤仁志: 両側錐体路微候を伴ったパーキンソン病の剖検例. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
45. 黒田亮平, 新井憲俊, 村山繁雄: AIで発見された超急性期脳梗塞. 第113回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.7.9
46. 本山りえ, 村山繁雄, 東原真奈, 石井賢二, 仙石錬平: アルツハイマー型認知症を背景とした難治性非痙攣性てんかん重積の89歳女性例. 第10回日本てんかん学会関東甲信越地方会, 東京, 2016.7.9
47. 村山繁雄: (特別講演) 嗜銀顆粒生認知症. 第14回脳核医学画像解析研究会, 東京, 2016.9.10
48. 内野彰子, 藤ヶ崎純子, 永井真貴子, 西山和利, 村山繁雄, 足立香織, 難波栄二, 鈴木衣子: 人工呼吸器を装着し約38年の長期経過を呈したGM1ガングリオシドシスの剖検例. 第21回日本ライソゾーム病研究会, 東京, 2016.9.30-10.1
49. 内野彰子, 藤ヶ崎純子, 中野雄太, 西山和利, 村山繁雄: ヒト死後脳におけるLRRK2分布の検討. 第10回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres. 京都, 2016.10.6-8
50. 村山繁雄: (特別講演) 高齢者バイオバンク・ブレインバンクプロジェクトによる認知症進行予防への取り組み. 第7回Tokyo cognitive seminar, 東京, 2016.10.13
51. 本山りえ, 清水利彦, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 仙石錬平, 佐藤克也, 高尾昌樹, 村山繁雄: RT-QuIC法偽陽性2症例の臨床病理的研究. 第21回日本神経感染症学会総会・学術大会, 金沢, 2016.10.21-22
52. 村山繁雄: (教育講演) 認知症の神経病理. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島, 2016.11.6
53. 武藤浩平, 宮本亮介, 松井尚子, 塚本 愛, 近藤智之, 村山繁雄, 和泉唯信, 梶 龍児: 脳幹部結核結節が顕著であった粟粒結核の1剖検例. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島, 2016.11.6
54. 松原知康, 高田忠幸, 織田雅也, 高橋哲也, 渡邊千種, 立川義朗, 村山繁雄, 和泉唯信: 高齢発症し長期生存した多系統萎縮症 (MSA-P) の1剖検例. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島, 2016.11.6
55. 葛目大輔, 金子恵子, 佐島和晃, 小松奏子, 山崎正博, 村山繁雄: パーキンソン病の一例. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島, 2016.11.6
56. 川北梨愛, 高田忠幸, 内野彰子, 横平政直, 青江真吾, 國土曜平, 久米広大, 鎌田正紀, 出口一志, 峠 哲男, 今井田克己, 村山繁雄, 正木 勉: 33年の経過後に二時進行性の経過をとった視神経脊髄炎の1剖検例. 第7回日本神経病理学会中国・四国地方会, 徳島, 2016.11.6
57. 渋川茉莉, 仙石錬平, 江口桂, 山崎幹大, 金田大太, 仁科裕史, 金丸和富, 村山繁雄: パーキンソン病(PD)の起立性低血圧(OH)-カテコラミン測定, MIBG心筋シンチを用いた検討-. 第69回日本自律神経学会総会, 熊本2016.11.11
58. 村山繁雄: (特別講演) 高齢者ブレインバンク (バイオバンクプロジェクト)の認知症診療への貢献. 第57回中国・四国精神神経学会・第40回精神保健学会, 松山, 2016.11.10-11
59. 小幡真希, 瀬川千尋, 東原真奈, 仙石錬平, 金田大太, 仁科裕史, 加藤貴行, 金丸和富, 武田克彦, 村山繁雄: 視覚性課題に示されるDLBの疾患特異性の検討-TMT,

- RBMT, WAIS, CDTを用いて。第40回日本高次脳機能障害学会学術総会, 松本, 2016.11.11-12
60. 金田大太, 仙石鍊平, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 島田 斉, 佐原成彦, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 進行性核上性麻痺の臨床画像病理学的検討。第44回臨床神経病理懇話会・第14回日本神経病理近畿地方会, 大阪, 2016.11.19-20
 61. 高田忠幸, 中野雄太, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 長期観察した純粋嗜銀顆粒性疾患の動的神経病理。第44回臨床神経病理懇話会・第14回日本神経病理近畿地方会, 大阪, 2016.11.19-20
 62. 和泉唯信, 中野雄太, 西田善彦, 村山繁雄, 瓦井俊孝, 梶 龍児: 両親に血族結婚を認めた多系統萎縮症の1例。第44回臨床神経病理懇話会・第14回日本神経病理近畿地方会, 大阪, 2016.11.19-20
 63. 渋川茉莉, 仙石鍊平, 高梨成彦, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 発話量低下と歩行障害に髄液シャント術が著効した、アルツハイマー病合併特発性正常圧水頭症82歳女性例。第219回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2016.12.3
 64. 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 石井賢二, 徳丸阿耶, 藤ヶ崎純子, 仙石鍊平, 村山繁雄: 歩行障害と認知症を呈し、DATスキャン取り込み低下を認め、病理学的に嗜銀顆粒性変化と進行性核上性麻痺様変化 (PSP-like change) を認めた86歳男性剖検例。第114回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.12.24
 65. 中野雄太, 渋川茉莉, 小林万希子, 高田忠幸, 金田大太, 仙石鍊平, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 徐々に拡大する広範脳梗塞を呈した真性多血症86歳男性剖検例。第114回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.12.24
 66. 和泉唯信, 高田忠幸, 宮本亮介, 瓦井俊孝, 村山繁雄, 梶 龍児: CSF1R新規変異を認めたhereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroid (HDLS) の1例。第114回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2016.12.24
 67. 村山繁雄: わが施設の伝説、癌で死ぬか認知症で死ぬか、は本当か?。日本地域医療連携システム学会第2回シンポジウム市民公開講座, 東京, 2016.12.25
 68. 北村明日香, 平賢一郎, 新井富生, 山澤 翔, 池村雅子, 小倉瑞生, 中村文彦, 岩田 淳, 清水 潤, 村山繁雄, 辻 省次: 経過11年の伝導ブロック所見や軸索再生像を伴ったALアミロイドニューロパチーの76歳男性剖検例。第89回Neuromuscular Conferense, 東京, 2017.1.7
 69. 村山繁雄: ブレインバンク次世代のための希望の贈り物。生命科学研究の最前線~いのちのしくみに迫り、健康を守る~市民公開講座, 東京, 2017.1.15
 70. 東原真奈, 仙石鍊平, 橋爪貴史, 高梨成彦, 根本佳子, 櫻井圭太, 金丸和富, 村山繁雄: 一側の動眼神経麻痺で発症した、感染性心内膜炎による敗血症性脳塞栓症の64歳男性例。第220回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2017.3.4
 71. 中野雄太, 広吉祐子, 小林万希子, 高田忠幸, 金田大太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 急性骨髄性白血病に対し同種造血幹細胞移植後に制御不能な左上腕疼痛が出現し、CIPSが疑われた70歳男性剖検例の腕神経叢病理。第90回Neuromuscular Conferense, 東京, 2017. 3.11
 72. 小林万希子, 金田大太, 高田忠幸, 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 金丸和富, 村山繁雄: 初期脊髄小脳変性症の診断であった進行性核上性麻痺の一例・視床下核の病変分布。第115回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.3.18
 73. 土師正太郎, 和泉唯信, 高田忠幸, 宮本亮介, 村山繁雄,

梶 龍児: 皮膚生検で α -synucleinを認めた運動ニューロン疾患の1例。第115回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.3.18

74. 徳本健太郎, 竹内亮子, 片多史明, 佐藤 進, 柴山秀博, 金子仁彦, 高橋利幸, 村山繁雄, 福武敏夫: ステロイド治療が奏功したMOG抗体陽性の現局性髄膜脳炎の1例。第115回関東臨床神経病理懇話会, 東京, 2017.3.18

2 誌上発表

(1) 原著

1. Akasaka-Manyu K, Kawamura M, Tsumoto H, Saito Y, Kitazume S, Hatsuta H, Miura Y, Hisanaga S, Murayama S, Hashimoto Y, Manyu H, Endo T: Excess APP O-glycosylation by GalNAc-T6 decreases A β production. J Biochem. 2017, 161 (1): 99-111. doi:10.1093/jb/mvw056. Epub 2016 Oct 19.
2. Ito S, Takao M, Fukutake T, Hatsuta H, Funabe S, Ito N, Shimoe Y, Niki T, Nakano I, Fukayama M, Murayama S: Histopathologic analysis of cerebral autosomal recessive arteriopathy with subcortical infarcts and leukoencephalopathy (CARASIL): a report of a new genetically confirmed case and comparison to 2 previous cases. J Neuropath Exp Neurol. 2016 Sep 15. pii: nlw078. DOI:10.1093/jnen/nlw078
3. Taniguchi-Watanabe S, Arai T, Kametani F, Nonaka T, Masuda-Suzukake M, Tarutani A, Murayama S, Saito Y, Arima K, Yoshida M, Akiyama H, Robinson A, Mann DM, Iwatsubo T, Hasegawa M: Biochemical classification of tauopathies by immunoblot, protein sequence and mass spectrometric analyses of sarkosyl-insoluble and trypsin-resistant tau. Acta Neuropathol 2016, 131:267-80. doi:10.1007/s00401-015-1503-3
4. Shimatani Y, Nakano Y, Tsuyama N, Murayama S, Oki R, Miyamoto R, Murakami N, Fujita K, Watanabe S, Uehara H, Abe T, Nodera H, Kawarai T, Izumi Y, Kaji R: Extranodal NK/T-cell lymphoma, nasal type, manifesting as rapidly progressive dementia without any mass or enhancing brain lesion. Neuropathology 2016, 36: 456-63. doi:10.1111/neup.12285
5. Seibyl J, Catafau AM, Barthel H, Ishii K, Rowe CC, Leverenz JB, Ghetti B, Ironside JW, Takao M, Akatsu H, Murayama S, Bullich S, Mueller A, Koglin N, Schulz-Schaeffer WJ, Hoffmann A, Sabbagh MN, Stephens AW, Sabri O: Impact of Training Method on the Robustness of the Visual Assessment of 18F-Florbetaben PET Scans: Results from a Phase-3 Study. J Nucl Med 2016, 57:900-6.
6. Saito Y, Shioya A, Sano T, Sumikura H, Murata M, Murayama S: Lewy body pathology involves the olfactory cells in Parkinson's disease and related disorders. Mov Disord 2016, 31:135-8.
7. Matsuda Y, Hamayasu H, Seki A, Nonaka K, Wang T, Matsumoto T, Hamano Y, Sumikura H, Kumasaka T, Murayama S, Ishizu A, Shimizu A, Sugihara T, Arai T: Presence of Citrullinated Histone H3-Positive Neutrophils in Microscopic Polyangiitis from the Early Phase: An Autopsy Proven Case. Pathol Int. 2016; 66 (8): 466-71. doi:10.1111/pin.12434. Epub 2016 Jul 18.
8. Morisaki Y, Niikura M, Watanabe M, Onishi K, Tanabe

- S, Moriwaki Y, Okuda T, Ohara S, Murayama S, Takao M, Uchida S, Yamanaka K, Misawa H: Selective Expression of Osteopontin in ALS-resistant Motor Neurons is a Critical Determinant of Late Phase Neurodegeneration Mediated by Matrix Metalloproteinase-9. *Scientific reports* 2016, 6:27354. doi:10.1038/srep27354
9. Makioka K, Yamazaki T, Takatama M, Ikeda M, Murayama S, Okamoto K, Ikeda Y: Immunolocalization of Tom1 in relation to protein degradation systems in Alzheimer's disease. *J Neurol Sci* 2016, 365:101-7. doi:10.1016/j.jns.2016.03.035.
 10. Kurosawa M, Matsumoto G, Sumikura H, Hatsuta H, Murayama S, Sakurai T, Shimogori T, Hattori N, Nukina N: Serine 403-phosphorylated p62/SQSTM1 immunoreactivity in inclusions of neurodegenerative diseases. *Neurosci Res* 2016, 103:64-70. doi:10.1016/j.neures.2015.08.002
 11. Kovacs GG, Ferrer I, Grinberg LT, Alafuzoff I, Attems J, Budka H, Cairns NJ, Cray JF, Duyckaerts C, Ghetti B, Halliday GM, Ironside JW, Love S, Mackenzie IR, Munoz DG, Murray ME, Nelson PT, Takahashi H, Trojanowski JQ, Ansorge O, Arzberger T, Baborie A, Beach TG, Bieniek KF, Bigio EH, Bodi I, Dugger BN, Feany M, Gelpi E, Gentleman SM, Giaccone G, Hatanpaa KJ, Heale R, Hof PR, Hofer M, Hortobagyi T, Jellinger KA, Jicha GA, Ince P, Kofler J, Kovari E, Kril JJ, Mann DM, Matej R, McKee AC, McLean C, Milenkovic I, Montine TJ, Murayama S, Lee EB, Rahimi J, Rodriguez RD, Rozemuller A, Schneider JA, Schultz C, Seeley W, Seilhean D, Smith C, Tagliavini F, Takao M, Thal DR, Toledo JB, Tolnay M, Troncoso JC, Vinters HV, Weis S, Wharton SB, White CL, 3rd, Wisniewski T, Wolfe JM, Yamada M, Dickson DW: Aging-related tau astrogliopathy (ARTAG): harmonized evaluation strategy. *Acta Neuropathol* 2016, 131:87-102.
 12. Kobayashi A, Matsuura Y, Iwaki T, Iwasaki Y, Yoshida M, Takahashi H, Murayama S, Takao M, Kato S, Yamada M, Mohri S, Kitamoto T: Sporadic Creutzfeldt-Jakob Disease MM1+2C and MM1 are Identical in Transmission Properties. *Brain Pathol* 2016, 26:95-101.
 13. Kimura T, Hatsuta H, Masuda-Suzukake M, Hosokawa M, Ishiguro K, Akiyama H, Murayama S, Hasegawa M, Hisanaga S: The Abundance of Nonphosphorylated Tau in Mouse and Human Tauopathy Brains Revealed by the Use of Phos-Tag Method. *Am J Pathol* 2016, 186:398-409. doi:10.1016/j.ajpath.2015.10.009.
 14. Kametani F, Obi T, Shishido T, Akatsu H, Murayama S, Saito Y, Yoshida M, Hasegawa M: Mass spectrometric analysis of accumulated TDP-43 in amyotrophic lateral sclerosis brains. *Scientific reports* 2016, 6:23281. doi:10.1038/srep23281
 15. Hida A, Yamashita T, Hosono Y, Inoue M, Kaida K, Kadoya M, Miwa Y, Yajima N, Maezawa R, Arai S, Kurasawa K, Ito K, Shimada H, Iwanami T, Sonoo M, Hatanaka Y, Murayama S, Uchibori A, Chiba A, Aizawa H, Momoo T, Nakae Y, Sakurai Y, Shiio Y, Hashida H, Yoshizawa T, Sakiyama Y, Oda A, Inoue K, Takeuchi S, Iwata NK, Date H, Masuda N, Mikata T, Motoyoshi Y, Uesaka Y, Maeda MH, Nakashima R, Tsuji S, Kwak S, Mimori T, Shimizu J: Anti-TIF1-gamma antibody and cancer-associated myositis: A clinicohistopathologic study. *Neurology* 2016, 87:299-308.
 16. Hatsuta H, Takao M, Nakano Y, Nogami A, Uchino A, Sumikura H, Kanemaru K, Arai T, Itoh Y, Murayama S: Reduction of Small Fibers of Thoracic Ventral Roots and Neurons of Intermediolateral Nucleus in Parkinson Disease and Dementia with Lewy Bodies. *J Parkinsons Dis* 2016, 6:325-34.
 17. Hamaguchi T, Taniguchi Y, Sakai K, Kitamoto T, Takao M, Murayama S, Iwasaki Y, Yoshida M, Shimizu H, Kakita A, Takahashi H, Suzuki H, Naiki H, Sanjo N, Mizusawa H, Yamada M: Significant association of cadaveric dura mater grafting with subpial Abeta deposition and meningeal amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol* 2016, 132:313-5. doi:10.1007/s00401-016-1588-3
 18. Araki K, Sumikura H, Matsudaira T, Sugiura A, Takao M, Murayama S, Obi T: Progressive supranuclear palsy and Parkinson's disease overlap: A clinicopathological case report. *Neuropathology* 2016, 36:187-91.
 19. Takata T, Kokudo Y, Kume K, Ikeda K, Kamada M, Touge T, Deguchi K, Masaki T: Dialysis-induced Subdural Hematoma in an Arachnoid Cyst Associated with Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. *Internal Medicine*, 2016, 55:15: 2065-7. doi:10.2169/internmedicine.55.6295
 20. Kobayashi R, Takahashi-Fujigasaki J, Shiozawa S, Hara-Miyauchi C, Inoue T, Okano HJ, Sasaki E, Okano H. α -Synuclein aggregation in the olfactory bulb of middle-aged common marmoset. *Neurosci Res*. 2016, 106:55-61
 21. Watanabe N, Akasaki Y, Fujigasaki J, Mori R, Aizawa D, Ikeuchi S, Murayama Y. Imaging alterations due to squamous metaplasia in intracranial neurenteric cysts: A report of two cases. *Neuroradiol J*.2016, 29(3):187-92
 22. Takata T, Kume K, Kokudo Y, Ikeda K, Kamada M, Touge T, Deguchi K, Masaki T: Acute intermittent porphyria presenting with posterior reversible encephalopathy syndrome, accompanied by prolonged vasoconstriction. *Internal Medicine*, 2017, 56: 713-717. doi:10.2169/internmedicine.56.7654
 23. Nakano Y, Kanda T: Pathology of GBS. *Clinical and Experimental Neuroimmunology*. 2016 Nov; 7(4): in press.
 24. Morimoto S, Hatsuta H, Komiya T, Kanemaru K, Tokumaru AM, Murayama S: Simultaneous skin-nerve-muscle biopsy and abnormal mitochondrial inclusions in intranuclear hyaline inclusion body disease. *J Neurol Sci*. 2017 Jan 15;372:447-449. doi:10.1016/j.jns.2016.10.042. Epub 2016 Oct 27. No abstract available. PMID: 27823834
 25. Dzamko N, Gysbers A, Bandopadhyay R, Marc F, Bolliger MF, Uchino A, Zhao Y, Takao M, Wauters S, van de Berg, WD. J, Takahashi-Fujigasaki J, Nichols RJ, Holton JL, Murayama S, Halliday GM: Altered LRRK2 protein levels and phosphorylation in sporadic Parkinson's disease and cases with restricted Lewy bodies. *Movement Disorder*. 2017; 32(3): 423-432. doi:10.1002/mds.26892. Epub 2016 Dec 2.

26. Nishimura K, Doi D, Samata B, Murayama S, Tahara T, Onoe H, Takahashi J: Estradiol Facilitates Functional Integration of iPSC-Derived Dopaminergic Neurons into Striatal Neuronal Circuits via Activation of Integrin $\alpha 5 \beta 1$. Stem Cell Reports. 2016; 6: 511-524. doi: 10.1016/j.stemcr.2016.02.008.
27. Takahashi-Fujigasaki J, Nakano Y, Uchino A, Murayama S: Adult-onset neuronal intranuclear hyaline inclusion disease is not rare in older adults. Geriatr Gerontol Int 2016; 16 Suppl 1: 51-6. DOI:10.1111/ggi.12725
28. Takatsuki H, Fuse T, Nakagaki T, Mori T, Mihara B, Takao M, Iwasaki Y, Yoshida M, Murayama S, Atarashi R, Nishida N, Satoh K: Prion-Seeding Activity Is widely Distributed in Tissues of Sporadic Creutzfeldt-Jakob Disease Patients. EBioMedicine. 2016; 12: 150-155. doi:10.1016/j.ebiom.2016.08.033. Epub 2016 Aug 24
29. 国仲伸男, 日吾雅宣, 新野 史, 村山繁雄, 齊藤祐子: 硝酸ランタン液を省略した改良ガリアス・ブランク法. 検査と技術, 2016;8(44):712-715

(2) 総説

1. 村山繁雄, 齊藤祐子: プリオン病ならびに遅発性ウイルス感染症 - 最近の知見 - プリオン病の脳病理検査. 神経内科, 2016;84(3): 260-266
2. 村山繁雄: 認知症Alzheimer病以外の認知症update 嗜銀顆粒性認知症. 最新医学, 2016; 3月増刊号: 221-228
3. 村山繁雄, 齊藤祐子: アルツハイマー病の病理. 医学のあゆみ, 2016;257(5):533-541
4. 村山繁雄, 齊藤祐子: パーキンソン病とパーキンソン症候群の病理. 内科, 2016; 118(2): 255-258
5. 藤ヶ崎純子, 中野雄太. 成人型核内封入体病/エオジン好性核内封入体病 精神科, 28(5): 418-422, 2016.
6. Takahashi-Fujigasaki J, Nakano Y, Uchino A, Murayama S: Adult-onset neuronal intranuclear hyaline inclusion disease is not rare in older adults. Geriatr Gerontol Int 2016, 16 Suppl 1:51-6.
7. 村山繁雄, 齊藤祐子: 大脳皮質基底核変性性 (CBD) 神経病理. CLINICAL NEUROSCIENCE, 2016; 35 (3): 310-312

3 著書等

1. 青笹克之, 菅野祐幸 (総編集), 畑中一仁, 藤ヶ崎純子, 臨床病理検討会の進め方・活かし方: 18: 振戦出現後、幻覚などの精神症状の増悪を認めた女性, 2016 (6月); 165-172
2. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 村山繁雄, 齊藤祐子: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. 海馬硬化による認知症とはどのようなものですか?. 2016 (12月); 137-139
3. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 仙石鍊平: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. レヴィ小体型認知症の治療はどのように行いますか?. 2016 (12月); 173-180
4. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 仙石鍊平: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. レヴィ小体型認知症に抗パーキンソン病薬を使用すべきですか?. 2016 (12月); 181-184
5. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 仙石鍊平: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. レヴィ小体型認

知症にコリンエステラーゼ阻害薬を処方するときの注意点はなんですか?. 2016 (12月); 185-187

6. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 初田裕幸: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. 認知症診断における髄液検査の意義とその適応を教えてください. 2016 (12月); 112-114
7. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 中野雄太, 藤ヶ崎純子, 村山繁雄: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. 認知症における脳以外のお生検も有用ですか?. 2016 (12月); 354-358
8. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 小幡真希: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. 高次機能検査としてベットサイドや外来でできるスクリーニング検査はどのようなものがありますか? その解釈を教えてください. 2016 (12月); 83-88
9. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 高尾昌樹: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. 病理学的理解のための - case approach. 2016 (12月); 379-384
10. 鈴木則宏 (監修), 高尾昌樹 (編集), 高尾昌樹: 神経内科Clinical Questions & Pearls 認知症. CTE, PART, ARTAGに関して教えてください. 2016 (12月); 422-425

受賞

高齢者がん

1. 相田順子 日本病理学会学術研究賞 (A演説) 「定量的FISH法によるテロメア長解析による老化と発癌機序の解明: 新たな前癌状態の発見」 2016.11.10.
2. 松田陽子, 石渡俊行, 田久保海誉, 新井富生 日本病理学会B演説 「病理解剖検体を用いた膀胱早期病変の臨床病理像の解明」 2016.11.10.

神経画像研究チーム

チームリーダー：石井 賢二

1 研究チームの概要・目的

ポジトロン断層法（PET）を用いて加齢及び高齢者特有の疾患、特に認知症の脳の病態生理を明らかにすること、また、がんの病態を適切に診断するため、これまで開発してきたPET診断法をベースにして新しい診断法を開発することを目的とする。これらの研究は認知症の早期診断・病態診断や高齢者ががんの病態診断、また様々な介入や治療効果に科学的根拠を与えるなど、センターの重点医療に貢献する。

脳機能研究テーマでは、主に新規PET薬剤の開発と初期臨床試験と応用、有用な薬剤の導入とそれらの新しい臨床課題への応用、PETデータ解析法の開発等を行なう。

本中期計画では、アミロイドイメージング・タウイメージングに加えて、認知機能と関連が深いとされる神経伝達機能や神経炎症、神経可塑性・神経保護作用に着目したトレーサーの新規開発ならびに導入を行い、認知症や神経・精神疾患の病態生理研究へ展開する。また、がん診断に関しては、4DSTによるDNA合成能イメージングの多施設共同研究を進め、実用化と普及を目指したフッ素18標識化合物によるDNA合成能イメージング剤の開発を行う。更に、高齢者ががんの病態に深く関与すると考えられる性ホルモンに着目したトレーサーの新規開発を行い、乳がんや前立腺がんの病態生理研究へ展開する。

一方、PET画像診断テーマでは、臨床的に有用性が確立されたPET診断法を、センター病院や外部の医療研究機関等と連携し、一般診療への橋渡

しになり、かつ直接的に成果が社会に還元されるような研究を担う。

本中期計画では、認知症の超早期診断および発症予防を可能とする画像バイオマーカーを確立する。アルツハイマー病に対しては、アミロイドPETを軸とし、軽度認知障害レベルでの診断を確立する。また、前臨床期での発症予測法を開発するために、健常者の追跡及びバイオリソース蓄積を行う。非アルツハイマー型認知症疾患として頻度の高いLewy小体病、タウオパチーの評価法を標準化し、早期診断や治療法開発に寄与する。

2 今後の展望

今年度脳機能テーマに研究員を新規採用して、石橋が脳機能からPET画像研究に移動し、チームを再編成した。脳機能はPET薬剤開発に、PET画像診断はPETの臨床応用研究に焦点を当てるより明確な切り分けとなった。若い力と新たな体制で、研究を加速したい。

J-ADNIの後継プロジェクト臨床研究（AMEDプレクリニカル）が再開し、これにAMEDレジストリー、DIAN-Japanを加えたオールジャパンの認知症多施設共同研究3件が本格的にスタートしている。タウイメージング研究も順調に進展し、PBB3に関しては画像病理関連の論文を準備中、また、THK5351の臨床を開始した。わが国の認知症研究と薬剤開発を支えるイメージングプラットフォームとして、基礎・臨床・病理をつなぐ研究展開を行いたい。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

脳機能

テーマ	研究目標・目的	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 認知症トレーサーの新規開発・導入	1. TSPOリガンド開発	TSPOリガンド選択	TSPO臨床使用開始	TSPO定量解析法確立	TSPO臨床研究（加齢・変性疾患）	TSPO診断意義解明
	2. ITMM-mGluR1イメージング	ITMM定量解析法確立・加齢研究	ITMM臨床研究（加齢・変性疾患）	ITMM臨床研究（変性疾患）	ITMM診断意義の解明	ITMM応用（他疾患）
	3. 新規リガンドの探索・導入	新規リガンドの探索	新規リガンド選択	新規リガンド（初期評価）	新規リガンド（有効性評価）	新規リガンド（前臨床）
2. がん診断用トレーサーの新規開発・導入	1. 4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究	4DST臨床研究
	2. F-4DST開発	F-4DST合成研究	F-4DST評価研究	F-4DST候補化合物選択	F-4DST有効性評価	F-4DST前臨床
	3. FES臨床開始	FES製造法確立	FES臨床承認	FES初期臨床	FES定量解析法確立	FES臨床研究（乳がん）
	4. ステロイドリガンド開発	ステロイドリガンド合成研究	ステロイドリガンド評価研究	ステロイドリガンド候補化合物選択	ステロイドリガンド有効性評価	ステロイドリガンド前臨床

PET画像診断

テーマ	研究目標・目的	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 認知症の超早期診断および発症予防を可能とする画像バイオマーカーの確立	1. 認知症発症阻止に向けた超早期診断法・発症予測法の確立と早期病態研究	・ ¹⁸ F標識アミロイド診断薬の臨床導入 ・アミロイドPET画像病理対応の検討 ・健常老年者追跡	・ ¹⁸ F標識アミロイド診断薬によるAD臨床研究 ・MCI due to AD診断法確立 ・健常老年者追跡	・ ¹⁸ F標識アミロイド診断薬によるAD臨床研究 ・健常老年者追跡	・ ¹⁸ F標識アミロイド診断薬によるAD臨床研究 ・健常者におけるAD発症予測法の開発	・認知症の発症予測及び早期診断の総合的診断体系化
	2. 老年者で頻度の高い非アルツハイマー病疾患の診断体系を構築する。	・Lewy小体病とタウオパチーの評価法標準化	・Lewy小体病とタウオパチー症例蓄積と解析	・Lewy小体病とタウオパチー症例蓄積と解析	・Lewy小体病とタウオパチーの診断体系化	・認知症の発症予測及び早期診断の体系化
2. PET診断技術の臨床研究への応用	1. PET診断技術を、老化や老年病臨床研究の中核的技術としてセンター内外と共同研究を推進。またチャレンジングな症例に対する診断法として提供。	<ul style="list-style-type: none"> ・アミロイドPET、FDG-PET、ドパミンPET、などを活用した高度診断技術の提供 ・探索的病態研究や老化研究への応用 ・他のモダリティ診断技術のPETによるvalidation ・新しい治療法や予防介入法の効果判定 				
3. アルツハイマー病克服に向けた国際研究に参画する。	1. アミロイドイメージングの多施設研究を推進。特に評価法の標準化や臨床使用ガイドラインの策定などを推し進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の認知症画像研究の推進 ・普及型アミロイド診断薬・根本治療薬治験の促進 ・World-Wide ADNIにおける多施設国際認知症研究に参画（J-ADNI1、J-ADNI2、AMEDプレクリニカルAD研究、DIAN-J研究の遂行） 				

脳機能

構成メンバー

テーマリーダー：豊原潤

研究員：坂田宗之、多胡哲郎

非常勤研究員：石渡喜一、三品雅洋、日浦幹夫、岡本真由美、木村裕一、成相直

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

課題1.1. TSPO臨床研究（加齢・変性疾患）：研究計画は1年遅れで進行。初期臨床試験を終了し、患者ボランティアでのPET計測を開始した。

課題1.2. ITMM診断意義の解明：研究計画通りに進行。患者ボランティアでのPET計測データを蓄積中。

課題1.3. 新規リガンド（有効性評価）：計画より2年早く進行。1薬剤について初期臨床試験を終了し、患者ボランティアでのPET計測を開始した。1導入化合物の臨床使用承認を得、患者ボランティアでのPET計測を開始した。新規オリジナル薬剤の合成ならびに既存薬剤の評価研究を実施した。

課題2.1. 4DST臨床研究：計画通りに進行。学会及び論文発表を行った。

課題2.2. F-4DST有効性評価：研究計画は1年遅れ

で進行。標識合成試験実施中。

課題2.3. FES定量解析法の確立：研究計画は1.5年遅れで進行。臨床使用承認を得た。

課題2.4. ステロイド有効性評価：研究計画通り進行したもの、候補化合物を見出せなかった。

【その根拠】

課題1.1. TSPO臨床研究（加齢・変性疾患）：
[¹¹C]CB184の健常者9名での初期臨床試験を行い、[¹¹C]CB184の安全性、有効性ならびに内部被曝線量評価を行なった。11月よりHIV脳症を対象とした臨床研究を開始した（PET画像診断研究テーマ、駒込病院と共同）。

課題1.2. ITMM診断意義の解明：脊髄小脳変性症、未治療パーキンソン病、認知症及び癲癇患者ボランティアでのPET計測を行った（PET画像診断研究テーマ、東京医科歯科大学、日本医科大学、駒込病院と共同）。目標症例数までのデータ収集を進め、得られたデータを解析し、mGluR1イメージングの診断意義を考察する。脊髄小脳変性症及び未治療パーキンソン病に関しては結果を纏めて論文発表並びに学会発表を行った。

課題1.3. 新規リガンド（有効性評価）：アデノシンA_{2A}受容体リガンド[¹¹C]preladenantの健常者9名での初期臨床試験を行い、[¹¹C]preladenantの安全性、有効性ならびに内部被曝線量評価を行なった。初期臨床試験

(安全性、有効性及び内部被曝線量評価)を行った。11月よりパーキンソン病を対象とした臨床研究を開始した(PET画像診断研究テーマと共同)。

タウイメージング剤[¹⁸F]THK-5351の製造試験を実施し、短寿命放射性薬剤臨床利用委員会にて臨床使用承認を得た。タウイメージング剤の臨床画像診断において問題とされているoff-target bindingの機序を明らかにする目的で、種々のタウイメージングプローブのメラニンに対する結合性を評価した。

神経変性疾患におけるエピジェネティックな変化を捉えるマーカーとして、HDAC6に着目し、HDAC6に選択的に結合するTubastatinAをリードとするPETプローブをデザインし、その合成研究を実施した。

課題2.1. 4DST臨床研究：共同研究先での研究は順調に進行している(国立国際医療研究センター、香川大と共同)。進行性多巣性白質脳症の症例報告を行った(PET画像診断研究テーマ、駒込病院と共同)

課題2.2. F-4DST有効性評価：候補化合物5-fluoro-4'-thio-2'-deoxyuridine (F-4DST)の[¹⁸F]F₂をならびに[¹⁸F]Fアニオンによる[¹⁸F]F-4DSTの合成検討実施中。

課題2.3. FES定量解析法の確立：短寿命放射性薬剤臨床利用委員会にて[¹⁸F]FESの臨床使用承認を得た。

課題2.4. ステロイドリガンド有効性評価：炭素鎖3の7位フルオロアルキルジヒドロテストロンを合成・評価した(国立国際医療研究センターと共同)。前立腺への特異的集積は既存薬剤の[¹⁸F]FESと同程度であり、生体内での代謝安定性も改善されたが、絶対集積量が低く、総合的に[¹⁸F]FESを超える化合物ではないと判断した。

【新しい知見】

課題1.1. TSPO臨床研究(加齢・変性疾患)：初期臨床試験の結果、全検査9例において有害事象は認められなかった。TSPO結合能を反映する[¹¹C]CB184の分布体積(V_T)は、文献報告されている健常者死後脳のTSPOの分布とよく一致した。[¹¹C]CB184の全身PET計測から求めた実効線量は平均5.9 μ Sv/MBqであった。

課題1.2. ITMM診断意義の解明：[¹¹C]ITMMによるmGluR1イメージングは遺伝性及び孤発性脊髄小脳変性症の特異的なマーカーになることが示唆された。未治療パーキンソン病患者では小脳半球・側頭葉・頭頂葉において

[¹¹C]ITMMの分布容積比の低下が認められた。mGluR1イメージングはFDGに比べて小脳運動性失調の評価と良い相関を認めた。

課題1.3. 新規リガンド(有効性評価)：初期臨床試験の結果、全検査9例において有害事象は認められなかった。アデノシンA_{2A}受容体密度を反映する[¹¹C]preladiantの結合能(BR_{ND})は、文献報告されている健常者死後脳のA_{2A}受容体の分布とよく一致した。[¹¹C]Preladiantの全身PET計測から求めた実効線量は平均3.7 μ Sv/MBqであった。

課題2.1. 4DST臨床研究：消化管癌における4DSTの集積はFDGと比べて有意に低いが、陽性描画可能であり、Ki-67標識率との間に有意な相関を認めた。4DSTはFDGと比べ、頭頸部癌の放射線化学療法後の効果判定に有用であった。治療前神経膠腫の4DST集積体積と造影MRI体積との間に相関性を認めた。食道癌における4DSTの集積はFDGに比べて低いが、陽性描出のコントラストが高く、食道癌の評価に有効であった。多発性骨髄腫の診断能に関する4DST、FDG及び全身MRIの比較に関する前向き試験において4DSTの診断能が最も高かった。4DSTは未治療神経膠腫の予後予測に有用である可能性が示唆された。

課題2.4. ステロイドリガンド有効性評価：7位アルキルフルオロエストラジオール誘導体の構造活性相関を示した。炭素鎖3の7位フルオロアルキルテストステロン及びジヒドロテストステロンの可能性を示した。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<認知症トレーサーの新規開発・導入1：¹¹C-CB184の非臨床試験・初期臨床試験>

PET画像診断、記憶神経科学、筑波大学、福島県立医科大学

<認知症トレーサーの新規開発・導入1：¹¹C-CB184の臨床研究>

PET画像診断、筑波大学、駒込病院

<認知症トレーサーの新規開発・導入2：¹¹C-ITMMの臨床研究>

PET画像診断、放射線医学総合研究所、日本医科大学、東京医科歯科大学、駒込病院、福島県立医科大学

<認知症トレーサーの新規開発・導入3：¹¹C-Preladiantの初期臨床試験・臨床研究>

PET画像診断、Groningen医療センター

<認知症トレーサーの新規開発・導入3：¹⁸F-THK5351の臨床研究>

PET画像診断、神経病理（ブレインバンク）、東北大学、東北医科薬科大学
＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入1：多施設臨床研究実施＞
PET画像診断、東京医科歯科大学、国立国際医療研究センター、香川大学医学部
＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入4：ステロイド化合物の合成・基礎評価＞
国立国際医療研究センター
＜認知症早期診断法の開発1：^[18F]Flutemetamolの製造・検定、^[11C]PIBの製造・検定＞
PET画像診断、神経病理（ブレインバンク）、薬剤科、脳卒中科、放射線診断科、GEヘルスケア
＜認知症臨床画像病理連携：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、精神科、放射線診断科
＜P-gpトレーサーの開発（TR課題）＞
トランスレーショナルリサーチ推進室、Groningen医療センター
＜JST先端計測研究：PET薬剤自動合成装置の開発＞
東京工業大学
＜AMEDプレクリニカルAD研究：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、大阪市立大学ほか全国40機関
＜AMEDレジストリー研究：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、自立促進と介護予防、社会参加と地域保健、国立長寿医療研究センター
＜^{11C}-PBB3によるタウイメージング実証研究：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、神経病理（ブレインバンク）、神経内科、脳卒中科、放射線医学総合研究所
＜SDAF-PET試験（FDGによる認知症診断：先進医療B）：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、国立長寿医療研究センター
＜JPET-FUO試験（FDGによる不明熱診断：先進医療B）：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、放射線診断科、国立国際医療研究センター
＜DIAN-J研究：PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、高齢者ブレインバンク、大阪市立大学、先端医療センター
＜整形外科領域への応用（TR課題）：撮像解析＞
PET画像診断、整形外科、放射線診断科
＜PETの脳神経外科領域への応用：共同研究、

PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、東京医科歯科大学
＜PETの脳神経内科領域への応用：共同研究、PET薬剤製造、PET撮像解析＞
PET画像診断、日本医科大学、東京慈恵会医科大学
＜PETの神経眼科領域への応用：共同研究、PET撮像解析＞
PET画像診断、東京医科歯科大学
＜PETの脳生理学への応用＞
PET画像診断、法政大学
＜小動物PETの神経科学領域への応用：共同研究、動物PET・MRI撮像解析＞
記憶神経科学
＜小動物PETの体内動態研究への応用：共同研究、動物PET・MRI撮像解析＞
老化バイオマーカー
＜小動物PETの肥満研究への応用：共同研究、動物PET・MRI撮像解析＞
国立国際医療研究センター
＜小動物MRIの運動器学への応用：共同研究、動物MRI撮像解析＞
国立障害者リハビリセンター研究所
＜脳PETの再構成法に関する研究：共同研究、データ提供、データ解析＞
近畿大学、名古屋工業大学、電気通信大学

3 今後の展望

一昨年9月末に脳機能テーマリーダーが退職し、人員が1名不足したため、若干の進行の遅れが懸念されたが、昨年4月からの新規採用者による研究員の補充ならびに目標到達の見込みの無い研究課題（ステロイドリガンド開発）の整理を行った結果、認知症関係の研究課題では予定を上回る早さで研究を進めることが出来た。

4 その他

認知症の新規PET薬剤として2薬剤の初期臨床評価を達成した。この2薬剤の臨床使用は当センターが世界初である。さらに新規PET薬剤2薬剤の臨床使用承認を得た。このうちタウイメージング剤の^[18F]THK-5351は、現在使用している^[11C]PBB3に比べて感度が高く、臨床研究の進展が期待できる。

高齢者ブレインバンク・神経病理と共同でヒト死後脳を用いたタウイメージング剤のoff-target bindingの解明や新規オリジナル薬剤の開発に着手した。

PET薬剤製造体制の高度化に取組み、治験のための^[18F]Flutemetamolの製造や国際共同研究で

あるDIAN-Jのための $^{[11C]PiB}$ の製造を可能とした。これは治験や国際共同研究を当センターで受け入れるための基盤となる。

血液脳関門のP糖タンパク質機能亢進を画像化する新規リガンドとしてH27年度に見出したTMIGオリジナル化合物の(R)- $^{[11C]Emopamil}$ に先行して、サイクロトロンを保有しない施設でも利用可能なフッ素-18標識薬剤の $^{[18F]MC225}$ (Groningen大学と共同開発)を進めることとし、TR課題研究としてサルPETの試験を開始した。次年度には臨床応用を目指し、TR課題から定常研究へ移行する。

ステロイドリガンドの開発は、検討した検討した化合物が既存の $^{[18F]FES}$ の性能を上回ることが出来なかったため、検討を一旦終了し、認知症トレーサーの研究に資源を配分する。

PET画像診断

構成メンバー

テマリーダー：石井賢二

研究員：石橋賢士、我妻慧

非常勤研究員：織田圭一、鈴木幸久、稲次基希、今井昌康、林志保里、三浦清美

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

課題1. 認知症の超早期診断および発症予防を可能とする画像バイオマーカーの確立

1.1 ・ 18F -Flutemetamolによる臨床研究 (AMEDプレクリニカルAD研究)：予定より1年半遅れ。合成装置の薬事承認に伴い診療用認証(製造・撮像)を取得し、疾患修飾薬治験の対象者選択目的で既に臨床使用を開始。AMEDプレクリニカルAD研究は10月から登録が開始され、これから本格的なデータ収集に入る。

・健常老年者の追跡：約100例の健常老年者追跡(10-11年目)を実施。フォロー継続。計画通り。

1.2 ・非アルツハイマー病疾患の診断体系構築：タウイメージング (PBB3) 臨床研究を推進、約90例の検査を実施、解析中である。剖検対比例も既に5例得られ、今年度中の投稿を目指し、画像病理関連の論文を準備中である。タウイメージング (THK-5351) 臨床研究も開始し、精力的に症例蓄積を行っている。計画通り。

課題2. PET診断技術の臨床研究への応用
病院および研究所内外のグループとの共同研究を多数実施し成果が得られている。

課題3. アルツハイマー病克服に向けた国際研究に参画

J-ADNIの後継プロジェクトであるプレクリニカルAD研究、早期認知症患者と発症リスク保有者を登録し適切な治療や治験に導くAMEDレジストリー研究、および常染色体アルツハイマー病を対象としたグローバル観察・介入臨床研究 (DIAN-Japan) に参加し、合成・撮像と倫理審査にかかる認証を取得した。各研究に、アミロイドPETコア主任研究者として参加。またAD疾患修飾薬 (抗A β 抗体薬2剤、BACE阻害剤1剤) のグローバル治験にPET実施施設として積極的に参加している。

【その根拠】

課題1.1 ・ 18F -Flutemetamolによる臨床研究：合成装置の薬機対応バージョンアップを昨年度実施し、これに対応する施設認証 (診療用：合成と撮像) を取得した。これにより国際多施設共同研究・国際治験への参画が可能となり、院内製造によるPET検査でグローバル治験 (BAN1471) に参加し、更に薬剤製造の品質をグレードアップし2剤のグローバル治験参加準備中。AMEDプレクリニカル臨床研究ではアミロイドPET主任研究者としてサーバーと専用回線により3剤 (PiB/Flutemetamol/Florbetapir) の遠隔中央読影が可能なシステムを立ち上げ、中央読影業務を開始した。

・健常老年者の追跡 (社会参加と共同)：約100名の追跡が11年目に入る。健康指標と脳形態・機能の相関を解析した原著論文を3編出すことができた。3D MRIとFDG-PETの画像追跡だが、今後コホート追跡中の被験者を加え、アミロイドPETを追加し、バイオマーカーの裏付けのある健常者群を確保する。AMEDレジストリー研究に登録し、臨床研究や治験への導入を図る。

課題1.2 ・タウイメージング (11C -PBB3) 研究進行中：放医研との共同研究：H26年7月にスタートし、本年1月末まで98例を実施、既に剖検5例を得た。放医研と共同で解析を行い画像病理関連の論文を準備中。 11C -PBB3の感度は低く、アミロイドとクロスがあるためADスペクトラムでの有用性は限定的である。非AD疾患における意義確立を急ぐ。 18F -THK5351 (東北大学開発) の臨床撮像を11月から開始し、 11C -PBB3との直接比較を含めた検討を開始した。多施設臨床研究 (プレクリニカルAD) へのadd onも米国の研究費を獲得し準備中。

課題2・TRの1課題 (^{18}F -NaFによる骨代謝動態)を支援。

- ・先進医療2課題(不明熱、認知症)の実施を全面的に支援。
- ・糖代謝と認知症の関連を検討する研究を進め、DMを有する健常者の脳代謝画像や、健常者における糖負荷による血流代謝変化を解析した論文を発表した。更にこのテーマでfMRIを用いたTR課題を開始した。
- ・その他、PETの脳病態研究への応用(脳腫瘍、てんかん、ジストニア、半盲)、技術的改良研究を実施し、研究成果を発表した。

課題3・J-ADNI後継研究(AMEDプレクリニカルAD研究)と国際多施設共同研究のDIAN-JapanにアミロイドPET主任研究者として参画。DIAN-JではNIH Grant支援研究参加の条件となるFWA、薬剤製造認証、撮像認証、研究担当者研修を取得・修了し、PET検査を開始した。また、AMED認知症レジストリー研究にも加わり、3つのオールジャパンの認知症研究に、アミロイドPETを中心に参画してゆく。

- ・アミロイド/タウPETはAD疾患修飾薬治験の被験者選択や効果判定に欠かせないバイオマーカーとなっており、グローバル治験に積極的に加わり開発を加速する。
- ・アミロイドPET診断薬3剤の製造装置4機種が薬事承認され、更にうち1剤の製造販売(デリバリー)が承認された。一方疾患修飾薬(solanezumab)の開発が中止された現状に合わせ、石井が座長としてまとめているアミロイドPET適正使用ガイドラインを改訂中である。

【新しい知見】

- ・健常者においても糖負荷を行うと、楔前部の局所脳血流量および局所脳ブドウ糖代謝率が低下することを厳密な定量PET計測法により確認した。また、耐糖能障害を有する認知機能老年者では血糖値と楔前部の代謝に可逆性の相関があることを見出した(原著5および6)。
- ・糖尿病を合併する認知症患者のうち脳血流SPECTでADを示唆する所見のない糖尿病関連認知症のうちアミロイドPET症例にPBB3によるタウPETを実施したところ、3分の2の症例で局在性の集積が認められ、糖尿病とタウ病理の関連が示唆された(学会発表国際8、論文準備中)。今後THK-5351による解析を行う。
- ・アミロイドPET国際画像病理治験のデータから、一定の読影法をトレーニングすることにより、読影者間のバラツキを最小限にして読影結果と

病理所見の整合性を極めて良好に保つことができることを示した(原著3)。

- ・認知機能健常老年者の脳画像データと健康指標の相関解析から、前頭葉眼窩面の代謝が低い被験者では、自己身体能力の予測が悪く、うつ指標が高く、活動性が低いことが明らかになり、身体的脆弱性の背景要素と考えられた(原著10、11)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症トレーサーの新規開発・導入1： ^{11}C -CB184の臨床研究＞

脳機能、筑波大学、駒込病院

＜認知症トレーサーの新規開発・導入2： ^{11}C -ITMMの臨床研究＞

脳機能、放射線診療科、放射線医学総合研究所、日本医科大学、東京医科歯科大学、駒込病院

＜認知症トレーサーの新規開発・導入3： ^{11}C -Preladenantの臨床研究＞

脳機能、Groningen医療センター、福島県立医科大学、日本医科大学、東京慈恵会医科大学

＜がん診断用トレーサーの新規開発・導入＞

脳機能、東京医科歯科大学、国立国際医療研究センター、香川大学

＜認知症臨床画像病理連携＞

脳機能、神経病理(ブレインバンク)、神経内科、脳卒中科、精神科、放射線診断科

＜ ^{11}C -PBB3によるタウイメージング臨床研究＞

脳機能、神経病理(ブレインバンク)、神経内科、脳卒中科、放射線医学総合研究所

＜認知症診断薬の新規開発・導入： ^{18}F -THK5351の臨床研究＞

脳機能、神経病理(ブレインバンク)、薬剤科、脳卒中科、神経内科、放射線診療科、東北大学

＜SDAF-PET試験：FDG-PETの認知症診断への有用性を検証する先進医療B＞

脳機能、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、国立長寿医療研究センター

＜JPET-FUO試験：FDGの不明熱診断への有用性を検証する先進医療B＞

脳機能、放射線診断科、国立国際医療研究センター

＜AMEDプレクリニカルAD研究＞

脳機能、神経病理(ブレインバンク)、神経内科、脳卒中科、放射線診断科、大阪市立大学ほか全国40機関

＜AMED DIAN-J研究＞

脳機能、大阪市立大学、弘前大学、東京大学、新潟大学、先端医療センター

- ＜AMED認知症レジストリー研究＞
社会参加、老化予防、国立長寿医療研究センター
- ＜高齢者画像追跡研究＞
社会参加、自立促進
- ＜安静時機能的MRIによる早期AD診断研究（TR課題）＞
脳機能、放射線診断科、UCLA
- ＜Na[¹⁸F]Fの整形外科領域への応用（TR課題）＞
脳機能、整形外科、放射線診断科
- ＜PET撮像技術の開発研究＞
放射線診断科
- ＜PETの脳神経外科領域への応用＞
脳機能、東京医科歯科大学脳神経外科、森山記念病院脳神経外科、新百合ヶ丘総合病院脳神経外科
- ＜PETの神経内科領域への応用＞
脳機能、日本医科大学、東京慈恵会医科大学、昭和大学、順天堂大学
- ＜PETの神経眼科領域への応用＞
脳機能、東京医科歯科大学、井上眼科病院
- ＜PETの大脳生理学研究への応用＞
脳機能、法政大学、東京医科歯科大学
- ＜点線源を用いたPET性能試験法の開発＞
北里大学
- ＜PET画像再構成法が診断に及ぼす影響の研究＞
国際医療福祉大学
- ＜糖尿病性認知症の研究＞
脳機能、東京医科大学
- ＜有機ヒ素(DPAA)健康被害研究＞
筑波大学神経内科、茨城県立医療大学小児科
- ＜NAT（脳波3次元パワー解析）とPETの比較＞
脳機能研究所

3 今後の展望

昨年の外部評価委員会で、「早期診断という道筋は見えているのか」というコメントがあった。早期診断の重要性は何よりも「早期治療」の実現、疾患修飾薬の実用化があってこそであり、多施設観察研究、疾患修飾薬治験や予防介入研究に積極的に参画することにより、この領域の研究進展を加速したいと考えている。認知機能の低下が始まった場合の進行予測はほぼ実用化しているが、認知機能正常者における発症予測はまだ実用化の途上であり、タウイメージングも含めた研究を更に積み重ねる必要がある。仮に治療がなくても、早期の正確な診断は予後予測や将来を自己選択できる余地を確保する。そのような視点での診断のインパクトを評価する研究も今後進める。更に、新

しい診断法の普及と適正利用を図るためのガイドライン改訂を随時行ってゆく。

4 その他

新施設において、「研究と診療」「基礎と臨床」を橋渡しする位置にPET施設が置かれた恵まれた「地の利」を生かして、最先端の研究開発成果の臨床応用をスピーディーに行うと共に、病院における診療を技術的にサポートし、特に認知症の研究と診療の向上に寄与することを目指す。エビデンス構築を目指す多施設臨床研究を実施し、先進医療、グローバル治験にも積極的に参加する。確立した画像バイオマーカーによって病態評価（診断）とステージングを行うプラットフォームを構築し、一方で病理、他方で診療やコホート研究と連携し、有リスク被験者の抽出と登録、バイオリソース（血液、iPS細胞、その他生体サンプル）の提供を目指す。また、診断に有用なPET画像診断技術をいち早く診療に提供する。これらを通し、わが国の病態研究や薬剤開発を加速する役割を担ってゆきたい。

論文・学会発表

脳機能

常勤研究員：太字、非常勤研究員：下線付き

1 学会発表

(1) 海外

1. Toyohara, J., **Sakata, M.**, Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Hatano, K., Yanai, S., Endo, S., Ishii, K., Ishiwata, K.: Preclinical and a first-in man studies on [¹¹C]CB184 for imaging 18 kDa translocator protein by positron emission tomography. SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15.
2. Yamamoto, Y., Mitamura, K., Maeda, Y., Hatakeyama, T., Yamamoto, H., Kudomi, N., **Toyohara, J.**, Nishiyama, Y.: Correlation of intratumor textural heterogeneity on 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine PET/CT with Ki-67 immunohistochemistry and tumor grade in patients with newly diagnosed gliomas. SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15.
3. Minamimoto, R., **Toyohara, J.**, Okasaki, M., Morooka, M., Miyata, Y., Kameyama, M., Hotta, M., Nakajima, K., Miwa, A., Kubota, K.: Prospective comparison of ¹¹C-4DST, ¹⁸F-FDG PET/CT and whole-body MRI in the patients with multiple myeloma. SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15.
4. Morooka, M., Ishii, K., Ito, K., **Sakata, M.**, Kameyama, M., Minamimoto, R., and Kubota, K.: Fingerprints of mild HIV-associated neurocognitive disorders (HAND): FDG and VBM study. SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15
5. Wagatsuma, K., Oda, K., Inaji, M., Miwa, K., Hayashi, S., **Sakata, M.**, Sasaki, M., Ishiwata, K., Ishii, K.: Scatter

limitation correction can avoid scatter correction error caused by a high radioactivity in the facemask in an oxygen-15 labeled gas-inhalation PET study. SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15.

6. Mishina, M., Suzuki, M., Ishii, K., **Sakata, M.**, Wagatsuma, K., Ishibashi, K., **Toyohara, J.**, Zhang, M.R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in de novo patients with Parkinson's disease using ¹¹C-ITMM PET. The MDS 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Berlin, 2016.6.19-23.
7. Muta, A., Hiura, M., Nariai, T., Maehara, T., **Sakata, M.**, Oda, K., **Toyohara, J.**, Ishiwata, K., Ishii, K.: Regional cerebral blood flow following a single bout aerobic exercise: PET and TCD studies. OHBM 2016 Annual Meeting, Geneva, 2016.6.26-30.
8. Ishii, K., Ishibashi, K., **Sakata, M.**, Wagatsuma, K., **Toyohara, J.**, Murayama, S.: Clinical impact of amyloid PET with [C-11]Pittsburgh Compound B on the diagnosis of early onset dementias. AAIC2016-Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016. 7.24-27
9. Fukuda, Y., Tanaka, K., Yamamoto, Y., Hatakeyama, T., Kudomi, N., **Toyohara, J.**, Nishiyama, Y.: 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine positron emission tomography in patients with newly diagnosed glioma: Comparison with Gd-DTPA enhanced magnetic resonance imaging. EANM'16, Barcelona, 2016.10.15-19
10. Yamamoto, Y., Tanaka, K., Mitamura, K., Norikane, T., Fukuda, Y., Hatakeyama, T., Yamamoto, H., **Toyohara, J.**, Nishiyama, Y.: Prognostic value of 4'-[methyl-¹¹C]thiothymidine PET in a patients with newly diagnosed glioma. EANM'16, Barcelona, 2016.10.15-19
11. **Toyohara, J.**, **Sakata, M.**, Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Hatano, K., Ishiwata, K., Ishii, K.: First-in-human studies of imidazopyridineacetamide, [¹¹C]CB184, as a novel 18 kDa translocator protein seeker. EANM'16, Barcelona, 2016.10.15-19
12. Imai, M., Ishii, K., Tanaka, M., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., **Sakata, M.**, **Tago, T.**, **Toyohara, J.**, Maruno, H., Murayama, S., Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T.: Is tau accumulation detectable before neuronal injury markers? Analysis from tau PET imaging with [C-11]PBB3 in clinical variations of Alzheimer's disease. Human Amyloid Imaging 2017, Miami Beach, 2017.1.11-13.
13. **Toyohara, J.**, **Sakata, M.**, Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Ishii, K., Zhou, X., de Vries, E.F.J., Elsinga, P.H., Ishiwata, K.: Imaging of adenosine A_{2A} receptors in a healthy human brain by positron emission tomography with [¹¹C]preladenant. Molecular imaging agents in medicine, Groningen, 2017.2.13-15

(2) 国内

1. **豊原潤**: PET薬剤製造の基礎-アミロイド薬剤等を作るために必要な知識-. 第16回日本核医学会春季大会(教育講演), 大阪, 2016.4.23-24
2. 日浦幹夫, 成相直, 石井賢二, **坂田宗之**, **豊原潤**, 織田圭一, 石渡喜一: 脳卒中慢性期における有酸素運動が脳血流量と μ オピオイド受容体に及ぼす影響; 至適

運動療法の検討. 第41回日本脳卒中学会総会, 札幌, 2016.4.14-16

3. 仙石錬平, 洪川茉莉, 本山りえ, 森本悟, 砂川昌子, 金田大太, 仁科裕史, **豊原潤**, 藤ヶ崎純子, 石井賢二, 金丸和富, 村山繁雄: エオジン好性核内封入体病における機能画像・髄液バイオマーカーの検討. 第57回日本神経学会学術大会, 神戸, 2016.5.18-21.
4. **豊原潤**: 基礎研究と臨床研究は両立できる. PETサマーセミナー2016(シンポジウム), 熊本, 2016.8.26-28
5. Inaji, M., Hayashi, S., Nariai, T., Wagatsuma, K., **Toyohara, J.**, Ishii, K., Maehara, T.: Initial mGluR1 PET imaging of mTLE patients with HS. 第50回日本てんかん学会学術集会, 静岡, 2016.10.7-9
6. 林薫平, 酒井昌成, 石渡喜一, 渡辺利光, フランシスコゲラ, **豊原潤**: [¹⁸F]FBPA注射液の製造法の改善検討. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
7. 安賀文俊, 福田有子, 山本由佳, 田中賢一, 小野優子, 山本浩之, **豊原潤**, 西山佳宏: 消化管癌における¹¹C-4DST PETと¹⁸F-FDG PETの比較. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
8. 石橋賢士, 三浦義治, 石川欽也, 張明栄, **豊原潤**, 石渡喜一, 石井賢二: 孤発性脊髄小脳変性症似における代謝型グルタミン酸受容体1型イメージング. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
9. **豊原潤**, **多胡哲郎**, **坂田宗之**, 石橋賢士, 我妻慧, 石渡喜一, 石井賢二: 臨床応用を目指したPET薬剤の次世代化. 第56回日本核医学会学術総会(シンポジウム), 名古屋, 2016.11.3-5
10. **豊原潤**, **坂田宗之**, 石橋賢士, 我妻慧, 篠野健太郎, 石渡喜一, 石井賢二: 新規TSPOイメージング剤¹¹C-CB184の初期臨床評価. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
11. 三田村克哉, 山本由佳, 則兼敬志, 星川広史, **豊原潤**, 西山佳宏: 頭頸部癌の放射線化学療法前後における¹¹C-4DST PETと¹⁸F-FDG PETの比較. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
12. 福田有子, 田中賢一, 山本由佳, 則兼敬志, 畠山哲宗, 山本浩之, 久富信之, **豊原潤**: 治療前神経膠腫における¹¹C-4DST PETと造影MRIの比較. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
13. **豊原潤**, **坂田宗之**, 石橋賢士, 我妻慧, 周小云, ドフリースエリク, エルシンガフィリップ, 石渡喜一, 石井賢二: 新規アデノシンA_{2A}受容体イメージング剤¹¹C-preladenantの初期臨床評価. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
14. 堀田昌利, 南本亮吾, **豊原潤**, 諸岡都, 亀山征史, 中島和彦, 野原京子, 山田和彦, 窪田和雄: ¹¹C-4DSTと¹⁸F-FDGにおける食道癌の描出能に関する比較検討. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
15. **坂田宗之**, 王小宇, 石井賢二, 木村裕一, 我妻慧, 石橋賢士, **豊原潤**, 矢田紀子, 眞鍋佳嗣: 脳FDG画像を用いた認知症鑑別診断における機械学習から得られる画像指標と認知機能の関係. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5
16. 三品雅洋, 鈴木正彦, 石井賢二, **坂田宗之**, 我妻慧, 石橋賢士, **豊原潤**, 張明栄, 木村和美, 石渡喜一: [C-11]ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討 - 第一報 -. 第56回日本核医学会学術総会, 名古屋, 2016.11.3-5

17. **多胡哲郎**：コンフォーメーション病のイメージングを目的としてPETプローブ開発. 首都大バイオコンファレンス2016, 八王子, 2016.11.18
 18. **日浦幹夫**, **成相直**, **牟田光考**, **稲次基希**, **豊原潤**, **石井賢二**, **石橋賢士**, **我妻慧**, **坂田宗之**, **織田圭一**, **石渡喜一**, **前原健寿**：PETイメージングを活用した運動負荷時の脳機能解析：脳血流と神経受容体計測の実際. 第59回日本脳循環代謝学会学術総会（シンポジウム）, 徳島, 2016.11.11-12
 19. **坂田宗之**：機械学習を用いた脳FDG画像による認知症鑑別診断支援の試み. 第6回核医学画像解析研究会, 千葉, 2016.12.3
 20. **王小宇**, **坂田宗之**, **石井賢二**, **木村裕一**, **我妻慧**, **石橋賢士**, **豊原潤**, **矢田紀子**, **眞鍋佳嗣**：機械学習を用いた認知症自動鑑別診断におけるFDG-PET画像とMR画像の比較. 医用画像研究会(MI), 那覇(沖縄), 2017. 1.18
 21. **豊原潤**：脳機能イメージングのための新規PETトレーサーの開発. Neurovascular Unit研究会（依頼講演）, 信濃町, 2017.1.28
- ## 2 誌上発表
- ### (1) 原著
1. **◎Tago, T.**, Furumoto, S., Okamura, N., Harada, R., Adachi, H., Ishikawa, Y., Yanai, K., Iwata, R., Kudo, Y.: Preclinical evaluation of [¹⁸F]THK-5105 enantiomers: effects of chirality on its effectiveness as a tau imaging radiotracer. *Mol. Imaging. Biol.*, 2016; 18(2): 1052-1061. PMID: 26194011 (査読あり) IF = 2.569 (2015)
 2. **◎Tago, T.**, Furumoto, S., Okamura, N., Harada, R., Adachi, H., Ishikawa, Y., Yanai, K., Iwata, R., Kudo, Y.: Structure-activity relationship of 2-arylquinolines as PET imaging tracer for tau pathology in Alzheimer Disease. *J. Nucl. Med.*, 2016; 57(4):608-614. PMID: 26697966 (査読あり) IF = 5.849 (2015)
 3. **Okamoto, M.**, **Shibayama, H.**, **Naka, K.**, **Kitagawa, Y.**, **Ishiwata, K.**, Shimizu, I.,
 4. **★Toyohara, J.**: Optimization of alkyl side chain length of fluorine-18-labeled 7 α -alkyl-fluoroestradiol. *Nucl. Med. Biol.*, 2016; 43(8):512-519. PMID: 27289329 (査読あり) IF = 2.429 (2015)
 5. **★◎Toyohara, J.**, **Sakata, M.**, Hatano, K., Yanai, S., Endo, S., Ishibashi, K., Wagatsuma, K., Ishii, K., **Ishiwata, K.**: Preclinical and first-in-human studies of [¹¹C]CB184 for imaging the 18-kDa translocator protein by positron emission tomography. *Ann. Nucl. Med.*, 2016; 30(8):534-543. PMID: 27329083 (査読あり) IF = 1.467 (2015)
 6. Ishibashi, K., Miura, Y., Ishikawa, K., Zhang, M.R., **Toyohara, J.**, **Ishiwata, K.**, Ishii, K.: Relationship between type 1 metabotropic glutamate receptors and cerebellar ataxias. *J. Neurol.*, 2016; 263(11):2179-2187. PMID: 27502082 (査読あり) IF = 3.408 (2015)
 7. Harada, R., Furumoto, S., **Tago, T.**, Furukawa, K., Ishiki, A., Tomita, N., Iwata, R., Tashiro, M., Arai, H., Yanai, K., Kudo, Y., Okamura, N.: Characterization of the radiolabeled metabolite of tau PET tracer ¹⁸F-THK5351. *Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging*, 2016; 43(12):2211-2218. PMID: 27430946 (査読あり) IF = 5.537 (2015)
 8. **Okamoto, M.**, **Naka, K.**, **Ishiwata, K.**, Shimizu, I., **★Toyohara, J.**: Synthesis and basic evaluation of 7 α -(3-[¹⁸F]fluoropropyl)-testosterone and 7 α -(3-[¹⁸F]fluoropropyl)-dihydrotestosterone. *Ann. Nucl. Med.*, 2017; 31(1):53-62. PMID: 27680022 (査読あり) IF = 1.467 (2015)
 9. **Ishiwata, K.**, Hayashi, K., Sakai, M., Kawauchi, S., Hasegawa, H., **Toyohara, J.**: Determination of radionuclides and radiochemical impurities produced by in-house cyclotron irradiation and subsequent radiosynthesis of PET tracers. *Ann. Nucl. Med.*, 2017; 31(1):84-92. PMID: 27744544 (査読あり) IF = 1.467 (2015)
 10. **Hiura, M.**, **Nariai, T.**, Ishii, K., **Sakata, M.**, Oda, K., **Toyohara, J.**, **Ishiwata, K.**: Central μ -opioidergic system activation evoked by heavy- and severe-intensity cycling exercise in humans: a pilot study using positron emission tomography with ¹¹C-carfentanil. *Int J Sports Med.*, 2017; 38(1):19-26. PMID: 28073122 (査読あり) IF = 1.97 (2015)
 11. Sakurai, R., Ishii, K., Tasunaga, M., Takeuchi, R., Murayama, Y., Sakuma, N., **Sakata, M.**, Oda, K., Ishibashi, K., **Ishiwata, K.**, Fujiwara, Y., Montero-Odasso, M.: The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: a PET study. *Geriatr. Gerontol. Int.*, in press. (査読あり) IF = 2.229
 12. Ishibashi, K., Miura, Y., Matsumura, K., Kanemasa, Y., Nakamichi, K., Saijo, M., **Toyohara, J.**, Ishii, K.: PET imaging of ¹⁸F-FDG, ¹¹C-methionine, ¹¹C-flumazenil, and ¹¹C-4DST in progressive multifocal leukoencephalopathy: a case report. *Int. Med.*, in press. (査読あり) IF = 0.832 (2015)
 13. Matsuo, Y., Ogawa, T., Yamamoto, M., Shibamoto, A., Sáenz, J.R., Yokoyama, M., Kanda, Y., **Toyohara, J.**, Sakaki, K.: Evaluation of peri-implant bone-metabolism under immediate loading using high-resolution Na¹⁸F-PET. *Clin. Oral Invest.*, in press. PMID: 27838843 (査読あり) IF = 2.207 (2015)
 14. Yanai, S., **Toyohara, J.**, **Ishiwata, K.**, Ito, H., Endo, S.: Long-term cilostazol administration ameliorates memory decline in senescence-accelerated mouse prone 8 (SAMP8) through a dual effect on cAMP and blood-brain barrier. *Neuropharmacology*, in press. PMID: 27979612 (査読あり) IF = 4.936 (2015)
 15. Zhou, X., Boellaard, R., **Ishiwata, K.**, **Sakata, M.**, Dierckx, R.A., de Jong, J., Nishiyama, S., Ohba, H., Tsukada, H., de Vries, E.F., Elsinga, P.H.: In vivo evaluation of [¹¹C]preladenant for PET-imaging of adenosine A_{2A} receptors in the conscious monkey. *J. Nucl. Med.*, in press. PMID: 28062559 (査読あり) IF = 5.849 (2015)
 16. Yamane, T., Ishii, K., **Sakata, M.**, Ikari, Y., Nishio, T., Ishii, K., Kato, T., Ito, K., Senda, M.; J-ADNI Study Group: Inter-rater variability of visual interpretation and comparison with quantitative evaluation of ¹¹C-PiB PET amyloid images of the Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI) multicenter study. *Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging* in press. PMID: 27966045 (査読あり) IF = 5.537 (2015)
 17. Ishibashi, K., Miura, Y., **Toyohara, J.**, Ishii, K., **Ishiwata,**

K.: Comparison of imaging using ^{14}C -ITMM and ^{18}F -FDG for the detection of cerebellar ataxia. *J. Neurol. Sci.*, in press. (査読あり) IF = 2.126 (2015)

(2) 総説

1. Okamura, N., Harada, R., Furukawa, K., Furumoto, S., **Tago, T.**, Yanai, K., Arai, H., Kudo, Y.: Advances in the development of tau PET radiotracers and their clinical applications. *Aging Res. Rev.*, 2016; 30:107-113. PMID: 26802556 (査読あり) IF = 7.526 (2015)
2. ★◎**Toyohara, J.**: Evaluation of DNA synthesis with carbon-11-labeled 4'-thiothymidine. *World. J. Radiol.*, 2016; 8(9):799-808. Review PMID: 27721942 (査読あり) Currently no IF
3. ★◎**Toyohara, J.**: Importance of P-gp PET imaging in pharmacology. *Curr. Pharm. Des.*, 2016; 22(38):5830-5836. PMID: 27494065 (査読あり) IF = 3.052 (2015)
4. Furumoto, S., **Tago, T.**, Harada, R., Kudo, Y., Okamura, N.: ^{18}F -labeled 2-arylquinoline derivatives for tau imaging: chemical, radiochemical, biological and clinical features. *Curr. Alzheimer Res.*, in press. PMID: 27334944 (査読あり) IF = 3.145 (2015)

PET画像診断

1 学会発表

(1) 海外

1. **Ishii, K.**: PET and SPECT in Dementia (other than Alzheimer's disease). International Atomic Energy Agency Workshop: Nuclear Medicine Techniques in Neurological Diseases: Emphasis on Oncology and Neurology. Osaka, 2016.5.23-25
2. **Wagatsuma, K.**, Oda, K., Inaji, M., Miwa, K., Hayashi, S., Sakata, M., Sasaki, M., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Scatter limitation correction can avoid scatter correction error caused by a high radioactivity in the facemask in an oxygen-15 labeled gas-inhalation PET study, 62nd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, 2016.6.11-15.
3. Toyohara, J., Sakata, M., **Ishibashi, K.**, **Wagatsuma, K.**, Hatano, K., Yanai, S., Endo, S., **Ishii, K.** and Ishiwata, K.: Preclinical and first-in-man studies of imidazopyridineacetamide, [^{11}C]CB184, as a novel 18 kDa translocator protein seeker, 62nd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, 2016.6.11-15.
4. Morooka, M., **Ishii, K.**, Ito, K., Sakata, M., Kameyama, M., Minamimoto, R., and Kubota, K.: Fingerprints of mild HIV-associated neurocognitive disorders (HAND): FDG and VBM study, SNMMI 2016 Annual Meeting, San Diego, 2016.6.11-15
5. Miyaji, M., Miwa, K., Umeda, T., **Wagatsuma, K.**, Terauchi, T. and Koizumi, M.: Validation of calibration schemes with sealed sources for quantitative bone SPECT/CT, 62nd Annual Meeting, Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging, San Diego, USA, 2016.6.11-15.
6. Mishina, M., Suzuki, M., **Ishii, K.**, Sakata, M., **Wagatsuma, K.**, **Ishibashi, K.**, Toyohara, J., Zhang, M., R., Kimura, K., Ishiwata, K.: Density of metabotropic glutamate receptors subtype 1 in de novo patients with Parkinson's disease using ^{11}C -ITMM PET. The MDS 20th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Berlin, 2016.6.19-23
7. Muta A, Hiura M, Nariai T., Maehara T, Sakata M, Oda K., Toyohara J, Ishiwata K, **Ishii K.**: Regional cerebral blood flow following a single bout aerobic exercise: PET and TCD studies. OHBM 2016 Annual Meeting, Geneva, Switzerland, 2016. 6.26-30.
8. Hanyu, H., Fukasawa, R., Shimizu S., Sakurai H., **Ishii, K.**, Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T. Amyloid and Tau PET Findings in Diabetes-Related Dementia. AAIC2016 - Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016.7.24-27
9. Shinotoh, H., Sahara, N., Shimada, H., Ikeuchi, T., Koga, S., Strogonsky, A.J., Nishioka, K., Hanyu, H., vanSwieten, J.C., Ono, M., Kimura, Y., Hirano, S., **Ishii, K.**, Zhang, M-R., Trojanowski, J.Q., Lee, V.M-Y., Dickson, D.W., Wszolek, Z., Hattori, N., Higuchi, M., Suhara, T. [^{11}C]PBB3 PET Visualizes Tau Aggregates in Patients with Ftdp-17 Mapt Gene Mutation. AIC2016 - Alzheimer's Imaging Consortium, Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016.7.23.
10. Shinotoh, H., Sahara, N., Shimada, H., Ikeuchi, T., Koga, S., Strogonsky, A.J., Nishioka, K., Hanyu, H., vanSwieten, J.C., Ono, M., Kimura, Y., Hirano, S., **Ishii, K.**, Zhang, M-R., Trojanowski, J.Q., Lee, V.M-Y., Dickson, D.W., Wszolek, Z., Hattori, N., Higuchi, M., Suhara, T. [^{11}C]PBB3 PET Visualizes Tau Aggregates in Patients with Ftdp-17 Mapt Gene Mutation. AAIC2016 - Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016.7.24-27
11. Kaneda, D., Sengoku, R., Kanemaru, K., Morimoto, S., Nishina, Y., Fujigasaki, J., Tokumaru, A., **Ishii, K.**, Saito, Y., Murayama, S. The establishment of the brainbank for aging research in lison with the brain bank for aging research. AAIC2016 - Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016.7.24-27
12. **Ishii, K.**, **Ishibashi, K.**, Sakata, M., **Wagatsuma, K.**, Toyohara, J., Murayama, S. Clinical impact of amyloid PET with [^{11}C]Pittsburgh Compound B on the diagnosis of early onset dementias. AAIC2016 - Alzheimer's Association International Conference, Tronto, 2016.7.24-27
13. **Ishii, K.**: Why we need standardization? A neurologist's perspective on standardization of brain FDG and amyloid PET imaging. EANM'16 - 29th Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine, Barcelona, Spain, 2016.10.15-19.
14. Toyohara, J., Sakata, M., **Ishibashi, K.**, **Wagatsuma, K.**, Hatano, K., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: First-in-human studies of imidazopyridineacetamide, [^{11}C]CB184, as a novel 18 kDa translocator protein seeker. EANM'16, Barcelona, 2016.10.15-19
15. Inaji M, Hayashi S, Nariai T, Wagatsuma K, Toyohara J, **Ishii K.**, Maehara T mGluR1 PET imaging in medial temporal lobe epilepsy patients with hippocampal sclerosis. AES annual meeting, Philadelphia, 2016/12/03-06
16. Imai, M., **Ishii, K.**, Tanaka, M., **Ishibashi, K.**,

- Wagatsuma, K.**, Tago, T., Toyohara, J., Maruno, H., Murayama, S., Shimada, H., Higuchi, M., Suhara, T. Is tau accumulation detectable before neuronal injury markers? Analysis from tau PET imaging with [C-11]PBB3 in clinical variations of Alzheimer's disease. Human Amyloid Imaging 2017, Miami Beach, 2017.1.11-13.
17. Toyohara, J., Sakata, M., **Ishibashi, K.**, **Wagatsuma, K.**, **Ishii, K.**, Zhou, X., de Vries, E.F.J., Elsinga, P.H., Ishiwata, K.: Imaging of adenosine A2A receptors in a healthy human brain by positron emission tomography with [¹¹C]prelabeled. MOlecular imaging agents in medicine, Groningen, 2017.2.13-15

(2) 国内

1. Nakazawa, S., Umeda, T., **Wagatsuma, K.**, Miyaji, N., Motegi, K., Fukai, S., Miwa, K.: Evaluation of the Gross Tumor Volume Contouring Accuracy for Lung/Diaphragm Interface Tumors Using Respiratory Gated Positron Emission Tomography/Computed Tomography, 日本放射線技術学会第72回総会学術大会, 横浜, 2016.4.14-17.
2. **石井賢二**: アミロイド・タウイメージング最近の話題. 日本脳神経核医学研究会脳PETワークショップ, 横浜, 2016.4.17
3. **石井賢二**: Florbetapir アミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第16回日本核医学会春季大会、大阪、2016.4.23
4. **石井賢二**: Flutemetamol アミロイドイメージングの意義、使用ガイドライン. 第16回日本核医学会春季大会、大阪、2016.4.23
5. **石井賢二**: 脳腫瘍・てんかん・認知症. 第16回日本核医学会春季大会、大阪、2016.4.23
6. 日浦幹夫、成相直、**石井賢二**、坂田宗之、豊原潤、織田圭一、石渡喜一: 脳卒中慢性期における有酸素運動が脳血流量と μ オピオイド受容体に及ぼす影響; 至適運動療法の検討、第41回日本脳卒中学会総会、札幌、2016.4.14-16
7. **石橋賢士**、**我妻慧**、石渡喜一、**石井賢二**: 血糖値上昇による脳内ブドウ糖代謝能の変化. 第57回日本神経学会学術大会、神戸、2016.5.18-21.
8. 仁科裕史、古田光、徳丸阿耶、**石井賢二**、金丸和富、村山繁雄: 扁桃核を伴い、認知症を呈する一群の経時的検討. 第57回日本神経学会学術大会、神戸、2016.5.18-21.
9. 仙石鍊平、渋川茉莉、本山りえ、森本悟、砂川昌子、金田太夫、仁科裕史、豊原潤、藤ヶ崎純子、**石井賢二**、金丸和富、村山繁雄: エオジン好性核内封入体病における機能画像・髄液バイオマーカーの検討. 第57回日本神経学会学術大会、神戸、2016.5.18-21.
10. **石井賢二**: 3大変性疾患 (AD, DLB, FTD) の病態解明に対する学際的アプローチ. 神経画像の立場から. 第57回日本神経学会学術大会、神戸、2016.5.18-21.
11. **石井賢二**: Misfolded protein imagingの現状と課題. 第57回日本神経学会学術大会、神戸、2016.5.18-21.
12. **石井賢二**: 認知症のバイオマーカー探索と発症予防研究. TOBIRA第5回研究交流フォーラム、東京、2016.5.23
13. **石井賢二**: 認知症先制医療に向けた臨床研究の現状. 健康・長寿研究談話会第10回アカデミックサロン、東京、2016.6.17
14. 荻島隆浩、田村郁、小林大輔、稲次基希、林志保里、田村玲奈、成相直、**石井賢二**、前原健寿 Grade 2,3グリオーマにおけるIDH1とATRXによる分子診断と[¹¹C]methionine-PETの比較検討 第34回日本脳腫瘍病理学会、東京、2016.05.27-28
15. 本山りえ、村山繁雄、松平敬史、東原真奈、**石井賢二**、仙石鍊平: アルツハイマー型認知症 (AD) を背景とした難治性非痙攣性てんかん重積 (NCSE) の89歳女性例. 日本てんかん学会関東甲信越地方会、東京、2017.7.9.
16. **石井賢二**: 認知症診断における核医学画像の役割. 第36回香川県核医学懇話会. 高松、2016.7.16
17. **石井賢二**: Amyloid PETによるCAAの病態評価—画像病理相関を含めて. シンポジウム2、脳アミロイドアンギオパチーの診断と治療の最前線、Vas-Cog Japan 2016、金沢、2016.8.6
18. **石井賢二**: 認知症診断におけるMisfolded Proteins Imaging. 第22回東海脳神経核医学研究会、名古屋、2016.8.20
19. **我妻慧**: ファントムを用いた脳PETイメージングの技術的検討. 第14回脳核医学画像解析研究会、東京、2016.9.10.
20. **石井賢二**: アミロイドイメージングは認知症診療に何をもたらすか? 第14回ヘルシーマジネーション・カレッジ、臨床現場から見る認知症診断・評価の現状と展望、東京、2016.9.20
21. **石井賢二**: 認知症画像診断におけるPET/SPECTイメージングの有用性と将来展望. 第6回認知症予防学会学術集会、仙台、2016.9.23-25
22. **石井賢二**: アミロイドイメージングの適正使用ガイドライン. 第32回Brain Function Imaging Conference. 京都、2016.9.24
23. 荻島隆浩、田村郁、小林大輔、稲次基希、林志保里、田村玲奈、**成相直**、**石井賢二**、前原健寿 IDH1、ATRX免疫染色で分子分類したGrade 2,3グリオーマの術前[¹¹C]methionine-PET及び予後の検討 第75回日本脳神経外科学会学術総会、福岡、2016.09.29-10.01
24. 原祥子、田中洋次、澤柳文菜、阿部大数、上田泰弘、**林志保里**、**稲次基希**、**石井賢二**、前原健寿、**成相直** ASL視覚評価スコアの有用性—もやもや病患者と他脳血管障害患者での比較— 第75回日本脳神経外科学会学術総会、福岡、2016.09.29-10.01
25. Inaji M., Hayashi, S., Nariai, T., **Wagatsuma, K.**, Toyohara, J., **Ishii, K.**, Maehara, T.: Initial mGluR1 PET imaging of mTLE patients with HS 第50回日本てんかん学会学術集会、静岡、2016.10.07-09
26. **山口正太郎**、**我妻慧**、三輪建太、**石井賢二**、井上一雅、福士政広: Block Sequential Regularized Expectation Maximization法によるベイズ型画像再構成のエッジアーチファクトの改善効果. 第44回日本放射線技術学会秋季学術大会、大宮、2016.10.13-15.
27. 小山翔司、長谷川智之、坂口和也、菊池敬、宮武比呂樹、井上優介、**我妻慧**、**織田圭一**: トレーサブルGe-68/Ga-68点状線源に関わる位置依存性の基本的評価. 第44回日本放射線技術学会秋季学術大会、大宮、2016.10.13-15.
28. 福田晃史郎、**石橋賢士**、松村謙、金政佑典、中道一生、西條政幸、三浦義治: PET検査が有用であった血管免疫芽球形T細胞リンパ腫を基礎疾患とし両眼視力障害にて発症の進行性多巣性白質脳症の63歳男性. 第21回日本神経感染症学会総会学術大会、金沢、2016.10.21-22.

29. 桜井良太、佐久間尚子、安永正史、鈴木宏幸、村山陽、西真理子、内田勇人、新開省二、**石井賢二**、藤原佳典：加齢に伴う海馬萎縮に対する世帯間交流プログラムの抑制効果－REPRINTS study－. 第75回日本公衆衛生学会総会、大阪、2016.10.26-28.
30. **石橋賢士**、三浦義治、石川欽也、張明栄、豊原潤、石渡喜一、**石井賢二**：孤発性脊髄小脳変性症における代謝型グルタミン酸受容体1型イメージング. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
31. 長谷川智之、小山翔司、宮武比呂樹、菊池敬、井上優介、佐藤泰、**我妻慧**、**織田圭一**、和田康弘、三輪建太、村田泰輔、トレーサブル点状線源を用いる定量性評価校正. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
32. 三品雅洋、鈴木正彦、**石井賢二**、坂田宗之、**我妻慧**、**石橋賢士**、豊原潤、張明栄、木村和美、石渡喜一。[C-11]ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討－第一報－. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
33. 坂田宗之、**王小宇**、**石井賢二**、木村裕一、**我妻慧**、**石橋賢士**、豊原潤、矢田紀子、眞鍋佳嗣：脳FDG画像を用いた認知症鑑別診断における機械学習から得られる画像指標と認知機能との関係. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
34. 豊原潤、坂田宗之、**石橋賢士**、**我妻慧**、周小云、ドフリース エリク、エルシンガ フィリップ、石渡喜一、**石井賢二**。新規アデノシンA_{2A}受容体イメージング剤¹¹C-Preladenantの初期臨床評価. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
35. 三輪建太、**我妻慧**、宮司典明、神谷貴史、飯森隆志、澤田晃一、櫻井実、NISTトレーサブル標準線源を用いた多施設PET装置間のSUV精度管理. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
36. **我妻慧**、三輪建太、坂田宗之、**織田圭一**、**石井賢二**：PET校正用⁶⁸Ge/⁶⁸Ga線源キットを用いた相互校正の妥当性. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
37. **我妻慧**：認知症被検者の医療安全～診療放射線技師の立場から～、核医学看護フォーラム3 認知症と医療安全. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
38. **我妻慧**：技術的側面におけるアミロイドPETイメージングの基礎のキソ、ランチョンセミナー2-4. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
39. 豊原潤、多胡哲郎、坂田宗之、**石橋賢士**、**我妻慧**、石渡喜一、**石井賢二**：臨床応用を目指したPET薬剤の次世代化. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
40. 豊原潤、坂田宗之、**石橋賢士**、**我妻慧**、旗野健太郎、石渡喜一、**石井賢二**：新規TSPOイメージング剤¹¹C-CB184の初期臨床評価. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
41. 三品雅洋、鈴木正彦、**石井賢二**、坂田宗之、**我妻慧**、**石橋賢士**、豊原潤、張明栄、木村和美、石渡喜一：[C-11]ITMM PETを用いた未治療パーキンソン病における代謝型グルタミン酸受容体1型密度の検討－第一報－. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
42. 成相直、稲次基希、林志保里、**織田圭一**、**石井賢二**、石渡喜一：悪性脳腫瘍に対するBNCTへの応用を見据えたアミノ酸標識PET画像の検討－FBPAとメチオニンの比較－. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
43. **石井賢二**：アミロイド/タウPETの臨床応用. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
44. **石橋賢士**、三浦義春、石川欽也、張明栄、豊原潤、石渡喜一、**石井賢二**：孤発性脊髄小脳変性症における代謝型グルタミン酸受容体1型イメージング. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5. ハイマー病患者の脳画像における特徴部位に着目したPETと脳波の相関性の検討. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
45. 羽生春夫、清水聰一郎、平尾健太郎、金高秀和、**石井賢二**、島田斉、樋口真人、須原哲也：糖尿病性認知症のアミロイド、タウPET. 第56回日本核医学会学術総会、名古屋、2016.11.3-5.
46. 日浦幹夫、成相直、牟田光孝、稲次基希、豊原潤、**石井賢二**、**石橋賢士**、**我妻慧**、坂田宗之、**織田圭一**、石渡喜一、前原健寿：PETイメージングを活用した運動負荷時の脳機能解析：脳血流と神経受容体計測の実際. 第59回日本脳循環代謝学会学術総会(シンポジウム)、徳島、2016.11.11-12.
47. 鈴木幸久、清澤源弘、若倉雅登、大野京子、**石井賢二**：眼瞼痙攣患者にみられた視覚野の糖代謝低下. 第54回日本神経眼科学会総会、宮崎、2016.11.25-26.
48. **石井賢二**：アルツハイマー病診断における画像検査. シンポジウム1 実臨床のAD：診断には何が役立つか？ 第35回日本認知症学会学術集会、東京、2016.12.1-3.
49. **我妻慧**：表示付認証機器を用いたSPECTのQC・QA. 第13回Molecular Imaging Technologist Conference、茨城、2016.12.9.
50. **王小宇**、坂田宗之、木村裕一、**我妻慧**、**石橋賢士**、豊原潤、矢田紀子、眞鍋佳嗣：機械学習を用いた認知症自動鑑別におけるFDG-PET画像とMRI画像の比較. 医用画像研究会、那覇、2017.1.18.
51. **石井賢二**：アミロイドイメージング－診療と研究における臨床利用の展望－. 第97回みちのく核医学会、仙台、2017.1.27.
52. 田中雅之、小池笑也、**我妻慧**、平塚勢哉、益子大世、三輪建太：¹¹C-PiBによる脳PET画像に対する正則化近似画像再構成法の至適 β 値の検討. 第63回関東支部研究発表大会、栃木、2017.1.28-29.
53. **石井賢二**：アミロイド/タウPETの臨床応用と展望. 第12回21世紀山口核医学セミナー、山口、2017.2.9.
54. **石井賢二**：認知症疾患修飾薬開発における神経画像－アミロイドイメージングとタウイメージング. 第40回日本脳神経CI学会、鹿児島、2017.3.3-4.

2 誌上発表

(1) 原著

- Watanabe, H., Ishii, K., Hosono, M., Imabayashi, E., Abe, K., Inubushi, M., Ohno, K., Magata, Y., Ono, K., Kikuchi, K., **Wagatsuma, K.**, Takase, T., Saito, K., Takahashi, Y.: Report of a nationwide survey on actual administered radioactivities of radiopharmaceuticals for diagnostic reference levels in Japan. Ann Nucl Med. 2016;30(6):435-444. (査読あり) IF = 1.467 (2015)
- Robertson, C.L., **Ishibashi, K.**, Chudzynski, J., Mooney, L.J., Rawson, R.A., Dolezal, B.A., Cooper, C.B., Brown, A.K., Mandelkern, M.A., London ED.: Effect of Exercise

- Training on Striatal Dopamine D2/D3 Receptors in Methamphetamine Users during Behavioral Treatment. *Neuropsychopharmacology*. 2016. 41(6):1629-36. (査読あり) IF = 6.399 (2015)
3. Seibyl, J., Catafau, A.M., Barthel, H., **Ishii, K.**, Rowe, C.C., Leverenz, J.B., Ghetti, B., Ironside, J.W., Takao, M., Akatsu, H., Murayama, S., Bullich, S., Mueller, A., Koglin, N., Schulz-Schaeffer, W.J., Hoffmann, A., Sabbagh, M.N., Stephens, A.W., Sabri, O. Impact of training method on the robustness of the visual assessment of 18F-florbetaben PET scans - results from a phase 3 study. *J Nucl Med Mol Imaging* 2016 Jun; 57(6):900-6. (査読あり) IF = 5.849
 4. Yoshiike T, Nishida M, Yagishita K, Nariai T, **Ishii K.**, Nishikawa T. Altered sleep spindles in delayed encephalopathy after acute carbon monoxide poisoning. *J Clin Sleep Med* 2016 Jun;12(6)913-915. (査読あり) IF = 1.560
 5. ★◎**Ishibashi, K.**, Miura, Y., Ishikawa, K., Zhang, M.R., Toyohara, J., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Relationship between type 1 metabotropic glutamate receptors and cerebellar ataxia. *J Neurol*. 2016. 263(11):2179-2187. (査読あり) IF = 3.408
 6. ★◎**Ishibashi, K.**, **Wagatsuma, K.**, Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Alteration of the regional cerebral glucose metabolism in healthy subjects by glucose loading. *Hum Brain Mapp*. 2016. 37(8):2823-32. (査読あり) IF = 4.962
 7. ★◎**Ishibashi, K.**, Onishi A., Fujiwara, Y., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Plasma glucose levels affect cerebral ¹⁸F-FDG distribution in cognitively normal subjects with diabetes. *Clin Nucl Med*. 2016. 41(6):e274-80. (査読あり) IF = 4.278
 8. Toyohara, J., Sakata, M., Hatano, K., Yanai, S., Endo, S., **Ishibashi, K.**, **Wagatsuma, K.**, **Ishii, K.**, Ishiwata, K.: Preclinical and first-in-human studies of [¹¹C]CB184 for imaging the 18-kDa translocator protein by positron emission tomography. *Ann. Nucl. Med.*, 2016 Oct; 30(8):534-543. PMID: 27329083 (査読あり) IF = 1.467 (2015)
 9. ★◎**Ishibashi, K.**, Miur, Y., Ishikawa, K., Zhang, M.R., Toyohara, J., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Relationship between type 1 metabotropic glutamate receptors and cerebellar ataxias. *J. Neurol.*, 2016 Nov; 263(11): 2179-2187. (査読あり) IF = 3.408 (2015)
 10. Suzuki, Y., Kiyosawa, M., **Ishii, K.** Role of GABAergic Inhibition System in Blepharospasm. *J Neuro-ophthalmol*. 2016; 36:349-350. (査読あり) IF = 1.576
 11. Sakurai R, Fujiwara, Y., Yasunaga, M., Suzuki, H., Takeuchi, R., Murayama, Y., Kanosue, K., Kuniyasu, I, **Ishii, K.** Neural correlates of older adults' self-overestimation of stepping-over-ability. *Age* 2016 Aug;38(4):351-361 (査読あり) IF = 2.50
 12. Sakurai, R., Suzuki, H., Fujiwara, Y., Yasunaga, M., Takeuchi, R., Murayama, Y., Kobayashi Cuya, K.E., Kanosue, K., **Ishii, K.** Neural basis for the relationship between frequency of going outdoors and depressive mood in older adults. *Int J Geriatr Psychiatry* 2016 May 9 DOI: 10.1002/gps.4497 (査読あり) IF = 2.699
 13. ★◎**我妻慧**, 大澤達史, 横川直樹, 三輪建太, 織田圭二, 工藤善朗, 海野泰, 伊藤公輝, **石井賢二**: 肝臓腫瘍に対する呼吸同期PET/CTの非線形レジストレーション処理の有用性. 日本放射線技術学会雑誌 2016;72(11):1067-1073. (査読あり) IFなし
 14. Suzuki, Y., Kiyoswa, M., Oda, K., Ishiwata, K., **Ishii, K.**: Improvement of glucose metabolism in the visual cortex accompanies visual field recovery in a patient with hemianopia. *Tohoku J. Exp Med*. 2016; 238(4):267-271. (査読あり) IF = 1.287 (2015)
 15. Suzuki Y., Kiyosawa M, Ishiwata K, Oda K., **Ishii K.** Cerebral functional response during eyelid opening/closing with Bell's phenomenon and volitional vertical eye movements in humans. *Tohoku J Exp Med*. 2016.10;240(2):141-146. (査読あり) IF = 1.287 (2015)
 16. Hiura M., Nariai T., **Ishii K.**, Sakata M., Oda K., Toyohara J., Ishiwata K.: Central μ -opioidergic system activation evoked by heavy- and severe-intensity cycling exercise in humans: a pilot study using positron emission tomography with ¹¹C-carfentanil. *Int J Sports Med.*, 2017.38:19-26. (査読あり) IF = 1.97 (2015)
 17. ★ ◎ **Ishibashi, K.**, Miura, Y., Matsumura, K., Kanemasa, Y., Nakamichi, K., Saijo, M., Toyohara, J., **Ishii, K.**: PET imaging of ¹⁸F-FDG, ¹¹C-methionine, ¹¹C-flumazenil, and ¹¹C-4DST in progressive multifocal leukoencephalopathy: a case report. *Internal Medicine*. (in press) (査読あり) IF = 0.91
 18. Sakurai, R., **Ishii, K.**, Yasunaga, M., Takeuchi, R., Murayama, Y., Sakuma, N., Sakata, M., Oda, K., **Ishibashi, K.**, Ishiwata, K., Fujiwara, Y., Montero-Odasso, M. The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: a PET study. *Great Gerontol Int* (in press) (査読あり) IF = 1.55
 19. Yamane T, **Ishii K.**, Sakata M, Ikari Y, Nishio T, Ishii K, Kato T, Ito K, Senda M and J-ADNI Study Group. Inter-rater variability of visual interpretation and comparison with quantitative evaluation of 11C-PiB PET amyloid images of the Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (J-ADNI) multicenter study. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* (in press) (査読あり) IF = 4.46
 20. ★◎**Ishibashi, K.**, Miura Y., Toyohara, J., **Ishii, K.**, Ishiwata, K., Comparison of imaging using 11C-ITMM and 18F-FDG for the detection of cerebellar ataxia. *Journal of the Neurological Sciences*. (in press) (査読あり) IF = 0.36
 21. Imai, M., Tanaka, M., **Ishibashi, K.**, Tokumaru, A.M., **Ishii, K.** Glucose hypometabolism in developmental venous anomaly without apparent parenchymal damage. *Clin Nucl Med* (in press) (査読あり) IF = 4.278
- ## (2) 総説
1. 石橋賢士、**石井賢二** : DATとMIBGの組み合わせ. *Clinical Neuroscience*. 2015; 33(5): 596-597
 2. **石井賢二** : DaT-scanがあればNIBG-心筋シンチグラフは必要ないか? 必要とする立場から. *Frontier in Parkinson Disease*, 2015 Apr ; 8(2) : 20-24.
 3. 三輪建太、赤松剛、村田泰輔、梅田拓朗、**我妻慧**、宮司典明、佐々木雅之: 腫瘍PET/CTにおける最新の技術的トピックス PSF補正とTOF補正. 臨床放射線.

2015, 60, 787-795.

4. 石井賢二： ^{11}C -PIB PET. *Clinical Neuroscience* 2015; 33(19):1151-1154.
5. 石井賢二：アミロイドイメージング. *日本臨床*2016; 74(3):399-403

3 著書等

1. 我妻慧：I-10 PET 脳, 監修 VERSUS研究会 編集 對間博之, 飯森隆志, 甲谷理温, 超実践マニュアル核医学, pp259-271, 医療科学社, 2016.
2. 我妻慧：3.5 脳PET撮像実験, 公益社団法人日本放射線技術学会核医学部会, 放射線技術学叢書 (37) 初学者のための核医学実験入門, pp78-84, 2016.

受賞

脳機能

1. Okasaki, M., 他6名, **Toyohara, J.**, 他4名 久田賞金賞 (Annals of Nuclear Medicine 論文賞) 「Comparison of ^{11}C -4'-thiothymidine, ^{11}C -methionine, and ^{18}F -FDG PET/CT for the detection of active lesions of multiple myeloma. *Ann. Nucl. Med.*, 2015; 29(3):224-232.」 2016.11.5
2. Hatano, K., 他6名, **Toyohara, J.**, 他12名 久田賞銅賞 (Annals of Nuclear Medicine 論文賞) 「Radiosynthesis and in vivo evaluation of two imidazopyridineacetamides, [^{11}C]CB184 and [^{11}C]CB190, as a PET tracer for 18 kDa translocator protein: direct comparison with [^{11}C](R)-PK11195. *Ann. Nucl. Med.*, 2015; 29(4):325-335.」 2016.11.5

社会参加と地域保健研究チーム

チームリーダー：藤原 佳典

1 研究チームの概要・目的

当研究チームは、高齢者人口のほぼ8割を占める“生活機能の自立した”高齢者を主な対象とし、ICFモデルに示された「参加」、「活動」の増進に向けた研究および地域でアクションリサーチを行い、健康日本21（第二次）で掲げられている「健康寿命（余命）の延伸」と「健康格差の縮小」に寄与することを目的としている。二つのテーマ研究（TR）からなり、社会参加・社会貢献の促進TRでは、「参加」が健康余命に及ぼす影響を明らかにするとともに、持続可能な少子高齢社会の実現に向けて諸課題の解決に寄与する社会貢献プログラムを開発し、それを広く地域で展開する。もって、「参加」、「活動」の増進や社会的孤立予防など健康格差の縮小のための政策立案に寄与する。また、老化・虚弱の一次予防と地域保健TRでは、独自に開発した虚弱スケールなどを用いて、高齢期の虚弱化プロセスの解明を行うとともに、虚弱化を予防/先送りする新しい社会システムを開発し、それを広く地域で展開する。もって、健康余命の延伸と健康

格差の縮小のための政策立案に寄与する。

2 今後の展望

第二期同様に研究費の獲得である。現研究体制を維持するには、それぞれのテーマ研究に毎年少なくとも一つは大型の研究費が必要である。幸いにも、社会参加テーマグループはJST-RISTEX研究開発プロジェクトや科研基盤Aを、また地域保健グループは大田区プロジェクト等の大型研究費を獲得することができ、向こう2年間研究事業をさらに展開することができそうである。今後も外部資金の獲得に向けいろいろな機会を利用して研究申請を行っていく。

次に、若手研究者のステップアップについてである。国際性を身につけるには海外での留学経験が極めて大切であり、研究員の海外派遣を積極的に考えていく。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

社会参加・社会貢献の促進

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
社会参加・社会貢献の促進とその効果に関する研究	1)高齢者のウェルビーイング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明	長期縦断研究の継続：データセットの構築	長期縦断研究の継続：データの分析	長期縦断研究の継続：成果の公表	長期縦断研究の継続：データセットの構築・分析	長期縦断研究の継続：まとめ
	2)①世代間交流(IG)・②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：成果の公表	介入研究の継続：過去データの分析	介入研究の継続：まとめ
	3)高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	政策提言
	4)社会的孤立の予防に向けた重層的地域包括ケアシステムの開発	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：過去データの分析	アクションリサーチの実施：成果の公表	政策提言

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
虚弱化のプロセスの解明と予防システムの開発	1) 虚弱化のプロセスの解明 ①高齢期の虚弱化のパターンの解明	縦断研究の継続、過去データの分析	縦断研究の継続、成果の公表	縦断研究の継続、過去データの分析	縦断研究の継続、成果の公表	縦断研究の継続、まとめ
	②異なるパターンでの虚弱化の学際的原因解明	同上	同上	同上	同上	同上
	2) 虚弱化を予防／先送りする社会システムの開発	アクションリサーチの実施	アクションリサーチの実施	成果の公表	他地域への展開	政策提言
青柳G	3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価	データセットの構築	データセットの構築	データセットの分析	データセットの分析	成果の公表
	4) 身体活動・運動のガイドライン作成（中之条研究）	日常生活活動と体温、睡眠、免疫、動脈硬化との関係	日常生活活動とうつ、生活機能との関係	日常生活活動と体温、睡眠、筋骨格系疾患との関係	日常生活活動と体温、睡眠、運動機能との関係	予防医学システムを開発、ガイドラインの作成

社会参加・社会貢献の促進

構成メンバー

テーマリーダー：藤原佳典

研究員：小林江里香、鈴木宏幸、安永正史、

野中久美子、倉岡正高

非常勤研究員：村山陽、小川将、村山幸子、

村山洋史、箕浦明、長谷部雅美、

飯塚あい、田中元基

1 平成28年度の研究成果

1) 高齢者のウェルビーイング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明：

平成27年度までに調査を実施した3つの縦断研究（JAHEAD研究：全国6000人、CAPITAL研究：I和光市・II大田区12,000人）のデータ解析と研究成果の発表と第5回和光市調査（4000人）、初回北区（3700人）・川崎市多摩区（4000人）調査を実施した。

2) ①世代間交流(IG)、および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証：

JST-RISTEXの大型研究費<http://www.ristex.jp/i-gene/projects/h27/project_h27_4.html>

H27年10月～H30年9月)により高齢者に加えて子ども・子育て施策をも包含した多世代型地域包括ケアシステムのモデル開発に着手した(北区、川崎市多摩区と協働)。世代間交流プロジェクトREPRINTSの経験・成果を踏まえ、多世代の交流から相互扶助へと進展する地域システムの開発を目指している。

3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発：

①有償型-a)就労研究：大田・板橋区就労支援施設における求職者縦断調査や高齢者就労研究(通

称：ESSENCEプロジェクト)(<https://sites.google.com/site/elderlyemployment/>)の成果をまとめた。

-b)ワンコインボランティア研究：下記4)JST-RISTEXの一環として、北区、大田区、川崎市、民間企業と協働しスマートホンを用いた多世代型生活支援・子育て支援マッチングシステム(通称：くらしシェア)の開発に着手した。

②無償型-a)生涯学習型ボランティア研究：絵本の読み聞かせ法の習熟による認知症予防講座を導入としたボランティアプログラムを開発・普及させている。NPOと連携し、ボランティアの指導者5名養成した。

b)シニアボランティアコーディネーターマニュアルを公開・刊行した。

4) 社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発：

持続可能な社会を実現するためには、次世代との共生・共創による相互支援が必須であり、高齢世代のみならず、子ども・子育て施策をも包含した多世代型地域包括ケアシステムの構築が望まれる(厚労省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部H28/7発表)。

こうした問題意識をもつ自治体(北区、川崎市)と協働し、JST-RISTEXの大型研究費<http://www.ristex.jp/i-gene/projects/h27/project_h27_4.html>を獲得することができた(H27年10月～H30年9月)。これにより、産官学による多世代相互扶助型生活支援システムの開発に着手した。研究の進行においても縦断調査、世代間交流、ボランティア、地域包括ケアの当研究室が担当する全4テーマを網羅する研究のプラットフォームづくりを進めている。地域包括支援センター(生活支援コーディネーター)を核とする多世代

住民・地域資源との連携システムを、①「ひと(人材育成)=まち・人・くらしプロモーター」、②「場(多世代交流サロン)」、③「ツール(多世代こえかけキャンペーン)」開発を軸として推進中である。

【その根拠】

1) 高齢者のウエルビーング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明：3つの縦断研究の学会(シンポ他10件)・論文(2件)発表に加え、本年10～12月第5回和光調査を実施した。

2) ①世代間交流(IG)および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証：

①②を総じて(a)川崎市多摩区において学校支援ボランティアREPRINTSの10年間の介入が地域全体のSC醸成に及ぼす波及効果について検証した。学会発表(シンポ他)9件、論文4件。

(b)藤原が厚労省健康局「SCを活用した地域保健対策」専門委員として、上記、SC活用マニュアルを踏まえて全国の優良事例の選定・評価を担っている。

3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発：

①有償型-就労研究：アウトプットとして就労と健康の関連(社会保険出版)および就労支援(ミネルヴァ書房)について2冊の書籍を発行した。就労支援施設来所者の分析が原著論文(Plosone採択)、展望論文(老年社会科学1件)、シンポジウム主催(2件)

②無償型-生涯学習型ボランティア研究：マスコミ等による啓発の成果により既存4区市(中央、杉並、川崎、長浜)に8区市(豊島、文京、北、板橋、府中、大田、練馬、千代田)からの受託・協働事業(一部NPOが代行)が継続され12区市に発展した。文科省中教審生涯学習分科会にて優良プロジェクトとしてヒアリングを受けた。

4) 社会的孤立予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発：

上記、JST-RISTEXを主財源として、①「ひと(人材育成)」：北区において「まち・人・くらしプロモーター」14人養成し、多世代交流・互助の担い手として活動を開始した、②「場」：2014年度からの継続研究として板橋区サロン(225箇所：運営者・利用者調査)の追跡、③「ツール」：全国の「あいさつ・こえかけキャンペーン」の優良事例を調査しまとめた。論文1件、学会発表(シンポ他)7件

【新しい知見】

1) 高齢者のウエルビーング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明：

CAPITAL-I(和光)データより、閉じこもり

傾向(外出頻度1回/日未満)単独では総死亡リスクは有意でないが社会的孤立が重積することによりリスクが有意に増加した(英文誌投稿準備中)

2) ①世代間交流(IG)および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証：

川崎市多摩区において学校支援ボランティアREPRINTSがもたらす一般住民(無作為抽出20～84歳1000人)におけるSC醸成の波及効果について検証した。同ボランティアを長期間導入している学校・幼稚園の多い生活圏域ほど住民間の信頼(SC)が高いことが示された(SSM投稿準備中)。

3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発：

①有償型-就労研究：大田・板橋区就労支援施設における求職者に対し38週後(6回目)調査を235名に実施した結果、低所得、低学歴、生きがいよりも生計目的で求職する人が多かった。約半数が35日で就職したが約1/4の低年齢・高学歴求職者は就職できなかった(PLOS ONE採択)。

②無償型-生涯学習型ボランティア研究：学校支援ボランティアREPRINTS研究の6年間の追跡から頭部MRIにて、対照群に比べて海馬萎縮の抑制効果が見られた(日本公衆衛生学会優秀演題賞受賞)。

4) 社会的孤立予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発：

②「場」：の板橋区サロンの継続状況を2年間追跡した結果、225か所中、32か所が登録を抹消された。その要因として主催者・参加者の高齢化、新規参加者数が少ない、活動内容がマンネリ化している点が明らかになった(公衆衛生学会誌論文投稿準備中)。

③「ツール」：「あいさつ・こえかけ」活動が成功する要件として、長期的に活動を活動すること、幅広い年齢層を巻き込んで活動すること、グッズの活用や、イベントの開催等による活動の「みえる化」が重要であることがわかった。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<高齢者のウエルビーング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明>

老化・虚弱、福祉と生活ケア、東京大学、ミシガン大学、桜美林大学、早稲田大学、慶応義塾大学、鎌倉女大学、和光市、大田区

<世代間交流およびソーシャルキャピタル醸成の効果検証>

老化・虚弱、自立促進と介護予防、神経画像、

兵庫県立大学、日本大学、岡山大学、ハリム大学、国立保健医療科学院、滋賀県、中央区、文京区、横浜市、川崎市

＜高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発＞

老化・虚弱、自立促進と介護予防、浜松医科大学、東邦大学、米国ジョンスホプキンス大学、米国ドレクセル大学、米国ペンシルバニア州立大学、ダイヤ高齢社会研究財団、大田区、板橋区、豊島区、北区、杉並区

＜社会的孤立の予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発＞

老化・虚弱、自立促進と介護予防、福祉と生活ケア、桜美林大学、大田区、北区、多摩市、和光市、川崎市、近江八幡市、板橋区、板橋区社会福祉協議会

＜その他：認知機能尺度・マーカーの探索＞

老化・虚弱、神経画像、自立促進と介護予防、糖尿病・代謝・内分泌内科、精神科、循環器科、フレイル外来、物忘れ外来、帝京大学、フロリダ国際大学

3 今後の展望

1) 高齢者のウエルビーング(幸福)を促進・阻害する社会的要因の解明：

JAHEAD研究については次回の追跡調査に向けて大型研究費獲得に努む必要がある。

2) ①世代間交流(IG)、および②ソーシャルキャピタル(SC)醸成の効果検証：

②のソーシャルキャピタル(SC)研究については、成果物(保健師向けSC活用マニュアル)出版にむけて予定通り出版社(ミネルヴァ書房)と編集作業を進めている。

3) 高齢者の多様なニーズに応える有償・無償の社会貢献プログラムの開発：

①有償型-就労研究：大型研究費(基盤A)を獲得、成果物(書籍2冊)出版し順調に進行中。2017年1月に科研費特設研究の最終年度のまとめとしてシンポジウムを開催した。

4) 社会的孤立予防に向けた重層的な地域包括ケアシステムの開発：

地域包括ケアの個別事業は順調だが、各事業の有機的連動には、行政分野間の連携が必要である。こうした連携に向けて北区と川崎市多摩区(一部、大田区も含む)においてJST-RISTEX助成等を受け多世代による重層的な互助システムの開発を推進している。

4 その他

1) 貴重な全国/首都圏縦断調査を統括している。前

者は既存の社会科学系大規模縦断研究としては我が国最長(25年間)である。後者は希少な首都圏中心部の大規模コホート調査である。

2) 学際的・萌芽的学術領域「世代間交流学」並びに「高齢者就労」研究のリーダーシップをとり、学会・研究会の主宰や学会誌発行を担っている。

3) 介護保険新総合事業により自治体は住民による生活支援サービスの構築が急務であり、我々の就労・ボランティア研究に対するニーズは高い。北区、大田区、板橋区、和光市、多摩市、府中市等の行政審議会への支援・協働により、高齢者のシームレスな社会参加を支援する地域包括ケアシステムを提示する。

4) 他チームが主宰する長期縦断研究(草津、お達者健診、高島平プロ)、又は病院部門のプロジェクト(フレイル外来)において認知機能検査や社会調査の分担・協力を行っている。

5) 健康長寿ガイドライン作成において、社会参加編とソーシャルキャピタル編の2分野を担当している。

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

構成メンバー

テーマリーダー：北村明彦

研究員：青柳幸利、清野諭、谷口優、西真理子、横山友里、天野秀紀

非常勤研究員：成田美紀、朴晟鎮、池内朋子、田中泉澄、遠峰結衣、高橋信、趙善英

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

1) 虚弱化のプロセスの解明

①高齢期の虚弱化のパターンの解明、②異なるパターンの虚弱化の学際的原因解明の両テーマに関する研究を継続し、データ取得とデータ分析により知見を積み重ね、順次、結果の公表(学会発表、誌上発表)につなげている。

2) 虚弱化を予防または先送りする社会システムの開発

草津町、鳩山町、養父市で実装化したフレイル予防対策の支援を継続した。各自治体において介護保険財政の安定化や健康寿命の延伸等の効果が認められた。また、残された課題であった大都市モデルの開発について、「大田区元気シニア・プロジェクト」を開始し、区内の高齢者の健康度の実態と課題把握のための調査を成功させた。現在、調査結果に基づきフレイル予防のためのアクションプランを策定し、順次実行しつつある。

3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価

草津町、鳩山町、養父市の医療費及び介護給付費のデータ収集を進め、分析データセットの構築と分析方針、分析体制を整備した。高次生活機能の加齢パターンと各年齢における医療費、介護費との関連について興味深い結果を得つつある。

4) 身体活動・運動のガイドライン作成(中之条研究等)

中之条研究等の成果をもとに、所内の「健康長寿新ガイドライン(体力・身体活動)」を作成中。中之条研究では今年度は乳酸菌飲料摂取と健康に関する疫学調査を開始した。

【その根拠】

1) 虚弱化のプロセスの解明

データ取得のために、草津町の詳細健診を実施し、計729名に調査を実施した。鳩山町でも健診調査358名とアンケート調査109名の計467名の調査を完了した。

結果の公表に関しては、本課題に関して学会発表16報(海外6、国内10)を行い、原著論文7編(トップジャーナルである*J Gerontol A Biol Sci Med Sci*と*J Am Med Dir Assoc*含む)が公表またはアクセプトされた。

2) 虚弱化を予防または先送りする社会システムの開発

○草津町、鳩山町、養父市で展開中の虚弱化を予防・先送りする対策事業(介護予防教室、健康教育、コミュニティ会議、関係団体との協働イベント等)を支援した。対策の成果として、草津町では要介護認定率の上昇の抑制と介護保険料の引き下げにつながった(虚弱の予防戦略の解明を目的とした長期縦断研究報告書に記載)。鳩山町では健康寿命が県内第1位となり、健康づくりサポーターの会が埼玉県公衆衛生事業功労者表彰を受けた。養父市では、2016年3月に日本公衆衛生協会「第48回衛生教育奨励賞」、同11月に「第5回健康寿命伸ばそうアワード厚生労働省健康局長優秀賞」を受賞した。

○大田区においては、地域包括支援センターや区職員を対象としたヒアリング調査、及び「大田区 シニアの健康長寿に向けた実態調査」を実施した。住民基本台帳をもとに、年齢層と性別によって層化無作為抽出した要支援・要介護認定を受けていない65-84歳の男女15,500名を対象に郵送調査を行い、関係機関や住民への協力依頼の結果、11,925名(回収率77%)と非常に高い回収率を達成した。データ解析の結果、地区別のフレイル該当率、栄養・運動・社会参加状況の差異等の特徴と課題が明らかとなった。

引き続きデータ解析の結果をふまえ、プロジェ

クトの普及啓発、協力要請を目的としたコミュニティ会議の開催とパンフレット等の情報媒体の作成、さらには、来年度実施予定の教室参加型のアクションプラン「大田区元気にクラス」で使用されるテキストを作成中である。同時に、民間企業との協働により、高齢者の活動範囲の確保ならびに拡充を図るためのICTを用いた情報基盤システムの導入を図っている。

3) 健康余命を延伸することの社会経済的評価

各自治体からの提供を受け、医療費データ(国保、後期高齢者)、介護認定情報について、草津町では2001~2015年、鳩山町では2008~2015年、養父市では2008~2015年のデータ整備を行った。草津町の高齢者の高次生活機能の加齢パターンと各年齢における医療費、介護費との関連についての分析を開始し、一定の結果を得つつある。

4) 身体活動・運動のガイドライン作成(中之条研究等)

○「健康長寿新ガイドライン(体力・身体活動)」の策定にあたり、これまでの知見を整理した資料を客観的に検討し、最終稿を確定した。

○中之条町の65歳以上の高齢者約600名を対象に乳酸菌飲料の摂取状況調査を実施し、乳酸菌飲料摂取と疾病発症状況、体力指標等の関連を検討中である。

【新しい知見】

○歩行機能パターンの低位群では、高位群に比し要介護認知症発生の多変量調整リスクが2~3倍高かった。

○MMSE得点の加齢変化パターンの低位群は、中位群及び高位群に比し、ベースライン時点の教育年数、握力、歩行速度、開眼片足立ち時間、赤血球数、non-HDLコレステロール値、中性脂肪値、健康度自己評価、外出頻度、老研式活動能力指標得点がいずれも低く、逆に、脳卒中の既往が多く、白血球数及びHbA1c値、GDS得点が高かった。

○血清アルブミン濃度が臨床的基準内であっても、ベースライン時のアルブミン濃度が低い群ほどその後の経時的な全身筋量の減少率が大きいことが明らかとなった。

○低用量の乳たんぱく質と微量栄養素の日常的な摂取は、3ヵ月間のレジスタンス運動による筋量の維持・増加をもたらした。

○大田区における大規模な郵送調査による地域診断の結果、フレイルの該当割合の分布の地域差が明らかになった。地域差に影響する個人的・環境的要因の検討、および地域ごとの課題解決に向けた地域介入の必要性が示された。

○高次生活機能の加齢変化パターンが低位群ほど

80歳までの総医療費は高くなったが、80歳以降は高次生活機能の最低下群の医療費は他群に比し低水準となり、医療から介護への移行が窺われた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜虚弱化のプロセスの解明＞

社会参加・社会貢献、老化機構（老化バイオマーカー）、自立促進と介護予防、福祉と生活ケア、臨床研究推進センター、東京大、筑波大、早稲田大、桜美林大、東京農大、群馬県草津町、埼玉県鳩山町、兵庫県養父市、国立長寿研、(株)明治、(株)大塚製薬

＜虚弱化を予防または先送りする社会システムの開発＞

社会参加・社会貢献、群馬県草津町、埼玉県鳩山町、兵庫県養父市、東京都大田区、地域医療振興協会、女子栄養大、東邦大学

＜健康余命の社会経済的評価＞

福祉と生活ケア、地域医療振興協会、内閣府、東北文化学園大

＜身体活動・運動のカイドライン作成（中之条研究）＞

東大心療内科、共立女子大家政学科

3 今後の展望

- 虚弱化のプロセスの解明：前年度に続き、虚弱化のパターン及びその関連要因の解明が結果の公表が進んでおり、妥当な進行と考えられる。
- 虚弱化を予防または先送りする社会システムの開発：大田区のプロジェクトが無事開始され、地域診断とそれに基づくアクションプランの策定、実行が順調に進んでいる。
- 健康余命を延伸することの社会経済的評価：データ分析の方針と実施体制が定まり、分析を開始して一定の結果を得ることが出来た。今後さらに注力したい。
- 中之条研究：既に十数年継続しており、様々な観点からの研究を進めている。

4 その他

- 本テーマ研究は、科学的なエビデンスの創出のみでなく、エビデンスに基づいた対策を地域に実装する点に特徴がある。そのためには地域住民、行政、民間等の多くの関係機関とのネットワークを構築する必要がある。当チームの研究スタッフは、こうしたプロセスに多くの時間と手間を費やし、社会的な信頼関係を構築しつつ、学術的にも高く評価されるエビデンスを創出し

ている。

- 大塚製薬株式会社との共同研究として「認知症と関連する可能性のある腸内微生物の単離」を実施した。地域在住の健常者及び軽度認知障害を対象として、7～11月に研究員が計9日間地域に出向き、同意取得および全便の回収と問診の実施を完了した。

- 研究所の全チームが関与する形で開始した大規模な高島平研究において、当チームは、動脈硬化度測定及び血圧測定に関する統括、体力測定、診察、心電図読影を担った。

論文・学会発表

社会参加・社会貢献の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Ogawa S, Suzuki H, Yasunaga M, Fujiwara Y: Efficacy of expressive writing on rumination in community-dwelling older Japanese. The 31th International Congress of Psychology, Yokohama, 2016.7.24-7.29
2. Suzuki H, Yasunaga M, Sakurai R, Ogawa S, Takahashi T, Yamauchi M, Fujiwara Y: Cognitive intervention through a training program for picture book reading in community-dwelling older adults: Long-term effects on verbal memory. The 31st International Congress of Psychology, 2016.7.24-29
3. Sakurai R, Ishii K, Yasunaga M, Murayama Y, Suzuki H, Sakuma N, Fujiwara Y: Apolipoprotein E genotype and longitudinal change in physical function among high-functioning older adults. 10th European Congress of Biogerontology, Poland, 2016.9.23-24.
4. Murayama H. Socioeconomic status and weight change: comparison between Japan and Finland. The 8th Annual Meeting of International Society of Social Capital Research, Sapporo, Japan, 2016.5.30-31.
5. Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H. Albumin and hemoglobin affect the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: Results from a 13-year longitudinal study. The 2016 Epidemiological Congress of the Americas, Miami, FL, USA, 2016.6.21-24.
6. Amano H, Nishi M, Taniguchi Y, Seino S, Kitamura A, Yokoyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Age-dependent risk factors of a steeper decline in cognitive function in Japanese community dwellers. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
7. Carandang RR, Asis E, Varfrlron KR, Marges MA, Murayama H, Ogino R, Shibanuma A, Jimba M. Senior Leaders in Action: The development of lifelong learning program for urban-dwelling seniors in the Philippines. The 3rd IARU Ageing Longevity and Health Graduate Student Conference, Tokyo, 2016.11.3-5.
8. Sakuma N, Suzuki H, Yasunaga M, Murayama Y, Sakurai R, Ishii K, Fujiwara Y: Seven-year effects of in-

- tergenerational volunteer activities on everyday activities in older adults. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
9. Seino S, Kitamura A, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Nishi M, Amano H, Yokoyama Y, Shinkai S: Do serum albumin concentration and lean mass predict each other's decline in older adults? Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
 10. Taniguchi Y, Kitamura A, Fujiwara Y, Nishi M, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Shinkai S: Glycosylated hemoglobin level and cognitive decline among community-dwelling older Japanese. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
 11. Hirukawa S, Takase M, Tanaka T, Ono S, Sugimoto M, Hashidume T, Kimata M, Murayama H: Dining style of assisted living facility residents: Are they satisfied with their dining? The 68th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), New Orleans, LA, USA, 2016. 11.16-20.
 12. Fujiwara Y: Social Participation and Social Isolation of Japanese Retirees. Special forum: Dynamics of Japan's ageing prison population. Europe Japan Research center of Oxford Brooks university special forum, Oxford, 2016.10.12
 13. Fujiwara Y: Long-term effects of an intergenerational program on health and well-being of older adults. Symposium: Impact of Fostering Intergenerational Interactions in Diverse Communities and Settings. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
 14. Fujiwara Y, Koike T, Suzuki H, Nonaka K, Hasebe M, Fukaya T, Nishi M, Kobayashi E: Social isolation as a predictor of functional decline among older Japanese living alone. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
 15. Fu O, Kaito K, Suthutvoravut U, Hirukawa S, Tanaka T, Takase M, Hashidume T, Kimata M, Murayama H. Dining style and residents' meal satisfaction in senior care facility. The 3rd IARU Ageing Longevity and Health Graduate Student Conference, Tokyo, 2016.11.3-5.
 16. Murayama H, Liang J, Shaw BA, Botosaneanu A, Kobayashi E, Akiyama H, Shinkai S: Age and socioeconomic variations in the pattern of long-term functional decline among older Japanese. The 68th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), New Orleans, LA, USA, 2016. 11.16-20.
 17. Yokoyama Y, Kitamura A, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Seino S, Shinkai S: Doetary patterns and usual gait speed in community-dwelling elderly Japanese. The 68th Annual Scientific Meeting of Gerontological Society of America (GSA), New Orleans, LA, USA, 2016. 11.16-20.
 18. Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Murayama Y, Suzuki H, Montero-Odasso M, Ishii K: Reduced cerebral glucose metabolism in older adults with fear of falling: cross-sectional and longitudinal analyses. Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting,

New Orleans, 2016.11.16-20.

(2) 国内

1. 安齋紗保理, 河合 恒, 江尻愛美, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 大瀨修一, 豊島研究グループ: 地域活動のリーダーとなる住民が自主的な活動に向けたグループを組織するまでのプロセス, 第58回日本老年社会学会, 松山, 2016.6.11-12
2. 飯塚あい, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 内山愛子, 長畑萌, 小川将, 村山幸子, 藤原佳典: 囲碁の習得が高齢者の認知機能に及ぼす影響-世代間交流プログラム「iGOこち」より-, 第58回日本老年医学会総会, 金沢, 2016.6.8-10
3. 江尻愛美, 荒木 厚, 河合 恒, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 小山照幸, 杉江正光, 鈴木隆雄, 大瀨修一: 地域高齢者における腰痛とSOC (Sense of Coherence) が抑うつ症状に及ぼす影響, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
4. 解良武士, 河合 恒, 吉田英世, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大瀨修一: 虚血性心疾患の既往がある地域高齢者は下肢機能が低下している, 第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 東京, 2016.7.16-17
5. 河合 恒, 井原一成, 吉田英世, 平野浩彦, 藤原佳典, 田中雅嗣, 大瀨修一: 地域高齢者におけるスタチン服用と運動機能との関係, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
6. 河合 恒, 大瀨修一, 江尻愛美, 安齋紗保理, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 豊島研究グループ: 携帯端末を用いた測位による地域在住高齢者の日常活動パターン分類, 第58回日本老年社会学会, 松山, 2016.6.11-12
7. 小林江里香, 深谷太郎, 杉原陽子: 高齢者における就労および家庭内労働時間とボランティア活動頻度との関係 日本老年社会学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
8. 小林江里香: 高齢者の社会関係における世代的・時代的变化—全国高齢者の長期縦断研究から— (シンポジウム「いま改めて考える高齢者の社会関係—研究の到達点とこれから」) 日本老年社会学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
9. 木村好美, 小林江里香, 深谷太郎: 余暇活動と高齢期の健康—1999年から2012年までの13年間の変化より— 日本老年社会学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
10. 小池高史, 野中久美子, 南潮, 松永博子, 望月美希, 長谷部雅美, 村山洋史, 小林江里香, 藤原佳典, 高齢者の居住移動と近隣関係: 地元居住/非地元居住に着目して, 第58回日本老年社会学会大会, 松山, 2016.6.11-12.
11. 小林江里香, 原田謙, 深谷太郎, 村山陽, 高橋知也, 藤原佳典: 年長者からの被支援経験は高齢期の子育て支援行動を促すか—Generativityと若者への否定的態度を媒介要因とした検討— 日本社会心理学会第57回大会, 西宮市 (関西学院大学), 2016.9.17-18
12. 小林江里香: 超高齢社会における社会心理学の役割 (2) 高齢者を対象とする調査研究からの貢献—コメント (ワークショップ指定討論者) 日本社会心理学会第57回大会, 西宮市 (関西学院大学), 2016.9.17-18
13. 鈴木宏幸, 藤原佳典, 石川譲治, 田中甸, 田村嘉章, 千葉優子, 金丸晶子, 河合恒, 大瀨修一, 荒木厚: フレイル外来受診者の特徴 (2) MoCA-Jによる地域在住高齢者との比較. 第58回日本老年学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-9
14. 佐久間尚子, 安永正史, 鈴木宏幸, 大神優子, 桜井良太, 村山陽, 内田勇人, 石井賢二, 新開省二, 藤原佳典: シ

- ニア読み聞かせボランティア活動REPRINTSの7年間の継続効果-質問紙から見た日常の認知機能への影響。日本老年社会科学会58回大会，愛媛，2016.6.11-12
15. 桜井良太，佐久間尚子，安永正史，鈴木宏幸，村山陽，西真理子，内田勇人，新開省二，石井賢二，藤原佳典：加齢に伴う海馬萎縮に対する世代間交流プログラムの抑制効果-REPRINTS study-。第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 16. 杉山美香，宇良千秋，稲垣宏樹，宮前史子，村山洋史，枝広あや子，岡村毅，本川佳子，栗田主一。自分自身の将来の認知症に関する不安感とその関連要因の検討：認知機能、身体機能、心理社会的機能を中心とした探索的研究。第31回日本老年精神医学会，金沢 2016.6.23-24.
 17. 鈴木宏幸：高齢期の社会貢献活動が健康増進に与えるインパクト。シンポジウム11「ジェロントロジー(Gerontology)が切り開く新しい超高齢社会」。第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会，東京，2016.6.11-12
 18. 谷口優，清野諭，村山洋史，野藤悠，藤原佳典，西真理子，天野秀紀，新開省二。身体機能の加齢変化パターンと余命に関する前向き研究。第58回日本老年医学会学術集会，金沢 2016.6.8-10.
 19. 成田美紀，横山友里，西真理子，村山洋史，谷口優，清野諭，天野秀紀，野藤悠，新開省二。地域高齢者における食品摂取の多様性とサルコペニアとの関連。第58回日本老年医学会学術集会，金沢 2016.6.8-10.
 20. 野中久美子，小池高史，南潮，松永博子，望月美希，長谷部雅美，村山洋史，小林江里香，藤原佳典。生活支援サービスを受けることを望む高齢者の特徴：家族以外の他者から日常生活支援を受けることの意向に着目して。第58回日本老年社会科学会大会，松山 2016.6.11-12.
 21. 長谷部雅美，野中久美子，村山洋史，藤原佳典。地域包括支援センターにおける認知症者の早期把握に関連する管轄地域の特徴：住民同士の信頼および協力関係に着目して。第58回日本老年社会科学会大会，松山 2016.6.11-12.
 22. 原田謙，小林江里香，深谷太郎，村山陽，高橋知也，藤原佳典：高齢者の若年者に対する否定的態度に関連する要因-世代間関係における「もうひとつのエイジズム」の検討- 日本老年社会科学会第58回大会，松山，2016.6.11-12
 23. 深谷太郎，小林江里香，杉澤秀博，Jersey Liang，秋山弘子：住環境と健康の関連-横断調査と6年間の縦断変化の関連- 日本老年社会科学会第58回大会，松山，2016.6.11-12
 24. 深谷太郎，小林江里香，野中久美子：地域階層別にみたソーシャルキャピタル尺度得点の差異-高齢者を対象とした縦断的・横断的検証- 日本社会福祉学会第64回秋季大会，京都，2016.9.10-11
 25. 藤原佳典，野中久美子，南潮，松永博子，望月美希，長谷部雅美，小池高史，村山洋史，小林江里香：大都市高齢就労者および求職者の心身社会的特徴-首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究CAPITAL STUDY IIより 日本老年社会科学会第58回大会，松山，2016.6.11-12.
 26. 藤原佳典：高齢者の社会参加・社会貢献がもたらす多面的効果。シンポジウム8「地域で育てる健康長寿を目指した介護予防の展開」。第58回日本老年医学会学術集会，金沢，2016.6.8-9
 27. 藤原佳典：社会的側面から見たフレイル。シンポジウム8「健康長寿達成のための様々なアプローチ」。第16回日本抗加齢医学会総会，横浜，2016.6.10
 28. 藤原佳典，南潮，村山洋史，倉岡正高，村山幸子，野中久美子，岩田直子，遠藤洋子，小宮山恵美，渡辺修一郎。生活機能の劣る高齢者は地域の互助を受け入れるか？第58回日本老年医学会学術集会，金沢 2016.6.8-10.
 29. 本川佳子，枝広あや子，杉山美香，稲垣宏樹，宇良千秋，宮前史子，岡村毅，村山洋史，平野浩彦，栗田主一。地域在樹高齢者におけるフレイル有病率と認知機能・生活状況・主観的健康感等に関する検討。第58回日本老年医学会学術集会，金沢 2016.6.8-10.
 30. 本川佳子，枝広あや子，渡邊 裕，吉田英世，大淵修一，河合 恒，解良武士，井原一成，藤原佳典，平野浩彦：地域在住高齢者を対象としたフレイル有症率と栄養状態の検討，第58回日本老年医学会学術集会，金沢，2016.6.8-10
 31. 南潮，村山洋史，倉岡正高，村山幸子，野中久美子，岩田直子，遠藤洋子，小宮山恵美，渡辺修一郎，藤原佳典。タイプ別社会的孤立リスク者と生活機能低下の関連：CAPITAL Study III～第二報。第58回日本老年医学会学術集会，金沢 2016.6.8-10.
 32. 村山幸子，高橋知也，小林江里香，安永正史，長谷部雅美，小川将，藤原佳典：サロンの継続運営困難の背景要因に関する検討-東京都板橋区「福祉の森サロン」における調査から-。日本老年社会科学会第58回大会，愛媛，2016.6.11-12.
 33. 村山洋史，杉山美香，稲垣宏樹，宇良千秋，宮前史子，枝広あや子，岡村毅，本川佳子，栗田主一。地域レベルのソーシャルキャピタルは認知症への不安感と関連するか？都市部在住高齢者での検討。第17回日本認知症ケア学会大会，神戸 2016.6.4-5.
 34. 村山陽，長谷部雅美，山口淳，高橋知也，村山幸子，安永正史，藤原佳典：地域高齢者における子どもとのふれ合いに伴う感情体験と精神的健康との関連 日本老年社会科学会 第58回大会，大阪，2016.6.11-6.12
 35. 安永正史，村山陽，高橋知也，倉岡正高，鈴木宏幸，藤原佳典：シニアボランティアにおける学校支援活動がソーシャルキャピタル醸成に与える影響に関する日米比較-REPRINTS研究とExperience Corps研究における1年追跡より-，日本老年社会科学会58回大会，松山，2016.6.11
 36. 安永正史：Johns Hopkins版GENERATIVITY尺度による学校支援ボランティアの世代継承性の評価。自主企画フォーラム「実証研究における『Generativity』の評価の現状と課題」，日本老年社会科学会58回大会，松山，2016.6.11
 37. 安永正史：世代間交流促進に向けたノルディックウォークの可能性，第5回ノルディックウォーク学会学術大会，大阪，2016.9.17
 38. 天野秀紀，西真理子，谷口優，清野諭，横山友里，北村明彦，藤原佳典，吉田裕人，村山洋史，野藤悠，新開省二。高齢者健診受診者における認知機能推移パターンと死亡・要介護化リスクとの関係。第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 39. 飯塚あい，倉岡正高，鈴木宏幸，安永正史，小川将，村山幸子，藤原佳典：囲碁を活用した世代間交流プログラムが高齢者の次世代育成感に及ぼす影響，第7回日本世代間交流学会全国大会，東京，2016.10.8
 40. 飯塚あい，倉岡正高，鈴木宏幸，安永正史，小川将，村山幸子，武林亨，藤原佳典：囲碁を用いた世代間交流プログラムの試み，第75回日本公衆衛生学会総会，2016.10.26-28
 41. 枝広あや子，杉山美香，稲垣宏樹，村山洋史，岡村毅，本川佳子，平野浩彦，栗田主一。主観的口腔機能評価には認

- 知機能低下とうつ傾向が関係するか？ 第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
42. 小川将，鈴木宏幸，藤原佳典，西真理子，谷口優，河合恒，吉田英世，大淵修一，新開省二：高齢者における認知機能の領域と抑うつとの関連-MoCA-Jを用いた検討-I，第75回公衆衛生学会，2016，10.26-10.28
 43. 小川将：自主企画シンポジウム（話題提供者）社会参加を躊躇する人へのアプローチ筆記表現法の適用可能性-I，『多世代共生コミュニティ構築にむけた重層的なコミュニケーションアプローチの展望：JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域より』第11回日本応用老年学会，大阪，10.29
 44. 解良武士，河合 恒，吉田英世，平野浩彦，小島基永，藤原佳典，井原一成，大淵修一：地域高齢者における呼吸困難の関連症状と下肢機能との関連について，第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，横浜，2016.10.11
 45. 河合 恒，江尻愛美，本島安純，安齋紗保理，大淵修一，吉田英世，藤原佳典，平野浩彦，荒木 厚，小山照幸，杉江正光，小島基永，中田晴美，鈴木隆雄：アクションリサーチによる介護予防リーダーの自主グループ活動のプロセス，日本予防理学療法学会第1回サテライト集会，東京，2016.11.13
 46. 河合 恒，井原一成，吉田英世，平野浩彦，藤原佳典，大淵修一：地域高齢者におけるスタチン服用の運動機能、痛み、倦怠感への影響，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 47. 北村明彦，谷口優，横山友里，天野秀紀，清野諭，西真理子，野藤悠，村山洋史，岡部たづる，干川なつみ，藤原佳典，新開省二。群馬県草津町における介護予防14年間の成果（1）：介護保険統計からみた要介護認定率、発生率の推移，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 48. 倉岡正高，野中久美子，安永正史，藤原佳典：高齢者による地域の子育て支援行動とジェネラティブティの関係性，第7回日本世代間交流学会，東京都大田区，2016.10.8
 49. 倉岡正高，野中久美子，村山幸子，石井義之，田中元基，安永正史，松永博子，渡辺修一郎，松永佳子，福島富士子，藤原佳典：重層的な地域多世代共助システムの開発（1）：多世代相互支援推進協議会の運営，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28
 50. 倉岡正高：世代間で予防接種の大切さを考えよう - 日本キャンペーン 多世代共創社会の阻害要因に打ち勝つ！自由集会『世代間交流によるコミュニティ再生を考える会』第75回日本公衆衛生学会，2016.10.26-28
 51. 倉岡正高，多世代共創社会の構築にむけて：仕掛けと仕組みの社会実装，第22回日本福祉教育・ボランティア学習学会，宮崎県都城市，2016.11.25-27
 52. 鈴木宏幸，小川将，藤原佳典，西真理子，谷口優，河合恒，檜崎兼司，陳三妹，吉田英世，大淵修一，熊谷秋三，新開省二：地域における認知機能検査の年齢階級別基準値の作成-MMSEとMoCA-Jを用いた検討，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28
 53. 鈴木宏幸：健康増進プログラムを契機とした多世代交流の創出-コミュニケーションプログラムの波及効果：自主企画シンポジウムA「多世代共生コミュニティ構築にむけた重層的なコミュニケーションアプローチの展望：JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域より」，第11回日本応用老年学会大会，大阪，2016.10.29
 54. 清野諭，成田美紀，西真理子，村山洋史，横山友里，谷口優，天野秀紀，北村明彦，新開省二，フレイル改善のための複合プログラム（2）：プログラム終了後の長期的効果の検討，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 55. 清野諭，北村明彦，遠峰結衣，田中泉澄，谷口優，横山友里，天野秀紀，成田美紀，池内朋子，藤原佳典，新開省二。高齢者において運動実践仲間の人数はquality of lifeと関連するか？ 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会，千葉，2016.11.4-5.
 56. 田口敦子，村山洋史，山崎菜穂子，山口拓洋。推進員主導型プログラム：交差法による検証，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 57. 谷口優，北村明彦，横山友里，天野秀紀，清野諭，西真理子，野藤悠，村山洋史，岡部たづる，干川なつみ，藤原佳典，新開省二。群馬県草津町における介護予防14年間の成果（2）：高齢住民の機能的健康度の推移，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 58. 成田美紀，清野諭，西真理子，村山洋史，横山友里，谷口優，天野秀紀，北村明彦，新開省二。フレイル改善のための複合プログラム（1）：プログラム介入時の短期的効果の検討，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 59. 野中久美子，「ジェネラティブティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発」プロジェクトの概要：多世代相互扶助モデルのプラットフォームと緩やかなネットワークづくり，シンポジウム，第7回日本世代間交流学会，東京，2016.10.8
 60. 野中久美子，小池高史，長谷部雅美，村山洋史，深谷太郎，小林江里香，村山陽，鈴木宏幸，藤原佳典，「重層的な地域多世代共助システム」：多世代のプラットフォームとネットワークづくり，公募シンポジウム「高齢者支援と子育て支援は連携できるか？=多世代型地域互助システムに向けて」，第74回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 61. 野中久美子，小池高史，長谷部雅美，村山洋史，深谷太郎，村山陽，鈴木宏幸，小林江里香，松永博子，藤原佳典，「高齢者見守りキーホルダー」システム未登録者の特徴，第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016.10.26-28.
 62. 藤原佳典：社会的側面から見たフレイル，シンポジウム1「フレイルと転倒予防」，日本転倒予防学会 第3回学術集会，名古屋，2016.10.2
 63. 藤原佳典：「ジェネラティブティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発」プロジェクトがめざすもの，シンポジウム，第7回日本世代間交流学会，東京，2016.10.8
 64. 藤原佳典：持続可能な多世代互助システムのめざすもの，シンポジウム29（企画者・話題提供者）『高齢者支援と子ども支援は連携できるか？～多世代型地域互助システムに向けて』第75回公衆衛生学会，大阪，2016.10.26-28
 65. 藤原佳典：今、なぜ高齢期の就業を研究するのか？シンポジウム4（企画者・話題提供者）『高齢者の就業と健康』第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10.26-28
 66. 藤原佳典：多世代共創社会の阻害要因に打ち勝つ！自由集会（企画者）『世代間交流によるコミュニティ再生を考える会』第75回日本公衆衛生学会，2016.10.26-28
 67. 藤原佳典，鈴木宏幸，小川将，河合恒，安永正史，平野浩彦，吉田英世，小島基永，井原一成，大淵修一：地域高齢者における認知機能の縦断変化と低下・改善の予知因子，第75回日本公衆衛生学会，大阪，2016.10.26-28
 68. 藤原佳典：自主企画シンポジウム（企画者・話題提供者）多世代型交流・互助システムの概要，『多世代共生コミュニティ構築にむけた重層的なコミュニケーションアプローチの展望：JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社

会のデザイン」研究開発領域より』第11回日本応用老年学会, 大阪, 2016.10.29

69. 藤原佳典: 高齢者と若者のコミュニケーション. 日本心理学会公開シンポジウム「超高齢社会のコミュニケーションを考える」. 日本心理学会90周年記念事業, 京都, 2016.11.5
70. 本川佳子, 枝広あや子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村毅, 村山洋史, 平野浩彦, 田中弥生, 粟田主一, 渡邊裕. 地域在住高齢者におけるフレイル重症度と生活状況に関する検討. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016.11.45.
71. 松永博子, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 箕浦明, 深谷太郎, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典: ESSENCE研究(2); 中高年齢者向け就労支援施設に来所する人の類型. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
72. 箕浦明: 柔道競技の指導を通じた世代間交流の可能性について. 第7回日本世代間交流学会, 東京, 2016.10.8
73. 箕浦明: 子ども食堂の現状と展望 多世代共創社会の阻害要因に打ち勝つ! 自由集会『世代間交流によるコミュニティ再生を考える会』第75回日本公衆衛生学会, 2016.10.26-28
74. 箕浦明, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 松永博子, 深谷太郎, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典: ESSENCE研究(1) 高齢者の求職活動の長期化が精神的健康度に与える影響. 第74回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
75. 箕浦明: 就労形態および就労への意識と高齢者の生活機能との関係. 第60回中国四国合同産業衛生学会総会, 鳥取, 2016.11.26-27
76. 村山幸子, 松永博子, 倉岡正高, 野中久美子, 石井義之, 田中元基, 安永正史, 渡辺修一郎, 松永佳子, 福島富士子, 藤原佳典: 重層的な地域多世代共創システムの開発(2): 挨拶運動とキャンペーンの展開. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
77. 村山幸子: 日常的な声かけなどによる緩やかなサポートネットワーク. 自主企画シンポジウムA「多世代共生コミュニティ構築にむけた重層的なコミュニケーションアプローチの展望: JST-RISTEX『持続可能な多世代共創社会のデザイン』研究開発領域より」. 第11回日本応用老年学会大会, 大阪, 2016. 10. 29.
78. 村山洋史, 田口敦子, 山崎菜穂子, 山口拓洋. 高齢期の食品摂取多様性向上を目指した健康推進員主導型プログラム: 交差法による検証. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
79. 村山陽, 長谷部雅美, 山口淳, 安永正史, 藤原佳典: 非親族に対する世代間援助の提供と受領の現状 日本世代間交流学会 第7回大会, 東京, 2016.10.8.
80. 安永正史, 西真理子, 深谷太郎, 野中久美子, 小池高史, 長谷部雅美, 鈴木宏幸, 村山陽, 村山洋史, 南潮, 齊藤雅茂, 小林江里香, 藤原佳典. 社会的孤立と閉じこもり傾向が死亡に及ぼす影響: 首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 (CAPITAL study) 6年間の追跡. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
81. 山崎菜穂子, 田口敦子, 村山洋史, 山口拓洋. 高齢期の食品摂取多様性向上を目指した健康推進員主導型プログラム: プロセス評価. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
82. 北村明彦, 新開省二, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典. 地域高齢者の健康余命とフレ

イル, メタボリックシンドロームとの関連 - 草津町研究 - 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

83. 桜井良太, 石井賢二, 安永正史, 村山陽, 鈴木宏幸, 佐久間尚子, 藤原佳典. 地域在住高齢者におけるアポリポ蛋白E遺伝子型と加齢に伴う身体機能の変化. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017. 1.25-27.
84. 新開省二, 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典. 地域高齢者のBMIと健康余命および余命との関連における性差 - 草津町研究. 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.
85. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 都市部在住高齢者における近所づきあいと身体活動量との関連: 個人および地域レベルでの検討. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017.1.25-27.
86. 谷口優, 北村明彦, 清野諭, 村山洋史, 横山友里, 野藤悠, 天野秀紀, 西真理子, 藤原佳典, 新開省二. MMSE得点の加齢変化パターンと関連要因に関する縦断研究. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017. 1.25-27.
87. 村山洋史, 西真理子, 野藤悠, 谷口優, 横山友里, 清野諭, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 高齢期における近隣凝集性と抑うつとの縦断的関連: 鳩山コホート研究. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017. 1.25-27.
88. 飯塚あい, 桜井良太, 藤原佳典, 鈴木宏幸, 清野諭, 新開省二, 石川譲治, 田村嘉章, 千葉優子, 金丸晶子, 古田光, 金田太, 荒木厚. フレイル外来受診者における抑うつ度と社会的側面の関連. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017. 1.25-27.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ©Sakurai R, Kawai H, Yoshida H, Fukaya T, Suzuki H, Kim H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, ★Fujiwara Y: Can you ride a bicycle? The ability to ride a bicycle prevents reduced social function in older adults with mobility limitation. *Journal of Epidemiology*, 2016, 26: 307-14. (査読あり) (IF : 2.546, 2015)
2. ©Sakurai R, Yasunaga M, Murayama Y, Ohba H, Nonaka K, Suzuki H, Sakuma N, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, Rebok G, ★Fujiwara Y: Long-term effects of an intergenerational program on functional capacity in older adults: results from a seven-year follow-up of the REPRINTS study. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 2016, 64: 13-20. (査読あり) (IF : 1.971, 2015)
3. ★©Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Murayama Y, Imanaka K, Kanosue K, Ishii K: Neural correlates of older adults' self-overestimation of stepping-over ability. *AGE*, 2016 Aug;38(4):351-361. (査読あり) (IF : 2.500, 2015)
4. Shinkai S, Toba M, Saito T, Sato I, Tsubouchi M, Taira K, Kakumoto K, Inamatsu T, Yoshida H, Fujiwara Y, Fukaya T, Matsumoto T, Tateda K, Yamaguchi K, Kohda N, Kohno S: Immunoprotective effects of oral intake of heat-killed *Lactobacillus pentosus* strain b240 in elderly adults: a randomised, double-blind, placebo-controlled trial - CORRIGENDUM. *British Journal of Nutrition*. 116(6):1138-40, 2016 Jul 29 (査読あり) (IF : 3.311, 2015)
5. Suzuki Y, Kawai H, Kojima M, Shiba Y, Yoshida H, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Construct validity of posture as a measure of physical function in

- elderly individuals: Use of a digitalized inclinometer to assess trunk inclination. *Geriatr Gerontol Int* 2016 Sep;16(9):1068-73. doi:10.1111/ggi.12600 (査読あり) (IF : 2.229, 2015) .
6. Taniguchi Y, Fujiwara Y, Murayama H, Yokota I, Matsuo E, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Matsuyama Y, Shinkai S: Prospective Study of Trajectories of Physical Performance and Mortality Among Community-Dwelling Older Japanese. *The Journals of Gerontology Medical Science*. 2016;71(11):1492-1499. DOI 10.1093/geron/glw029 (査読あり) (IF : 5.476, 2015)
 7. Minami U, Suzuki H, Kuraoka M, Koike T, Kobayashi E, Fujiwara Y: Older Adults Looking for a Job through Employment Support System in Tokyo. *PLoS One*, 21;11(7), e0159713, 2016 Jul 21 (査読あり) (IF : 3.057, 2015)
 8. Yokoyama Y, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Nofuji Y, Narita M, Matsuo E, Seino S, Kawano Y, Shinkai S. Association of dietary variety with body composition and physical function in community-dwelling elderly Japanese. *Journal of Nutrition, Health and Aging* 2016;20(7):691-696 (査読あり) (IF : 3.199, 2015/2016) .
 9. ★◎小林江里香：高齢者の社会関係における世代的・時代的变化－全国高齢者の長期縦断研究から 老年社会科学, 38(3), 337-344, 2016. (査読なし)
 10. ★◎野中久美子, 新開省二：地域包括ケアシステム構築. *体育の科学*. 66 (11), 789-793, 2016 (査読なし)
 11. ◎長谷部雅美, 小池高史, 野中久美子, 深谷太郎, 李暉娥, 村山幸子, 渡邊麗子, 植木章三, 吉田裕人, 松本真澄, 川崎千恵, 二瓶美里, 田中千晶, 亀井智子, 渡辺修一郎, ★藤原佳典：一人暮らし高齢者における見守りセンサーを用いた在宅生活支援に関する検討－高齢者への健康調査と地域ケア機関への利用実態調査より－ 老年社会科学, 38(1), 66-77, 2016 (査読あり)
 12. 深谷太郎, 小林江里香, 杉澤秀博, Jersey Liang, 秋山弘子：高齢者の電子メールおよびインターネット利用に関連する要因 老年社会科学, 38(3), 319-328, 2016 (査読あり)
 13. Kera T, Eda Hiro A, Hirano H, Kawai H, Yoshida H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S, TOSHIMA Research Group: Alternating motion rate to distinguish elderly people with history of pneumonia. *Respir Care*. 2016 Sep 27. pii: respcare.04609. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF : 1.922, 2015)
 14. Kera T, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S: Classification of frailty using the Kihon checklist: a cluster analysis of elderly individuals in urban areas. *Geriatr Gerontol Int*, First published: 21 January 2016. DOI:10.1111/ggi.12676 (in press) (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
 15. ★◎Sakurai R, Ishii K, Yasunaga M, Takeuchi R, Murayama Y, Sakuma N, Sakata M, Oda K, Ishibashi K, Ishiwata K, Fujiwara Y, Montero-Odasso M: The neural substrate of gait and executive function relationship in elderly women: a PET study. *Geriatrics & Gerontology International*, In press. (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
 16. ★◎Sakurai R, Fujiwara Y, Yasunaga M, Suzuki H, Sakuma N, Imanaka K, Montero-Odasso M: Older adults with fear of falling show deficits in motor imagery of gait. *The Journal of Nutrition Health and Aging*, In press. (査読あり) (IF : 3.199, 2015)
 17. ★◎Sakurai R, Fujiwara Y, Ishihara M, Yasunaga M, Ogawa S, Suzuki H, Imanaka K: Self-estimation of physical ability in stepping over an obstacle is not mediated by visual height perception: a comparison between young and older adults. *Psychological Research*, In press. (査読あり) (IF : 2.681, 2015)
 18. ★◎Sakurai R, Suzuki H, Fujiwara Y, Yasunaga M, Takeuchi R, Murayama Y, Kobayashi K, Kanosue K, Ishii K: Neural basis for the relationship between frequency of going outdoors and depressive mood in older adults. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, In press. (査読あり) (IF : 2.699, 2015)
 19. ★◎Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y: Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, In press. (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
 20. Seino S, Nishi M, Murayama H, Narita M, Yokoyama Y, Taniguchi Y, Amano H, Kitamura A, Shinkai S. Effects of a multifactorial intervention comprising resistance exercise, nutritional, and psychosocial programs on frailty and functional health in community-dwelling older adults: a randomized, controlled, crossover trial. *Geriatrics & Gerontology International*. (in press) (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
 21. Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Murayama H, Amano H, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Shinozaki T, Yokota I, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Gait Performance Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Journal of the American Medical Directors Association*. (in press) (査読あり) (IF : 6.616, 2015)
 22. Taniguchi Y, Kitamura A, Murayama H, Amano H, Shinozaki T, Yokota I, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S. Mini-Mental State Examination Score Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatrics & Gerontology International*. (in press) (査読あり) (IF : 2.229, 2015)
 23. Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2016 May 6. pii: glw074. [Epub ahead of print] (査読あり) (IF : 5.476, 2015)
 24. Tabuchi T, Murayama H, Hoshino T, Nakayama T. An out-of-pocket cost removal intervention on fecal occult blood test attendance. *American Journal of Preventive Medicine*. (in press) (査読あり) (IF : 4.465, 2015)
 25. ★◎Fujiwara Y, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Nonaka K, Koike T, Suzuki H, Murayama Y, Saito M, Kobayashi E: Synergistic or independent impacts of low frequency of going outside the home and social isolation on func-

- tional decline: A 4-year prospective study of urban Japanese older adults. *Geriatrics & Gerontology International*. In press. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
26. ★◎Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H. Albumin, hemoglobin, and the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: a 13-year longitudinal study. *Journal of Prevention of Alzheimer's Disease*. (in press) (査読あり) (IF : 3.920、2015)
27. ★◎Murayama H, Spencer MS, Sinco BR, Palmisano G, Kieffer EC. Does racial/ethnic identity influence the effectiveness of a community health worker intervention for African American and Latino adults with type 2 diabetes? *Health Education & Behavior*. (in press) (査読あり) (IF : 2.312、2015)
28. ★◎Murayama H, Liang J, Shaw BA, Botoseneanu A, Kobayashi E, Fukaya T, Shinkai S. Changes in health behaviors and the trajectory of body mass index among older Japanese: a 19-year longitudinal study. *Geriatrics & Gerontology International*. (in press) (査読あり) (IF : 2.229、2015)
29. Yokoyama Y, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Nofuji Y, Narita M, Matsuo E, Seino S, Kawano Y, Shinkai S. Dietary variety and decline in lean mass and physical performance in community-dwelling older Japanese: A 4-year follow-up study. *Journal of Nutrition, Health and Aging* 2017;21(1):11-16. (査読あり) (IF : 3.199、2015)
30. ◎倉岡正高,長谷部雅美,野中久美子,村山陽, 安永正史, 南潮, ★藤原佳典:多世代循環型社会における世代間交流の実装の要件と可能性の検討, 日本世代間交流学会誌, 6(1), p69-74, 2017 (査読あり)
31. ◎高橋知也, 野中久美子, 村山幸子, 安永正史, ★鈴木宏幸:小学校での高齢者疑似体験における学びの様相—活動に関する振り返りの内容分析と、疑似体験中の会話分析から— 日本世代間交流学会誌, 6(1),15-26,2017 (査読あり)
32. ★◎藤原佳典:多世代の互助・共助による社会システムは構築できるか?—持続可能な社会の処方箋“Positive spiral of care”を目指して—, 日本世代間交流学会誌, 2016 : 6(1), 3-8, 2017 (査読あり)
33. ◎村山幸子, 松永博子, 倉岡正高, 野中久美子, ★藤原佳典:あいさつ運動に関する文献レビュー—効果に関する理論的考察と先進事例からみる活動上の工夫と課題, 日本世代間交流学会誌, 6(1), 75-82, 2017 (査読あり)
34. ★◎村山陽, 竹内瑠美, 山口淳, 山上徹也, 金田利子, 多湖光宗, 藤原佳典: 幼老複合施設における世代間交流の可能性と課題 老年社会科学, 38(4), 427-436, 2017 (査読なし)

(2) 総説

1. ◎小川将, 鈴木宏幸, 山内美紗子, 村山幸子, 飯塚あい, 高橋知也, ★藤原佳典:日本の地域在住高齢者を対象とした筆記表現法のパイロットスタディー—課題従事時間と反すうに着目した適用可能性の検討— 応用老年学, 10(1), 47-57, 2016 (査読あり)
2. 田口敦子, 村山洋史, 宮尾智香子, 大澤吉子, 五坪千恵子. 健康推進員のやりがい向上プロジェクト:彦根市の健康教室の取り組み. 保健師ジャーナル, 2016;72(11):930-934.

- (査読なし)
3. ★◎藤原佳典:高齢者の就労の現状と課題—高齢求職者と就労支援の視点から—. 老年社会科学, 38(1), 1-8, 2016. (査読なし)
4. ★◎藤原佳典:ライフコースに応じた高齢者の社会参加と健康—ライフコースに応じた重層的な支援とは—. 在宅新療0-100. 2016;156:904-908. (査読なし)
5. ★◎藤原佳典:「りぷりんと」のシニア絵本読み聞かせ—地域の中の世代間交流<座談会>. The Community. 2016;1:52-56. (査読なし)
6. ★◎村山洋史. ソーシャルキャピタルの多面性:地域保健活動でいかに醸成を目指すか. 老年社会科学, 2016; 37(4):454-462. (査読なし)
7. ★◎村山洋史. 高齢期における体格指数の加齢変化:推移パターンが死亡率に及ぼす影響とそれを規定する社会経済的背景の検討. Aging & Health, 2016;77:38-41. (査読なし)
8. ★◎村山洋史, 田口敦子, 宮尾智香子. 健康推進員主導による健康教室の効果評価:滋賀県彦根市での取り組み. 公衆衛生情報, 2016;46(6):26-27. (査読なし)
9. ★◎小林江里香:高齢者の社会参加の動向—地域包括ケアにおける支援提供者としての役割に着目して. Geriatric Medicine (老年医学), 55(2), 2017. (印刷中) (査読なし)
10. ★◎小林江里香, 菅原育子, 秋山弘子:高齢者の健康・心理・社会的側面の横断的・縦断的变化におけるコーホート差の研究(研究のフロンティア). 理論と方法, 61号(印刷中) (査読なし)
11. ★◎藤原佳典:社会的フレイルの定義と介入策のあり方. Geriatric Medicine (老年医学), 55(1), 23-25, 2017. (査読なし)
12. ★◎藤原佳典:地域包括ケア時代における高齢者の社会参加・社会貢献 序文. Geriatric Medicine (老年医学), 55(2), 5-6, 2017. (印刷中) (査読なし)
13. ★◎藤原佳典:健康度に応じた高齢者のシームレスな社会参加・社会貢献の枠組みとその効果. Geriatric Medicine (老年医学), 55(2), 23-26, 2017. (印刷中) (査読なし)

3 著書等

1. 倉岡正高:シニアボランティアを活かすコーディネーター, 藤原佳典・倉岡正高(編)コーディネーター必携シニアボランティアハンドブック-シニアの力を引き出し活かす知識と技術, 大修館書店, 2016, pp79-141
2. 鈴木宏幸:地域在住高齢者における抑うつ発生の早期予防手法開発の試みと効果評価に関する研究. 科学研究費助成事業(平成27年度挑戦的萌芽研究)研究成果報告書, 20166
3. 鈴木宏幸:高齢期の認知機能とコミュニケーション, 藤原佳典・倉岡正高(編)コーディネーター必携シニアボランティアハンドブック-シニアの力を引き出し活かす知識と技術, 大修館書店, 2016, pp48-64
4. 鈴木宏幸:求職高齢者の仕事探しと認知機能の関連, 藤原佳典・小池高史(編)ジェロントロジー・ライブラリー2, 定年後も働き続ける秘訣第3章, 社会保険出版社
5. 鈴木宏幸:心理・精神機能の加齢変化, 藤原佳典・南潮(編)就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐ—社会参加の促進とQOLの向上, ミネルヴァ書房
6. 野中久美子:「シニアボランティアグループの育て方」, シニアボランティアを活かすコーディネーターマニュアル

- ル～超高齢社会の元気なシニアをとことん活かす～、藤原佳典、倉岡正高 編集、大修館、2016.5
7. 藤原佳典：科学技術振興機構JST-RISTEX（社会技術研究開発）受託事業・戦略的創造研究推進事業『持続可能な多世代共創社会のデザイン研究開発領域』。平成27年度採択 プロジェクト開発調査報告書「ジェネラティブティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発」（研究代表者：藤原佳典）、2016.4.
 8. 藤原佳典：日本学術振興会受託事業『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（実社会対応プログラム）。平成27年度採択研究報告書「多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究」（研究代表者：藤原佳典）、2016.4.
 9. 藤原佳典：高齢者の孤立の健康アウトカムへの影響および地域包括ケアによる予防策の検証。科学研究費助成事業（平成27年度基盤研究B）研究成果報告書、2016.6
 10. 藤原佳典：手指巧緻性と認知機能の関連性に関わる神経基盤の解明。科学研究費助成事業（平成27年度挑戦的萌芽研究）研究成果報告書、2016.6
 11. 藤原佳典：第1章 シニアの社会参加と健康。『シニアボランティアを活かすコーディネーターマニュアル』。藤原佳典、倉岡正高編集。大修館、2016.5
 12. 藤原佳典：第3章 高齢者を知ろうー身体・認知機能と特徴ー。『シニアボランティアを活かすコーディネーターマニュアル』。藤原佳典、倉岡正高編集。大修館、2016.5
 13. 村山陽、長谷部雅美、山口淳、藤原佳典：世代間の助け合いの意識と実態に関する調査報告書、東京都健康長寿医療センター研究所、2016年4月。
 14. 倉岡正高：就労形態の変化と多様な支援プログラム - アメリカの事例から、藤原佳典・南潮（編）就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐー社会参加の促進とQOLの向上、ミネルヴァ書房、2016、p248-265
 15. 小池高史。「働き続けることが社会を助ける」。何歳まで働くべきか？ 藤原佳典、小池高史 編集、社会保険出版社、2016.10
 16. 鈴木宏幸：認知症予防の理解と展開ー絵本読み聞かせの活動からー、HAM人・社会研究所（編）、認知症の予防に向けてー自治体の取組み事例集ー、東京都保健福祉局
 17. 藤原佳典：社会的機能の加齢変化。『高齢者理学療法学』島田裕之（総編集）、医歯薬出版株式会社（印刷中）
 18. 藤原佳典：年齢とともに、活躍の舞台を変えよう、藤原佳典、小池高史（編著）『ジェロントロジー・ライブラリー2、定年後も働き続ける秘訣』第1章 仕事がくれる、健康パワー、pp26-49、社会保険出版社、2016.10
 19. 藤原佳典：働いていたほうが健康によく、生存率も高い、藤原佳典、小池高史（編著）『ジェロントロジー・ライブラリー2、定年後も働き続ける秘訣』第3章 最新のホットなテーマと研究事例、pp134-147、社会保険出版社、2016.10
 20. 藤原佳典：第12章 高齢者のシームレスな社会参加における就労ー地域包括ケア時代の働き方とは、藤原佳典・南潮（編著）就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐー社会参加の促進とQOLの向上、pp266-285、ミネルヴァ書房、2016.11
 21. 安永正史：高齢者の文化系社会活動への参加が心身の健康に及ぼす効果の検証。2014年度助成ジェロントロジー研究報告 No.12、142-145、2016。（10月15日発行）
 22. 小林江里香：高齢者の社会関係・社会活動。松田修（編）「老年心理学の最前線（仮題）」、ワールドプランニング（印刷中）

23. 小林江里香：学ぶ楽しさ、貢献できる喜び。広報「元気がながさき」No.68、2017.2.1
24. 桜井良太：転倒予防に向けた高齢者の安全な障害物乗り越し動作を阻害する認知的要因の解明。科学研究費助成事業（平成28年度特別研究員奨励費）研究成果報告書、2016.3

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Shinkai S, Seino S. Community based strategy for preventing frailty. International Seminar on Frailty Cohort & Intervention Study. Seoul, 2016. 5.16 (invited speaker).
2. Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H. Albumin and hemoglobin affect the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: Results from a 13-year longitudinal study. The 2016 Epidemiological Congress of the Americas, Miami, FL, USA, 2016.6.21-24.
3. Okubo Y, Nemoto M, Osuka Y, Jung S, Seino S, Figueroa R, Vinyes G, Offord E, Shevlyakoya M, Arigoni F, Breuille D, Tanaka K. Development and feasibility of the Nutrition and Functionality Assessment (NFA) among Japanese community-dwelling older adults. World Congress on Active Aging, Melbourne, 2016.6.28-7.1.
4. Jung S, Okubo Y, Osuka Y, Seino S, Park J, Nho H, Tanaka K. Comparisons of physical function and habitual exercise among Japanese and Korean community-dwelling older adults. World Congress on Active Aging, Melbourne, 2016.6.28-7.1.
5. Yokoyama Y, Kitamura A, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Seino S, Shinkai S. Dietary patterns and usual gait speed in community-dwelling elderly Japanese. The Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20.
6. Taniguchi Y, Kitamura A, Fujiwara Y, Nishi M, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Shinkai S. Glycosylated Hemoglobin Level and Subsequent Cognitive Decline Among Community-Dwelling Older Japanese. The Gerontological Society of America 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
7. Seino S, Kitamura A, Fujiwara Y, Taniguchi Y, Nishi M, Amano H, Yokoyama Y, Shinkai S. Do Serum Albumin Level and Lean Mass Predict Each Other's Decline in Older Adults? The Gerontological Society of America 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
8. Shinkai S, Taniguchi Y, Kitamura A, Fujita Y, Tanaka M, Ito M. Serum Concentrations of GDF15 Predict Mortality in a General Population of Older Japanese. The Gerontological Society of America 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
9. Amano H, Nishi M, Taniguchi Y, Seino S, Yokoyama Y, Kitamura A, Fujiwara Y, Shinkai S. Age-dependent risk factors of a steeper decline in cognitive function in Japanese community dwellers. The Gerontological Society of America 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20

Orleans, 2016.11.16-20.

10. Shinkai S, Seino S. Short and long-term effects of a multifactorial intervention for pre-frail and frail elderly on their functional health: a randomized, controlled, crossover trial within a cohort study. In the Symposium entitled "Epidemiological approach for frailty and cognitive impairment". The 12th International Symposium on Geriatrics and Gerontology entitled "Frailty and dementia -From its pathogenesis to prevention and treatment-". Hosted by National Center for Geriatrics and Gerontology of Japan. Obu, Aichi, 2017.3.4. (invited speaker)

(2) 国内

1. 藤田泰典, 谷口優, 新開省二, 田中雅嗣, 伊藤雅史. 地域在住高齢者の血中GDF15と負の健康アウトカムとの関連解析. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈川, 2016.5.27-28.
2. 久藤麻子, 北村明彦, Kriszina Gero, 岡田知佳, 崔美善, 今野弘規, 崔仁哲, 梅澤光政, 山岸良匡, 羽山実奈, 村木功, 木山昌彦, 磯博康. 秋田県農村部での塩分味覚感度の実態把握. 第70回日本栄養・食糧学会大会, 神戸市, 2016.5.14.
3. 澤井健, 木山昌彦, 岡田武夫, 村木功, 北村明彦, 今野弘規, 大平哲也, 梅澤光政, 山海知子, 山岸良匡, 磯博康. 心電図上の虚血性変化と循環器疾患発症との関連: CIRCS研究. 第52回日本循環器病予防学会学術集会, さいたま市, 2016.6.17.
4. 陣内裕成, 北村明彦, 山岸良匡, 池田 愛, Chei Choy-Lye, 岡田武夫, 村木 功, 羽山実奈, 崔 仁哲, 今野弘規, 木山昌彦, 磯 博康. 網膜血管所見と要介護認知症の発症リスクとの関連 - the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). 第52回日本循環器病予防学会学術集会, さいたま市, 2016.6.17.
5. 羽山実奈, 村木功, 清水悠路, 岡田武夫, 木山昌彦, 北村明彦, 大平哲也, 梅澤光政, 山岸良匡, 山海知子, 崔仁哲, 今野弘規, 磯博康. 都市近郊と農村部の高齢者における循環器疾患発症の危険因子の検討. 第52回日本循環器病予防学会学術集会, さいたま市, 2016.6.17.
6. 中野裕紀, 大平哲也, 山岸良匡, 今野弘規, 岡田武夫, 木山昌彦, 北村明彦, 磯博康. 東日本大震災後の避難生活者における震災ストレスと循環器危険因子との関連. 第52回日本循環器病予防学会学術集会, さいたま市, 2016.6.17.
7. 遠峰結衣, 清野諭, 田中泉澄, 北村明彦, 新開省二. 高齢者のフレイル予防を促進する属性情報を用いた情報基盤の提案. 第5回高齢社会デザイン研究発表会, 門真市, 2016.8.4.
8. 谷口優, 清野諭, 村山洋史, 野藤悠, 藤原佳典, 西真理子, 天野秀紀, 新開省二. 身体機能の加齢変化パターンと余命に関する前向き研究. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
9. 清野諭, 成田美紀, 横山友里, 角公一郎, 芦田欣也, 新開省二. 低用量の乳たんぱく質・微量栄養素摂取とレジスタンス運動の実践が高齢者の筋力および身体機能に及ぼす影響: ランダム化比較試験. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
10. 成田美紀, 横山友里, 西真理子, 村山洋史, 谷口優, 清野諭, 天野秀紀, 野藤悠, 新開省二. 地域高齢者における食品摂取の多様性とサルコペニアとの関連. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
11. 新開省二, 横山友里, 成田美紀, 清野諭. サルコペニアに関わる栄養のエビデンス. 第63回日本栄養改善学会学術集会共催シンポジウム, 2016. 9. 8. (招待講演)
12. 成田美紀, 横山友里, 小岩井馨, 武見ゆかり, 新開省二. 地域における共食ニーズ類型化の試み〜「食」コミュニティ会議を通じて〜. 第63回日本栄養改善学会学術集会, 青森, 2016.9.7-9.
13. 湯川晴美, 成田美紀, 吉田英世, 新開省二. 後期高齢者の食事作りに対する認識: 低栄養予防教室参加者における質的分析. 第63回日本栄養改善学会学術集会, 青森, 2016.9.7-9.
14. 谷口優. 長期縦断研究に基づく地域在宅高齢者の歩幅と認知機能低下との関連. 第5回日本ノルディック・ウォーク学会学術大会シンポジウム, 大阪, 2016.9.17.
15. 北村明彦. 循環器検診としての眼底検診: 過去・現在・未来-いま『眼の健康』から『健康寿命の延伸』を考える-. ランチョンセミナー. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
16. 北村明彦, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 清野諭, 西真理子, 野藤悠, 村山洋史, 岡部たづる, 干川なつみ, 藤原佳典, 新開省二. 群馬県草津町における介護予防14年間の成果(1)介護保険統計からみた要介護認定率, 発生率の推移. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
17. 谷口優, 北村明彦, 横山友里, 天野秀紀, 清野諭, 西真理子, 野藤悠, 村山洋史, 岡部たづる, 干川なつみ, 藤原佳典, 新開省二. 群馬県草津町における介護予防14年間の成果(2)高齢住民の機能的健康度の推移. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
18. 横山友里, 北村明彦, 川野因, 新開省二. 国民健康・栄養調査からみた日本人高齢者の栄養摂取状況と栄養状態の現状. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
19. 成田美紀, 清野諭, 村山洋史, 横山友里, 谷口優, 天野秀紀, 北村明彦, 新開省二. フレイル改善のための複合プログラム(1): プログラム介入時の短期的効果の検討. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
20. 清野諭, 成田美紀, 西真理子, 村山洋史, 横山友里, 谷口優, 天野秀紀, 北村明彦, 新開省二. フレイル改善のための複合プログラム(2): プログラム終了後の長期的効果の検討. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
21. 天野秀紀, 西真理子, 谷口優, 清野諭, 横山友里, 北村明彦, 藤原佳典, 吉田裕人, 渡辺直紀, 李相倫, 村山洋史, 野藤悠, 新開省二. 高齢者健診受診者における認知機能推移パターンと要介護化・死亡リスクとの関係. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
22. 新開省二, 清野諭, 横山友里, 谷口優, 天野秀紀, 田中泉澄, 遠峰結衣, 成田美紀, 北村明彦. 東京都大田区「元気シニア・プロジェクト」(1)ねらいと計画. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
23. 田中泉澄, 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 横山友里, 谷口優, 天野秀紀, 成田美紀, 新開省二. 東京都大田区「元気シニア・プロジェクト」(2)地域診断および評価の方法. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
24. 廣川空実, 大平哲也, 梶浦貢, 今野弘規, 北村明彦, 木山昌彦, 岡田武夫, 磯博康. 簡易職業ストレス調査票による仕事のストレスと疾病休業との関連: 2年間追跡調査. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.
25. 宮崎純子, 伯井朋子, 丸山広達, 本田瑛子, 能戸真梨子,

羽山実奈, 村木功, 清水悠路, 手塚一秀, 梅澤光政, 岡田武夫, 今野弘規, 北村明彦, 磯博康, 木山昌彦. 大阪地域住民の食事調査からみた穀類摂取量の違いによる栄養摂取状況等の検討. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

26. 伯井朋子, 宮崎純子, 本田瑛子, 能戸真梨子, 手塚一秀, 羽山実奈, 村木功, 清水悠路, 今野弘規, 岡田武夫, 北村明彦, 木山昌彦. 非糖尿病型におけるインスリン抵抗性と栄養摂取状況. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

27. 羽山実奈, 村木功, 今野弘規, 清水悠路, 岡田武夫, 梅澤光政, 大平哲也, 山岸良匡, 山海知子, 佐藤真一, 崔仁哲, 北村明彦, 磯博康, 木山昌彦. ヘモグロビンA1c高値と循環器疾患発症の関連 (CIRCS研究). 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

28. 岡田武夫, 村木功, 本田瑛子, 羽山実奈, 清水悠路, 手塚一秀, 今野弘規, 大平哲也, 北村明彦, 木山昌彦. 喫煙と飲酒習慣, 生活習慣病が循環器疾患の発症に与える影響. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

29. 山海知子, 山岸良匡, 北村明彦, 磯博康. 出血性脳血管疾患発症へのアポトーシス関連因子, 細胞増殖因子の影響 (2): CIRCS研究. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

30. 池田愛, 山岸良匡, 山海知子, 梅澤光政, 堀幸, 佐田みずき, 岡田知佳, 若林洋子, 木山昌彦, 北村明彦, 大平哲也, 谷川武, 磯博康. Relationship between stress coping and blood pressure trends. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

31. 久藤麻子, 北村明彦, 今野弘規, 岡田知佳, 崔仁哲, 梅澤光政, 山岸良匡, 羽山実奈, 村木功, 湊百合子, 安田望, 村井幸子, 齋藤多聞, 木山昌彦, 磯博康. 秋田県農村住民の塩分味覚感度の現状とその関連因子. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

32. 陣内裕成, 柿花宏信, 北村明彦, 湊百合子, 安田望, 木山昌彦, 岡田武夫, 羽山実奈, 村木功, 今野弘規, 磯博康. 地域住民の慢性腰痛・膝痛の有症率とその関連要因. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

33. 柿花宏信, 陣内裕成, 北村明彦, 湊百合子, 安田望, 木山昌彦, 今野弘規, 磯博康. 慢性腰痛・膝痛の定性的評価と運動指導の地域での取り組み. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

34. 丸尾歩, 大平哲也, 今野弘規, 崔仁哲, 羽山実奈, 村木功, 岡田武夫, 木山昌彦, 山岸良匡, 北村明彦, 磯博康. 笑いの頻度が嚥下機能へ及ぼす影響についての前向き研究: CIRCS研究. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

35. 湊百合子, 安田望, 村井幸子, 梅澤光政, 山岸良匡, 崔仁哲, 今野弘規, 北村明彦, 木山昌彦, 齋藤多聞, 磯博康. 循環器疾患ハイリスク者における24時間蓄尿を用いたナトリウム排泄量の実態把握と評価. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

36. 安田望, 湊百合子, 村井幸子, 梅澤光政, 山岸良匡, 崔仁哲, 今野弘規, 北村明彦, 木山昌彦, 齋藤多聞, 磯博康. 循環器疾患ハイリスク者における24時間蓄尿を用いたカリウム排泄量の実態把握と評価. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

37. 小宮絃弥, 大久保雅美, 朴井加津子, 須釜千宏, 辻京子, 福島英彦, 西田一明, 福田一成, 木山昌彦, 今野弘規, 北村明彦, 磯博康. 身近な地域に保健師が来た! 八尾市の地域とともに進める健康なまちづくり【第1報】. 第75回

日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

38. 大久保雅美, 小宮絃弥, 朴井加津子, 須釜千宏, 辻京子, 福島英彦, 西田一明, 福田一成, 木山昌彦, 今野弘規, 北村明彦, 磯博康. 身近な地域に保健師が来た! 八尾市の地域とともに進める健康なまちづくり【第2報】. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

39. 池田里美, 池田愛, 山岸良匡, 堀幸, 佐田みずき, 岡田知佳, 梅澤光政, 若林洋子, 山海知子, 北村明彦, 木山昌彦, 谷川武, 大平哲也, 磯博康. 笑う頻度と血圧の関連についての縦断研究: CIRCS筑西市協和地区研究. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28.

40. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 高齢者において運動実践仲間の人数はquality of lifeと関連するか? 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 千葉, 2016.11.4-5.

41. 成田美紀: 生活機能低下を防ぐための食・栄養について考える. 第39回総合リハビリテーション研究大会, 東京, 分科会5 介護予防をめぐる今日的課題, 2016.11.5-6.

42. 北村明彦, 新開省二, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典. 地域高齢者の健康余命とフレイル, メタボリックシンドロームとの関連-草津町研究-. 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

43. 谷口優, 北村明彦, 清野諭, 村山洋史, 横山友里, 野藤悠, 天野秀紀, 西真理子, 藤原佳典, 新開省二. MMSE得点の加齢変化パターンと関連要因に関する縦断研究. 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

44. 新開省二, 北村明彦, 谷口優, 天野秀紀, 清野諭, 横山友里, 西真理子, 藤原佳典. 地域高齢者のBMIと健康余命および余命との関連における性差-草津町研究. 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

45. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二. 都市部在住高齢者における近所づきあいと身体活動量との関連: 個人および地域レベルでの検討. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017.1.25-27.

46. 村山洋史, 西真理子, 野藤悠, 谷口優, 横山友里, 清野諭, 天野秀紀, 藤原佳典, 新開省二. 高齢期における近隣凝集性と抑うつとの縦断的関連: 鳩山コホート研究. 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

47. 飯塚あい, 桜井良太, 藤原佳典, 鈴木幸幸, 清野諭, 新開省二, 石川譲治, 田村嘉章, 田中甸, 千葉優子, 金丸晶子, 古田光, 金田大太, 荒木厚. フレイル外来受診者における社会的側面と抑うつ度の関連. 第27回日本疫学会学術総会, 甲府, 2017.1.25-27.

48. 長尾匡則, 梅澤光政, 崔仁哲, 山岸良匡, 木山昌彦, 北村明彦, 西連地利己, 春山康夫, 小橋元, 磯博康. 尿中8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン排泄量と循環器疾患発症との関連 (CIRCS) 第27回日本疫学会総会, 甲府, 2017.1.25-27.

49. 清野諭. 地域ぐるみでフレイルを先送りする大都市モデルを創る!: 東京都「大田区元気シニア・プロジェクト」. 第18回日本健康支援学会年次学術集会, 東京, 2017.3.9-10.

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Yokoyama Y, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Nofuji Y, Narita M, Matsuo E, Seino S, Kawano Y, Shinkai S: Association of dietary variety with body composition and physical function in com-

- munity-dwelling elderly Japanese. *J Nutr Health Aging*. 2016;20(7):691-696. (査読あり)(IF : 2.996)
2. ★◎遠峰結衣, 清野諭, 田中泉澄, 北村明彦, 新開省二 : 高齢者のフレイル予防を促進する属性情報を用いた情報基盤の提案. 研究報告ユビキタスコンピューティングシステム (UBI). 2016;2016-UBI-51(5):1-6. (査読なし)
 3. Kojima G, Iliffe S, Morris RW, Taniguchi Y, Kendrick D, Skelton DA, Masud T, Bowling A.: Frailty predicts trajectories of quality of life over time among British community-dwelling older people. *Qual Life Res*, 2016;27(7):1743-1750. (査読あり)(IF : 2.429)
 4. Kojima G, Taniguchi Y, Iliffe S, Walters K: Frailty as a Predictor of Alzheimer's Disease, Vascular Dementia, and All Dementia Among Community-Dwelling Older People. A Systematic Review and Meta-Analysis. *J Am Med Dir Assoc*, 2016;27(10):881-888. (査読あり)(IF : 6.616)
 5. ★◎Ikeuchi T, Lu FH, Holdsworth JK, Arun Ö, Wang ST, Murakami I, Osada H : Higher education in gerontology: A comparison of master's programs in Japan, Taiwan, and Turkey. *Gerontology & Geriatrics Education*. 2016 Sep 21:1-15. (査読あり)
 6. ★◎Taniguchi Y, Fujiwara Y, Murayama H, Yokota I, Matsuo E, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Matsuyama Y, Shinkai S: Prospective Study of Trajectories of Physical Performance and Mortality Among Community-Dwelling Older Japanese. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2016;71(11):1492-1499. (査読あり)(IF : 5.476)
 7. Umesawa M, ★Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Imano H, Ohira T, Yamagishi K, Saito I, Iso H; CIRCS Investigators. Relationship between HbA1c and risk of retinal hemorrhage in the Japanese general population: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Diabetes Complications*. 2016;30(5):834-838. (査読あり)(IF : 2.955)
 8. Kubo S, Kitamura A, Imano H, Cui R, Yamagishi K, Umesawa M, Muraki I, Kiyama M, Okada T, Iso H; Circulatory Risk in Communities Study Investigators. Serum Albumin and High-Sensitivity C-reactive Protein are Independent Risk Factors of Chronic Kidney Disease in Middle-Aged Japanese Individuals: the Circulatory Risk in Communities Study. *J Atheroscler Thromb*. 2016;23(9):1089-1098. (査読あり)(IF : 2.495)
 9. Tanaka A, Cui R, Kitamura A, Liu K, Imano H, Yamagishi K, Kiyama M, Okada T, Iso H; CIRCS Investigators. Heavy Alcohol Consumption is Associated with Impaired Endothelial Function. *J Atheroscler Thromb*. 2016;23(9):1047-54. (査読あり)(IF : 2.495)
 10. Yamada K, Matsudaira K, Imano H, Kitamura A, Iso H. Influence of work-related psychosocial factors on the prevalence of chronic pain and quality of life in patients with chronic pain. *BMJ Open*. 2016 Apr 25;6(4):e010356. doi:10.1136/bmjopen-2015-010356. (査読あり)(IF : 2.562)
 11. Yamagishi K, Ikeda A, Chei CL, Noda H, Umesawa M, Cui R, Muraki I, Ohira T, Imano H, Sankai T, Okada T, Tanigawa T, Kitamura A, Kiyama M, Iso H; CIRCS Investigators. Serum α -linolenic and other ω -3 fatty acids, and risk of disabling dementia: Community-based nested case-control study. *Clin Nutr*. 2016 May 24. pii: S0261-5614(16)30106-6. doi:10.1016/j.clnu.2016.05.011. [Epub ahead of print] (査読あり)(IF : 4.487)
 12. Hirokawa K, Ohira T, Nagayoshi M, Kajiura M, Imano H, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Iso H. Dehydroepiandrosterone-sulfate is associated with cardiovascular reactivity to stress in women. *Psychoneuroendocrinology*. 2016 Jul;69:116-22. (査読あり)(IF : 4.704)
 13. Tsuneoka H, Takagi M, Murakoshi N, Yamagishi K, Yokoyama Y, Xu D, Sekiguchi Y, Yamasaki H, Naruse Y, Ito Y, Igarashi M, Kitamura A, Okada T, Tanigawa T, Kuga K, Ohira T, Tada H, Aonuma K, Iso H; CIRCS Investigators. Long-Term Prognosis of Brugada-Type ECG and ECG With Atypical ST-Segment Elevation in the Right Precordial Leads Over 20 Years: Results From the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Am Heart Assoc*. 2016 Aug 8;5(8). pii: e002899. doi:10.1161/JAHA.115.002899. (査読あり)(IF : 5.117)
 14. Okubo Y, Jung S, Osuka Y, Shigematsu R, Seino S, Kobayashi H, Miyachi M, Takenaka K, Tanaka K: Effect of post-exercise class mailing program on long-term exercise adherence among community-dwelling older adults: A study design for a randomized controlled trial. *Jpn J Health Promotion*. 2016;18:45-53. (査読あり)
 15. Hayama-Terada M, Muraki I, Imano H, Kiyama M, Okada T, Yamagishi K, Cui R, Ohira T, Umesawa M, Sankai T, Sato S, Kitamura A, Iso H: Diabetes trend and impact on risk of cardiovascular disease in middle-aged Japanese people: The CIRCS study. *Circ J*, 2016;80:2343-2348. (査読あり)(IF : 4.124)
 16. Nakamura M, Iso H, Kitamura A, Imano H, Noda H, Kiyama M, Sato S, Yamagishi K, Nishimura K, Nakai M, Vesper H, Teramoto T: Comparison between the triglycerides standardization of routine methods used at Osaka and the chromatographic acid reference measurement procedure used by the CDC Lipid Standardization Program. *Ann Clin Biochem*. 2016;53:632-639. (査読あり)(IF : 2.119)
 17. Kojima G, Iliffe S, Taniguchi Y, Shimada H, Rakugi H, Walters K: Prevalence of Frailty in Japan. A Systematic Review and Meta-analysis. *J Epidemiol*, in press. (査読あり)(IF : 2.546)
 18. Jinnouchi H, Kitamura A, Yamagishi K, Kiyama M, Imano H, Okada T, Cui R, Umesawa M, Muraki I, Hayama-Terada M, Kawasaki R, Sankai T, Ohira T, Iso H; for the CIRCS Investigators. Retinal Vascular Changes and Prospective Risk of Disabling Dementia: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Atheroscler Thromb*, in press. (査読あり)(IF : 2.495)
 19. Hori M, Kitamura A, Kiyama M, Imano H, Yamagishi K, Cui R, Umesawa M, Muraki I, Okada T, Sankai T, Ohira T, Saito I, Tanigawa T, Iso H: Fifty-year time trends in blood pressures, body mass index and their relations in a Japanese community: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Atheroscler Thromb*, in press. (査読あり)(IF : 2.495)
 20. ★◎Yokoyama Y, Nishi M, Murayama H, Amano H, Taniguchi Y, Nofuji Y, Narita M, Matsuo E, Seino S, Kawano Y, Shinkai S : Dietary variety and decline in lean mass and physical performance in community-dwelling older Japanese: A 4-year follow-up study. *J*

- Nutr Health Aging*. 2017;21(1):11-16. (査読あり) (IF : 3.199)
21. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Seino S, Murayama H, Amano H, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Shinozaki T, Yokota I, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Gait Performance Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *J Am Med Dir Assoc*, in press. (査読あり) (IF : 6.616)
 22. ★◎Taniguchi Y, Kitamura A, Murayama H, Amano H, Shinozaki T, Yokota I, Seino S, Nofuji Y, Nishi M, Yokoyama Y, Matsuyama Y, Fujiwara Y, Shinkai S: Mini-Mental State Examination Score Trajectories and Incident Disabling Dementia Among Community-Dwelling Older Japanese. *Geriatr Gerontol Int*, in press. (査読あり) (IF : 2.229)
 23. 金泰浩, 大久保善郎, 鄭松伊, 大須賀洋祐, 藪下典子, 清野諭, 根本みゆき, 田中喜代次: 地域在住高齢者における膝痛および腰痛と運動習慣の関連. 健康支援, 印刷中. (査読あり)
 24. Cabral MMS, Bos AJ, Amano H, Seino S, Shinkai S: Relationship between skin color, sun exposure, UV protection and fish intake and serum levels of vitamin D in Japanese community-dwelling older adults. *Nutrition and Food Science*, in press. (査読あり) (IF : 0.44)
 25. ★◎Seino S, Nishi M, Murayama H, Narita M, Yokoyama Y, Nofuji Y, Taniguchi Y, Amano H, Kitamura A, Shinkai S: Effects of a multifactorial intervention comprising resistance exercise, nutritional, and psychosocial programs of frailty and functional health in community-dwelling older adults: a randomized, controlled, crossover trial. *Geriatr Gerontol Int*, in press. (査読あり) (IF : 2.229)
 26. ★◎Seino S, Sumi K, Narita M, Yokoyama Y, Ashida K, Kitamura A, Shinkai S: Effects of low-dose dairy protein plus micronutrient supplementation during resistance exercise on muscle mass and physical performance in older adults: A randomized, controlled trial. *The Journal of Nutrition, Health & Aging*, in press. (査読あり) (IF : 3.199)
 27. Fujiwara Y, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Nonaka K, Koike T, Suzuki H, Murayama Y, Saito M, Kobayashi E: Synergistic or independent impacts of low frequency of going outside the home and social isolation on functional decline: A 4-year prospective study of urban Japanese older adults. *Geriatr Gerontol Int*, in press. (査読あり) (IF : 2.229)
 28. Murayama H, Shinkai S, Nishi M, Taniguchi Y, Amano H, Seino S, Yokoyama Y, Yoshida H, Fujiwara Y, Ito H: Albumin, hemoglobin, and the trajectory of cognitive function in community-dwelling older Japanese: a 13-year longitudinal study. *Journal of Prevention of Alzheimer's Disease*. <http://dx.doi.org/10.14283/jpad.2016.113> (査読あり)
 29. ★◎Aoyagi Y, Park S, Matsubara S, Honda Y, Amamoto R, Kushiro A, Miyazaki K, Shephard R.J: Habitual intake of fermented milk products containing *Lactobacillus casei* strain Shirota and a reduced risk of hypertension in older people. *Beneficial Microbes*, in press. (査読あり) (IF : 3.301)
 30. 飯田路佳, 江藤幹, 大須賀洋祐, 辻本健彦, 清野諭, 大久

保善郎, 大山下圭吾, 田中喜代次. リズム系運動の習慣者における健康体力水準-肥満者および一般の非肥満者との比較から-. 日本女子体育連盟学術研究, 2017;33: 19-27.

(2) 総説

1. ★◎横山友里, 新開省二: 高齢化による疾病構造の変化, THE LUNG perspectives, 2016, 24(3), 19-23.
2. ★◎清野諭: 高齢者に求められる体力. 体育の科学, 7: 505-512.
3. ★◎青柳幸利: 地域における介護予防の実際: 中之条スタディ. 臨床栄養. 別冊JCNセレクト「高齢者の健康寿命栄養戦略」. 医歯薬出版, 2016;4:172-180.
4. ★◎青柳幸利: フレイルの予防を目的としたウォーキングの有効性一步数を指標として(中之条研究). *Journal of Physical Therapy*, 2016;33:No12.
5. ★◎北村明彦. 高齢者の健康づくり・介護予防-健康長寿延伸のカギ-「循環器疾患」. 健康づくり. 2016; 463(11):12-15.
6. ★◎成田美紀: QOL低下を防ぐ実践プログラム「お達者料理教室」の取り組み. 保健の科学, 2016, 58(10), 687-692.
7. ★◎新開省二, 横山友里, 清野諭. ロコモ対策と栄養. *Current Therapy*, 2016, 34(10), 85-990.
8. 辻大士, 斎藤民, 野藤悠, 横山友里, 中村廣隆, 吉田由佳, 岩崎文江, 榑崎兼司. 長寿の実現を目指す健康支援の現場で生まれた研究・現場で生きる研究-健康支援若手の企画からの実践活動報告-. 健康支援, 印刷中.
9. ★◎谷口優: 身体機能と将来の認知症との関連, 日本老年社会科学, 2017, 39(1), 72-78.

3 著書等

1. 谷口優: Medical Nordic Walking ノルディック・ウォーキングの医学的基礎. 一般社団法人全日本ノルディック・ウォーク連盟, p47-51, 2016
2. 横山友里, 新開省二: 【TOPICS】低栄養予防と多様な食品摂取, 臨床栄養別冊JCNセレクト11 健康寿命延伸をめざす栄養戦略 フレイル・疾病重症化予防のために(葛谷雅文編). 医歯薬出版株式会社, pp107-114, 2016年4月.
3. 横山友里, 砂見綾香: 第3章 栄養政策 D.国民健康・栄養調査. コンパクト公衆栄養学 第3版(梶本雅俊, 川野因, 石原淳子編). 朝倉書店, pp39-42, 2016年4月.
4. 横山友里, 川野因: 第2部 実践編競技特性にあわせた食事計画 6.ソフトテニス. スポーツを楽しむための栄養・食事計画 理論と実践(川野因, 田中茂穂, 目加田優子編). 光生館, pp108-115, 2016年8月.
5. 成田美紀: 運動器をじょうぶにする栄養指導第1回 ロコモ予防は「しっかり食べる」!. *Osteoporosis Japan Plus*, 2016, 1(2), 54-56.
6. 成田美紀: 運動器をじょうぶにする栄養指導第2回 かくれ肥満に要注意! -サルコペニア肥満. *Osteoporosis Japan Plus*, 2016, 1(3), 50-52.
7. 成田美紀: 健康長寿のための食のあり方~家庭のできる低栄養の早期発見と予防方法~. シニアライフに関する News letter No.7 (日清オイリオグループ), 2016年9月8日発行.
8. 清野諭. 日本人の体力の実態と加齢変化. エビデンスに基づく身体活動の科学: 疫学・分子生物学からのアプローチ. 熊谷秋三編, 杏林書院, 236-244, 2016.
9. 成田美紀 (監修): 健康レポート118 高齢者の健康シリーズ 低栄養に気をつけよう/高齢者も十分な栄養が必

- 要. 保健福祉ネットワーク, 2016年10月発行.
10. 成田美紀: 運動器をじょうぶにする栄養指導第3回 魚を食べて関節軟骨に潤いをー変形性膝関節症. Osteoporosis Japan Plus, 2016, 1(4), 42-44.
 11. 青柳幸利: 病気予防に効果的な「歩数」が明らかに! . ゴールデンライフ, 紅屋オフセット, 2016年4月号, pp.8-9
 12. 青柳幸利: 特別インタビュー: 快眠生活も「発熱力」アップから! 夕方の活動が体温アップにつながります. NHKためしてガッテン スミセイ版, 主婦と生活社, 2016年4月号, pp.5-7
 13. 青柳幸利: ビンピン長寿のヒケツ13: “質” が大切! 長寿のための運動のコツ. きょうの健康, NHK出版, 2016年4月号, pp.110-111
 14. 青柳幸利: 1日7000歩歩けば動脈硬化は確実に改善され人体最大の動脈が顕著に若返る. 安心, マキノ出版, 2016年4月号, pp.164-165
 15. 青柳幸利: えっ! 1日1万歩以上のウォーキングで骨粗しょう症に! . 女性セブン, 小学館, 2016年4月14日号, pp.52-53
 16. 青柳幸利: 健康寿命を延ばすコツ. 週刊朝日, 朝日新聞出版, 2016年4月15日増大号, pp.180-183
 17. 青柳幸利: ピンピン長寿のヒケツ14: 長寿のための中強度運動 続けるコツは?. きょうの健康, NHK出版, 2016年5月号, pp.110-111
 18. 青柳幸利: 歩き方を少し変える, 一個人. KKベストセラーズ, 2016年5月号, pp.79-89
 19. 青柳幸利: 長寿のための「生活習慣」一日八千歩歩く. 週刊文春, 文藝春秋, 2016年5月12日号, pp.58-60
 20. 青柳幸利: やってはいけないウォーキング. SUMISEI BEST BOOK, 住友生命保険相互会社, 2016年6月号, pp.14-16
 21. 青柳幸利: 1日8000歩・20分の速歩きが基本! 症状別に効く歩数と歩き方がわかった. 壮快, マキノ出版, 2016年6月号, pp.114-115
 22. 青柳幸利: 1日8000歩が目安 強度を意識し病気を防ぐ. 日経ヘルス, 日経BP社, 2016年7月号, p.53
 23. 青柳幸利: 速すぎ, 歩きすぎはかえって健康を害することも! 40歳を超えたら「8,000歩/20分」のウォーキングで十分. THE21, PHP研究所, 2016年7月, pp.28-29
 24. 青柳幸利: これなら病を遠ざけられる! 夕方15分の速歩き. ハルメク, 株式会社ハルメク, 2016年7月号, pp.34-37
 25. 青柳幸利: 中高年はスポーツ障害に要注意「運動するほど健康」の罠. 週刊東洋経済, 東洋経済新報社, 2016年7月2日, p.87
 26. 青柳幸利: 健康のためには「歩き」ましよう! 県民だより奈良, 奈良県, 2016年8月号, p.13
 27. 青柳幸利: “奇跡の研究”で認知症予防に効果的な歩数と時間が判明! 簡単ウォーキング, 健康365. エイチアンドアイ, 2016年9月号, pp.162-163
 28. 青柳幸利: 病気になるない歩き方の新常識~「1日8,000歩、20分の速歩き」で健康長寿に~. HEBELIAN, 旭化成ホームズ株式会社, 2016年9月10日, p.50
 29. 青柳幸利: 歩いて骨を強く! 病気を防ぐ“中強度”ウォーキング. 婦人公論, 中央公論新社, 2016年9月27日号, pp.99-103
 - 青柳幸利: ウォーキングの効果. 広報よこはま南区版, 神奈川県横浜市南区, 2016年10月号, pp.8-9
 30. 青柳幸利: 目標は1日8,000歩. 東北地方は運動不足?. 美ST, 光文社, 2016年10月号, p.76
 31. 青柳幸利: 寿命を縮めるウォーキング. PHPくらしラク~る♪本当はカラダに悪い100のこと. PHP研究所, 2016

年10月増刊号, pp.62-67

32. 青柳幸利: 間違いだらけのウォーキング. 週刊朝日, 朝日新聞出版, 2016年10月21日号, pp.124-127
33. 青柳幸利: 心と体を元気にする歩き方. PHP, PHP研究所, 2016年11月号, pp.48-55
34. 青柳幸利: 元気で長生きするために効果的なウォーキング. Healthy mates, 白寿生科学研究所, 2016年11月, pp.21-23
35. 青柳幸利: <本当に「長生き」したければ、知っておきたい> PART1 「してはいけない運動」「しなくていい運動」、週刊ポスト、小学館、2016年11月18日号、pp.54-59
36. 青柳幸利、日常身体活動、テクノロジー・ロードマップ 2017-2026<医療健康・食農編>、日経BP社、2016年
37. 池内朋子, 新開省二: 第3章-6 社会状況の評価, 高齢者理学療法学 (島田裕之, 牧迫飛雄馬, 山田実編), 医歯薬出版株式会社, 2017, pp.162-168

受賞

社会参加・社会貢献の促進

1. 桜井良太, 佐久間尚子, 安永正史, 鈴木宏幸, 村山陽, 西真理子, 内田勇人, 新開省二, 石井賢二, 藤原佳典 第75回 (2016年) 日本公衆衛生学会総会優秀演題賞 「加齢に伴う海馬萎縮に対する世代間交流プログラムの抑制効果 -REPRINTS study-」 2016.10.26-28
2. 箕浦明, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 松永博子, 深谷太郎, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典 第75回 (2016年) 日本公衆衛生学会総会 示説 (ポスター) 賞 「ESSENCE研究(1) 高齢者の求職活動の長期化が精神的健康度に与える影響」 2016.10.26-28
3. 村山洋史, 田口敦子, 山崎菜穂子, 山口拓洋 第75回 (2016年) 日本公衆衛生学会総会 示説 (ポスター) 賞 「高齢期の食品摂取多様性向上を目指した健康推進員主導型プログラム: 交差法による検証」 2016.10.26-28
4. 山崎菜穂子, 田口敦子, 村山洋史, 山口拓洋 第75回 (2016年) 日本公衆衛生学会総会 示説 (ポスター) 賞 「高齢期の食品摂取多様性向上を目指した健康推進員主導型プログラム: プロセス評価」 2016.10.26-28

老化・虚弱の一次予防と地域保健の研究

1. 谷口優 第23回日本老年医学会優秀論文賞 「地域在住高齢者における身体機能・骨格筋量・サルコペニアと認知機能との横断的・縦断的な関連性」 2016.6.8
2. 藤田泰典, 谷口優, 新開省二, 田中雅嗣, 伊藤雅史 第39回日本基礎老化学会若手奨励賞 「地域在住高齢者の血中GDF15と負の健康アウトカムとの関連解析」 2016.5.27
3. 清野諭, 北村明彦, 遠峰結衣, 田中泉澄, 谷口優, 横山友里, 天野秀紀, 成田美紀, 池内朋子, 藤原佳典, 新開省二, 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会最優秀賞 「高齢者において運動実践仲間の人数はquality of lifeと関連するか?」 2016.11.5

自立促進と介護予防研究チーム

チームリーダー：粟田 圭一

1 研究チームの概要・目的

第2期中期計画の研究チームの目標は、サルコペニア、膝痛、虚弱、転倒、尿失禁、栄養・口腔機能低下、認知機能低下、生活機能低下、精神的健康度低下などの老年症候群に対する二次予防の方法論の確立である。現在は、3つのテーマで研究グループを構成し、下記の中期目標を定めて研究を進めている。

テーマ1：筋骨格系の老化予防の促進

- 1) Sarcopenic Obesity予防に効果的な包括的介入プログラムを開発する。
- 2) 筋骨格系老化に関連する要因を究明する。

テーマ2：介護予防の促進

- 1) 新たな生活機能指標の応用研究を行う。
- 2) 高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムを考案・検証する。
- 3) 認知症高齢者の摂食・嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する研究を行う。
- 4) 抗酸化ビタミンが身体機能・運動機能に及ぼす影響を解明する。

テーマ3：認知症・うつの予防と介入の促進

- 1) 認知症の早期診断・支援システムを確立し、その効果を検証する。
- 2) 高齢者精神疾患の早期発見・支援システムを確立し、その効果を検証する。
- 3) 災害時の高齢者メンタルヘルスと認知症支援の指針を作成する。
- 4) 認知症医療サービス強化と地域包括ケアシステム推進をめざした政策科学的研究を行う。
- 5) 高齢者の難治性精神障害の病態解明と治療法開発に向けた臨床研究を行う。

2 今後の展望

第3期中期計画に向けて、平成29年度より、東京都の受託研究事業「認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」を基盤にして、他の研究チームとも協働して、認知症、フレイル、栄養、口腔機能、精神的健康、生活機能、Dementia and Age Friendly Communityをキーワードとする統合的な疫学的調査・介入研究および政策科学的研究を実施する計画である。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

筋骨格系の老化予防の促進

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
Sarcopenic obesity(SO)予防のためのRCT介入研究	SO予防に効果的な包括的介入プログラムを開発する	地域在住SO選定のための包括的健診実施、特性分析	SOと認知機能との関連性検討、RCT介入研究実施	SOと痛みとの関連性検討、RCT介入研究実施	SOと尿失禁・転倒との関連性検討、RCT介入研究	SOと複数徴候との関連性検討、プログラム提案
筋骨格系老化の予知因子	筋骨格系老化に関連する要因を究明する	骨格筋量減少要因解明	筋力低下要因解明	歩行機能低下要因解明	膝痛関連要因解明	転倒関連要因解明

介護予防の促進

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
1.現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究	現代の高齢者の生活環境や生活スタイルの変化を考慮した新活動指標を活用し、生活機能障害を予防するためのスクリーニング法への応用について検討する。	新活動能力指標の妥当性の検討、老年症候群のスクリーニング可能性の検討	地域在住の中高齢者・前期高齢者における新指標活用の検討(認知機能・身体機能との関連について)	施設入所者等の虚弱高齢者における新指標活用の検討(認知機能・身体機能との関連について)	新活動指標の短期的な縦断変化の検討および生活機能障害の予測因子としての検討	新活動指標の検討結果についてのまとめ
2.高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究	高齢者における食と栄養の支援を口腔、運動機能を含む包括的な視点からの探索し、プログラム考案・検証を行う。	地域在住・要支援・要介護(在宅療養含む)高齢者を対象に、横断・追跡調査実施	横断・追跡調査結果解析結果に基づく包括的支援プログラム作成	プログラム案を用いた介入調査	プログラム最終案の作成	プログラムの周知

3.認知症高齢者の摂食・嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究	認知症の摂食・嚥下障害および、ドライマウスの背景因子の把握（うつ病との関連性含む）し支援プログラムを考案する。	横断調査実施、蓄積したデータの解析を行い支援プログラム案作成	プログラム案を用いた介入調査	前年度までの結果に基づいたプログラムのブラッシュアップ	プログラム案を用いた介入調査	プログラム最終案の作成および周知
---	---	--------------------------------	----------------	-----------------------------	----------------	------------------

認知症・うつの予防と介入の促進

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
I. 認知症の早期診断・支援システムの確立	認知症の早期診断・支援システムを確立し、その効果を検証する。	アセスメントツールの開発、認知症初期支援体制の確立	認知症のQOL維持改善をめざした介入研究の実施	介入研究の効果評価(事業の質の評価)	認知症初期支援モデルの提案	支援モデルの普及
II. 高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立	高齢者精神疾患の早期発見・支援システムを確立し、その効果を検証する。	精神的・社会的健康度の尺度開発、QOLの維持改善をめざした介入プログラムの考案	精神疾患をもつ高齢者・生活困窮高齢者のQOL維持改善をめざした介入研究の実施	介入研究の効果評価(事業の質の評価)	精神疾患をもつ高齢者・生活困窮高齢者の支援モデルの提案	支援モデルの普及
III. 災害時の高齢者メンタルヘルスと認知症支援	災害時の高齢者メンタルヘルスと認知症支援の指針を作成する。	日本老年精神医学会と連携して、災害時の老年精神医学的支援に関する指針を作成する。				
IV. 認知症医療サービス強化と連携体制構築	認知症医療サービス強化と地域包括ケアシステム推進の政策科学的研究を行う。	法人内の病院（認知症疾患医療センター）、東京都福祉保健局、都内区市町村、医師会等と連携して、認知症の医療サービス強化と地域包括ケアシステム構築に関する政策科学的研究を遂行する。				
V. 高齢難治性精神障害病態解明と治療法開発	高齢者の難治性精神障害の病態解明と治療法開発に向けた臨床研究を行う	法人内の病院（精神科）と連携して、うつ病、妄想性障害、緊張病性障害、器質性精神障害等の高齢者の難治性精神障害の病態解明と治療法の開発に関する臨床研究を遂行する。				

筋骨格系の老化予防の促進

構成メンバー

テーマリーダー：金 憲経

研究員：小島成実、大須賀洋祐、藤野 健

非常勤研究員：田中喜代次、島田裕之、大藏倫博、細井絵理華

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- SO高齢者の尿失禁・転倒：地域在住高齢者1,210名を正常群749名、肥満単独群154名、SO群307名に分類し、SO高齢者の特徴を分析し、学会で報告した。
- SO高齢者を対象に行ったRCT介入研究：平成27年度に終了した介入成果をまとめて、学術雑誌に公表した。
- RCT介入研究：MMSE23-26点の地域在住高齢者を対象に、乳製品摂取が認知機能に及ぼす影響について検証している。平成28年4月28日～8月4日に前半の介入が終了した。平成28年10月27日～平成29年2月2日に後半の介入を行った。
- 地域在住高齢者1,187名を対象に、腰痛の有症率、

腰痛高齢者の既往歴・身体組成・体力・骨密度の特徴及び関連要因を分析し、国際シンポジウムで報告した。

- 4年間の縦断データを用いて変形性膝関節症の発生と関連する要因を分析し、現在投稿中である。
- 地域在住高齢者の中から過去1年間の1回転倒と複数回転倒者の特徴および関連要因を分析し、国際学会で報告した。
- 都市在住後期高齢者における近隣の身体活動環境とフレイルとの横断的な関連性を検討するために、データ分析を終え、学会発表準備中である。
- 17種目の多様な運動習慣とIADL低下との縦断的な関連性を検討するために、データ分析を終え、学会発表準備中である。

【その根拠】

- 「地域在住サルコペニア肥満高齢者のロコモティブシンドローム特徴について」とのタイトルで、第58回日本老年医学学術集会(2016.6.9)にて報告した。
- 「Exercise and Nutritional Supplementation on Community-Dwelling Elderly Japanese Women

with Sarcopenic Obesity: A Randomized Controlled Trial」とのタイトルで、JAMDA (17: 1011-1019, 2016) に掲載した。

3. MMSE23-26点の者89名を対象に「乳製品摂取が認知機能に及ぼす影響」を検証するためのRCTが、前半介入(4月28日~8月4日)が終了し、後半介入(10月27日~平成29年2月2日)を実施し、データ分析中である。
4. 「Prevalence and associated factors of low back pain in community-dwelling elderly women」とのタイトルで、9th Interdisciplinary World Congress on Low Back Pain and Pelvic Girdle Painの学会シンポジウムにて(2016.11.2) 報告した。
5. 変形性膝関節症の発症の予知因子を、お達者健診2008年グループの4年間の追跡データにより抽出し、Archives of Gerontology and Geriatrics誌に投稿中である。
6. 「Single- and Multi- Fallers in Community-Dwelling Older Women: Epidemiology and Risk Factors」とのタイトルで第69回米国老年学会にて報告した(2016.11.15)。
7. 都市在住後期高齢者における近隣の身体活動環境と膝痛、転倒、フレイルとの関連性を検討するために民間の助成金に2件応募し、1件獲得した。2016年度お達者検診参加者314名の分析結果は、学会発表後、国際誌に投稿する予定である。
8. 2008年コホートの4年後のデータを用いて、多様な運動種目(17種目)とIADL低下との関連性を解析した。学会に発表後、国際誌に投稿する予定である。

【新しい知見】

1. 尿失禁はSO高齢者61.6%、肥満単独50.0%、正常45.2% ($\chi^2=16.558$, $P<0.001$)、過去1年間の転倒率はSO高齢者25.4%、肥満単独13.6%、正常16.7% ($\chi^2=10.515$, $P<0.001$) である。
2. 介入前後の群間比較で、通常歩行速度 ($F=3.865$, $P=0.012$)、ストライド ($F=4.683$, $P=0.004$)、歩数 ($F=3.126$, $P=0.029$)、ビタミンD ($F=42.393$, $P<0.001$) でtime×groupの交互作用が観察された。
3. 介入前後におけるMMSE得点の変化を分析したところ、time×groupの交互作用が観察され ($F=5.483$, $P=0.022$)、乳製品2の変化が有意に大きかった。
4. 地域在住高齢者における腰痛の有症率は46.0%であり、腰痛者は骨粗鬆症・変形性関節症・IADL障害・尿失禁・転倒・骨折の既往が多かった。腰痛と関連する要因は、腰部BMD・通常

歩行速度・転倒・変形性関節症・骨粗鬆症であった。

5. 4年間の変形性膝関節症の発症率に関連している要因は、血液アルブミン値(低いと発症リスク増大)、クレアチニン値(高いと発症リスク増大)、HbA1C値(高いと発症リスク増大)であった。また、大豆製品をほとんど毎日摂取している者で発症率が低くなることを究明した。
6. 下肢の軽度の痛みや骨粗鬆症の存在に関わらず、心臓疾患既往が複数回転倒発生に大きく関与する因子であることが観察された。
7. 買い物や交通機関、レクリエーション施設へのアクセシビリティは、虚弱度と関連はみられない。一方で、近隣の交通量が多く、外を歩くことに危険を感じたり、きれいな景観や楽しい景観が少ないと虚弱度が高いことが明らかとなった。17の運動種目とIADL低下との関連性を検討した結果、中でも「体操」の有無が、IADLの低下に関連していた(IADL低下の発生を有意に抑制していた)。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<Sarcopenic obesity >

生活習慣病研究テーマ、糖尿病・代謝・内分泌内科、味の素・花王

<尿失禁>

老化制御研究チーム、泌尿器科

<介護予防支援>

福祉と生活ケア研究チーム、筑波大学

<フレイル・介護予防>

介護予防研究テーマ、筑波大学、国立長寿医療研究センター、JAXA

<認知症>

認知症・うつ予防と介入の促進研究テーマ、国立長寿医療研究センター病院

3 今後の展望

中期目標(H28)1は、SOと尿失禁・転倒との関連性検討及びRCT介入研究実施である。この目標を達するために、地域在住SO高齢者1,213名よりSO高齢者を選定し、尿失禁や転倒関連の特徴を第58回日本老年医学学術集會にて報告した。また、SO高齢者を対象に行ったRCT介入研究の成果は、JAMDA (17: 1011-1019, 2016) 誌に公表した。乳製品摂取が認知機能に及ぼす影響を検討するために、平成27年度のお達者健診参加者介入参加者689名より、MMSE点数23-26に該当する277名を潜在的介入対象者として抽出した。潜在対象者に選定基準と除外基準を適用し、167名を除外した。110

名を対象に4月28日に事前調査を行い、89名よりデータを収集した。89名をRCTにより2群に分け、5月12日～7月28日までの1次介入が終了し、8月4日に事前調査を実施した。10月27日に追跡調査を実施した後、11月10日～平成29年1月31日間第2次介入を実施し、2月2日に第2次の事後調査を行い、データを収集した。

膝痛関連要因を検証する手法として、変形性膝関節症の発症の予知因子を、お達者健診2008年グループの4年間の追跡により抽出し英語原著論文としてまとめた(小島)。ロジスティック回帰分析の結果、血液成分のアルブミン値(低いと発症リスク増大)、クレアチニン値(高いと発症リスク増大)、HbA1C値(高いと発症リスク増大)などが発症率に関与している。また、調査した10種類の食品群のうち、大豆製品をほとんど毎日摂取している者で発症率が低くなることをまとめて、Archives of Gerontology and Geriatrics誌に投稿中である。また、腰痛と関連する要因は、腰部BMD・通常歩行速度・転倒・変形性関節症・骨粗鬆症であることを9th Interdisciplinary World Congress on Low Back Pain and Pelvic Girdle Painの学会シンポジウムにて報告した。これらの進行より、平成28年度の研究計画の目標はほぼ達成できた。

4 その他

- 1) 4年間の縦断データを用いて、フレイルの新規発生と $\beta 2$ マイクログロブリンとの関連性を分析し、J Am Geriatr Socに投稿し、現在印刷中である。
- 2) AMED研究：「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究(主任研究者 鳥羽研二)」の中で、「大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索」の分担研究の目標を達するために、平成29年1月31日～2月1日に平成27年度登録者316名の登録更新のための追跡調査を実施する予定である。平成28年度お達者健診受信者325名より、平成28年度新規登録対象者285名を抽出し登録事業を行う。
- 3) ふじみ野市筋力アップトレーニング事業の受託を受け、3年間行う予定である。平成28年度(7月～年12月)の事業は、27年度継続グループ120名について、月1回の継続指導を実施している。平成28年度新規参加者60名を対象に月2回の筋力アップトレーニング指導は平成28年12月22日に終了し、平成29年2月1日に結果報告会を開催、研究成果を紹介した。

介護予防の促進

構成メンバー

研究員：渡邊 裕、吉田祐子

非常勤研究員：鈴木隆雄、本川佳子、小原由紀、
白部麻樹、安田純、森下志穂、
三上友里恵

1 平成28年度の研究成果

- 1) 4年間の縦断データを用いて、フレイルの新規発生と $\beta 2$ マイクログロブリンとの関連性を分析し、J Am Geriatr Socに投稿し、現在印刷中である。
- 2) AMED研究：「適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究(主任研究者 鳥羽研二)」の中で、「大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索」の分担研究の目標を達するために、平成29年1月31日～2月1日に平成27年度登録者316名の登録更新のための追跡調査を実施する予定である。平成28年度お達者健診受信者325名より、平成28年度新規登録対象者285名を抽出し登録事業を行う。
- 3) ふじみ野市筋力アップトレーニング事業の受託を受け、3年間行う予定である。平成28年度(7月～年12月)の事業は、27年度継続グループ120名について、月1回の継続指導を実施している。平成28年度新規参加者60名を対象に月2回の筋力アップトレーニング指導は平成28年12月22日に終了し、平成29年2月1日に結果報告会を開催する。

【新しい知見】

テーマ1：

1. フレイルの発現に影響する要因として、歩行速度、食品の混和能力(混和能力)、主観的咀嚼能力が有意に関連していることを明らかにした。
2. 膝伸展トルクの低下と咬合力の低下が有意に関連していることを明らかにした。
3. CNAQに基づく食欲の低下が死亡リスクに関連していることを明らかにした。
4. MNA-SFと摂食力評価の低下が死亡リスクに関連していることを明らかにした。
5. 施設退所後の在宅療養中断のリスク因子として同居家族数、副食の形態、口腔ケアの自立が関連していることを明らかにした。

テーマ2：

1. フレイル高齢者に対する口腔、栄養、運動の複合プログラムの効果を無作為化比較試験で明らかにした(論文作成中)。

2. 口腔ケアの拒否につながる口腔内および顔面の過敏症状の除去法を開発し、無作為化比較試験でその効果を明らかにした（投稿準備中）。
3. 要介護高齢者に対する口腔衛生管理と口腔機能向上、食支援の効果に関する無作為化比較対照試験を実施し、死亡者数の減少と施設内看取り率の増加を認めた（データ解析中）。

テーマ3：

1. アルツハイマー型認知症の進行に伴いガーゲリングや口腔清掃行為、リンシングの障害が発現するステージに違いがあることを明らかにした（論文作成中）。
 2. アルツハイマー型認知症患者と軽度認知機能障害者の食欲低下に影響する因子の違いを明らかにした（論文作成中）。
- 客観的および主観的咀嚼機能評価の乖離の要因を明らかにした（論文作成中）。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究＞
東京都健康長寿医療センター内：筋骨格系の老化予防の促進、認知症・うつ予防と介入促進、社会参加・社会貢献の促進研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科、フレイル外来

外部機関：東京大学高齢社会総合研究機構、東京医科歯科大学、昭和大学歯学部、日本歯科大学、新潟大学大学院 医歯学総合研究科、神奈川県庁、神奈川県歯科医師会、鳥取県歯科医師会、後期高齢者医療広域連合

＜高齢者食生活支援の枠組みと包括的支援プログラムの考案および検証を目的とした調査研究＞
東京都健康長寿医療センター内：認知症・うつ予防と介入促進、福祉と生活ケア研究チーム、歯科口腔外科

外部機関：国立長寿医療研究センター、新潟大学大学院 医歯学総合研究科、東京医科歯科大学、駒沢女子大学、東北福祉大学、全国老人保健施設協会、日本老年歯科医学会、日本在宅栄養管理学会、筑波大学、京都大学大学院、京都光華女子大学、日本歯科医師会、愛知県歯科衛生士会

九州歯科大学、日本大学歯学部、東北大学大学院歯学研究科・歯学部、福岡女子大学、神奈川県立保健福祉大学

＜認知症高齢者の摂食・嚥下機能障害および口腔乾燥とうつ病との関連に関する調査研究＞

東京都健康長寿医療センター内：筋骨格系の老化予防の促進、認知症・うつ予防と介入促進、

社会参加・社会貢献の促進研究チーム、福祉と生活ケア研究チーム、老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、歯科口腔外科

外部機関：日本老年歯科医学会、広島大学大学院医歯薬保健学研究院、鳥取県歯科医師会、日本歯科衛生士会、新潟大学大学院 医歯学総合研究科、神戸常盤大学短期大学、高知学園短期大学、日本歯科医師会、日本歯科大学、日本歯科総合研究機構、東京医科歯科大学、大阪大学歯学部、山梨県歯科医師会、国立保健医療科学院、東北福祉大学、九州大学大学院歯学研究院、国立長寿医療研究センター、日本大学松戸歯学部、東京歯科大学

3 今後の展望

テーマ1：

1. 現代高齢者における生活機能障害のスクリーニングを目的とした新生活機能指標の応用研究については、担当者退職のため当初の研究計画での実現は困難となったが、多くの知見が得られてきており、概ね実現可能と思われる。
2. オーラルフレイルについては、その定義についての有意な知見が得られたことから、オーラルフレイル予防の啓発と、さらなるエビデンスの構築を推し進めていく。
3. 要介護高齢者の死亡リスクに影響する要因（MNA[®]-SF、食欲の指標、摂食力評価）は、テーマ2の高齢者に対する包括的な食支援プログラムの指標として確立していきたい。
4. 口腔以外のアプローチについても、食欲の指標の妥当性を検証できたことから、この指標を中心に介護予防の方向性を示していきたい。

テーマ2：

1. 地域在住高齢者に対する包括プログラム、通所事業所利用者に対する複合プログラム、介護保険施設における口腔衛生管理加算と口腔機能向上、食支援のそれぞれの効果に関する無作為化比較試験が終了し、今後はそれらプログラムの普及を目指す。
2. テーマ1で明らかになった要介護高齢者の死亡リスクに影響する要因（MNA[®]-SF、食欲の指標、摂食力評価）を用いて、効果の検証を行っていく。

テーマ3：

1. 認知症高齢者の摂食嚥下機能障害に関しては、認知症の重度化と栄養指標、食欲、咀嚼機能、摂食嚥下機能との関連をそれぞれ明らかにした。支援プログラムや歯科的対応については、AMEDにおいて認知症患者の歯科的対応および歯科治療に関するガイドラインの作成を行っ

ており、不足しているエビデンスをコホートデータの分析と高島平での介入調査で戦略的に検証していく予定である。

2. 咀嚼障害とうつとの関連については、2つの論文を作成した（1論文投稿済）。また、認知症患者において抗うつ薬が食欲に影響している、レビー小体認知症はアルツハイマー型認知症に比べうつ傾向が強く、摂食嚥下機能障害も早期から認められるとの知見も得られており、適宜支援プログラムやガイドラインに引用していく予定である。

4 その他

テーマ1:

1. 当該テーマは歯科口腔を中心とした研究を行っており、研究所内外の研究チームとの共同研究が多い。そのため幅広い対象の長期のコホートデータを蓄積でき、視野の広い知見を得ることができている。
2. オーラルフレイルについては東京大学高齢社会総合研究機構と共同でコホート調査を実施しており、知見の収集は他機関よりも大きく先行している。また普及、啓発についても日本歯科医師会、老年歯科医学会と連携して行っており、オーラルフレイルに関する研究は当該テーマの一つ柱となっている。
3. 日本語版の開発と妥当性の検証を行った食欲の指標や摂食力評価は、当該テーマの研究においては極めて有用な指標と思われる。すでに膨大なデータを蓄積しており、今後詳細な分析により多くの有益な知見が得られると考えている。

テーマ2:

1. 口腔・栄養関連の診療および介護報酬改定のための根拠づくりと、その普及均霑化に関する事業を担当しており、得られた知見を直ちに施策に反映させることができる。
2. 介護保険施設における口腔、栄養の連携に関するガイドラインおよびマニュアル、口腔衛生管理体制加算の見直し、口腔機能向上・栄養改善マニュアル改訂版（地域包括ケア、総合事業版）、通所事業所における栄養ケアマネジメント、介護保険施設退所後訪問指導加算の見直しなど、研究成果を施策に実装する予定となっている。

テーマ3:

1. 新オレンジプランに謳われている歯科医師認知症対応力向上研修プログラムのテキストを作成し、平成28年度から全国の都道府県で研修が開始された。
2. 認知症口腔保健活動施策の提言に向け、職能団体、責任学会と共同で、認知症患者の歯科的対

応および歯科治療に関するガイドライン作成を行っている。

3. 認知症口腔保健施策に関する研究事業を歯科保健サービスの効果実証事業、AMED長寿科学研究開発事業、老人保健事業推進費等補助金事業で行っている。
4. 特定地域の要介護高齢者の悉皆コホート調査を5年間実施しており、認知症高齢者の摂食嚥下機能障害支援に関する知見を得ることができる。また高島平調査にて約1250名のデータを新たに取得しており、認知症に関する介入調査の準備も行っている。

認知症・うつの予防と介入の促進

構成メンバー

研究員：佐久間尚子、稲垣宏樹、宇良千秋、杉山美香、枝広あや子、宮前史子、小川まどか

非常勤研究員：岩佐一、岡村毅、新川祐利、釘宮由紀子、森川すいめい、野本恵美

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

- I. 認知症の早期診断・支援システムの確立
 1. 町田市在住高齢者7,682名の調査結果を分析し、論文報告および学会発表を行った。
 2. 足立区在住高齢者13,2005名の調査結果を分析し、学会発表を行った。
 3. 千代田区在住高齢者4,500名を対象に8年目（2009-2016）の縦断調査を実施し分析した。
 4. 千代田区において郵送法健康調査を起点とする認知症早期支援システムを実装した。
 5. 東京都認知症支援コーディネーター事業の質の評価を実施した。
 6. 島嶼部の認知症支援体制構築のための実態調査フォーカスグループを実施した。
 7. 認知症の「本人ミーティング」を全国10地域で実施し、実施手引書を作成した。
 8. グループ活動による稲作ケアが認知症の人のQOLを高めるプログラムとして適用可能かどうかを検証するために、新潟県上越市でパイロット・スタディを行った。
 9. 要介護状態にある認知症高齢者調査から、重症度に従う摂食嚥下機能障害、栄養摂取、体組成に関する項目を分析し発表し、優秀ポスター賞、大会奨励賞を受賞した。
 10. 認知症の本人のためのQOL尺度（DEMQOL）の日本語版の作成を進めている。

11. 「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」で板橋区高島平在住の70歳以上高齢者(N=7,614)を対象とする横断調査(郵送、会場、訪問)を実施した。
- II. 高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立
 1. 生活困窮高齢者に対する精神医学的な訪問調査を実施し、解析と社会発信を行った。
 2. 生活困窮者支援のためには身体疾患への配慮が必要との観点からフレイル予防の可能性を専門家と支援者で議論し、モデル形成と研究計画の作成を行った。
 3. 「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」の訪問調査において地域在住高齢者における精神障害(うつ病、妄想性障害、睡眠障害等)の実態把握に着手した。
- III. 災害時の認知症支援
 1. 東日本大震災後5年間の支援経過を現在まとめている。
- IV. 認知症医療サービス強化と連携体制強化
 1. 全国の認知症疾患医療センター運営事業の質の評価を実施し、都道府県向けの事業評価手引書を作成した。
 2. 認知症支援推進室において認知症サポート医フォローアップ研修、かかりつけ医研修、看護師認知症対応力向上研修等を実施しており、研修実績を評価した。
 3. 当院精神科に入院した認知症患者の自宅退院を阻害する要因を分析した。
- V. 高齢者難治性精神障害の病態解明と治療法の開発
 1. 病棟において事例検討を重ねている。

【その根拠】

- I -(1) 日本老年医学雑誌／GGI／Int J Geriatr Psychiatに原著論文が受理され、掲載された。(2) 日本認知症ケア学会で報告した。(3) 日本公衆衛生学会で報告した。(4) 日本認知症予防学会で報告し、学会賞を獲得した。(3) 日本老年社会学会、日本老年精神医学会、国際心理学会(IPA2016)で報告した。(4) 認知症予防学会に報告し学会賞を受賞した。(5)(6) 東京都に報告書を提出した。(7) 厚生労働省に報告書を提出した。昨年度の結果は日本老年精神医学会で報告し、老年精神医学雑誌に掲載された。(8) 日本認知症ケア学会で報告した。(9) 第27回日本老年歯科医学会学術大会優秀ポスター賞、第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会奨励賞受賞。AMEDに中間報告を行った。II -(1) PSG誌に受理された。(2) 老年精神医学誌(総説)に発表した。(3) 都に報告書を提出した。III -(1) 2017

年4月に国際アルツハイマー病協会学術集会で報告した。IV -(1) 年度末に厚生労働省に報告書を提出した。(2) 東京都に報告書を提出した。(3) 厚生労働科学研究報告書を提出した。V -(1) 今年度はまだ学会報告等を行っていない。

【新しい知見】

- I. 認知症の早期診断・支援
 1. 認知機能低下と多剤併用は潜在的交絡因子を統制しても関連する。
 2. 地域のソーシャルキャピタルの不足は地域住民の認知症への不安と関連する。
 3. ソーシャルサポートの不足は、地域在住高齢者の3年後の認知症(認知症高齢者日常生活自立度Ⅱ以上)の危険因子になる。
 4. 東京都千代田区において地域包括支援センター・訪問看護ステーションの連携による見守り支援システムを実装した。
 5. 認知症支援コーディネーターは3,088人の相談に応需し、1,544人に訪問支援を行い、医療機関への受療支援、BPSDへの支援、介護保険サービス利用支援等を実施している。
 6. 2年間の観察で、FGDが島嶼部の認知症支援体制づくりを推進することが示唆された。
 7. 本人ミーティングの実施可能性とDFCを推進する効果があることを確認した。
 8. 稲作作業は、比較的若年のMCIや軽度認知症であればほぼ自力で行うことができ、対象者の満足度や仲間意識も高く、認知症初期支援モデルの一つとして適用可能
 9. 認知症高齢者の体組成の変化から、重症度に基づく摂食嚥下機能の変化と栄養摂取の必要性が示された。
- II 高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立
 1. NPOが支援する生活困窮者において認知機能低下の出現頻度が80%に上る。
- III. 災害時の認知症支援
 1. 災害後認知症支援と災害への備えにおいて認知症初期集中支援チームは有用である。
- IV. 認知症医療サービス強化と連携体制整備：
 1. 全国の認知症疾患医療センターの機能水準が明らかにされた。約3割の都道府県が実施要綱に規定される都道府県認知症疾患医療連携協議会を開催していず、事業の質の管理についての意識が乏しい現状が明らかにされたことから、都道府県向けの事業評価手引書を作成し都道府県に配布した。
 2. 一般病院精神病床に入院する高齢者において、非自発的入院であること、認知症であることが、精神科病院への転院の予測因子になって

いる。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

＜認知症の早期診断・支援システムの構築＞

筋骨格系の老化予防、介護予防の促進、社会参加と地域保健、福祉と生活ケア、認知症疾患医療センター、精神科、神経内科、放射線診断科、認知症支援推進センター、東京都、板橋区、千代田区、足立区、東京大学高齢社会総合機構、東京大学精神科

＜高齢者精神疾患の早期発見・支援システムの確立＞

NPO法人ふるさとの会、東京大学精神科

＜災害時の認知症支援＞

日本老年精神医学会、東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学

＜認知症医療サービス強化と連携体制整備＞

認知症疾患医療センター、精神科、認知症支援推進センター

＜高齢者の難治性精神疾患の病態解明と治療法の開発＞

精神科、認知症疾患医療センター

3 今後の展望

I. 過去に蓄積したデータを分析し、論文化は進んでいる。構築したモデルを都事業に発展させ、認知症支援推進センターとして事業評価を実施できる体制を確立している。さらに、平成27年度より東京都受託研究事業「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」において、より発展的な介入研究に着手している。

II. NPO法人と連携して、精神疾患をもつ生活困窮高齢者の支援モデルが形成されてきている。また、「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」では、高齢者の精神障害に対する支援体制づくりも連動して進められる予定である。

III. 支援モデルは、2016年度より宮城県石巻市認知症初期集中支援推進事業として稼働している。このモデルは、災害後の復興のみならず、災害時の老年精神医学的「備え」としての意義をもつものである。

IV. 認知症支援推進センターの業務として専門職の教育事業は定着し、研修効果の評価結果も良好である。研修効果が地域連携体制の強化につながっているかを体系的に評価することが今後の課題になる。

精神科病棟でのケース検討会議を継続している。この会議は病院・研究所の共同研究の基盤

を形成している。

4 その他

- 1) 研究成果は、国、東京都（都道府県）、区市町村の認知症施策に反映されている。
- 2) 病院部門（認知症疾患医療センター、精神科）と協働しながら、臨床研究や社会科学研究を進める体制が確保されている。
- 3) 平成28年度より、東京都受託研究事業「認知症と共に暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業」をスタートさせ、研究所内の各研究チームおよび病院部門（認知症疾患医療センター、精神科、神経内科、歯科、放射線診断科）、東京都、板橋区、板橋区医師会、地域住民組織が協働して研究を実施する体制が確保されるようになってきた。

論文・学会発表

筋骨格系の老化予防の促進

1 学会発表

(1) 海外

1. Kim H, Kim M, Kojima N, Fujino K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Suzuki T. Effects of exercise and nutritional supplementation in community-dwelling frail elderly women in Japan: A randomized placebo controlled trial. The American Geriatrics Society Annual Scientific Meeting, Long Beach, CA, USA, 2016.5.19-21
2. Kim M, Suzuki T, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Kim H. Association of serum β 2-microglobulin levels with prevalent and incident physical frailty in community-dwelling older women. ACSM Annual Meeting, Denver, CO, USA, 2016.5.30-6.3
3. Kim H, Kim M, Kojima N, Hosoi E, Yoshida H, Hirano H. Incidence and predictors of urinary incontinence in community-dwelling elderly Japanese women: 4-year follow-up study. International Continence Society 46th Annual Meeting, Tokyo, Japan, 2016.9.13-16 (Symposium)
4. Kim H. Prevalence and associated factors of low back pain in community-dwelling elderly women. 9th Interdisciplinary World Congress on Low Back and Pelvic Girdle Pain, Singapore, 2016.10.31-11.3 (Symposium)
5. Kim H. Novel approach to the diagnosis of sarcopenic obesity in community-dwelling elderly people. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia Asian Aging Forum, Nagoya, Japan, 2016.11.4-5 (Symposium)
6. Kim H, Kim M, Kojima N, Fujino K, Yoshida H, Osuka Y, Suzuki T. Exercise and nutritional supplementation in community-dwelling frail elderly Japanese women: A randomized placebo controlled trial. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia Asian Aging Forum, Nagoya, Japan, 2016.11.4-5
7. Kim M, Kim H, Kojima N, Won CW. Objective sleep profiles and body composition phenotypes in older

- women. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia Asian Aging Forum, Nagoya, Japan, 2016. 11.4-5
8. Fujino K, Kojima N, Kim M, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Kim H. Single- and multi-fallers in community-dwelling older women: epidemiology and risk factors. Gerontological Society of America Annual Scientific Meeting, New Orleans, LA, USA, 2016.11. 16-20
 9. Osuka Y, Jung S, Kim T, Okubo Y, Kim E, Tanaka K. Effects of exercise intervention targeting older married couples on exercise adherence: a 1-year follow-up study. World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, Australia, 2016.6.28-7.1 (Oral presentation)
 10. Okubo Y, Nemoto M, Osuka Y, Jung S, Seino S, Figueroa R, Vinyes G, Offord E, Shevlyakova M, Arigoni F, Breuille D, Tanaka K. Development and feasibility of the Nutrition and Functionality Assessment (NFA) among Japanese community-dwelling older adults. World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, Australia, 2016.6.28-7.1 (Oral presentation)
 11. Jung S, Okubo Y, Osuka Y, Seino S, Park J, Nho H, Tanaka K. Comparisons of physical function and habitual exercise among Japanese and Korean community-dwelling older adults. World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, Australia, 2016.6.28-7.1
 12. Kim H: Screening and intervention for sarcopenia in community-dwelling elderly. KU Senior Friendly Hospital Symposium, Seoul, Korea, 2017. 2. 24.

(2) 国内

1. 金憲経：フレイル・サルコペニアへの介入研究、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
2. 杉江正光、原田和昌、奈良毬那、藤本肇、小山照幸、大瀨修一、金憲経、高橋哲也、許俊鏡、井藤英喜：地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
3. 金憲経、小島成実、金美芝、藤野健、吉田祐子、平野浩彦、吉田英世：地域在住サルコペニア肥満高齢者のロコモティブシンドロームの特徴について、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
4. 金美芝、吉田英世、金憲経、小島成実、吉田祐子、平野浩彦、島田裕之、古名丈人、鈴木隆雄：地域在住高齢者における通常歩行速度の加齢変化および予測因子：10年間の追跡調査、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
5. 小島成実、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、大瀨修一、島田裕之、鈴木隆雄、齋藤京子、金憲経：地域在住高齢女性における変形性膝関節症発症の予知因子—4年間の縦断研究、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
6. 吉田英世、金憲経、小島成実、金美芝、鈴木芽久美、吉田祐子、齋藤京子、島田裕之、平野浩彦、鈴木隆雄：地域在住後期高齢女性におけるフレイル該当者の予後に関する検討、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
7. 藤野健、小島成実、金美芝、吉田英世、吉田祐子、平野浩彦、金憲経：後期高齢者における歩行機能低下の予知因子—4年間の縦断データから、第58回日本老年医学会学術集会、石川県、2016.6.8-10
8. 金憲経、金美芝、吉田祐子、鈴木隆雄：地域在住フレイル高齢女性を対象とした介入効果の検証、第71回体力医学会大会、岩手県、2016.9.23-25
9. 金憲経：地域在住フレイル高齢者に対する介入は転倒リスクを減らせるのか、日本転倒予防学会 第3回学術集会、愛知県、2016.10.1-2
10. 金憲経、小島成実、金美芝、藤野健、平野浩彦、吉田祐子、吉田英世：サルコペニア改善の介入参加者と不参加者の長期変化の比較—4年間の追跡データより、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪府、2016.10.26-28
11. 井原一成、飯田浩毅、鈴木友理子、長谷川千絵、藤田欣也、天野雄一、端詰勝敬、蜂須貢、大庭輝、金憲経、吉田英世：コホート内症例対照研究によるフレイルの大うつ病発症に対する影響の検討、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪府、2016.10.26-28
12. 大須賀洋祐、鄭松伊、金泰浩、大久保善郎、金ウンビ、田中喜代次：高齢夫婦向けの運動教室が夫婦関係に及ぼす影響、第64回日本教育医学会大会、三重県、2016.8.18-19
13. 鄭松伊、大久保善郎、大須賀洋祐、笹井浩行、田中喜代次：運動教室終了後の郵送支援が高齢者の抑うつに及ぼす影響、第64回日本教育医学会大会、三重県、2016.8.18-19
14. 薛載勲、藤井悠也、北濃成樹、大須賀洋祐、田中喜代次、大藏倫博：身体活動の実践時間帯が高齢者の睡眠に及ぼす影響、第71回日本体力医学会大会、岩手県、2016.9.23-25
15. 金泰浩、大須賀洋祐、鄭松伊、大久保善郎、金ウンビ、田中喜代次：高齢者における痛みの部位数と痛み対処方略との関連、第4回日本介護福祉・健康づくり学会、千葉県、2016.11.4-5
16. 重松良祐、鄭松伊、大久保善郎、大須賀洋祐、田中喜代次：介護予防教室終了後の運動継続を促す郵送支援の意義、第4回日本介護福祉・健康づくり学会、千葉県、2016.11.4-5
17. 相羽達弥、大須賀洋祐、大久保善郎、鄭松伊、金泰浩、田中喜代次：全身振動トレーニングによる高齢者の体組成変化。介護予防教室終了後の運動継続を促す郵送支援の意義、第4回日本介護福祉・健康づくり学会、千葉県、2016.11.4-5
18. 金憲経：サルコペニア・フレイル、第28回日本老年医学会四国地方会、香川県、2017.2.12

2 誌上発表

(1) 原著

1. ★◎Kim H, Kim M, Kojima N, Fujino K, Hosoi E, Kobayashi H, Somekawa S, Niki Y, Yamashiro Y, Yoshida H. Exercise and nutritional supplementation on community-dwelling elderly Japanese women with sarcopenic obesity: a randomized controlled trial. J Am Med Dir Assoc. 17(11):1011-1019, 2016 (原著、査読有) (IF:6.616)
2. Ihara K, Yoshida H, Jones PB, Hashizume M, Suzuki Y, Ishijima H, Kim H, Suzuki T, Hashizume M. Serum BDNF levels before and after the development of mood disorders: a case-control study in a population cohort. Transl Psychiatry. 6:e782, 2016 (査読有) (IF:5.538)
3. Sakurai R, Kawai H, Yoshida H, Fukaya T, Suzuki H,

- Kim H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y. Can you ride a bicycle? The ability to ride a bicycle prevents reduced social function in older adults with mobility limitation. *J Epidemiol.* 26(6):307-314, 2016 (査読有) (IF:2.546)
- 駒井さつき、渡邊裕、藤原佳典、金憲経、枝広あや子、河合恒、吉田英世、大淵修一、田中弥生、平野浩彦：日本の地域在住高齢者における栄養状態とサルコペニア重症度の関連性の検討—BMI, Alb, 体重減少の有無との関連—。日老医誌。53(4):387-395, 2016 (査読有)(IF無)
 - Somekawa S, Mine T, Ono K, Hayashi N, Obuchi S, Yoshida H, Kawai H, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Ihara K, ★Kim H. Relationship between sensory perception and frailty in a community-dwelling elderly population. *J Nutr Health Aging*. In Press, doi:10.1007/s12603-016-0836-5 (査読有) (IF:2.996)
 - Takagi D, Hirano H, Watanabe Y, Eda Hiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int*. In Press, doi:10.1111/ggi.12728 (査読有) (IF:2.229)
 - ★◎Osuka Y, Fujita S, Kitano N, Kosaki K, Seol JH, Sawano Y, Shi HH, Fujii Y, Maeda S, Okura T, Kobayashi H, Tanaka K. Effects of aerobic and resistance training combined with fortified milk on muscle mass, muscle strength, and physical performance in older adults: a randomized controlled trial. *J Nutr Health Aging*. In Press, doi:10.1007/s12603-016-0864-1(査読有) (IF:2.996)
 - 相羽達弥, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 鄭松伊, 金泰浩, 田中喜代次. 全身振動刺激を用いた運動プログラムが高齢者の身体機能および筋力に及ぼす効果. 健康支援. 印刷中 (査読有)(IF無)
 - 濱崎愛, 大須賀洋祐, 窪田大, 川手雄二, 小林裕幸, 田中喜代次. 栄養補助食品と運動実践の組合せが中高齢者の活力年齢に及ぼす効果. 健康支援. 印刷中(査読有)(IF無)
 - Okubo Y, Jung S, Osuka Y, Shigematsu R, Seino S, Kobayashi H, Miyachi M, Takenaka K, Tanaka K. Effect of post-exercise class mailing program on long-term exercise adherence among community-dwelling older adults: A study design for a randomized controlled trial. 健康支援. 印刷中(査読有)(IF無)
 - 金泰浩, 大久保善郎, 鄭松伊, 大須賀洋祐, 根本みゆき, 金美芝, 清野諭, 藪下典子, 田中喜代次. 地域在住高齢者における運動種目と膝痛の関連. 健康支援. 印刷中. (原著, 査読有) (IF:なし)

(2) 総説

- ★◎金憲経：フレイル・サルコペニア予防のための栄養と運動の効果. 食品と開発. 51(7):73-77, 2016
- ★◎金憲経：サルコペニアへの栄養と運動の介入効果. *Loco Cure.* 2(3):46-51, 2016
- ★◎金憲経：栄養＋運動指導は数年後も効果が持続. *Osteoporosis Japan Plus.* 1(3):22-23, 2016
- ★◎金憲経：サルコペニア、コラム：サルコペニアと茶カテキンpp.193-195、最新医学社、2016
- ★◎金憲経：サルコペニア・フレイル介入戦略. *BIO*

Clinica 31 (14): 16-20, 2016

- ★◎大須賀洋祐, 大島博. ベッドレスト研究からひも解くサルコペニア. 介護・福祉健康づくり研究, 2016
- ◎金憲経, 青木登紀子：サルコペニアの診断基準、疫学. *Geriatric Medicine* 55 (1): 11-17, 2017

3 著書等

- 金憲経：CKD患者栄養・運動療法の考えかた、やりかた(編著：加藤明彦) VIII栄養と運動療法を組み合わせることにより、どんな効果が期待されますか？ pp.230-236、中外医学社、2016
- 金憲経：身体活動・座位行動の科学(編集：熊谷秋三、田中茂穂、藤井宣晴)、4-2サルコペニア pp.90-100、杏林書院、2016
- 金憲経：サルコペニック・オベシティ早期予防を目的とした総合的支援システム構築と効果検証. 平成28年度科学研究費助成金事業(主任研究者：金憲経) 研究実績報告書、2017(報告書)
- 金憲経：大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索. 平成28年度AMED(分担研究者：金憲経) 研究実績報告書、2017(報告書)

介護予防の促進

1 学会発表

(1) 海外

- Shino Suma, Yutaka Watanabe, Hidenori Arai, Kenji Matsushita, Takashi Sakurai, Hirohiko Hirano, Ayako Eda Hiro, Yuki Ohara. Differential factors affect the appetite in AD and MCI patients The 12th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistry Tokyo 2016.05.27-29.
- Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Ayako Eda Hiro, Shiho Morishita, Maki Shirobe, Keiko Endo. Risk factors associated with aspiration in older persons requiring long-term care: An investigation with a 2-year follow-up. The 12th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistry Tokyo 2016.05.27-29.
- Yasuhiro Horibe, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Ayako Eda Hiro, Ken Ishizaki, Takayuki Ueda, Kaoru Sakurai. Relationship between masticatory function and frailty in community-dwelling older Japanese 40th European Prothodontic Association, Halle, Germany 2016.9.15-17
- Masaharu Murakami, Yutaka Watanabe, Hirohiko Hirano, Ayako Eda Hiro, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Jun Yasuda. Is the sarcopenia associated with the occlusal force? 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Nagoya, 2016.11.05
- Yutaka Watanabe. Strategy to oral frail. 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia. Nagoya, 2016.11.04

(2) 国内

- 渡邊 裕, 気管挿管患者の口腔ケアについて考える 第12回 日本クリティカルケア看護学会学術集会 交流セッション, 栃木, 2016.06.5
- 渡邊 裕, 編集査読手順の変更と査読方法について. プレゴングレスセミナー(査読セミナー) 第22回日本撰

- 食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.22
- 3) 渡邊 裕, 地域在住高齢者の口腔機能および全身機能の低下とフレイルの関係について. 第27回日本老年歯科医学会シンポジウム I 口腔機能と全身機能低下、フレイルとの関係を考える, 徳島, 2016.6.18
 - 4) 堀部耕広, 平野浩彦, 渡邊 裕, 石崎 憲, 上田貴之, 櫻井 薫 地域在住高齢者における咀嚼機能に対するフレイルの影響 第301回東京歯科大学学会(例会), 東京, 2014.6.4, 23
 - 5) 本川佳子, 枝広あや子, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 岡村 毅, 村山洋史, 平野浩彦, 栗田主一 地域在住高齢者におけるフレイル有症率と認知機能・生活状況・主観的健康感等に関する検討 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 - 6) 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田英世, 大淵修一, 河合 恒, 解良武士, 井原一成, 藤原佳典, 平野浩彦. 地域在住高齢者を対象としたフレイルと栄養状態の検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 - 7) 杉山美香, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 宮前史子, 村山洋史, 枝広あや子, 岡村 毅, 本川佳子, 栗田主一 自分自身の将来の認知症に関する不安感とその関連要因 認知機能, 身体機能, 心理社会的機能を中心とした探索的研究. 第31回日本老年精神医学会, 金沢, 2016.6.23-24
 - 8) 村山洋史, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 岡村 毅, 本川佳子, 栗田主一. 地域レベルのソーシャルキャピタルは認知症への不安感と関連するか? 都市部在住高齢者での検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 - 9) 白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 飯島勝矢, 菊谷 武, 本川佳子, 村上正治, 枝広あや子, 渡邊 裕, 地域在住高齢者の歯周疾患実態調査報告 ―口腔の状態と機能, および全身との関連―, 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 10) 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊 裕, 村上正治, 白部麻樹, 本川佳子, 須磨紫乃, 小原由紀, 森下志穂, 栗田主一. 認知症高齢者に対する適時適切な歯科治療の提供に資する検討～FASTを基準に～. 第27回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 徳島, 2016.6.17-19
 - 11) 小原由紀, 森下志穂, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊 裕, 平野浩彦. 要介護高齢者の口腔機能および栄養状態の経年変化―2年間の縦断データの分析―. 第27回日本老年歯科医学会学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 12) 須磨紫乃, 渡邊 裕, 松下健二, 森下志穂, 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 平野浩彦 アルツハイマー型認知症 (AD) と軽度認知機能障害 (MCI) の特性の比較検討, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 13) 森下志穂, 渡邊 裕, 平野浩彦, 枝広あや子, 小原由紀, 村上正治, 菊谷 武 軽度認知障害 (MCI) 高齢者の口腔機能低下に関する研究, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 14) 堀部耕広, 平野浩彦, 渡邊 裕, 枝広あや子, 小原由紀, 本川佳子, 白部麻樹, 吉田英世, 大淵修一, 上田貴之, 櫻井 薫 地域在住高齢者における咬合力および咀嚼能力の低下とフレイルとの関連, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 15) 梅木賢人, 平野浩彦, 渡邊 裕, 小原由紀, 枝広あや子, 本川佳子, 村上正治, 須磨紫乃, 森下志穂, 白部麻樹, 五十嵐憲太郎, 河相安彦 高齢者のフレイルとオーラル・フレイルとの関連に関する検討～要介護高齢者の四肢骨格筋量と咬筋厚との関連より～, 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
 - 16) 伊藤誠康, 梅木賢人, 平野浩彦, 五十嵐憲太郎, 吉田英世, 渡邊 裕, 大淵修一, 井上正安, 郡司敦子, 木本統, 河相安彦 地域在住高齢者における残存歯数と聴力の関連に関する検討, 平成28年度日本老年歯科医学会総会・学術大会, 徳島, 2016年6月18日
 - 17) 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 平野浩彦, 渡邊 裕, 田中弥生, 安藤雄一, 荒井秀典 介護保険施設を対象とした経口維持管理加算に関するヒアリング調査報告. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.23-24
 - 18) 金久弥生, 坂本まゆみ, 森下志穂, 池山豊子, 小原由紀, 原 久美子, 平野浩彦, 渡邊 裕 特別養護老人ホーム入所者の食支援と口腔の管理に関する実態調査報告, 第11回日本歯科衛生学会, 広島, 2016.9.18
 - 19) 白部麻樹, 渡邊 裕, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 恒石美登里, 吉田英世, 大淵修一, 地域在住高齢者の口腔機能に関する実態調査報告 ―年齢5歳ごとの変化率の検討―, 日本歯科衛生学会 第11回学術大会, 広島, 2016.09.17-19
 - 20) 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 平野浩彦, 渡邊 裕, 田中弥生, 安藤雄一, 荒井秀典. 介護保険施設を対象とした経口維持管理加算に関するヒアリング調査報告. 第22回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.23-24
 - 21) 本橋佳子, 渡邊 裕, 枝広あや子, 白部麻樹, 本川佳子, 平野浩彦, 吉田英世, 小原由紀, 大河内二郎, 安藤雄一, 要介護高齢者の口腔・栄養管理ガイドライン作成の試み, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.27-29
 - 22) 白部麻樹, 渡邊 裕, 小原由紀, 枝広あや子, 本橋佳子, 本川佳子, 河合 恒, 井原一成, 平野浩彦, 藤原佳典, 吉田英世, 大淵修一, 地域在住後期高齢者における口腔機能検査の受診希望と関連する因子の検討, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
 - 23) 渡邊 裕, オーラルフレイルの現状と歯科補綴の役割, 平成28年度 日本補綴歯科学会関越支部学術大会, 新潟, 2016.11.6
 - 24) 渡邊 裕, 要介護にならないためのお口のケア, 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会, 市民会員シンポジウム, 千葉, 2016.11.27
 - 25) 渡邊 裕, オーラルフレイル予防 歯科がやるべきことは, 2016年全国訪問歯科研究会, 特別講演, 千葉, 2016.11.19
 - 26) 本川佳子, 安田 純, 枝広あや子, 白部麻樹, 田中弥生, 平野浩彦, 渡邊 裕, 要介護高齢者の転帰と栄養関連指標の関係～特別養護老人ホームにおける長期観察研究～, 第32回日本静脈経腸栄養学会, 岡山, 2016.2.22-24

2 誌上発表

(1) 原著

- 1) Takagi D, ★Hirano H, Watanabe Y, Eda Hiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. Geriatr Gerontol Int. 2016 May 6. doi: 10.1111/ggi.12728. (査読あり) (IF: 2.229, 2015)

- 2) ©Morishita S, ★Watanabe Y, Ohara Y, Eda Hiro A, Sato E, Suga T, Hirano H. Factors associated with older adults' need for oral hygiene management by dental professionals. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Aug;16(8):956-62. doi: 10.1111/ggi.12585. PMID: 26338200 (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 3) ©Ohara Y, Yoshida N, Kawai H, Obuchi S, Yoshida H, Mataka S, Hirano H, Watanabe Y. Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Aug 17. doi: 10.1111/ggi.12873. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27531046. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 4) Kera T, Eda Hiro A, Hirano H, Kawai H, Yoshida H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S; TOSHIMA Research Group . Alternating Motion Rate to Distinguish Elderly People With History of Pneumonia. *Respir Care*. 2016 Sep 27. pii: respcare.04609. [Epub ahead of print] PMID: 27677306 (査読あり) (IF : 1.922、2015)
- 5) ©Watanabe Y, ★Hirano H, Arai H, Morishita S, Ohara Y, Eda Hiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T. Relationship Between Frailty and Oral Function in Community-Dwelling Elderly Adults. *J Am Geriatr Soc*. Jan;65(1):66-76. (査読あり) (IF : 3.842、2015)
- 6) Tokudome Y, Okumura K, Kumagai Y, Hirano H, Kim H, Morishita S, Watanabe Y. Development of the Japanese Versions of the Council on Nutrition Appetite Questionnaire and Its Simplified Questionnaires, and Evaluation of Their Reliability, Validity, and Reproducibility. *J Epidemiol*. 2016 in press (査読あり) (IF : 2.546、2015)
- 7) Kim M, Suzuki T, Kojima N, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Kim H. Association of Serum β 2-microglobulin Levels with Prevalent and Incident Physical Frailty in Community-Dwelling Older Women: 2175 Board #327 June 2, 3: 30 PM - 5: 00 PM. *Med Sci Sports Exerc*. 2016 May;48(5 Suppl 1):615-6. doi: 10.1249/01.mss.0000486848.02017.50. PubMed PMID: 27361000. (査読あり) (IF : 3.54、2015)
- 8) Lee S, Shimada H, Lee S, Makizako H, Doi T, Harada K, Bae S, Harada K, Hotta R, Tsutsumimoto K, Yoshida D, Nakakubo S, Anan Y, Park H, Suzuki T. Association between sedentary time and kidney function in community-dwelling elderly Japanese people. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Jun 14. doi: 10.1111/ggi.12779. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27295943. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 9) Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Suzuki T. Cognitive Impairment and Disability in Older Japanese Adults. *PLoS One*. 2016 Jul 14;11(7):e0158720. doi: 10.1371/journal.pone.0158720. PubMed PMID: 27415430; PubMed Central PMCID: PMC4945051. (査読あり) (IF : 3.057、2015)
- 10) Doi T, Blumen HM, Verghese J, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T. Gray matter volume and dual-task gait performance in mild cognitive impairment. *Brain Imaging Behav*. 2016 Jul 9. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27392792. (査読あり) (IF : 3.667、2015)
- 11) Harada K, Lee S, Shimada H, Lee S, Bae S, Anan Y, Harada K, Suzuki T. Psychological predictors of participation in screening for cognitive impairment among community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Jul 18. doi: 10.1111/ggi.12841. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27427234. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 12) Otsuka R, Kato Y, Nishita Y, Tange C, Nakamoto M, Tomida M, Imai T, Ando F, Shimokata H, Suzuki T. Dietary diversity and 14-year decline in higher-level functional capacity among middle-aged and elderly Japanese. *Nutrition*. 2016 Jul-Aug;32(7-8):784-9. doi: 10.1016/j.nut.2016.01.022. PubMed PMID: 27068882. (査読あり) (IF : 2.839、2015)
- 13) Nakakubo S, Doi T, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Ono R, Suzuki T, Shimada H. Sleep Duration and Excessive Daytime Sleepiness Are Associated With Incidence of Disability in Community-Dwelling Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*. 2016 Aug 1;17(8):768.e1-5. doi: 10.1016/j.jamda.2016.05.020. PubMed PMID: 27397602. (査読あり) (IF : 6.616、2015)
- 14) Tsutsumimoto K, Doi T, Shimada H, Makizako H, Suzuki T. Effects of group exercise programmes on quality of life in older adults with mild cognitive impairment: preliminary results from a randomized controlled trial. *Psychogeriatrics*. 2016 Sep;16(5):327-8. doi: 10.1111/psyg.12165. PubMed PMID: 26757136. (査読あり) (IF : 1.0、2015)
- 15) Lee S, Lee S, Harada K, Bae S, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Park H, Suzuki T, Shimada H. Relationship between chronic kidney disease with diabetes or hypertension and frailty in community-dwelling Japanese older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Sep 27. doi: 10.1111/ggi.12910. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27670391. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 16) Harada K, Park H, Lee S, Shimada H, Yoshida D, Anan Y, Suzuki T. Joint Association of Neighborhood Environment and Fear of Falling on Physical Activity Among Frail Older Adults. *J Aging Phys Act*. 2016 Sep 6:1-28. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27620962. (査読あり) (IF : 1.877、2015)
- 17) Harada K, Lee S, Lee S, Bae S, Harada K, Suzuki T, Shimada H. Objectively-measured outdoor time and physical and psychological function among older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Sep 16. doi: 10.1111/ggi.12895. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27633728. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 18) Sakurai R, Suzuki H, Ogawa S, Kawai H, Yoshida H, Hirano H, Ihara K, Obuchi S, Fujiwara Y. Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Jul 7. doi: 10.1111/ggi.12829. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27390033. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 19) Tanisawa K, Arai Y, Hirose N, Shimokata H, Yamada Y, Kawai H, Kojima M, Obuchi S, Hirano H, Yoshida H, Suzuki H, Fujiwara Y, Ihara K, Sugaya M, Arai T, Mori S, Sawabe M, Sato N, Muramatsu M, Higuchi M, Liu YW, Kong QP, Tanaka M. Exome-wide Association

- Study Identifies CLEC3B Missense Variant p.S106G as Being Associated With Extreme Longevity in East Asian Populations. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*. 2016 May 6. pii: glw074. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 27154906. (査読あり) (IF : 5.476、2015)
- 20) Suzuki Y, Kawai H, Kojima M, Shiba Y, Yoshida H, Hirano H, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S. Construct validity of posture as a measure of physical function in elderly individuals: Use of a digitalized inclinometer to assess trunk inclination. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Sep;16(9):1068-73. doi: 10.1111/ggi.12600. PubMed PMID: 26459612. (査読あり) (IF : 2.229、2015)
- 21) Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Makino K, Suzuki T. Comorbid Mild Cognitive Impairment and Depressive Symptoms Predict Future Dementia in Community Older Adults: A 24-Month Follow-Up Longitudinal Study. *J Alzheimers Dis*. 2016 Oct 18;54(4):1473-1482. (査読あり) (IF : 3.920、2015)
- 22) ◎白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 渡邊裕, 吉田英世, 大淵修一, 都市部在住高齢者を対象とした歯周疾患実態調査, *老年歯科医学*, 31(1), 18-27, 2016
- 23) 河合 恒, 猪股高志, 大塚理加, 杉山陽一, 平野浩彦, 大淵修一. 化粧ケアが地域在住高齢者の主観的健康感へ及ぼす効果 傾向スコア法による検証 *日本老年医学会雑誌*53巻2号 Page123-132(2016.04)
- 24) 駒井さつき, 渡邊裕, 藤原佳典, 金 憲経, 枝広あや子, 河合 恒, 吉田英世, 大淵修一, 田中弥生, 平野浩彦 日本の地域在住高齢者における栄養状態とサルコペニア重症度の関連性の検討 -BMI, Alb, 体重減少の有無との関連- *日本老年医学会雑誌*. 2016;53.4, p387-395
- 25) ◎本川佳子, 田中弥生, 菅 洋子, 細山田洋子, 枝広あや子, 高城大輔, 平野浩彦, 渡邊裕 アルツハイマー病高齢者における認知症重症度別, 身体組成・栄養指標に関する検討 *日本静脈経腸栄養学会誌* 2016 in press

(2) 総説

- 1) Kim H, Hirano H, Edahiro A, Ohara Y, Watanabe Y, Kojima N, Kim M, Hosoi E, Yoshida Y, Yoshida H, Shinkai S. Sarcopenia: Prevalence and associated factors based on different suggested definitions in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Mar;16 Suppl 1:110-22. doi: 10.1111/ggi.12723. Review.PMID: 27018289
- 2) ◎渡邊裕 “今” 知っておきたいキーワード 高齢者編 ロコモティブシンドローム *The Quintessence*35巻5号 Page 1080-1081(2016.05)
- 3) ◎渡邊裕 “今” 知っておきたいキーワード 高齢者編 軽度認知障害(MCI) *The Quintessence*35巻7号 Page 1568-1569(2016.07)
- 4) ◎渡邊裕 “今” 知っておきたいキーワード 高齢者編 地域包括ケア *The Quintessence*35巻9号 Page 80-81(2016.09)
- 5) 服部佳功, 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦, 古屋純一, 中島純子, 田村文誉, 北川昇, 堀一浩, 原哲也, 吉川峰加, 西 恭宏, 永尾 寛, 市川哲雄, 櫻井 薫, 一般社団法人日本老年歯科医学会ガイドライン委員会. 認知症患者の歯科治療に対する疑問と問題点 *Clinical Question調査から*. *老年歯科医学* 31巻1号 Page3-8

(2016.06)

- 6) 岩佐康行, 荒井秀典, ◎渡邊裕【オーラルフレイル 今, 歯科医師が考えるべきこと, できること】 *The Quintessence* 35巻8号 Page52-68(2016.08)
- 7) ◎平野浩彦 歯科衛生士の認知症対応力向上を目指して 新オレンジプランの視点から日本歯科衛生学会雑誌 11巻1号 Page25-33(2016.08)
- 8) 水口俊介, 津賀一弘, 池邊一典, 上田貴之, 田村文誉, 永尾 寛, 古屋純一, 松尾浩一郎, 山本 健, 金澤 学, 渡邊裕, 平野浩彦, 菊谷 武, 櫻井 薫, 高齢期における口腔機能低下 -学会見解論文 2016年度版 - *老年歯科医学*31巻2号 Page81-99(2016.09)
- 9) 潮田高志, 渡邊裕, 山根源之 高齢者に発症した習慣性顎関節脱臼に対し顎関節自己血注入療法を施行した3例 *老年歯科医学*31巻2号 Page134-140(2016.09)
- 10) ◎渡邊裕, 本川佳子. オーラルフレイルを知る 老年歯科科学からの提言 2. 地域高齢者におけるオーラルフレイル : ささいな気づきの啓発. *日本老年医学会雑誌*. 2016; 53, 4, p334-340
- 11) ◎渡邊裕, 本川佳子. オーラルフレイル : 食欲も含めた包括的介入. *Progress in Medicine*. 2016; 36, p1193-1198
- 12) 渡邊裕, 本川佳子. 【サルコペニアとフレイル 最新知見から考えるその高齢社会における意義】 *口腔機能とフレイルGeriatric Medicine (老年医学)* 55巻1号 Page45-49(2017.01)

3 著書等

- 1) 渡邊裕 : 高齢者の口腔衛生状態維持 (口腔ケア) の重要性, p172-180 高齢者感染症 超高齢社会の課題と特徴 光山正雄 編 医薬ジャーナル 大阪 2016.5
- 2) 平野浩彦, 飯島勝矢, 菊谷 武, 渡邊裕, 戸原 玄 (編者) 実践! オーラルフレイル対応マニュアル. 公益財団法人東京都福祉保健財団, 東京, 2016.10.
- 3) 渡邊裕 : 高齢者歯科学, p92-96 *カンジダ症 前癌病変 扁平苔癬* 森戸光彦 編集主幹 永末書店 京都 2017.1

認知症・うつ予防と介入の促進

1 学会発表

(1) 海外

- 1) Awata S: Complexity and late-life suicide in super-ageing society. The 7th Asia and Pacific Regional Conference of International Association for Suicide Prevention, 2016.5.18-5.21, Yokohama (Symposium).
- 2) C Ura, F Miyamae, N Sakuma, H Niikawa, H Inagaki, M Sugiyama, K Ito, M Ijuin, T Okamura, S Awata: Factors associated with suspected dementia based on DASC-21 (The Dementia Assessment Sheet in Community-based Integrated Care System-21 items): Physical, psychological and social problems facing community-residing older people with dementia. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Tampere, Finland, 2016.6.19-22.
- 3) Sakuma N, Suzuki H, Ohgami Y, Otsuka S, Ogawa S, Yasunaga M, Fujiwara Y: Longitudinal cognitive changes in healthy older Japanese: A preliminary report from ten-year long-term ‘REPRINTS’ study, The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, 2016.7.24-29
- 4) Inagaki H, Sugiyama M, Sakuma N, Ura C, Miyamae F,

- Morikura M, Maruyama R, Hayashida M, Takagi A, Awata S: Related factors that predict the transition to dementia after 3-years in community-dwelling elderly: Results of the Chiyoda-city longitudinal survey of mental and physical health. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29
- 5) Masui Y, Gondo Y, Nakagawa K, Ishioka Y, Ogawa M, Kozono M, Inagaki H, Takayama M, Katagiri K, Yasumoto S, Tabuchi M, Kurinobu K, Arai Y, Ikebe K, Kamide K, Takahashi T, Ishizaki T: Effects of negative life events and gerotranscendence on changes in mental health over three years among the 80+ population: The SONIC study. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29
 - 6) Ishioka Y, Gondo Y, Masui Y, Nakagawa T, Ogawa M, Inagaki H, Tabuchi M, Kozono M, Yasumoto S, Kurinobu T, Takayama M, Katagiri K, Arai Y, Kamide K, Ikebe K, Ishizaki T, Takahashi R: Mid-life Occupational and Household Work Complexity, and Late-life Cognitive Function in Japanese Women. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29
 - 7) Kozono M, Gondo Y, Ogawa M, Ishioka Y, Nakagawa T, Masui Y, Inagaki H, Tabuchi M, Ikebe Y, Kamide K, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R: The association between mental, physical, and social components in leisure activities and cognitive function in octogenarian -findings from the SONIC study. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29
 - 8) Nakagawa T, Gondo Y, Masui Y, Ishioka Y, Ogawa M, Inagaki H, Tabuchi M, Kozono M, Yasumoto S, Numata K, Kurinobu T, Tsai U, Goto F, Takayama M, Ikebe K, Kamide K, Arai Y, Ishizaki T, Takahashi R: Stability and Change of Valuation of Life in Old Age. 31st International Congress of Psychology (ICP), Yokohama, Japan, 2016.7.24-29(Symposium)
 - 9) Sakurai R, Ishii K, Yasunaga M, Murayama Y, Suzuki H, Sakuma N, Fujiwara Y: Apolipoprotein E genotype and longitudinal change in physical function among high-functioning older adults, The 10th European Congress of Biogerontology, Poland, 2016.9.23-24
 - 10) Sakuma N, Suzuki H, Yasunaga M, Murayama Y, Sakurai R, Ishii K, Fujiwara Y: Seven-year effects of Intergenerational volunteer activities on everyday activities in older adults, The Gerontological Society of America's 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, 2016.11.16-20
 - 11) Sugiyama M, Sakuma N, Ura C, Miyamae F, Hirotohi N, Inagaki H, Awata S: Are Questionnaire-Based Physical Function Assessments Associated with Cognitive Impairment?. The Gerontological Society of America 69th Annual Scientific Meeting, New Orleans, AL, 2016.11.15-20 (Poster)
 - 12) Awata S: Impact of long-term care insurance system on dementia and mental health policy in late life: Experiences in Japan. The 12th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry, 2017.3.12. Taipei (Keynote Speech).
- ## (2) 国内
- 1) 増井幸恵, 高山緑, 石岡良子, 小川まどか, 菅原育子, 菅沼真樹: 後期高齢者、超高齢者の地域の催しへの参加の関連要因の検討—K2 study データを用いて—. 日本発達心理学会第27回大会, 北海道, 2016.4.29-5.1 (ポスター)
 - 2) 水木 麻衣子, 吉澤 明孝, 高瀬 義昌, 大木 一正, 篠原 昭典, 枝広 あや子, 小嶋 純. 在宅医療における服薬支援の課題. 第14回日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会, 東京, 2016.5.28-29
 - 3) 粟田主一: 認知症とともに生きる地域・社会・環境. 第112回日本精神神経学会学術総会, 2016.6.2-6.3, 千葉 (シンポジウム).
 - 4) 粟田主一: 我が国の認知症施策の現状と課題. 第58回日本老年医学会, 2016.6.8-6.10, 金沢 (セミナー).
 - 5) 粟田主一: 新オレンジプランとこれからの認知症ケア. 第18回日本在宅医学会・第21回日本在宅ケア学会合同大会, 2016.7.16-2016.7.17, 東京 (指定講演).
 - 6) 畠山啓, 古田光, 扇澤史子, 湊理恵, 今村陽子, 岡本一枝, 齊藤久美子, 白取絹江, 粟田主一: A区における認知症アウトリーチチームの現状と課題. ソーシャルワーカーの視点から. 第17回日本認知症ケア学会, 2016.6.4-6.5, 神戸 (ポスター).
 - 7) 扇澤史子, 古田光, 畠山啓, 湊理恵, 今村陽子, 岡本一枝, 白取絹江, 齊藤久美子, 粟田主一: 認知症早期発見・早期診断推進事業の多職種チームにおける心理職の役割と有用性の検討. 総合アセスメントの一助となる心理臨床的支援のあり方の考察. 第17回日本認知症ケア学会, 2016.6.4-6.5, 神戸 (ポスター).
 - 8) 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 新川祐利, 稲垣宏樹, 杉山美香, 井藤佳恵, 伊集院陸雄, 岡村毅, 粟田主一: 認知症アセスメントシート(DASC-21)における認知症疑いの関連要因について. 第17回日本認知症ケア学会, 2016.6.4-6.5, 神戸 (ポスター).
 - 9) 本川 佳子, 枝広 あや子, 杉山 美香, 稲垣 宏樹, 宇良 千秋, 宮前 史子, 岡村 毅, 村山 洋史, 平野 浩彦, 粟田 主一. 地域在住高齢者におけるフレイル有病率と認知機能・生活状況・主観的健康感等に関する検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 - 10) 村山 洋史, 杉山 美香, 稲垣 宏樹, 宇良 千秋, 宮前 史子, 枝広 あや子, 岡村 毅, 本川 佳子, 粟田 主一. 地域レベルのソーシャルキャピタルは認知症への不安感と関連するか? 都市部在住高齢者での検討. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 - 11) 佐久間尚子, 安永正史, 鈴木宏幸, 大神優子, 桜井良太, 村山陽, 内田勇人, 石井賢二, 新開省二, 藤原佳典: シニア読み聞かせボランティア活動REPRINTSの7年間の継続効果: 質問紙から見た日常の認知機能への影響、日本老年社会科学学会第58回大会、松山、2016.6.11-6.12
 - 12) 佐久間尚子、宇良千秋、宮前史子、新川祐利、稲垣宏樹、井藤佳恵、伊集院陸雄、岡村毅、杉山美香、粟田主一: 都市部在住高齢者におけるMMSEとDASC-21および性別・年齢・教育年数との関係、第31回日本老年精神医学会、金沢、2016.6.23-24
 - 13) 村山洋史, 杉山美香, 稲垣宏樹, 宇良千秋, 宮前史子, 枝広あや子, 岡村毅, 本川佳子, 粟田主一: 地域レベルのソーシャルキャピタルは認知症への不安感と関連するか? 都市部在住高齢者における検討. 第17回認知症ケア学会, 神戸, 2016.6.4-5

- 14) 龍野洋慶, 神出計, 樺山舞, 杉本研, 稲垣宏樹, 石崎達郎, 新井康通, 池邊一典, 権藤恭之, 樂木宏実: 高齢期におけるTOMM40遺伝子の認知機能低下への関与(SONIC研究3年間の追跡による知見). 第58回老年医学学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
- 15) 稲垣宏樹, 杉山美香, 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 栗田圭一: 都市部高齢者を対象とした包括的健康調査における3年間の変化: 年齢群による変化の違いに着目して. 日本老年社会科学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
- 16) 稲垣宏樹: 高度に加齢が進行した時, 人の知的機能はいかに維持され, また衰退するのか: 東京百寿者研究, 全国超百寿者研究の結果から: シンポジウム1「百寿者研究の勧め」. 日本老年社会科学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
- 17) 稲垣宏樹, 杉山美香, 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 栗田圭一: 地域在住高齢者の精神的健康と外出状況との関連. 第31回日本老年精神医学会, 金沢, 2016.6.23-24
- 18) 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊裕, 吉田英世, 大淵修一, 河合恒, 解良武士, 井原一成, 藤原佳典, 平野浩彦. 地域在住高齢者を対象としたフレイルと栄養状態の検討. 第58回日本老年医学学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
- 19) 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 村上正治, 白部麻樹, 本川佳子, 須磨紫乃, 小原由紀, 森下志穂, 栗田圭一. 認知症高齢者に対する適時適切な歯科治療の提供に資する検討~FASTを基準に~. 第27回日本老年歯科医学会総会・学術大会, 徳島, 2016.6.18-19 (優秀ポスター賞受賞)
- 20) 小原由紀, 森下志穂, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦. 要介護高齢者の口腔機能および栄養状態の経年変化—2年間の縦断データの分析—. 第27回日本老年歯科医学会・学術大会, 徳島, 2016.06.18 (優秀ポスター賞受賞)
- 21) 森下志穂, 平野浩彦, 渡邊裕, 枝広あや子, 小原由紀, 村上正治, 菊谷武. 軽度認知障害(MCI)高齢者の口腔機能低下に関する研究. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 22) 白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 飯島勝矢, 菊谷武, 本川佳子, 村上正治, 枝広あや子, 渡邊裕, 地域在住高齢者の歯周疾患実態調査報告—口腔の状態と機能, および全身との関連—. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 23) 須磨紫乃, 渡邊裕, 松下健二, 森下志穂, 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 平野浩彦. アルツハイマー型認知症(AD)と軽度認知機能障害(MCI)の特性の比較検討. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 24) 村上正治, 佐藤麻祐子, 高田靖, 高草木章, 枝広あや子, 山岸春美, 藤田まどか, 宮本敦子, 蛭谷明希, 中村全宏. 在宅ターミナルケア患者の口腔難治性疾患に対する口腔管理-地域医療連携システムを用いた取り組み-. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 25) 佐藤麻祐子, 村上正治, 宮本敦子, 蛭谷明希, 会沢咲子, 藤田まどか, 山岸春美, 枝広あや子, 高草木章, 高田靖, 中村全宏. 周術期口腔機能管理中に発症した顎骨壊死を医療連携によって改善できた一症例. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 26) 梅木賢人, 平野浩彦, 渡邊裕, 小原由紀, 枝広あや子, 本川佳子, 村上正治, 須磨紫乃, 森下志穂, 白部麻樹, 五十嵐憲太郎, 河相安彦. 高齢者のフレイルとオーラル・フレイルとの関連に関する検討 ~要介護高齢者の四肢骨格筋量と咬筋厚との関連より~. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19
- 27) 堀部耕広, 平野浩彦, 渡邊裕, 枝広あや子, 小原由紀, 本川佳子, 白部麻樹, 吉田英世, 大淵修一, 上田貴之, 櫻井薫. 地域在住高齢者における咬合力および咀嚼能力の低下とフレイルとの関連. 日本老年歯科医学会第27回学術大会, 徳島, 2016.06.18-19 (優秀演題賞受賞)
- 28) 宇良千秋, 宮前史子, 佐久間尚子, 新川祐利, 稲垣宏樹, 杉山美香, 井藤佳恵, 伊集院陸雄, 岡村毅, 栗田圭一: 認知症アセスメントシート(DASC-21)における認知症疑いの関連要因について. 第17回日本認知症ケア学会大会. 神戸国際展示場. 2016.6.4-6.5.
- 29) 宮前史子, 畠山啓, 齋藤久美子, 扇澤史子, 岡本一枝, 今村陽子, 白取絹恵, 福島康浩, 筒井卓実, 山邊義彬, 須田潔子, 古田光, 栗田圭一: 離島における認知症支援の課題: フォーカスグループディスカッションの内容分析から. 第21回日本老年精神医学会, 金沢, 2016.6.23-24.
- 30) 杉山美香, 宇良千秋, 稲垣宏樹, 宮前史子, 村山洋史, 枝広あや子, 岡村毅, 本川佳子, 栗田圭一. 自分自身の将来の認知症に関する不安感とその関連要因 認知機能, 身体機能, 心理社会的機能を中心とした探索的研究. 第31回日本老年精神医学会, 金沢, 2016.6.23-24
- 31) 栗田圭一: BPSD. 日本老年看護学会, 第21回学術集会, 2016.7.23-7.24, 埼玉(教育セミナー).
- 32) 小川まどか, 栗延孟, 高橋龍太郎, 渡辺修一郎, 都築和代, 倉渕隆, 鳥海吉弘, 長井達夫, 宮良拓百, 岡島慶治: 住戸の気密・断熱性能の違いが高齢者の血圧および主観評価に与える影響. 2016年度日本建築学会大会[九州], 2016.8.24-26, 福岡(口頭発表)
- 33) 栗延孟, 小川まどか, 高橋龍太郎, 都築和代, 渡辺修一郎, 藤村寛子: 入浴時の温熱環境が高齢者の血圧に与える影響. 2016年度日本建築学会大会[九州], 2016.8.24-26, 福岡(口頭発表)
- 34) 江口洋子, 広瀬信義, 新村秀人, 稲垣宏樹, 新井康通, 三村将: ACE-IIIを用いた百寿者の認知機能に関する検討—全国超百寿者調査の結果から—. 第40回日本神経心理学学会学術集会, 熊本, 2016.9.15-16
- 35) 白部麻樹, 渡邊裕, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 恒石美登里, 吉田英世, 大淵修一. 地域在住高齢者の口腔機能に関する実態調査報告-年齢5歳ごとの変化率の検討-. 日本歯科衛生学会第11回学術大会, 広島, 2016.09.17-19
- 36) 枝広あや子, 本川佳子, 白部麻樹, 平野浩彦, 渡邊裕, 中弥生, 安藤雄一, 荒井秀典. 介護保険施設を対象とした経口維持管理加算に関するヒアリング調査報告. 第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.23-24
- 37) 栗田圭一: 認知症予防とMCIの診断後支援. 第6回日本認知症予防学会, 2016.9.23-9.25, 仙台(シンポジウム).
- 38) 杉山美香, 稲垣宏樹, 栗田圭一: 地域在住高齢者への認知症の早期対応~訪問調査から予防的ケアとしての見守り支援に向けて~. 第6回日本認知症予防学会学術集会, 東北大学百周年記念会館, 仙台, 2016.9.23-25. (浦上賞受賞)

- 39) 渡辺修一郎, 小川まどか, 栗延孟, 高橋龍太郎, 都築和代: 住宅改修が冬季の高齢者の収縮期血圧と室温および温冷感との関連に及ぼす影響. 第75回日本公衆衛生学会総会, 2016.10.26-28, 大阪 (口頭発表)
- 40) 栗田主一: 認知症とともに希望と尊厳をもって生きることができる社会とは何か. リハビリテーション合同研究大会茨城2016, 2016.10.27-10.29, つくば (シンポジウム).
- 41) 小川まどか, 栗延孟, 高橋龍太郎, 渡辺修一郎, 都築和代, 倉淵隆, 鳥海吉弘, 長井達夫, 宮良拓百, 甲野祥子, 岡島慶治: 気密・断熱性の異なる住戸における起立負荷試験時の血圧の変化. 日本応用老年学会, 2016.10.29, 大阪 (口頭発表)
- 42) 栗田主一: 認知症疾患医療センターと地域包括ケアシステム. 第5回日本精神科医学会学術大会, 2016.11.16-11.17, 仙台 (シンポジウム).
- 43) 栗田主一: 認知症と共に暮らせる社会に向けて. 第35回日本認知症学会, 2016.12.1-12.3, 東京 (シンポジウム).
- 44) 栗田主一: わが国の認知症施策の動向. 第35回日本認知症学会, 2016.12.1-12.3, 東京 (教育セミナー).
- 45) 栗田主一: 災害後の認知症高齢者支援とDementia Friendly Community. 第36回日本社会精神医学会, 2017.3.3-3.4, 東京 (シンポジウム).
- 46) 栗田主一: Dementia Friendly Communityをめざして. 第36回日本社会精神医学会, 2017.3.3-3.4, 東京 (シンポジウム)
- 6) Morishita S, Watanabe Y, Ohara Y, Edahiro A, Sato E, Suga T, Hirano H. Factors associated with older adults' need for oral hygiene management by dental professionals. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Aug; 16(8): 956-62. doi:10.1111/ggi.12585. PMID: 26338200 (査読有)
- 7) Kera T, Edahiro A, Hirano H, Kawai H, Yoshida H, Kojima M, Fujiwara Y, Ihara K, Obuchi S; TOSHIMA Research Group. Alternating Motion Rate to Distinguish Elderly People With History of Pneumonia. *Respir Care*. 2016 Sep 27. pii: respcare.04609. [Epub ahead of print] PMID: 27677306 (査読有)
- 8) Watanabe Y, Hirano H, Arai H, Morishita S, Ohara Y, Edahiro A, Murakami M, Shimada H, Kikutani T, Suzuki T. Relationship Between Frailty and Oral Function in Community-Dwelling Elderly Adults. *J Am Geriatr Soc*. 2016 Sep 22. doi: 10.1111/jgs.14355. [Epub ahead of print] PMID: 27655106 (査読有)
- 9) Takagi D, Hirano H, Watanabe Y, Edahiro A, Ohara Y, Yoshida H, Kim H, Murakami K, Hironaka S. Relationship between skeletal muscle mass and swallowing function in patients with Alzheimer's disease. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 May 6. doi: 10.1111/ggi.12728. [Epub ahead of print] PMID: 27153367 (査読有)
- 10) Kim H, Hirano H, Edahiro A, Ohara Y, Watanabe Y, Kojima N, Kim M, Hosoi E, Yoshida Y, Yoshida H, Shinkai S. Sarcopenia: Prevalence and associated factors based on different suggested definitions in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Mar;16 Suppl 1:110-22. doi: 10.1111/ggi.12723. Review. PMID: 27018289 (査読有)

2 誌上発表

(1) 原著

- 1) Sakuma N, Ura C, Miyamae F, Inagaki H, Ito K, Niikawa H, Ijuin M, Okamura T, Sugiyama M, ★Awata S: Distribution of Mini-Mental State Examination Scores among Urban Community-Dwelling Older Adults in Japan. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, in press. DOI: 10.1002/gps.4513 (原著、査読あり, IF: 2.699)
- 2) Okamura T, Ura C, Miyamae F, Sugiyama M, Niikawa H, Ito K, Awata S: Excessive daytime sleepiness is related to subjective memory impairment in late life: a cross-sectional community-based study. *Psychogeriatrics* 16 (3) 196-201, 2016.
- 3) Okamura T, Awata S, Ito K, Takiwaki K, Matoba Y, Niikawa H, Tachimori H, Takeshima T: Elderly men in Tokyo homeless shelters who are suspected of having cognitive impairment. *Psychogeriatrics* [Epub ahead of print] doi:10.1111/psyg.12211.
- 4) Niikawa H, Okamura T, Ito K, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Ijuin M, Inagaki H, Sugiyama M, ★Awata S: Association between polypharmacy and cognitive impairment in an elderly Japanese population residing in an urban community. *Geriatr Gerontol Int*. 2016 Sep 15. doi: 10.1111/ggi.12862. [Epub ahead of print] PubMed PMID:27628036.
- 5) Sakurai R, Yasunaga M, Murayama Y, Ohba H, Nonaka K, Suzuki H, Sakuma N, Nishi M, Uchida H, Shinkai S, Rebok G, Fujiwara Y: Long-term effects of an intergenerational program on functional capacity in older adults: results from a seven-year follow-up of the REPRINTS study. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 2016, 64: 13-20. (原著、査読あり)
- 11) 白部 麻樹, 平野 浩彦, 小原 由紀, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田 英世, 大淵 修一. 都市部在住高齢者を対象とした歯周疾患実態調査. 老年歯科医学 (0914-3866)31巻1号 Page18-27(2016.06) (査読有)
- 12) 服部佳功, 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦, 古屋純一, 中島純子, 田村文誉, 北川昇, 堀一浩, 原哲也, 吉川峰加, 西恭宏, 永尾寛, 市川哲雄, 櫻井薫, 一般社団法人日本老年歯科医学会ガイドライン委員会. 認知症患者の歯科治療に対する疑問と問題点. *Clinical Question調査から*. 老年歯科医学 (0914-3866)31巻1号 Page3-8(2016.06) (査読有)
- 13) 菊地和則, 伊集院陸雄, 栗田主一, 鈴木隆雄: 認知症の徘徊による行方不明死亡者の死亡パターンに関する研究. *日本老年医学雑誌*, 53: 363-373, 2616 (査読あり).
- 14) 小園麻里菜, 権藤恭之, 小川まどか, 石岡良子, 増井幸恵, 中川 威, 田淵 恵, 立平起子, 池邊一典, 神出 計, 新井康通, 石崎達郎, 高橋龍太郎: 余暇活動と認知機能との関連-地域在住高齢者を対象として-. *老年社会科学*. 38(1):32-44, 2016 (査読あり).

(2) 総説

- 1) ◎★Awata S, Sugiyama M, Ito K, Ura C, Miyamae F, Sakuma N, Niikawa H, Okamura T, Inagaki H, Ijuin M: Development of the Dementia Assessment Sheet for Community-based Integrated Care System. *Geriatrics & Gerontology International* 16 Suppl 1: 123-131, 2016. (査読あり)
- 2) ◎★栗田主一: 認知症になっても希望と尊厳をもって生きることができる地域社会をめざして. 東京都医師

会雑誌, 69: 59-63, 2016.

- 3) ◎★栗田主一：認知症支援と社会システム. 医学のあゆみ, 257: 555-560, 2016.
- 4) ◎★栗田主一：認知症初期集中支援チーム. 臨床精神医学, 45: 657-661, 2016.
- 5) ◎★栗田主一：認知症の診療体制-新オレンジプランの現状と課題. 日本医師会雑誌, 144:2246-2250, 2016.
- 6) ◎★栗田主一：地域包括ケアシステムと認知症の医療連携. 老年医学, 254: 475-478, 2016.
- 7) ◎★栗田主一：認知症医療と新オレンジプラン. 日本臨床, 74: 499-504, 2016.
- 8) ◎★栗田主一：フレイルの思想と高齢者の精神保健. 老年精神医学雑誌, 27: 540-544, 2016.
- 9) ◎★栗田主一：認知症の診断後支援におけるアドバンス・ケア・プランニング. Modern Physician 36: 859-863, 2016.
- 10) ◎★栗田主一：認知症とともに生きる社会をつくる. 認知症になっても希望と尊敬をもって暮らせる社会をめざして. 保健師と看護師の結核展望. 54: 12-17, 2016.
- 11) ◎★栗田主一：認知症の人の暮らしを支える総合支援体制の構築. 社会精神医学雑誌, 25: 352-357, 2016.
- 12) ◎★栗田主一：わが国の認知症施策の未来. 質の高い診断と診断後支援. 老年精神医学雑誌, 27: 993-1000, 2016.
- 13) ◎★枝広あや子. 認知症の嚥下障害の特徴と剤型への配慮. 北海道薬剤師会雑誌 33(10), Page81-86, 2016 (査読なし)
- 14) ◎★枝広あや子, 平野浩彦. 特集 終末期における患者さんの“物語り”を考えるChapter2「終末期」に歯科衛生士はどのようにかかわることができるか. デンタルハイジーン36巻12号P1298-1301, 2016.12 (査読なし)
- 15) ◎★栗田主一：認知症の人の支援を重視した生活実態調査と施策への反映方法に関する研究. 老年精神医学雑誌28, 34-40, 2017 (査読なし)

3 著書等

- 1) 栗田主一：地域包括ケアシステムにおける認知症総合アセスメントDASC-21標準テキスト. メディア・ケアプラス, 東京, 2016 (全98頁).
- 2) 栗田主一監修：保健師・医療・看護・介護関係従事者のための「認知症」ガイドブック. 母子保健事業団, 東京, 2016 (全161頁).
- 3) 栗田主一：かかりつけ医が認知症ケアで果たすべき役割. 西村周三監修：医療白書2016-2017版, 新しい地域医療への挑戦. 日本医療企画, 東京, p55-p61, 2016.
- 4) 栗田主一：離島における認知症高齢者の支援. 大島伸一監修, 鳥羽研二編集代表：こらからの在宅医療, 指針と実務. グリーンプレス, 東京, p260-p265, 2016.
- 5) 稲垣宏樹：IV基礎理論②心理学的加齢理論5 二重コンポーネントモデル. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 6) 稲垣宏樹：VIII 認知情報処理④高次の情報処理1 意思決定・推論. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 7) 稲垣宏樹：VIII 認知情報処理④高次の情報処理2 知能. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 8) 稲垣宏樹：VIII 認知情報処理④高次の情報処理3 日常知能. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之

編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016

- 9) 稲垣宏樹：VIII 認知情報処理④高次の情報処理4 創造性. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 10) 稲垣宏樹：VIII 認知情報処理④高次の情報処理5 知恵. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 11) 稲垣宏樹：XIV 社会②対人関係2 世代間ギャップ. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 12) 稲垣宏樹：XVIII 社会⑥現代の問題2 情報社会と高齢者. よくわかる高齢者心理学(佐藤真一, 権藤恭之編著), ミネルヴァ書房, 京都, 2016
- 13) 枝広あや子(単著) 認知症の人の「食べられない」「食べたくない」解決できるケア. 日総研出版, 名古屋, 2016.06
- 14) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q11患者さんがきちんと薬を飲んでいるかをどのように把握すればよいでしょうか. 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P52-63, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 15) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q12加齢による機能低下や、疾患による機能低下を考慮した服薬指導の工夫を教えてください. 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P64-72, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 16) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q13口腔内の残薬や傷の有無などを確認するための工夫を教えてください. 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P74-77, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 17) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q14薬の副作用で起こる口腔内所見や嚥下障害(薬剤性嚥下障害)には、どのようなものがありますか. 薬剤性嚥下障害を疑う場合の対応を教えてください. 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P78-85, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 18) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q15誤嚥性肺炎の予防のための注意点を教えてください. 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P86-92, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 19) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法Q16患者が内服できるような工夫と、剤型や内服回数を変更するための医師への紹介について、手順やトラブルを回避する工夫を教えてください. (患者さんの身体機能や介護者を含めた社会環境への適応を考え、内服可能になる工夫). 在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ. 吉澤明孝編集代表. P94-99, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 20) 枝広あや子(分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法. Check患者さんの服薬能力チェックリスト①-④. 在宅訪問・かかりつけ

- 薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ。吉澤明孝編集代表。P109-112, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
- 21) 枝広あや子 (分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法。Check医師への疑義紹介時の確認事項チェックリスト。在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ。吉澤明孝編集代表。P113, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
 - 22) 枝広あや子 (分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法。Check患者さんの口腔内確認チェックリスト。在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ。吉澤明孝編集代表。P114-115, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
 - 23) 枝広あや子 (分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法。Check薬剤性嚥下障害を疑うチェックリスト。在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ。吉澤明孝編集代表。P116, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
 - 24) 枝広あや子 (分担執筆) Part3 身体的服薬能力と服薬管理能力の把握方法と改善方法。Check誤嚥性肺炎のリスクチェックリスト。在宅訪問・かかりつけ薬剤師のための服薬管理ははじめの一步 コツとわざ。吉澤明孝編集代表。P117, 株式会社じほう, 東京, 2016.08
 - 25) 宇良千秋 認知症の予防 荒木信夫・丸木雄一 (編) 神経内科外来シリーズ③ もの忘れ外来。p54-62, メジカルビュー社, 東京, 2016.9.
 - 26) 宇良千秋 認知症予防の最前線—生活の質を保つために— 日本心理学会 (監), 長田久雄・箱田裕司 (編) 超高齢社会を生きる—老いに寄り添う心理学—。P133-146, 誠信書房, 東京, 2016.12.
6. 本川佳子, 安田純, 枝広あや子, 白部麻樹, 田中弥生, 平野浩彦, 渡邊裕. 第32回日本静脈経腸栄養学会 (NUTRI YOUNG INVESTIGATOR AWARD) 「要介護高齢者の転帰と栄養関連指標の関係 ~特別介護老人ホームにおける長期観察研究~」 2017.2.24
 7. Murakami M, Hirano H, Watanabe Y, Sakai K, Kim H, Katakura A. Best Article Award 2015 Geriatrics Gerontology International 優秀論文賞 2016.6.8

認知症・うつ予防介入

1. 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 村上正治, 白部麻樹, 本川佳子, 須磨紫乃, 小原由紀, 森下志穂, 粟田主一. 第27回日本老年歯科医学会学術大会 優秀ポスター賞 「認知症高齢者に対する適時適切な歯科治療の提供に資する検討~FASTを基準に~」 2016.6.18
2. 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 高城大輔, 弘中祥司, 粟田主一. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 奨励賞 「認知症高齢者の摂食嚥下機能と栄養状態の変化—FASTステージ別の検討—」 2016.9.23 (発表日 2015.9.10)
3. 杉山美香, 稲垣宏樹, 粟田主一. 第6回日本認知症予防学会学術集会浦上賞 「地域在住高齢者への認知症の早期対応~訪問調査から予防的ケアとしての見守り支援に向けて~」 2016.9.23
4. 宮前史子, 宇良千秋, 佐久間尚子, 新川祐利, 稲垣宏樹, 伊集院陸雄, 岡村毅, 杉山美香, 粟田主一: 日本老年医学雑誌優秀論文賞 「自記式認知症チェックリストの開発:(2)併存妥当性と弁別的妥当性の検討. 日本老年医学雑誌53: 351-362, 2016.」 2017.3

受賞

介護予防の促進

1. 小原由紀, 森下志穂, 白部麻樹, 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊裕, 平野浩彦. 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会 優秀ポスター賞 「要介護高齢者の口腔機能および栄養状態の経年的変化 2年間の縦断データの分析」 2016.6.19
2. 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 村上正治, 白部麻樹, 本川佳子, 須磨紫乃, 小原由紀, 森下志穂, 粟田主一. 日本老年歯科医学会第27回総会・学術大会 優秀ポスター賞 「認知症高齢者に対する適時適切な歯科治療の提供に資する検討 FASTを基準に」 2016.6.19
3. 柴田真弓, 渡邊裕, 森下志穂, 平野浩彦, 小原由紀, 後藤百合, 河原千里, 三角洋美, 山口ひさ子, 土田満. 日本歯科衛生学会第10回ポスター賞 「二次予防対象高齢者における複合プログラム介入の効果検証」 2016.9.18
4. 枝広あや子, 平野浩彦, 渡邊裕, 小原由紀, 白部麻樹, 本川佳子, 高城大輔, 弘中祥司, 粟田主一. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 奨励賞 「認知症高齢者の摂食嚥下機能と栄養状態の変化—FASTステージ別の検討—」 2016.9.23 (発表日 2015.9.10)
5. 柴田真弓, 渡邊裕, 土田満, 山口ひさ子. 第75回日本公衆衛生学会総会 示説 (ポスター) 賞 「二次予防事業における複合プログラムの効果検証」 2016.10.28

福祉と生活ケア研究チーム

チームリーダー：石崎 達郎

1 研究チームの概要・目的

本研究チームは、要支援・要介護状態にある高齢者や後期・超高齢期高齢者における生活機能、精神的健康状態、生活の質、そして生活環境向上に資する研究の実践と社会への成果還元をチーム研究の目的としている。対象は高齢者ケアに関わるすべての人々や組織とし、居宅・施設・地域における高齢者ケアの支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進する。

3つの研究テーマ、「在宅療養支援方法の開発」、「要介護化の要因解明と予測」、そして「終末期ケアのあり方の研究」について研究活動を行っており、①在宅療養環境の改善に関する研究、②要介護者の地域包括ケアシステムに係る医療・介護の連携に関する研究と家族介護者研究、③終末期ケアを支える仕組み作りと普及に関する研究に取り

組んでいる。

各テーマにおける研究の遂行を通じ、研究所・チームのミッションである高齢者の地域生活支援に資するべく、学術・実務の両面にわたって学際的な研究活動を展開している。

2 今後の展望

第二期中期計画の4年目が経過し、第二期から始まった研究で研究成果がまとめられつつある。当チームは、高齢者の福祉・生活ケアに関わるすべての人々や組織を対象とする点で、他の2チームと差別化を図っているユニークな研究チームであり、居宅・施設・地域における高齢者ケアの支援のあり方やケアの質の向上に資する研究を推進するために、今後も引き続き、学術面と実践面の両者において意義のある老年学研究を遂行していきたい。

【参考】第二期中期計画における年度別研究計画

在宅療養支援方法の開発

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
在宅療養者の能力を維持・向上する研究	在宅高齢者の特徴を明らかにし、在宅療養者の能力低下や能力向上の要因を明らかにする	研究フィールドの設定。80歳高齢者の調査。	郵送調査・会場招待型調査の実施。90歳高齢者の調査。生活機能障害と老年的超越の関係。	在宅療養者の操作的定義とその特徴。超高齢者の精神的健康関連要因。多剤併用の運動機能に対する影響。	在宅療養者の潜在的ニーズの把握。老年的超越を促す要因の把握。訪問調査による在宅療養者の実態把握。	在宅療養者の能力を維持・向上する介入方法の提言。
在宅療養限界を延長する制度の研究	いつまでも在宅療養を継続するために必要な制度を明らかにする。	長期リハ必要病態像の類型化。要介護施設における虐待の実態把握。	法外施設の虐待の実態調査。	長期リハの介護予防事業所での受け入れ可能性。徘徊による行方不明死亡の要因。	リハビリテーション専門職による地域リハ活動の推進。権利擁護のためのチームアプローチの研究	地域包括ケアにおけるリハのあり方への提言。在宅療養高齢者の権利擁護のための専門職・自治体への提言
在宅療養者のくらしを豊かにする研究	在宅高齢者の生活を豊かにするための方法を明らかにする	療養型施設等におけるユマニチュードケア研修の作成	療養型施設等におけるユマニチュードケアの効果。地域づくりによる介護予防アクションリサーチ。	在宅療養家族へのユマニチュードケアの導入。化粧品ケアの健康度自己評価改善効果。	在宅療養家族へのユマニチュードケアの効果。新しい総合事業による地域で在宅療養者を支えるモデルの作成。	認知症高齢者を地域で見続けるための制度に関する提言。住民主体の生活支援サービス提供のための教育マニュアルの作成

要介護化の要因解明

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
継続性・包括性の高い長期ケアの提供に関する研究開発	医療や介護サービスを必要とする虚弱高齢者が、生活場所・療養場所を移動する時に生じる医療・介護上の課題について現状把握・要因分析や先行事例の収集等を行う研究を基盤として、ケアの継続性と包括性が保証され、高齢者が安心して医療・介護を利用できるサービス提供プログラムを研究開発することを目的とする。	医療介護レセプトデータベースと自治体の介護ニーズ調査等を分析し、地域包括ケアシステムの導入に係る課題とその対応策を明らかにする。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステム導入に係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を検討する。	地域単位で医療・介護ニーズを分析・検討し、地域包括ケアシステムに係る課題とその対応策を提言する。

終末期ケアのあり方の研究

テーマ	研究目標・目的	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
終末期ケアを支える仕組み作りと普及に関する研究	良質な看取りケアが提供できる体制づくり、本人の希望に沿って終末期ケアを提供する体制づくりに関する研究を中心として、本人の終末期医療に関する意思を事前に書き残す取り組みなど、本人、家族、医療・福祉サービス提供者等、関係者間の合意に基づくケア実践を支える研究を進める。	終末期ケア実践支援に関する研究成果の整理と課題に関する議論	終末期ケア実践支援プログラムの開発、試行と汎用性向上に向けた実践者との討論	終末期ケア実践支援プログラムの試行を通じた実践及び制度上の課題分析	終末期ケア実践支援プログラムの評価	終末期ケア実践支援プログラムの普及と定着に向けた提案

在宅療養支援方法の開発

構成メンバー

テーマリーダー：大淵修一

研究員：伊東美緒 河合恒 菊地和則 増井幸恵

非常勤研究員：解良武士

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

外部評価では、テーマで行われている個別の研究プロジェクトを統合し、明確な方向性を示すことが求められた。

そこで、今年度は「在宅療養環境を改善するための自治体の支援」に絞って個別の研究プロジェクトを収束した。具体的には、地域包括ケアにおける地域住民と共に行う介護サービスモデルを実現するための自治体の支援について研究と実践をおこなった。効果の検証については29年度に行う予定である。

【背景】

平成27年の介護保険法改正により、要支援者に対する通所・訪問介護サービスが地域支援事業に移行されるに伴い、介護サービスについて住民の関与が求められた。一方、介護サービスの様な手段的な支援は、社会参加テーマで行われる情緒的な支援に比較して、住民が担いにくいものであり、新たな規範的統合と地域基盤が必要である。

そこで、本テーマでは自治体と連携をしながら、地域住民が地域の介護基盤を活用しながら手段的支援を行うモデルを策定することを目標とした。

【方法】

協力自治体において、地域住民が担える介護サービスの範疇とそれを支える地域の介護基盤を明らかにする。概念モデルを策定し地域の介護基盤を担う様々な関係者と実現可能性について討議し実施モデルを策定する。実施モデルを実現するために必要な項目を列挙し、必要に応じて解決策を提示する。策定された実現モデルを自治体でモデルを行い、その効果を利用者、地域の住民、地域の介護基盤を担う関係者別に調査を行う。

上記の計画に基づき、テーマのメンバーが一丸

となって研究を進め、2つの自治体でモデル実施まで達成した。

【その根拠】

本年度は、東久留米市、小金井市において、要支援者に対する地域住民への支援モデルを策定し、事業者への教育を行い、8つの事業所でモデル実施を行った。利用者、支援する住民、事業者に対して事前の質問紙調査を行う事ができた。

在宅療養環境をより良くするための自治体支援について、介護予防・日常生活総合事業を活用する形でモデル実施を行ったが、初めての取り組みであり、また沢山の関係者の連携で実施しなければならない取り組みである事から実施後に明らかになった課題などが山積されているが、行政事業として実施できたことは高い成果と考えられる。また、この取り組みは業界紙、一般紙で紹介され社会的にも評価された。

【新しい知見】

この研究は開始したばかりである。しかし、地域の規範的統合には、基本チェックリストデータを活用したワークショップが有用である事がわかり、学術的に一般化可能ではないかと考えられた。また、住民を活用した生活支援モデルは、サービスの質を落とさないだけで無く、活用される住民、それを支える事業者にとっても有用であることも新しい知見と考えられた。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<長期縦断研究との連携>

社会参加と地域保健研究チーム、自立促進と介護予防研究チーム、糖尿病・代謝・内分泌内科、循環器内科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、豊島区保健福祉部高齢者福祉課、大正大学、NPO法人コミュニティランドスケープ

<通所事業所の元気づくり拠点化>

小金井市、東久留米市

<一人暮らし高齢者の金銭管理>

東京都権利擁護支援センター、北里大学医療衛生学部医療情報学研究室、株式会社Info Deliver

<認知症を持つ人の地域包摂>

自立促進と介護予防研究チーム、スコットランド開発庁、Stirling University

3 今後の展望

地域包括支援センターの困難事例の調査に基づき策定された、今年度実施した自治体支援モデルの要支援者、地域住民、事業者への有用性が明らかになれば、在宅療養環境を改善するための自治体の支援について、中期計画期間内に有用な具体的な方略をしめすことができる。

4 その他

本テーマは、東京都内の自治体との深い信頼関係が構築されている。研究の成果をすぐに自治体の施策につなげることができる。

昨年度の外部評価結果に基づき、個々の研究員による独自の研究テーマに制限を加え、在宅療養支援環境を改善するために必要な直近の課題に絞り研究を遂行した。これにより、地域診断、計画策定、解決策の提案などが加速され、連携自治体によって受け入れやすいモデルを提案することができた。これまでは福祉のもつダイバーシティを是としてきたが、今回の指摘によって選択と集中ができた。

要介護化の要因説明

構成メンバー

テーマリーダー：石崎達郎

研究員：涌井智子 森寛子 光武誠吾

菅原康宏（兼務）

非常勤研究員：太田美緒 寺本千恵 大久保豪
藤本修平

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

1) 要介護高齢者の医療ニーズに関する研究

1. 後期高齢者における多病の有病状況とパターン：被保険者数135万人の東京都後期高齢者医療広域連合レセプトデータ（以下、都後期高齢者医療レセデータ）を用い、22種類の慢性疾患を対象に、多病の有病率や2疾患・3疾患組合せパターン、基本属性・受診医療機関の特性との関連を分析し、論文執筆中である。
2. 多剤処方の実態把握に関する研究：外来診療で処方された医薬品（医薬品中分類として134種類）の処方の有無を同定し、多剤処方（種類数5種類以上と定義）の出現割合を把握した。学会報告・論文執筆のための分析を行っている。
3. 後期高齢者における保健事業のあり方に関する

研究：健康診査を受けた都内在住の後期高齢者（56万人）の高血圧、糖尿病、脂質異常症の有病率や治療状況を分析し、論文執筆中である。

4. 大都市圏における在宅医療の実態把握：2014年4月診療報酬改定の影響評価、在宅医療患者の居住地と訪問診療提供医療機関の所在地との関連、入院先医療機関の所在地等を分析し、大都市圏の在宅医療提供体制のあり方を検討している。厚労省医政局在宅医療推進室からの要望で、在宅医療の医療経済的優位性の検証を試みている。

2) 介護ニーズに関する研究

1. 家族介護実態の日米比較に関する研究：昨年度実施した米国の介護者調査データ解析を進展させて日米比較研究を実施するために、国民生活基礎調査の個票データを入手し、日本の家族介護のトレンド把握、介護のタスク分担の実態把握を検討している。分析はおおむね順調に進んでいる。
2. 親の終末期を見据えた介護準備に関する研究：在宅介護継続中だけでなく、看取りを見据えた介護の提供によるエイジングインプレイス（aging in place）を実現するため、親の終末期を見据えた介護に向けて、介護準備を促進するため、約1000名の子ども世代の調査データを検討し関連要因を検討した。学会報告を終了し、論文執筆を進めている。
3. 働く中高年の介護レディネス（備え）に関する研究：国民生活基礎調査の分析から「介護する家族の多様化」が明らかになったことから、働く中高年の介護レディネスの実態調査として、働く中高年の親の介護に対する意識と、働く介護者が必要とする支援内容を把握し、介護離職を予防する支援のあり方を提言する。2016年12月から翌年1月に調査を終える計画で、予定通り順調に進んでいる。

3) 医療と介護の連携に関する研究

1. 移行期ケアに関する研究：現行の診療報酬には、退院前訪問指導料等、移行期ケアに関連する診療・指導管理料が含まれている。これらの実施の有無により、実施医療機関の特性（所在地、規模、機能、平均入院日数等）に差があるか検討する。単純集計が終了し、一部は学会報告済み。
2. 切れ目のないリハビリテーションのあり方に関する研究：都後期高齢者医療レセデータと柏市の医療保険・介護保険レセプトデータを使い、入院でリハビリテーション（以下、リハ）を受けた患者の退院後の療養場所の変化や退院後に外来で提供されたりハの実態を分析し、

医療と介護の連携におけるリハのあり方を検討する。研究は順調に進んでいる。また、要介護高齢者に提供される外来リハのうち運動器リハと脳血管疾患等リハは、算定日数を超えると外来維持期リハとなり、診療報酬が減額されるが、2018年4月の診療報酬改定で、この外来維持期リハは介護保険・通所リハ等への統合が検討されている。そこで、外来維持期リハの介護保険通所リハへの移行の影響を推測するために、現在の通所リハの定員数に、外来リハ・外来維持期リハ患者を吸収する余裕があるかどうか、外来リハ患者数、通所リハ利用者数を比較・検討した。

【その根拠】

1) 要介護高齢者の医療ニーズに関する研究

1. 後期高齢者における多病の有病状況とパターン：入院・外来で発生したレセプトデータから22慢性疾患を抽出し受診医療機関の特性を把握するプログラムを開発した。基本属性データ（性・年齢・所得）と受療状況データ（受診回数、受診医療機関の種類数と機能等）を結合した分析用データが完成した。基本属性や受療状況と多病との関連を分析し、論文執筆中である。
2. 後期高齢者における保健事業のあり方に関する研究：健康診査を受けた後期高齢者において、服薬治療の有無別に血液検査値の状況を分析した。成果は平成28年10月の日本公衆衛生学会総会で報告し、現在、論文執筆中である。
3. 多剤処方の実態把握に関する研究：4か月間の外来診療で処方された医薬品（134種類）について、医薬品種類毎に処方の有無を把握し、多剤処方患者を同定した。そして、多剤処方の関連要因を分析、地域ベースにおける多剤処方の簡便な把握方法を検討中である。成果の一部は学会報告済み。
4. 大都市圏における在宅医療の実態把握：入院医療と比した在宅医療の医療経済的優位性の分析が、どのような患者群において可能かを検討するために、経管栄養や中心静脈栄養を受けている患者（在宅患者と入院患者）に関する全ての診療行為・調剤データを抽出した。現在、医療費の内訳や費用を比較・分析中である。

2) 介護ニーズに関する研究

1. 家族介護実態の日米比較に関する研究：解析は順調に進んでおり、成果の一部は、助成団体への報告書や学会で報告を行っている。論文執筆のための解析は、最終段階に移っている。
2. 親の終末期を見据えた介護準備に関する研究：解析を終了し、学会にて報告。現在は論文執筆を進めている。

3. 働く中高年の介護レディネスに関する研究：平成28年12月から調査を開始し、来年1月まで調査を継続する。

3) 医療と介護の連携に関する研究

1. 移行期ケアプログラムの開発：移行期ケアに係る診療行為（診療行為コード28種類）を同定し、これらを受けた患者を抽出した。患者の入院前・退院後の受療状況を把握し、医療機関を分析単位として医療機関の特性の差異を比較する。
2. 切れ目のないリハビリテーションのあり方に関する研究：医療・介護レセプトデータから入院でのリハを受けた患者を抽出するプログラムと入院後1か月、3か月、6か月時点での療養場所を特定するプログラムを開発した。入院リハを受けた患者を対象に、退院後の療養場所の推移を同定し、来年度開催の日本理学療法学会大会に演題登録した。また、外来維持期リハの介護保険通所リハへの移行の影響を推計したところ、現在の通所リハ提供量では、外来リハからの移行患者を全員受け入れる余裕は乏しいと推測した。

【新しい知見】

1) 要介護高齢者の医療ニーズに関する研究

1. 後期高齢者における多病の有病状況とパターン：東京都の後期高齢者における多病の有病割合は8割と高率であった。後期高齢者の慢性疾患を適切に管理するためには、患者が抱える全ての慢性疾患を把握し、多剤処方に注目した保健指導体制の構築が必要であることが示唆された。
2. 後期高齢者における保健事業のあり方に関する研究：後期高齢健診受診者は、既に生活習慣病を治療している者が多くを占めており、後期高齢者を対象とする保健事業は、生活習慣病の重症化予防と共に、生活機能障害の予防、多病や多剤処方対策を焦点とする必要があると考えられる。
3. 多剤処方実態把握に関する研究：東京都の後期高齢者では、被保険者の34%が多剤処方だった。受診医療機関数が1施設の患者における多剤処方の割合は18%であったが、3施設以上を受診した患者では89%が多剤処方、受診先医療機関の種類（診療所・病院）でその割合に大差は無かった。どの医療機関を受診したかというよりも、受診医療機関数が多剤処方リスクとして重要と考えられた。

2) 介護ニーズに関する研究

1. 家族介護実態の日米比較に関する研究：日本における介護のトレンドを把握することで、今後

の社会的介護の方向性のカギとなる知見の創出と社会への提供が可能となる。また、異なる介護保険システム、文化を持つ日本と米国の家族介護の実態を比較することで、今後の日本における継続的介護の実現に向けた知見を提供することが可能となる。

2. 親の終末期を見据えた介護準備に関する研究:介護から看取りまでを在宅で継続するための有効な支援の在り方を検討し、効率の良いサービス提供を提言する。
3. 働く中高年の介護レディネスに関する研究:現在増加している、息子介護者や働く女性介護者のための支援のあり方を提言する。

3) 医療と介護の連携に関する研究

1. 移行期ケアプログラムの開発:退院時に薬剤師やPT・OT、ケアマネ等が関わる診療行為は高頻度に認められたが、病院医師・看護師が関与する退院前訪問指導料や共同指導管理の実施頻度はごく少数だった。病院医師・看護師の負担軽減のために、退院時の送り出し側と受け入れ側を調整し円滑な退院支援を担う専門職として、医療保険版ケアマネの存在が必要であると考えられた。
2. 切れ目のないリハビリテーションのあり方に関する研究:入院でのリハを受けた者のうち、入院後6ヶ月後までに一度でも在宅復帰した者は男性75%、女性70%で男女ともに90歳以上でその割合は低下した。また、入院中にリハを受けその後退院した患者のうち、退院後に外来でリハを受けた者は14%と少なく、多くは医療施設でのリハを受けていないかまたは介護保険で通所リハを受けたと考えられた。今後は入院中のリハから退院後の介護保険のリハへの推移の実態について分析が必要である。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<糖尿病患者における膵臓α細胞・β細胞の加齢によるテロメア長短縮>

糖尿病・代謝・内分泌内科、井藤理事長

<臨床疫学研究:高齢発症リウマチ患者の治療評価>

リウマチ・膠原病内科(杉原医長)

<椎骨骨折の遺伝リスクスコアの開発>

生活習慣病、臨床研究推進センター

<東京都後期高齢者医療の実態把握と健康診査の評価>

井藤理事長、東京大、九州大、医療経済研究機構

<Progressive Aphasia Severity Scale (PASS)

日本語版)の作成>

言語聴覚科(西山千香子)

<自治体開発型介護予防体操に関する研究>

在宅療養(大湖、河合)、リハビリ科、樋口和奏

<家族介護実態の日米比較に関する研究>

ジョンズホプキンス大、筑波大、早稲田大

<介護保険サービス利用と施設入所への影響に関する研究>

東京大

<胃ろう造設者への摂食療法と在宅介護者心理的支援>

東京医科歯科大、名古屋大

<eヘルスリテラシーと健康との関連に関する研究>

早稲田大、筑波大

<切れ目のないリハビリテーションの在り方に関する研究>

筑波大

3 今後の展望

1. 要介護高齢者の医療ニーズに関する研究

レセプトデータを用いた研究では、概ね妥当な進行となっている。特に都後期高齢者医療レセプトデータの場合、分析の基となる電子レセプトデータは構造が複雑でデータが巨大なため(データベース全体で3テラバイト)、分析用データの作成のためのプログラム開発に長時間を要する点が、研究遂行上の障害である。昨年度まで、プログラム開発を外部の共同研究者に依存していたが、平成28年2月以降は研究所内でプログラム開発が可能となり、分析用データを増やすことができた。

多病の分析、健診データの分析については順調に進行しており、それぞれ論文執筆中である。在宅医療の実態把握に関する分析は概ね順調に進んでいるが、入院先医療機関との距離の解析は、地理情報システム(GIS)の使用が必要なため、GISの習熟とデータ分析に向けた準備を進めている。

2. 介護ニーズに関する研究

1. 家族介護実態の日米比較に関する研究と介護保険サービス利用と施設入所への影響に関する研究については、解析がほぼ終了し、論文執筆を進めている。

2. 働く中高年の介護レディネスに関する研究については来年1月に調査が終了するため、平成29年度にかけて解析を進める予定である。

3. 医療と介護の連携に関する研究

1. 移行期ケアプログラムの開発:退院時における移行期ケアプログラムの具体化作業が遅れているが、要介護高齢者の入院時における医療・介護の連続性確保のためのプログラムも同時

に開発する必要がある。レセプト分析では、退院時の移行期ケアに係る診療行為の実施割合を算出するための分母の設定方法について検討を継続する。

2. 切れ目のないリハビリテーションのあり方に関する研究:入院でのリハビリテーションを受けた者が退院後にどのようなリハビリテーションを受けているか、解析を継続している。

4 その他

当テーマの特徴は、都後期高齢者医療レセデータや国民生活基礎調査等のビッグデータを分析可能な環境を備えていることである。これによって、これまで明らかになっていなかった後期高齢者における多病の状況、医薬品処方・多剤処方の状況と費用額について、東京都全域や二次医療圏単位での提示が可能であり、大都市圏における後期高齢者や要介護高齢者に対する医療計画策定に資する成果が算出できる。介護ニーズの分析では、介護者や地域の介護資源や役割にも注目し、要介護高齢者を地域で支える仕組みを検討している点、医療と介護の連携として移行期(退院時、入院時)におけるケアの質向上のためのプログラム開発とレセプト分析に着手している点は、他のチーム・テーマでは取り込まれることがなく、当テーマの特徴となっている。

終末期ケアのあり方の研究

構成メンバー

テーマリーダー：島田千穂
研究員：平山亮 中里和弘
非常勤研究員：高橋龍太郎

1 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

1) 終末期ケアの準備支援に関する研究

これまで、アドバンスケアプランニングの一環として、高齢患者本人の事前の意思伝達に関する研究(ライフデザインノートを用いた量的・質的研究)を行ってきた。これらの研究を通して、明確な意思表示は控え、周囲の人の考え方や意見を踏まえた上で、自らの意思を決定する傾向のある日本社会では、医療の選択にもそうした傾向が表れる可能性を考察してきた。高齢者本人の終末期医療の希望は、社会から独立して形成・表明されるのではなく、社会的影響のもとで形作られるものとして理解し、事前に把握する仕組みを検討する必要がある。家族や周囲に迷惑をかけないことが、理想と語られる現状を踏まえる必要があると

考える。

医療機関や介護サービスの現場では慣例的に、患者の医療やケアの選択場面において、意思決定のキーパーソンである家族が関与を要請される。厚生労働省の人生の最終段階における医療の決定プロセスにおけるガイドライン(2007)においても、本人の意思が確認できない場合には、家族の本人意思の推定の役割が明示されている。その役割は、高齢患者の配偶者が主介護者である場合には、慣例的に子世代が担うことが多い。そこで、親の終末期医療の意思決定への関与に対する子の認識を調査した(インターネット調査:65歳以上の親を持つ成人1010名を対象)。分析の結果、以下のことが示唆され、今年度学会で報告した。

①親との終末期ケアに関するコミュニケーションは、親が重篤な疾病罹患の経験があるほど実施割合が高くなっており、親が要介護状態であるかどうかには関連がみられなかった。このことは、親の生命のリスクが小さいうち、すなわち親が重篤な状態にならない限り、事前には親子間のコミュニケーションが自然発生的ににくいことを示している。また、②コミュニケーションには、子の話し合いの必要性の認識と情緒的回避との二つの側面が独立して作用している可能性が示唆され、これらの特徴を踏まえたアプローチが求められることが示された。

終末期医療における意思決定に関するガイドラインでは、患者本人の意思を中心にして、周囲の関係者との合意に基づく選択が推奨されているが、分析結果から、③親が既に要介護状態である場合には、要介護状態でない場合と比較して、子が親の意向による決定を選択しない可能性が高かった。医療の選択場面で親の意思を代弁できるほどには、子が親の意向を確認していない現状を反映している可能性がある。

上述の研究結果を踏まえ、現在、子世代に対する情報提供が、親とのコミュニケーション促進に機能するかどうかを確認するための介入研究の準備を進めている。居宅介護支援事業所を通じて、利用者のキーパーソンを募集し、セミナー形式の情報提供を行い、行動及び認識の変容を確認する。来年度5月に介入を開始する計画で、事業所と調整中である。

2) 終末期ケアを担う家族に関する研究

① 終末期ケアを担う可能性の高い子世代が置かれている社会的状況の分析

高齢者のケア責任を家族、とりわけ子どもが担うことを前提とした終末期ケアの慣例的実践について、社会経済的観点から再検討している。今年度は特に世代間格差に焦点を当て、慣例的実践が

胚胎する課題を明確にした。慣例的実践では、相対的に多くの資源を有する若年世代が高齢世代を看ることが所与とされているが、今年度はそのような実践の実現可能性 (feasibility) を批判的に検討するため、①マクロデータをもとに、子世代の就労状況の不安定化とそれに伴う親世代への経済的依存が進んでいる現状を明らかにするとともに、②フィールド調査データを用いて、生活不安を抱える子世代が親のケアに携わる際の困難と支援のニーズを、具体的に示した。また、子世代の社会経済的地位が低いほど、慣例的実践のもとで期待されている親の終末期ケアの代理決定に主体的に関与しにくい可能性を定量的に指摘した。

② 看取り後の遺族支援の実態把握

平成26年、27年と訪問看護事業所を対象に行った遺族支援に関する調査の結果を報告書にまとめ、調査協力した事業所に送付し、還元した。在宅の遺族支援が遺族訪問を中心に行われていることをデータで示し、遺族訪問が看取りケアの評価として機能する可能性を示唆した。さらに、過去1年半の間に遺族訪問をした計102事例について質問紙調査を実施し、利用者の死にゆくプロセスを受け入れられるよう支援することが、看取り後の悲嘆を緩和する可能性を明らかにした。

③ 遺族による在宅終末期ケア評価

今年度は、上記の研究結果で得られた知見を発展させ、看取りケアの満足や遺族の悲嘆に影響する終末期・看取り期・死別後の要因（看取りに関する事前の意思の反映、看取り時の家族ケア、遺族訪問の評価等）を検討することを目的に、遺族調査を実施した。調査は、関東1都6県の在宅看取りに対応している51か所の訪問看護事業所の協力を得た。平成27年4月～平成28年3月の間に調査協力機関から在宅の訪問看護サービスを受けて死亡した利用者（最終的な死亡場所が病院であった事例も含む）の遺族753名を対象に質問紙調査を実施し、349通（46.3%）回収した。

3) 終末期ケアを担う専門職に関する研究

① 特別養護老人ホームの看取りケア体制

2014年に実施した調査データを分析し、投稿して掲載された。看取りケアが提供された人数の退所者に占める割合の平均は29.9%であった。死亡直後に診断できる体制に加えて、対応可能時に診断できる体制も同様に有意に看取り実施割合を高めており、死亡時の診断体制整備が、施設の看取りケアの促進要因になることが示された。今年度も同様の対象、手続きで調査を行い、施設全体としての経年変化と要因を現在分析中である。

② 高齢者の希望に添った終末期ケアを提供するための地域支援体制

地域のサービス調整を担う介護支援専門員の「終末期医療やケアに向けた事前のコミュニケーション支援に対する認識及び支援行動」の実態を把握することを目的に、事業所及び介護支援専門員を対象に質問紙調査を実施した。事業所に5,612か所に郵送し、1520通回収した（回収率27.1%）。所属する介護支援専門員からは、3,311通の回収が得られた。今後分析を進める予定である。

【その根拠】

1) 終末期ケアの準備支援に関する研究

Geriatrics & Gerontology International への投稿論文、The 23rd Nordic Congress of Gerontologyでのシンポジウム、日本老年医学会、日本老年社会学会、日本家族社会学会での口頭発表、日本在宅医学会でのシンポジウム

2) 終末期ケアを担う家族に関する研究

Chinese University of Hong Kongでのワークショップ (Changing Practices of Health and Family in Japan)、『きょうだいリスク：無職の弟、非婚の姉の将来は誰がみる？』朝日新聞出版、The 23rd Nordic Congress of Gerontologyでのシンポジウム、日本老年社会学会での発表、訪問看護事業所における遺族支援の実態調査報告書、看護のチカラ連載原稿

3) 終末期ケアを担う専門職に関する研究

厚生省の指標投稿論文、ふれあいケア総説、「看取りの振り返りを有効に実施するためのガイド」、「認知症・超高齢者の看取りケア実践」

【新しい知見】

1) 終末期ケアの準備支援に関する研究

事前に本人の意思を確認するアドバンスケアプランニングは、終末期医療やケアの意思決定において重要な機能を果たすものの、高齢者にとっては必ずしも容易ではない。また、子どもの側の困難として、親が要介護状態でも親とのコミュニケーションは自発的には行われなことを指摘したことに意義がある。特に日本において、本人の自己決定は周囲との関係性から切り離された状態では進みにくく、取り巻く周囲を含めたシステム論的アプローチが必要であるとする指摘は、示唆に富むと考える。要介護状態の親をもつ子が親の意向を考慮しにくくなる実態も、実践者の実感を反映したデータとして意味があると考えられる。

2) 終末期ケアを担う家族に関する研究

① 終末期ケアを担う可能性の高い子世代が置かれている社会的状況分析

家族変動論と格差社会論という社会科学における主要なパースペクティブのもとで、高齢者の介護から看取りまでに携わる上での家族の潜在能力 (capability) について、実証的な知見を提供した。

すなわち、①若年世代の就労状況と親子間の資源移転に関するトレンド分析、②経済基盤が脆弱な子世代の介護プロセスについての質的研究、および、③親の終末期ケアに係る意思決定に対する若年世代の意識調査という多様な方法を用いて、介護および看取りにおいて家族が果たしうる役割とその構造的制約を実証的に示すことで、わが国の社会経済的状況を踏まえた終末期ケアの課題の解明を進めることができたと考える。

②看取り後の遺族支援の実態把握

多施設における事業所調査から遺族支援の実態を報告したことで、ケア提供者の遺族支援の質の向上のために、開設まもない事業所や遺族支援を模索している事業所への具体的な資料の提示に貢献するものと考えている。また本年度は、51か所の訪問看護事業所の協力を得て、753名の遺族を対象に質問紙調査を行った。在宅の遺族調査として、死別後1年～1年半の遺族を対象にこの規模のサンプルサイズ調査は国内外でも少ない。調査内容に関しても、遺族の視点から看取りの満足、遺族の悲嘆をアウトカムに、終末期・看取り期・死別後の要因との関連を検討する。終末期ケアのあり方を時系列に検討することが可能となり、今後の前向き研究の貴重な基礎研究になると考えている。

3) 終末期ケアを担う専門職に関する研究

①特別養護老人ホームの看取りケア体制

特別養護老人ホームは、制度上最重度の要介護高齢者が入居する生活施設であり、看取る体制構築が期待されている。看取りの実態把握と必要な体制を明らかにした点で、看取りの充実を図る上で期待される制度上の改善点、あるいは各施設で改善可能な対応を提言する上での基礎資料としての価値をもつと考えられる。2016年にも同様の調査を行って追跡調査しており、データの蓄積にも意義がある。

②高齢者の希望に添った終末期ケアを提供するための地域支援体制

今後は在宅で最期を迎える高齢者が増えることが予想される。地域のサービス調整の要であるケアマネジャーが直面する困難を把握し、その解決策を検討する際の重要な基礎的データになると考える。

2 他の研究テーマ、研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

<終末期ケアの準備支援研究>

涌井智子(要介護化)、最上由紀子(緩和ケアチーム)、会田薫子(東京大学)、藤村朗子(東京医療保健大学)、樋口幸子(済生会中央病院)、岡村世里奈(国際医療福祉大学)、長江弘子(東京女子

医科大学)

<遺族に関する調査研究>

涌井智子(要介護化)、児玉寛子(青森県立保健大学)、舞鶴史絵(前原ハート訪問看護ステーション)

<高齢者の希望に添った終末期ケア地域支援体制に関する研究>

伊東美緒(在宅療養支援)、松家まゆみ(基礎・居宅介護支援事業所)、児玉寛子(青森県立保健大学)、大枝真弓(社会福祉法人福祉楽団)、松原弘子(社会福祉法人東北福祉会)

3 今後の展望

終末期医療の事前準備における本人側、家族側の双方から実態を把握することにより、日本の終末期医療が今後直面するであろう意思決定の課題を明らかにするに至った。終末期ケアで家族に代理選択を依存する現在の医療の決定のあり方は、今後の家族の状況の変化を踏まえると限界が予想される。終末期ケアの意思決定における現状の枠組みの限界を示した今年度の成果は、今後の方向性を考える上で有用と考える。

4 その他

終末期ケアの課題について、幅広い層に向けた研究知見の普及を行っている。学会発表、論文発表はもとより、実践者、及び一般市民を対象とした講演会も積極的に引き受けている。今年度は、テーマリーダーが日本エンドオブライフケア学会理事、厚生労働省の看取りケアに関する調査事業の委員にも就任し、社会への還元を幅を広げている。

論文・学会発表

在宅療養支援方法の開発

1 学会発表

(1) 海外

1. Obuchi S., Kawai H.: Strategies to Overcome Frailty among Elder Population in Japan, 2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia, Nagoya, Japan, 2016.11.4-5.
2. Obuchi S.: Strategies to Overcome Frailty among Elder Population in Japan, YONSEI International Geriatric Physical Therapy Conference, Korea, 2016. 10.22
3. Masui, Y., Gondo, Y., Nakagawa, T., Ishioka, Y., Arai, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Ishizaki, T.: Buffering Effects of Gerotranscendence on Mental Health When Experiencing Physical Function Decline, The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New Orleans LA, U.S, 2016.11.16-20.
4. Saito, Y., Gondo, Y., Arai, Y., Willcox, D.C., Masui, Y., Inagaki, H., Herrmann, J.B.: Number of Teeth, Chewing

- Ability, and Denture Use Among Centenarians in 5-COOP Countries, The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New ORLEANS, LA, U.S, 2016.11.16-20.
5. Hatta, K., Mihara, Y., Ikebe, K., Matsuda, K., Masui, Y., Gondo, Y., Maeda Y.: Influence of Occlusal Support on Walking Speed: A Longitudinal Investigation From the SONIC Study, The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New ORLEANS, LA, U.S, 2016.11.16-20.
 6. Takayama, M., Sugawara, I., Sugauma, M., Masui, Y., Ogawa, M.: Remembering people long ago: Social ties with invisible people and well-being among the old-old adults Ishioka, Yoshiko (Japan); The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 7. Gondo, Y., Masui, Y., Nakagawa, T., Kamide, K., Ikebe, K., Arai, Y., Ishizaki, T., Takahashi, R.: Development of gerotranscendence: A key concept to explain the higher subjective well-being of older people. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 8. Gondo, Y., Masui, Y., Nakagawa, T., Kamide, K., Ikebe, K., Yasumoto, S., Arai, Y., Ishizaki, T.: Relationship between cognitive function and well-being of oldest-old people. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 9. Goto, F., Gondo, Y., Nakagawa, T., Yasumoto, S., Masui, Y., Ogawa, M., Takahashi, R., Ishizaki, T.: The Psycho-Social Characteristic of Homebound Older People in Japan. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 10. Ishioka, Y., Gondo, Y., Masui, Y., Nakagawa, T., Ogawa, M., Inagaki, H., Tabuchi, M., Kozono, M., Yasumoto, S., Kurinobu, T., Takayama, M., Katagiri, K., Arai, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Ishizaki, T., Takahashi, R.: Mid-life Occupational and Household Work Complexity, and Late-life Cognitive Function in Japanese Women. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 11. Kozono, M., Gondo, Y., Ogawa, M., Ishioka, Y., Nakagawa, T., Masui, Y., Inagaki, H., Tabuchi, M., Ikebe, K., Kamide, K., Arai, Y., Ishizaki, T., Takahashi, R.: The association between mental, physical, and social components in leisure activities and cognitive function in octogenarian -findings from the SONIC study-. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 12. Masui, Y., Gondo, Y., Nakagawa, T., Ishioka, Y., Ogawa, M., Kozono, M., Inagaki, H., Takayama, M., Katagiri, K., Yasumoto, S., Tabuchi, M., Kurinobu, T., Arai, Y., Ikebe, K., Kamide, K., Takahashi, R., Ishizaki, T.: Effects of negative life events and gerotranscendence on changes in mental health over three years among the 80+ population: The SONIC study. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 13. Nakagawa, T., Gondo, Y., Masui, Y., Ishioka, Y., Ogawa, M., Inagaki, H., Tabuchi, M., Kozono, M., Yasumoto, S., Numata, K., Kurinobu, T., Tsai, Y. C., Goto, F., Takayama, M., Ikebe, K., Kamide, K., Arai, Y., Ishizaki, T., Takahashi, R.: Stability and change of Valuation of Life in old age. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
 14. Inomata, C., Ikebe, K., Takeshita, H., Mihara, Y., Hatta, K., Fukutake, M., Matsuda, K., Ogawa, T., Okubo, H., Gondo, Y., Kamide, K., Masui, Y., Ishizaki, T., Arai, Y., Maeda, Y.: Importance of occlusal force for dietary intakes in 80-year-old Japanese. 94th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Soul, Korea, 2016.6.22-25.
 15. Hatta, K., Mihara, Y., Ikebe, K., Inomata, C., Takeshita, H., Ogawa, T., Matsuda, K., Gondo, Y., Kamide, K., Masui, Y., Inagaki, H., Ishizaki, T., Arai, Y., Maeda, Y.: Influence of occlusal support on cognitive decline: A longitudinal study. 94th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Soul, Korea, 2016.6.22-25.
 16. Uota, M., Ogawa, T., Ikebe, K., Kamide, K., Arai, Y., Gondo, Y., Masui, Y., Mihara, Y., Ishizaki, T., Maeda, Y.: Factors related to taste sensitivity in elderly: from SONIC Study. International Federation on Ageing 13th Global Conference, Brisbane, Australia, 2016.6.21-23.
 17. Ito M., Honda M.: Improvement of Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD) and Higher Caregiver's Recognition of the Response Change in Cognitive Frailties by Comprehensive Standardized Care Methodology. International Conference on Frailty & Sarcopenia Research, Philadelphia, 2016.4.28-29
 18. Ito M., Shimada C., Hirayama R., Kidd A., Obuchi S.: Does Getting More Experienced Lead to More Positive Attitudes Toward Elder Care? -A Case of Professional and Student nurses in Japan-. 23rd Nordic Congress of Gerontology, Tampere, 2016.6.19-22
- ## (2) 国内
1. 河合 恒, 江尻愛美, 本島安純, 安齋紗保理, 大瀨修一, 吉田英世, 藤原佳典, 平野浩彦, 荒木 厚, 小山照幸, 杉江正光, 小島基永, 中田晴美, 鈴木隆雄: アクションリサーチによる介護予防リーダーの自主グループ活動のプロセス, 第1回日本予防理学療法学会サテライト集会, 東京, 2016.11.13
 2. 伊藤久美子, 安齋紗保理, 河合 恒, 大瀨修一: リハビリテーション専門職が自主グループ巡回に至るまでの検討プロセス, 第1回日本予防理学療法学会サテライト集会, 東京, 2016.11.13
 3. 鈴木宏幸, 小川 将, 藤原佳典, 西真理子, 谷口 優, 河合 恒, 榎崎兼司, 陳 三妹, 吉田英世, 大瀨修一, 熊谷秋三, 新開省二: 地域における認知機能検査の年齢階級別基準値の作成 - MMSE と MoCA-J を用いた検討, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
 4. 河合 恒, 井原一成, 吉田英世, 平野浩彦, 藤原佳典, 大瀨修一: 地域高齢者におけるスタチン服用の運動機能、痛み、倦怠感への影響, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
 5. 関口晴子, 河合 恒, 本島安純, 解良武士, 大瀨修一: 介護予防リーダー養成講座のその後の活動状況, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
 6. 江尻愛美, 樋口和奏, 森 寛子, 河合 恒, 大瀨修一: 地方自治体開発型の介護予防体操の系統的分類, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28

7. 樋口和奏, 江尻愛美, 大瀨修一, 金丸晶子, 太田 隆, 菅原康弘, 高橋龍太郎: 地域の特徴を活かした「住民参加型」の介護予防体操づくりを通じて, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
8. 藤原佳典, 鈴木宏幸, 小川 将, 河合 恒, 安永正史, 平野浩彦, 吉田英世, 井原一成, 大瀨修一: 地域高齢者における認知機能の縦断変化と低下・改善の予知因子, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
9. 伊藤久美子, 安齋紗保理, 江尻愛美, 河合 恒, 大瀨修一: デイサービスの地域拠点化により高齢者の新たな役割を創出する取り組み, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
10. 小川 将, 鈴木宏幸, 藤原佳典, 西真理子, 谷口 優, 河合 恒, 吉田英世, 大瀨修一, 新開省二: 高齢者における認知機能の領域と抑うつの関連 - MoCA-Jを用いた検討 -, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
11. 白部麻樹, 渡邊 裕, 小原由紀, 枝広あや子, 本橋佳子, 本川佳子, 河合 恒, 井原一成, 平野浩彦, 藤原佳典, 吉田英世, 大瀨修一: 地域在住後期高齢者における口腔機能検査の受診希望と関連する因子の検討, 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26-28
12. 白部麻樹, 渡邊 裕, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 村上正治, 本川佳子, 恒石美登里, 吉田英世, 大瀨修一: 地域在住高齢者の口腔機能に関する実態調査報告一年齢5歳ごとの変化率の比較一, 日本歯科衛生学会第11回学術大会, 広島, 2016.9.17-19
13. 堀部耕広, 平野浩彦, 渡邊 裕, 枝広あや子, 小原由紀, 本川佳子, 白部麻樹, 吉田英世, 大瀨修一, 上田貴之, 櫻井薫: 地域在住高齢者における咬合力および咀嚼能力低下とフレイルとの関連, 第27回日本老年歯科医学会学術大会, 徳島, 2016.6.18-19
14. 安齋紗保理, 河合 恒, 江尻愛美, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 大瀨修一: 地域活動のリーダーとなる住民が自主活動に向けたグループを組織するまでのプロセス, 第58回日本老年社会学会大会, 松山, 2016.6.11-12
15. 河合 恒, 大瀨修一, 江尻愛美, 安齋紗保理, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦: 携帯端末を用いた測位による地域在住高齢者の日常活動パターン分類 - 住民協働の介護予防推進の評価のために -, 第58回日本老年社会学会大会, 松山, 2016.6.11-12
16. 増井幸恵, 菊地和則, 河合 恒, 伊東美緒, 大瀨修一: 都市部在宅療養高齢者の主観的健康観の関連要因の検討 - 主に日常活動との関連について -, 第58回日本老年社会学会大会, 松山, 2016.6.11-12
17. 鈴木宏幸, 藤原佳典, 石川譲治, 田中 旬, 田村嘉章, 千葉優子, 金丸晶子, 河合 恒, 大瀨修一, 荒木 厚: フレイル外来受診者の特徴(2) - MoCA-Jによる地域在住高齢者との比較, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
18. 金丸晶子, 中嶋梨江, 熊木陽平, 菅原康宏, 児玉寛子, 大瀨修一, 高橋龍太郎: 被災地地域住民のトレイルメイキングテスト(TMT)で示される認知機能と身体機能の関係, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
19. 杉江正光, 原田和昌, 奈良毬那, 藤本 肇, 小山照幸, 大瀨修一, 金 憲経, 高橋哲也, 許 俊鋭, 井藤英喜: 地域在住高齢者における認知機能と心機能の関連, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
20. 奈良毬那, 杉江正光, 高橋哲也, 小山照幸, 大瀨修一, 水村真由美, 許 俊鋭, 原田和昌, 井藤英喜: 包括的フレイル評価としての高齢者健康寿命総合評価成績表の開発, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
21. 大瀨修一, 河合 恒, 菊地和則, 増井幸恵, 伊東美緒, 板橋お達者研究グループ, 豊島研究グループ: 都市部在宅療養高齢者の生活実態, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
22. 河合 恒, 井原一成, 吉田英世, 平野浩彦, 藤原佳典, 田中雅嗣, 大瀨修一: 地域高齢者におけるスタチン服用と運動機能との関係, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
23. 小島成実, 金 美芝, 吉田英世, 吉田祐子, 平野浩彦, 大瀨修一, 島田裕之, 鈴木隆雄, 齋藤京子, 金 憲経: 地域在住高齢女性における変形性膝関節症発症の予知因子 - 4年間の縦断研究 -, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
24. 本川佳子, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田英世, 大瀨修一, 河合 恒, 解良武士, 井原一成, 藤原佳典, 平野浩彦: 地域在住高齢者を対象としたフレイルと栄養状態の検討, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
25. 江尻愛美, 荒木 厚, 河合 恒, 藤原佳典, 吉田英世, 平野浩彦, 小山照幸, 杉江正光, 鈴木隆雄, 大瀨修一: 地域高齢者における腰痛とSOC(Sense of Coherence)が抑うつ症状に及ぼす影響, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
26. 稲葉康子, 大瀨修一: 地域在住高齢者の身体活動量に影響を与える因子, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
27. 伊東美緒, 木村陽子, 池田勝代, 佐竹明美, 吉田 光, 島田千穂, 大瀨修一, イヴ・ジネスト, ロゼット・マレスコッティ, 本田美和子: 急性期病院精神科病棟でユマニチュードを導入したことによる行動制限実施状況の変化 - 研修から4ヵ月後, 8ヵ月後に実施したフォーカスグループインタビューより -, 第17回日本認知症ケア学会大会, 神戸, 2016.6.4-5
28. 伊藤久美子, 安齋紗保理, 猪股寛裕, 河合 恒, 大瀨修一: 介護予防・日常生活支援総合事業におけるリハビリテーション専門職の関わり方の検討〜リハ専門職が活動する上で解決すべき課題の解決策〜, 第51回日本理学療法学術大会, 札幌, 2016.5.27-29
29. 河合 恒, 大瀨修一, 平野浩彦, 渡邊 裕, 杉山陽一, 池山和幸: 化粧ケアの介護予防効果の検証, 日本色彩学会第4回コスメティクスと肌・顔研究会, 東京, 2016.4.22
30. 龍野洋慶, 神出計, 権藤恭之, 樺山舞, 杉本研, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石崎達郎, 新井康通, 池邊一典, 樂木宏実: 70歳地域在住高齢者における高血圧と糖尿病の合併が認知機能の低下に与える影響: SONIC 研究 3年間の追跡調査より, 第11回日本応用老年学会大会, 大阪, 2016.10.29.
31. 澤山泰佳, 樺山舞, 清重映里, 井上貴子, 龍野洋慶, 関口敏彰, 杉本研, 権藤恭之, 池邊一典, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出計: 一般住民高齢者における喫煙が認知機能に及ぼす影響 SONIC 研究, 第52回 日本循環器病予防学会学術集会, 2016.6.17-18.
32. 権藤恭之, 増井幸恵, 石崎達郎, 神出計, 池邊一典, 新井康通: 健康長寿達成のための様々なアプローチ こころのフレイルを超えて 高齢期の老年的超越の発達,

- 第16回日本抗加齢医学会総会, 神奈川, 2016.6.10-12.
33. 増井幸恵: 百寿者のこころの健やかさの謎を追いかけてー老年的超越理論の実証研究を開拓してー シンポジウム「百寿者研究の勧め」, 第58回日本老年社会科学会, 松山, 2016.6.11-12.
 34. 三浦ゆり, 岩本真知子, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石岡良子, 津元裕樹, 龍野洋慶, 杉本 研, 阿部由紀子, 新井康通, 神出 計, 池邊一典, 石崎達郎, 権藤恭之, 高橋龍太郎, 遠藤玉夫: 初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析ー縦断研究からのアプローチ. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈川, 2016.5.27-28
 35. 増井幸恵, 高山緑, 石岡良子, 小川まどか, 菅原 育子, 菅沼 真樹: 後期高齢者、超高齢者の地域の催しへの参加の関連要因の検討ーK2 study データを用いてー, 日本発達心理学会第27回大会, 北海道, 2016.4.29-5.1
 36. 菊地和則, 石崎達郎, 伊藤美緒, 池田恵利子, 川端伸子: 東京都における養護者による高齢者虐待の死亡者数の推計に関する研究, 第13回日本高齢者虐待防止学会横浜大会, 神奈川, 2016.7.16
 37. 菊地和則, 伊集院陸雄, 栗田圭一, 鈴木隆雄: 認知症者の行方不明の兆候に関連する要因の探索的研究, 日本老年行動科学会第19回神奈川大会, 神奈川, 2016.9.3-4
 38. 石川翔吾, 佐々木勇輝, 伊東美緒, 本田美和子, 竹林洋一: 認知症の人のポジティブ感情を引き出すマルチモーダルコミュニケーションの検討. 第30回人口知能学会全国大会, 北九州市, 2016.5.21
 39. 伊東美緒, 木村陽子, 池田勝代, 佐竹明美, 古田光, 島田千穂, 大瀨修一, イヴ・ジネスト, ロゼット・マレスコッティ, 本田美和子: 急性期病院精神科病棟でユマニチュード®を導入したことによる行動制限実施状況の変化. 第17回日本認知症ケア学会大会, 神戸, 2016.6.4-5
 40. 菅亜希子, 伊東美緒, 黒川由紀子, 宮本典子, 坪山芳栄, Ruth Campbell: 認知症の人と介護する配偶者を対象としたライフストーリープロジェクトーポジティブな効果が得られたケースレポートー. 第17回日本認知症ケア学会大会, 神戸, 2016.6.4-5
 41. 眞部久美子, 伊東美緒: 集中治療室における高齢心不全患者に対するせん妄予防としての知的活動の効果. 第17回日本認知症ケア学会大会, 神戸, 2016.6.4-5
 42. 北条綾, 山本美帆, 羽住理恵, 家中ふみ代, 松浦幸子, 伊東美緒, 島田千穂, Yves Gineste, 本田美和子: ユマニチュード®の技術を用いて症状が改善した脳出血患者のケースレポート. 第17回日本認知症ケア学会大会, 神戸, 2016.6.4-5
 43. 伊東美緒, 北井由依, 遠藤美加, 岩田恵子, 黒木優, 齋藤京子, 宇野珠里, 永山百合子, 萬由美子, 島田千穂: 高齢者専門の急性期病院において入院が長期化する要因と対策. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
 44. 奥本良美, 上原彩, 松浦幸子, 伊東美緒: ユマニチュードを取り入れた重度認知症患者への支援. 第10回島根看護学術集会, 出雲, 2016.7.16
 45. 伊東美緒, 島田千穂, 中里和弘, 原沢優子, 樋口京子: 特別養護老人ホームの看取りケアにおける関係者の意向と延命治療-ケア方針の選択の仕方と看取った後の納得感ー. 日本老年看護学会第21回学術集会, 大宮, 2016.7.23-24
 46. 島田千穂, 中里和弘, 平山亮, 涌井智子, 伊東美緒, 大澤誠: 終末期医療に関する家族との事前のコミュニケーション促進・阻害要因; 家族への配慮はどう作用するか. 日本老年看護学会第21回学術集会, 大宮, 2016.7.23-24
 47. 伊東美緒: 当事者主体の認知症ケアーユマニチュード®. 北海道医療大学看護福祉学部学会第13回学術大会, 北海道, 2016.9.3
 48. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子, 樋口京子: 特別養護老人ホームの看取りにおける看護職の医療に対する規範意識. 日本看護科学学会第36回学術集会, 東京, 2016.12.10-11
 49. 原沢優子, 島田千穂, 伊東美緒: 特別養護老人ホーム職員の看取りケアにおける関心事-テキストマイニングによる分析から-. 日本看護科学学会第36回学術集会, 東京, 2016.12.10-1
 50. 伊藤誠康, 梅木賢人, 平野浩彦, 五十嵐憲太郎, 吉田英世, 渡邊裕, 大瀨修一, 井上正安, 郡司敦子, 木本統, 河相安彦: 地域在住高齢者における残存歯数と聴力の関連に関する検討, 第27回日本老年歯科医学会学術大会, 徳島, 2016.6.18-19
 51. 解良武士, 河合恒, 吉田英世, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大瀨修一: 地域高齢者における呼吸困難の関連症状と下肢機能との関連について, 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2016.10.10
 52. 齊藤匠哉, 一場友実, 茂木基, 上野稔之, 解良武士, 八並光信: 円背高齢者の歩行時における呼吸法の違いが呼吸循環応答に及ぼす影響, 第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 横浜, 2016.10.10
 53. 伊東美緒: やさしさを伝えるケア技術ーユマニチュード®ー. 特別講演, 第5回IMSリハビリテーション学会, 東京, 2017.1.15.
 54. 大瀨修一, 藤原佳典, 平野浩彦, 渡邊 裕, 河合 恒, 荒木 厚, 小山照幸, 杉江正光, 鈴木隆雄, 小島基永, 中田晴美: 私的社会的統制を強めない住民協働の介護予防のまちづくりの進め方とその効果, 脳とこころの研究 第二回公開シンポジウム「脳を考える」, 東京, 2017.3.11

2 誌上発表

(1) 原著

1. Somekawa S., Mine T., Ono K, Hayashi N., Obuchi S., Yoshida H, Kawai H., Fujiwara Y., Hirano H., Kojima M., Ihara K., Kim H.: Relationship between sensory perception and frailty in a community-dwelling elderly population, The Journal of Nutrition Health and Aging, November 2016, DOI: 10.1007/s12603-016-0836-5. (査読あり) (IF : 2.996)
2. 解良武士, 河合 恒, 吉田英世, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大瀨修一: 心疾患で在宅療養する地域在住高齢者の心身機能の特徴, 日本公衆衛生雑誌, 印刷中, 2016.11.14 (査読あり)
3. 駒井さつき, 枝広あや子, 河合 恒, 渡邊 裕, 田中弥生, 吉田英世, 金 憲経, 大瀨修一, 平野浩彦: 日本の地域在住高齢者における栄養状態とサルコペニア重症度の関連性の検討ーBMI, Alb, 体重減少の有無との関連ー, 日本老年医学会雑誌, 53 (4), 387-395, 2016, 2016.7.27. (査読あり)
4. 白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田英世, 大瀨修一: 都市部在住高齢者を対象とした歯周疾患実態調査, 老年歯科医学, 31(1), 1-27, 2016,

- 2016.7.23 (査読あり)
5. Ohara Y., Yoshida N., Kawai H., Obuchi S., Yoshida H., Matakai S., Hirano H., Watanabe Y.: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults, *Geriatrics and Gerontology International*, 2016 Aug 17. doi: 10.1111/ggi.12873. [Epub ahead of print], 2016.6.21 (査読あり) (IF : 2.229)
 6. Kera T., Edahiro A., Hirano H., Kawai H., Yoshida H., Kojima M., Fujiwara Y., Ihara K., Obuchi S., the TOSHIMA Research Group: Alternating motion rate to distinguish elderly people with history of pneumonia, *Respiratory care*, 2016 Sep 27. pii: respcare.04609. [Epub ahead of print], 2016.5.9 (査読あり) (IF : 1.922)
 7. Sakurai R., Suzuki H., Ogawa S., Kawai H., Yoshida H., Hirano H., Ihara K., Obuchi S., Fujiwara Y.: Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults, *Geriatrics and Gerontology International*, 2016 Jul 7. doi: 10.1111/ggi.12829. [Epub ahead of print], 2016.4.18 (査読あり) (IF : 2.229)
 8. Tanisawa K., Arai Y., Hirose N., Shimokata H., Yamada Y., Kawai H., Kojima M., Obuchi S., Hirano H., Yoshida H., Suzuki H., Fujiwara Y., Ihara K., Sugaya M., Arai T., Mori S., Sawabe M., Sato N., Muramatsu M., Higuchi M., Liu Y.W., Kong Q.P., Tanaka M1: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations, *Journal of Gerontology: Biological Sciences*, 2016 May 6. pii: glw074. [Epub ahead of print], 2016.4.7 (査読あり) (IF : 5.476)
 9. 河合 恒, 猪股高志, 大塚理加, 杉山陽一, 平野浩彦, 大淵修一: 化粧ケアが地域在住高齢者の主観的健康感へ及ぼす効果-傾向スコア法による検証-, *日本老年医学会雑誌*, 53 (2), 123-132, 2016, 2016.1.26 (査読あり)
 10. Ogawa T., Uota M., Ikebe K., Arai Y., Kamide K., Gondo Y., Masui Y., Ishizaki T., Inomata C., Takeshita H., Mihara Y., Hatta K., Maeda Y.: Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals, *Journal of Oral Rehabilitation*, 2016 Oct 17. doi: 10.1111/joor.12454 (査読あり) (IF : 1.926)
 11. Uota M., Ogawa T., Ikebe K., Arai Y., Kamide K., Gondo Y., Masui Y., Ishizaki T., Inomata C., Takeshita H., Mihara Y., Maeda Y. : Factors related to taste sensitivity in elderly: cross-sectional findings from SONIC study. *Journal of Oral Rehabilitation*, 2016 Sep 14. doi: 10.1111/joor.12442. (査読あり) (IF : 1.926)
 12. Ishioka Y.L., Gondo Y., Fuku N., Inagaki H., Masui Y., Takayama M., Abe Y., Arai Y., Hirose N. : Effects of the APOE ϵ 4 allele and education on cognitive function in Japanese centenarians. *Age (Dordr)*. 2016 Aug 24. [Epub ahead of print] (査読あり)
 13. Ryuno H., Kamide K., Gondo Y., Nakama C., Oguro R., Kabayama M., Kawai T., Kusunoki H., Yokoyama S., Imaizumi Y., Takeya M., Yamamoto H., Takeda M., Takami Y., Itoh N., Yamamoto K., Takeya Y., Sugimoto K., Nakagawa T., Ikebe K., Inagaki H., Masui Y., Ishizaki T., Takayama M., Arai Y., Takahashi R., Rakugi H. : Differences in the association between high blood pressure and cognitive functioning among the general Japanese population aged 70 and 80 years: The SONIC study. *Hypertension Research*, 2016 Jul;39(7):557-63. (査読あり) (IF : 3.208)
 14. Takeshita, H., Ikebe, K., Gondo, Y., Inagaki, H., Masui Y., Inomata, C., Mihara, Y., Uota, M., Matsuda, K., Kamide, K., Takahashi, R., Arai, Y., and Maeda, Y.: Association of Occlusal Force with Cognition in Independent Older Japanese People. *JDR Clinical & Translational Research*, 1(1): 69-76, 2016.4. (査読あり) (IF : 4.602)
 15. 小園麻里菜, 権藤恭之, 小川まどか, 石岡良子, 増井幸恵, 中川威, 田淵恵, 立平起子, 池邊一典, 神出計, 新井康通, 石崎達郎, 高橋龍太郎: 余暇活動と認知機能の関連-地域在住高齢者を対象として-. *老年社会科学*, 38(1): 32-44, 2016.4. (査読あり)
 16. 菊地和則, 伊集院陸雄, 栗田圭一, 鈴木隆雄. 認知症の徘徊による行方不明死亡者の死亡パターンに関する研究, *日本老年医学会雑誌*, 53(4), 363-373, 2016.10 (査読あり)
 17. Aye Hnin Pwint A., Ishikawa S., Sakane Y., Ito M., Honda M., Takebayashi Y.: A Visualization of Dementia Care Skills Based on Multimodal Communication Features.” 2016 AAAI Spring Symposium Series. p322-328, 2016 (査読あり)
 18. Oyanagi K, Tsubaki A, Yasufuku Y, Takai H, Kera T, Tamaki A, Iwata K, Onishi H: Effect of Locomotor Respiratory Coupling Induced by Cortical Oxygenated Hemoglobin Levels During Cycle Ergometer Exercise of Light Intensity. *Adv Exp Med Biol*. 923:167-72, 2016 (査読あり) (IF:1.953)
- ## (2) 総説
1. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第49回 地域包括ケアシステムでの在宅療養者の定義, 月刊介護保険, Vol242, 16-17, 2016.4.1
 2. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第50回 “元気高齢者” 活躍の取り組み ついに実現します!, 月刊介護保険, Vol243, 16-17, 2016.5.1
 3. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第51回 介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方, 月刊介護保険, Vol244, 16-17, 2016.6.1
 4. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第52回 介護予防を「葉」から「土」へ, 月刊介護保険, Vol245, 16-17, 2016.7.1
 5. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第53回 規範的統合のクッキングレシピ, 月刊介護保険, Vol246, 16-17, 2016.8.1
 6. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第54回 新しい総合事業に関わる市民の育成~通所型編, 月刊介護保険, Vol247, 16-17, 2016.9.1
 7. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第55回 バックキャストを用いた自立支援ケア会議のすすめ, 月刊介護保険, Vol248, 16-17, 2016.10.1
 8. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第56回 住民の「やる!」を引き出すプレゼンテーション術, 月刊介護保険, Vol249, 16-17, 2016.11.1
 9. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第57回 新しい総合事業評価の視点, 月刊介護保険, Vol250, 16-17, 2016.12.1
 10. 大淵修一: 身体機能と介護予防, *保険の科学*, 58(10), 680-6, 2016.10 (査読なし)

11. 大淵修一: 介護ロボットのいまとこれから, 体育の科学, 66(11), 794-8, 2016.11 (査読なし)
12. 増井幸恵: 性格と認知症, BRAIN and NERVE (神経研究の進歩), (7): 793-798, 2016.7 (査読なし)
13. 増井幸恵: 老年医学の展望 老年的超越(解説). 老年医学雑誌, 53(3): 210-214, 2016.7 (査読なし)
14. 大淵修一: 介護予防&リハビリ最前線 第58回 「お達者健診」って大事なな, 月刊介護保険, Vol.251, 16-17, 2017.1.1
15. Gondo, Y., Masui, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Arai, Y., and Ishizaki, T.: SONIC Study: A Longitudinal Cohort Study of the Older People as Part of a Centenarian Study. In N.A. Pachana (ed.), Encyclopedia of Geropsychology, Springer Science+Business Media Singapore. 2017. (in print) (査読なし)

3 著書等

1. 島田千穂、伊東美緒: 認知症・超高齢者の看取りケア実践, 日総研出版, 2016.6
2. 大淵修一, 河合 恒, 他: 住民との協働による介護予防のまちづくりの効果検証のための地域コントロールトリアル, 平成27年度日本医療研究開発機構委託研究開発成果報告書, 2016
3. 菊地和則: 居宅介護支援事業所、これからの在宅医療—指針と実務 (大島伸一監修)、グリーン・プレス、266-274、2016.7.
4. 大淵修一, 河合恒: 予防理学療法の領域, 予防理学療法要論 (大淵修一, 浦辺幸夫 監修), 医歯薬出版, 2017.1.15.
5. 菊地和則, 池田恵利子, 川端伸子: 養介護施設従事者等による高齢者虐待への市町村・都道府県の対応に関する追跡研究報告書, 平成26~28年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究C) 報告書, 2017.

要介護化の要因解明

1 学会発表

(1) 海外

1. Gondo Y., Masui Y., Nakagawa T., Kamide K., Ikebe K., Arai Y., Ishizaki T., Takahashi, R.: Development of gerotranscendence: A key concept to explain the higher subjective well-being of older people. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
2. Gondo Y., Masui Y., Nakagawa T., Kamide K., Ikebe K., Yasumoto S., Arai Y., Ishizaki T.: Relationship between cognitive function and well-being of oldest-old people. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama Japan, 2016.7.24-29.
3. Goto F., Gondo Y., Nakagawa T., Yasumoto S., Masui Y., Ogawa M., Takahashi R., Ishizaki T.: The Psycho-Social Characteristic of Homebound Older People in Japan. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
4. Ishioka Y., Gondo Y., Masui Y., Nakagawa T., Ogawa M., Inagaki H., Tabuchi M., Kozono M., Yasumoto S., Kurinobu T., Takayama M., Katagiri K., Arai Y., Kamide K., Ikebe K., Ishizaki T., Takahashi R.: Mid-life Occupational and Household Work Complexity, and Late-life Cognitive Function in Japanese Women. 31st

International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.

5. Kozono M., Gondo Y., Ogawa M., Ishioka Y., Nakagawa T., Masui Y., Inagaki H., Tabuchi M., Ikebe K., Kamide K., Arai Y., Ishizaki T., Takahashi R.: The association between mental, physical, and social components in leisure activities and cognitive function in octogenarian—findings from the SONIC study-. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
6. Masui Y., Gondo Y., Nakagawa T., Ishioka Y., Ogawa M., Kozono M., Inagaki H., Takayama M., Katagiri K., Yasumoto S., Tabuchi M., Kurinobu T., Arai Y., Ikebe K., Kamide K., Takahashi R., Ishizaki T.: Effects of negative life events and gerotranscendence on changes in mental health over three years among the 80+ population: The SONIC study. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
7. Nakagawa T., Gondo Y., Masui Y., Ishioka Y., Ogawa M., Inagaki H., Tabuchi M., Kozono M., Yasumoto S., Numata K., Kurinobu T., Tsai Y. C., Goto F., Takayama M., Ikebe K., Kamide K., Arai Y., Ishizaki T., Takahashi R.: Stability and change of Valuation of Life in old age. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29.
8. Inomata C., Ikebe K., Takeshita H., Mihara Y., Hatta K., Fukutake M., Matsuda K., Ogawa T., Okubo H., Gondo Y., Kamide K., Masui Y., Ishizaki T., Arai Y., Maeda Y.: Importance of occlusal force for dietary intakes in 80-year-old Japanese. 94th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Seoul, Korea, 2016.6.22-25.
9. Hatta K., Mihara Y., Ikebe K., Inomata C., Takeshita H., Ogawa T., Matsuda K., Gondo Y., Kamide K., Masui Y., Inagaki H., Ishizaki T., Arai Y., Maeda Y.: Influence of occlusal support on cognitive decline: A longitudinal study. 94th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research, Seoul, Korea, 2016.6.22-25.
10. Uota M., Ogawa T., Ikebe K., Kamide K., Arai Y., Gondo Y., Masui Y., Mihara Y., Ishizaki T., Maeda Y.: Factors related to taste sensitivity in elderly: from SONIC Study. International Federation on Ageing 13th Global Conference, Brisbane, Australia, 2016.6.21-23.
11. Sekiguchi T., Kamide K., Ikebe K., Ryuno H., Kabayama M., Sugimoto K., Arai Y., Ishizaki T., Gondo Y., Rakugi H.: Nutrition Elements Influencing on Renal Function Among Japanese General Old Subjects: The SONIC Study. XVIII International Congress on Nutrition and Metabolism in Renal Disease 2016 (ICRNM2016), Okinawa, 2016.4.19-23.
12. Wakui T., Hirayama R., Nakazato K., Shimada C.: Do Parents' Care Needs or Adult Children's Caregiving Roles Matter for End-of-life Care Preparedness? The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Congress and Concert Centre, Tampere Hall, Tampere, Finland. June 19-22, 2016.
13. Wakui T.: Positioning families as the premise and vehicle for end-of-life care system in Japan. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Congress and

- Concert Centre, Tampere Hall, Tampere, Finland. June 19-22, 2016. 【シンポジウム】
14. Shimada C., Hirayama R., Nakazato K., Wakui T.: Advance Care Planning for Whom? Sociocultural Influences on Older Adults' Views on End-of-Life Care in Japan. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Congress and Concert Centre, Tampere Hall, Tampere, Finland. June 19-22, 2016. 【シンポジウム】
 15. Nakazato K., Wakui T., Hirayama R., Shimada C.: The Nature and Components of Filial Involvement With Advanced Care Planning for Parents in Japan. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Congress and Concert Centre, Tampere Hall, Tampere, Finland. June 19-22, 2016. 【シンポジウム】
 16. Ishizaki T. Sustainable health care and the elderly care system in the rapidly aging society: Community-based integrated care for frail older adults in Japan. 48th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health Conference. Tokyo, Japan. 2016.9.16-9.18. 【シンポジウム】
 17. Ishizaki, T., Mitsutake, S., Teramoto, C. Home care in Japan in long-term care settings. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New Orleans LA, U.S, 2016.11.16-20. 【シンポジウム】
 18. Masui Y, Gondo Y., Nakagawa T., Ishioka Y., Arai Y., Kamide K., Ikebe K., Ishizaki, T.: Buffering Effects of Gerotranscendence on Mental Health When Experiencing Physical Function Decline, The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, New Orleans LA, U.S, 2016.11.16-20.

(2) 国内

1. 石崎達郎, 寺本千恵, 光武誠吾, 清水沙友里, 井藤英喜: 東京都の後期高齢者における在宅医療患者数の推計. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢. 2016.6.8-10.
2. 清重映里, 樺山 舞, 龍野洋慶, 井上貴子, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 榎藤恭之, 樂木宏実, 神出 計: 介護認定とメタボリックシンドローム及び疾患の関連性の検討 (SONIC研究). 第58回老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
3. 井上貴子, 樺山 舞, 龍野洋慶, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 池邊一典, 榎藤恭之, 樂木宏実, 神出 計: 90歳前後の地域高齢者の身体測定における身体機能と栄養状態との関連. 第58回老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
4. 関口敏彰, 神出 計, 池邊一典, 龍野洋慶, 樺山 舞, 杉本 研, 新井康通, 石崎達郎, 榎藤恭之, 樂木宏実: 地域一般高齢者における腎機能とたんぱく質摂取量との関連について—SONIC studyを用いた縦断研究—. 第58回老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
5. 龍野洋慶, 神出 計, 池邊一典, 樺山 舞, 杉本 研, 稲垣宏樹, 新井康通, 石崎達郎, 榎藤恭之, 樂木宏実: 高齢期におけるTOMM40遺伝子の認知機能低下への関与 (SONIC研究3年間の追跡による知見). 第58回老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
6. 澤山泰佳, 樺山舞, 清重映里, 井上貴子, 龍野洋慶, 関口敏彰, 杉本研, 榎藤恭之, 池邊一典, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 新井康通, 石崎達郎, 樂木宏実, 神出計: 一般住民高齢者における喫煙が認知機能に及ぼす影響 SONIC研究, 第52回 日本循環器病予防学会学術集会, 2016.6.17-18.
7. 榎藤恭之, 増井幸恵, 石崎達郎, 神出計, 池邊一典, 新井康通: 健康長寿達成のための様々なアプローチ ころのフレイルを超えて 高齢期の老年的超越の発達, 第16回日本抗加齢医学会総会, 神奈川, 2016.6.10-12.
8. 三浦ゆり, 岩本真知子, 稲垣宏樹, 増井幸恵, 石岡良子, 津元裕樹, 龍野洋慶, 杉本 研, 阿部由紀子, 新井康通, 神出 計, 池邊一典, 石崎達郎, 榎藤恭之, 高橋龍太郎, 遠藤玉夫: 初期の認知機能低下に関するプロテオミクス解析—縦断研究からのアプローチ—. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈川, 2016.5.27-28
9. 吉田 英世, 石崎 達郎, 金 憲経, 吉田 祐子, 鈴木 隆雄, 下方 浩史. 地域在住の高齢者における認知機能と予後(死亡、要介護)に関する検討. 第17回日本健康支援学会年次学術大会. 日進市, 2016.2.27-2.28.
10. 涌井智子: 日本の家族介護における介護タスク分担の可能性～米国の介護タスク分担の状況から～. 第26回日本家族社会学会大会, 早稲田大学, 東京. 2016年9月10-11日.
11. 島田千穂, 中里和弘, 平山亮, 涌井智子, 伊東美緒, 大澤誠: 終末期医療に関する家族との事前のコミュニケーション促進・阻害要因～家族への配慮はどうするか～. 第21回老年看護学会学術集会, 大宮ソニックシティ, 埼玉. 2016年7月23-24日.
12. 中里和弘, 島田千穂, 涌井智子, 平山亮: 終末ケアに関する親子間の会話に影響する子どもの態度. 第58回日本老年社会学会大会, 松山大学, 愛媛. 2016年6月11-12日.
13. 涌井智子, 中里和弘, 平山亮, 島田千穂: 終末期ケアプランニングに向けた親子間コミュニケーションと親の介護ニーズとの関連. 第58回日本老年医学会学術集会, 石川県立音楽堂, 石川. 2016年6月8-10日.
14. 島田千穂, 中里和弘, 涌井智子, 平山亮: 親の終末期医療の意思決定に向けたこの態度とその関連要因. 第58回日本老年医学会学術集会, 石川県立音楽堂, 石川. 2016年6月8-10日.
15. 森寛子, 児玉寛子, 塩満芳子, 菅原康宏, 高橋龍太郎: 東日本大震災時で通所サービスを利用していた要介護高齢者の避難の状況: 気仙沼での専門職ヒアリングによる一考察. 日本老年社会学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12
16. 森寛子, 内藤真理子, 戸原玄: 在宅胃ろう患者における嚥下障害の重症度と患者の経口摂取から得る介護者の心理的支援の検討: 質的内容分析. 第22回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2016.9.23-24
17. 石崎達郎: 東京の後期高齢者医療における多病と多剤処方の実態把握. DIA Japan 2016. Tokyo, 2016.11.13-11.15. 【シンポジウム】
18. 石崎達郎: 要介護高齢者の療養場所移動時におけるケアの質確保への取り組み. 第75回日本公衆衛生学会総会. 大阪, 2016.10.26-10.28. 【シンポジウム】
19. 石崎達郎: モニタリングレポート委員会グループリーダー報告高齢者グループの活動. 第75回日本公衆衛生学会総会. 大阪, 2016.10.26-10.28. 【委員会活動報告】
20. 光武誠吾, 石崎達郎, 寺本千恵: 後期高齢者を対象とする健康診査受診者における慢性疾患の状況. 第75回日本公衆衛生学会総会. 大阪, 2016.10.26-10.28.
21. 江尻愛美, 樋口和奏, 森寛子, 河合恒, 大淵修一: 地方自

治体開発型の介護予防体操の系統的分類. 第75回日本公衆衛生学会総会. 大阪, 2016.10.26-10.28.

22. 西山千香子, 田中春奈, 加藤茉莉子, 齋藤尚子, 生井瞳, 森寛子, 亀井編, 加藤貴行, 金丸晶子: Progressive Aphasia Severity Scale (PASS) 日本語版 (試案) の作成. 第40回日本高次脳機能障害学会学術総会. 松本, 2016.11.11-12
23. 石崎達郎: 多病とガイドライン. 平成28年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業)「診療ガイドラインの担う新たな役割とその展望に関する研究」公開班会議, 東京, 2017.1.7.
24. 石崎達郎, 光武誠吾: 多病の実態を反映したガイドラインの必要性. 第1回日本臨床知識学会学術集会, 東京, 2017.1.28-1.29. 【シンポジウム】
25. 光武誠吾, 石崎達郎, 田宮菜奈子: 要介護状態にある在宅医療患者へのリハビリテーション提供状況. 第3回日本地域理学療法学会フォーラム, 名古屋, 2017.2.12.

2 誌上発表

(1) 原著

1. Zhou H., Mori S., Ishizaki T., Tanaka M., Tanisawa K., Naka-Mieno M., Sawabe M., Arai T., Muramatsu M., Yamada Y., Ito H.: Genetic risk score based on the lifetime prevalence of femoral fracture in 924 consecutive autopsies of Japanese males. *Journal of Bone and Mineral Metabolism*. 34(6), 685-691, 2016. (査読あり) (IF : 2.31, 2015)
2. Zhou H., Mori S., Ishizaki T., Takahashi A., Matsuda K., Koretsune Y., Minami S., Higashiyama M., Imai S., Yoshimori K., Doita M., Yamada A., Nagayama S., Kaneko K., Asai S., Shiono M., Kubo M., Ito H.: Genetic risk score based the prevalence of vertebral fracture in Japanese women with osteoporosis. *Bone Reports*, 5, 168-172, 2016. (査読あり)
3. 石岡良子, 権藤恭之, 増井幸恵, 中川威, 田淵恵, 小川まどか, 神出計, 池邊一典, 新井康通, 石崎達郎: 仕事の複雑性と高齢期の記憶および推論能力との関連. *心理学研究*, 86 (3), 219-229, 2015. (査読あり)
4. 島田千穂, 石崎達郎, 高橋龍太郎: 臨死期におけるケアの場の移行を回避する看取りケア体制の関連要因. *厚生*の指標. 63(4), 1-7, 2016. (査読あり)
5. Shima A., Tatsumi Y., Ishizaki T., Godai K., Kawatsu Y., Okamura T., Nishikawa T., Morimoto A., Morino A., Miyamatsu N. : Relationship between outpatient visit frequency and hypertension control: a 9-year occupational cohort study. *Hypertension Research*. 39(5), 376-381, 2016. (査読あり) (IF : 3.21, 2015)
6. Ohura T., Higashi T., Ishizaki T., Nakayama T. : Gaps between the subjective needs of elderly facility residents and how care workers grasp them: a pairwise cross-sectional study. *BMC Research Notes*, 9, 52, 2016. (査読あり)
7. Ryuno H., Kamide K., Gondo Y., Nakama C., Oguro R., Kabayama M., Kawai T., Kusunoki H., Yokoyama, S., Imaizumi Y., Takeya M., Yamamoto H., Takeda M., Takami Y., Itoh N., Yamamoto K., Takeya Y., Sugimoto K., Nakagawa T., Ikebe K., Inagaki H., Masui Y., Ishizaki T., Takayama M., Arai Y., Takahashi R., Rakugi H.: Differences in the association between high blood pressure and cognitive functioning among the general Japanese population aged 70 and 80 years: The SONIC study. *Hypertension Research*. 39(7), 557-63, 2016. (査読あり) (IF : 3.21, 2015)
8. 小園麻里菜, 権藤恭之, 小川まどか, 石岡良子, 増井幸恵, 中川威, 田淵恵, 立平起子, 池邊一典, 神出計, 新井康通, 石崎達郎, 高橋龍太郎: 余暇活動と認知機能との関連—地域在住高齢者を対象として—. *老年社会科学*, 38 (1), 32-44, 2016. (査読あり)
9. 相田 順子, 石崎 達郎, 石渡 俊行, 田久保 海誉, 新井 富生. 表在型Barrett食道癌の診断: 表在型Barrett食道癌の転移・再発危険因子 第72回食道色素研究会多施設アンケート調査から. *胃と腸*. 51(10), 1269-1282, 2016. (査読無し)
10. Tamura Y., Izumiyama-Shimomura N., Kimbara Y., Nakamura K., Ishikawa N., Aida J., Chiba Y., Mori S., Arai T., Fujiwara M., Poon SSS., Ishizaki T., Araki A., Takubo K., Ito H. Telomere attrition in beta and alpha cells with age. *Age*, 38 (3), 61, 2016. (IF : 2.50, 2015)
11. Uota M., Ogawa T., Ikebe K., Arai Y., Kamide K., Gondo Y., Masui Y., Ishizaki T., Inomata C., Takeshita H., Mihara Y., Maeda Y. Factors related to taste sensitivity in elderly: cross-sectional findings from SONIC study. *Journal of Oral Rehabilitation* 43 (12), 943-952, 2016. (査読あり) (IF : 1.93, 2015)
12. Wakui T., Agree EM., Saito T., Kai I. (2016). Disaster preparedness among older Japanese adults with long-term care needs and their family caregivers. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 27., 1-8. (査読あり) (IF : 0.92, 2015)
13. Mitsutake S., Shibata A., Ishii K., Oka K. Associations of eHealth Literacy With Health Behavior Among Adult Internet User. *Journal of Medical Internet Research*. 18(7), e192, 2016. (査読あり) (IF : 4.53, 2015)
14. Ogawa T., Uota M., Ikebe K., Arai Y., Kamide K., Gondo Y., Masui Y., Ishizaki T., Inomata C., Takeshita H., Mihara Y., Hatta K., Maeda Y. Longitudinal study of factors affecting taste sense decline in old-old individuals. *Journal of Oral Rehabilitation* (in press) (査読あり) (IF : 1.93, 2015)
15. Ishizaki T., Shimmei M., Fukuda H., Oh EH., Wakui T., Mori H., Takahashi R. Cumulative number of hospital bed days among older adults in the last year of life: a retrospective cohort study. *Gerontology and Geriatrics International*. (in press) (査読あり) (IF : 2.23, 2015)
16. 石崎達郎. 後期高齢者の多病・多剤処方に関する研究. 平成27年度厚生労働科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究事業「後期高齢者の保険事業のあり方に関する研究」平成27年度総括・研究分担報告書, 136-143, 2016年3月. (査読なし)
17. 石崎達郎, 涌井智子. 高齢者の医療サービス利用状況: 死亡前1年間の累積入院日数. 平成27年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業「地域包括ケア実現のためのヘルスサービスリサーチ」. 平成27年度総括・研究分担報告書, 73-79, 2016年3月. (査読なし)
18. 石崎達郎. 多病と診療ガイドライン. 平成27年度厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「社会的責任に応える医療の基盤となる診療ガイドラインの課題と可能性の研究」. 平成27年度総括・研究分担報告書, 89-93, 2016年3月. (査読なし)

(2) 総説

1. 涌井智子: 変わりゆく介護の姿: 第1回-多様化する介護家族. 看護のチカラ, 446, 74-75, 2017. (査読なし)
2. 森寛子. 人の痛みに共感できますか 転倒, 骨折, そして当事者の気持ち 突然の事故に遭う動揺. 看護のチカラ, 458, 1, 2017. (査読なし)
3. 森寛子. 人の痛みに共感できますか 治療方針は自分で決める. 看護のチカラ, 460, 1, 2017. (査読なし)
4. 森寛子. 人の痛みに共感できますか 世話を受けるつらさと心の持ちよう. 看護のチカラ, 462, 1, 2017. (査読なし)
5. 石崎達郎. 介護保険制度における低所得者の保険料と介護費用自己負担. 日本老年医学会雑誌. 54 (1), 18-21, 2017 (査読なし)
6. 光武誠吾, 石崎達郎. 要介護高齢者の移行期ケアプログラムの現状について. 日本老年医学会雑誌. 54 (1), 2017 (印刷中) (査読なし)
7. 涌井智子. 要介護高齢者の介護者を取り巻く環境. 日本老年医学会雑誌. 54 (1), 35-40, 2017 (査読なし)
8. 森寛子. 人の痛みに共感できますか 転倒, 骨折, そして当事者の気持ち 焦らず筋肉を鍛える長期戦. 看護のチカラ, 463, 1, 2017. (査読なし)
9. 森寛子. 人の痛みに共感できますか人の痛みをわがことと感じる力の持つ癒し. 看護のチカラ, 465, 1, 2017. (査読なし)
10. 森寛子. 人の痛みに共感できますか. 情報を整理して, 損得表を作る:意思決定の助けになれば. 看護のチカラ, 467, 1, 2017. (査読なし)

3 著書等

1. Gondo Y., Masui Y., Kamide K., Ikebe K., Arai Y., Ishizaki T.: SONIC Study: A Longitudinal Cohort Study of the Older People as Part of a Centenarian Study. In Pachana, N.A. (ed.), *Encyclopedia of Geropsychology*, Springer Science+Business Media Singapore. p.1-10, 2016. (査読なし)
2. Wakui T., Cheng S.T.: Filial Responsibility. In Pachana, N.A., (Ed.) *Encyclopedia of Geropsychology*. Springer Science+Business Media Singapore. (査読なし)

終末期ケアのあり方の研究

1 学会発表

(1) 海外

1. Nakazato K., Wakui T., Hirayama R., Shimada C.: The Nature and Components of Filial Involvement With Advanced Care Planning for Parents in Japan. In Symposium Title: Unpacking socio-cultural embeddedness of end-of-life care decision-making: Japanese approach. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Tampere (Finland), 2016.6.19-22.
2. Hirayama R.: Structural ambivalence for adult children as end-of-life decision makers for aging parents: A case of adult sons in Japan. Paper presented in the symposium, R. Hirayama (Chair), Unpacking socio-cultural embeddedness of end-of-life care decision-making: Japanese approach at the 23rd Nordic Congress of Gerontology. Tampere, Finland. June 19 - 22, 2016.
3. Shimada C., Hirayama R., Nakazato K., Wakui T.: Advance Care Planning for Whom? Sociocultural

Influences on Older Adults' Views on End-of-Life Care in Japan. The 23rd Nordic Congress of Gerontology, Tampere, Finland, 2016.6.19-22

4. Wakui T., Hirayama R., Nakazato K., Shimada C.: Do parents' care needs or adult children's caregiving roles matter for end-of-life care preparedness? Poster presented at the 23rd Nordic Congress of Gerontology. Tampere, Finland. June 19 - 22, 2016.
5. Ito M., Shimada C., Hirayama R., Kydd, A., Obuchi S.: Does getting more experienced lead to more positive attitudes toward elder care? A case of professional and student nurses in Japan. Poster presented at the 23rd Nordic Congress of Gerontology. Tampere, Finland. June 19 - 22, 2016.
6. Hirayama R.: Not dutiful enough? Caregiving sons and gendered filial responsibility in Japan. Paper presented at Changing Practices of Health and Family in Japan by the Department of Japanese studies at the Chinese University of Hong Kong, Hong Kong, China. June 17 - 18, 2016. Invited Lecture

(2) 国内

1. 島田千穂, 中里和弘, 涌井智子, 平山亮: 親の終末期医療の代理決定に向けた子の意思決定態度とその関連要因」第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
2. 伊東美緒, 北井由比, 遠藤美加, 岩田恵子, 黒木優, 斎藤京子, 宇野珠里, 永山百合子, 島田千穂: 高齢者専門の急性期病院において入院が長期化する要因と対策. 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10
3. 涌井智子, 中里和弘, 平山亮, 島田千穂: 終末期ケアプランニングに向けた親子間コミュニケーションと親の介護ニーズとの関連, 第58回日本老年医学会学術集会, 金沢, 2016.6.8-10.
4. 中里和弘, 島田千穂, 涌井智子, 平山亮: 終末期ケアに関する親子間の会話に影響する子どもの態度. 日本老年社会科学会第58回大会, 松山, 2016.6.11-12.
5. 島田千穂: 地域包括ケアシステムにおける人生の最期に向けた相談支援 (シンポジウム7 意思決定を支援する). 第18回日本在宅医学会大会・第21回在宅ケア学会学術集会合同大会, 東京, 2016.7.16
6. 島田千穂, 中里和弘, 平山亮, 涌井智子, 伊東美緒, 大澤誠: 終末期医療に関する家族との事前のコミュニケーション促進・阻害要因: 家族への配慮はどう作用するか. 日本老年看護学会第21回学術集会, 大宮, 2016.7.23-24
7. 伊東美緒, 島田千穂, 中里和弘, 原沢優子, 樋口京子: 特別養護老人ホームの看取りケアにおける関係者の意向と延命医療: ケア方針の選択の仕方と看取った後の納得感. 日本老年看護学会第21回学術集会, 大宮, 2016.7.23-24
8. 中里和弘: がん患者と家族・遺族の心理. 平成28年度厚生労働科学研究 がん対策推進総合研究推進事業臨床栄養スタートアップ講座, 2016.10.9.
9. 平山亮, 島田千穂, 中里和弘: 家族に『私』をどこまで伝えるか: 終末期の準備行動におけるアンビバレンス, 日本家族社会学会第26回大会, 東京, 2016.9.10-11.
10. 島田千穂, 平山亮, 中里和弘: 終末期ケアの希望を事前に家族に伝えるということ」日本家族社会学会第26回大会, 東京, 2016.9.10-11.

11. 原沢優子, 島田千穂, 平山亮: 特別養護老人ホームの看取りにおける血縁家族への固執と譲歩の様相. 日本家族社会学会第26回大会, 東京, 2016.9.10-11.
12. 平山亮: 息子介護者をどのように見るか. 日本教育心理学会第58回総会研究委員会企画シンポジウム「ケア役割を問う: 男性がケアに関わる時」, 高松, 2016.10.8-10.
13. 島田千穂, 平山亮, 中里和弘: 終末期ケアの希望を事前に家族に伝えるということ; 本人に内在する希望・共に創る希望. 第99回シニア社会学会・社会保障研究会, 東京, 2016.11.30
14. 島田千穂, 伊東美緒, 原沢優子, 樋口京子: 特別養護老人ホームの看取りにおける看護職の医療に対する規範意識. 日本看護科学学会第36回学術集会, 東京, 2016.12.10-11
15. 原沢優子, 島田千穂, 伊東美緒: 特別養護老人ホーム職員の看取りケアにおける関心事-テキストマイニングによる分析から-. 日本看護科学学会第36回学術集会, 東京, 2016.12.10-11
16. 中里和弘: 高齢期の親を持つ子ども世代の「親の終末期医療」に対する認識と態度. 上廣倫理財団助成研究会発表会, 2016.12.10.

とは誰か. 看護のチカラ, 21(457), 66-67, 2016. (査読なし)

9. 中里和弘: 変わりゆく介護の姿・第10回; 終末期の高齢患者と家族の心理. 看護のチカラ2017年1月15日号, 80-81, 2017 (査読なし)
10. 平山亮: 変わりゆく介護の姿・第11回; 「家族」の話是谁から聞くか. 看護のチカラ, 印刷中, 2017. (査読なし)

3 著書等

1. 島田千穂, 伊東美緒: 認知症・超高齢者の看取りケア実践, 日総研出版, 2016.6.6
2. 平山亮: 介護する息子たち: 男性性の死角とケアのジェンダー分析. 勁草書房, 2017.2.

2 誌上発表

(1) 原著

1. 島田千穂, 石崎達郎, 高橋龍太郎: 臨死期におけるケアの場の移行を回避する看取りケア体制の関連要因. 厚生学指標, 63(4), 1-7, 2016 (査読あり)
2. Ishizaki T., Shimmei M., Fukuda H., Oh E.H., Shimada C., Wakui T., Mori H., Takahashi R.: Cumulative number of hospital bed days among older adults in the last year of life: A retrospective cohort study. Geriatr Gerontol Int. 2016 May 23. doi: 10.1111/ggi.12777 (査読あり) (IF: 2.229, 2015)
3. 河村諒, 中里和弘: 近親者と死別した高齢者の悲嘆に関連する死生観についての検討. ホスピスケアと在宅ケア, 24(1), 24-37, 2016 (査読あり)

(2) 総説

1. 中里和弘: 変わりゆく介護の姿; 看取った後の家族(遺族)への理解. 看護のチカラ 21(452), 76-77, 2016. (査読なし)
2. 島田千穂: 地域包括ケアシステムのなかの看取り. ふれあいケア3月号, 11-14, 2016 (査読なし)
3. 島田千穂: 変わりゆく介護の姿・第3回; 看取り介護を担う家族. 看護のチカラ2016年6月1日号, 66-67, 2016 (査読なし)
4. 島田千穂: 看護管理者の人間関係構築術. 看護のチカラ2016年10月1日号, 4-14, 2016 (査読なし)
5. 島田千穂: 地域包括ケアシステムにおける人生の最期に向けた相談支援. 日本在宅医学会雑誌, 18(1), 83-84, 2016 (査読なし)
6. 島田千穂, 中里和弘, 平山亮, 涌井智子: 日本の高齢患者はなぜ終末期医療の希望を事前に伝達しないのか? 2014年度助成ジェロントロジー研究報告No.12, 92-95, 2016 (査読なし)
7. 島田千穂: 変わりゆく介護の姿・第9回; 終末期医療の代理決定を担う家族. 看護のチカラ2016年12月1日号, 58-59, 2016 (査読なし)
8. 平山亮: 変わりゆく介護の姿・第7回; 「息子介護者」

研究支援施設等

トランスレーショナルリサーチ推進室

1 施設紹介

施設長：遠藤玉夫（副所長：事務取扱）、

新開省二（副所長：事務取扱）

研究員：山川直美（主任）、深谷太郎（主任）

トランスレーショナルリサーチ推進室は、研究部門及び病院部門のシーズを育成するとともに、その臨床応用や実用化を着実に促進するため、研究助成金による研究支援、周辺特許調査、実験支援、論文調査・作成支援、技術セミナーの開催などの活動を行っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

当施設は研究部門と病院部門との連携を基軸とした実用化支援活動を行なっている。研究所からは、基礎研究から派生した実用化見込みのあるシーズを育成し、また、病院部門からは、臨床現場での課題を研究所の基礎技術で解決、実用化するなどの支援を行っている。

3 活動概要

- 1) トランスレーショナルリサーチ推進会議の運営
- 2) 研究助成の実施とその進行管理
・平成28年度は7課題に対して研究助成を実施
- 3) シーズ課題の掘り起こし、実用化課題の提案、また、実用化促進のための技術支援
- 4) 研究支援
・ゲノム解析、統計解析などの実験支援、及び研究計画立案、実験プロトコルの作成支援
- 5) 特許関連支援
・保有特許ライセンス支援、特許申請支援、周辺特許調査（パテント・クリアランス）
- 6) 技術セミナーの企画及び開催
・平成28年度3回実施
- 7) 活動状況の周知に向けた所内情報誌「Cross-Link」の発行

4 今後の展望

シーズの育成から実用化まで、継続して行なっていくとともに、製品化に至った技術の普及を行

う。

5 業績

(1) 学会 全 10 件

1. 深谷太郎、小林江里香、杉澤秀博、Jersey Liang、秋山弘子：住環境と健康の関連～横断調査と6年間の縦断変化の関連～、日本老年社会学会第58回大会、愛媛県松山市、2016.6.11-12
2. 小林江里香、深谷太郎、杉原陽子：高齢者における就労および家庭内労働時間とボランティア活動頻度との関係、日本老年社会学会第58回大会、愛媛県松山市、2016.6.11-12
3. 木村好美、小林江里香、深谷太郎：余暇活動と高齢期の健康—1999年から2012年までの13年間の変化より—、日本老年社会学会第58回大会、愛媛県松山市、2016.6.11-12
4. 原田謙、小林江里香、深谷太郎、村山陽、高橋知也、藤原佳典：高齢者の若年者に対する否定的態度に関連する要因—世代間関係における「もうひとつのエイジズム」の検討—、日本老年社会学会第58回大会、愛媛県松山市、2016.6.11-12
5. 深谷太郎、小林江里香、野中久美子：地域階層別にみたソーシャルキャピタル尺度得点の差異—高齢者を対象とした縦断的・横断的検証—、日本社会福祉学会第64回秋季大会、京都市、2016.9.10-11
6. 小林江里香、原田謙、深谷太郎、村山陽、高橋知也、藤原佳典：年長者からの被支援経験は高齢期の子育て支援行動を促すか—Generativityと若者への否定的態度を媒介要因とした検討。日本社会心理学会第57回大会、兵庫県西宮市、2016.9.17-18
7. 安永正史、西真理子、深谷太郎、野中久美子、小池高史、長谷部雅美、鈴木宏幸、村山陽、村山洋史、南潮、斉藤雅茂、小林江里香、藤原佳典：社会的孤立と閉じこもり傾向が死亡に及ぼす影響-首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究（CAPITAL study）6年間の追跡、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪市、2016.10.26-28
8. 野中久美子、小池高史、長谷部雅美、村山洋史、深谷太郎、小林江里香、鈴木宏幸、藤原佳典：大田区高齢者見守りキーホルダー未登録者の特徴、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪市、

2016.10.26-28

9. 箕浦明、南潮、鈴木宏幸、倉岡正高、野中久美子、小池高史、松永博子、深谷太郎、渡辺修一郎、小林江里香、藤原佳典：高齢者の求職活動の長期化が精神的健康度に与える影響 ESSENCE研究(1)、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪市、2016.10.26-28
10. 松永博子、南潮、鈴木宏幸、倉岡正高、野中久美子、小池高史、箕浦明、深谷太郎、渡辺修一郎、小林江里香、藤原佳典：ESSENCE研究(2)：高齢者向け就労支援施設に來所する人の類型、第75回日本公衆衛生学会総会、大阪市、2016.10.26-28

(2) 論文 全 4 件

1. 深谷太郎、小林江里香、杉澤秀博、Liang J、秋山弘子 (2016): 高齢者の電子メールおよびインターネット利用に関連する要因. 老年社会科学、38(3) 319-328.
2. 小林江里香、深谷太郎、原田謙、村山陽、高橋知也、藤原佳典 (2016): 中高年者を対象とした地域の子育て支援行動尺度の開発. 日本公衆衛生雑誌、63(3)、101-112.
3. Murayama H、Liang J、Bennett J M、Shaw BA、Botosaneanu A、Kobayashi E、Fukaya T、 & Shinkai S (2016) : Socioeconomic status and the trajectory of body mass index among older Japanese: a nationwide cohort study of 1987?2006. J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci、71(2)、378-388. (IF : 3.213、2015)
4. Fujiwara Y、Nishi M、Fukaya T、Hasebe M、Nonaka K、Koike T、Suzuki H、Murayama Y、Saito M、Kobayashi E. Synergistic or independent impacts of low frequency of going outside the home and social isolation on functional decline-A 4 year-prospective study of urban Japanese elderly. Geriatr Gerontol Int. (First published online: 22 January. (IF : 2.229、2015)

(2) 特許 全 1 件

1. 発明者: 山川直美 : DNAメチル化分析方法, 特許第6089012号, 登録日 平成29年2月10日, 出願人: 山川直美 .

アイソトープ施設

1 施設紹介

施設長（安全管理責任者）：功刀 正行
放射線取扱主任者（研究副部長）：三浦 ゆり（兼務）

アイソトープ施設の目標は、放射線障害防止に関連した法律を遵守し、利用者や公衆の安全を確保する一方、放射線・放射性同位元素の利用促進と施設の維持管理を行うことである。放射線・放射性同位元素を利用する研究手法は、老化研究の進展に大きく貢献するものであり、本施設はその安全利用のための維持管理を行う。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・放射線業務従事者に対する教育訓練を病院部門と共同で実施した。

3 活動概要

放射線業務従事者の管理について

- ・教育訓練を実施した。
 - 初期教育訓練 12月19日（1名）
 - 放射線安全講習（再教育訓練） 3月6日（43名）、3月21日（5名）、3月24日（3名）、3月27日（5名）
- ・健康診断（問診、血液検査）を2回実施した。
 - 前期：6月13～16日、後期：12月6～8日

施設管理について

- ・作業環境測定を行った（毎月1回 / 12回）。
- ・自主点検を2回実施した（前期9月16日、後期3月7日）。

RI管理について

- ・有機廃液の集荷を行った（7月19日）。

法令対応について

- ・定期検査・定期確認に対応した（4月25日）。
いくつか改善点の指摘を受けたが、定期検査は合格し、施設として法令に準拠していることが確認された。また定期確認において、法令に基づいた管理が行われていることが承認された。
- ・原子力規制委員会に平成27年度放射線管理状況報告書を提出した（6月10日）。
- ・板橋警察署からのRI保管状況に関する問い合わせに対応した（9月29日）。
- ・放射線障害予防規定の細則を改定した（異動に伴う緊急連絡通報体制の変更）。

4 今後の展望

今後ともアイソトープ施設は、放射線業務従事者の安全を確保し、放射線・放射性同位元素の利用促進のための維持及び管理を行う。

実験動物施設

1 施設紹介

施設長：遠藤 玉夫

研究員：野田 義博、根本 妙子

実験動物施設概要

実験動物施設はセンター研究所棟5階に位置する。管理区域は、清浄区域と準清浄区域に分かれている。前者は、マウス飼育室4室、ラット飼育室1室、共用実験室4室、実験室6室、処置室2室、胚操作関連室3室など、より構成される。後者は、検査室、処置室、ウサギ飼育室、検査室、洗浄室などで構成される。この両区域はP1Aレベルの拡散防止措置が執られている。管理区域の床は全域においてUV硬化樹脂フロアコートを施工し、滑りにくく、清掃消毒効果を向上させ、労働安全衛生に配慮した清浄度の高い飼育環境を維持することを可能にした。

マウスとラットについては、特定の病原体を統御し、動物を感染症から防御するため、IVC (Individually Ventilated Caging) システムラックにより飼育されている。

施設の収容能力は、マウス21,700匹 (4,340ケージ)、ラット840匹 (280ケージ)、ウサギ9匹 (9ケージ) である。飼養、保管されているマウスの大部分が遺伝子組換えマウスであり、約80系統が維持されている。また、実験動物施設は、マウス (C57BL/6NCrSlc, C57BL/6J JAX)、ラット (Wistar, F344/DuCrIcrlj) について、生涯飼育による老化動物育成事業を推進している。現在までにマウスで149ロット、Fischerラットで137ロット、Wistarラットで149ロットの老化動物を育成し続け、老年学および老年医学研究の推進において重要な役割を担っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

老化機構研究チーム、老化制御研究チーム、老化脳神経科学研究チーム、老年病態研究チーム、神経画像研究チーム、腎臓内科、整形外科、理化学研究所バイオリソースセンター 遺伝工学基盤技術室、千葉大学大学院医学研究院 先進加齢医学寄附講座、近畿大学生物理工学部 先端技術総合研究所 生物学技術センター、実験動物中央研究所、東京大学大学院医学系研究科 加齢医学講座、東京大学医学部附属病院 老年病科、山下湘南夢クリニ

ック 高度生殖医療研究所、シーエル研究所、ダイセルオルネクス株式会社

3 活動概要

施設管理業務は、老化動物育成供給を含む実験動物の準備供給、新規購入動物の発注、実験動物の飼育管理、実験動物感染症対策としての検査検査、微生物学的クリーニング、生殖工学技術による研究支援、その他、動物実験全般に渡る技術支援、空調設備を始めとする設備機器の維持管理、施設運営予算の管理、購買物品の検収作業、また、実験動物飼育管理および建物管理を業務委託し、各社への指揮監督など多岐にわたる。これらの業務の内、特に、病原体感染事故と空調関連の事故を防止することを最優先課題とし、研究活動が円滑に行われる様、運営している。また、厚生労働省の所管する実施機関として厚生労働省動物実験基本指針に従い、動物愛護の観点に配慮しつつ、科学的観点に基づく適正な動物実験が実施される様、情報収集に努め、教育訓練等で利用者への周知徹底を行っている。

以下、2016年度の主な活動を述べる。

1. 動物実験委員会、教育訓練 (実験動物講習会) の開催

動物実験委員会

第1回：2016.4.28 第4回：2016.11.9

第2回：2016.6.27 第5回：2017.1.24

第3回：2016.7.26 第6回：2017.3.23

教育訓練

実験動物施設利用者講習会 (2016.4.12、2016.5.11、2016.5.24、2016.5.25、2016.7.14、2016.8.8、2017.1.13)、参加者89名

動物実験セミナー (2016.12.13) 「実験動物と腸内フローラ」伊藤喜久治、参加者41名

実験動物施設外部認証説明会 (2017.2.6、2017.2.8)、参加者23名

実験動物慰霊祭と共催 (2017.2.3) 「生体試料採取 - より精度の高い実験のために -」久保田明衣、参加者79名

2. 実験動物使用数

動物実験委員会にて審査され、機関長により承認された75件の動物実験が実施された。実験動物使用数を表1に病原微生物検査数を表2に示した。

3. 生殖工学技術を応用した研究支援業務

体外受精または凍結胚融解・胚移植による実験個体の作製 (10件)。

体外受精・胚凍結による凍結胚の作製(16件)。
マイクロインジェクション法による遺伝子
改変マウス、ゲノム編集マウスの作製(3件)。

4 厚労省基本指針への対応

当センターは、「厚生労働省の所管する実施機
関における動物実験等の実施に関する基本方針」
(以下厚労省指針)に従い、動物実験実施規定を定
めている。さらに、これら管理体制の厚労省指針
への適合性について、自己点検ならびに評価を実
施している。2017年1月30日には、第三者機構の調
査を受け、厚労省指針への適合性に関してヒュー
マンサイエンス振興財団の動物実験実施施設認証
センターより認証された。

5 業績

(1) 誌上発表

1. 井上達也, 東里 香, 野田義博, 西村愛美, 梶
本みずき, 小橋朱里, 折杉卓哉, 細井美彦, 安
齋政幸: L-カルニチン添加体外成熟培地がマウ
ス卵子細胞質内活性酸素種に与える影響
近畿大学先端技術総合研究所紀要 第21号 49-
56 (2016. 5.31刊)
2. Ayumi Hasegawa, Keiji Mochida, Hiroki Inoue,
Yoshihiro Noda, Tamao Endo, Atsuo Ogura.
High-Yield Superovulation in Adult Mice by
Anti-Inhibin Serum Treatment Combined
with Estrous Cycle Synchronization. Biol. Re-
prod. 94(1):21, 1-8, 2015
3. 安齋政幸, 井上達也, 西村愛美, 野田義博, 東
里香, 梶本みずき, 三谷匡, 細井美彦: β -
Nicotinamide Mononucleotideを添加したマウ
ス体外成熟培地が未成熟卵子内への活性酸素
種(ROS)に与える影響日本受精着床学会雑誌
33(1): 21-26, 2016

(2) 学会・講演会発表

1. 持田慶司, 長谷川歩未, 野田義博, 遠藤玉夫,
渡辺元, 小倉淳郎: 成熟マウスの性周期同期化
と抗インヒビン血清投与による過排卵誘起法.
第57回日本卵子学会, 新潟, 2016.5.14-15
2. 野田義博, 中田久美子, 遠藤玉夫, 山下直樹,
大澤郁朗: 活性酸素障害によるマウス精子運動
機能低下と分子状水素の抑制効果. 第63回日
本実験動物学会総会, 神奈川, 2016.5.18-20
3. 杉本瑞紀, 井上達也, 西村愛美, 野田義博, 東
里香, 小橋朱里, 折杉卓哉, 中川隆生, 細井美
彦, 安齋政幸: β -Nicotinamide mononucleotide

- (β -NMN)添加体外成熟培地による卵子の体
外成熟とその後の胚発生に与える影響. 第63
回日本実験動物学会総会, 神奈川, 2016.5.18-20
4. 長谷川歩未, 持田慶司, 野田義博, 遠藤玉夫,
渡辺元, 小倉淳郎: 性周期同期化と抗インヒビ
ン血清による成熟マウスの効率的な過排卵誘
起法. 第63回日本実験動物学会総会, 神奈川,
2016.5.18-20
 5. 野田義博, 根本(宮内)妙子, 前川尚子, 塚崎祐
大, 高橋洋子, 遠藤玉夫: 新規飼養環境におけ
る老化動物の育成. 第39回日本基礎老化学会
大会, 神奈川, 2016.5.27-28
 6. 天野晶子, 近藤嘉高, 野田義博, 町田修一, 尾
林博, 石神昭人: エストロゲン合成酵素アロマ
ターゼ(*Cyp19*)の遺伝子欠損による脂質代謝
への影響. 第39回日本基礎老化学会大会, 神奈
川, 2016.5.27-28
 7. Yoshitaka Kondo, Hirofumi Masutomi, Yo-
shihiro Noda, Yusuke Ozawa, Keita Takahashi,
Setsuko Handa, Naoki Maruyama, Takahiko
Shimizu, Akihito Ishigami: SMP30/SOD1 dou-
ble knockout mice exhibit increased oxidative
stress and hepatic steatosis. 第39回日本基礎
老化学会大会, 神奈川, 2016.5.27-28
 8. 天野晶子, 近藤嘉高, 野田義博, 町田修一, 尾
林博, 石神昭人: アロマトラーゼノックアウトマ
ウスを用いたエストロゲン欠乏が肝臓での脂
質代謝に及ぼす影響. 第89回日本生化学会大
会, 仙台, 2016.9.25-27
 9. 野田義博, 根本(宮内)妙子, 安西尚子, 塚崎 祐
大, 高橋洋子, 遠藤玉夫: 老化動物育成におけ
る飼養環境の検討. 第50回日本実験動物施設
技術者協会総会, 埼玉, 2016.9.29-10.1
 10. 安西尚子, 根本(宮内)妙子, 高橋洋子, 遠藤玉
夫, 野田義博: 新生児マウスの個体識別への
入墨法の検討. 第50回日本実験動物施設技術
者協会総会, 埼玉, 2016.9.29-10.1
 11. 安齋政幸, 西村愛美, 野田義博, 東里香, 中川
隆生, 小橋朱里, 折杉卓哉, 細井美彦: 体外成
熟培地への β -Nicotinamide mononucleotide
(β -NMN)添加がマウス卵子内Sirt1発現に及
ぼす影響. 第50回日本実験動物施設技術者協
会総会, 埼玉, 2016.9.29-10.1
 12. 長谷川歩未, 持田慶司, 野田義博, 遠藤玉夫,
渡辺元, 小倉淳郎: 多くのマウス系統で効果的
な新しい過排卵誘起法. 第50回日本実験動物
施設技術者協会総会, 埼玉, 2016.9.29-10.1
 13. 折杉卓哉, 東里香, 小橋朱里, 西村愛美, 野田義博,
中川隆生, 小笠原里奈, 小木曾力, 鷲津朱理, 細井
美彦, 安齋政幸: マウスGV期卵を用いた体外成

熟操作における β -Nicotinamide Mononucleotide 添加が初期胚発生に与える影響. 第39回 日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30-12.2

Superoxide dismutase 2欠損マウスは神経変性を誘導する. 第39回 日本分子生物学会年会, 横浜, 2016.11.30-12.2

14. 泉尾直孝, 野田義博, 清水孝彦: 脳特異的

表1. 2016年度実験動物使用数

(ケージ)

		マウス		ラット	ウサギ
		一般	組換え		
実験動物施設	研究チーム	3,636	1,426	124	—
	老化動物	1,228	—	98	—
ポジトロン医学研究施設		144	—	15	—
合計		5,008	1,426	237	—
		6,434			

* マウスは5匹/ケージ、ラット3匹/ケージ

表2. 2016年度病原微生物検査数

(匹)

	定期検査	検疫	合計
マウス	105	2	107
ラット	24	0	24
合計	129	2	131

高齢者健康増進事業支援室

1 施設紹介

施設長：大淵修一

研究員：河合恒、三木明子

非常勤研究員：関口晴子、伊藤久美子、林紗保理、
江尻愛美、本島安純、河出卓郎、
中田晴美、坂井志麻

高齢者健康増進事業支援室では、高齢者の介護予防・健康増進を目的として、1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証、2) 介護予防の専門職である介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ、3) 民間企業との共同研究を行っている。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

- ・自立促進と介護予防研究チーム
- ・社会参加と地域保健研究チーム
- ・福祉と生活ケア研究チーム
- ・健康増進センター

3 活動概要

1) 地域における介護予防活動の発展を目指した区市町村等への事業支援及びその効果検証（自治体支援プロジェクト）

港区「高齢者虐待防止・養護者支援事業」、「認知症予防区民向け講演会」、東京都福祉保健局、豊島区、小金井市、東久留米市「介護予防機能強化推進事業」、豊島区、多摩市「介護予防リーダー養成講座」、千代田区、北区「介護予防事業評価」などの事業を受託し、自治体の介護予防事業支援を実施した。

また、日本医療研究開発機構（AMED）委託費により、豊島区菊かおる園地域包括支援センター所管地域において、住民協働の介護予防のまちづくりの効果検証研究を実施した。

2) 介護予防主任運動指導員、介護予防運動指導員の効果的な養成とフォローアップ

システム改修による効果的な更新・フォローアップ体制の整備、専用ホームページによる定期的な情報提供、新規パンフレット作成、主任運動指導員指定事業者との協力による学会や展示会での普及活動を行った。

3) 民間企業との共同研究

株式会社インフォデリバ「AI等を活用したシニア向け健康増進アプリケーション開発への助言」、マイスター・ファクトリー株式会社「通所介護施設内におけるCGTプログラム等への助言」、コブラ株式会社「エクササイズ（メットライフエクササイズ：ダンスを取り入れた運動監修）」など民間企業との共同研究を行った。

4 今後の展望

高齢者健康増進事業支援室は、1年から5年の短中期の課題に着眼し、研究所のエビデンスを活かして区市町村等の支援を行う。また、民間企業との共同研究にも積極的に取り組み、地域が一丸となって、健康寿命の延伸に取り組むことができるようにする。

5 業績（誌上発表）

1. 解良武士, 河合 恒, 吉田英世, 平野浩彦, 小島基永, 藤原佳典, 井原一成, 大淵修一: 心疾患で在宅療養する地域在住高齢者の心身機能の特徴, 日本公衆衛生雑誌, 64(1), 3-13, 2017
2. Somekawa S, Mine T, Ono K, Hayashi N, Obuchi S, Yoshida H, Kawai H, Fujiwara Y, Hirano H, Kojima M, Ihara K, Kim H: Relationship between sensory perception and frailty in a community-dwelling elderly population, The Journal of Nutrition Health and Aging, 21(6), 710-714, 2017
3. 駒井さつき, 枝広あや子, 河合 恒, 渡邊 裕, 田中弥生, 吉田英世, 金 憲経, 大淵修一, 平野浩彦: 日本の地域在住高齢者における栄養状態とサルコペニア重症度の関連性の検討－BMI, Alb, 体重減少の有無との関連－, 日本老年医学会雑誌, 53 (4), 387-395, 2016
4. 白部麻樹, 平野浩彦, 小原由紀, 枝広あや子, 渡邊 裕, 吉田英世, 大淵修一: 都市部在住高齢者を対象とした歯周疾患実態調査, 老年歯科医学, 31(1), 1-27, 2016
5. Yuki Ohara, Naomi Yoshida, Hisashi Kawai, Shuichi Obuchi, Hideyo Yoshida, Shiro Mataka, and Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe: Development of an oral health-related self-efficacy scale for use with older adults, Geriatrics and Gerontology International, 2016 Aug 17.

doi: 10.1111/ggi.12873. [Epub ahead of print], 2016

6. Takeshi Kera, Ayako Edahiro, Hirohiko Hirano, Hisashi Kawai, Hideyo Yoshida, Motonaga Kojima, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi and the TOSHIMA Research Group: Alternating motion rate to distinguish elderly people with history of pneumonia, *Respiratory care*, 61(12), 1644-1650, 2016
7. Ryota Sakurai*, Hiroyuki Suzuki*, Susumu Ogawa*, Hisashi Kawai, Hideyo Yoshida, Hirohiko Hirano, Kazushige Ihara, Shuichi Obuchi, Yoshinori Fujiwara (*Equal Contribution): Fear of falling, but not gait impairment, predicts subjective memory complaints in cognitively intact older adults, *Geriatrics and Gerontology International*, 2016 Jul 7. doi: 10.1111/ggi.12829. [Epub ahead of print], 2016
8. Kumpei Tanisawa, Yasumichi Arai, Nobuyoshi Hirose, Hiroshi Shimokata, Yoshiji Yamada, Hisashi Kawai, Motonaga Kojima, Shuichi Obuchi, Hirohiko Hirano, Hideyo Yoshida, Hiroyuki Suzuki, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Maki Sugaya, Tomio Arai, Seijiro Mori, Motoji Sawabe, Noriko Sato, Masaaki Muramatsu, Mitsuru Higuchi, Masashi Tanaka: Exome-wide association study identifies CLEC3B missense variant p.S106G as being associated with extreme longevity in east Asian populations, *Journal of Gerontology: Biological Sciences*, 72(3), 309-318, 2017

研究情報管理室

1 施設紹介

室長：遠藤玉夫

研究員：森澤 拓

兼務研究員：坂田宗之

(神経画像研究チームネットワーク担当)

非常勤職員：久保田ゆかり

研究情報管理室は、研究所LANの運用・管理、セキュリティの確保等を行い、研究所における情報環境を整え、「情報」というキーワードのもと研究活動を支援しています。

2 他の研究チーム、臨床部門、外部機関との連携

東京都健康長寿医療センター、経営企画課情報管理係とネットワーク管理を連携

東京都健康長寿医療センター病院、放射線診療科とネットワーク管理を連携

3 活動概要

1) 研究所LANの運用・管理

東京都健康長寿医療センター研究所LANの運用を行っています。インターネットに1Gbpsで接続し、電子メールの運用管理を行っています。全フロアに無線アンテナを設置し、モバイル機器への本格対応を行っています。さらに、研究所と病院の効率的な連携のために、研究所LANの情報セキュリティ設計を見直し、研究情報ネットワーク情報セキュリティ実施手順及び神経画像研究ネットワーク情報セキュリティ実施手順の運用を開始しました。

2) 共同利用コンピューター・大判プリンター機器等の運用・管理

共用のMicrosoft Windows8及び10パソコン、レーザーカラープリンター、B0対応大判プリンター、A3対応スキャナー等の運用管理を行っています。また、共用Mac, windowsノートパソコンの貸出も行っています。一部機器は、病院、事務からの利用要望にも対応しています。

3) 統計処理等アプリケーションソフトウェアの管理

共用パーソナルコンピューターに統計処理ソフトウェアSASを導入し、共同利用サービスを行っています。その他代表的なパソコン用ソフトウエ

アも導入し、サービスを行っています。

4) 薬品管理支援サーバ、老研瓦版サーバ、共用ファイルサーバの運用

薬品管理支援サーバは、毒物及び劇物の適正な管理、その他各種薬品の適正な管理支援のために導入されており、運用管理を行っています。老研瓦版サーバは、研究所内のお知らせ掲示板として、実験動物施設からの動物管理情報など、研究所内部の連絡のためのホームページとして、東京都健康長寿医療センターのお知らせホームページの補完的役割を担い運用管理を行っています。さらに、共用ファイルサーバを運用管理しており、各種委員会連絡等に用いられています。

5) 文献検索

PsycINFO、AGELINE、医学中央雑誌などの文献検索データベースについて、インターネットから利用できる方式で契約を行い、管理運用を行っています。

6) その他

研究用コンピューターシステムの導入相談、パソコントラブル相談等に対応しており、研究所におけるコンピューター利用ガイダンス、情報セキュリティ管理に努めています。

4 今後の展望

コンピューターウイルスへの対応、情報漏えい対策を充実させると共に、研究所スタッフのセキュリティ意識の向上を図っていく予定です。

II 長期縦断研究等

SONIC研究

プロジェクトリーダー：石崎 達郎

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
前期高齢者から100歳以上高齢者までの高齢期全体の集団を対象とした身体・生理機能、認知機能、感情状態、心理的well-beingの経年変化と関連要因に関する総合的・包括的検討	79-81歳コホート第1回調査1000名、100歳コホート第1回調査前半100名	89-91歳コホート第1回調査400名、100歳コホート第1回調査後100名	69-71歳コホート第2回調査1000名	79-81歳コホート第2回調査973名、100歳コホート第2回調査前半100名	89-91歳コホート第2回調査300名、100歳コホート第2回調査後半100名
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	69-71歳コホート第3回調査	79-81歳コホート第3回調査、100歳コホート第3回調査	89-91歳コホート第3回調査	69-71歳コホート第4回調査	79-81歳コホート第4回調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
石崎達郎(福祉と生活ケア研究チーム研究部長)	福祉と生活ケア研究チーム：石崎研究部長、増井研究員、栗延非常勤研究員、小野口研究生。自立促進と介護予防研究チーム：栗田研究部長、稲垣研究員、小川研究員。老化機構研究チーム：三浦副部長、遠藤副所長。高橋非常勤研究員	慶応義塾大学：新井講師、高山助教、平田助教、広瀬特別招聘教授、高山教授、石岡助教。大阪大学：権藤准教授、池邊准教授、神出教授。神戸大学：片桐准教授。日本学術振興会海外特別研究員・University of Zurich：中川研究員。国立保健医療科学院：大久保研究員

3 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

今年度は、①平成22年度から開始した69-71歳コホートの第3波追跡調査、②同調査の未受診者に対する訪問調査、を実施している。

中心となる調査は①の平成22年度開始の69-71歳コホートの第3波調査である。第3波調査では、第1波調査（平成22年度）もしくは第2波調査（平成25年度）の参加者全員を対象者とし実施している。本年の調査でこのコホートについては3時点、6年間の追跡が可能となり、本研究の最も重要な研究課題の一つである医学、歯学、運動学、心理学などの包括的な諸変数の加齢によるトレンドおよびその相互関係を70歳代高齢者において確認することが大きな目標となっている。

また、これまで収集した調査データを用いて①70歳群、80歳群の3年後の追跡調査データを用いた認知機能、口腔機能、精神的健康の縦断的变化とその関連要因の分析、②第1波調査のデータを用いた認知機能とその関連要因に関する見当も引き続き行っている。知見の創出については、現在、学会発表を中心に報告を行っているが、査読つき論文の発表も増加している。

【その根拠】

①69-71歳コホート第3波会場招待型調査：対象者数は1190名であった。平成29年1月20日までの調査参加者および参加予定者数の合計は668名である（参加率56.1%）。都市部（板橋・伊丹）での参加率は62.5%、非都市部（西多摩・朝来）での参加率が49.3%となっており、参加者の高齢化が進むにつれ非都市部でのリクルートがやや難しくなっている傾向がある。今後、残る地域において平成29年3月末までに調査を実施し、会場招待型調査による追跡を完了することが決定している。

②69-71歳コホート第3波訪問調査：本年度会場招待型調査に参加しなかった対象者に対して、調査会社に委託し訪問調査を実施している。予算や調査会社のスケジュールもあり、本年度は板橋地区および伊丹地区の未受診者のうち、調査会社による訪問調査への拒否を行わなかった者に対して、平成28年12月から平成29年2月中に実施する予定である。本年度、未受診者訪問調査が実施できない西多摩地区および朝来地区については、平成29年4月以降に調査を行う予定である。

SONIC研究の研究報告は、平成28年4月から平成28年12月までに論文・著書発表10件（うち総説4件）、国内学会発表10件、国外・国際学会発表13件であった。

【新しい知見】

1) 機能低下および機能維持の要因解明に関する縦断的検討からの知見

①プロテオーム解析による初期の認知機能低下マーカーの探索

70歳調査のサンプルの中から、第1波調査に比べて第2波調査（3年後）において認知機能（Moca-J得点）の低下が顕著であった者を抽出し、該当者の3年間のタンパク質変化を調べた。その結果、APOEなどのβ-アミロイド結合タンパク質が増加し、免疫機能に関与するタンパク質が減少することが明らかになった。現在、第1波調査と第2波調査ともに認知機能が正常な人と低い人の比較解析や、認知機能が正常な人の2つ調査の比較解析などの対照実験を行い、候補となるタンパク質スポットを絞り込んだ。現在、翻訳後修飾について検討している（三浦ら、第39回日本基礎老化学会大会発表）

②後期高齢者の味覚低下に影響を及ぼす要因の縦断的検討

80歳群の第1波調査および第2波調査データを用いて、3年間の味覚感受性低下の関連要因を検討した。分析の結果、男性は女性よりも甘味および酸味の感受性が有意に大きく低下していた。また第1波において、認知機能（Moca-J）が低かった参加者は、塩味の感受性が有意に低下することが示された。これらの結果から、後期高齢期の味覚感受性の低下に、性別と認知機能が主に関連していることが明らかとなった（Ogawa et al; Oral Rehabilitation, 2016 (in press)）。

③身体機能低下時の精神的健康維持におよぼす老年的超越の影響の縦断的検討

70歳群、80歳群の第1波調査から第2波調査において身体機能指標（握力・歩行速度・活動性）の3つがすべて低下した参加者を対象に、第1波調査時の老年的超越が精神的健康低下に及ぼす影響を検討した。その結果、身体機能の3側面とも大きく低下した者では、精神的健康が有意に低下していたが、この中で、第1波調査時に老年的超越が高かった者では精神的健康の低下が認められなかった。仮説通り、身体的な問題を抱えやすい高齢者の精神的健康に老年的超越が重要であることが示された。（Masui et al, The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, 2016）

2) 高齢期における認知機能の高さの関連要因に関する横断的検討からの知見

①血圧と認知機能の関連：前期高齢者と後期高齢者での差異の検討

高収縮期血圧（SBP）と認知機能（Moca-J）と

の関連について、70歳群と80歳群で比較を行った。その結果、70歳群では両者の有意な関連がみられたが、80歳群では有意な関連が見られなかった。また、80歳群では認知機能と血清アルブミンなどの栄養状態指標、および外出頻度が関連していた。これらの結果から「血圧は前期高齢者においては認知機能の危険因子であるが後期高齢者ではあまり重要でない可能性」が示唆された（Ryuno et al: Hypertension Research, 2016 Jul;39(7):557-63）。

②高齢者の余暇活動の分類と認知機能の高さとの関連の検討

70歳群の参加者が、普段実施している余暇活動の自由記述データを分類した結果、12種類のカテゴリーに分類できた。カテゴリー別の余暇の実施数と認知機能（Moca-J得点）との関連を階層的重回帰分析で検討した結果、教育年数やIADLなどの交絡要因の影響を統制しても、趣味活動カテゴリーや休息・リラクセスカテゴリーの実施数が多いほど、認知機能がより高いことが示された。この結果は、高齢期の余暇活動が認知機能の維持に関連する可能性を示唆する（小園ら：老年社会科学, 2016, 38(1): 32-44）。

4 研究成果の還元

SONIC研究の研究報告は、平成28年4月から平成28年12月までに論文・著書発表10件（うち総説4件）、国内学会発表10件、国外・国際学会発表13件であった。

また、後期高齢期以降の幸福感や老年的超越の役割に関するSONIC研究の業績が認められ、亀岡市から「高齢期の幸福度に関する調査」に関する調査設計、調査データ分析に関する事業を受託した（事業費100万円）。

5 今後の展望

本研究計画では、最終年度（平成32年）までの10年間で70歳群および80歳群は4時点での調査、90歳群は3時点（終了時年齢が82歳、92歳、102歳）となっている。現在のところ第2波調査までが終了し、本年度より平成30年度までに、70歳群、80歳群、90歳群の第3波調査を実施する予定であり、研究は計画通りに進んでいる。

本年度から実施予定の第3波調査は、SONIC研究の研究課題のうち最も重要なもののひとつである、後期高齢期以降の医学的・歯学的・運動学的・社会的・心理学的諸変数の縦断変化を捉える上で欠かすことができない重要な調査となる。

また、加齢トレンドを捉える上で重要となる追

跡中の脱落者に対しては、第2波調査の80歳群、90歳群から訪問調査で捕捉しており、本年度も70歳群調査の未受診者について訪問調査を計画している。これらの情報を総合的に分析する体制が整ってきており、研究数がいまだ少ない後期高齢者、超高齢者の縦断変化およびその関連要因を検討する体制が確立しつつある。

6 その他

本研究は、高齢期前半から超高齢期までの加齢変化および健康長寿達成の要因を、前向きの長期縦断研究により包括的に明らかにするものである。超高齢者について国内ではトップクラスの調査規模（80歳高齢者1214名、90歳高齢者については598名）を誇る。近年、超高齢期の健康関連要因が前期・後期高齢者を対象とした研究の知見とは異なることが報告されており、超高齢期の健康度向上のために新しい知見をもたらすことが期待される。

更に、本研究は各年齢群（70歳、80歳、90歳）内の年齢幅を3歳と小さくすることにより、年代差や加齢に伴う変化の個人差を検出しやすく、関連要因を検討しやすいデザインを用いている。

各年齢群に含まれる参加者の年齢幅が狭く、かつ比較的規模の大きなSONICサンプルはコントロール集団として利用価値も高い。現在、SONIC研究で収集されたサンプルが他の研究機関で行われた長寿遺伝子解析やプロテオーム解析研究において、結果の再現性を確認するためや、ターゲットに対するコントロール集団して分析に用いられており、今後の健康長寿研究に大きな役割を果たすことが予想される。

知見の産出に関しては、70歳群、80歳群、90歳群の第1波調査および第2波調査のデータを用い、3年間の縦断的变化およびその関連要因について検討する。特に、3年間での疾患の発症や、初期の認知機能低下に関して、その関連要因について詳細に検討する。

また、平成26年度から開始した初期の認知機能低下によるタンパク質変動に関する解析においては、MCIの診断マーカー候補となる可能性のあるタンパク質を明らかできた。これについても、同一人物の認知機能低下前と低下後を比較することができるため、ばらつきの原因となる因子を抑えた効率的なプロテオミクス解析が可能となっている。現在、絞り込んだスポットの翻訳後修飾について検討しており、今後は抗体などを用いた高感度かつハイスループット検出法を構築し、初期の認知機能低下に関するバイオマーカーの開発につなげる。

さらに、SONIC研究のコホートは関西・関東、都市部・非都市部を組み合わせた形で配置されており、長寿関連要因および健康関連要因の地域差についても検討できるデザインとなっており、今後検討を進めていきたい。

虚弱(frailty)の予防戦術の解明を目的とした長期縦断研究

プロジェクトリーダー：北村 明彦

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年度別計画				
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
後期高齢期の虚弱化の予防戦術の立案	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査
	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査
	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査	草津縦断調査	草津縦断調査	草津縦断調査 同悉皆調査
	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査	鳩山コホート 簡易調査	鳩山コホート 詳細調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
北村明彦	新開省二（副所長）、西真理子、谷口優、天野秀紀、清野諭、横山友里、成田美紀、藤原佳典、鈴木宏幸（以上、社会参加と地域保健RT）、粟田圭一、渡邊裕、枝広あや子、本川佳子（自立促進と介護予防RT）、石崎達郎、大淵修一（福祉と生活ケアRT）、伊藤雅史、藤田泰典（老化機構RT）、重本和宏（老年病態RT）	森聖二郎、周赫英（臨床研究推進センター）、田中雅嗣（臨床検査科）、稲松孝思（顧問）、鈴木克彦（早稲田大）、渡辺修一郎、田中千晶（桜美林大）、吉田裕人（東北文化学園大）、杉原茂（内閣府）、野藤悠（地域医療振興協会）、JALS（日本動脈硬化縦断研究）、日本補綴歯科学会、武見ゆかり（女子栄養大）、川野因（東京農大）、羽山実奈（大阪がん循環器病予防センター）

3 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

1) 草津縦断調査

過去最多の729人の受診者に対し会場型調査を実施し、過去の蓄積データと併せて65歳以上高齢者1890人（延べ8778件）の縦断型データセットを構築した。また、地域の介護予防対策の評価に関する分析を行い、長期的効果と課題を明確にした。

2) 鳩山コホート詳細調査

追跡コホートの対象者等計467人に対し会場型調査とアンケート調査を完了するとともに、新たな栄養疫学的分析のためのデータを取得した。また、これまでに実施したフレイル予防・改善プログラムの介入の短中期的効果を検証した。

3) 所内外との共同研究

草津、鳩山、板橋、柏の各コホート研究の統合データを用いた研究、ならびに施設内研究部門・病院部門及び他機関との共同研究の成果の公表と還元を進めた。

【その根拠】

1) 草津縦断調査

社会参加・社会貢献チーム、自立促進と介護予防研究チーム、老化機構研究チーム、日本補綴歯科学会、及び関係諸機関と協働で、7月4日～8日に延べ約20名の研究所スタッフと延べ約50名の雇用スタッフにより、過去最高の729人に対して調査を行った。その後、データ入力と個人結果票作成を正確に行い、結果説明会等にて結果を返却した。健診データ以外に、2015年末までの異動情報、要介護認定情報、介護費、医療費（国保、後期）を自治体から入手しデータセットを更新した。さらに、厚生労働省に人口動態調査情報の提供を申請し、2001～2015年末の65歳以上の死因情報を得た。

また、草津町における14年間の介護予防対策の効果と課題を示すなど新たな知見を得た。

2) 鳩山コホート詳細調査

草津調査と同様、他チーム及び関係諸機関の協力を得て、9月13日～16日に計358人（モニター330人、公募28人）に対して詳細調査を実施し

た。本研究対象742人(2010年ベースライン調査)のうち、死亡、転出、調査拒否を除く対象者557名の内439人(79%)からの応答を得た(健診受診330人、アンケート返送109人)。

今年度は、追加項目としてBDHQ(簡易型自記式食事履歴質問票)を実施し、詳細な栄養素摂取状況の把握および栄養疫学的分析のデータを得た。地域在住高齢者のための低栄養スクリーニングツール開発のための調査項目も収集した。健診終了後は、データ入力、個人結果票作成、結果説明会を行った。健診データ以外に、2015年末までの異動情報、要介護認定情報、医療費(国保、後期)を自治体から収集した。

また、2011年と2013年に実施したフレイル予防・改善プログラムの効果検証をさらに進め、短中期的効果を英語論文と日本公衆衛生学会にて公表した。

3) 所内外との共同研究

(1) 統合研究

所内外の高齢者コホート研究の統合データから算出した高齢者(65歳以上90歳まで)の性別、年齢別の体力・体組成の基準値を用いた体力チェックシートを、当センターのフレイル外来、及び鳩山健診の体力測定、大田区内の商店街や自治会館等での体力チェックに用いた。また、昨年度に開発した日本人高齢者向けのサルコペニアチェックシステムの活用方法を検討中である。

(2) その他の共同研究

①新規バイオマーカーに関する共同研究

伊藤雅史研究部長および森聖二郎研究部長らとの共同研究を継続し、草津縦断調査や鳩山コホート調査の保存血清を用いて、新規バイオマーカー(GDF-15、MuSK)の追加測定を行い、体組成や死亡等のアウトカムとの関連を分析し、その成果を国内外で発表した(藤田研究員が本年度5月日本基礎老化学会で若手奨励賞を受賞)。

②加齢黄斑変性の栄養疫学研究

東京大学眼科との共同研究の一環として、鳩山コホートの追跡調査のデータを分析して加齢黄斑変性の栄養関連因子を明らかにし、その結果を英語論文に公表した。

③日本補綴歯科学会との共同研究

同学会との共同研究「高齢期の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に与える影響」の2年目に当たる本年度は、同学会員から公募した研究申請から1課題と学術委員会から提案された1課題の合計2課題について、草津縦断データを活用した研究を開始した。データ分析を進め、来年度6月に開催される同学会第126回学術大会に

おいて研究企画推進委員会が主催するセミナーで成果が報告される予定である。

【新しい知見】

1) 草津縦断調査

○草津町において、後期高齢者における要介護(2以上)の認定率が14年間の対策初期から抑制され、近隣町村よりも低率となり2014年まで続いていることが明らかとなった。一方、要介護(1以下、要支援含む)の認定率は、後期、前期高齢者ともに次第に上昇しつつあることが示され、今後、要支援を含む軽度の要介護状態を対象とした介護予防及び日常生活支援事業に一層力を入れることが重要と考えられた。

○草津町在住の高齢者を対象とした過去14年間の計7回の悉皆調査データの分析の結果、近年において在住高齢者全体では高次生活機能の向上とフレイル該当率の低下傾向が認められた。

○草津町の高齢者コホートの平均約6年間の追跡研究の結果、フレイルは自立喪失(要介護状態発生または死亡)の有意の危険因子(予知因子)であったが、メタボリックシンドロームと自立喪失との間には有意の関連は認められなかった。

2) 鳩山コホート詳細調査

○高齢期のフレイル予防・改善を目的とした3ヶ月間の複合プログラムは、運動・心理・栄養機能の向上に伴いフレイルの改善をもたらし、その効果は介入終了後3ヶ月後も持続して認められた。さらに、介入終了後16ヶ月後もフレイルの改善効果が続いていることが明らかとなった。

3) 所内外との共同研究

○血清GDF-15濃度の高値は、地域高齢者の総死亡のリスクを高めることが明らかとなり、ミトコンドリアの機能障害が老化の進行に関連している可能性を示した。

○n3系不飽和脂肪酸、 α トコフェロール、亜鉛、ビタミンD、ビタミンC、 β カロテンの各摂取量が低い群では、加齢黄斑変性症の有病オッズが有意に高かった。

4 研究成果の還元

本プロジェクトの地域への還元効果として、草津町では、要介護認定率の上昇が抑制され、今年度から介護保険料が3900円から3300円(全国市町中の最低額。H.28.4時点)に引き下げられた。鳩山町では、平成26年の65歳健康寿命が男女とも県内第1位になり、健康づくりサポーターの会は、公衆衛生事業功労者として第60回埼玉県公衆衛生大会にて表彰された。また、教室型のフレイル改善

複合プログラムの中期的な持続効果が明らかになったことから、今後、同プログラムの内容（運動実践・十分な栄養摂取・社会参加の活発化）は地域でのフレイル予防対策の実践に資するものと考えられる。

5 今後の展望

後期高齢期の虚弱化の予防戦術の立案という目標に向けて、地域ベースの対策や介入の効果及び課題が明確化されつつあり、研究の進行に関しては概ね妥当と考える。

6 その他

草津縦断調査、鳩山コホート調査ともに、高齢者健診とともに、郵送調査や訪問調査を繰り返して実施し、心身・生活・社会的な各機能、生活習慣病指標等について多岐に調査している。地域全体の死亡、転出情報と医療・介護保険情報も並行して収集しており、調査データと突合することにより、健康余命等に影響を及ぼす因子を総合的に分析し、地域の実態を反映した信頼性の高いエビデンスを生み出すことが出来る。

また、所内外の関連部門、関連機関との共同研究を継続して実施しており、基礎医学、臨床医学、歯科等の多面的な分野からの知見を創出する等、独創性の高い研究が推進されている。

高齢期の健康と自立の維持と要介護予防のための新たな 検診システムの開発

プロジェクトリーダー：吉田 英世（平成28年8月まで）
金 憲経（平成28年9月から）

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目（目標）	年 度 別 計 画				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
高齢期、特に後期高齢期における健康と自立の維持を阻害する因子の把握し、これらに基づいて老年症候群を予防するための新たな検診システムの開発を試みる。	※新規コホート（2011年コホート）初回調査	※2011年、既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査	※既存コホート追跡調査 ※2011年コホート対象者への介入研究	※2011年コホート（対象者追加）追跡調査	※2011年コホート、既存コホート追跡調査

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
金憲経	渡邊裕、平野浩彦、吉田祐子、小島成実、大須賀洋祐、藤野健（自立促進と介護予防）、大淵修一（福祉と生活ケア）藤原佳典、鈴木宏幸（社会参加と地域保健）、石神昭人（老化制御研究）、河合恒（高齢者健康増進）、伊藤雅史（老化バイオマーカー）	荒木厚（内分泌科）、鈴木隆雄、島田裕之（国立長寿医療研究センター）、熊谷修（人間総合科学大学）、古名丈人（札幌医科大学）、井原一成（東邦大学）、小島基永（東京医療学院大学）、小原由紀（東京医科歯科大学）

3 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

I. 既存コホートの追跡調査（1）：板橋区2008年（平成20年）コホートの8年後追跡調査

ベースラインである平成20年度の受診者1289名に対して受診票を発送し、会場招待型健診を平成28年9月26日～10月5日（10/1土曜日、2日日曜日を除く）の計7日間実施した。受診者数は、83歳以上の高齢女性325名であった。会場調査不参加者964名を対象に郵送調査を行い、435名のデータを収集した。追跡者数は、郵送（435名）+会場（325名）=760名、追跡率は59.0%である。

今年度の新たな試みとしては、

- 1) 体力測定法の開発：将来の転倒や認知機能の低下を予測する新規パフォーマンステストを開発するために、新たな測定項目を追加し、データを収集した。
- 2) 肺機能検査：2008年度には計測したが、2010年度、2012年度、2014年度追跡調査時に採用しなかった肺機能測定を再度実施した。

- 3) 認知機能検査：高齢者の認知機能評価法として今日まで、MMSEを使用してきたが、今年度には国立長寿医療センターとの共同研究を行うためにタブレットを用いて評価する方法を追加し、データを収集した。
- 4) サルコペニアのbiomarker：サルコペニアと関連するbiomarkerを探索するために、新たな血液分析項目を追加した。
- 5) 認知機能低下とうつとの関連性の評価：東邦大学との共同研究で認知機能低下とうつとの関連性を評価するための新たな調査項目を追加し、データを収集した。

II. 既存コホートの追跡調査（2）：板橋区2011年コホートの5年後追跡調査

対象者は、2011年お達者健診受診者913名（男性363名、女性550名）である。これまで2012年835名（男性350名、女性485名）、2013年793名（男性340名、女性453名）、2014年762名（男性313名、女性449名）、2015年639名（男性265名、女性374名）の会場招待型の健診を行い、本年は6回目の調査となる。今年度は継続受診者1,299名、65歳・66歳新規

対象者276名に案内状を郵送し、平成28年11月25日～30日の計6日の調査に831名のデータを収集した。今年度の新たな試みとしては、

- 1) オーラルフレイルと身体フレイルとの関連性を詳細に分析するためのデータを継続的に収集した。
- 2) 大腿筋の筋質評価を行うためのデータを継続的に収集した。

【その根拠】

I. 板橋区2008年（平成20年）コホート追跡調査

- 1) 体力測定より認知機能の評価するための新たな項目として、Stepping trail making testを採用し、310名のデータを収集した。
- 2) 肺機能の評価のためにスパイロメトリーを用いて、肺活量、努力性肺活量、1秒量のデータ（325名）を収集した。
- 3) 認知機能評価は今までMMSEより評価してきたが、認知機能をより正確に評価するための取り組みとして、国立長寿医療研究センターで妥当性が検証されているNational Center for Geriatrics and Gerontology Functional Assessment Tool (NCGG-FAT)を新たに導入し、325名のデータを収集した。
- 4) サルコペニアのbiomarkerとして、今まで分析しなかったFeやB12を追加分析し、サルコペニアとの関連性を検討するために325名のデータを収集した。
- 5) 認知機能低下とうつ調査との関連性を評価するために、基本チェックリストのうつ関連5項目、GDS15項目を採用し、データを収集した。

II. 板橋区2011年（平成23年）コホート追跡調査

- 1) オーラルフレイルが身体フレイルの予知因子であるかどうかを検証するための縦断データの収集中である（平成28年11月25日～30日の6日間）。
- 2) 大腿筋エコー輝度の周波数解析による筋質評価を行うため、高解像度の超音波画像計測装置を用いた大腿四頭筋エコー画像のデータ収集中である（平成28年11月25日～30日の6日間）。

【新しい知見】

I 板橋区2008年（平成20年）コホート追跡調査

- 1) MMSEとStepping trail making test (S-TMT)との関連性について：Stepping trail making testはTrail Making TestやWalking trail making testの先行文献を参考に新たに開発したPerformance testとして、MMSEなどの既存の認知機能テストとの間に高い相関を有する

との前提で、板橋コホートの追跡調査で310名のデータを収集した。その結果、S-TMTが遅くなるほどMMSE点数が下がる傾向が観察された(Jonckheere-Terpstra trend test, $P < 0.01$)。多変量分析の結果、認知機能の低下の独立した予測因子となる可能性を検証した。

- 2) サルコペニア高齢者の肺機能について：2008年度初回調査時に肺活量の計測が可能だった1,029名を正常群(891名)とサルコペニア群(138名)の肺機能を比較した。その結果、サルコペニア群は肺活量1815cc（正常群2057cc、 $P < 0.001$ ）、努力性肺活量1568cc（正常群1748cc、 $P < 0.001$ ）、一秒量1286cc（正常群1442cc、 $P < 0.001$ ）と有意に低かった。8年後の肺活量指標の変動について分析し、新たな知見を得る。
- 3) NCGG-FATによる認知機能評価について：NCGG-FATはタブレットを用いて認知機能(全般的認知機能、単語記憶、論理的記憶、注意・実行機能、情報処理速度、ワーキングメモリ、視空間認知)を評価するために開発された妥当性が高い評価ツールの一つである。NCGG-FATによるMCIとMMSEによるMCIを比較分析し、優れる精度を有する手法を導入し、認知機能の変動を継続的に分析するためのデータを継続的に収集する。
- 4) サルコペニアのbiomarkerについて：2008年度お達者健診参加者1,399名よりサルコペニア高齢者304名を選定し、貧血既往を調べた。貧血既往歴はサルコペニア群4.6%（正常群2.2%、 $\chi^2 = 5.245$, $P = 0.022$ ）と有意に高かった。今後、貧血指標として使われているFeやB12とサルコペニアとの関連性についてより詳細に分析する。
- 5) 認知機能低下とうつとの関連性について：2008年度コホートの4年度の追跡調査（2012年）のデータに基づき、MMSEによる認知機能と基本チェックリストによるうつとの関連性を分析した。MMSE23点未満群を認知機能低下（12名）と仮定し、基本チェックリスト2点以上をうつ症状あり（102名）と仮定した。認知機能23点未満群でうつ症状あり41.7%（23点以上群で17.3%、 $\chi^2 = 4.752$, $P = 0.029$ ）であった。この結果より、認知機能低下とうつとの関連性が強く示唆されたので、今後大規模集団にて詳細な検討を継続する計画である。

II 板橋区2011年（平成23年）コホート追跡調査

- 1) オーラルフレイルと身体フレイルとの関連性について：2013年度と2015年度包括的健診に参加した65歳以上の追跡調査参加者491名（男性

213名、女性278名)を対象に、2年間の変化で健常からプレフレイル(72名)、プレフレイルからフレイル(39名)に変遷した111名と関連する要因を分析した。その結果、ガム(混和能力)、通常歩行速度、MMSE、SDSが有意な予知因子であった。ガム咀嚼より評価した「咀嚼機能」、「通常歩行速度」、「MMSE」はフレイルへの変遷を遅延する効果を有し、SDSはフレイルの促進要因であることを究明した。今後、これらの関連性をより明確にするためのデータを継続的に収集する。

- 2) 大腿筋の筋質評価—大腿筋エコー画像測定一：エコー画像測定による大腿四頭筋の筋厚、輝度は高齢者の筋肉量や筋質の評価に用いられているが、筋厚は筋内脂肪の増加、筋輝度はむくみや測定深度の影響も受け、体格や運動機能の個人差が大きい地域高齢者の評価に用いる上では課題がある。このような課題を克服するために、地域高齢者831名を対象に、大腿四頭筋エコー画像のデータを収集した。

4 研究成果の還元

お達者健診受診者には、個別に結果をフィードバックしており、その結果を参考に、区の介護予防事業へ参加したり、医療機関を受診したりするケースもあり、区民ための介護予防健診として活用されている。また、新たなサルコペニアのbiomarkerについてはサルコペニアの早期発見に活用される可能性が高く、オーラルフレイルと身体的フレイルとの関連性について歯科関連学会のシンポジウム及び2nd Asia Conference for Frailty and Sarcopeniaのシンポジウムにて紹介するなど関連学会で広く普及させるための活動を展開している。

5 今後の展望

I 板橋区2008年(平成20年)コホート追跡調査

2008年度コホートにおいて、新たな検診システム開発の試みとして、認知機能をより正確に把握するための認知機能検査を取り入れながら、体力計測よりの評価可能性を探索するためのデータ収集を継続的に実施している。また、認知機能低下やうつ症をそれぞれ単独で検討してきたが、認知機能低下とうつ症との関連性を究明するためのデータを継続的に収集するなど研究目的を達するために妥当な進行になっている段階である。

II 板橋区2011年(平成23年)コホート追跡調査

これまで主に、転倒リスク、膝痛、生活機能低下に対して鋭敏な運動機能評価指標を検討することを目的として、大腿筋厚、骨盤加速度、膝関節動揺量などを測定してきた。昨年度からは、口腔、栄養についても、従来なかった新たな項目を採取し、新たな検診システムの構築に向け、さまざまな角度から老年症候群のリスクに対応するための、妥当性、汎用性、新規性が高い項目の検討が計画的に実施できている。

6 その他

- 1) 本研究(健康調査)主眼である老化サインの早期発見と早期予防を目的とした健診の趣旨が、受診者への理解が深まり、両コホートいずれも比較的高い継続受診率が維持できている。
- 2) 本研究は、研究所内のみならず多岐の外部専門研究者との連携体制によって構成されており、身体機能、口腔機能、認知機能、うつ、biomarker、サルコペニアなど幅広く網羅的に実施している。
- 3) 今年度、2008年度に計測したスパイロメトリーを再度実施し、8年間後のデータを収集した。これまでスパイロメトリーを用いたコホートは喫煙、呼吸器疾患とその臨床症状を直接のターゲットとしたものが大半である。しかし他の心身機能との関連を調査するための縦断データは多くなく、今後新しい知見を得るとの期待が高い。

都市高齢者の社会・経済・健康格差を乗り越える研究

プロジェクトリーダー：大淵 修一

1 研究計画に基づく研究項目と年度別計画

研究項目(目標)	年度別計画				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
都市高齢者の社会、経済の変化に伴う健康格差を明らかにする	予備調査(対象地区の選定、自治体との連携準備等)	基礎調査(センター周辺の9丁目7,000名への郵送調査)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査100名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査200名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査300名)
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査400名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査500名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査600名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査700名)	追跡調査(郵送調査4,200名、訪問調査800名)

2 研究体制・組織

研究リーダー	研究部門内の構成員	病院部門及び他機関の構成員
A系、B系幹部研究員による共同執行体制 (提案責任者) 福祉と生活ケア研究チーム 大淵修一	老化制御研究チーム 石神昭人 自立促進と介護予防研究チーム 金憲経、渡邊裕 社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典 福祉と生活ケア研究チーム 石崎達郎、大淵修一 高齢者健康増進事業支援室 河合恒	臨床検査科 田中雅嗣 糖尿病・代謝・内分泌内科 荒木厚 歯科口腔外科 平野浩彦 リハビリテーション科 小山照幸 循環器内科 杉江正光 桜美林大学老年学総合研究所 鈴木隆雄所長 東京女子医科大学地域看護学 中田晴美准教授 東京医療学院大学 小島基永教授

3 平成28年度の研究成果

【平成28年度の進捗状況】

板橋フィールドにおける平成24年度のベースライン郵送調査回答者3,696名のうち、平成26年度の追跡郵送調査未回答者に対して平成27年度以降、深掘り調査を進めている。平成28年度は昨年度実施したフォローアップ郵送調査対象者971名のうち、生存が確認され回答が得られなかった500名に対してはがき調査を行なった。さらに、これにも回答しなかったもの256名に対して訪問調査を行った。

また、豊島フィールドにおいては病院部門の医師と連携し、都市高齢者の受療行動、ストレス対処能力、サルコペニアの発生状況などについて調査を行っている。平成28年度は追跡のための会場調査を実施した。

いずれの調査も計画通り進行している。

【その根拠】

板橋フィールドにおける平成26年度追跡郵送調査回答者は2,368名(64.1%)平成27年度のフォローアップ郵送調査対象者回答者は465名(12.6%)であった。この未回答者へのはがき調査の応答者は234名(6.3%)、さらに、この未応答者への訪問調査完了者は156名(4.2%)、すべてに不参加であった者は100名(2.7%)不明が373名(10.1%)であった。各群のベースライン時の特性を比較すると、フォローが困難であった群ほど健康度自己評価が低く、老研式活動能力指標得点が低く、外出頻度が低い傾向があった。

豊島フィールドにおいては、11月8日から11月22日の期間に8日間、会場調査を実施し、488名が受診した。このうち追跡対象者は289名(追跡率59.2%)であった。

【新しい知見】

1) 心疾患で在宅療養する地域在住高齢者の心身機能の特徴

追跡調査対象のうち、心疾患群75名（男性 47名、女性 28名）、非疾患群683名（男性 263名、女性 420名）で、共存症や服薬状況、フレイル、社会的背景（生活習慣、運動習慣、介護保険、JST版新活動指標の差を調べた。その結果、心疾患群では、JST版新活動指標が低く、心疾患治療薬、脂質代謝異常薬などの服薬数が多いことがわかった。また、歩行速度の低下も認められ活動量の低下が要因であると考えられた。（日本公衛誌, 2017）

2) 地域高齢者における肺炎既往とオーラルディアドコキネシスとの関係

追跡調査中に肺炎を発症した24名とPropensity Score Methodによりマッチされた対照で、基礎調査時の包括的な心身機能の差を調べた。その結果、身体機能においては差が見られないにもかかわらず、オーラルディアドコキネシス（Alternating motion rate:AMR）において2群間に有意な差を認めた。一方、反復嚙下テストには有意差を認めなかった。Logistic回帰分析においても、AMRは独立した寄与をしめし、破裂音の連続再生をおこなうAMRは、将来の肺炎発症を予測する有力な指標である事がわかった。（Respiratory Care, 2016）

3) 主観的物忘れの歩行関連変数に着目した予測因子の検討

客観的な認知機能評価では正常であるものの、主観的に認知機能低下の低下を訴えるもの（Subjective memory complaints: SMC）の関連要因を調べた。406名の基礎調査対象者で、SMCと判断されたものは45.1%であった。基礎調査時に認知機能が正常で1年後の追跡調査に応じたものは223名であった。そのうち48名が新規にSMCと判断された。この新規発症SMCを予測する要因としては、女性である事、転倒の恐怖感がある事が抽出されたが、歩行速度や抑うつ傾向は影響していなかった。これらの事から、転倒の恐怖感SMCの初期症状として表れるのでは無いかと考えられた。（Geriatr Gerontol Int, 2016）。

4) 化粧ケアが地域在住高齢者の主観的健康観へ及ぼす効果

主観的健康観を改善する事を目的に、地域在住高齢者113名を対象に月に2回、3ヶ月間の化粧ケアを実施した。化粧ケアではスキンケアに関するワークショップと在宅実施の動機付けを行った。また、比較対照群として長期縦断研究コホートからPropensity Score Methodによりマッチングした対照者を選定した。その結果、主観的健康観では2群に差を認めなかったが、抑うつ傾向を示すSDS

では介入群が有意に高い結果となった。化粧ケアは地域在住高齢者の精神的健康に良好な効果をもたらすと考えられた。（日老医誌, 2016）

4 研究成果の還元

化粧ケアについては、豊島区において介護予防事業に採択され、旧庁舎跡地の再開発で始められるプロジェクトの一部として豊島保健所と共同で実施する計画を策定中である（豊島区長来訪説明あり）。

昨年度まとめた、地域の社会関係に関する知見について（手段的なADLが自立しているものは95%であるが、週に1度人と話すことがない人が50%である都市部の実態）、離脱理論に基づく働きかけが必要であることを周知したところ、平成29年度の東京都の予算要求において市町村の住民を主体とした取り組みを進めるべく、介護予防推進センターの設置について福祉保健局から予算要求がなされるに至った。

産業へは「都市高齢者健康長寿医療研究会」が第24回まで研究会を行い、新たなコンソーシアムの組織と、競争的資金の獲得に向けて企業との連携を行っている。平成27年度からは、3つの問題解決型のワーキンググループ（WG）への改組を行ったが、そのうち1) 情報と通信WGでは、お達者健診の社会実装プロジェクトを実施するに至っている。また、研究会を重ねる中で歩行速度の測定の重要性につき産業界への啓発を行ったところ、スマートフォンのアプリとして歩行速度計測が実装され、北海道伊達市での実証試験を行うまでになっている。

5 今後の展望

都市高齢者の社会・経済・健康格差を乗り越えるためには、地域を対象とした比較対照試験ができる研究フィールドの構築と、産学官の共同研究体制の構築が必須である。定期的なセンター内、企業との合同研究会は5年目となり、問題解決型WGで研究知見の社会実装へと歩を進めている。より具体的な、研究シーズの実用化へ向けた活動が行えたと考えている。

これには、病院部門、A系、B系を超えた、目的志向の研究チームの共同執行体制による進行が妥当であったと考えている。今後も引き続き都内の健康産業を目指すものがこの研究グループに統合されるように進めていく。

平成29年度は研究計画に従い板橋、豊島の両フィールドにおける縦断研究のデータを解析し、都

市高齢者の健康格差の要因を明らかにし報告する。産業と行政との連携は継続的にWGを中心とした活動を発展させ、大型の研究費の獲得をめざし研究を加速させたい。

6 その他

病院部門、研究部門、産業界が有機的に動いている長期縦断研究は他に無いと考えている。単なる長期縦断研究に止まらず、この調査フィールドを最大限に活かし、企業などとの共同研究を促進し、喫緊の都市高齢者の課題を解決することを目指した希有の研究である。

東日本大震災被災者支援プロジェクト

プロジェクトリーダー：大瀧 修一

〈構成メンバー〉

テーマリーダー：大瀧修一

研究員：栗田主一、石崎達郎、菊地和則、森寛子

非常勤研究員：高橋龍太郎、江尻愛美

1 目的と意義

東日本大震災の被災地においては、地域保健福祉システムの再建・機能強化を目指した、中期的な支援活動が必要となっている。本研究は、被災地域の高齢者を中心とする保健福祉システムの再建と従来から続く課題への取り組み強化に資するため、要援護者・高齢者を支える現地福祉・介護スタッフの支援、および、応急仮設住宅などに暮らす高齢者支援を通して継続的拠点作りをめざす活動を計画・実施するとともに、得られた知見を首都圏防災における高齢者支援に役立てることを目的とする。

2 支援対象地域と対象者

支援対象地域と対象者：宮城県気仙沼市、宮城県石巻市網地島、岩手県陸前高田市に在住の高齢者及び施設・在宅サービスに関わる医療・福祉専門職、一般市民

調査対象：宮城県気仙沼市在住の高齢者及び保健・医療・福祉従事者

3 平成28年度の支援内容と成果

宮城県気仙沼市においては、「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の代表を務める機関として、他の支援組織と共同で継続した活動を行っている。具体的には①医療・福祉サービス復旧を担う専門職及びサポートセンター支援を目的とした通年の包括的な研修講座の開催、②仮設住宅を含む地域住民を対象とした市民講座の開催、自主グループ化をめざす介護予防体操普及サポーター養成、③気仙沼市や岩手県陸前高田市におけるお達者出前講座、茶話会の開催（一部、遠野まごころネットと共同）、④介護予防支援プログラムの実施、などである。今年度は、下表に示すように地域密着で情報提供を行った。また、高等看護学校からの依頼でセンター病院部門医師を中心に一般臨床医学の教育を行った。

ところで、4月14日に発生した熊本地震におい

ては、研究所で養成している介護予防運動指導員に対して、エコノミークラス症候群を予防することを目的として、気仙沼で昨年作成した、介護予防体操「海潮音」体操のDVDを提供し、活用を図った。数名の介護予防運動指導員から、避難者への具体的な支援方法として役立ったとのことをお礼をいただいた。

一方、これらの支援を将来に残すために、今年度は2つのプロジェクトを実施した。一つは、気仙沼の医療・保健・福祉関係職員に対する4年目に行った聴き取りのまとめである。12月終わりまでに、聴き取りを行った82名にたいして、逐語録の内容を確認する作業を終える予定で年度末までに報告書としてまとめたい。もう一つは、発災からこれまでセンターが行った支援について、前述の聴き取り調査の内容も交えながら、書籍化を目指している。第1部 医療と福祉の専門職の活動、第2部 センターの支援プロジェクトの概要、第3部 震災後5年を経て立ち向かう新たな課題の構成で、一般書としての発行を企画している。このため外部有識者も交えながら編集作業を行っている。

4 来年度以降の計画

宮城県気仙沼市の市長・行政や医師会、歯科医師会とはこの間の活動を通じて強い連携関係を構築しており、また宮城県石巻市の行政とも良好な連携を維持している。

来年度的最優先課題は、センターが行った5年の支援記録の発刊である。現在の予定では2,500円程度の書籍の価格になると予想されるが、そのうち1,000部を支援班で買い取り関係各所に送付できないかと考えている。

また、支援範囲を宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市に在住の高齢者及び施設・在宅サービスに関わる医療・福祉専門職、一般市民に止まらず、熊本地震など新規の発災にも広げ、より一般化した被災者支援研究へと発展させたい。

III 普及活動等

1 新聞・雑誌・テレビ等

チーム名	概要	情報提供者	取材機関	
自然科学系副所長	共同研究論文について	遠藤 玉夫	IMSS物構研NEWS	
	福山型筋ジストロフィーに関する研究内容について	遠藤 玉夫	「生きる！ふくやまっこ」HP	
社会科学系副所長	高齢者の低栄養について	新開 省二	月刊清流	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	Medical Tribune電子版	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	日刊ゲンダイ	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	週刊女性	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	毎日新聞	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	Medical Tribune	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	読売新聞	
	プラチナ世代の健康づくりについて	新開 省二	TOKYO MX	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	東京新聞	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	美感遊創	
	コーヒーと三大生活習慣病について	新開 省二	へるすさろん	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	産経新聞	
	高齢者の低栄養とその対策について	新開 省二	ハルメク	
	健康長寿と肉食について	新開 省二	食品化学新聞	
	いつまでの元気にゴルフを続けるための食事上の注意	新開 省二	パーゴルフ	
	スマイルケア食について	新開 省二	へるすさろん	
	高齢者の低栄養とフレイルについて	新開 省二	くらしとからだ	
	食べ物と長寿について	新開 省二	週刊ポスト	
	健康長寿と栄養について	新開 省二	熟年ばんざい	
	東京都健康長寿医療センター研究所について	新開 省二	東京都交友会会報	
	スマイルケア食について	新開 省二	へるすさろん	
	高齢者の低栄養について	新開 省二	日経新聞	
	高齢期の健康管理のポイントと健康長寿のまちづくりに向けて	新開 省二	あぶろく	
老化機構研究チーム	筋ジストロフィー症の原因となる糖鎖構造の解明について	萬谷 博	科学新聞	
	あなたは長生きしたいですか	三浦 ゆり	エール	
老化制御研究チーム	まだまだ足りてない！最新版「ビタミン」とり方ガイド	石神 昭人	すこやかファミリー	
	ビタミンCの第3次機能について	石神 昭人	月刊H&Bリテイ尔	
	カロリー制限、やっぱり長寿に効果	石神 昭人	朝日新聞	
	「ビタミンCが足りないと老化が進む」に関する取材	石神 昭人	週刊朝日別冊「ハレやか」	
	ビタミンCについて	石神 昭人	NHK	
	今人気の水素水 裏にひそむ実態とは？	大澤 郁朗	フジテレビ	
	水素水の有効性について	大澤 郁朗	毎日新聞	
	水素水の効果についての科学的検証	大澤 郁朗	産経デジタル iRONNA	
	商品としての水素水について	大澤 郁朗	MONOQLO	
	水素ビジネスについて	大澤 郁朗	週刊東洋経済	
	健康長寿に向けたアンチエイジングにおけるコエンザイムQ10の役割	高橋 真由美	パトス	
	老化脳神経科学研究チーム	高齢者が熱中症になりやすいのはなぜ？	堀田 晴美	テレビ朝日
		握力と認知症との関係のメカニズムについて	堀田 晴美	女性自身
ローラーによる軽微な皮膚刺激が、過活動膀胱による高齢者の夜間頻尿を緩和することを発見		堀田 晴美	日経メディカル	
認知症予防に重要とされる運動について		堀田 晴美	毎日新聞	
老年病態研究チーム	認知症との関連性も一サルコペニアは高齢社会の重要課題	重本 和宏	ヘルシスト	
	運動と栄養で筋肉をつけよう	重本 和宏	すこぶる	

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
神経画像研究チーム	アルツハイマー病の検査について	石井 賢二	NHK出版「きょうの健康」
	アルツハイマー病の検査について	石井 賢二	NHK
	認知症と運転に関して	石井 賢二	文藝春秋
	PET/CTによるアルツハイマー病などの診断	石井 賢二	TBS
	アルツハイマー病の検査について	石井 賢二	毎日新聞
	認知症予防の最先端	石井 賢二	NHK
社会参加と地域保健研究チーム	自転車の事故では、潜在的な傷害事故も多い	藤原 佳典	月刊「全老連」
	少子超高齢社会における高齢者の社会貢献の意義	藤原 佳典	韓国ファイナンシャルニュース
	シニアと地域の橋渡しを解説	藤原 佳典	毎日新聞
	日本の高齢者の社会参加の現状と課題	藤原 佳典	Harvard Business Review (イタリア版)
	老い・健康長寿一生きがいで自立充実、地域貢献「支える側に」	藤原 佳典	読売新聞
	認知症を予防することの意味	藤原 佳典	ヨミドクター
	ソーシャル・ウォーキングへの取り組み方	藤原 佳典	ヨミドクター
	社会参加と外出で認知症を予防しよう	藤原 佳典	読売新聞
	笑顔広がる 世代間交流	藤原 佳典	NHK
	認知症を理解し、予防しよう	藤原 佳典	ヨミドクター
	ストップTHE物忘れ・認知症予防SP	藤原 佳典	テレビ朝日
	今、シニアの社会参加が注目されている	藤原 佳典	e-MOOK 楽しいねんきん暮らし
	高齢者の就労と健康を考える研究会開催される	藤原 佳典	ヨミドクター
	孤立と閉じこもり傾向が転倒リスクに影響-フレイルの社会的側面を検討-	藤原 佳典	Medical Tribune
	ピンピン長寿の秘訣 読み聞かせが、認知症予防になる理由は？	藤原 佳典	NHK出版「きょうの健康」
	多世代で支える「地域包括ケアシステム」巡りシンポジウムについて	藤原 佳典	ヨミドクター
	生涯現役のかたち 健康度に応じた社会参加を	藤原 佳典	聖教新聞
	最新研究で認知症は食い止められる！？	藤原 佳典	テレビ朝日
	高齢者の社会参加について	小林 江里香	毎日新聞
	記憶機能の自己チェックとトレーニングについて	鈴木 宏幸	テレビ朝日
	やっではないけないウォーキング	青柳 幸利	ハルメク
	ウォーキングの新常識	青柳 幸利	テレビ朝日
	やっではないけないウォーキング	青柳 幸利	週刊文春
	ウォーキングの新常識	青柳 幸利	ジャパネットたかた
	健康寿命を延ばす	青柳 幸利	NHK Eテレ
	骨粗鬆症、高血圧、脂質異常症に効く日常生活活動	青柳 幸利	テレビ朝日
	老化や病気を防ぐための「1日8000歩、20分の速歩き」	青柳 幸利	夕刊フジ
	健康でいるために見直すべき「ウォーキング」の習慣	青柳 幸利	THE21
	健康寿命を延ばす運動術	青柳 幸利	NHK Eテレ
	「やっではないけないウォーキング」ってどんな歩き方？	青柳 幸利	日経Gooday
	中之条研究	青柳 幸利	日本BS放送
	「適切な運動」について	青柳 幸利	週刊東洋経済
	歩きと病気予防、健康長寿の関係	青柳 幸利	ヘーベリアン
	ウォーキングと認知症	青柳 幸利	健康365
	ウォーキングの健康効果とその日常生活での取り入れ方	青柳 幸利	美ST
	高齢者の身体活動と健康	青柳 幸利	BSジャパン
病気を防ぐ“中強度”ウォーキング	青柳 幸利	婦人公論	
体に良い歩き方、悪い歩き方	青柳 幸利	ヘルシーメイツ	

チーム名	概要	情報提供者	取材機関	
社会参加と地域保健研究チーム	あなたのウォーキング、間違っています！	青柳 幸利	週刊朝日	
	代謝と健康（中之条研究）	青柳 幸利	日経Gooday	
	“歩き方”からわかる健康リスク	青柳 幸利	TBS	
	シニアが「してはいけない運動」「しなくてもいい運動」	青柳 幸利	週刊ポスト	
	中之条研究（ウォーキングと健康に関する新常識）	青柳 幸利	BS-TBS	
	健康寿命を延ばす	青柳 幸利	NHK Eテレ	
	乳酸菌シロタ株の高血圧発症リスク低減効果（ヤクルトとの共同研究）	青柳 幸利	上毛新聞	
	身体活動量と疾病の関係	青柳 幸利	全薬ジャーナル	
	健康長寿のためのウォーキング	青柳 幸利	東京法規出版	
	健康長寿の秘訣	青柳 幸利	朝日新聞	
	高齢者の運動のしすぎと病気のリスク	青柳 幸利	週刊現代	
	ミルクプロテインが高齢者の筋肉量の維持・増大を助ける	清野 諭	介護ポストセブン	
	低栄養と認知機能低下リスクについて	谷口 優	月刊「全老連」	
	ウォーキングの効果について	谷口 優	サンデー毎日	
	身体機能と将来の認知機能低下との関連性について	谷口 優	読売新聞	
	骨格筋量及び身体機能と将来の認知機能低下との関連性について	谷口 優	Medical Tribune	
	骨格筋量及び身体機能と将来の認知機能低下との関連性について	谷口 優	あなたの健康百科	
	握力と認知症との関係	谷口 優	女性自身	
	栄養状態と認知症との関係	谷口 優	週刊文春	
	身体機能の加齢変化パターンと死亡リスクとの関係	谷口 優	読売新聞	
	歩行機能と認知機能との関連について	谷口 優	サンデー毎日	
	歩行機能と認知症との関連について	谷口 優	週刊朝日	
	栄養状態と認知症との関係	横山 友里	週刊文春	
自立促進と介護予防研究チーム	認知症当事者に関する研究事業について	栗田 圭一	共同通信	
	高島平 認知症の地域ケアモデルに	栗田 圭一	高島平新聞	
	地域ケアモデル事業の説明会開催	栗田 圭一	高島平新聞	
	わたしの一日	栗田 圭一	高島平新聞	
	ケアモデル事業の会場調査開始	栗田 圭一	高島平新聞	
	認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業について	栗田 圭一	高島平新聞	
	日本・スコットランド認知症施策セミナーについて	栗田 圭一	毎日新聞	
	和式トイレに上手く適応できるからだ作りについて	金 憲経	毎日新聞	
	熱中症予防について	金 憲経	テレビ朝日	
	中年からの排尿障害への対処法	金 憲経	日経おとなのOFF	
	良い姿勢と正しい歩行が健康寿命を伸ばす	金 憲経	明日の友	
	歩行機能を高く維持するためには	金 憲経	日経新聞	
	筋肉について	金 憲経	テレビ朝日	
	脚筋力低下予防のための生活習慣	小島 成実	月刊「全老連」	
	認知症の人が最後までおいしく食べるために	枝広 あや子	広報ふらの	
	講演会「認知症とお口のトラブル」について	枝広 あや子	北海道新聞	
	稲作と認知症ケア	宇良 千秋	新潟日報	
	認知症予防について	杉山 美香	FMサルース	
	認知症予防について	杉山 美香	かがやきクラブあおば	
	住宅の暖かさと高齢者の健康の関係について	小川 まどか	アズビル	
	福祉と生活ケア研究チーム	健康・仕事ができる人、できない人の分かれ目は？	大淵 修一	プレジデント

チーム名	概要	情報提供者	取材機関
福祉と生活ケア研究チーム	主観的健康寿命を延ばす	大淵 修一	月刊「全老連」
	健康寿命を長く維持する「ピンピンコロリ」の心得	大淵 修一	日経新聞
	他人事じゃない“老老介護”	大淵 修一	女性のひろば
	高齢者の幸福感と老年の超越	増井 幸恵	共同通信
	日本・スコットランド認知症施策セミナーについて	伊東 美緒	毎日新聞
	主観的健康寿命を延ばす	河合 恒	月刊「全老連」
	災害準備していますか	涌井 智子	月刊「全老連」
	災害時に介護が必要な高齢者がいる場合の注意点	涌井 智子	朝日新聞
	「できない」想定した備えを	涌井 智子	朝日新聞
	日本特有のアドバンスケアプランニングとは	島田 千穂	ばんふう
	終末期の過ごし方	島田 千穂	月刊「全老連」
	サポート源・ケアの担い手としての家族	平山 亮	AERA
	独身男性による親の介護	平山 亮	週刊東洋経済
	親子間の援助関係の変化とその背景について	平山 亮	週刊SPA!
	親の介護、きょうだいへの支援	平山 亮	BSフジ
	ケアと仕事の両立、共働き世帯	平山 亮	AERA
	中高年のきょうだい関係	平山 亮	クロワッサン
	息子による親の介護	平山 亮	SUUMO介護
	きょうだい間の支援・介護	平山 亮	毎日新聞
	終末期の過ごし方	平山 亮	月刊「全老連」

2 プレス発表

	プレス発表日	チーム名	氏名	件名
1	平成28年6月27日	老年病態研究チーム 研究部長	重本 和宏	加齢により神経筋接合部の分子構造が変化することを発見—加齢による筋肉現象の機序解明が大きく前進—
2	平成28年8月4日	副所長	遠藤 玉夫	筋ジストロフィー症の新たな仕組みを発見
		老化機構研究チーム 研究副部長	萬谷 博	
3	平成28年10月17日	副所長	遠藤 玉夫	筋ジストロフィー症の原因となる糖鎖構造を解明
		老化機構研究チーム 研究副部長	萬谷 博	
4	平成28年12月7日	社会参加と地域保健研究チーム 専門副部長	青柳 幸利	乳酸菌ラクトバチルス カゼイ シロタ株を含む乳製品の習慣的摂取が高齢者の高血圧発症リスクを低減
5	平成29年2月7日	自立促進と介護予防研究チーム 研究部長	栗田 圭一	「認知症と共に暮らせる社会 (Dementia Friendly Community) を目指して」日本・スコットランド認知症セミナーおよび認知症ケアに関する相互協力覚書調印式開催のご案内/ご取材のお願い

3 老年学・老年医学公開講座等

回	テーマ・講演者	日程	会場	参加者数
142	<p>『これだ！健康長寿の食生活』 【講演者】(司会 遠藤玉夫副所長) ・『疫学研究でわかった「粗食」と「過食」の善と悪』 新開省二 (副所長) ・『高齢期の食生活の提案～買い物、食卓、食環境～』 成田美紀 (研究員) ・『健康長寿を支える口腔機能 ～おいしく、楽しく食べるために～』 本川佳子 (研究員)</p>	平成28年 5月31日 (火)	練馬文化センター	800
143	<p>『薬のイロハ！これを聞けばあなたも薬博士』 【講演者】(司会 石神昭人研究部長) ・『ヒョウタンから駒、副作用から良薬！』 遠藤昌吾 (研究部長) ・『高齢者の賢い薬の飲み方・減らし方』 秋下雅弘 (東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座教授、 東京大学医学部附属病院副院長老年病科科長) ・『入院時の服薬指導とかかりつけ薬局のススメ』 森淑子 (薬剤科科長)</p>	平成28年 9月12日 (月)	文京シビックホール	696
144	<p>『今日からできる！サルコペニア・フレイル予防法 —筋力低下と虚弱を防ぐ—』 【講演者】(司会 遠藤玉夫副所長) ・『最近の研究でわかった「運動」と「食事」の大切さ』 重本和宏 (研究部長) ・『サルコペニアの予防対策はこれだ！』 金憲経 (研究部長) ・『フレイルの対策は健康長寿の道しるべ』 荒木厚 (内科総括部長)</p>	平成28年 11月16日 (水)	北とぴあ	743
145	<p>『105歳まで生きるには』 【講演者】(司会 高梨成彦脳神経外科医長) ・『高齢者の心不全治療が変わった』 原田和昌 (副院長) ・『オーラルフレイル予防：ささいな口のトラブルを見逃す な！』 平野浩彦 (歯科口腔外科部長) ・『超百寿者研究：長寿のエリート105歳の健康の秘訣』 新井康通 (慶應義塾大学医学部 百寿総合研究センター専任講師)</p>	平成29年 1月20日 (金)	板橋区立文化会館	775
科学技術週間 参加行事	<p>・講演 『知らなかった！細胞のアンテナ「糖鎖」のはなし』 萬谷博 (研究副部長) ・ポスター発表 各研究チームによるポスター発表</p>	平成28年 4月8日 (金)	板橋区立文化会館	199
サイエンス カフェ	<p>『～夏休み研究体験～ 集まれ！未来の科学者たち』 ・研究体験 Aコース『病理学って何だ！？ —ヒトの組織を顕微鏡で見よう』 相田順子 (専門副部長) Bコース『ATPワールドツアーへのご招待 ～エネルギーの源、ATPについて学ぼう！～』 藤田泰典 (研究員) ・カフェタイム</p>	平成28年 8月23日 (火)	東京都健康長寿医療センター	20
友の会 交流会	<p>・講演『健康寿命の延ばし方』 大淵修一 (研究部長) ・質疑応答 ・ポスター見学 ・体操</p>	平成29年 2月17日 (金)	東京都健康長寿医療センター	91

4 友 の 会

「東京都老人総合研究所 友の会」は、老化、老年病、高齢者問題の最新成果をお知らせし、民間企業や個人との情報交換や交流、老年学に関する知識の共有および研究所の活動にご支援・ご賛同頂くことを目的とした会員制度。平成14年4月より開始。

1. 活動内容

- ・研究所と会員との交流および会員相互の親睦
- ・研究所の主催する行事への招待
- ・講演会、セミナー等の開催
- ・会員のための情報の提供
- ・その他本会の目的を達成するために必要な事業

2. 会員特典

- 1 会員相互の交流の場の提供
- 2 会員向け機関誌の提供
- 3 東京都健康長寿医療センター研究所発行「研究所NEWS」の提供
- 4 研究所が開催する講演会、セミナーに関する情報の提供
- 5 老年学情報センターの図書閲覧（平日9時～17時）
- 6 東京都健康長寿医療センター研究所発行の出版物の会員割引（2割引）

3. 年会費

- ・個人会費：年会費 一口3,000円で一口以上
- ・法人会員（団体含む）：一口10,000円で二口以上

4. 会員構成（平成29年3月31日現在）

個人会員：322名
法人会員：8社

5. 友の会交流会

(1) 平成29年2月17日（金）に実施

- ① 場所 東京都健康長寿医療センター
- ② 参加者 個人会員91名
- ③ 内容
 - ・講演『健康寿命の延ばし方』
大淵修一（研究部長）
 - ・質疑応答
 - ・ポスター見学
 - ・体操

第四部 補助金等

研究補助金・助成金等受入状況

1 受託研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	委託申請者
1	研究部門	自立促進と介護予防研究チーム	認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル事業	東京都
2			平成28年度介護予防把握事業	東京都千代田区
3			千代田区認知症支援サービス推進調査事業	東京都千代田区
4			認知症早期発見業務	東京都千代田区
5			「足立区認知症訪問支援事業評価」の研究	東京都足立区
6		福祉と生活ケア研究チーム	平成28年度 健康改修住宅への改修手法とその効果効能に関する調査研究に係る健康評価についての研究	一般財団法人ベターリビング
7			包括的ケア技術研修の評価	デジタルセンセーション株式会社

2 共同研究

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
1	研究部門	老化機構研究チーム	エクソソームによる新規診断システムの開発と臨床応用（泌尿器がん以外）	株式会社医学生物学研究所、JSR株式会社
2			エクソソームによる新規診断システムの開発と臨床応用	国立大学法人岐阜大学、株式会社医学生物学研究所、JSR株式会社
3			ブレインフードの実用化に向けた基礎研究及び腸管バリア機能改善による新健康概念確立に向けた基礎研究	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社
4		老化制御研究チーム	中高齢マウスを用いてフルグラ製品に含まれる三大栄養素（蛋白質、脂質、炭水化物）の摂取割合の違いが筋肉に及ぼす影響の解析	カルビー株式会社
5			ビタミンCの皮膚への効果	株式会社リソウ
6			コーヒーオリゴ糖の摂取によるアンチエイジング（抗老化）効果の検証	味の素ゼネラルフーズ株式会社
7			ビタミンC欠乏マウスにおける歯肉の解析	ライオン株式会社
8			腎臓の老化に及ぼすセサミン摂取の効果	サントリーウェルネス株式会社
9			健康長寿を達成するため、筋力維持に最適な栄養バランスの探索	株式会社ニチレイフーズ
10			アセロラ果汁に含まれるビタミンCが人体に効率的に取り込まれる機序の解明	株式会社ニチレイフーズ
11		老化脳神経科学研究チーム	甲状腺及び副甲状腺機能の神経性調節の研究	GlaxoSmithKline Research & Development Limited
12		老年病態研究チーム	MuSK断片化酵素の阻害に基づく希少難治性筋委縮疾患治療薬の探索研究	第一三共株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題	共同研究先
13	研究部門	老年病態研究チーム	ヒト間葉系幹細胞由来の再生医療製品製造システムの開発	幹細胞評価基盤技術研究組合
14			廃用性筋萎縮における間葉系前駆細胞の機能解析	大正製薬株式会社
15		神経画像研究チーム	糖尿病性認知症の病態に関する研究	学校法人東京医科大学
16			PET診断用放射性薬剤florbetapir (18F)注射液のシステム適合性及び品質検定方法の簡略化に関する研究	住友重機械工業株式会社、国立大学法人大阪大学
17			大田区元気シニア・プロジェクト	東京都大田区
18		副所長（社会科学系）	高齢者の低栄養リスクを評価する簡易アセスメントツールの開発とその応用	一般財団法人糧食研究会
19			高齢期の歯科口腔・嚥下機能がQOL及び健康寿命に及ぼす影響	公益社団法人日本補綴歯科学会
20		社会参加と地域保健研究チーム	鳩山町健康なまちづくり共同研究事業	埼玉県鳩山町
21			認知症と関連する可能性のある腸内微生物の単離	大塚製薬株式会社
22			乳酸菌飲料摂取と健康に関する疫学調査	株式会社ヤクルト
23			中之条研究の結果をもとにした、使用者に最適なコメントの作成	株式会社スズケン
24		自立促進と介護予防研究チーム	乳製品摂取が認知機能に及ぼす影響に関する研究	学校法人桜美林学園 桜美林大学
25		福祉と生活ケア研究チーム	居住温度環境と排尿状態との関連に関する研究	東京ガス株式会社

3 奨学寄附

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
1		センター長	医療安全にかかわる研究	東京大学医学部附属病院
2	研究部門	老化制御研究チーム	分子老化制御に関する研究	ハウルウェルネスフーズ株式会社
3			循環器領域、動脈硬化進展における慢性炎症	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
4			血液及び造血管器疾患に関する研究	アステラス製薬株式会社
5			老化制御研究チームに対する研究助成	武田薬品工業株式会社
6			健康長寿ゲノム探索研究	武田薬品工業株式会社
7			分子状水素の機能性に関する研究	株式会社伊藤園 中央研究所
8			老化と老年病に関する研究	東京大学医学部附属病院
9			女性がんの治療抵抗性メカニズムの解明とその治療への応用の研究	第一三共株式会社
10			乳がん・前立腺癌の治療抵抗性メカニズムの解明とその治療への応用	日本イーライリリー株式会社
11			高齢マウスにおけるパーキンソン様症状の出現とコエンザイムQによる改善	白澤卓二
12			老化脳神経科学研究チーム	ローヤルゼリーと抗老化機能に関する研究
13		泌尿器疾患領域に関する研究		アステラス製薬株式会社
14	記憶関連の研究	株式会社ADEKA		

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者
15	研究部門	社会参加と地域保健研究チーム	高齢者の自立と介護予防の促進に関する研究/高齢者の社会参加・社会貢献の促進に関する研究	一般社団法人東京都交友会
16		自立促進と介護予防研究チーム	筋骨格系の老化予防の促進に関する研究	株式会社THF
17		福祉と生活ケア研究チーム	高齢者のフレイルの要因に関する研究	大塚製薬株式会社
18	副院長		高齢者心不全の薬物療法に関する研究	鳥居薬品株式会社
19			フレイルと自律神経障害が高齢者の血圧治療や抗血栓治療に与える影響	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
20			循環器内科に対する研究助成	武田薬品工業株式会社
21		内科総括部長	高齢者糖尿病における身体機能低下の研究	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
22			糖尿病とフレイルとの関連に関する研究	第一三共株式会社
23		糖尿病・代謝・内分泌内科	神経筋シナプス活動を反映する新規バイオマーカーの開発	中外製薬株式会社
24	腎臓内科	ANCA関連血管炎の発症機構の解析	鳥居薬品株式会社	
25		高齢者慢性腎臓病患者における認知機能障害の研究	中外製薬株式会社	
26		高齢者透析患者の臨床的研究活動	中外製薬株式会社	
27		免疫・アレルギーに関する研究(全身性血管炎発症関連遺伝子の解析、治療薬の開発)	協和発酵キリン株式会社	
28		がんに関する研究(慢性血液透析患者における運動療法の有効性)	協和発酵キリン株式会社	
29	病院部門	血液内科	高齢者血液悪性疾患に対する臍帯血ミニ移植の安全性の確立	中外製薬株式会社
30			がんに関する研究(高齢者血液悪性疾患に対する臍帯血移植の安全性の確立)	協和発酵キリン株式会社
31			高齢者臍帯血移植の安全性に関する研究	大日本住友製薬株式会社
32			高齢者臍帯血移植後キメリズムの解析	旭化成ファーマ株式会社
33			同種造血幹細胞移植後の骨代謝低下を減少させる予防対策についての研究活動	中外製薬株式会社
34	心臓外科		高齢者における心臓弁膜症に対する外科的治療の検討	エドワーズライフサイエンス株式会社
35			高齢者における心臓大血管疾患に対する外科的治療の検討	日本ライフライン株式会社
36	整形外科		「高齢者に対するセメントレス人工股関節カップのスクリュー不使用プレスフィット固定」に関する研究	スミス・アンド・ネフューオーソパディックス株式会社
37			PETを用いた骨内インプラント周囲の骨代謝活性動態の解明	帝人ファーマ株式会社
38			「NaF-PETを用いた人工関節術後インプラント周囲の骨代謝活性の検討」に関する研究	スミス・アンド・ネフューオーソパディックス株式会社
39	皮膚科		皮膚科領域における臨床研究	鳥居薬品株式会社

No.	部門	研究チーム・診療科	研究課題等	寄附申出者	
40	病院部門	泌尿器科	高齢者前立腺肥大症患者における外科的治療効果の検討	日本新薬株式会社	
41			陰茎癌に対する研究	協和発酵キリン株式会社	
42			泌尿器科に対する研究助成	武田薬品工業株式会社	
43			前立腺癌発症に関わる既知の一塩基多型 (SNPs) と予後に関する研究	第一三共株式会社	
44			金属酵素阻害剤<MMP阻害剤>によるヒト腎細胞癌培養株を用いた細胞増殖、細胞周期、各サイクリンに及ぼす影響検討	サノフィ株式会社	
45			Gleason scoreを用いた前立腺癌の疫学調査	あすか製薬株式会社	
46			高齢者前立腺肥大症患者における外科的治療効果の検討	旭化成ファーマ株式会社	
47			インターフェロン α のもつ直接作用を腎癌ヒト腫瘍細胞株ACHNを用いて細胞増殖能・細胞周期・各種cyclinへの影響をMTT法及びFCMで検討する。	日本化薬株式会社	
48			泌尿器科領域における高齢者排尿機能障害の治療に関する研究	塩野義製薬株式会社	
49			高齢者前立腺肥大症患者に対する外科的治療の検討	株式会社ヤクルト本社	
50			TUR-P (経尿道的前立腺切除術) における術中灌流方式の違いによる臨床的検討	大鵬薬品工業株式会社	
51			眼科	実験的網膜ぶどう膜炎 (EAU) における抗VEGF抗体の黄斑浮腫に対する効果及び炎症に及ぼす影響	サノフィ株式会社
52				眼科研究「実験的網膜ぶどう膜炎 (EAU) における抗VEGF抗体の黄斑浮腫に対する効果及び炎症に及ぼす影響	HOYA株式会社
53				眼科臨床研究	株式会社コダマメディカル
54	ぶどう膜炎の治療に関する研究	参天製薬株式会社			
55	超高齢者における小切開白内障手術の後ろ向き検討	石井フミ			
56	眼科臨床研究	千寿製薬株式会社			
57	超高齢者における白内障手術前後の認知機能の変化について	日本アルコン株式会社			
58	超高齢者における小切開白内障手術の後ろ向き検討	日本アルコン株式会社			
59	眼科臨床研究	HOYA株式会社			
60	化学療法科	骨髄腫患者の免疫コントロールに関する研究	帝人ファーマ株式会社		
61		高齢者化学療法における適応の検討	株式会社ヤクルト本社		

4 国庫補助

No.	部門	研究チーム	所管省庁等	研究課題
1	研究部門	自立促進と介護予防研究チーム	厚生労働省	認知症疾患医療センターの機能評価に関する調査研究事業
2				若年性認知症の有病率及び大都市における認知症有病率に関する調査研究事業
3	病院部門	歯科口腔外科		認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等における認知症高齢者に対する適切な口腔ケア及び経口維持支援のあり方に関する調査研究事業

5 民間助成金

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
1	研究部門	老化機構研究チーム	三浦 ゆり	公益財団法人三井住友海上福祉財団	大規模長期縦断調査とプロテオミクス解析による初期フレイルのバイオマーカー探索
2			津元 裕樹	公益財団法人三井住友海上福祉財団	シアル酸結合様式を区別したN結合型糖鎖解析による健康長寿マーカーの開発
3			今江理恵子	公益財団法人コスメトロジー研究振興財団	ホスファチジルイノシトールの特徴的脂肪酸組成の皮膚恒常性における役割の解析
4		老化制御研究チーム	石神 昭人	公益財団法人喫煙科学研究財団	喫煙によるCOPD発症機構の解明及びビタミンCによる予防、治療効果の検証
5				一般財団法人全日本コーヒー協会	高齢マウスを用いたコーヒーの摂取による寿命延長（アンチエイジング）効果の検証
6			井上 聡	公益財団法人三越厚生事業団	ミトコンドリア呼吸鎖超複合体を介するエストロゲンのサルコペニアに対する保護作用の解明とその応用
7			東 浩太郎	公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団	ビタミンKの生体作用を媒介する新規γグルタミル・カルボキシラーゼ基質蛋白質の探索・同定とその機能の解明
8				花王株式会社 花王健康科学研究会	ロコモティブ症候群におけるTRIMファミリー蛋白質の役割
9				公益財団法人三井住友海上福祉財団	骨免疫・筋免疫を介するエストロゲンの骨粗鬆症・サルコペニア予防及び治療効果の解明
10				公益財団法人中富健康科学振興財団	筋骨格系の維持に関わる新規ビタミンK作用の解明
11			公益財団法人山口内分泌疾患研究振興財団	子宮内膜癌におけるエストロゲン作用	
12			高山 賢一	公益財団法人高松宮妃癌研究基金	長鎖非コードRNAを介するホルモン療法耐性前立腺癌の発生・増悪に関わる作用メカニズムの解明とその診断・治療への応用
13				公益財団法人安田記念医学財団	前立腺癌進展におけるアンドロゲン依存性エピゲノム制御機構とその臨床的意義の解明

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題	
14	研究部門	老化制御研究チーム	高山 賢一	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団	アンドロゲン応答性の難治性前立腺癌診断・治療標的の探索と応用	
15				公益財団法人ノバルティス科学振興財団	前立腺癌におけるRNA結合タンパク質RSFを介したゲノムワイドでの転写、翻訳制御機構	
16				公益財団法人コスメトロジー研究振興財団	ヒト培養表皮におけるアスコルビン酸の経皮吸収及び紫外線UVBによる細胞障害に対する予防、回復効果の検討	
17		老化脳神経科学研究チーム	三浦 正巳	公益財団法人喫煙科学研究財団	尾側線条体の機能領域ニコチン受容体の調節作用	
18				内田 さえ	公益財団法人喫煙科学研究財団	認知症予防法の確立に向けた新皮質・嗅球・海馬コリン作動系機能の比較
19		老年病態研究チーム	上住 聡芳	公益財団法人内藤記念科学振興財団	骨格筋内在性間葉系前駆細胞で発現するサルコペニア責任遺伝子の機能解析	
20				一般社団法人日本損害保険協会	重度外傷により損傷した骨格筋及び腱を再生させる画期的治療法開発－骨格筋幹細胞及び間葉系前駆細胞の制御と応用－	
21				公益財団法人三井住友海上福祉財団	骨格筋内在性の間葉系前駆細胞を標的としたサルコペニアの予防・治療法開発	
22				公益財団法人武田科学振興財団	加齢に伴う筋再生能力低下の原因となる骨格筋幹細胞数減少メカニズムの解明	
23				公益財団法人赤枝医学研究財団	高齢者の筋再生能力改善のための基礎的研究	
24				公益財団法人中富健康科学振興財団	CXCL16に着目した老化筋再生能力低下機序の解明とそれを利用した治療法の開発	
25		神経画像研究チーム	石橋 賢士	公益財団法人武田科学振興財団	mGluR1イメージングによるSCA6の発症前診断と重症度診断	
26		社会参加と地域保健研究チーム	北村 明彦	公益財団法人日本中小企業福祉事業財団	高齢者の健康余命に及ぼすフレイル、生活習慣病の影響の検討	
27				清野 諭	公益財団法人明治安田厚生事業団	運動を中心としたフレイル予防プログラムが高齢者の精神的健康に及ぼす長期的効果－傾向スコアマッチング法による前向き研究－
28				谷口 優	公益財団法人日本中小企業福祉事業財団	地域高齢者における最長従事職と要介護発生リスクとの関連及び動脈硬化度の加齢変化パターンが要介護発生に及ぼす影響
29				成田 美紀	一般社団法人Jミルク	高齢者の牛乳・乳製品摂取及び食品摂取の多様性とフレイル・サルコペニアの予防に関する研究
30				村山 陽	公益財団法人日本中小企業福祉事業財団	高齢期の慢性型ストレス及びコーピング評価尺度の開発
31		自立促進と介護予防研究チーム	大須賀洋祐	公益財団法人総合健康推進財団	都市部在住後期高齢者のフレイルと近隣環境要因との関連	
32				白部 麻樹	公益財団法人富徳会	地域在住高齢者におけるグルコラム®を用いた咀嚼能力に関する調査研究
33		福祉と生活ケア研究チーム	伊東 美緒	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	認知症高齢者を対象としたプロフェッショナルの音楽療法を最大限に有効活用するためのビデオとチェックシート併用の効果	

No.	部門	研究チーム・診療科	研究担当者	助成機関	研究課題
34	研究部門	福祉と生活ケア研究チーム	涌井 智子	一般財団法人第一生命財団	在宅家族介護者を支える地域介護支援ネットワーク醸成に関する研究
35			光武 誠吾	公益社団法人理学療法士協会	大都市圏における後期高齢者の維持期リハビリテーションの状況
36	病院部門	副院長	原田 和昌	ファイザー株式会社	循環器疾患に関する研究
37		内科総括部長	荒木 厚	ノバルティスファーマ株式会社	高齢糖尿病患者における認知機能低下やフレイルの簡便な指標の開発
38		神経内科	村山 繁雄	ノバルティスファーマ株式会社	Pilot study to address the transcultural impact in the aging process of Japanese population living in Japan and in Brazil, based on samples from the Brain Bank for Aging Research, Japan (BBAR) and the BrainBank of the Brazilian Aging Study Group (BBASG)
39		精神科	扇澤 史子	公益財団法人生存科学研究研究所	認知症本人による認知機能障害・生活機能障害・行動心理症状についての自覚的体験内容と受診ニーズの特徴
40		整形外科	宮崎 剛	ファイザー株式会社	筋骨格系疾患に関する研究
41		泌尿器科	粕谷 豊	ノバルティスファーマ株式会社	陰茎癌の発症機構を解明し、ひいては、陰茎癌の診断精度の向上、病型分類の確立、及び新規治療ターゲットの同定の研究
42				ファイザー株式会社	会陰部への機械的な皮膚刺激が過活動膀胱症状（頻尿）に有効であるか検討
43		眼科	沼賀 二郎	ノバルティスファーマ株式会社	埼玉県鳩山町における加齢黄斑変性の危険因子の検討及び追跡調査
44				ファイザー株式会社	超高齢者における小切開白内障手術の後ろ向き検討
45		麻酔科	小倉 信	ファイザー株式会社	循環器疾患に関する研究
46	病理診断科	新井 富生	公益財団法人喫煙科学研究財団	高齢者がんと遺伝子多型、喫煙の関連：病理解剖例を用いた遺伝子多型解析	
47	臨床研究推進センター	森 聖二郎	ファイザー株式会社	筋骨格系疾患に関する研究	

6 受託事業

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
1	研究部門	老年病理学研究チーム	村山 繁雄	日本イーライリリー株式会社	第35回日本認知症学会アルツハイマー病神経病理教育及びブレインバンク教育ブース設置
2		神経画像研究チーム	豊原 潤	住重加速器サービス株式会社	PET薬剤に用いる薬剤合成の研修委託
3		社会参加と地域保健研究チーム	北村 明彦	群馬県草津町	介護予防事業対象者把握業務委託
4				群馬県草津町	にっこり健診結果報告会開催業務委託
5			藤原 佳典	Generations United	世代間で予防接種を大切にしよう(英語名 Value Vaccination Across Generations) 日本キャンペーン
6			小林江里香	東京都府中市	市民アンケート結果分析業務委託
7			鈴木 宏幸	東京都板橋区	シニアの絵本読み聞かせ事業業務委託
8				東京都豊島区	高齢者体力測定会運営委託
9				東京都豊島区	絵本読み聞かせ講座運営委託

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容	
10		社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	東京都豊島区	シニアのための測定会における事後アンケートの集計・分析処理委託	
11				東京都文京区	絵本読み聞かせ講座運営委託	
12				東京都北区	絵本読み聞かせ教室の運営委託	
13	研究部門	自立促進と介護予防研究チーム	渡邊 裕	株式会社三菱総合研究所	歯科保健サービスの効果実証事業（誤嚥性肺炎予防に係る歯科保健サービスの効果検証）における定点調査実施業務	
14				エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社	歯科保健サービスの効果実証事業（認知症重症化予防等）における研究対象者の選定、介入プログラムの検討・実施等調査	
15				アークレイマーケティング株式会社	認知症とともに暮らせる社会に向けた地域ケアモデル構築に関する研究：会場招待型の生活実態調査（二次調査）スポットケムSTを用いた認知症と歯周病重症度の関係の検証	
16				金 憲経	埼玉県ふじみ野市	筋力アップトレーニング事業運動プログラム等業務委託
17	研究部門	福祉と生活ケア研究チーム	大淵 修一	伊東 美緒	東京都港区	高齢者虐待防止・養護者支援
18				増井 幸恵	京都府亀岡市	高齢期の幸福度に関する調査に係る分析業務委託
19					東京都	介護予防推進広域アドバイザー業務委託
20					東京都東久留米市	介護予防機能強化推進事業業務委託
21					東京都多摩市	介護予防リーダー養成講座実施業務委託
22					東京都港区	認知症予防区民向け講演会業務委託
23					東京都港区	高齢者虐待防止・養護者支援事業委託
24					東京都小金井市	介護予防機能強化推進事業委託
25					東京都豊島区	介護予防機能強化推進事業業務委託
26					東京都豊島区	介護予防リーダー養成講座運営委託
27					東京都千代田区	介護予防事業評価事業
28	東京都北区	介護予防事業評価業務委託				

7 学術指導

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容	
1	研究部門	老年病態研究チーム	重本 和宏	第一三共株式会社	MuSK型重症筋無力症の前臨床モデル作製技術移管に関する指導	
2		老年病理学研究チーム	村山 繁雄	第一三共株式会社	嗅粘膜検体を用いた神経変性疾患診断技術の現状に関する助言・指導	
3		神経画像研究チーム	石井 賢二	株式会社アトックス	医療機器の開発における指導	
4		社会参加と地域保健研究チーム	鈴木 宏幸	藤原 佳典	株式会社博報堂	ライフリー認知症予防キャンペーンへの監修業務
5				株式会社ウォンツ・ジャパン	「認知症予防活動支援士」認定講座に関する受講生向け講習及び映像教材・告知物の作成指導	
6				株式会社キャピタルメディア	MCIスクリーニングテストMoCA日本語版の実施に関するメール及び口頭指導	
7		自立促進と介護予防研究チーム	宇良 千秋	特定非営利活動法人認知症予防サポートセンター	認知症予防事業研修 講師派遣と研修に係る助言	

No.	部門	研究チーム・診療科	担当職員	委託者	業務内容
8	研究部門	福祉と生活ケア研究チーム	大渕 修一	東京都小金井市	介護予防機能強化推進事業委託
9				株式会社InfoDeliver	AI等を活用したシニア向け健康増進アプリケーション開発への助言
10				マイスター・ファクトリー株式会社	通所介護施設内におけるCGTプログラム等への助言
11				コプラ株式会社	エクササイズ監修（メットライフエクササイズ：ダンスを取り入れた運動の監修）
12			涌井 智子	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	「仕事と介護の両立対策アセスメントシート」の開発の助言及び監修

8 科学研究費

(1) 文部科学省：科学研究費助成事業 【研究代表者】

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究（A）	田中 雅嗣	老化機構（協力研究員）	世界の瞬発系・持久系選手的全ゲノム塩基配列解析による運動能力関連遺伝子の解明〔H28-H32〕
	藤原 佳典	社会参加と地域保健	大都市求職高齢者の実態解明及びシームレスな社会参加支援に向けた研究〔H28-H30〕
基盤研究（B）	伊藤 雅史	老化機構	エクソソームによる前立腺がんの質的診断システムの開発〔H28-H30〕
	石神 昭人	老化制御	ビタミンC、Eの同時不足が記憶、学習行動、脂質代謝、老化、加齢疾患に及ぼす影響〔H27-H29〕
	大澤 郁朗	老化制御	分子状水素による抗炎症メカニズムの解明とその臨床応用のための基盤研究〔H28-H30〕
	遠藤 昌吾	老化脳神経科学	抗酸化物質が運動記憶へ及ぼす影響の解析とその分子機構の解明〔H27-H30〕
	重本 和宏	老年病態	骨格筋の代謝変換の機構に基づくサルコペニアの病態解明〔H28-H30〕
	西村 隆	老年病態（協力研究員）	心拍同期制御を用いた補助人工心臓による広範囲心筋梗塞に対する新しい治療法の確立〔H25-H29〕
	豊原 潤	神経画像	実用化を目指した有望なDNA合成画像診断薬4DSTの18F化とその臨床応用〔H25-H28〕
	新開 省二	副所長（社会科学系）	高齢期の生活機能及び心身機能の加齢変化パターンの類型化と社会保障ニーズ〔H26-H28〕
	藤原 佳典	社会参加と地域保健	高齢者就業の新たな調整型支援システムの構築に関する総合的研究〔H26-H28〕
	鈴木 宏幸	社会参加と地域保健	高齢期の認知機能低下を適切に評価するための心理検査開発に係る包括的研究〔H28-H30〕
	野中久美子	社会参加と地域保健	世代間交流が高齢者の健康へ及ぼす影響及び機序の解明〔H25-H28〕
	村山 陽	社会参加と地域保健	世代間援助の円環モデルに基づく多世代共生型事業の開発〔H26-H28〕
	金 憲経	自立促進と介護予防	サルコペニック・オバシテティ早期予防を目的とした総合的支援システム構築と効果検証〔H26-H28〕
涌井 智子	福祉と生活ケア	地域循環型家族介護支援システムの構築に関する研究〔H27-H30〕	
基盤研究（C）	遠藤 玉夫	副所長（自然科学系）	O-マンノース型糖鎖生合成経路の解明〔H28-H30〕

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究 (C)	萬谷 博	老化機構	APP代謝における糖鎖機能の解析 [H26-H28]
	三浦 ゆり	老化機構	健康長寿の指標となる糖鎖構造とその生物学的意義の解明 [H28-H30]
	藤田 泰典	老化機構	インスリン抵抗性の指標となる新規血中バイオマーカーの探索 [H26-H28]
	川上恭司郎	老化機構	神経炎症におけるエクソソーム上ヒストンの役割の解明 [H28-H30]
	津元 裕樹	老化機構	2段階クリック反応を利用した新規O-GlcNAc化プロテオーム解析法の開発と応用 [H28-H30]
	三浦 正巳	老化脳神経科学	尾側線条体の新規機能領域と扁桃体入力 of 生理的意義-安全信号学習と恐怖条件付け [H28-H30]
	内田 さえ	老化脳神経科学	嗅球コリン作動性神経系機能の発達・成長・老化 [H27-H29]
	渡邊 信博	老化脳神経科学	疼痛性循環反応の可塑的变化に関する神経性機序の解明 [H28-H31]
	上住 円	老年病態	Pro-IGF-II シグナルを利用した安全性の高い老化筋再生促進治療法の開発 [H28-H30]
	森 秀一	老年病態	神経筋シナプスを標的としたサルコペニアのバイオマーカー確立に向けた研究 [H28-H30]
	佐々木紀彦	老年病態	血管疾患に対するGM1を標的とした新たな予防・治療法開発に向けた基盤研究 [H28-H30]
	周 赫英	老年病態	神経筋シナプス活動を反映する血中新規バイオマーカーを用いた身体活動性の予後評価 [H27-H29]
	宮崎 剛	老年病態 (協力研究員)	骨メカニカルストレス応答における骨細胞-破骨細胞の細胞制御メカニズムの解明 [H27-H29]
	石渡 俊行	老年病理学	新たな膀胱癌分子標的のFGFR-4に対する個別化治療の研究 [H28-H30]
	相田 順子	老年病理学	バレット食道のテロメア長測定:日米欧のバレット食道の定義統一のために [H26-H28]
	石川 直	老年病理学	テロメア長を調節する分子機構の解明:iPS化のリプログラム現象を解析に活用して [H27-H29]
	泉山七生貴	老年病理学	膀胱乳頭状尿路上皮腫瘍の組織学的悪性度の進行の原動力は何か [H26-H28]
	新井 富生	老年病理学 (協力研究員)	高齢者胃癌の病理学的特徴とその発生に関連する遺伝子変化の解析 [H28-H30]
	徳丸 阿耶	老年病理学 (協力研究員)	画像統計解析と剖検所見に基づく認知症の鑑別診断 [H28-H30]
	西村 誠	老年病理学 (協力研究員)	超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診による膀胱腫瘍と膀胱癌におけるエクソソームの解析 [H28-H30]
	松田 陽子	老年病理学 (協力研究員)	幹細胞における老化機序解明と組織再生へ向けた試み [H28-H30]
	仙石 鍊平	老年病理学 (協力研究員)	Lewy小体病 (パーキンソン病) の病理学的アプローチによるバイオマーカーの確立 [H28-H32]
	坂田 宗之	神経画像	脳FDG-PET及びMRIと機械学習を用いた高精度な認知症自動鑑別診断 [H27-H29]
	下地 啓五	神経画像 (協力研究員)	複雑ネットワーク解析による認知症初期像の検討 [H27-H29]
吉田 英世	自立促進と介護予防	地域在住高齢者における老年期うつ病と環境(栄養)・遺伝との相互作用の検討 [H28-H30]	

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
基盤研究 (C)	渡邊 裕	自立促進と介護予防	ミラーニューロンシステムによる認知症食行動関連障害改善法の確立 [H28-H30]
	金 美芝	自立促進と介護予防	高齢期の虚弱化予防にむけた睡眠・覚醒パターンと心臓自律神経活動の構造的関連の解明 [H28-H30]
	稲垣 宏樹	自立促進と介護予防	他者評価法による認知症高齢者の精神的健康度の評価 [H27-H29]
	佐久間尚子	自立促進と介護予防	高齢者の認知機能に与える絵本の読み聞かせ活動と加齢変化：10年目の追跡 [H26-H28]
	平野 浩彦	自立促進と介護予防 (協力研究員)	アルツハイマー病及びレビー小体型認知症の摂食嚥下障害への対応に関する調査研究 [H28-H30]
	石崎 達郎	福祉と生活ケア	高齢者の慢性疾患併存パターンの実態把握と疾病管理法の研究開発 [H27-H29]
	増井 幸恵	福祉と生活ケア	高齢期のライフイベントへの心理的適応過程—老年的超越の役割の縦断的検討— [H27-H29]
	菊地 和則	福祉と生活ケア	養介護施設従事者等による高齢者虐待への市町村・都道府県の対応に関する追跡研究 [H26-H28]
	森 寛子	福祉と生活ケア	脳血管疾患による在宅胃ろう造設者への摂食・嚥下機能向上支援に関する要因の解明 [H26-H28]
	杉原 毅彦	福祉と生活ケア (協力研究員)	全エクソンシーケンスと血中PAD4測定による関節リウマチの新規バイオマーカー探索 [H26-H28]
	河合 恒	高齢者健康増進事業支援室	スタチン誘発性ミオパチーの初期症状は高齢期の生活機能低下に影響するか [H28-H31]
若手研究 (A)	本橋 紀夫	老年病態	骨格筋細胞における代謝変換誘導因子の探索 [H27-H29]
	涌井 智子	福祉と生活ケア	社会保障システムの継続性に資する家族・保険制度・地域社会の相互関係に関する研究 [H28-H31]
若手研究 (B)	今江恵理子	老化機構	ホスファチジルイノシトール特徴的脂肪酸組成の生物学的意義の解明 [H28-H30]
	山田 健之	老化機構	糖鎖合成におけるドリコールリン酸マンノース供給メカニズムの解析 [H28-H30]
	近藤 嘉高	老化制御	ビタミンC、Eの同時不足がエストロゲン欠乏マウスの皮膚に及ぼす影響 [H28-H30]
	池谷 真澄	老化制御	炎症反応と酸化ストレス応答のクロストークから探る分子状水素の抗炎症メカニズム解明 [H28-H29]
	井上 律子	老化脳神経科学	常同行動の神経基盤-線条体局所神経回路の生理的役割 [H28-H30]
	板倉 陽子	老年病態	健康長寿を目指す高齢者心疾患における治療及び予防のための糖鎖関連老化因子の解明 [H28-H30]
	青木 彩	老年病理学 (協力研究員)	鳩山町研究における加齢黄斑変性の有病率及び栄養疫学調査 [H25-H28]
	石橋 賢士	神経画像	新規mGluR1リガンドITMMの脊髄小脳変性症における診断薬としての有用性 [H27-H30]
	櫻井 圭太	神経画像 (協力研究員)	「不均衡なクモ膜下腔の拡大」は正常圧水頭症に特異的か? 既病理確定例による検討 [H28-H30]
	清野 論	社会参加と地域保健	サルコペニア予防に向けた通信型運動・栄養支援プログラムの開発 [H28-H30]
	谷口 優	社会参加と地域保健	高齢者における身体機能の加齢変化パターンの類型化及び早期身体機能低下の要因の解明 [H27-H29]
西 真理子	社会参加と地域保健	居住地域に対する高齢者の「コミュニティ感覚」の向上を目指す地域介入研究 [H26-H28]	

研究種目	氏名	所属研究チーム	研究課題
若手研究 (B)	枝広あや子	自立促進と介護予防	認知症の摂食嚥下障害の多様性に配慮した経口摂取支援の検討 [H28-H30]
	小川 円	自立促進と介護予防	高齢者が暮らす居宅の温熱環境が血圧・認知機能に及ぼす影響に関するフィールド研究 [H28-H30]
	村上 正治	自立促進と介護予防	サルコペニア概念を参考にした高齢者口腔機能低下モデルの検討に関する調査研究 [H28-H30]
	平山 亮	福祉と生活ケア	支援ニーズをめぐって息子介護者と支援者の認識が一致／乖離する条件の探索 [H26-H28]
	中里 和弘	福祉と生活ケア	在宅における終末期ケアとの連続性から捉えたグリーンケア [H28-H31]
	栗延 孟	福祉と生活ケア	要介護高齢者を対象とした「役割」が意識できるプログラムの開発と効果の検証 [H28-H30]
挑戦的萌芽研究	伊藤 雅史	老化機構	認知症における脳内エクソソームの役割の解明 [H27-H28]
	石神 昭人	老化制御	シトルリン化蛋白質を指標としたアルツハイマー病早期臨床検査試薬の開発 [H27-H29]
	井上 聡	老化制御	イメージングを活用したホルモン依存性癌におけるミトコンドリアの新たな役割の解明 [H27-H28]
	大澤 郁朗	老化制御	老化過程におけるミトコンドリア・クレステ構造のリアルタイムイメージング [H27-H29]
	高山 賢一	老化制御	転写及び蛋白質レベルでのアンドロゲンによるp53機能制御機構の解明 [H27-H28]
	上住 聡芳	老年病態	ヒト骨格筋を持つマウスの創出 [H27-H28]
	鈴木 宏幸	社会参加と地域保健	囲碁を用いた認知機能低下抑制プログラムの開発と介入効果に関する総合的研究 [H28-H29]
	栗田 圭一	自立促進と介護予防	離島における認知症支援体制構築マニュアルの開発 [H26-H28]
研究活動スタート支援	菅谷 麻希	老化機構	エクソソームによる集合管機能の新規評価システムの開発 [H28-H29]
	多胡 哲郎	神経画像	プロテノパチー発症機序解明のためのHDAC6選択的PETプローブの開発 [H28-H29]
	横山 友里	社会参加と地域保健	地域在住高齢者における食事摂取パターンとフレイルの関連に関する栄養疫学研究 [H28-H29]
特別研究員奨励費	大須賀洋祐	自立促進と介護予防	高齢者の全身持久力及び心筋に好作用を及ぼす持続性運動プロトコルの開発 [H27-H28]

(2) 厚生労働省：厚生労働科学研究費補助金 【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
長寿科学政策研究事業	研究代表者	枝広あや子	自立促進と介護予防	要介護高齢者の経口摂取支援のための歯科と栄養の連携を推進するための研究
	研究代表者	渡邊 裕	自立促進と介護予防	介護保険施設における利用者の口腔・栄養管理の充実に関する調査研究
地域医療基盤開発推進研究事業	研究代表者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	大都市圏における在宅医療の実態把握と提供体制の評価に関する研究
	研究分担者	光武 誠吾	福祉と生活ケア	
	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	健診ガイドラインの担う新たな役割とその展望に関する研究

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
政策科学総合研究事業（臨床研究等ICT基盤構築研究事業）	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	地域包括ケア実現のためのヘルスサービスリサーチ—二次データ活用システム構築による多角的エビデンス創出拠点—
厚生労働科学特別研究事業	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	医療費適正化に向けた生活保護受給者の生活習慣病罹患及び医薬品処方の実態調査：医療扶助レセプト分析
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	研究分担者	石崎 達郎	福祉と生活ケア	70歳，80歳，90歳の高齢者の歯・口腔の状態が健康長寿に及ぼす影響についての前向きコホート研究
	研究分担者	増井 幸恵	福祉と生活ケア	
難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	神経変性疾患領域における基盤的調査研究
	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究
	研究分担者	杉原 毅彦	膠原病・リウマチ科	難治性血管炎に関する調査研究
	研究分担者	濱野 慶朋	特任（内科系）	
	研究分担者	田中 雅嗣	臨床検査科	ミトコンドリア病の調査研究
研究分担者	森 聖二郎	臨床研究推進センター	早老症の実態把握と予後改善を目指す集学的研究	
障害者政策総合研究事業（精神障害分野）	研究分担者	栗田 圭一	自立促進と介護予防	精神科病院に入院する認知症高齢者の実態調査—入院抑制、入院期間短縮、身体合併症医療確保のための研究

9 日本医療研究開発機構委託研究開発 【研究代表者・研究分担者】

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
次世代がん医療創生研究事業	研究代表者	井上 聡	老化制御	がん関連RNA結合タンパク質複合体を標的とした革新的治療法の開発
長寿・障害総合研究事業（長寿科学研究開発事業）	研究代表者	大淵 修一	福祉と生活ケア	住民との協働による介護予防のまちづくりの効果検証のための地域コントロールトライアル
	研究代表者	平野 浩彦	歯科口腔外科	認知症高齢者に対する歯科診療等の口腔管理及び栄養マネジメントによる経口摂取支援に関する研究
難治性疾患実用化研究事業	研究代表者	上住 聡芳	老年病態	遺伝性筋疾患に対する新たな高効率細胞移植治療法の開発
	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	剖検診断されたPSP/CBD/FTLD-tauの分子病理
	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	剖検例を用いた、紀伊ALS/PDC 診療ガイドラインの作製と臨床研究の推進
	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	進行性核上性麻痺及び類縁疾患を対象とした多施設共同コホート研究によるバイオマーカー開発と自然歴の解明
	研究分担者	金田 大太	神経内科	ミトコンドリア病診療の質を高める、レジストリシステムの構築、診断基準・診療ガイドラインの策定及び診断システムの整備を行う臨床研究
研究分担者	田中 雅嗣	臨床検査科	ミトコンドリア病に合併する高乳酸血症に対するピルビン酸ナトリウム治療法の開発研究—試薬からの希少疾病治療薬開発の試み—	

研究事業	代表・分担の別	氏名	所属研究チーム	研究課題
臨床研究・治験推進研究事業	研究代表者	田中 旬	循環器内科	治験の実施に関する研究 [エプレレノン]
再生医療実用化研究事業	研究分担者	豊田 雅士	老年病態	再生医療材料のアーカイブ体制の構築に関する研究
臨床ゲノム情報統合データベース整備事業	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	認知症臨床ゲノム情報データベース構築に関する開発研究
長寿・障害総合研究事業（認知症研究開発事業）	研究分担者	石井 賢二	神経画像	各種のリガンドを用いたアミロイドPET及び髄液A β と、血液バイオマーカーとの定量的相関関係の解析
	研究分担者	石井 賢二	神経画像	プレクリニカルADに対するMRI, PET画像診断とバイオマーカー・遺伝子解析
	研究分担者	石井 賢二	神経画像	脳画像解析
	研究分担者	石井 賢二	神経画像	適切な医療を目指した前臨床期アルツハイマー病及び軽度認知障害等の患者の情報登録及び連携に関する研究
	研究分担者	栗田 圭一	自立促進と介護予防	認知症の人のQOL測定指標の妥当性及びその臨床応用の検討
	研究分担者	金 憲経	自立促進と介護予防	大都市部コホートの追跡調査から認知機能の維持者及び軽度低下者の登録と関連要因の探索
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	脳卒中後てんかんの急性期診断・予防・治療指針の策定
	研究分担者	荒木 厚	内科総括部長	糖尿病の標準的治療の開発と均てん化に関する研究
	研究分担者	平野 浩彦	歯科口腔外科	生活習慣病予防や高齢者の身体機能維持のためのエネルギーバランスに関する指標の開発並びに栄養素の摂取上限量に関するデータベースの開発に資する研究
革新的先端研究開発支援事業	研究分担者	萬谷 博	老化機構	筋萎縮モデルにおける機械受容・応答の分子基盤の解析
脳科学研究戦略推進プログラム	研究分担者	村山 繁雄	老年病理学	老化・認知症拠点の構築

10 研究委託費

事業名等	事業実施機関（委託者）	研究担当者	研究チーム・診療科	研究課題
研究成果展開事業（先端計測分析技術・機器開発プログラム）	国立研究開発法人科学技術振興機構	豊原 潤	神経画像	PETプローブの小型シンプル自動合成装置の開発
戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）	国立研究開発法人科学技術振興機構	藤原 佳典	社会参加と地域保健	ジェネラティビティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの開発
課題設定による先導的人文学・社会科学的研究推進事業	独立行政法人日本学術振興会	藤原 佳典	社会参加と地域保健	多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究

事業名等	事業実施機関 (委託者)	研究担当者	研究チーム ・診療科	研究課題
精神・神経疾患 研究開発費	国立研究開発法人 国立精神・神経医 療研究センター	遠藤 玉夫	副所長 (自然科学系)	α -ジストログリカノパチーの病態解 明と糖鎖治療研究
		上住 聡芳	老年病態	ジストロフィン欠損モデル動物を基盤 とした筋ジストロフィーの新しい治療 法開発 (筋ジストロフィー治療のため の間葉系前駆細胞制御法開発)
		村山 繁雄	神経内科	高齢者ブレインバンク・神経病理学会 ブレインバンク委員会を基盤とする日 本ブレインネット構築
長寿医療研究開 発費	国立研究開発法人 国立長寿医療研究 センター	藤ヶ崎純子 ほか6名	老年病理学	老化に伴う運動・認知機能障害の克服 をめざす、死後脳研究リソースの構築
		栗田 圭一	自立促進と介護予防	認知症の救急医療の課題解決に向けた 研究 (研修プログラムの作成)
		大淵 修一	研究部長	フレイル高齢者のレジストリ研究及び 地域高齢者におけるフレイル予防プロ グラムの開発・検証 (フレイル予防プ ログラム検証)
		黒岩厚二郎	副院長	高齢者術後せん妄予防・治療のため の標準化プログラム作成及び術前CGA/ 虚弱評価による高齢者手術の安全性評 価に関する研究 (高齢者外科手術後せ ん妄に対する治療法の標準化に関する 研究)
		荒木 厚	内科総括部長	要介護高齢者、フレイル高齢者、認知 症高齢者に対する栄養療法、運動療法、 薬物療法に関するガイドライン作成に 向けた調査研究 (運動療法に関する文 献検索及び実態調査)
		荒木 厚	内科総括部長	高齢者における認知症が脳血管障害の 発症に脳小血管病が関与する臨床的意 義の解明 (高齢者糖尿病における白質 病変の危険因子と病態解析)
		荒木 厚	内科総括部長	フレイル高齢者のレジストリ研究及び 地域高齢者におけるフレイル予防プロ グラムの開発・検証 (フレイルレジス トリ作成)
-	国立研究開発法人 量子科学技術研究 開発機構 放射線 医学総合研究所	石井 賢二	神経画像	[11C]PBB3実証研究のためのデータ取 得及び解析の研究
		村山 繁雄	神経内科	
オーダーメイド 医療の実現プロ グラム	国立大学法人東京 大学	森 聖二郎	臨床研究推進センター	バイオバンクの構築と臨床情報デー タベース化 (DNAサンプル及び臨床情報 の収集) ※ 国立研究開発法人日本医療研究開 発機構再委託事業
-	日本エヌ・ユー・ エス株式会社	石井 賢二	神経画像	ジフェニルアルシン酸等の健康影響に 関する調査研究 ※ 環境省再委託事業
-	公益財団法人日本 糖尿病財団	荒木 厚	内科総括部長	2型糖尿病患者を対象とした血管合併 症抑制のための強化療法と従来治療 のランダム化比較試験介入終了後の追跡 研究 (J-DOIT3) (追跡)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター年報

平成29年9月発行

この年報について、ご意見・お問い合わせ等がございましたら、下記までお寄せください。

編集・発行 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
経営企画局事務部総務課

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号

☎03 (3964) 1141 (代)

印刷 有限会社太平印刷

〒171-0051 東京都豊島区长崎6-22-10

☎03 (3957) 3911

石油系溶剤を含まないインキを使用しています



古紙配合率70%再生紙を使用しています